2023年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
100番台
講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1455】補講英語１・２－Ⅰ　［水野太朗］春学期授業/Spring 1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1456】補講英語１・２－Ⅱ［水野　太朗］秋学期授業/Fall 2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1457】補講英語１・２－Ⅰ　［舟橋美香］春学期授業/Spring 3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1458】補講英語１・２－Ⅱ［舟橋　美香］秋学期授業/Fall 4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1802】Academic Literacy A［THOMAS G POWER］秋学期授業/Fall 5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1803】Academic Literacy B［THOMAS G POWER］春学期授業/Spring 7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1804】College Writing A［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 8
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1805】College Writing B［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1810】Academic Literacy A［THOMAS G POWER］秋学期授業/Fall 10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1811】Academic Literacy B［THOMAS G POWER］春学期授業/Spring 12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1812】College Writing A［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【E1813】College Writing B［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E2227】ドイツ語補講１Ⅰ［伊東直美］春学期授業/Spring 16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E2228】ドイツ語補講１Ⅱ［伊東直美］秋学期授業/Fall 17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E2229】ドイツ語補講２Ⅰ［畠山勝彦］春学期授業/Spring 18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E2230】ドイツ語補講２Ⅱ［畠山勝彦］秋学期授業/Fall 19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3249】フランス語補講１Ⅰ［西川純子］春学期授業/Spring 20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3250】フランス語補講１Ⅱ［西川純子］秋学期授業/Fall 21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3251】フランス語補講２Ⅰ［中村美緒］春学期授業/Spring 22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3252】フランス語補講２Ⅱ［中村美緒］秋学期授業/Fall 23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3253】フランス語補講３Ⅰ［石川典子］春学期授業/Spring 24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E3254】フランス語補講３Ⅱ［石川典子］秋学期授業/Fall 25

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E4221】ロシア語補講１Ⅰ［佐藤裕子］春学期授業/Spring 26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E4222】ロシア語補講１Ⅱ［佐藤裕子］秋学期授業/Fall 27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E4223】ロシア語補講２Ⅰ［佐藤裕子］春学期授業/Spring 28
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【E4224】ロシア語補講２Ⅱ［佐藤裕子］秋学期授業/Fall 29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【F9104】Elementary Health and Physical Education［武井　敦彦］秋学期授業/Fall 30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【P0162】Elementary Information Technology［斎藤　明］秋学期授業/Fall 32
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【P0163】Information Technology［斎藤　明］春学期授業/Spring 33
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【P0632】Elementary Career Development［竹原　正篤］秋学期授業/Fall 34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【P1302】Elementary Humanities A［URBANOVA　JANA］秋学期授業/Fall 35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【P1304】Elementary Humanities B［Richard.J.Burrows］秋学期授業/Fall 37
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【P2301】Elementary Social Science A［ガェル　ベッソン］春学期授業/Spring 39
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【P3602】Elementary Mathematics A［小木曽　岳義］秋学期授業/Fall 40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【P3603】Elementary Mathematics B［小木曽　岳義］春学期授業/Spring 41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0001】基礎ゼミⅠ（文・哲）［内藤　淳］春学期授業/Spring 42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0002】基礎ゼミⅡ（文・哲）［佐藤　真人］秋学期授業/Fall 44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0003】基礎ゼミⅠ（文・哲）［奥田　和夫］春学期授業/Spring 45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0004】基礎ゼミⅡ（文・哲）［菅沢　龍文］秋学期授業/Fall 46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0005】基礎ゼミⅠ（文・英文）［福元　広二］春学期授業/Spring 48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0007】基礎ゼミⅠ（文・英文）［小澤　央］春学期授業/Spring 49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0009】基礎ゼミⅠ（文・英文）［小島　尚人］春学期授業/Spring 50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0011】基礎ゼミⅠ（文・英文）［田中　裕希］春学期授業/Spring 51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0013】基礎ゼミⅠ（文・史）［大塚　紀弘］春学期授業/Spring 52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0015】基礎ゼミⅠ（文・史）［宇都宮　美生］春学期授業/Spring 53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0017】基礎ゼミⅠ（文・史）［内田　康太］春学期授業/Spring 54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0019】基礎ゼミⅠ（文・史）［松本　剣志郎］春学期授業/Spring 55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0021】基礎ゼミⅠ（文・地理）［伊藤　達也］春学期授業/Spring 56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0023】基礎ゼミⅠ（文・地理）［米家　志乃布］春学期授業/Spring 57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0025】基礎ゼミⅠ（文・地理）［山口　隆子］春学期授業/Spring 58

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0027】基礎ゼミⅠ（文・地理）［宇津川　喬子］春学期授業/Spring 59
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0029】基礎ゼミⅠ（文・心理）［藤田　哲也］春学期授業/Spring 60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0030】基礎ゼミⅡ（文・心理）［藤田　哲也］秋学期授業/Fall 62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0031】基礎ゼミⅠ（文・心理）［藤田　哲也］春学期授業/Spring 64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0032】基礎ゼミⅡ（文・心理）［藤田　哲也］秋学期授業/Fall 66
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0033】基礎ゼミⅠ（法文営）［近江屋　志穂］春学期授業/Spring 68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0034】基礎ゼミⅡ（法文営）［近江屋　志穂］秋学期授業/Fall 69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0041】基礎ゼミ（キャリア）［上西　充子］春学期授業/Spring 70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0043】基礎ゼミ（キャリア）［渡邊　真之］春学期授業/Spring 72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0045】基礎ゼミ（キャリア）［坂本　旬］春学期授業/Spring 74
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0047】基礎ゼミ（キャリア）［藤村　朝子］春学期授業/Spring 76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0049】基礎ゼミ（キャリア）［有賀　ゆうアニース］春学期授業/Spring 78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0051】基礎ゼミ（キャリア）［宮下　阿子］春学期授業/Spring 80
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0053】基礎ゼミ（キャリア）［田口　賢太郎］春学期授業/Spring 82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0055】基礎ゼミ（キャリア）［大倉　韻］春学期授業/Spring 84
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0057】基礎ゼミ（キャリア）［木村　琢磨］春学期授業/Spring 86
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0059】基礎ゼミ（キャリア）［安田　節之］春学期授業/Spring 88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0061】基礎ゼミ（キャリア）［井上　環］春学期授業/Spring 90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0063】基礎ゼミ（キャリア）［福井　令恵］春学期授業/Spring 92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0065】基礎ゼミ（キャリア）［齋藤　嘉孝］春学期授業/Spring 94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0067】基礎ゼミ（キャリア）［長戸　光］春学期授業/Spring 96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0069】基礎ゼミ（キャリア）［大西　未希］春学期授業/Spring 98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0071】基礎ゼミ（キャリア）［大西　未希］春学期授業/Spring 100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0101】情報処理演習Ⅰ［吉岡　卓］春学期授業/Spring 102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0103】情報処理演習Ⅰ［吉岡　卓］春学期授業/Spring 103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0105】情報処理演習Ⅰ［吉岡　卓］春学期授業/Spring 104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0107】情報処理演習Ⅰ［吉岡　卓］春学期授業/Spring 105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0109】情報処理演習Ⅰ［中村　文隆］春学期授業/Spring 106

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0111】情報処理演習Ⅰ［中村　文隆］春学期授業/Spring 107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0113】情報処理演習Ⅰ［河内谷　幸子］春学期授業/Spring 108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0115】情報処理演習Ⅰ［岡嶋　裕史］春学期授業/Spring 110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0117】情報処理演習Ⅰ［岡嶋　裕史］春学期授業/Spring 111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0119】情報処理演習Ⅰ［重定　如彦］春学期授業/Spring 112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0121】情報処理演習Ⅰ［重定　如彦］春学期授業/Spring 114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0127】情報処理演習Ⅰ［河内谷　幸子］春学期授業/Spring 116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0129】情報処理演習Ⅰ［河内谷　幸子］春学期授業/Spring 118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0135】情報処理演習Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring 120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0137】情報処理演習Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring 121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0139】情報処理演習Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring 122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0141】情報処理演習Ⅰ［名児耶　厚］春学期授業/Spring 123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0143】情報処理演習Ⅰ［星　善光］春学期授業/Spring 124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0145】情報処理演習Ⅰ［星　善光］春学期授業/Spring 125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0201】情報リテラシーⅠ［色川　進］春学期授業/Spring 126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0203】情報リテラシーⅠ［中村　文隆］春学期授業/Spring 128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0205】情報リテラシーⅠ［色川　進］春学期授業/Spring 130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0207】情報リテラシーⅠ［四手井　綱章］春学期授業/Spring 132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0209】情報リテラシーⅠ［中村　文隆］春学期授業/Spring 134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0211】情報リテラシーⅠ［四手井　綱章］春学期授業/Spring 136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0213】情報リテラシーⅠ［重定　如彦］春学期授業/Spring 138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0215】情報リテラシーⅡ［色川　進］春学期授業/Spring 140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0217】情報リテラシーⅡ［中村　文隆］春学期授業/Spring 142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0219】情報リテラシーⅡ［色川　進］春学期授業/Spring 144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0221】情報リテラシーⅡ［四手井　綱章］春学期授業/Spring 146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0223】情報リテラシーⅡ［中村　文隆］春学期授業/Spring 148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0225】情報リテラシーⅡ［四手井　綱章］春学期授業/Spring 150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0227】情報リテラシーⅡ［重定　如彦］春学期授業/Spring 152

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0301】情報処理演習［大間　哲］春学期授業/Spring 154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0303】情報処理演習［寺澤　信雄］春学期授業/Spring 156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0305】情報処理演習［寺澤　信雄］春学期授業/Spring 158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0307】情報処理演習［御園生　純］春学期授業/Spring 160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0501】大学を知ろう　＜法政学＞への招待［小林　ふみ子、金子　匡良］春学期授業/Spring 162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群（自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等）【Q0621】リベラルアーツ特別講座［コーディネータ：渡辺昭太、　講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービスグループ］春学期授業/Spring 164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1001】日本古典文学Ａ［表　きよし］春学期授業/Spring 165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1002】日本古典文学Ｂ［表　きよし］秋学期授業/Fall 167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1003】日本古典文学Ａ［園　明美］春学期授業/Spring 169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1004】日本古典文学Ｂ［園　明美］秋学期授業/Fall 170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1005】日本古典文学Ａ［成島　知子］春学期授業/Spring 171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1006】日本古典文学Ｂ［成島　知子］秋学期授業/Fall 173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1007】日本古典文学Ａ［成島　知子］春学期授業/Spring 175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1008】日本古典文学Ｂ［成島　知子］秋学期授業/Fall 177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1009】日本近・現代文学Ａ［細沼　祐介］春学期授業/Spring 179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1010】日本近・現代文学Ｂ［細沼　祐介］秋学期授業/Fall 180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1013】日本文学Ａ［島田　雅彦］春学期授業/Spring 181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1014】日本文学Ｂ［島田　雅彦］秋学期授業/Fall 182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1015】日本文学Ａ［佐藤　未央子］春学期授業/Spring 183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1016】日本文学Ｂ［佐藤　未央子］秋学期授業/Fall 184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1017】外国文学Ａ［D. ハイデンライヒ］春学期授業/Spring 185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1018】外国文学Ｂ［D. ハイデンライヒ］秋学期授業/Fall 186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1019】外国文学Ａ［近江屋　志穂］春学期授業/Spring 187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1020】外国文学Ｂ［近江屋　志穂］秋学期授業/Fall 188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1021】外国文学Ａ［吉井　涼子］春学期授業/Spring 189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1022】外国文学Ｂ［吉井　涼子］秋学期授業/Fall 191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1023】外国文学Ａ［吉井　涼子］春学期授業/Spring 193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1024】外国文学Ｂ［吉井　涼子］秋学期授業/Fall 195

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1025】外国文学Ａ［梁　禮先］春学期授業/Spring 197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1026】外国文学Ｂ［梁　禮先］秋学期授業/Fall 198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1027】日本近・現代文学Ａ［細沼　祐介］春学期授業/Spring 199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1028】日本近・現代文学Ｂ［細沼　祐介］秋学期授業/Fall 200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1061】文章論［安藤　優一］春学期授業/Spring 201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1062】文章論［関口　雄士］春学期授業/Spring 202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1063】文章論［関口　雄士］春学期授業/Spring 203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1064】文章論［関口　雄士］秋学期授業/Fall 204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1065】文章論［細沼　祐介］春学期授業/Spring 205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1069】文章論［細沼　祐介］秋学期授業/Fall 206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1081】言語学Ａ［板井　美佐］春学期授業/Spring 207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1082】言語学Ｂ［板井　美佐］秋学期授業/Fall 208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1083】言語学Ａ［副島　健作］春学期授業/Spring 209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1084】言語学Ｂ［副島　健作］秋学期授業/Fall 211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1085】言語学Ａ［齊藤　雄介］春学期授業/Spring 213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1086】言語学Ｂ［齊藤　雄介］秋学期授業/Fall 214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1091】哲学Ⅰ［佐藤　真人］春学期授業/Spring 215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1092】哲学Ⅱ［佐藤　真人］秋学期授業/Fall 216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1093】哲学Ⅰ［計良　隆世］春学期授業/Spring 217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1094】哲学Ⅱ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1095】哲学Ⅰ［計良　隆世］春学期授業/Spring 219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1096】哲学Ⅱ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1097】哲学Ⅰ［近堂　秀］春学期授業/Spring 221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1098】哲学Ⅱ［近堂　秀］秋学期授業/Fall 222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1099】哲学Ⅰ［伊藤　功］春学期授業/Spring 223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1100】哲学Ⅱ［伊藤　功］秋学期授業/Fall 224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1101】哲学Ⅰ［谷口　力］春学期授業/Spring 225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1102】哲学Ⅱ［谷口　力］秋学期授業/Fall 226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1103】哲学Ⅰ［大西　正人］春学期授業/Spring 227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1104】哲学Ⅱ［大西　正人］秋学期授業/Fall 228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1105】哲学Ⅰ［近堂　秀］春学期授業/Spring 229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1106】哲学Ⅱ［近堂　秀］秋学期授業/Fall 230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1107】哲学Ⅰ［越部　良一］春学期授業/Spring 231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1108】哲学Ⅱ［越部　良一］秋学期授業/Fall 232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1109】哲学Ⅰ［伊藤　功］春学期授業/Spring 233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1110】哲学Ⅱ［伊藤　功］秋学期授業/Fall 234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1121】倫理学Ⅰ［越部　良一］春学期授業/Spring 235

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1122】倫理学Ⅱ［越部　良一］秋学期授業/Fall 236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1123】倫理学Ⅰ［杉本　隆久］春学期授業/Spring 237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1124】倫理学Ⅱ［杉本　隆久］秋学期授業/Fall 238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1125】倫理学Ⅰ［伊藤　直樹］春学期授業/Spring 239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1126】倫理学Ⅱ［伊藤　直樹］秋学期授業/Fall 240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1127】倫理学Ⅰ［田島　樹里奈］春学期授業/Spring 241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1128】倫理学Ⅱ［田島　樹里奈］秋学期授業/Fall 243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1129】倫理学Ⅰ［森村　修］春学期授業/Spring 245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1130】倫理学Ⅱ［森村　修］秋学期授業/Fall 246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1131】倫理学Ⅰ［佐藤　英明］春学期授業/Spring 247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1132】倫理学Ⅱ［佐藤　英明］秋学期授業/Fall 248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1133】倫理学Ⅰ［越部　良一］春学期授業/Spring 249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1134】倫理学Ⅱ［越部　良一］秋学期授業/Fall 250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1141】論理学Ⅰ［大西　正人］春学期授業/Spring 251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1142】論理学Ⅱ［大西　正人］秋学期授業/Fall 252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1143】論理学Ⅰ［白根　裕里枝］春学期授業/Spring 253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1144】論理学Ⅱ［白根　裕里枝］秋学期授業/Fall 254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1145】論理学Ⅰ［計良　隆世］春学期授業/Spring 255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1146】論理学Ⅱ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1147】論理学Ⅰ［鵜澤　和彦］春学期授業/Spring 259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1148】論理学Ⅱ［鵜澤　和彦］秋学期授業/Fall 261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1149】論理学Ⅰ［大貫　義久］春学期授業/Spring 262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1150】論理学Ⅱ［大貫　義久］秋学期授業/Fall 263
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1151】論理学Ⅰ［計良　隆世］春学期授業/Spring 264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1152】論理学Ⅱ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1153】論理学Ⅰ［菅沢　龍文］春学期授業/Spring 268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1154】論理学Ⅱ［菅沢　龍文］秋学期授業/Fall 270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1155】論理学Ⅰ［計良　隆世］春学期授業/Spring 272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1156】論理学Ⅱ［計良　隆世］秋学期授業/Fall 274

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1161】東洋史Ⅰ［齋藤　勝］春学期授業/Spring 276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1162】東洋史Ⅱ［齋藤　勝］秋学期授業/Fall 277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1163】東洋史Ⅰ［齋藤　勝］春学期授業/Spring 278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1164】東洋史Ⅱ［齋藤　勝］秋学期授業/Fall 279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1165】東洋史Ⅰ［板橋　暁子］春学期授業/Spring 280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1166】東洋史Ⅱ［板橋　暁子］秋学期授業/Fall 281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1167】東洋史Ⅰ［齋藤　勝］春学期授業/Spring 282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1168】東洋史Ⅱ［齋藤　勝］秋学期授業/Fall 283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1169】東洋史Ⅰ［板橋　暁子］春学期授業/Spring 284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1170】東洋史Ⅱ［板橋　暁子］秋学期授業/Fall 285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1181】西洋史Ⅰ［大澤　広晃］春学期授業/Spring 286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1182】西洋史Ⅱ［大澤　広晃］秋学期授業/Fall 287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1183】西洋史Ⅰ［大澤　広晃］春学期授業/Spring 288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1184】西洋史Ⅱ［大澤　広晃］秋学期授業/Fall 289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1185】西洋史Ⅰ［内川　勇海］春学期授業/Spring 290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1186】西洋史Ⅱ［渡辺　知］秋学期授業/Fall 291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1187】西洋史Ⅰ［内川　勇海］春学期授業/Spring 292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1188】西洋史Ⅱ［渡辺　知］秋学期授業/Fall 293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1201】日本史Ⅰ［根崎　光男］春学期授業/Spring 294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1202】日本史Ⅱ［根崎　光男］秋学期授業/Fall 295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1203】日本史Ⅰ［小口　雅史］春学期授業/Spring 296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1204】日本史Ⅱ［小口　雅史］秋学期授業/Fall 298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1205】日本史Ⅰ［小口　雅史］春学期授業/Spring 300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1206】日本史Ⅱ［小口　雅史］秋学期授業/Fall 302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1207】日本史Ⅰ［真辺　美佐］春学期授業/Spring 304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1208】日本史Ⅱ［真辺　美佐］秋学期授業/Fall 305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1209】日本史Ⅰ［小口　雅史］春学期授業/Spring 306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1210】日本史Ⅱ［小口　雅史］秋学期授業/Fall 308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1211】日本史Ⅰ［根崎　光男］春学期授業/Spring 310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1212】日本史Ⅱ［根崎　光男］秋学期授業/Fall 311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1221】宗教論Ⅰ［榎本　香織］春学期授業/Spring 312

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1222】宗教論Ⅱ［榎本　香織］秋学期授業/Fall 313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1223】宗教論Ⅰ［古澤　有峰］春学期授業/Spring 314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1224】宗教論Ⅱ［古澤　有峰］秋学期授業/Fall 315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1231】芸術Ａ［嘉藤　笑子］春学期授業/Spring 316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1232】芸術Ｂ［嘉藤　笑子］秋学期授業/Fall 318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1233】芸術Ａ［小澤　慶介］春学期授業/Spring 320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1234】芸術Ｂ［小澤　慶介］秋学期授業/Fall 321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1235】芸術Ａ［中川　三千代］春学期授業/Spring 322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群（人文分野）【Q1236】芸術Ｂ［中川　三千代］秋学期授業/Fall 324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2001】法学Ⅰ［山本　圭子］春学期授業/Spring 326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2002】法学Ⅱ［山本　圭子］秋学期授業/Fall 327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2003】法学Ⅰ［山口　哲史］春学期授業/Spring 328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2004】法学Ⅱ［山口　哲史］秋学期授業/Fall 329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2005】法学Ⅰ［内藤　淳］春学期授業/Spring 330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2006】法学Ⅱ［内藤　淳］秋学期授業/Fall 331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2007】法学Ⅰ［内藤　淳］春学期授業/Spring 332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2008】法学Ⅱ［内藤　淳］秋学期授業/Fall 333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2009】法学Ⅰ［陳　志明］春学期授業/Spring 334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2010】法学Ⅱ［陳　志明］秋学期授業/Fall 335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2011】法学Ⅰ［水野　圭子］春学期授業/Spring 336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2012】法学Ⅱ［水野　圭子］秋学期授業/Fall 338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2013】法学Ⅰ［金子　匡良］春学期授業/Spring 340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2014】法学Ⅱ［金子　匡良］秋学期授業/Fall 341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2017】法学Ⅰ［菅谷　麻衣］春学期授業/Spring 342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2018】法学Ⅱ［菅谷　麻衣］秋学期授業/Fall 343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2031】法学（日本国憲法）［金子　匡良］春学期授業/Spring 344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2032】法学（日本国憲法）［金子　匡良］秋学期授業/Fall 345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2033】法学（日本国憲法）［茂木　洋平］春学期授業/Spring 346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2034】法学（日本国憲法）［茂木　洋平］秋学期授業/Fall 347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2041】経済学Ⅰ［玉之内　直］春学期授業/Spring 348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2042】経済学Ⅱ［玉之内　直］秋学期授業/Fall 349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2043】経済学Ⅰ［千葉　千尋］春学期授業/Spring 350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2044】経済学Ⅱ［千葉　千尋］秋学期授業/Fall 351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2045】経済学Ⅰ［関口　駿輔］春学期授業/Spring 352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2046】経済学Ⅱ［梅溪　健児］秋学期授業/Fall 353

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2049】経済学Ⅰ［玉之内　直］春学期授業/Spring 354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2050】経済学Ⅱ［玉之内　直］秋学期授業/Fall 355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2061】マクロ経済学Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2062】マクロ経済学Ⅱ［平田　英明］秋学期授業/Fall 358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2063】マクロ経済学Ⅰ［平田　英明］春学期授業/Spring 360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2064】マクロ経済学Ⅱ［平田　英明］秋学期授業/Fall 362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2071】心理学Ⅰ［宇野　カオリ］春学期授業/Spring 364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2072】心理学Ⅱ［宇野　カオリ］秋学期授業/Fall 366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2073】心理学Ⅰ［櫻井　登世子］春学期授業/Spring 368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2074】心理学Ⅱ［櫻井　登世子］秋学期授業/Fall 369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2075】心理学Ⅰ［宇野　カオリ］春学期授業/Spring 370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2076】心理学Ⅱ［宇野　カオリ］秋学期授業/Fall 372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2077】心理学Ⅰ［浅川　希洋志］春学期授業/Spring 374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2078】心理学Ⅱ［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2079】心理学Ⅰ［浅川　希洋志］春学期授業/Spring 377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2080】心理学Ⅱ［浅川　希洋志］秋学期授業/Fall 378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2081】心理学Ⅰ［宇野　カオリ］春学期授業/Spring 380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2082】心理学Ⅱ［宇野　カオリ］秋学期授業/Fall 382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2083】心理学Ⅰ［宇野　カオリ］春学期授業/Spring 384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2084】心理学Ⅱ［宇野　カオリ］秋学期授業/Fall 386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2085】心理学Ⅰ［櫻井　登世子］春学期授業/Spring 388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2086】心理学Ⅱ［櫻井　登世子］秋学期授業/Fall 389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2111】地理学Ⅰ［前畑　明美］春学期授業/Spring 390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2112】地理学Ⅱ［前畑　明美］秋学期授業/Fall 391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2113】地理学Ⅰ［前川　明彦］春学期授業/Spring 392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2114】地理学Ⅱ［前川　明彦］秋学期授業/Fall 393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2115】地理学Ⅰ［米家　志乃布］春学期授業/Spring 394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2116】地理学Ⅱ［米家　志乃布］秋学期授業/Fall 395

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2117】地理学Ⅰ［前畑　明美］春学期授業/Spring 396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2118】地理学Ⅱ［前畑　明美］秋学期授業/Fall 397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2119】地理学Ⅰ［前畑　明美］春学期授業/Spring 398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2120】地理学Ⅱ［前畑　明美］秋学期授業/Fall 399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2131】社会学Ⅰ［服部　あさこ］春学期授業/Spring 400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2132】社会学Ⅱ［服部　あさこ］秋学期授業/Fall 401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2133】社会学Ⅰ［山本　卓］春学期授業/Spring 402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2134】社会学Ⅱ［山本　卓］秋学期授業/Fall 403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2135】社会学Ⅰ［高橋　徹］春学期授業/Spring 405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2136】社会学Ⅱ［高橋　徹］秋学期授業/Fall 406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2137】社会学Ⅰ［山本　卓］春学期授業/Spring 407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2138】社会学Ⅱ［山本　卓］秋学期授業/Fall 408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2139】社会学Ⅰ［高橋　徹］春学期授業/Spring 410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2140】社会学Ⅱ［高橋　徹］秋学期授業/Fall 411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2141】社会学Ⅰ［橋本　みゆき］春学期授業/Spring 412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2142】社会学Ⅱ［橋本　みゆき］秋学期授業/Fall 413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2143】社会学Ⅰ［徐　玄九］春学期授業/Spring 414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2144】社会学Ⅱ［徐　玄九］秋学期授業/Fall 415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2145】社会学Ⅰ［徐　玄九］春学期授業/Spring 416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2146】社会学Ⅱ［徐　玄九］秋学期授業/Fall 417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2161】政治学Ⅰ［及川　智洋］春学期授業/Spring 418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2162】政治学Ⅱ［及川　智洋］秋学期授業/Fall 419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2163】政治学Ⅰ［崔　先鎬］春学期授業/Spring 420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2164】政治学Ⅱ［崔　先鎬］秋学期授業/Fall 421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2165】政治学Ⅰ［崔　先鎬］春学期授業/Spring 422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2166】政治学Ⅱ［崔　先鎬］秋学期授業/Fall 423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2167】政治学Ⅰ［高橋　和則］春学期授業/Spring 424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2168】政治学Ⅱ［高橋　和則］秋学期授業/Fall 425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2169】政治学Ⅰ［及川　智洋］春学期授業/Spring 426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2170】政治学Ⅱ［及川　智洋］秋学期授業/Fall 427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2171】政治学Ⅰ［面　一也］春学期授業/Spring 428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2172】政治学Ⅱ［面　一也］秋学期授業/Fall 429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2173】政治学Ⅰ［岡﨑　加奈子］春学期授業/Spring 430

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2174】政治学Ⅱ［岡﨑　加奈子］秋学期授業/Fall 431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2175】政治学Ⅰ［高橋　和則］春学期授業/Spring 432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2176】政治学Ⅱ［高橋　和則］秋学期授業/Fall 433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2191】文化人類学［ベル　裕紀］春学期授業/Spring 434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2193】文化人類学［渡辺　浩平］春学期授業/Spring 435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2195】文化人類学［北原　卓也］春学期授業/Spring 436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2197】文化人類学［長沢　利明］春学期授業/Spring 437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2199】文化人類学［ベル　裕紀］春学期授業/Spring 438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2201】文化人類学［橋爪　太作］春学期授業/Spring 439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2203】文化人類学［橋爪　太作］春学期授業/Spring 440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2205】文化人類学［廣田　龍平］春学期授業/Spring 441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2207】文化人類学［渡辺　浩平］春学期授業/Spring 442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2209】文化人類学［石森　大知］春学期授業/Spring 443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2211】社会思想Ⅰ［阿部　崇史］春学期授業/Spring 444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2212】社会思想Ⅱ［阿部　崇史］秋学期授業/Fall 445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2213】社会思想Ⅰ［村田　玲］春学期授業/Spring 446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2214】社会思想Ⅱ［村田　玲］秋学期授業/Fall 447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2215】社会思想Ⅰ［阿部　崇史］春学期授業/Spring 448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2216】社会思想Ⅱ［阿部　崇史］秋学期授業/Fall 449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2217】社会思想Ⅰ［阿部　崇史］春学期授業/Spring 450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2218】社会思想Ⅱ［洪　貴義］秋学期授業/Fall 451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2219】社会思想Ⅰ［熊沢　敏之］春学期授業/Spring 452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2220】社会思想Ⅱ［熊沢　敏之］秋学期授業/Fall 454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2221】社会思想Ⅰ［村田　玲］春学期授業/Spring 456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群（社会分野）【Q2222】社会思想Ⅱ［村田　玲］秋学期授業/Fall 457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3001】教養数学Ａ［平田　康史］春学期授業/Spring 458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3002】教養数学Ｂ［平田　康史］秋学期授業/Fall 459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3003】教養数学Ａ［平田　康史］春学期授業/Spring 460

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3004】教養数学Ｂ［平田　康史］秋学期授業/Fall 461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3005】教養数学Ａ［小木曽　岳義］春学期授業/Spring 462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3006】教養数学Ｂ［小木曽　岳義］秋学期授業/Fall 463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3007】教養数学Ａ［小木曽　岳義］春学期授業/Spring 464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3008】教養数学Ｂ［小木曽　岳義］秋学期授業/Fall 465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3011】教養数学Ａ［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3012】教養数学Ｂ［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall 467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3013】教養数学Ａ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3014】教養数学Ｂ［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall 469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3015】教養数学Ａ［佐藤　洋祐］春学期授業/Spring 470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3016】教養数学Ｂ［佐藤　洋祐］秋学期授業/Fall 471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3017】教養数学Ａ［佐藤　洋祐］春学期授業/Spring 472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3018】教養数学Ｂ［佐藤　洋祐］秋学期授業/Fall 473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3031】基礎数学Ⅰ［若井　健太郎］春学期授業/Spring 474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3032】基礎数学Ⅱ［若井　健太郎］秋学期授業/Fall 475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3033】基礎数学Ⅰ［板井　昌典］春学期授業/Spring 476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3034】基礎数学Ⅱ［板井　昌典］秋学期授業/Fall 477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3035】基礎数学Ⅰ［池田　宏一郎］春学期授業/Spring 478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3036】基礎数学Ⅱ［池田　宏一郎］秋学期授業/Fall 479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3037】基礎数学Ⅰ［若井　健太郎］春学期授業/Spring 480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3038】基礎数学Ⅱ［若井　健太郎］秋学期授業/Fall 481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3039】基礎数学Ⅰ［板井　昌典］春学期授業/Spring 482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3040】基礎数学Ⅱ［板井　昌典］秋学期授業/Fall 483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3041】基礎数学Ⅰ［倉田　俊彦］春学期授業/Spring 484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3042】基礎数学Ⅱ［倉田　俊彦］秋学期授業/Fall 485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3043】基礎数学Ⅰ［江口　直日］春学期授業/Spring 486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3044】基礎数学Ⅱ［江口　直日］秋学期授業/Fall 487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3047】基礎数学Ⅰ［江口　直日］春学期授業/Spring 488

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3048】基礎数学Ⅱ ［江口　直日］秋学期授業/Fall 489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3051】入門物理学Ａ［吉田　智］春学期授業/Spring 490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3052】入門物理学Ｂ［吉田　智］秋学期授業/Fall 491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3053】入門物理学Ａ［井坂　政裕］春学期授業/Spring 492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3054】入門物理学Ｂ［井坂　政裕］秋学期授業/Fall 493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3055】入門物理学Ａ［石川　壮一］春学期授業/Spring 494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3056】入門物理学Ｂ［石川　壮一］秋学期授業/Fall 495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3057】入門物理学Ａ［鈴木　裕武］春学期授業/Spring 496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3058】入門物理学Ｂ［鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 498
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3059】入門物理学Ａ［井坂　政裕］春学期授業/Spring 500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3060】入門物理学Ｂ［井坂　政裕］秋学期授業/Fall 501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3061】入門物理学Ａ［吉田　智］春学期授業/Spring 502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3062】入門物理学Ｂ［吉田　智］秋学期授業/Fall 503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3065】入門物理学Ａ［鈴木　裕武］春学期授業/Spring 504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3066】入門物理学Ｂ［鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3081】入門生物学Ａ［木原　章］春学期授業/Spring 508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3082】入門生物学Ｂ［木原　章］秋学期授業/Fall 509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3083】入門生物学Ａ［木原　章］春学期授業/Spring 511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3084】入門生物学Ｂ［木原　章］秋学期授業/Fall 512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3085】入門生物学Ａ［大槻　涼］春学期授業/Spring 514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3086】入門生物学Ｂ［大槻　涼］秋学期授業/Fall 515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3087】入門生物学Ａ［宇野　真介］春学期授業/Spring 517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3088】入門生物学Ｂ［宇野　真介］秋学期授業/Fall 519
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3089】入門生物学Ａ［宇野　真介］春学期授業/Spring 521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3090】入門生物学Ｂ［宇野　真介］秋学期授業/Fall 523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3091】入門生物学Ａ［大槻　涼］春学期授業/Spring 525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3092】入門生物学Ｂ［大槻　涼］秋学期授業/Fall 526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3093】入門生物学Ａ［宇野　真介］春学期授業/Spring 528

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3094】入門生物学Ｂ［宇野　真介］秋学期授業/Fall 530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3111】入門化学Ａ［向井　知大］春学期授業/Spring 532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3112】入門化学Ｂ［向井　知大］秋学期授業/Fall 533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3113】入門化学Ａ［小林　令子］春学期授業/Spring 534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3114】入門化学Ｂ［小林　令子］秋学期授業/Fall 535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3117】入門化学Ａ［中田　和秀］春学期授業/Spring 536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3118】入門化学Ｂ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3119】入門化学Ａ［石塚　芽具美］春学期授業/Spring 538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3120】入門化学Ｂ［石塚　芽具美］秋学期授業/Fall 539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3121】入門化学Ａ［小林　令子］春学期授業/Spring 540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3122】入門化学Ｂ［小林　令子］秋学期授業/Fall 541
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3125】入門化学Ａ［中田　和秀］春学期授業/Spring 542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3126】入門化学Ｂ［中田　和秀］秋学期授業/Fall 543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3171】天文学Ａ［福島　登志夫］春学期授業/Spring 544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3172】天文学Ｂ［福島　登志夫］秋学期授業/Fall 545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3173】天文学Ａ［梅本　智文］春学期授業/Spring 546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3174】天文学Ｂ［梅本　智文］秋学期授業/Fall 547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3175】天文学Ａ［福島　登志夫］春学期授業/Spring 548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3176】天文学Ｂ［福島　登志夫］秋学期授業/Fall 549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3181】科学史Ａ［木島　泰三］春学期授業/Spring 550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3182】科学史Ｂ［木島　泰三］秋学期授業/Fall 552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3183】科学史Ａ［金光　秀和］春学期授業/Spring 554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3184】科学史Ｂ［金光　秀和］秋学期授業/Fall 555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3185】科学史Ａ［木島　泰三］春学期授業/Spring 556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3186】科学史Ｂ［木島　泰三］秋学期授業/Fall 558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3187】科学史Ａ［木島　泰三］春学期授業/Spring 560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3188】科学史Ｂ［木島　泰三］秋学期授業/Fall 562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3301】サイエンス・ラボＡ［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 564

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3302】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3303】サイエンス・ラボA［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3304】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3305】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智］春学期授業/Spring 568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3306】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3307】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一］春学期授業/Spring 570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3308】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3309】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3310】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3311】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3312】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3313】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3314】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3315】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3316】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3317】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3318】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3319】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3320】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3321】サイエンス・ラボA［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3322】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3323】サイエンス・ラボA［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3324】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3325】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智］春学期授業/Spring 588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3326】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3327】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一］春学期授業/Spring 590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3328】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3329】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 592

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3330】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3331】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3332】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3333】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3334】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3335】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3336】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3337】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3338】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3339】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3340】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3341】サイエンス・ラボA［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3342】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3343】サイエンス・ラボA［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］春学期授業/Spring 606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3344】サイエンス・ラボB［西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕］秋学期授業/Fall 607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3345】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智］春学期授業/Spring 608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3346】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3347】サイエンス・ラボA［石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一］春学期授業/Spring 610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3348】サイエンス・ラボB［石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3349】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3350】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3351】サイエンス・ラボA［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］春学期授業/Spring 614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3352】サイエンス・ラボB［向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武］秋学期授業/Fall 615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3353】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3354】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3355】サイエンス・ラボA［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］春学期授業/Spring 618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3356】サイエンス・ラボB［黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太］秋学期授業/Fall 619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3357】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 620

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3358】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3359】サイエンス・ラボA［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］春学期授業/Spring 622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群（自然分野）【Q3360】サイエンス・ラボB［中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸］秋学期授業/Fall 623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5001】スポーツ総合演習［萩原　正大］春学期授業/Spring 624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5002】スポーツ総合演習［萩原　正大］秋学期授業/Fall 625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5003】スポーツ総合演習［谷内　花恵］春学期授業/Spring 626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5004】スポーツ総合演習［谷内　花恵］秋学期授業/Fall 627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5005】スポーツ総合演習［阿部　成雄］春学期授業/Spring 628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5006】スポーツ総合演習［阿部　成雄］秋学期授業/Fall 629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5007】スポーツ総合演習［辻　大士］春学期授業/Spring 630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5008】スポーツ総合演習［辻　大士］秋学期授業/Fall 631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5009】スポーツ総合演習［谷内　花恵］春学期授業/Spring 632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5010】スポーツ総合演習［谷内　花恵］秋学期授業/Fall 633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5011】スポーツ総合演習［萩原　正大］春学期授業/Spring 634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5012】スポーツ総合演習［萩原　正大］秋学期授業/Fall 635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5013】スポーツ総合演習［阿部　成雄］春学期授業/Spring 636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5014】スポーツ総合演習［阿部　成雄］秋学期授業/Fall 637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5015】スポーツ総合演習［辻　大士］春学期授業/Spring 638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5016】スポーツ総合演習［辻　大士］秋学期授業/Fall 639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5017】スポーツ総合演習［林　容市］春学期授業/Spring 640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5018】スポーツ総合演習［林　容市］秋学期授業/Fall 642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5019】スポーツ総合演習［山本　幸紀］春学期授業/Spring 644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5021】スポーツ総合演習［荒井　弘和］春学期授業/Spring 645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5022】スポーツ総合演習［荒井　弘和］秋学期授業/Fall 646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5101】スポーツ総合演習［位髙　駿夫］春学期授業/Spring 647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5102】スポーツ総合演習［位髙　駿夫］秋学期授業/Fall 648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5103】スポーツ総合演習［久保　賢師］春学期授業/Spring 649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5104】スポーツ総合演習［久保　賢師］秋学期授業/Fall 650

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5105】スポーツ総合演習［笠井　淳］春学期授業/Spring 651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5106】スポーツ総合演習［笠井　淳］秋学期授業/Fall 652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5107】スポーツ総合演習［吉田　康伸］春学期授業/Spring 653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5108】スポーツ総合演習［吉田　康伸］秋学期授業/Fall 654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5109】スポーツ総合演習［笠井　淳］春学期授業/Spring 655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5110】スポーツ総合演習［笠井　淳］秋学期授業/Fall 656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5111】スポーツ総合演習［久保　賢師］春学期授業/Spring 657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5112】スポーツ総合演習［久保　賢師］秋学期授業/Fall 658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5113】スポーツ総合演習［位髙　駿夫］春学期授業/Spring 659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5114】スポーツ総合演習［位髙　駿夫］秋学期授業/Fall 660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5115】スポーツ総合演習［吉田　康伸］春学期授業/Spring 661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5116】スポーツ総合演習［吉田　康伸］秋学期授業/Fall 662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5117】スポーツ総合演習［笠井　淳］春学期授業/Spring 663
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5118】スポーツ総合演習［笠井　淳］秋学期授業/Fall 664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5119】スポーツ総合演習［佐藤　優希］春学期授業/Spring 665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5120】スポーツ総合演習［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5121】スポーツ総合演習［久保　賢師］春学期授業/Spring 669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5122】スポーツ総合演習［久保　賢師］秋学期授業/Fall 670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5201】スポーツ総合演習［藤岡　成美］春学期授業/Spring 671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5202】スポーツ総合演習［藤岡　成美］秋学期授業/Fall 674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5203】スポーツ総合演習［上岡　尚代］春学期授業/Spring 677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5204】スポーツ総合演習［上岡　尚代］秋学期授業/Fall 680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5205】スポーツ総合演習［柳川　洸輔］春学期授業/Spring 683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5206】スポーツ総合演習［柳川　洸輔］秋学期授業/Fall 686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5207】スポーツ総合演習［三好　英次］春学期授業/Spring 689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5208】スポーツ総合演習［三好　英次］秋学期授業/Fall 692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5209】スポーツ総合演習［藤岡　成美］春学期授業/Spring 695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5210】スポーツ総合演習［藤岡　成美］秋学期授業/Fall 698

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5211】スポーツ総合演習［上岡　尚代］春学期授業/Spring 701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5212】スポーツ総合演習［上岡　尚代］秋学期授業/Fall 704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5213】スポーツ総合演習［柳川　洸輔］春学期授業/Spring 707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5214】スポーツ総合演習［柳川　洸輔］秋学期授業/Fall 710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5215】スポーツ総合演習［三好　英次］春学期授業/Spring 713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5216】スポーツ総合演習［三好　英次］秋学期授業/Fall 716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5217】スポーツ総合演習［三好　英次］春学期授業/Spring 719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5218】スポーツ総合演習［藤岡　成美］秋学期授業/Fall 722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5219】スポーツ総合演習［伊藤　マモル］春学期授業/Spring 725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5220】スポーツ総合演習［伊藤　マモル］秋学期授業/Fall 728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5221】スポーツ総合演習［上岡　尚代］春学期授業/Spring 731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5222】スポーツ総合演習［上岡　尚代］秋学期授業/Fall 734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5223】スポーツ総合演習［藤岡　成美］春学期授業/Spring 737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5224】スポーツ総合演習［三好　英次］秋学期授業/Fall 740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5301】スポーツ総合演習［佐藤　優希］春学期授業/Spring 743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5302】スポーツ総合演習［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 745
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5303】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］春学期授業/Spring 747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5304】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］秋学期授業/Fall 749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5305】スポーツ総合演習［稲垣　和希］春学期授業/Spring 751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5306】スポーツ総合演習［前原　千佳］秋学期授業/Fall 753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5307】スポーツ総合演習［武井　敦彦］春学期授業/Spring 755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5308】スポーツ総合演習［武井　敦彦］秋学期授業/Fall 757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5309】スポーツ総合演習［佐藤　優希］春学期授業/Spring 759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5310】スポーツ総合演習［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5311】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］春学期授業/Spring 763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5312】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］秋学期授業/Fall 765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5313】スポーツ総合演習［稲垣　和希］春学期授業/Spring 767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5314】スポーツ総合演習［前原　千佳］秋学期授業/Fall 769

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5315】スポーツ総合演習［中澤　史］春学期授業/Spring 771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5316】スポーツ総合演習［中澤　史］秋学期授業/Fall 773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5317】スポーツ総合演習［佐藤　優希］春学期授業/Spring 775
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5318】スポーツ総合演習［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5319】スポーツ総合演習［稲垣　和希］春学期授業/Spring 779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5320】スポーツ総合演習［前原　千佳］秋学期授業/Fall 781
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5321】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］春学期授業/Spring 783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5322】スポーツ総合演習［蔭山　雅洋］秋学期授業/Fall 785
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5327】スポーツ総合演習［朝比奈　茂］春学期授業/Spring 787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5328】スポーツ総合演習［竹内　洋輔］秋学期授業/Fall 789
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5329】スポーツ総合演習［佐藤　優希］春学期授業/Spring 791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5330】スポーツ総合演習［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5331】スポーツ総合演習［竹内　洋輔］春学期授業/Spring 795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5332】スポーツ総合演習［竹内　洋輔］秋学期授業/Fall 797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5418】スポーツ総合演習［荒井　弘和］秋学期授業/Fall 799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5419】スポーツ総合演習［荒井　弘和］春学期集中/Intensive(Spring) 801
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5501】スポーツ総合演習Ｓ［佐藤　優希］春学期授業/Spring 803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5502】スポーツ総合演習Ｓ［佐藤　優希］秋学期授業/Fall 805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5603】スポーツ総合演習［竹内　洋輔］春学期授業/Spring 807
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群（保健体育分野）【Q5604】スポーツ総合演習［竹内　洋輔］秋学期授業/Fall 809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0001】English 1 Ⅰ［藤井　道行］春学期授業/Spring 811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0002】English 1 Ⅱ［藤井　道行］秋学期授業/Fall 813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0003】English 1 Ⅰ［豊口　真衣子］春学期授業/Spring 815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0004】English 1 Ⅱ［豊口　真衣子］秋学期授業/Fall 816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0005】English 1 Ⅰ［吉川　太惠子］春学期授業/Spring 817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0006】English 1 Ⅱ［吉川　太惠子］秋学期授業/Fall 819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0007】English 1 Ⅰ［當麻　幸子］春学期授業/Spring 821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0008】English 1 Ⅱ［當麻　幸子］秋学期授業/Fall 822

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0009】English 1 I ［神　康介］春学期授業/Spring 823
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0010】English 1 II ［神　康介］秋学期授業/Fall 824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0011】English 1 I ［小川　真也］春学期授業/Spring 825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0012】English 1 II ［小川　真也］秋学期授業/Fall 827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0013】English 1 I ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0014】English 1 II ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0015】English 1 I ［永井　大輔］春学期授業/Spring 834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0016】English 1 II ［永井　大輔］秋学期授業/Fall 836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0017】English 1 I ［高　友希子］春学期授業/Spring 838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0018】English 1 II ［高　友希子］秋学期授業/Fall 839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0019】English 1 I ［中和　彩子］春学期授業/Spring 840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0020】English 1 II ［中和　彩子］秋学期授業/Fall 842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0021】English 1 I ［北　文美子］春学期授業/Spring 844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0022】English 1 II ［北　文美子］秋学期授業/Fall 845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0023】English 1 I ［根本　怜奈］春学期授業/Spring 846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0024】English 1 II ［根本　怜奈］秋学期授業/Fall 847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0025】English 1 I ［余田　亜希］春学期授業/Spring 848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0026】English 1 II ［余田　亜希］秋学期授業/Fall 849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0027】English 1 I ［深澤　清］春学期授業/Spring 850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0028】English 1 II ［深澤　清］秋学期授業/Fall 852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0029】English 1 I ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0030】English 1 II ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0035】English 1 I ［吉川　太惠子］春学期授業/Spring 859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0036】English 1 II ［吉川　太惠子］秋学期授業/Fall 861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0037】English 1 I ［藤井　道行］春学期授業/Spring 863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0038】English 1 II ［藤井　道行］秋学期授業/Fall 865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0039】English 1 I ［豊口　真衣子］春学期授業/Spring 867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0040】English 1 II ［豊口　真衣子］秋学期授業/Fall 868

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0041】English 1 I ［神　康介］春学期授業/Spring 869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0042】English 1 II ［神　康介］秋学期授業/Fall 870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0043】English 1 I ［久慈　美貴］春学期授業/Spring 871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0044】English 1 II ［久慈　美貴］秋学期授業/Fall 872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0045】English 1 I ［小川　真也］春学期授業/Spring 874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0046】English 1 II ［小川　真也］秋学期授業/Fall 876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0047】English 1 I ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0048】English 1 II ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0049】English 1 I ［永井　大輔］春学期授業/Spring 883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0050】English 1 II ［永井　大輔］秋学期授業/Fall 885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0051】English 1 I ［高　友希子］春学期授業/Spring 887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0052】English 1 II ［高　友希子］秋学期授業/Fall 888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0053】English 1 I ［余田　亜希］春学期授業/Spring 889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0054】English 1 II ［余田　亜希］秋学期授業/Fall 890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0055】English 1 I ［北　文美子］春学期授業/Spring 891
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0056】English 1 II ［北　文美子］秋学期授業/Fall 892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0057】English 1 I ［根本　怜奈］春学期授業/Spring 893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0058】English 1 II ［根本　怜奈］秋学期授業/Fall 894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0059】English 1 I ［深澤　清］春学期授業/Spring 895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0060】English 1 II ［深澤　清］秋学期授業/Fall 897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0061】English 1 I ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0062】English 1 II ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0063】English 1 I ［當麻　幸子］春学期授業/Spring 904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0064】English 1 II ［當麻　幸子］秋学期授業/Fall 905
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0071】English 1 I ［清水　純子］春学期授業/Spring 906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0072】English 1 II ［清水　純子］秋学期授業/Fall 908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0073】English 1 I ［大澤　岳彦］春学期授業/Spring 910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0074】English 1 II ［大澤　岳彦］秋学期授業/Fall 912

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0075】English 1 I ［本間　章郎］春学期授業/Spring 913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0076】English 1 II ［本間　章郎］秋学期授業/Fall 914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0077】English 1 I ［余田　剛］春学期授業/Spring 915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0078】English 1 II ［余田　剛］秋学期授業/Fall 917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0079】English 1 I ［大和久　悌一郎］春学期授業/Spring 919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0080】English 1 II ［大和久　悌一郎］秋学期授業/Fall 920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0081】English 1 I ［高井　美紀子］春学期授業/Spring 921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0082】English 1 II ［高井　美紀子］秋学期授業/Fall 923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0083】English 1 I ［大厩　諒］春学期授業/Spring 925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0084】English 1 II ［大厩　諒］秋学期授業/Fall 926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0085】English 1 I ［小田井　勝彦］春学期授業/Spring 927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0086】English 1 II ［小田井　勝彦］秋学期授業/Fall 928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0087】English 1 I ［竹内　晶子］春学期授業/Spring 929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0088】English 1 II ［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0089】English 1 I ［村松　美映子］春学期授業/Spring 932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0090】English 1 II ［村松　美映子］秋学期授業/Fall 934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0091】English 1 I ［塩谷　幸子］春学期授業/Spring 936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0092】English 1 II ［塩谷　幸子］秋学期授業/Fall 937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0093】English 1 I ［利根川　真紀］春学期授業/Spring 938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0094】English 1 II ［利根川　真紀］秋学期授業/Fall 939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0095】English 1 I ［吉田　季実子］春学期授業/Spring 940
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0096】English 1 II ［吉田　季実子］秋学期授業/Fall 941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0097】English 1 I ［萩原　眞一］春学期授業/Spring 942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0098】English 1 II ［萩原　眞一］秋学期授業/Fall 943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0099】English 1 I ［岩坪　友子］春学期授業/Spring 944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0100】English 1 II ［岩坪　友子］秋学期授業/Fall 946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0105】English 1 I ［萩原　眞一］春学期授業/Spring 948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0106】English 1 II ［萩原　眞一］秋学期授業/Fall 949

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0107】English 1 Ⅰ［大澤　岳彦］春学期授業/Spring 950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0108】English 1 Ⅱ［大澤　岳彦］秋学期授業/Fall 952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0109】English 1 Ⅰ［中和　彩子］春学期授業/Spring 953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0110】English 1 Ⅱ［中和　彩子］秋学期授業/Fall 954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0111】English 1 Ⅰ［余田　剛］春学期授業/Spring 955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0112】English 1 Ⅱ［余田　剛］秋学期授業/Fall 957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0113】English 1 Ⅰ［宇野　毅］春学期授業/Spring 959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0114】English 1 Ⅱ［宇野　毅］秋学期授業/Fall 960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0115】English 1 Ⅰ［鈴木　理枝］春学期授業/Spring 961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0116】English 1 Ⅱ［鈴木　理枝］秋学期授業/Fall 962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0117】English 1 Ⅰ［高井　美紀子］春学期授業/Spring 964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0118】English 1 Ⅱ［高井　美紀子］秋学期授業/Fall 966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0119】English 1 Ⅰ［小田井　勝彦］春学期授業/Spring 968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0120】English 1 Ⅱ［小田井　勝彦］秋学期授業/Fall 969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0121】English 1 Ⅰ［竹内　晶子］春学期授業/Spring 970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0122】English 1 Ⅱ［竹内　晶子］秋学期授業/Fall 972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0123】English 1 Ⅰ［遠藤　郁子］春学期授業/Spring 973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0124】English 1 Ⅱ［遠藤　郁子］秋学期授業/Fall 975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0125】English 1 Ⅰ［塩谷　幸子］春学期授業/Spring 977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0126】English 1 Ⅱ［塩谷　幸子］秋学期授業/Fall 978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0127】English 1 Ⅰ［利根川　真紀］春学期授業/Spring 979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0128】English 1 Ⅱ［利根川　真紀］秋学期授業/Fall 980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0129】English 1 Ⅰ［岩坪　友子］春学期授業/Spring 981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0130】English 1 Ⅱ［岩坪　友子］秋学期授業/Fall 983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0131】English 1 Ⅰ［清水　純子］春学期授業/Spring 985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0132】English 1 Ⅱ［清水　純子］秋学期授業/Fall 987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0133】English 1 Ⅰ［吉田　季実子］春学期授業/Spring 989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0134】English 1 Ⅱ［吉田　季実子］秋学期授業/Fall 990

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0135】English 1 I ［村松　美映子］春学期授業/Spring 991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0136】English 1 II ［村松　美映子］秋学期授業/Fall 993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0141】English 1 I ［岩坪　友子］春学期授業/Spring 995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0142】English 1 II ［岩坪　友子］秋学期授業/Fall 997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0143】English 1 I ［近藤　隆子］春学期授業/Spring 999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0144】English 1 II ［近藤　隆子］秋学期授業/Fall 1001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0145】English 1 I ［小泉　和弘］春学期授業/Spring 1003
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0146】English 1 II ［小泉　和弘］秋学期授業/Fall 1004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0147】English 1 I ［豊口　真衣子］春学期授業/Spring 1005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0148】English 1 II ［豊口　真衣子］秋学期授業/Fall 1006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0149】English 1 I ［杉　亜希子］春学期授業/Spring 1007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0150】English 1 II ［杉　亜希子］秋学期授業/Fall 1009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0151】English 1 I ［田中　邦佳］春学期授業/Spring 1011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0152】English 1 II ［田中　邦佳］秋学期授業/Fall 1012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0153】English 1 I ［坂梨　健史郎］春学期授業/Spring 1013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0154】English 1 II ［坂梨　健史郎］秋学期授業/Fall 1015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0155】English 1 I ［田口　清一］春学期授業/Spring 1017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0156】English 1 II ［田口　清一］秋学期授業/Fall 1019
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0157】English 1 I ［高井　美紀子］春学期授業/Spring 1021
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0158】English 1 II ［高井　美紀子］秋学期授業/Fall 1023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0159】English 1 I ［吉田　和久］春学期授業/Spring 1025
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0160】English 1 II ［吉田　和久］秋学期授業/Fall 1026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0161】English 1 I ［渡辺　英依美］春学期授業/Spring 1027
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0162】English 1 II ［渡辺　英依美］秋学期授業/Fall 1028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0163】English 1 I ［吉田　季実子］春学期授業/Spring 1029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0164】English 1 II ［吉田　季実子］秋学期授業/Fall 1030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0165】English 1 I ［藤井　道行］春学期授業/Spring 1031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0166】English 1 II ［藤井　道行］秋学期授業/Fall 1033

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0167】English 1 I ［池田　しおり］春学期授業/Spring 1035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0168】English 1 II ［池田　しおり］秋学期授業/Fall 1036
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0169】English 1 I ［吉江　秀和］春学期授業/Spring 1037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0170】English 1 II ［吉江　秀和］秋学期授業/Fall 1038
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0171】English 1 I ［岩坪　友子］春学期授業/Spring 1039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0172】English 1 II ［岩坪　友子］秋学期授業/Fall 1041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0173】English 1 I ［滝沢　玄］春学期授業/Spring 1043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0174】English 1 II ［滝沢　玄］秋学期授業/Fall 1044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0181】English 1 I ［豊口　真衣子］春学期授業/Spring 1045
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0182】English 1 II ［豊口　真衣子］秋学期授業/Fall 1046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0183】English 1 I ［滝沢　玄］春学期授業/Spring 1047
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0184】English 1 II ［滝沢　玄］秋学期授業/Fall 1048
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0185】English 1 I ［杉　亜希子］春学期授業/Spring 1049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0186】English 1 II ［杉　亜希子］秋学期授業/Fall 1051
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0187】English 1 I ［坂梨　健史郎］春学期授業/Spring 1053
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0188】English 1 II ［坂梨　健史郎］秋学期授業/Fall 1055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0189】English 1 I ［小泉　和弘］春学期授業/Spring 1057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0190】English 1 II ［小泉　和弘］秋学期授業/Fall 1058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0191】English 1 I ［田中　邦佳］春学期授業/Spring 1059
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0192】English 1 II ［田中　邦佳］秋学期授業/Fall 1060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0193】English 1 I ［田口　清一］春学期授業/Spring 1061
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0194】English 1 II ［田口　清一］秋学期授業/Fall 1063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0195】English 1 I ［高井　美紀子］春学期授業/Spring 1065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0196】English 1 II ［高井　美紀子］秋学期授業/Fall 1067
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0197】English 1 I ［大厩　諒］春学期授業/Spring 1069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0198】English 1 II ［大厩　諒］秋学期授業/Fall 1070
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0199】English 1 I ［吉田　和久］春学期授業/Spring 1071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0200】English 1 II ［吉田　和久］秋学期授業/Fall 1072

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0201】English １Ⅰ［吉田　季実子］春学期授業/Spring 1073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0202】English １Ⅱ［吉田　季実子］秋学期授業/Fall 1074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0203】English １Ⅰ［渡辺　英依美］春学期授業/Spring 1075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0204】English １Ⅱ［渡辺　英依美］秋学期授業/Fall 1076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0205】English １Ⅰ［水野　太朗］春学期授業/Spring 1077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0206】English １Ⅱ［水野　太朗］秋学期授業/Fall 1078
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0207】English １Ⅰ［飛田　英伸］春学期授業/Spring 1079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0208】English １Ⅱ［飛田　英伸］秋学期授業/Fall 1081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0209】English １Ⅰ［吉江　秀和］春学期授業/Spring 1083
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0210】English １Ⅱ［吉江　秀和］秋学期授業/Fall 1084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0211】English １Ⅰ［近藤　隆子］春学期授業/Spring 1085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0212】English １Ⅱ［近藤　隆子］秋学期授業/Fall 1087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0213】English １Ⅰ［池田　しおり］春学期授業/Spring 1089
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0214】English １Ⅱ［池田　しおり］秋学期授業/Fall 1090
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0215】English １Ⅰ［中和　彩子］春学期授業/Spring 1091
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0216】English １Ⅱ［中和　彩子］秋学期授業/Fall 1092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0217】English １Ⅰ［塩谷　幸子］春学期授業/Spring 1093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0218】English １Ⅱ［塩谷　幸子］秋学期授業/Fall 1094
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0219】English １Ⅰ［塩谷　幸子］春学期授業/Spring 1095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0220】English １Ⅱ［塩谷　幸子］秋学期授業/Fall 1096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0221】English ２Ⅰ［ジェフリー　B タロフスキー］春学期授業/Spring 1097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0222】English ２Ⅱ［ジェフリー　B タロフスキー］秋学期授業/Fall 1099
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0223】English ２Ⅰ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0224】English ２Ⅱ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0225】English ２Ⅰ［JUSTIN FALKUS］春学期授業/Spring 1104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0226】English ２Ⅱ［JUSTIN FALKUS］秋学期授業/Fall 1105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0227】English ２Ⅰ［中垣　恒太郎］春学期授業/Spring 1106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0228】English ２Ⅱ［中垣　恒太郎］秋学期授業/Fall 1107

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0229】English 2 I ［GENC BURCU］春学期授業/Spring 1108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0230】English 2 II ［GENC BURCU］秋学期授業/Fall 1109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0231】English 2 I ［NADER Jamelea］春学期授業/Spring 1110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0232】English 2 II ［NADER Jamelea］秋学期授業/Fall 1111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0233】English 2 I ［PAUL K KALLENDER］春学期授業/Spring 1112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0234】English 2 II ［PAUL K KALLENDER］秋学期授業/Fall 1114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0235】English 2 I ［高橋　佳江］春学期授業/Spring 1116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0236】English 2 II ［高橋　佳江］秋学期授業/Fall 1117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0237】English 2 I ［MICHAEL F.MURPHY］春学期授業/Spring 1118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0238】English 2 II ［MICHAEL F.MURPHY］秋学期授業/Fall 1119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0239】English 2 I ［URBANOVA JANA］春学期授業/Spring 1120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0240】English 2 II ［URBANOVA JANA］秋学期授業/Fall 1122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0241】English 2 I ［Andrew　E. Chen］春学期授業/Spring 1124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0242】English 2 II ［Andrew　E. Chen］秋学期授業/Fall 1126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0243】English 2 I ［Richard.J.Burrows］春学期授業/Spring 1128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0244】English 2 II ［Richard.J.Burrows］秋学期授業/Fall 1129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0245】English 2 I ［PATRICK M MCEVILLY］春学期授業/Spring 1131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0246】English 2 II ［PATRICK M MCEVILLY］秋学期授業/Fall 1132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0247】English 2 I ［関野　佳苗］春学期授業/Spring 1133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0248】English 2 II ［関野　佳苗］秋学期授業/Fall 1135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0249】English 2 I ［RICHARD SHEEHAN］春学期授業/Spring 1137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0250】English 2 II ［RICHARD SHEEHAN］秋学期授業/Fall 1138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0255】English 2 I ［中垣　恒太郎］春学期授業/Spring 1139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0256】English 2 II ［中垣　恒太郎］秋学期授業/Fall 1140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0257】English 2 I ［GENC BURCU］春学期授業/Spring 1141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0258】English 2 II ［GENC BURCU］秋学期授業/Fall 1142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0259】English 2 I ［ジェフリー　B タロフスキー］春学期授業/Spring 1143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0260】English 2 II ［ジェフリー　B タロフスキー］秋学期授業/Fall 1145

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0261】English 2 I ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0262】English 2 II ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0263】English 2 I ［JUSTIN FALKUS］春学期授業/Spring 1150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0264】English 2 II ［JUSTIN FALKUS］秋学期授業/Fall 1151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0265】English 2 I ［NADER Jamelea］春学期授業/Spring 1152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0266】English 2 II ［NADER Jamelea］秋学期授業/Fall 1153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0267】English 2 I ［PAUL K KALLENDER］春学期授業/Spring 1154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0268】English 2 II ［PAUL K KALLENDER］秋学期授業/Fall 1156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0269】English 2 I ［高橋　佳江］春学期授業/Spring 1158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0270】English 2 II ［高橋　佳江］秋学期授業/Fall 1159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0271】English 2 I ［MICHAEL F.MURPHY］春学期授業/Spring 1160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0272】English 2 II ［MICHAEL F.MURPHY］秋学期授業/Fall 1161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0273】English 2 I ［永井　大輔］春学期授業/Spring 1162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0274】English 2 II ［永井　大輔］秋学期授業/Fall 1164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0275】English 2 I ［Andrew　E. Chen］春学期授業/Spring 1166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0276】English 2 II ［Andrew　E. Chen］秋学期授業/Fall 1168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0277】English 2 I ［関野　佳苗］春学期授業/Spring 1170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0278】English 2 II ［関野　佳苗］秋学期授業/Fall 1172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0279】English 2 I ［Richard.J.Burrows］春学期授業/Spring 1174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0280】English 2 II ［Richard.J.Burrows］秋学期授業/Fall 1175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0281】English 2 I ［RICHARD SHEEHAN］春学期授業/Spring 1177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0282】English 2 II ［RICHARD SHEEHAN］秋学期授業/Fall 1178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0283】English 2 I ［PATRICK M MCEVILLY］春学期授業/Spring 1179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0284】English 2 II ［PATRICK M MCEVILLY］秋学期授業/Fall 1180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0291】English 2 I ［石原　紀子］春学期授業/Spring 1181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0292】English 2 II ［石原　紀子］秋学期授業/Fall 1183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0293】English 2 I ［岩崎　博］春学期授業/Spring 1185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0294】English 2 II ［岩崎　博］秋学期授業/Fall 1187

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0295】English ２Ⅰ［ジェフリー　B タロフスキー］春学期授業/Spring 1189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0296】English ２Ⅱ［ジェフリー　B タロフスキー］秋学期授業/Fall 1191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0297】English ２Ⅰ［THOMAS G POWER］春学期授業/Spring 1193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0298】English ２Ⅱ［THOMAS G POWER］秋学期授業/Fall 1195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0299】English ２Ⅰ［鈴木　眞奈美］春学期授業/Spring 1197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0300】English ２Ⅱ［鈴木　眞奈美］秋学期授業/Fall 1198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0301】English ２Ⅰ［CHIA-WEI KANG］春学期授業/Spring 1200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0302】English ２Ⅱ［CHIA-WEI KANG］秋学期授業/Fall 1202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0303】English ２Ⅰ［ALAN M NICHOLLS］春学期授業/Spring 1204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0304】English ２Ⅱ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 1206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0305】English ２Ⅰ［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 1208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0306】English ２Ⅱ［Kregg　Johnston］秋学期授業/Fall 1210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0307】English ２Ⅰ［近藤　隆子］春学期授業/Spring 1212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0308】English ２Ⅱ［近藤　隆子］秋学期授業/Fall 1213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0309】English ２Ⅰ［ジェフリー　B タロフスキー］春学期授業/Spring 1215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0310】English ２Ⅱ［ジェフリー　B タロフスキー］秋学期授業/Fall 1217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0311】English ２Ⅰ［Robert　D. Hinton］春学期授業/Spring 1219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0312】English ２Ⅱ［Robert　D. Hinton］秋学期授業/Fall 1220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0313】English ２Ⅰ［豊口　真衣子］春学期授業/Spring 1221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0314】English ２Ⅱ［豊口　真衣子］秋学期授業/Fall 1222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0315】English ２Ⅰ［山崎　暁子］春学期授業/Spring 1223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0316】English ２Ⅱ［山崎　暁子］秋学期授業/Fall 1224
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0317】English ２Ⅰ［CHRISTOPHER MASCHIO］春学期授業/Spring 1225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0318】English ２Ⅱ［CHRISTOPHER MASCHIO］秋学期授業/Fall 1226
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0319】English ２Ⅰ［CHRISTOPHER MASCHIO］春学期授業/Spring 1227
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0320】English ２Ⅱ［CHRISTOPHER MASCHIO］秋学期授業/Fall 1228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0325】English ２Ⅰ［ジェフリー　B タロフスキー］春学期授業/Spring 1229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0326】English ２Ⅱ［ジェフリー　B タロフスキー］秋学期授業/Fall 1231

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0327】English ２Ⅰ［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 1233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0328】English ２Ⅱ［Kregg　Johnston］秋学期授業/Fall 1235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0329】English ２Ⅰ［THOMAS G POWER］春学期授業/Spring 1237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0330】English ２Ⅱ［CHIA-WEI KANG］秋学期授業/Fall 1238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0331】English ２Ⅰ［鈴木　眞奈美］春学期授業/Spring 1240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0332】English ２Ⅱ［鈴木　眞奈美］秋学期授業/Fall 1241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0333】English ２Ⅰ［岩崎　博］春学期授業/Spring 1243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0334】English ２Ⅱ［岩崎　博］秋学期授業/Fall 1245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0335】English ２Ⅰ［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 1247
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0336】English ２Ⅱ［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 1248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0337】English ２Ⅰ［ALAN M NICHOLLS］春学期授業/Spring 1249
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0338】English ２Ⅱ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 1251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0339】English ２Ⅰ［Kregg　Johnston］春学期授業/Spring 1253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0340】English ２Ⅱ［Kregg　Johnston］秋学期授業/Fall 1255
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0341】English ２Ⅰ［近藤　隆子］春学期授業/Spring 1257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0342】English ２Ⅱ［近藤　隆子］秋学期授業/Fall 1258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0343】English ２Ⅰ［ジェフリー　Bタロフスキー］春学期授業/Spring 1260
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0344】English ２Ⅱ［ジェフリー　Bタロフスキー］秋学期授業/Fall 1262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0345】English ２Ⅰ［Robert　D. Hinton］春学期授業/Spring 1264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0346】English ２Ⅱ［Robert　D. Hinton］秋学期授業/Fall 1265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0347】English ２Ⅰ［CHRISTOPHER MASCHIO］春学期授業/Spring 1266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0348】English ２Ⅱ［CHRISTOPHER MASCHIO］秋学期授業/Fall 1267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0349】English ２Ⅰ［山崎　暁子］春学期授業/Spring 1268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0350】English ２Ⅱ［山崎　暁子］秋学期授業/Fall 1269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0351】English ２Ⅰ［CHRISTOPHER MASCHIO］春学期授業/Spring 1270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0352】English ２Ⅱ［CHRISTOPHER MASCHIO］秋学期授業/Fall 1271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0353】English ２Ⅰ［石原　紀子］春学期授業/Spring 1272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0354】English ２Ⅱ［石原　紀子］秋学期授業/Fall 1274

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0355】English ２Ⅰ［DONALD W WHYTE］春学期授業/Spring 1276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0356】English ２Ⅱ［DONALD W WHYTE］秋学期授業/Fall 1277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0361】English ２Ⅰ［Annette　Gruber］春学期授業/Spring 1278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0362】English ２Ⅱ［Annette　Gruber］秋学期授業/Fall 1279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0363】English ２Ⅰ［ALAN M NICHOLLS］春学期授業/Spring 1280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0364】English ２Ⅱ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 1282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0365】English ２Ⅰ［鈴木　眞奈美］春学期授業/Spring 1284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0366】English ２Ⅱ［鈴木　眞奈美］秋学期授業/Fall 1285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0367】English ２Ⅰ［SHAWN M DE HAVEN］春学期授業/Spring 1287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0368】English ２Ⅱ［SHAWN M DE HAVEN］秋学期授業/Fall 1288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0369】English ２Ⅰ［鹿子嶋　由佳］春学期授業/Spring 1289
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0370】English ２Ⅱ［鹿子嶋　由佳］秋学期授業/Fall 1291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0371】English ２Ⅰ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0372】English ２Ⅱ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0373】English ２Ⅰ［森永　豊］春学期授業/Spring 1296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0374】English ２Ⅱ［森永　豊］秋学期授業/Fall 1298
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0375】English ２Ⅰ［ウォルター・カズマー］春学期授業/Spring 1300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0376】English ２Ⅱ［ウォルター・カズマー］秋学期授業/Fall 1301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0377】English ２Ⅰ［小堀　洋］春学期授業/Spring 1302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0378】English ２Ⅱ［小堀　洋］秋学期授業/Fall 1304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0379】English ２Ⅰ［門馬　義幸］春学期授業/Spring 1306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0380】English ２Ⅱ［門馬　義幸］秋学期授業/Fall 1308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0381】English ２Ⅰ［MICHAEL DONOVAN］春学期授業/Spring 1310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0382】English ２Ⅱ［MICHAEL DONOVAN］秋学期授業/Fall 1311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0383】English ２Ⅰ［Richard.J.Burrows］春学期授業/Spring 1312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0384】English ２Ⅱ［Richard.J.Burrows］秋学期授業/Fall 1313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0385】English ２Ⅰ［井上　紗央里］春学期授業/Spring 1315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0386】English ２Ⅱ［井上　紗央里］秋学期授業/Fall 1316

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0387】English ２Ⅰ［LASSEGARD JAMES］春学期授業/Spring 1317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0388】English ２Ⅱ［LASSEGARD JAMES］秋学期授業/Fall 1318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0389】English ２Ⅰ［川澄　亜岐子］春学期授業/Spring 1319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0390】English ２Ⅱ［川澄　亜岐子］秋学期授業/Fall 1320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0391】English ２Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0392】English ２Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0393】English ２Ⅰ［飛田　英伸］春学期授業/Spring 1323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0394】English ２Ⅱ［飛田　英伸］秋学期授業/Fall 1324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0401】English ２Ⅰ［PAUL K KALLENDER］春学期授業/Spring 1325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0402】English ２Ⅱ［PAUL K KALLENDER］秋学期授業/Fall 1327
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0403】English ２Ⅰ［Annette　Gruber］春学期授業/Spring 1329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0404】English ２Ⅱ［Annette　Gruber］秋学期授業/Fall 1330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0405】English ２Ⅰ［ALAN M NICHOLLS］春学期授業/Spring 1331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0406】English ２Ⅱ［ALAN M NICHOLLS］秋学期授業/Fall 1333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0407】English ２Ⅰ［鹿子嶋　由佳］春学期授業/Spring 1335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0408】English ２Ⅱ［鹿子嶋　由佳］秋学期授業/Fall 1337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0409】English ２Ⅰ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0410】English ２Ⅱ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0411】English ２Ⅰ［JAMES D SHORT］春学期授業/Spring 1342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0412】English ２Ⅱ［JAMES D SHORT］秋学期授業/Fall 1344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0413】English ２Ⅰ［森永　豊］春学期授業/Spring 1346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0414】English ２Ⅱ［森永　豊］秋学期授業/Fall 1348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0415】English ２Ⅰ［SHAWN M DE HAVEN］春学期授業/Spring 1350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0416】English ２Ⅱ［SHAWN M DE HAVEN］秋学期授業/Fall 1351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0417】English ２Ⅰ［ウォルター・カズマー］春学期授業/Spring 1352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0418】English ２Ⅱ［ウォルター・カズマー］秋学期授業/Fall 1353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0419】English ２Ⅰ［門馬　義幸］春学期授業/Spring 1354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0420】English ２Ⅱ［門馬　義幸］秋学期授業/Fall 1356

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0421】English ２Ⅰ［Richard.J.Burrows］春学期授業/Spring 1358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0422】English ２Ⅱ［Richard.J.Burrows］秋学期授業/Fall 1359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0423】English ２Ⅰ［MICHAEL DONOVAN］春学期授業/Spring 1361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0424】English ２Ⅱ［MICHAEL DONOVAN］秋学期授業/Fall 1362
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0425】English ２Ⅰ［LASSEGARD JAMES］春学期授業/Spring 1363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0426】English ２Ⅱ［LASSEGARD JAMES］秋学期授業/Fall 1364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0427】English ２Ⅰ［井上　紗央里］春学期授業/Spring 1365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0428】English ２Ⅱ［井上　紗央里］秋学期授業/Fall 1366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0429】English ２Ⅰ［川澄　亜岐子］春学期授業/Spring 1367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0430】English ２Ⅱ［川澄　亜岐子］秋学期授業/Fall 1368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0431】English ２Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0432】English ２Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0433】English ２Ⅰ［鈴木　眞奈美］春学期授業/Spring 1371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0434】English ２Ⅱ［鈴木　眞奈美］秋学期授業/Fall 1372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0435】English ２Ⅰ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 1374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0436】English ２Ⅱ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 1377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0437】English ２Ⅰ［岡崎　真美］春学期授業/Spring 1380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0438】English ２Ⅱ［岡崎　真美］秋学期授業/Fall 1383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0439】English ２Ⅰ［中垣　恒太郎］春学期授業/Spring 1386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0440】English ２Ⅱ［中垣　恒太郎］秋学期授業/Fall 1387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0501】英語１［小川　真也］春学期授業/Spring 1388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0502】英語３［小川　真也］秋学期授業/Fall 1390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0503】英語１［遠藤　郁子］春学期授業/Spring 1392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0504】英語３［遠藤　郁子］秋学期授業/Fall 1394
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0505】英語１［北　文美子］春学期授業/Spring 1396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0506】英語３［北　文美子］秋学期授業/Fall 1397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0507】英語１［永井　大輔］春学期授業/Spring 1398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0508】英語３［永井　大輔］秋学期授業/Fall 1400

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0509】英語 1［粟飯原　文子］春学期授業/Spring 1402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0510】英語 3［粟飯原　文子］秋学期授業/Fall 1403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0511】英語 1［深谷　公宣］春学期授業/Spring 1404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0512】英語 3［深谷　公宣］秋学期授業/Fall 1405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0513】英語 1［小川　真也］春学期授業/Spring 1406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0514】英語 3［小川　真也］秋学期授業/Fall 1408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0515】英語 1［遠藤　郁子］春学期授業/Spring 1410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0516】英語 3［遠藤　郁子］秋学期授業/Fall 1412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0517】英語 1［北　文美子］春学期授業/Spring 1414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0518】英語 3［北　文美子］秋学期授業/Fall 1415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0519】英語 1［永井　大輔］春学期授業/Spring 1416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0520】英語 3［永井　大輔］秋学期授業/Fall 1418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0521】英語 1［粟飯原　文子］春学期授業/Spring 1420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0522】英語 3［粟飯原　文子］秋学期授業/Fall 1421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0523】英語 1［岩下　弘史］春学期授業/Spring 1422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0524】英語 3［岩下　弘史］秋学期授業/Fall 1423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0525】英語 1［田中　邦佳］春学期授業/Spring 1424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0526】英語 3［田中　邦佳］秋学期授業/Fall 1425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0531】英語 2［RICHARD SHEEHAN］春学期授業/Spring 1426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0532】英語 4［RICHARD SHEEHAN］秋学期授業/Fall 1427
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0533】英語 2［折笠　真美］春学期授業/Spring 1428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0534】英語 4［折笠　真美］秋学期授業/Fall 1429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0535】英語 2［ジョナサン・エイブル］春学期授業/Spring 1430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0536】英語 4［ジョナサン・エイブル］秋学期授業/Fall 1431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0537】英語 2［JAMES O ESSEX］春学期授業/Spring 1432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0538】英語 4［JAMES O ESSEX］秋学期授業/Fall 1434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0539】英語 2［STEPHEN P MCINTYRE］春学期授業/Spring 1436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0540】英語 4［STEPHEN P MCINTYRE］秋学期授業/Fall 1438

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0541】英語２［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 1440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0542】英語４［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 1441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0543】英語２［RICHARD SHEEHAN］春学期授業/Spring 1442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0544】英語４［RICHARD SHEEHAN］秋学期授業/Fall 1443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0545】英語２［折笠　真美］春学期授業/Spring 1444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0546】英語４［折笠　真美］秋学期授業/Fall 1445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0547】英語２［STEPHEN P MCINTYRE］春学期授業/Spring 1446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0548】英語４［STEPHEN P MCINTYRE］秋学期授業/Fall 1448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0549】英語２［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 1450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0550】英語４［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 1451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0551】英語２［佐藤　陽子］春学期授業/Spring 1452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0552】英語４［佐藤　陽子］秋学期授業/Fall 1454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0553】英語２［TAMARA P ELDRIDGE］春学期授業/Spring 1456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0554】英語４［TAMARA P ELDRIDGE］秋学期授業/Fall 1457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0555】英語２［TAMARA P ELDRIDGE］春学期授業/Spring 1458
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0556】英語４［TAMARA P ELDRIDGE］秋学期授業/Fall 1459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0561】英語５［TOBY TRAUB］春学期授業/Spring 1460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0562】英語６［TOBY TRAUB］秋学期授業/Fall 1462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0563】英語５［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 1464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0564】英語６［ラスカイル　L. ハウザー］秋学期授業/Fall 1465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0565】英語５［CHIA-WEI KANG］春学期授業/Spring 1466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0566】英語６［CHIA-WEI KANG］秋学期授業/Fall 1468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0567】英語５［ウォルター・カズマー］春学期授業/Spring 1470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0568】英語６［ウォルター・カズマー］秋学期授業/Fall 1471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0569】英語５［STEPHEN P MCINTYRE］春学期授業/Spring 1472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0570】英語６［STEPHEN P MCINTYRE］秋学期授業/Fall 1474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0571】英語５［ラスカイル　L. ハウザー］春学期授業/Spring 1476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0572】英語６［ラスカイル　L. ハウザー］秋学期授業/Fall 1477

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0573】英語５［ウォルター・カズマー］春学期授業/Spring 1478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0574】英語６［ウォルター・カズマー］秋学期授業/Fall 1479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0575】英語５［ROBERT SPIVAK］春学期授業/Spring 1480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0576】英語６［ROBERT SPIVAK］秋学期授業/Fall 1482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0577】英語５［ROBERT SPIVAK］春学期授業/Spring 1484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0578】英語６［ROBERT SPIVAK］秋学期授業/Fall 1486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0601】English 1-Ⅰ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1488
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0602】English 1-Ⅱ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0603】English 1-Ⅰ［小泉　和弘］春学期授業/Spring 1492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0604】English 1-Ⅱ［小泉　和弘］秋学期授業/Fall 1493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0605】English 1-Ⅰ［吉江　秀和］春学期授業/Spring 1494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0606】English 1-Ⅱ［吉江　秀和］秋学期授業/Fall 1496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0607】English 1-Ⅰ［今井　澄子］春学期授業/Spring 1497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0608】English 1-Ⅱ［今井　澄子］秋学期授業/Fall 1499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0609】English 1-Ⅰ［根本　怜奈］春学期授業/Spring 1501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0610】English 1-Ⅱ［根本　怜奈］秋学期授業/Fall 1502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0611】English 1-Ⅰ［舟橋　美香］春学期授業/Spring 1503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0612】English 1-Ⅱ［舟橋　美香］秋学期授業/Fall 1504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0613】English 1-Ⅰ［北原　ルック明子］春学期授業/Spring 1505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0614】English 1-Ⅱ［北原　ルック明子］秋学期授業/Fall 1507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0615】English 1-Ⅰ［小泉　和弘］春学期授業/Spring 1509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0616】English 1-Ⅱ［小泉　和弘］秋学期授業/Fall 1510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0617】English 1-Ⅰ［吉江　秀和］春学期授業/Spring 1511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0618】English 1-Ⅱ［吉江　秀和］秋学期授業/Fall 1513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0619】English 1-Ⅰ［今井　澄子］春学期授業/Spring 1514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0620】English 1-Ⅱ［今井　澄子］秋学期授業/Fall 1516
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0621】English 1-Ⅰ［根本　怜奈］春学期授業/Spring 1518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0622】English 1-Ⅱ［根本　怜奈］秋学期授業/Fall 1519

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0623】English 1-Ⅰ［舟橋　美香］春学期授業/Spring 1520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0624】English 1-Ⅱ［舟橋　美香］秋学期授業/Fall 1521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0625】English 1-Ⅰ［青山　恵子］春学期授業/Spring 1522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0626】English 1-Ⅱ［青山　恵子］秋学期授業/Fall 1523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0627】English 1-Ⅰ［青山　恵子］春学期授業/Spring 1525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0628】English 1-Ⅱ［青山　恵子］秋学期授業/Fall 1526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0631】English 2-Ⅰ［小堀　洋］春学期授業/Spring 1528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0632】English 2-Ⅱ［小堀　洋］秋学期授業/Fall 1530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0633】English 2-Ⅰ［森永　豊］春学期授業/Spring 1532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0634】English 2-Ⅱ［森永　豊］秋学期授業/Fall 1534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0635】English 2-Ⅰ［大曲　陽子］春学期授業/Spring 1536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0636】English 2-Ⅱ［大曲　陽子］秋学期授業/Fall 1538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0637】English 2-Ⅰ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 1540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0638】English 2-Ⅱ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 1542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0639】English 2-Ⅰ［高橋　佳江］春学期授業/Spring 1544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0640】English 2-Ⅱ［高橋　佳江］秋学期授業/Fall 1545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0641】English 2-Ⅰ［今井　澄子］春学期授業/Spring 1546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0642】English 2-Ⅱ［今井　澄子］秋学期授業/Fall 1548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0643】English 2-Ⅰ［小堀　洋］春学期授業/Spring 1550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0644】English 2-Ⅱ［小堀　洋］秋学期授業/Fall 1552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0645】English 2-Ⅰ［森永　豊］春学期授業/Spring 1554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0646】English 2-Ⅱ［森永　豊］秋学期授業/Fall 1556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0647】English 2-Ⅰ［大曲　陽子］春学期授業/Spring 1558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0648】English 2-Ⅱ［大曲　陽子］秋学期授業/Fall 1560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0649】English 2-Ⅰ［吉川　直澄］春学期授業/Spring 1562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0650】English 2-Ⅱ［吉川　直澄］秋学期授業/Fall 1564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0651】English 2-Ⅰ［高橋　佳江］春学期授業/Spring 1566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0652】English 2-Ⅱ［高橋　佳江］秋学期授業/Fall 1567

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0653】English 2-Ⅰ［今井　澄子］春学期授業/Spring 1568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0654】English 2-Ⅱ［今井　澄子］秋学期授業/Fall 1570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0655】English 2-Ⅰ［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 1572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0656】English 2-Ⅱ［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 1573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0657】English 2-Ⅰ［ROBIN F WEICHERT］春学期授業/Spring 1574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0658】English 2-Ⅱ［ROBIN F WEICHERT］秋学期授業/Fall 1575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0701】英語１－Ⅰ［大曲　陽子］春学期授業/Spring 1576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0702】英語１－Ⅱ［大曲　陽子］秋学期授業/Fall 1578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0703】英語１－Ⅰ［飛田　英伸］春学期授業/Spring 1580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0704】英語１－Ⅱ［飛田　英伸］秋学期授業/Fall 1582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0705】英語１－Ⅰ［川野　芽生］春学期授業/Spring 1584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0706】英語１－Ⅱ［川野　芽生］秋学期授業/Fall 1585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0707】英語１－Ⅰ［溝部　敦子］春学期授業/Spring 1586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0708】英語１－Ⅱ［溝部　敦子］秋学期授業/Fall 1588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0709】英語１－Ⅰ［光野　昭雄］春学期授業/Spring 1589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0710】英語１－Ⅱ［光野　昭雄］秋学期授業/Fall 1590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0711】英語１－Ⅰ［鈴木　博雄］春学期授業/Spring 1591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0712】英語１－Ⅱ［鈴木　博雄］秋学期授業/Fall 1592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0713】英語１－Ⅰ［鈴木　理枝］春学期授業/Spring 1593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0714】英語１－Ⅱ［鈴木　理枝］秋学期授業/Fall 1595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0715】英語１－Ⅰ［亀岡　浩一］春学期授業/Spring 1596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0716】英語１－Ⅱ［亀岡　浩一］秋学期授業/Fall 1597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0717】英語１－Ⅰ［光野　昭雄］春学期授業/Spring 1598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0718】英語１－Ⅱ［光野　昭雄］秋学期授業/Fall 1599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0719】英語１－Ⅰ［戸嶋　まゆみ］春学期授業/Spring 1600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0720】英語１－Ⅱ［戸嶋　まゆみ］秋学期授業/Fall 1601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0721】英語１－Ⅰ［折笠　真美］春学期授業/Spring 1602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0722】英語１－Ⅱ［折笠　真美］秋学期授業/Fall 1603

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0723】英語１－Ⅰ　［福井　令恵］春学期授業/Spring 1604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0724】英語１－Ⅱ［福井　令恵］秋学期授業/Fall 1605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0725】英語１－Ⅰ　［小堀　洋］春学期授業/Spring 1606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0726】英語１－Ⅱ［小堀　洋］秋学期授業/Fall 1607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0731】英語２－Ⅰ［鈴木　理枝］春学期授業/Spring 1608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0732】英語２－Ⅱ［鈴木　理枝］秋学期授業/Fall 1609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0733】英語２－Ⅰ［亀岡　浩一］春学期授業/Spring 1611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0734】英語２－Ⅱ［亀岡　浩一］秋学期授業/Fall 1612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0735】英語２－Ⅰ［光野　昭雄］春学期授業/Spring 1613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0736】英語２－Ⅱ［光野　昭雄］秋学期授業/Fall 1614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0737】英語２－Ⅰ［戸嶋　まゆみ］春学期授業/Spring 1615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0738】英語２－Ⅱ［戸嶋　まゆみ］秋学期授業/Fall 1616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0739】英語２－Ⅰ［折笠　真美］春学期授業/Spring 1617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0740】英語２－Ⅱ［折笠　真美］秋学期授業/Fall 1618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0741】英語２－Ⅰ［福井　令恵］春学期授業/Spring 1619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0742】英語２－Ⅱ［福井　令恵］秋学期授業/Fall 1620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0743】英語２－Ⅰ［大曲　陽子］春学期授業/Spring 1621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0744】英語２－Ⅱ［大曲　陽子］秋学期授業/Fall 1623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0745】英語２－Ⅰ［飛田　英伸］春学期授業/Spring 1625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0746】英語２－Ⅱ［飛田　英伸］秋学期授業/Fall 1626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0747】英語２－Ⅰ［大和久　悌一郎］春学期授業/Spring 1627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0748】英語２－Ⅱ［大和久　悌一郎］秋学期授業/Fall 1628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0749】英語２－Ⅰ［溝部　敦子］春学期授業/Spring 1629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0750】英語２－Ⅱ［溝部　敦子］秋学期授業/Fall 1631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0751】英語２－Ⅰ［光野　昭雄］春学期授業/Spring 1632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0752】英語２－Ⅱ［光野　昭雄］秋学期授業/Fall 1633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0753】英語２－Ⅰ［吉川　太恵子］春学期授業/Spring 1634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0754】英語２－Ⅱ［吉川　太恵子］秋学期授業/Fall 1636

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0755】英語２－Ⅰ［川野　芽生］春学期授業/Spring 1638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0756】英語２－Ⅱ［川野　芽生］秋学期授業/Fall 1639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0951】Academic English R&W Ⅰ［NADER　Jamelea］春学期授業/Spring 1640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0952】Academic English L&S Ⅰ［NADER　Jamelea］春学期授業/Spring 1642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0953】Academic English R&W Ⅱ［NADER　Jamelea］秋学期授業/Fall 1644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0954】Academic English L&S Ⅱ［NADER　Jamelea］秋学期授業/Fall 1646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0955】Academic English R&W Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0956】Academic English L&S Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0957】Academic English R&W Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0958】Academic English L&S Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0959】Academic English R&W Ⅰ［コートランド・デイビッド・スミス］春学期授業/Spring 1652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0960】Academic English L&S Ⅰ［コートランド・デイビッド・スミス］春学期授業/Spring 1653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0961】Academic English R&W Ⅱ［コートランド・デイビッド・スミス］秋学期授業/Fall 1654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0962】Academic English L&S Ⅱ［コートランド・デイビッド・スミス］秋学期授業/Fall 1655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0963】Academic English R&W Ⅰ［NADER　Jamelea］春学期授業/Spring 1656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0964】Academic English L&S Ⅰ［NADER　Jamelea］春学期授業/Spring 1658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0965】Academic English R&W Ⅱ［NADER　Jamelea］秋学期授業/Fall 1660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0966】Academic English L&S Ⅱ［NADER　Jamelea］秋学期授業/Fall 1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0967】Academic English R&W Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0968】Academic English L&S Ⅰ［ERIC J RITTER］春学期授業/Spring 1665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0969】Academic English R&W Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0970】Academic English L&S Ⅱ［ERIC J RITTER］秋学期授業/Fall 1667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0971】Academic English R&W Ⅰ［コートランド・デイビッド・スミス］春学期授業/Spring 1668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0972】Academic English L&S Ⅰ［コートランド・デイビッド・スミス］春学期授業/Spring 1669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0973】Academic English R&W Ⅱ［コートランド・デイビッド・スミス］秋学期授業/Fall 1670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］英語【R0974】Academic English L&S Ⅱ［コートランド・デイビッド・スミス］秋学期授業/Fall 1671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3501】日本語１Ⅰ［尾形　太郎］春学期授業/Spring 1672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3502】日本語１Ⅱ［尾形　太郎］秋学期授業/Fall 1673

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3505】日本語１Ⅰ［尾形　太郎］春学期授業/Spring 1675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3506】日本語１Ⅱ［尾形　太郎］秋学期授業/Fall 1676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3511】日本語２Ⅰ［中沢　佐企子］春学期授業/Spring 1678
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3512】日本語２Ⅱ［中沢　佐企子］秋学期授業/Fall 1679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3513】日本語２Ⅰ［中沢　佐企子］春学期授業/Spring 1681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3514】日本語２Ⅱ［中沢　佐企子］秋学期授業/Fall 1682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3515】日本語２Ⅰ［副島　健作］春学期授業/Spring 1684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R3516】日本語２Ⅱ［副島　健作］秋学期授業/Fall 1685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4001】ドイツ語１Ⅰ［長澤　優子］春学期授業/Spring 1686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4002】ドイツ語１Ⅱ［長澤　優子］秋学期授業/Fall 1687
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4007】ドイツ語１Ⅰ［上田　知夫］春学期授業/Spring 1688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4008】ドイツ語１Ⅱ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 1689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4011】ドイツ語１Ⅰ［吉田　敬介］春学期授業/Spring 1690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4012】ドイツ語１Ⅱ［吉田　敬介］秋学期授業/Fall 1691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4017】ドイツ語１Ⅰ［遠藤　浩介］春学期授業/Spring 1692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4018】ドイツ語１Ⅱ［遠藤　浩介］秋学期授業/Fall 1693
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4019】ドイツ語１Ⅰ［JENS OSTWALD］春学期授業/Spring 1694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4020】ドイツ語１Ⅱ［JENS OSTWALD］秋学期授業/Fall 1695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4023】ドイツ語１Ⅰ［外山　知子］春学期授業/Spring 1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4024】ドイツ語１Ⅱ［外山　知子］秋学期授業/Fall 1697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4025】ドイツ語１Ⅰ［小野間　亮子］春学期授業/Spring 1698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4026】ドイツ語１Ⅱ［小野間　亮子］秋学期授業/Fall 1699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4027】ドイツ語１Ⅰ［林　志津江］春学期授業/Spring 1700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4028】ドイツ語１Ⅱ［林　志津江］秋学期授業/Fall 1702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4029】ドイツ語１Ⅰ［天沼　春樹］春学期授業/Spring 1704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4030】ドイツ語１Ⅱ［天沼　春樹］秋学期授業/Fall 1705
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4051】ドイツ語２Ⅰ［高木　葉子］春学期授業/Spring 1706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4052】ドイツ語２Ⅱ［高木　葉子］秋学期授業/Fall 1707

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4057】ドイツ語２Ⅰ［遠藤　浩介］春学期授業/Spring 1708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4058】ドイツ語２Ⅱ［遠藤　浩介］秋学期授業/Fall 1709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4061】ドイツ語２Ⅰ［ADAM D JAMBOR］春学期授業/Spring 1710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4062】ドイツ語２Ⅱ［ADAM D JAMBOR］秋学期授業/Fall 1711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4065】ドイツ語２Ⅰ［梶谷　雄二］春学期授業/Spring 1712
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4066】ドイツ語２Ⅱ［梶谷　雄二］秋学期授業/Fall 1713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4067】ドイツ語２Ⅰ［高木　葉子］春学期授業/Spring 1714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4068】ドイツ語２Ⅱ［高木　葉子］秋学期授業/Fall 1715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4071】ドイツ語２Ⅰ［畠山　勝彦］春学期授業/Spring 1716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4072】ドイツ語２Ⅱ［畠山　勝彦］秋学期授業/Fall 1717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4073】ドイツ語２Ⅰ［児島　由理］春学期授業/Spring 1718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4074】ドイツ語２Ⅱ［児島　由理］秋学期授業/Fall 1719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4075】ドイツ語２Ⅰ［天沼　春樹］春学期授業/Spring 1720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4076】ドイツ語２Ⅱ［天沼　春樹］秋学期授業/Fall 1722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4077】ドイツ語２Ⅰ［三ツ石　祐子］春学期授業/Spring 1724
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4078】ドイツ語２Ⅱ［三ツ石　祐子］秋学期授業/Fall 1726
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4101】ドイツ語(１)Ⅰ［遠藤　浩介］春学期授業/Spring 1728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4102】ドイツ語(１)Ⅱ［遠藤　浩介］秋学期授業/Fall 1729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4111】ドイツ語(２)Ⅰ［平松　英人］春学期授業/Spring 1730
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4112】ドイツ語(２)Ⅱ［平松　英人］秋学期授業/Fall 1731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4121】ドイツ語１［熊田　泰章］春学期授業/Spring 1732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4122】ドイツ語３［熊田　泰章］秋学期授業/Fall 1734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4123】ドイツ語２［林　志津江］春学期授業/Spring 1736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4124】ドイツ語４［林　志津江］秋学期授業/Fall 1738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4125】ドイツ語５［Annette Gruber］春学期授業/Spring 1740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4126】ドイツ語６［Annette Gruber］秋学期授業/Fall 1741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4127】ドイツ語１［熊田　泰章］春学期授業/Spring 1742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4128】ドイツ語３［熊田　泰章］秋学期授業/Fall 1744

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4129】ドイツ語２［Schmidt Ute］春学期授業/Spring 1746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4130】ドイツ語４［Schmidt Ute］秋学期授業/Fall 1747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4141】ドイツ語１-Ⅰ［上田　知夫］春学期授業/Spring 1748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4142】ドイツ語１-Ⅱ［上田　知夫］秋学期授業/Fall 1749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4143】ドイツ語１-Ⅰ［辻　英史］春学期授業/Spring 1750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4144】ドイツ語１-Ⅱ［辻　英史］秋学期授業/Fall 1751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4145】ドイツ語１-Ⅰ［丸山　達也］春学期授業/Spring 1752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4146】ドイツ語１-Ⅱ［丸山　達也］秋学期授業/Fall 1753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4151】ドイツ語２-Ⅰ［長澤　優子］春学期授業/Spring 1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4152】ドイツ語２-Ⅱ［長澤　優子］秋学期授業/Fall 1755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4153】ドイツ語２-Ⅰ［伊東　直美］春学期授業/Spring 1756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4154】ドイツ語２-Ⅱ［伊東　直美］秋学期授業/Fall 1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4155】ドイツ語２-Ⅰ［岡本　雅克］春学期授業/Spring 1758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R4156】ドイツ語２-Ⅱ［岡本　雅克］秋学期授業/Fall 1759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5001】フランス語１Ⅰ［小幡　一雄］春学期授業/Spring 1760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5002】フランス語１Ⅱ［小幡　一雄］秋学期授業/Fall 1761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5003】フランス語１Ⅰ［稲垣　正久］春学期授業/Spring 1762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5004】フランス語１Ⅱ［稲垣　正久］秋学期授業/Fall 1763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5005】フランス語１Ⅰ［江澤　健一郎］春学期授業/Spring 1764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5006】フランス語１Ⅱ［江澤　健一郎］秋学期授業/Fall 1765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5007】フランス語１Ⅰ［近江屋志穂］春学期授業/Spring 1766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5008】フランス語１Ⅱ［近江屋志穂］秋学期授業/Fall 1767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5009】フランス語１Ⅰ［寺家村博］春学期授業/Spring 1768
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5010】フランス語１Ⅱ［寺家村博］秋学期授業/Fall 1769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5011】フランス語１Ⅰ［柴崎　秀穂］春学期授業/Spring 1770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5012】フランス語１Ⅱ［柴崎　秀穂］秋学期授業/Fall 1771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5013】フランス語１Ⅰ［江澤　健一郎］春学期授業/Spring 1772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5014】フランス語１Ⅱ［江澤　健一郎］秋学期授業/Fall 1773

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5015】フランス語１Ⅰ［小幡　一雄］春学期授業/Spring 1774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5016】フランス語１Ⅱ［小幡　一雄］秋学期授業/Fall 1775
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5019】フランス語１Ⅰ［佐藤　正和］春学期授業/Spring 1776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5020】フランス語１Ⅱ［佐藤　正和］秋学期授業/Fall 1777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5021】フランス語１Ⅰ［佐藤　正和］春学期授業/Spring 1778
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5022】フランス語１Ⅱ［佐藤　正和］秋学期授業/Fall 1779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5041】フランス語２Ⅰ［石川　典子］春学期授業/Spring 1780
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5042】フランス語２Ⅱ［石川　典子］秋学期授業/Fall 1781
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5043】フランス語２Ⅰ［コリンヌ　ヴァリエンヌ］春学期授業/Spring 1782
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5044】フランス語２Ⅱ［コリンヌ　ヴァリエンヌ］秋学期授業/Fall 1783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5045】フランス語２Ⅰ［杉村　裕史］春学期授業/Spring 1784
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5046】フランス語２Ⅱ［杉村　裕史］秋学期授業/Fall 1785
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5047】フランス語２Ⅰ［酒井　健］春学期授業/Spring 1786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5048】フランス語２Ⅱ［酒井　健］秋学期授業/Fall 1787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5049】フランス語２Ⅰ［コリンヌ　ヴァリエンヌ］春学期授業/Spring 1788
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5050】フランス語２Ⅱ［コリンヌ　ヴァリエンヌ］秋学期授業/Fall 1789
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5051】フランス語２Ⅰ［杉村　裕史］春学期授業/Spring 1790
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5052】フランス語２Ⅱ［杉村　裕史］秋学期授業/Fall 1791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5053】フランス語２Ⅰ［山口　雅敏］春学期授業/Spring 1792
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5054】フランス語２Ⅱ［山口　雅敏］秋学期授業/Fall 1793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5055】フランス語２Ⅰ［山口　雅敏］春学期授業/Spring 1794
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5056】フランス語２Ⅱ［山口　雅敏］秋学期授業/Fall 1795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5059】フランス語２Ⅰ［石川　典子］春学期授業/Spring 1796
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5060】フランス語２Ⅱ［石川　典子］秋学期授業/Fall 1797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5061】フランス語２Ⅰ［寺家村　博］春学期授業/Spring 1798
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5062】フランス語２Ⅱ［寺家村　博］秋学期授業/Fall 1799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5081】フランス語 (１) Ⅰ［佐藤　正和］春学期授業/Spring 1800
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5082】フランス語 (１) Ⅱ［佐藤　正和］秋学期授業/Fall 1801

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5083】フランス語(2)Ⅰ［村松マリ=エマニュエル］春学期授業/Spring 1802
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5084】フランス語(2)Ⅱ［村松マリ=エマニュエル］秋学期授業/Fall 1803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5091】フランス語１［岡村　民夫］春学期授業/Spring 1804
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5092】フランス語３［岡村　民夫］秋学期授業/Fall 1805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5093】フランス語２［鈴木　正道］春学期授業/Spring 1806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5094】フランス語４［鈴木　正道］秋学期授業/Fall 1808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5095】フランス語５［ル・ルー清野　ブレンダン］春学期授業/Spring 1809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5096】フランス語６［ル・ルー清野　ブレンダン］秋学期授業/Fall 1810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5097】フランス語１［廣松　勲］春学期授業/Spring 1811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5098】フランス語３［廣松　勲］秋学期授業/Fall 1813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5099】フランス語２［コリンヌヴァリエンヌ］春学期授業/Spring 1815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5100】フランス語４［コリンヌヴァリエンヌ］秋学期授業/Fall 1816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5111】フランス語1-Ⅰ［稲垣正久］春学期授業/Spring 1817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5112】フランス語1-Ⅱ［稲垣正久］秋学期授業/Fall 1818
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5113】フランス語1-Ⅰ［竹本研史］春学期授業/Spring 1819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5114】フランス語1-Ⅱ［竹本研史］秋学期授業/Fall 1820
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5115】フランス語1-Ⅰ［柴崎秀穂］春学期授業/Spring 1821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5116】フランス語1-Ⅱ［柴崎秀穂］秋学期授業/Fall 1822
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5121】フランス語2-Ⅰ［ニコラガイヤール］春学期授業/Spring 1823
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5122】フランス語2-Ⅱ［ニコラガイヤール］秋学期授業/Fall 1824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5123】フランス語2-Ⅰ［ニコラガイヤール］春学期授業/Spring 1825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5124】フランス語2-Ⅱ［ニコラガイヤール］秋学期授業/Fall 1826
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5125】フランス語2-Ⅰ［杉村裕史］春学期授業/Spring 1827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R5126】フランス語2-Ⅱ［杉村裕史］秋学期授業/Fall 1828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6001】ロシア語１Ⅰ［油本　真理］春学期授業/Spring 1829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6002】ロシア語１Ⅱ［油本　真理］秋学期授業/Fall 1830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6003】ロシア語１Ⅰ［木部　敬］春学期授業/Spring 1831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6004】ロシア語１Ⅱ［木部　敬］秋学期授業/Fall 1832

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6005】ロシア語１Ⅰ［小西　昌隆］春学期授業/Spring 1833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6006】ロシア語１Ⅱ［小西　昌隆］秋学期授業/Fall 1834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6011】ロシア語２Ⅰ［上野　理恵］春学期授業/Spring 1835
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6012】ロシア語２Ⅱ［上野　理恵］秋学期授業/Fall 1836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6013】ロシア語２Ⅰ［小西　昌隆］春学期授業/Spring 1837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6014】ロシア語２Ⅱ［小西　昌隆］秋学期授業/Fall 1838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6015】ロシア語２Ⅰ［上野　理恵］春学期授業/Spring 1839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6016】ロシア語２Ⅱ［上野　理恵］秋学期授業/Fall 1840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6031】ロシア語１［エレーナ　三神］春学期授業/Spring 1841
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6032】ロシア語３［佐藤　千登勢］秋学期授業/Fall 1842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6033】ロシア語２［佐藤　千登勢］春学期授業/Spring 1843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6034】ロシア語４［小西　昌隆］秋学期授業/Fall 1844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6035】ロシア語５［上野　理恵］春学期授業/Spring 1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6036】ロシア語６［上野　理恵］秋学期授業/Fall 1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6041】ロシア語１-Ⅰ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6042】ロシア語１-Ⅱ［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 1848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6043】ロシア語１-Ⅰ［木部　敬］春学期授業/Spring 1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6044】ロシア語１-Ⅱ［木部　敬］秋学期授業/Fall 1850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6051】ロシア語２-Ⅰ［佐藤　裕子］春学期授業/Spring 1851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6052】ロシア語２-Ⅱ［佐藤　裕子］秋学期授業/Fall 1852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6053】ロシア語２-Ⅰ［小西　昌隆］春学期授業/Spring 1853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R6054】ロシア語２-Ⅱ［小西　昌隆］秋学期授業/Fall 1854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7001】中国語１Ⅰ［渡部　れい子］春学期授業/Spring 1855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7002】中国語１Ⅱ［渡部　れい子］秋学期授業/Fall 1856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7003】中国語１Ⅰ［福木　滋久］春学期授業/Spring 1857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7004】中国語１Ⅱ［福木　滋久］秋学期授業/Fall 1858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7005】中国語１Ⅰ［池田　麻希子］春学期授業/Spring 1859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7006】中国語１Ⅱ［池田　麻希子］秋学期授業/Fall 1860

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7007】中国語 1 Ⅰ［野村　英登］
春学期授業/Spring 1861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7008】中国語 1 Ⅱ［野村　英登］
秋学期授業/Fall 1862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7009】中国語 1 Ⅰ［鷲巣　益美］
春学期授業/Spring 1863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7010】中国語 1 Ⅱ［鷲巣　益美］
秋学期授業/Fall 1864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7011】中国語 1 Ⅰ［赤平　恵里］
春学期授業/Spring 1865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7012】中国語 1 Ⅱ［赤平　恵里］
秋学期授業/Fall 1866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7013】中国語 1 Ⅰ［池田　麻希子］
春学期授業/Spring 1867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7014】中国語 1 Ⅱ［池田　麻希子］
秋学期授業/Fall 1868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7015】中国語 1 Ⅰ［柴崎　公美子］
春学期授業/Spring 1869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7016】中国語 1 Ⅱ［柴崎　公美子］
秋学期授業/Fall 1870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7017】中国語 1 Ⅰ［大江　千晶］
春学期授業/Spring 1871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7018】中国語 1 Ⅱ［大江　千晶］
秋学期授業/Fall 1872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7019】中国語 1 Ⅰ［渡部　れい子］
春学期授業/Spring 1873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7020】中国語 1 Ⅱ［渡部　れい子］
秋学期授業/Fall 1874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7021】中国語 1 Ⅰ［岩田　和子］
春学期授業/Spring 1875
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7022】中国語 1 Ⅱ［岩田　和子］
秋学期授業/Fall 1876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7023】中国語 1 Ⅰ［青木　正子］
春学期授業/Spring 1877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7024】中国語 1 Ⅱ［青木　正子］
秋学期授業/Fall 1878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7025】中国語 1 Ⅰ［柴崎　公美子］
春学期授業/Spring 1879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7026】中国語 1 Ⅱ［柴崎　公美子］
秋学期授業/Fall 1880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7027】中国語 1 Ⅰ［青木　正子］
春学期授業/Spring 1881
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7028】中国語 1 Ⅱ［青木　正子］
秋学期授業/Fall 1882
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7029】中国語 1 Ⅰ［大野　広之］
春学期授業/Spring 1883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7030】中国語 1 Ⅱ［大野　広之］
秋学期授業/Fall 1884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7031】中国語 1 Ⅰ［篠田　幸夫］
春学期授業/Spring 1885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7032】中国語 1 Ⅱ［篠田　幸夫］
秋学期授業/Fall 1886
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7033】中国語 1 Ⅰ［大野　広之］
春学期授業/Spring 1887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7034】中国語 1 Ⅱ［大野　広之］
秋学期授業/Fall 1888

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7035】中国語１Ⅰ［篠田　幸夫］春学期授業/Spring 1889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7036】中国語１Ⅱ［篠田　幸夫］秋学期授業/Fall 1890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7037】中国語１Ⅰ［篠田　幸夫］春学期授業/Spring 1891
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7038】中国語１Ⅱ［篠田　幸夫］秋学期授業/Fall 1892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7039】中国語１Ⅰ［野村　英登］春学期授業/Spring 1893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7040】中国語１Ⅱ［野村　英登］秋学期授業/Fall 1894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7041】中国語１Ⅰ［青木　正子］春学期授業/Spring 1895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7042】中国語１Ⅱ［青木　正子］秋学期授業/Fall 1896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7043】中国語１Ⅰ［福木　滋久］春学期授業/Spring 1897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7044】中国語１Ⅱ［福木　滋久］秋学期授業/Fall 1898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7045】中国語１Ⅰ［大江　千晶］春学期授業/Spring 1899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7046】中国語１Ⅱ［大江　千晶］秋学期授業/Fall 1900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7047】中国語１Ⅰ［柴崎　公美子］春学期授業/Spring 1901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7048】中国語１Ⅱ［柴崎　公美子］秋学期授業/Fall 1902
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7049】中国語１Ⅰ［鷲巣　益美］春学期授業/Spring 1903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7050】中国語１Ⅱ［鷲巣　益美］秋学期授業/Fall 1904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7051】中国語１Ⅰ［渋井　君也］春学期授業/Spring 1905
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7052】中国語１Ⅱ［渋井　君也］秋学期授業/Fall 1906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7053】中国語１Ⅰ［木村　佳代子］春学期授業/Spring 1907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7054】中国語１Ⅱ［木村　佳代子］秋学期授業/Fall 1908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7055】中国語１Ⅰ［赤平　恵里］春学期授業/Spring 1909
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7056】中国語１Ⅱ［赤平　恵里］秋学期授業/Fall 1910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7071】中国語２Ⅰ［斉　霞］春学期授業/Spring 1911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7072】中国語２Ⅱ［斉　霞］秋学期授業/Fall 1912
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7073】中国語２Ⅰ［黄　麗華］春学期授業/Spring 1913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7074】中国語２Ⅱ［黄　麗華］秋学期授業/Fall 1914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7075】中国語２Ⅰ［祝　振媛］春学期授業/Spring 1915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7076】中国語２Ⅱ［祝　振媛］秋学期授業/Fall 1916

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7077】中国語２Ⅰ［薬　進］春学期授業/Spring 1917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7078】中国語２Ⅱ［薬　進］秋学期授業/Fall 1918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7079】中国語２Ⅰ［斉　霞］春学期授業/Spring 1919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7080】中国語２Ⅱ［斉　霞］秋学期授業/Fall 1920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7081】中国語２Ⅰ［斉　霞］春学期授業/Spring 1921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7082】中国語２Ⅱ［斉　霞］秋学期授業/Fall 1922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7083】中国語２Ⅰ［黄　海萍］春学期授業/Spring 1923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7084】中国語２Ⅱ［黄　海萍］秋学期授業/Fall 1924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7085】中国語２Ⅰ［任　麗潔］春学期授業/Spring 1925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7086】中国語２Ⅱ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 1926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7087】中国語２Ⅰ［王　安］春学期授業/Spring 1927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7088】中国語２Ⅱ［王　安］秋学期授業/Fall 1928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7089】中国語２Ⅰ［任　麗潔］春学期授業/Spring 1929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7090】中国語２Ⅱ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 1930
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7091】中国語２Ⅰ［ショウ　イクテイ］春学期授業/Spring 1931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7092】中国語２Ⅱ［ショウ　イクテイ］秋学期授業/Fall 1932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7093】中国語２Ⅰ［康　宏理］春学期授業/Spring 1933
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7094】中国語２Ⅱ［康　宏理］秋学期授業/Fall 1934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7095】中国語２Ⅰ［劉　光赤］春学期授業/Spring 1935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7096】中国語２Ⅱ［劉　光赤］秋学期授業/Fall 1936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7097】中国語２Ⅰ［孫　琦］春学期授業/Spring 1937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7098】中国語２Ⅱ［孫　琦］秋学期授業/Fall 1938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7099】中国語２Ⅰ［祝　振媛］春学期授業/Spring 1939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7100】中国語２Ⅱ［祝　振媛］秋学期授業/Fall 1940
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7101】中国語２Ⅰ［薬　会］春学期授業/Spring 1941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7102】中国語２Ⅱ［薬　会］秋学期授業/Fall 1942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7103】中国語２Ⅰ［孫　琦］春学期授業/Spring 1943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7104】中国語２Ⅱ［孫　琦］秋学期授業/Fall 1944

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7105】中国語２Ⅰ［劉　光赤］春学期授業/Spring 1945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7106】中国語２Ⅱ［劉　光赤］秋学期授業/Fall 1946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7107】中国語２Ⅰ［薬　進］春学期授業/Spring 1947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7108】中国語２Ⅱ［薬　進］秋学期授業/Fall 1948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7109】中国語２Ⅰ［康　宏理］春学期授業/Spring 1949
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7110】中国語２Ⅱ［康　宏理］秋学期授業/Fall 1950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7111】中国語２Ⅰ［耿　函］春学期授業/Spring 1951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7112】中国語２Ⅱ［耿　函］秋学期授業/Fall 1952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7113】中国語２Ⅰ［周　重雷］春学期授業/Spring 1953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7114】中国語２Ⅱ［周　重雷］秋学期授業/Fall 1954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7115】中国語２Ⅰ［ショウ　イクテイ］春学期授業/Spring 1955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7116】中国語２Ⅱ［ショウ　イクテイ］秋学期授業/Fall 1956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7117】中国語２Ⅰ［薬　会］春学期授業/Spring 1957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7118】中国語２Ⅱ［薬　会］秋学期授業/Fall 1958
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7119】中国語２Ⅰ［薬　会］春学期授業/Spring 1959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7120】中国語２Ⅱ［薬　会］秋学期授業/Fall 1960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7121】中国語２Ⅰ［任　麗潔］春学期授業/Spring 1961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7122】中国語２Ⅱ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 1962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7123】中国語２Ⅰ［黄　海萍］春学期授業/Spring 1963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7124】中国語２Ⅱ［黄　海萍］秋学期授業/Fall 1964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7125】中国語２Ⅰ［任　麗潔］春学期授業/Spring 1965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7126】中国語２Ⅱ［任　麗潔］秋学期授業/Fall 1966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7141】中国語(１)Ⅰ［鷲巣　益美］春学期授業/Spring 1967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7142】中国語(１)Ⅱ［鷲巣　益美］秋学期授業/Fall 1968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7143】中国語(１)Ⅰ［岩田　和子］春学期授業/Spring 1969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7144】中国語(１)Ⅱ［岩田　和子］秋学期授業/Fall 1970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7151】中国語(２)Ⅰ［康　鴻音］春学期授業/Spring 1971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7152】中国語(２)Ⅱ［康　鴻音］秋学期授業/Fall 1972

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7153】中国語 (2) Ⅰ［周　重雷］春学期授業/Spring 1973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7154】中国語 (2) Ⅱ［周　重雷］秋学期授業/Fall 1974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7161】中国語１［鈴木　靖］春学期授業/Spring 1975
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7162】中国語３［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 1977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7163】中国語２［ショウ　イクテイ］春学期授業/Spring 1979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7164】中国語４［ショウ　イクテイ］秋学期授業/Fall 1980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7165】中国語５［鈴木　靖］春学期授業/Spring 1981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7166】中国語６［鈴木　靖］秋学期授業/Fall 1983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7167】中国語１［渡辺　昭太］春学期授業/Spring 1984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7168】中国語３［渡辺　昭太］秋学期授業/Fall 1986
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7169】中国語２［薬　会］春学期授業/Spring 1988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7170】中国語４［薬　会］秋学期授業/Fall 1989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7171】中国語１［曽　士才］春学期授業/Spring 1990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7172】中国語２［祝　振媛］春学期授業/Spring 1991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7173】中国語３［曽　士才］秋学期授業/Fall 1992
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7174】中国語４［祝　振媛］秋学期授業/Fall 1993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7181】中国語 1 - Ⅰ［永江　貴子］春学期授業/Spring 1994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7182】中国語 1 - Ⅱ［永江　貴子］秋学期授業/Fall 1995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7183】中国語 1 - Ⅰ［黄　海萍］春学期授業/Spring 1996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7184】中国語 1 - Ⅱ［黄　海萍］秋学期授業/Fall 1997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7185】中国語 1 - Ⅰ［永江　貴子］春学期授業/Spring 1998
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7186】中国語 1 - Ⅱ［永江　貴子］秋学期授業/Fall 1999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7187】中国語 1 - Ⅰ［黄　海萍］春学期授業/Spring 2000
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7188】中国語 1 - Ⅱ［黄　海萍］秋学期授業/Fall 2001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7189】中国語 1 - Ⅰ［余　瀾］春学期授業/Spring 2002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7190】中国語 1 - Ⅱ［余　瀾］秋学期授業/Fall 2003
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7191】中国語 1 - Ⅰ［劉　渇氷］春学期授業/Spring 2004
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7192】中国語 1 - Ⅱ［劉　渇氷］秋学期授業/Fall 2005

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7193】中国語 1 - Ⅰ［余　瀾］春学期授業/Spring 2006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7194】中国語 1 - Ⅱ［余　瀾］秋学期授業/Fall 2007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7195】中国語 1 - Ⅰ［劉　渇氷］春学期授業/Spring 2008
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7196】中国語 1 - Ⅱ［劉　渇氷］秋学期授業/Fall 2009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7211】中国語 2 - Ⅰ［黄　麗華］春学期授業/Spring 2010
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7212】中国語 2 - Ⅱ［黄　麗華］秋学期授業/Fall 2011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7213】中国語 2 - Ⅰ［日原　傳］春学期授業/Spring 2012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7214】中国語 2 - Ⅱ［日原　傳］秋学期授業/Fall 2013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7215】中国語 2 - Ⅰ［黄　麗華］春学期授業/Spring 2014
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7216】中国語 2 - Ⅱ［黄　麗華］秋学期授業/Fall 2015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7217】中国語 2 - Ⅰ［日原　傳］春学期授業/Spring 2016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7218】中国語 2 - Ⅱ［日原　傳］秋学期授業/Fall 2017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7219】中国語 2 - Ⅰ［後藤　淳一］春学期授業/Spring 2018
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7220】中国語 2 - Ⅱ［後藤　淳一］秋学期授業/Fall 2019
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7221】中国語 2 - Ⅰ［渋井　君也］春学期授業/Spring 2020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7222】中国語 2 - Ⅱ［渋井　君也］秋学期授業/Fall 2021
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7223】中国語 2 - Ⅰ［後藤　淳一］春学期授業/Spring 2022
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7224】中国語 2 - Ⅱ［後藤　淳一］秋学期授業/Fall 2023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7225】中国語 2 - Ⅰ［渋井　君也］春学期授業/Spring 2024
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7226】中国語 2 - Ⅱ［渋井　君也］秋学期授業/Fall 2025
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7251】中国語補講 1 Ⅰ［池田　麻希子］春学期授業/Spring 2026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7252】中国語補講 1 Ⅱ［池田　麻希子］秋学期授業/Fall 2027
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7255】中国語補講 1 Ⅰ［沈　小南］春学期授業/Spring 2028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7256】中国語補講 1 Ⅱ［沈　小南］秋学期授業/Fall 2029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7257】中国語補講 1 Ⅰ［後藤　淳一］春学期授業/Spring 2030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7258】中国語補講 1 Ⅱ［後藤　淳一］秋学期授業/Fall 2031
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7259】中国語補講 2 Ⅰ［沈　小南］春学期授業/Spring 2032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7260】中国語補講 2 Ⅱ［沈　小南］秋学期授業/Fall 2033

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7261】中国語補講２Ⅰ［余　瀾］春学期授業/Spring 2034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7262】中国語補講２Ⅱ［余　瀾］秋学期授業/Fall 2035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7263】中国語補講２Ⅰ［劉　光赤］春学期授業/Spring 2036
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R7264】中国語補講２Ⅱ［劉　光赤］秋学期授業/Fall 2037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8001】スペイン語１Ⅰ［岡本　年正］春学期授業/Spring 2038
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8002】スペイン語１Ⅱ［岡本　年正］秋学期授業/Fall 2039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8003】スペイン語１Ⅰ［敦賀　公子］春学期授業/Spring 2040
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8004】スペイン語１Ⅱ［敦賀　公子］秋学期授業/Fall 2041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8007】スペイン語１Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2042
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8008】スペイン語１Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8009】スペイン語１Ⅰ［宮田　絵津子］春学期授業/Spring 2044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8010】スペイン語１Ⅱ［宮田　絵津子］秋学期授業/Fall 2045
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8011】スペイン語１Ⅰ［VILA V RAQUEL］春学期授業/Spring 2046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8012】スペイン語１Ⅱ［VILA V RAQUEL］秋学期授業/Fall 2047
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8013】スペイン語１Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2048
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8014】スペイン語１Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8015】スペイン語１Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2050
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8016】スペイン語１Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2051
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8017】スペイン語１Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2052
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8018】スペイン語１Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2053
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8019】スペイン語１Ⅰ［宮田　絵津子］春学期授業/Spring 2054
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8020】スペイン語１Ⅱ［宮田　絵津子］秋学期授業/Fall 2055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8021】スペイン語１Ⅰ［宮田　絵津子］春学期授業/Spring 2056
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8022】スペイン語１Ⅱ［宮田　絵津子］秋学期授業/Fall 2057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8023】スペイン語１Ⅰ［若林　大我］春学期授業/Spring 2058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8024】スペイン語１Ⅱ［若林　大我］秋学期授業/Fall 2059
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8025】スペイン語１Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8026】スペイン語１Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2061

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8027】スペイン語１Ⅰ［宮田　絵津子］春学期授業/Spring 2062
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8028】スペイン語１Ⅱ［宮田　絵津子］秋学期授業/Fall 2063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8061】スペイン語２Ⅰ［大貫　良史］春学期授業/Spring 2064
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8062】スペイン語２Ⅱ［大貫　良史］秋学期授業/Fall 2065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8063】スペイン語２Ⅰ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 2066
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8064】スペイン語２Ⅱ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 2067
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8067】スペイン語２Ⅰ［大貫　良史］春学期授業/Spring 2068
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8068】スペイン語２Ⅱ［大貫　良史］秋学期授業/Fall 2069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8069】スペイン語２Ⅰ［大貫　良史］春学期授業/Spring 2070
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8070】スペイン語２Ⅱ［大貫　良史］秋学期授業/Fall 2071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8071】スペイン語２Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2072
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8072】スペイン語２Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8073】スペイン語２Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8074】スペイン語２Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8075】スペイン語２Ⅰ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 2076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8076】スペイン語２Ⅱ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 2077
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8077】スペイン語２Ⅰ［VILA V RAQUEL］春学期授業/Spring 2078
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8078】スペイン語２Ⅱ［VILA V RAQUEL］秋学期授業/Fall 2079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8079】スペイン語２Ⅰ［VILA V RAQUEL］春学期授業/Spring 2080
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8080】スペイン語２Ⅱ［VILA V RAQUEL］秋学期授業/Fall 2081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8081】スペイン語２Ⅰ［大貫　良史］春学期授業/Spring 2082
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8082】スペイン語２Ⅱ［大貫　良史］秋学期授業/Fall 2083
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8083】スペイン語２Ⅰ［長谷川悦夫］春学期授業/Spring 2084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8084】スペイン語２Ⅱ［長谷川悦夫］秋学期授業/Fall 2085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8085】スペイン語２Ⅰ［宮田　絵津子］春学期授業/Spring 2086
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8086】スペイン語２Ⅱ［宮田　絵津子］秋学期授業/Fall 2087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8087】スペイン語２Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2088
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8088】スペイン語２Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2089

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8121】スペイン語(1)Ⅰ［大貫良史］春学期授業/Spring 2090
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8122】スペイン語(1)Ⅱ［大貫良史］秋学期授業/Fall 2091
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8123】スペイン語(1)Ⅰ［大貫良史］春学期授業/Spring 2092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8124】スペイン語(1)Ⅱ［大貫良史］秋学期授業/Fall 2093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8131】スペイン語(2)Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2094
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8132】スペイン語(2)Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8133】スペイン語(2)Ⅰ［佐々木直美］春学期授業/Spring 2096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8134】スペイン語(2)Ⅱ［佐々木直美］秋学期授業/Fall 2097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8141】スペイン語１［大西　亮］春学期授業/Spring 2098
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8142】スペイン語３［大西　亮］秋学期授業/Fall 2099
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8143】スペイン語２［佐々木　直美］春学期授業/Spring 2100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8144】スペイン語４［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 2101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8145】スペイン語５［久木　正雄］春学期授業/Spring 2102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8146】スペイン語６［久木　正雄］秋学期授業/Fall 2103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8147】スペイン語１［佐々木　直美］春学期授業/Spring 2104
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8148】スペイン語３［佐々木　直美］秋学期授業/Fall 2105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8149】スペイン語２［GARCIA RUIZ］春学期授業/Spring 2106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8150】スペイン語４［GARCIA RUIZ］秋学期授業/Fall 2107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8151】スペイン語１［大貫　良史］春学期授業/Spring 2108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8152】スペイン語３［大貫　良史］秋学期授業/Fall 2109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8153】スペイン語２［GARCIA RUIZ］春学期授業/Spring 2110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8154】スペイン語４［GARCIA RUIZ］秋学期授業/Fall 2111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8161】スペイン語１-Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8162】スペイン語１-Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8163】スペイン語１-Ⅰ［BARRIENTOS R J DAVID］春学期授業/Spring 2114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8164】スペイン語１-Ⅱ［BARRIENTOS R J DAVID］秋学期授業/Fall 2115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8165】スペイン語１-Ⅰ［宮田絵津子］春学期授業/Spring 2116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8166】スペイン語１-Ⅱ［宮田絵津子］秋学期授業/Fall 2117

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8167】スペイン語 1 - Ⅰ［GARCIA RUIZ］春学期授業/Spring 2118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8168】スペイン語 1 - Ⅱ［GARCIA RUIZ］秋学期授業/Fall 2119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8181】スペイン語 2 - Ⅰ［宮田 絵津子］春学期授業/Spring 2120
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8182】スペイン語 2 - Ⅱ［宮田 絵津子］秋学期授業/Fall 2121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8183】スペイン語 2 - Ⅰ［宮田 絵津子］春学期授業/Spring 2122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8184】スペイン語 2 - Ⅱ［宮田 絵津子］秋学期授業/Fall 2123
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8185】スペイン語 2 - Ⅰ［OSNO I DE SASAKUBO H］春学期授業/Spring 2124
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8186】スペイン語 2 - Ⅱ［OSNO I DE SASAKUBO H］秋学期授業/Fall 2125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8187】スペイン語 2 - Ⅰ［大貫 良史］春学期授業/Spring 2126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8188】スペイン語 2 - Ⅱ［大貫 良史］秋学期授業/Fall 2127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8307】スペイン語補講 1 Ⅰ［大貫 良史］春学期授業/Spring 2128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8308】スペイン語補講 1 Ⅱ［大貫 良史］秋学期授業/Fall 2129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8309】スペイン語補講 1 Ⅰ［岡本 年正］春学期授業/Spring 2130
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8310】スペイン語補講 1 Ⅱ［岡本 年正］秋学期授業/Fall 2131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8311】スペイン語補講 2 Ⅰ［塩﨑 公靖］春学期授業/Spring 2132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8312】スペイン語補講 2 Ⅱ［塩﨑 公靖］秋学期授業/Fall 2133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8313】スペイン語補講 2 Ⅰ［長谷川　悦夫］春学期授業/Spring 2134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R8314】スペイン語補講 2 Ⅱ［長谷川　悦夫］秋学期授業/Fall 2135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9001】朝鮮語 1 Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2136
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9002】朝鮮語 1 Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9003】朝鮮語 1 Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9004】朝鮮語 1 Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9005】朝鮮語 1 Ⅰ［新谷　あゆり］春学期授業/Spring 2140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9006】朝鮮語 1 Ⅱ［新谷　あゆり］秋学期授業/Fall 2141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9007】朝鮮語 1 Ⅰ［吉良　佳奈江］春学期授業/Spring 2142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9008】朝鮮語 1 Ⅱ［吉良　佳奈江］秋学期授業/Fall 2143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9009】朝鮮語 1 Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9010】朝鮮語 1 Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2145

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9011】朝鮮語１Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9012】朝鮮語１Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9013】朝鮮語１Ⅰ［新谷　あゆり］春学期授業/Spring 2148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9014】朝鮮語１Ⅱ［新谷　あゆり］秋学期授業/Fall 2149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9015】朝鮮語１Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9016】朝鮮語１Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9017】朝鮮語１Ⅰ［富所　明秀］春学期授業/Spring 2152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9018】朝鮮語１Ⅱ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 2153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9019】朝鮮語１Ⅰ［富所　明秀］春学期授業/Spring 2154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9020】朝鮮語１Ⅱ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 2155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9021】朝鮮語２Ⅰ［吉良　佳奈江］春学期授業/Spring 2156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9022】朝鮮語２Ⅱ［吉良　佳奈江］秋学期授業/Fall 2157
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9023】朝鮮語２Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9024】朝鮮語２Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9025】朝鮮語２Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9026】朝鮮語２Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9027】朝鮮語２Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 2162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9028】朝鮮語２Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 2163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9029】朝鮮語２Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 2164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9030】朝鮮語２Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 2165
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9031】朝鮮語２Ⅰ［梁　禮先］春学期授業/Spring 2166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9032】朝鮮語２Ⅱ［梁　禮先］秋学期授業/Fall 2167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9033】朝鮮語２Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 2168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9034】朝鮮語２Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 2169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9035】朝鮮語２Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 2170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9036】朝鮮語２Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 2171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9037】朝鮮語２Ⅰ［吉良　佳奈江］春学期授業/Spring 2172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9038】朝鮮語２Ⅱ［吉良　佳奈江］秋学期授業/Fall 2173

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9039】朝鮮語２Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9040】朝鮮語２Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9041】朝鮮語(１)Ⅰ［富所　明秀］春学期授業/Spring 2176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9042】朝鮮語(１)Ⅱ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 2177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9043】朝鮮語(２)Ⅰ［乾　浩］春学期授業/Spring 2178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9044】朝鮮語(２)Ⅱ［乾　浩］秋学期授業/Fall 2179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9051】朝鮮語１［梁　禮先］春学期授業/Spring 2180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9052】朝鮮語３［梁　禮先］秋学期授業/Fall 2181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9053】朝鮮語２［髙柳　俊男］春学期授業/Spring 2182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9054】朝鮮語４［髙柳　俊男］秋学期授業/Fall 2183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9055】朝鮮語５［内山　政春］春学期授業/Spring 2184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9056】朝鮮語６［内山　政春］秋学期授業/Fall 2185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9057】朝鮮語１［吉良　佳奈江］春学期授業/Spring 2186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9058】朝鮮語３［吉良　佳奈江］秋学期授業/Fall 2187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9059】朝鮮語２［乾　浩］春学期授業/Spring 2188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9060】朝鮮語４［乾　浩］秋学期授業/Fall 2189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9061】朝鮮語１-Ⅰ［富所　明秀］春学期授業/Spring 2190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9062】朝鮮語１-Ⅱ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 2191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9063】朝鮮語１-Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9064】朝鮮語１-Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9065】朝鮮語１-Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9066】朝鮮語１-Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9067】朝鮮語１-Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2196
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9068】朝鮮語１-Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9069】朝鮮語１-Ⅰ［荻野　優子］春学期授業/Spring 2198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9070】朝鮮語１-Ⅱ［荻野　優子］秋学期授業/Fall 2199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9071】朝鮮語２-Ⅰ［吉良　佳奈江］春学期授業/Spring 2200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9072】朝鮮語２-Ⅱ［吉良　佳奈江］秋学期授業/Fall 2201

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9073】朝鮮語２-Ⅰ［神谷　丹路］春学期授業/Spring 2202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9074】朝鮮語２-Ⅱ［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 2203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9075】朝鮮語２-Ⅰ［神谷　丹路］春学期授業/Spring 2204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9076】朝鮮語２-Ⅱ［神谷　丹路］秋学期授業/Fall 2205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9077】朝鮮語２-Ⅰ［新谷　あゆり］春学期授業/Spring 2206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9078】朝鮮語２-Ⅱ［新谷　あゆり］秋学期授業/Fall 2207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9079】朝鮮語２-Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9080】朝鮮語２-Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9101】朝鮮語１Ⅰ［富所　明秀］春学期授業/Spring 2210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9102】朝鮮語１Ⅱ［富所　明秀］秋学期授業/Fall 2211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9121】朝鮮語２Ⅰ［内山　政春］春学期授業/Spring 2212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群［必修］諸外国語【R9122】朝鮮語２Ⅱ［内山　政春］秋学期授業/Fall 2213

LANe100LA

補講英語１・２－Ｉ

2017 年度以降入学者

水野　太朗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】
英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2023 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英語による議論のパターンを修得するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Food Additives [Pro] / 国内政治 (1)	Nothing to worry about / Japan ruling party wins big in polls in wake of Abe's death (1)
第 02 回	Food Additives [Con] / 国内政治 (2)	Don't gamble with your health / Japan ruling party wins big in polls in wake of Abe's death (2)
第 03 回	Body Image and Photoshopping [Pro] / 経済 (1)	Show me at my best / IMF cuts global growth forecast due to "seismic waves" from Russia's war in Ukraine (1)
第 04 回	Body Image and Photoshopping [Con] / 経済 (2)	Time to get real / IMF cuts global growth forecast due to "seismic waves" from Russia's war in Ukraine (2)
第 05 回	Undergrounding [Pro] / ビジネス (1)	Less is more / Japan's economy shrank 1 persent as consumers fled Covid (1)
第 06 回	Undergrounding [Con] / ビジネス (2)	Hidden obstacles to success / Japan's economy shrank 1 persent as consumers fled Covid (2)
第 07 回	Do We Need the Olympics? [Pro] / 外交 (1)	More than just a sports festival / China urged to Russia to stop Ukraine war (1)
第 08 回	Do We Need the Olympics? [Con] / 外交 (2)	We have better things to do with our money / China urged to Russia to stop Ukraine war (2)
第 09 回	Mobile Ads [Pro] / 軍事 (1)	Something for nothing / Russia's Lavrov says Moscow wants more territory; US sees grinding war (1)
第 10 回	Mobile Ads [Con] / 軍事 (2)	A great way to lose customers / Russia's Lavrov says Moscow wants more territory; US sees grinding war (2)
第 11 回	SIM-Free Smartphones [Pro] / 国外政治 (1)	The sooner the better / Boris Johnson quits as UK prime minister, dragged down by scandals (1)
第 12 回	SIM-Free Smartphones [Con] / 国外政治 (2)	The grass is always greener... / Boris Johnson quits as UK prime minister, dragged down by scandals (2)
第 13 回	100-Yen Shops [Pro] / 社会 (1)	Luxury on the cheap / Tokyo senior highs to retire rules that forced conformity (1)
第 14 回	100-Yen Shops [Con] / 社会 (2)	Save now, pay later / Tokyo senior highs to retire rules that forced conformity (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】
Mark Jewel『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』（朝日出版社）ISBN:9784255156477
堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2023 Edition 時事英語の総合演習 2023 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156989

【参考書】
必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）
なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.
Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination（100 %）
Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語１・２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野　太朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】
英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2023 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英語による議論のパターンを修得するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Barrier-Free Everywhere? [Pro] / 事件 (1)	Access for all / Captain of missing Hokkaido boat forced to sail despite high waves (1)
第 02 回	Barrier-Free Everywhere? [Con] / 事件 (2)	Possibilities and limitations / Captain of missing Hokkaido boat forced to sail despite high waves (2)
第 03 回	Elderly Drivers [Pro] / 裁判 (1)	Keep our seniors licensed / Revised penal code should help in rehabilitation of prison inmates (1)
第 04 回	Elderly Drivers [Con] / 裁判 (2)	Keep our seniors licensed / Revised penal code should help in rehabilitation of prison inmates (2)
第 05 回	School Clubs [Pro] / 環境 (1)	Friends and fulfillment / Heatwaves becoming normal amid climate change as Europe continues sweltering (1)
第 06 回	School Clubs [Con] / 環境 (2)	Stress and frustration / Heatwaves becoming normal amid climate change as Europe continues sweltering (2)
第 07 回	The NIMBY Syndrome [Pro] / 資源 (1)	Welcome, neighbor / UN warns of "looming hunger catastrophe" due to Russian blockade (1)
第 08 回	The NIMBY Syndrome [Con] / 資源 (2)	Too far outside my comfort zone / UN warns of "looming hunger catastrophe" due to Russian blockade (2)
第 09 回	Electronic Voting [Pro] / 人口 (1)	A win for democracy / Grobal population to reach 8 billion this year, India to become most populated country (1)
第 10 回	Electronic Voting [Con] / 人口 (2)	I vote no / Grobal population to reach 8 billion this year, India to become most populated country (2)
第 11 回	Aid in Dying [Pro] / 科学 (1)	My life, my decision / Amino acids in asteroid samples collected by Japan's Hayabusa2 probe (1)
第 12 回	Aid in Dying [Con] / 科学 (2)	Where do we draw the line? / Amino acids in asteroid samples collected by Japan's Hayabusa2 probe (2)
第 13 回	Biometric Authentication [Pro] / スポーツ (1)	The real deal / Underdogs no more: Japan looks toward 2023 Rugby World Cup (1)
第 14 回	Biometric Authentication [Con] / スポーツ (2)	A false sense of security / Underdogs no more: Japan looks toward 2023 Rugby World Cup (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】
Mark Jewel『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』（朝日出版社）ISBN:9784255156477
堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2023 Edition 時事英語の総合演習 2023 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156989

【参考書】
必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）
なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.
Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination（100 %）
Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語１・２－Ｉ

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカに旅行で出かける日本人タケシが、アメリカのケイトに会いに行くストーリーで、臨場感のあるリスニングと旅行を疑似体験できるリーディングの練習をして、英語力の充実を目指す。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、各シチュエーションでのリスニングを聞き取り、英文の内容をきちんと理解できる力を身につけ、海外旅行で使える英語の表現を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題などのフィードバックは、ホッピーで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 機内	飛行機の機内での会話、税関申請書などのリーディングを行う
3 回目	Lesson 2 到着	アメリカの空港に到着した時のリスニングと、e-mail のリーディングなどを行う
4 回目	Lesson 3 ケイトと再会	ケイトの家での会話のリスニング、天気予報のリーディングなどを行う
5 回目	Lesson 4 自由の女神	一人で自由の女神を観光するリスニング、自由の女神観光のチケット、説明のリーディングを行う
6 回目	Lesson 5 メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館を観光するリスニング、フロア地図や美術館の説明のリーディングを行う
7 回目	Lesson 6 レストラン	レストランでの注文のリスニング、レストランのレシート、メニューのリーディングを行う
8 回目	Lesson 7 ミュージカル	ミュージカルを話題にした会話のリスニング、ミュージカルのチケット、パンフレットのリーディングを行う
9 回目	Lesson 8 体調不良	具合が悪くなった時の会話、薬屋での会話、薬の箱や保健センターの説明のリーディングを行う
10 回目	Lesson 9 スーパーでの買い物	スーパーで買い物する会話のリスニング、クーポン、スーパーでの広告のリーディングを行う
11 回目	Lesson 10 スポーツ観戦	スポーツ観戦に向かう会話、スポーツについての会話のリスニング、試合のチケット、ヤンキースの歴史についてのリーディングを行う
12 回目	Lesson 11 ワシントン DC へ	ケイトとの別れの会話、ワシントン DC へ行く時の会話、看板やワシントン DC の説明のリーディングを行う
13 回目	Lesson 12 ホテル	ホテルでの会話、ホテルの客室のアンケート、案内のリーディングを行う
14 回目	Lesson 15 帰国	帰国時の空港での会話、Departure Time の掲示板などのリーディングを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題を解いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Hiroko Nishikage, Itsuko Haginoya ほか『Let's Go Abroad! Takeshi's journey to the U.S.』センゲージラーニング

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
各時間の授業での平常点を５０％,期末レポートを５０％で採点する。各学期欠席が 4 回以上、レポート未提出は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
履修者が少ないので、授業改善アンケートの情報がありません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline (in English)】
The object of this class is developing reading and listening skills of everyday conversational skits through a text book named Let's Go Abroad!: Takeshi's Journey to the U.S. Study textbook using a dictionary before each class and repeat conversation using CD on text after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe100LA

補講英語１・２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリス人が日本滞在中に感じた、イギリスと日本の違いについての Reading を読み、
TOEIC 方式の問題を含む問題を解いて、英語力の充実を目指す。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題などを課した場合は、ホッピーでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 Heights	背も高いと良くないこともあるというエッセイを読む。
3 回目	Lesson 2 Seasons	季節の移ろいに感じることを綴ったエッセイを読む。
4 回目	Lesson 3 Be careful with your licence	運転免許証の扱い方の日英での違いを学ぶ。
5 回目	Lesson 4 Doctors	英国の長く待たされて受ける治療について学ぶ。
6 回目	Lesson 5 Business Hours	時間の考え方に日英で違いがあることを学ぶ。
7 回目	Lesson 6 Public Holidays	本当の休暇については何かについて読んで考える。
8 回目	Lesson 7 Your Transport, My Transport	公共交通機関で見られる日英の違いについて読んで学ぶ。
9 回目	Lesson 8 Convenience Store	コンビニが生活に与える影響について読み考える。
10 回目	Lesson 9 Is it a good noise?	雑音、それとも心地よい音について、日英の違いについて読んで学ぶ。
11 回目	Lesson 10 Fireworks	日英で花火の季節が異なる背景を学ぶ。
12 回目	Lesson 11 Public or Private?	英国人の目から見るとプライベートなものが公然と行われていることへの驚きのエッセイを読む。
13 回目	Lesson 12 Technology	携帯電話で、パーキング料金を払うイギリスの仕組みから自動音声の苦労を学ぶ。
14 回目	Lesson 13 Weddings	日英の結婚式、披露宴の違いについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題、TOEIC 方式の問題、ボキャブラリーについての問題に答え、配布シートに答えを転記する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Terry O'Brien, Kei Mihara ほか、『Viewpoints: Japan and England』、南雲堂

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業でのリアクション（平常点）を５０％, 期末レポートを５０％で採点する。レポート未提出、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの情報がないので、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline (in English)】
The object of this class is developing mainly reading and grammar skills using a text book on the differences between England and Japan, through reading each chapter's reading section and questions based on TOEICS. Study textbook using a dictionary before each class and repeat conversation using CD on text after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe100LA

Academic Literacy A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 1

THOMAS G POWER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】
The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a “scholarly voice" in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, "helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The first class will be "online" unless otherwise announced. Most classes in Fall 2023 will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: What is Academic Literacy?	Syllabus, expectations and grading criteria
Week 2	Reading Skills I	Read actively Skim & scan How to avoid plagiarism Vocabulary acquisition
Week 3	Reading Skills II	Note-taking skills Topics, main ideas and details Citing sources
Week 4	Presentation Skills	Brainstorming & outlining Paraphrasing text Vocabulary acquisition
Week 5	Critical Thinking Skills I	Fact and opinion Reliable sources Summarizing skills APA Citation
Week 6	Presentation Preparation and Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 7	Mid-term Vocabulary Acquisition Project	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 8	Reading Skills III	Extended reading text Synthesizing sources Vocabulary acquisition
Week 9	Reading Skills IV	Patterns of cohesion Word parts & collocations Outlines and graphic organizers
Week 10	Discussion Skills	Useful expressions for discussions Vocabulary acquisition
Week 11	Critical Thinking Skills II	Implication and inference Deliberate implications and direct statements
Week 12	Presentation Preparation & Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 13	Final Presentations & Peer Review	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 14	Review and final assessment	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments inform me in person or by email, and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.
ISBN : 9780134400785
https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008
Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】
Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework, quizzes, and written assignments 40%
Vocabulary acquisition project 20%
Research presentation project 20%
More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 1

THOMAS G POWER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Academic Literacy B provides more opportunities for students to practice reading, note-taking, and oral communication skills with an emphasis on vocabulary acquisition, critical thinking skills, and effective communication in academic discussions and presentations. This course will help students to improve their academic skills necessary for success in a university setting.

【到達目標】
The goal of this course is to provide students with guidelines and strategies to improve their academic skills and to develop a more “scholarly voice" in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Active participation is essential. There will be a weekly lecture about a reading passage or video lecture, academic terminology, and critical thinking skills followed by discussion and a vocabulary exercise. There will be a unit quiz every three to four weeks. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Students will submit assignments, take quizzes, and receive feedback in Google Classroom. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Review of Academic Literacy Skills	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria
Week 2	Reading Skills V	Understand & recognize patterns of cohesion Recognize collocations Vocabulary flashcards Note-taking skills
Week 3	Reading Skills VI	Develop and increase reading fluency Recognize and use rhetorical techniques Understand nominalization Paraphrase practice
Week 4	Critical Thinking Skills III	Evaluate evidence and argumentation Recognize and deal with faulty rhetoric Understand extended metaphor Summary practice
Week 5	Critical Thinking Skills IV	Synthesize information from several sources Evaluate the credibility and motives of sources Use direct and indirect quotations Appreciate hedging
Week 6	Vocabulary acquisition project 1	Preparation of group presentations about an academic subject and vocabulary
Week 7	Vocabulary acquisition project 2	Group presentations about an academic subject and vocabulary
Week 8	Reading Skills VII	Passage: The Cultivation of Higher Learning Thinking Critically & Visually Vocabulary acquisition
Week 9	Reading Skills VIII	Interpret visuals & information in visuals Recognize and learn multi-word vocabulary items Synthesizing practice
Week 10	Critical Thinking Skills V	Definitions and Classifications Understand definitions and classifications Recognize and understand definitions within a text Vocabulary flashcards
Week 11	Critical Thinking Skills VI	Classifications Produce references to other sources Understand & use clarifiers Vocabulary flashcards
Week 12	Preparation of Research Presentation Project	Research, APA citation, slide and script preparation
Week 13	Research Presentation Projects	Research presentations with peer review
Week 14	Research Presentations Projects / Final assessment	Research presentations with peer review Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.
ISBN : 9780134400785
https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008
Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】
Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework, quizzes, and written assignments 40%
Vocabulary acquisition project 20%
Research presentation project 20%
More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have access to a computer or tablet and the internet with use of Google Classroom and Zoom.

LANe100LA

College Writing A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 1

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

【到達目標】
The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to organize the essay coherently, how to cite and reference sources correctly and how to use academic vocabulary, transitional devices, and styles of prose effectively. By acquiring a set of strategies of how to develop a thesis, organize an outline, write effective introductions and conclusions, and edit and revise multiple drafts, students will eventually become competent in conceiving and writing longer essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted partly as an on-demand class using Google Classroom and partly in the classroom. In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length essay by the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	Review Academic Writing Skills	Paragraph organization/ kinds of essays
3	Essay Structure 1	Introduction/hooks
4	Essay Structure 2	Body paragraphs
5	Essay Structure 3	Conclusion
6	Writing Process 1	Choosing a topic/ brainstorming
7	Writing Process 2	Outlining
8	Writing Process 3	Peer-editing/ proofreading
9	Writing Process 4	Proofreading
10	Essay Practice 1: Argument Essay	Arguing Pro and Con: Organizing/Topics
11	Essay Practice 2: Argument Essay	Thesis statement/ Counterarguments and refutations, Writing an outline
12	Writing an Argument Essay	Peer-editing outlines, writing a first draft
13	Peer-reading the first draft	Peer-review and self-editing
14	Final Essay Assessment	Student reports on final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】
Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5
Oshima, A., & Hogue, A. (2017). Longman Academic Writing Series: 4 - Essays (Fifth ed.). New York: Pearson Longman. ISBN: 9780134663319

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%).More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】
Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 1

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
College writing B builds on the skills learned in College Writing A and develops them with a set of supplementary writing strategies. It guides students to apply the acquired skills to the organization and writing of an original research paper.

【到達目標】
The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to plan and organize a major research paper, how to choose, evaluate, and use academic sources, and how to thereby develop their own original contribution to their fields. Students will also become competent in proofreading, editing, and revising drafts of their research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted partly as an on-demand class using Google Classroom and partly in the classroom. In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length research paper by the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	What is a Research Paper?	Steps in Writing a Research Paper/ Finding& Evaluating sources/ Brainstorming and choosing a topic
3	Using Original Sources 1	Direct quotation
4	Using Original Sources 2	Paraphrasing
5	Using Original Sources 3	Summarizing
6	Using Original Sources 4	Synthesizing
7	Cause and Effect Essay	Analyzing a Cause-Effect Essay
8	Comparison Essays	Patterns of Organization
9	Argument Essay	Arguing Pro and Con, Counterargument and Refutation
10	Writing a Research Paper	Developing research summaries/ Writing a strong thesis statement
11	Outlining a Research Paper	Report on Progress, Creating an Outline
12	First Draft of a Research Paper	Revision of Outline, Writing a first draft
13	Revision of the Research Paper	Peer-reading the first draft
14	Course Review	Submission of Research Paper/ In class presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】
Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson.
ISBN:1-292-07689-5

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%).More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【学生が準備すべき機器他】
Students require a laptop or computer and access to the internet to take part in this class.

【その他の重要事項】
Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANe100LA

Academic Literacy A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 2

THOMAS G POWER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】
The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a “scholarly voice" in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level,"helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Active participation is essential. There will be a weekly lecture about a reading passage or video lecture, academic terminology, and critical thinking skills followed by discussion and a vocabulary exercise. There will be a unit quiz every three to four weeks. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Students will submit assignments, take quizzes, and receive feedback in Google Classroom. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: What is Academic Literacy?	Syllabus, expectations and grading criteria
Week 2	Reading Skills I	Read actively Skim & scan How to avoid plagiarism Vocabulary acquisition
Week 3	Reading Skills II	Note-taking skills Topics, main ideas and details Citing sources
Week 4	Presentation Skills	Brainstorming & outlining Paraphrasing text Vocabulary acquisition
Week 5	Critical Thinking Skills I	Fact and opinion Reliable sources Summarizing skills APA Citation
Week 6	Presentation Preparation and Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 7	Mid-term Vocabulary Acquisition Project	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 8	Reading Skills III	Extended reading text Synthesizing sources Vocabulary acquisition
Week 9	Reading Skills IV	Patterns of cohesion Word parts & collocations Outlines and graphic organizers
Week 10	Discussion Skills	Useful expressions for discussions Vocabulary acquisition
Week 11	Critical Thinking Skills II	Implication and inference Deliberate implications and direct statements
Week 12	Presentation Preparation & Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 13	Final Presentations & Peer Review	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 14	Review and final assessment	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Be sure to bring the textbook to each class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.
ISBN : 9780134400785
https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008
Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】
Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework, quizzes, and written assignments 40%
Vocabulary acquisition project 20%
Research presentation project 20%
More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 2

THOMAS G POWER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Academic Literacy B provides more opportunities for students to practice reading, note-taking, and oral communication skills with a primary focus on vocabulary acquisition, critical thinking skills, and effective communication in academic discussions and presentations. This course will help students to improve their academic skills necessary for success in a university setting.

【到達目標】
The goal of this course is to provide students with guidelines and strategies to improve their academic skills and to develop a more “scholarly voice" in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Active participation is essential. There will be a weekly lecture about a reading passage or video lecture, academic terminology, and critical thinking skills followed by discussion and a vocabulary exercise. There will be a unit quiz every three to four weeks. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Students will submit assignments, take quizzes, and receive feedback in Google Classroom. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Review of Academic Literacy Skills	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria
Week 2	Reading Skills V	Understand & recognize patterns of cohesion Recognize collocations Vocabulary flashcards Note-taking skills
Week 3	Reading Skills VI	Develop and increase reading fluency Recognize and use rhetorical techniques Understand nominalization Paraphrase practice
Week 4	Critical Thinking Skills III	Evaluate evidence and argumentation Recognize and deal with faulty rhetoric Understand extended metaphor Summary practice
Week 5	Critical Thinking Skills IV	Synthesize information from several sources Evaluate the credibility and motives of sources Use direct and indirect quotations Appreciate hedging
Week 6	Vocabulary acquisition project 1	Preparation of group presentations about an academic subject and vocabulary
Week 7	Vocabulary acquisition project 2	Group presentations about an academic subject and vocabulary
Week 8	Reading Skills VII	Passage: The Cultivation of Higher Learning Thinking Critically & Visually Vocabulary acquisition
Week 9	Reading Skills VIII	Interpret visuals & information in visuals Recognize and learn multi-word vocabulary items Synthesizing practice
Week 10	Critical Thinking Skills V	Definitions and Classifications Understand definitions and classifications Recognize and understand definitions within a text Vocabulary flashcards
Week 11	Critical Thinking Skills VI	Classifications Produce references to other sources Understand & use clarifiers Vocabulary flashcards
Week 12	Preparation of Research Presentation Project	Research, APA citation, slide and script preparation
Week 13	Research Presentation Projects	Research presentations with peer review
Week 14	Research Presentations Projects / Final assessment	Research presentations with peer review Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.
ISBN : 9780134400785
https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】
Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 20%
Homework, quizzes, and written assignments 40%
Vocabulary acquisition project 20%
Research presentation project 20%
More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have access to a computer or tablet and the internet with use of Google Classroom and Zoom.

LANe100LA

College Writing A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 2

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

【到達目標】
The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to organize the essay coherently, how to cite and reference sources correctly and how to use academic vocabulary, transitional devices, and styles of prose effectively. By acquiring a set of strategies of how to develop a thesis, organize an outline, write effective introductions and conclusions, and edit and revise multiple drafts, students will eventually become competent in conceiving and writing longer essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted partly as an on-demand class using Google Classroom and partly in the classroom. In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length essay by the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	Review Academic Writing Skills	Paragraph organization/ kinds of essays
3	Essay Structure 1	Introduction/hooks
4	Essay Structure 2	Body paragraphs
5	Essay Structure 3	Conclusion
6	Writing Process 1	Choosing a topic/ brainstorming
7	Writing Process 2	Outlining
8	Writing Process 3	Peer-editing/ proofreading
9	Writing Process 4	Proofreading
10	Essay Practice 1: Argument Essay	Arguing Pro and Con: Organizing/Topics
11	Essay Practice 2: Argument Essay	Thesis statement/ Counterarguments and refutations, Writing an outline
12	Writing an Argument Essay	Peer-editing outlines, writing a first draft
13	Peer-reading the first draft	Peer-review and self-editing
14	Final Essay Assessment	Student reports on final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】
Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5
Oshima, A., & Hogue, A. (2017). Longman Academic Writing Series: 4 - Essays (Fifth ed.). New York: Pearson Longman. ISBN: 9780134663319

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%).More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】
Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 2

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
College writing B builds on the skills learned in College Writing A and develops them with a set of supplementary writing strategies. It guides students to apply the acquired skills to the organization and writing of an original research paper.

【到達目標】
The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to plan and organize a major research paper, how to choose, evaluate, and use academic sources, and how to thereby develop their own original contribution to their fields. Students will also become competent in proofreading, editing, and revising drafts of their research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted partly as an on-demand class using Google Classroom and partly in the classroom. In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length research paper by the end of the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	What is a Research Paper?	Steps in Writing a Research Paper/ Finding& Evaluating sources/ Brainstorming and choosing a topic
3	Using Original Sources 1	Direct quotation
4	Using Original Sources 2	Paraphrasing
5	Using Original Sources 3	Summarizing
6	Using Original Sources 4	Synthesizing
7	Cause and Effect Essay	Analyzing a Cause-Effect Essay
8	Comparison Essays	Patterns of Organization
9	Argument Essay	Arguing Pro and Con, Counterargument and Refutation
10	Writing a Research Paper	Developing research summaries/ Writing a strong thesis statement
11	Outlining a Research Paper	Report on Progress, Creating an Outline
12	First Draft of a Research Paper	Revision of Outline, Writing a first draft
13	Revision of the Research Paper	Peer-reading the first draft
14	Course Review	Submission of Research Paper/ In class presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】
Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson.
ISBN:1-292-07689-5

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%).More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【学生が準備すべき機器他】
Students require a laptop or computer and access to the internet to take part in this class.

【その他の重要事項】
Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANd100LA

ドイツ語補講１Ｉ

2017 年度以降入学者

伊東　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】
話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、将来ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。
課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	あいさつ	ドイツ語の発音とあいさつ
第 2 回	つづりと発音	発音練習
第 3 回	自己紹介	動詞の規則変化
第 4 回	数字	動詞の不規則変化
第 5 回	趣味	名詞の格変化
第 6 回	余暇	3 格、4 格と結びつく動詞
第 7 回	食べ物	否定冠詞
第 8 回	注文	2 格の用法
		複数形
第 9 回	いくつ？	人称代名詞
第 10 回	相手に感想を尋ねる 1	所有冠詞
		定冠詞
第 11 回	相手に感想を尋ねる 2	命令形
第 12 回	時刻を尋ねる 1	前置詞 1
第 13 回	時刻を尋ねる 2	前置詞 2
第 14 回	テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
在間進『新装版：話すぞドイツ語！　Kommunikation NEU』朝日出版社
ISBN 978-4-255-25463-0

【参考書】
関口一郎『マイスター　ドイツ語コース　文法』大修館書店
矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

【成績評価の方法と基準】
期末試験 40 %、宿題、平常点 60 %の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】
分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】
授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline (in English)】
This class is intended for the students who failed the course for beginners.
In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on a 60% final examination and 40% homework and normal marks.

LANd100LA

ドイツ語補講１Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊東　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】
文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。
各課毎に小テストを実施する。
課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	週末の予定１	分離・非分離動詞
第 2 回	週末の予定２	時間の表現
第 3 回	電話をかける１	話法の助動詞
第 4 回	電話をかける２	非人称表現
		未来形
第 5 回	休暇１	再帰代名詞
第 6 回	休暇２	従属接続詞
		zu 不定詞
第 7 回	誕生日	現在完了形
第 8 回	日付	過去形
第 9 回	好きなこと１	形容詞
第 10 回	好きなこと２	比較級・最上級
第 11 回	言語について	関係代名詞
第 12 回	丁寧な頼み方１	不定関係代名詞
第 13 回	丁寧な頼み方２	受動態
		分詞
		接続法
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
在間進『新装版：話すぞドイツ語！　Kommunikation NEU』朝日出版社
ISBN 978-4-255-25463-0

【参考書】
関口一郎『マイスター　ドイツ語コース　文法』大修館書店
矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

【成績評価の方法と基準】
期末試験 40 %、宿題、平常点 60 %の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】
分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【その他の重要事項】
授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline (in English)】
This class is intended for the students who failed the course for beginners.
In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on a 60% final examination and 40% homework and normal marks.

LANd100LA

ドイツ語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

畠山　勝彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテクストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	アルファベート等について
②	ドイツ語の概要 2	つづりの読み方と発音
③	Lektion1	動詞の人称変化 1
④	Lektion1	動詞の人称変化 2
⑤	Lektion2	名詞の性・数・格 1
⑥	Lektion2	名詞の性・数・格 2
⑦	Lektion3	前置詞
⑧	Lektion3	接続詞
⑨	Lektion4	人称代名詞
⑩	Lektion4	再帰代名詞・再帰動詞
⑪	Lektion5	冠詞類 1
⑫	Lektion5	冠詞類 2
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】
『総合学習・異文化理解のドイツ語　改訂版』
大薗正彦著
朝日出版社　2023 年発行　定価 2750 円 (本体 2500 円＋税 10%)

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）６０％、平常点（授業内演習等）４０％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%、in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

畠山　勝彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテクストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Lektion6	形容詞の格変化
②	Lektion6	比較変化
③	Lektion7	分離動詞 1
④	Lektion7	分離動詞 2
⑤	Lektion8	話法の助動詞 1
⑥	Lektion8	話法の助動詞 2
⑦	Lektion9	過去形
⑧	Lektion9	現在完了形
⑨	Lektion10	受動態
⑩	Lektion11	関係文 1
⑪	Lektion11	関係文 2
⑫	Lektion12	接続法 1
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評
	文法補足	接続法 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】
『総合学習・異文化理解のドイツ語　改訂版』
大薗正彦著
朝日出版社　2023 年発行　定価 2750 円 (本体 2500 円＋税 10%)

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）６０％、平常点（授業内演習等）４０％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%、in-class contribution: 40%.

LANf100LA

フランス語補講１Ｉ

2017 年度以降入学者

西川　純子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 6/Thu.6
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法の復習を行うクラスです。文法の苦手な部分をなくし、フランス語の学習の基礎の定着を目指します。

【到達目標】
1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 基本的なフランス語の表現を言えるようになる。
3. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に教科書にそって進めます。また、学習内容の定着をはかるため、単語テストと小テストを頻繁に行います。
テスト返却時に解説を必ず行い、学生各位の理解を促進します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介	フランス語とはどういう言語なのか？ フランス語の読み方の基本 自己紹介の表現 数詞
第 2 回	第 1 課と第 3 課	名詞 冠詞（不定冠詞・定冠詞・部分冠詞）
第 3 回	第 2 課	主語人称代名詞 être 動詞
第 4 回	第 3 課	動詞 avoir
第 5 回	第 4 課	第一群規則動詞 否定文
第 6 回	復習 第 1 回小テスト	ここまでの復習
第 7 回	第 5 課	変則的な動詞の活用について 疑問文
第 8 回	第 6 課	形容詞
第 9 回	第 7 課	第二群規則動詞
第 10 回	第 7 課	指示形容詞 所有形容詞 家族の名称
第 11 回	第 8 課	動詞 aller と venir
第 12 回	第 9 課 第 2 回小テスト	動詞 faire と prendre
第 13 回	総復習	ここまで学習したことを復習する。
第 14 回	試験	まとめの試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話文を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること。また、教科書付属の「書き込み復習ノート」を各課ごと必ず行うこと。提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
Yuriko NISHIBE『 A pied ！』Editions ASAHI （朝日出版社）2022 年、2200 円（税抜き）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テストと単語テストで 40 点、平常点で 10 点、期末テストで 50 点。

【学生の意見等からの気づき】
積極的に課題を提出してもらうことで、学生の皆さんの不明点を明確にしたうえで授業をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】
仏和と和仏の辞書を持っていることが望ましいです。また、動詞の活用に関する参考書を一冊持っていると便利です。参考書については授業中に随時説明していきます。また、学習支援システムや教科書の web ページなどを利用するために、パソコン、タブレット、スマートフォンなどの電子機器を所有していると便利です。

【その他の重要事項】
授業に関する不明点は西川（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）まで

【Outline (in English)】
Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

LANf100LA

フランス語補講 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

西川　純子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 6/Thu.6**
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法の復習を行うクラスです。文法の苦手な部分をなくし、フランス語の学習の基礎の定着を目指します。

【到達目標】
1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 辞書で不明な単語を自在に調べられるようになる。
3. 基本的なフランス語の表現を言える。
4. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に教科書にそって進めます。また、学習内容の定着をはかるため、単語テストと小テストを頻繁に行います。テスト返却時に解説を必ず行い、学生各位の理解を促進します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 9 課	疑問文の復習
		疑問副詞
		疑問形容詞
第 2 回	第 10 課	動詞 attendre
		疑問代名詞
第 3 回	第 11 課	動詞 vouloir, pouvoir
		命令法
第 4 回	第 11 課	非人称構文
第 5 回	第 12 課と第 16 課	人称代名詞強勢形
		直接法複合過去
		受動態
第 6 回	復習	ここまでの復習
第 7 回	第 13 課と第 16 課	関係代名詞
		強調構文
第 8 回	第 13 課	形容詞・副詞の比較級と最上級
第 9 回	第 14 課と第 18 課	目的語人称代名詞
		中性代名詞（y, en ）
第 10 回	第 15 課	代名動詞
第 11 回	第 17 課	直接法半過去
		指示代名詞
第 12 回	第 18 課	直接法単純未来
第 13 回	ここまでの総復習	問題演習
		質疑応答
第 14 回	試験	まとめの試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話文を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること

【テキスト（教科書）】
Yuriko NISHIBE『 A pied ！』Editions ASAHI （朝日出版社）2022 年、2200 円（税抜き）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
小テストで 30 %、授業貢献度で評価する平常点で 20 %、期末テストで 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんの不明点を明確にしたうえで授業をすすめていく。可能な限り教室内で問題演習と対話練習を行うことで、基礎学力の確実な定着をめざす。

【学生が準備すべき機器他】
仏和と和仏の辞書を持っていることが望ましいです。また、動詞の活用に関する参考書を一冊持っていると便利です。参考書については授業中に随時説明していきます。また、学習支援システムや教科書の web ページなどを利用するために、パソコン、タブレット、スマートフォンなどの電子機器を所有していると便利です。

【その他の重要事項】
授業に関する不明点は西川（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）までメールをください。

【Outline (in English)】
Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.
The goals of this course are to be able to understand French grammar and to use basic skills of communication in French. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Examinations in class : 30%、in class contribution in class: 20%.

LANf100LA

フランス語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

中村　美緒

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 6/Wed.6
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法をゆっくりとしたペースで復習する授業です。1 年間でフランス語検定 5 級から 4 級のレベルを身に着けることができます。慣れて覚える方式で、授業中にたくさん練習をします。

【到達目標】
1 年間でフランス語検定 5 級から 4 級のレベルを身に着けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１回の授業で 1 レッスンずつ進みます。左ページで文法事項を確認してから、右ページの練習問題で確認します。別冊の復習ノートに記入しながら定着をはかります。授業内に行う小テストはその場で答え合わせをします。ウェブ上に提出する課題については、プリントアウト後採点したものを教室で返却する予定です。

We will advance one lesson per class. Learn a grammatical item on page 1, then, practice and review it on page 2. Using the separate volume, you can easily remember what you just learned. Answers to test in class are checked on the place. Assignments posted on the web will be graded after printing out and returned in the classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 0「準備体操」	発音、文型、フランス語の特徴
2 回目	Leçon 1「冠詞-1」	不定冠詞、定冠詞
3 回目	Leçon 2「主語人称と動詞活用」	動詞 être
4 回目	Leçon 3「冠詞-2」	部分冠詞
5 回目	Leçon 4「-er 動詞」	否定文
6 回目	Révision 1「L1-4 の復習」	練習問題
7 回目	Leçon 5「-er 動詞の例外」	疑問文
8 回目	Leçon 6「形容詞」	形容詞の女性形と複数形、位置
9 回目	Leçon 7「-ir 動詞」	指示形容詞、所有形容詞
10 回目	Leçon 8「近接未来・近接過去」	動詞 aller, venir
11 回目	Révision 2「L5-8 の復習」	練習問題
12 回目	Leçon 9「不規則動詞-1」	動詞 faire, prendre、疑問形容詞、疑問副詞
13 回目	Leçon 10「不規則動詞-2」	動詞 attendre、疑問代名詞
14 回目	試験とまとめ	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ア・ピエ！』西部由里子　著（朝日出版社）

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加と発言）40%
中間テスト（授業内小テスト、課題）20%
学期末テスト（授業最終日に実施される筆記試験)40%

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情により教室で受講できない場合には、同時配信のオンラインで参加することもできます。

【Outline (in English)】
This is a class to learn basic grammar “à pied=by walk” as our textbook title. You will go one lesson at a time in one class. Check grammar items on the left page, and then review them with exercises on the right page. Fill out a separate review notebook to establish yourself. Quizzes in class will be answered on the spot. Our goal is to acquire level 4 of the French Test (Futuken) in one year. It is a method that you get used to and memorize, so you will have to practice a lot during the class. Answers to test in class are checked on the place. Assignments posted on the web will be graded after printing out and returned in the classroom.
Grading:
Normal points (participation in classes and remarks) 40%
Midterm tests (in-class quizzes, assignments): 20%
Final exam (written examination held on the last day of class): 40%
Test method: Since this class is a subject that conducts "pre-term examinations", the final exams are not held "during the examination period", but during the class hours on the last day of regular classes.

LANf100LA

フランス語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村　美緒

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 6/Wed.6
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級文法をゆっくりとしたペースで復習する授業です。1 年間でフランス語検定 5 級から 4 級のレベルを身に着けることができます。慣れて覚える方式で、授業中にたくさん練習をします。

【到達目標】
1 年間でフランス語検定 5 級から 4 級のレベルを身に着けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１回の授業で 1 レッスンずつ進みます。左ページで文法事項を確認してから、右ページの練習問題で確認します。別冊の復習ノートに記入しながら定着をはかります。授業内に行う小テストはその場で答え合わせをします。ウェブ上に提出する課題については、プリントアウト後採点したものを教室で返却する予定です。

We will advance one lesson per class. Learn a grammatical item on page 1, then, practice and review it on page 2. Using the separate volume, you can easily remember what you just learned. Answers to test in class are checked on the place. Assignments posted on the web will be graded after printing out and returned in the classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 11「命令法」	動詞 vouloir, pouvoir、非人称構文
2 回目	Leçon 12「複合過去」	強勢形、過去分詞
3 回目	Révision 3「L9-12 の復習」	練習問題
4 回目	Leçon 13「比較級・最上級」	強調構文
5 回目	Leçon 14「目的語人称代名詞」	直接・間接目的語代名詞
6 回目	Leçon 15「代名動詞」	代名動詞の用法
7 回目	Leçon 16「関係代名詞」	qui, que, dont, où
8 回目	Révision 4「L13-16 の復習」	練習問題
9 回目	Leçon 17「半過去」	指示代名詞
10 回目	Leçon 18「単純未来」	中性代名詞 y, en
11 回目	Leçon 19「条件法現在」	現在分詞・ジェロンディフ
12 回目	Leçon 20「接続法現在」	接続法の用法
13 回目	Révision 5「L17-20 の復習」	練習問題
14 回目	試験とまとめ	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ア・ピエ！』西部由里子　著（朝日出版社）

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加と発言）40%
中間テスト（授業内小テスト、課題）20%
学期末テスト（授業最終日に実施される筆記試験)40%

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情により教室で受講できない場合には、同時配信のオンラインで参加することもできます。

【Outline (in English)】
This is a class to learn basic grammar “à pied=by walk” as our textbook title. You will go one lesson at a time in one class. Check grammar items on the left page, and then review them with exercises on the right page. Fill out a separate review notebook to establish yourself. Quizzes in class will be answered on the spot. Our goal is to acquire level 4 of the French Test (Futuken) in one year. It is a method that you get used to and memorize, so you will have to practice a lot during the class. Answers to test in class are checked on the place. Assignments posted on the web will be graded after printing out and returned in the classroom. Answers to test in class are checked on the place. Assignments posted on the web will be graded after printing out and returned in the classroom.
Grading:
Normal points (participation in classes and remarks) 40%
Midterm tests (in-class quizzes, assignments): 20%
Final exam (written examination held on the last day of class): 40%
Test method: Since this class is a subject that conducts "pre-term examinations", the final exams are not held "during the examination period", but during the class hours on the last day of regular classes.

LANf200LA

フランス語補講３Ⅰ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文法の学習を一通り終えた学生が、文法の復習をしながら、フランス語を読み、聞き取り、理解する力を身につけるための授業です。文法の知識を、実際に運用することにどうつなげていくか。そのコツがわかれば、これから先、フランス語を独習することができるようになるはずです。授業を通じて、フランス語に慣れ親しんでいきましょう。

【到達目標】
フランス語の文法の知識を定着させることができる。
フランス語の語彙を増やすことができる。
フランス語の文法の知識を使って、フランス語の文章を読み、聞き取ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行する場合もあります。
初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。
学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、レベルチェック	今後の進め方等についてのガイダンスと受講者のレベルチェック
2 回	Leçon 1	名詞・形容詞の性・数、所有形容詞
3 回目	Leçon 1	文のつながり（理由）
4 回目	Leçon 2	動詞の活用（規則動詞/不規則動詞）
5 回目	Leçon 2	動詞の活用（代名動詞）
6 回目	Leçon 3	冠詞（不定冠詞/部分冠詞/定冠詞）
7 回目	Leçon 3	指示形容詞
8 回目	Leçon 4	前置詞（à/en/dans）＋場所（国名、都市名など）
9 回目	Leçon 4	前置詞 à と定冠詞の結合形
10 回目	Leçon 5	複合過去
11 回目	Leçon 5	半過去
12 回目	Leçon 6	疑問詞・疑問副詞
13 回目	Leçon 6	否定
14 回目	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の予習・復習でやることは同じです。予習の段階では、知らない単語を確認し、完全にわからなくてもよいのでその課の文章を読み、意味を考えてくること。復習では、その日に学んだ点に関して、文法や構文のポイントを整理してください。

【テキスト（教科書）】
『シヴィ・ラング ——ディクテ中心に学ぶフランス語と文化——（改訂版）』Michel Sagaz、中里まき子著、駿河台出版社、2022 年、2400 円＋税

【参考書】
参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）：50 %、期末試験：50 %で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初回のレベルチェック時に、受講者のレベルや苦手な点を確認し、その点にフォーカスして授業を構成します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who have learned french grammar for a year. In this class, students will use their knowledge of basic grammar to understand written and spoken French. At the end of the course, students will be able to comprehend the daily french conversation.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Reviewing learned expressions on the text will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf200LA

フランス語補講３Ⅱ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
先学期に引き続き、フランス語を読み、聞き取り、理解する力の伸長に取り組みます。文法の知識を確認しながら、テキストに沿って授業を進めていきます。生きたフランス語の文章にふれることで、文法や語彙の知識を運用に結びつける方法を学んでいきましょう。

【到達目標】
フランス語の文法の知識を定着させることができる。
フランス語の語彙を増やすことができる。
フランス語の文法の知識を使って、フランス語の文章を読み、聞き取ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業です。毎回、受講者には、聞き取りと読解を中心とした課題に取り組んでもらいます。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アイスブレイク、レベルチェック	春学期の復習、レベルチェック
第 2 回	Leçon 7	目的語人称代名詞（直接/間接）
第 3 回	Leçon 7	中性代名詞 en/y
第 4 回	Leçon 8	単純未来
第 5 回	Leçon 8	動詞のつながり
第 6 回	Leçon 9	量を言う表現
第 7 回	Leçon 9	目的 pour、必要・義務 il faut/devoir
第 8 回	Leçon 10	形容詞・副詞の比較級・最上級、量の比較
第 9 回	Leçon 11	受動態
第 10 回	Leçon 11	非人称構文、文のつながり
第 11 回	Leçon 12	条件法現在
第 12 回	Leçon 12	現在分詞、ジェロンディフ
第 13 回	Leçon 12	命令形
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の予習・復習でやることは同じです。予習では、とにかく辞書を引いて、わからない単語を調べてきてください。復習では、授業で学んだことに関して、文法のポイントを整理してみてください。

【テキスト（教科書）】
『シヴィ・ラング ――ディクテ中心に学ぶフランス語と文化――（改訂版）』、Michel Sagaz、中里まき子著、駿河台出版社、2022 年、2400 円＋税

【参考書】
参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）： 50 %、期末試験： 50 %で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
初回のレベルチェック時に、受講者のレベルや苦手な点を確認し、その点にフォーカスして授業を構成します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who have learned french grammar for a year. In this class, students will use their knowledge of basic grammar to understand written and spoken French. At the end of the course, students will be able to comprehend the daily french conversation.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Reviewing learned expressions on the text will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験４級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】
ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）をきちんと習得する。基本単語を覚え、初級テキストの和訳・露訳が出来る。挨拶や自己紹介などの初歩的なコミュニケーション能力を身につける。ロシア語能力検定試験４級合格をひとつの目標とし準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の一ヶ月間でロシア文字とその発音をしっかりと習得。発音のミニテストの後は、教科書に沿って初級文法を学び、基礎単語力もマスターします。各課ごとに、①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。課題等に対するフィードバックは授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	補講に関するガイダンス 第１課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア語補講に関して（再履修の心構え） ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）、簡単な挨拶
2	第１課 ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第２課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
4	第２課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第３課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第３課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第４課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第４課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト	中間テスト
10	第５課 動詞（不定形と過去形）	動詞（不定形と過去形）
11	第５課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第６課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第６課　前置格 春学期のまとめ	前置格の用法と練習問題、春学期のまとめ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムをしっかり身につけることが重要です。本授業の予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回２時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 %となります。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 %となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 %とし、最終評価を算出します。受講者数が少ない場合は平常点（ミニテスト含む）だけでの評価もあり得ます。

【学生の意見等からの気づき】
ひとりではなかなか覚えられない単語や文法表の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。補講を受けた翌年５月にロシア語能力検定試験４級に合格した学生がいます。皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
少人数で伸び伸びと納得いくまで学べるクラスです。きちんと復習することで力がつき、ロシア語能力検定試験に合格している受講生もおります。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画、授業形態（基本対面）などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-Ⅰ and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture. I will study so that my learning grades will improve from the previous year. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】The overall score of the quiz is 30% of the overall evaluation. In addition, the result of the evaluation test is 40%. In addition, the final evaluation is calculated with a normal score of 30%, such as the degree of participation in the class and attitude of efforts (including homework, preparation and review).

LANr100LA

ロシア語補講１Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語（秋学期）再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。この授業の目的は、1）ロシア語初級文法の規則性を理解し習得する、2）習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができる、3）リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける、4）ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指す。一緒に頑張りましょう。

【到達目標】
ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。ロシア語能力検定試験合格へ向けた準備ができる。ロシア語会話ができる。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期の復習から入ります。秋学期は、ロシア語文法の要である名詞や形容詞の格変化を中心に教科書に沿って、1）新出単語の音読、2）文法解説、3）本文の解説と発音練習、4）練習問題（検定試験過去問を含む）と進めていきます。課題等に対するフィードバックは授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-ｃя、歯音、唇音）	対格変化 (名詞、人称代名詞)、-ｃя動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞１	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞２	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】
中間・期末テストを予定しています。この試験結果が評価の 50 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 %とし、総合的に評価します。過少人数の場合、平常点だけで評価する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】
学び直しをし、ロシア語能力検定試験に翌年合格できた、少人数だからこそ、緊張せずに学べた、ロシア語が楽しかった、成績評価が格段に上がった、自信が持てたとの嬉しい声も頂きました。毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度や形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-Ⅱ (Autumn semester) and take it for a second time. The purpose of this class is 1) to understand and master the regularity of Russian beginner's grammar, 2) to be able to translate into Japanese and Russian using the learned grammar and dictionary, 3) to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, writing" 4) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 Mid-term and final exams are planned. The result of this test is 50% of the evaluation. In addition, the normal score such as the degree of participation in quizzes and classes, and the attitude of efforts (including homework, preparation and review) is set to 50%, and a comprehensive evaluation is made. In the case of a small number of students, it is possible to evaluate only by normal points.

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】
ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得し直します。テキストの正確で美しい音読の練習を行います。初級文法を学び直しながら、ロシア語能力検定試験４級の練習問題も解いていきます。授業では視聴覚教材を用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットと発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音、簡単な挨拶
2	ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
5	名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
6	名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
9	形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	動詞	動詞（不定形と過去形）
11	副詞、格の説明	副詞の作り方、格の説明
12	動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	動詞と前置格	不規則動詞と前置格
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 %となります。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 %となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 %とし、最終評価を算出します。受講者数が少ない場合は平常点（ミニテスト含む）だけでの評価もあり得ます。

【学生の意見等からの気づき】
初級文法の規則性をきちんと習得できるよう、授業での復唱時間を増やす。毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度や形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 2 - Ⅰ and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture. You will study so that your learning grades will improve from the previous year. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time.【Grading Criteria /Policy】The overall score of the quiz is 30% of the overall evaluation. In addition, the result of the evaluation test is 40% of the evaluation. In addition, the final evaluation is calculated with a normal score of 30%, such as the degree of participation in the class and attitude of efforts (including homework, preparation and review).

LANr100LA

ロシア語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう学んでいきます。春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を習得する。ロシア語能力検定試験４級受験の準備を行う。テキスト和訳、露作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】
格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験４級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は春学期の復習から入ります。必須基礎単語、動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。また、視聴覚教材を用いながらリスニング、リーディング、実際に使える会話の練習を行います。習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。課題等に対するフィードバックは授業内あるいは学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-ｃя、歯音、唇音）	対格変化 (名詞、人称代名詞)、-ｃя動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞１	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞２	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】
中間・期末テストを予定しています。この試験結果が評価の 50 %となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 %とし、総合的に評価します。過少人数の場合、平常点だけで評価する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】
ロシア語能力検定試験に合格できた、少人数だからこそ緊張せずに学べた、ロシア語が楽しかった、成績評価が格段に上がった、自信が持てたとの嬉しい声も頂きました。一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】
初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より確実に上がります。質問はメールで随時受け付けています。なお受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進度や形態（基本対面）は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-Ⅱ (Autumn semester) and take it for a second time. The purpose of this class is 1) to understand and master the regularity of Russian beginner's grammar, 2) to be able to translate into Japanese and Russian using the learned grammar and dictionary, 3) to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, writing" 4) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 Mid-term and final exams are planned. The result of this test is 50% of the evaluation. In addition, the normal score such as the degree of participation in quizzes and classes, and the attitude of efforts (including homework, preparation and review) is set to 50%, and a comprehensive evaluation is made. In the case of a small number of students, it is possible to evaluate only by normal points.

HSS100LA

Elementary Health and Physical Education

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

武井　敦彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

【到達目標】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.
2.Acquire the ability to use sports activities to establish a prosperous and healthy student and social life.
3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5.Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.
This class has comprised both lectures and practical lessons, and students are expected to learn and understand elementary health and physical education. Also, the class schedule may be changed due to COVID-19 and the university guidelines.
Due to the coronavirus pandemic, if too many students are registered for this class, we may have to choose students via random selection to avoid a large group gathering. Further details of this will be announced through Hoppii before the first lesson starts.
When students submit reaction papers, the teacher will comment or give feedback on those reaction papers at the beginning of the next session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Introduction of the course, 1st Presentation (Lecture)
2	Physical Fitness Test	Implementing of the physical fitness test　(Practical Lesson)
3	Learning the Individual Sports 1	Building the relationship with classmates through badminton (Practical Lesson)
4	Learning the Individual Sports 2	Facilitating the mutual understanding with classmates through badminton (Practical Lessons)
5	Learning the Individual Sports 3	Building the relationship with classmates through table tennis (Practical Lesson)
6	Learning the Individual Sports 4	Facilitating mutual understanding with classmates through table tennis (Practical Lessons)
7	Strength & Conditioning 1	Implementing and collecting the data of the strength and conditioning (Practical Lesson)
8	Strength & Conditioning 2	Learning the theory of strength and conditioning (Lecture)
9	Learning the Team Sports 1	Building the relationship with classmates through the futsal (Practical Lesson)
10	Learning the Team Sports 2	Facilitating the mutual understanding with classmates through the futsal (Practical Lesson)
11	Health & Fitness 1	Leaning the proper physical function to improve the QOL (quality of life) (Lecture)
12	Health & Fitness 2	Implementing the stability and mobility exercises (Practical Lesson)
13	Learning the Warm-Ups	Learning the basic principle and implementing the proper warm-ups, 2nd Presentation (Lecture & Practical Lesson)
14	Summarizing the Course	Overview of the course and compile a report (Lecture)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This class's standard preparatory study and review time is 2 hours each.　The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training.　Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【テキスト（教科書）】
No textbook will be used.

【参考書】
Reference books may be introduced as and if necessary.

【成績評価の方法と基準】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1.　Participation status for activities during class / Reaction paper 60%,
2. Assignments / Reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

【学生の意見等からの気づき】
None (due to a newly appointed teacher).

【学生が準備すべき機器他】
1. Students must bring their proper sportswear and indoor shoes for practical lessons.
2. Students must bring their own personal computer or mobile device to create and submit assignments.

【その他の重要事項】
1. The order and content of each class can be changed/modified due to the number of participants and available facilities, as well as the situation of COVID-19 and university guidelines.
2. This class is planned to be held offline (face to face); therefore, please follow the university guidelines carefully when participating in classes (e.g., sanitizing your hands before participation).
3. If students have any issues, including health, before, during, and after the class, students must inform their condition to the teacher.

PRI100LA

Elementary Information Technology

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

斎藤　明

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Processing is a computer language designed for those who study programming for the first time. Despite its simple grammatical structure, it provides us with a beginner-friendly graphical environment. In this lecture, you will experience programming in Processing and learn basic knowledge about programming.

【到達目標】
You will learn basic elements of a programming language and how to write simple programs. The grammar of Processing has a lot in common with java and other computer languages widely used in the society. Thus, the knowledge and techniques which you learn in this lecture will be easily transferred to other programming environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP4、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The class consists of a lecture and exercises. The lecture is delivered through slides. You are frequently required to write small programs as exercises during the class. A homework is assigned at the end of the class, which you are required to finish by the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is Processing?	Programs in Processing is given as an example and you will learn how it works.
2	Calculation	You will learn how to calculate in a computer language.
3	Variables	You learn how to declare variables. You also learn several types of variables.
4	Drawing [1]	You learn how to draw pictures in Processing.
5	Drawing [2]	You learn the importance of using variables when you draw a picture.
6	Conditional Sentence [1]	You learn the "if" statement and how to use it.
7	Conditional Sentence [2]	You will learn how to combine logical conditions.
8	Conditional Sentence [3]	You will learn how to construct a nested structure of conditional sentences.
9	Repetition [1]	You will learn the "while" statement, which enables you to repeat the execution of certain sentences.
10	Repetition [2]	You will learn the "for" statement, another important repetitive control sentence.
11	Repetition [3]	You will learn the combination of repetition and conditional statements.
12	Animation [1]	You will learn the active mode of Processing, in which you can manipulate animation.
13	Animation [2]	Combining repetitive and conditional sentences, you will create a simple animation.
14	Animation [3]	You will upgrade you animation created in the previous lecture by integrating your own idea.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
A homework is assigned in each class. You are required to finish it by the next class. Also the slides for the next class are available a couple of days in advance. You are required to browse them and grasp the image of the upcoming class. An estimated time for this work is 2 hours.

【テキスト（教科書）】
None.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
The grade of this class consists of :
the quality of exercises submitted during the class : 30%
the quality of the submitted homework : 70%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

PRI200LA

Information Technology

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

斎藤　明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Processing is a computer language designed for those who study programming for the first time. Despite its simple grammatical structure, it provides us with a beginner-friendly graphical environment. In this lecture, you will experience programming in Processing and learn basic knowledge about programming.

【到達目標】
You will learn basic elements of a programming language and how to write simple programs. The grammar of Processing has a lot in common with java and other computer languages widely used in the society. Thus, the knowledge and techniques which you learn in this lecture will be easily transferred to other programming environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP4、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The class consists of a lecture and exercises. The lecture is delivered through slides. You are frequently required to write small programs as exercises during the class. A homework is assigned at the end of the class, which you are required to finish by the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is Processing?	Programs in Processing is given as an example and you will learn how it works.
2	Calculation and variables	You will learn how to calculate and use variables in a computer language.
3	Drawing [1]	You learn how to draw pictures in Processing.
4	Drawing [2]	You learn the importance of using variables when you draw a picture.
5	Conditional Sentence [1]	You learn the "if" statement and how to use it.
6	Conditional Sentence [2]	You will learn how to combine logical conditions and nest conditional sentences.
7	Repetition [1]	You will learn the "while" statement, which enables you to repeat the execution of certain sentences.
8	Repetition [2]	You will learn the "for" statement, another important repetitive control sentence.
9	Repetition [3]	You will learn the combination of repetition and conditional statements.
10	Animation [1]	You will learn the active mode of Processing, in which you can manipulate an animation.
11	Animation [2]	Combining repetitive and conditional sentences, you will create a simple animation.
12	Function [1]	You will learn a function and how to use it.
13	Function [2]	You will learn how to use return values and parameters of a function.
14	Function [3]	You will learn how to write a program in a systematic way using functions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
A homework is assigned in each class. You are required to finish it by the next class. Also the slides for the next class are available a couple of days in advance. You are required to browse them and grasp the image of the upcoming class. An estimated time for this work is 2 hours.

【テキスト（教科書）】
None.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
The grade of this class consists of :
the quality of exercises submitted during the class : 30%
the quality of the submitted homework : 70%

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
None.

【その他の重要事項】
None.

CAR100LA

Elementary Career Development　2017 年度以降入学者

サブタイトル：

竹原　正篤

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Elementary Career Development course provides students in English degree programs with the opportunity to understand the significance of work and careers to acquire the mindset and knowledge needed to design their own career. Recognizing that the careers of students in English degree programs are diverse, this course will deal with fundamental topics including the significance of working, the theory and method for self-understanding, the theory and method for occupational aptitude, the method of career design, and human resource management of various organizations. Through this course, students can raise their awareness of the profession and can take concrete actions toward career design that suits their vocational aptitude.

【到達目標】
Students will be able to deepen their understandings of:
(1)the significance of work and career and knowledge to design their own career.
(2)their personal profiles, values, aspirations, skills and lifestyles.
(3)skills and competencies required for careers that students want to explore.
(4)necessity to explore internships and job opportunities spontaneously.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course consists of lectures by the instructor, students' presentations and discussions. Students will occasionally work to create a worksheet during the class. All of the class activities will be conducted in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Outline of the course. Introduction of instructor. Free discussion on “career” and career development.
Week 2	Significance of work and career design (1)	Understand the important points when considering future career paths.
Week 3	Significance of work and career design (2)	Understand the importance of considering your career development throughout your entire life.
Week 4	Theory and method for self-understanding (1)	Know yourself better by reflecting on your life and telling your own story.
Week 5	Theory and method for self-understanding (2)	Make a presentation on your life story.
Week 6	Theory and method for vocational aptitude	Understand your personality and work environment that fit your job selection.
Week 7	Overview of various occupations/jobs	Understand that there are various occupations/jobs in society and many of them change as time passes.
Week 8	Human resource management in organizations/companies (1)	Understand characteristics of human resource management in Japanese and other international organizations and their implications for students.
Week 9	Human resource management in organizations/companies (2)	Understand that organizations/companies have their own organizational cultures which impact on their employees.
Week 10	Recruitment activities of Japanese organizations/companies and students' job hunting activities	Understand how Japanese organizations/companies recruit and nurture young employees. Also, understand Japanese SME (small and medium sized enterprises) as job targets.
Week 11	Intercultural Competency	Understand how you can effectively work with/for people with different cultural background and how to develop intercultural competencies.
Week 12	Guest Speaker sessions (1) professor/researcher	Listen to the guest speaker session on the career of a university professor engaged in research.
Week 13	Guest Speaker sessions (2) businessperson	Listen to the guest speaker session on the career of a businessperson working for company.
Week 14	Wrap-up	Review major points students learned in the course and further deepen their understanding through wrap-up Q&A and discussions.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students taking this course should spend two hours each for preparation and review per week.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be disseminated by the lecturer for each class.

【参考書】
References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on the following criteria:
(1) Active class participation:60%
(2) Final writing assignments:40%
Details will be explained during the first class.
Please note that students who miss 4 classes or more without justification cannot receive credit.

【学生の意見等からの気づき】
Following student comments, more pair and group discussion will be conducted.

ART100LA

Elementary Humanities A　2017 年度以降入学者

サブタイトル：Japanese Literature I.

URBANOVA　JANA

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views and by introducing Okinawan poetry which displays unique features when compared with classical Japanese poetry.

【到達目標】
1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
3. to improve your English vocabulary regarding the topic

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic, to submit a short written summary of the presentation topic and an essay, and to pass the final exam. The topics for the presentation will be distributed at the beginning of the course.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.
This course is in principle a face-to-face course. However, the first lecture will be taught online on Zoom. Please see HOPPII for further instructions about how to join our Zoom session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; scheduling of presentations
2.	Historical overview of Japanese literature	Brief overview of major literary works in their historical context with a focus on the *Nara* and *Heian* periods
3.	Japanese perception of nature, Part 1	Definition of nature and corresponding terms in Japanese; Japanese love for nature and its various aspects; Japanese vs. Western concepts of nature
4.	Japanese perception of nature, Part 2	The four seasons as one of the central concepts in Japanese culture and literature; the concept of transformation and change, harmony of *yin* and *yang*; perception of time
5.	Natural images in classical Japanese poetry	Literal and figural meaning of images in Japanese and Western poetic tradition
6.	Key concepts of Japanese aesthetics	Four aesthetic concepts in Japanese culture and literature; demonstration of these concepts in *Essays in Idleness* by the Buddhist priest *Kenkō*
7.	Japanese mythology	*Records of Ancient Matters (Kojiki);* Japanese mythology vs. Western ideological concepts (Greek mythology and Christianity)
8.	Japanese poetry, Part 1	The role of poetry from ancient times through the era of *Man'yōshū (Collection of Ten Thousand Leaves)* to the flourishing era of imperial poetry anthologies
9.	Japanese poetry, Part 2	Long and short poetic forms *(chōka and tanka);* believed to be the first Japanese poem in the fixed form; major themes in classical poetry
10.	Japanese prose, Part 1	Japanese tales and its various genres; the oldest preserved tale *(The Tale of the Bamboo Cutter; Taketori Monogatari)* and the collection of poem tales *(Tales of Ise; Ise Monogatari)*
11.	Japanese prose, Part 2	Flourishing of women writers in the *Heian* period with a focus on two prominent figures *Murasaki Shikibu* and *Sei Shōnagon* and their works *The Tale of Genji (Genji Monogatari)* and *The Pillow Book (Makura no Sōshi)*
12.	Okinawan language and poetry – Introduction	Languages of the Ryūkyū Islands as part of the Japanese language group; language rules in Okinawan poetry *ryūka*
13.	The world of Okinawan poetry	The oldest preserved collection of old epic songs *Omorosōshi;* Okinawan lyrical poetry *ryūka*
14.	Course wrap up	Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1.Prepare a short self-introduction
2.Reading: handout on anthology of Japanese literature
3.Reading: Asquith 1-35
4.Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
5.Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
6.Reading: Keene 3 – 22
7.Reading: handout on the *Kojiki*

8.Reading: Keene 47 – 69
9.Reading: Keene 25 – 44
10.Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
11.Reading: handout on women's classical prose
12.&13.Reading: text by lecturer on Okinawan language and poetry
14.Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(University guidelines suggest preparation and review should be around four hours a week for a two-credit course.)

【テキスト（教科書）】
Keene, Donald. *The Pleasures of Japanese Literature.* New York: Columbia University Press, 1988.
All other study materials and handouts will be provided by the lecturer.

【参考書】
Asquith, Pamela J. and Arne Kalland, ed. *Japanese Images of Nature.* Richmond: Curzon Press, 1997.
Keene, Donald. *Anthology of Japanese Literature.* Rutland, Vermont & Tokyo: Charles E. Tuttle Company, 1956. Twenty-second edition, 1991.
McCullough, Helen Craig. *Classical Japanese Prose: an Anthology.* Stanford: Stanford University Press, 1990.
Miner, Earl. *An Introduction to Japanese Court Poetry.* Stanford: Stanford University Press, 1968.
Further references related to the topic of each class will be provided by the lecturer.

【成績評価の方法と基準】
Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination and essay (60%).

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.

【学生が準備すべき機器他】
● Please prepare the designated textbook.
● In case this course needs to switch to online format, it will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus will need to prepare a headset.
● Please check HOPPII for further instructions and details about the course.

ARSa100LA

Elementary Humanities B　2017 年度以降入学者

サブタイトル：UK Society & Culture

Richard.J.Burrows

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.
In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

【到達目標】
During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills.Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The previous lesson's reading assignment will be reviewed & discussed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.
Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Course Introduction
2	Listening & Speaking	Presentation Guidance
3	Listening & Speaking - The Seven Wonders of Britain	The Seven Wonders of Britain - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
4	Listening & Speaking - Wales	Wales - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
5	Listening & Speaking - BBC	BBC - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
6	Listening & Speaking - The Mini	The Mini - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
7	Listening & Speaking - The Village	The Village - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
8	Writing - Comparison & Contrast Reports Listening & Speaking - English Tea	Semester report preparation. English Tea - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
9	Listening & Speaking - The Purple Violin	The Purple Violin - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
10	Listening & Speaking - Sherlock Holmes	Sherlock Holmes - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
11	Listening & Speaking - Agatha Christie	Agatha Christie - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
12	Listening & Speaking - The Sea	The Sea - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
13	Listening & Speaking - London Taxis	London Taxis - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
14	Listening & Speaking British Public School	British Public Schools - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Regular reading assignments with both vocabulary exercises & comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation will be required from students each week.
No more than 3 absences will be permitted. The weekly reading assignment, preparatory study and review time for this class are about 4 hours for each week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】
None, but students need to download and prepare the required files before each class.

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app will be required at every lesson

【成績評価の方法と基準】
Evaluation will be based on the following criteria:
Classwork & Participation 30%
Homework 30%
Presentation 20%
Report 20%
In principle, no more than 3 absences are permitted

【学生の意見等からの気づき】
New & updated topics have been added to the course. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
A PC with a reliable internet connection will be needed to download lesson materials each week. In addition, access to a PC in order to prepare a PowerPoint presentation & complete, upload or print the final report

【その他の重要事項】
Please join this class if you have an interest in this topic, a desire to improve your English skills, and are willing to attend classes on a regular basis and submit all homework & other assignments on time.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

POL100LA

Elementary Social Science A　2016 年度以前入学者

サブタイトル：Introduction to Legal Theory : from Monism to Pluralism

ガェル　ベッソン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Legal theory is a discipline that uses tools, concepts and methods from philosophy, sociology, political science, economics and critical studies, in order to study the concepts that are centrals or deemed the most importants to talk about Law in a general way : authority, rule, norm, obligation, and the concept of law itself. But as a specific discipline, Legal theory's vocabulary is distinct from the Legal vocabulary, so it is therefore important to be able to understand the texts of the founders of the discipline among whom we will find Hart, Kelsen, Perelman, Dworkin, Habermas … and be able to keep the discussion ongoing. This class will accompany the student into one of the most fundamental branches of this discussion : How to distinguish what is law and what it should be ? How do judges, legal practitioners and law professors deal with their functions and their personal preferences ? And overall, how does analytical philosophy of law, one of the most influential positivist approaches of legal phenomenon, deal with international law and the tension between globalisation and localisation ?

【到達目標】
By the end of the course, students are expected to have acquired:
1. an understanding of the purpose of legal theory
2. an overview of main figures of the discipline
3. analytical tools to understand legal theory texts and contemporary debates

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Classes consist in discussion, documents study, and lecture. Students will be required to apply analytical frameworks they learned during class by conducting a research on an author of their choice that will result in a presentation during the second half of the semester (starting week 13) and a written report to be submitted at the end of the semester. This will be performed collectively or individually depending on the number of students attending the course. Feedback by peers and the instructor will be given in class. Course contents will vary depending on the number of students' presentations to be performed in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Definitions, Purpose, Perspectives
2.	Is / Ought I	Bentham, Austin : the English tradition of analytical philosophy. Being able to say a law is unjust. Rule of command, and sovereignty through State's Competence of competence.
3.	Is / Ought II	Kelsen : the continental approach of analytical philosophy. Biography and bibliography. Being able to distinguish law and morality.
4.	Is / Ought III	Neo-Jusnaturalism : Lon Fuller, Alexy's principle theory.
5.	Debate	Is objectivity in law possible ? Which social practices are compatible with the legal system? What is the quality of international law ?
6.	Hart I	Biography and bibliography. Law is not about Obeying authority, It may be about Accepting it. How do you accept the rule of international Law when it doesn't recognize people as legal subjects ?
7.	Hart II	Rule of recognition : internal / external point of view. Primary and secondary rules.
8.	Hart III	Hart and international Law. Municipal approach of Law.
9.	Kelsen I	Against reductionism and jusnaturalism. . Imputation and Basic norm
10.	Kelsen II	Kelsen and international Law. The end of "Competence of competence"
11.	Ost	Law as a network. From monism to pluralism. From pyramid to network.
12.	Debate	Is Law a science ? A Social science ? How does analytical philosophy deal with international law ?
13.	Presentation I	Group report
14.	Presentation II	Group report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
As a preparation for each class, students will be assigned some readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Herbert L.A. HART, Leslie Green, The Concept of Law 3rd ed, 2012, Oxford University Press ISBN-13 : 9780199644704 Hans KELSEN, Pure Theory of Law. Translation from the Second German Edition by Max Knight, reprint by The Lawbook Exchange, 2009 ISBN-13: 9781584775782. Martti KOSKENNIEMI, From Apology to Utopia: The Structure of International Legal Argument. 2nd ed, 2006, Cambridge: Cambridge University Press ISBN-13: 9780511493713.

【成績評価の方法と基準】
Participation in class (including homework and discussions): 50%; research project: 50% (presentation in class: 20%; written report: 30%).

【学生の意見等からの気づき】
Course contents and slides updated.

【学生が準備すべき機器他】
Some paper and a pen.

MAT100LA

Elementary Mathematics A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

小木曽　岳義

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

【到達目標】
At the end of this course, students will demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries 1
02.	Basics and Key Terms	Preliminaries 2
03.	Exponential Functions	Functions and Graphs 1
04.	Logarithmic Functions	Functions and Graphs 2
05.	Graphing Basic Functions	Functions and Graphs 3
06.	Shifting and Stretching Graphs	Functions and Graphs 4
07.	Inverse Functions	Functions and Graphs 5
08.	Graphing Exponential Functions	Functions and Graphs 6
09.	Graphing Logarithmic Functions	Functions and Graphs 7
10.	Composite Functions	Functions and Graphs 8)
11.	Arithmetic and Geometric Sequences	Limits 1
12.	Sigma Notation and Sequences of Differences	Limits 2
13.	Limit of a Sequence	Limits 3
14.	Limit of a Function	Limits 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Solve the problems of the exercises well. Think by writng on a paper.

【テキスト（教科書）】
You don’t need to buy a text book. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】
You don’t need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】
Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】
Not offered until the last fiscal year for the new subjects

MAT100LA

Elementary Mathematics B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

小木曽　岳義

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is a calculus course intended for those studying business, economics, or other related business majors, and a continuation of topics from “Elementary Mathematics II”. The following topics are presented with applications: derivatives, differentiation rules, derivative of an exponential function and logarithmic function, higher-order derivative, Taylor and Maclaurin series, integrals.

【到達目標】
Students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries
02.	The Derivative and the Slope of a Graph	Differentiation: Basic Concepts 1
03.	Some Rules for Differentiation	Differentiation: Basic Concepts 2
04.	The Product and Quotient Rules	Differentiation: Basic Concepts 3
05.	The Chain Rule	Differentiation: Basic Concepts 4
06.	Derivatives of Exponential Functions	Differentiation: Basic Concepts 5
07.	Derivatives of Logarithmic Functions	Differentiation: Basic Concepts 6
08.	Higher-order Derivatives	Differentiation: Basic Concepts 7
09.	Extrema and the First-Derivative Test	Additional Appilcations of the Derivative 1
10.	Concavity and the Second-Derivative Tes	Additional Appilcations of the Derivative 2
11.	The Mean Value Theorem, Taylor’s Theorem	Additional Appilcations of the Derivative 3
12.	Taylor and Maclaurin Series	Additional Appilcations of the Derivative 4
13.	Approximate Values	Additional Appilcations of the Derivative 5)
14.	Antiderivatives, Differential Equation	Additional Topics 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Solve the problems of the exercises well. Think by writng on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
You don’t need to buy a textbook. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】
You don’t need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】
Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】
Not offered until the last fiscal year for the new subjects

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲）

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（45 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学びに必要となる基礎的なスキルを身に付ける。ゼミでのディスカッションやレポート・論文作成などを行っていくための「読む」「書く」「発表する」「議論する」の４つの力を訓練・習得することを目的とする。

【到達目標】
１．他者の書いた文章を正確に読み、その主旨や論理を把握できるようになる。
２．自分の考えやその説明を、日本語として正確な文章で書けるようになる。
３．自分の考えやその根拠を、他者に分かってもらえるように発表・説明できるようになる。
４．自分と異なる意見や主張に対して、合理的な根拠を示しながら問題点を指摘し反論できるようになる。
５．これらの作業のために必要な文献資料の調べ方が分かるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
社会で起こる現実の事象・事例を題材にして、それについての小論文作成、報告、討論を行う。毎回報告者・応答者を決めた上で、報告者による発表と応答者及び他の受講生との間で討論を行う。
報告者は、最近の新聞の社説・投書等から題材を選んで、それについての話題提供小論文を事前に書いた上で、担当回の授業で配布しそれについての発表をする。それを踏まえて、応答者及びその他の受講生の間で討論を行い（必要に応じてグループ討論を行う）、内容に関する論点・問題点を抽出する。応答者は、その話題提供論文に対して自分の主張を論じた応答論文を執筆し、次回授業までに提出する。詳細は初回授業時に説明するので、受講者は初回に必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の趣旨・やり方の説明
2	資料の調べ方	文献資料等の調べ方についての説明（必要に応じて図書館ガイダンスを行う）
3	報告と討論（１周目１）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告者 A,B の２名、応答者４名、各１回目）
4	報告と討論（１周目２）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 C,D の２名、応答者４名、各１回目）
5	報告と討論（１周目３）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 E,F の２名、応答者４名、各１回目）
6	報告と討論（１周目４）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告者 G,H の２名、応答者４名、各１回目）
7	報告と討論（１周目５）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 I,J の２名、応答者４名、各１回目）
8	報告と討論（１周目６）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 K,L の２名、応答者４名、各１回目）
9	報告と討論（２周目１）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 M,N の２名、応答者４名、各２回目）
10	報告と討論（２周目２）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 O,P の２名、応答者４名、各２回目）
11	報告と討論（２周目３）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 Q,R の２名、応答者４名、各２回目）
12	報告と討論（２周目４）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告者 S,T の２名、応答者４名、各２回目）
13	報告と討論（２周目５）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 U,V の２名、応答者４名、各２回目）
14	報告と討論（２周目６）	担当報告者による発表とそれについての議論（報告 W,X の２名、応答者４名、各２回目）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は普段から新聞・雑誌・ネット等の記事やオピニオンに目を通し、それに対する自分の意見を考えておく。その上で、報告者となった授業回では、最近の新聞の記事・投書等の中から特に自分が関心を持ったものを選び、それに関する自分の考えを論じる小論文を作成する。授業時には、それを当該記事・投書と一緒に他の受講生に配布し、それについての発表と質問対応ができるよう中身を整理しておく。
応答者は、担当回の授業の後、報告者の小論文に対して自分の意見を論じた応答小論文を作成し、次の回の授業までに教員に提出する。他の受講者は、報告者の小論文に関係する記事や文献等を適宜調べて、それについての自分の考えと根拠を整理する。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第 4 版』慶應義塾大学出版会、2018 年
小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009 年

【成績評価の方法と基準】
①話題提供小論文の内容、②応答小論文の内容を柱に、それに③授業と討論への参加状況を加味して、上記「到達目標」にて示した１～５の達成度を評価する。成績評価は、①②（いずれか各自の担当分）を 80 %、③を 20 %の割合で評価する予定である。なお、受講人数及び授業の進捗状況によっては、これらに加えて④期末試験もしくは授業内試験もしくは期末レポートを実施し、その結果も成績評価に加味する場合がある。詳細は授業の中で説明する。

【学生の意見等からの気づき】
各回の授業で受講生の発言機会を多くとれるように配慮したい。また、論点の解説を丁寧にすることで、真面目に取り組んでいる受講生の問題意識と思考力を伸ばせるようにしたい。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, students will learn the basic skills necessary for university study, such as how to research literature and write reports and papers.
(Learning Objectives)
The goals of this class are for students to be able to explain their opinions rationally and to understand how to research literature and write reports and papers.

(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students in charge of reporting will be expected to write an essay on newspaper article. After the class meeting, students in charge of responding will be expected to write an essay on the reporting essay. Other students will research the literature on the reporting essay and come up with their own opinions after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content including writing short essays on the content of each class.
(Grading Criteria /Policies)
Final Grade will be decided based on assigned essays (80%) and contribution in class discussion (20%).

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲）

2017 年度以降入学者

佐藤　真人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（45 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の文章を読み、それについて自身で考えて書き、発表し、さらに考えを深めるという一連の作業を、デカルトの『方法叙説（序説）』（おそらく世界で最も読まれてきた哲学書の一つ）の読解を通して行ない、それによって哲学の基本的な力を身につけることをめざします。
「基礎ゼミ I」で学んだことを実践に活かし、翌年の「基礎演習」へ向けた哲学的な地盤を築くのがこの授業の目的です。

【到達目標】
① 哲学の文章を丁寧に読み解くことができる。
② 問題について考え、調べ、自分の言葉で論理的に書いて発表することができる。
③ 他者との議論を通じて理解と考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを読み進めていき、内容（語句の意味や概要、背景、前後の文脈とのつながり、問題点など）について議論します。具体的な手順は以下の通り。
① 発表担当は、該当箇所についての発表レジュメを作成。発表は、個人またはグループで行います（受講者の人数次第）。
② 全体での質疑応答と討論
③ 教員のコメント
④ 当日の考察や疑問点をリアクション・ペーパーに書いて提出（優れたものは翌週の授業で共有し、回答をフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入部	授業の概要や今後の進め方、発表の仕方、若きデカルトの思想について
第 2 回	『方法叙説』以前のデカルト	発表と議論、コメント、次回以降のグループ分け
第 3 回	『方法叙説』第一部	デカルトの学問観 発表と議論
第 4 回	『方法叙説』第二部①	炉部屋での思索 発表と議論
第 5 回	『方法叙説』第二部②	方法の発見とその内容 発表と議論
第 6 回	『方法叙説』第三部	暫定的道徳とは 発表と議論
第 7 回	『方法叙説』第四部①	「考える私」と神の発見 発表と議論
第 8 回	『方法叙説』第四部②	明証性と懐疑の解除 発表と議論
第 9 回	『方法叙説』第五部①	世界の生成と自然法則 発表と議論
第 10 回	『方法叙説』第五部②	心臓と血液の研究 発表と議論
第 11 回	『方法叙説』第五部③	心身の区別 発表と議論
第 12 回	『方法叙説』第六部①	実践哲学の提唱 発表と議論
第 13 回	『方法叙説』第六部②	自然学研究の方法 発表と議論
第 14 回	『方法叙説』第六部③	真理の探究と理性 発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者全員が授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめ、次回授業に備えてください。発表担当者（個人またはグループ）は、発表用のレジュメを作成・配布すること。
本授業の準備学習・復習は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
デカルト『方法叙説』（小泉義之訳）、講談社学術文庫。

【参考書】
デカルトの参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、テキストを丁寧に読み取ることから始めてください。
そのうえで、テーマに関連する参考書を探すこと（参考書については授業でも言及しますが、参考書を自身で探すことも大学での学習の一つです）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小レポートやリアクション・ペーパー、参加姿勢など）30%、発表 30%、期末試験・レポート 40%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考と議論を促す授業を心がけます。

【Outline (in English)】
We will use Descartes' *Discours de la méthode* to carry out a series of academic and philosophic studies: read philosophical texts, write about them, present them, and think further and deeper. The purpose of this course is to cultivate the basic ability to learn, think, and write by oneself at university, and to practice what we have learned in Basic Seminar I.
Students are expected by the end of the course to read and understand by themselves Descartes' text, to construct their arguments logically through readings, searchings, and discussions, and to explain them clearly in their own words.
Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.
The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 30%, Presentation: 30%, Term-end examination or report: 40%.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・哲）

2017 年度以降入学者

奥田　和夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（45 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、大学に入学してからの授業の受け方・勉強方法、とくにレポートや論文の書き方・心得ておかなければならない技術について学び、その練習をします。

【到達目標】
大学での授業の受け方、とくにレポート、論文の書き方、資料収集の方法等を習得し、自分で実践することができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
【到達目標】に記した目標を念頭において、授業で修得すべきことを説明します。そして授業の回ごとに、学んだことを実際に練習します。授業内の練習をとおして履修生に必要なフィードバックを行ないます。提出物によるものは次回の授業でその問題点等を説明します。グループワークも実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	大学で何をどのように学か
	大学と社会、大学生活、大学の授業と研究	高校までの授業と何が違うか 社会的な注意事項
第 2 回	研究倫理	研究倫理の理解
	授業の理解、ノートとメモ	何を学んでいるのか ノートとメモ
第 3 回	読む	何をどのように読むのか
第 4 回	読んで振り返る	読んでみて、何を読み取ったのか考える
第 5 回	資料収集	資料の探し方 図書館と図書館の利用法
第 6 回	読んだことをまとめる	読んでみて、何を読んだのか書く
第 7 回	要約と自分の意見 1	ことがらの把握・理解
第 8 回	要約と自分の意見 2	ことがらに対する考察
第 9 回	レポートと論文	レポートと論文の違い
	論文の要件と構成	論題、本論、結論
	論文の体裁	論述の構成 引用、注、文献表などの必要性とその意味
第 10 回	テーマの発見	「何を論じるのか」、「何を論じられるのか」の自覚　実技
第 11 回	結論と構成	出発点と終着点、その道筋　実技
第 12 回	レポートの作成 1	実技 あらためてとくにテーマの発見を中心とした練習
第 13 回	レポートの作成 2	実技 あらためてとくに論理構成を中心とした練習
第 14 回	まとめ	期末レポート 修得した技術を活用して提出レポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
自分で読み書きの練習をし、課題に対する提出物を準備すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回、プリントを配布します。

【参考書】
授業の中で適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の課題提出物の内容 (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
今年度はなし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
第 5 回の授業で図書館の利用法を扱う。実際に図書館の館員に図書館の説明、利用法などの説明を受ける。ただし、図書館の事情により日程は変更になる可能性もある。日にちの変更は授業内、または Hoppii の「お知らせ」欄で知らせます。

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of this course is to help students acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.
(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)　Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲）

2017 年度以降入学者

菅沢　龍文

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（45 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理的に考え、哲学を学び、論文・レポートを書くための基礎的な事柄を学ぶ。大きくは (1) 論理 (2) 知識 (3) 自我 (4) 行為、に関する哲学的に基本的な事柄を取り上げ、毎回グループワークを実践する。そして最後に論文・レポートの書き方について学び、レポート作成を実践する。これにより、大学で論理的・哲学的に考えるための基礎力をつける。

【到達目標】
(1)「矛盾」と「反対」とを区別でき、「矛盾」が理解できる。
(2)「分析判断」と「総合判断」の特性を理解できる。
(3)「必要条件」と「十分条件」が理解できる。
(4)「思想」と「事実」と「言語」の関係について理解できる。
(5)「唯名論」対「実在論」、「唯物論」対「観念論」が理解できる。
(6) 物や人格の「同一性」の諸相について理解できる。
(7)「物体」の性質の諸相について理解できる。
(8) 自我の「明証性」について理解できる。
(9)「人格」や「主観」、「客観」について理解できる。
(10)「道徳的価値」について理解できる。
(11)「黄金律」と「定言命法」について理解できる。
(12)「決定論」と「自由」について理解できる。
(13) 論文・レポートの作成について心得る。
(14) 実際に問題や課題を立てて、適切なレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
（1）授業の始めに前回の課題についての復習（フィードバック）。
（2）次にプリント教材の内容と課題についての解説。
（3）その後に授業の課題についてグループワークを行う。
（※授業後に「授業支援システム」で課題についての小作文を提出。小作文集（パスワード付 PDF）をゼミ内で共有する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	（1）授業の進め方 （2）真・善・美 （3）自我 テキスト： 16, 27 頁
第 2 回	矛盾	（1）「矛盾」の由来 （2）矛盾と同一性 （3）「矛盾」の定義 テキスト： 29, 33, 37 頁
第 3 回	分析判断、総合判断 （※矛盾律、必要条件）	（1）矛盾律 （2）分析判断・総合判断 （3）必要条件 テキスト： 42-44, 83 頁
第 4 回	思想・事実・言語 （※矛盾と反対）	（1）事実と概念 （2）概念と言語 （3）反対対当 テキスト： 46-50, 53-56 頁
第 5 回	唯名論 vs. 実在論 （※必要十分条件）	（1）必要十分条件 （2）唯名論（ノミナリズム） （3）総体および皆無の原理 テキスト： 76-81, 83-86, 93, 236 頁
第 6 回	同一性の諸相	（1）感覚 （2）判断・推理 （3）物の同一性 テキスト： 98, 102-115 頁
第 7 回	物体と懐疑	（1）一次性質と二次性質 （2）感覚知覚への疑い （3）算術・幾何学への疑い テキスト： 118-120, 126-130 頁
第 8 回	自我の明証性	（1）私は存在する （2）私は考える （3）明証的な知覚 テキスト： 132-136, 141-142 頁
第 9 回	人格および主観、客観	（1）私はあるが、誰でもない？ （2）人格（ペルソナ） （3）主観的と客観的 テキスト： 157-172 頁
第 10 回	行為の道徳的価値	（1）善意志 （2）意図の選択 （3）道徳的価値 テキスト： 177-181 頁
第 11 回	黄金律と定言命法	（1）隣人愛 （2）無制限に善い意志 （3）定言命法と黄金律 テキスト： 182-183, 186-187, 190-191 頁
第 12 回	決定論と自由	（1）「である」と「べきである」 （2）決定論 （3）心情と結果 テキスト： 215-219, 223-228 頁
第 13 回	レポートの心得	（1）主題 （2）資料収集 （3）導入部を書く （4）アウトライン （5）文章マナー
第 14 回	レポートの実践	課題を設定し、レポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
準備：「学習支援システム」で事前に配布された教材プリント PDF によって授業内容を把握しておく。（ゼミでは、さらに理解や考えを深める。）
復習：授業後に「学習支援システム」で課題の小作文を提出する。その後に「学習支援システム」に掲載されるゼミ小作文集（パスワード付 PDF）により復習する。

【テキスト（教科書）】
ラインハルト・ブラント著『哲学　ひとつの入門』（理想社）

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に掲げられている各回の課題に関して次の観点から評価する。
（1）毎回のゼミへの参加態度と課題小作文の評価（70 %）
（2）セメスター末のレポート作文の評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
授業では、聞き取りやすい発声を心がける。
授業で課題となるポイントを的確に伝える。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、課題作文を提出するためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Students will learn the fundamentals of thinking logically, studying philosophy, and writing papers and reports. We will cover the basic philosophical issues of (1) logic, (2) knowledge, (3) ego, and (4) action, and group work will be conducted each time. Finally, we will learn how to write papers and reports, and practice writing them. In this way, students will acquire the basic skills to think logically and philosophically at university.
[Learning Objectives]
(1) To be able to distinguish between "contradiction" and "opposition" and understand "contradiction.
(2) To understand the characteristics of "analytical judgment" and "synthetic judgment".
(3) To be able to understand "necessary conditions" and "sufficient conditions".
(4) To understand the relationship between "thought", "fact" and "language".
(5) To understand "nominalism" versus "realism" and "materialism" versus "idealism.
(6) To understand the various aspects of the "identity" of objects and of personalities.
(7) To be able to understand the various aspects of properties of "objects".
(8) To understand the "evidentiality" of the ego.
(9) To understand "personality", "subjectivity" and "objectivity".
(10) To understand "moral value".
(11) To be able to understand the "Golden Rule" and "Categorical Imperative".
(12) To be able to understand "determinism" and "freedom".
(13) To be able to understand how to write papers and reports.
(14) To be able to actually formulate a problem or issue and write an appropriate report.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is each 2 hours.
Preparation: Understand the content of the class in the printed PDF materials distributed in advance via the "Learning Support System". (In the seminar, we will further deepen our understanding and ideas.)
Review: After the class, submit the assigned essay via the "Learning Support System". Review: After the class, submit the assigned small essay on the "Learning Support System" and review it using the collection of the seminar small essays (PDF with password) posted on the "Learning Support System".
[Grading Criteria / Policy]
Depending on the achievement of the objectives, the following will be graded.
(1) Attitude toward each seminar and evaluation of small essays (70%)
(2) Evaluation of the essay or report at the end of the semester (30%)

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文）

2017 年度以降入学者

福元　広二

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（35 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】
・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
・大学での学習に必要な基本的技術――ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など――を習得する。
・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１年次の学生全員を４クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科１年生は全員履修してください。
４クラスに分け、各クラスを金曜の１限、２限、３限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。
各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 – 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 – グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 – 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第１回目	グループによる調査・発表１
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第２回目	グループによる調査・発表２
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第３回目	グループによる調査・発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】
必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した３点を総合的に評価します［授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%］。

【学生の意見等からの気づき】
学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】
＊英文学科１年生は必ず履修してください。
＊コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】
"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文）

2017 年度以降入学者

小澤　央

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（35 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】
・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
・大学での学習に必要な基本的技術――ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など――を習得する。
・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１年次の学生全員を４クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科１年生は全員履修してください。
４クラスに分け、各クラスを金曜の１限、２限、３限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。
各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 – 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 – グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 – 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第１回目	グループによる調査・発表１
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第２回目	グループによる調査・発表２
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第３回目	グループによる調査・発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】
必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した３点を総合的に評価します［授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%］。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
＊英文学科１年生は必ず履修してください。
＊コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】
"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文）

2017 年度以降入学者

小島　尚人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
定員制（35 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】
・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
・大学での学習に必要な基本的技術――ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など――を習得する。
・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１年次の学生全員を４クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科１年生は全員履修してください。
４クラスに分け、各クラスを金曜の１限、２限、３限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。
各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 – 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 – グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 – 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第１回目	グループによる調査・発表１
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第２回目	グループによる調査・発表２
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第３回目	グループによる調査・発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】
必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した３点を総合的に評価します［授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%］。

【学生の意見等からの気づき】
学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】
＊英文学科１年生は必ず履修してください。
＊コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】
"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・英文）

2017 年度以降入学者

田中　裕希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（35 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「基礎ゼミ」は、大学における１年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の１セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】
・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
・大学での学習に必要な基本的技術――ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など――を習得する。
・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１年次の学生全員を４クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科１年生は全員履修してください。
４クラスに分け、各クラスを金曜の１限、２限、３限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。
各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 – 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 – グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 – 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第１回目	グループによる調査・発表１
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第２回目	グループによる調査・発表２
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第３回目	グループによる調査・発表３

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】
必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した３点を総合的に評価します［授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%］。

【学生の意見等からの気づき】
学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】
＊英文学科１年生は必ず履修してください。
＊コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】
"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史）

2017 年度以降入学者

大塚　紀弘

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学の授業には、講義形式と演習形式がある。前者では、専門的な話を整理して理解する能力が必要となる。後者では、自ら調べ、考察し、その内容を伝達する能力が求められる。この授業では、このような能力をいかに身につけ、向上させたらいいのか、一緒に考えていきたい。

【到達目標】
(1) 専門的な話を整理して理解する能力、(2) 自ら調べ考察する能力、(3) 調べた内容を伝達する能力など、大学で学ぶための基礎的な能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
９章構成とし、講義形式を基本として進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面は、事前に章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。講義の内容をふまえて、履修者に課題を実践してもらい、意見交換をする。研究発表、図書館実習、キャリアガイダンスの機会も設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ゼミで学ぶこと	履修のガイダンス
第 2 回	ノートの取り方（1）	大学の授業スタイル
第 3 回	ノートの取り方（2）	ノート取りの実践
第 4 回	研究論文の読み方	研究論文の作法
第 5 回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第 6 回	論文要約の仕方（1）	論文要約の作法
第 7 回	卒業後の進路を考える	キャリアガイダンス
第 8 回	論文要約の仕方（2）	論文要約の実践
第 9 回	レポートの書き方	レポートの作法
第 10 回	レジュメの作り方	レジュメの作法
第 11 回	研究発表の仕方	研究発表の作法
第 12 回	研究発表（1）	研究発表の実践（第１グループ）
第 13 回	研究発表（2）	研究発表の実践（第２グループ）
第 14 回	レポート提出	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。プリント、ノート等を用いて復習する。また、事前に参考書を読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
藤田哲也編『大学基礎講座　改増版』（北大路書房、２００６年）

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」欄記載の３点を評価基準として、その到達度を総合的に評価する。平常点６０％、研究発表点２０％、レポート点２０％の合計で評価する予定である。正当な理由なく５回以上欠席した場合は、D評価とする。担当の研究発表、レポートを正当な理由なく怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】
各章の論点を最初に明示する。

【Outline (in English)】
There are lecture forms and exercise forms in the university classes. In the former, the ability to organize and understand professional stories is necessary. In the latter, the ability to examine, consider, and communicate its contents is required. In this lesson, I would like to think about how to acquire and improve such abilities. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports: 20%, in class contribution: 80%.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史）

2017 年度以降入学者

宇都宮　美生

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で学ぶために必要な講義の受講法、参考書の検索、本の読み方、レジュメの作り方、演習での発表、討論の技法などを習得する。

【到達目標】
講義を聴いてその内容を理解するために必要なメモの作成、不明な点の調査、自分なりの理解をさらに発展させるための文献等資料検索の技法などを身につけることができる。自分の考えを口頭で、あるいは文書等で発信する方法を体験しながら学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】
大学の講義、あるいは演習がどのようなものかという説明と講義を聴き、演習に参加するために身につけておくことが望ましい技法の紹介、さらにその技法を各自がやってみることによって身につけるための実習を組み合わせる。参加者はレジュメを作成して、授業で発表し、参加者全員で議論する。授業中の発表で指摘されたことを修正し、完成したものを最後に提出する。各授業の始めに前回の授業の内容を振り返り、授業の最後にその日学習したことについてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容と進め方 講義の受け方 発表分担の割り振り 発表の仕方（紙媒体とパワーポイント、教員による見本）
第 2 回	工具書の紹介	辞書、用語集、地図集、ネットでのデータベースなどの利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 1
第 3 回	図書館の利用の仕方	参考文献の調べ方 他の図書館の利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 2
第 4 回	発表 1	第 1 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 5 回	発表 2	第 2 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 6 回	発表 3	第 3 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 7 回	発表 4	第 4 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 8 回	発表 5	第 5 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 9 回	発表 6	第 6 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 10 回	発表 7	第 7 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 11 回	発表 8	第 8 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 12 回	発表 9	第 9 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 13 回	発表 10	第 10 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 14 回	学習のまとめ	学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は詳しいレジュメとパワーポイントファイルを作成する。授業で指摘された部分を修正し、完成したものを提出する。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用する資料は授業で配布する。

【参考書】
授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」欄に記載した内容を評価基準として、下記 2 つの面で総合的に評価する。
発表内容と完成レジュメ（50 %）
・テーマについて適切に発表する。
・最後に完成レジュメを提出する。
授業中の発言や参加姿勢（50 %）
・発表者は必ず出席し、やむをえない理由で欠席する場合は、他の発表者とスケジュールを調整し、必ず発表する。
・他人の発表において指摘された改善点を、自分の発表で繰り返さないようにする。
・参加者は質問・意見について必ず発言する。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを人数分印刷し、配布すること。なお、当日の印刷のために授業に遅刻することは認めない。自宅または学内でパワーポイントの使用を求める。学内の情報センターで PC の使用あるいは貸出が利用できるので、必ずしも PC を購入する必要はない。

【担当教員の専門分野等】
中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】
パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
教員用パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading various academic articles in respect with history.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each meeting (50%) and presentation & term-end report (50%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史）

2017 年度以降入学者

内田　康太

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これから大学で学ぶにあたり必須となる基礎的技術・知識を習得する。

【到達目標】
到達目標は以下のとおり。
・各自の関心や必要に応じた情報の収集ができること。
・本や論文を正確かつ批判的に読解できること。
・口頭あるいは書面のかたちで、調査した事柄やそれに関する自身の考えを論理的かつ説得的に伝えられる。
・他の受講生による口頭報告に対してコメントすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義と演習を組み合わせて実施する。授業テーマに関する基礎的情報を講義形式で伝えたのち、受講生にはそれを実際に利用する様々な課題に取り組んでもらう。とくに学期後半には、受講生が自身の関心あるテーマについて調査した事柄を口頭で報告し、教員や他の受講生と質疑応答・討議する機会を複数回に渡って設ける。課題に対する講評・フィードバックは、授業時間内あるいは次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	授業の受け方	講義の聞き方とノートの取り方
第 3 回	情報の集め方	自らの関心・必要に応じた情報を集めるための方法
第 4 回	文献の読み方（1）	本や論文を批判的に読み解く方法
第 5 回	図書館利用ガイダンス	大学図書館を利用した調査や文献検索の方法
第 6 回	キャリアガイダンス	自らのキャリア形成について考えるための手引き
第 7 回	文献の読み方（2）	本や論文から得られた情報を整理する方法
第 8 回	プレゼンテーションの準備	口頭発表のための基本ルールと発表用資料（レジュメ）の作成方法
第 9 回	プレゼンテーション（1）	受講生（第１グループ）による口頭発表と質疑応答・討議
第 10 回	プレゼンテーション（2）	受講生（第２グループ）による口頭発表と質疑応答・討議
第 11 回	プレゼンテーション（3）	受講生（第３グループ）による口頭発表と質疑応答・討議
第 12 回	プレゼンテーション（4）	受講生（第４グループ）による口頭発表と質疑応答・討議
第 13 回	レポートの書き方	レポート作成のための基本ルールと執筆のテクニック
第 14 回	まとめ	到達度の確認と期末レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。また、自身で選択したテーマに関する調査を進め、調査結果について口頭報告するための準備をすることが求められる。

【テキスト（教科書）】
特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】
佐藤望編『アカデミック・スキルズ　第 3 版――大学生のための知的技法入門』，慶應義塾大学出版会，2020 年.
世界思想社編集部『大学生　学びのハンドブック［5 訂版］』，世界思想社，2021 年.

【成績評価の方法と基準】
授業内作業等、授業に対する参加度（30 %）
プレゼンテーション（30 %)
期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】
Course outline: This course helps first-year students acquire the basic academic skills and knowledge indispensable for studies at university.
Learning Objectives: The followings are the goals of this course.
- Students are able to gather academic information necessary for their research.
- Students are able to read accurately and critically academic books and papers.
- Students are able to present their research and ideas logically and convincingly in oral and written forms.
- Students are able to comment on the presentations made by their fellow students.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are also required to progress their own research and prepare to make a presentation on it.
Grading Criteria: Grading will be decided based on class participation(30%), oral presentation (30%), and term-end paper (40%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・史）

2017 年度以降入学者

松本　剣志郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生徒と学生は何が違うのか。高等教育とは何か。論文の読み方からレジュメの切り方、レポートの書き方まで、史学科の学生になってゆくための基本的技術を学ぶ。

【到達目標】
①史料に基づいて思考し、それを適切な文章で表現できる。②レジュメやレポートの作成方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義と演習とを折衷した授業をおこなう。学生諸君には授業内で発表してもらう。キャリアガイダンスと図書館ガイダンスは他クラスと合同のためスケジュールの変更がありえる。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小レポートや発表にたいする講評もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方
第 2 回	大学の授業	生徒と学生、講義と演習について
第 3 回	要約の仕方	引用と剽窃
第 4 回	『論文の書き方』精読 1	論文とは
第 5 回	『論文の書き方』精読 2	伝わる文章
第 6 回	レジュメの切り方	レジュメとは
第 7 回	図書館ガイダンス	法政大学図書館を使いこなす
第 8 回	キャリアガイダンス	自己分析とキャリア形成
第 9 回	レポートの書き方	レポートの構成
第 10 回	研究発表 1	各自任意のテーマで発表（第 1 グループ）
第 11 回	研究発表 2	各自任意のテーマで発表（第 2 グループ）
第 12 回	研究発表 3	各自任意のテーマで発表（第 3 グループ）
第 13 回	研究発表 4	各自任意のテーマで発表（第 4 グループ）
第 14 回	まとめ	ゼミ・卒業論文に向けて、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を引く癖をつけること。テキストを通読しておくこと。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
清水幾太郎『論文の書き方』（岩波新書）

【参考書】
井上ひさし『私家版日本語文法』（新潮文庫）
竹内洋『大学の下流化』（NTT 出版）など

【成績評価の方法と基準】
到達目標欄に記載した２点を評価基準としてレポート（50 %）、平常点（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
基礎的な技術から説明していきます。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies. At the end of the course, students are expected to acquire basic writing and thinking skills. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report: 50%, in class contribution 50%.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理）

2017 年度以降入学者

伊藤　達也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この科目のテーマは、いわゆる「読み、書き、ソロバン」といった、これから大学で学ぶための基礎的な事柄を習得する点にあります。現代に即して言えば「読んで、書いて、話す」+「コンピュータ（本講義では扱いません）」でしょうか。従って本授業では、大学教育において必要な「読んで、書いて、話す」知識、テクニックについてを学び、修得を目指します。

【到達目標】
　「文献や資料が適切に読めるようになること」、「プレゼンテーションが適切にできるようになること」、「文章が適切に書けること」が具体的な到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　原則としてゼミ形式で行います。従いましてゼミ生の積極的な参加が不可欠となります。ゼミ内での発表が基本となり、授業内での学生相互の意見の提出、応答が求められます。ゼミ全体のまとめとしてレポート提出を予定しており、レポートはコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	本科目の目的について説明します。
2	論文の書き方	論文作成に必要な基礎知識の解説を行います。
3	文献検索の仕方 (1)	文献の調べ方について解説します。
4	文献検索の仕方 (2)	ネット検索について学びます。
5	科学的なプレゼンテーション	プレゼンテーションの仕方にについて学びます。
6	プレゼンテーションＡ (1) －テーマ設定－	自己紹介をしながら、テーマ設定について学びます。
7	プレゼンテーションＡ (2) －ストーリー－	自己紹介をしながら、ストーリーについて学びます。
8	プレゼンテーションＡ (3) －論点のまとめ方－	自己紹介をしながら、論点のまとめ方について学びます。
9	プレゼンテーションＡ (4) －振り返っての討論－	自己紹介の内容について討論をします。
10	プレゼンテーションＢ (1) －資料の提示－	テーマ発表をした上で、資料やデータの整理と解析の方法を学びます。
11	プレゼンテーションＢ (2) －引用の仕方－	テーマ発表をした上で、プレゼン時の引用の仕方について学びます。
12	プレゼンテーションＢ (3) －論理の展開－	テーマ発表をした上で、論理的な文章の書き方について学びます。
13	プレゼンテーションＢ (4) －わかりやすさ－	テーマ発表をした上で、レポートのわかりやすさについて学びます。
14	プレゼンテーションＢ (5) －振り返っての討論－	テーマ発表の内容について討論をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回の授業で課される事柄を次週までの間に調べておいてください。各自の発表を丹念に行うとともに、他人の発表へのコメントを欠かさず行うための準備も必要です。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを用いた文献紹介も考えています。その際は授業中に紹介します。

【参考書】
　講義の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　各発表による評価 50 %、講義への参加度 50 %で行います。ゼミ形式の科目なので通常の試験は実施しません。毎回、ゼミに参加し、内容の理解に努め、討論に参加してください。

【学生の意見等からの気づき】
　わかりやすいしゃべり方を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
　パワーポイントを使用します。

【その他の重要事項】
　とくにありません。

【Outline (in English)】
(Course outline) (Learning Objectives) The theme of this course is to learn the basics for studying at university, such as so-called "reading, writing, and abacus." In modern times, it would be "reading, writing, speaking" + "computer (not covered in this lecture)". Therefore, in this class, we aim to learn and master the knowledge and techniques of "reading, writing, and speaking" that are necessary for university education.
(Learning activities outside of classroom) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy) 50% evaluation for each presentation and 50% participation in lectures. Since this is a seminar-style course, there will be no regular exams. Please participate in each seminar, try to understand the content, and participate in the discussion.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理）

2017 年度以降入学者

米家　志乃布

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは，大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】
このゼミでは，専門ゼミに入る前段階として，大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集の仕方や文献の読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
具体的な内容として、図書館での文献検索の実習、文献の収集方法、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。大学生として、主体的に各課題に取り込んでください。課題については、Google クラスルームにすべてアップし、受講生で共有します（紙での配布はしません）。クラスルームにアップされた課題の内容に対しては、教員よりコメントを付し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方法、受講者による自己紹介など
第 2 回	文献検索の方法	図書館での実習
第 3 回	フィールドワーク	大学周辺の巡検（江戸東京を学ぶ）
第 4 回	テキストの要約１～３	稲作と農村・すし飯と調味料・茶とダシの文化的景観
第 5 回	文献の要約４～５	漬物と多様な発酵食品・干し柿と干物
第 6 回	文献の要約６～７	果物と堅果・いろいろな畑と養殖
第 7 回	文献の要約８～９	ブドウ園とワイナリーの文化的景観・文化的景観が意味するもの
第 8 回	問題意識とテーマ設定	「東京」を研究対象として、問題意識をもち、地理学的なテーマ設定を行う。
第 9 回	プレゼンテーションの練習①	東京の地形、気候、植生など自然地理グループの発表
第 10 回	プレゼンテーションの練習②	東京の工業、商業、農業など経済グループの発表
第 11 回	プレゼンテーションの練習③	江戸や東京の名所、東京の衣食住など歴史文化グループ
第 12 回	プレゼンテーションの練習④	東京の環境問題、都市問題など社会グループ
第 13 回	プレゼンテーションの練習⑤	東京における余暇活動、レジャーなど観光グループ
第 14 回	最終レポートの作成	レポートの書き方・まとめ方を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金田章裕『和食の地理学- あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020 年

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート 25 %、プレゼンテーション 25 %

【学生の意見等からの気づき】
各自のテーマ設定を「東京」を地理学的に分析するかたちで統一したところ、テーマが設定しやすくて好評でしたので引き続きそのかたちで行います。

【学生が準備すべき機器他】
Google クラスルームでの資料配信を行い、共有します。紙では配布しません。パワーポイントの作成もします。必ず各自で PC やタブレットなどの機器類を準備してください（スマートフォンでは対応しきれません）。

【Outline (in English)】
This course examines academic skills for studying in university.
The main purpose is collecting information presentation skills and writing papers.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理）

2017 年度以降入学者

山口　隆子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学では、高校までの受け身の学習とは異なり、自ら能動的に学ぶ姿勢が求められます。つまり、学習に必要な情報収集や情報発信に関わる能力や積極的に自ら学習する意欲が必要です。本授業のテーマは、大学生として必要な学習スキルの修得です。

【到達目標】
大学生として必要な学習スキルを身につけることが目標です。具体的には、文献収集や読み方、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方などを修得することが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文献検索の実習、文献の収集、文献の読み方と内容の要約、テーマに沿ったプレゼンテーションの練習、レポートの作成方法などを学習します。
提出されたリアクションペーパーやレポートには、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに～ガイダンス	授業内容の説明、成績評価の方針、受講者による自己紹介など
第 2 回	大学での学びとは	大学で学ぶことの意味を考える。
第 3 回	キャンパス探検	キャンパス内及び周辺を、地図を片手に歩く。
第 4 回	図書館ガイダンス	情報検索や図書検索の方法などを学習します。
第 5 回	雑誌論文と専門書	地理学科図書室で専門書や雑誌論文を手に取ってみます。
第 6 回	レポートの書き方①書式について	レポートを書くための基本的スキル（書式）を学習します。
第 7 回	レポートの書き方②内容について	レポートを書くための基本的スキル（内容構成）を学習します。
第 8 回	レポートの作成①資料収集方法	実際にレポートを作成してみます。そのための資料探しから始めます。
第 9 回	レポートの作成② Word の使用方法	レポートを書いてみます。
第 10 回	プレゼンテーション① PowerPoint の使用方法	プレゼンテーションの基礎的技法について解説する。
第 11 回	プレゼンテーション② 第 1 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 1～8
第 12 回	プレゼンテーション③ 第 2 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 9～18
第 13 回	プレゼンテーション④ 第 3 回	作成したレポートにそって各自プレゼンテーションを行う。出席番号 19～25
第 14 回	卒業後の進路	本授業のまとめと、卒業後の進路について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『学習支援ハンドブック 2023』を使用する。

【参考書】
小笠原喜康（2018）：『最新版　大学生のためのレポート・論文術』. 講談社現代新書, 234p.
田中研之輔（2017）：『先生は教えてくれない大学のトリセツ』. ちくまプリマー新書, 204p.
トミヤマユキコ・清田隆之（2017）：『大学 1 年生の歩き方』. 左右社, 175p.
木下是雄（1981）：『理科系の作文技術』. 中公新書, 244p.
野間春雄ほか編著（2017）：『ジオ・パル NEO[第 2 版]:地理学・地域調査便利帖』. 海青社, 286p.
沼崎一郎（2018）：『はじめての研究レポート作成術』. 岩波書店, 242p.
高橋佑磨・片山なつ (2016)：『伝わるデザインの基本 増補改訂版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』. 技術評論社, 240p.
宮野公樹 (2013)：『研究発表のためのスライドデザイン』. 講談社, 176p.

【成績評価の方法と基準】
到達目標欄に記載した各目的の達成度を評価基準とし、次の要素配分で評価を行う。
レポート・課題： 50 %、発表： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
指示された授業時に個人用のパソコン（個人所持のもの、あるいは大学からの貸し出しパソコン）を用意すること。

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として 20 年間勤務していた経験を活かし、大学での学びから就職に関するライフサイクルについて講義していきます。

【Outline (in English)】
The theme of this class is the acquisition of learning skills necessary for university students.
The goal is to acquire the study skills necessary to be a university student. Specifically, the goal is to master how to collect and read literature, how to give presentations, and how to write reports.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Some practical assignments may be given in each lecture, so students are expected to fulfill them in their home study and attend the class.
Final grade will be calculated according to the following Mid-term reports(50%), and assignments in the lecture(50%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・地理）

2017 年度以降入学者

宇津川　喬子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学びを深めるために適切な文献資料とはどのようなものかを考え、大学での能動的な学びに欠かせない基礎的なスキルである「文献資料の収集・読解・まとめ」の修得を目指す。

【到達目標】
求められている問に対して適切な文献資料を探し出し、資料の内容を他の資料を用いたり比較したりしながら理解した上で、他者にわかりやすいかたちでまとめて表現することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート・ポスター作成やプレゼンテーションについて学ぶ。本授業では特に新聞を教材として用いる（紙媒体だけではなくオンラインデータベースやインターネット記事も扱う）。提出された課題に対するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・自己紹介	授業の概要、計画、評価方法等を説明し、自己紹介をしてもらう。
第 2 回	メディアとは	身の回りのメディアについて考える。
第 3 回	大学図書館ガイダンス	情報検索や文献資料検索の利用方法を学ぶ。
第 4 回	文章をまとめる	様々な文章を用いて要約について学ぶ。
第 5 回	記事読みくらべ（1）検索と収集	新聞のオンラインデータベース等を用いて複数社の記事を集める。
第 6 回	記事読みくらべ（2）読解	記事を読み深めるために必要な他の文献を用いながら要約する。
第 7 回	記事読みくらべ（3）まとめ	要約した内容をグループ内で共有し、メンバーからの質疑を踏まえてさらに読み深める。
第 8 回	レポートの作成	レポートを作成するための基本的なスキルを学び、第５回～第７回の内容を基に構成を考えてみる。
第 9 回	テーマのある読みくらべ（1）検索と収集	グループでテーマをひとつ選び、読みくらべのできるトピックを探す。
第 10 回	テーマのある読みくらべ（2）読解	グループ内で記事の読みくらべを行い、ディスカッションを行う。
第 11 回	ポスターの作成（1）	ポスターを作成するための基本的なスキルを学び、第９回～第１１回の内容を用いてグループで作成する。
第 12 回	ポスターの作成（2）	前回に続けてポスターを作成し、プレゼンテーションの準備を進める。
第 13 回	ポスター発表	グループごとに、作成したポスターを用いてプレゼンテーションを行う。
第 14 回	ディベート大会	クラス内で複数のテーマについてディベートを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献収集や発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。授業資料は適宜 Hoppii で公開する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時の取組（30 %：積極性やコメントシートの内容）と課題（70 %：レポート 50 %、ポスター 20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンラインデータベースへのアクセスやグループ活動のために、インターネットに接続できるノート PC かタブレット（※特に PowerPoint インストール済み）が持参できることが望ましい。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This course deals with learning of basic skills required for university student; literature search, reading and presentation.
Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the quality of the student's performance and presentation (30%) and short tasks (report 50%, poster 20%).

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理）

2017 年度以降入学者

藤田　哲也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミⅠでは，受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な，様々な学習スキル（技能）の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し，将来，社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では，大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに，社会に出てからも必要とされる，情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や，他者とのコミュニケーション能力などのスキルと，積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として，「自分自身で必要な情報を判断した上で，時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。

2. 情報の内容理解として，「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。

3. 情報発信能力として，「第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。

4. コミュニケーション能力として，「相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができる」。

5. 積極的に活動する態度として，「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で，授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために，「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために，授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また，自分の課題を客観的に捉えるために，他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため，毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと，予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル，たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし，教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは，大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても，みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し，時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは，社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても，みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で，高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し，積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために，授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて，自分に不足している点や誤解していた点に，たくさん気づくことができるでしょう。また，課題に取り組む際には，他の受講生とペアを組み，お互いに意見交換したり，課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で，自分の意見を短時間で的確に述べたり，相手に理解できるように説明をしたり，相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという，コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって，この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは，単に教室に足を運ぶだけのことではなくて，十分に予習や復習をした上で授業に出席し，授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり，課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には，授業内でのペアワークに参加できないこともありますので，継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また，授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし，授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し，自分なりに説明できるようになる	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1 高校と大学の授業の違いをふまえ，ノートの取り方を工夫できるようになる	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2 ノートを取る目的を説明でき，多様な授業に対応するための観点を得る	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第 4 回	初年次教育とは 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方 読解を困難にする要因を理解し，文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと，弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方 元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し，実践できるようになる	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2 自分の意見を持ち，適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる	深く広く考えるためのブレーンストーミングなどの手法の実践

第 9 回	図書館の利用 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し，適切に蔵書検索できるようになる	PC を利用した情報検索法と，図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1 レポートと作文の違いを説明でき，事実と意見を書き分けられるようになる	大学レポートが要求すること，基本的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2 効率的なレポート作成手順を理解し，出題意図の読み取りができるようになる	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成，宿題に対する添削
第 12 回	レポート提出と自己評価 レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	ここまでの総括 基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り，今後の学びの方向性を考える	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第 14 回	レポート返却 レポート自己評価の基準を適切に修正し，内化する	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は，各 2 時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第１回　教科書第 0 講の予習
第２回　教科書第 1 講の予習とノートの見直し
第３回　教科書第 2 講の予習と，ノートの整理
第４回　教科書補講の予習とこれまでの総復習
第５回　教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
第６回　教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
第７回　教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
第８回　教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
第９回　教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
第 10 回　教科書第 7 講の予習・第 9 回宿題見直し
第 11 回　教科書第 8 講の予習・練習課題直し
第 12 回　レポート作成・春学期総復習
第 13 回　「気づき振り返りシート」作成
第 14 回　これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也 (編)(2006).「大学基礎講座　改増版　－充実した大学生活をおくるために－」，北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや，授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業 1 回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。この平常点は到達目標の 1，4，5 と対応します。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて，「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し，提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ，自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の 2，3 と対応します。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので，あまり詳しいことはここには書きませんが，「適切な情報を検索し，内容を吟味して，指定字数で要約し，引用できること」，「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」，「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」，「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に，計 40 点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の 2，3，4 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケート，W クラスと X クラスを合わせてコメントします：「履修してよかった」は 1 限は 4.16，2 限は 4.28 で，及第点ではありますが，例年に比べればやや低めの印象でした。1 限のほうが 2 限に比べて「授業外学習時間（予習）」の最頻値が週 30 分～1 時間と低めで，それに連動して理解度もやや低かったので，予習の効果についてもっと実感してもらえるよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので，その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので，受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.

2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.

3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.

4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.

5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理）

2017 年度以降入学者

藤田　哲也

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の基礎ゼミ II では，班活動を主体として，情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが，この授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて，積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って，必要な情報を集め，それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く，かつ，読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ，実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち，理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき，それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し，適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために，受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた，班での協同作業（グループワーク）が多いので，毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には，4〜6 人の班ごとに，「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に，“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば，“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが，それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく，発表および発表の準備を通じて，上記の到達目標を達成することが，あくまでも主眼となります。

したがって，この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には，単に教室に足を運ぶだけのことではなくて，十分に予習や復習をした上で授業に出席し，班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと，そして実際に発表をすること，他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお，発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので，よく理解し，準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また，授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし，授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し，自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標，班活動の意義と協同学習，授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する，班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認，班活動ウォーミングアップ，班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する，各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理，班活動のトレーニング，発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる，卒論に対する具体的イメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要，二年次の演習 I 履修について，卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる，構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動，構想発表と本発表について，班活動
第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる，構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動，発表順の決定，発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる，構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成），発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す，他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表，観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す，他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表，観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し，第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて，内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる，他班に適切にコメントできる	本発表，観点別評価とコメント作成

第 13 回	本発表 2 発表について，他班に評価を積極的にフィードバックし，適切に自己評価できる	本発表，観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り，自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り，春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも，以前の授業内容の復習も行いましょう。

第１回　班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
第２回　次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために，情報を集めたり，原案を作成する
第３回　「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
第４回　演習 I 履修手続きの確認と，教科書第 9 講の予習
第５回　班ごとに各自が行うべきことを明確にし，個人の責任を果たすことと，教科書第 10 講の予習
第６回　次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
第７回　レジュメの印刷原版を完成させ，指定された日時までに提出する，発表の練習
第８回　既発表班は構想の見直し，未発表班は発表の練習
第９回　本発表に向けて構想の練り直し
第 10 回　本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て，個人の責任を果たす
第 11 回　レジュメの印刷原版を完成させ，指定された日時までに提出する，発表の練習
第 12 回　既発表班は構想の見直し，未発表班は発表の練習
第 13 回　仮にもう一度発表の機会があったとしたら，どこを改善すべきかを整理する
第 14 回　一年間この授業で学んできたことを，二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也 (編)(2006).「大学基礎講座　改増版　－充実した大学生活をおくるために－」，北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり，他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の 1，5 と対応します。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して，「発表の内容」，「レジュメ」，「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の 2，3，4，5 と対応します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し，貢献できたかについて評価します。具体的には，班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に，授業内における班活動への参加率を乗じたものを，各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の 1 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

W クラスと X クラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：W で 7 名，X で 5 名が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。全体的には肯定的な受け止めをしてくれたのだと思いますが，少なからず「よくなかった」と評価してくれた人もいました。自由記述を読む限り，否定的な評価の原因は「発表準備の負担が大きかった」ということに集約されそうです。例年は，そういった意見はほとんど出てこないことを考えると悩ましいところです。というのは，今年度の発表の成果は例年以上に充実していたと思っているのですが，その背後には受講生のみんなの例年以上の準備にかける時間と労力があったことを意味するのだと思うからです。発表準備過程で負担を感じたという事実は受け止めつつ，一方で，そう感じるまで手を抜かずにしっかり準備に臨んでくれたことを頼もしく感じる側面もあります。ともあれ，大枠では肯定的な人のほうが多かったことも踏まえて，次年度も同じ発表課題で授業を進めようと思っています。「負担が大きすぎる」という意見がもっと多くなったら進め方を再考してみます。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので，受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.

2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.

3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.

4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.

5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（文・心理）

2017 年度以降入学者

藤田　哲也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミⅠでは，受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な，様々な学習スキル（技能）の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し，将来，社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では，大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに，社会に出てからも必要とされる，情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や，他者とのコミュニケーション能力などのスキルと，積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として，「自分自身で必要な情報を判断した上で，時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。

2. 情報の内容理解として，「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。

3. 情報発信能力として，「第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。

4. コミュニケーション能力として，「相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができる」。

5. 積極的に活動する態度として，「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で，授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために，「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために，授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また，自分の課題を客観的に捉えるために，他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため，毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと，予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル，たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし，教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは，大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても，みなさん自身がどこが重要なのかを自分で判断し，時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは，社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても，みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で，高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し，積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために，授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて，自分に不足している点や誤解していた点に，たくさん気づくことができるでしょう。また，課題に取り組む際には，他の受講生とペアを組み，お互いに意見交換したり，課題の評価をしあう機会を設けます。こうしたペアワークの中で，自分の意見を短時間で的確に述べたり，相手に理解できるように説明をしたり，相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという，コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって，この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加とは，単に教室に足を運ぶだけのことではなくて，十分に予習や復習をした上で授業に出席し，授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり，課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には，授業内でのペアワークに参加できないこともありますので，継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また，授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし，授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し，自分なりに説明できるようになる	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1 高校と大学の授業の違いをふまえ，ノートの取り方を工夫できるようになる	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2 ノートを取る目的を説明でき，多様な授業に対応するための観点を得る	前回のノートに対する自己評価と「役立つノート」の必要条件
第 4 回	初年次教育とは 「大学生」である自分が社会から求められていることを説明できるようになる	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方 読解を困難にする要因を理解し，文章の基礎的構成法を自分が書く場面に応用できるようになる	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと，弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方 元の文章からの抜粋でなく内容理解を前提とした要約が書けるようになる	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1 情報を鵜呑みにせず吟味する態度の必要性を理解し，実践できるようになる	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2 自分の意見を持ち，適切に表現するための基本テクニックを使えるようになる	深く広く考えるためのブレーンストーミングなどの手法の実践

第 9 回	図書館の利用 高校の図書室と大学図書館の違いを理解し，適切に蔵書検索できるようになる	PC を利用した情報検索法と，図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1 レポートと作文の違いを説明でき，事実と意見を書き分けられるようになる	大学レポートが要求すること，基本的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2 効率的なレポート作成手順を理解し，出題意図の読み取りができるようになる	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成，宿題に対する添削
第 12 回	レポート提出と自己評価 レポート評価基準を理解し作成過程を振り返り自分の問題点に気づく	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	ここまでの総括 基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り，今後の学びの方向性を考える	これまでの授業内での「気づき」の総点検と新たな「気づき」
第 14 回	レポート返却 レポート自己評価の基準を適切に修正し，内化する	自己評価と教員評価の比較と自己評価基準の修正の必要性の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は，各 2 時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第１回　教科書第 0 講の予習
第２回　教科書第 1 講の予習とノートの見直し
第３回　教科書第 2 講の予習と，ノートの整理
第４回　教科書補講の予習とこれまでの総復習
第５回　教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
第６回　教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
第７回　教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
第８回　教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
第９回　教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
第 10 回　教科書第 7 講の予習・第 9 回宿題見直し
第 11 回　教科書第 8 講の予習・練習課題直し
第 12 回　レポート作成・春学期総復習
第 13 回　「気づき振り返りシート」作成
第 14 回　これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也 (編)(2006).「大学基礎講座　改増版　－充実した大学生活をおくるために－」，北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや，授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業 1 回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は-2 点です。この平常点は到達目標の 1，4，5 と対応します。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて，「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し，提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ，自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の 2，3 と対応します。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので，あまり詳しいことはここには書きませんが，「適切な情報を検索し，内容を吟味して，指定字数で要約し，引用できること」，「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」，「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」，「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に，計 40 点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の 2，3，4 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度の授業改善アンケート，W クラスと X クラスを合わせてコメントします：「履修してよかった」は 1 限は 4.16，2 限は 4.28 で，及第点ではありますが，例年に比べればやや低めの印象でした。1 限のほうが 2 限に比べて「授業外学習時間（予習）」の最頻値が週 30 分～1 時間と低めで，それに連動して理解度もやや低かったので，予習の効果についてもっと実感してもらえるよう工夫したいと思います。レポートの書き方を中心として授業内容については満足度が高かったようですので，その点はさらに工夫を重ねて理解度を高めたいです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので，受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.
[Learning Objectives]
By the end of the course, students should be able to do the following:
1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
The overall grade of the class is determined based on the following.
In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・心理）

2017 年度以降入学者

藤田　哲也

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
定員制（40 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の基礎ゼミ II では，班活動を主体として，情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが，この授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて，積極的・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って，必要な情報を集め，それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く，かつ，読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ，実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち，理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき，それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し，適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】
上記の到達目標を達成するために，受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた，班での協同作業（グループワーク）が多いので，毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には，4〜6 人の班ごとに，「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に，“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば，“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表（プレゼンテーション）を行うというプロジェクト型学習（PBL）に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが，それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく，発表および発表の準備を通じて，上記の到達目標を達成することが，あくまでも主眼となります。

したがって，この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には，単に教室に足を運ぶだけのことではなくて，十分に予習や復習をした上で授業に出席し，班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと，そして実際に発表をすること，他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお，発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨（発表に求められていること）は異なりますので，よく理解し，準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また，授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし，授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し，自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標，班活動の意義と協同学習，授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する，班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認，班活動ウォーミングアップ，班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を実践する，各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理，班活動のトレーニング，発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる，卒論に対する具体的イメージを持つ	二年次以降のカリキュラムの概要，二年次の演習 I 履修について，卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる，構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動，構想発表と本発表について，班活動
第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる，構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動，発表順の決定，発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる，構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成），発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す，他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表，観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す，他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表，観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し，第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて，内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に挙げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる，他班に適切にコメントできる	本発表，観点別評価とコメント作成

第 13 回	本発表 2 発表について，他班に評価を積極的にフィードバックし，適切に自己評価できる	本発表，観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り，自分にとっての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り，春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも，以前の授業内容の復習も行いましょう。

第１回　班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
第２回　次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために，情報を集めたり，原案を作成する
第３回　「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
第４回　演習 I 履修手続きの確認と，教科書第 9 講の予習
第５回　班ごとに各自が行うべきことを明確にし，個人の責任を果たすことと，教科書第 10 講の予習
第６回　次回の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
第７回　レジュメの印刷原版を完成させ，指定された日時までに提出する，発表の練習
第８回　既発表班は構想の見直し，未発表班は発表の練習
第９回　本発表に向けて構想の練り直し
第 10 回　本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て，個人の責任を果たす
第 11 回　レジュメの印刷原版を完成させ，指定された日時までに提出する，発表の練習
第 12 回　既発表班は構想の見直し，未発表班は発表の練習
第 13 回　仮にもう一度発表の機会があったとしたら，どこを改善すべきかを整理する
第 14 回　一年間この授業で学んできたことを，二年次以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也 (編)(2006).「大学基礎講座　改増版　－充実した大学生活をおくるために－」，北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを，授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…授業へ出席し積極的に班活動に参加したり，他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者，半期中に通算で 5 回欠席した者は，それ以後の授業への参加を認めず，E 評価（未受験）とします。平常点として，授業一回につき+4 点を加算し，上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の 1，5 と対応します。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して，「発表の内容」，「レジュメ」，「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の 2，3，4，5 と対応します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し，貢献できたかについて評価します。具体的には，班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に，授業内における班活動への参加率を乗じたものを，各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の 1 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

W クラスと X クラスについて同内容の授業なのでまとめてコメントします：W で 7 名，X で 5 名が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。全体的には肯定的な受け止めをしてくれたのだと思いますが，少なからず「よくなかった」と評価してくれた人もいました。自由記述を読む限り，否定的な評価の原因は「発表準備の負担が大きかった」ということに集約されそうです。例年は，そういった意見はほとんど出てこないことを考えると悩ましいところです。というのは，今年度の発表の成果は例年以上に充実していたと思っているのですが，その背後には受講生のみんなの例年以上の準備にかける時間と労力があったことを意味するのだと思うからです。発表準備過程で負担を感じたという事実は受け止めつつ，一方で，そう感じるまで手を抜かずにしっかり準備に臨んでくれたことを頼もしく感じる側面もあります。ともあれ，大枠では肯定的な人のほうが多かったことも踏まえて，次年度も同じ発表課題で授業を進めようと思っています。「負担が大きすぎる」という意見がもっと多くなったら進め方を再考してみます。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので，受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.

2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.

3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.

4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.

5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100LA

基礎ゼミⅠ（法文営）

2017 年度以降入学者

近江屋　志穂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レポートや論文の書き方を学びます。

【到達目標】
・レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。
・論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。
・正しく読みやすい文章が書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
講義とワークが中心です。春学期を通して段階的に一つのレポートを完成させていきます。その過程で、学習支援システムを通じて適宜フィードバックを行います。提出してもらったレポートは返却し、一人一人に改善すべき点を伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明
2 回目	レポートの文章技術	講義と演習
3 回目	根拠となる事柄	講義と演習
4 回目	レポートの形式	講義と演習
5 回目	アイディアの出し方	講義と演習
6 回目	アウトラインのつくり方	図書館でガイダンス受講
7 回目	図書館ガイダンス	講義と演習
8 回目	資料を探しながらアウトラインをつくる	講義と演習
9 回目	資料に基づいてアウトラインを書く	講義と演習
10 回目	引用のルール	講義と演習
11 回目	他人の言葉を根拠にして自分の意見を述べる	講義と演習
12 回目	論証のしかた	講義と演習
13 回目	提出前の確認	説明とワーク、およびレポートの提出
14 回目	レポート返却	レポート課題へのコメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期中に一つのレポートを完成させるために、授業内に終わらなかった作業は授業時間外に済ませてください。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『学生による学生のためのダメレポート脱出法』、慶応義塾大学出版会、2015 年（1200 円＋税）

【参考書】
・木下是雄『レポートの組み立てかた』、ちくまライブラリー 36、筑摩書房、1990 年
・『法政大学　学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
Word を使ってワークを行います。数回の授業にわたって同じ課題に取り組みますので、前回の続きから作業ができるよう、課題を自分で保存するようにしてください。

【Outline (in English)】
A guide to how to write an essay in Japanese.
By the end of the course, students should be able to write in a clear and logical manner.
After each class, students will be expected to spend at least two hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Essay : 50 %, in-class contribution : 50%.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（法文営）

2017 年度以降入学者

近江屋　志穂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（30 名）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・プレゼンテーションのしかたを学びます。
・春学期の補足として、様々なタイプのアウトラインの作りかた、資料の「総括」のしかたを学びます。（秋学期のみの受講も可能です。）

【到達目標】
・授業でプレゼンテーションをする際の準備のしかた、注意すべき点を学ぶこと。
・論理的に話すとは何かを理解すること。
・資料の総括のしかたを理解し、資料に基づいて意見を述べられるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
講義および演習です。秋学期の終わりには、課題のプレゼンテーションを行います。
課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明 プレゼンテーション全体像
2 回目	問いを立て、アイディアを出す	講義と演習
3 回目	様々なタイプのアウトライン	講義と演習
4 回目	要約のしかた	講義と演習
5 回目	総括のしかた（基本構成）	講義と演習
6 回目	総括のしかた（実践）	講義と演習
7 回目	資料を探す	講義と演習
8 回目	パワーポイントのスライドを作る	講義と演習
9 回目	人に聞いてもらえる話し方	説明と演習
10 回目	声、姿勢、ジェスチャー、空間の使い方、視線の向け方	説明と演習
11 回目	質問のしかた	説明と演習
12 回目	プレゼンテーション（第 1 グループ）	プレゼンテーションと講評
13 回目	プレゼンテーション（第 2 グループ）	プレゼンテーションと講評
14 回目	プレゼンテーションのふり返り	演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プレゼンテーションの準備・練習は授業時間外に行います。
本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大出敦編著『プレゼンテーション入門　学生のためのプレゼン上達術』慶応大学出版会、2020 年（1400 円＋税）

【参考書】
・『法政大学　学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】
理論と実践をバランス良く組み合わせるようにします。

【Outline (in English)】
A guide to how to give a presentation in Japanese.
By the end of the course, students should be able to organize and present ideas and opinions in a logical, persuasive manner.
After each class, students will be expected to spend at least two hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Presentation : 50 %, in-class contribution : 50%.

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

上西　充子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1．情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2．情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3．情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書）/ Textbooks】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年
・各クラス指定の文献

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument.　Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1.　Search and collect information relevant to your academic interests
2.　Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

渡邊　真之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書） / Textbooks】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年
・各クラス指定の文献

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

坂本　旬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書）/ Textbooks】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年
・各クラス指定の文献

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument.　Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1.　Search and collect information relevant to your academic interests
2.　Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s)：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

藤村　朝子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書） / Textbooks】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年
・各クラス指定の文献

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

有賀　ゆうアニース

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

宮下　阿子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

田口　賢太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

大倉　韻

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

木村　琢磨

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

安田　節之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
【テキスト（教科書） / Textbooks】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年
・各クラス指定の文献

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom(4 hrs).
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

井上　環

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

福井　令恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

齋藤　嘉孝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

長戸　光

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

大西　未希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

大西　未希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。
「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】
授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを，この授業の具体的な到達目標とします。
【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で，適切に収集・蓄積できるようになること。
【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。
【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで，理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。
【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り，把握した上で，自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。
　まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身で教えられる存在である「生徒」から，自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】
・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法　第３版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）： 45 %
提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】
各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】
なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】
I

【Outline (in English)】
Course outline:
At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.
Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.
Learning Objectives:
When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:
1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or
qualitative data
3.Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4.Present your opinions by listening to others and understanding their points of view
Method(s) ：

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.
Learning activities outside of classroom:
The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.
Grading Criteria /Policy:
45 points (%) for participation,class assignments,and group activities
55 points (%) for class presentation and reflection papers

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

【到達目標】
本科目では，主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．
また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします．毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います．そのため，**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください．
初心者を前提として，タイプ練習，日本語入力，ワープロソフトなどを実習していきます．また，コンピュータの基礎知識や情報倫理，情報科学の理論についても学びます．
課題のフィードバックは授業中に行います．また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします．詳細は初回授業時に告知しますので，初回授業は必ず出席してください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了，ウインドウ操作，ネチケットなど，パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する．
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する．
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う．Microsoft Excel との連動を行う事で，情報処理演習 2 の内容につなげる．
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを，Processing を使ってプログラミングし，学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し，自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して，様々な音をコンピュータで作成し，その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に，教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習　情報リテラシ [第 3 版]，重定如彦・河内谷幸子　共著，サイエンス社，1980 円

【参考書】
適時指示．なお，講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします．

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため，出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう，授業スピードや内容に心がけるつもりです．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します．履修決定後，参照できることを各自確認してください．

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み，初回授業は必ず出席すること．
出席が不可能な場合は，授業支援システムから連絡すること．

【Outline (in English)】
This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.
It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.
Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.
Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

【到達目標】
本科目では，主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．
また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします．毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います．そのため，**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください．
初心者を前提として，タイプ練習，日本語入力，ワープロソフトなどを実習していきます．また，コンピュータの基礎知識や情報倫理，情報科学の理論についても学びます．
課題のフィードバックは授業中に行います．また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします．詳細は初回授業時に告知しますので，初回授業は必ず出席してください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了，ウインドウ操作，ネチケットなど，パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する．
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する．
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う．Microsoft Excel との連動を行う事で，情報処理演習 2 の内容につなげる．
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを，Processing を使ってプログラミングし，学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し，自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して，様々な音をコンピュータで作成し，その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に，教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習　情報リテラシ [第 3 版]，重定如彦・河内谷幸子　共著，サイエンス社，1980 円

【参考書】
適時指示．なお，講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします．

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため，出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう，授業スピードや内容に心がけるつもりです．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します．履修決定後，参照できることを各自確認してください．

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み，初回授業は必ず出席すること．
出席が不可能な場合は，授業支援システムから連絡すること．

【Outline (in English)】
This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.
It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.
Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.
Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

【到達目標】
本科目では，主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．
また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします．毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います．そのため，**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください．
初心者を前提として，タイプ練習，日本語入力，ワープロソフトなどを実習していきます．また，コンピュータの基礎知識や情報倫理，情報科学の理論についても学びます．
課題のフィードバックは授業中に行います．また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします．詳細は初回授業時に告知しますので，初回授業は必ず出席してください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了，ウインドウ操作，ネチケットなど，パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する．
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する．
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う．Microsoft Excel との連動を行う事で，情報処理演習 2 の内容につなげる．
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを，Processing を使ってプログラミングし，学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し，自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して，様々な音をコンピュータで作成し，その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に，教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習　情報リテラシ [第 3 版]，重定如彦・河内谷幸子　共著，サイエンス社，1980 円

【参考書】
適時指示．なお，講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします．

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため，出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう，授業スピードや内容に心がけるつもりです．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します．履修決定後，参照できることを各自確認してください．

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み，初回授業は必ず出席すること．
出席が不可能な場合は，授業支援システムから連絡すること．

【Outline (in English)】
This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.
It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.
Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.
Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは，様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです．また，高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため，不足分を補充し，さらに情報科学の理論へと導いていきます．

【到達目標】
本科目では，主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます．一般的な文章だけでなく，図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります．具体的には，文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます．
授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが，本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です．例えば課題が出されたときに，単に基準を満たすものを提出するだけでなく，自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます．
また，簡単なプログラムを通して，論理的に思考する事を身につけてもらいます．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
本科目は対面授業を基本とします．毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います．そのため，**学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認**しておいてください．
初心者を前提として，タイプ練習，日本語入力，ワープロソフトなどを実習していきます．また，コンピュータの基礎知識や情報倫理，情報科学の理論についても学びます．
課題のフィードバックは授業中に行います．また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします．詳細は初回授業時に告知しますので，初回授業は必ず出席してください．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了，ウインドウ操作，ネチケットなど，パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う
第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する．
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する．
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う．Microsoft Excel との連動を行う事で，情報処理演習 2 の内容につなげる．
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを，Processing を使ってプログラミングし，学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し，自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して，様々な音をコンピュータで作成し，その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に，教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習　情報リテラシ [第 3 版]，重定如彦・河内谷幸子　共著，サイエンス社，1980 円

【参考書】
適時指示．なお，講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします．

【成績評価の方法と基準】
平常点（20%），レポート課題（80%）を総合して評価します．特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し，期限を守る事．3〜4 回ほどを予定．

【学生の意見等からの気づき】
パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため，出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう，授業スピードや内容に心がけるつもりです．

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用します．履修決定後，参照できることを各自確認してください．

【その他の重要事項】
上記【授業の進め方と方法】を良く読み，初回授業は必ず出席すること．
出席が不可能な場合は，授業支援システムから連絡すること．

【Outline (in English)】
This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.
It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.
Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.
Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】
情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。
なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ
第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの概念を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】
コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】
情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】
The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.
In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】
情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。
なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ
第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの概念を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に指示します。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】
コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】
情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】
The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.
In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。
初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。
対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法ついて実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーック機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】
実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】
コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】
This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.
The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.
It takes 2 hours to prepare/review.
You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】
大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。
なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します.

【参考書】
実習情報リテラシ（サイエンス社）
Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、期末試験 70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
Ⅰ・Ⅱがセットになっている講義ですが、特にⅠ期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】
教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】
The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】
大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。
課題のフィードバックは授業中に行います。
なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します.

【参考書】
実習情報リテラシ（サイエンス社）
Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、期末試験 70%をあわせた成績により評価します。
平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。
期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
Ⅰ・Ⅱがセットになっている講義ですが、特にⅠ期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】
教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】
The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定　如彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, an to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.
Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.
If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.
It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定　如彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, an to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.
Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.
If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.
It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Distribution.
10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。
初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。
対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法ついて実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーック機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】
実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】
コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】
This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.
The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.
It takes 2 hours to prepare/review.
You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。
初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】
他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。
表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。
基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。
対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法ついて実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーック機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】
実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】
コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】
This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.
The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.
It takes 2 hours to prepare/review.
You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、￥1,950 ＋税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、￥1,950 ＋税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、￥1,950 ＋税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶　厚

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】
コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、￥1,950 ＋税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】
ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】
各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】
この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】
This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星　善光

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】
一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、ＧＵＩの操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Windows 操作及びウェブブラウザ操作の基礎	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 4 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 5 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 6 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 7 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に、ログインＩＤとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】
「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
課題（70%）、小テスト（30 %）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】
In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星　善光

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】
一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】
講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、ＧＵＩの操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Windows 操作及びウェブブラウザ操作の基礎	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 4 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 5 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 6 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 7 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回の授業の前に、ログインＩＤとパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】
「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
課題（70%）、小テスト（30 %）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】
In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

色川　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

色川　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

四手井　綱章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

四手井　綱章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー Ⅰ

2017 年度以降入学者

重定　如彦

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】
コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 3 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 4 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 5 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 7 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログ、著作権、2 進数について学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータその 2	様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウィルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」　久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.
It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.
Evaluation Criteria
Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.
The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

色川　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

色川　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

四手井　綱章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

中村　文隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

四手井　綱章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

重定　如彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】
情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】
基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。
授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。
資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサーその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサーその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサーその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサーその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサーその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
「実習情報リテラシ　第 3 版」　重定、河内谷　著　サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】
「キーワードで理解する最新情報リテラシー　第 2 版」久野、辰巳、佐藤　監修　日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」　入戸野、重定、児玉、河内谷　著　サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
「配分」
平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】
情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】
Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.
When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.
Distribution.
Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.
Evaluation Criteria
Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.
Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.
The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

大間　哲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生にとって、情報技術の習得は必須と言えます。むしろ、理系や経済学部等の学生だけではなく、キャリアデザイン学部等の学生にとってこそ大切でしょう。それは、皆さんが、プログラミングなどの IT の専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い知識を専門的に扱うために、パソコンやネットの情報を「道具として」使いこなすことが求められるからです。
そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」には置きません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。
情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになっても、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して見つけられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的使用方法を習得します。
同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。
＜オンラインでの開講について＞
2 月現在、大学の方針では対面授業が可能（※）ですので、原則対面授業とします。ただし、万が一新型コロナ等の感染状況の悪化でオンラインを余儀なくされた場合や、皆さんの学習環境や興味によっては、オンラインミーティングの学習のために、敢えて一部の授業回をオンラインで開講する可能性もあります。
ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、上記の目的が変わることはありません。
※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】
Windows 環境で基礎的な PC リテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office（Word・Excel・PowerPoint）や Google の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。その際には、従来の Google 等の検索方法に加え、ChatGPT 等の AI チャットボットの適切な利用方法についても、言及する予定です。
＜オンライン開講について＞
前述のとおり、もし授業がオンラインでの開講になっても、授業の目的や到達目標が変わることはありません。ただし、環境が整わない場合などは、基本操作を実際に演習することが困難な場合があり得ます。そのため、学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能なようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
(1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。
(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。
時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。
※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的には Web を利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身に着くように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。
＜オンラインでの開講になった場合＞
万が一、オンライン開講を余儀なくされた場合などは、その時々の状況に合わせ授業計画を柔軟に変更していかなくてはならなくなります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。授業開始日前に学習支援システムを確認してください。
また、オンライン開講をする場合でも、原則授業時間は対面授業と同じ時間にリアルタイムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Windows の基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 情報教室 PC へのログイン方法の確認。自身の PC を使用する場合、使い方の確認。 WindowsPC の基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。
第 2 回	電子メールとネットの基本 USB メモリの取扱方法 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較。 USB メモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第 3 回	Zoom の基本操作 ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用	オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。 ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox の利用と、注意点。
第 4 回	Word(1)	教科書によるネットリテラシーの復習。 Windows の基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、 フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。

第 5 回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Word で絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・ 脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excel でできることを知る（頭出し）
第 6 回	Word(3) Excel(1)	脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第 7 回	Excel(2)	計算式や関数の基本的な使い方。 見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。
第 8 回	Excel(3)	Excel でグラフを作成する。 Excel の表やグラフを Word に貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第 9 回	Excel(4)	Excel でのリスト管理（データベース）。 Excel とワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第 10 回	PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としての PowerPoint ファイルの作成。
第 11 回	PowerPoint(2)	簡易 DTP としての PowerPoint の利用。 Word Excel との連携。
第 12 回	Offcei ソフト綜合演習	Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第 13 回	Google のサービスと Office ソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題を行う。
第 14 回	総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021 対応版-』 矢野文彦 著　オーム社 （定価：本体 2090 円）
（『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）

【参考書】
・『情報処理エンジニア職業ガイド　– プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体 1800 円）
・『レポート・論文作成法』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
・法政大学『学習支援ハンドブック』 http://www.hoseikyoiku.jp/lf/（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代も含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。
・授業内の講義と演習への参加（配点比重 50%）
・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について 0 点。提出遅れは減点）（配点比重 30%）
・総合課題（配点比重 20%）
※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】
・読まなければならない授業内容の説明が多いという意見があったので、授業内容のレジュメの量を減らし、口頭での説明の比率を上げます。
・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・初回参加時までに、このシラバスを良く読んでおくこと。
・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅からのネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、対面授業の時にも自身のパソコンを持参することを推奨する（必須ではありません）。
・自身のパソコンを持参しない場合は、8GB 以上の容量の USB メモリーを入手し持参すること。

【その他の重要事項】
・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.
< Learning Objectives >
The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.
< Learning activities outside of classroom >
Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.
The learning time outside of classroom should be at least four hours per class.
< Grading Criteria /Policy >
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end assignment:20%, Every class assignments:30%, In class contribution:50%.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤　信雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザーの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】
コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。
実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基礎。インターネットブラウザーを使った、WWW（Web）の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算（Microsoft Excel）	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算（MS Excel）、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサーソフト（WS Word）	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサーソフト（WS Word）：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダ―の利用とプレースホルダ―を使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己ＰＲのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の実習で作成する提出物の評価（配点： 50%）と各セクション後の課題の評価（配点： 50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】
初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zooom ID は学習支援システム（Hopii）を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】
We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.
The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares.
Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted.
Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤　信雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザーの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】
コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。
実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基礎。インターネットブラウザーを使った、WWW（Web）の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算（Microsoft Excel）	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算（MS Excel）、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。
4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサーソフト（WS Word）	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサーソフト（WS Word）：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダ―の利用とプレースホルダ―を使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己ＰＲのホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の実習で作成する提出物の評価（配点： 50%）と各セクション後の課題の評価（配点： 50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】
初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zooom ID は学習支援システム（Hopii）を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】
We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.
The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares.
Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted.
Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生　純

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【日常で活かす IT】
コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。
以下の 3 点を授業の柱とします。
■動画作成をマスターしよう！
　動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？
　ひとは何に注目するのか？
　みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる
■オリジナルスタンプをつくってみよう！
コンピューターでデザインって難しくないの？
自分の考え（アイデア）をカタチにする
自分だけのスタンプをつくってみよう
■エクセルのマスターになる
計算だけじゃない、エクセルの使い方〜予測・分析
エクセルでプログラミング
パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】
ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（Davinch resolve/パワーポイント) とドローソフト（Inkscape) の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウエアの使用方法を通じて、複数のソフトウエアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション（授業方針と計画・評価方法について）	授業の進め方の注意事項〜ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法
④	電子メールの基礎と日本語入力方法〜FEP 活用の基礎理解操作方法	メールアカウントの設定とメールソフトについて
⑤	アプリケーションソフト習得〜MS Word（1）	基礎的な日本語入力
⑥	アプリケーションソフト習得〜MS Word（2）	表組みと描画など
⑦	アプリケーションソフト習得〜MS Word（3）	アウトラインプロセッサについて
⑧	アプリケーションソフト習得〜MS Excel（1）	エクセルの基礎的な画面構成の理解
⑨	アプリケーションソフト習得〜MS Excel（2）	計算式と関数① 再計算機能と相対・絶対番地について
⑩	アプリケーションソフト習得〜MS Excel（3）	計算式と関数② 条件判断関数の基本とその応用
⑪	アプリケーションソフト習得〜MS Excel（4）	マクロ・VBA 基礎
⑫	ドローイングソフト習得〜inkscape ①	ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味
⑬	ドローイングソフト習得〜inkscape ②	オリジナルスタンプを作ってみよう
⑭	プレゼンテーション〜prezi ①	prezi を使ったプレゼンテーションの作成〜アカウント取得など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
・情報における権利意識と保護意識の醸成　１５％
・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解　１５％
・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度　７０％

【学生の意見等からの気づき】
ありません。

【その他の重要事項】
履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.
■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.
■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction / analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.
【Learning Objectives】
We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (Davinch resolve / PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour foreach class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
· Fostering awareness of rights and protection in information 15%
· Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
· 70% of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

IDN100LA

大学を知ろう　＜法政学＞への招待

2017 年度以降入学者

小林　ふみ子、金子　匡良

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**
2018 年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！　みなさんのこの大学や学部がいつどのように、どうして作られたのか知ってみたくはありませんか？

この授業では、創立から 144 年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者 2 名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。
講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市民社会の開明とノンエリートの夢～法政大学と日本近現代史①	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
2	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（小倉淳一）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20 世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
7	校歌「よき師よき友つどひ結べり」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は奥多摩に移住し、森林資源を生かした地域づくりに取り組む菅原和利さんをお迎えする予定。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。(職員・各学部教員)
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き 2000 年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだ後、法政大学の展望を総長に聞く。（各学部教員・廣瀬克哉総長）
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。本学の教学担当理事の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（小秋元段 常務理事・科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。
2020 年にオープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！　デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。
その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 13 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、学習支援システムを通じても配付します。

【その他の重要事項】
・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】
(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?
We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.
(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.
(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

コーディネータ：渡辺昭太、　講師（ゲストスピーカー）：イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。
金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。
本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】
経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。
学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義テーマにより、講師が交代する場合があります。
毎回リアクションペーパーを提出していただきます。講義内容に関する質問回答、試験問題についての解説なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性　②人生とお金　③大学生活とお金
2	お金と経済	①お金と経済の関係　②景気・物価・金利の関係　③金利と外国為替
3	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐ　②職業選択　③額面収入と手取り収入　④海外で働く
4	生活に関わる税金	①税金の種類　②収入に関する税金　③日々の生活に関する税金　④その他の税金
5	ライフプランを描く①	①ﾗｲﾌﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞの重要性②所得と収入③人生の３大費用④ﾗｲﾌｲﾍﾞﾝﾄを描く
6	ライフプランを描く②	① PL、BS、CF　②キャッシュフロー表の作り方　③キャッシュフロー表の分析
7	お金を借りる① (クレジットカード)	①お金を借りる方法　②多様化する決済　③ｸﾚｶの仕組み　④ｸﾚｶの上手な使い方
8	お金を借りる② (ローン、リース)	①ローン　②分割払い　③リース　④多重債務の予防
9	お金をふやす① (投資)	①お金を増やす方法　②貯蓄について　③投資について　④投資のﾘｽｸｺﾝﾄﾛｰﾙ
10	お金をふやす② (NISA と iDeCo)	① NISA　② iDeCo
11	リスクに備える① (生保、年金)	①生活におけるリスク　②私的保険の基礎知識　③身体・健康のリスクに備える
12	リスクに備える②（損害保険）	①身の回りのリスク　②損害保険について
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブルの現状　②消費者を守る制度　③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く③　総括	①ライフプランを作る　②ライフプランの見直し方法、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業の準備学習及び復習時間は、各 2 時間程度を想定します。
配布資料および web 上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
資料については講義サイトに投稿予定です。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト 1 回（30%）および最終テストまたはレポート（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する。

【学生の意見等からの気づき】
将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2023 年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。
受講者人数や状況にもよりますが、学生同士のディスカッション等ができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】
In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have “Financial Literacy” including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions.
By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student
· To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management
·To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.
This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.
【Learning Objectives】
a)Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.
b)Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review.
Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary
【Grading Criteria /Policy】
The score is calculated based on three subjects.
a)Attendance report contribute 20%
b)Mini exam contributes 20% (few times during the course)
c)Culminating report 60%
Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中世文学を読み解く**

表　きよし

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】
『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1〜2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。
授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後までの話の展開を説明する。どのような出来事が起るかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。
④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。
⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
⑦	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通って屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
⑬	腰越の事	平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
⑭	全体のまとめと試験	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかり再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『角川ソフィア文庫　平家物語　下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。776 円。

【参考書】
千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012 年。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50 %）と期末試験の点数（50 %）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.
【Learning Objectives】
You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.
【Learning activities outside of classroom】
As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike".The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
【Gradeing Policy】
Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中世文学を読み解く**

表　きよし

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】
義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。
授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。
④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑭	全体のまとめと試験	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、出来事の様子が把握できたか、義経伝説の特徴を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】
岡見正雄校注『日本古典文学大系・義経記』岩波書店。1959 年。
梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999 年。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50 %）と期末試験の点数（50%）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.
【Learning Objectives】
Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.
【Learning activities outside of classroom】
As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation / review time for this lesson is 4 hours per lesson.
【Grading Policy】
The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**『源氏物語』のはじまりー「桐壺」巻を読む**

園　明美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『源氏物語』といえば、おそらく多くの人が「絶世の美男子・光源氏が多くの女性と恋愛遍歴を重ねていく物語」というイメージを持っているように感じる。
しかし、なぜ光源氏が多くの恋を重ねるようになったのかについては、意外に知られていないのではないだろうか。
本授業では、『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の読解を通して、この物語の発端がいかなるものなのかを理解するとともに、この巻の持つ５４巻という長大な物語を牽引する力について考えてみる。

【到達目標】
『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の本文を物語の展開に沿って紹介し、主人公・光源氏の人生の発端がいかなるものであったのか、また、『源氏物語』が描こうとしたものは何であったのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。
なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。
なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『源氏物語』の発端	光源氏の誕生
③	制度と感情の板挟み	源氏の母の立場の弱さ
④	愛ゆえの悲劇	源氏の母の死
⑤	それぞれの思い	源氏の母の葬送
⑥	帝の使者の弔問	源氏の祖母の嘆き
⑦	二人の語らい	哀惜と後悔と
⑧	使者の報告	更衣の実家を思いやる帝
⑨	深まる帝の悲嘆	更衣の形見を見て
⑩	「長恨歌」との関わり	楊貴妃と更衣の比較
⑪	成長する源氏	並はずれた美貌と才能
⑫	新しいキサキ	運命の女性・藤壺登場
⑬	新たな局面へ	源氏の元服と結婚
⑭	藤壺への思慕	満たされぬ想い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみること。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】
新編日本古典文学全集『源氏物語』①（小学館）
新日本古典文学大系『源氏物語』①（岩波書店）
新潮日本古典集成『源氏物語』①（新潮社）
その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（９０％）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（１０％）。ただし、出席率が６０％に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。
したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。
また、毎回出席カードのコメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】
This course introduces to the first volume of the Tale of Genji students taking this course.
By the end of the course, students should be
able to do the following:
· Understand a consciousness about the beginning of The of Genji.
· Recognize the customs of the Heian Period.
Grading Criteria /Policy:
Essay 90%, Presentations and class participation 10%
Learning activities outside of classroom;
Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA

日本古典文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**和泉式部を知っていますか？**

園　明美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
和泉式部は、平安時代の有名女流歌人の一人で、『紫式部日記』にもその名が見える人物であるが、清少納言や紫式部に比べると、知名度は劣るかもしれない。
しかしながら、この女性はいわゆる「恋多き女」として有名で、藤原道長にも「浮かれ女」と呼ばれたという。これは、現代における「モテ」「非モテ」という感覚ともつながるものであろう。
この授業では、『和泉式部日記』と『和泉式部集』をはじめとるす文学作品を通して、和泉式部という一人の女性の人生を理解することを目的とする。

【到達目標】
『和泉式部日記』・『和泉式部集』をはじめとして、和泉式部にまつわるエピソードを載せる文学作品の記事を読むことで、和泉式部という女性の人生のさまざまな側面を考えるとともに、現代とは異なる平安時代の身分制度や婚姻の慣習等についても理解してゆく。
なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。
なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と概説
②	師宮敦道親王からの手紙	二人のなれそめ
③	深まる交流	恋の進展
④	愛と不信と	噂に惑わされる師宮
⑤	揺れ動く二人の関係	再燃する愛情
⑥	波乱の兆し	宮邸入りの誘い
⑦	拗れる人間関係	宮邸に迎えられて
⑧	日記の結末	師宮の正妻の退去
⑨	二人の恋に対する世間の目	『大鏡』が語る和泉式部
⑩	帥宮亡き後の和泉式部	『和泉式部集』にうかがえる和泉式部の思い
⑪	最後の男・藤原保昌	『古本説話集』等が語る和泉式部
⑫	「母」としての和泉式部	『栄花物語』が語る和泉式部「
⑬	和泉式部への後世の評価	『無名草子』の和泉式部評
⑭	まとめと解説	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみること。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】
新編日本古典文学全集『和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』（小学館）
角川ソフィア文庫『和泉式部日記』（角川書店）
新潮日本古典集成『和泉式部日記 和泉式部集』（新潮社）
その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（９０%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（１０%）。ただし、出席率が６０%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。
したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。
また、毎回出席カードのコメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】
This course introduces to Izumi Shikibu students taking this course. (Izumi Shikibu is one of the famous lady poets of the Heian period.)
By the end of the course, students should be
able to do the following:
・Understand a consciousness about Izumi Shikibu.
・Recognize the customs of the Heian Period.
Grading Criteria /Policy:
Essay 90%, Presentations and class participation 10%
Learning activities outside of classroom;
Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**万葉集前期の和歌から、時代と共感する歌の在り方を考える**

成島　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けらるが、この授業では前期 (第 1、第 2 期) の作品を中心に取り上げる。
この和歌の創成期の作品を取り上げることで、そののちの日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶ。加えて、当時の社会制度の中生き、1200 年後の現代にまで伝わり、評価される歌人たちの表現が現代においても持ち続ける魅力を学んでいく。
芸術としての、かつコミュニケーションとしての和歌が、少ない文字 (音) 数でありながらも持つ表現の豊かさを学んでほしい。

【到達目標】
和歌という主に 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出していく。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代語訳付のテキストを使っての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明・導入	万葉集および万葉集前期の時代背景、概要
2	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に　1	熟田津に～三輪山 近江遷都以前
3	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣 近江京時代と天皇たちとのかかわり
4	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 3	鏡王女との贈答歌・弓削皇子との贈答歌
5	過ぎ去った近江京への思いの変化	柿本人麻呂の近江荒都歌と高市黒人の近江旧都歌
6	天武天皇の子供たちの歌 1	高市皇子と十市皇女　悲劇の皇女と秘められた恋の歌
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女　連力争いの中の姉弟の歌
8	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女　大津皇子のライバルの姿
9	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穂積皇子　恋に自立しようとした皇女の歌
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌　高市皇子挽歌の壬申の乱の表現
11	柿本人麻呂の挽歌 2	抒情的挽歌　明日香皇女挽歌や泣血哀慟挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌と旅の歌	旅と結びつく恋の想いを、紀伊行幸時の歌や羇旅 8 首から読み取る。
13	高市黒人の旅の歌	人麻呂の旅の歌との比較からみられる時代性と個性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。
学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。
学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみて欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
講談社文庫「万葉集 (一)」中西進　全訳注」　759 円

【参考書】
講談社文庫「万葉集 (二)～(四)」中西進　全訳注」
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラッシックス　万葉集」
角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博　全訳注
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時に、事前に発表した問題 (複数の中から 1 問選択) についての論述テスト (持ち込み可) を行う。このテストが評価の 100%。
設問は、和歌表現への理解、歌人や成立した時代への理解、など文学としての万葉集への理解を問うものとなる。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて、文学作品の読解をふまえて自分なりに考察し、その考察が論理的に論述されているかという点。
加えてその論述が他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
The oldest song collection in Japan, the Man'yōshū, contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. They are divided into four periods according to age and song style, but in this class, we will focus on the works of the first semester (1st and 2nd periods).
By taking up the works of this early period of waka, we learn about the world of waka poetry, which is the basis of later Japan classical literature. In addition, students will learn the charm of living in the social system of the time, and the expression of poets who have been handed down and appreciated 1,200 years later continues to exist even today.
I want you to learn the richness of expression that waka as an art and communication possesses even though it has a small number of letters (sounds).
【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading the thoughts contained in the short form of waka poetry, which is mainly 31 characters, we will think about the lives of people who lived during the turbulent period of the Japan's ancient society, and find the ideal form of literature that can be sympathized with even if there is a time difference of about 1,300 years.
The goal is to enable students to sense that classical literature, which is often thought to be alien to ancient literature, has something interesting that is common to us today, and to acquire knowledge of literary history and enhance interest and culture in Japan culture.
【Learning activities outside of classroom】
I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.
Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.
I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
At the final class, students will take an essay test (you can bring your own) on the questions presented in advance (select one question from multiple questions). This test is 100% of the rating.
The questions will ask about understanding the Man'yōshū as literature, such as understanding waka expression, understanding the poets and the era in which they were established.
The point of evaluation is whether the person considers the set problem theme in his own way based on his or her reading comprehension of literary works, and whether the consideration is logically argued.
In addition, the main point is whether the essay can be expressed in a sentence that is easy for others to read.
Attendance is required each time, and at least 50% attendance is considered to be eligible to take the test.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**個性や個人の歌の誕生を後期万葉集からよみとく**

成島　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。4 期に分けてそれらは年代、歌風などにより 4 期に分けられる。この授業では後期の第 3 期第 4 期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。
律令制度が整っていく時代に官人として生きる男性貴族と、その周辺の女性たちの歌から今につながる個人としての抒情の表現の成立と、多様な和歌表現を学ぶ

【到達目標】
古代律令制度社会が整備されていき、官人として生きていくことになる万葉後期の男性貴族たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300 年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代語訳付のテキストを使っての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要説明。作品の導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	亡妻挽歌の比較 1 表現形式の多様化	前期万葉の柿本人麻呂から、大伴旅人と山上憶良
第 3 回	亡妻挽歌の比較 2	旅人と憶良から家持
第 4 回	大伴旅人・律令官人としての歌 都と地方の意識	大宰府での儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第 5 回	大伴旅人　老境の悲しみの歌	老いへの思いと望郷歌
第 6 回	大伴旅人　逃避としての酒と歌	讃酒歌の無常観
第 7 回	山上憶良	貧窮問答歌や反惑情歌ななどの社会性と個人の情
第 8 回	大伴坂上郎女の歌 1	媚態する女歌
第 9 回	大伴坂上郎女の歌 2	家を守るための歌たち　古代における女性の地位
第 10 回	笠郎女	餓鬼の後に額づく思い　家持への恋の連作。編集者としての家持の意図
第 11 回	高橋虫麻呂と家持古伝承へのアプローチ	古伝承へのアプローチ　菟原処女伝説歌の比較から。大和物語生田川や能「求塚」へ
第 12 回	高橋虫麻呂・山辺赤人の個性	伝説歌、叙景歌といった多彩な歌たち
第 13 回	万葉集の到達点	大伴家持の春愁歌とその評価
第 14 回	レポート提出	レポートの形式等確認指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。
学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。
学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみて欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
講談社文庫「万葉集 (一)」中西進　全訳注

【参考書】
講談社文庫「万葉集 (二)～(四)」中西進　全訳注」
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラッシックス　万葉集」
角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博　全訳注
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時提出のレポートが評価の 100%。
テーマは万葉集後期の和歌、歌人、ことばの表現について。4000 字相当。
作品を踏まえての読解が適切になされたうえでの考察がなされているか、その自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】
古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
The Man'yōshū contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. It is divided into four periods, depending on the age and style of the song. In this class, we will read the works of poets of the third and fourth semesters, centered on Mr. Otomo.
Students learn how to express themselves as individuals from the songs of male aristocrats living as government officials in the era of the Ritsurei system and the women around them, and learn waka expressions that lead to the present.
【Learning activities outside of classroom】
I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.
Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.
I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The report submitted at the last class is 100% of the evaluation. The theme is about the expression of waka poetry, poets, and words in the late Man'yōshū. Equivalent to 4000 characters.
The evaluation criteria are whether the reading comprehension based on the work is appropriately considered and whether the person's thoughts are expressed in a logical and easy-to-understand sentence.
In addition, attendance is every hour, and at least half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**歌のはじまり、万葉集前期の時代と共感する歌をよみとく**

成島　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けらるが、この授業では前期 (第 1、第 2 期) の作品を中心に取り上げる。
この和歌の創成期の作品を取り上げることで、そののちの日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶ。加えて、当時の社会制度の中生き、1200 年後の現代にまで伝わり、評価される歌人たちの表現が現代においても持ち続ける魅力を学んでいく。
芸術としての、かつコミュニケーションとしての和歌が、少ない文字 (音) 数でありながらも持つ表現の豊かさを学んでほしい。

【到達目標】
和歌という主に 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出していく。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代語訳付のテキストを使っての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明・導入	万葉集および万葉集前期の時代背景、概要
2	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に　1	熟田津に～三輪山 近江遷都以前
3	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣 近江京時代と天皇たちとのかかわり
4	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 3	鏡王女との贈答歌・弓削皇子との贈答歌
5	過ぎ去った近江京への思いの変化	柿本人麻呂の近江荒都歌と高市黒人の近江旧都歌
6	天武天皇の子供たちの歌 1	高市皇子と十市皇女　悲劇の皇女と秘められた恋の歌
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女　連力争いの中の姉弟の歌
8	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女　大津皇子のライバルの姿
9	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穂積皇子　恋に自立しようとした皇女の歌
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌　高市皇子挽歌の壬申の乱の表現
11	柿本人麻呂の挽歌 2	抒情的挽歌　明日香皇女挽歌や泣血哀慟挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌と旅の歌	旅と結びつく恋の想いを、紀伊行幸時の歌や羇旅 8 首から読み取る。
13	高市黒人の旅の歌	人麻呂の旅の歌との比較からみられる時代性と個性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。
学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。
学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみて欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
講談社文庫「万葉集 (一)」中西進　全訳注」　759 円

【参考書】
講談社文庫「万葉集 (二)～(四)」中西進　全訳注」
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラッシックス　万葉集」
角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博　全訳注
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時に、事前に発表した問題 (複数の中から 1 問選択) についての論述テスト (持ち込み可) を行う。このテストが評価の 100%。
設問は、和歌表現への理解、歌人や成立した時代への理解、など文学としての万葉集への理解を問うものとなる。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて、文学作品の読解をふまえて自分なりに考察し、その考察が論理的に論述されているかという点。
加えてその論述が他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
The oldest song collection in Japan, the Man'yōshū, contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. They are divided into four periods according to age and song style, but in this class, we will focus on the works of the first semester (1st and 2nd periods).
By taking up the works of this early period of waka, we learn about the world of waka poetry, which is the basis of later Japan classical literature. In addition, students will learn the charm of living in the social system of the time, and the expression of poets who have been handed down and appreciated 1,200 years later continues to exist even today.
I want you to learn the richness of expression that waka as an art and communication possesses even though it has a small number of letters (sounds).
【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading the thoughts contained in the short form of waka poetry, which is mainly 31 characters, we will think about the lives of people who lived during the turbulent period of the Japan's ancient society, and find the ideal form of literature that can be sympathized with even if there is a time difference of about 1,300 years.
The goal is to enable students to sense that classical literature, which is often thought to be alien to ancient literature, has something interesting that is common to us today, and to acquire knowledge of literary history and enhance interest and culture in Japan culture.
【Learning activities outside of classroom】
I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.
Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.
I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
At the final class, students will take an essay test (you can bring your own) on the questions presented in advance (select one question from multiple questions). This test is 100% of the rating.
The questions will ask about understanding the Man'yōshū as literature, such as understanding waka expression, understanding the poets and the era in which they were established.
The point of evaluation is whether the person considers the set problem theme in his own way based on his or her reading comprehension of literary works, and whether the consideration is logically argued.
In addition, the main point is whether the essay can be expressed in a sentence that is easy for others to read.
Attendance is required each time, and at least 50% attendance is considered to be eligible to take the test.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**個人の歌の誕生を後期万葉集からよみとく**

成島　知子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。4 期に分けてそれらは年代、歌風などにより 4 期に分けられる。この授業では後期の第 3 期第 4 期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。
律令制度が整っていく時代に官人として生きる男性貴族と、その周辺の女性たちの歌から今につながる個人としての抒情の表現の成立と、多様な和歌表現を学ぶ

【到達目標】
古代律令制度社会が整備されていき、官人として生きていくことになる万葉後期の男性貴族たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300 年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代語訳付のテキストを使っての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要説明。作品の導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第 2 回	亡妻挽歌の比較 1 表現形式の多様化	前期万葉の柿本人麻呂から、大伴旅人と山上憶良
第 3 回	亡妻挽歌の比較 2	旅人と憶良から家持
第 4 回	大伴旅人・律令官人としての歌 都と地方の意識	大宰府での儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第 5 回	大伴旅人　老境の悲しみの歌	老いへの思いと望郷歌
第 6 回	大伴旅人　逃避としての酒と歌	讃酒歌の無常観
第 7 回	山上憶良	貧窮問答歌や反惑情歌ななどの社会性と個人の情
第 8 回	大伴坂上郎女の歌 1	媚態する女歌
第 9 回	大伴坂上郎女の歌 2	家を守るための歌たち　古代における女性の地位
第 10 回	笠郎女	餓鬼の後に額づく思い　家持への恋の連作。編集者としての家持の意図
第 11 回	高橋虫麻呂と家持古伝承へのアプローチ	古伝承へのアプローチ　菟原処女伝説歌の比較から。大和物語生田川や能「求塚」へ
第 12 回	高橋虫麻呂・山辺赤人の個性	伝説歌、叙景歌といった多彩な歌たち
第 13 回	万葉集の到達点	大伴家持の春愁歌とその評価
第 14 回	レポート提出	レポートの形式等確認指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。
学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。
学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみて欲しい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
講談社文庫「万葉集 (一)」中西進　全訳注

【参考書】
講談社文庫「万葉集 (二)～(四)」中西進　全訳注」
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラッシックス　万葉集」
角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博　全訳注
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時提出のレポートが評価の 100%。
テーマは万葉集後期の和歌、歌人、ことばの表現について。4000 字相当。
作品を踏まえての読解が適切になされたうえでの考察がなされているか、その自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】
古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】
The Man'yōshū contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. It is divided into four periods, depending on the age and style of the song. In this class, we will read the works of poets of the third and fourth semesters, centered on Mr. Otomo.
Students learn how to express themselves as individuals from the songs of male aristocrats living as government officials in the era of the Ritsurei system and the women around them, and learn waka expressions that lead to the present.
【Learning activities outside of classroom】
I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.
Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.
I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
The report submitted at the last class is 100% of the evaluation. The theme is about the expression of waka poetry, poets, and words in the late Man'yōshū. Equivalent to 4000 characters.
The evaluation criteria are whether the reading comprehension based on the work is appropriately considered and whether the person's thoughts are expressed in a logical and easy-to-understand sentence.
In addition, attendance is every hour, and at least half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**恐怖と不安から読む近代文学**

細沼　祐介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。
これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。
近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。
なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

【到達目標】
①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各テーマごとに三時間を割き、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。
講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。
授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」の哲学概論
第 2 回	「近代化する社会」への恐怖と不安①	消滅していく前近代
第 3 回	「近代化する社会」への恐怖と不安②	功利主義の功罪
第 4 回	「近代化する社会」への恐怖と不安③	かくあらねばならない社会の「私」
第 5 回	「分断された個」であることへの恐怖と不安①	「近代的自我」について
第 6 回	「分断された個」であることへの恐怖と不安②	捏造されていく内面
第 7 回	「分断された個」であることへの恐怖と不安③	「自由」であることの代償
第 8 回	「私の知らない私」への恐怖と不安①	「自意識」の誕生
第 9 回	「私の知らない私」への恐怖と不安②	「私」に連なる無数の「私」
第 10 回	「私の知らない私」への恐怖と不安③	才能という呪縛
第 11 回	「主義」への恐怖と不安①	道具としての「主義」
第 12 回	「主義」への恐怖と不安②	社会運動の暴走
第 13 回	「主義」への恐怖と不安③	全体主義の浸食
第 14 回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

【成績評価の方法と基準】
平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**恐怖と不安から読む近代文学**

細沼　祐介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。
これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。
近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。
なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。
「日本近・現代文学 A」に引き続き戦後を主として扱います。

【到達目標】
①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各テーマごとに三時間を割き、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。
講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。
授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」についての復習
第 2 回	「戦争」の恐怖と不安①	戦場の絶望
第 3 回	「戦争」の恐怖と不安②	圧倒的な暴力と開放
第 4 回	「戦争」の恐怖と不安③	埋没する個人の死
第 5 回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安①	「戦後」への失望
第 6 回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安②	贖罪意識の行方
第 7 回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安③	「死にそびれる」こと
第 8 回	「物語の喪失」への恐怖と不安①	「大きなもの」の欠如感
第 9 回	「物語の喪失」への恐怖と不安②	仮構される「物語」たち
第 10 回	「物語の喪失」への恐怖と不安③	「物語」の拡散と縮小
第 11 回	「拡大していく他者」への恐怖と不安①	隠されていく「私」と「あなた」
第 12 回	「拡大していく他者」への恐怖と不安②	外面と内面のズレ、および認識の難しさ
第 13 回	「拡大していく他者」への恐怖と不安③	SNS 時代の「他者」像
第 14 回	総括	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

【成績評価の方法と基準】
平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本文学Ａ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田　雅彦

開講時期：**春学期授業/Spring**　｜　曜日・時限：**学習支援システムを参照**
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】
日本近代文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか？	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か？	魅惑の日本古典
3	お金の話　漱石を読む 1	コトバかカネか？『こころ」の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について　漱石を読む 2	明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用　谷崎論	官能の哲学 もてない男の栄光
7	性的人間	さまざまな愛の形 同性愛　ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。
10	戦後の文学	戦争文学　占領文学　坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。
11	小説と “場所”	上京小説　よそ者の視点　芥川『歯車』を読む。可能性、パラレルワールド。
12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの　経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予告した本や資料を読んで授業に臨めば、３倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『深読み日本文学』　島田雅彦　集英社インターナショナル新書２０１８
『小説作法 ABC』　島田雅彦　　新潮選書　２００８
『小説作法 XYZ』　島田雅彦　　新潮選書　２０２２

【参考書】
『必読 150』太田出版
それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は選択式試験８０％、平常点２０％とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiyo, Tanizaki, postwar literature etc.Out-of-class learning requires regular preparation and review.Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for multiple-choice test and 20% for the normal score.The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田　雅彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**学習支援システムを参照**
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】
世界文学必読のテクストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテクストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代　口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教　イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽　大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性　交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West　日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま　ナショナリズムというフィクション　想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方　SF の想像力
14	授業内試験か質疑応答	授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予告した本や資料を読んで授業に臨めば、３倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが，授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『小説作法 ABC』島田雅彦著　新潮選書 2009

【参考書】
『深読み日本文学』　島田雅彦　集英社インターナショナル新書２０１８
『小説作法 ABC』　島田雅彦　　新潮選書　２００８
『小説作法 XYZ』　島田雅彦　　新潮選書　２０２２

【成績評価の方法と基準】
筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は選択式試験 80 %、平常点 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history.Out-of-class learning requires regular preparation and review.Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for multiple-choice test and 20% for the normal score.The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学Ａ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**戦前文学とメディア**

佐藤　未央子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和２０年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる〈近代〉化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア（写真・雑誌・映画等）との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】
・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／日本近代文学とメディアの関わり
第 2 回	島崎藤村「破戒」①	自然主義文学が作り出した制度とその問題について、プライバシー的な観点も含めて考察する。
第 3 回	島崎藤村「破戒」②	昭和と令和の映画化を比較し、それぞれの主題を読み取る。
第 4 回	日清・日露戦争とメディア	国木田独歩や田山花袋らの戦争小説や報道姿勢を分析する。
第 5 回	戦前の言論統制①	新聞紙法・出版法や、映画に対する検閲制度について学ぶ。
第 6 回	スペイン風邪と文学	志賀直哉の実体験を基にした短編とそのドラマ化を題材に、パンデミックの表象について考察する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	関東大震災とメディア	関東大震災で被災した作家たちの言説や小説、映像を確認し、いかなる表現がなされたか確認する。
第 9 回	新感覚派の表現改革	川端康成ら新感覚派が映画を通して挑んだ新たな表現について考察する。
第 10 回	探偵小説と『新青年』	江戸川乱歩の作品が掲載された雑誌『新青年』のメディア戦略について学ぶ。
第 11 回	藤森成吉「何が彼女をさうさせたか」	昭和恐慌を背景として大ヒットした映画「何が彼女をさうさせたか」の分析を通して、当時の世情について考える。
第 12 回	日中戦争とペン部隊	ペン部隊として戦地に派遣された作家たちが伝えた言説とその問題を分析する。
第 13 回	戦前の言論統制②	戦前から戦後にかけて執筆された谷崎潤一郎「細雪」における、二重の言論統制の実態について分析する。
第 14 回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】
・十川信介『近代日本文学案内』（2008、岩波文庫）
・海野弘『モダン都市東京　日本の 1920 年代』（2007、中公文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』１、２巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 40%
・学期末テスト： 60%
テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。
授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通した資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with Japanese literature 1890s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema. We discuss how writers described modernity and consider the critical qualities of prewar works.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Explained with specific examples that literary works have been established in relation to various media.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LIT100LA

日本文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**映像で読む戦後文学**

佐藤　未央子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、昭和２０年代から４０年代までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQ の占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、飛躍的な経済成長を遂げるが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の実態を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】
・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／占領期の表現規制と思想的転換
第 2 回	田村泰次郎「春婦伝」	GHQ 占領下において、小説の映画化にかけられた規制の内実を学ぶ。また、女優山口淑子（李香蘭）の来歴も確認する。
第 3 回	坂口安吾「堕落論」「白痴」	坂口安吾が提唱した〈堕落〉概念の史的意義を学ぶ。また、戦後の焼け跡表象も分析する。
第 4 回	太宰治「斜陽」	作中で語られる「道徳革命」の意味を読み解くとともに、作家自身と作品の距離について考察する。
第 5 回	林芙美子「下町（ダウン・タウン）」	価値観が変容していく戦後社会の中で、女性がいかに生き抜こうとしていたか考察する。
第 6 回	林芙美子「浮雲」	戦後社会に生きづらさを覚える男女の物語を読み解き、〈終戦〉とは何かを考察する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	石原慎太郎と太陽族	新たな価値観を持つ無軌道な若者たちを描いた石原作品の、文壇と映画界への波及力を検討する。
第 9 回	三島由紀夫「金閣寺」①	戦後の思想転換に対し、三島が「金閣寺」に仮託した考えを読み解く。
第 10 回	三島由紀夫「金閣寺」②	小説と映画版や舞台版を比較し、それぞれが前景化した問題について分析する。
第 11 回	松本清張とメディア・ミックス	戦後社会の裏面を描き、小説・映画化ともに広い支持を得た清張作品の批評性を考察する。
第 12 回	安部公房「他人の顔」	安部公房と勅使河原宏が協働した映画化において、原爆被害者の女性を前景化させた演出の意義について検討する。
第 13 回	寺山修司と唐十郎	１９６０年代におけるアングラ演劇・映画が描き出した都市空間と反権力性について、作品を鑑賞して考察する。
第 14 回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】
・磯田光一『戦後史の空間』（2000 、新潮文庫）
・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』３巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 40%
・学期末テスト： 60%
テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。
授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通した資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and post-war societies. We visually confirm situation of post-war Japan by referring to Japanese movies and plays, which received increasing international recognition after the war.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- Acquire knowledge of Japan's international position and cultural situation after the war.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**ヨーロッパ文学と「変身」**

D. ハイデンライヒ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とスティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。
授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】
◦ 今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
◦「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
◦ 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解
第 3 回	神話と変身（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第 5 回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第 7 回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第 9 回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画（1）	スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画（2）	スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較 課題、ディッスカッション
第 12 回	変身物語と映画（3）	カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第 13 回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較 課題、ディスカッション
第 14 回	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習。
【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーと課題提出を含む平常点： 60 %
学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】
Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr.Jekyll and Mr.Hyde*, are still attracting a lot of readers.
This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.
—-
◦ To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.
◦ To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.
◦ Improve the ability to understand different cultures.
——
Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.
——
Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**映画化とともに読むヨーロッパ文学の名作**

D. ハイデンライヒ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヨーロッパ文学作品の映画化を取り上げ、原作の描写と映画の比較、そして映画の翻案について分析をします。

【到達目標】
◦ ヨーロッパ文学・映画・文化に対する関心や理解を深める。
◦ メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	扱う文学作品と映画の紹介
第 2 回	T. マン『ヴェネツィアに死す』総論	原作の通読、映画の視聴
第 3 回	原作『ヴェネツィアに死す』分析	原作の指定個所の熟読
第 4 回	映画化『ベニスに死す』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第 5 回	映画化『ベニスに死す』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第 6 回	P. ジュースキント『香水_ ある人殺しの物語』総論	原作の通読、映画の視聴
第 7 回	原作『香水_ ある人殺しの物語』分析	原作の指定個所の熟読
第 8 回	映画化『パフューム_ ある人殺しの物語』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第 9 回	映画化『パフューム_ ある人殺しの物語』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第 10 回	K. ブリクセン『バベットの晩餐会』総論	原作の通読、映画の視聴
第 11 回	原作『バベットの晩餐会』分析	原作の指定個所の熟読
第 12 回	映画化『バベットの晩餐会』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第 13 回	映画化『『バベットの晩餐会』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第 14 回	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習。
【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】
教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーと課題提出を含む平常点： 60 %
学期末試験： 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】
We will examine the film adaptations of European literary works, compare the depictions of the originals and the films, and analyze the adaptations of the films.

——-

◦ Deepen interest and understanding of European literature, movies and culture.
◦ Deepen understanding of media-specific expressions and interconnectivity between media.

——-

Preparation and review.
The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

——-

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%
Final exam: 40%

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋　志穂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます（作品は日本語で読みます）。春学期は「テクスト解釈」を扱います。

【到達目標】

・フランスの文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業概要 ・テクスト解釈文の形式
2	17 世紀（1）	古典主義
3	17 世紀（2）	ラファイエット夫人『クレーヴの奥方』
4	17 世紀（3）	線的読解
5	18 世紀（1）	啓蒙主義
6	18 世紀（2）	ヴォルテール『カンディード』
7	18 世紀（3）	横断的読解
8	19 世紀（1）	ロマン主義
9	19 世紀（2）	ヴィクトル・ユゴー『エルナニ』
10	19 世紀（3）	レアリスム
11	19 世紀（4）	フローベール『ボヴァリー夫人』
12	20 世紀	アルベール・カミュ『異邦人』
13	「テクスト解釈」バカロレア筆記過去問題	2016 年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。
本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

「テクスト解釈」がより理解しやすくなるよう、説明を工夫します。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.
After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋　志穂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　|　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の意味でのフランスのバカロレアは、19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。
本授業では春学期の続きとして、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます。課題は「総括」「ディセルタシオン」という論述文です。前半は課題に関連する文学作品と作家について、後半は 2 種類の論述文の書き方について、解説します。
尚、秋学期のみの受講も可能です。

【到達目標】
・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。
・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明 バカロレア試験制度について
2	ラ・フォンテーヌ（17 世紀）	『寓話』
3	ラ・ブリュイエール（17 世紀）	『カラクテール』
4	ジャン＝ジャック・ルソー（18 世紀）	『エミール』
5	ヴィクトル・ユゴー（19 世紀）（1）	『静観詩集』
6	ヴィクトル・ユゴー（19 世紀）（2）	『懲罰詩集』
7	エミール・ゾラ（19 世紀）	『ジェルミナル』
8	エミール・ゾラ（19 世紀）	『ジェルミナル』の映画化
9	「総括」（1）	基本的な構成方法
10	「総括」（2）	文学の課題（ラ・フォンテーヌ、ルソー、ユゴー、ゾラ）
11	「ディセルタシオン」（1）	基本的な構成方法
12	「ディセルタシオン」（2）	文学の課題解説
13	「ディセルタシオン」（3）	2016 年の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。
本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを使用します。

【参考書】
横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline (in English)】
An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.
After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国古典に親しむ**

吉井　涼子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】
中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　中国とは	授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第 3 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に。崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。
第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。
第 9 回	王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第 10 回	杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第 11 回	白居易	「長恨歌」を読み解く。
第 12 回	杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】
大島正二『漢字と中国人―文化史をよみとく―』（岩波書店２００３年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店１９９９年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店２０００年）
小川環『唐代の詩人―その傳記』（大修館書店１９７５年）
松浦友久『校注　唐詩解釈辞典』（大修館書店１９８７年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】
電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background · culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.
Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in “kundoku”. Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.
Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.
Be sure to prepare for the materials distributed in advance.Please review what you learned in class well.
The preparation and review time for this class is 2 hours each.
I don’t use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.
We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.
Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.
The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.
When reading the original text in class, it is done in a “kundoku” method using “kaeriten”, so international students should keep this in mind.
It doesn’t matter if it’s electronic, so it’s desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**中国古典に親しむ**

吉井　涼子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。

【到達目標】
物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む（1）	『捜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。（1）では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第 9 回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第 10 回	「人虎伝」を読む（2）	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。
第 11 回	「人虎伝」を読む（3）	人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。
第 12 回	「人虎伝」を読む（4）	結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】
明治書院『中国古典小説選　穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
明治書院『中国古典小説選　捜神記・幽明録・異苑他』
明治書院『新釈漢文大系　史記八（列伝一）』
明治書院『新釈漢文大系　唐代伝奇』
平凡社『東洋文庫　捜神記』
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】
電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。
授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.
By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies.
Do it in a lecture format.In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.
Be sure to prepare for the materials distributed in advance.Please review what you learned in class well.
The preparation and review time for this class is 2 hours each.
I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.
We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.
Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.
The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.
When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.
It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**日中比較**

吉井　涼子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】
日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス　日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第 3 回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第 4 回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第 5 回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第 6 回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオオクニヌシの部分を読む。
第 7 回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第 8 回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。
第 9 回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。
第 10 回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第 11 回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第 12 回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】
岩波文庫『古事記』
明治書院『新釈漢文大系　史記一（本紀上）』
中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く　三国志から見る邪馬台国』渡邉義浩著
小学館『日本古典文学全集　今昔物語』
小学館『日本古典文学全集　宇治拾遺物語』
明治書院『新釈漢文大系　唐代伝奇』
小学館『日本古典文学全集　枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご注意いただきたい。
高校の日本史Ｂ程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.
Do it in a lecture format.First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.
Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.
Be sure to prepare for the materials distributed in advance.Please review what you learned in class well.
The preparation and review time for this class is 2 hours each.
I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.
We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.
Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.
The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.
When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.
It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.
Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**日中比較**

吉井　涼子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】
精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄―中国―（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第 3 回	流浪する英雄―中国―（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄―中国―（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄―中国―（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第 6 回	流浪する英雄―中国―（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第 7 回	流浪する英雄―日本―（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第 8 回	流浪する英雄―日本―（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第 9 回	戦の天才とその末路―中国―（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の１人である楽毅の話を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路―中国―（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。
第 11 回	戦の天才とその末路―日本―（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。
第 12 回	戦の天才とその末路―日本―（2）	『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。
第 13 回	復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】
明治書院『新釈漢文大系　史記 五（世家上）』
明治書院『新釈漢文大系　春秋左氏伝（一）』
明治書院『新釈漢文大系　国語（上）』
明治書院『新釈漢文大系　国語（下）』
明治書院『新釈漢文大系　史記九（列伝二）』
小学館『日本古典文学全集　古事記　上代歌謡』
岩波書店『日本古典文学大系 32　平家物語上』
岩波書店『日本古典文学大系 33　平家物語下』
など

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくることが望ましい。

【その他の重要事項】
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご注意いただきたい。
高校の日本史Ｂ程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.
Decide on a theme,do it in a lecture format.First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.
Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.
Be sure to prepare for the materials distributed in advance.Please review what you learned in class well.
The preparation and review time for this class is 2 hours each.
I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.
We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.
Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.
The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.
When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.
It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.
Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**日韓文化比較と交流**

梁　禮先

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国関係により理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的な参加も歓迎します。

【到達目標】
日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めしながら進めていきます。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第 9 回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。
第 10 回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第 11 回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第 12 回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。
第 13 回	日韓の現在の問題について比較 6	日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
第 14 回	日韓問題について直接意見交換など	意見交換をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日韓についての記事や情報収集。授業感想など。
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新版　日韓の文化比較と日韓問題ーよりよい日韓関係を築くために』

梁禮先　著　(『朝日出版社』2018,10)

【参考書】
授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども評価に加算にします)
合計 100%
※三分の一以上の欠席は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
日韓文化・歴史を含めて日韓における問題を、より知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.
< Learning Objectives >
Our goal is to comprehensively understand various problems in Japan and South Korea and to stand as a starting point for solutions.
< Learning activities outside of classroom >
This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.
< Grading Criteria /Policy >
Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

外国文学Ｂ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**日韓文化比較と交流**

梁　禮先

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者たちのトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思います。

【到達目標】
常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくることが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。
課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第 3 回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第 4 回	日韓のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第 5 回	日韓のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第 6 回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第 7 回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第 8 回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第 9 回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。
第 10 回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第 11 回	日韓問題比較 3	日韓の宗教問題などを比較してみます。
第 12 回	日韓問題比較 4	日韓の企業問題などを比較してみます。
第 13 回	日韓文化比較 6	在日コリアン問題を調べてみます。
第 14 回	総合問題などの意見交換	意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新版　日韓の文化比較と日韓問題ーよりよい日韓関係を築くために』

梁禮先　著　(『朝日出版社』2018,10)

【参考書】
文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価方法（平常点［課題、授業感想など］) 50%、
期末レポート 50%
(発表など積極的な授業参加なども評価に加算されます)
合計 100%
※三分の一以上の欠席は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】
日韓の様々な文化・問題についてもっと知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.
< Learning Objectives >
The goal of the class is to create an opportunity for active exchanges with the future of Japan and South Korea.
< Learning activities outside of classroom >
This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.
< Grading Criteria /Policy >
Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**教科書文学で学ぶ文学理論**

細沼　祐介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。
自由な読解や解釈は大変大事なものですが、手放しで行うと結果的にどう読んだらいいか分からないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】
①文学理論についての概略を理解する
②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
作品ごとに四時間を割き、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。
講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。
授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。
なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割き、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第 2 回	芥川龍之介「羅生門」①	「語り」について
第 3 回	芥川龍之介「羅生門」②	物語類型について
第 4 回	芥川龍之介「羅生門」③	テクスト論について
第 5 回	芥川龍之介「羅生門」④	間テクスト性について
第 6 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」①	プロレタリア文学について
第 7 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」②	マルクス主義批評について
第 8 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」③	書簡体の力について
第 9 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」④	ストーリーとプロットについて
第 10 回	夏目漱石『こころ』①	読者反応批評について
第 11 回	夏目漱石『こころ』②	フェミニズム批評ジェンダー批評について
第 12 回	夏目漱石『こころ』③	ジェンダー批評について
第 13 回	夏目漱石『こころ』④	教育と『こころ』について
第 14 回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫
葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫
夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか
必ずしもこのテクストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
好評につき質疑応答にも力点を置く予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%、in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**教科書文学で学ぶ文学理論**

細沼　祐介

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。
自由な読解や解釈は大変大事なものですが、手放しで行うと結果的にどう読んだらいいか分からないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】
①文学理論についての概略を理解する
②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
作品ごとに四時間を割き、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。
講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。
授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。
なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割き、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第 2 回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第 3 回	中島敦「山月記」②	イメジャリーと象徴について①
第 4 回	中島敦「山月記」③	イメジャリーと象徴について②
第 5 回	中島敦「山月記」④	プロットとストーリーについて
第 6 回	原民喜「夏の花」①	戦争と文学について
第 7 回	原民喜「夏の花」②	「私小説」について
第 8 回	原民喜「夏の花」③	伝記批評について
第 9 回	原民喜「夏の花」④	文体について
第 10 回	森鷗外「舞姫」①	文化批評について
第 11 回	森鷗外「舞姫」②	都市論について
第 12 回	森鷗外「舞姫」③	「近代文学」の制度について
第 13 回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第 14 回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された作品はそれを扱う授業までに確実に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】
中島敦『山月記・李陵』岩波文庫
原民喜『夏の花・心願の国』新潮文庫
森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫
必ずしもこのテクストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
好評につき質疑応答にも力点を置く予定です。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 50%、in class contribution: 50%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**思考の言語化のために**

安藤　優一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小論文やレポートなど文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな文章表現を習得することを目指す。

【到達目標】
・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
・提出された課題（600～800 字程度）について添削・指導をおこなう。
・提出された課題の中で優秀なものについては、適宜紹介し講評する（番号・氏名は伏せる）。可能であれば受講者による相互批評もおこなう。
・新聞記事やコラム、エッセイ、文学作品、学術論文などを通して文章表現を学ぶ。
・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	自己紹介文	自分自身についての言語化
第 3 回	自己紹介文	文章表現の系譜
第 4 回	自己紹介文	添削と講評
第 5 回	原稿執筆の基礎	書式とルールの基本
第 6 回	原稿執筆の基礎	課題に沿った実践
第 7 回	原稿執筆の基礎	添削と講評
第 8 回	論文の書き方	論理的な文章とは
第 9 回	論文の書き方	時事的な文章の紹介
第 10 回	論文の書き方	課題に沿った実践
第 11 回	論文の書き方	添削と講評
第 12 回	文章表現とネットリテラシー	注意点の概説
第 13 回	意見の言語化	これまでの内容を踏まえての実践
第 14 回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、授業内での提出物 30 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
実践やフィードバックの方法などについて、より改善できるよう留意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
【授業概要（Course outline）】
The aim of this course is to help students acquire written expression.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to verbalize your mind.
【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつける**

関口　雄士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。
なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜 5 限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】
大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
目標達成のために、以下のように 3 回 1 セットを基本として 4 セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを 2 回かけておこない、4 回を 1 セットとします）。
Ⅰ　課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。
Ⅱ　文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。
Ⅲ　課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。
なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第 2 回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 4 回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第 5 回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第 6 回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第 7 回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第 8 回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第 9 回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第 10 回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第 11 回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第 12 回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第 13 回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題作文を半期で 4 回書いてもらいます。課題作文は下書きを 1 週間で準備してもらいます。
授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。
日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。
（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50 %
提出物の内容： 50 %
未提出の課題が 1 つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく 3 回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。
また、相互批評に好意的な意見が多かったので、より学生にとって有益なかたちでおこなえるようにしたいと考えています。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.
Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Tuesdays during 5th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつける（留学生を主な対象とする）**

関口　雄士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。
このクラスは留学生を主な対象としています。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生もこのクラスの受講を推奨します。
授業計画の大枠としては日本人向けクラスと同様ですが、扱う内容において留学生を対象として、より「日本語で書く力」に重点をおいた内容になります。

【到達目標】
日本の大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
目標達成のために、以下のように 3 回 1 セットを基本として 4 セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを 2 回かけておこない、4 回を 1 セットとします）。
Ⅰ　課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。
Ⅱ　文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。
Ⅲ　課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。
なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第 2 回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 4 回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第 5 回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第 6 回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第 7 回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第 8 回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第 9 回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第 10 回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第 11 回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第 12 回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第 13 回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題作文を半期で 4 回書いてもらいます。課題作文は下書きを 1 週間で準備してもらいます。
授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。
日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。
（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50 %
提出物の内容： 50 %
未提出の課題が 1 つでもあった場合、原則として単位を認めません。
特別な理由なく 3 回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
This class is designed to help students acquire the "writing skills" necessary for studying at Japanese universities by learning techniques and reading and writing a variety of texts. This class is primarily intended for international students. In addition to international students, Japanese students who have lived abroad for a long time are also encouraged to take this class.
The general framework of the class plan is the same as that of the class for Japanese students, but the content of the class is more focused on "the ability to write in Japanese" for international students.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつける**

関口　雄士

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。
なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜 5 限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】
大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
目標達成のために、以下のように 3 回 1 セットを基本として 4 セットの授業を行います（課題③は下記Ⅰを 2 回かけておこない、4 回を 1 セットとします）。
Ⅰ　課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。
Ⅱ　文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。
Ⅲ　課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。
なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第 2 回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 4 回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第 5 回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第 6 回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第 7 回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第 8 回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第 9 回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第 10 回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第 11 回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第 12 回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第 13 回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題作文を半期で 4 回書いてもらいます。課題作文は下書きを 1 週間で準備してもらいます。
授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。
日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。
（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50 %
提出物の内容： 50 %
未提出の課題が 1 つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく 3 回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。
また、相互批評に好意的な意見が多かったので、より学生にとって有益なかたちでおこなえるようにしたいと考えています。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・4 月 14 日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は選抜（抽選）を実施します。そのため、受講希望者は 4 月 13 日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.
Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Tuesdays during 5th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**実用から芸術までの文章作法**

細沼　祐介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】
①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割き、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識するく
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%
非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
課題作成のためのパソコン（Ｗｏｒｄをインストール）
また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**実用から芸術までの文章作法**

細沼　祐介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】
①日本語についての知識と理解を深める。
②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割き、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%
非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものをがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。す。

【学生が準備すべき機器他】
課題作成のためのパソコン（Ｗｏｒｄをインストール）
また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】
※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
〇受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
〇複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井　美佐

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】
学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１．講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
２．授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
３．次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門１	言語の特質（１）
第 2 回	言語学入門２	言語の特質（２）
第 3 回	言語学入門３	言語の特質（３）
第 4 回	音声学１	音声器官
第 5 回	音声学２	調音
第 6 回	音声学３	母音、子音
第 7 回	音韻論１	異音、相補分布
第 8 回	音韻論２	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論３	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究１	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究２	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究３	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究４	習得順序と発達順序
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。
PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】
資料（テキストに相当）及び PPT は授業支援システムにアップロードしてある。
資料の配付は行わないので、毎回持参すること。
テキスト名１：『日本語教師トレーニングマニュアル 3　よくわかる言語学入門　解説と演習』　著者：町田健ほか　出版社：バベルプレス　定価： 2233 円＋税
テキスト名２：『ことばの獲得　母語獲得と第二言語習得　著者：鈴木孝明ほか　出版社：くろしお出版　定価： 1800 円＋税

【参考書】
参考文献は適宜ＰＰＴなどで紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
※履修者数によっては、授業開始前に選抜を行なうかもしれない。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course introduces language, phonetics, phonology and another language acquisition, encouraging to analyze and seize the many aspects of the language and language learning.
【Learning Objectives】The goals of this course are to understand the basic methods for scientific analysis of linguistic concepts, to understand the mechanism of second language acquisition and the current state of second language acquisition research.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

板井　美佐

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、異文化コミュニケーションを概観することで異文化についての理解を深める。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】
学生は、第一言語習得を含め、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1．講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2．授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3．次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 言語習得 1	第一言語とは？
第 2 回	第一言語習得 2	第一言語習得とは？
第 3 回	第一言語習得 3	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第一言語習得メカニズム 1	第一言語習得のメカニズム
第 5 回	第一言語習得メカニズム 2	主な言語発達理論（基礎編）
第 6 回	第一言語習得メカニズム 3	主な言語発達理論(応用編）
第 7 回	母語獲得とインプットの役割 1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 10 回	異文化理解 1	カルチャーショック
第 11 回	異文化理解 2	ジョハリの窓
第 12 回	異文化トレーニング 1	異文化トレーニング方法 1
第 13 回	異文化トレーニング 2	異文化トレーニング方法 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。
PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】
テキスト（テキスト相当）及び PPT は授業試験システムにアップロードしてある。
資料の配付は行なわないので、毎回持参すること。
テキスト名：『ことばの獲得　母語獲得と第二言語習得　著者：鈴木孝明ほか　出版社：くろしお出版　定価： 1800 円＋税

【参考書】
PPT の参考文献に示した。
参考書名：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション－多文化共生と平和構築へ向けて』　著者：石井敏ほか　出版社：有斐閣選書

【成績評価の方法と基準】
全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。
・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていけたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】In the first half of the course, this course introduces about how first language acquisition is accomplished. In the second half, students will deepen their understanding of different cultures through an overview of cross-cultural communication.
【Learning Objectives】The goals of this course are to understand various phenomena surrounding languages, including first language acquisition, and to become aware of the diversity of the world after being conscious of the diversity of languages.
【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.
【Grading Criteria /Policy】Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため，言語学の基本的な知識と考え方に触れ，コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか，客観的に分析できるようになることを目的とします。
言語学は，ことばを分析し，「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また，その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し，現代言語学で行なわれている主要な研究法も概観します。それらを通じて，世界の言語に見られる構造と言語現象，およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】
1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野，音声学，音韻論，形態論，統語論，意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論，社会言語学および心理言語学のような分野に触れ，ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
言語学とはどんな学問かについて概観します。
「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し，どう言語を扱ってきたかを紹介したり，「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。
一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第 2 回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第 3 回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第 4 回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第 5 回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する論
第 6 回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第 7 回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第 8 回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第 9 回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する
第 10 回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えるときの要素について解説する
第 11 回	言語のバリエーション：社会言語学 1	「社会言語学」について概観する
第 12 回	言語の変化：社会言語学 2	言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する
第 13 回	文理解：心理言語学 1	文を理解するときのしくみについて解説する
第 14 回	文産出：心理言語学 2（授業内試験をする可能性あり）	文を話すことができるしくみについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容は基礎的な内容に限られるので，少しでも不明な個所や疑問点があれば，その時点で質問するなり，紹介する参考資料等を参考にして，理解をしておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
高橋留美 他 (2021)『やさしい言語学』

【参考書】
佐久間淳一 他 (2007)『言語学入門』研究社
千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、
必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】
課題： 30%
平常点： 20%
期末試験： 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり，自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると，何が理解できていて，何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って，チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.
Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language. In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.
【Learning activities outside of classroom】
Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため，言語学の基本的な知識と考え方に触れ，コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか，客観的に分析できるようになることを目的とします。

言語学は，ことばを分析し，「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また，その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し，現代言語学で行なわれている主要な研究法も概観します。それらを通じて，世界の言語に見られる構造と言語現象，およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】
1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを，日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで，理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野，歴史・比較・地理言語学，社会言語学，認知言語学，対照言語学および第二習得論のような分野に触れ，ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し，言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり，「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように，適宜対話方式で進めていくので，自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	歴史言語学の成果	「歴史言語学」の概説と，それでわかったことを紹介する世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と，それでわかったことを紹介する
第 4 回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と，それでわかったことを紹介する
第 5 回	社会言語学の成果 1	「社会言語学」でわかったことを紹介する
第 6 回	社会言語学の成果 2	「「社会言語学」でわかったことを紹介する
第 7 回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し，それがもたらす成果について解説する
第 8 回	第二言語習得について	「第二言語取得論」を概観し，そこでわかったことを紹介する
第 9 回	文字論	「文字論」について解説する
第 10 回	言語研究の歴史	言語学の成立とその変遷について概説する
第 11 回	世界の諸言語について（発表）1	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第 12 回	世界の諸言語について（発表）2	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第 13 回	言世界の諸言語について（発表）3	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第 14 回	「ことば」を考えるときの問題等 （授業内試験をする可能性あり）	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容は基礎的な内容に限られるので，少しでも不明な個所や疑問点があれば，その時点で質問するなり，紹介する参考資料等を参考にして，理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは指定しません。

【参考書】
風間喜代三 (1978)『言語学の誕生』岩波新書
佐久間淳一他 (2007)『言語学入門』研究社
スティーブンソン／江村他訳 (2010)『図説 ことばの世界－欧米の言語史－』青山社
千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂
町田健・籾山洋介 (1995) 『よくわかる言語学入門―解説と演習』バベルプレス
小泉政利 (2016)『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版
籾山洋介 (2009)『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』研究社
迫田久美子 (2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001)『日本語学習者の文法習得』大修館書店

【成績評価の方法と基準】
課題： 30%
平常点： 20%
期末試験： 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり，自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると，何が理解できていて，何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って，チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language. In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1. To gain a general knowledge of human activity in language.

2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.
【Learning activities outside of classroom】
Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

齊藤　雄介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】
学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強制の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。毎回プリントを配布するので、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
毎回プリントを配布する。
『言語学入門』　西原哲雄（編）　朝倉書店

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】
本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.
Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.
Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.
Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

齊藤　雄介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】
学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学 A の内容を若干復習する
第 2 回	統語論 1	文法とは何か　文の構造
第 3 回	統語論 2	下位範疇と句構造規則
第 4 回	統語論 3	変形文法
第 5 回	統語論 4	Xバー統語論
第 6 回	意味論 1	語と語の意味関係
第 7 回	意味論 2	語の内部の意味関係
第 8 回	意味論 3	語の意味と背景知識
第 9 回	意味論 4	意味と話者の関係
第 10 回	語用論 1	語用論とは何か
第 11 回	語用論 2	言語能力と言語運用と語用論
第 12 回	語用論 3	会話仮設理論
第 13 回	語用論 4	関連性理論
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】
『言語学入門』　西原哲雄（編）　朝倉書店

【参考書】
毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】
本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.
Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.
Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.
Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

佐藤　真人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代ギリシアから中世初期までの西洋哲学史に即して、世界（自然）と精神（魂）はどのように考えられてきたのか、それらを知るためにいかなる方法がとられてきたのかを学びます。
世界の探究はどのように行われたのか。精神とは何か。世界と精神とはいかなる関係にあるのか。世界と精神について、われわれは何をどのように知ることができるのか。こういった問題に対する古代ギリシア以来の哲学者たちの探究を通じて西洋哲学の基礎を理解し、それによって現代の私たちが自身で論理的に考え、探究するための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】
① 世界（自然）と精神（魂）の問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
② 西洋哲学がいかなる考えのもとで成立し発展してきたのか、その内容と論理の構造を理解する。
③ 授業で理解・考察したことを、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面の講義形式で、哲学者の思想や配布したテキストについて、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。
また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。
なお、この授業は秋学期の「哲学 II」へ続くので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入部：哲学とは？	世界があることの驚異と探究の開始
第 2 回	世界はどのように成り立っているのか？	古代ギリシアにおける「コスモス」の誕生と自然の根源の探究
第 3 回	古代ギリシアの真理・善・美 ①	ソフィストの知とソクラテスの「不知」
第 4 回	古代ギリシアの真理・善・美 ②	プラトンの知識論と魂の不死
第 5 回	古代ギリシアの真理・善・美 ③	プラトンの愛、美、真実在
第 6 回	アリストテレスの知識論	体系とは何か？　アリストテレスの論理学と知の区分
第 7 回	アリストテレスの自然学	四つの原因と運動変化
第 8 回	アリストテレスの魂論	魂の役割と機能
第 9 回	初期ストア派の「理」の学と自然哲学	ロゴスと自然の探究の意味
第 10 回	絶対に確かな真理はあるのか？	懐疑主義の脅威
第 11 回	新プラトン主義の宇宙論	世界の「流出」と「三つの存在者」
第 12 回	自己の内面の探求 ①	プロティノスのエクスタシスと「一者」への回帰
第 13 回	自己の内面の探求 ②	アウグスティヌスによる「私」の時間論
第 14 回	自己の内面の探究 ③	アウグスティヌスによる愛と三位一体の理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。
内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいっそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。
本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】
参考書は都度提示しますが、何よりまず、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。
授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。
・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、１～３巻、中央公論新社、2007～2008 年。
・納富信留、『ギリシア哲学史』、筑摩書房、2021 年

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）20%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）60%（中間テストを実施しない場合は 80%）、の割合とします。
なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】
哲学は受け身で聞き流すだけでは身につきません。ぜひ自分でテキストや参考文献を読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】
We will learn the methods and the results of western philosophers, from the ancient period to the early medieval period, on how they consider the world (nature) and the mind, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.
Students are expected by the end of course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as the world and the mind. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words.
Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.
The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　真人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世から近世までの西洋哲学史に即して、世界（自然）、神、精神（魂）はどのように考えられてきたのか、それらを知るためにいかなる方法がとられてきたのかを学びます。
世界と神の探究は哲学によってどのように行われたのか。精神とは何か。世界と神、精神はいかなる関係にあるのか。世界と神、精神について、われわれは何をどのように知ることができるのか。こういった問題に対する中世から近世までの哲学者たちの探究を通じて西洋哲学の基礎を理解し、それによって現代の私たちが自身で論理的に考え、探究するための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】
① 世界（自然）、神、精神（魂）の問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
② 西洋哲学がいかなる考えのもとで成立し発展してきたのか、その内容と論理の構造を理解する。
③ 授業で理解・考察したことを、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面の講義形式で、哲学者の思想や配布したテキストについて、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。
また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。
なお、この授業は「哲学Ⅰ」から引き続いているので、通年での履修が望ましいですが、どちらかのみ別個で履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入部	中世哲学の発展と世界の見方の変化
第 2 回	理性と信仰の調和	キリスト教における哲学の導入
第 3 回	神の存在は証明可能か？ ①	アンセルムスとトマス・アクィナスによる神の存在証明
第 4 回	神の存在は証明可能か？ ②	トマスの宇宙論的証明とドゥンス・スコトゥスによる「存在」
第 5 回	宇宙と無限	ニコラウス・クザーヌスによる宇宙像と神を知る方法
第 6 回	コスモスの解体と「幾何学的宇宙」の発見	世界認識の刷新と「近世哲学」の始まり
第 7 回	デカルト哲学の成立	「学校」哲学への懐疑と数学的方法の探究
第 8 回	デカルト哲学の発展	「考える私」と神の発見
第 9 回	デカルト哲学の体系	観念、実体、情念の理論の革新性
第 10 回	パスカルの哲学批判	「考える葦」と憎むべき「私」
第 11 回	マルブランシュの物体的認識論	明晰な自然界と闇の「私」
第 12 回	スピノザの幾何学的哲学	至福と真理の探究
第 13 回	スピノザの倫理学とライプニッツの批判	「神または自然」と人間の自由
第 14 回	ライプニッツ哲学の体系的世界	世界の論理と理由、実体の「表現」と調和

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。
内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいっそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。
本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】
参考書は都度提示しますが、何よりまず、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。
授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。
・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、３～５巻、中央公論新社、2007～2008 年。
・神崎繁ほか編、『西洋哲学史』Ⅱ、Ⅲ、講談社選書メチエ、2011～2012 年。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）20%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）60%（中間テストを実施しない場合は 80%）、の割合とします。
なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】
哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、テキストや参考文献をぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】
We will learn the methods and the results of western philosophers, from the medieval period to the early modern period, on how they consider the world (nature), God, and the mind, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.
Students are expected by the end of course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as the world, God, and the mind. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words.
Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.
The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。
この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】
基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・イデア説の哲学史上の意味
・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (4 ～ 5 回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） イデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） イデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのイデア説解釈
第 9 回	哲学の歴史 6	プラトン（5） 善のイデアと現代的プラトン批判
第 10 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 11 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 12 回	哲学の基本問題 3	モラルの危機と哲学
第 13 回	哲学の基本問題 4	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、１９９８年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績 (60%)、授業内容確認小テストの成績 (30%) そして平常点 (10%) とにより評価する。
授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】
哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思います。解説は丁寧に行いますので、テキスト・資料を深く読み、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるように努めてください。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】
This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】
主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（４～５回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 （カント哲学の意義と問題点）
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学 II のまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、１９９８年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末リポート試験の成績（６０％）、授業内容確認小テストの成績（３０％）そして平常点（１０％）とにより評価する。
学期末リポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用するレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】
The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his soluitions to the problem.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。
この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】
基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。
この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：
・イデア説の哲学史上の意味
・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (4 ～ 5 回実施予定)。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン（2） イデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン（3） イデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのイデア説解釈
第 9 回	哲学の歴史 6	プラトン（5） 善のイデアと現代的プラトン批判
第 10 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 11 回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第 12 回	哲学の基本問題 3	モラルの危機と哲学
第 13 回	哲学の基本問題 4	一元論思想とその問題点 東西の一元論思想
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、１９９８年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績 (60%)、授業内容確認小テストの成績 (30%) そして平常点 (10%) とにより評価する。
授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】
哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思います。解説は丁寧に行いますので、テキスト・資料を深く読み、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるように努めてください。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】
This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】
主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（４～５回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性
第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 （カント哲学の意義と問題点）
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学 II のまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】
竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、１９９８年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末リポート試験の成績（６０％）、授業内容確認小テストの成績（３０％）そして平常点（１０％）とにより評価する。
学期末リポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使用するレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】
The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his soluitions to the problem.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂　秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること―自然哲学―
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること―ソクラテス―
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1 ―プラトン―
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2 ―アリストテレス―
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知―中世哲学―
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について―近代哲学―
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感じること 1 ―大陸合理論―
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感じること 2 ―イギリス経験論―
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由―カント―
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること―ドイツ観念論―
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。
授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and history of philosophy.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

近堂　秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】
主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1 ―デカルト―
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2 ―ロック―
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1 ―超越論的感性論―
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2 ―超越論的分析論―
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3 ―概念の分析論―
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4 ―純粋悟性概念の演繹について―
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。
授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤　功

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】
現代人が直面する諸問題をさまざまな観点から捉え直し解決するための糸口を見つけ出せるよう試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式によって実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 ―哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 ―哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 ―古代	イデア
5	哲学の歴史 2 ―中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 ―近世	観念
7	哲学の歴史 4 ―現代前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 ―現代後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 ―現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 ―現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 ―運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 ―行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 ―生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には毎回授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】
An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤　功

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から古代から現代に到る哲学の根本問題をできるだけ平明に解説します。

【到達目標】
授業のテーマは常識の批判的再検討であり、主要な哲学の根本問題を学習することを通してそれを自ら行なえるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 ―哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 ―哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 ―現実世界について	「ある」
5	哲学の根本問題について 2 ―科学的世界像について	時間
6	哲学の根本問題について 3 ―言語について	言葉の意味
7	哲学の根本問題について 4 ―個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 ―幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6 ―我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7 ―道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 ―死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】
Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口　力

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」および「世界」に関するさまざまな論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】
哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。
この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。
・古代ギリシャ哲学における世界
・大陸合理論における世界
・イギリス経験論における世界
・近代ドイツ哲学における世界
・19〜20 世紀哲学における世界
・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション〜哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史〜哲学の基本問題 1：古代ギリシャ哲学（1）	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち①（さまざまなアルケー、有）
第 3 回	哲学の基本問題 2：古代ギリシャ哲学（2）	・ソクラテス以前の哲学者たち②（ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース） ・ソクラテス（無知の知）
第 4 回	哲学の基本問題 3：古代ギリシャ哲学（3）	・プラトン①（イデア論）
第 5 回	哲学の基本問題 4：古代ギリシャ哲学（4）	・プラトン②（一と多、知識とは何か）
第 6 回	哲学の基本問題 5：古代ギリシャ哲学（5）	・アリストテレス（四原理、デュナミスとエネルゲイア） ・プロティノス（一者、流出説） ・近代への過渡期
第 7 回	哲学の基本問題 6：大陸合理論	・デカルト（実体、神、精神と物体） ・スピノザ（実体、属性、様態） ・ライプニッツ（モナドロジー）
第 8 回	哲学の基本問題 7：イギリス経験論（1）	・ロック（経験と観念） ・ヒューム（因果律の否定）
第 9 回	哲学の基本問題 8：イギリス経験論（2）	・バークリ（物質的実体の否定）
第 10 回	哲学の基本問題 9：近代ドイツ哲学（1）	・カント（感性と悟性、ア・プリオリな総合判断）
第 11 回	哲学の基本問題 10：近代ドイツ哲学（2）	・フィヒテ（自我と非我） ・シェリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（絶対者、弁証法）
第 12 回	哲学の基本問題 11：19〜20 世紀哲学	・ショーペンハウアー（意志と表象） ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティヴ） ・ハイデガー（世界-内-存在）
第 13 回	哲学の基本問題 12：現代分析哲学（1）	・ウィトゲンシュタイン（対象と事実、語りえぬもの）
第 14 回	哲学の基本問題 13：現代分析哲学（2）〜哲学 I のまとめ	・その他の現代形而上学 ・試験（ないしレポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】
The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ゛world ゛ and some related logical problems of ゛world ゛ (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

谷口　力

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」および「心」に関するいくらかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】
授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。
この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。
・古代ギリシャ哲学における心
・大陸合理論における心
・イギリス経験論における心
・近代ドイツ哲学における心
・19〜20 世紀哲学における心
・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション〜哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学（1）	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（プシュケー、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学（2）	・プラトン②（魂の正しさについて）
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：古代ギリシャ哲学（3）	・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：大陸合理論	・デカルト（我思う、ゆえに我あり） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モナド）
第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：イギリス経験論	・ロック（感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学（1）	・カント（実践的要請、定言命法）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：近代ドイツ哲学（2）	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：19〜20 世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス、ニヒリズムについて） ・フッサール（志向性）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学（1）	・ウィトゲンシュタイン①（形而上学的主体、世界の限界）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学（2）	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学（3）	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学（4）	・ウィトゲンシュタイン②（生きている人間、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乗仏教の哲学〜現代世界および現代日本と哲学について〜哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験（ないしレポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。
この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】
The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ゛mind゛ and some related ethical problems of ゛mind゛ (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

大西　正人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。
特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】
基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	ガイダンス　哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1)　「イデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2)　『饗宴』アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3)　『饗宴』ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1)　『善の研究』-「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2)　「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1)　『倫理学』-「間柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2)　「矛盾的統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3)　『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4)　主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1)　『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2)　「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3)　「本質行為」としての人間
14	哲学 I のまとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。
プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】
ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】
This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before,such as through the development of new technologies,something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西　正人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：2 **単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものと見る自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

【到達目標】
主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス　哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司　生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2　生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス　自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2　自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学　近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観　近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2)　近代的主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3)　「近代的分裂」の予告としての近代的主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論　近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル　カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル　カントのアンチノミー論
13	現代日本と哲学について	カントとヘーゲル　ヘーゲルの弁証法的世界観
14	哲学Ⅱのまとめ	カントとヘーゲル　ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。
今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】
原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】
ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】
Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂　秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題の概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること―自然哲学―
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること―ソクラテス―
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1 ―プラトン―
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2 ―アリストテレス―
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知―中世哲学―
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について―近代哲学―
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感じること 1 ―大陸合理論―
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感じること 2 ―イギリス経験論―
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由―カント―
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること―ドイツ観念論―
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic concepts and history of philosophy.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

近堂　秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】
主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1 ―デカルト―
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2 ―ロック―
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1 ―超越論的感性論―
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2 ―超越論的分析論―
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3 ―概念の分析論―
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4 ―純粋悟性概念の演繹について―
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について まとめ	グローバル化時代の哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。
授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示します。

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】
This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.
(Learning activities outside of classroom)
After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探求する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】
哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 ―哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 ―哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 ―近代①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 ―近代②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 ―現代①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 ―現代②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 ―死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 ―死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 ―現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 ―人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 ―古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志
第 13 回	哲学の歴史 6 ―中世	証空：浄土教における無限者との一体化
第 14 回	哲学Ⅰのまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】
ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳，リベルタス出版，2020 年，2700 円（税抜）.
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、６月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】
This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 5/Fri.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】
授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格―哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第 3 回	哲学の根本問題について 1 ―科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第 4 回	哲学の根本問題について 2 ―道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第 5 回	哲学の根本問題について 3 ―現実世界と人間存在について	ヤスパース：包越者論
第 6 回	哲学の根本問題について 4 ―真理について	ヤスパース：理性と交わり
第 7 回	哲学の根本問題について 5 ―哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第 8 回	哲学の根本問題について 6 ―現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第 9 回	哲学の根本問題について 7 ―近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第 10 回	現代日本と哲学について 1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位
第 11 回	現代日本と哲学について 2	夏目漱石：道と天
第 12 回	現代世界と哲学について 1	小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美
第 13 回	現代世界と哲学について 2	小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】
適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、１２月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤　功

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】
現代人が直面する諸問題をさまざまな観点から捉え直し解決するための糸口を見つけ出せるよう試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式によって実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 ―哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 ―哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 ―古代	イデア
5	哲学の歴史 2 ―中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 ―近世	観念
7	哲学の歴史 4 ―現代前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 ―現代後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 ―現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 ―現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 ―運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 ―行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 ―生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には毎回授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】
An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤　功

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から古代から現代に到る哲学の根本問題をできるだけ平明に解説します。

【到達目標】
授業のテーマは常識の批判的再検討であり、主要な哲学の根本問題を学習することを通してそれを自ら行なえるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 ―哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 ―哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 ―現実世界について	「ある」
5	哲学の根本問題について 2 ―科学的世界像について	時間
6	哲学の根本問題について 3 ―言語について	言葉の意味
7	哲学の根本問題について 4 ―個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 ―幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6 ―我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7 ―道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 ―死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでもなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】
Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？　ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？　釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？　福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？
第 12 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	功利主義（ベンサム、ミル）
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？	社会契約論
第 14 回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、６月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理学的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？　生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題①　「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題②　脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？　エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？　環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学　動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて　桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？　大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第 13 回	何が暴力を抑止するのか？	暴力、戦争と倫理学
第 14 回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、１２月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】
This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.　The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.　Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

杉本　隆久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行いますが、初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。
また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。
授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。
なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。
評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】
倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】
Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.
The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.
Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉本　隆久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行いますが、初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合もあります。
また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。
授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。
なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	２１世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理―科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。
評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】
一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】
倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】
Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.
The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.
Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

伊藤　直樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義では、まず哲学的、倫理学的に問 うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理学的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。講義時に 、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】
参考書については、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の基準は次のようにする。
授業への貢献度３０％；レポート７０％
授業への貢献度とは、毎授業後に提出されるコメントペーパーです。
レポートは学期末に、課題を提示します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。
コメントペーパーを見ていると、４月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。
哲学的・倫理学的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
【Learning outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤　直樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義では、まず哲学的、倫理学的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理学的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理学
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	２１世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】
参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末にレポートを提出してもらいます。
成績評価の基準は次のようにする。
平常点３５％；レポート６５％

【学生の意見等からの気づき】
タイミングをみて「哲学対話」やディベートをを取り入れています。次のコメントは、「教育」に関して哲学対話を行ったときのコメントです。
「教育と洗脳の違いを考えるだけで、ほぼすべての議題を含めて討論することができた。教育が逆説的であることに気付き、答えが一つに定まらないことに対するもどかしさが解消された。主体や考え方を変えるだけで教育に対する印象が大きく変わった。」
また、授業については、次のようなコメントがありました。
「授業中に思ったことや疑問を次の授業で解決してくれるため、内容があたまに入りやすかった。」
「ディベートや哲学対話をとおして自分の考えを発信したり、相手の考え方を学ぶことができたりしておもしろかった。」

【Outline (in English)】
【Course outline】
Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
【Learning outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 65%, in class contribution: 35%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島　樹里奈

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。
The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行ないます。毎回の講義後には、簡単なリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。
学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学：快楽と禁欲
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？　：自由意志と責任
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 90 分を標準とします。
Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）
毎回リアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください（ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています）。
Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】
倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。
また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】
※ 倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないで OK です。（基本的に初学者向けの授業です）
※ 単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。
※ この科目は教職科目のため、共通シラバスになっています。
* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)
* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.
* This course is based on a common syllabus.

【Outline (in English)】
This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

田島　樹里奈

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 3/Wed.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。
The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。
◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。
＊ 講義
＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。
＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。
→　これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになると考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	テロリズムと戦争
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権／人権とは何か？
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	２１世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 90 分を標準とします。
Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理―科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】
毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）
リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）
Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)
Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

【学生の意見等からの気づき】
倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。
Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject.(Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】
倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。
※ 単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。
※ この科目は教職科目のため、共通シラバスになります。

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.
We do not recommend this course to those who just want to get credits.　This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.
This course is based on the common syllabus.

【Outline (in English)】
This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村　修

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・受講上の注意 ・授業内容についてのイントロダクション ・「現に問うているのは誰か？」
第 2 回	人間とは何か？（2）	・ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・「世界内存在としての私」
第 3 回	人間とは何か？（3）	・「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・「絶対的な善とは何か？」 ・倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・功利主義 ・義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・自由とは何か？ ・権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・カント倫理学 ・権利と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	・法実証主義 ・法と倫理
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	・社会契約論 ・国家と個人
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	・自由主義・共同体主義 ・政治と倫理 ・社会と個人
第 14 回	まとめ	・倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理学的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】
・定期試験（30 %）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
・リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】
・倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
【Learning outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

森村　修

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理学的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	・持続可能な社会とは何か？
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	・２１世紀の倫理学に向けて
第 14 回	まとめ	・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理―科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】
定期試験（30 %）に加え、小テスト（30 %）やリアクション・ペーパー（40 %）などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学の行動方針レベルが 1 の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが 2 となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2）——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイデガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3）——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の 3 つのレヴェルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）——快楽主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）——社会契約論	ホッブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体にとっての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】
授業内小テスト（70 %）期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】
Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.
The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　英明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理学的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取
り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか？（1）――「正義の戦争」はありうるか？	正戦論とはなにか、正戦論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか？（2）――暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか？（3）――テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）――生存権／人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）――「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」といった評価をおこなう可能性について考える。
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）――動物倫理学	シンガーの「動物解放論」にていて解説する。
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）――動物倫理学	動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）――責任という原理（ヨナス）	ヨナスの責任概念を中心に相互性の問題について考える。
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）――科学技術の倫理	科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）――世代間倫理	世代内倫理に対する世代間倫理について解説する。
第 11 回	環境は保護しなければならないのか？（1）――環境倫理学とは何か？	世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
第 12 回	環境は保護しなければならないのか？（2）――持続可能な社会とは何か？	「持続可能性」という概念について倫理学的な観点から考える。
第 13 回	環境は保護しなければならないのか？（3）――２１世紀の倫理学に向けて	なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い　討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理―科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年
など

【成績評価の方法と基準】
授業内小テスト（70 %）期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】
Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.
The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？　ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？　釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？　福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」
第 11 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	カント倫理学② 自由とは何か？
第 12 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	功利主義（ベンサム、ミル）
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？	社会契約論
第 14 回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、６月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部　良一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理学的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】
この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？　生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題①　「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題②　脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？　エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？　環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学　動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて　桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？　大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）
第 12 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	責任という原理（ヨナス）
第 13 回	何が暴力を抑止するのか？	暴力、戦争と倫理学
第 14 回	授業のまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０％くらい）と期末の筆記試験（６０％くらい）の２つにより評価する予定である。
期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、１２月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】
生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】
This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.　The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.　Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西　正人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。
特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】
本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	概念の定義
5	概念 (3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理 (1)	推理とは何か　演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
予習は、事前に教科書の次の章を読む。
復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】
論理学入門／千葉茂美　東千尋　若山玄芳／学陽書房　ISBN-313-35005-5

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】
Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.
In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.
The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西　正人

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立ちえているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。
春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】
本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式
3	三段論法 (2)	正しい三段論法の規則
4	三段論法 (3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
予習は、事前に教科書の次の章を読む。
復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】
論理学入門／千葉茂美　東千尋　若山玄芳／学陽書房　ISBN-313-35005-5

【参考書】
授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】
毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】
Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.
In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.
The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

白根　裕里枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】
学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何を学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この講義は、基本的にはオンライン形式によるプリントを用いた講義です。理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく解説していきます。論理学は積み重ねが重要なので，毎回の出席（＝課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学ⅠとⅡとを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論１、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論２、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論３、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論４、概念の種類について	概念の種類・問題演習
7	命題論１、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式について
8	命題論２、命題の種類	定言命題の基本形式
9	命題論３、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論４、問題演習	問題演習
11	推理１、直接推理	対当関係による推理
12	推理２、対当関係	対当の四角形と解説
13	推理３、対当による推理	問題演習
14	前期のまとめと試験	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。毎回の課題の提出準備など、本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】
『論理学』　藤野登著　内田老鶴圃
『論理学講義』村上恭一著　成文堂

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合は、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.
Grading will be decided based on the following,
Term-end examination:60%,Submit assigment:30%,Usual performance score:10%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根　裕里枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】
学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「私を愛しているのなら、電話をくれるはず。電話をくれた！ 私を愛しているのね♡」かどうか・・・。特に学生は、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的な事柄を配布プリントを用いて解説した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？ いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	推理論１	推理とは何か？
2	変形による直接推理１、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理２、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理３、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の公理と規則１	定言三段論法の公理と６つの規則
7	三段論法の規則２、媒概念不周延の誤謬	定言三段論法の規則（２）媒概念不周延の誤謬
8	三段論法の規則３	定言三段論法の規則（３）大概念・小概念不当周延の規則、その他の規則
9	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
10	仮言三段論法の解説と演習	混合仮言・純粋仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。毎回の課題の提出準備など、本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】
『論理学』　藤野登著　内田老鶴圃
『論理学講義』村上恭一著　成文堂

【成績評価の方法と基準】
毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.
Grading will be decided based on the following,
Term-end examination:60%,Submit assigment:30%,Usual performance score:10%

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。
論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。
（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】
正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：
1．伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）
また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。
課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1．論理学とはどのような学問か 2．論理学の歴史的な展開（論理学史） 3．演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1．同一律 2．矛盾律 3．排中律 4．非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1．概念の形成過程 2．概念の外延と内包 3．アリストテレスの概念論 4．概念の種類
第 4 回	判断論（命題論）1	1．判断（命題）とは 2．命題の種類 3．定言命題 4．命題の標準形式化 5．練習問題
第 5 回	判断論（命題論）2	1．周延の概念 2．定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3．定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1．対当関係による推理: 矛盾対当・反対対当 2．練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1．対当関係による推理: 小反対対当・大小対当 2．練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1．命題の変形による推理: 換質法・換位法 2．練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1．命題の変形による推理: 換質換位法 2．練習問題 3．排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1．間接推理（三段論法）の種類 2．定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3．定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1．妥当な定言三段論法の見分け方 2．練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1．練習問題（中級） 2．仮言命題（条件文）について 3．純粋仮言三段論法 4．練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1．混合仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式 2．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、２０１３年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績 (65%)、授業内容確認小テストの成績 (25%)、平常点 (10%) により評価します。
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.
The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 3/Wed.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という３つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。
前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学 I」の学習内容を前提としていますので、「論理学 I」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
春学期の論理学 I と同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：
１．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
２．現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
３．伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。
授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。
命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第１回目の小テストを行います。
学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) ：復習	１．仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 ２．仮言三段論法:前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	１．選言三段論法 ２．両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	１．論理語についての説明 ２．十分条件と必要条件 ３．真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	１．カッコの省略 ２．練習問題 １．日常文を記号化してみる ２．練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	１．真理関数と真理値分析 ２．練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	１．整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か ２．トートロジーと推論 ３．練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	１．小テスト（筆記試験） ２．意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	１．否定・反対 ２．ド・モルガンの法則 ３．練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	１．「すべて」と「存在する」 ２．練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	１．逆・裏・対偶 ２．練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	１．条件連鎖 ２．練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	１．存在文の扱い方 ２．消去法 ３．練習問題
第 13 回	論理トレーニング (6)	１．背理法 ２．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。
特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、2013 年
坂本百大・坂井秀寿共著 『新版現代論理学』、東海大学出版会、１９７１年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
中間小テスト成績（４０％）と期末小テスト成績（４０％）と平常点（２０％）に基づき評価。２回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、２回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De morgan's laws and disjunction elimination.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学び、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】
①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題を提供します。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行われます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の３原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の 4 種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1. 換質法、2. 換位法、3. 換質換位法、4. 戻換法）	換質法、換位法、換位不可能な命題、換質換位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第 1 回から第 5 回）の解答と解説、三段論法	課題プリント（第 1 回から第 5 回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法
7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問１から設問６）、妥当性の判定の練習問題（設問８から１１）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第 1 格、第 2 格、第 3 格、第 4 格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第 1 格）、差異の原理（第 2 格）、用例の原理 (第 3 格)、逆の原理（第 4 格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法（第 1 格から第 4 格）
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの関連個所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】
『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)。なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）などで購入してください。

【参考書】
①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、がく石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 %の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席された方は、このシステムを活用して、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】
To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic I" deals with "traditional logic" derived from Aristotle and aims to help students acquire the ability to identify correct reasoning. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for appropriate grounding. (2) Students can develop an attitude of thinking logically and calmly. For example, they can use the rules of direct and indirect reasoning to make correct inferences. (3) Acquire the ability to communicate logically. Homework: Read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) spring semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鵜澤　和彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 II の授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学 I（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】
①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよびF・ベーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ベーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ベーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライプニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライプニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。
第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化の考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：テキストの関連個所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。
復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】
『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)
なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）で購入してください。

【参考書】
①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】
①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 %の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には①授業内容が正しく把握されているかどうか（30%）、②学習した規則を使って問題を解くことができるかどうか（40%）、③期限内に課題を提出できているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
教科書以外のすべての授業資料は、すべて授業支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用し、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】
授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】
To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on science, cognition, and history. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for thinking about science, knowledge, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and reductio ad absurdum. Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homework: Please read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫　義久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということを、基礎から順に学んで行きます。そして最後に、日常の生活で正しくし思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）の両方が必要であることを確認します。

【到達目標】
説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようになることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明して行きます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んで行きますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・換位法についての説明
第 12 回	命題の変形による直接推理について	換質換位法及び本格的な推理についての説明
第 13 回	練習問題で推理を身につけよう。	命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。
第 14 回	授業内の学期末試験：まとめと解説	論理的な正しい思考ができるかどうかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを教科書として使用します。　大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社、2013 年）　アマゾン POD で購入可能

【参考書】
参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）と学期末試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20 点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80 点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】
講義では、多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「レジュメのプリントや問題演習もあってよかった。理解できると楽しかった」と書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learninng time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated accordinng to the following prosess: Usual performance score（20 %）,term-end examination（80 %）.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　義久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。
さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学ぶのです。
本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

【到達目標】
説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理学的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・換位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明
第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを教科書として使用します。　大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社・2013 年）　アマゾン POD で購入可能

【参考書】
参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）と学期末の授業内試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】
授業については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」、「理解できると面白くなる」と書いてくれていました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明して行きます。

【Outline (in English)】
This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course.Then this course introduces syllogism to students.Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course.The aim of this course is to help studens acquir an ability to think logically. Learninng time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance sore（20 %）, term-end examination（80 %）.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。
論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。
（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】
正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：
1．伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）
また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。
課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1．論理学とはどのような学問か 2．論理学の歴史的な展開（論理学史） 3．演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1．同一律 2．矛盾律 3．排中律 4．非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1．概念の形成過程 2．概念の外延と内包 3．アリストテレスの概念論 4．概念の種類
第 4 回	判断論（命題論）1	1．判断（命題）とは 2．命題の種類 3．定言命題 4．命題の標準形式化 5．練習問題
第 5 回	判断論（命題論）2	1．周延の概念 2．定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3．定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1．対当関係による推理: 矛盾対当・反対対当 2．練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1．対当関係による推理: 小反対対当・大小対当 2．練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1．命題の変形による推理: 換質法・換位法 2．練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1．命題の変形による推理: 換質換位法 2．練習問題 3．排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1．間接推理（三段論法）の種類 2．定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3．定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1．妥当な定言三段論法の見分け方 2．練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1．練習問題（中級） 2．仮言命題（条件文）について 3．純粋仮言三段論法 4．練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1．混合仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式 2．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、２０１３年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績 (65%)、授業内容確認小テストの成績 (25%)、平常点 (10%) により評価します。
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.
The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という３つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。
前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学 I」の学習内容を前提としていますので、「論理学 I」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
春学期の論理学 I と同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：
１．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
２．現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
３．伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。
授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。
命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第１回目の小テストを行います。
学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) ：復習	１．仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 ２．仮言三段論法:前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	１．選言三段論法 ２．両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	１．論理語についての説明 ２．十分条件と必要条件 ３．真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	１．カッコの省略 ２．練習問題 １．日常文を記号化してみる ２．練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	１．真理関数と真理値分析 ２．練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	１．整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か ２．トートロジーと推論 ３．練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	１．小テスト（筆記試験） ２．意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	１．否定・反対 ２．ド・モルガンの法則 ３．練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	１．「すべて」と「存在する」 ２．練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	１．逆・裏・対偶 ２．練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	１．条件連鎖 ２．練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	１．存在文の扱い方 ２．消去法 ３．練習問題
第 13 回	論理トレーニング (6)	１．背理法 ２．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。
特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、2013 年
坂本百大・坂井秀寿共著 『新版現代論理学』、東海大学出版会、１９７１年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
中間小テスト成績（４０％）と期末小テスト成績（４０％）と平常点（２０％）に基づき評価。２回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、２回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De morgan's laws and disjunction elimination.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

菅沢　龍文

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋の伝統的論理学の基礎 ― オイラー図とベン図で知る ―
すべての学問の基礎にある、古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】
（A）ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
（B）論理的に冷静に考える態度を身につける。
（C）論理的に正しく推理することができる。
　（1）オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
　（2）ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
（1）テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使います。
（2）各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確認小テストの提出を求めます。
（3）授業の初めに、前回の振り返り、確認小テストの気づきを、フィードバックします。
（4）最終授業で全体を振り返る総合確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ②思考の３原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②換位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える
9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法（実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体（第 1～13 回）の総合確認テストによる総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
　　②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト（教科書）】
菅沢龍文『論理学　はじめの一歩　――オイラー図とベン図で知る伝統的論理学――』（春風社）

【参考書】
大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
伝統的論理学の基礎的知識、論理的に考える態度、論理的推理力に関して次の２方面から評価する。
（１）平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
（２）全体についての総合確認テストの点数
そして（１）を 70 %、（２）を 30 %の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（１）口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
（２）授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】
Elements of the traditional European Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is the basis of every science and constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.
[Learning Objectives]
(A) To acquire a basic knowledge of the traditional European logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.
　(1) To be able to use Euler diagrams to make correct deductions in accordance with traditional logic.
　(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in accordance with traditional logic.
[Learning activities outside of classroom]
The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.
The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.
[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅沢　龍文

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「論理学Ⅱ」では現代における文（ぶん）の論理学を取り上げます（「論理学Ⅰ」では概念の論理学を主に取り上げました）。それに先立ち、近・現代科学の哲学的論理について、ベーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学びます。そして文の論理学として、現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得して、論理的な言葉遣いを学びます。また、論理代数、真理表、ベン図といった３つの表現方法を身につけて、論理的言葉遣いの理解を深めます。これにより、近・現代科学の論理的基礎や、論理的に正しい言葉遣いの基礎について学ぶことができます。

【到達目標】
近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩を学ぶ。
①哲学的論理学によって、近代科学の論理的基礎を明らかにできる。
②命題論理学によって論理的に正しい文章を作ることができる。
③述語論理学によって文の論理的な意味を明らかにできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
参加者は
(1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
(2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
(3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
(4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ベーコンの考えたこと	（1）授業について （2）イドラ説 （3）表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	（1）ミルの帰納法 （2）自然の斉一性 （3）デカルトと演繹法
3	哲学的論理	（1）ライプニッツ　充足理由律 （2）カント　超越論的論理学 （3）ヘーゲル　弁証法
4	命題論理学 ― 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	（1）命題 （2）論理的結合子 （3）真理表とベン図 ―複合命題の真理値―
5	複合命題の真理値	（1）否定 （2）連言 ―複合命題の真理値― （3）選言 （4）条件（対偶など） （5）等値 （＊）論理代数を用いて考える
6	問題を解く	（1）複合命題の反例となる命題 （2）複合命題に対応する事象の確率 （3）複合命題の論理代数化
7	恒真命題（1）	（1）恒真命題 （2）恒偽命題・総合命題 （3）恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	（1）恒真命題の判定（真理表と帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	（1）恒真命題の判定（帰謬法） （2）推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	（1）クラス理論 （2）嘘つきのパラドックス （3）タイプ理論
11	述語論理学のはじめ（Ⅰ）	（1）命題関数 （2）限量記号 （3）概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（Ⅱ）	（1）対当推理を考える （2）多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
《予習》次回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日に PDF で配布が原則）で概観しておく。
《復習》「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】
大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）
※第 2 回 (3)～第 3 回および第 10～14 回は、プリントをテキストとします。

【参考書】
適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の２方面から総合評価する。
（1）平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
（2）最終回に行う全体を振り返る試験の点数
これらのうち（1）を 70 %（2）を 30 %の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
（1）口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
（2）授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。
（3）問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】
Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:
Students will first learn the basic ideas of Western philosophers, beginning with Bacon and Descartes, about logic, which is the mainstay of modern scientific knowledge. Then, students will learn modern propositional logic beginning with Boolean logic, as well as the fundamentals of predicate logic, and learn how to use logical language. In addition, students will deepen their understanding of logical wording by acquiring various methods of expression, such as logical algebra, truth tables, and Venn diagrams. This will enable students to learn about the logical foundations of modern science and the fundamentals of logically correct wording.
Students will learn the rudiments of philosophical logic, modern propositional logic, and predicate logic.

(1) Students will be able to clarify the logical basis of modern science by means of philosophical logic.
(2) Students will be able to produce logically correct sentences by means of propositional logic.
(3) Students will be able to clarify the logical meaning of sentences by predicate logic.
[Learning activities outside of classroom]
The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.
The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.
[Grading Criteria / Policy]
The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。
論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。
（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】
正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：
1．伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）
また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。
課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1．論理学とはどのような学問か 2．論理学の歴史的な展開（論理学史） 3．演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1．同一律 2．矛盾律 3．排中律 4．非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1．概念の形成過程 2．概念の外延と内包 3．アリストテレスの概念論 4．概念の種類
第 4 回	判断論（命題論）1	1．判断（命題）とは 2．命題の種類 3．定言命題 4．命題の標準形式化 5．練習問題
第 5 回	判断論（命題論）2	1．周延の概念 2．定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3．定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1．対当関係による推理: 矛盾対当・反対対当 2．練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1．対当関係による推理: 小反対対当・大小対当 2．練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1．命題の変形による推理: 換質法・換位法 2．練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1．命題の変形による推理: 換質換位法 2．練習問題 3．排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1．間接推理（三段論法）の種類 2．定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3．定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1．妥当な定言三段論法の見分け方 2．練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1．練習問題（中級） 2．仮言命題（条件文）について 3．純粋仮言三段論法 4．練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1．混合仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式 2．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、２０１３年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末の授業内筆記試験の成績 (65%)、授業内容確認小テストの成績 (25%)、平常点 (10%) により評価します。
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】
This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.
The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良　隆世

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という３つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。
前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学 I」の学習内容を前提としていますので、「論理学 I」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】
春学期の論理学 I と同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：
１．伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
２．現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
３．伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。
授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。
命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第１回目の小テストを行います。
学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1) ：復習	１．仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 ２．仮言三段論法:前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	１．選言三段論法 ２．両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	１．論理語についての説明 ２．十分条件と必要条件 ３．真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	１．カッコの省略 ２．練習問題 １．日常文を記号化してみる ２．練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	１．真理関数と真理値分析 ２．練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	１．整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か ２．トートロジーと推論 ３．練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	１．小テスト（筆記試験） ２．意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	１．否定・反対 ２．ド・モルガンの法則 ３．練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	１．「すべて」と「存在する」 ２．練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	１．逆・裏・対偶 ２．練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	１．条件連鎖 ２．練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	１．存在文の扱い方 ２．消去法 ３．練習問題
第 13 回	論理トレーニング (6)	１．背理法 ２．練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習と復習時間は、各２時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。
特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】
大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版　論理学の初歩』、梓出版社、2013 年
坂本百大・坂井秀寿共著 『新版現代論理学』、東海大学出版会、１９７１年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】
中間小テスト成績（４０％）と期末小テスト成績（４０％）と平常点（２０％）に基づき評価。２回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
小テストの採点基準は、２回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】
履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。
論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】
春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】
This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.
By the end of the course, students should be able to understand the followings:
1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De morgan's laws and disjunction elimination.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】
漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛　覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】
漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛　覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋　暁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】
前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式の対面授業を行いますが、第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。
第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。
課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】
Course outline: Surveying the history of premodern China
Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋　暁子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 5/Fri.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】
近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式の対面授業を行いますが、第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。
第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。
課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛　覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】
Course outline: Surveying the history of modern China
Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】
漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤　勝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代中国の政治と民衆
歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】
現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛　覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course outline: Students will survey the history of modern China.
Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋　暁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】
前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式の対面授業を行いますが、第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。
第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。
課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】
Course outline: Surveying the history of premodern China
Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋　暁子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】
近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式の対面授業を行いますが、第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。
第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。
課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛　覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
レポート（もしくは期末試験）100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】
Course outline: Surveying the history of modern China
Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観したい。

【到達目標】
・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	帝国の模範と源流①：ギリシアとローマ	西洋の帝国が模範としたギリシアとローマについて学ぶ
第 3 回	帝国の模範と源流②：キリスト教	西洋の帝国の文化的基盤となったキリスト教とその浸透について学ぶ。
第 4 回	西洋世界の拡大	近代における西洋諸国の対外進出について学ぶ。
第 5 回	帝国主義の時代①	帝国主義時代の西洋列強諸国の動向について学ぶ。
第 6 回	帝国主義の時代②	帝国主義を暴力と戦争の観点から学ぶ。
第 7 回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第 8 回	戦間期の帝国支配	戦間期の帝国支配と反植民地運動の展開について学ぶ。
第 9 回	第二次世界大戦と帝国	第二次世界大戦が西洋諸国の帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第 10 回	帝国支配の崩壊と冷戦・熱戦	第二次世界大戦後の脱植民地化を冷戦との関連で学ぶ。
第 11 回	植民地独立の諸相	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第 12 回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第 13 回	まとめ：帝国支配の過去と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.
< Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】
・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	古代西洋の女性とジェンダー	古代の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第 3 回	中世西洋の女性とジェンダー	中世の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第 4 回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第 5 回	近世社会と家族・ジェンダー	近世社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第 6 回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第 7 回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第 8 回	産業革命の時代と女性・ジェンダー	産業革命の時代における女性とジェンダーのありようを学ぶ。
第 9 回	近代社会と家族・ジェンダー	19 世紀西洋社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第 10 回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第 11 回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。
第 12 回	戦間期から第二次世界大戦期の社会とジェンダー	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋社会をジェンダーの視点から学ぶ。
第 13 回	まとめ：現代の西洋世界とジェンダー	20 世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.
< Learning objectives >
1) Students are able acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.
2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観したい。

【到達目標】
・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	帝国の模範と源流①：ギリシアとローマ	西洋の帝国が模範としたギリシアとローマについて学ぶ
第 3 回	帝国の模範と源流②：キリスト教	西洋の帝国の文化的基盤となったキリスト教とその浸透について学ぶ。
第 4 回	西洋世界の拡大	近代における西洋諸国の対外進出について学ぶ。
第 5 回	帝国主義の時代①	帝国主義時代の西洋列強諸国の動向について学ぶ。
第 6 回	帝国主義の時代②	帝国主義を暴力と戦争の観点から学ぶ。
第 7 回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第 8 回	戦間期の帝国支配	戦間期の帝国支配と反植民地運動の展開について学ぶ。
第 9 回	第二次世界大戦と帝国	第二次世界大戦が西洋諸国の帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第 10 回	帝国支配の崩壊と冷戦・熱戦	第二次世界大戦後の脱植民地化を冷戦との関連で学ぶ。
第 11 回	植民地独立の諸相	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第 12 回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第 13 回	まとめ：帝国支配の過去と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.
< Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤　広晃

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】
・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	古代西洋の女性とジェンダー	古代の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第 3 回	中世西洋の女性とジェンダー	中世の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第 4 回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第 5 回	近世社会と家族・ジェンダー	近世社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第 6 回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第 7 回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第 8 回	産業革命の時代と女性・ジェンダー	産業革命の時代における女性とジェンダーのありようを学ぶ。
第 9 回	近代社会と家族・ジェンダー	19 世紀西洋社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第 10 回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第 11 回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。
第 12 回	戦間期から第二次世界大戦期の社会とジェンダー	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋社会をジェンダーの視点から学ぶ。
第 13 回	まとめ：現代の西洋世界とジェンダー	20 世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.
< Learning objectives >
1) Students are able acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.
2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅰ

2017 年度以降入学者

内川　勇海

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】
・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1 ：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成と特徴について
第 3 回	古代地中海世界 2 ：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3 ：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4 ：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5 ：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6 ：ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1 ：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2 ：国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3 ：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4 ：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5 ：危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
第 13 回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第 14 回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
＊出席管理は厳格に行う。
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】
2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナ感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】
< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.
< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy > Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺　知

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降の西洋は、新たな知識、制度―その弊害も含めて―を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】
・近世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に 活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパ等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第 2 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ１	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1 回目は 11 ～ 13 世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第 3 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ２	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。２回目は「14 世紀の危機」を扱います。
第 4 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ３	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。３回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第 5 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア１	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。１回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第 6 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア２	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。２回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第 7 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア３	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。３回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第 8 回	第３章 スペインとアメリカ１	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。１回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第 9 回	第３章　スペインとアメリカ２	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。２回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第 10 回	第３章　スペインとアメリカ３	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。３回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第 11 回	第４章　イギリス 第一帝国の形成１	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。１回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第 12 回	第４章　イギリス　第一帝国の形成２	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。２回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第 13 回	第４章　イギリス　第１帝国の形成３	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。３回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】
特に設けません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）

【学生の意見等からの気づき】
高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.
< Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively.They are expected to read relevant books and learn by themselves.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

内川　勇海

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】
・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1 ：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成と特徴について
第 3 回	古代地中海世界 2 ：古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3 ：ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4 ：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5 ：古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6 ：ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1 ：中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2 ：国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3 ：中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4 ：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について
第 12 回	中世ヨーロッパ 5 ：危機と変容	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
第 13 回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第 14 回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 50 %
＊出席管理は厳格に行う。
・期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】
第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】
2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナ感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】
< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods. < Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.
< Grading policy > Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺　知

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降の西洋は、新たな知識、制度―その弊害も含めて―を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】
・近世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に 活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパ等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第 2 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ１	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1 回目は 11 ～ 13 世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第 3 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ２	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。２回目は「14 世紀の危機」を扱います。
第 4 回	第１章　大航海時代以前のヨーロッパ３	第１章では 15 世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として 11 ～ 15 世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。３回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第 5 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア１	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。１回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第 6 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア２	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。２回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。
第 7 回	第２章　ポルトガルとアフリカ、アジア３	第２章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。３回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第 8 回	第３章 スペインとアメリカ１	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。１回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第 9 回	第３章　スペインとアメリカ２	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。２回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第 10 回	第３章　スペインとアメリカ３	第３章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。３回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第 11 回	第４章　イギリス 第一帝国の形成１	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。１回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第 12 回	第４章　イギリス　第一帝国の形成２	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。２回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第 13 回	第４章　イギリス　第１帝国の形成３	第４章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。３回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第 14 回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】
特に設けません。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）

【学生の意見等からの気づき】
高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】
< Course outline >
This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.
< Learning objectives >
1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.
< Learning activities outside of classroom >
Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively.They are expected to read relevant books and learn by themselves.
< Grading policy >
Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

根崎　光男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス―東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について学ぶ
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について学ぶ
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について学ぶ
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について学ぶ
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配の行き詰まりと地方支配の転換について学ぶ
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について学ぶ
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について学ぶ
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について学ぶ
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について学ぶ
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について学ぶ
第 14 回	総括と試験	授業内容を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics, economics, society and culture etc.
（Learning Objectives）
The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎　光男

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス―世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけの確認に際して、世界の中での日本という視点を意識しながら学ぶ
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府はどのように成立したのか。天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を見ながら学ぶ
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の幕府政治の動向を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について学ぶ
第 4 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税の仕組みなどについて学ぶ
第 5 回	元禄の幕府政治と地域社会	元禄期の幕府政治とその課題を概観しながら、儒教・仏教・神道とのかかわりについて学ぶ
第 6 回	近世の家族制度と家族関係	近世の家族制度にみられる親子関係・夫婦関係、老人と子供などの社会的位置づけについて学ぶ
第 7 回	享保改革と地域社会	享保改革が目指したものは何か。改革政治の内容や地域社会の動向などについて学ぶ
第 8 回	近世社会の変容と幕府政治	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の動向などについて学ぶ
第 9 回	開国と江戸幕府の終焉	開国はわが国にどのような影響を与え、また幕府はどのように崩壊していったのかについて学ぶ
第 10 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。近代国家の形成について事実に即して学ぶ
第 11 回	近代産業の発展と国際市場	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりについて学ぶ
第 12 回	自由民権運動と政党政治	自由民権運動と政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら学ぶ
第 13 回	世界大戦と戦後政治	日本はなぜ２つの世界大戦に参戦したのか。そして戦後の民主化政策と日本国憲法の役割について学ぶ
第 14 回	総括と試験	授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Considers the history of Japan from early modern to modern times,
through various aspects of politics, economics, society and culture etc.
（Learning Objectives）
The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。
この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。
最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。
謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていきます。
高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。
皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでしたが、地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。
実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上)（同成社）

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し
ています（５％相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずです。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。
また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この講義の進め方についてお話します。
第 2 回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第 3 回	日本古代の土地制度（1）	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第 4 回	日本古代の土地制度（2）	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第 5 回	地方支配と収取方法の具体例	アメーバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第 6 回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第 7 回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第 8 回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第 9 回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第 10 回	道守荘の経営	経営第 2 段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第 11 回	東大寺の復権と初期荘園	経営第 3 段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第 12 回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見てみます。
第 13 回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第 14 回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！　古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成　東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）。論文集をともなう市販本でも可ですが高価です）

【参考書】
『土地所有史』(山川出版社）

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（５%相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。
この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。
最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。
謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていきます。
高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。
皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでしたが、地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。
実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上)（同成社）

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し
ています（５％相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずです。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。
また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この講義の進め方についてお話します。
第 2 回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第 3 回	日本古代の土地制度（1）	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第 4 回	日本古代の土地制度（2）	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第 5 回	地方支配と収取方法の具体例	アメーバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第 6 回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第 7 回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第 8 回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第 9 回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第 10 回	道守荘の経営	経営第 2 段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第 11 回	東大寺の復権と初期荘園	経営第 3 段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第 12 回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見てみます。
第 13 回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第 14 回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！　古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成　東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）。論文集をともなう市販本でも可ですが高価です）

【参考書】
『土地所有史』(山川出版社）

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（５%相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺　美佐

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。次回の授業までに匿名で全員分のコメントを取り纏め、質問については回答し、そのほかのコメントについては、受講生全員の共有財産とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジア世界の中の日本の歴史を学ぶとはどういうことなのか、春学期の授業のアウトラインを説明する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配付します。

【参考書】
随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績による評価（70 %）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】
難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

真辺　美佐

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介します。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。次回の授業までに匿名で全員分のコメントを取り纏め、質問については回答し、そのほかのコメントについては、受講生全員の共有財産とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本の歴史を学ぶとはどういうことなのか、秋学期の授業のアウトラインを説明する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察し、国際関係のなかで鎖国の意味を読み解く。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。
9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配付します。

【参考書】
随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績による評価（70 %）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】
難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。
この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。
最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。
謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていきます。
高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。
皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。
第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかなりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでしたが、地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。
実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上)（同成社）

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定し
ています（５％相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口　雅史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】
暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。
高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解読しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのかが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずです。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。
また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この講義の進め方についてお話します。
第 2 回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第 3 回	日本古代の土地制度（1）	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第 4 回	日本古代の土地制度（2）	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第 5 回	地方支配と収取方法の具体例	アメーバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第 6 回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第 7 回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第 8 回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第 9 回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第 10 回	道守荘の経営	経営第 2 段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第 11 回	東大寺の復権と初期荘園	経営第 3 段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第 12 回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見てみます。
第 13 回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第 14 回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！　古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいっそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】
デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成　東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）。論文集をともなう市販本でも可ですが高価です）

【参考書】
『土地所有史』(山川出版社）

【成績評価の方法と基準】
基本的に期末試験（論述問題）によって行います（９５％相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。
なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（５％相当）。

【学生の意見等からの気づき】
高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし

【その他の重要事項】
とくになし

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66
2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】
Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.
Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.
Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.
Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅰ

2017 年度以降入学者

根崎　光男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス- 東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について学ぶ
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について学ぶ
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について学ぶ
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について学ぶ
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について学ぶ
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について学ぶ
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について学ぶ
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について学ぶ
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について学ぶ
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について学ぶ
第 14 回	総括と試験	授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through
various aspects of politics, economics, society and culture etc.
（Learning Objectives）
The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎　光男

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】
中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス―世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけの確認に際して、世界の中の日本という視点を意識しながら学ぶ
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府はどのように成立したのか。天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を見ながら学ぶ
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の幕府政治の動向を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について学ぶ
第 4 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税の仕組みなどについて学ぶ
第 5 回	元禄の幕府政治と地域社会	元禄期の幕府政治とその課題を概観しながら、儒教・仏教・神道とのかかわりについて学ぶ
第 6 回	近世の家族制度と家族関係	近世の家族制度にみられる親子関係、夫婦関係、老人と子供などの社会的位置づけについて学ぶ
第 7 回	享保改革と地域社会	享保改革が目指したものは何か。改革政治の内容や地域社会の動向などについて学ぶ
第 8 回	近世社会の変容と幕府政治	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の動向について学ぶ
第 9 回	開国と江戸幕府の終焉	開国はわが国にどのような影響を与え、また幕府はどのように崩壊していったのかについて学ぶ
第 10 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。近代国家の形成について事実に即して学ぶ
第 11 回	自由民権運動と政党政治	自由民権運動と政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら学ぶ
第 12 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりについて学ぶ
第 13 回	世界大戦と戦後政治	日本はなぜ２つの世界大戦に参戦したのか。そして、戦後の民主化政策と日本国憲法の役割について学ぶ
第 14 回	総括と試験	授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】
佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.
（Learning Objectives）
The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination:80%,Report:20%

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

榎本　香織

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要な宗教の歴史や形態、思想についての基礎を俯瞰的に学び、理解を深める。

【到達目標】
宗教の基本を客観的に学び、「人間とは何か」という人文系の学問について考える力を養う。日本と世界の宗教を知ることで、日本の精神文化および異文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、必要に応じて資料やレジュメを配布して授業を進める。毎回リアクションペーパーの提出を求める。質問やコメントにたいするフィードバックは次回講義冒頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、「宗教(Religion)」とは何か？
2	人間と宗教	複数領域の進化論から、人間にとっての宗教とは何かを考える
3	信仰形態の基礎知識	一神教、多神教、アニミズムなど
4	世界の主要宗教を概観する（1）	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する（2）	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する（3）	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する（4）	仏教
8	日本の宗教（1）	神道と仏教
9	日本の宗教（2）	新宗教など
10	日本の宗教（3）	精神世界とスピリチュアリティ
11	宗教現象を知る （1）	祈り・儀礼
12	宗教現象を知る （2）	シャーマニズム
13	宗教現象を知る （3）	現代と宗教
14	試験、まとめ	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
脇本平也『宗教学入門』（1997 年、講談社学術文庫）
島薗進『精神世界のゆくえ』（2022 年、法蔵館文庫）
その他講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to provide an overview and understanding of the basics of the history, forms, and thought of the major religions

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

榎本　香織

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主要な宗教現象を横断的に更に掘り下げ、かつ、現代社会と宗教がどのように結び付いているかを学ぶ。

【到達目標】
宗教や宗教研究のあり方への理解をさらに深め、現代における宗教の役割や意義について客観的に捉え・考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、必要に応じて資料やレジュメを配布して授業を進めていく。毎回リアクションペーパーの提出を求める。質問やコメントにたいするフィードバックは次回講義冒頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、宗教論を学ぶことについて
2	宗教と宗教論	宗教と宗教論（学）との違いについて
3	宗教的世界観（1）	神話、伝説
4	宗教的世界観（2）	聖と俗、ハレとケなど
5	宗教的世界観（3）	死生観、他界観など
6	宗教的行為（1）	祈りについて
7	宗教的行為（2）	儀礼について
8	宗教的行為（3）	修行、戒律について
9	宗教的行為（4）	祭りについて
10	現代社会と宗教（1）	宗教・呪術・科学
11	現代社会と宗教（2）	宗教とメディアの歴史
12	現代社会と宗教（3）	宗教と公共性
13	現代社会と宗教（4）	宗教といのち
14	試験、まとめ	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
脇本平也『宗教学入門』（1997 年、講談社学術文庫）
石井研士『テレビと宗教』（2008 年、中公新書ラクレ）
稲場圭信『利他主義と宗教』（2011 年、弘文堂）
その他講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】
This class will further explore a cross-section of major religious phenomena and learn how religion is connected to contemporary society.

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

古澤　有峰

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】
宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
2	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
3	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
4	世界の主要宗教を概観する（1）	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する（2）	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する（3）	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する（4）	仏教
8	日本の宗教観（1）	神道と仏教
9	日本の宗教観（2）	無宗教と現代
10	宗教現象の分析（1）	神とカミガミ
11	宗教現象の分析 （2）	祈り
12	宗教現象の分析 （3）	祭礼
13	宗教現象の分析（4）	現代の問題
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、最終レポートが 60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】
Students will learn some basic views on the origins and forms of religion and gain the deeper understanding of existing religions.

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

古澤　有峰

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】
宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の説明	宗教論とは何か
2	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
3	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
4	聖なることば（1）	祈りを中心に
5	聖なることば（2）	神話を中心に
6	宗教的世界観（3）	聖なる空間および他界について
7	聖なる行為（1）	儀礼とは何か
8	聖なる行為（2）	通過儀礼が意味するもの
9	聖なる行為（3）	祝祭とは何か
10	理性と宗教（1）	宗教・呪術・科学
11	理性と宗教（2）	呪術と宗教
12	理性と宗教（3）	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
13	理性と宗教（4）	近代科学革命のなかで
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 40%、最終レポートが 60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】
Students will learn major religious phenomena, focusing on the relationship between God (or gods/kamigami) and humans, and will also examine the role that religion has played in history from ancient to modern times.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

嘉藤　笑子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀になって「芸術」は、モダンアートや現代アートと呼ばれるようになって、人々の生活から乖離していく存在になった。わかりづらいモノ、難しいモノとして人々の意識から遠のいたように思える。にもかかわらず、SNS やインスタ映えといった現象によって現代アート展や国際芸術祭には、多くの若者や外国人旅行者が押し寄せている。こうした現象に代表されるようにアートは面白い！ と思わせる存在でもある。したがって、その真性をつかむのは容易ではない。古えから連綿と続く芸術の普遍性や真価性を紐解きながら、新たな美意識や思想を生み出してきた芸術の真価を学ぶべきである。同時に「アートとは何か？」ということを学ぶことは現代社会の深層を掘り下げることにある。アートの定義を改めて探求し、社会的文脈で読み解くことで、芸術の真正を探求していく。

【到達目標】
芸術がモダンアートと呼ばれるようになった 20 世紀初めから現代までのおよそ 100 年間における芸術と社会の関係を考察していく。芸術の存在を受容してきた社会的背景や歴史的考察を経て、芸術が影響を与えてきた社会的構造を探求していく。20 世紀を象徴する具体的なアーティストや代表的なアート作品の事例をもとにアートと社会との関係性を模索していく。その芸術が誕生した地域や習性などの文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、芸術の文化的価値につい探求していく。また、地域創生やコミュニティ再生といった今日的問題を視野に入れて、社会変化と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出していく。さらにグローバル社会における芸術の普遍的価値を改めて問い直していく。多くの文化事業やコミュニティ活動から事例を学び、芸術が育成されるべき社会構造についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義（動画・画像を多用していく）を行う。
毎回リアクションペーパーの提出。
各回のレジュメおよび参考資料を配布。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アートとは何か？（ガイダンス）	20 世紀におけるアートの変化を考える
第 2 回	美術館と展覧会のはじまり	アートをめぐるインスティチューションの在り方を探求する
第 3 回	博覧会と芸術祭	芸術の見せ方を模索するなかで博覧会や芸術祭の可能性を模索する
第 4 回	ふたつの世界大戦とアート①	戦争におけるプロパガンダの登場とその影響について考察する。事例：ドイツの退廃芸術など
第 5 回	ふたつの世界大戦とアート②	戦争におけるプロパガンダとその影響について考察する。事例：日本の戦争画
第 6 回	冷戦構造とアート①	ソビエト連合の設立と崩壊に関わった芸術をまあ部。ロシア・アヴァンギャルドほか
第 7 回	冷戦構造とアート②	東西分断されたドイツの芸術祭『ドクメンタ』や五月革命（1968）を考察していく。
第 8 回	ポップアートと消費社会	20 世紀を代表するアンディ・ウォホールとポップアートを検証する。
第 9 回	パブリックアートと都市再生	公共事業とパブリックアートの構造について学ぶ。
第 10 回	現代美術館の興隆	20 世紀後半に乱立したモダンアートを輩出する装置である現代美術館を知る。
第 11 回	コミュニティと地域社会	世界遺産の振興、インバウンド政策（アートツーリズム）の発展を考察する。
第 12 回	グローバル社会の課題①	障害者支援とアート（アールブリュット）を模索する。
第 13 回	グローバル社会の課題②	アートと環境問題という社会課題を検証する。
第 14 回	グローバル社会の課題③	難民・紛争・格差など深刻な社会問題とアートは立ち向かえるのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにするしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に着けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。
学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
「アートとは何か：芸術の存在論と目的論」アーサー・C・ダントー著、2018、人文書院
「万博 100 の物語」 久島伸昭著、2022、ヨシモトブックス
「現代美術史：欧米、日本、トランスナショナル」山本浩貴著、2019、中公新書

【成績評価の方法と基準】
定期試験（割合 %）40 %
定期試験（評価基準、評価方法）総計 100 点
小論文（60 点）と用語解説（20 点 x 2 問）の記述試験。全ての問題に解答すること。
　小論文・レポート（割合 %）40 %
　小論文・レポート（評価基準、評価方法）
小論文のレポート課題（学期内に 1 点）
締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー　20 %
※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。
※無記名や記述のないものは無効。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません」

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等（質問など）は教育の Email に送信してください。
kotorismile@gmail.com

【その他の重要事項】
徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005 － 2018）
Art Autonomy Network(2005-2019)
向島学会副理事長（2005 －現職）
すみだ向島 EXPO（2020，2021 、2022）
KAB Library and Residency の運営 (2019 －）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。
地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。

【Outline (in English)】
In the 20th century, 'art' came to be known as modern or contemporary art and became an entity that diverged from people's lives. It seems to have moved away from people's thoughts as an incomprehensible or difficult object. Despite this, phenomena such as social networking and Insta-evidence have attracted many young people and foreign tourists to contemporary art exhibitions and international art festivals. As typified by these phenomena, art is interesting! and it also makes people feel that art is precious. Therefore, it is not easy to grasp its true nature. We should learn the true value of art, which has created new aesthetics and ideas while unravelling the universality and authenticity of art that has continued uninterruptedly since ancient times. At the same time, learning "what is art?" is to delve into the depths of contemporary society. By re-exploring the definition of art and reading it in a social context, we will explore the authenticity of art.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

嘉藤　笑子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 5/Tue.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル社会の発展とともにアートは国際化しボーダレスな価値観を築いてきた。文化政策は、国際政治と大きくかかわり、各国の政策や政治哲学と密接に関わっている。特に欧米を中心に自由主義国家のなかで発展したきた理念といえるだろう。わが国の芸術文化の発展および振興をめざすためにも、必要不可欠な近代的制度である。本授業を通して各国の文化政策の動向を洞察し、国内外の比較分析につなげていく。特に世界情勢が常に変化していくことを鑑みて、国際的な視座を含有する文化政策を探求していく。同時に、日本社会の今日的課題に目を向けていくことで、市民社会に文化活動を振興していくための社会構造を考察していく。

【到達目標】
国際社会における民主主義国家を中心にした文化政策を探求していく。特に 20 世紀のアメリカ、ヨーロッパ（イギリス・フランス・ドイツ）、日本を取り上げ、それぞれの国ののの歴史的背景と文化的状況を比較していく。さらに第二次世界大戦や、冷戦構造、そして東西分断をしていたベルリン壁の崩壊を経て、世界の国家体制が大きな変化し、その体制は政治・経済とともに文化政策にも大きな影響を与えている。そのなかでも文化支援を行う公的機関や NPO、民間組織の存在は、各国ごとに構造や規模、運営方法が異なる。さらに各国の経済・文化振興を図るために取り入れられた文化施設の設立、万国博覧会やオリンピックといった大型イベント、その流れで登場してきた地域プロジェクトや国内芸術祭などによる文化交流事業を検証する。日々刻々と変化していく世界の状況をグローバルな視点で見つめていき国際社会の一員として文化支援の在り方ををを、各国の具体的な事例から考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。テキストは用いず毎回配布資料を用意する。参考文献については授業内で提示する。授業内でワークショップやディスカッションを行う場合がありますので、積極的な発言や行動を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文化政策と国際比較（ガイダンス）	現代社会のなかで文化政策とは何かを考察する
第 2 回	20 世紀のアメリカ① 近代国家への道	近代国家への道（美術館設立の開始）
第 3 回	20 世紀のアメリカ② 資本主義の発展	世界恐慌とニューディール政策など
第 4 回	20 世紀のアメリカ③ 第二次世界大戦以後の文化戦略	大型文化財団民間主導の芸術振興の構造を知る。
第 5 回	冷戦時代の文化政策	マッカーシズム、宇宙開発ほか
第 6 回	20 世紀のヨーロッパ：イギリス①	ミュージアム大国として博物館や万国博覧会の始まりを探る。
第 7 回	20 世紀のヨーロッパ：イギリス②	戦後処理としてのインスティチューション（アーツカウンシル）を知る。
第 8 回	20 世紀のヨーロッパ：ドイツ①	ナチズムの影響（オリンピック、戦争という負の遺産）を学ぶ
第 9 回	20 世紀のヨーロッパ：ドイツ②	戦後復興（博物館島・ドクメンタ・ミュンスター彫刻プロジェク）を知る。
第 10 回	20 世紀のヨーロッパ：フランス①	国家主導型文化支援「文化財保護」ユネスコ・世界遺産などを学ぶ。
第 11 回	20 世紀のヨーロッパ：フランス②	地方行政へにシフトする文化政策を探る。
第 12 回	日本の文化政策①	世界と日本をつなぐ文化政策（明治～昭和初期）
第 13 回	日本の文化政策②	地域社会と文化振興「ソーシャル・インクルージョン」ほか。
第 14 回	世界の文化予算	国際比較によって現実を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにするしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に着けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。
学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
「文化政策入門」池上惇、端信之、福原義春、堀田力（共に編者）、2001、丸善ライブラリー
「文化政策学」後藤和子著、2001、有斐閣コンパクト
「地域主権の国　ドイツの文化政策」藤野一夫・秋野有紀、2017 m 美学出版

【成績評価の方法と基準】
定期試験（割合 %）40 %
定期試験（評価基準、評価方法）総計 100 点
小論文（60 点）と用語解説（20 点 x 2 問）の記述試験。全ての問題に解答すること。
小論文・レポート（割合 %）40 %
小論文・レポート（評価基準、評価方法）
小論文のレポート課題（学期内に 1 点）
締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー　20 %
※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。
※無記名や記述のないものは無効。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出（質問）などのために連絡事項先を明記します。
嘉藤笑子：　kotorismile@gmail.com

【その他の重要事項】
徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005 － 2018）
Art Autonomy Network(2005-2019)
向島学会副理事長（2005 －現職）
すみだ向島 EXPO（2020，2021 、2022）
KAB Library and Residency の運営 (2019 －）
「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。
地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。

【Outline (in English)】
With the development of global society, the arts have become internationalised and have built a borderless value system. Cultural policy is heavily involved in international politics and is closely related to the policies and political philosophies of individual countries. It is a cultural policy that has developed in liberal states, particularly in Europe and the USA. It is also an essential modern system for the development and promotion of art and culture in Japan. Through this course, students will gain insight into the trends in cultural policy in various countries (mainly the USA, UK, Germany, and France), which will lead to a comparative analysis of domestic and international cultural policies. In particular, we will explore cultural policies that contain an international perspective in view of the constantly changing global situation. At the same time, by turning our attention to the contemporary challenges of Japanese society, we will examine the social structure for the encouragement of cultural activities in civil society.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤　慶介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代以降の美術の作品や歴史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学など、芸術に関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】
近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とのコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か	本授業において、どのようなものあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
3	絵画が表すリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を、第一次世界大戦に着目しながら描き出す。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術の到来と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれが芸術に与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。
10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係において考える。
11	大正デモクラシーと芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。
12	戦後日本の前衛芸術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代の関係を考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	多様化する現代の芸術	都内で行われている展覧会を同時代との関係で捉え、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行って、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べること。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】
現代美術用語辞典　https://artscape.jp/dictionary/modern/

【成績評価の方法と基準】
授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】
展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】
【Outline】This series of lectures aims to give an overview of the history of modern art with reference to other academic disciplines like philosophy, sociology or anthropology. This means that students are encouraged to grasp art as a representation of the contemporary society. Towards the end of the course, students attend an examination and write a short essay.
【Learning Objectives】
Following the transformation of art in the modern age in relation to that of society and the cultural climate, the students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes.
【Grading Criteria/Policy】
Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student achievement. (100%)

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

小澤　慶介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】
政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	ヨーロッパ中心主義の終わり？	モダニズム - ポスト・モダニズムの考えを紹介しながら、ヨーロッパ中心主義を問う作品について考察する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	グローバリゼーションと多文化主義	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などをとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	多文化主義のその後	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14（2017）について考える。
9	ドクメンタ 15 とエコシステムの実践	住みやすい環境を整える技としてのアートとその実践について。
10	ドクメンタ 15 とコレクティブについて	個ではなく、なぜ集団で活動するのかについて、新自由主義との関係で考える。
11	現代アートと地域社会	2000 年代以降、全国各地で開催されるようになっている芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
12	現代アートとアーティスト・イン・レジデンス	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	2024 年の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行って、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べること。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】
現代美術用語辞典　https://artscape.jp/dictionary/modern/

【成績評価の方法と基準】
授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】
展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】
【Course Outline】 This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Documenta, art fairs and art museum privatization, students are encouraged to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. Towards the end of the course, students attend an exam and write a short essay.
【Learning Objectives】
Students are encouraged to approach contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today. With contemporary art, which questions preconceived ideas and sheds light on a path to the future, they will also gain an insight into the globalized society of today.
【Learning activities outside of classroom】
Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes.
【Grading Criteria/Policy】
Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student achievement. (100%)

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

中川　三千代

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ，ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】
1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。
レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する．各回で扱う内容について概説する．
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する．
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する．
第 4 回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する．
第 5 回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する．
第 6 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する．
第 7 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する．
第 8 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する．
第 9 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する．
第 10 回	彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する．
第 11 回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する．
第 12 回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する．
第 13 回	欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する．
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を実施する．また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。

【参考書】
授業中に随時指示します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内レポート）；５０％
期末レポート；５０％
期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。
ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインからの形態変更により、授業レポートの内容等については再検討します。

【その他の重要事項】
第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】
In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.
The goal of the course is following:
1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.
2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.
3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.
The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.
No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.
Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.
Weekly report: 50 %
Term paper: 50 %
Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.
The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

中川　三千代

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】
1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ.
2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ.
3) 美術館の機能と役割について理解する.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。
レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する．各回で扱う内容について概説する.
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる.
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する.
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する.
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する.
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる.
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する.
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる.
第 9 回	黎明期の日本の美術館	日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する．また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する.
第 10 回	美術館の役割（展示・作品収集）	美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する.
第 11 回	美術館の役割（保存修復）	美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する.
第 12 回	美術館の役割（調査研究・教育普及）	調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する.
第 13 回	美術館の外の美術	パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる.
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を行う．また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。

【参考書】
授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業レポート）；５０％
期末レポート；５０％
期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。
ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
オンラインからの形態変更につき、授業レポートの内容等は再検討します。

【その他の重要事項】
第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】
In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.
The goal of the course is following:
1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).
2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).
3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum.
The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.
No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.
Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.
Weekly report: 50 %
Term paper: 50 %
Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.
The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山本　圭子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次回の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第 6 回	法の分類	法の分類と法源
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第 9 回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権
第 10 回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義
第 11 回	日本国憲法の基本原理 3（1）	基本的人権とは
第 12 回	日本国憲法の基本原理 3（2）	人権規定の構成
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大谷 實編『エッセンシャル法学 第 7 版』成文堂、2019 年、3,190 円

【参考書】
宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルヴァ書房、2021 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】
授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。
これらにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
情報量の多いテキストを用いるが、読みこなして欲しい。文字が多くとっつきにくいという意見があったので、より簡易な参考書を先に読んでおくことを推奨する。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】
質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】
Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本　圭子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 3/Mon.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次回の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	権利能力と行為能力	民法の基礎
第 5 回	契約自由の原則	債権法 1
第 6 回	契約の成立と効力	債権法 2
第 7 回	不法行為と損害賠償	不法行為 1
第 8 回	過失責任の原則	不法行為 2
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容・社会保険・労働保険
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大谷實編『エッセンシャル法学第 7 版』成文堂、2019 年、3,190 円

【参考書】
宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルヴァ書房、2021 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】
授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】
民法改正について、追加資料を用意して、学習支援システムで配布した。社会保障制度は労働法など、制度改定が頻繁な単元についても、追加資料を用意することとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Gov などで閲覧すると良い）。

【その他の重要事項】
質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】
Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口　哲史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理、行政法に関するものである。

【到達目標】
この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。
到達目標は次の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本、行政法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
レジュメに沿って内容の解説を行う。
授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。
毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論―憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法	統治機構－国会
5	日本国憲法	統治機構－内閣
6	日本国憲法	統治機構－裁判所と違憲審査
7	日本国憲法	基本的人権－幸福追求権（包括的基本権）・法の下の平等
8	日本国憲法	基本的人権－精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
9	日本国憲法	基本的人権―表現の自由
10	日本国憲法	基本的人権―経済的自由、人身の自由
11	行政法	行政法総論
12	行政法	行政法－行政処分
13	行政法	行政手続
14	行政法	行政訴訟、国家賠償

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用します。

【参考書】
宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣, 2021）ISBN：978-4641126183
毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021） ISBN：978-4883843244
藤田宙靖『行政法入門　第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。
これにより、到達目標欄の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。
詳細は、学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業の録画や配布資料は、パソコン上から閲覧することを想定して作成されている。録画の視聴や課題への取り組みは、パソコンで行うことを推奨する。

【その他の重要事項】
この講義は、１４回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.
The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).
Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口　哲史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する授業を行う。特に、国際法、民法、労働法を中心に扱う。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。
授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。
毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法の基礎
3	国際法	国際法の基本構造
4	民法	民法の基本原理
5	民法	不法行為―過失責任原則、損害賠償
6	民法	契約―契約自由の原則、契約の成立と効力
7	民法	物権
8	民法	親族（婚姻・離婚）
9	民法	相続（相続・遺言）
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法の基本事項、労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立・終了
14	労働法	労使関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
レジュメを使用する。

【参考書】
宍戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣, 2021）ISBN：978-4641126183
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。
これにより、到達目標欄に記載した事項の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。
詳細は、学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、具体例を示しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】
授業の録画や配布資料は、パソコン上から閲覧することを想定して作成されている。録画の視聴や課題への取り組みは、パソコンで行うことを推奨する。

【その他の重要事項】
この講義は、１４回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行う。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire legal studies including international law, civil law(torts, contract and property etc.) and labor law.
The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).
Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。秋学期の法学Ⅱと連続する形で、春学期の法学Ⅰでは、主に「法学全体に関わる包括的な知識」と「日本国憲法の構造と基本原理」に関する内容を扱う。法学の基本的な用語や概念を覚えること、現代の日本法の構成を把握すること、日本国憲法の基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】
法律を学んだことのない学生が、法学の基礎的・一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。
①法学全体に関わる基本的な用語や概念を覚えること
②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握すること
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と特徴を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。
秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。
授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて
第 3 回	法と権利	権利と義務の意義と関係について
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度について
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割について
第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係について
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」について
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法の比較について
第 9 回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権について
第 10 回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義について
第 11 回	日本国憲法の基本原理 3-（1）	基本的人権の概要について
第 12 回	日本国憲法の基本原理 3-（2）	人権規定の構成について
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣について
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】
青木人志『グラフィック法学入門　第２版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with the basics of law, especially general knowledge of contemporary Japanese law and the basic principles of the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to memorize the basic concepts of jurisprudence, to grasp the structure of contemporary Japanese law, and to understand the basic principles and features of the Japanese Constitution.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。春学期の法学Ⅰと連続する形で、秋学期の法学Ⅱでは、主に刑法、民法、労働法の基本的・一般的な知識と、国際法の基礎に関する内容を扱う。これらの法に関する基本的な用語や概念を覚えること、基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】
法律を学んだことのない学生が、法学の基礎と一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。
①刑法、民放、労働法などの基本的な構成と原則を理解する。
②具体的な事例や判例を通して、これらの法における基礎的な論点と紛争解決の筋道を理解する。
③国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。
春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。
授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	刑事訴追の手続き	犯罪発生から裁判へのプロセスについて
第 3 回	刑事法の原理	罪刑法定主義について
第 4 回	犯罪とは？	犯罪の成立要件について
第 5 回	民法の基本原則：権利能力平等の原則	権利能力と行為能力について
第 6 回	民法の基本原則：契約自由の原則	契約自由の原則の意義について
第 7 回	民法の基本原則：契約自由の原則の修正	契約自由の原則の問題点について
第 8 回	民法の基本原則：過失責任の原則	不法行為と損害賠償の基礎について
第 9 回	民法の基本原則：過失責任の原則の修正	過失責任の原則の問題点について
第 10 回	家族関係と法	夫婦と親子について
第 11 回	労働関係と法	労働法の意義と理念について
第 12 回	労働法制度の内容	労働法の基本原則について
第 13 回	国際法の基本概念	主権と領土について
第 14 回	国際法の原理	国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】
青木人志『グラフィック法学入門　第２版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with the basic and general knowledge of law, especially the basics of criminal law, civil law, and labor law, as well as the fundamentals of international law.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the basic concepts and principles of criminal law, civil law, and labor law, and to grasp the structure of international law.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。秋学期の法学Ⅱと連続する形で、春学期の法学Ⅰでは、主に「法学全体に関わる包括的な知識」と「日本国憲法の構造と基本原理」に関する内容を扱う。法学の基本的な用語や概念を覚えること、現代の日本法の構成を把握すること、日本国憲法の基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】
法律を学んだことのない学生が、法学の基礎的・一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。
①法学全体に関わる基本的な用語や概念を覚えること
②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握すること
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と特徴を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。
秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。
授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて
第 3 回	法と権利	権利と義務の意義と関係について
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度について
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割について
第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係について
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」について
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法の比較について
第 9 回	日本国憲法の基本原理 1	国民主権について
第 10 回	日本国憲法の基本原理 2	平和主義について
第 11 回	日本国憲法の基本原理 3-（1）	基本的人権の概要について
第 12 回	日本国憲法の基本原理 3-（2）	人権規定の構成について
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣について
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】
青木人志『グラフィック法学入門　第２版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course deals with the basics of law, especially general knowledge of contemporary Japanese law and the basic principles of the Constitution of Japan.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to memorize the basic concepts of jurisprudence, to grasp the structure of contemporary Japanese law, and to understand the basic principles and features of the Japanese Constitution.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

内藤　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。春学期の法学Ⅰと連続する形で、秋学期の法学Ⅱでは、主に刑法、民法、労働法の基本的・一般的な知識と、国際法の基礎に関する内容を扱う。これらの法に関する基本的な用語や概念を覚えること、基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】
法律を学んだことのない学生が、法学の基礎と一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。
①刑法、民放、労働法などの基本的な構成と原則を理解する。
②具体的な事例や判例を通して、これらの法における基礎的な論点と紛争解決の筋道を理解する。
③国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。
春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。
授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	刑事訴追の手続き	犯罪発生から裁判へのプロセスについて
第 3 回	刑事法の原理	罪刑法定主義について
第 4 回	犯罪とは？	犯罪の成立要件について
第 5 回	民法の基本原則：権利能力平等の原則	権利能力と行為能力について
第 6 回	民法の基本原則：契約自由の原則	契約自由の原則の意義について
第 7 回	民法の基本原則：契約自由の原則の修正	契約自由の原則の問題点について
第 8 回	民法の基本原則：過失責任の原則	不法行為と損害賠償の基礎について
第 9 回	民法の基本原則：過失責任の原則の修正	過失責任の原則の問題点について
第 10 回	家族関係と法	夫婦と親子について
第 11 回	労働関係と法	労働法の意義と理念について
第 12 回	労働法制度の内容	労働法の基本原則について
第 13 回	国際法の基本概念	主権と領土について
第 14 回	国際法の原理	国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】
青木人志『グラフィック法学入門　第２版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）
その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course deals with the basic and general knowledge of law, especially the basics of criminal law, civil law, and labor law, as well as the fundamentals of international law.
（Learning Objectives）
The goals of this course are to understand the basic concepts and principles of criminal law, civil law, and labor law, and to grasp the structure of international law.
（Learning activities outside of classroom）
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

陳　志明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学 I では、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】
受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会との関係
第 2 回	法とは何か	道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第 3 回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第 4 回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第 5 回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第 6 回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特質
第 7 回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第 8 回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治
第 9 回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障
第 10 回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下の平等
第 11 回	基本的人権②	自由権 社会権 参政権及び国務請求権
第 12 回	権力分立①	国会 議院内閣制 内閣
第 13 回	権力分立②	裁判所 違憲審査制 財政
第 14 回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
春学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

陳　志明

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】
受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪と法①	刑法とは何か
		罪刑法定主義
		法益の保護
第 2 回	犯罪と法②	犯罪の成立
		構成要件
		違法性と責任
第 3 回	民法総論①	民法とは何か
		民法の基本原理
		権利と義務
第 4 回	民法総論②	契約と法律行為
		権利能力と行為能力
		法人と会社
第 5 回	財産関係と法①	契約の成立と効果
		双務契約における債務
		契約の履行と不履行
第 6 回	財産関係と法②	所有権
		不法行為
		損害賠償
第 7 回	家族関係と法①	家族法
		親族
		夫婦
第 8 回	家族関係と法②	親子
		扶養
		相続
第 9 回	労働と法①	労働法の概観
		労働関係の当事者
		労働条件の決定
第 10 回	労働と法②	労働契約の成立
		人事
		賃金
第 11 回	国際社会と法①	主体
		国家の主権
		国際法の存在形式
第 12 回	国際社会と法②	国際法の国内的実施
		国際法の国際的実施
		領域
第 13 回	国際社会と法③	海洋
		南極と上空
		人権
第 14 回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）
野村豊弘『民事法入門〔第 8 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）
玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022 年）
小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第 4 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2023 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野　圭子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。
④ EU 法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。
　毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、やリアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
第 2 回	契約をしたことはありますか。	私たちが日々行っている契約が生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
第 3 回	契約を結ぶとどのような権利義務関係にはいるのだろうか。	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
第 4 回	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について、具体例を通じて考える、
第 5 回	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6 回	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7 回	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について
8 回	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9 回	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10 回	憲法と私人	憲法は何を保障するか。 憲法が保障する基本的人権について
11 回	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12 回	EU とはどのようなものか	EU の成立と法制度について
13 回	EU における司法制度	EU の裁判の特徴を理解し、国内裁判との違いを理解する。また、判決文を見る
14 回	まとめ・試験	春学期の重要な点について確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）
なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】
伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
田中淳子・大野正博編『法学入門』（成文堂、2015 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版〕』（有斐閣双書、2009 年）
松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）　など

【成績評価の方法と基準】
　記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20 %）とし、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を測り評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】
　近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。
　また、映像資料を講義内で利用する。
　パワーポイントだけではなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】
（Course outline）
This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual,we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.
（Learning Objectives）
The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows
(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.
(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.
4) Understand the basics of EU law.
（Learning activities outside of classroom）
Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野　圭子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかかわる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くこととと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくにＥＵ法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】
発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。
これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。
EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。
上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	受業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2 回	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3 回	働く場合の法律　労働時間・賃金	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
4 回	働く場合の法律　休む	休憩・休息時間・休日・休暇について
5 回	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6 回	働く場合の法律	最近の問題
7 回	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8 回	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9 回	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
10 回	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
11 回	EU 諸国における労働と社会保障法	EU 市民と EU 加盟国はどの間の労働法・社会保障法規はどのようになっているのか
12 回	EU の労働法とその実行の仕組み	EU 指令の制度、EU 加盟国の立法権、EU 裁判所の制度による労働法の問題の解決
13 回	ＥＵと社会憲章 EU における労働と社会保障	ＥＵにおいて人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
14 回	サスティナブルな社会と労働法	ワークライフバランスや多様性を許容する社会を実現するためにしする労働法とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第８版〕』(有斐閣アルマ、2020 年)（改訂版が出た場合は最新のものとする）
このほか今年度版の六法を用意すること。
六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】
伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』(有斐閣双書、2005 年)
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第 7 版〕』(有斐閣アルマ、2019 年)

【成績評価の方法と基準】
選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、春期期間に提出されたレポート（20 %）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、② EU 法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A +、あるいは S と単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】
ＥＵやフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったので今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。
　また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったので、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
We will study legal relations in labor law, From the time you are a student, working part-time or looking for a job, the law has had a lot to do with your work.　However, there are not many opportunities to learn about labor and law.
In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, Workplace accidents, and Rescission of employment offer. In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, work-related accidents, and employment offers and their revocation. Next, we will examine important issues related to work, such as wages, working hours, reassignment, and dismissal.　We will also examine constitutional issues related to labor. Students will also learn about EU labor law, including human rights, equality, and regulations under EU labor law.
（Learning Objectives）
Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.
Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.
Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.
（Learning activities outside of classroom）

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

金子　匡良

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は全回オンデマンド方式のオンライン授業で行う。履修者は Hoppii を通じて配布されるプリントと動画を利用して自己学習を行い、疑問点などがあれば Hoppii から質問を行う。質問に対するフィードバックも、適宜 Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について説明する
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて学ぶ
第 3 回	法の分類	成文法と不文法などの法の分類について学ぶ
第 4 回	法の構造と内容	法規範の構造と法的責任や法的制裁の内容について学ぶ
第 5 回	法の歴史①	ローマ法から近代法の成立までの歴史を学ぶ
第 6 回	法の歴史②	近代法の修正と現代法の成立について学ぶ
第 7 回	法の歴史③	日本法の歴史について学ぶ
第 8 回	日本国憲法成立の法理	日本国憲法成立の経緯とそこにおける問題点について学ぶ
第 9 回	裁判制度	裁判の種類と裁判機構について学ぶ
第 10 回	違憲審査制	違憲審査制の種類とその限界について学ぶ
第 11 回	司法権の独立	司法権の独立とそれを脅かす要因について学ぶ
第 12 回	法の解釈①	法解釈の方法について学ぶ
第 13 回	法の解釈②	法解釈の科学性をめぐる議論について学ぶ
第 14 回	法の効力	法の効力の種類と基本原則について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。Hoppii を通じて配布するプリントに基づいて授業を行う。

【参考書】
伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第 4 版〕』（北樹出版、2015 年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
上記「到達目標」の達成度を学期末に Hoppii を通じて行うオンラインテストで判断し、成績を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
法学の初学者が多い授業であることを考慮して、基本的な用語や概念の説明にも時間を割く予定である。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】
In this class, students will learn general and comprehensive knowledge related to law and the basic principles of the Constitution of Japan.
All classes will be conducted online. Students will self-study using handouts and videos distributed through Hoppii and ask questions through Hoppii.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

金子　匡良

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎的な知識に関する講義を行う。内容的には、民法、憲法、刑法、社会法等の基礎知識・基本原則に関する講義を柱とする。

【到達目標】
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②憲法の基本構造、および人権の意義と種類を理解する。
③刑法、民法、社会法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は全回オンデマンド方式のオンライン授業で行う。履修者は Hoppii を通じて配布されるプリントと動画を利用して自己学習を行い、疑問点などがあれば Hoppii から質問を行う。質問に対するフィードバックも、適宜 Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と近代法の構造について学ぶ
第 2 回	民法①	契約法の基礎的知識について学ぶ
第 3 回	民法②	不法行為法と損害賠償責任について学ぶ
第 4 回	民法③	婚姻と離婚、相続について学ぶ
第 5 回	憲法①	憲法の機能と役割について学ぶ
第 6 回	憲法②	人権の類型について学ぶ
第 7 回	憲法③	表現の自由について学ぶ
第 8 回	憲法④	参政権について学ぶ
第 9 回	憲法⑤	社会権について学ぶ
第 10 回	憲法⑥	権力分立について学ぶ
第 11 回	刑法①	刑法の意義と基本原則について学ぶ
第 12 回	刑法②	刑事手続について学ぶ
第 13 回	社会法	社会法の意義と種類について学ぶ
第 14 回	国際法	国際法の歴史と法源について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、Hoppii を通じて配布するプリントを用いて授業を行う。

【参考書】
伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第 4 版〕』（北樹出版、2015 年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】
上記「到達目標」の達成度を学期末に Hoppii を通じて行うオンラインテストで判断し、成績を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
主たる受講者が法学の初学者であることに留意して、なるべく平易な授業を心がける。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】
This course is primarily intended for beginning students and introductory students of law. The class will cover basic knowledge and fundamental principles of civil law, constitutional law, criminal law, and social law.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

菅谷　麻衣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。
授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。
なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の受け方、法を学ぶこと
第 2 回	法とは何か	法の種類、法形式、法分野
第 3 回	憲法とは何か	国家の成立と憲法の役割
第 4 回	選挙と参政権	民主主義と日本の選挙制度
第 5 回	国会	国会の権限とその憲法上の位置付け
第 6 回	内閣	内閣の仕組みとその権限
第 7 回	裁判所	裁判所の権限と裁判員制度
第 8 回	人権総論	人権とは何か
第 9 回	新しい人権	憲法 13 条の意義と自己決定権
第 10 回	平等と憲法 1	平等の意味と判断枠組み
第 11 回	平等と憲法 2	同性婚と選択的夫婦別姓
第 12 回	学校と憲法	教育を受ける権利と学問の自由
第 13 回	裁判と憲法	人身の自由と刑事手続
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
〔事前学習〕ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。
〔事後学習〕ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。
なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】
適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験によって、到達目標欄に記載した３点の達成度を評価することで行う。
ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。
授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.
Learning activities outside of classroom;
If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.
Grading Criteria /Policy;
20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅谷　麻衣

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】
法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。
①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。
授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。
なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	刑事法の基本的考え方
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基本原理 1	権利能力と行為能力
第 5 回	民法の基本原理 2	契約自由の原則
第 6 回	財産と法	物権とその変動
第 7 回	取引と法	契約の成立と効力
第 8 回	不法行為と損害賠償	不法行為の成立要件
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土、国際法と国内法
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
〔事前学習〕ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。
〔事後学習〕ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。
なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】
適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内試験によって、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価することで行う。
ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。
授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 %＋授業内課題 20 %の予定）。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.
Learning activities outside of classroom;
If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.
Grading Criteria /Policy;
20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

金子　匡良

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】
①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
③日本国憲法が成立した歴史的経緯および日本国憲法の構造について理解する。
④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて、講義形式で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で授業に臨むことが求められる。質問は教室または Hoppii を通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックは、授業中または Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第 2 回	憲法の歴史①	近代憲法の成立経緯について学ぶ
第 3 回	憲法の歴史②	現代国家の成立経緯と近代憲法の変容について学ぶ
第 4 回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第 5 回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第 6 回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第 7 回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 8 回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 9 回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 10 回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 11 回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第 12 回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第 13 回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第 14 回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。授業は Hoppii をついて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】
毛利透『グラフィック憲法入門〔第 2 版〕』（新世社、2021 年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第 7 版〕』（岩波書店、2019 年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記「到達目標」の達成度を学期末に実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】
In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

金子　匡良

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】
①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特質を理解する。
③日本国憲法が成立した歴史的経緯および日本国憲法の構造について理解する。
④現代社会で生起する諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて、講義形式で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で授業に臨むことが求められる。質問は教室または Hoppii を通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックは、授業中または Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第 2 回	憲法の歴史①	近代憲法の成立経緯について学ぶ
第 3 回	憲法の歴史②	現代国家の成立経緯と近代憲法の変容について学ぶ
第 4 回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第 5 回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第 6 回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第 7 回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 8 回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 9 回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 10 回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第 11 回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第 12 回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ
第 13 回	司法権の独立	司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ
第 14 回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。授業は Hoppii をついて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】
毛利透『グラフィック憲法入門〔第 2 版〕』（新世社、2021 年）
芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第 7 版〕』（岩波書店、2019 年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）
その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
上記「到達目標」の達成度を学期末に実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】
国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】
In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.
Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

茂木　洋平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの３つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】
おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの〝正しい理解〟を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。
受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下の平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下の平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。
講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.
The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).
Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).
"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

茂木　洋平

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの３つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】
おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの〝正しい理解〟を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。
受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障
13	日本国憲法と人権保障③	法の下の平等（総論）
14	日本国憲法と人権保障④	法の下の平等（各論） 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。
講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】
特に使用しない。

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.
The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).
Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).
"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

玉之内　直

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
購入を必須としないが、以下２冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】
購入を必須としない。
神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第２版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】
毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内　直

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】
本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
購入を必須としないが、以下２冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】
『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第２版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しない

【その他の重要事項】
毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】
With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学 I では、経済学の基礎から専門基礎レベルを身につけていくことを目指します。社会の基盤を成す経済の仕組み、それを体系的に解き明かすのが経済学です。ここでは、経済学の概念、ルーツ、理論などを、身近な事例と関連付けながら学んでいきます。経済を知ることで社会の実態と変容を理解できるようになり、国際関係などを理解出来る力を身につけることが出来ます。
（秋学期の経済学 II では、応用基礎のレベルまで身につけていくことを目指します）

【到達目標】
・経済、金融を理解する基礎知識と応用力を身に着け、様々な経済、社会問題の把握と考察を行っていける知識基盤を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行います。
講義の中で様々なグラフ、統計、数式が出てくる場面はありますが、数学的な能力を身に着けることが目的ではないため、数学的要素を極力省くことで親しみやすい経済学を通じ、経済事象への関心を高め、理解が出来るベースを作ります。
最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済と経済学	経済学とは何か、何のために学ぶのか SDG s に経済学が不可欠なわけ
2	経済学の基礎概念１	経済財とは？ 経済取引とは？ 市場の意義
3	経済学の基礎概念２	需要と供給 お金と価格 効用 余剰と予算制約
4	経済学のルーツと理論の発展１	オイコノミー（執事家政学）からミクロ基盤の近代経済学（A．スミス古典派完全市場経済学）の発展
5	経済学のルーツと理論の発展２	需給構造の変化と古典派経済学の行き詰まり ケインズ マクロ経済学の登場
6	実態変化と理論の変遷	ケインズ経済学 国全体の経済構造と活動の体系化を実現 ＧＤＰの概念と経済政策の理論基礎付け 実物市場と金融市場の体系的把握
7	専門基礎１ 市場メカニズム	市場メカニズム（需給の決定と価格） 市場の不完全性（レモン問題）
8	専門基礎２ ＧＤＰ，財市場の均衡	財市場、ＧＤＰの構成と需要の決定 財市場の均衡 貯蓄のパラドックス
9	専門基礎３ ミクロとマクロ	実物経済 ミクロとマクロの関係
10	専門基礎４ 貨幣市場	貨幣の定義と機能 実物財に対する相対価値としての価格
11	専門基礎５ 金融	金融とは？ 金融取引の価格＝金利の意味と決定 割引現在価値
12	専門基礎６ マネー管理	不換紙幣 マネーサプライ管理の仕組み 中央銀行の機能と金融政策手段
13	専門基礎７ 金融市場と財市場の均衡	金融市場と財市場の均衡 IS 曲線、LM 曲線の導出 IS/LM モデルの概要 AD-AS 分析の意味
14	期末テストおよび総復習	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝ 100 %（試験＝ 100 点満点）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
経済学 II の履修を予定する学生は、同 II が直面する問題等を含めた応用基礎の内容となるので本経済学 1 の講義を履修しておくことが望まれます。

【Outline (in English)】
Economics I introduce a broad perspective of basic economic theories as well as understanding economic related activities.
The goal of this course is to grasp a sense of economic theories and models and become to be able to relate them to understand ongoing world issues.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after class.
Your overall grade will be decided 100% on Term-end examination.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

千葉　千尋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学Ⅰの基礎知識を要約レビューした上で、実践的に国際社会や日本が直面する社会経済的課題を専門基礎のレベルから解き明かし、経済学と経済知識の応用力を身に着けていくことを目指します。

【到達目標】
・様々な経済、社会問題の把握と考察を経済学の基礎知識の応用から、実践的に考察していける力を身に着けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を基本とします。
後半 1〜2 回グループディスカッションを行います。
最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済学の応用基礎 基本概念１	経済財、経済取引 需要と供給 お金と価格
2	基本概念２	市場メカニズム ミクロとマクロ 財市場 ＧＤＰの構成と需要の決定
3	基本概念３	貨幣の定義と機能 金融システムと中央銀行
4	基本概念４	国際取引とマクロ経済、金融の関係 国際取引関係と経済の収支バランス
5	基本概念５	国際決済と外国為替の基礎、国際収支の発展段階説
6	直面する課題と経済学 日本経済の衰退１	日本経済衰亡の実態 デフレ衰退のメカニズムと実態
7	日本経済の衰退２	正常化への道を探る 市場機能の不全と国際競争力の基盤の衰退が構造化
8	グローバル化１ グローバル化と市場と国家 国家間の対立と新たな関係	経済グローバル化の進行と国家の後退 グローバル化による市場統合と国民経済関係の構造的変貌 国家間の新たな競争と対立（中国の台頭と米中関係）
9	グローバル化２ グローバル化と地域統合化	グローバル化での地域統合は解決策か？ EU の拡大、アセアン経済共同体、メルコスールの展開から考える
10	グローバル化３ グローバル化と国際ガバナンス	ＧＡＦＡの台頭と国際ガバナンス 世界共通決済システム内臓の仮想通貨の意義と限界 グローバル経済統合と民主主義、相互矛盾相克への道、ロドリク・モデルから考える。
11	エネルギー 1 エネルギー革命	エネルギー革命の進行 その推移と実態
12	エネルギー２ エネルギーと経済の長期波動	経済の長期成長波動とエネルギー革命の関連性 再生エネルギーから究極の水素循環型エネルギーへの転換初期に伴うグリーン成長と雇用波及の視点から日本経済再生の道を考える
13	資本主義の存続	資本主義の史的構造変化とピケティの指摘 資本主義が内蔵するメカニズムから存続への課題を探る
14	期末テストおよび総まとめ	期末テストおよび総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験＝ 100 %（試験＝ 100 点満点）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
本講義は、基礎となる経済学Ⅰの講義をあらかじめ履修しておくことをお勧めします。

【Outline (in English)】
Economics Ⅱ focuses more on the practical side of Economics I. Here we study ongoing issues and crisis that are deeply related to economic activities, policies and theories.
The goal of this course is to grasp a further sense of economic theories used in practice as well as to understand its cause and effects in our real world.
Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.
(Students are strongly required to take Economics I in advance.)
Your overall grade will be decided 100% on Term-end examination.

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

関口　駿輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須の考え方を習得する。家計・企業・政府が経済活動の判断を行う基準は何か、市場の取引により無駄のない資源配分が実現するのか、無駄がある場合に必要な対処は何かというポイントを理解し、経済社会の課題に対して柔軟に発言できる基礎力を養成することが目的である。

【到達目標】
目標は、①身の回りの出来事の背景にある経済主体の判断基準を理解できること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解できること、③経済ニュースの内容について経済学が示す論点と政策的な判断の違いが理解できるようになることの３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は板書による講義形式で進める。その際、現実問題を経済学で考える習慣を身に着けるために、新聞記事・雑誌などからも適宜教材を提供する。講義資料は学習支援システム（Hoppii）に事前に掲載する（第１回目は印刷物を配布します）。授業中に講義内容を復習する練習問題を実施し、受講生の理解を深める。学期中に小テストを実施し、ミクロ経済学の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済学の基本原理（１）	授業の概要説明、経済学の基本的考え方を学ぶ（トレードオフ、機会費用、限界概念など）
2	経済学の基本原理（２）	経済学の基本的考え方を学ぶ（比較生産費説、失業率と物価など）
3	企業の行動（１）	費用について
4	企業の行動（２）	利潤最大化、損益分岐点、操業停止点について
5	企業の行動（３）	生産関数について
6	消費者の行動（１）	効用最大化について
7	消費者の行動（２）	需要（量）の変化と弾力性について
8	消費者の行動（３）	効用最大化の応用（労働と余暇、リスク）
9	企業と消費者の行動のまとめ（小テスト）	小テストと解説
10	余剰分析	余剰と政策の評価
11	不完全競争（１）	独占について
12	不完全競争（２）	寡占市場について
13	ゲーム理論	利得表と決定木について
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。学習には講義資料を活用してください。

【参考書】
マンキュー（2019）『入門経済学』（第 3 版）東洋経済新報社
資格試験研究会（2020）『新スーパー過去問ゼミ６　ミクロ経済学』実務教育出版
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第 2 版）日本経済新聞出版

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%（2 回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン（可能であればノートパソコンが望ましい）が必要。

【その他の重要事項】
コロナ禍の状況によっては、対面の形態を変更することがある。

【Outline (in English)】
This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

梅溪　健児

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業ではマクロ経済学の基礎を取り上げ、日本のマクロ経済を理解するために必須の考え方を習得する。ＧＤＰ（国内総生産）による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、為替レート、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】
目標は、①経済の持続的な成長について経済学の標準的な考え方が理解できること、②政府と中央銀行が経済成長と物価の安定に果たす役割を事例に基づいて理解できること、③経済データと図表に慣れ、目の子計算で数値の意味が理解できるようになることの３点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。また、世界で現実に起きている事象を取り上げ、マクロ経済学の適用事例として理解を深める。講義資料は学習支援システム（Hoppii）に事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、受講生の理解を深める。学期中に小テストを２回実施し、マクロ経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	ＧＤＰ（国内総生産）を学ぶ（教科書第 9 章）
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える（第 15 章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第 10 章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第 12 章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第 12 章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ（第 11 章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ（第 13 章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第 13 章）
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ（第 13 章）（清家他 2020）
10	高齢社会の財政運営	社会保障費の増大と社会保障改革を学ぶ（第 14 章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処、基礎的財政収支の考え方を学ぶ（第 14 章）
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第 16 章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向、開放経済の分析を学ぶ（第 16 章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。マクロ経済学は財政金融政策の運営とつながりが深いので、政府や国際機関の経済ニュースに関心を持つことが有益である。

【テキスト（教科書）】
伊藤元重（2015）『入門経済学』（第 4 版）日本評論社

【参考書】
塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
渡辺努（2022）『世界インフレの謎』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】
小テスト 30%（2 回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】
学期の中盤では雇用に関連して２回の講義を行うが、日本型雇用の中で若者が直面している雇用問題を取り上げる。これが学生の関心にマッチしているので、今年度も内容を充実させていきたい。講義中に実施する復習のためのクイズは内容理解を助けるとの意見が多いので、継続する。期末試験には簡単な計算問題を出題するが、講義の中で計算問題を練習する機会を増やしてほしいとの声があったので、少しずつ続けていきたい。春学期のミクロ経済学に比べると、マクロ経済学の事例は日常生活で実感することが少ない学生が多いようだが、国際的にも社会的にも、また就職試験においても関連の深い内容なのでじっくり履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン（可能であればノートパソコンが望ましい）が必要。

【その他の重要事項】
毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。
昨年度は小テストと期末試験を学習支援システム（Hoppii）の「テスト」にて実施した。本年度も継続する予定。
コロナ禍の状況によっては、対面授業の形態を変更することがある。

【Outline (in English)】
This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学Ⅰ

2017 年度以降入学者

玉之内　直

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】
本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
購入を必須としないが、以下２冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】
購入を必須としない。
神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第２版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】
本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】
毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】
The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内　直

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】
本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
購入を必須としないが、以下２冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第３版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】
『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第２版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】
成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】
特に指定しない

【その他の重要事項】
毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】
With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。１セメスター１４回の授業のうち半分の７回を対面授業とする予定です（詳細は４月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章　マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章　マクロ経済学とは 2 マクロ経済を観察する１（GDP）	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する２（GDP）	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する３（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する４（失業率、景気） マクロ経済を支える金融市場１	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場２	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場３ 貨幣の機能と中央銀行の役割１	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	貨幣の機能と中央銀行の役割２	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割３ 財政の仕組みと機能１	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能２	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能３	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）
ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、＋ α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 %程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行 (World Bank) におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.
At the time of the final exam, you can choose one of the following options.
(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田　英明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ＧＤＰと金利の決まり方１	総需要と物価の関係を学びます
2	ＧＤＰと金利の決まり方２	総供給と物価の関係を学びます
3	ＧＤＰと金利の決まり方３	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析１	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析２	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきるのかを理解します
6	総需要・総供給分析３	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ１	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ２	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済１	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済２	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長１	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長２	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）
ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、＋ α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 %程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行 (World Bank) におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

When we read interviews conducted with top executives of major companies, we can see that they are extremely knowledgeable about the current macroeconomic situation in Japan and the world. This is because the state of the Japanese and global economies greatly affects the management of their companies. In this course, we introduce the basic methodology for understanding the macroeconomics of Japan and developed (and developing) countries around the world.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will go over GDP and other major macroeconomic indicators, touch on the fundamentals of the economic policy such as money policy and fiscal policy, and then touch on models to analyze them in a comprehensive manner. This will allow students to learn the basic style of bird's eye view of the macroeconomy.

In the fall semester (Macroeconomics II), students will develop various types of models. They will learn how prices and GDP are determined. Students will then study topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycles. This will allow students to learn the basics of the methodology for analyzing the macroeconomy.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Regarding grading, students will be evaluated by a final open-book style exam. In some cases, extra points will be given for additional comments made in class. In principle, the grade is determined by the final exam.
Students can choose either (a) or (b) at the time of the final exam.

(a) Evaluation based on the grading criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Seek a grade on a scale of C to D (students answer a limited number of questions).

The credit acquisition rate is usually around 95%, and the majority of students who fail the course (D) are those who hardly attend any classes.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田　英明

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。１セメスター１４回の授業のうち半分の７回を対面授業とする予定です（詳細は４月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章　マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます
3	序章　マクロ経済学とは 2 マクロ経済を観察する１（GDP）	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する２（GDP）	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する３（物価）	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する４（失業率、景気） マクロ経済を支える金融市場１	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場２	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場３ 貨幣の機能と中央銀行の役割１	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	貨幣の機能と中央銀行の役割２	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割３ 財政の仕組みと機能１	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能２	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能３	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）
ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、＋ α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 %程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行 (World Bank) におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.
At the time of the final exam, you can choose one of the following options.
(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).
(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田　英明

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ていけばよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期 (マクロ経済学 I) は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期 (マクロ経済学 II) は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は 2021 年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ＧＤＰと金利の決まり方１	総需要と物価の関係を学びます
2	ＧＤＰと金利の決まり方２	総供給と物価の関係を学びます
3	ＧＤＰと金利の決まり方３	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析１	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析２	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきるのかを理解します
6	総需要・総供給分析３	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ１	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ２	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済１	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済２	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長１	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長２	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学 – 入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）
ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、＋ α として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 %程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行 (World Bank) におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
< 授業内容について>
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
< 授業形式について>
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第３回～第７回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	３つの「生きる」	生物学的観点
第 14 回	期末レポート	第９回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。
（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
＜授業内容について＞
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
＜授業形式について＞
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井　登世子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】
1．現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2．ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3．動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。
前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2．新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3．授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】
『新版　子どものこころ－児童心理学入門』
櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）
有斐閣アルマ，2014 年
2,100 円＋税

【参考書】
『学習意欲の心理学』　桜井茂男著　誠信書房, 2010 年
『はじめて学ぶ乳幼児の心理』櫻井茂男編著　有斐閣アルマ, 2010 年

【成績評価の方法と基準】
授業内のリアクションペーパー 70%, 学期末レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を得ることはできませんでした。
課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline (in English)】
This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.
Explain the mechanism of motivation.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.
Your study time will be more than two hours for class.
Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井　登世子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】
①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。
講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞ををを数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。
ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新版　子どものこころ―児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内のショートレポート 70 %, 学期末のレポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度はオンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。
課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】
心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:
Make image of child.
Understand children's mind.
Have the intelligence to solve the problem of children's mind.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.
Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
< 授業内容について>
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
< 授業形式について>
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第３回～第７回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	３つの「生きる」	生物学的観点
第 14 回	期末レポート	第９回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。
（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
＜授業内容について＞
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
＜授業形式について＞
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】
本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。
授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がいが描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①） ― 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学（フロイト②） ― 心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③） ― 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学（ユング①） ― 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②） ― 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①） ― その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②） ― 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
平木典子・袰岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）.

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.
(3) Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】
本講義では、担当者が「心理学 I」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。
授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法 ① ― さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとずくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法 ② ― 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ① ― 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ② ― ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法 ① ― 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法 ② ― 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について ① ― 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について ② ― 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について ③ ― 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
平木典子・畏岩秀章編著『カウンセリングの基礎』(北樹出版、1997 年)．会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』(学文社、1999 年)．浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』(学文社、2011 年)．今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』(世界思想社、2003 年)．チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』(世界思想社、2016 年)．

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】
本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。
授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がいが描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①） ― 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学（フロイト②） ― 心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③） ― 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学（ユング①） ― 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②） ― 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①） ― その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②） ― 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
平木典子・袰岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）.

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.
(3) Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

浅川　希洋志

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】
本講義では、担当者が「心理学 I」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。
授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法 ① ― さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとずくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法 ② ― 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ① ― 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ② ― ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法 ① ― 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法 ② ― 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について ① ― 楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について ② ― 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について ③ ― 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】
平木典子・畏岩秀章編著『カウンセリングの基礎』(北樹出版、1997 年)．会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』(学文社、1999 年)．浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』(学文社、2011 年)．今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』(世界思想社、2003 年)．チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』(世界思想社、2016 年)．

【成績評価の方法と基準】
期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 %となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】
授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】
(1) Course Outline
This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.
(2) Learning Objectives
By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom
Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.
(4) Grading Criteria/Policy
Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
＜授業内容について＞
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
＜授業形式について＞
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第３回～第７回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	３つの「生きる」	生物学的観点
第 14 回	期末レポート	第９回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。
（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
＜授業内容について＞
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
＜授業形式について＞
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
< 授業内容について>
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
< 授業形式について>
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野　カオリ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。
（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】
心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。
オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第３回～第７回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	３つの「生きる」	生物学的観点
第 14 回	期末レポート	第９回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】
心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。
（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】
特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。
授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】
＜授業内容について＞
・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱いていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。
＜授業形式について＞
・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】
スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】
・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみの受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】
【授業の概要（Course Outline）】
The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.
【到達目標（Learning Objectives）】
By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.
【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.
【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井　登世子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】
1．現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2．ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3．動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。
前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1．日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2．新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3．授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】
『新版　子どものこころ－児童心理学入門』
櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）
有斐閣アルマ，2014 年
2,100 円＋税

【参考書】
『学習意欲の心理学』　桜井茂男著　誠信書房, 2010 年
『はじめて学ぶ乳幼児の心理』櫻井茂男編著　有斐閣アルマ, 2010 年

【成績評価の方法と基準】
授業内のリアクションペーパー 70%, 学期末レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度は履修者数が 70 名程度で 3 年ぶりの対面授業がスムーズに行えました。対面授業ならではの体験型授業を実施することができて、学生からも好評でした。

【Outline (in English)】
This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.
Explain the mechanism of motivation.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.
Your study time will be more than two hours for class.
Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井　登世子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】
①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
②児童（子ども）の心理を理解する。
③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。
講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞ををを数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。
ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第 13 回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第 14 回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新版　子どものこころ―児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業内のショートレポート 70 %, 学期末のレポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度は履修者数が 50 名程度で、3 年ぶりの対面授業をスムーズに進められました。授業内に実施した質問紙や復習問題で、授業に対する理解度が深まりました。

【その他の重要事項】
心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】
This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:
Make image of child.
Understand children's mind.
Have the intelligence to solve the problem of children's mind.
Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.
Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

GEO100LA

地理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、「島」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】
現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】
現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全 14 回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

前川　明彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。具体的には約 50 億年以上前に地球が生まれ、大気が生じ、数億年前に生物が生まれ進化と絶滅を繰り返します。その後 20 万年前に人類が生まれ、厳しい自然条件を乗り越えながら、現在に至ります。こうしてできた人間社会を自然地理学と人文地理学をとおして考える重要性を学ぶわけです。

【到達目標】
現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方や自分で考えるという力を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。なお、授業時に AL として GD/GW を毎回ではありませんが試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ　地理学って何だろう
第 2 回	地理学が扱う諸問題	世界から見える課題と地理学の課題
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	地理学的な考え方を学ぶには？渋谷の街から見えてくるものは何だろう　新宿・池袋
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方　ーブラタモリの世界ー
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境　なぜ、北海道の米がうまくなった
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界の環境　産業・経済と環境のジレンマ
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	餃子で考える、食文化と環境決定論、可能論の世界
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	遅れた日本　失われた 30 年 DX,AI 社会ほか
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	GIS で観光の実態を可視化しよう
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？新たな産業といって 30 年
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	災害を GoogleMap やハザードマップから考える
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	グローバル社会の分断と混乱　地理学的な考え方で考える？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	格差・貧困とグローバル社会
第 14 回	試験　まとめと解説	最終レポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。コロナやウクライナ問題などの世界での出来事や失われた日本社会の様々な出来事にも興味を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
適宜指示する

【成績評価の方法と基準】
対面授業予定ですので、中間・期末のレポート 80 %：持ち込み可）授業での平常点（20 %）としますが、感染の拡大等から変わる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ下の世界で学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムでの資料配信などを行います。それを見ることができるように PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
高校で地理を学んでいない人は大歓迎です。春学期のⅠでは地理学の基礎、秋学期のⅡはグローバルな地誌的な見方での応用が中心です。大学デビューのつもりで新たな柔軟な思考を持ちたいなどの人も歓迎します。
授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。(仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、対面授業形式の利点に AL や今後の将来でも生かせる GD・GW なども試みたいと思います。あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】
Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.
Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.
Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours
Grading Criteria:Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川　明彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】
現代世界の諸地域を地誌的に考察すること、アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、日本や世界の身近な課題等を地理学をとおして多様的な持続可能な考え方として尊重することも考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には、対面授業中心となります。基本は「世界を知ろう」です。身近なことから地理学・地誌学的に世界を知ろうということです。本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし、考える授業のために GD・GW を多少行い、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定ですので、予復習のためにも習熟してください。また、授業アシスタントの人も予定していますので、いろいろ相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ アジアの成長から考えよう
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明　東アジアから考えよう
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	東アジアと日本　中国などを事例に地域社会を考える
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	ビックデータなど統計資料の紹介と分析、GIS などを学ぶ ASEAN
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	アフターコロナ後のグローバル社会について考えてみよう ASEAN　タイなど、
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう　ASEAN　ベトナム・カンボジアなど
第 7 回	現代世界の諸地域	インドネシアを事例に 地域区分と国家・宗教・民族　多様性
第 8 回	現代世界の諸地域	南アジアを事例に 資源・産業　世界一の人口インド
第 9 回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に 都市・移民
第 10 回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に 分断と格差
第 11 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に移民・分断社会 生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に 民族・宗教・領土問題、都市など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために 日本を考える
第 14 回	試験　まとめと解説	授業の総括と最終レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
基本的になし

【参考書】
適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】
体面授業が中心となります。中間・期末のレポート（80 %）、授業時での平常点（20 %）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。対面授業形式ですが、先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本ですので、タブレット以上に慣れてください

【その他の重要事項】
授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。(仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで AL も楽しみましょう。また、授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。添付ファイル参考に

【Outline (in English)】
Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.
Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.
Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours
Grading Criteria:Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家　志乃布

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】
現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義では、人文地理学的なテーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	さまざまな地理学的課題
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	法政大学周辺の地理
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアのなかの地理
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	自然と人々の生活
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	環境問題
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	都市と地方 東京一極集中
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	軍事・防衛
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	アートと観光・地域振興
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	自然災害と防災
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	少子化・高齢化 空き家問題
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	ロシアによるウクライナ戦争
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	感染症と世界
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】
『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 50 %、コメント提出 25 %、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】
映像資料（写真や DVD, 映画など）は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるように PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】
高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.
【Learning Objectives】The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】 Term-end report:50%, short report:25% and class contribution:25%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

米家　志乃布

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】
現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義では、世界や日本の地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	地誌とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	世界や日本の地誌
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図から見る世界と日本
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計から見る世界と日本
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	最近の新聞・ニュースから見る世界と日本
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画からみる世界と日本
第 7 回	現代世界の諸地域	ロシア
第 8 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（1）西欧
第 9 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（2）中欧
第 10 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（3）東欧
第 11 回	現代世界の諸地域	バルト三国
第 12 回	現代世界の諸地域	中央アジア
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	近未来の日本像
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。

【参考書】
高等学校用地図帳　その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート 50 %、コメント提出 25 %、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】
各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるように、PC やスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【その他の重要事項】
高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.
【Learning Objectives】The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.
【Learning activities outside of classroom】Your study time will be more than 4 hours for a class.
【Grading Criteria】Term-end report:50%, short report:25% and class contribution:25%

GEO100LA

地理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】
現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】
現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸開発とその諸問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状とその課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅰ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】
現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑　明美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】
現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いいたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸開発とその諸問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状とその課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ　試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】
高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】
授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいますよう。

【Outline (in English)】
We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.
In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

服部　あさこ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、社会学への導入	社会学とはどのような学問か？
2	社会変動 1	近代という「謎」の発見
3	社会問題 1	集団へのアプローチ
4	社会問題 2	規範と価値
5	理論的整理	行為と合理性
6	社会変動 2	個へのアプローチ
7	歴史社会学の視点	合理性と社会変動
8	社会集団 1	地位と役割
9	社会集団 2	社会化理論
10	「自己」の社会学 1	近代的個人
11	「自己」の社会学 2	社会性の発達
12	政治社会学の視点 1	闘争、疎外
13	政治社会学の視点 2	国家、国民、民族
14	総括、社会分析の精緻化	社会のとらえ方の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません

【参考書】
長谷川公一ほか編著、2007『社会学』有斐閣
友枝 敏雄ほか編著、2017『社会学の力 – 最重要概念・命題集』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等による平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
資料配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.
To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.
To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for test

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

服部　あさこ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的な事柄について、多様な背景をもつ人々の視角を想像しながら考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に関して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取り上げて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、基礎概念の確認	社会学の頻出概念の確認
2	社会秩序と権力 1	社会秩序をめぐる問題提起と国家
3	社会秩序と権力 2	社会秩序を維持するもの
4	日常生活の社会学 1	行為と演技
5	日常生活の社会学 2	やりとり秩序
6	現象学的社会学の視点	対象の認識と文化
7	国際社会学の視点	文化相対主義
8	構築主義	予言の自己成就
9	逸脱	ラベリング理論
10	法社会学の視点	犯罪と刑罰
11	格差社会論	社会階層と文化
12	貧困と社会的排除	人々を分断する制度の存在
13	教育と社会	学力と社会階層
14	総括、「近代社会」の変容	個人の主観の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。

【参考書】
金菱清、2014『新　体感する社会学: Oh! My Sociology』新曜社
盛山和夫ほか編著、2017『社会学入門』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー等による平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないためフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムまたは google classroom を利用します。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon.sometime students should submit short opnion essays.Good opinions will feedbacked in next time.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to think multidimensionally about social issues. Based on that way of thinking, you will be able to respect others, especially those who are weak, and have an opinion that you think is good for yourself.
（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for tests

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
③「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第 1 、 2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。
第 5 回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。
第 11 回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディカ化」の視点から各自で分析する。
第 12 回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（前半）	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第 14 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（後半）	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準　　備]　次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。
[発展的復習]　課題が出た回には、それに取り組む。
※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書 2009 年)

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)
・ニッポン戦後サブカルチャー史
（http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html）
その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本　卓

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
②「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
③「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第３、４章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概容、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第 3 回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。
第 4 回	郊外化	郊外 (化) と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史的変容を調査する。
第 5 回	個室化・「リアリティの反転」	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第 6 回	犯罪社会学	見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第 7 回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第 8 回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第 9 回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960 年代～70 年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第 10 回	三全総の「定住圏」構想	1977 年に国が策定した第三次全国総合開発計画 (三全総) が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第 11 回	「自然」とは	NHK の証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第 12 回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80 年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第 13 回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第 14 回	地域自治	「地域自治」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準　　備]　次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。
[発展的復習]　課題が出た回には、それに取り組む。
※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009 年)

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス（https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar）
・NHK 地域づくりアーカイブス（https://www.nhk.or.jp/chiiki/）
・国土地理院　地図・空中写真閲覧サービス（https://mapps.gsi.go.jp/）
・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)
その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自な「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii　で資料配付＋ ZOOM での講義＋メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる　その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史　その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史　その 2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 9 回	メディアの歴史　その 3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史　その 4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 11 回	メディアの歴史　その 5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 12 回	メディアの歴史　その 6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 13 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
第 14 回	現代の社会について考える 2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。
1-3　学生は「社会的なもの」について考えます
4 自分が社会について考えるための題材を決めます
5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
7-12　自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】
各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の整備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline ： The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.
Learning Objectives ： The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.
Learning activities outside of classroom ： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies ： Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination（reports）: 50%、in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　徹

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自な「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii　で資料配付＋ ZOOM での講義＋メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現代の社会を生きる人の特徴について考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム（5）	現代の社会における限界問題について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
7	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
9	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
10	現代社会とメディアの働き（5）	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
11	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（2）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（3）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。
1　学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
2-5　自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
6　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
7-10　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
11　自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
12　自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
13　自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
14　学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】
各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline ： The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods. Students discover problems and think about solution about the society in which they live
Learning Objectives ： The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.
Learning activities outside of classroom ： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies ： Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution（30 %）.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本　卓

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
③「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第 1 、 2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。
第 5 回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。
第 11 回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディカ化」の視点から各自で分析する。
第 12 回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（前半）	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第 14 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（後半）	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準　　備]　次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。
[発展的復習]　課題が出た回には、それに取り組む。
※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書 2009 年)

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)
・ニッポン戦後サブカルチャー史
（http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html）
その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本　卓

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
②「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
③「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第３、４章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概容、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第 3 回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。
第 4 回	郊外化	郊外 (化) と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史的変容を調査する。
第 5 回	個室化・「リアリティの反転」	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第 6 回	犯罪社会学	見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第 7 回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第 8 回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第 9 回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960 年代～70 年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第 10 回	三全総の「定住圏」構想	1977 年に国が策定した第三次全国総合開発計画 (三全総) が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第 11 回	「自然」とは	NHK の証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第 12 回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80 年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第 13 回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第 14 回	地域自治	「地域自治」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[準　　備]　次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。
[発展的復習]　課題が出た回には、それに取り組む。
※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009 年)

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス（https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar）
・NHK 地域づくりアーカイブス（https://www.nhk.or.jp/chiiki/）
・国土地理院　地図・空中写真閲覧サービス（https://mapps.gsi.go.jp/）
・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)
その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋　徹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自な「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii　で資料配付＋ ZOOM での講義＋メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる　その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史　その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史　その 2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 9 回	メディアの歴史　その 3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史　その 4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 11 回	メディアの歴史　その 5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 12 回	メディアの歴史　その 6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 13 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
第 14 回	現代の社会について考える 2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。
1-3　学生は「社会的なもの」について考えます
4 自分が社会について考えるための題材を決めます
5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
7-12　自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】
各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の整備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline ： The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society.Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.
Learning Objectives ： The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.
Learning activities outside of classroom ： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies ： Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination（reports）: 50%、in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　徹

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 5/Thu.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】
履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自な「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii　で資料配付＋ ZOOM での講義＋メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現代の社会を生きる人の特徴について考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム（5）	現代の社会における限界問題について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
7	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
9	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
10	現代社会とメディアの働き（5）	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
11	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（2）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（3）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。
1　学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
2-5　自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
6　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
7-10　自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
11　自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
12　自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
13　自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
14　学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】
各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】
Course outline ： The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods. Students discover problems and think about solution about the society in which they live
Learning Objectives ： The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.
Learning activities outside of classroom ： Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies ： Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution（30 %）.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

橋本　みゆき

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき２回ワンセットとし、半期で７セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方、テキスト第１章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第１章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第２章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第２章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第３章概説
6	「フツーの家族」は普通なのか	第３章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第４章概説
8	男社会の構造は変わりうるか	第４章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第５章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第５章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第６章概説
12	環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか	第６章発展編
13	医療・保健・福祉	テキスト第７章概説
14	病いや障害は「不幸」なことなのか	第７章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読む。
・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】
『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。
またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】
『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021 年刊、2800 円＋税。
他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】
さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline (in English)】
This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.
The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grew the sociological imagination.
After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

橋本　みゆき

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき２回ワンセットとし、半期で７セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料をオンデマンド教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントあるいは課題提出を求め、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 逸脱と社会病理	授業の進め方 テキスト第８章概説
2	私たちはなぜ「よくないこと」をしないのか	第８章発展編
3	階層・階級・不平等	テキスト第９章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第９章発展編
5	都市とコミュニティ	テキスト第 10 章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第 10 章発展編
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第 11 章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第 11 章発展編
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第 13 章概説
10	「民意を問う」とはどういうことか	第 13 章発展編
11	社会運動とNPO/NGO	テキスト第 14 章概説
12	市民は社会を変革できるか	第 14 章発展編
13	国家・権力・公共性	テキスト第 15 章概説
14	パラリンピックはなにを夢見るのか	第 15 章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。
・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】
『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。
またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】
『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021 年刊、2800 円＋税。
他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】
さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】
授業内容は春学期の続き（テキスト第８章以降）であるが、扱うテーマは独立したものなので、秋学期のみの受講でも差し支えない。ただし開講前に、社会学の基本的視座を示したテキスト第１章を読んでおくこと。

【Outline (in English)】
This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.
The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grew the sociological imagination.
After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐　玄九

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・対面授業で実施する。可能なかぎり双方的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショリナズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）、リアクションペーパー課題（30 %）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加： 20 %）
詳細な評価基準は以下の通りである。
〈期末テスト〉
40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】
・質疑応答の時間を増やす。
・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.
(Learning activities outside of classroom)
Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.
・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.
・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.
(Grading Criteria /Policy)
Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐　玄九

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・対面授業で実施する。可能なかぎり双方的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考―リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ―』大月書店。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）、リアクションペーパー課題（30 %）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加： 20 %）
詳細な評価基準は以下の通りである。
〈期末テスト〉
40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】
・質疑応答の時間を増やす。
・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.
(Learning activities outside of classroom)
Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.
・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.
・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.
(Grading Criteria /Policy)
Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐　玄九

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・対面授業で実施する。可能なかぎり双方的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショリナズムのパラドックス
14	政治社会学の視点	M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）、リアクションペーパー課題（30 %）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加： 20 %）
詳細な評価基準は以下の通りである。
〈期末テスト〉
40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】
・質疑応答の時間を増やす。
・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.
(Learning activities outside of classroom)
Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.
・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.
・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.
(Grading Criteria /Policy)
Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐　玄九

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】
この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・対面授業で実施する。可能なかぎり双方的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考―リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ―』大月書店。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）、リアクションペーパー課題（30 %）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加： 20 %）
詳細な評価基準は以下の通りである。
〈期末テスト〉
40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】
・質疑応答の時間を増やす。
・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)
What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.
(Learning activities outside of classroom)
Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.
· Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.
· 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.
(Grading Criteria /Policy)
Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

及川　智洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
通常の教室での対面授業を実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税
『戦後政治史　第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税
『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）
『政治的思考』杉田敦　岩波新書、2013 年、836 円（税込）
『民主主義とは何か』宇野重規　講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末試験および学期途中で行う２回前後の小課題によって評価を決める。試験が７５％、小課題および平常点が２５％とする。期末試験は課題レポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy)】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川　智洋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
通常の教室授業で実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
『戦後政治史　第４版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
『政治的思考』杉田敦　岩波新書、2013 年　836 円（税込）
『民主主義とは何か』宇野重規　講談社現代新書、2020 年　1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末試験および学期途中で行う２回前後の小課題によって評価を決める。試験が７５％、小課題が２５％とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔　先鎬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川崎修・杉田敦　編　『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】
R.A. ダール、高畠通敏訳　『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅　『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁　『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】
受講態度 (＝手書きのレポートなどの提出物、40%) ＋試験 (60%)
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】
この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の
専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】
教科書・ノート

【その他の重要事項】
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔　先鎬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川崎修・杉田敦　編　『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】
R.A. ダール、高畠通敏訳　『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅　『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁　『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】
受講態度 (＝手書きのレポートなどの提出物、40%) ＋試験 (60%)
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】
この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の
専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】
教科書・ノート

【その他の重要事項】
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔　先鎬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。 課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川崎修・杉田敦　編　『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】
R.A. ダール、高畠通敏訳　『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅　『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁　『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】
受講態度 (＝手書きのレポートなどの提出物、40%) ＋試験 (60%)
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】
この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の
専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】
ノート・教科書

【その他の重要事項】
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔　先鎬

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川崎修・杉田敦　編　『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店 (岩波新書 1402)、2014 年

【参考書】
R.A. ダール、高畠通敏訳　『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅　『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁　『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】
受講態度 (＝手書きのレポートなどの提出物、40%) ＋試験 (60%)
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】
この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の
専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】
教科書・ノート

【その他の重要事項】
授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋　和則

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストとレジュメに基づく講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習: 資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】
①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】
・『政治学事典』弘文堂
・『哲学思想事典』岩波書店
・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】
資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】
①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　和則

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】
①川出良枝・谷口将紀編『政治学　第二版』東京大学出版会
②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】
①『政治学事典』弘文堂
②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】
資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】
①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

及川　智洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
通常の教室での対面授業を実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税
『戦後政治史　第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税
『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）
『政治的思考』杉田敦　岩波新書、2013 年、836 円（税込）
『民主主義とは何か』宇野重規　講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末試験および学期途中で行う２回前後の小課題によって評価を決める。試験が７５%、小課題および平常点が２５%とする。期末試験は課題レポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy)】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川　智洋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
通常の教室授業で実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
『戦後政治史　第４版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
『政治的思考』杉田敦　岩波新書、2013 年　836 円（税込）
『民主主義とは何か』宇野重規　講談社現代新書、2020 年　1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】
期末試験および学期途中で行う２回前後の小課題によって評価を決める。試験が７５％、小課題が２５％とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面　一也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：2 **単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2 ～ 3 回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第 2 版』東京大学出版会、2022 年、2,420 円。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験（70%）、リアクションペーパー（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy)】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

面　一也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：2 **単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2 ～ 3 回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩』有斐閣ストゥディア、2018 年、2,090 円。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 （70%）、リアクションペーパー（30%）。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡﨑　加奈子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。
毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また、複数回のレポート課題を予定している。
講義期間中に新型コロナウィルス等の影響により、授業形態に変更が生じた場合は、学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川出良枝、谷口将紀編著『政治学　第 2 版』（東京大学出版会、2022 年）

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60%）と平常点 (40%）により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組みやレポートを含む課題の提出により構成される。

【学生の意見等からの気づき】
時事的な事象と講義の内容とを関連付けて考える機会をより充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末を準備すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination: 60 %、in class contribution: 40%.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡﨑　加奈子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。
毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない共有する。また複数回のレポート課題を予定している。
講義期間中に新型コロナウィルス等の影響により、授業形態を変更する場合は学習支援システムにより周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
川出良枝･谷口将紀編著『政治学　第 2 版』(東京大学出版会　2022 年)

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60%）と平常点 (40%）により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組みやレポートを含む課題の提出により構成される。

【学生の意見等からの気づき】
現代社会における課題と講義の内容を関連付け考察する機会を設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末を準備すること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination: 60 %、in class contribution: 40%.

POL100LA

政治学Ⅰ

2017 年度以降入学者

高橋　和則

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】
政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習: 資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】
①川出良枝・谷口将紀編『政治学　第二版』東京大学出版会
②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】
・『政治学事典』弘文堂
・『哲学思想事典』岩波書店
・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】
資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】
①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　和則

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】
政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界ついての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。
復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確実なものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】
①川出良枝・谷口将紀編『政治学　第二版』東京大学出版会
②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】
①『政治学事典』弘文堂
②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
期末に行う選択肢型筆記試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】
資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】
①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.
【Learning activities outside of classroom】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to term-end examination.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル　裕紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 5**/Wed.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】
学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する 1960 年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80 年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】
授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 42 %、授業への参加度 8 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】
提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】
【Outline and Goal】
This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss evens at hand as well as social issues from an anthropological perspective.
【Requirements】
Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

渡辺　浩平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】
文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第 3 回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第 4 回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第 5 回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第 6 回	環境と生業	人と自然の関係について
第 7 回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第 9 回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第 10 回	国家とエスニシティ	集団意識について
第 11 回	医療	病いと癒やし
第 12 回	芸術	歌う、描く、作る
第 13 回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。資料を配布する。

【参考書】
毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

北原　卓也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。
授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。
それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】
本講義の到達目標は下記の通り。
(1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
(2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
(3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、以下の授業計画に基づき対面で行います。
配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによって発言を求めることがあります。
また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。
毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。
提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する
9	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する
10	ジェンダーとセクシュアリティ（1）	社会や文化の中で形成される性差について理解する
11	ジェンダーとセクシュアリティ（2）	異性愛と同性愛という分け方だけでは捉えられない多様なセクシュアリティについて理解する
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1 回の授業につき、準備・復習は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】
『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010 年。
『詳論　文化人類学』、桑山敬己 ・綾部真雄 （編）、ミネルヴァ書房、2018 年。
『文化人類学キーワード［改訂版]』、 山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008 年。

【成績評価の方法と基準】
中間のまとめ： 30 %、期末試験（またはレポート）： 40 %、平常点（コメントシート）： 30 %
2/3 以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】
This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.
The goal of this course are:
(1) to understand the concept of Cultural Anthropology and research method
(2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture.
(3) to gain the new point of view
Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

長沢　利明

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】
文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語と方言	言語人類学の基礎理論および日本の方言について解説する。
4	民族植物学	言語人類学の応用分野として、民族植物学について解説する。
5	世界の言語	世界の言語と文化との関係について解説する。
6	日本の民俗社会	日本の民俗社会の特色について考解説する。
7	社会と親族	社会構造についての基礎理論を解説し、世界の親族システムについて概観する。
8	世界の通過儀礼	世界の伝統社会における通過儀の実態礼について解説する。
9	日本の通過儀礼	日本の通過儀礼の特色について解説する。
10	農耕と文化	農耕と生産経済、文化との関係について解説する。
11	環境と文化	自然環境と人類の文化との関係、環境人類学の基礎について解説する。
12	環境問題の将来	これからの環境問題について、文化人類学的な観点からの開設をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時間内に実施する試験の結果（100 %）によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline:This course introduces basic theories of cultural anthropologi.
Learning objectives:The goal of this course are to understand of basic theories on cultural anthropology.
Learning activities outoside of classroom:The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading criteria/policies:You overall grade in the claas will be decided based on the following.Term-end examination:100%.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル　裕紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】
学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。
また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する 1960 年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を通史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十回	人種と民族	人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。
第十三回	ポストコロニアル人類学	80 年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】
授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 42 %、授業への参加度 8 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】
提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】
【Outline and Goal】
This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss evens at hand as well as social issues from an anthropological perspective.
【Requirements】
Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

橋爪　太作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学は、さまざまな他者との出会いを通じて私たちの「当たり前」を揺さぶり、新たな視点や価値を発明する学問です。その性質から、わずか 1 世紀ほどの歴史しかない文化人類学は、現在までに何度も激しい変貌を経てきました。本講義ではこうした人類学の歴史とそこから生まれてきた概念を学ぶとともに、これまで世界各地のフィールドから人類学者が積み上げてきた知見を通じて、社会の流動化や気候変動といった私たち自身が直面する課題への向き合い方を考えます。

【到達目標】
1. 文化人類学の基礎的な概念を理解する
2. 文化人類学的思考が生まれた歴史を理解する
3. 世界各地の事例を通じて、私たち自身の思考を相対化する
4. 現代の私たちが直面する課題に対し、これまでの人類学の蓄積から向き合う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と課題について理解します
第 2 回	人類学者の現場を見に行く	文化人類学がどういうものなのか、講師自身のフィールドワークから体験します。
第 3 回	大理石とギンバイカ	16 世紀南米における宣教師と食人種の出会いから、「いかにして他者と向き合うか」という人類学の根本問題を考えます。
第 4 回	人類学の始まり	文化人類学の始まりである 19 世紀の進化論人類学について学びます。
第 5 回	マリノフスキーの革命	1910 年代にフィールドワークに基づく近代人類学を始めたマリノフスキーについて学びます。
第 6 回	「文化」という考え方	近代人類学のもう 1 人の中心人物であるマーガレット・ミードから、文化という概念の始まりを辿ります。
第 7 回	機能から構造へ	近代人類学の前提を深く掘り下げ、今もなお多大な影響力を持つレヴィ＝ストロースの構造主義について学びます。
第 8 回	象徴の時代	構造主義に大きな影響を受け「象徴」をキーワードとした第二次世界大戦後の人類学の流れを学びます。
第 9 回	民族誌批判が残したもの	1980 年代に提起され、マリノフスキー以来の人類学のあり方に反省をもたらした民族誌批判について学びます。
第 10 回	ポストモダンの人類学	グローバル化する 20 世紀後半の世界における、新たな人類学のあり方の模索について学びます。
第 11 回	科学技術の人類学	現代の人類学において重要な主題の一つとなっている、科学技術への人類学的アプローチについて学びます。
第 12 回	自然の人類学	社会・文化とその基盤としての「自然」をめぐり、現代人類学の最先端でどのような思考が生み出されつつあるのかを学びます。
第 13 回	人新世の人類学	人間の活動が地球システムを大きく変容させつつある人新世における、「人間」の新たなあり方について学びます。
第 14 回	おわりに	これまでの授業を振り返りつつ、現代世界における人類学の可能性をみなさんと一緒に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜紹介します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）
期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】
Cultural anthropology is a discipline that shakes up our "norm" and invents new perspectives and values through encounters with various others. Because of its nature, cultural anthropology, which has a history of only about one century, has undergone many drastic transformations up to the present. In this lecture, we will learn about the history of anthropology and the concepts that have emerged from it, as well as consider how we should face the challenges we face, such as social mobility and climate change, through the knowledge that anthropologists have accumulated in the field around the world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

橋爪　太作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学は、さまざまな他者との出会いを通じて私たちの「当たり前」を揺さぶり、新たな視点や価値を発明する学問です。その性質から、わずか 1 世紀ほどの歴史しかない文化人類学は、現在までに何度も激しい変貌を経てきました。本講義ではこうした人類学の歴史とそこから生まれてきた概念を学ぶとともに、これまで世界各地のフィールドから人類学者が積み上げてきた知見を通じて、社会の流動化や気候変動といった私たち自身が直面する課題への向き合い方を考えます。

【到達目標】
1. 文化人類学の基礎的な概念を理解する
2. 文化人類学的思考が生まれた歴史を理解する
3. 世界各地の事例を通じて、私たち自身の思考を相対化する
4. 現代の私たちが直面する課題に対し、これまでの人類学の蓄積から向き合う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と課題について理解します
第 2 回	人類学者の現場を見に行く	文化人類学がどういうものなのか、講師自身のフィールドワークから体験します。
第 3 回	大理石とギンバイカ	16 世紀南米における宣教師と食人種の出会いから、「いかにして他者と向き合うか」という人類学の根本問題を考えます。
第 4 回	人類学の始まり	文化人類学の始まりである 19 世紀の進化論人類学について学びます。
第 5 回	マリノフスキーの革命	1910 年代にフィールドワークに基づく近代人類学を始めたマリノフスキーについて学びます。
第 6 回	「文化」という考え方	近代人類学のもう 1 人の中心人物であるマーガレット・ミードから、文化という概念の始まりを辿ります。
第 7 回	機能から構造へ	近代人類学の前提を深く掘り下げ、今もなお多大な影響力を持つレヴィ＝ストロースの構造主義について学びます。
第 8 回	象徴の時代	構造主義に大きな影響を受け「象徴」をキーワードとした第二次世界大戦後の人類学の流れを学びます。
第 9 回	民族誌批判が残したもの	1980 年代に提起され、マリノフスキー以来の人類学のあり方に反省をもたらした民族誌批判について学びます。
第 10 回	ポストモダンの人類学	グローバル化する 20 世紀後半の世界における、新たな人類学のあり方の模索について学びます。
第 11 回	科学技術の人類学	現代の人類学において重要な主題の一つとなっている、科学技術への人類学的アプローチについて学びます。
第 12 回	自然の人類学	社会・文化とその基盤としての「自然」をめぐり、現代人類学の最先端でどのような思考が生み出されつつあるのかを学びます。
第 13 回	人新世の人類学	人間の活動が地球システムを大きく変容させつつある人新世における、「人間」の新たなあり方について学びます。
第 14 回	おわりに	これまでの授業を振り返りつつ、現代世界における人類学の可能性をみなさんと一緒に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】
授業内で適宜紹介します。

【参考書】
授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）
期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】
Cultural anthropology is a discipline that shakes up our "norm" and invents new perspectives and values through encounters with various others. Because of its nature, cultural anthropology, which has a history of only about one century, has undergone many drastic transformations up to the present. In this lecture, we will learn about the history of anthropology and the concepts that have emerged from it, as well as consider how we should face the challenges we face, such as social mobility and climate change, through the knowledge that anthropologists have accumulated in the field around the world.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

廣田　龍平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5/Tue.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化人類学とは、世界中のさまざまな環境に生きる人々が、どのように社会生活をいとなみ、自分たちや自分たち以外の人々やもの（生き物や死者、神霊など）と交流しているのかを、多様な側面から明らかにすることを目的とする学問です。私たちは世界のどこでも同じように生きているわけではありません。グローバル化が進む現在、自分たちと「他人」とのあいだにある「差異」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのかが急速にに模索されています。そのひとつの糸口となりうるのが、他者・他文化について学ぶことを通して自己・自文化さえをも問い直そうとする文化人類学的な思考です。

【到達目標】
テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の出来事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回の授業は、パワーポイントのスライド資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。
毎回、授業終了後に短いコメントを Hoppii に提出してもらう。コメントは、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文化人類学の基本的な考え方である「文化相対主義」と、文化人類学の基本的な方法であるフィールドワークについて概要を説明する。
2	言語と民俗分類	言葉によって世界を認識する方法が大きく異なってくることを、主に民俗分類の観点から理解する。
3	親族集団	文化人類学の基本である、集団の作り方についての理論や概念を、親族関係を中心に学ぶ。
4	狩猟採集	生業や環境との関係の複雑さを、狩猟採集民の事例を通して学ぶ。
5	経済	金銭による取引以外にもさまざまな経済的行為があることを、贈与交換を中心として理解する。
6	宗教と儀礼	宗教が、単に何かを信じることではなく、世界観を形づくり、日常に区切りを入れるものでもあることを、儀礼的行為を通して理解する。
7	呪術と占い	人間が世界を操作したり予測したりするために作りだしてきた方法としての呪術や占いの多様性を説明する。
8	構造主義の基礎	文化人類学の理論としてもっとも影響があったレヴィ＝ストロースの構造主義について基礎を説明する。
9	神話	人間は物語を語る動物であると言われる。世界の成り立ちや現状を説明する神話が存在することの意義を探る。
10	政治と戦争	どのような社会にも政治は存在し、争いごとも存在する。国家の成立も視野に入れ、社会がどのように維持され破壊されるのかを理解する。
11	芸術とテクノロジー	いわゆる「未開芸術」に対する見方の変遷を、問題は「美しさ」ではないとするアルフレッド・ジェルの議論を中心にして見ていく。
12	医療と身体	動物としての人間と、文化をもつ人間という 2 つの側面をまたがる領域を学ぶ。
13	LGBTQ	セクシュアリティやジェンダーの多様性や社会的な位置づけの問題について学ぶ。
14	科学技術	現代の文化人類学がどのように科学技術を理解するのかを、アクターネットワーク理論を中心に説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業では見なれない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、ニュース報道や SNS で流れてくる海外の映像などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】
以下の 2 冊が参考になります。
桑山敬己、綾部真雄（編）2018 年『詳論　文化人類学』ミネルヴァ書房
波平恵美子（編）2021 年『文化人類学　カレッジ版　第 4 版』医学書院

【成績評価の方法と基準】
毎回提出するレポート（60%）
期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】
説明するのが理論や概念に偏って抽象度がやや高かったため、取り扱う内容の幅を狭め、一つ一つの事例を具体的に詳しく説明することにする。

【Outline (in English)】
This course introduces the basic themes of cultural anthropology to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to understand and explain other cultures and your own culture through the viewpoints of cultural anthropology.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end paper: 40%、Short reports : 60%

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

渡辺　浩平

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】
文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第 3 回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第 4 回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第 5 回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第 6 回	環境と生業	人と自然の関係について
第 7 回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第 9 回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第 10 回	国家とエスニシティ	集団意識について
第 11 回	医療	病いと癒やし
第 12 回	芸術	歌う、描く、作る
第 13 回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。資料を配布する。

【参考書】
毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

石森　大知

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、国際協力、地球温暖化、科学技術、芸術と物質文化、観光開発などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】
・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え方
第 3 回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第 4 回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第 5 回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第 6 回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第 7 回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第 8 回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第 9 回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第 10 回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第 11 回	地球温暖化と海面上昇	ツバルの事例から
第 12 回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第 13 回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。
岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学―人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018 年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン―フィールドからの出発』学陽書房、2017 年。
波平恵美子編『文化人類学―カレッジ版（第 3 版）』医学書院、2011 年。

【成績評価の方法と基準】
学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】
文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】
This course introduces the fundamentals of cultural anthropology, which seeks to understand the cultural and social diversity of the world. The course aims to provide students with the basic concepts and perspectives needed to make cross-cultural comparisons. By the end of the course, students should be able to understand global issues such as international development, environmental issues, tourism and ethnic conflict from an anthropological perspective. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content. Grading will be based on the end of term report (40%) and class participation (60%).

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

阿部　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】
本授業における具体的な到達目標は、以下の３つになります。（１）功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。（２）それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。（３）社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（１）毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。（２）授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。（３）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義（１）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義（２）	功利主義への批判
第 4 回	リバタリアニズム（１）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リバタリアニズム（２）	リバタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義（１）	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義（２）	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開（１）	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開（２）	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義（１）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義（２）	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義（１）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義（２）	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】
※参考書として、規範的な政治理論の教科書を４冊挙げておきます。どれか１冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
※授業内容との関連という点では、（１）→（４）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（４）→（１）という順番で読みやすいと思います。
（１）W. キムリッカ、千葉眞・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、２００５年
（２）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、２０１９年
（３）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、２０１２年
（４）田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、２０１７年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】
満点である１００点のうち、平常点が３０%、期末レポートが７０%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第１４回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
（１）授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。
（２）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行いますが、春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。
※月曜日 4 時限目および火曜日 4 時限目の社会思想Ⅰ（授業コード：Q2217、Q2215）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。
※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいです。

【Outline (in English)】
《Course outline》
Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.
《Learning objectives》
The goals of this course are the followings:
-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.
-3. To construct your own conception of a just society.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.
《Grading Criteria/Policies》
Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:
-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

阿部　崇史

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】
本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の３つを到達目標とします。（１）様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。（２）それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。（３）現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを３回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（１）毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。（２）授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。（３）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要
第 2 回	貧困・格差・社会保障 (1)	２種類の貧困と貧困の自己責任論
第 3 回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第 4 回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第 5 回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第 6 回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第 7 回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第 8 回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第 9 回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第 10 回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第 11 回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第 12 回	教育と差別	グループディスカッション
第 13 回	障害	障害と社会的包摂
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】
※（１）の本と（２）の第２部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。（３）は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウィルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
（１）J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、２０１６年
（２）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、２０１９年
（３）広瀬巌『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、２０２１年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】
満点である１００点のうち、平常点が３０％、期末レポートが７０％になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第１４回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
（１）コメントペーパーを書く時間を授業内にとってほしいという意見があったため、授業の最後 15 分間をコメントを考える時間にあてます。（２）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。（３）グループディスカッションの進め方についても、前年度までにいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行いますが、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。
※火曜日 4 時限目の社会思想Ⅱ（授業コード： Q2216）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。
※社会思想 LA（春学期： Q2401、秋学期： Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいです。

【Outline (in English)】
《Course outline》
Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.
《Learning objectives》
The goals of this course are the followings:
-1. To understand the normative point of various social problems.
-2. To understand and evaluate various normative views on social problems.
-3. To construct your own view on various social problems.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.
《Grading Criteria/Policies》
Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:
-1. In-class contribution and required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田　玲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】
本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキァヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加： 20 %
複数回の小レポート： 30 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

村田　玲

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 5/Thu.5**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】
本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加： 20 %
複数回の小レポート： 30 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

阿部　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】
本授業における具体的な到達目標は、以下の３つになります。（１）功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。（２）それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。（３）社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（１）毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。（２）授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。（３）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義（１）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義（２）	功利主義への批判
第 4 回	リバタリアニズム（１）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リバタリアニズム（２）	リバタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義（１）	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義（２）	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開（１）	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開（２）	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義（１）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義（２）	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義（１）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義（２）	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】
※参考書として、規範的な政治理論の教科書を４冊挙げておきます。どれか１冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
※授業内容との関連という点では、（１）→（４）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（４）→（１）という順番で読みやすいと思います。
（１）W. キムリッカ、千葉眞・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、２００５年
（２）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、２０１９年
（３）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、２０１２年
（４）田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、２０１７年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】
満点である１００点のうち、平常点が３０%、期末レポートが７０%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第１４回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
（１）授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。
（２）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行いますが、春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。
※月曜日 5 時限目および水曜日 2 時限目の社会思想Ⅰ（授業コード：Q2217、Q2211 と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。
※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいです。

【Outline (in English)】
《Course outline》
Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.
《Learning objectives》
The goals of this course are the followings:
-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.
-3. To construct your own conception of a just society.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.
《Grading Criteria/Policies》
Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:
-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

阿部　崇史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】
本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の３つを到達目標とします。（１）様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。（２）それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。（３）現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを３回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（１）毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。（２）授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。（３）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要
第 2 回	貧困・格差・社会保障 (1)	２種類の貧困と貧困の自己責任論
第 3 回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第 4 回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第 5 回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第 6 回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第 7 回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第 8 回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第 9 回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第 10 回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第 11 回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第 12 回	教育と差別	グループディスカッション
第 13 回	障害	障害と社会的包摂
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】
※（１）の本と（２）の第２部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。（３）は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウィルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
（１）J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、２０１６年
（２）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、２０１９年
（３）広瀬巌『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、２０２１年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】
満点である１００点のうち、平常点が３０％、期末レポートが７０％になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第１４回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
（１）コメントペーパーを書く時間を授業内にとってほしいという意見があったため、授業の最後 15 分間をコメントを考える時間にあてます。（２）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。（３）グループディスカッションの進め方についても、前年度までにいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行いますが、合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。
※水曜日 2 時限目の社会思想Ⅱ（授業コード： Q2212）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。
※社会思想 LA（春学期： Q2401、秋学期： Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいです。

【Outline (in English)】
《Course outline》
Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.
《Learning objectives》
The goals of this course are the followings:
-1. To understand the normative point of various social problems.
-2. To understand and evaluate various normative views on social problems.
-3. To construct your own view on various social problems.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.
《Grading Criteria/Policies》
Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:
-1. In-class contribution and required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

阿部　崇史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】
本授業における具体的な到達目標は、以下の３つになります。（１）功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。（２）それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようになること。（３）社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（１）毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。（２）授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。（３）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義（１）	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義（２）	功利主義への批判
第 4 回	リバタリアニズム（１）	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リバタリアニズム（２）	リバタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義（１）	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義（２）	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開（１）	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開（２）	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義（１）	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義（２）	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義（１）	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義（２）	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】
※参考書として、規範的な政治理論の教科書を４冊挙げておきます。どれか１冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
※授業内容との関連という点では、（１）→（４）の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、（４）→（１）という順番で読みやすいと思います。
（１）W. キムリッカ、千葉眞・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、２００５年
（２）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、２０１９年
（３）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、２０１２年
（４）田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、２０１７年
※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】
満点である１００点のうち、平常点が３０%、期末レポートが７０%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第１４回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
（１）授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。
（２）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】
秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行いますが、春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。
※火曜日 4 時限目および水曜日 2 時限目の社会思想Ⅰ（授業コード：Q2215、Q2211）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。
※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいです。

【Outline (in English)】
《Course outline》
Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.
《Learning objectives》
The goals of this course are the followings:
-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.
-3. To construct your own conception of a just society.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.
《Grading Criteria/Policies》
Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:
-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

洪　貴義

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではイギリスの作家であるジョージ・オーウェルの思想を学ぶ。1903 年から 1950 年まで生きたオーウェルは植民地経験、スペイン内戦、第二次世界戦争、その後の東西対立という 20 世紀の主要な思想課題を経験し、その中から多くのエッセイを書き残している。この授業ではオーウェルのエッセイを読解しながら、その主題である植民地経験、従軍経験、政治におけるフェイク、大衆文化について考え、現代に生きるオーウェルについて学ぶことを目的としている。

【到達目標】
20 世紀の世界史の概要を理解することができる。戦争や植民地経験の意味を理解することができる。エッセイを読解しながら、経験、政治、文化についてのオーウェルの思想を読みとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎週コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
第 2 回	導入（1）	20 世紀という時代の経験
第 3 回	導入（2）	オーウェルの生涯
第 4 回	エッセイ（1）	絞首刑・象を撃つ
第 5 回	エッセイ（2）	スペイン戦争回顧
第 6 回	エッセイ（3）	右であれ左であれ、わが祖国
第 7 回	エッセイ（4）	ナショナリズム
第 8 回	エッセイ（5）	政治と英語
第 9 回	エッセイ（6）	作家とリヴァイアサン
第 10 回	エッセイ（7）	探偵小説と現代文化
第 11 回	エッセイ（8）	英国におけるユダヤ人差別
第 12 回	エッセイ（9）	P・G・ウドハウス弁護
第 13 回	エッセイ（１０）	イギリス料理・お茶
第 14 回	エッセイ（１１）	生活文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】
第 1 回のガイダンス時に説明する。

【参考書】
その他の参考資料については授業中に説明、配布する。

【成績評価の方法と基準】
各授業後に提出するコメント 10 回分（50 %）と
期末レポート 1 回分（50 %）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to read Orwell's essays while thinking about the subjects of colonial experience, military experience, fakes in politics, and popular culture, and to learn about Orwell living in the present age.
The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.
Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

熊沢　敏之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
レトリックの戦後批評史――レトリックはたんなる文飾ではなかった。人はレトリックによって、思考の枠組みを形づくるのではないか。とりわけ言論の自由が奪われていた戦中期、多くの文学者や批評家がレトリックを駆使して作品を書いた。秘匿しながら開陳するその文体は、戦後世界で大きく開花し、すぐれた作品を数多く生み出すことになる。高等学校のテクストから選り抜いた、もう一つの「文章講読」講義。

【到達目標】
いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようにする。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降の授業で発表し、フィードバックとする。受講学生の数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概観	授業の進め方を提示しながら、批評的文章を読むことの意義を再確認する。
2	はじめに：レトリックに何ができるのか？	レトリックがたんなる技術ではなく、思想の枠組みの形成にかかわることを確認する。
3	「堕落」のすすめ：坂口安吾（1906-55 年）	戦後世界にとどろいた無頼派の逆説的な宣言は、多くの人々の喝采を受けた（「堕落論」1946 年）。
4	演じられる「弱さ」：太宰治（1909-48 年）	自意識との葛藤を作品化した作家が、パロディに託したものは何だったのか？（「瘤取り」1945 年）。
5	「饒舌」体の反骨：石川淳（1899-1987 年）	膨大な知識と教養に裏打ちされた作家の創作の秘密を、独自の文章で読み解く（「文章の形式と内容」1940 年）。
6	「警句（アフォリズム）」の快楽：小林秀雄（1902-84 年）	短く言い切ることで数々の名言を残した批評家の文章を堪能する（「無常という事」1942 年）。
7	プロレタリア文学の「側面」：中野重治（1902-79 年）	言い切らない表現の奥に見える人間性と、強靭な精神の在り処を探る（「ささやかな記憶」1957 年）。
8	「反語（イロニー）」を生きる思想：林達夫（1896-1984 年）	戦時下に反語的順応主義を貫いた編集者の真の意図とは何だったのか？（「反語的精神」1946 年）。
9	「仮託」という目くらまし：花田清輝（1909-79 年）	目くるめくような知識と韜晦の後ろに隠されていた真理を見極める！（「極大・極小――スウィフト」1942 年）。
10	「たとえ話」で問う真の文学：福田恆存（1912-94 年）	左翼的な論調が幅を利かすなか、孤高の保守を貫いた思想家の寓意と文学観（「一匹と九十九匹と」）。
11	「比喩」の政治学：丸山眞男（1914-96 年）	卓抜な比喩を用いて戦後世界に風雲を巻き起こした政治学のスターの一面（「肉体文学から肉体政治まで」1949 年）。
12	「転向」したのか、しないのか？　：清水幾太郎（1907-88 年）	急進的なマルクス主義からの転向は、社会学書のなかで秘かに行われていた（「レジャー」1966 年）。
13	「美」に殉じる生：三島由紀夫（1925-70 年）	耽美的な作品から軍事的組織の結成まで、理念を肉体化した文学者の独白に迫る（「重症者の兇器」1948 年）。
14	まとめ：授業全体の総まとめ	レトリックが生み出した「真実」とは何か？　レトリカルな文章が潰えてしまったのはなぜか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】
坂口安吾『堕落論・日本文化私観 他二十二篇』（岩波文庫、2008 年）
太宰治『お伽草紙・新釈諸国噺』（岩波文庫、2004 年）
『石川淳評論選』（ちくま文庫、2007 年）
小林秀雄『モオツァルト・無常という事』（新潮文庫、1961 年）
『中野重治評論集』（平凡社ライブラリー、1996 年）
『林達夫評論集』（岩波文庫、1982 年）
花田清輝『復興期の精神』（講談社文芸文庫、2008 年）
福田恆存『保守とは何か』（文春学藝ライブラリー、2013 年）
『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー、2010 年）
清水幾太郎『現代思想』上・下（岩波全書、1966 年）絶版
三島由紀夫『小説家の休暇』（新潮文庫、1982 年）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】
戦後すぐ（70 年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦労するかもしれない。

【学生が準備すべき機器他】
《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスしダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】
Course outline: The History of Rhetorical Criticism in the Postwar Period–Rhetoric is not just a technique for decorating a text, but a means of shaping the framework of thought. Especially during the war years, when freedom of speech was deprived, many writers and critics used rhetoric to write their works. This style of writing, which is secretive and open, flourished in the postwar world and produced many outstanding works. This lecture will be a fresh and interesting "reading of texts" selected from high school textbooks.

Learning Objectives: By reading basic postwar criticisms, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.
Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊沢　敏之

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 3/Mon.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
資本主義のパリ解読―― 19 世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ――十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想史的に読み解いていく。

【到達目標】
20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髄に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降に発表し、フィードバックとする。受講学生の数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／20 世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「（Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」）。
7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③）。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（Ⅵ「オスマンあるいはバリケード」①）。
13	オスマン対コミューン	広い街路にバリケードが造られ、パリ・コミューンの夢が一瞬だけ実現するが……（Ⅵ「オスマンあるいはバリケード」②）。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
ヴァルター・ベンヤミン「パリ――十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション 1』ちくま学芸文庫、1995 年、所収）を主に使用する。

【参考書】
引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】
講読するテクストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】
《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスしダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】
Course outline: In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.
Learning Objectives: By reading the work of Walter Benjamin, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.

Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想Ⅰ

2017 年度以降入学者

村田　玲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】
本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキァヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加： 20 %
複数回の小レポート： 30 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

村田　玲

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】
本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間的事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について
6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】
川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加： 20 %
複数回の小レポート： 30 %
期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田　康史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える.
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする.
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる.
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する.
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ.
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる.
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える.
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ.
第 9 回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ.
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ２つの事柄について考える.
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ３つ以上の事柄について考える.
第 12 回	整数の理論の応用	２つの素数の積について調べる.
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ.
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

平田　康史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる.
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える.
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える.
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する.
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ, 考察する.
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える.
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ.
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す.
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ.
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える.
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを, 定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える.
第 12 回	組み合わせの計算	n=2,3 の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする.
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ.
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田　康史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅠ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える.
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする.
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる.
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する.
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ.
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる.
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える.
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ.
第 9 回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ.
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ２つの事柄について考える.
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ３つ以上の事柄について考える.
第 12 回	整数の理論の応用	２つの素数の積について調べる.
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ.
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率について考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

平田　康史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる.
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える.
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える.
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する.
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ, 考察する.
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える.
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ.
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す.
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ.
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える.
第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを, 定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える.
第 12 回	組み合わせの計算	n=2,3 の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする.
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ.
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度に応じて授業の進む速さなどを調節したい。

【Outline (in English)】
【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曽　岳義

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する.
第 3 回	整数の性質	整数について確認する.
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する.
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する.
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う.
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ.
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ.
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ.
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ.
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する.
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る.
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
私語がなくなるよう改善したい.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曽　岳義

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する.
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する.
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ.
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる.
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する.
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる.
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する.
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する.
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ.
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える.
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
私語がなくなるよう改善したい.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曽　岳義

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の４月１日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する.
第 3 回	整数の性質	整数について確認する.
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する.
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する.
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う.
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ.
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ.
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ.
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ.
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する.
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る.
第 14 回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
私語がなくなるよう改善したい.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

小木曽　岳義

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する.
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する.
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ.
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる.
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する.
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる.
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する.
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する.
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ.
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える.
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
私語がなくなるよう改善したい.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する.
第 3 回	整数の性質	整数について確認する.
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する.
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する.
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う.
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ.
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ.
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ.
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ.
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ.
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する.
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る.
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する.
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する.
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ.
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる.
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する.
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる.
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する.
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する.
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ.
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える.
第 12 回	包除原理	重なり合った集合の大きさ.
第 13 回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する.
第 14 回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1、H_2、…、H_{15} と眼鏡 G_1、G_2、…、G_{10} と付け髭 M_1、M_2、…、M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1、G_1、M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りは H_{13}、G_8、M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	整数論の応用	公開鍵暗号と呼ばれる暗号通信の仕組みを紹介する。
第 06 回	素数表の作成	篩の計算方法に従って、200 までの素数表を作成してみる。
第 07 回	表と計算	行列計算を利用して、日本の人口予測を行う。
第 08 回	論理と計算	真・偽に関する命題演算に関する計算方法を紹介する。
第 09 回	帰納法と計算	数学的帰納法の考え方と計算の仕組みを確認する。
第 10 回	計画と計算	上手な計画を立てるための一般的な計算方法を紹介する。
第 11 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 12 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 13 回	編集距離	２つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 03 回	グラフの応用 1	リーグ戦の対戦スケジュールを作成する方法を紹介する。
第 04 回	グラフの応用 2	3 つの容器を使って水を分けるパズルを解く方法を紹介する。
第 05 回	プリム法	東京 23 区区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第 06 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 07 回	オイラーの定理	一筆書きが可能か判定するための定理を紹介する。
第 08 回	一筆書きの構成	公務員試験などにみられる一筆書き問題を確認する。
第 09 回	ダイキストラ法	町田駅から羽田空港への鉄道最短経路を求める。
第 10 回	組合せ論 1	個々を区別できるモノの順列と組合せを数え上げる。
第 11 回	組合せ論 2	個々を区別できるモノの分け方を数え上げる。
第 12 回	組合せ論 3	個々を区別できないモノの順列や分け方を数え上げる。
第 13 回	組合せ論 4	公務員試験や SPI 試験における数え上げ問題を確認する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤　洋祐

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
1．整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2．整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3．実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する.
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ.
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ.
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する.
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ.
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ.
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ.
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ.
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する.
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ.
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ.
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤　洋祐

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する.
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える.
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、 安定マッチング問題を理解する.
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える.
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、 具体例で説明する.
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	２番目の課題	２番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤　洋祐

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むために Ⅰ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】
1．整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2．整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3．実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々の整数の計算についてその計算量を考察する.
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ.
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ.
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する.
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ.
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ.
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ.
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ.
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する.
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ.
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ.
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 B

2017 年度以降入学者

佐藤　洋祐

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**2 単位**
2015 年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～　情報を読むために　～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】
①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達）各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する.
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する.
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える.
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、 安定マッチング問題を理解する.
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える.
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、 具体例で説明する.
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義.	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える.
第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する.
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性.	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明.
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する.
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明.	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する.
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える.
第 13 回	２番目の課題	２番目の課題を与える.
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムで配布する。

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.
[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.
[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.
[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井　健太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井　健太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

板井　昌典

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井　昌典

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　宏一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井　健太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井　健太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

板井　昌典

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井　昌典

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations ivolving algebraic expressions,to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational,algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

倉田　俊彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

江口　直日

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口　直日

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、春学期の基礎数学 I と同様に、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学 I 」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

江口　直日

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】
数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$（$n=1,2,\ldots$）のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$（$n=-1,-2,\ldots$）のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。また、昨年度は「課題においては解答の正誤よりも授業参加や学習プロセスを重視する」としたものを、問題に正解するためのスキルも重視したい。

【その他の重要事項】
この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics,especially sequences and functions.
【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口　直日

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】
基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】
特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
期末試験の実施直前から実施直後にかけて、配信教材・試験実施形態・合格基準について E メールで執拗に交渉する履修生の対応に苦慮した。度が過ぎる場合には学部事務局と連携して対応したい。
コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、春学期の基礎数学 I と同様に、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。また、昨年度は「課題においては解答の正誤よりも授業参加や学習プロセスを重視する」としたものを、問題に正解するためのスキルも重視したい。

【その他の重要事項】
この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.
【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.
【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%、Short reports 40%.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで I**

吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚しいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】
この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。
第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】
This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで Ⅱ**

吉田　智

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】
この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学>	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質 〈波動性と粒子性〉	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質 〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造 〈電子の発見〉	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。
第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】
This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで**

井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。
本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。
各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。
講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第１３回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
· Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
· Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
· Describe the scientific definition of the work and energy
· Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
· Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで**

井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、２０世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】
・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。
各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。
講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第１３回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
· Explain the photoelectric effect and its application technologies
· Explain the wave-particle duality of light and matters
· Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
· Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
· Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**身近な物理学**

石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。
・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。
10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】
・「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」(増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.
At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**熱と光**

石川　壮一

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。
・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】
・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。
12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】
・「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）
・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】
This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.
At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**やさしく学べる自然の仕組み**

鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然や物の理（ことわり）の探求は，物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき，相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに，法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも，物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】
身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また，理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては，時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど，一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して，法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では，そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように，なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。
講義形式の対面授業を行うが、受講人数がわからない初回授業のみハイフレックスを用いた対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。
授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け，図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し，クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。
授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために，授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また，物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は，ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くと物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い，観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は 1 時間，復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポインスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】
・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書　山本明利，左巻健男 (編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理　第 1 巻，第 2 巻　数研出版
・ビジュアル物理　ニュートン別冊 ニュートンプレス
・新装版 相対論の ABC　福島肇 (著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】
定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業満足度を決めるポイントは，授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく，学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが，どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】
In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**やさしく学べる宇宙の仕組み**

鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子から宇宙まで，物理学の守備範囲は広い。本授業では，原子や素粒子の極微のスケールから地球，オーロラ，さらには太陽，銀河系，ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また，日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに，宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】
原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び，それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく，理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで，我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。
授業形態は講義形式の対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。
授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け，図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し，クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。
授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために，授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また，物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で，次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。
本授業の準備学習は 1 時間，復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポインスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】
・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書　山本明利，左巻健男 (編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理　第 1 巻、第 2 巻　数研出版
・ビジュアル物理　ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理科学のコンセプト 4 電気・磁気と光　小出昭一郎 (監修) 共立出版
・物理科学のコンセプト 9 星と宇宙　小出昭一郎 (監修) 共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識　田崎晴明　朝日出版社
pdf ファイル：
https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/

【成績評価の方法と基準】
定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業満足度を決めるポイントは，授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく，学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが，どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】
In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.
It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで**

井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。
本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】
・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。
各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。
講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第１３回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
・Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
・Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
・Describe the scientific definition of the work and energy
・Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
・Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで**

井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、２０世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。
本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】
・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。
各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。
講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第１３回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】
Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:
· Explain the photoelectric effect and its application technologies
· Explain the wave-particle duality of light and matters
· Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
· Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
· Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで I**

吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚しいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】
この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。
第 11 回	熱の法則と熱効率	熱に関係する法則と熱効率について解説する。
第 12 回	気体の法則、絶対零度	気体の法則について解説する。
第 13 回	気体分子の運動と温度	気体分子の運動と温度の関係について解説する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】
This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**原子から宇宙まで Ⅱ**

吉田　智

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】
この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学>	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質 〈波動性と粒子性〉	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質 〈二重性〉	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造 〈電子の発見〉	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造 〈原子核の発見〉	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。
第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】
This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**やさしく学べる自然の仕組み**

鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然や物の理（ことわり）の探求は，物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき，相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに，法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも，物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】
身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また，理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては，時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど，一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して，法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では，そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように，なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。
講義形式の対面授業を行うが、受講人数がわからない初回授業のみハイフレックスを用いた対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。
授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け，図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し，クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。
授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために，授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また，物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は，ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くと物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い，観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は 1 時間，復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポインスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】
・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書　山本明利，左巻健男 (編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理　第 1 巻，第 2 巻　数研出版
・ビジュアル物理　ニュートン別冊 ニュートンプレス
・新装版 相対論の ABC　福島肇 (著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】
定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業満足度を決めるポイントは，授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく，学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが，どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】
In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：**やさしく学べる宇宙の仕組み**

鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子から宇宙まで，物理学の守備範囲は広い。本授業では，原子や素粒子の極微のスケールから地球，オーロラ，さらには太陽，銀河系，ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また，日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに，宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】
原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び，それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく，理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで，我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。
授業形態は講義形式の対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。
授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け，図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し，クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。
授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために，授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また，物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。
第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをすると地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持とう。科学の発展は日進月歩で，次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。
本授業の準備学習は 1 時間，復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポインスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】
・高校の物理基礎・物理の教科書
・新しい高校物理の教科書　山本明利，左巻健男 (編著) 講談社ブルーバックス
・もういちど読む数研の高校物理　第 1 巻、第 2 巻　数研出版
・ビジュアル物理　ニュートン別冊 ニュートンプレス
・物理科学のコンセプト 4 電気・磁気と光　小出昭一郎 (監修) 共立出版
・物理科学のコンセプト 9 星と宇宙　小出昭一郎 (監修) 共立出版
・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識　田崎晴明　朝日出版社
pdf ファイル：
https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/

【成績評価の方法と基準】
定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】
授業満足度を決めるポイントは，授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく，学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが，どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】
In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.
It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原　章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、ＤＮＡから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらし、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は２つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面方式で行う予定です。第１回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。２回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。
本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の３項目をたどって解説します。
授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体ＤＮＡ	メンデルが提唱した遺伝子がＤＮＡであることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	ＤＮＡの塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。
第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	１３回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週１時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週１時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週１時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業要約　200 字　80 %
最終レポート　20 %
授業要約 (200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約してＨＯＰＰＩＩのテスト欄に提出して頂きます。
最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。
板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】
単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】
メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.
(Learning Objectives)
The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.
(Learning activities outside of classroom)
Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80% the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原　章

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】
本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。
毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10〜15 分程度の映像教材を呈示します。
リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 5 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょう？神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 6 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 7 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 8 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 10 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 11 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 12 回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 13 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 14 回	まとめ	13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上）以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業要約 200 字 80 %
最終レポート 20 %
授業要約（２００字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。 それに従って毎回（１３回まで）授業を要約してＨＯＰＰＩＩのテスト欄に提出して頂きます。
最終レポートでは、１３回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。
単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。
同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。 板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】
単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】
メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.
(Learning Objectives)
The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.
(Learning activities outside of classroom)
Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
13 times class summary 80%
the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原　章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、ＤＮＡから細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどの様な影響をもたらし、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】
本授業の到達目標は２つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面方式で行う予定です。第１回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。２回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。
本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の３項目をたどって解説します。
授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体ＤＮＡ	メンデルが提唱した遺伝子がＤＮＡであることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	ＤＮＡの塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。
第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	１３回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週１時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週１時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週１時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業要約　200 字　80 %
最終レポート　20 %
授業要約 (200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約してＨＯＰＰＩＩのテスト欄に提出して頂きます。
最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。
板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】
単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】
メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.
(Learning Objectives)
The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.
(Learning activities outside of classroom)
Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80% the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原　章

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】
本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。
毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10〜15 分程度の映像教材を呈示します。
リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。
第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 5 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょう？神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 6 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 7 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 8 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 10 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 11 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 12 回	生態学的生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 13 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 14 回	まとめ	13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上）以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】
教科書は無し。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】
授業要約 200 字 80 ％
最終レポート 20 ％
授業要約（２００字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。 それに従って毎回（１３回まで）授業を要約してＨＯＰＰＩＩのテスト欄に提出して頂きます。
最終レポートでは、１３回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。
単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。
同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。 板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】
単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】
メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.
(Learning Objectives)
The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.
(Learning activities outside of classroom)
Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
13 times class summary 80%
the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

大槻　涼

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 5**/Wed.5
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。
生物学を「おぼえる」だけではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、春学期「入門生物学 A」では普遍性に着目します。おもに全生物にみられる特徴や多様性を生み出す仕組みについて基礎的な内容から解説します。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第 2 回	生命の階層性	・分子-細胞-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第 3 回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第 4 回	細胞誕生と地球の歴史	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の２つのカタチ ・「全球凍結」がもたらした変化
第 5 回	われわれの生命をささえる物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なしごと
第 6 回	細胞の構造	・細胞膜の構造 ・細胞小器官と役割分担
第 7 回	タンパク質ができるまで	・遺伝子発現のしくみ ・適材適所”と“臨機応変”　遺伝子発現と制御のしなやかな仕組み
第 8 回	細胞内でのいとなみ	・「生きる」を支える化学反応 ・「ごはん」が「エネルギー」になるまで
第 9 回	細胞がふえる	・細胞分裂のしくみと研究の歴史
第 10 回	かたちがかわる、かたちができる	・発生学とはなにか？ ・かたちをつくるしなやかな仕組み
第 11 回	世代をこえたつながり	・遺伝の仕組み ・なぜ、メンデルは気づけたのか？
第 12 回	「普遍性」と「多様性」の架け橋	・進化とは何か
第 13 回	ゲノム解読とバイオインフォマティクス	・「情報」としての生物のありかた ・生物学研究と情報科学
第 14 回	バイオテクノロジーと生物学研究	・生物学研究の方法と他分野とのつながり ・生物学のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
岩波 生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第 5 版、ISBN-13 : 978-4000803144
キャンベル生物学 原書 11 版、池内昌彦　ら (監修, 翻訳)、　丸善出版、　2018 ISBN-13 : 978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。
社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.
Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

大槻　涼

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。
生物学を「おぼえる」ではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、秋学期では多様性に着目する。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第 2 回	多様性を生み出す「普遍性」：進化とはなにか？	・進化とはどのような現象か ・種分化の仕組み
第 3 回	「超高速進化現象」としての適応放散	・シクリッドとダーウィンフィンチ ・共進化がもたらす劇的な変化 ・生物間相互作用のふしぎ
第 4 回	すべての生物の歴史	・全生物の系統と「３ドメイン」 ・系統学とは何か？ ・分子系統学によって明らかになったこと
第 5 回	生物多様性とは？	・生物多様性を理解するには？ ・生物多様性条約とは？ ・「生態系サービス」はなぜ重要か？
第 6 回	生物多様性の３つのスケール（１）　遺伝的多様性	・DNA レベルで多様性を考えるには？ ・「分子マーカー」をつかった研究
第 7 回	生物多様性の３つのスケール（２）　種多様性	・いまいちど「種」とは何か？ ・多様性を「はかる」には？
第 8 回	生物多様性の３つのスケール（３）　生態的多様性	・生物同士の「つながり」を通してみた多様性 ・世界の生態系の現状と課題 ・多様性研究を始めるには？
第 9 回	絶滅：生物多様性の危機	・多様性と絶滅の関係は？ ・5 大絶滅とは？ ・絶滅の渦 ・人間が生態系とかかわるとき ・ヒアリ問題
第 10 回	分類学基礎　分類するとは？	・多様性を知るには？ ・　図鑑を使って「名前」を調べるには？ ・博物館と標本館の役割　未来に伝える生物情報
第 11 回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦（1）	・動物の上陸作戦と環境 ・相同器官と相似器官：古くて新しい問題 ・適応放散の実際
第 12 回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦（2）	・植物の上陸作戦 ・性の進化と多様性
第 13 回	「ヒト」にいたる道	・2022 ノーベル賞をひもとく ・人類史研究の現在 ・デニソワ人
第 14 回	多様性からみた生物学	・地球環境問題と生物多様性のこれから ・保全生物学と現在の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-、赤坂甲治、2021、裳華房、ISBN 978-4-7853-5872-3
岩波生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144
キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦　ら (監修, 翻訳)、　丸善出版、　2018ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物学的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。３）医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。
第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは。iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%) の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。３）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなものでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。
第 7 回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第 8 回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第 9 回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがおり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第 12 回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第 13 回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%) の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物学的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。３）医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。
第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは。iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%) の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。３）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなものでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。
第 7 回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第 8 回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第 9 回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがおり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第 12 回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第 13 回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%) の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

大槻　涼

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。生物学を「おぼえる」だけではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、春学期「入門生物学 A」では普遍性に着目します。おもに全生物にみられる特徴や多様性を生み出す仕組みについて基礎的な内容から解説します。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第 2 回	生命の階層性	・分子-細胞-個体-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第 3 回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第 4 回	細胞誕生と地球の歴史	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の 2 つの「カタチ」 ・「全球凍結」がもたらした変化
第 5 回	われわれの生命を支える物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なしごと
第 6 回	細胞の構造	・細胞膜の特徴 ・細胞小器官と役割分担
第 7 回	タンパク質ができるまで	・遺伝子発現のしくみ ・適材適所”と“臨機応変”　遺伝子発現と制御のしなやかな仕組み
第 8 回	細胞内でのいとなみ	・「生きる」を支える化学反応 ・「ごはん」が「エネルギー」になるまで
第 9 回	細胞がふえる	・細胞分裂の仕組みと研究の歴史
第 10 回	かたちがかわる、かたちができる	・発生学とはなにか？ ・かたちをつくるしなやかな仕組み
第 11 回	世代をこえたつながり	・遺伝の仕組み ・なぜ、メンデルは気づけたのか？
第 12 回	「普遍性」と「多様性」の架け橋	・進化とは何か？
第 13 回	ゲノム解読とバイオインフォマティクス	・「情報」としての生物のありかた ・生物学研究と情報科学
第 14 回	バイオテクノロジーと生物学研究	・生物学研究と他分野とのつながり ・生物学のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
岩波生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144 キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦　ら (監修, 翻訳)、　丸善出版、　2018ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.
Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

大槻　涼

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。
生物学を「おぼえる」ではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を２つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、秋学期では多様性に着目する。

【到達目標】
生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。
講義で理解した事柄を文章で説明することができる。
生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。
大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。
毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌回に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の２つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの４つのなぜ
第 2 回	多様性を生み出す「普遍性」：進化とはなにか？	・進化とはどのような現象か ・種分化の仕組み
第 3 回	「超高速進化現象」としての適応放散	・シクリッドとダーウィンフィンチ ・共進化がもたらす劇的な変化 ・生物間相互作用のふしぎ
第 4 回	すべての生物の歴史	・全生物の系統と「３ドメイン」 ・系統学とは何か？ ・分子系統学によって明らかになったこと
第 5 回	生物多様性とは？	・生物多様性を理解するには？ ・生物多様性条約とは？ ・「生態系サービス」はなぜ重要か？
第 6 回	生物多様性の３つのスケール（１）　遺伝的多様性	・DNA レベルで多様性を考えるには？ ・「分子マーカー」をつかった研究
第 7 回	生物多様性の３つのスケール（２）　種多様性	・いまいちど「種」とは何か？ ・多様性を「はかる」には？
第 8 回	生物多様性の３つのスケール（３）　生態的多様性	・生物同士の「つながり」を通してみた多様性 ・世界の生態系の現状と課題 ・多様性研究を始めるには？
第 9 回	絶滅：生物多様性の危機	・多様性と絶滅の関係は？ ・5 大絶滅とは？ ・絶滅の渦 ・人間が生態系とかかわるとき ・ヒアリ問題
第 10 回	分類学基礎　分類するとは？	・多様性を知るには？ ・　図鑑を使って「名前」を調べるには？ ・博物館と標本館の役割　未来に伝える生物情報
第 11 回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦 （1）	・動物の上陸作戦と環境 ・相同器官と相似器官：古くて新しい問題 ・適応放散の実際
第 12 回	新天地を求めての挑戦　生物の上陸作戦と空への挑戦 （2）	・植物の上陸作戦 ・性の進化と多様性
第 13 回	「ヒト」にいたる道	・2022 年ノーベル賞をひもとく ・人類史研究の現在 ・デニソワ人
第 14 回	多様性からみた生物学	・地球環境問題と生物多様性のこれから ・保全生物学と現在の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】
指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】
進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-、赤坂甲治、2021、裳華房、ISBN 978-4-7853-5872-3
岩波生物学辞典、巌佐庸　ら（編）、岩波書店、　2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144
キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦　ら (監修, 翻訳)、　丸善出版、　2018ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】
2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.
The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.
【Learning Objectives】
Can find background information on the latest news in biology on his/her own.
To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.
Understand biology textbooks for beginners on their own.
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.
【Grading Criteria /Policy】
Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物学的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。３）医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。
第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは。iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.
[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野　真介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】
本授業の到達目標は、以下の３点です。１）マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。２）学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。３）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなものでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。
第 7 回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第 8 回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第 9 回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがおり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第 12 回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第 13 回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】
教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%) の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】
[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.
[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.
[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】
自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目 (理系科目) の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。
授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	電子の発見	電気を運んだり、二つの原子を結びつける粒子について
第 4 回	電子と電磁波	電子の軌道と電磁波のエネルギーについて
第 5 回	同位体と原子の壊変	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線を遮断する物質の特徴について
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びついて分子を形成する仕組みについて
第 9 回	有機化合物とその表記	カフェインやカプサイシンなど身近な化学物質の化学構造について
第 10 回	炭素材料	カーボンナノチューブやグラフェンの特徴について
第 11 回	燃焼と消火	燃焼に必要な要素や火薬の成分について
第 12 回	水と物質	氷やメタンハイドレートの構造について
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムに毎回５問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします (配分 40%)。期末試験の結果 (配分 60%) と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】
This course introduces molecular structure and properties.
The goal of the course is to improve students' science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

向井　知大

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】
現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目 (理系科目) の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。
授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線の吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
使用しません。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムに毎回５問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします (配分 40%)。期末試験の結果 (配分 60%) と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】
This course introduces molecular structure and properties.
The goal of the course is to understand about causes of environmental problems and to improve your science literacy.
Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

小林　令子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2023 年 4 月 11 日 (火) 朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 測定値の単位	科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質
第 10 回	10. 物質の状態②	溶液の性質
第 11 回	11. 放射性物質	放射壊変とは、放射線の影響、トリチウムとは
第 12 回	12. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第 13 回	12. 地球温暖化②	温暖化の影響
第 14 回	12. 地球温暖化③	温暖化の将来予測、エネルギー
	13. 大気・水質・土壌汚染	大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】
化学の世界への招待 (第 2 版)、小林憲司ほか (編著)、三共出版
一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】
成績は、提出課題の内容で 100 %評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】
This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

小林　令子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2023 年 9 月 26 日 (火) 朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するもの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第 2 回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第 3 回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第 5 回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第 6 回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第 7 回	8. 窒素を含む有機化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について
	9. 芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第 8 回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第 9 回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第 10 回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第 11 回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第 12 回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
	13. 生体内の化学反応①	代謝について
第 13 回	13. 生体内の化学反応②	主要栄養素の代謝・酵素について
第 14 回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】
一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房
マクマリー生物有機化学 [有機化学編] 原書 8 版、菅原二三男 (監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】
成績は、提出課題の内容で 100 %評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】
This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】
現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。
第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に出入りするエネルギーについて考察する。
第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類（1）	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類（2）	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

.
書名：新版　エネルギーの科学（第 2 版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】
参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

.
書名：放射化学・放射線化学
著者名： 前田米藏, 百島則幸
出版者名：南山堂

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じてオンライン授業を行う場合がありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

.
第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】
In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】
現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 8 回	CO_2 の排出量	CO_2 の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 9 回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 10 回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 11 回	天然ガス	天然ガスに関して、成立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第 12 回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第 13 回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

.
書名：新版　エネルギーの科学（第２版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】
参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

.
書名：教養としての化学入門（第２版）
著者名： Kimberley Waldron
訳者名：竹内敬人
出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

.
第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】
In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】
私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。
以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。
学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。
これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。
提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第 3 回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第 5 回	イオン	イオンのでき方を理解する
第 6 回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第 7 回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第 8 回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第 9 回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第 10 回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第 11 回	物質量	地球上における環境を考えるための、物質量の概念を理解する
第 12 回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第 13 回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのように関わっているかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。
あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。
学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】
特にありません。
授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。
期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。
日々の生活の中でのここが化学であると知ってもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】
This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
− To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】
私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。
このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。
学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。
これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。
提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第 3 回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第 4 回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第 5 回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第 6 回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第 7 回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第 8 回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第 9 回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第 10 回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第 11 回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第 12 回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第 13 回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。
あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。
学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】
特にありません。
授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】
学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。
期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。
日々の生活の中でのここが化学であると知ってもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに接続するための、PC などの機器

【Outline (in English)】
This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
− To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

小林　令子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2023 年 4 月 11 日 (火) 朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 測定値の単位	科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質
第 10 回	10. 物質の状態②	溶液の性質
第 11 回	11. 放射性物質	放射壊変とは、放射線の影響、トリチウムとは
第 12 回	12. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第 13 回	12. 地球温暖化②	温暖化の影響
第 14 回	12. 地球温暖化③	温暖化の将来予測、エネルギー
	13. 大気・水質・土壌汚染	大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】
化学の世界への招待 (第 2 版)、小林憲司ほか (編著)、三共出版
一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房

【成績評価の方法と基準】
成績は、提出課題の内容で 100 %評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】
This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

小林　令子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】
授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2023 年 9 月 26 日 (火) 朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するもの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第 2 回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第 3 回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第 4 回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第 5 回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第 6 回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第 7 回	8. 窒素を含む有機化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について
	9. 芳香族化合物	身近な芳香族化合物の構造と性質について
第 8 回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、燃焼反応、反応熱について
第 9 回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第 10 回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第 11 回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第 12 回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
	13. 生体内の化学反応①	代謝について
第 13 回	13. 生体内の化学反応②	主要栄養素の代謝・酵素について
第 14 回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。
復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】
一般化学 (四訂版)、長島 弘三 (著)、富田 功 (著)、裳華房
マクマリー生物有機化学 [有機化学編] 原書 8 版、菅原二三男 (監訳)、丸善出版

【成績評価の方法と基準】
成績は、提出課題の内容で 100 %評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】
This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】
現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変（1）	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変（2）	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。
第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に出入りするエネルギーについて考察する。
第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類（1）	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類（2）	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

.
書名：新版　エネルギーの科学（第 2 版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】
参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

.
書名：放射化学・放射線化学
著者名： 前田米藏, 百島則幸
出版者名：南山堂

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じてオンライン授業を行う場合がありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

.
第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】
In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学 B

2017 年度以降入学者

中田　和秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】
現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 8 回	CO_2 の排出量	CO_2 の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第 9 回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 10 回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第 11 回	天然ガス	天然ガスに関して、成立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第 12 回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第 13 回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】
下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

.
書名：新版　エネルギーの科学（第２版）
著者名：安井伸郎
出版者名：三共出版

【参考書】
参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

.
書名：教養としての化学入門（第２版）
著者名： Kimberley Waldron
訳者名：竹内敬人
出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】
成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】
春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

.
第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】
In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島　登志夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】
宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[授業スケジュールの PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/359438227_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_in_Japanese

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[スライド集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese
[質疑応答集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】
参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】
(Course Outline) Study the wonder of the universe.
(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.
(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.
(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島　登志夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】
天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[授業スケジュールの PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/359438095_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_Part_2

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[スライド集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_--_Enigma_of_Gravitation_--_in_Japanese
[質疑応答集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】
参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】
(Course Outline) Study the enigma of gravitation.
(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.
(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.
(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

梅本　智文

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の誕生と維持に必要な事項が宇宙 138 億年の歴史のなかでどのようにして生じ、そして現在に至ったかを学ぶ。春学期では、太陽のような恒星、恒星の集団である銀河、銀河の集団、さらに宇宙全体を対象とする。

【到達目標】
宇宙や銀河の誕生から太陽や地球の誕生をへて、生命の発生・生存に適した地球環境にいたるまでの過程とその条件を学ぶことで、宇宙・地球と生命との関係を時間的・空間的スケールにおいてとらえられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。毎週、資料を Hoppii を通じて配布し、復習できるようにする。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。
最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	近代天文学の成立	古代から近代天文学の成立に至るまでの歴史を学ぶ。
第 3 回	現代の宇宙を観る目	様々な波長での天文学／望遠鏡について紹介する。
第 4 回	膨張宇宙の発見	ハッブル・ルメートルの法則について学び、宇宙膨張の概念を知る。
第 5 回	ビッグバン宇宙	ビッグバンとその残光である宇宙背景放射の発見について学ぶ。
第 6 回	宇宙の進化	宇宙の進化と未来について議論する。
第 7 回	宇宙の階層構造	宇宙全体の階層構造について学ぶ。赤方偏移探査について学ぶ。
第 8 回	様々な銀河	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 9 回	天の川銀河（銀河系）	天の川銀河（銀河系）の構造について学ぶ。
第 10 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第 11 回	恒星のエネルギー源と寿命	どんなエネルギーによって恒星が光っているのか、また恒星の寿命について学ぶ。
第 12 回	恒星の進化と最期	質量の違いによる恒星の進化について学ぶ。元素合成について学ぶ。
第 13 回	ブラックホール	ブラックホールとその観測について学ぶ。
第 14 回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】
適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire　how the necessary elements for the birth and maintenance of life arose in the 13.8 billion year history of the universe.
The goals of this course is to enable students to understand the relationship between the universe, the earth, and life on both time and spatial scales.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

梅本　智文

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生命の誕生と維持に必要な事項が宇宙 138 億年の歴史のなかでどのようにして生じ、そして現在に至ったかを学ぶ。秋学期では、太陽系・地球を対象とする。特に系外惑星（第二の地球）と地球外生命の可能性についても焦点を当てる。天文学 B は天文学 A からの続きである。必ずしも天文学 A を事前に受講する必要はないが、天文学 A と B を両方受講するとより理解が深まるであろう。

【到達目標】
宇宙や銀河の誕生から太陽や地球の誕生をへて、生命の発生・生存に適した地球環境にいたるまでの過程とその条件を学ぶことで、宇宙・地球と生命との関係を時間的・空間的スケールにおいてとらえられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。毎週、資料を Hoppii を通じて配布し、復習できるようにする。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。
最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	星や宇宙を楽しむ	星空や星座、宇宙の楽しみ方を紹介する。
第 3 回	星間物質と星形成	恒星はどんな所でどのように生まれるかを学ぶ。
第 4 回	現代の太陽系像（1）	太陽系全体を概観し、地球型惑星について学ぶ。
第 5 回	現代の太陽系像（2）	木星型／天王星型惑星、準惑星、太陽系小天体（小惑星、彗星など）について学ぶ。
第 6 回	太陽系の起源	太陽系の惑星はどのようにしてできたかを学ぶ。月の起源についても学ぶ。
第 7 回	地球と海の起源	原始地球の形成から、地球の大気や海がどのように形成されたかを学ぶ。
第 8 回	水惑星「地球」	なぜ地球は水の惑星となることができたのかを学ぶ。ハビタブルゾーンの概念を学ぶ。
第 9 回	気候変動	地球温暖化だけでなく、地球の 46 億年の歴史における様々な大変動について学ぶ。
第 10 回	生命材料の起源	生命の材料はどこからきたのか、生命はどこで生まれたのかを学ぶ。
第 11 回	系外惑星の発見	太陽系以外にも惑星が発見された。その観測方法と系外惑星の特徴について学ぶ。
第 12 回	地球外生命探査（太陽系内）	太陽系内の天体（火星、木星・土星の衛星）に生命が存在するか議論する。
第 13 回	地球外生命探査（太陽系外）	どんな系外惑星に生命が存在できるか議論。地球外知的生命探査についても紹介する。
第 14 回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】
適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire　how the necessary elements for the birth and maintenance of life arose in the 13.8 billion year history of the universe.
The goals of this course is to enable students to understand the relationship between the universe, the earth, and life on both time and spatial scales.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島　登志夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 4**/Mon.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】
宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[授業スケジュールの PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/359438227_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_in_Japanese

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[スライド集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese
[質疑応答集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】
参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】
(Course Outline) Study the wonder of the universe.
(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.
(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.
(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島　登志夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**2 単位**
この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10 ： 00〜5 日（水）17 ： 00、結果発表は 4 月 6 日（木）22 ： 00（予定）です。履修ガイド（https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】
天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各２時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[授業スケジュールの PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/359438095_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_Part_2

【テキスト（教科書）】
市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。
[スライド集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_--_Enigma_of_Gravitation_--_in_Japanese
[質疑応答集の PDF ファイル]
https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】
参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（１００％）による。

【学生の意見等からの気づき】
レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】
ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】
(Course Outline) Study the enigma of gravitation.
(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.
(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.
(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) ／デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) ／ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) ／ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るてから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン& S・シャッファー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト」の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) ／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィン的進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィン的進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) ／ 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) ／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】
Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.
Learning Objectives: The goals of this course are the followings:
(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,
(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.
Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

金光　秀和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、環境問題を中心に現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】
授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。そのため、知識を扱うオンデマンド回とディスカッションをメインとする対面回のハイブリッド型で反転授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	環境問題の歴史	科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。
第 3 回	事例研究「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第 4 回	環境思想の歴史	環境思想について歴史的に概観します。
第 5 回	事例研究「アマミノクロウサギ訴訟」	アマミノクロウサギ訴訟を事例として研究します。
第 6 回	環境問題と市民	環境問題における当事者性について考察します。
第 7 回	事例研究「地球温暖化」	地球温暖化を事例として研究します。
第 8 回	科学による可視化と不可視化	科学の不確実性の問題を考察します。
第 9 回	事例研究「緑の革命」	緑の革命を事例として研究します。
第 10 回	巨大事故の時代	具体例を用いながら巨大事故について考察します。
第 11 回	事例研究「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。
第 12 回	巨大技術システムの構造的問題	具体例を用いながら巨大技術システムの構造的問題を考察します。
第 13 回	事例研究「阪神・淡路大震災」	阪神・淡路大震災を事例として研究します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
塚原東吾［ほか］編著『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022 年
野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
伊勢田哲治［ほか］編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】
本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度に引き続き、対話と双方性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】
Course Outline
Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on environmental issues, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
− Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
− Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.
Learning activities outside of classroom
Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

金光　秀和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、科学者の社会的責任という観点から現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】
授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。そのため、知識を扱うオンデマンド回とディスカッションをメインとする対面回のハイブリッド型で反転授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	科学者の社会的責任の歴史的概観	科学者の社会的責任について歴史的に概観します。
第 3 回	事例研究「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第 4 回	科学・技術と国家	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第 5 回	事例研究「朝鮮戦争・ベトナム戦争と科学技術」	朝鮮戦争・ベトナム戦争を例に科学技術のあり方を考察します。
第 6 回	責任ある研究	具体例を用いながら責任ある研究と研究不正について解説します。
第 7 回	事例研究「東大 RNA 論文捏造事件」	東大 RNA 論文捏造事を事例として研究します。
第 8 回	研究不正の防止①	研究不正を防止するにはどうすればよいのかについて検討します。
第 9 回	事例研究「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。
第 10 回	研究不正の防止②	具体例を用いながら研究不正を防止について検討します。
第 11 回	事例研究「The Lab」	仮想事例 The Lab を通して問題を検討します。
第 12 回	科学者の社会的責任の３つの相	科学者の社会的責任の３つの相について考察します。
第 13 回	事例研究「BSE 問題」	BSE を事例として研究します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。

【参考書】
藤垣裕子『科学者の社会的責任』岩波書店、2018 年
黒川清［ほか］『科学のミスコンダクト：科学者コミュニティの自律をめざして』日本学術協力財団、2006 年
唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』筑摩書房、2012 年
金森修『科学の危機』集英社、2015 年

【成績評価の方法と基準】
本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度に引き続き、対話と双方性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】
Course Outline
Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on social responsibility of scientists, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
− Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
− Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.
Learning activities outside of classroom
Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy
Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) ／デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) ／ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) ／ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るてから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン& S・シャッファー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：2 **単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト」の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) ／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィン的進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィン的進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) ／ 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) ／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】
Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.
Learning Objectives: The goals of this course are the followings:
(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,
(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.
Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) ／デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) ／ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) ／ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るてから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン& S・シャッファー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島　泰三

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。
学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト」の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライプニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「こころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライプニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) ／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィン的進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィン的進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) ／ 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) ／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に行ってもよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】
各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】
Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.
Learning Objectives: The goals of this course are the followings:
(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,
(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.
Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 14 週	灰の文化史（化学）	木を燃やして得られる灰は江戸時代、多様な分野で利用されてきました。貴重だった灰の利用方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 14 週	灰の文化史（化学）	木を燃やして得られる灰は江戸時代、多様な分野で利用されてきました。貴重だった灰の利用方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み　（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村　直美、長谷川　真紀子、井坂　政裕

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、吉田　智

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、石川　壮一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚　芽具美、田中　浩輔、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井　知大、川上　裕司、鈴木　裕武

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。
高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木　菜保子、島野　智之、柳瀬　宏太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズ゛ムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。３つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性, 概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。
＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。
＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。 初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を４週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島　弘一、鈴木　忠、土手　昭伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**2 単位**
定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な３分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、３つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。
＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。
＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。
＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】
自然科学への苦手意識が払拭される。３つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、２回目以降は３つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある３つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは５週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。
このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験　（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、 遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、 DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】
物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】
This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

萩原　正大

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
第 2 回	体力測定（講義及び実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
第 3 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
第 4 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を応用して、実践する。
第 5 回	スポーツ科学を学ぶ①（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（身体の構造・仕組み・動き等）を学び、意見交換を行う。
第 6 回	スポーツ科学を学ぶ②（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（トレーニング・コンディショニング等）を学び、意見交換を行う。
第 7 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。
第 8 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を応用して、実践する。
第 9 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を学び、実践する。
第 10 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を応用して、実践する。
第 11 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。
第 12 回	スポーツ科学を学ぶ③（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（支える者の視点）を学び、意見交換を行う。
第 13 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を応用して、実践する。
第 14 回	ボッチャを学ぶ（講義及び実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度の授業より新規担当のため昨年度の状況をフィードバックできないが、必要に応じて受講者からの意見や要望を踏まえて授業の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
体調不良、怪我などの理由で授業に参加できない場合は、担当教員に報告・相談すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

萩原　正大

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
第 2 回	体力測定（講義及び実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
第 3 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
第 4 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を応用して、実践する。
第 5 回	スポーツ科学を学ぶ①（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（身体の構造・仕組み・動き等）を学び、意見交換を行う。
第 6 回	スポーツ科学を学ぶ②（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（トレーニング・コンディショニング等）を学び、意見交換を行う。
第 7 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。
第 8 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を応用して、実践する。
第 9 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を学び、実践する。
第 10 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を応用して、実践する。
第 11 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。
第 12 回	スポーツ科学を学ぶ③（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（支える者の視点）を学び、意見交換を行う。
第 13 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を応用して、実践する。
第 14 回	ボッチャを学ぶ（講義及び実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度の授業より新規担当のため昨年度の状況をフィードバックできないが、必要に応じて受講者からの意見や要望を踏まえて授業の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
体調不良、怪我などの理由で授業に参加できない場合は、担当教員に報告・相談すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内　花恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
。この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可 能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対す る参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について，ガイダンスを通じて理解する.
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について，現状を理解し考察する.
3	スポーツ心理学①（講義）	スポーツにおける動機づけ，スポーツの楽しさにについて学ぶ.
4	メンタルトレーニング（講義）	メンタルトレーニングの中核となるリラクセーション技法について学ぶ.
5	ソフトバレーボール①（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，自己理解や他者理解について体験的に学ぶ.
6	ソフトバレーボール②（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，チームワークやコミュニケーションスキルについて，体験的に学ぶ
7	ヨーガ①（講義及び実技）	ヨーガの基本となる，呼吸法を学ぶ.
8	ヨーガ②（講義及び実技）	ヨーガの呼吸法，動きやポーズ，を学ぶ.
9	バトミントン①（講義及び実技）	バトミントンの基礎技術を学ぶ.
10	バトミントン②（講義及び実技）	基礎技術をもとに，ペアでミニゲームを実施する.
11	スポーツ心理学②（講義）	こころと身体の繋がりについて理解し，ストレスの身体面・心理面への影響について学ぶ.
12	ヨーガ③（講義及び実技）	呼吸と動作を合わせて動きながら，こころと身体の繋がりを体験的に理解する.
13	バスケットボール①（講義及び実技）	パス・シュート・ドリブルの基礎練習を行い，ミニゲームを実施する.
14	バスケットボール②（講義及び実技）	基礎練習後，実践形式のゲームを実施する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
運動習慣が少ない学生たちにとっては，週 1 回のスポーツ総合演習の授業が, 唯一身体を動かす時間になっており，自分の身体や心理面の状態を把握すること役立っているようであった.
学生が主体性をもって授業に取り組めるように，授業内容や進行を工夫するようにしています.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内　花恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
。この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可 能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対す る参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について，ガイダンスを通じて理解する.
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について，現状を理解し考察する.
3	スポーツ心理学①（講義）	スポーツにおける動機づけ，スポーツの楽しさにについて学ぶ.
4	メンタルトレーニング（講義）	メンタルトレーニングの中核となるリラクセーション技法について学ぶ.
5	ソフトバレーボール①（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，自己理解や他者理解について体験的に学ぶ.
6	ソフトバレーボール②（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，チームワークやコミュニケーションスキルについて，体験的に学ぶ
7	ヨーガ①（講義及び実技）	ヨーガの基本となる，呼吸法を学ぶ.
8	ヨーガ②（講義及び実技）	ヨーガの呼吸法，動きやポーズ，を学ぶ.
9	バトミントン①（講義及び実技）	バトミントンの基礎技術を学ぶ.
10	バトミントン②（講義及び実技）	基礎技術をもとに，ペアでミニゲームを実施する.
11	スポーツ心理学②（講義）	こころと身体の繋がりについて理解し，ストレスの身体面・心理面への影響について学ぶ.
12	ヨーガ③（講義及び実技）	呼吸と動作を合わせて動きながら，こころと身体の繋がりを体験的に理解する.
13	バスケットボール①（講義及び実技）	パス・シュート・ドリブルの基礎練習を行い，ミニゲームを実施する.
14	バスケットボール②（講義及び実技）	基礎練習後，実践形式のゲームを実施する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
運動習慣が少ない学生たちにとっては，週 1 回のスポーツ総合演習の授業が, 唯一身体を動かす時間になっており，自分の身体や心理面の状態を把握すること役立っているようであった.
学生が主体性をもって授業に取り組めるように，授業内容や進行を工夫するようにしています.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部　成雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	バドミントン (1)	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
4	バドミントン (2)	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
5	バスケットボール (1)	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
6	バスケットボール (2)	バスケットボールの戦術を学び、試合を行う。（講義及び実習）
7	コミュニケーション (1)	自己理解を深めるワークを実施し、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (1)	心身の健康と生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
9	卓球 (1)	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	心身の健康 (2)	ストレス、リラクセーションについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	卓球 (2)	卓球の戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
12	バレーボール	バレーボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)、授業まとめ	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。授業のまとめを行い、レポートを作成する。（講義）
14	ドッヂビー	ドッヂビーのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「毎回の授業で異なるメンバーと交流することで多くの新たな人間関係を気づくことができた」、「今まで少しマイナスなイメージのあった運動に対して好感を持てるようになった。運動へのハードルを下げられたことが 1 番の収穫だった」などの意見があった。授業内でのコミュニケーションやスポーツを楽しむことを大切にしながら授業を進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部　成雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	バドミントン (1)	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
4	バドミントン (2)	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
5	バスケットボール (1)	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
6	バスケットボール (2)	バスケットボールの戦術を学び、試合を行う。（講義及び実習）
7	コミュニケーション (1)	自己理解を深めるワークを実施し、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (1)	心身の健康と生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
9	卓球 (1)	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	心身の健康 (2)	ストレス、リラクセーションについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	卓球 (2)	卓球の戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
12	バレーボール	バレーボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)、授業まとめ	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。授業のまとめを行い、レポートを作成する。（講義）
14	ドッヂビー	ドッヂビーのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「毎回の授業で異なるメンバーと交流することで多くの新たな人間関係を気づくことができた」、「今まで少しマイナスなイメージのあった運動に対して好感を持てるようになった。運動へのハードルを下げられたことが 1 番の収穫だった」などの意見があった。授業内でのコミュニケーションやスポーツを楽しむことを大切にしながら授業を進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻　大士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
5	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
6	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
12	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
13	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況 60%、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻　大士

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
5	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
6	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
12	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
13	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況 60%、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内　花恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
。この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可 能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対す る参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について，ガイダンスを通じて理解する.
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について，現状を理解し考察する.
3	スポーツ心理学①（講義）	スポーツにおける動機づけ，スポーツの楽しさにについて学ぶ.
4	メンタルトレーニング（講義）	メンタルトレーニングの中核となるリラクセーション技法について学ぶ.
5	ソフトバレーボール①（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，自己理解や他者理解について体験的に学ぶ.
6	ソフトバレーボール②（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，チームワークやコミュニケーションスキルについて，体験的に学ぶ
7	ヨーガ①（講義及び実技）	ヨーガの基本となる，呼吸法を学ぶ.
8	ヨーガ②（講義及び実技）	ヨーガの呼吸法，動きやポーズ，を学ぶ.
9	バトミントン①（講義及び実技）	バトミントンの基礎技術を学ぶ.
10	バトミントン②（講義及び実技）	基礎技術をもとに，ペアでミニゲームを実施する.
11	スポーツ心理学②（講義）	こころと身体の繋がりについて理解し，ストレスの身体面・心理面への影響について学ぶ.
12	ヨーガ③（講義及び実技）	呼吸と動作を合わせて動きながら，こころと身体の繋がりを体験的に理解する.
13	バスケットボール①（講義及び実技）	パス・シュート・ドリブルの基礎練習を行い，ミニゲームを実施する.
14	バスケットボール②（講義及び実技）	基礎練習後，実践形式のゲームを実施する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
運動習慣が少ない学生たちにとっては，週 1 回のスポーツ総合演習の授業が, 唯一身体を動かす時間になっており，自分の身体や心理面の状態を把握すること役立っているようであった.
学生が主体性をもって授業に取り組めるように，授業内容や進行を工夫するようにしています.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内　花恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
。この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可 能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対す る参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。
授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に 対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について，ガイダンスを通じて理解する.
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について，現状を理解し考察する.
3	スポーツ心理学①（講義）	スポーツにおける動機づけ，スポーツの楽しさにについて学ぶ.
4	メンタルトレーニング（講義）	メンタルトレーニングの中核となるリラクセーション技法について学ぶ.
5	ソフトバレーボール①（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，自己理解や他者理解について体験的に学ぶ.
6	ソフトバレーボール②（講義及び実技）	ソフトバレーボールを実施し，チームワークやコミュニケーションスキルについて，体験的に学ぶ
7	ヨーガ①（講義及び実技）	ヨーガの基本となる，呼吸法を学ぶ.
8	ヨーガ②（講義及び実技）	ヨーガの呼吸法，動きやポーズ，を学ぶ.
9	バトミントン①（講義及び実技）	バトミントンの基礎技術を学ぶ.
10	バトミントン②（講義及び実技）	基礎技術をもとに，ペアでミニゲームを実施する.
11	スポーツ心理学②（講義）	こころと身体の繋がりについて理解し，ストレスの身体面・心理面への影響について学ぶ.
12	ヨーガ③（講義及び実技）	呼吸と動作を合わせて動きながら，こころと身体の繋がりを体験的に理解する.
13	バスケットボール①（講義及び実技）	パス・シュート・ドリブルの基礎練習を行い，ミニゲームを実施する.
14	バスケットボール②（講義及び実技）	基礎練習後，実践形式のゲームを実施する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
運動習慣が少ない学生たちにとっては，週 1 回のスポーツ総合演習の授業が, 唯一身体を動かす時間になっており，自分の身体や心理面の状態を把握すること役立っているようであった.
学生が主体性をもって授業に取り組めるように，授業内容や進行を工夫するようにしています.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

萩原　正大

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
第 2 回	体力測定（講義及び実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
第 3 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
第 4 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を応用して、実践する。
第 5 回	スポーツ科学を学ぶ①（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（身体の構造・仕組み・動き等）を学び、意見交換を行う。
第 6 回	スポーツ科学を学ぶ②（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（トレーニング・コンディショニング等）を学び、意見交換を行う。
第 7 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。
第 8 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を応用して、実践する。
第 9 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を学び、実践する。
第 10 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を応用して、実践する。
第 11 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。
第 12 回	スポーツ科学を学ぶ③（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（支える者の視点）を学び、意見交換を行う。
第 13 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を応用して、実践する。
第 14 回	ボッチャを学ぶ（講義及び実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度の授業より新規担当のため昨年度の状況をフィードバックできないが、必要に応じて受講者からの意見や要望を踏まえて授業の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
体調不良、怪我などの理由で授業に参加できない場合は、担当教員に報告・相談すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

萩原　正大

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
第 2 回	体力測定（講義及び実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
第 3 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
第 4 回	卓球を学ぶ（講義及び実習）	卓球のルールや技術を応用して、実践する。
第 5 回	スポーツ科学を学ぶ①（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（身体の構造・仕組み・動き等）を学び、意見交換を行う。
第 6 回	スポーツ科学を学ぶ②（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（トレーニング・コンディショニング等）を学び、意見交換を行う。
第 7 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。
第 8 回	バスケットボールを学ぶ（講義及び実習）	バスケットボールのルールや技術を応用して、実践する。
第 9 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を学び、実践する。
第 10 回	フットサルを学ぶ（講義及び実習）	フットサルのルールや技術を応用して、実践する。
第 11 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。
第 12 回	スポーツ科学を学ぶ③（講義及び実習）	スポーツ科学の基礎知識（支える者の視点）を学び、意見交換を行う。
第 13 回	バドミントンを学ぶ（講義及び実習）	バドミントンのルールや技術を応用して、実践する。
第 14 回	ボッチャを学ぶ（講義及び実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度の授業より新規担当のため昨年度の状況をフィードバックできないが、必要に応じて受講者からの意見や要望を踏まえて授業の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
体調不良、怪我などの理由で授業に参加できない場合は、担当教員に報告・相談すること。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部　成雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	バドミントン (1)	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
4	バドミントン (2)	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
5	バスケットボール (1)	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
6	バスケットボール (2)	バスケットボールの戦術を学び、試合を行う。（講義及び実習）
7	コミュニケーション (1)	自己理解を深めるワークを実施し、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (1)	心身の健康と生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
9	卓球 (1)	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	心身の健康 (2)	ストレス、リラクセーションについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	卓球 (2)	卓球の戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
12	バレーボール	バレーボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)、授業まとめ	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。授業のまとめを行い、レポートを作成する。（講義）
14	ドッヂビー	ドッヂビーのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「毎回の授業で異なるメンバーと交流することで多くの新たな人間関係を気づくことができた」、「今まで少しマイナスなイメージのあった運動に対して好感を持てるようになった。運動へのハードルを下げられたことが 1 番の収穫だった」などの意見があった。授業内でのコミュニケーションやスポーツを楽しむことを大切にしながら授業を進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部　成雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	バドミントン (1)	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
4	バドミントン (2)	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
5	バスケットボール (1)	バスケットボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
6	バスケットボール (2)	バスケットボールの戦術を学び、試合を行う。（講義及び実習）
7	コミュニケーション (1)	自己理解を深めるワークを実施し、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (1)	心身の健康と生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
9	卓球 (1)	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	心身の健康 (2)	ストレス、リラクセーションについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	卓球 (2)	卓球の戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
12	バレーボール	バレーボールのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)、授業まとめ	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。授業のまとめを行い、レポートを作成する。（講義）
14	ドッヂビー	ドッヂビーのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「毎回の授業で異なるメンバーと交流することで多くの新たな人間関係を気づくことができた」、「今まで少しマイナスなイメージのあった運動に対して好感を持てるようになった。運動へのハードルを下げられたことが 1 番の収穫だった」などの意見があった。授業内でのコミュニケーションやスポーツを楽しむことを大切にしながら授業を進めていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】
毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻　大士

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
5	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
6	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
12	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
13	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況 60%、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻　大士

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
5	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
6	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
8	フラッグフットボールを学ぶ	フラッグフットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
12	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
13	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係を学ぶ（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況 60%、2）課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

林　容市

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講されます。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。
スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明します。
2022 年度は，3 週目以降は「実技」と「講義」を対面で実践していく予定ですが，状況に応じてオンラインでの講義を含める可能性があります。
なお，前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス，授業概要の説明（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第 3 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	卓球の技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 4 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	卓球のゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 5 回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し，自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）
第 6 回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解（講義および演習）
第 7 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（1）	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第 8 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（2）	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 9 回	ニュースポーツを学ぶ（1）	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 10 回	ニュースポーツを学ぶ（2）	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 11 回	ニュースポーツを学ぶ（3）	ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 12 回	運動習慣の確立に関係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討（講義および演習）
第 13 回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第 14 回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解，および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては，授業での身体活動時に心身の不備が無いよう，各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。
また，次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は，各授業における教員からの指示に従って実践を求めますが，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業において直接配布します。

【参考書】
必要・希望に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%，2）課題・レポート 40%，の配分で総合評価します。
この成績評価法は原則的なものであり，病弱者，特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては，個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度は，ほぼ全ての実技回を対面で行うことができ，受講生の様子や会話した内容から，非常に充実した活動ができたように感じています。学生間のコミュニケーションもうまく図れたと思います。次年度は，演習を効果的に実施し，本授業の到達目標の②と③を重視した授業の実践を目指したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
実技を行う回は，スポーツ・身体活動を行うのに適した服装・室内シューズで参加することを出席の条件とします。身体活動が「可能」な服装ではなく，「適した」服装であることが求められますので注意してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

林　容市

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通じて，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講されます。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。
スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明します。
2022 年度は，3 週目以降は「実技」と「講義」を対面で実践していく予定ですが，状況に応じてオンラインでの講義を含める可能性があります。
なお，前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス，授業概要の説明（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第 3 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	卓球の技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 4 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	卓球のゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 5 回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し，自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）
第 6 回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解（講義および演習）
第 7 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（1）	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第 8 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（2）	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 9 回	ニュースポーツを学ぶ（1）	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 10 回	ニュースポーツを学ぶ（2）	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 11 回	ニュースポーツを学ぶ（3）	ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 12 回	運動習慣の確立に関係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討（講義および演習）
第 13 回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第 14 回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解，および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては，授業での身体活動時に心身の不備が無いよう，各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。
また，次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は，各授業における教員からの指示に従って実践を求めますが，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業において直接配布します。

【参考書】
必要・希望に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%，2）課題・レポート 40%，の配分で総合評価します。
この成績評価法は原則的なものであり，病弱者，特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては，個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度は，ほぼ全ての実技回を対面で行うことができ，受講生の様子や会話した内容から，非常に充実した活動ができたように感じています。学生間のコミュニケーションもうまく図れたと思います。次年度は，演習を効果的に実施し，本授業の到達目標の②と③を重視した授業の実践を目指したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
実技を行う回は，スポーツ・身体活動を行うのに適した服装・室内シューズで参加することを出席の条件とします。身体活動が「可能」な服装ではなく，「適した」服装であることが求められますので注意してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山本　幸紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。 この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。 スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義)	授業内容について，ガイダンスを通じて理解する.
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について，現状を理解し考察する.
3	スポーツから見るデータ（講義）	スポーツに関する情報分析や戦略について学ぶ.
4	健康を考える 1（講義）	健康の維持増進に関連する運動の影響について学ぶ.
5	バスケットボールを学ぶ（講義および実習）	バスケットボールのルールや技術を学び習得する.
6	アルティメットを学ぶ（講義および実習）	アルティメットのルールや技術を学び習得する.
7	柔道 1 を学ぶ（講義および実習）	柔道の礼法を学び武道を体験する.（柔道衣は着用しない）
8	柔道 2 を学ぶ（講義および実習）	柔道のルールを学び実践する.（柔道衣は着用しない）
9	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び習得する.
10	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び習得する.
11	健康を考える 2（講義）	健康の維持増進に寄与する身体活動について学ぶ.
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び習得する.
13	バトミントンを学ぶ（講義および実習）	バトミントンのルールや技術を学び習得する.
14	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	バレーボールのルールや技術を学び習得する.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。こ の成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training. Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on two points. (1) Participation in class activities and class attitude: 40%. (2) Report on the lecture: 60%. This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井　弘和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	アルティメットを学ぶ（講義および実習）	アルティメットのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	スクエアステップを学ぶ（講義および実習）	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する。
6	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
7	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
8	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
9	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
11	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、技術を実践する。
14	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「体育が元々苦手だったんですけど苦手なりにみんなと楽しくできたので良かったです。動く活動だけでなく座学もたくさんできたので楽しかったです」「中高の体育は嫌いだったけどこの授業はとても楽しかったです」「毎回グループを決めて多くの人と一緒にプレーできたり、さまざまな種類のスポーツをすることができたので、とても楽しんで授業を受けられました」「高校のような競技での技術を競うのではなく､スポーツを楽しむ､同じ学科の生徒と交流するという点が重視されていてとてもよかった」などの意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井　弘和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	スクエアステップを学ぶ（講義および実習）	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	アルティメットを学ぶ（講義および実習）	アルティメットのルールや技術を学び、技術を実践する。
6	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する。
7	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
8	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
9	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
14	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、技術を実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「体育が元々苦手だったんですけど苦手なりにみんなと楽しくできたので良かったです。動く活動だけでなく座学もたくさんできたので楽しかったです」「中高の体育は嫌いだったけどこの授業はとても楽しかったです」「毎回グループを決めて多くの人と一緒にプレーできたり、さまざまな種類のスポーツをすることができたので、とても楽しんで授業を受けられました」「高校のような競技での技術を競うのではなく､スポーツを楽しむ､同じ学科の生徒と交流するという点が重視されていてとてもよかった」などの意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位髙　駿夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
6	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
7	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバックを行う。
8	運動の必要性について（講義）	一生涯運動の実施が必要な理由に関する講義
9	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
10	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）
11	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	スポーツ健康科学総論（講義）	実習してきたスポーツを振り返り、運動の必要性などについてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目のルールや試合動画などから競技を理解してから実技しているので、倍の楽しみを感じています。1 年生は友達も少ないので、それぞれがコミュニケーションを取り人間関係を広げていくことで、授業の楽しさや環境もよくなっていきますので、工夫して取り組みます。
また、実際に体を動かすだけでなく、健康スポーツ科学の知識（運動・ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学び、体力の向上・健康増進を理解した生活を送っていくことで日常生活の変革も狙っていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位髙　駿夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
6	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
7	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバックを行う。
8	運動の必要性について（講義）	一生涯運動の実施が必要な理由に関する講義
9	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
10	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）
11	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	スポーツ健康科学総論（講義）	実習してきたスポーツを振り返り、運動の必要性などについてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目のルールや試合動画などから競技を理解してから実技しているので、倍の楽しみを感じています。 1 年生は友達も少ないので、それぞれがコミュニケーションを取り人間関係を広げていくことで、授業の楽しさや環境もよくなっていきますので、工夫して取り組みます。
また、実際に体を動かすだけでなく、健康スポーツ科学の知識（運動・ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学び、体力の向上・健康増進を理解した生活を送っていくことで日常生活の変革も狙っていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4 月 12 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
9 月 20 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム、使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義、及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方についての講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技（バドミントン）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性について講義及ソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動 (特に有酸素運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と栄養、休養について」	健康と栄養・睡眠についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング、及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括	授業の総括 熱中症対策 レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下の事を行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実践
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方について講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技 (バドミントン)	エネルギー（栄養・水分) 補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動（特に有酸素性運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と休養・栄養について」	健康と休養・栄養についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括及	授業の総括 ダイエットについて レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下のことを行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
4	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
4	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム、使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義、及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方についての講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技（バドミントン）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性について講義及ソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動 (特に有酸素運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と栄養、休養について」	健康と栄養・睡眠についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング、及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括	授業の総括 熱中症対策 レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下の事を行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実践
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方について講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技 (バドミントン)	エネルギー（栄養・水分) 補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動（特に有酸素性運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と休養・栄養について」	健康と休養・栄養についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括及	授業の総括 ダイエットについて レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下のことを行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4 月 12 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
9 月 20 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位髙　駿夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
6	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
7	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバックを行う。
8	運動の必要性について（講義）	一生涯運動の実施が必要な理由に関する講義
9	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
10	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）
11	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	スポーツ健康科学総論（講義）	実習してきたスポーツを振り返り、運動の必要性などについてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目のルールや試合動画などから競技を理解してから実技しているので、倍の楽しみを感じています。 1 年生は友達も少ないので、それぞれがコミュニケーションを取り人間関係を広げていくことで、授業の楽しさや環境もよくなっていきますので、工夫して取り組みます。
また、実際に体を動かすだけでなく、健康スポーツ科学の知識（運動・ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学び、体力の向上・健康増進を理解した生活を送っていくことで日常生活の変革も狙っていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位髙　駿夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
6	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
7	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバックを行う。
8	運動の必要性について（講義）	一生涯運動の実施が必要な理由に関する講義
9	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
10	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）	ボッチャの応用及び実践（実習＆講義）
11	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	アルティメットの基本及び実践（実習＆講義）	アルティメットの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	スポーツ健康科学総論（講義）	実習してきたスポーツを振り返り、運動の必要性などについてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各種目のルールや試合動画などから競技を理解してから実技しているので、倍の楽しみを感じています。 1 年生は友達も少ないので、それぞれがコミュニケーションを取り人間関係を広げていくことで、授業の楽しさや環境もよくなっていきますので、工夫して取り組みます。
また、実際に体を動かすだけでなく、健康スポーツ科学の知識（運動・ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学び、体力の向上・健康増進を理解した生活を送っていくことで日常生活の変革も狙っていきます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
4	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定のフィードバック。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田　康伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。
なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	体力測定（実習＆講義）	体力測定の意義、内容及び手段を理解し、実践する。
3	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
4	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
5	トレーニング演習（実習＆講義）	トレーニングの理論と実践方法及び体力測定結果のフィードバック。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
10	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
11	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
12	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
13	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後に各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】
【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム、使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義、及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方についての講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技（バドミントン）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性について講義及ソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動 (特に有酸素運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と栄養、休養について」	健康と栄養・睡眠についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング、及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括	授業の総括 熱中症対策 レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下の事を行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井　淳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実践
第 3 回	講義及び実技「トレーニングルーム使用についての講習」	トレーニングルーム使用についての講義及びトレーニングの実践
第 4 回	講義「体力について」	体力の捉え方について講義 体力測定結果のフィードバック
第 5 回	講義及び実技（卓球）	ウオーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 6 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 7 回	講義及び実技 (バドミントン)	エネルギー（栄養・水分) 補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 8 回	講義及び実技（フライングディスク）	チームワークの重要性についての講義及びフライングディスクの実践
第 9 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	コミュニケーションの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 10 回	講義及び実技（バスケットボール）	運動の効果についての講義及びバスケットボールの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動（特に有酸素性運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義「健康と休養・栄養について」	健康と休養・栄養についての講義
第 13 回	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 14 回	授業の総括及	授業の総括 ダイエットについて レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。
教員の指示に従って以下のことを行うこと
１）次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
２）日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
３）自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況６０％
２）課題・レポート４０％の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し実践する（講義及び実習）
3	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 1	ユニホックを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 3	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
8	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	卓球を通じた相互理解の促進（講義および実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 3/Wed.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	体力測定	体力測定の意義、内容及び手段を理解し実践する（講義及び実習）
3	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 1	ユニホックを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
5	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 3	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
8	健康を考える 1	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	卓球を通じた相互理解の促進（講義および実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 2	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
4 月 12 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保　賢師

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
9 月 20 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週１回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
最終授業で、１３回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 教室	授業内容について説明する
第 2 回	体力測定（実習＆講義） 体育館	体力測定の意義、内容及び手段を理解する
第 3 回	実習＆講義及びバレーボール 体育館	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	実習＆講義及びバレーボールの応用 体育館	バレーボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 5 回	講実習＆義及びフットサル 体育館	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	実習＆講義及びフットサルの応用 体育館	フットサルの応用技術の習得及びゲームの実践
第 7 回	実習＆講義及びバスケットボール 体育館	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについ説明する
第 8 回	実習＆講義及びバスケットボールの応用 体育館	バスケットボールの応用技術の習得及びゲームの実践
第 9 回	講義＆実習＆トレーニング 体育館（トレーニング室）	トレーニング室の利用と器具について説明する
第 10 回	実習＆講義＆トレーニングの実践 体育館（トレーニング室）	トレーニングの実践
第 11 回	実習＆講義及び卓球 体育館	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 12 回	実習＆講義及び卓球の応用 体育館	卓球の基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践
第 13 回	講義及びバドミントン実習＆体育館	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 14 回	講義及びホッケー 体育館 まとめ	ホッケーの基本技術の応用技術の習得及びゲームの実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。
準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】
授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況（６０％）、レポート及び課題（４０％）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】
授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１Ｆ（会議室）、３Ｆ（柔道場）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川　洸輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・柳川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・柳川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川　洸輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・柳川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・柳川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バスケットボールコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バドミントンコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１**F**（会議室）、３**F**（柔道場）、B １**F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１**F**（会議室）、B １**F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ **F**（会議室）、３ **F**（柔道場）、B １ **F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ **F**（会議室）、B １ **F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１Ｆ（会議室）、３Ｆ（柔道場）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川　洸輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・柳川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・柳川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川　洸輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・柳川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・柳川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１**F**（会議室）、３**F**（柔道場）、B １**F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１**F**（会議室）、B １**F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ **F**（会議室）、３ **F**（柔道場）、B １ **F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ **F**（会議室）、B １ **F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バスケットボールコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バドミントンコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１**F**（会議室）、３**F**（柔道場）、B １**F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１**F**（会議室）、B １**F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１Ｆ（会議室）、３Ｆ（柔道場）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤　マモル

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ） ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
13	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

上岡　尚代

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・柳川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・柳川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー

7	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
8	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
11	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
12	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１ F（会議室）、３ F（柔道場）、B １ F（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１ F（会議室）、B １ F（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

藤岡　成美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10）ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ F（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ F（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ F（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バスケットボールコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ F（柔道場・空手場）、４ F（卓球場）、５ F（バドミントンコート） ①３ F ：ボッチャ（柔道場） ②３ F ：ユニホック（空手場） ③４ F ：卓球 ④５ F ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
6	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー
7	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー

8	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１Ｆ（会議室）、３Ｆ（柔道場）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
9	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１Ｆ（会議室）、Ｂ１Ｆ（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
10	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策:健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
13	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール２）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】
１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。
２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好　英次

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
この授業の到達目標は、我が国のスポーツ政策を深めた上で、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。
以下は、各分野における授業の到達目標です。
－具体的な授業の到達目標－
１．ガイダンスおよび共通授業：伊藤・藤岡・上岡・三好・栁川
01）授業の進め方を理解する
02）健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
03）体力測定およびコンディションの変化を考察できる
04）積極的にコミュニケーションできる
２．スポーツと体力Ａ（動的機能の向上…トレーニング方法）：伊藤・栁川
05）トレーニングセンターを適切に利用できる
06）安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
３．スポーツと健康：（上岡）
07）スポーツ障害予防の観点から性差、若年期と老年期に必要な体力について理解する
08）生活習慣病予防の観点から栄養・食事や運動について理解する
09）スポーツ活動中の感染症リスクを述べられる
10) ストレスの影響とストレスマネジメントについて理解する
４．スポーツと体力Ｂ（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好
11）立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する
12）骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める
13）自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する
５．スポーツと政策：藤岡
14) 国のスポーツ政策や関連する法・計画を理解する
15) 国や自治体のスポーツ政策に関わる組織や業務内容を理解する
16) 政策プロセスに関するワークを通じ、政策を進める上でのポイントを理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
詳細は第１回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。
授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。
課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよびグループワーク（オンラインによる事前ガイダンスを含む）	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④グループワーク（人生におけるスポーツの意義を考え、健康の保持増進に関する自己到達目標を設定する） ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
2	ウォームアップおよび身体組成測定	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（上体おこし） ③ストレッチング ④身体活動によるアイスブレーキング ⑤クラス別ホームルーム（スポーツ交流会の役員選抜） ⑥リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
3	体力測定およびホームルーム	教場：３ **F**（柔道場・空手場） ①握力、垂直跳び、反復横跳び ②クラス別ホームルーム（スポーツ交流会のグループ分け、ルールの確認） ③リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用）
4	スポーツ交流会Ⅰ（含：スポーツ外傷対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バスケットボールコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バスケットボール ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
5	スポーツ交流会Ⅱ（含：筋肉痛対策）	教場：３ **F**（柔道場・空手場）、４ **F**（卓球場）、５ **F**（バドミントンコート） ①３ **F** ：ボッチャ（柔道場） ②３ **F** ：ユニホック（空手場） ③４ **F** ：卓球 ④５ **F** ：バドミントン ⑤リアクションペーパーおよびアンケート（Google Forms 利用
6	スポーツと体力ＢⅠ（立位姿勢の構造と分析）	教場：ガイダンスで指示する ①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパー
7	スポーツと体力ＢⅡ（姿勢のセルフコントロール）	教場：ガイダンスで指示する ①実習：動作課題１（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと政策Ⅰ	教場：ガイダンスで指示する ①スポーツ基本法・基本計画、行政機構 ②スポーツ実施状況とその環境、ワーク ③リアクションペーパー

9	スポーツと政策Ⅱ	教場：ガイダンスで指示する ①自治体のスポーツ行政 ②スポーツ行政に関するワーク ③リアクションペーパー
10	スポーツと体力ＡⅠ（トレーニングの基礎理論）	教場：１**F**（会議室）、３**F**（柔道場）、B １**F**（トレーニングセンター） ①筋力トレーニングの効果 ②トレーニング・マシンの安全な使用方法と実践（12～15 ＲＭ）⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
11	スポーツと体力ＡⅡ（トレーニングマシンの効果的な実践）	教場：１**F**（会議室）、B １**F**（トレーニングセンター） ①目的別トレーニングの負荷設定 ②筋力トレーニングの実践 ⇒ 記録提出 ③授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
12	スポーツと健康Ⅰ（スポーツ障害の特徴と予防）	教場：ガイダンスで指示する ① スポーツ障害のメカニズム ②体力における性差 ③若年期に多いスポーツ障害と予防 ④老年期に多いスポーツ障害と予防 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
13	スポーツと健康Ⅱ（生活習慣病予防と感染症対策）	教場：ガイダンスで指示する ①生活習慣病の原因と対策：基礎代謝と体脂肪量（るい痩と肥満） ②睡眠・食事・運動による対策（特に市実践的な食事の見直し） ③スポーツ活動中の感染症（含：性病） ④ストレスの原因と対策：健康との関連性 ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）とリアクションペーパー
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

１．各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**（アンケートを含む場合がある）が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。

２．各自の**コンディションを日常的に記録**し、リポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。

３．**スポーツと体力ＡⅠ・体力ＡⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用のためのルール、②更衣室利用のためのルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、リポートを提出してください。

４．**スポーツと健康**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのリポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。

５．なお、以上１～４を含む本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村愼一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミィ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『最新版・基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

１．最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。

２．その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。

３．授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。

４．成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。

５．期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。

６．期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。

７．期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

８．本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、対面授業とオンライン授業を重ね合わせました。これらの授業を履修した法学部生の意見をグループワークによるモニタリングやアンケートによって把握しました。その結果、授業に対する満足度は低いものではありませんでしたが、身体をもっと動かすための実習・実技を増やしてほしいという要望が少なからず認められました。その一方で、学習効率や習熟度が高まるなどのオンライン授業を支持する意見も多く寄せられました。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえると考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目に参加すればよいだとか、出席だけしていれば単位が出るとの誤解を払拭し、皆さんの将来の健康づくりに深く関わるテーマを提示することで、自らの健康づくりに継続して取り組むための新たな素地を提供し、皆さんの教養を高めることを目指します。

2023 年度は、Covid-19 の影響により低迷した学生間のコミュニケーションを促し、交流を深めるための授業運営を計画（グループワークやスポーツ交流会等）しました。今年度は、その学習成果がその後の大学生活にどのような影響を及ぼしたのかについても検証し、皆さんにフィードバックする予定です。

【学生が準備すべき機器他】

１．オンライン授業を実施する場合があることを想定し、授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイスを各自で準備してください。

２．以下の①～③に示した**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリ等を準備してください（詳細はオンラインガイダンスで説明します）。
①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など

【その他の重要事項】
本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期**と**時間割**を必ず確認して下さい。
１．授業内容やその進め方などに関する詳細は、**１回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
２．ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
３．対面授業にあたっては、最低でも１週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
４．授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
５．なお、本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:
Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.
In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.
【Learning Objectives】
The aim of this course is to deepen the sports policy in our country and to analyse the students' physical fitness, training, posture, movement, body composition, ageing, lifestyle-related diseases, nutrition and diet so that they can change their behaviour to improve their health in the future.
The following are the objectives of the classes in each field.
1. Guidance and common classes
(01) Understand how to proceed with the class
(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
(04) Able to communicate proactively.
2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
(05) To be able to use a training center appropriately
(06) Effective training machines
3. Sports and Health
07) Understand gender differences and the physical fitness required in young and old age from the perspective of preventing sports injuries
08) Understand nutrition, diet and exercise from the perspective of lifestyle-related disease prevention
09) Describe the risks of infectious diseases during sports activities
10) Understand the effects of stress and stress management
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture
(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders
(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health
5. sport and policy
14) Understand national sports policy and related legislation and plans
15) Understand the organisations and tasks involved in national and municipal sports policy
16) Understand the key points in advancing policy through work on the policy process
【Learning activities outside of classroom】
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in
class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 1**/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
3	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
4	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣　和希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 7 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

前原　千佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	リラクセーション法	ストレス対処の重要性とその具体的な方法の理解と実践（講義）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 7 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.
2.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で，13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等，課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明，プレゼンテーション（1 回目）の実施（講義）
2	ウォームアップ	効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
6	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
7	トレーニング演習	トレーニング施設利用に関する安全講習（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と方法	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ (講義)
9	健康とトレーニング 1	トレーニング記録の収集（講義及び実習）
10	健康とトレーニング 2	トレーニング記録の分析と振り返り（講義及び実習）
11	健康とトレーニング 3	正しい身体機能を知る事により「QOL 向上」を行う（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進、プレゼンテーション（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %
2）課題レポート 40 %
の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Participation status for activities during class/reaction paper 60%,
2) Assignments/reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

【学生の意見等からの気づき】
今年度から新規着任したため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training. Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on two points. (1) Participation in class activities and class attitude: 40%. (2) Report on the lecture: 60%. This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

武井　敦彦

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.
2.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で，13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等，課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明，プレゼンテーション（1 回目）の実施（講義）
2	ウォームアップ	効果的なウォームアップの理論と方法を学ぶ (講義及び実習)
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
6	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
7	トレーニング演習	トレーニング施設利用に関する安全講習（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と方法	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ (講義)
9	健康とトレーニング 1	トレーニング記録の収集（講義及び実習）
10	健康とトレーニング 2	トレーニング記録の分析と振り返り（講義及び実習）
11	健康とトレーニング 3	正しい身体機能を知る事により「QOL 向上」を行う（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進、プレゼンテーション（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
2）課題レポート 40 %
の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Participation status for activities during class/reaction paper 60%,
2) Assignments/reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

【学生の意見等からの気づき】
今年度から新規着任したため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明およびプレゼンテーションを実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training. Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be based on two points. (1) Participation in class activities and class attitude: 40%. (2) Report on the lecture: 60%. This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
3	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
4	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣　和希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 7 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

前原　千佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	リラクセーション法	ストレス対処の重要性とその具体的な方法の理解と実践（講義）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 7 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお，最終授業で，13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等，課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明，社会的スキル診断検査（1 回目）の実施（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
6	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
7	トレーニング演習	トレーニング施設利用に関する安全講習（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と方法	効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ（講義）
9	健康とトレーニング 1	トレーニング記録の収集（講義及び実習）
10	健康とトレーニング 2	トレーニング記録の分析と振り返り（講義及び実習）
11	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
12	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進，社会的スキル診断検査（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ，課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため，日々の身体活動に費やした時間，食事，睡眠時間などを記録し，その内容を振り返り，その効果と今後の課題を記録してください。また，テレビ，新聞，Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により，本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %，2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお，この成績評価方法は原則的なものであり，通常の活動が困難な受講者に対しては，個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは，授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では，授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から，多様な体験型実習やグループワークを取り入れ，より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため，必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし，感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため，学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は，感染症の拡大状況，受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では，社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

2.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Participation status for activities during class / reaction paper 60%,
2) assignments / reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

中澤　史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお，最終授業で，13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等，課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明，社会的スキル診断検査（1 回目）の実施（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
6	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
7	トレーニング演習	トレーニング施設利用に関する安全講習（講義及び実習）
8	トレーニングの理論と方法	トレーニングの理論と方法　効果的なトレーニングの理論と方法を学ぶ（講義）
9	健康とトレーニング 1	トレーニング記録の収集（講義及び実習）
10	健康とトレーニング 2	トレーニング記録の分析と振り返り（講義及び実習）
11	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
12	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進，社会的スキル診断検査（2 回目）の実施（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ，課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため，日々の身体活動に費やした時間，食事，睡眠時間などを記録し，その内容を振り返り，その効果と今後の課題を記録してください。また，テレビ，新聞，Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により，本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %，2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお，この成績評価方法は原則的なものであり，通常の活動が困難な受講者に対しては，個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは，単に出席していることを意味するのではなく，ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは，授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では，授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から，多様な体験型実習やグループワークを取り入れ，より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため，必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし，感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため，学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は，感染症の拡大状況，受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では，社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告，連絡，相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
1.Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

2.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).
【Learning activities outside of classroom】
The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
1) Participation status for activities during class / reaction paper 60%,
2) assignments / reports 40%.
In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細についてはガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣　和希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 7 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

前原　千佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（１回目）の実施（講義）
第 2 回	リラクセーション法	ストレス対処の重要性とその具体的な方法の理解と実践（講義）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	個人スポーツ（１）	卓球を通した相手と対戦する「楽しさ」の実感とその注意点の理解（講義及び実技）
第 7 回	集団スポーツ（１）	バレーボールを通したスポーツを仲間と「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 8 回	個人スポーツ（２）	バドミントンを通した上達のための問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 9 回	個人スポーツ（３）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 10 回	集団スポーツ（２）	バレーボールを通したメンバーとの相互理解の促進（講義及び実技）
第 11 回	集団スポーツ（３）	バレーボールを通したリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 12 回	集団スポーツ（４）	バレーボールの試合運営を通したマネジメント能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	健康行動計画の立案	大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。Will-being およびコンピテンシー診断検査（２回目）の実施（講義）
第 14 回	授業の総括と生涯スポーツ	本授業での学びを総括するとともに、生涯にわたるスポーツとの関わりを考える（講義及び実技）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山　雅洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については，各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
3	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
4	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
8	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
9	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた新規的人間関係の構築（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 5	卓球を通じた相互理解の促進（講義及び実習）
12	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）
13	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
14	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準
1）授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、2）課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

朝比奈　茂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 6**/Mon.6
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で、法学部以外の学部再履修生および社会人（RSP 含む）学生を対象に行う。１回～７回を市ヶ谷キャンパスで開講し、８回～１４回をサマーセッション期間中に、多摩キャンパスにおいて、２日間連続で行う。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。
授業はスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験およびレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
本講義の詳細については、各学部のガイダンスおよび再履修者ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 （講義および実習）	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 （講義）	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康に及ぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	トレーニング演習 （講義および実習）	トレーニング理論および実践方法を理解し、実際に機器を使ってトレーニングを行う。また、自重を用いたトレーニング方法を習得する。
5	ヨガと瞑想 （講義および実習）	ヨガについて概説し、基本のポーズについて、筋肉の解剖を理解しながら実践する。同時に、呼吸法について、その効果と方法を理解し、実践することで瞑想状態を体験する。
6	スポーツ傷害と応急処置 （講義および実習）	スポーツ傷害について、発生要因とその応急処置を説明する。 特に冷却療法（アイシング）について説明し、実践する。
7	スポーツ・ウォーキング （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングにの身体へ及ぼす影響を理解し、基本的なウォーキング技術を習得しながら、皇居周辺を実践する。
8	スポーツ・ウォーキング （講義および実習）	スポーツ・ウォーキングを行いながら、多摩キャンパスの各学部棟を巡る。学部棟で行う階段の昇降は自足で行うこととする。スポーツ・ウォーキングを通じて、多摩キャンパスの自然を堪能する。
9	食事と健康 （講義）	栄養素と身体活動との関係を理解し、多摩キャンパス内の食堂でバランスの取れた食事を摂取する。
10	ラケットスポーツ（卓球） （講義および実習）	ラケットスポーツの一つである卓球を取り上げ、ルールの理解、基本技術の習得、ゲーム運営について実践と講義を交えて理解する。
11	ウォーミングアップとクーリングダウン （講義および実習）	ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について説明する。特にストレッチの種類、正確な行い方については実践を通じて習得する。
12	トレッキングの基礎知識と自然環境 （講義および実習）	トレッキングの基礎知識を概説し、多摩キャンパス近くにある高尾山でトレッキングを体験する。 高尾山の自然環境を体感することで、環境問題を意識し、その対策などを確認しながら、トレッキングを実践する。
13	トレッキングと健康 （講義および実習）	トレッキングが身体の諸器官に与える影響について説明する。 また適切な水分摂取の方法や身体ケアの方法について習得する。 総括として、自然活動のマナーやルールについて学生同士話し合いを行う。
14	まとめ （講義）	授業全体を通じて、学んだこと、感じたことを振り返り、身体活動の意義や役割について、学生同士意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
１）授業中の活動に対する参画状況８０％、２）課題・レポート２０％の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントをを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】
授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日１６時５０分～１８時３０分の１００分を設ける。
形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course will conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.
Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, social health necessary throughout the students' future of life.
Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care , and to develop attitudes for that.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】
Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
The overall evaluation will be based on the following distribution.
1) Participation in class activities (not attendance) : 80%
2) Assignments and reports : 20%
This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内　洋輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 6/Mon.6
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で
きる学生が受講することが望ましい。
コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更
になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を
するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は必修科目で，原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	バスケットボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
8	個人スポーツを学ぶ 1	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
10	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 4	バドミントンを通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内　洋輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で
きる学生が受講することが望ましい。
コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更
になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を
するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内　洋輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で
きる学生が受講することが望ましい。
コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更
になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を
するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井　弘和

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。
本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。
本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
7	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「学生の目の高さに下りて授業を進めてくれた」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】
アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。
1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5.「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6.「再履修」としての履修は認める。
なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline (in English)】
Please note that this class is a special course called an adapted course.

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井　弘和

開講時期：**春学期集中**/Intensive(Spring)　｜　曜日・時限：**集中・その他**/intensive・other courses
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。
本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。
本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
7	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「学生の目の高さに下りて授業を進めてくれた」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】
アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。
1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5.「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6.「再履修」としての履修は認める。
なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline (in English)】
Please note that this class is a special course called an adapted course.

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.
Students are expected to be in good physical condition before attending the class so that they will not have any physical or mental problems during the physical activities in the class. In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Grading will be based on two points.
(1) Participation in class activities and class attitude: 40%.
(2) Report on the lecture: 60%.
This grading method is a general rule, and students who are sick or weak, observers, or have special physical reasons that make normal activities difficult will be evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習Ｓ

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
3	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
4	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	ユニホックを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
8	スポーツと人間心理	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
9	集団スポーツを学ぶ 3	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 4	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および最終レポートに取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を行うため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習Ｓ

2017 年度以降入学者

佐藤　優希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め，生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で，極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して，リーダーシップの発揮，問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は選択科目で，週 1 回，半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され，授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え，試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
3	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
4	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	集団スポーツを学ぶ 2	ユニホックを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
8	スポーツと人間心理	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
9	集団スポーツを学ぶ 3	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 4	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および最終レポートに取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】
特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】
授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】
1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】
スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】
1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を行うため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内　洋輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で
きる学生が受講することが望ましい。
コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更
になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を
するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内　洋輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**2 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】
①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。
授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で
きる学生が受講することが望ましい。
コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。
その他、スポーツ総合演習の詳細については、ガイダンス動画で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バトミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】
必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60%　2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】
大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケートの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更
になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を
するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.
【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:
1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.
【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 10a	A cooperative society
3	Workbook 10a	Social animals
4	Unit 10b	The Power of play
5	Workbook 10b	How play made our world
6	Unit 10c	Living free?
7	Workbook: 10c	Rebuilding society
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 10f	Initiation with ants
10	Unit 11a	Emotional intelligence
11	Workbook 11a	Hikikomori
12	Unit 11b	Thinking fast and slow
13	Workbook 11b	Don’t overthink it
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
出版社: National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%　(授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Students must earn at least 60% points to pass the course.
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 1/Sat.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11c	Who's working for who?
2	Unit 7a	Selfie world
3	Unit 7b	Creating a buzz
4	Workbook 7b	Follow us!
5	Unit 7c	A hacker's life
6	Unit 8a	World music
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8b	Healing music
9	Workbook 8b	Music therapy
10	Unit 8c	One love
11	Unit 9a	Dear little daughter
12	Unit 9b	The story of Martin Guerre
13	Workbook 12a	Aerial view
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
出版社: National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
Students must earn at least 60% points to pass the course.
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？（前半）
3	Chapter 1	（後半）
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状（前半）
5	Chapter 2	（後半）
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来（前半）
7	Chapter 3	（後半）
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」（前半）
9	Chapter 4	（後半）
10	レポートの書き方	レポートについての講義
11	Chapter 5 Social class	階級社会の実情（前半）
12	Chapter 5	（後半）
13	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み（前半）
14	Chapter 6	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。時間があれば英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end essay (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
　テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	大学と高等教育（前半）
2	Chapter 7	（後半）
3	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性（前半）
4	Chapter 8	（後半）
5	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術，発明，ビジネス（前半）
6	Chapter 9	（後半）
7	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま（前半）
8	Chapter 10	（後半）
9	Chapter 11 Food	英国の食文化（前半）
10	Chapter 11	（後半）
11	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜（前半）
12	Chapter 13	（後半）
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」（前半）
14	Chapter 16	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
教員に基礎疾患があるため、秋学期もオンライン授業を行う。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1 の学習目標は大きく分けて 3 つある。まず、トピック・センテンス、サポーティング・センテンス、コンクルーディング・センテンスと呼ばれる英文の構成について、それぞれが文章中でどのように機能するかを学ぶ。2 つ目は、リーディングにおいて「スラッシュ・リーディング」と「チャンク・リーディング」呼ばれる方法で、英文を文頭から後ろに戻ることなく英語の語順のままに理解する手法を身につけることである。そして 3 つ目は、これまで受験勉強ではあまり注意が払われなかった発音についてである。ヒアリングや会話において自分が正しいと思っている音が聞こえてこないと困惑してしまい、リスニングに苦手意識をもってしまう学生がかなり存在する。正しい発音を知ることはリスニング力を上げるのにも相手に理解してもらうのにも必要・不可欠であり、積極的に英語を話すモチベーションを上げることにつながるため、発音指導にも力を入れている。

【到達目標】
(1) 遂次英文を日本語に訳すのではなく、英文をそのまま理解することで、読解速度が上がり、要旨を早く捉えることが可能になる。(2) 文の大意を的確に捉えることが出来ると、知らない単語があっても、辞書を使わずに前後関係から内容を推察することができるようになる。(3) 自分の意見をある程度整ったパラグラフで表現できる。(4) 英語で質問することができる。(5) 英語を学ぶだけでなく、国際問題や時事問題についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは穴埋め問題など、音声を前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと空所に正しい答を入れられない問題が多いため、予習は必須である。授業中に学生はランダムに教師に当てられるため、答えられないことが続くと平常点にマイナス影響を与える要素になってしまう。授業時間内に穴埋め問題の答え合わせをし、注意すべき点について説明する。
授業後に毎回提出が必須となっているリアクション・ペーパーは、Hoppi から提出期限内に出すことが求められ、質問に対するコメントや英文の添削をして学生に戻すことにしている。

基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。語彙力を伸ばすためにトピックス関連の記事や時事問題などの英文記事を取り上げることもある。またほぼ毎回、ビデオを観てトピックスの理解を深める。そのためにシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。
TOEIC のプリントを配布して、年間を通して少しずつ授業で取り上げる。すでに知っている単語でも英日・日英できちんと言い表せができていなかったり、派生語をすぐに思い出せないことが多々あるのが見受けられる。プリントは授業で配布する。教科書・プリント類の予習は必須である。
Unit の進め方は、教科書の順番通りではない。シラバスや Hoppi に順番をアップするので、注意すること。また、時間的制約でカバーしない Unit もありうることを理解しておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ガイダンス 自己紹介、授業の進め方、教科書, プリントについて, 出欠の扱い, 単位取得条件、課題の提出回数についてなど。
2	Unit 3-1 Road to Decarbonization	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
3	Unit 3-2 Road to Decarbonization	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
4	Unit 2-1 The Circular Economy	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
5	Unit 2-2 The Circular Economy	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
6	Unit 5-1 Delivery Robots	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
7	Unit 5-2 Delivery Robots	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
8	Mid-term vocabulary test Unit 10-1 Digital Society	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
9	Unit 10-2 Digital Society	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
10	Unit 1-1 Pandemic and People's Lifestyle	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
11	Unit 1-2 Pandemic and People's Lifestyle	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)

12	Unit 11-1 Climate and Infectious Disease	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
13	Unit 11-2 Climate and Infectious Diseases	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
14	Spring Term-end Examination	教科書、TOEIC プリント、授業で使ったプリントなどから出題する試験・およびまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしいが、予習・復習を合わせて最低 2 時間が必要である。学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。

【テキスト（教科書）】
CLIL: Discuss The Changing World 2 Miyako NAKAYA, et alia (CLIL 英語で考える現代社会 2) 成美堂、2023 年、￥2640、ISBN:978-4-7919-7268-5
注意： 2023 年発行の No.2 を購入のこと。
プリント類はその都度教室で配布するか、Hoppi にアップロードされたものを各自プリントアウトして持参すること。

【参考書】
これまで使用してきた文法書を使用してほしい。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。また、授業外に Web 上の Cambridge Dictionary や、Merriam-Webster Dictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。
(語彙力が付くサイトおよび英英辞典のサイト）
・Japan Today https://japantoday.com/
・BBC Learning English
https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/
・VOA Learning English
https://learningenglish.voanews.com/
・Oxford Online English
https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish
. Cambridge English-English Dictionary
https://dictionary.cambridge.org/
. Merriam Webster Dictionary
https://www.merriam-webster.com/dictionary/dictionary

【成績評価の方法と基準】
平常点: 22%（授業態度、自主的な発表、毎回の予習状況)
中間レポート: 10%
Reaction Paper (through Hoppi) 2 x 14 = 28%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end vocabulary test: 20%
単位取得のための最低合格レベル： 60%
4 回以上欠席した場合には単位取得資格を失う (公欠を除く。）
授業開始時間から 15 分以上遅れた場合は、遅刻としてカウントし、2 回で欠席 1 回とみなす。30 分以上遅刻した場合は、出席しても欠席扱いとなる。体調が悪い、通院するなどの場合は事前に教師宛にメールで知らせること。

【学生の意見等からの気づき】
1. 新聞や雑誌記事、トピックスに関連するビデオをなどを適宜授業に取り入れているのは全体的な理解を深めると好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、違った考え方を知る機会になったという感想を学生から得ている。
2. 授業後に提出を義務付けているリアクション・ペーパーを通じて、学生との意思疎通を図っている。
3. 年間を通じてクラスの席を時折変更しているため、席の位置が固定化するのを防ぎ、多くのクラスメートと話す機会を得ていると好評である。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書 (紙製・電子辞書)、携帯電話のアプリ使用は教師が許可した場合を除き認めない。

【その他の重要事項】
コロナの規制が緩んできたとはいえ、場合によっては zoom によるオンライン授業に変更する可能性がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The objectives of this course are (1) to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, such as; topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences. In addition to the textbook, various kinds of reading articles from newspapers, websites, and videos will be provided in class to strengthen the students' vocabulary and horizons. (2) Students are encouraged to read English sentences directly without translating them into Japanese each time (slash reading/chunk reading).(3) To strengthen the students' listening and speaking skills, pronunciation practices will be given.
Learning Objectives
(1)By understanding English texts as they are without translating them into Japanese, you will be able to speed up your reading comprehension and quickly grasp the gist of the text. (2) You will be able to understand the meaning of sentences accurately, even if you come across unknown words without referring to a dictionary. (3)You will be able to express your own opinion in well-formed paragraphs. (4)You will be able to ask questions in English smoothly.(5) In addition to learning English, you may be able to deepen your knowledge of international issues and current affairs.
Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, students are required to spend at least two hours before and after the class.
Grading Criteria/Policy
Mid-term report: 10%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
In-class participation: 22%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end vocabulary test: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
If students have poor health conditions, they must notify the teacher before the class starts.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、自分の考えを英語で発言できる力を伸ばすことを目的にする。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、聞く、書く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高める。また、教科書だけでなく、新聞、雑誌、ウェブサイト、ビデオなどを用いて、語彙力を伸ばすと同時に、社会や世界で起きている出来事について知識を得る。

【到達目標】
(1) 遂次英文を日本語に訳すのではなく、英文をそのまま理解することで、読解速度が上がり、要旨を早く捉えることが可能になる。(2) 文の大意を的確に捉えることが出来ると、知らない単語があっても、辞書を使わずに前後関係から内容を推察することができるようになる。(3) 自分の意見をある程度整ったパラグラフで表現できる。(4) 英語で質問することができる。(5) 英語を学ぶだけでなく、国際問題や時事問題についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは穴埋め問題など、音声を前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと空所に正しい答を入れられない問題が多いため、予習は必須である。授業中に学生はランダムに教師に当てられるため、答えられないことが続くと平常点にマイナス影響を与える要素になってしまう。授業時間内に穴埋め問題の答え合わせ、注意すべき点について説明する。
授業後に毎回必須となっているリアクション・ペーパーは、Hoppi から提出期限内に出すことが求められ、質問に対するコメントや英文の添削をして学生に戻すことにしている。これはその日の授業の理解度や意見、教師との意思疎通を図るために自由形式で行われ、提出回数は平常点に加味される。

基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。語彙力を伸ばすためにトピックス関連の記事や時事問題などの英文記事を取り上げることもある。またほぼ毎回、ビデオを観てトピックスの理解を深める。そのためにシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。
TOEIC のプリントを配布して、年間を通して少しずつ授業で取り上げる。すでに知っている単語でも英日・日英できちんと言い表せができていなかったり、派生語をすぐに思い出せないことが多々あるのが見受けられる。プリントは授業で配布する。教科書・プリント類の予習は必須である。
Unit の進め方は、教科書の順番通りではない。シラバスや Hoppi に順番をアップするので、注意すること。また、時間的制約でカバーしない Unit もありうることを理解しておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 8-1 Preparing for Emergencies	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
2	Unit 8-2 Preparing for Emergencies	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
3	Unit 7-1 Gendered Division of Housework	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
4	Unit 7-2 Gendered Division of Housework	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
5	Unit 6-1 Discrimination against Asian Americans	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
6	Unit 6-2 Discrimination against Asian Americans	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
7	Unit 9-1 Ukraine and Afghanistan	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
8	Unit 9-2 Ukraine and Afghanistan	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
9	Mid-term vocabulary test Unit 13-1 Multicultural Exchange in Japan	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
10	Unit 13-2 Multicultural Exchange in Japan	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
11	Unit 15-1 Helping People Make Better Choice	Introduction Reading Key Phrases Data A Video

12	Unit 15-2 Helping People Make Better Choice	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
13	Unit 12 Overtourism and Undertourism Unit 14 Changing Africa	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
14	Fall Term-end examination	教科書、TOEIC プリント、授業で使ったプリントなどから出題する試験及びまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしいが、予習・復習を合わせて最低 2 時間が必要である。学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。

【テキスト（教科書）】
CLIL: Discuss The Changing World 2 Miyako NAKAYA, et alia (CLIL 英語で考える現代社会 2) 成美堂、2023 年、￥2640、ISBN:978-4-7919-7268-5
注意： 2023 年発行の No.2 を購入のこと。
プリント類はその都度教室で配布するか、Hoppi にアップロードされたものを各自プリントアウトして持参すること。

【参考書】
これまで使用してきた文法書を使用してほしい。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。また、授業外に Web 上の Cambridge Dictionary や、Merriam-Webster Dictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。春学期に提示したウェブサイトなどを用いて語彙の強化を図ることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点: 22%（授業態度、自主的な発表、毎回の予習状況)
中間レポート: 10%
Reaction Paper (through Hoppi) 2 x 14 = 28%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
単位取得のための最低合格レベル： 60%
4 回以上欠席した場合には単位取得資格を失う (公欠を除く。)
授業開始時間から 15 分以上遅れた場合は、遅刻としてカウントし、2 回で欠席 1 回とみなす。30 分以上遅刻した場合は、出席しても欠席扱いとなる。体調が悪い、通院するなどの場合は事前に教師宛にメールで知らせること。

【学生の意見等からの気づき】
1. 新聞や雑誌記事、トピックスに関連するビデオをなどを適宜授業に取り入れているのは全体的な理解を深めると好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、違った考え方を知る機会になったという感想を学生から得ている。
2. 授業後に提出を義務付けているリアクション・ペーパーを通じて、学生との意思疎通を図っている。
3. 年間を通じてクラスの席を時折変更しているため、席の位置が固定化するのを防ぎ、多くのクラスメートと話す機会を得ていると好評である。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書 (紙製・電子辞書), 携帯電話のアプリ使用は教師が許可した場合を除き認めない。

【その他の重要事項】
コロナの規制が緩んできたとはいえ、場合によっては zoom によるオンライン授業に変える用意がある。

【Outline (in English)】
(Course outline)
Following the Spring Semester, the aim of this course is (1) to develop students' ability to express their thoughts in English. Students may be able to improve their communication skills by using the four skills of "reading, listening, writing, and speaking" to learn new vocabulary, expressions, information, discussion rules and manners, and how to think logically. In addition to textbooks, we will use newspapers, magazines, websites, videos, etc. to improve students' vocabulary. Students may be able to gain knowledge about what is happening in society and the world in recent years.
(2) Students are encouraged to read English sentences directly without translating them into Japanese each time (slash reading/chunk reading).
(3) To strengthen the students' listening and speaking skills, pronunciation practices will be provided.
Learning Objectives
(1) By understanding English texts as they are without translating them into Japanese, you will be able to speed up your reading comprehension and quickly grasp the gist of the text. (2) You will be able to understand the meaning of sentences accurately, even if you come across unknown words without referring to a dictionary. (3) You will be able to express your own opinion in well-formed paragraphs. (4) You will be able to ask questions in English smoothly. (5) In addition to learning English, you may be able to deepen your knowledge of international issues and current affairs.
Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, students are required to spend at least two hours before and after the class.
Grading Criteria/Policy
Mid-term report: 10%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
In-class participation: 22%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
If students have poor health conditions, they must notify the teacher before the class starts.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】
英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。
リアクションペーパー・課題等については、正答・解説・コメントによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	授業についての詳しい説明など
2	The New World	新世界について reading
3	Columbus	コロンブスについて exercise
4	New England	ニューイングランドについて reading
5	Southern Colonies	南部の植民地について exercise
6	Before the War of Independence	独立戦争以前について reading
7	The War of Independence	独立戦争について exercise
8	Lewis and Clark	ルイス　アンド　クラークについて reading
9	The West	西部について exercise
10	Americans Move West	西漸運動について reading
11	Pioneers	開拓者について exercise
12	Gold Rush	ゴールドラッシュについて reading
13	期末試験と総括	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4
　hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。
復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に見直し、深く理解できるようにする。
発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。
レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】
Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の点の総合で判断する。
期末試験及びレポート　60%
小テスト　10%
通常授業の成績　10%
発表　10%
平常点　10%
欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。
3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず辞書を持ってくること。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help sutudents widen the knowledge of American history and culture.
Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar anc vocabulary.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

當麻　幸子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 2/Wed.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】
英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。
リアクションペーパー・課題等については、正答・解説・コメントによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明など
2	Slavery	奴隷制度について reading
3	The Civil War	南北戦争について exercise
4	The Great Depression	世界恐慌について reading
5	The New Deal	ニューディール政策について exercise
6	Before the Second World War	第二次世界大戦以前について reading
7	Pearl Harbor	真珠湾について exercise
8	Hitler	ヒトラーについて reading
9	The Pacific War	太平洋戦争について exercise
10	The Viet Nam War	ベトナム戦争について reading
11	After the Viet Nam War	ベトナム戦争後について exercise
12	The Expansion of the United States	領土拡張について reading
13	期末試験と総括	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4
　hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。
復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に見直し、深く理解できるようにする。
発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。
レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】
Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の点の総合で判断する。
期末試験及びレポート　60%
小テスト　10%
通常授業の成績　10%
発表　10%
平常点　10%
欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。
3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず辞書を持ってくること。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help sutudents widen the knowledge of American history and culture.
Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar anc vocabulary.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神　康介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の歴史について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する（1）。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する（2）。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Japan Evolution（進化する日本）南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

神　康介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. EXILE HIRO 2. Ebizo Ichikawa	EXILE HIRO 代名詞 伝統的歌舞伎を超越する市川海老蔵 冠詞
2	3. 400m Relay Silver Medal 4. The Kimono	400m リレー銀メダル 強調・倒置 着物復権 助動詞
3	5. The Sanriku Railway	恋する三陸鉄道 時制
4	6. Local Issues	地方活性化の鍵 完了形
5	7. Digital Manga	進化するデジタル漫画 受動態
6	8. Stock Investment	トライ　株式投資！　不定詞
7	9. Japan House	魅力発信のジャパン・ハウス 分詞
8	10. Meat Types	ミートタイプ 動名詞
9	11. Functional Foods	機能性食品 仮定法
10	12. Sake	世界の日本酒 関係代名詞
11	13. Royalty-free Strategy	燃料電池車特許権無償 比較
12	14. Telematics	会話する車 前置詞
13	15. Biogas	代替燃料　バイオガス 接続詞
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては, 大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句, 専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
Breakthrough Japan (躍進日本）南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking)..
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。
①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。
授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。
段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。
フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」前半講読
3	Unit 1-2 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」後半講読
4	Unit 6-1 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」前半講読
5	Unit 6-2 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」後半講読
6	Unit 11-1 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」前半講読
7	Unit 11-2 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」後半講読
8	Unit 16-1 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」前半講読
9	Unit 16-2 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」後半講読
10	Unit 2-1 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」前半講読
11	Unit 2-2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」後半講読
12	Unit 7-1 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」前半講読
13	Unit 7-2 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Understanding the World Today
（Dave Rear 著,　成美堂,　2022 年, 2,090 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 15 %　小テスト 30 %　期末テスト 50 %　英作文 5 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。
①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの unit を扱う。
授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。
段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。
フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 12-1 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」前半講読
3	Unit 12-2 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」後半講読
4	Unit 17-1 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」前半講読
5	Unit 17-2 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」後半講読
6	Unit 3-1 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」前半講読
7	Unit 3-2 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」後半講読
8	Unit 8-1 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」前半講読
9	Unit 8-2 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」後半講読
10	Unit 13-1 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」前半講読
11	Unit 13-2 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」後半講読
12	Unit 18-1 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」前半講読
13	Unit 18-2 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Understanding the World Today
（Dave Rear 著,　成美堂,　2022 年, 2,090 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 30 %　期末テスト 50 %　英作文 10 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、英英辞書の使い方も学ぶ。辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー

第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before carees	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
定価￥2860（学生生協で購入すると￥ 2717)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy)】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 2/Wed.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。

学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。

学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。

また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。

加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe-You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 4 回目	Unit 4 Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork

第 5 回	Unit 5	Word Test
目	Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 6 回	Unit 6	Word Test
目	Do Happy People Live Long?	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 7 回	Unit 7	Word Test Unit
目	Selling Charity	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回	Unit 8	Word Test
目	The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 9 回	Unit 9	Word Test
目	A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10	word test
目	How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11	Word TEst
目	True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12	Word Test
目	The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライン・レポート試験・まとめと解説	評価
目		
第 14 回	オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価
目		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN　Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TAlk から、自由に選んで、毎回 TED　Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
CBS　NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido　(成美堂) ISBN9784791971862 ￥2860(学生生協で購入すると￥ 2717)

【参考書】
CBS　News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
秋学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。
ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】
対面授業のオフィースアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】
・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
・あまり知識のないトピックに関する英語音声を聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。
第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。
Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	シラバスの内容を確認するほか、細かな注意事項について説明します。 各自の持参した辞書をチェックします。
2	Unit 1	Check Your Level 現在のリーディング力を診断する
3	Unit 2	Vocabulary Strategy < 1 > 未知語を推測する
4	Unit 3	Vocabulary Strategy < 2 > おかしいな、と思ったら辞書をひく
5	Unit 4	Vocabulary Strategy < 3 > 辞書を効率的に使う
6	Unit 5	Experience Pre-reading Activities タイトルやイラストから内容を予測して読む
7	文章の構造的読解 1	意見サポート型 読解小テスト
8	Unit 6	Understanding Reference Words < 1 > 代名詞が指すのは誰？
9	Unit 7	Understanding Reference Words < 2 > one や that って何を指すの？
10	Unit 8	Understanding Reference Words < 3 > 代動詞が示すのはどんな動作や状態？
11	Unit 9	Using Signal Words to Predict Ideas < 1 > and などのシグナルワードから流れを理解する
12	Unit 10	Using Signal Words to Predict Ideas < 2 > but などのシグナルワードから流れを理解する
13	文章の構造的読解 2	パラグラフ並列型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 1~10 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。
また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。
本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるよう声に出して練習します。
その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】
卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】
英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】
教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）： 50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）： 20%
毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）: 30%
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について
各タスクにおいてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に質問を受け付ける時間を十分に設けます。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.
Learning Objectives: Studens will 1) learn the reading strategies in English; 2) understand the message and context of the text; 3) learn some of basic paragraph structures; 4) master how to consult dictionaries; 5) have a habit to study on the subjects referred in the texts; 6) master some of basic rules of pronunciation and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom: Students must spend at least one hour for reviewing and preparing for each session. They should make an independent "English Learning" notebook of their own. They are also asked to read aloud unfamiliar words and phrases.
Grading Criteria/Policy: Written Exam - 50%; Quizes - 20%; Performance at each session - 30%. Students with 4 or more absences will lose their qualification for the unit of this course. Three days late are counted as one absence. Other penalties given during sessions are counted as days late.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】
・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
・あまり知識のないトピックに関する英語音声を聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。
第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。
Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	今学期の授業の進め方に関する確認 前学期の学修内容の到達度に関する総評 当然ですが出席にカウントされます。
2	Unit 11	Using Signal Words to Predict Ideas < 3 > because や therefore などのシグナルワードから流れを理解する
3	Unit 12	Identifying the Main Idea < 1 > メインアイデアを把握する 1
4	Unit 13	Identifying the Main Idea < 2 > メインアイデアを把握する 2
5	Unit 14	Identifying the Main Idea < 3 > メインアイデアを把握する 3
6	Unit 15	Searching for Information < 1 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)1
7	文章の構造的読解 3	直線フロー型 読解小テスト
8	Unit 16	Searching for Information < 2 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)2
9	Unit 17	Searching for Information < 3 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)3
10	Unit 18	Connecting Ideas 複数の情報を結び付ける
11	Unit 19	Reading for Pleasure 予測しながら楽しく読む
12	Unit 20	Assess Your Achievement 現在の英語力を再診断する
13	文章の構造的読解 4	異質パラグラフ型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 11~20 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。
また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。
本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるよう声に出して練習します。
その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】
卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】
英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】
教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）： 50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%
毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について

各タスクにおいてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に質問を受け付ける時間を十分に設けます。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.
Learning Objectives: Studens will 1) learn the reading strategies in English; 2) understand the message and context of the text; 3) learn some of basic paragraph structures; 4) master how to consult dictionaries; 5) have a habit to study on the subjects referred in the texts; 6) master some of basic rules of pronunciation and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom: Students must spend at least one hour for reviewing and preparing for each session. They should make an independent "English Learning" notebook of their own. They are also asked to read aloud unfamiliar words and phrases.
Grading Criteria/Policy: Written Exam - 50%; Quizes - 20%; Performance at each session - 30%. Students with 4 or more absences will lose their qualification for the unit of this course. Three days late are counted as one absence. Other penalties given during sessions are counted as days late.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高　友希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】
1　英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
2　読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
3　論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Story 1: Volunteers in Loveland	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Story 2: Commemorating Juneteeth	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Story 3: Penguin at Arizona Aquarium	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Story 4: Colorado River Most Endangered	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Story 5: Controversial "Don't Say Gay" Bill	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Story 6: Standing in Solidarity	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Story 7: Endurance Ship Found in Antarcitica	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Story 8: An Inspiring Child Author	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 10 回	Story 9: Historic Gunmaker Settlement	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Story 10: Saving the Galapagos	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Story 11: The Marathon Mom	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Story 12: Rising Prices	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Story 13: International Holocaust Remembrance Day	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
S. Yamane and K. Yamane, ABC NEWSROOM, Kinseido (2023).

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】
This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.
Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.
Students will be graded on:
Final paper (50%)
Homework assignments and quizzes (30%)
Participation (20%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高　友希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】
1　英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
2　読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
3　論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	Unit 1: The Window of Canterbury Cathedral	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Unit 2 : A Skateboading School for Women	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Unit 3: West London's Community Gardens	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Unit 4: Two Generations Sharing a Home	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Unit 5: Cornwall's Lithium Mines	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Unit 6: How to Be Happy on Blue Monday	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Unit 7: The New Brixham Banking Hub	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Unit 8: Call to Clean Up London's Diesel Trains	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 10 回	Unit 9: The Fair Shot Cafe	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Unit 10: The Impact of Covid on the Brain	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Unit 11: Women Learing Skills for life after Prison	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Unit 12: A Space for Green Businesses	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Unit 13: Diversity in the Workplace	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
T. Knowles, M. Tanaka, M. Nakamura and S. Moue, British News Update 5, Kinseido (2023).

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】
This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.
Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.
Students will be graded on:
Final paper (50%)
Homework assignments and quizzes (30%)
Participation (20%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。
使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2．英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3．読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提として授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
授業時間の後半には、本文の理解を深めたり確認したりするためのワークシート（2～3 Unit につき 1 回）やリフレクションペーパー（Unit ごと）を課し、提出の翌週の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty「美」の概念 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ ※ワークシート（20 世紀の美術運動について）
3	Unit 1　＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題 ※リフレクションペーパー
4	Unit 2 Greek Mythology -- Stories of Gods and Humans ギリシア神話――――神々と人間の物語 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ
5	Unit 2 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題 ※リフレクションペーパー
6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書――――キリスト教の支柱 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ前半まで ※ワークシート（聖書の構成、登場人物について）
7	Unit 3 ＜後半＞	第 4 パラグラフ後半～6 パラグラフ、および練習問題 ※リフレクションペーパー
8	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス――――ジャンルを横断するムーブメント ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ
9	Unit 4 ＜後半＞	第 5～8 パラグラフ、および練習問題 ※リフレクションペーパー
10	Unit 7 The English Language 英語の変遷 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ ※ワークシート（オックスフォード英語大辞典について）
11	Unit 7 ＜後半＞	第 5～7 パラグラフ、および練習問題 ※リフレクションペーパー
12	Unit 5 The Structure of Fictional Literature	各自のレポートに基づくグループワーク
13	復習・復習試験	前半： Unit1～4,7 の復習、補足 後半：復習試験
14	Unit 6 The Theater and Acting	各自のレポートに基づく、グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習の基本的な進め方は次のとおり。
教科書本文の当該範囲（前半／後半）を、音声（無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所に印をつける。それらの箇所をできるかぎり辞書等で調べる。「後半」の回については、章末の練習問題を解いておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準 とします。

【テキスト（教科書）】
Christopher Belton / 小田島恒志, *TRANSCULTURE:Transcending Time, Region and Ethnicity*, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ― 響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】
大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%（リフレクションペーパー 20%、ワークシート、レポート 20%）復習試験 60 %の成績の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークを積極的にとりいれる。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、リフレクションペーパー等の「課題」の配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。

・オンライン授業を教室で受講する際には、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (20%), worksheets and short reports (20%), and the term-end examination (60%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 1/Sat.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。
　使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2．英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3．読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提として授業を進める。
　講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
　音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。
　授業時間の後半には、本文の理解を深めたり確認したりするためのワークシート（2～3 Unit につき 1 回）やリフレクションペーパー（Unit ごと）を課し、提出の翌週の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度＜前半＞	第 1～2 段落 ※ワークシート（EIU Democracy Index、マグナカルタについて)
2	Unit 11 ＜後半＞	第 3～6 段落、および練習問題 ※リフレクションペーパー
3	Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 ＜前半＞	第 1 ～4 段落
4	Unit 9 ＜後半＞	第 5～8 段落、および練習問題 ※リフレクションペーパー
5	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家＜前半＞	第 1～3 段落 ※ワークシート（各国の結婚、戸籍制度について）
6	Unit 12＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題 ※リフレクションペーパー
7	Unit 8 The Rise of Cities 都市の隆盛	各自のレポートにもとづくグループワーク
8	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味 ＜前半＞	第 1～3 段落 ※ワークシート（「祈り」の諸形態、英国国教会について）
9	Unit 13 ＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題 ※リフレクションペーパー
10	Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い―――― チェス／将棋／チャトランガ…	各自のレポートにもとづくグループワーク
11	Unit 14 Mankind and Laughter 笑いと人間	第 1～3 段落 ※ワークシート（20 世紀英米のコメディ）
12	Unit 14 ＜後半＞	第 4～6 段落、および練習問題 ※リフレクションペーパー
13	復習・復習試験	Unit 9, 11～14 の復習と補足
14	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ＝規律」の重要性	各自のレポートに基づくグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　準備学習の基本的な進め方は次のとおり。
　教科書本文の当該範囲（前半／後半）を、音声（無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所に印をつける。それらの箇所をできるかぎり辞書等で調べる。「後半」の回については、章末の練習問題を解いておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
　本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準 とします。

【テキスト（教科書）】
Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ――響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】
大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。
　いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。
　毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点 45%（リフレクションペーパー 20%、ワークシート、レポート 25%）復習試験 55 %の成績の総合評価。
　4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
　遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、リフレクションペーパー等の「課題」の配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・オンライン授業を教室で受講する際には、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (20%), worksheets and short reports (25%), and the end-term exam (55%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】
速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験　まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用します。

【参考書】
その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　　30 %
試験（中間・期末）　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】
英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　30 %
試験　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を
合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田　亜希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ合衆国について書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてアメリカの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】
必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習をします。提出された課題へのフィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 1 Dividing America	本文読解 リスニング 演習問題
3	Chapter 2 New England	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
4	Chapter 3 The New York Metropolis	本文読解 リスニング 演習問題
5	Chapter 4 Appalachia	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 5 The South	本文読解 リスニング 演習問題
9	Chapter 6 American Music Roots in the South	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
10	Chapter 7 The Industrial North	本文読解 リスニング 演習問題
11	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
14	期末試験	授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など）40 %
期末試験　60 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしまってください。

【Outline (in English)】
This course will focus on reading articles and essays on United States to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.
The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about American society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.
Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

余田　亜希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、アメリカ合衆国について書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてアメリカの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】
必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習をします。提出された課題へのフィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 9 Out West	本文読解 リスニング 演習問題
3	Chapter 10 Alaska	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
4	Chapter 11 The Pacific Northwest	本文読解 リスニング 演習問題
5	Chapter 12 The Southwest	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 13 Hawaii	本文読解 リスニング 演習問題
9	Chapter 14 Federal Government and States' Rights	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
10	Chapter 15 Religion in the Regions	本文読解 リスニング 演習問題
11	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
12	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (5)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
14	期末試験	授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など）40 %
期末試験　60 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしまってください。

【Outline (in English)】
This course will focus on reading articles and essays on United States to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.
The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about American society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.
Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤　清

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング (文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強) のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

【到達目標】
テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解し使えることができる。英語語彙力を身につける。(英単語レベル 4 以上をマスターする。) 短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、それに対する自分の意見を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニケーションスキルを培い、自信を持って話せることができる。リスニング, リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、提出されたリアクションペーパー、演習問題の回答についてフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合もあります。教科書の内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。授業時間以外でも Hoppii に出された課題に取り組み、継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。尚、プレゼンテーション実施の際は、視覚資料等の円滑な運用のため、ZOOM 等のツールを積極的に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation Summer Holiday Plans. Introduction to Life Topics changing views. The Joy of Anticipation	Planning for summer holiday plan. Anticipation is an important source of happiness.
Unit 2	Online Booking. How Long does it Take to Make a Friend?	How to book a ticket. People are naturally social and want to bond with one another.
Unit 3	In an airplane. How to Form Good Habits	Conversation in an airplane. We all have behaviors that we want to replace with good habits, but most of us have no idea how good habits are formed.
Unit 4	Exchanging Money. How to Become More Productive	Money Exchange. We all want to become more efficient at our jobs and at getting more done, but often we simply do not know how to do it.
Unit 5	At the Accommodation. Introverts and Extroverts	Where do you stay? Examples of introvert and extrovert character traits and behaviors
Unit 6	Smartphones and PCs. Social Media and Loneliness	SIM Free world. Is using social media good or bad for us? Why do you think so?
Unit 7	Using Uber. Five Healthy Habits	How to catch a taxi. What are five good habits that will keep you healthier and extend your life?
Unit 8	Public Transport. Are Humans Outdated Machines? Part I	Taking a train in UK. It has been said that humans are outdated machines. Do you agree or disagree?
Unit 9	A study tour. Are humans Outdated Machines? Part II	Go somewhere to do research. When we feel threatened or afraid, how can we control our stress? Explain.
Unit 10	Music Festival. The Happiness Set Point	Enjoy music. Can we boost our level of happiness? How much control do we have over our happiness? Express it in a percentage.
Unit 11	Ordering Food. The Hedonic Treadmill, Part I	Ordering Food. Does having a lot of nice, expensive possessions make you happy? Explain.
Unit 12	Shopping. The Hedonic Treadmill, Part II	Shopping. How can we control ourselves so that we don't get stuck on the hedonic treadmill?
Unit 13	Amusement. The Relationship between Cats and People	Enjoy sports. How and when did cats become humans' pets and begin to share our lives?
Unit 14	Emails. The power of Forgiveness, Part I & Part II	Emails. Is there someone you need to forgive? How important is it for you to do so? And How can you forgive another person?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に Hoppii の学習システムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Textbook:　Travel English in Action　著者名: Burden Tyler
Publisher:　南雲堂, ISBN: 978-4-523-17942-9-C0082

【参考書】
英和辞典 (電子辞書・本型の辞書) など、英単語の意味を知る機能のあるものを持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Grading Criteria
70 % 平常点: 英語によるプレゼンテーションの評価
20 % 課題評価: Forms、Hoppii 等の課題についての評価

10 % レポート評価: エッセー (英文) の内容
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii の課題等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real-world situations and emphasizing natural speech and vocabulary development.
Learning objectives: Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 70%: Evaluation of Hoppii's assignment 20%: Short reports: 10%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

深澤　清

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後、海外で活躍することを考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English) を養う。本授業は 1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice) の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技能の向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】
日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル 4 程度をマスターする。) テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面による講義形態で行い、担当教員作成のオリジナルテキストに沿って授業を進めます。授業ではテキストの内容について解説し、演習問題の正答などのフィードバックは授業支援システムの Hoppii を積極的に活用します。テキストの内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。学生は英語によるプレゼンテーションを行い、自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。さらに Hoppii システムを活用して、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。正答のフィードバックも、主に Hoppii システムを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Conclusions/Reasons Should mothers stay at home until their children go to school?	Brainstorming & Organizing
Unit 2	Social Trend/Analysis Why are coffee shops so popular in Japan?	Informative Presentations: Place「場所」
Unit 3	Theory/ Proof Your eyebrows express more than your eyes.	Informative Presentations: Topical pattern「理論・実験結果」
Unit 4	Controversy What are the merits and demerits of the lifetime employment system?	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages「長所・短所型」
Unit 5	Comparison/Contrast Compare city life and country life	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method「比較優位法」
Unit 6	Classification Developed, rapidly developing, and still underdeveloped countries.	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」
Unit 7	Instructions How to stay fit.	Talk about Topical pattern
Unit 8	Chronological Order Write your CV, then re-write it as a paragraph	Informative Presentations: Time「時間」
Unit 9	Cause & Effect What effects have computers had on society?	Persuasive Presentations: Questions of Fact「事実型」
Unit 10	Process How to proceed with conversation	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method「問題解決法」
Unit 11	Explanation Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method「問題・原因・解決法」
Unit 12	Definition How to explain the meaning of the new words.	Persuasive Presentations: Talk about Topical pattern
Unit 13	Explanation Statistics	Informative Presentations: Concepts「概念型
Unit 14	Presentation Practice	Students give presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に Hoppii の学習システムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員作成のオリジナルテキストを使用します。印刷物を授業中に配布します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
Grading Criteria
70 %　平常点: 英語によるプレゼンテーション等、
20 %　小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価
10 %　レポート: エッセー (英文)、レポート課題等の内容評価
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii の課題を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students acquire communicative ability and confidence in speaking English. It also enhances the development of students' skills in presentation skills.

Learning objectives: By the end of the course, students should be able to learn and do the followings; 1. Informative Presentations, 2. Persuasive Presentations, 3. Presentation Practice.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 70%: Evaluation of Hoppii's assignment 20%: Short reports: 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー

第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before carees	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
￥2860(学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe-You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 4 回目	Unit 4 Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork

第 5 回目	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 6 回目	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 7 回目	Unit 7 Selling Charity	Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回目	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 9 回目	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回目	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回目	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回目	Unit 12 The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回目	秋学期期末オンライン・レポート試験・まとめと解説	評価
第 14 回目	オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN　Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TAlk から、自由に選んで、毎回 TED　Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
CBS　NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido　(成美堂) ISBN9784791971862 ￥2860(学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】
CBS　News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
秋学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。
ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】
対面授業のオフィースアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 ％, The word tests 10%, the mini tests 10 ％, homework 10 ％、presentations 10 ％、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 ％, on the total of 100 ％.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1 の学習目標は大きく分けて 3 つある。まず、トピック・センテンス、サポーティング・センテンス、コンクルーディング・センテンスと呼ばれる英文の構成について、それぞれが文章中でどのように機能するかを学ぶ。2 つ目は、リーディングにおいて「スラッシュ・リーディング」と「チャンク・リーディング」呼ばれる方法で、英文を文頭から後ろに戻ることなく英語の語順のままに理解する手法を身につけることである。そして 3 つ目は、これまで受験勉強ではあまり注意が払われなかった発音についてである。ヒアリングや会話において自分が正しいと思っている音が聞こえてこないと困惑してしまい、リスニングに苦手意識をもってしまう学生がかなり存在する。正しい発音を知ることはリスニング力を上げるのにも相手に理解してもらうのにも必要・不可欠であり、積極的に英語を話すモチベーションを上げることにつながるため、発音指導にも力を入れている。

【到達目標】
(1) 遂次英文を日本語に訳すのではなく、英文をそのまま理解することで、読解速度が上がり、要旨を早く捉えることが可能になる。(2) 文の大意を的確に捉えることが出来ると、知らない単語があっても、辞書を使わずに前後関係から内容を推察することができるようになる。(3) 自分の意見をある程度整ったパラグラフで表現できる。(4) 英語で質問することができる。(5) 英語を学ぶだけでなく、国際問題や時事問題についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは穴埋め問題など、音声を前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと空所に正しい答を入れられない問題が多いため、予習は必須である。授業中に学生はランダムに教師に当てられるため、答えられないことが続くと平常点にマイナス影響を与える要素になってしまう。授業時間内に穴埋め問題の答え合わせ、注意すべき点について説明する。
授業後に毎回必須となっているリアクション・ペーパーは、Hoppi から提出期限内に出すことが求められ、質問に対するコメントや英文の添削をして学生に戻すことにしている。これはその日の授業の理解度や意見、教師との意思疎通を図るために自由形式で行われ、提出回数は平常点に加味される。

基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。語彙力を伸ばすためにトピックス関連の記事や時事問題などの英文記事を取り上げることもある。またほぼ毎回、ビデオを観てトピックスの理解を深める。そのためにシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。
TOEIC のプリントを配布して、年間を通して少しずつ授業で取り上げる。すでに知っている単語でも英日・日英できちんと言い表せができていなかったり、派生語をすぐに思い出せないことが多々あるのが見受けられる。プリントは授業で配布する。教科書・プリント類の予習は必須である。
Unit の進め方は、教科書の順番通りではない。シラバスや Hoppi に順番をアップするので、注意すること。また、時間的制約でカバーしない Unit もありうることを理解しておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の進め方、教科書・プリントについて、出欠の扱い、単位取得条件、課題の提出回数についてなど。
2	Unit 3-1 Road to Decarbonization	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
3	Unit 3-2 Road to Decarbonization	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
4	Unit 2-1 The Circular Economy	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
5	Unit 2-2 The Circular Economy	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
6	Unit 5-1 Delivery Robots	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
7	Unit 5-2 Delivery Robots	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
8	Mid-term vocabulary test Unit 10-1 Digital Society	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
9	Unit 10-2 Digital Society	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
10	Unit 1-1 Pandemic and People's Lifestyle	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
11	Unit 1-2 Pandemic and People's Lifestyle	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)

12	Unit 11-1 Climate and Infectious Diseases	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
13	Unit 11-2 Climate and Infectious Diseases	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
14	Spring Term-end Examination	教科書、TOEIC プリント、授業で使ったプリントなどから出題する試験及びまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしい。予習・復習を合わせて最低 2 時間が必要である。学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。

【テキスト（教科書）】
CLIL: Discuss The Changing World 2 Miyako NAKAYA, et alia (CLIL 英語で考える現代社会 2) 成美堂、2023 年、￥2640、ISBN:978-4-7919-7268-5
注意： 2023 年発行の No.2 を購入のこと。
プリント類はその都度教室で配布するか、Hoppi にアップロードされたものを各自プリントアウトして持参すること。

【参考書】
これまで使用してきた文法書を使用してほしい。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。また、授業外に Web 上の Cambridge Dictionary や、Merriam-Webster Dictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。
(語彙力が付くサイトおよび英英辞典のサイト）
・Japan Today https://japantoday.com/
・BBC Learning English
https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/
・VOA Learning English
https://learningenglish.voanews.com/
・Oxford Online English
https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish
. Cambridge English-English Dictionary
https://dictionary.cambridge.org/
. Merriam Webster Dictionary
https://www.merriam-webster.com/dictionary/dictionary

【成績評価の方法と基準】
平常点: 22%（授業態度、自主的な発表、毎回の予習状況)
中間レポート: 10%
Reaction Paper (through Hoppi) 2 x 14 = 28%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
単位取得のための最低合格レベル： 60%
4 回以上欠席した場合には単位取得資格を失う (公欠を除く。）
授業開始時間から 15 分以上遅れた場合は、遅刻としてカウントし、2 回で欠席 1 回とみなす。30 分以上遅刻した場合は、出席しても欠席扱いとなる。体調が悪い、通院するなどの場合は事前に教師宛にメールで知らせること。

【学生の意見等からの気づき】
1. 新聞や雑誌記事、トピックスに関連するビデオをなどを適宜授業に取り入れているのは全体的な理解を深めると好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、違った考え方を知る機会になったという感想を学生から得ている。
2. 授業後に提出を義務付けているリアクション・ペーパーを通じて、学生との意思疎通を図っている。
3. 年間を通じてクラスの席を時折変更しているため、席の位置が固定化するのを防ぎ、多くのクラスメートと話す機会を得ていると好評である。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書 (紙製・電子辞書)、携帯電話のアプリ使用は教師が許可した場合を除き認めない。

【その他の重要事項】
コロナの規制が緩んできたとはいえ、場合によっては zoom によるオンライン授業に変える用意がある。

【Outline (in English)】
Course Outline
The objectives of this course are (1) to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, such as; topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences. In addition to the textbook, various kinds of reading articles from newspapers, websites, and videos will be provided in class to strengthen the students' vocabulary and horizons. (2) Students are encouraged to read English sentences directly without translating them into Japanese each time (slash reading/chunk reading). (3) To strengthen the students' listening and speaking skills, pronunciation practices will be provided.
Learning Objectives
(1)By understanding English texts as they are without translating them into Japanese, you will be able to speed up your reading comprehension and quickly grasp the gist of the text. (2) You will be able to understand the meaning of sentences accurately, even if you come across unknown words without referring to a dictionary. (3) You will be able to express your own opinion in well-formed paragraphs. (4) You will be able to ask questions in English smoothly. (5) In addition to learning English, you may be able to deepen your knowledge of international issues and current affairs.
Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, students are required to spend at least two hours before and after the class.
Grading Criteria/Policy
Mid-term report: 10%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
In-class participation: 22%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
If students have poor health conditions, they must notify the teacher before the class starts.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、自分の考えを英語で発言できる力を伸ばすことを目的にする。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、聞く、書く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高める。また、教科書だけでなく、新聞、雑誌、ウェブサイト、ビデオなどを用いて、語彙力を伸ばすと同時に、社会や世界で起きている出来事について知識を得る。

【到達目標】
(1) 遂次英文を日本語に訳すのではなく、英文をそのまま理解することで、読解速度が上がり、要旨を早く捉えることが可能になる。(2) 文の大意を的確に捉えることが出来ると、知らない単語があっても、辞書を使わずに前後関係から内容を推察することができるようになる。(3) 自分の意見をある程度整ったパラグラフで表現できる。(4) 英語で質問することができる。(5) 英語を学ぶだけでなく、国際問題や時事問題についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは穴埋め問題など、音声を前もって聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと空所に正しい答を入れられない問題が多いため、予習は必須である。授業中に学生はランダムに教師に当てられるため、答えられないことが続くと平常点にマイナス影響を与える要素になってしまう。授業時間内に穴埋め問題の答え合わせ、注意すべき点について説明する。
授業後に毎回必須となっているリアクション・ペーパーは、Hoppi から提出期限内に出すことが求められ、質問に対するコメントや英文の添削をして学生に戻すことにしている。これはその日の授業の理解度や意見、教師との意思疎通を図るために自由形式で行われ、提出回数は平常点に加味される。
基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。語彙力を伸ばすためにトピックス関連の記事や時事問題などの英文記事を取り上げることもある。またほぼ毎回、ビデオを観てトピックスの理解を深める。そのためにシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。
TOEIC のプリントを配布して、年間を通して少しずつ授業で取り上げる。すでに知っている単語でも英日・日英できちんと言い表せができていなかったり、派生語をすぐに思い出せないことが多々あるのが見受けられる。プリントは授業で配布する。教科書・プリント類の予習は必須である。Unit の進め方は、教科書の順番通りではない。シラバスや Hoppi に順番をアップするので、注意すること。また、時間的制約でカバーしない Unit もありうることを理解しておいてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1 Preparing for Emergencies	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
2	Unit 8-2 Preparing for Emergencies	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
3	Unit 7-1 Gendered Division of Housework	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
4	Unit 7-2 Gendered Division of Housework	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
5	Unit 6-1 Discrimination against Asian Americans	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
6	Unit 6-2 Discrimination against Asian Americans	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
7	Unit 9-1 Ukraine and Afghanistan	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
8	Unit 9-2 Ukraine and Afghanistan	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
9	Mid-term vocabulary test Unit 13-1 Multicultural Exchange in Japan	Introduction Reading Key Phrases Data A Video
10	Unit 13-2 Multicultural Exchange in Japan	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
11	Unit 15-1 Helping People Make Better Choice	Introduction Reading Key Phrases Data A Video

12	Unit 15-2 Helping People Make Better Choice	Data B Sharing Your Thoughts Group Research (Discussion) TOEIC Supplemental reading (Video)
13	Unit 12 Overtourism and Undertourism Unit 14 Changing Africa	(For both units) Introduction Reading Sharing Your Thoughts Video TOEIC
14	秋学期末試験	教科書、TOEIC プリント、授業で使ったプリントなどから出題する試験とまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしいが、予習・復習を合わせて最低 2 時間が必要である。学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。

【テキスト（教科書）】
CLIL: Discuss The Changing World 2 Miyako NAKAYA, et alia (CLIL 英語で考える現代社会 2) 成美堂、2023 年、￥2640、ISBN:978-4-7919-7268-5
注意： 2023 年発行の No.2 を購入のこと。
プリント類はその都度教室で配布するか、Hoppi にアップロードされたものを各自プリントアウトして持参すること。

【参考書】
これまで使用してきた文法書を使用してほしい。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。また、授業外に Web 上の Cambridge Dictionary や、Merriam-Webster Dictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。春学期に提示したウェブサイトなどを用いて語彙の強化を図ることが望ましい。

【成績評価の方法と基準】
平常点: 22%（授業態度、自主的な発表、毎回の予習状況)
中間レポート: 10%
Reaction Paper (through Hoppi) 2 x 14 = 28%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
単位取得のための最低合格レベル： 60%
4 回以上欠席した場合には単位取得資格を失う (公欠を除く。)
授業開始時間から 15 分以上遅れた場合は、遅刻としてカウントし、2 回で欠席 1 回とみなす。30 分以上遅刻した場合は、出席しても欠席扱いとなる。体調が悪い、通院するなどの場合は事前に教師宛にメールで知らせること。

【学生の意見等からの気づき】
1. 新聞や雑誌記事、トピックスに関連するビデオをなどを適宜授業に取り入れているのは全体的な理解を深めると好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、違った考え方を知る機会になったという感想を学生から得ている。
2. 授業後に提出を義務付けているリアクション・ペーパーを通じて、学生との意思疎通を図っている。
3. 年間を通じてクラスの席を時折変更しているため、席の位置が固定化するのを防ぎ、多くのクラスメートと話す機会を得ていると好評である。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書 (紙製・電子辞書), 携帯電話のアプリ使用は教師が許可した場合を除き認めない。

【その他の重要事項】
コロナの規制が緩んできたとはいえ、場合によっては zoom によるオンライン授業に変える用意がある。

【Outline (in English)】
Course Outline
The objectives of this course are (1) to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, such as; topic sentences, supporting sentences, and concluding sentences. In addition to the textbook, various kinds of reading articles from newspapers, websites, and videos will be provided in class to strengthen the students' vocabulary and horizons. (2) Students are encouraged to read English sentences directly without translating them into Japanese each time (slash reading/chunk reading). (3) To strengthen the students' listening and speaking skills, pronunciation practices will be provided.
Learning Objectives
(1)By understanding English texts as they are without translating them into Japanese, you will be able to speed up your reading comprehension and quickly grasp the gist of the text. (2) You will be able to understand the meaning of sentences accurately, even if you come across unknown words without referring to a dictionary. (3) You will be able to express your own opinion in well-formed paragraphs. (4) You will be able to ask questions in English smoothly. (5) In addition to learning English, you may be able to deepen your knowledge of international issues and current affairs.
Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, students are required to spend at least two hours before and after the class.
Grading Criteria/Policy
Mid-term report: 10%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
In-class participation: 22%
Mid-term vocabulary test: 20%
Term-end examination: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
If students have poor health conditions, they must notify the the teacher before the class starts

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 11a	Uncontacted tribes
3	Workbook 11a	New media
4	Unit 11b	Sending a message
5	Workbook 11b	Mobile technology
6	Unit 11c	Spreading the news
7	Workbook 11c	Words and time
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 7a	Before New York City
10	Workbook 7a	In the past
11	Unit 7b	Homes around the world
12	Workbook 7b	Changing places
13	Unit 7c	Sweet songs and strong coffee
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書： Life (Second Edition) 4b Combo Split
著者： Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社： National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験： 40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験： 40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点： 20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中の欠席は３回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は３０分以内とし、２回の遅刻で１回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
Students must earn at least 60% points to pass the course.
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1 I(春学期）までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8a	Vacations and memories
2	Workbook 8a	Business or pleasure
3	Unit 8b	Walking for wildlife
4	Workbook 8b	Where to go, what to do there
5	Unit 8c	All aboard!
6	Workbook 8c	Travel questions
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8f	Questions and answers
9	Unit 9a	Shopping trends
10	Workbook 9a	Gift items
11	Unit 9b	Spend or save?
12	Workbook 9b	Passwords
13	Unit 9c	The art of the deal
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書： Life (Second Edition) 4B Combo Split
著者： Paul Dammett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社： National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中の欠席は３回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は３０分以内とし、２回の遅刻で１回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
Students must earn at least 60% points to pass the course.
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？（前半）
3	Chapter 1	（後半）
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状（前半）
5	Chapter 2	（後半）
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来（前半）
7	Chapter 3	（後半）
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」（前半）
9	Chapter 4	（後半）
10	レポートの書き方	レポートについての講義
11	Chapter 5 Social class	階級社会の実情（前半）
12	Chapter 5	（後半）
13	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み（前半）
14	Chapter 6	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。時間があれば英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end essay (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
　テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	大学と高等教育（前半）
2	Chapter 7	（後半）
3	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性（前半）
4	Chapter 8	（後半）
5	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術，発明，ビジネス（前半）
6	Chapter 9	（後半）
7	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま（前半）
8	Chapter 10	（後半）
9	Chapter 11 Food	英国の食文化（前半）
10	Chapter 11	（後半）
11	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜（前半）
12	Chapter 13	（後半）
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」（前半）
14	Chapter 16	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
教員に基礎疾患があるため、秋学期もオンライン授業を行う。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神　康介

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の歴史について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する（1）。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する（2）。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Japan Evolution（進化する日本）南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

神　康介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。
　授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. EXILE HIRO 2. Ebizo Ichikawa	EXILE HIRO 代名詞 伝統的歌舞伎を超越する市川海老蔵 冠詞
2	3. 400m Relay Silver Medal 4. The Kimono	400m リレー銀メダル 強調・倒置 着物復権 助動詞
3	5. The Sanriku Railway	恋する三陸鉄道 時制
4	6. Local Issues	地方活性化の鍵 完了形
5	7. Digital Manga	進化するデジタル漫画 受動態
6	8. Stock Investment	トライ　株式投資！　不定詞
7	9. Japan House	魅力発信のジャパン・ハウス 分詞
8	10. Meat Types	ミートタイプ 動名詞
9	11. Functional Foods	機能性食品 仮定法
10	12. Sake	世界の日本酒 関係代名詞
11	13. Royalty-free Strategy	燃料電池車特許権無償 比較
12	14. Telematics	会話する車 前置詞
13	15. Biogas	代替燃料　バイオガス 接続詞
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては, 大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句, 専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】
Breakthrough Japan (躍進日本）南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking)..
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

久慈　美貴

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
reading と writing を主眼に英語スキルの向上を目指します。テキストとして、新聞・雑誌の記事をプリントして配布します。基本文法と語法を確認しながら文を読み、英語でまとめる練習をします。さまざまなジャンルと長さの英文を正確に読み取ることを目標に、流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出しましょう。

【到達目標】
To read various fields and various length of articles and pick out key words/key phrases.
To understand the topic of the article, following the the flow of paragraphs.
To understand the suggestions and opinions of the writer and to give comments on them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The address of the article we use in the class will be announced, or handouts will be given in the classroom. You will read them, check vocabulary and pick out important words/phrases, then make up summaries.
You will also have to read news articles of your own choice and write weekly report paper. This is preparation for Presentation session for the Autumn Term. Read various kinds of news report and find out WHAT field of news you are interested in.
Assignments are checked and returned in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What's the Problem? 論旨のピックアップと要約文の作り方のフォームを配布して解説する。
2	Natural Environment	配布記事を読み、内容を確認するクイズに答える。
3	Natural Environment 2	記事を読み、要約を作成する。
4	Global Warming	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
5	Global Worming 2	記事を読み、要約を作成する。
6	Society	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
7	Society 2	記事を読み、要約を作成する。
8	Great Speeches	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
9	Great Speeches 2	記事を読み、要約を作成する。
10	Around Wars	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
11	Around Wars 2	記事を読み、要約を作成する。
12	Health	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
13	grammar review	文法と語法の復習プリントを配布する。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are required to prepare for/review class activities for one hour for each class. Read the given article, check vocabulary and pick out keywords/ key phrases, review grammar points. You also have to read a news article besides the given article(more than 500 words) and write weekly reports on it.

【テキスト（教科書）】
プリント配布または記事の URL を告知する

【参考書】
とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%、授業時の提出物 50%、授業時の発表 20%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。
You will be assessed by: Final Test 30%
Assignments (Weekly Report and Classwork paper)50%
Class activities (active participation in the classwork) 20%
If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.
When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】
評価票の提出について：レポートする記事の選択は「各自の興味あるもの」としていますが、秋期のプレゼンテーションの下準備で、各自の興味の方向性をしぼることが目的です。単発でおわる記事ではなく、シリーズとして追いかけられそうなもの、続報が手に入りやすそうなトピックを選んでください。とくに、人物の紹介記事などを扱う場合は、ほかにどんな切り口がありそうか、広く展開できそうなものかを考えて、レポートに取り上げるかどうかを判断するとよいでしょう。(スポーツ関連で試合の結果を報じるものなどは不適といえます。)
When you choose articles for Weekly Report, try to take up topics which you can follow up further information on them. Weekly Report is a preparation for Presentation in the Autumn Term. Please think from what aspect you can talk about the topic.

【学生が準備すべき機器他】
授業には必ずハードコピーの辞書または電子辞書を携帯してください。通信機器は使用しないでください。語義の確認だけではなく、用例を見て言葉の使い方をチェックするために、辞書を活用していただきたいと思います。
Please carry your dictionary in the classroom and check not only meaning of words but also the usage and sample sentences to enhance your language skills.

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行してください。
Please carry your dictionary in the classroom and check not only meaning of words but also the usage and sample sentences to enhance your language skills.

【Outline (in English)】
This class aims at enhancing your English-reading and writing skill. You'll be given various types of articles from newspapers or magazines. Try to pick out theme and support parts of the article and understand what the writer means.
You have to prepare for the class activities for at least one hour before each class.
You will be assessed with: final test 30%, Assignments 50% and Participation in Class Activities 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

久慈　美貴

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
引き続きさまざまなテーマの英文に触れ、語彙を広げ、読解の基礎力を付けていきましょう。
英文を読み、論旨を英文でまとめたり、コメントを付ける練習をします。
You will read articles on various kinds of topics, trying to get wider range of vocabulary, which will help you enhance your basic reading skills.

【到達目標】
*自分で設定したテーマに沿って資料を検索する。
*theme/idea/opinion + support という形でのまとめを作る。
*記事の原文そのままを抜き出してまとめるのではなく、全体の流れを把握したうえで、要点をじぶんの言葉で説明する。
*記事の内容に関してじぶんの意見をまとめてみる。
To search information and materials of your own choice.
To make up summary of the article giving its theme/idea/opinion and
supports, following the flow of the explanations.
To give comments on the article.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Read the given articles, check vocabulary and make up summaries of the articles. Presenters will announce the title and URL of the article. Others will read the article and write Preparation Paper (Pick out important words/phrases, pick out the theme and think questions to the presenter.) On the presentation day, the presenter will make presentation and take questions from the audience. The audience should submit the preparation paper for each presentation.
You will get comments on preparation paper/presentation in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Natural Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。 各自プレゼンテーション用の記事を提出。
2	Natural Science 2	配布した記事を読み、要約を作成する。 プレゼンテーションのグループ分けとスケジュールを決定。
3	Medical Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。レポート担当者は使用する記事のコピーをグループ内で配布する。
4	Presentation 1	担当者にクラス全員の前で発表してもらう。 クラス全員から記事に関する質問・疑問点を募り、意見交換する。
5	Presentation 2	グループ内で質問を出し合った後担当者にクラス全員の前で発表してもらう。、
6	Presentation 3	グループ内で質問を出し合った後、担当者ににクラス全員の前で発表してもらう。
7	Presentation 4	クループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
8	Presentation 5	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
9	Presentation 6	担当者によるクラス発表を行う。 クラス全員から記事に関する質問・疑問点を募り、意見交換する。
10	Presentation 7	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
11	Presentation 8	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
12	Presentation 9	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
13	Presentation 10	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
14	Review for Autumn Term	秋期のまとめ 各自のプレゼンテーションのまとめレポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【本授業の準備学習・復習時間は、併せて 1 時間を標準とします。】
レポートのテーマが同じ場合、レポートする記事もほかの発表者と重複することがあります。一つの分野でも、複数の記事に目を通し、いろいろな切り口からレポートできるように考えておきましょう。記事の長さなどは授業時に指定し、発表用のフォーム、提出用のフォームを配布しますので、しっかり準備して発表に臨んでください。You have to prepare for/review class activities for 1 hour.
All the class have to read the article used for the presentation and submit preparation paper on the article.

【テキスト（教科書）】
プリントを配布。
プレゼンテーションの記事に関しては、発表者から提示された記事を全員が読み、指定された提出フォームを使用して予習課題 (重要語句やキーフレーズのピックアウト) を提出していただきます。また、まとめとして口頭発表とは別に各自の担当記事の Summary を提出していただきます。
The URL of the article used for each presentation will be announced from the presenter. Preparation paper will be given in the class or through Hoppii. You have to fill in the preparation paper and submit it at the end of each class.

【参考書】
とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】
授業時の提出物（小テスト・プレゼンテーシの際に記入して提出する予習用シートなど）70%、プレゼンテーションとファイナルレポート 30%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。
プレゼンテーションの予習用シートは、プレゼンターがあらかじめ配布する記事を読み、重要単語やキーフレーズをまとめ、質問点を記入するもので、このシートを準備することで質疑応答を活性化する目的で配布している。シートの提出は各プレゼンテーションの当日のみ受け付けるので、しっかり記事を読み、活発な議論が行われるようにしてほしい。プレゼンテーションの評価は、クラスセッションでの口頭発表と、ファイナルレポートを併せて行う。
You will be assessed: Mini tests, preparation papers 70%
Presentation (Class session and Report) 30%

Get well prepared for the presentation session by making up preparation paper and try to give good questions on the topic during class session.
If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit. When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーションでは 1000 語以上の記事を選ぶよう指示してありましたが、記事が短すぎ，追加の記事を探す必要のあるかたが数人ありました。disputable point（論争となる問題点）を挙げてまとめ. 充実したプレゼンテーションを行うために、どんな記事が適しているかよく考えて選択してください。
春期に新聞記事のまとめを作っていただくのも、自分の興味がどこにあるかをあらかじめ考えていただきたいからです。長期的に追いかけられるテーマを早い段階で明確にしておく必要があるでしょう。また、ファイナルレポートにはプレゼンテーションに使用した記事のほかに、サポートとなる追加記事のまとめも提出してもらいます。メインとなる記事の輪郭がより鮮明になるようなサポート記事を考えてもらえればと期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
とくに使用しない。

【その他の重要事項】
授業時は必ず辞書を携行すること。
遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意が必要。
授業は原則として対面で行う予定だが、状況に応じて大学の方針に従う。変更がある場合はその都度連絡します。
Please carry dictionary in the class.
We will have face-to-face classes but follow the school policy when the circumstance changes. If there is changes, it will be announced through Hoppii,

【Outline (in English)】
You will make a presentation on an article of your choice. Try to explain clearly what is the problem and what the writer thinks of the problem through the group session and class session. Finally, you will submit the report paper on the article you use in your presentation.
You have to prepare for/ review the class activities at least 1 hour for each class. You will be assessed with Presentation and Final Report 30%,and Preparation Papers 70%. You will get comments on your report and Preparation Paper in the next class.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。
①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。
授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。
フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」前半講読
3	Unit 1-2 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」後半講読
4	Unit 6-1 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」前半講読
5	Unit 6-2 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」後半講読
6	Unit 11-1 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」前半講読
7	Unit 11-2 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」後半講読
8	Unit 16-1 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」前半講読
9	Unit 16-2 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」後半講読
10	Unit 2-1 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」前半講読
11	Unit 2-2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」後半講読
12	Unit 7-1 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」前半講読
13	Unit 7-2 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Understanding the World Today
（Dave Rear 著,　成美堂,　2022 年, 2,090 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 30 %　期末テスト 50 %　英作文 10 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。
①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの unit を扱う。
授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。
段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。
フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 12-1 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」前半講読
3	Unit 12-2 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」後半講読
4	Unit 17-1 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」前半講読
5	Unit 17-2 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」後半講読
6	Unit 3-1 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」前半講読
7	Unit 3-2 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」後半講読
8	Unit 8-1 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」前半講読
9	Unit 8-2 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」後半講読
10	Unit 13-1 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」前半講読
11	Unit 13-2 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」後半講読
12	Unit 18-1 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」前半講読
13	Unit 18-2 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Understanding the World Today
（Dave Rear 著,　成美堂,　2022 年, 2,090 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 30 %　期末テスト 50 %　英作文 10 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー

第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before carees	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
￥2860(
学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe-You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 4 回目	Unit 4 Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork

第 5 回目	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 6 回目	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 7 回目	Unit 7 Selling Charity	Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回目	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 9 回目	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回目	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回目	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回目	Unit 12 The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回目	秋学期期末オンライン・レポート試験・まとめと解説	評価
第 14 回目	オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN　Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TAlk から、自由に選んで、毎回 TED　Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
CBS　NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido　(成美堂) ISBN9784791971862 ￥2860(学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】
CBS　News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
秋学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。
ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】
対面授業のオフィースアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 ％, The word tests 10%, the mini tests 10 ％, homework 10 ％、presentations 10 ％、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 ％, on the total of 100 ％.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】
・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
・あまり知識のないトピックに関する英語音声を聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。
第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。
Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	シラバスの内容を確認するほか、細かな注意事項について説明します。 各自の持参した辞書をチェックします。
2	Unit 1	Check Your Level 現在のリーディング力を診断する
3	Unit 2	Vocabulary Strategy < 1 > 未知語を推測する
4	Unit 3	Vocabulary Strategy < 2 > おかしいな、と思ったら辞書をひく
5	Unit 4	Vocabulary Strategy < 3 > 辞書を効率的に使う
6	Unit 5	Experience Pre-reading Activities タイトルやイラストから内容を予測して読む
7	文章の構造的読解 1	意見サポート型 読解小テスト
8	Unit 6	Understanding Reference Words < 1 > 代名詞が指すのは誰？
9	Unit 7	Understanding Reference Words < 2 > one や that って何を指すの？
10	Unit 8	Understanding Reference Words < 3 > 代動詞が示すのはどんな動作や状態？
11	Unit 9	Using Signal Words to Predict Ideas < 1 > and などのシグナルワードから流れを理解する
12	Unit 10	Using Signal Words to Predict Ideas < 2 > but などのシグナルワードから流れを理解する
13	文章の構造的読解 2	パラグラフ並列型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 1~10 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。
また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。
本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるよう声に出して練習します。
その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】
卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】
英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】
教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）： 50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%
毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について
各タスクにおいてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に質問を受け付ける時間を十分に設けます。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.
Learning Objectives: Studens will 1) learn the reading strategies in English; 2) understand the message and context of the text; 3) learn some of basic paragraph structures; 4) master how to consult dictionaries; 5) have a habit to study on the subjects referred in the texts; 6) master some of basic rules of pronunciation and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom: Students must spend at least one hour for reviewing and preparing for each session. They should make an independent "English Learning" notebook of their own. They are also asked to read aloud unfamiliar words and phrases.
Grading Criteria/Policy: Written Exam - 50%; Quizes - 20%; Performance at each session - 30%. Students with 4 or more absences will lose their qualification for the unit of this course. Three days late are counted as one absence. Other penalties given during sessions are counted as days late.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】
・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
・あまり知識のないトピックに関する英語音声を聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。
第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。
Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	今学期の授業の進め方に関する確認 前学期の学修内容の到達度に関する総評 当然ですが出席にカウントされます。
2	Unit 11	Using Signal Words to Predict Ideas < 3 > because や therefore などのシグナルワードから流れを理解する
3	Unit 12	Identifying the Main Idea < 1 > メインアイデアを把握する 1
4	Unit 13	Identifying the Main Idea < 2 > メインアイデアを把握する 2
5	Unit 14	Identifying the Main Idea < 3 > メインアイデアを把握する 3
6	Unit 15	Searching for Information < 1 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)1
7	文章の構造的読解 3	直線フロー型 読解小テスト
8	Unit 16	Searching for Information < 2 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)2
9	Unit 17	Searching for Information < 3 > 情報を素早く効果的に読み取る(スキャニング)3
10	Unit 18	Connecting Ideas 複数の情報を結び付ける
11	Unit 19	Reading for Pleasure 予測しながら楽しく読む
12	Unit 20	Assess Your Achievement 現在の英語力を再診断する
13	文章の構造的読解 4	異質パラグラフ型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 11~20 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。
また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。
本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるよう声に出して練習します。
その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】
卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】
英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】
教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）： 50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%
毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について

各タスクにおいてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に質問を受け付ける時間を十分に設けます。

【Outline (in English)】
Learning Objectives: Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.
Learning Objectives: Studens will 1) learn the reading strategies in English; 2) understand the message and context of the text; 3) learn some of basic paragraph structures; 4) master how to consult dictionaries; 5) have a habit to study on the subjects referred in the texts; 6) master some of basic rules of pronunciation and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom: Students must spend at least one hour for reviewing and preparing for each session. They should make an independent "English Learning" notebook of their own. They are also asked to read aloud unfamiliar words and phrases.
Grading Criteria/Policy: Written Exam - 50%; Quizes - 20%; Performance at each session - 30%. Students with 4 or more absences will lose their qualification for the unit of this course. Three days late are counted as one absence. Other penalties given during sessions are counted as days late.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高　友希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】
1　英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
2　読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
3　論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Story 1: Volunteers in Loveland	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Story 2: Commemorating Juneteeth	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Story 3: Penguin at Arizona Aquarium	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Story 4: Colorado River Most Endangered	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Story 5: Controversial "Don't Say Gay" Bill	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Story 6: Standing in Solidarity	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Story 7: Endurance Ship Found in Antarcitica	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Story 8: An Inspiring Child Author	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 10 回	Story 9: Historic Gunmaker Settlement	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Story 10: Saving the Galapagos	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Story 11: The Marathon Mom	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Story 12: Rising Prices	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Story 13: International Holocaust Remembrance Day	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
S. Yamane and K. Yamane, ABC NEWSROOM, Kinseido (2023).

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】
This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.
Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.
Students will be graded on:
Final paper (50%)
Homework assignments and quizzes (30%)
Participation (20%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高　友希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】
1　英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
2　読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
3　論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	Unit 1: The Window of Canterbury Cathedral	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Unit 2 : A Skateboading School for Women	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Unit 3: West London's Community Gardens	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Unit 4: Two Generations Sharing a Home	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Unit 5: Cornwall's Lithium Mines	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Unit 6: How to Be Happy on Blue Monday	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Unit 7: The New Brixham Banking Hub	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Unit 8: Call to Clean Up London's Diesel Trains	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 10 回	Unit 9: The Fair Shot Cafe	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Unit 10: The Impact of Covid on the Brain	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Unit 11: Women Learing Skills for life after Prison	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Unit 12: A Space for Green Businesses	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Unit 13: Diversity in the Workplace	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
T. Knowles, M. Tanaka, M. Nakamura and S. Moue, British News Update 5, Kinseido (2023).

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）
なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】
グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】
辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】
This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.
Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.
Students will be graded on:
Final paper (50%)
Homework assignments and quizzes (30%)
Participation (20%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田　亜希

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ合衆国について書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてアメリカの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】
必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習をします。提出された課題へのフィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 1 Dividing America	本文読解 リスニング 演習問題
3	Chapter 2 New England	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
4	Chapter 3 The New York Metropolis	本文読解 リスニング 演習問題
5	Chapter 4 Appalachia	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 5 The South	本文読解 リスニング 演習問題
9	Chapter 6 American Music Roots in the South	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
10	Chapter 7 The Industrial North	本文読解 リスニング 演習問題
11	Chapter 8 The Heartland: Prairies and Plains	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
14	期末試験	授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など）40 %
期末試験　60 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしまってください。

【Outline (in English)】
This course will focus on reading articles and essays on United States to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.
The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about American society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.
Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

余田　亜希

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、アメリカ合衆国について書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてアメリカの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】
必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習をします。提出された課題へのフィードバックは学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 9 Out West	本文読解 リスニング 演習問題
3	Chapter 10 Alaska	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
4	Chapter 11 The Pacific Northwest	本文読解 リスニング 演習問題
5	Chapter 12 The Southwest	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 13 Hawaii	本文読解 リスニング 演習問題
9	Chapter 14 Federal Government and States' Rights	本文読解 リスニング 文法演習問題解説
10	Chapter 15 Religion in the Regions	本文読解 リスニング 演習問題
11	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
12	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のアメリカ事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (5)	最新のアメリカ事情について書かれた記事の読解とディスカッション
14	期末試験	授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】
James M. Vardaman 著『Where Are You From?: American Regions 地図で見るアメリカ』鶴見書店

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など）40 %
期末試験　60 %
欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。
30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。
30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】
授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしまってください。

【Outline (in English)】
This course will focus on reading articles and essays on United States to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of the USA.
The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about American society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.
Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】
速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験　まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用します。

【参考書】
その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　　30 %
試験（中間・期末）　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】
英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　30 %
試験　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を
合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤　清

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング (文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強) のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

【到達目標】
テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解し使えることができる。英語語彙力を身につける。(英単語レベル 4 以上をマスターする。) 短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、それに対する自分の意見を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニケーションスキルを培い、自信を持って話せることができる。リスニング, リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、提出されたリアクションペーパー、演習問題の回答についてフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合もあります。教科書の内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。授業時間以外でも Hoppii に出された課題に取り組み、継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。尚、プレゼンテーション実施の際は、視覚資料等の円滑な運用のため、ZOOM 等のツールを積極的に用います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation Summer Holiday Plans. Introduction to Life Topics changing views. The Joy of Anticipation	Planning for summer holiday plan. Anticipation is an important source of happiness.
Unit 2	Online Booking. How Long does it Take to Make a Friend?	How to book a ticket. People are naturally social and want to bond with one another.
Unit 3	In an airplane. How to Form Good Habits	Conversation in an airplane. We all have behaviors that we want to replace with good habits, but most of us have no idea how good habits are formed.
Unit 4	Exchanging Money. How to Become More Productive	Money Exchange. We all want to become more efficient at our jobs and at getting more done, but often we simply do not know how to do it.
Unit 5	At the Accommodation. Introverts and Extroverts	Where do you stay? Examples of introvert and extrovert character traits and behaviors
Unit 6	Smartphones and PCs. Social Media and Loneliness	SIM Free world. Is using social media good or bad for us? Why do you think so?
Unit 7	Using Uber. Five Healthy Habits	How to catch a taxi. What are five good habits that will keep you healthier and extend your life?
Unit 8	Public Transport. Are Humans Outdated Machines? Part I	Taking a train in UK. It has been said that humans are outdated machines. Do you agree or disagree?
Unit 9	A study tour. Are humans Outdated Machines? Part II	Go somewhere to do research. When we feel threatened or afraid, how can we control our stress? Explain.
Unit 10	Music Festival. The Happiness Set Point	Enjoy music. Can we boost our level of happiness? How much control do we have over our happiness? Express it in a percentage.
Unit 11	Ordering Food. The Hedonic Treadmill, Part I	Ordering Food. Does having a lot of nice, expensive possessions make you happy? Explain.
Unit 12	Shopping. The Hedonic Treadmill, Part II	Shopping. How can we control ourselves so that we don't get stuck on the hedonic treadmill?
Unit 13	Amusement. The Relationship between Cats and People	Enjoy sports. How and when did cats become humans' pets and begin to share our lives?
Unit 14	Emails. The power of Forgiveness, Part I & Part II	Emails. Is there someone you need to forgive? How important is it for you to do so? And How can you forgive another person?

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に Hoppii の学習システムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Textbook:　Travel English in Action　著者名: Burden Tyler
Publisher:　南雲堂, ISBN: 978-4-523-17942-9-C0082

【参考書】
英和辞典 (電子辞書・本型の辞書) など、英単語の意味を知る機能のあるものを持参すること。

【成績評価の方法と基準】
Grading Criteria
70 % 平常点: 英語によるプレゼンテーションの評価
20 % 課題評価: Forms、Hoppii 等の課題についての評価

10 % レポート評価: エッセー (英文) の内容
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii の課題等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【その他の重要事項】
特にありません。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real-world situations and emphasizing natural speech and vocabulary development.
Learning objectives: Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 70%: Evaluation of Hoppii's assignment 20%: Short reports: 10%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

深澤　清

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今後、海外で活躍することを考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English) を養う。本授業は 1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice) の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技能の向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】
日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル 4 程度をマスターする。) テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面による講義形態で行い、担当教員作成のオリジナルテキストに沿って授業を進めます。授業ではテキストの内容について解説し、演習問題の正答などのフィードバックは授業支援システムの Hoppii を積極的に活用します。テキストの内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。学生は英語によるプレゼンテーションを行い、自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。さらに Hoppii システムを活用して、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。正答のフィードバックも、主に Hoppii システムを使います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Conclusions/Reasons Should mothers stay at home until their children go to school?	Brainstorming & Organizing
Unit 2	Social Trend/Analysis Why are coffee shops so popular in Japan?	Informative Presentations: Place「場所」
Unit 3	Theory/ Proof Your eyebrows express more than your eyes.	Informative Presentations: Topical pattern「理論・実験結果」
Unit 4	Controversy What are the merits and demerits of the lifetime employment system?	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages「長所・短所型」
Unit 5	Comparison/Contrast Compare city life and country life	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method「比較優位法」
Unit 6	Classification Developed, rapidly developing, and still underdeveloped countries.	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」
Unit 7	Instructions How to stay fit.	Talk about Topical pattern
Unit 8	Chronological Order Write your CV, then re-write it as a paragraph	Informative Presentations: Time「時間」
Unit 9	Cause & Effect What effects have computers had on society?	Persuasive Presentations: Questions of Fact「事実型」
Unit 10	Process How to proceed with conversation	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method「問題解決法」
Unit 11	Explanation Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method「問題・原因・解決法」
Unit 12	Definition How to explain the meaning of the new words.	Persuasive Presentations: Talk about Topical pattern
Unit 13	Explanation Statistics	Informative Presentations: Concepts「概念型
Unit 14	Presentation Practice	Students give presentations.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に Hoppii の学習システムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員作成のオリジナルテキストを使用します。印刷物を授業中に配布します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
Grading Criteria
70 %　平常点: 英語によるプレゼンテーション等、
20 %　小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価
10 %　レポート: エッセー (英文)、レポート課題等の内容評価
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii の課題を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students acquire communicative ability and confidence in speaking English. It also enhances the development of students' skills in presentation skills.

Learning objectives: By the end of the course, students should be able to learn and do the followings; 1. Informative Presentations, 2. Persuasive Presentations, 3. Presentation Practice.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 70%: Evaluation of Hoppii's assignment 20%: Short reports: 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。

学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。

学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。

また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。

加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンスと第 1 回	Unit 1 What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー

第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before carees	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, リアクション・ペーパー
第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
￥2860(学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表（アウトプット）する。さらに、アンカーやレポーターの報道レポートの音声に自ら音読の声を被せてシャドウイングを実施する。そのシャドウイングの結果を各自録音し、mp3 ファイルに変換して Hoppii に提出する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システム Hoppii に関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム Hoppii」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe-You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 4 回目	Unit 4 Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork

第 5 回	Unit 5	Word Test
目	Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 6 回	Unit 6	Word Test
目	Do Happy People Live Long?	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 7 回	Unit 7	Word Test Unit
目	Selling Charity	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回	Unit 8	Word Test
目	The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation　Questionary for the fieldwork
第 9 回	Unit 9	Word Test
目	A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10	word test
目	How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11	Word TEst
目	True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12	Word Test
目	The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライン・レポート試験・まとめと解説	評価
目		
第 14 回	オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価
目		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN　Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000TAlk から、自由に選んで、毎回 TED　Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
CBS　NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido　（成美堂）ISBN9784791971862 ￥2860

【参考書】
CBS　News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
秋学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。
ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境、テキスト

【その他の重要事項】
対面授業のオフィースアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 ％, The word tests 10%, the mini tests 10 ％, homework 10 ％、presentations 10 ％、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 ％, on the total of 100 ％.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】
英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。
リアクションペーパー・課題等については、正答・解説・コメントによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	授業についての詳しい説明など
2	The New World	新世界について reading
3	Columbus	コロンブスについて exercise
4	New England	ニューイングランドについて reading
5	Southern Colonies	南部の植民地について exercise
6	Before the War of Independence	独立戦争以前について reading
7	The War of Independence	独立戦争について exercise
8	Lewis and Clark	ルイス　アンド　クラークについて reading
9	The West	西部について exercise
10	Americans Move West	西漸運動について reading
11	Pioneers	開拓者について exercise
12	Gold Rush	ゴールドラッシュについて reading
13	期末試験と総括	春学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4
　hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。
復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に見直し、深く理解できるようにする。
発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。
レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】
Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の点の総合で判断する。
期末試験及びレポート　60%
小テスト　10%
通常授業の成績　10%
発表　10%
平常点　10%
欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。
3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず辞書を持ってくること。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help sutudents widen the knowledge of American history and culture.
Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar anc vocabulary.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

當麻　幸子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国以前から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】
英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史、人物、文化などに関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを精読する。また、それぞれの章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。
リアクションペーパー・課題等については、正答・解説・コメントによってフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに（ガイダンス）	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明など
2	Slavery	奴隷制度について reading
3	The Civil War	南北戦争について exercise
4	The Great Depression	世界恐慌について reading
5	The New Deal	ニューディール政策について exercise
6	Before the Second World War	第二次世界大戦以前について reading
7	Pearl Harbor	真珠湾について exercise
8	Hitler	ヒトラーについて reading
9	The Pacific War	太平洋戦争について exercise
10	The Viet Nam War	ベトナム戦争について reading
11	After the Viet Nam War	ベトナム戦争後について exercise
12	The Expansion of the United States	領土拡張について reading
13	期末試験と総括	秋学期に学習した範囲から出題
14	まとめ	レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4
hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。
復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に見直し、深く理解できるようにする。
発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。
レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】
Events and Trends in American History, S. Kathleen Kitao, Kenji Kitao, 三修社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の点の総合で判断する。
期末試験及びレポート　60%
小テスト　10%
通常授業の成績　10%
発表　10%
平常点　10%
欠席が 4 回を超えた者は単位修得を認めない。
3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
必ず辞書を持ってくること。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help sutudents widen the knowledge of American history and culture.
Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar anc vocabulary.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水　純子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスは原則として対面形式です。

新時代の国際人に必要なものはなにか？　それは英語圏の言語と文化を知ることだけでなく、自国の文化と制度を客観的に理解し、英語で説明できる能力を備えることです。母国である日本のことを上手に説明できなければ、恥をかくばかりでなく、外国人の信用を得ることはできません。

『英語でニッポン再発見』（Exploring Japanese Culture through English）は総合教材です。「畳」や「お箸」「浴衣と着物」「ご祝儀袋」「犬猫事情」など、日本文化の興味深いテーマを英米文化と比較して説明します。300 語程度の英文で、語彙・内容理解・ライティング・リスニング・スピーキングなど豊富な練習問題を用意します。文法についても学生が意識して学べるように配慮しています。

【到達目標】
学生は、Exploring Japanese Culture through English（『英語でニッポン再発見』）のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、日本文化と英語圏文化の相違点と類似点や問題点を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。
このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

Through the study of the text " Exploring Japanese Culture through English", you students will learn vocabulary and phrases relevant to contemporary society, understand the differences, similarities, and problems between Japanese and English-speaking cultures, and improve your English language skills and abilities for living and working abroad. This course is designed to improve your English ability and skills for living and working abroad.
The goal of this course is to achieve a grade of A, B, or C.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもありえますが、詳細は学習支援システムでお知らせします。
演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。
1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながら CD を聞いて、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。
テキスト内音声は開文社の HP ダウンロードスによって利用可能です。
フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。

開文社定期用の音声ダウンロードは下記です。(教科書の表紙裏頁に記載)
http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Chapter 1 Gacha Toy Capsule and Tatami Mat Flooring	CD+Reading
3	Chapter 1 Gacha Toy Capsule and Tatami Mat Flooring	CD+Reading Exercises
4	Chapter 1 Gacha Toy Capsule and Tatami Mat Flooring	Exercises
5	Chapter 2 Wax Food Samples and Chopstics	Cd + Reading
6	Chapter 2 Wax Food Samples and Chopstics	CD+Reading Exercises
7	Chapter 2 Wax Food Samples and Chopstics	Exercises
8	Chapter 3 Yukata and Japanese Baths	CD+Reading
9	Chapter 3 Yukata and Japanese Baths	CD+Reading Exercises
10	Chapter 3 Yukata and Japanese Baths	Exercises
11	Chapter 4 Goshugi-Bukuro Envelopes for Celebrations	CD+Reading
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答＋まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
書籍名 Exploring Japanese Culture through English　英語でニッポン再発見/
著者名 Masanobu Horiguchi 他 /出版社 開文社/出版年 2022 年/
価格￥1900E(2,090 円)/ ISBN 978 − 4 − 87571 − 173 − 5 C1382/

【参考書】
各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。
開文社音声ダウンロード　http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【成績評価の方法と基準】
2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %）の総合判断による。60 点以上が合格点である。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

以上は対面授業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）
開文社音声ダウンロード　http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。
コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談。
教科書の音声は、開文社の HP にアクセスして使用できる。
http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】

As a rule, this class is face-to-face.

What is required of an international person in the new era?

It is not only to know the language and culture of English-speaking countries, but also to have an objective understanding of the culture and institutions of one's own country (Japan) and the ability to explain them
(Japan) in English. If you cannot explain well about your country, Japan, you not only tend to be embarrassed, but also you can have a risk of losing necessary trust of the foreigners.

"Exploring Japanese Culture through English" is a comprehensive textbook. Interesting themes of Japanese culture such as "tatami mats," "chopsticks," "yukata and kimono," "congratulatory gift bags," and "dog and cat affairs" will be explained in comparison with Anglo-American culture.

The 300-word reading part of the text is followed by a variety of exercises in vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking. I am sure that you students can also review your knowledge of English grammar.

This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.
The class format of face-to-face may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.
Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.

Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in three lessons. First we will listen to the CD video, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the Reading English text, and then we will do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.

In-text audio will be available through Kaibunsha website access.

The main method of feedback will be in-class critiques.

Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.
The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when face-to face classes are switched to online classes.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

清水　純子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスは原則として対面形式です。

新時代の国際人に必要なものはなにか？　それは英語圏の言語と文化を知ることだけでなく、自国の文化と制度を客観的に理解し、英語で説明できる能力を備えることです。母国である日本のことを上手に説明できなければ、恥をかくばかりでなく、外国人の信用を得ることはできません。

『英語でニッポン再発見』（Exploring Japanese Culture through English）は総合教材です。「畳」や「お箸」「浴衣と着物」「ご祝儀袋」「犬猫事情」など、日本文化の興味深いテーマを英米文化と比較して説明します。300 語程度の英文で、語彙・内容理解・ライティング・リスニング・スピーキングなど豊富な練習問題を用意します。文法についても学生が意識して学べるように配慮しています。

【到達目標】
学生は、Exploring Japanese Culture through English（『英語でニッポン再発見』）のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、日本文化と英語圏文化の相違点と類似点や問題点を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。
このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

Through the study of the text " Exploring Japanese Culture through English", you students will learn vocabulary and phrases relevant to contemporary society, understand the differences, similarities, and problems between Japanese and English-speaking cultures, and improve your English language skills and abilities for living and working abroad. This course is designed to improve your English ability and skills for living and working abroad.
The goal of this course is to achieve a grade of A, B, or C.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもありえますが、詳細は学習支援システムでお知らせします。
演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。
1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながら CD を聞いて、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。
テキスト内音声は開文社の HP ダウンロードによって利用可能です。
（テキスト表紙裏頁記載）
http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Chapter 5 Family Emblems and Kimono	CD+Reading
3	Chapter 5 Family Emblems and Kimono	CD+Reading, Exercises
4	Chapter 5 Family Emblems and Kimono	Exercises
5	Chapter 6 Mosquitoes and Beetles	CD + Reading
6	Chapter 6 Mosquitoes and Beetles	CD+Reading, Exercises
7	Chapter 6 Mosquitoes and Beetles	Exercises
8	Chapter 7 Cats and Dogs	CD+Reading
9	Chapter 7 Cats and Dogs	CD + Reading, Exercises
10	Chapter 7 Cats and Dogs	Exercises
11	Chapter 8 Broiled Eel, and Green Eel	CD+Reading
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答＋まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
書籍名 Exploring Japanese Culture through English　英語でニッポン発見/
著者名 Masanobu Horiguchi 他/ 出版社 開文社/出版年 2022 年/価格 2,090 円 /ISBN 978 − 4 − 8751-173 − 5/

【参考書】
各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

開文社音声ダウンロード　http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【成績評価の方法と基準】
2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %）の総合判断による。60 点以上が合格点である。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（紙、電子、web すべて可）
開文社音声ダウンロード　http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【その他の重要事項】
やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。
コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。
教科書の音声は、開文社の HP からダウンロードできる。
http://www.kaibunsha.co.jp/download/22173

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
As a rule, this class is face-to-face.
What is required of an international person in the new era?
It is not only to know the language and culture of English-speaking countries, but also to have an objective understanding of the culture and institutions of one's own country (Japan) and the ability to explain them
(Japan) in English. If you cannot explain well about your country, Japan, you not only tend to be embarrassed, but also you can have a risk of losing necessary trust of the foreigners.
"Exploring Japanese Culture through English" is a comprehensive textbook. Interesting themes of Japanese culture such as "tatami mats," "chopsticks," "yukata and kimono," "congratulatory gift bags," and "dog and cat affairs" will be explained in comparison with Anglo-American culture.
The 300-word reading part of the text is followed by a variety of exercises in vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking. I am sure that you students can also review your knowledge of English grammar.
This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.
The class format of face-to-face may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.
Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.
Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in three lessons. First we will listen to the CD video, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the Reading English text, and then we will do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.
In-text audio will be available through Kaibunsha website access.
The main method of feedback will be in-class critiques.
Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.
The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when face-to face classes are switched to online

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤　岳彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】
メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。
受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。
授業実施形態の説明
この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出､フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requres urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back	春学期で扱ったニュースをアンカーという切り口で総点検。
14	Presenters Strike Back	前回を受けて期末課題出題、期限、要領等詳細説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。
授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤岳彦、堤龍一郎　"A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition　5 刷　南雲堂
山根繁、山根キャサリン　"ABC Newsroom" 金星堂

【参考書】
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題、提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%
毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となるので準備されたい。

【Outline (in English)】
Course outline:
The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.
Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.
Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.
Outside of class, one hour of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.
Grading criteria/policy:
Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%
Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment.

As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤　岳彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】
リスニング力･語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。
メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。
受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。
尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back	春学期で扱ったニュースをアンカーという切り口で総点検。
14	Presenters Strike Back	前回を受けて期末課題出題、期限、要領等詳細説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。
授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷　南雲堂
山根繁、山根キャサリン "ABC Newsroom 4" 金星堂

【参考書】
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題・提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%
毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
出席確認、資料配布、課題提出等は、Google クラスルームと学習支援システムを通して実施予定。パソコンとマイク付きヘッドホンが必要となるので、準備されたい。

【Outline (in English)】
Course outline:
The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.
Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.
Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.
Outside of class, one hour of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.
Grading criteria/policy:
Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%
Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment.
As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

本間　章郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようになることを期待します。

【到達目標】
授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。
(1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
(2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
(3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
(4) 時事英語に頻出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予 定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 1: 国内政治	本文読解
第 3 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習
第 4 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	本文読解
第 5 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習
第 6 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	本文読解
第 7 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習
第 8 回	Chapter 4: 外交・国際会議	本文読解
第 9 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習
第 10 回	Chapter 5: 軍事	本文読解
第 11 回	Chapter 5: 軍事	問題演習
第 12 回	Chapter 6: 海外政治情勢	本文読解
第 13 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English for Mass Communication 2023 Edition（『時事英語の総合演習 ― 2023 年度版』）
堀江洋文他著　朝日出版社　2023 年　1800 円

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト（60%）、英作文（20%）、小テスト（20%）から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。
なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。
オンライン授業の場合も、授業の始めに点呼によって出席を確認します。但し、授業中、問題を当てて名前を呼んでも何の応答もない場合、あるいは課題などの提出がない場合は欠席 1 回となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、教科書以外のニュース記事の要約を受講生の方におこなってもらいますが、少し英文の分量が多かったのではないかと思います。今年は英文の分量を受講生に合わせて考えたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to comprehend news in English properly, memorize important words and improve English writing & listening.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, writing : 20%, quizzes: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

本間　章郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようになることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようになることを期待します。

【到達目標】
授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。
(1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
(2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
(3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
(4) 時事英語に頻出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進度と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予 定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 7: 文化・社会	本文読解
第 3 回	Chapter 7: 文化・社会	問題演習
第 4 回	Chapter 8: 犯罪・事件	本文読解
第 5 回	Chapter 8: 犯罪・事件	問題演習
第 6 回	Chapter 9: 裁判・法令	本文読解
第 7 回	Chapter 9: 裁判・法令	問題演習
第 8 回	Chapter 10: 地球環境・気象	本文読解
第 9 回	Chapter 10: 地球環境・気象	問題演習
第 10 回	Chapter 11: 食料・エネルギー	本文読解
第 11 回	Chapter 11: 食料・エネルギー	問題演習
第 12 回	Chapter 12: 人口問題	本文読解＆問題演習
第 13 回	Chapter 13: 科学・技術	本文読解＆問題演習
第 14 回	試験・まとめと解説	授業の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English for Mass Communication 2023 Edition（『時事英語の総合演習 ― 2023 年度版』）
堀江洋文他著　朝日出版社　2023 年　1800 円

【参考書】
参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト（60%）、英作文（20%）、小テスト（20%）から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。
なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位習得を認めないので注意してください。
オンライン授業の場合も、授業の始めに点呼によって出席を確認します。但し、授業中、問題を当てて名前を呼んでも何の応答もない場合、あるいは課題などの提出がない場合は欠席 1 回となります。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、教科書以外のニュース記事の要約を受講生の方におこなってもらいますが、少し英文の分量が多かったのではないかと思います。今年は英文の分量を受講生に合わせて考えたいと思います。

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to comprehend news in English properly, memorize important words and improve English writing & listening.
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
(Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, writing : 20%, quizzes: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田　剛

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】
1）英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
2）文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
3）分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。
前半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリスニングの演習
後半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリーディングの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半＋ CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Shocking Report on Poverty in the U.S. のリスニング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半＋ CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Shocking Report on Poverty in the U.S. のリーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半＋ CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Unexpected but Deserved のリスニング
5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半＋ CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Unexpected but Deserved のリーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半＋ CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Drug-Resistant Malaria Spreading のリスニング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半＋ CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Drug-Resistant Malaria Spreading のリーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半＋ CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Effects of Education for Girls のリスニング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半＋ CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Effects of Education for Girls のリーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半＋ CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Better Investment with Gender Balance のリスニング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半＋ CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Better Investment with Gender Balance のリーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半＋ CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Global Water Crisis のリスニング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半＋ CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Global Water Crisis のリーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】
CNN Short News for Listening: SDG s , 『CNN English Express』編集部編, (朝日出版社, 2022 年), ￥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著,(成美堂, 2019 年), ￥1,300 + tax

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】
· This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.
· After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.
· Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

余田　剛

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】
1）英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
2）文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
3）分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。
前半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリスニングの演習
後半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリーディングの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半＋ CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Pollution Warning for Southeast Asia のリスニング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半＋ CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Pollution Warning for Southeast Asia のリーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半＋ CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Law Helps Workers in Gig Economy のリスニング
5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半＋ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Law Helps Workers in Gig Economy のリーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半＋ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ SpaceX Launches Hyperloop Contest のリスニング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半＋ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ SpaceX Launches Hyperloop Contest のリーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半＋ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Billionaires Get Even Richer のリスニング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半＋ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Billionaires Get Even Richer のリーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半＋ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Hanoi Moves to Ban Motorbikes のリスニング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半＋ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Hanoi Moves to Ban Motorbikes のリーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半＋ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Apple Unveils Recycling Robot のリスニング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半＋ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Apple Unveils Recycling Robot のリーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】
CNN Short News for Listening: SDG s , 『CNN English Express』編集部編, (朝日出版社, 2022 年), ￥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著,(成美堂, 2019 年), ￥1,300 + tax

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】
· This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.
· After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.
· Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大和久　悌一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト１章分を２回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 1	Chapter 1　Washoku on the rise　和食が人気に（精読）
3	Chapter1	Chapter 1　Washoku on the rise　和食が人気に（再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas　女性型アンドロイドが男性をファッショニスタに（精読）
5	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas　女性型アンドロイドが男性をファッショニスタに（再読、リスニング、質疑応答）
6	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study　高校生の４分の１がネット依存（精読）
7	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study　高校生の４分の１がネット依存（再読、リスニング、質疑応答）
8	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products　日本の地産品を世界へ（精読）
9	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products　日本の地産品を世界へ（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master　ついに飼い主に会えたハチ公（精読）
11	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master　ついに飼い主に会えたハチ公（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly　高齢者のてすり（精読）
13	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly　高齢者のてすり（再読、リスニング、質疑応答）
14	Chapter 7	Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car　26 歳がスポーツカーをデザイン（精読）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語については授業後に復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English ―日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、期末試験４０%で評価します。３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。４回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoom などの動画に対応する必要はありません。

【Outline (in English)】
[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class.　[Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

大和久　悌一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト１章分を２回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality　客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）
3	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality　客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot　日本の災害救助ロボット（精読）
5	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot　日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）
6	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN　国連でお茶会（精読）
7	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN　国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）
8	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests　全国の労働者にストレステスト（精読）
9	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests　全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over　都心に新構想のビルの発表（精読）
11	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over　都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki　長崎のおくんち、始まる（精読）
13	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki　長崎のおくんち、始まる（再読、リスニング、質疑応答）
14	Chapter 14	Chapter 14 UN Women opens Japan office　国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に該当ページについては予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English ―日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、学期末試験４０%で評価します。３０分を過ぎた場合は遅刻とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。４回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で使用するテキストのタイトルは Everyday History です。その内容は、私たちの毎日の生活の中にある歴史を読み解くというものです。いうまでもなく、現在は過去の延長にあります。私たちは過去の歴史の積み重ねの上に生きており、私たちの現在の生活は未来の人々の在り方につながります。

学生は、このような問題意識に基づいた、コンテンポラリーな時事問題を取り上げた 300 字程度の英文エッセイを読みながら、英語読解能力向上を目指します。英文読解においては、英和辞典、和英辞典等、辞書の適切な使用が重要であり、この授業を通して辞書の使用法も身に着けます。英語は現在、ますます複雑化する世界情勢、そして世界の中の日本の立ち位置を読み解くうえで欠かせない言語となっています。英語を通した情報収集能力、発信力は現代世界で生きる私たちに必要不可欠なスキルです。

本授業を通して学生は、英語読解能力、それに必要な基礎的文法、ボキャブラリーを身に着けます。そして、このような生活のインフラと化した英語への心理的障壁を取り除き、英語に親しみ、英語を有効活用しながら力強い人生を生きる方法を学びます。

【到達目標】

学生は本授業を通して、以下の能力を身に着けます。
①英語学習の要である辞書の使用法を身に着ける。
② 300 字程度の英文記事を授業時間の半分である 50 分以内に正確に理解する。
③ヴォキャブラリーの強化、特に語幹や接尾語、接頭語、派生語を通した語彙の増強を行う。
④音読を通して単語の正確な発音を身に着ける。
⑤リスニングアクティヴィティを通したリスニング力の強化を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、輪読演習形式で行います。
2 週かけて Lesson を 1 つづつ進めていきます。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 10 日	授業ガイダンス	授業の方針説明
4 月 17 日	Lesson 1: Miracle Cure, or Just a Lemon?①	リーディング
4 月 24 日	Lesson 1: Miracle Cure, or Just a Lemon?②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
5 月 8 日	Lesson 2: Stolen Goods ①	リーディング
5 月 15 日	Lesson 2: Stolen Goods ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
5 月 22 日	Lesson 3: Okinawa Ink ①	リーディング
5 月 29 日	Lesson 3: Okinawa Ink ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
6 月 5 日	Lesson 4: No More Tears ①	リーディング
6 月 12 日	Lesson 4: No More Tears ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
6 月 19 日	Lesson 5: The Way of the Pub ①	リーディング
6 月 26 日	Lesson 5: The Way of the Pub ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
7 月 3 日	Lesson 6: Whodunnit ①	リーディング
7 月 10 日	Lesson 6: Whodunnit ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
7 月 17 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
学生は、授業前に準備学習として、各 Lesson の Looking Ahead を読み、分からない単語は辞書を引いて調べておく。
復習として、Looking Ahead の内容に対する答えを英語で書き、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】

【テキスト】Everydau History:現代から紐解く歴史と文化
【著者】Jim Kundsen, Yu Umemiya
【出版社】南雲堂
【出版年】2021 年
【価格】1980 円（税込み）

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト 20%、授業参加度 20%）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。
病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業を Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Students in this class read the textbook titled "Everyday History". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words written in natural English, and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students develop not only the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also "a sense of history" which this textbook presents as the main subject.
By the end of the course, students should be able to do the followings:

① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read questions in Looking Ahead at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write answers to these questions and submit them as a report through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業で使用するテキストのタイトルは Everyday History です。その内容は、私たちの毎日の生活の中にある歴史を読み解くというものです。いうまでもなく、現在は過去の延長にあります。私たちは過去の歴史の積み重ねの上に生きており、私たちの現在の生活は未来の人々の在り方につながります。

学生は、このような問題意識に基づいた、コンテンポラリーな時事問題を取り上げた 300 字程度の英文エッセイを読みながら、英語読解能力向上を目指します。英文読解においては、英和辞典、和英辞典等、辞書の適切な使用が重要であり、この授業を通して辞書の使用法も身に着けます。英語は現在、ますます複雑化する世界情勢、そして世界の中の日本の立ち位置を読み解くうえで欠かせない言語となっています。英語を通した情報収集能力、発信力は現代世界で生きる私たちに必要不可欠なスキルです。

本授業を通して学生は、英語読解能力、それに必要な基礎的文法、ボキャブラリーを身に着けます。そして、このような生活のインフラと化した英語への心理的障壁を取り除き、英語に親しみ、英語を有効活用しながら力強い人生を生きる方法を学びます。

【到達目標】
学生は本授業を通して、以下の能力を身に着けます。
①英語学習の要である辞書の使用法を身に着ける。
② 300 字程度の英文記事を授業時間の半分である 50 分以内に正確に理解する。
③ヴォキャブラリーの強化、特に語幹や接尾語、接頭語、派生語を通した語彙の増強を行う。
④音読を通して単語の正確な発音を身に着ける。
⑤リスニングアクティヴィティを通したリスニング力の強化を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、春学期と同じく輪読演習形式で行います。
2 週かけて Lesson を 1 つづつ進めていきます。が、Lesson 11 からはペースを速め、1 週で 1 Lesson を終わらせます。スムーズなペースで授業を進めるために事前学習が重要となります。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 25 日	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall ①	リーディング
10 月 2 日	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
10 月 9 日	Lesson 8: Queen Victoria's "Gift"①	リーディング
10 月 16 日	Lesson 8: Queen Victoria's "Gift"②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
10 月 23 日	Lesson 9: Two Scottish Heritahes ①	リーディング
10 月 30 日	Lesson 9: Two Scottish Heritahes ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 6 日	Lesson 10: Do you Believe in Magic?①	リーディング
11 月 13 日	Lesson 10: Do you Believe in Magic?②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 20 日	Lesson 11: That Sinking Feeling	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 27 日	Lesson 12: Famous Street Artist's Joke and Gesture	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 4 日	Lesson 13: Lost in Space-Almost	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 11 日	Lesson 14: A Zoo Story	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 18 日	Lesson 15: Olympian Progress	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
1 月 15 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

学生は、授業前に準備学習として、各 Lesson の Looking Ahead を読み、分からない単語は辞書を引いて調べておく。
復習として、Looking Ahead の内容に対する答えを英語で書き、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Everydau History:現代から紐解く歴史と文化
【著者】Jim Kundsen, Yu Umemiya
【出版社】南雲堂
【出版年】2021 年
【価格】1980 円（税込み）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。
病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Everyday History". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words written in natural English, and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students develop not only the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also "a sense of history" which this textbook presents as the main subject.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read questions in Looking Ahead at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write answers to these questions and submit them as a report through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大既　諒

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1 章につき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、Reading 1 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
2 回目の授業は、Reading 2 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
いずれの授業でも、本文の内容に関わるプレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明 予習の仕方の説明
第 2 回	Chapter 1	Reading 1 The Easter Parade
第 3 回	Chapter 1	Reading 2 Easter Candy
第 4 回	Chapter 2	Reading 1 Hip Hop
第 5 回	Chapter 2	Reading 2 Kendrick Lamer
第 6 回	Chapter 3	Reading 1 Rhythm and Blues
第 7 回	Chapter 3	Reading 2 Beyonce
第 8 回	Chapter 4	Reading 1 The Academy Awards
第 9 回	Chapter 4	Reading 2 Academy Members and Voting
第 10 回	Chapter 5	Reading 1 Ralph Lauren
第 11 回	Chapter 5	Reading 2 Tommy Hilfiger
第 12 回	Chapter 6	Reading 1 Fraternities and Sororities
第 13 回	Chapter 6	Reading 2 Higher Education in America
第 14 回	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示された箇所の予習を必ずおこなうこと。
発表担当者は、発表資料の作成をおこなう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Ryan Smithers, Craig Gamble『Modern America: Culture, Society and History　現代米国の文化・社会・歴史』、松柏社、2021 年、2200 円

【参考書】
英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
平常点（授業内での発表、発言、小テスト等を含む）40 %
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。
発表担当者が正当な理由なく準備を怠ったり欠席したりした場合は、単位を認定しない。
授業内での取り組みが著しく不十分であると判断した場合は、欠席と見なす。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム
オンライン授業で使用する PC もしくはタブレット端末

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。適宜チェックするようにしてください。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To acquire the ability to read English sentences accurately.
To acquire the ability to listen to English sentences accurately.
To Improve basic grammar skills.
To Increase vocabulary.
To acquire the ability to think logically.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%
in class contribution: 40%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

大既　諒

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1 章につき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、Reading 1 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
2 回目の授業は、Reading 2 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
いずれの授業でも、本文の内容に関わるプレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明 予習の仕方の説明
第 2 回	Chapter 7	Reading 1 Twitter
第 3 回	Chapter 7	Reading 2 Minds–Getting Paid for Posting
第 4 回	Chapter 8	Reading 1 Elon Musk
第 5 回	Chapter 8	Reading 2 SpaceX
第 6 回	Chapter 9	Reading 1 History of the Game
第 7 回	Chapter 9	Reading 2 Colin Kaepernick
第 8 回	Chapter 10	Reading 1 Humble Beginnings
第 9 回	Chapter 10	Reading 2 The Hollywood Walk of Fame
第 10 回	Chapter 11	Reading 1 The Man Behind the Mouse
第 11 回	Chapter 11	Reading 2 Imagining Disneyland
第 12 回	Chapter 12	Reading 1 A Symbol of Freedom & Mobility
第 13 回	Chapter 12	Reading 2 Tourist Attractions of Route 66
第 14 回	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示された箇所の予習を必ずおこなうこと。
発表担当者は、発表資料の作成をおこなう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Ryan Smithers, Craig Gamble『Modern America: Culture, Society and History　現代米国の文化・社会・歴史』、松柏社、2021 年、2200 円

【参考書】
英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
平常点（授業内での発表、発言、小テスト等を含む）40 %
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。
発表担当者が正当な理由なく準備を怠ったり欠席したりした場合は、単位を認定しない。
授業内での取り組みが著しく不十分であると判断した場合は、欠席と見なす。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム
オンライン授業で使用する PC もしくはタブレット端末

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。適宜チェックするようにしてください。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To acquire the ability to read English sentences accurately.
To acquire the ability to listen to English sentences accurately.
To Improve basic grammar skills.
To Increase vocabulary.
To acquire the ability to think logically.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%
in class contribution: 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小田井　勝彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を
鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】
・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 unit を 2 回のペースで進めていきます。教科書の本文については事前に予習が必要です。授業は教科書に沿って Pre-Reading Activity, Vocabulary Map, 本文の読解,Reading Exercise, Conversation, Group Presentation の順で進めていきます。随時、話題と関連する動画を視聴したり意見を書くなどリスニングやライティングの演習も行います。
授業内で回収した英作文など、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教科書、授業の進め方、成績評価について説明
第 2 回	Unit 1 Canada < 読解>	自然に恵まれたカナダ文化について学びます。
第 3 回	Unit 1 Canada < エクササイス>	Unit 1 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 4 回	Unit 2 Thailand < 読解>	香りにこだわるタイ文化について学びます。
第 5 回	Unit 2 Thailand < エクササイス>	Unit 2 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 6 回	Unit 3 Germany < 読解>	ビールを愛する環境先進国ドイツについて学びます。
第 7 回	Unit 3 Germany < エクササイス>	Unit 3 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 8 回	中間テスト	unit 1～unit3 を試験範囲とし、試験および解説をします
第 9 回	Unit 4　Turkey < 読解>	トルコにおけるコーヒーとお茶がつなぐ人情文化について学びます
第 10 回	Unit 4　Turkey < エクササイス>	Unit 4 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 11 回	Unit 5 Russia < 読解 >	極寒のロシア文化について学びます
第 12 回	Unit 5 Russia < エクササイス>	Unit 5 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 13 回	Unit 6 Israel < 読解 >	伝統と技術が融合するイスラエル文化について学びます
第 14 回	期末テスト	Unit 4～unit 6 を試験範囲とし、試験・まとめと解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本文に関して、わからない単語は辞書を引き、事前に読んでくること。授業後には聞き取れなかった箇所をもう一度聞き直す、文章の解釈を間違えた箇所を再度確認して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
松井夏津紀ほか『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』(南雲堂、2021)

【参考書】
『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典 (電子辞書も可) を各自用意して下さい

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35%、期末テスト 35%、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
単調な授業とならないように心がけたいと思います

【その他の重要事項】
欠席が 4 回以上の場合には原則単位認定は行わない。

【Outline (in English)】
This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about foreign cultures. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.
[Learning Objectives]
1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.
[Learning activities outside of classroom]
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
[Grading Criteria / Policy]
· mid-term test 35%
· term test 35%
· activities in class 30%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小田井　勝彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を
鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】
・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 unit を 2 回のペースで進めていきます。教科書の本文については事前に予習が必要です。授業は教科書に沿って Pre-Reading Activity, Vocabulary Map, 本文の読解,Reading Exercise, Conversation, Group Presentation の順で進めていきます。随時、話題と関連する動画を視聴したり意見を書くなどリスニングやライティングの演習も行います。
授業内で回収した英作文など、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 South Africa < 読解>	南アフリカの親睦文化について学びます
第 2 回	Unit 7 South Africa < エクササイス>	Unit 7 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 3 回	Unit 8 The United States < 読解>	自動車大国アメリカについて学びます。
第 4 回	Unit 8 The United States < エクササイス>	Unit 8 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 5 回	Unit 9 France < 読解>	効率重視のフランス文化について学びます
第 6 回	Unit 9 France < エクササイス>	Unit 9 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 7 回	中間テスト	unit 7～unit9 を試験範囲とし、試験および解説をします
第 8 回	Unit 10 Bangladesh < 読解>	混沌とのどかさを兼ね備えたバングラデシュ文化について学びます
第 9 回	Unit 10 Bangladesh < エクササイス>	Unit 10 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 10 回	Unit 11 New Zealand < 読解>	ニュージーランドの共生文化について学びます
第 11 回	Unit 11 New Zealand < エクササイス>	Unit 11 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 12 回	Unit 12 South Korea < 読解>	韓国の食で深まるきずな文化について学びます
第 13 回	Unit 12 South Korea < エクササイス>	Unit 12 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 14 回	期末テスト	Unit 10～unit 12 を試験範囲とし、試験・まとめと解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本文に関して、わからない単語は辞書を引き、事前に読んでくること。授業後には聞き取れなかった箇所をもう一度聞き直す、文章の解釈を間違えた箇所を再度確認して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
松井夏津紀ほか『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』(南雲堂、2021)

【参考書】
『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典 (電子辞書も可) を各自用意して下さい

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35%、期末テスト 35%、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
単調な授業とならないように心がけたいと思います

【その他の重要事項】
欠席が 4 回以上の場合には原則単位認定は行わない。

【Outline (in English)】
This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about foreign cultures. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.
[Learning Objectives]
1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.
[Learning activities outside of classroom]
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
[Grading Criteria / Policy]
· mid-term test 35%
· term test 35%
· activities in class 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語ニュース記事を読んでいきます。また、同テーマの別記事や動画ニュースなども併用し、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く・しゃべる練習なども行っていきます。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に頻出する基本単語を習得する。
・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。
授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 2-I: From Seaspeak to Singlish: celebrating other kinds of English	reading and listening
3	unit 2-II: From Seaspeak to Singlish: celebrating other kinds of English	reading and writing
4	unit 4-I: Future predictions for artificial intelligence and automation	reading and listening
5	unit 4-II: Future predictions for artificial intelligence and automation	reading and writing
6	unit 5-I: Take more proactive climate action	reading and listening
7	unit 5-II: Take more proactive climate action	reading and writing
8	unit 6-I: UNESCO "Japanese Food: Intangible Cultural Heritage"	reading and listening
9	Unit 6-II: UNESCO "Japanese Food: Intangible Cultural Heritage"	reading and writing
10	Unit 7-I: The origins of bathhouse culture around the world	reading and listening
11	Unit 7-II: The origins of bathhouse culture around the world	reading and writing
12	Unit 9-I: The history of Hanukkah	reading and listening
13	Unit 9-II: The history of Hanukkah	reading and writing
14	Review Exam	Units 2, 4, 5, 6, 7, and 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。
ほぼ毎週、授業前日が締切の予習テストと復習テストを Hoppii 上で行います。
英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。
本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河原真也・伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉　15 Doors to Global Issues』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習テスト： 15 %
毎週の復習テスト： 15 %
ライティング課題： 20%
積極的なクラス参加（予習・リスニングテスト・クラス内発表含む）： 25 %
期末テスト： 25 %

【学生の意見等からの気づき】
構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】
原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn reading/listening/writing skills in English, using English News articles on diverse issues.
【Learning Objectives】
Students will learn to read English newspaper articles with more ease.
They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.
【Grading Criteria/Policy】
Students who miss more than 3 classes won't get a credit.
weekly preparatory exam ： 15%

weekly review exam ： 15%
writing assignments:20%
active class participation (including listening exams and presentations) ： 25%
final exam:25%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

竹内　晶子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語ニュース記事を読んでいきます。また、同テーマの別記事や動画ニュースなども併用し、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く・しゃべる練習なども行っていきます。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に頻出する基本単語を習得する。
・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。
授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	Unit 10-I: Fashion history: dandyism	reading and listening
3	Unit 10-II: Fashion history: dandyism	reading and writing
4	Unit 11-I: A city's art biennial can be like watching an army of curatorial truffle pigs'	reading and listening
5	Unit 11-II: A city's art biennial can be like watching an army of curatorial truffle pigs'	reading and writing
6	Unit 12-I: Should literature be useful?	reading and listening
7	Unit 12-II: Should literature be useful?	reading and writing
8	Unit 13-I: Bottles and bricks still get thrown over the wall...	reading and listening
9	Unit 13-II: Bottles and bricks still get thrown over the wall...	reading and writing
10	Unit 14-I: On reading old books	reading and listening
11	Unit 14-II: On reading old books	reading and writing
12	Unit 15-I: Marriage	reading and listening
13	Unit 15-II: Marriage	reading and writing
14	Review Exam	Units 10-15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。
ほぼ毎週、授業前日が締切の予習テストと復習テストを Hoppii 上で行います。
英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。
本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河原真也・伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉　15 Doors to Global Issues』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習テスト： 15 %
毎週の復習テスト： 15 %
ライティング課題： 20%
積極的なクラス参加（予習・リスニングテスト・クラス内発表含む）： 25 %
期末テスト： 25 %

【学生の意見等からの気づき】
構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】
原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn reading/listening/writing skills in English, using English News articles on diverse issues.
【Learning Objectives】
Students will learn to read English newspaper articles with more ease.
They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.
【Grading Criteria/Policy】
Students who miss more than 3 classes won't get a credit.
weekly preparatory exam ： 15%
weekly review exam ： 15%
writing assignments:20%
active class participation (including listening exams and presentations) ： 25%
final exam:25%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松　美映子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。学生は、経済、仕事、社会と文化、言語と学習、科学技術の分野を学んでいきます。学生は、学びを通して、様々な視点をもって物事をとらえることができるようになります。

【到達目標】
学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。
1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さの英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
< テキストの学習>
1. Introduction
2. Key Vocabulary
3. Reading
4. True or False
5. Finding Specific Information
6. Summary
7. What do you think?
課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。
メールアドレスは授業中にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	テキストの学習	100-yen shops: Still going strong (3 まで)
3	テキストの学習	100-yen shops: Still going strong (4 以降)
4	テキストの学習	Work-life balance: Do it like the Germans (3 まで)
5	テキストの学習	Work-life balance: Do it like the Germans (4 以降)
6	テキストの学習	Lasting the ages: Japan's 200-year-old companies (3 まで)
7	テキストの学習	Lasting the ages: Japan's 200-year-old companies (4 以降)
8	テキストの学習	Universal basic income: An idea whose time has come? (3 まで)
9	テキストの学習	Universal basic income: An idea whose time has come? (4 以降)
10	テキストの学習	Remote work: A new way to live and work (3 まで)
11	テキストの学習	Remote work: A new way to live and work (4 以降)
12	テキストの学習	Tricks of the trade: How companies get us spend? (3 まで)
13	テキストの学習	Tricks of the trade: How companies get us spend? (4 以降)
14	春学期のまとめ	質問、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下のように、準備学習、復習をする。
1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。）
2. 復習（テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。）
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Dave Rear（2022) Understanding the World Today, Seibido.2nd edition

【参考書】
VOA Learning English https://learningenglish.voanews.com/

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80 %、平常点 20 %　合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、テキストの英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。
期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気けがで期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。
平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
新しいテキストを使用するので、学生の理解度をみながら授業を進めていきたい。
例年、音声英語が苦手な学生が多いので、丁寧にみていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書を持参すること　（iphone でも構わない）

【その他の重要事項】
マスク着用の上、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えることがあります。
担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. The students are to study economy and work, culture and society, language and culture, and science and technology. Through classes, the students will be able to understand things from many points of views,
< Goals >

The students will attain the following goals in this term:
1.To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4.To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.
< Work to be done outside class >
The students will prepare for the class and review the class as follows:
1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.
(The students have to understand where to ask in the next class.)
2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)
The students need to study one hour for this class.
< Grading criteria >
Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%
The students cannot be absent from class more than four times for credits.
The students will be judged if they attain five goals above.
The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control (illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.
Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

村松　美映子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。学生は、経済、仕事、社会と文化、言語と学習、科学技術の分野を学んでいきます。学生は、学びを通して、様々な視点をもって物事をとらえることができるようになります。

【到達目標】
学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。
1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さの英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
< テキストの学習>
1. Introduction
2. Key Vocabulary
3. Reading
4. True or False
5. Finding Specific Information
6. Summary
7. What do you think?
課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。
メールアドレスは授業中にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキストの学習	The secret life of gamers: The boy who escaped his body (3 まで)
2	テキストの学習	The secret life of gamers: The boy who escaped his body (4 以降)
3	テキストの学習	Social media: Big tech's addiction to addiction (3 まで)
4	テキストの学習	Social media: Big tech's addiction to addiction (4 以降)
5	テキストの学習	Super solos: Catering to Japan's singletons (3 まで)
6	テキストの学習	Super solos: Catering to Japan's singletons (4 以降)
7	テキストの学習	ここまでの復習、進度の調整、質問
8	テキストの学習	Happiness: What is the secret? (3 まで)
9	テキストの学習	Happiness: What is the secret? (4 以降)
10	テキストの学習	Dialects: How English is spoken across the world (3 まで)
11	テキストの学習	Dialects: How English is spoken across the world (4 以降)
12	テキストの学習	Child Prodigies: Raising a little genius (3 まで)
13	テキストの学習	Child Prodigies: Raising a little genius (4 以降)
14	春学期のまとめ	質問、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下のように、準備学習、復習をする。
1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。）
2. 復習（テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。）
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Dave Rear（2022) Understanding the World Today, Seibido.2nd edition

【参考書】
VOA Learning English https://learningenglish.voanews.com/

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80 %、平常点 20 %　合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、テキストの英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。
期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気けがで期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。
平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
新しいテキストを使用するので、学生の理解度をみながら授業を進めていきたい。
例年、音声英語が苦手な学生が多いので、丁寧にみていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書を持参すること　（iphone でも構わない）

【その他の重要事項】
マスク着用の上、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えることがあります。
担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. The students are to study economy and work, culture and society, language and culture, and science and technology. Through classes, the students will be able to understand things from many points of views.
< Goals >

The students will attain the following goals in this term:
1.To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4.To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.
< Work to be done outside class >
The students will prepare for the class and review the class as follows:
1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.
(The students have to understand where to ask in the next class.)
2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)
The students need to study one hour for this class.
< Grading criteria >
Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%
The students cannot be absent from class more than four times for credits.
The students will be judged if they attain five goals above.
The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control (illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.
Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 3 回	Unit 1: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 4 回	Unit 2: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 5 回	Unit 2: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 6 回	Unit 3: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 7 回	Unit 3: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 8 回	Unit 4: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 9 回	Unit 4: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 10 回	Unit 5: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 11 回	Unit 5: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 12 回	Unit 6: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America Today: Culture, Society and History（松柏社，2022)

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 3 回	Unit 7: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 4 回	Unit 7: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 5 回	Unit 8: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 6 回	Unit 8: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 7 回	Unit 9: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 8 回	Unit 9: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 9 回	Unit 10: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 10 回	Unit 10: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 11 回	Unit 11: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 12 回	Unit 11: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America Today: Culture, Society and History（松柏社，2022)

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川　真紀

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も身につけます。

【到達目標】
1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセント にも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。 授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等　選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等　導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等　詳細	投票で決めた記事の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの詳細を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト（教科書）】
『*Megatrends Shaping Our Future*（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】
辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、記事紹介課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), journal article assignments (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

利根川　真紀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】
1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1〜11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12〜24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック
9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト詳細	スクリプトの細部を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブックプレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】
『*Megatrends Shaping Our Future*（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】
辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、ブックプレゼンテーション課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), book presentation (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。
課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
精読や英文解釈については毎回授業内で都度確認、説明を行うので必ず予習をすること。
課題に関しても小テストとは別に提出を必要とする。
なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXhapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chpter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Uni7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行　2021 年第 7 刷発行　2000 円＋税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。
課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
精読や英文解釈については毎回授業内で都度確認、説明を行うので必ず予習をすること。
課題に関しても小テストとは別に提出を必要とする
なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Uni4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行　2000 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原　眞一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。
授業は３技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト Inside Science の映像付き記事から 15 トピックが厳選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition-Exercise などの設問が付けられた総合英語教材を使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。
また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】
学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点において 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "No Moon at All?"［月のない地球はいったいどうなる？］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "No Moon at All"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires"［科学を武器に山火事と闘う］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes"［雪の結晶に魅せられた写真家］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather"［高度情報化社会における防災］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Unit 5 "Is Love an Addiction?"［恋愛をつかさどる脳の働き］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "Is Love an Addiction?"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Unit 6 "Self-Driving Future"［未来に向けたハイテク搭載車両］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "Self-Driving Future"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信他編著『Inside Science ―映像で学ぶ最新科学の深層』（金星堂、2021 年）2000 円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of Inside Science, an editorially independent news service of the American Institute of Physics. Participants can learn what is really happening in science and how it connects to our life and the world around us.
This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

萩原　眞一

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。
授業は３技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト Inside Science の映像付き記事から 15 トピックが厳選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition-Exercise などの設問が付けられた総合英語教材を使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。
また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】
学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点において 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 "Aiming for a Perfect Squeeze"［ハスに学ぶムダのない生活］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 7 "Aiming for a Perfect Squeeze"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Unit 8 "Identifying Fake Drugs"［偽造薬を見破るアプリ］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 8 "Identifying Fake Drugs"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"［ゴミのない安全な宇宙空間を］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 8 回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"［火星の過酷なミッションを助ける新素材とは？］①	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 9 回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"②	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 10 回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"［鳥から学ぶムダなき究極の飛行術］①	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 11 回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"②	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 12 回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"［新局面を迎えたバイオ燃料開発］①	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 13 回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"②	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信他編著『Inside Science ―映像で学ぶ最新科学の深層』（金星堂、2021 年）2000 円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of Inside Science, an editorially independent news service of the American Institute of Physics. Participants can learn what is really happening in science and how it connects to our life and the world around us.
This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。書かれた／話された内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは批判的思考も意識しつつ全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。また、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、スピーキングや音読のモデルとして音読練習に活用し、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末テスト等で確認します。質問や小テスト等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。Unit 1 Cross-cultural understanding 導入	授業の概要説明。リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 1 High & Low 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 2 Foods 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 2 Sustaining Culture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 3 Foreign language learning 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 3 Will Machine Translation Replace Human Translators? 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 4 Sports 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
8	Unit 4 Obstacle Course Racing 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 5 Fashion 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 5 The History of Jeans 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 6 Living things 導入。プレゼンテーション・リハーサル導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 6 Safer Distance 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバイス
13	期末テスト。プレゼンテーションのリハーサルと春学期の復習	春学期末テスト。プレゼンテーションの準備・練習・アドバイス。春学期の総復習
14	プレゼンテーション。春学期のまとめ	発表・質疑応答・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も準備 (2) 会話と文章の主旨の把握。未知の語句は文脈から類推、続いて辞書で確認 (3) パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で情報収集し視野を広げる
③プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備、原稿を指示に沿って期限内に提出、リハーサル・推敲する
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭　編著、*AMBITIONS Intermediate*（４技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 25%、プレゼンテーション 25%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックでいろいろな能力を鍛えることができ楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください

【その他の重要事項】
授業の連絡事項・課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. They will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (25%), final presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。書かれた／話された内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは批判的思考も意識しつつ全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。また、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、スピーキングや音読のモデルとして音読練習に活用し、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末テスト等で確認します。質問や小テスト等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Art 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 7 Moving Pictures, Before There Were Movies 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 8 Global issues 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 8 Jack's Cambodian Blog 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 9 Japanese culture 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 9 Cosplay: Bringing Anime to Life 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 10 Human rights 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
8	Unit 10 Terrorism and Torture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 11 Health & medical issues 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 11 How to Live a Long Life: Secrets of the Japanese 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 12 Environmental issues 導入。プレゼンテーション・リハーサル導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 12 Great Barrier Reef Speech 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバイス
13	期末テスト。プレゼンテーション・リハーサルと秋学期の復習	秋学期末テスト。プレゼンテーション・リハーサル。秋学期の総復習
14	プレゼンテーション。秋学期のまとめ	発表・質疑応答・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も準備 (2) 会話と文章の主旨の把握。未知の語句は文脈から類推、続いて辞書で確認 (3) パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で情報収集し視野を広げる
③プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備、原稿を指示に沿って期限内に提出、リハーサル・推敲する
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭　編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 25%、プレゼンテーション 25%の割合で、上記到達目標(1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックでいろいろな能力を鍛えることができ楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください

【その他の重要事項】
授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. They will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (25%), final presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原　眞一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。
授業は３技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト Inside Science の映像付き記事から 15 トピックが厳選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition-Exercise などの設問が付けられた総合英語教材を使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。
また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】
学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点において 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "No Moon at All?"［月のない地球はいったいどうなる？］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "No Moon at All?"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires"［科学を武器に山火事と闘う］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "Tackling Violent Wildfires"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes"［雪の結晶に魅せられた写真家］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "The Beauty of Snowflakes"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather"［高度情報化社会における防災］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "Coping with the Extreme Weather"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Unit 5 "Is Love an Addiction?"［恋愛をつかさどる脳の働き］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "Is Love an Addiction?"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Unit 6 "Self-Driving Future"［未来に向けたハイテク搭載車両］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "Self-Driving Future"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信他編著『Inside Science ―映像で学ぶ最新科学の深層』（金星堂、2021 年）2000 円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of Inside Science, an editorially independent news service of the American Institute of Physics. Participants can learn what is really happening in science and how it connects to our life and the world around us.
This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

萩原　眞一

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。
授業は３技能（リーディング、ライティング、リスニング）およびグラマーの学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、米国の科学ニュースサイト Inside Science の映像付き記事から 15 トピックが厳選され、それぞれに Vocabulary Build-Up や Composition-Exercise などの設問が付けられた総合英語教材を使用します。毎回授業中に DVD を視聴し、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。
また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法の習得を目指します。

【到達目標】
学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点において 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎授業、講義と演習を繰り返します。課した宿題をその都度点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 "Aiming for a Perfect Squeeze"［ハスに学ぶムダのない生活］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 7 "Aiming for a Perfect Squeeze"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Unit 8 "Identifying Fake Drugs"［偽造薬を見破るアプリ］① Unit 1 "No Moon at All?"［月のない地球はいったいどうなる？］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 8 "Identifying Fake Drugs"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"［ゴミのない安全な宇宙空間を］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 9 "Dangerous Debris in Space"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"［火星の過酷なミッションを助ける新素材とは？］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 10 "A Safer Mission to Mars"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"［鳥から学ぶムダなき究極の飛行術］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 11 "Birds Know How to Glide"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"［新局面を迎えたバイオ燃料開発］①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 12 "Better Biofuels from Corn"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
野崎嘉信他編著『Inside Science ―映像で学ぶ最新科学の深層』（金星堂、2021 年）2000 円（税別）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of Inside Science, an editorially independent news service of the American Institute of Physics. Participants can learn what is really happening in science and how it connects to our life and the world around us.
This course also aims to improve the academic writing skill participants will be asked to gain as undergraduates.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤　岳彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】
メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。
受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。
授業実施形態の説明
この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出､フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requres urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back	秋学期で扱ったニュースをアンカーという切り口で総点検。
14	Presenters Strike Back	前回を受けて期末課題出題、期限、要領等詳細説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。
授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤岳彦、堤龍一郎　"A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition　5 刷　南雲堂
山根繁、山根キャサリン　"ABC Newsroom" 金星堂

【参考書】
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題、提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%
毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となるので準備されたい。

【Outline (in English)】
Course outline:
The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.
Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.
Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.
Outside of class, one hour of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.
Grading criteria/policy:
Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%
Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment.

As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤　岳彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】
リスニング力･語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。
メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。
受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。
尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back	秋学期で扱ったニュースをアンカーという切り口で総点検。
14	Presenters Strike Back	前回を受けて期末課題出題、期限、要領等詳細説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。
授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷　南雲堂
山根繁、山根キャサリン "ABC Newsroom 4" 金星堂

【参考書】
新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題・提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%
毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
出席確認、資料配布、課題提出等は、Google クラスルームと学習支援システムを通して実施予定。パソコンとマイク付きヘッドホンが必要となるので、準備されたい。

【Outline (in English)】
Course outline:
The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.
Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.
Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.
Outside of class, one hour of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.
Grading criteria/policy:
Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%
Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment.
As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
使用教科書は、興味深いさまざまなトピックを通じて現代を読み解きつつ、歴史との関連を学べる、平易な英語で書かれた読み物を軸に構成されている。リーディング・スキルを中心として総合的に英語力を養いつつ、大学生にふさわしい教養・知識を身につける。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2．平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3．読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
各授業の最後に、理解を確かめるためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業、英語学習についての説明。
2	Lesson 1 Miracle Cure, or Just a Lemon? 前半	Part 1, Part 2
3	Lesson 1 Miracle Cure, or Just a Lemon? 後半	Part 3, Part 4
4	Lesson 2: Stolen Goods 前半	Part 1, Part 2
5	Lesson 2: Stolen Goods 後半	Part 3, Part 4
6	Lesson 3: Okinawa Ink	Part 1, Part 2
7	復習（1）	Lesson 1～3 の復習と復習試験の実施
8	Lesson 4: No More Tears	Part 1, Part 2
9	Lesson 5: The Way of the Pub 前半	Part 1, Part 2
10	Lesson 5: The Way of the Pub 後半	Part 3, Part 4
11	Lesson 6: Whodunnit 前半	Part 1, Part 2
12	Lesson 6: Whodunnit 後半	Part 3, Part 4
13	復習（2）	Lesson 4～6 の復習と復習試験の実施
14	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall	各自のレポートをもとにしたグループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。(1)Part 1（読み物) については、音声（教科書会社のサイトからダウンロード可能）を聞きながら読み、不明点を辞書等でできる限り調べておく。(2)Part 2～Part 4（付属の問題）については各問の指示に従って解いておく。
予習時の不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけるか、ノートに書き出しておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準 とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, annotated by Yu Umemiya,『Everyday History 現代から紐解く歴史と文化』南雲堂，2021 年.

【参考書】
高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リフレクションペーパー、小レポートなど）25 %、および復習試験（2 回）75 %の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークにより学生同士で学び合う時間を十分に設ける。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・オンライン授業を教室で受講する場合は、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns the intriguing links between the past and the present, covering a wide range of topics from “science to slavery, books to sports, art to magic,” as the preface says. Through reading the passages and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and gain intellectual knowledge required for university students.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers and short report(s) (25%), and the mid-term and end-term exams (75%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
使用教科書は、興味深いさまざまなトピックを通じて現代を読み解きつつ、歴史との関連を学べる、平易な英語で書かれた読み物を軸に構成されている。リーディング・スキルを中心として総合的に英語力を養いつつ、大学生にふさわしい教養・知識を身につける。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2．平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3．読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
各授業の最後に、理解を確かめるためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 8 Queen Victoria's "Gift"前半	Part 1, Part 2
2	Lesson 8 Queen Victoria's "Gift"後半	Part 3, Part 4
3	Lesson 9 Two Scottish Heritages	Part 1, Part 2
4	Lesson 10 Do You Believe in Magic? 前半	Part 1, Part 2
5	Lesson 10 Do You Believe in Magic? 後半	Part 3, Part 4
6	復習（1）	Lesson 8～10 の復習および復習試験実施
7	Lesson 11 That Sinking Feeling	Part 1, Part 2
8	Lesson 12 Famous Street Artist's Joke and Gesture 前半	Part 1, Part 2
9	Lesson 12 Famous Street Artist's Joke and Gesture 後半	Part 3, Part 4
10	Lesson 14 A Zoo Story 前半	Part 1, Part 2
11	Lesson 14 A Zoo Story　後半	Part 3, Part 4
12	Lesson 15 Olympian Progress	Part 1, Part 2
13	復習（2）	Lesson 11, 12, 14,15 の復習・復習試験実施
14	Lesson 13 Lost in Space，Part 4	各自のレポートをもとにしたグループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。(1)Part 1（読み物) については、音声（教科書会社のサイトからダウンロード可能）を聞きながら読み、不明点を辞書等でできる限り調べておく。(2)Part 2～Part 4（付属の問題）については各問の指示に従って解いておく。
予習時の不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけるか、ノートに書き出しておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Knudsen, annotated by Yu Umemiya,『Everyday History 現代から紐解く歴史と文化』南雲堂，2021 年.

【参考書】
高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リフレクションペーパー、小レポートなど）25 %、および復習試験（2 回）75 %の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークにより学生同士で学び合う時間を十分に設ける。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・オンライン授業を教室で受講する場合は、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns the intriguing links between the past and the present, covering a wide range of topics from "science to slavery, books to sports, art to magic," as the preface says. Through reading the passages and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and gain intellectual knowledge required for university students.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers and short report(s) (25%), and the mid-term and end-term exams (75%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田　剛

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】
1）英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
2）文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
3）分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。
前半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリスニングの演習
後半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリーディングの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半＋ CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Shocking Report on Poverty in the U.S. のリスニング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半＋ CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Shocking Report on Poverty in the U.S. のリーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半＋ CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Unexpected but Deserved のリスニング
5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半＋ CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Unexpected but Deserved のリーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半＋ CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Drug-Resistant Malaria Spreading のリスニング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半＋ CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Drug-Resistant Malaria Spreading のリーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半＋ CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Effects of Education for Girls のリスニング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半＋ CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Effects of Education for Girls のリーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半＋ CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Better Investment with Gender Balance のリスニング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半＋ CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Better Investment with Gender Balance のリーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半＋ CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現＋ Global Water Crisis のリスニング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半＋ CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング＋ Global Water Crisis のリーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】
CNN Short News for Listening: SDG s , 『CNN English Express』編集部編, (朝日出版社, 2022 年), ￥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著,(成美堂, 2019 年), ￥1,300 + tax

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】
· This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.
· After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.
· Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

余田　剛

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】
1）英語の運用能力
より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。
2）文化理解
世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。
3）分からないことを調べる姿勢
さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。
前半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリスニングの演習
後半の回:
・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4
・CNN のテキスト各 Unit 中、ニュースのリーディングの演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半＋ CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Pollution Warning for Southeast Asia のリスニング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半＋ CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Pollution Warning for Southeast Asia のリーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半＋ CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Law Helps Workers in Gig Economy のリスニング
5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半＋ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Law Helps Workers in Gig Economy のリーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半＋ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ SpaceX Launches Hyperloop Contest のリスニング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半＋ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ SpaceX Launches Hyperloop Contest のリーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半＋ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Billionaires Get Even Richer のリスニング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半＋ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Billionaires Get Even Richer のリーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半＋ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Hanoi Moves to Ban Motorbikes のリスニング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半＋ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Hanoi Moves to Ban Motorbikes のリーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半＋ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 ＋ Apple Unveils Recycling Robot のリスニング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半＋ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Apple Unveils Recycling Robot のリーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】
CNN Short News for Listening: SDG s , 『CNN English Express』編集部編, (朝日出版社, 2022 年), ￥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著,(成美堂, 2019 年), ￥1,300 + tax

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】
· This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.
· After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.
· Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

宇野　毅

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・現代英語の総合的学力向上
・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】
・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。
・対面授業を基本とするが、状況によって変わることがあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction Chapter 1 Trainspotting（前半）	イギリスの鉄道： 本文理解・解説 意見交換
第 2 回	Chapter 1 Trainspotting（後半）	鉄道事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 3 回	Chapter 2 Pedal Power（前半）	イギリスの自転車事情 本文理解・解説 意見交換
第 4 回	Chapter 2 Pedal Power（後半）	自転車利用の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 5 回	Chapter 3 Crime and Punishment （前半）	イギリスの犯罪事情 本文理解・解説 意見交換
第 6 回	Chapter 3 Crime and Punishment （後半）	犯罪事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 7 回	Chapter 4 Power to the People （前半）	イギリス人の権利 本文理解・解説 意見交換
第 8 回	Chapter 4 Power to the People （後半）	権利意識の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 9 回	Chapter 5 Please, Belt Up! （前半）	イギリスの自動車事情 本文理解・解説 意見交換
第 10 回	Chapter 5 Please, Belt Up! （後半）	自動車事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 11 回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines（前半）	イギリスの自動販売機は？ 本文理解・解説 意見交換
第 12 回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines（後半）	自動販売機の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 13 回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? （前半）	英国の気候 本文理解・解説 意見交換
第 14 回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? （後半）	気候の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業出席には、必ず予習が必須である。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2 時間を標準とする。
・(できれば紙の) 辞書持参も必須である。

【テキスト（教科書）】
Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』(南雲堂)

【参考書】
授業開講時に教室で指示する

【成績評価の方法と基準】
・期末試験等７０点・平常点３０点（計１００点）で、６０点以上を合格基準として評価する。
・原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】
・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline (in English)】
・Perfect understanding of the English Language and culture
・Improvement of the English 4 skills

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野　毅

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・現代英語の総合的学力向上。
・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】
・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。
・対面授業を基本とするが、状況によって変わることがあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8 The Graduate 前半	英語圏の卒業式 本文理解・解説 意見交換
第 2 回	Chapter 8 The Graduate 後半	卒業式の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 3 回	Chapter 9 A Change for the Worse 前半	欧米人の食事傾向 本文理解・解説 意見交換
第 4 回	Chapter 9 A Change for the Worse 後半	食事の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 5 回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 前半	車の環境問題 本文理解・解説 意見交換
第 6 回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 後半	日英環境比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 7 回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 前半	イギリスの選挙 本文理解・解説 意見交換
第 8 回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 後半	日英政治比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 9 回	Chapter 12 Taxi! 前半	欧米のタクシー事情 本文理解・解説 意見交換
第 10 回	Chapter 12 Taxi! 後半	日英タクシー事情比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 11 回	Chapter 13 Responsible Sleeping 前半	仕事と睡眠 本文理解・解説 意見交換
第 12 回	Chapter 13 Responsible Sleeping 後半	日英ライフワークバランス比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 13 回	Chapter 14 That's Rubbish! 前半	イギリスの環境問題 本文理解・解説 意見交換
第 14 回	Chapter 14 That's Rubbish! 後半	日英環境問題比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業出席には、必ず予習が必須である。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2 時間を標準とする。
・(できれば紙の) 辞書持参も必須である。

【テキスト（教科書）】
Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』(南雲堂)

【参考書】
授業開講時に教室で指示する

【成績評価の方法と基準】
・期末試験等７０点・平常点３０点（計１００点）で、６０点以上を合格基準として評価する。
・原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】
・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline (in English)】
・Perfect understanding of English Language and culture
・Improvement of the English 4 skill

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光旅行、ビジネス、留学などの可能性が増している。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得する。前期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法の頭ごなし訳などの訳出テクニックを習得する。基礎的な英語を復習しながら、更に英語力のレベルアップを図る。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を向上させ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと自己紹介ゲーム	授業内容、授業の進め方、成績のつけ方、出欠について説明する。自己紹介をする。
2	Unit 1 Counting Calories	ダイエットに関しての語彙や英語表現について学ぶ。
3	Unit 1 Dieting: Japan VS. America	食について、日本とアメリカの考え方の違いについて学ぶ。
4	Unit 2 A New Sports Tradition	新しいスポーツの伝統として、テールゲートパーティーについて学ぶ。
5	Unit 2 The Tailgate Party	テールゲートパーティーの内容や、それに関しての語彙や英語表現について学ぶ。
6	Unit 3 As American as Apple Pie	お茶に招かれて、手作りのアップルパイを出される設定の会話を学ぶ。
7	Unit 3 An Apple a Day	リンゴの栄養や、歴史について、語彙や英語表現を学ぶ。
8	Unit 4 The Shimannto River and Sweetfish Dishes	四万十川と鮎料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
9	Unit 4 Best-Before and Use-By Dates	賞味期限と消費期限の意味について、語彙と英語表現について学ぶ。
10	Unit 5 Drive-Thru	ドライブスルーでの会話について、語彙と英語表現について学ぶ。
11	Unit 5 Cooking for a Family VS. Eating Out	家庭料理 VS 外食のテーマで、食文化の変化について、語彙や英語表現について学ぶ。
12	Unit 6 Mother's Curry	日本のカレーとインドのカレーの違いについての会話を通して、語彙や英語表現について学ぶ。
13	Unit 6 Japanese Flavors and the Traditional Diet	日本の伝統料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生　鈴木理枝　関根紳太郎　宮下リンダ　南雲堂　ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】
学生のレベルを鑑み、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：（筆記）50 %
平常点： 50 %（授業への参加度、態度、発表、小テスト）
成績評価の基準
(1) 内容を把握しているか
(2) 適切に訳出できるか
(3) リスニング力が身についているか
欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】
発表中心の双方向の授業に対して学生から高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。また、学生が、より一層英語が好きになるよう工夫して、楽しい授業を心がける。

【Outline (in English)】
Course Outline:
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning Objectives:
(1) Understanding British and American culture with the theme of food
culture
(2) Acquire Listening skills
(3) Learn translation techniques
Learning activities outside of classroom
Preparatory learning:
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review:
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy:
Final exam: 50%
Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Grade evaluation criteria:
(1) Understanding the contents
(2) Appropriate translation
(3) Acquire listening skills
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
後期もテキストを中心に通訳訓練法を取り入れながら、総合的な英語力の育成に努める。リピーティング、シャドーイング等の訓練を行い、集中力を身につけ、スピーキング、リスニング力の向上に努める。この授業の目的は、基礎英語力をベースにして、日常生活に役立つ実践的な英語力を身につけることである。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
後期の授業も同様に、テキストを中心に演習授業になる。各学生は予習して、授業に臨み、順番に訳出をして、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、シンクロリーディング、シャドーイングの訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、学生にアドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7 Supplemental Health	サプリメントに関する会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
2	Unit 8 Coffee or Tea?①	コーヒーと紅茶の効用についての会話を通して、語彙と英語表現を習得する。
3	Unit 8 Tea Time: The difference between Green, Black, and Red Tea ②	お茶にもいろいろな種類がある。それぞれのお茶の効用が書かれた読み物を通して、語彙や英語表現を習得する。
4	Unit 9 Vegetable Garden ①	菜園についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
5	Unit 9 On the History of Mayonnaise ②	マヨネーズの歴史と栄養について読み、語彙や英語表現を習得する。
6	Unit 10 Local Delicacies ①	日本のご馳走についての会話と通して、語彙や英語表現を習得する。
7	Unit 10 Different National Cuisines in Japan ②	日本で味わえる各国料理について読み、語彙や英語表現を習得する。
8	Unit 11 Halloween Barmbrack ①	アイルランドのハロウィーンのパンについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
9	Unit 11 History of Halloween ②	ハロウィーンの歴史を読み、語彙や英語表現を習得する。
10	Unit 12 Thanksgiving Break ①	感謝祭休暇についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
11	Unit 12 The American Holiday Rush: Thanksgiving to New Year's ②	アメリカの祝祭日、感謝祭から新年にかけての伝統行事について読み、語彙や英語表現を習得する。
12	Unit 13 Christmas Recipe: Roast Turkey	クリスマス料理の定番であるローストターキーのレシピを読み、語彙や英語表現を習得する。
13	Unit 14 Saint Valentine's Day	バレンタインデーの歴史について読み、語彙や英語表現を習得する。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
準備学習
分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。
復習時間
授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生　鈴木理枝　関根紳太郎　宮下リンダ　南雲堂、ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】
学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %、
平常点　50 %（授業への参加度、態度、発表、出席状況）
成績評価の基準
(1) 内容を把握しているか
(2) 適切に訳出できるか
(3) リスニング力が身についているか
欠席 4 回以上は単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】
発表中心の双方向の授業に対して学生から高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。また、学生が、より一層英語が好きになるよう工夫して、楽しい授業を心がける。

【Outline (in English)】
Course Outline:01
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning Objectives:
(1) Understanding British and American culture with the theme of food
culture
(2) Acquire Listening skills
(3) Learn translation techniques
Learning activities outside of classroom:
Preparatory learning:
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review:
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy:
Final exam: 50%
Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Grade evaluation criteria:
(1) Understanding the contents

(2) Appropriate translation
(3) Acquire listening skills
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で使用するテキストのタイトルは Everyday History です。その内容は、私たちの毎日の生活の中にある歴史を読み解くというものです。いうまでもなく、現在は過去の延長にあります。私たちは過去の歴史の積み重ねの上に生きており、私たちの現在の生活は未来の人々の在り方につながります。

学生は、このような問題意識に基づいた、コンテンポラリーな時事問題を取り上げた 300 字程度の英文エッセイを読みながら、英語読解能力向上を目指します。英文読解においては、英和辞典、和英辞典等、辞書の適切な使用が重要であり、この授業を通して辞書の使用法も身に着けます。英語は現在、ますます複雑化する世界情勢、そして世界の中の日本の立ち位置を読み解くうえで欠かせない言語となっています。英語を通した情報収集能力、発信力は現代世界で生きる私たちに必要不可欠なスキルです。

本授業を通して学生は、英語読解能力、それに必要な基礎的文法、ボキャブラリーを身に着けます。そして、このような生活のインフラと化した英語への心理的障壁を取り除き、英語に親しみ、英語を有効活用しながら力強い人生を生きる方法を学びます。

【到達目標】

学生は本授業を通して、以下の能力を身に着けます。
①英語学習の要である辞書の使用法を身に着ける。
② 300 字程度の英文記事を授業時間の半分である 50 分以内に正確に理解する。
③ヴォキャブラリーの強化、特に語幹や接尾語、接頭語、派生語を通した語彙の増強を行う。
④音読を通して単語の正確な発音を身に着ける。
⑤リスニングアクティヴィティを通したリスニング力の強化を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、輪読演習形式で行います。
2 週かけて Lesson を 1 つづつ進めていきます。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 10 日	ガイダンス	授業の方針説明
4 月 17 日	Lesson 1: Miracle Cure, or Just a Lemon?①	リーディング
4 月 24 日	Lesson 1: Miracle Cure, or Just a Lemon?②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
5 月 8 日	Lesson 2: Stolen Goods ①	リーディング
5 月 15 日	Lesson 2: Stolen Goods ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
5 月 22 日	Lesson 3: Okinawa Ink ①	リーディング
5 月 29 日	Lesson 3: Okinawa Ink ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
6 月 5 日	Lesson 4: No More Tears ①	リーディング
6 月 12 日	Lesson 4: No More Tears ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
6 月 19 日	Lesson 5: The Way of the Pub ①	リーディング
6 月 26 日	Lesson 5: The Way of the Pub ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
7 月 3 日	Lesson 6: Whodunnit ①	リーディング
7 月 10 日	Lesson 6: Whodunnit ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
7 月 17 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
学生は、授業前に準備学習として、各 Lesson の Looking Ahead を読み、分からない単語は辞書を引いて調べておく。
復習として、Looking Ahead の内容に対する答えを英語で書き、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】

【テキスト】Everydau History:現代から紐解く歴史と文化
【著者】Jim Kundsen, Yu Umemiya
【出版社】南雲堂
【出版年】2021 年
【価格】1980 円（税込み）

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。
病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】

レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業 Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Students in this class read the textbook titled "Everyday History". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words written in natural English, and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students develop not only the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also "a sense of history" which this textbook presents as the main subject.
By the end of the course, students should be able to do the followings:

① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read questions in Looking Ahead at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write answers to these questions and submit them as a report through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業で使用するテキストのタイトルは Everyday History です。その内容は、私たちの毎日の生活の中にある歴史を読み解くというものです。いうまでもなく、現在は過去の延長にあります。私たちは過去の歴史の積み重ねの上に生きており、私たちの現在の生活は未来の人々の在り方につながります。

学生は、このような問題意識に基づいた、コンテンポラリーな時事問題を取り上げた 300 字程度の英文エッセイを読みながら、英語読解能力向上を目指します。英文読解においては、英和辞典、和英辞典等、辞書の適切な使用が重要であり、この授業を通して辞書の使用法も身に着けます。英語は現在、ますます複雑化する世界情勢、そして世界の中の日本の立ち位置を読み解くうえで欠かせない言語となっています。英語を通した情報収集能力、発信力は現代世界で生きる私たちに必要不可欠なスキルです。

本授業を通して学生は、英語読解能力、それに必要な基礎的文法、ボキャブラリーを身に着けます。そして、このような生活のインフラと化した英語への心理的障壁を取り除き、英語に親しみ、英語を有効活用しながら力強い人生を生きる方法を学びます。

【到達目標】
学生は本授業を通して、以下の能力を身に着けます。
①英語学習の要である辞書の使用法を身に着ける。
② 300 字程度の英文記事を授業時間の半分である 50 分以内に正確に理解する。
③ヴォキャブラリーの強化、特に語幹や接尾語、接頭語、派生語を通した語彙の増強を行う。
④音読を通して単語の正確な発音を身に着ける。
⑤リスニングアクティヴィティを通したリスニング力の強化を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は、春学期と同じく輪読演習形式で行います。
2 週かけて Lesson を 1 つづつ進めていきます。が、Lesson 11 からはペースを速め、1 週で 1 Lesson を終わらせます。スムーズなペースで授業を進めるために事前学習が重要となります。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 25 日	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall ①	リーディング
10 月 2 日	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
10 月 9 日	Lesson 8: Queen Victoria's "Gift"①	リーディング
10 月 16 日	Lesson 8: Queen Victoria's "Gift"②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
10 月 23 日	Lesson 9: Two Scottish Heritahes ①	リーディング
10 月 30 日	Lesson 9: Two Scottish Heritahes ②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 6 日	Lesson 10: Do you Believe in Magic?①	リーディング
11 月 13 日	Lesson 10: Do you Believe in Magic?②	ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 20 日	Lesson 11: That Sinking Feeling	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
11 月 27 日	Lesson 12: Famous Street Artist's Joke and Gesture	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 4 日	Lesson 13: Lost in Space-Almost	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 11 日	Lesson 14: A Zoo Story	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
12 月 18 日	Lesson 15: Olympian Progress	リーディング、ボキャブラリー＆リスニングアクティヴィティ
1 月 15 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

学生は、授業前に準備学習として、各 Lesson の Looking Ahead を読み、分からない単語は辞書を引いて調べておく。
復習として、Looking Ahead の内容に対する答えを英語で書き、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Everydau History:現代から紐解く歴史と文化
【著者】Jim Kundsen, Yu Umemiya
【出版社】南雲堂
【出版年】2021 年
【価格】1980 円（税込み）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。
病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Everyday History". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words written in natural English, and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students develop not only the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also "a sense of history" which this textbook presents as the main subject.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
Before each class meeting, students will be expected to have read questions in Looking Ahead at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write answers to these questions and submit them as a report through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小田井　勝彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を
鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】
・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 unit を 2 回のペースで進めていきます。教科書の本文については事前に予習が必要です。授業は教科書に沿って Pre-Reading Activity, Vocabulary Map, 本文の読解,Reading Exercise, Conversation, Group Presentation の順で進めていきます。随時、話題と関連する動画を視聴したり意見を書くなどリスニングやライティングの演習も行います。
授業内で回収した英作文など、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教科書、授業の進め方、成績評価について説明
第 2 回	Unit 1 Canada < 読解>	自然に恵まれたカナダ文化について学びます。
第 3 回	Unit 1 Canada < エクササイス>	Unit 1 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 4 回	Unit 2 Thailand < 読解>	香りにこだわるタイ文化について学びます。
第 5 回	Unit 2 Thailand < エクササイス>	Unit 2 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 6 回	Unit 3 Germany < 読解>	ビールを愛する環境先進国ドイツについて学びます。
第 7 回	Unit 3 Germany < エクササイス>	Unit 3 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 8 回	中間テスト	unit 1～unit3 を試験範囲とし、試験および解説をします
第 9 回	Unit 4　Turkey < 読解>	トルコにおけるコーヒーとお茶がつなぐ人情文化について学びます
第 10 回	Unit 4　Turkey < エクササイス>	Unit 4 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 11 回	Unit 5 Russia < 読解 >	極寒のロシア文化について学びます
第 12 回	Unit 5 Russia < エクササイス>	Unit 5 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 13 回	Unit 6 Israel < 読解 >	伝統と技術が融合するイスラエル文化について学びます
第 14 回	期末テスト	Unit 4～unit 6 を試験範囲とし、試験・まとめと解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本文に関して、わからない単語は辞書を引き、事前に読んでくること。授業後には聞き取れなかった箇所をもう一度聞き直す、文章の解釈を間違えた箇所を再度確認して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
松井夏津紀ほか『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』(南雲堂、2021)

【参考書】
『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典 (電子辞書も可) を各自用意して下さい

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35%、期末テスト 35%、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
単調な授業とならないように心がけたいと思います

【その他の重要事項】
欠席が 4 回以上の場合には原則単位認定は行わない。

【Outline (in English)】
This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about foreign cultures. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.
[Learning Objectives]
1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.
[Learning activities outside of classroom]
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
[Grading Criteria / Policy]
· mid-term test 35%
· term test 35%
· activities in class 30%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小田井　勝彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を
鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】
・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 unit を 2 回のペースで進めていきます。教科書の本文については事前に予習が必要です。授業は教科書に沿って Pre-Reading Activity, Vocabulary Map, 本文の読解,Reading Exercise, Conversation, Group Presentation の順で進めていきます。随時、話題と関連する動画を視聴したり意見を書くなどリスニングやライティングの演習も行います。
授業内で回収した英作文など、中間テストに関しては随時返却し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 7 South Africa < 読解>	南アフリカの親睦文化について学びます
第 2 回	Unit 7 South Africa < エクササイス>	Unit 7 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 3 回	Unit 8 The United States < 読解>	自動車大国アメリカについて学びます。
第 4 回	Unit 8 The United States < エクササイス>	Unit 8 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 5 回	Unit 9 France < 読解>	効率重視のフランス文化について学びます
第 6 回	Unit 9 France < エクササイス>	Unit 9 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 7 回	中間テスト	unit 7～unit9 を試験範囲とし、試験および解説をします
第 8 回	Unit 10 Bangladesh < 読解>	混沌とのどかさを兼ね備えたバングラデシュ文化について学びます
第 9 回	Unit 10 Bangladesh < エクササイス>	Unit 10 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 10 回	Unit 11 New Zealand < 読解>	ニュージーランドの共生文化について学びます
第 11 回	Unit 11 New Zealand < エクササイス>	Unit 11 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 12 回	Unit 12 South Korea < 読解>	韓国の食で深まるきずな文化について学びます
第 13 回	Unit 12 South Korea < エクササイス>	Unit 12 の内容の復習、Listening 問題, Writing などを行ないます
第 14 回	期末テスト	Unit 10～unit 12 を試験範囲とし、試験・まとめと解説を行ないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本文に関して、わからない単語は辞書を引き、事前に読んでくること。授業後には聞き取れなかった箇所をもう一度聞き直す、文章の解釈を間違えた箇所を再度確認して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
松井夏津紀ほか『世界の衝撃アイテムから学ぶ 15 の国の文化と人々』(南雲堂、2021)

【参考書】
『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典 (電子辞書も可) を各自用意して下さい

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 35%、期末テスト 35%、平常点 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
単調な授業とならないように心がけたいと思います

【その他の重要事項】
欠席が 4 回以上の場合には原則単位認定は行わない。

【Outline (in English)】
This class is aimed at improving comprehensive communication skills in English. In order to attain the goal, students read short essays about foreign cultures. Listening practice and grammar exercise will also be conducted.
[Learning Objectives]
1. Students can read English passages accurately
2. Students can master necessary vocabularies and expressions for reading English passages.
3. Student understand English grammar.
4. Students get the knowledge about foreign cultures.
[Learning activities outside of classroom]
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
[Grading Criteria / Policy]
· mid-term test 35%
· term test 35%
· activities in class 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内　晶子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語ニュース記事を読んでいきます。また、同テーマの別記事や動画ニュースなども併用し、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く・しゃべる練習なども行っていきます。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に頻出する基本単語を習得する。
・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。
授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 2-I: From Seaspeak to Singlish: celebrating other kinds of English	reading and listening
3	unit 2-II: From Seaspeak to Singlish: celebrating other kinds of English	reading and writing
4	unit 4-I: Future predictions for artificial intelligence and automation	reading and listening
5	unit 4-II: Future predictions for artificial intelligence and automation	reading and writing
6	unit 5-I: Take more proactive climate action	reading and listening
7	unit 5-II: Take more proactive climate action	reading and writing
8	unit 6-I: UNESCO "Japanese Food: Intangible Cultural Heritage"	reading and listening
9	Unit 6-II: UNESCO "Japanese Food: Intangible Cultural Heritage"	reading and writing
10	Unit 7-I: The origins of bathhouse culture around the world	reading and listening
11	Unit 7-II: The origins of bathhouse culture around the world	reading and writing
12	Unit 9-I: The history of Hanukkah	reading and listening
13	Unit 9-II: The history of Hanukkah	reading and writing
14	Review Exam	Units 2, 4, 5, 6, 7, and 9

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。
ほぼ毎週、授業前日が締切の予習テストと復習テストを Hoppii 上で行います。
英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。
本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河原真也・伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉　15 Doors to Global Issues』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習テスト： 15 %
毎週の復習テスト： 15 %
ライティング課題： 20%
積極的なクラス参加（予習・リスニングテスト・クラス内発表含む）： 25 %
期末テスト： 25 %

【学生の意見等からの気づき】
構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】
原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn reading/listening/writing skills in English, using English News articles on diverse issues.
【Learning Objectives】
Students will learn to read English newspaper articles with more ease.
They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.
【Grading Criteria/Policy】
Students who miss more than 3 classes won't get a credit.
weekly preparatory exam ： 15%

weekly review exam ： 15%
writing assignments:20%
active class participation (including listening exams and presentations) ： 25%
final exam:25%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

竹内　晶子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりおさえながら、実際の英語ニュース記事を読んでいきます。また、同テーマの別記事や動画ニュースなども併用し、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く・しゃべる練習なども行っていきます。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に頻出する基本単語を習得する。
・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。
授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	Unit 10-I: Fashion history: dandyism	reading and listening
3	Unit 10-II: Fashion history: dandyism	reading and writing
4	Unit 11-I: A city's art biennial can be like watching an army of curatorial truffle pigs'	reading and listening
5	Unit 11-II: A city's art biennial can be like watching an army of curatorial truffle pigs'	reading and writing
6	Unit 12-I: Should literature be useful?	reading and listening
7	Unit 12-II: Should literature be useful?	reading and writing
8	Unit 13-I: Bottles and bricks still get thrown over the wall...	reading and listening
9	Unit 13-II: Bottles and bricks still get thrown over the wall...	reading and writing
10	Unit 14-I: On reading old books	reading and listening
11	Unit 14-II: On reading old books	reading and writing
12	Unit 15-I: Marriage	reading and listening
13	Unit 15-II: Marriage	reading and writing
14	Review Exam	Units 10-15

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。
ほぼ毎週、授業前日が締切の予習テストと復習テストを Hoppii 上で行います。
英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。
本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
河原真也・伊藤健一郎『世界を読み解く 15 の扉　15 Doors to Global Issues』朝日出版社、2019 年。

【参考書】
『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習テスト： 15 %
毎週の復習テスト： 15 %
ライティング課題： 20%
積極的なクラス参加（予習・リスニングテスト・クラス内発表含む）： 25 %
期末テスト： 25 %

【学生の意見等からの気づき】
構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】
原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Students will learn reading/listening/writing skills in English, using English News articles on diverse issues.
【Learning Objectives】
Students will learn to read English newspaper articles with more ease.
They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.
【Learning Activities outside of Classroom】
Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.
【Grading Criteria/Policy】
Students who miss more than 3 classes won't get a credit.
weekly preparatory exam ： 15%
weekly review exam ： 15%
writing assignments:20%
active class participation (including listening exams and presentations) ： 25%
final exam:25%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】
この授業は以下の５つを到達目標とします：
①辞書を効果的に利用しながら、高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
④わからない語句や文法があっても辞書を使わずに出来るだけ正確に内容を推測できる
⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行い、3 回目の授業で復習のための小テストを行います。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。小テスト・定期試験ともに授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介	授業方針・内容の説明・PC を利用した演習
2	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
3	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
4	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 1 の小テスト
5	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
6	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 2 の小テスト
8	中間テスト	試験の実施、解説、復習
9	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
10	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
11	Unit 3 Transport/Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 3 の小テスト
12	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
13	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 Unit 4 の小テスト
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、小テスト 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
・Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

· Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

· Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, quiz: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は English 1I からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】
この授業は以下の６つを到達目標とします：
①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
⑤英文の内容を要約する方法を身につける
読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行います。同時に、読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。ライティング課題はコメント・添削をしたのち、返却します。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。定期試験は授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
2	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
3	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、Main Point(s)
4	UNIT 6 Discovery and invention	UNIT5 の単語テスト、記事の読解、Topic Sentence(s)
5	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Supporting Sentence(s)
6	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Concluding Sentence(s)
7	中間テスト	試験の実施、解説、復習
8	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
9	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
10	UNIT 7 Fashion	記事の読解、自分の意見を表現する
11	UNIT 8 Economics	UNIT7 の単語テスト、記事の読解、自分の意見を表現する
12	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
13	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、ライティング課題 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
・Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.
The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
・Learning Activities Outside of Classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.
・Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, writing assignments: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 3 回	Unit 1: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 4 回	Unit 2: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 5 回	Unit 2: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 6 回	Unit 3: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 7 回	Unit 3: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 8 回	Unit 4: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 9 回	Unit 4: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 10 回	Unit 5: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 11 回	Unit 5: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 12 回	Unit 6: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America Today: Culture, Society and History（松柏社，2022)

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 3 回	Unit 7: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 4 回	Unit 7: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 5 回	Unit 8: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 6 回	Unit 8: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 7 回	Unit 9: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 8 回	Unit 9: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 9 回	Unit 10: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 10 回	Unit 10: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 11 回	Unit 11: Let's Read!	Comprehension Questions / Writing Questions
第 12 回	Unit 11: Let's Listen and talk!	Comprehension Questions / Summary
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America Today: Culture, Society and History（松柏社，2022)

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川　真紀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も身につけます。

【到達目標】
1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセント にも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。 授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等　選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等　導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等　詳細	投票で決めた記事の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの詳細を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト（教科書）】
『*Megatrends Shaping Our Future*（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】
辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、記事紹介課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), journal article assignments (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

利根川　真紀

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】
1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1〜11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12〜24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック
9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト詳細	スクリプトの細部を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブックプレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】
『*Megatrends Shaping Our Future*（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】
辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、ブックプレゼンテーション課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】
This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), book presentation (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。書かれた／話された内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは批判的思考も意識しつつ全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。また、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、スピーキングや音読のモデルとして音読練習に活用し、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末テスト等で確認します。質問や小テスト等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。Unit 1 Cross-cultural understanding 導入	授業の概要説明。リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 1 High & Low 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 2 Foods 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 2 Sustaining Culture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 3 Foreign language learning 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 3 Will Machine Translation Replace Human Translators? 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 4 Sports 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
8	Unit 4 Obstacle Course Racing 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 5 Fashion 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 5 The History of Jeans 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 6 Living things 導入。プレゼンテーション・リハーサル導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 6 Safer Distance 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバイス
13	期末テスト。プレゼンテーションのリハーサルと春学期の復習	春学期末テスト。プレゼンテーションの準備・練習・アドバイス。春学期の総復習
14	プレゼンテーション。春学期のまとめ	発表・質疑応答・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も準備 (2) 会話と文章の主旨の把握。未知の語句は文脈から類推、続いて辞書で確認 (3) パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で情報収集し視野を広げる
③プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備、原稿を指示に沿って期限内に提出、リハーサル・推敲する
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭　編著、*AMBITIONS Intermediate*（４技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 25%、プレゼンテーション 25%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックでいろいろな能力を鍛えることができ楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください

【その他の重要事項】
授業の連絡事項・課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. They will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (25%), final presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。書かれた／話された内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは批判的思考も意識しつつ全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。また、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、スピーキングや音読のモデルとして音読練習に活用し、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末テスト等で確認します。質問や小テスト等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Art 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 7 Moving Pictures, Before There Were Movies 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 8 Global issues 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 8 Jack's Cambodian Blog 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 9 Japanese culture 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 9 Cosplay: Bringing Anime to Life 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 10 Human rights 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
8	Unit 10 Terrorism and Torture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 11 Health & medical issues 導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 11 How to Live a Long Life: Secrets of the Japanese 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 12 Environmental issues 導入。プレゼンテーション・リハーサル導入	リスニング（ディクテーション・会話練習）、リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 12 Great Barrier Reef Speech 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバイス
13	期末テスト。プレゼンテーション・リハーサルと秋学期の復習	秋学期末テスト。プレゼンテーション・リハーサル。秋学期の総復習
14	プレゼンテーション。秋学期のまとめ	発表・質疑応答・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も準備 (2) 会話と文章の主旨の把握。未知の語句は文脈から類推、続いて辞書で確認 (3) パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で情報収集し視野を広げる
③プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備、原稿を指示に沿って期限内に提出、リハーサル・推敲する
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭　編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 25%、プレゼンテーション 25%の割合で、上記到達目標(1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックでいろいろな能力を鍛えることができ楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください

【その他の重要事項】
授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. They will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (25%), final presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水　純子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『ワクワクさせる美術品泥棒の物語を使って、英語を教えてくれる』― Olive Green はロンドン・ブックフェア国際優秀賞を受賞しています。英語学習のために撮り下ろされたドラマ「Olive Green」映像付コースブックテキストの 3 冊目、CEFR-B1 編です。リスニングとスピーキングの 2 つの能力は、日本人学習者にとつて苦手とされてきましたが、実際の言語使用において必要不可欠です。この映画を繰り返し視聴することにより、学習者は過度な負担を感じることなく、リスニング能力のレベルアツプを行うことが可能となります。またこの映画は英語学習用に特別に撮り下ろされ、文法事項が導入されています。Olive Green は、楽しんで学習できる待望の英語テキストです。

【到達目標】
学生は、Olive Green CEFR-B1 の音声と映像をテキストを通して楽しく学ぶことによって、現代国際社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化とグローバルな社会におけるしきたりを理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。
このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面型です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもありえますが、詳細は学習支援システムでお知らせします。
演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。
1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。
テキスト内音声と映像は朝日出版社 HP アクセスによって利用可能です。
https://text.asahipress.com/free/english/
フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。
この授業は対面型をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 1 At the Russian Mafia's Office その 1	DVD+Reading
3	Unit 1　At the Russian Mafia's Office　その 2	CD + Reading + DV Ð + Exercises
4	Unit 1 At the Russian Mafia's Office その 3	DVD + Exercises
5	Unit 2　Gennady and Sergey その 1	DVD+Reading
6	Unit 2 Gennady and Sergey その 2	CD + Reading + DV Ð + Exercises
7	Unit 2　Gennady and Sergey その 3	DVD + Exercises
8	Unit 3　On a Mission with Vlad　その 1	DVD + Reading
9	Unit 3　On a Mission with Vlad　その 2	CD + Reading + DV Ð + Exercises
10	Unit 3　On a Mission with Vlad　その 3	DV Ð + Exercises
11	Unit 4　At the Clothes Shop　その 1	DVD + Reading
12	Unit 4　At the Clothes Shop その 2	CD + Reading + DV Ð + Exercises
13	Unit 4 Negotiations　その 2	DV Ð + Exercises 今学期学習したことの質疑応答＋まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書籍名 オリーブグリーン　ミステリードラマで学ぶ実用英語 CEFR-B1
Olive Green: Learning English through a Mystery Drama（CEFR-B1）/
著者名 浅利庸子他 / 出版社 朝日出版社/
出版年 2023 年/価格 2,640 円 / ISBN 978 − 4 − 255 − 15699 − 6　C1082/
シリーズの 3 冊目なので注意！

【参考書】
各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。
朝日出版社音声・映像ストリーミング
https://text. asahipress.com/free/english/

【成績評価の方法と基準】
2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %）の総合判断による。60 点以上が合格点である。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】
やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。
教科書の映像と音声は、朝日出版社 HP にアクセスして使用できる。（教科書表紙裏頁に記載）https://text.asahipress.com/free/english/

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
This class is face-to-face lessons.
"Olive Green“ teaches English with an exciting story of an art thief. “Olive Green”is a winner of the London Book Fair International Award of Excellence. This is the third CEFR-B1 edition of the course book text with Olive Green video, a drama filmed for English language learning. Listening and speaking are two skills that have been considered weak by Japanese learners, but are essential for actual language use. Repeated viewing of this film will allow learners to improve their listening skills without feeling overwhelmed. “Olive Green” is the long-awaited English textbook that makes learning fun.
This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.
Students will learn words and phrases relevant to modern international society, understand English-speaking cultures and conventions in the global community, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad by learning audio and video from Olive Green2 through the text in a fun way.
The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.
Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.
Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the text, and do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.
In-text audio will be available through Seibido's website access.
The main method of feedback will be in-class critiques.
Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.
The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

清水　純子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『ワクワクさせる美術品泥棒の物語を使って、英語を教えてくれる』― Olive Green はロンドン・ブックフェア国際優秀賞を受賞しています。英語学習のために撮り下ろされたドラマ「Olive Green」映像付コースブックテキストの 3 冊目、CEFR-B1 編です。リスニングとスピーキングの 2 つの能力は、日本人学習者にとつて苦手とされてきましたが、実際の言語使用において必要不可欠です。この映画を繰り返し視聴することにより、学習者は過度な負担を感じることなく、リスニング能力のレベルアツプを行うことが可能となります。またこの映画は英語学習用に特別に撮り下ろされ、文法事項が導入されています。Olive Green は、楽しんで学習できる待望の英語テキストです。

【到達目標】
学生は、Olive Green CEFR-B1 の音声と映像をテキストを通して楽しく学ぶことによって、現代国際社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化とグローバルな社会におけるしきたりを理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。
このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面型です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもありえますが、詳細は学習支援システムでお知らせします。
演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。
1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 3 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。
テキスト内音声と映像は朝日出版社 HP アクセスによって利用可能です。
https://text.asahipress.com/free/english/
フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。
この授業は対面型をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 5 Truth about Vlad その１	DVD+Reading
3	Unit 5 Truth about Vlad その２	CD + Reading + DV Ð + Exercises
4	Unit 5 Truth about Vlad その３	DVD + Exercises
5	Unit 6 Hotel Hideaway　その１	DVD+Reading
6	Unit 6 Hotel Hideaway その２	CD + Reading + DV Ð + Exercises
7	Unit 6 Hotel Hideaway その３	DVD + Exercises
8	Unit 7 Sergey Standing Guar その１	DVD + Reading
9	Unit 7 Sergey Standing Guard その２	CD + Reading + DV Ð + Exercises
10	Unit 7 Sergey Standing Guard その３	DV Ð + Exercises
11	Unit 8 Surprise! その１	DVD + Reading
12	Unit 8 Surprise! その２	CD + Reading + DV Ð + Exercises
13	Unit 8 Surprise! その２	DV Ð + Exercises 今学期学習したことの質疑応答＋まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書籍名 オリーブグリーン　ミステリードラマで学ぶ実用英語 CEFR-B1
Olive Green: Learning English through a Mystery Drama（CEFR-B1）/
著者名 浅利庸子他 / 出版社 朝日出版社/
出版年 2023 年/価格 2,640 円 / ISBN 978 − 4 − 255 − 15699 − 6　C1082/
シリーズの 3 冊目なので注意！

【参考書】
各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。
朝日出版社音声・映像ストリーミング
https://text. asahipress.com/free/english/

【成績評価の方法と基準】
2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %）の総合判断による。60 点以上が合格点である。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】
授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】
やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。
コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。
教科書の映像と音声は、朝日出版社 HP にアクセスして使用できる。（教科書表紙裏頁に記載）https://text.asahipress.com/free/english/

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
This class is face-to-face lessons.
"Olive Green“ teaches English with an exciting story of an art thief. “Olive Green”is a winner of the London Book Fair International Award of Excellence. This is the third CEFR-B1 edition of the course book text with Olive Green video, a drama filmed for English language learning. Listening and speaking are two skills that have been considered weak by Japanese learners, but are essential for actual language use. Repeated viewing of this film will allow learners to improve their listening skills without feeling overwhelmed. “Olive Green” is the long-awaited English textbook that makes learning fun.
This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.
Students will learn words and phrases relevant to modern international society, understand English-speaking cultures and conventions in the global community, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad by learning audio and video from Olive Green2 through the text in a fun way.
The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.
Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.
Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the text, and do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.
In-text audio will be available through Seibido's website access.
The main method of feedback will be in-class critiques.
Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.
The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2 ～ 3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXhapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chpter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Uni7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行　2021 年第 7 刷発行　2000 円＋税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。
課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Uni4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行　2000 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松　美映子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。学生は、経済、仕事、社会と文化、言語と学習、科学技術の分野を学んでいきます。学生は、学びを通して、様々な視点をもって物事をとらえることができるようになります。

【到達目標】
学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。
1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さの英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
< テキストの学習>
1. Introduction
2. Key Vocabulary
3. Reading
4. True or False
5. Finding Specific Information
6. Summary
7. What do you think?
課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。
メールアドレスは授業中にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	テキストの学習	100-yen shops: Still going strong (3 まで)
3	テキストの学習	100-yen shops: Still going strong (4 以降)
4	テキストの学習	Work-life balance: Do it like the Germans (3 まで)
5	テキストの学習	Work-life balance: Do it like the Germans (4 以降)
6	テキストの学習	Lasting the ages: Japan's 200-year-old companies (3 まで)
7	テキストの学習	Lasting the ages: Japan's 200-year-old companies (4 以降)
8	テキストの学習	Universal basic income: An idea whose time has come? (3 まで)
9	テキストの学習	Universal basic income: An idea whose time has come? (4 以降)
10	テキストの学習	Remote work: A new way to live and work (3 まで)
11	テキストの学習	Remote work: A new way to live and work (4 以降)
12	テキストの学習	Tricks of the trade: How companies get us spend? (3 まで)
13	テキストの学習	Tricks of the trade: How companies get us spend? (4 以降)
14	春学期のまとめ	質問、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下のように、準備学習、復習をする。
1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。）
2. 復習（テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。）
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Dave Rear（2022) Understanding the World Today, Seibido.2nd edition

【参考書】
VOA Learning English https://learningenglish.voanews.com/

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80 %、平常点 20 %　合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、テキストの英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。
期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気けがで期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。
平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
新しいテキストを使用するので、学生の理解度をみながら授業を進めていきたい。
例年、音声英語が苦手な学生が多いので、丁寧にみていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書を持参すること　（iphone でも構わない）

【その他の重要事項】
マスク着用の上、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えることがあります。
担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. The students are to study economy and work, culture and society, language and culture, and science and technology. Through classes, the students will be able to understand things from many points of views,
< Goals >

The students will attain the following goals in this term:
1.To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4.To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.
< Work to be done outside class >
The students will prepare for the class and review the class as follows:
1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.
(The students have to understand where to ask in the next class.)
2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)
The students need to study one hour for this class.
< Grading criteria >
Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%
The students cannot be absent from class more than four times for credits.
The students will be judged if they attain five goals above.
The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control (illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.
Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

村松　美映子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。学生は、経済、仕事、社会と文化、言語と学習、科学技術の分野を学んでいきます。学生は、学びを通して、様々な視点をもって物事をとらえることができるようになります。

【到達目標】
学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。
1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さの英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
< テキストの学習>
1. Introduction
2. Key Vocabulary
3. Reading
4. True or False
5. Finding Specific Information
6. Summary
7. What do you think?
課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。
メールアドレスは授業中にお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキストの学習	The secret life of gamers: The boy who escaped his body (3 まで)
2	テキストの学習	The secret life of gamers: The boy who escaped his body (4 以降)
3	テキストの学習	Social media: Big tech's addiction to addiction (3 まで)
4	テキストの学習	Social media: Big tech's addiction to addiction (4 以降)
5	テキストの学習	Super solos: Catering to Japan's singletons (3 まで)
6	テキストの学習	Super solos: Catering to Japan's singletons (4 以降)
7	テキストの学習	ここまでの復習、進度の調整、質問
8	テキストの学習	Happiness: What is the secret? (3 まで)
9	テキストの学習	Happiness: What is the secret? (4 以降)
10	テキストの学習	Dialects: How English is spoken across the world (3 まで)
11	テキストの学習	Dialects: How English is spoken across the world (4 以降)
12	テキストの学習	Child Prodigies: Raising a little genius (3 まで)
13	テキストの学習	Child Prodigies: Raising a little genius (4 以降)
14	春学期のまとめ	質問、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は以下のように、準備学習、復習をする。
1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。）
2. 復習（テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。）
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Dave Rear（2022) Understanding the World Today, Seibido.2nd edition

【参考書】
VOA Learning English https://learningenglish.voanews.com/

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80 %、平常点 20 %　合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。
学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、テキストの英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。
期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気けがで期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。
平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】
新しいテキストを使用するので、学生の理解度をみながら授業を進めていきたい。
例年、音声英語が苦手な学生が多いので、丁寧にみていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和、和英辞書を持参すること　（iphone でも構わない）

【その他の重要事項】
マスク着用の上、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。
上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えることがあります。
担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】
< Course Outline >
The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. The students are to study economy and work, culture and society, language and culture, and science and technology. Through classes, the students will be able to understand things from many points of views.
< Goals >

The students will attain the following goals in this term:
1.To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4.To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.
< Work to be done outside class >
The students will prepare for the class and review the class as follows:
1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.
(The students have to understand where to ask in the next class.)
2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)
The students need to study one hour for this class.
< Grading criteria >
Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%
The students cannot be absent from class more than four times for credits.
The students will be judged if they attain five goals above.
The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control (illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.
Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の動向を考察する英語教材で知識や批判的思考力を養いながら、英文を読み通す力を身につけることを目的とします。リスニング力・表現力の向上も目指して、英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、要約したり意見を述べる練習も行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。批判的思考も意識しつつ文章全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。教材の英文を、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることも目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して音読のモデルとして活用し、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末試験で確認します。質問や小テストその他へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。2 回の授業で教科書 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。必要に応じて補助教材を活用することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。Section I: Economy and Work (1) 導入	授業の概要説明。Unit 5 Remote Work: A new way to live and work （前半）語彙・大意把握・意見交換
2	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
3	Section II: Culture and Society (1) 導入	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction（前半）語彙・大意把握・意見交換
4	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
5	Section III: Language and Learning (1) 導入	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know（前半）語彙・大意把握・意見交換
6	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
7	Section IV: Science and Technology (1) 導入	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?（前半）語彙・大意把握・意見交換
8	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
9	Section I: Economy and Work (2) 導入	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies（前半）語彙・大意把握・意見交換
10	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
11	Section II: Culture and Society (2) 導入	Unit 10 Happiness: What is the secret?（前半）語彙・大意把握・意見交換
12	Unit 10 Happiness: What is the secret?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
13	Section III: Language and Learning (2) 導入	Unit 11 Dialects: How English is spoken（前半）across the world 語彙・大意把握・意見交換
14	期末試験。春学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストの問題を解き、根拠も準備 (2) 文章の主旨を把握。未知の語句は文脈から類推し、続いて辞書で確認 (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報を収集し視野を広げる
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 50%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 3 回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックで複数の能力を鍛え楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の連絡事項・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください。
教科書の各ユニットを扱う順序は上記【授業計画】の通りです、注意してください。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. Students will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will also offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の動向を考察する英語教材で知識や批判的思考力を養いながら、大学レベルで求められる英文を読み通す力を身につけることを目的とします。リスニング力・表現力の向上も目指して、英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、要約したり意見を述べる練習も行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。批判的思考も意識しつつ文章全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。教材の英文を、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることも目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して音読のモデルとして活用し、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末試験で確認します。質問や小テストその他へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。2 回の授業で教科書 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。必要に応じて補助教材を活用することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
2	Section IV: Science and Technology (2) 導入	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age（前半）語彙・大意把握・意見交換
3	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
4	Section I: Economy and Work (3) 導入	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong（前半）語彙・大意把握・意見交換
5	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
6	Section II: Culture and Society (3) 導入	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body（前半）語彙・大意把握・意見交換
7	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
8	Section III: Language and Learning (3) 導入	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak?（前半）語彙・大意把握・意見交換
9	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
10	Section IV: Science and Technology (3) 導入	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy（前半）語彙・大意把握・意見交換
11	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
12	Section I: Economy and Work (4) 導入	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans（前半）語彙・大意把握・意見交換
13	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
14	期末試験。秋学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストの問題を解き、根拠も準備 (2) 文章の主旨を把握。未知の語句は文脈から類推し、続いて辞書で確認 (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報を収集し視野を広げる
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※その他の教材・資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 50%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
多様なトピックで複数の能力を鍛え楽しかったなどの声が聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートできるよう内容・手法の充実を図りたいと思います

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の連絡事項や資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください。
教科書の各ユニットを扱う順序は上記【授業計画】の通りです、注意してください。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. Students will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will also offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半は、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半は、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして、聴解練習をしていく。英語のネイティブスーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
・論理的に文法・構文を説明できる
・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていただきます。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Chapter 1 India	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 3 回	Chapter 2 Philippines	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 3 Thailand	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 4 Vietnam	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 5 Korea	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 6 France	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 7 Italy	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 8 Denmark	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 9 Portugal	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 10 Turkey	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 11 Egypt	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 12 South Africa	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 13 Brazil	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指示に従って、教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の小テスト 60%、課題 10%、平常点 30%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。
オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
− Students will acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on unit tests (60%), homework assignments (10%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして聴解練習をしていく。英語のネイティブスーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
・論理的に文法・構文を説明できる
・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていただきます。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、Chapter 1 Australia	授業の概要説明, 文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 2 回	Chapter 2 Indonesia	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 3 回	Chapter 3 Singapore	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 4 China	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 5 Argentina	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 Mexico	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 7 Germany	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Finland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Poland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Spain	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Greece	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 Kenya	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Morocco	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Lebanon	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指示に従って教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "On Board for More World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の小テスト 60%、課題 10%、平常点 30%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。
オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
− Students will acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (10%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。
必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 10 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
第 2 回 Chapter 1	Growth and Development	人間の誕生から死までのことを学び、本文の内容の練習問題を解く。
第 3 回 Chapter 2	Human Body / Sleep	人間の体と睡眠について学び、本文の練習問題を解く。
第 4 回 Chapter 3	Health and fitness / Allergies	健康とアレルギーに関して学び、本文の練習問題を解く。。
第 5 回 Chapter 4	Diseasies (1)	細菌、ウイルス、プリオン等に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 6 回 Chapter 5	Diseasies (2)	遺伝病、精神の病等を学び、本文の練習問題を解く。
第 7 回 Chapter 6	Immunity / AIDS	免疫とエイズに関して学び、本文の練習問題を解く。
第 8 回 Chapter 7	Smoking　/ Cancer	喫煙と癌に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 8	Medicine	医療に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 9	Complementary medicine	補充医療（漢方、整体、鍼灸）を学び、本文の練習問題を解く。
第 11 回 Chapter 10	First Aids / Doctors	救急医療と医師に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	ナイチンゲールの生涯と、看護師に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 13 回 Chapter 12	Hospitals	大学病院の役割に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 14 回 試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】
Longman　Dictionary of Contemporary English （桐原書店）

【成績評価の方法と基準】
試験 80 %, 授業への積極性　20 %、
セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにするにする。

【到達目標】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 20 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	味の素	味の素 の歴史、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 1		
第 2 回	花王株式会社	花王株式会社の企業理念、持続可能な企業活動などがを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 2		
第 3 回	CYBERDYNE	CYBERDYNE の会社内容、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 3		
第 4 回	サントリー	サントリーの歴史、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 4		
第 5 回	Spiber	Spiber の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 5		
第 6 回	セコム株式会社	セコム株式会社の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 6		
第 7 回	ヤマト運輸株式会社	ヤマト運輸の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 14		
第 8 回	セブン＆アイ・ホールディングス	セブン＆アイ・ホールディングス企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 7		
第 9 回	大正製薬	大正製薬の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 8		
第 10 回	東レ	東レの歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 9		
第 11 回	豊田通商	豊田通商の歴史、企業理念等を学び、そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 10		
第 12 回	日清食品	日清食品の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
Chapter 11		
第 13 回	ビデオ学習。	ビデオ学習をする。
ビデオ		
第 14 回	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。
試験･まとめ		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Leading the Way: Major Japanese Corporation（南雲堂）2,000 円＋税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験　80 %、、授業への積極性　20 %、
１セメスターで４回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中にしまっておくこと。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？（前半）
3	Chapter 1	（後半）
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状（前半）
5	Chapter 2	（後半）
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来（前半）
7	Chapter 3	（後半）
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」（前半）
9	Chapter 4	（後半）
10	レポートの書き方	レポートについての講義
11	Chapter 5 Social class	階級社会の実情（前半）
12	Chapter 5	（後半）
13	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み（前半）
14	Chapter 6	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。時間があれば英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end essay (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
　テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	大学と高等教育 （前半）
2	Chapter 7	（後半）
3	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 （前半）
4	Chapter 8	（後半）
5	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術，発明，ビジネス （前半）
6	Chapter 9	（後半）
7	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま （前半）
8	Chapter 10	（後半）
9	Chapter 11 Food	英国の食文化 （前半）
10	Chapter 11	（後半）
11	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 （前半）
12	Chapter 13	（後半）
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 （前半）
14	Chapter 16	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
教員に基礎疾患があるため、秋学期もオンライン授業を行う。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉　亜希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】
・英語独自の音やリズムを身につける
・英語を口に出して言うことに慣れる
・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
・質問などへのフィードバックは授業内またはメール（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking: Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
13	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ￥3,060+税)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】
・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視）
ユニットごとに行われる小テスト 20 %
・Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から３０分以内）は２回で欠席扱いとする。また各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【学生の意見等からの気づき】
・対面授業は皆さんの英語で考えようとする自主的で積極的な参加があるクラスはテンポよく進み、またグループワークで互いに刺激しあうことが出来ていました。
・英語を英語で説明することに苦労したようですが、考える習慣がつくように繰り返し練習し、さらに「筆者の主張・言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなったようでした。
・英文を「ただ何となく読む」だけでは成長しません。読んで理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するのは簡単ではなく練習が必要となり、年度により完成度は異なりますが、確実に英語力を向上させることになります。

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書。電子辞書や携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】
・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
・口頭練習が多いため、感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
・欠席や課題提出が遅れたことをメールで連絡する場合には、理由説明と根拠となる証拠の提示が必須
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【Outline (in English)】
This course is designed to give you opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.
< Learning Objectives >
· You will expand your vocabulary
· You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
· You will be able to guess words in context
· You will identify main ideas as well as supporting detail
· You will identify the structure and outline the passage
· You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
· You will be able to retell the story in English
< Learning Activities outside of class >
· Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic (“what” is the passage about) and “how” the author explains his or her ideas/claim in the passage
· Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
· University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course
< Grading Criteria/Policy >
Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, examination 50%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉　亜希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】
・英語独自の音やリズムを身につける
・英語を口に出して言うことに慣れる
・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One&Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT-Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 8: GOVERNMENT-Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ￥3,060+税)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
ユニットごとに行われる小テスト 20%
・Review Text 50%
適切な理由のない遅刻（授業開始から３０分以内）は２回で欠席扱いとする。また各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。
・適切な理由と証拠提出による公欠の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【学生の意見等からの気づき】
・対面授業は皆さんの英語で考えようとする自主的で積極的な参加があるとテンポよく進み、またグループワークで互いに刺激しあうことが出来ていました
・英語を英語で説明することに苦労したようですが、考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなったようでした
・英文を「ただ話はなんとなく読む」だけでは成長しません。読んで理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するのは簡単ではなく練習が必要となり、年度により完成度は異なりますが、確実に英語力を向上させることになります

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】
・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
・口頭練習が多いため、感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
・欠席や課題提出が遅れたことをメールで連絡する場合には、理由説明と根拠となる証拠の提示が必須
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【Outline (in English)】
This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.
< Learning Objectives >
· You will expand your vocabulary
· You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
· You will be able to guess words in context
· You will identify main ideas as well as supporting detail
· You will identify the structure and outline the passage
· You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
· You will be able to retell the story in English
< Learning Activities outside of class >
· Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic (“what” is the passage about) and “how” the author explains his or her ideas/claim in the passage
· Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
· University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course
< Grading Criteria/Policy >
Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Is it in your blood?（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Is it in your blood?（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	An unpunished crime（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	An unpunished crime（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Money matters（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Money matters（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	Is netspeak harming the English language?（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	Is netspeak harming the English language?（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円＋税)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Language and the world（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	Population crisis（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	Population crisis（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	The greatest show on earth（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	The greatest show on earth（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	For an effective interview（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	For an effective interview（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円＋税)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨　健史郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、 BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING ：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING ：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES ：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】
『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills　文法中心のパラグラフリーディング―-正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】
文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店
を薦める。
英和辞典は
・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
・『ジーニアス英和大辞典』大修館書店
を薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】
単位取得条件
・欠席が 3 回以内であること（遅刻については下記参照）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。
以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
成績評価
・期末試験 50 %
・平常点（学習態度および受講態度）50 %
遅刻の扱い
・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】
「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】
座席
・座席は指定する。
オフィスオワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.
-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.
Learning Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

坂梨　健史郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、 BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7（続き）	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8（続き）	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9（続き）	文法： it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10（続き）	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11（続き）	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12（続き）	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING ：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING ：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES ：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】
『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills　文法中心のパラグラフリーディング―-正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】
文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店
を薦める。
英和辞典は
・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】
単位取得条件
・欠席が 3 回以内であること（遅刻については下記参照）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験成績が 100 点満点中 60 点以上であること。
以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
成績評価
・期末試験 50 %
・平常点（学習態度および受講態度）50 %
遅刻の扱い
・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】
「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】
座席
・座席は指定する。
オフィスオワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.
-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.
Learning Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口　清一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】
以下の達成を主眼とする。
＊英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
＊読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
＊日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインにて行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。
課題の提示と提出は「学習支援システム」を通して行い、各回の課題に対する次回の授業での解説によってフィードバックを行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (可算と不可算)
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (冠詞と限定詞)
第 4 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ①	本文読解・リスニング・音読
第 5 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 6 回	Chapter2(Exporting Sport) ①	本文読解・リスニング・音読
第 7 回	Chapter2(Exporting Sport) ②	本文読解・リス二ング・音読、英作文
第 8 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ①	本文読解・リスニング・音読
第 9 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 10 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ①	本文読解・リスニング・音読
第 11 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 12 回	Chapter5(Art: Attitudes and Anonymity) ①	本文読解・リスニング・音読
第 13 回	Chapter5(Art: Attitudes and Anonymity) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 14 回	学期末の講評	春学期の課題の総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。英作問題においては必ず自分の解答を用意し、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。
尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが必須である。

【テキスト（教科書）】
Insight into Britain (イギリス探訪)　金星堂

【参考書】
特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 %で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。
尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】
年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The main purpose of this course is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocaburary and grammar with cultural literacy. To enrich vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; to understand grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, should be added the factor of cultural literacy to acquire a real understanding of English.
[Learning Objectives]
The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.
[Grading Criteria]

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

田口　清一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】
以下の達成を主眼とする。
＊英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
＊読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
＊日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインにて行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。
課題の提示と提出は「学習支援システム」を通して行い、各回の課題に対する次回の授業での解説によりフィードバックを行う。最終回には年間を通しての総評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語と英語の相違	文圧縮 (名詞構文)
第 2 回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第 3 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ①	本文読解・リスニング・音読
第 4 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 5 回	Chapter7(Antiques: Older Is Often Better) ①	本文読解・リスニング・音読
第 6 回	Chapter7(Antiques: Older Is Often Better) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 7 回	Chapter8(Smoke-Free Britain) ①	本文読解・リスニング・音読
第 8 回	Chapter8(Smoke-Free Britain) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 9 回	Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ①	本文読解・リスニング・音読
第 10 回	Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 11 回	Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ①	本文読解・リスニング・音読
第 12 回	Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 13 回	年間の仕上げ	読解問題演習
第 14 回	今年度の総括	年間の課題に対する総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。英作問題においては必ず自分の解答を用意し、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。
尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが必須である。

【テキスト（教科書）】
Insight into Britain (イギリス探訪)　金星堂

【参考書】
特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 %で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期からの習熟度も考慮に入れる。
尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】
年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocaburary and grammar with cultural literacy. To enrich vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; to understand grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, should be added the factor of cultural literacy to acquire a real understanding of English.
[Learning Objectives]
The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.
[Grading Criteria]

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な時事的、社会文化的問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5〜7 パラグラフからなる 300words 程度の英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおけるブレグジットから課題が山積する経済問題、王室、マスメディア、階級問題、環境問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。さらに、リスニングやシャドーイング、スピーキングのアクティヴィティなどにも取り組みます。

英語の母国であり、歴史的にも日本と関係が深く近年再び日本との結びつきを強めているイギリスの社会や文化について知識を深め、生涯にわたる英語学習の土台を形成することも、本授業の目的です。

【到達目標】
本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。
①英語の辞書の使い方を覚える。
②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
③ 300〜400words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
④リスニングやシャドーイングのアクティヴィティを通して、正しい英語の発音やアクセントを身に着ける。
⑤イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
⑥現代イギリスの社会文化的問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で進めます。
2 週でチャプターを 1 つづつ進めていきます。1 週目にリーディングに取り組み、2 週目にリスニングやスピーキング、ライティングなどのアクティヴィティに取り組みます。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 13 日	ガイダンス	授業の方針説明
4 月 20 日	Chapter 1: Top Issues ①	リーディング
4 月 27 日	Chapter 1: Top Issues ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
5 月 11 日	Chapter 2: Wales ①	リーディング
5 月 18 日	Chapter 2: Wales ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
5 月 25 日	Chapter 3: The Royal Family ①	リーディング
6 月 1 日	Chapter 3: The Royal Family ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
6 月 8 日	Chapter 4: Clubbing Experiment ①	リーディング
6 月 15 日	Chapter 4: Clubbing Experiment ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
6 月 22 日	Chapter 5: Cyber Crime ①	リーディング
6 月 29 日	Chapter 5: Cyber Crime ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
7 月 6 日	Chapter 6: Technology & Politics in Scotland ①	リーディング
7 月 13 日	Chapter 6: Technology & Politics in Scotland ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
7 月 20 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習として、各チャプターの導入部に目を通し、Warm-up 問題をやておく。復習は特に指定しないが、授業内で終わらなかったアクティヴティを課題として出題することがあるので、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Britain Today: Culture, Society and History
【著者】James C. House、Michiko Miyoshi
【出版社】松柏社
【価格】1980 円（税抜き）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業 Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Britain Today". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words about current events in Britain and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students not only develop the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also increase interest in the culture and life of Britain.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
⑥ Have interest in British culuture and understand current issues of Britain.
⑦ Consider current issues of Japan comparing them with those of Britain.
Before each class meeting, students will be expected to have read introduction and Warm-up at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write a report and submit it through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な時事的、社会文化的問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5〜7 パラグラフからなる 300words 程度の英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおけるブレグジットから課題が山積する経済問題、王室、マスメディア、階級問題、環境問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。さらに、リスニングやシャドーイング、スピーキングのアクティヴィティなどにも取り組みます。

英語の母国であり、歴史的にも日本と関係が深く近年再び日本との結びつきを強めているイギリスの社会や文化について知識を深め、生涯にわたる英語学習の土台を形成することも、本授業の目的です。

【到達目標】
本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。
①英語の辞書の使い方を覚える。
②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
③ 300〜400words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
④リスニングやシャドーイングのアクティヴィティを通して、正しい英語の発音やアクセントを身に着ける。
⑤イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
⑥現代イギリスの社会文化的問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は春学期と同様に演習形式で進めます。
2 週でチャプターを 1 つづつ進めていきます。1 週目にリーディングに取り組み、2 週目にリスニングやスピーキング、ライティングなどのアクティヴィティに取り組みます。但し Chapter 11 からはペースを速め、1 週に 1 チャプターを進めていきます。そのため予習復習、課題の取り組みが一層重要となります。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 21 日	Chapter 7: Sport ①	リーディング
9 月 28 日	Chapter 7: Sport ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
10 月 5 日	Chapter 8: The Third Age ①	リーディング
10 月 12 日	Chapter 8: The Third Age ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
10 月 19 日	Chapter 9: The New Nationalism ①	リーディング
10 月 26 日	Chapter 9: The New Nationalism ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 9 日	Chapter 10: Literature & the Arts ①	リーディング
11 月 16 日	Chapter 10: Literature & the Arts ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 23 日	Chapter 11: Environment	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 30 日	Chapter 12: The New Crime Bill	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 7 日	Chapter 13: Vaccination & Freedom Day	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 14 日	Chapter 14: Education: Disparity & Division	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 21 日	Chapter 15: Britain's Future	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
1 月 19 日	学期末筆記試験	学習理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習として、各チャプターの導入部に目を通し、Warm-up 問題をやておく。復習は特に指定しないが、授業内で終わらなかったアクティヴティを課題として出題することがあるので、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Britain Today: Culture, Society and History
【著者】James C. House、Michiko Miyoshi
【出版社】松柏社
【価格】1980 円（税抜き）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業 Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Britain Today". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words about current events in Britain and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students not only develop the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also increase interest in the culture and life of Britain.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
⑥ Have interest in British culuture and understand current issues of Britain.
⑦ Consider current issues of Japan comparing them with those of Britain.
Before each class meeting, students will be expected to have read introduction and Warm-up at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write a report and submit it through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　和久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】
上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トーイック）のスコアーを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。提出課題等は、その都度チェックして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとプレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①【トピックセンテンス】
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②【展開の仕方】
9	テキストの演習	パラグラフの構造③【情報構造】
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhense students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (30%), term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　和久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】
上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トーイック）のスコアーを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとプレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験成績 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhense students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (30%), term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺　英依美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】
この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
(1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
(2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
(3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination Unit 4: Big Money (1)	Mid-semester exam Identifying cause and effect
9	Review of the Exam Unit 4: Big Money (2)	Review of the exam Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events
12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習が必須。個々の単語を理解するだけではなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning.

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の発表・課題の提出 25 %
中間試験 35%
期末試験 40 %
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングとグループワークが好評のため、積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
(1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
(2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
(3) Present thoughts and opinions on related issues in English.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on the following criteria:
Class participation/assignments 25 %
Mid-semester examination 35%
Final examination 40 %
More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺　英依美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】
この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
(1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
(2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
(3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination Unit 10: The Future of Education (1)	Mid-semester exam Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (2)	Review of the exam Identifying meaning from context
10	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	Scanning
12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習が必須。個々の単語を理解するだけではなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning.

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の発表・課題の提出 25 %
中間試験 35%
期末試験 40 %
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングとグループワークが好評のため、積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
(1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
(2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
(3) Present thoughts and opinions on related issues in English.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on the following criteria:
Class participation/assignments 25 %
Mid-semester examination 35%
Final examination 40 %
More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2 ～ 3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXhapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chpter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Uni7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行　2021 年第 7 刷発行　2000 円＋税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。
課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Uni4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行　2000 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 10a	A cooperative society
3	Workbook 10a	Social animals
4	Unit 10b	The Power of play
5	Workbook 10b	How play made our world
6	Unit 10c	Living free?
7	Workbook: 10c	Rebuilding society
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 10f	Initiation with ants
10	Unit 11a	Emotional intelligence
11	Workbook 11a	Hikikomori
12	Unit 11b	Thinking fast and slow
13	Workbook 11b	Don’t overthink it
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
出版社: National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%　(授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
Students must earn at least 60% points to pass the course.
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

藤井　道行

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語４技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】
ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスクリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。
最終授業で，講義内容のまとめや復習だけでなく，授業内で行った試験等の解説を行います。
授業に関する連絡には、「学習支援システム」を用います。
「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11c	Who's working for who?
2	Unit 7a	Selfie world
3	Unit 7b	Creating a buzz
4	Workbook 7b	Follow us!
5	Unit 7c	A hacker's life
6	Unit 8a	World music
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8b	Healing music
9	Workbook 8b	Music therapy
10	Unit 8c	One love
11	Unit 9a	Dear little daughter
12	Unit 9b	The story of Martin Guerre
13	Workbook 12a	Aerial view
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようなります。
1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスクリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
出版社: National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】
https://ngl.cengage.com/life
https://www.bbc.com/news
https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts
https://www.npr.org/podcasts-and-shows
https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】
中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、６０％以上の点を得ることが必要となります。
学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
遅刻は、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の授業アンケートでは、「環境も良く、やりやすい授業だったと思います。世界の情勢にも目を向けられる面白い授業でした。」「予習の時間がかなり必要で大変だった。しかしそれ以上にこの 1 年で得られた知識が多かった。」「予習しないと進まない授業だったので、予習する習慣がついた。」等のコメントがありました。テキストのやや概説な内容を補足すことで理解を深めること、予習の必要性を理解するという点では、授業の意図を学生に伝えることができたと思います。ただし、予習時間を過度に求めない、授業の緊張感を適度なものにする等、改善すべき点は改善するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course will be conducted in a participatory learning environment.

The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.
(Learning Objectives)
By the end of the course, students should be able to:
(1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
(2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
(3) identify essential and non-essential information in the text.
(4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
(5) take notes on spoken material and summarize its content.
(6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.
(Learning activities outside of class)
Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.
（Grading Criteria /Policy）
Students' final course grades will be determined based on the following criteria:
Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)
Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)
Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)
Students must earn at least 60% points to pass the course.
If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.
Arriving late twice will equal one absence.
If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.
The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田　しおり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】
Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習の形式で行う。
フィードバック方法　最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。
授業実施形態　対面の形態で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Arriving in London	London の代表的な公共交通機関には、世界で最も古い列車である地下鉄 (tube)、London 市内を走行する赤い二階建てバス (double decker)、cube というタクシーがある。列車やバスにはプリペイド式のオイスターカードが使用できる。
②	Unit 1 Arriving in London	Unit1 の Exercise を行う。
③	Unit 2 London's museums and art galleries	イギリスの主な博物館や美術館は入場料無料である。London にある National Gallery や Tate Modern も無料であり、多くの人に絵画や展示品を見せる機会を与えている。
④	Unit 2 London's museums and art galleries	Unit2 の Exercise を行う。
⑤	Unit 3 Royal palaces and castles	イギリスには英王室にゆかりのあるいくつかの城がある。その中には女王の私邸である Windsor 城や公邸である Buckingham 宮殿を始めとして、女王が夏の大半を過ごす Balmoral 城がある。
⑥	Unit 3 Royal palaces and castles	Unit3 の Exercise を行う。
⑦	Unit 5 Shopping in London	London には Harrods や Fortnum and Mason のような伝統的な店がある一方で、多くのリーズナブルな品物を販売する fair（市）がある。
⑧	Unit 5 Shopping in London	Unit5 の Exercise を行う。
⑨	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	Somerset は、田園地方であり、cider（リンゴ酒）、beer、cheese の製造でよく知られている。
⑩	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	Unit7 の Exercise を行う。
⑪	Unit 10 The Yorkshire Dales	Yorkshire は、イングランドの一番北の州であり、スコットランドとの境界の州である。The Yorkshire Dales という国立公園となっている渓谷が広がっている。
⑫	Unit 10 The Yorkshire Dales	Unit10 の Exercise を行う。
⑬	Unit 11 Newcastle-upon-Tyne	Newcastle-upon-Tyne は、イングランドとスコットランドとの境界の Tyne 川のほとりにある町である。Newcastle の対岸には、Gateshead の町があり、そこには、歩行者と自転車専用の Gateshead Millennium Bridge がある。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Comprehension,Vocabulary,Expressions を読んで、授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、平常点 50 %として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline (in English)】
Using the textbook written by English author, students can learn the diverse and practical knowledge about United Kingdom and raise the level by studying Dialogue, Passage, Exercise. It takes an hour for students to review and prepare for this class. Grades are evaluated as final exam is 50% and normal point is 50%.They aren't evaluated in case of being absent from this class 4.
Three lateness is regarded as one absence.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　しおり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】
Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習の形式で行う。
フィードバック方法　最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。
授業実施形態　対面の形態で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 12 Swansea and Gower	Swansea は、ウェールズの首都 Cardiff の次に大きな町であり、20 世紀の詩人 Dylan Thomas の故郷でもある。
②	Unit 12 Swansea and Gower	Unit12 の Exercise を行う。
③	Unit 13 Brecon Beacons	ウェールズの Brecon Beacons は、イギリスの国立公園の一つである。自然の美しい地域として指定されていて、そこには植物や動物を保護する特別な法律がある。
④	Unit 13 Brecon Beacons	Unit13 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Conwy and Caernarfon	北ウェールズの Conwy と Caernarfon の町には、それぞれ Conwy 城と Caernarfon 城がある。
⑥	Unit 14 Conwy and Caernarfon	Unit14 の Exercise を行う。
⑦	Unit 15 Edinburgh	ブリテン島の北部の地域にある Edinburgh は、多くの学者や科学者を輩出していることから、'Athens of North'「北のアテネ」と呼ばれている。
⑧	Unit 15 Edinburgh	Unit15 の Exercise を行う。
⑨	Unit 16 Glasgow	Glasgow は、19 世紀の産業革命の時代には、造船業で発達したが、現在は、Glasgow 出身の建築家 Charles Rennie Macintosh ゆかりの建造物を多くの観光客が訪れる場所となっている。
⑩	Unit 16 Glasgow	Unit16 の Exercise を行う。
⑪	Unit 18 Belfast	アイルランドは、イギリスの自治領である北アイルランドと南のアイルランド共和国に分離している。1990 年代初頭まで、北アイルランドでは、プロテスタント系住民とカソリック系住民の間で、毎日のように小競り合いが起きていた。しかし、1998 年に平和協定が結ばれてからは、抗争はなくなっている。
⑫	Unit 18 Belfast	Unit18 の Exercise を行う。
⑬	Unit 19 Causeway Coast	Belfast から Londonderry までの道路沿いに広がっている Causeway の海岸には、世界遺産の火山岩からなる何千もの六角形の石柱群がある。
⑭	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Comprehension,Vocabulary,Expressions の予習をして、授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、平常点 50 %として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline (in English)】
Using the textbook written by English author, students can learn the diverse and practical knowledge about United Kingdom and raise the level by studying Dialogue, Passage, Exercise. It takes an hour for students to review and prepare for this class. Grades are evaluated as final exam is 50% and normal point is 50%.They aren't evaluated in case of being absent from this class 4.
Three lateness is regarded as one absence.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	Class
3	Chapter 2	Education
4	Chapter 3	Gender
5	Chapter 4	Health and Age
6	Chapter 5	Crime and Punishment
7	Chapter 6	Drug
8	Chapter 7	Sports
9	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
10	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容④
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容⑤
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simon Rosati 著、近藤久雄、河野淳子注解『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』2022 年、英宝社、2,000 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 8	Religion
2	Chapter 9	The Monarchy
3	Chapter 10	Love and Marriage
4	Chapter 11	The Environment
5	Chapter 12	Immigration and Race
6	Chapter 13	Scotland
7	Chapter 14	Ireland
8	Chapter 15	Europe
9	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
10	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容④
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容⑤
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simon Rosati 著、近藤久雄、河野淳子注解『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』2022 年、英宝社、2,000 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の動向を考察する英語教材を通して、知識や批判的思考力を養いながら、大学レベルで求められる英文を読み通す力を身につけることを目的とします。リスニング力・表現力の向上も目指して、英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、要約したり意見を述べる練習も行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。批判的思考も意識しつつ文章全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。教材の英文を、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることも目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して音読のモデルとして活用し、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末試験で確認します。質問や小テストその他へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。2 回の授業で教科書 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。必要に応じて補助教材を活用することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。Section I: Economy and Work (1) 導入	授業の概要説明。Unit 5 Remote Work: A new way to live and work （前半）語彙・大意把握・意見交換
2	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
3	Section II: Culture and Society (1) 導入	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction（前半）語彙・大意把握・意見交換
4	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
5	Section III: Language and Learning (1) 導入	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know（前半）語彙・大意把握・意見交換
6	Unit 15 Memory Hack: The one study habit every student needs to know（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
7	Section IV: Science and Technology (1) 導入	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?（前半）語彙・大意把握・意見交換
8	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
9	Section I: Economy and Work (2) 導入	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies（前半）語彙・大意把握・意見交換
10	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
11	Section II: Culture and Society (2) 導入	Unit 10 Happiness: What is the secret?（前半）語彙・大意把握・意見交換
12	Unit 10 Happiness: What is the secret?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
13	Section III: Language and Learning (2) 導入	Unit 11 Dialects: How English is spoken（前半）across the world 語彙・大意把握・意見交換
14	期末試験。春学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストの問題を解き、根拠も準備 (2) 文章の主旨を把握。未知の語句は文脈から類推し、続いて辞書で確認 (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報を収集し視野を広げる
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※必要に応じてその他の教材・資料を活用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 50%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 3 回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの担当によりフィードバックはありません

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の連絡事項・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください。
教科書の各ユニットを扱う順序は上記【授業計画】の通りです、注意してください。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. Students will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will also offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩坪　友子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の動向を考察する英語教材を通して、知識や批判的思考力を養いながら、大学レベルで求められる英文を読み通す力を身につけることを目的とします。リスニング力・表現力の向上も目指して、英文の構成・表現・音声に慣れ親しみ、要約したり意見を述べる練習も行い、自信と関心を深めます。

【到達目標】
(1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で要約できる
(2) 教材レベルの英語の音声を聞いて、内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
(3) 教材の多様なトピックについて、情報収集や多面的考察を行い、情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として、授業では教科書に沿って内容把握問題の確認、英文の構成・内容・表現の確認、テーマについての意見交換を行います。批判的思考も意識しつつ文章全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、必要に応じて細部の確認も行います。教材の英文を、論理的なエッセイのモデルとしても意識することで、使う目線から便利な語彙や表現を参考にして論理的な表現方法を身につけることも目指します。付属音声は、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して音読のモデルとして活用し、リスニング力と読解力の向上に役立てるとともに、内容を理解した上での自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語での要約や意見交換、音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、口頭や小テスト、期末試験で確認します。質問や小テストその他へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。2 回の授業で教科書 1 ユニット、扱うユニットの順序は下記授業計画のように予定しています。必要に応じて補助教材を活用することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
2	Section IV: Science and Technology (2) 導入	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age（前半）語彙・大意把握・意見交換
3	Unit 19 Healthspan: Changing the way we age（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
4	Section I: Economy and Work (3) 導入	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong（前半）語彙・大意把握・意見交換
5	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
6	Section II: Culture and Society (3) 導入	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body（前半）語彙・大意把握・意見交換
7	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
8	Section III: Language and Learning (3) 導入	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak?（前半）語彙・大意把握・意見交換
9	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak?（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
10	Section IV: Science and Technology (3) 導入	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy（前半）語彙・大意把握・意見交換
11	Unit 16 New Solar Power: A breakthrough in clean energy（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
12	Section I: Economy and Work (4) 導入	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans（前半）語彙・大意把握・意見交換
13	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans（後半）理解と考察	要約・音読・詳細と表現・意見交換
14	期末試験。秋学期のまとめ	授業内試験。解説。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとし、準備学習して積極的に授業に臨み、復習で理解を深め定着させ、苦手克服・実力向上を目指すとともに、発展的な自習の意欲・習慣の構築を目指します
①予習： (1) テキストの問題を解き、根拠も準備 (2) 文章の主旨を把握。未知の語句は文脈から類推し、続いて辞書で確認 (3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1〜2 文程度）を日本語と英語で練習 (4) ダウンロード音声の区切り・抑揚などに留意して音読練習
②復習： (1) テキストを再読。復習用資料を活用し重要表現は書いたり声に出して定着 (2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイング (3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言う／書く (4) 主題についての自分の意見を言う／書く (5) 書籍やウェブサイト等で関連情報を収集し視野を広げる
※指示されたリスニング教材： (1) スクリプトなしで大意の把握を目指して聞く (2) スクリプトを見て細部を確認しながら繰り返し聞く (3) 音読練習

【テキスト（教科書）】
Dave Rear 著、*Understanding the World Today*（現代を取り巻く新しい真実）成美堂、2,200 円（本体 2,000 円＋税）※その他の教材・資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】
随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の授業への取り組み・課題・小テストなど）50%、期末テスト 50%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が３回を超過すると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】
本年度からの担当によりフィードバックはありません

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
授業の連絡事項や資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください。
教科書の各ユニットを扱う順序は上記【授業計画】の通りです、注意してください。

【Outline (in English)】
This course is designed to help students develop their reading skills through reading essays on a wide range of issues in the world today, thinking critically about them. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage and acquire the information they need. Students will practice summarizing the passage they have read and commenting on related topics. The course will also offer instruction of and practice in the development of effective listening skills.
The goals are to develop the abilities to understand and summarize the essays accurately, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively and communicate one's thoughts and opinions on the topics.
Completing assignments (preparation for the class, including reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least one hour per week preparing for and reviewing each class.
Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (50%), final examination (50%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

滝沢　玄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまな出来事について英文を読むことによって、批評意識と知的関心を高める。

【到達目標】
各章のテーマが提起する問題について、パラグラフ間の論理的な筋道を的確に把握する。批評的な観点を持ちながら読み、自らの意見の発信につなげる。会話に生かせるよう、イントネーションやアクセントを意識して英文を読む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
予習を前提として挙手による発言を優先し、必要に応じてランダムに当てる。各ユニットを読む前に予習チェックを兼ねた小テスト（テキスト参照可）を行なう。それから語句問題を解いたあと本文を音読し、読解の問題を解き、関連したパラグラフの要点と話の展開をおさえる。ユニット読了の翌週にあらかじめ割り当てられたグループが、内容に関連した質問について英語でディスカッションをする。課題へのフィードバックについては、授業での返却とレビューによって可能な限り速やかに対処する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の概要についての説明。時間があれば Unit 1 に入る。
第 2 回	Unit 1	100 円ショップ
第 3 回	Unit 1-2	100 円ショップ／仕事と生活のバランス
第 4 回	Unit 2	仕事と生活のバランス
第 5 回	Unit 4	ベーシックインカム
第 6 回	Unit 4-5	ベーシックインカム/リモートワーク
第 7 回	Unit 5	リモートワーク
第 8 回	Unit 6	商売の秘訣
第 9 回	Unit 6-7	商売の秘訣/ゲーマーの秘密の生涯
第 10 回	Unit 7	ゲーマーの秘密の生涯
第 11 回	Unit 8	ソーシャルメディア
第 12 回	Unit 8-9	ソーシャルメディア/おひとりさま
第 13 回	Unit 9	おひとりさま
第 14 回	Test	春学期の授業を範囲とした筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
上でもふれたとおり、毎回のユニットを読む前に小テストがあるので、準備を怠るとその損失は少なくない。
単語は意味を調べるだけではなくアクセントを事前にチェックし、ダウンロード音声で音読を練習する。各パラグラフの要点は説明できるようにしておき、語句・読解問題も事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】
David Rear, Understanding the World Today（成美堂）, ￥1900（税別）

【参考書】
（書く必要はないと思うが）英語辞書。単語や成句の意味だけでなく、アクセントのチェックなどにも十分に活用すること。スマートフォンやタブレットはときに重要なツールになりうることは確かだが、特に認める場合を除いては電子あるいは本の辞書を推奨する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、小テスト 15 %、ディスカッション 15%、平常点（予習をふまえた授業での積極的発言、ほかのグループのディスカッションに対するコメントの内容）20 %。グループ活動に参加しなかった場合、試験欠席と同等にみなす。欠席が 4 回以上の者には単位修得を認めないが、ただの出席点はないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】
読めないユニットがあるので量を増やしたい気持ちもあるが、ディスカッションを入れることでアクセントがつく部分もあるかと思う。

【Outline (in English)】
The main aim of this course is to develop critical awareness through reading about various phenomena in modern society. Students are also required to express their opinions about these topics in English.
Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for it. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%; group discussion: 15%; quizzes and assignments: 15%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

滝沢　玄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまな出来事について英文を読むことによって、批評意識と知的関心を高める。

【到達目標】
各章のテーマが提起する問題について、パラグラフ間の論理的な筋道を的確に把握する。批評的な観点を持ちながら読み、自らの意見の発信につなげる。会話に生かせるよう、イントネーションやアクセントを意識して英文を読む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　演習形式で進め、予習を前提として挙手による発言を優先し、必要に応じてランダムに当てる。各ユニットを読む前に予習チェックを兼ねた小テスト（テキスト参照可）を行なう。それから語句問題を解いたあと本文を音読し、読解の問題を解き、関連したパラグラフの要点と話の展開をおさえる。ユニット読了の翌週にあらかじめ割り当てられたグループが、内容に関連した質問について英語でディスカッションをする。課題へのフィードバックについては、授業での返却とレビューによって可能な限り速やかに対処する。
　とりあげるユニットを予定通りに消化できるかどうかは、授業の進捗状況によって変わる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験レビュー、ディスカッション割りあて。時間によってプリント配布か、テキストに入る。
第 2 回	Unit 11	英語の方言
第 3 回	Unit 11/16	英語の方言/太陽光発電
第 4 回	Unit 16	太陽光発電
第 5 回	Unit 17	太陽光発電
第 6 回	Unit 17/20	ワクチン/ロボットの役割
第 7 回	Unit 20	ロボットの役割
第 8 回	Unit 3	創業２００年の日本企業
第 9 回	Unit 3/10	創業２００年の日本企業/幸せの秘訣
第 10 回	Unit 10	幸せの秘訣
第 11 回	Unit 10/14	言語の起源
第 12 回	Unit 14/15	言語の起源/記憶力アップ
第 13 回	Unit 15	記憶力アップ
第 14 回	Test	秋学期の授業を範囲とした筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
上でもふれたとおり、毎回のユニットを読む前に小テストがあるので、準備を怠るとその損失は少なくない。
単語は意味を調べるだけではなくアクセントを事前にチェックし、ダウンロード音声で音読を練習する。各パラグラフの要点は説明できるようにしておき、語句・読解問題も事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】
David Rear, Understanding the World Today（成美堂）, ￥1900（税別）

【参考書】
（書く必要はないと思うが）英語辞書。単語や成句の意味だけでなく、アクセントのチェックなどにも十分に活用すること。スマートフォンやタブレットはときに重要なツールになりうることは確かだが、特に認める場合を除いては電子あるいは本の辞書を推奨する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、小テスト 15 %、ディスカッション 15%、平常点（予習をふまえた授業での積極的発言、ほかのグループのディスカッションに対するコメントの内容）20 %。グループ活動に参加しなかった場合、試験欠席と同様にみなす。欠席 4 回以上の者には単位修得を認めないが、ただの出席点はないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】
読めないユニットがあるので量を増やしたい気持ちもあるが、ディスカッションを入れることでアクセントがつく部分もあるかと思う。

【Outline (in English)】
The main aim of this course is to develop critical awareness through reading about various phenomena in modern society. Students are also required to express their opinions about these topics in English.
Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for it. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%; group discussion: 15%; quizzes and assignments: 15%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？（前半）
3	Chapter 1	（後半）
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状（前半）
5	Chapter 2	（後半）
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来（前半）
7	Chapter 3	（後半）
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」（前半）
9	Chapter 4	（後半）
10	レポートの書き方	レポートについての講義
11	Chapter 5 Social class	階級社会の実情（前半）
12	Chapter 5	（後半）
13	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み（前半）
14	Chapter 6	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。時間があれば英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end essay (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ブレグジット（Brexit）という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。
　テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】
・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に着けられるようになる。
・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。
・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	大学と高等教育（前半）
2	Chapter 7	（後半）
3	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性（前半）
4	Chapter 8	（後半）
5	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術，発明，ビジネス（前半）
6	Chapter 9	（後半）
7	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま（前半）
8	Chapter 10	（後半）
9	Chapter 11 Food	英国の食文化（前半）
10	Chapter 11	（後半）
11	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜（前半）
12	Chapter 13	（後半）
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」（前半）
14	Chapter 16	（後半）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.otowatsurumi.com/3838
リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国の＜いま＞を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】
辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋学期末試験（レポート）70 %＝ 100 %
・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は、いかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（居眠り、私語、レポートの提出期限を守らないなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用、レポートにおけるコピー＆ペーストなどの不正は、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。英会話も適宜行う。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
教員に基礎疾患があるため、秋学期もオンライン授業を行う。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
I think that you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.
(Grading Criteria/Policies)
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

滝沢　玄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
より高いレベルの英語力獲得を通して、現代社会についての洞察を深める。

【到達目標】
現在の世界で起きているさまざまな動向について英語で学び知見を深める。その知識を自分の意見につなげ、英語で明確に表明する。英語の語彙、読解、聴き取り、表現力を連動的に向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの各ユニットはリーディングと映像（ストリーミングによる事前の視聴可能、授業では DVD を使用）を中心に構成されるが、両者の内容は共通するところが多い。授業ではウォームアップ問題 → 1度目のビデオ視聴 → リーディングの語彙問題、音読と内容の要約 → 2度目のビデオ視聴というサイクルで各ユニットのトピックについての理解を深める。発言は挙手を優先し、ランダムな指名と組みあわせる。

ユニットの最後ではそれまでに得た情報をアウトプットに生かす。ディスタンシングへの配慮も考慮し、個人の英作文提出を基本とするが、与えられた課題に応じてペアワークやグループでの発表も行なう可能性もあり。

各ユニット終了後、単語と語法に関連した小テストを行なう。課題へのフィードバックについては、授業での返却とレビューによって可能な限り速やかに対処する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の方向についての説明。時間によってテキストに入る。
第 2 回	Unit 1	The Future of the Meat Market(1)
第 3 回	Unit 1	The Future of the Meat Market(2)
第 4 回	Unit 2	The Road to a Carbon-free World(1)
第 5 回	Unit 2	The Road to a Carbon-free World(2)
第 6 回	Unit 3	The Meaning of a Healthy Lifestyle(1)
第 7 回	Unit 3-4	The Meaning of a Healthy Lifestyle(２)/Keys to a Successful Job Interview(1)
第 8 回	Unit 4	Keys to a Successful Job Interview(2)
第 9 回	Unit 5	The Healing Power of Animals(1)
第 10 回	Unit 5-6	The Healing Power of Animals(2)/Measures to Help Job Seekers(1)
第 11 回	Unit 6	Measures to Help Job Seekers(2)
第 12 回	Unit 7	Uncovering the Secrets of Water(1)
第 13 回	Unit 7 etc.	Uncovering the Secrets of Water(2)/進度によってプリント配布
第 14 回	Test	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
ビデオは授業でも見るが、自習用オンラインサービスもあるので必ず事前に視聴をすること。予習を前提として進めるので、語彙や読解の問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。リーディングの音声はダウンロードできるので事前に聞き、単語のアクセント、音の連結や省略を意識しながら朗読の練習をすること。

【テキスト（教科書）】
Osamu　Takeuchi et als., Integrity Intermediate（金星堂, 2023),￥2600.

【参考書】
英語力のレベルを上げるには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。英作文においては AI 隷属化の好ましからぬ影響があるため、とくに認めた場合を除き、端末機器の使用は禁止。

【成績評価の方法と基準】
最終試験４０％、小テストと課題４０％、授業への積極的参加と発言２０％。欠席４回以上の者は単位取得対象外となるが、出席のみに点数を与えることはないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】
対面に戻ってアンケートのコメントと回答率が下がったが、これをバックトゥノーマルと見なすべきではないのだろう。

【Outline (in English)】
As the title of the textbook chosen for the class suggests, the main aim of this course is to develop a kind of integrity by integrating skills integral to higher English proficiency as well as critical awareness of what's going on in global society.
Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for it. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
term-end examination: 40%; quizzes and assignments: 40%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

滝沢　玄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
より高いレベルの英語力獲得を通して、現代社会についての洞察を深める。

【到達目標】
現在の世界で起きているさまざまな動向について英語で学び知見を深める。その知識を自分の意見につなげ、英語で明確に表明する。英語の語彙、読解、聴き取り、表現力を連動的に向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストの各ユニットはリーディングと映像（ストリーミングによる事前の視聴可能、授業では DVD を使用）を中心に構成されるが、両者の内容は共通するところが多い。授業ではウォームアップ問題 → 1度目のビデオ視聴 → リーディングの語彙問題、音読と内容の要約 → 2度目のビデオ視聴というサイクルで各ユニットのトピックについての理解を深める。発言は挙手を優先し、ランダムな指名と組みあわせる。

ユニットの最後ではそれまでに得た情報をアウトプットに生かす。ディスタンシングへの配慮も考慮し、個人の英作文提出を基本とするが、与えられた課題に応じてペアワークやグループでの発表も行なう可能性もあり。

各ユニット終了後、単語と語法に関連した小テストを行なう。課題へのフィードバックについては、授業での返却とレビューによって可能な限り速やかに対処する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期テストのレビュー。時間によってプリント配布あるいはテキストに入る。
第 2 回	Unit 8	The Strategy to Prevent Obesity(1)
第 3 回	Unit 8-9	The Strategy to Prevent Obesity(2)/Heated Debate on VAR(1)
第 4 回	Unit 9	Heated Debate on VAR(2)
第 5 回	Unit 10	Lively Learning about Food Waste(1)
第 6 回	Unit 10-11	Lively Learning about Food Waste(2)/Inside an Underground Homeless Community(1)
第 7 回	Unit 11	Inside an Underground Homeless Community(2)
第 8 回	Unit 12	Women's Rights and AI Development(1)
第 9 回	Unit 12-13	Women's Rights and AI Development(2)/Fighting Hair Discrimination and Racism (1)
第 10 回	Unit 13	Fighting Hair Discrimination and Racism (2)
第 11 回	Unit 14	Ways to Get Out of Busyness Trap(1)
第 12 回	Unit 14/Extra Reading	Ways to Get Out of Busyness Trap(2)/プリント配布
第 13 回	Extra Reading	プリント配布
第 14 回	Test	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
ビデオは授業でも見るが、自習用オンラインサービスもあるので必ず事前に視聴をすること。予習を前提として進めるので、語彙や読解の問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。リーディングの音声はダウンロードできるので事前に聞き、単語のアクセント、音の連結や省略を意識しながら朗読の練習をすること。

【テキスト（教科書）】
Osamu　Takeuchi et als., Integrity Intermediate（金星堂, 2023),￥2600.

【参考書】
英語力のレベルを上げるには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。英作文においては AI 隷属化の好ましからぬ影響があるため、とくに認めた場合を除き、端末機器の使用は禁止。

【成績評価の方法と基準】
最終試験４０％、小テストと課題４０％、授業への積極的参加と発言２０％。欠席４回以上の者は単位取得対象外となるが、出席のみに点数を与えることはないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】
対面に戻ってアンケートのコメントと回答率が下がったが、これをバックトゥノーマルと見なすべきではないのだろう。

【Outline (in English)】
As the title of the textbook chosen for the class suggests, the main aim of this course is to develop a kind of integrity by integrating skills integral to higher English proficiency as well as critical awareness of what's going on in global society.
Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for it. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
term-end examination: 40%; quizzes and assignments: 40%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉　亜希子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】
・英語独自の音やリズムを身につける
・英語を口に出して言うことに慣れる
・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるように練習する
・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary
5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking: Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
13	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ￥3,060+税)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】
・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視）
ユニットごとに行われる小テスト 20 %
・Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から３０分以内）は２回で欠席扱いとする。また各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【学生の意見等からの気づき】
・対面授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進み、またグループワークで互いに刺激しあうことが出来ていました
・英語を英語で説明することに苦労したようですが、考える習慣がつくように繰り返し練習し、さらに「筆者の主張・言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなったようでした
・英文を「ただなんとなく読む」だけでは成長しません。読んで理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するのは簡単ではなく練習が必要となり、年度により完成度は異なりますが、確実に英語力を向上させることになります

【学生が準備すべき機器他】
英語の辞書。電子辞書や携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】
・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
・口頭練習が多いため、感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
・欠席や課題提出が遅れたことをメールで連絡する場合には、理由説明と根拠となる証拠の提示が必須
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【Outline (in English)】
This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.
< Learning Objectives >
· You will expand your vocabulary
· You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
· You will be able to guess words in context
· You will identify main ideas as well as supporting detail
· You will identify the structure and outline the passage
· You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
· You will be able to retell the story in English
< Learning Activities outside of class >
· Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic (“what” is the passage about) and “how” the author explains his or her ideas/claim in the passage
· Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
· University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course
< Grading Criteria/Policy >
Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉　亜希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】
・英語独自の音やリズムを身につける
・英語を口に出して言うことに慣れる
・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One&Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT-Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 8: GOVERNMENT-Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS-Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ￥3,060+税)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
ユニットごとに行われる小テスト 20%
・Review Text 50%
適切な理由のない遅刻（授業開始から３０分以内）は２回で欠席扱いとする。また各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。
・適切な理由と証拠提出による公欠の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【学生の意見等からの気づき】
・対面授業は皆さんの英語で考えようとする自主的で積極的な参加があるとテンポよく進み、またグループワークで互いに刺激しあうことが出来ていました
・英語を英語で説明することに苦労したようですが、考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなったようでした
・英文を「ただ話はなんとなく読む」だけでは成長しません。読んで理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するのは簡単ではなく練習が必要となり、年度により完成度は異なりますが、確実に英語力を向上させることになります

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】
・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
・口頭練習が多いため、感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
・欠席や課題提出が遅れたことをメールで連絡する場合には、理由説明と根拠となる証拠の提示が必須
・適切な理由と証拠提出による欠席の場合には、代替措置を設定しますので要相談

【Outline (in English)】
This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.
< Learning Objectives >
· You will expand your vocabulary
· You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
· You will be able to guess words in context
· You will identify main ideas as well as supporting detail
· You will identify the structure and outline the passage
· You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
· You will be able to retell the story in English
< Learning Activities outside of class >
· Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic (“what” is the passage about) and “how” the author explains his or her ideas/claim in the passage
· Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
· University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course
< Grading Criteria/Policy >
Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨　健史郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、 BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING ：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING ：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES ：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】
『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills　文法中心のパラグラフリーディング―-正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】
文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店
を薦める。
英和辞典は
・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
・『ジーニアス英和大辞典』大修館書店
を薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】
単位取得条件
・欠席が 3 回以内であること（遅刻については下記参照）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。
以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
成績評価
・期末試験 50 %
・平常点（学習態度および受講態度）50 %
遅刻の扱い
・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】
「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】
座席
・座席は指定する。
オフィスオワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.
-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.
Learning Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

坂梨　健史郎

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、 BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していってほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7（続き）	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8（続き）	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9（続き）	文法： it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10（続き）	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11（続き）	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12（続き）	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING ：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
・READING ：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
・ACTIVITIES ：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】
『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills　文法中心のパラグラフリーディング―-正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】
文法の参考書は
・『FOREST』桐原書店
を薦める。
英和辞典は
・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社
・『研究社英和大辞典』研究社
・『ランダムハウス英和大辞典』小学館
をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】
単位取得条件
・欠席が 3 回以内であること（遅刻については下記参照）。
・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
・期末試験成績が 100 点満点中 60 点以上であること。
以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。
期末試験
・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。
成績評価
・期末試験 50 %
・平常点（学習態度および受講態度）50 %
遅刻の扱い
・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる（1 分の遅刻は 10 と記録する）。
・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】
「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】
座席
・座席は指定する。
オフィスオワー
・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.
-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.
Learning Activities Outside of Classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。
必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。

【到達目標】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 10 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
第 2 回 Chapter 1	Growth and Development	人間の誕生から死までのことを学び、本文の内容の練習問題を解く。
第 3 回 Chapter 2	Human Body / Sleep	人間の体と睡眠について学び、本文の練習問題を解く。
第 4 回 Chapter 3	Health and fitness / Allergies	健康とアレルギーに関して学び、本文の練習問題を解く。。
第 5 回 Chapter 4	Diseasies (1)	細菌、ウイルス、プリオン等に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 6 回 Chapter 5	Diseasies (2)	遺伝病、精神の病等を学び、本文の練習問題を解く。
第 7 回 Chapter 6	Immunity / AIDS	免疫とエイズに関して学び、本文の練習問題を解く。
第 8 回 Chapter 7	Smoking　/ Cancer	喫煙と癌に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 8	Medicine	医療に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 9	Complementary medicine	補充医療（漢方、整体、鍼灸）を学び、本文の練習問題を解く。
第 11 回 Chapter 10	First Aids / Doctors	救急医療と医師に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	ナイチンゲールの生涯と、看護師に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 13 回 Chapter 12	Hospitals	大学病院の役割に関して学び、本文の練習問題を解く。
第 14 回 試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】
Longman　Dictionary of Contemporary English （桐原書店）

【成績評価の方法と基準】
試験 80 %, 授業への積極性　20 %、
セメスター内で、４回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにするにする。

【到達目標】
複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 20 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	味の素 Chapter 1	味の素 の歴史、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 2 回	花王株式会社 Chapter 2	花王株式会社の企業理念、持続可能な企業活動などがを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 3 回	CYBERDYNE Chapter 3	CYBERDYNE の会社内容、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 4 回	サントリー Chapter 4	サントリーの歴史、企業理念等ををを学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 5 回	Spiber Chapter 5	Spiber の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 6 回	セコム株式会社 Chapter 6	セコム株式会社の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 7 回	ヤマト運輸株式会社 Chapter 14	ヤマト運輸の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 8 回	セブン＆アイ・ホールディングス Chapter 7	セブン＆アイ・ホールディングス企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 9 回	大正製薬 Chapter 8	大正製薬の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 10 回	東レ Chapter 9	東レの歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 11 回	豊田通商 Chapter 10	豊田通商の歴史、企業理念等を学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 12 回	日清食品 Chapter 11	日清食品の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 13 回	ビデオ学習。ビデオ	ビデオ学習をする。
第 14 回	試験を行う。試験･まとめ	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Leading the Way: Major Japanese Corporation（南雲堂）2,000 円＋税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験　80 %、、授業への積極性　20 %、
１セメスターで４回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中にしまっておくこと。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Is it in your blood?（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Is it in your blood?（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	An unpunished crime（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	An unpunished crime（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Money matters（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Money matters（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	Is netspeak harming the English language?（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	Is netspeak harming the English language?（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円＋税)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Language and the world（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	Population crisis（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	Population crisis（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	The greatest show on earth（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	The greatest show on earth（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	For an effective interview（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	For an effective interview（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円＋税)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口　清一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】
以下の達成を主眼とする。
＊英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
＊読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
＊日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインにて行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。
課題の提示と提出は「学習支援システム」を通して行い、各回の課題に対する次回の授業での解説によってフィードバックを行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (可算と不可算)
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (冠詞と限定詞)
第 4 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ①	本文読解・リスニング・音読
第 5 回	Chapter1(Animals: Fictional and Real) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 6 回	Chapter2(Exporting Sport) ①	本文読解・リスニング・音読
第 7 回	Chapter2(Exporting Sport) ②	本文読解・リス二ング・音読、英作文
第 8 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ①	本文読解・リスニング・音読
第 9 回	Chapter3(Literature: The Reading Boom) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 10 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ①	本文読解・リスニング・音読
第 11 回	Chapter4(Eating Habits: Changing Tastes) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 12 回	Chapter5(Art: Attitudes and Anonymity) ①	本文読解・リスニング・音読
第 13 回	Chapter5(Art: Attitudes and Anonymity) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 14 回	学期末の講評	春学期の課題の総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。英作問題においては必ず自分の解答を用意し、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。
尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが必須である。

【テキスト（教科書）】
Insight into Britain (イギリス探訪)　金星堂

【参考書】
特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 %で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。
尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】
年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The main purpose of this course is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocaburary and grammar with cultural literacy. To enrich vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; to understand grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, should be added the factor of cultural literacy to acquire a real understanding of English.
[Learning Objectives]
The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.
[Grading Criteria]

Each student's fainal grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

田口　清一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】
以下の達成を主眼とする。
＊英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
＊読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
＊日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はオンラインにて行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。
課題の提示と提出は「学習支援システム」を通して行い、各回の課題に対する次回の授業での解説によりフィードバックを行う。最終回には年間を通しての総評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語と英語の相違	文圧縮 (名詞構文)
第 2 回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第 3 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ①	本文読解・リスニング・音読
第 4 回	Chapter6(Population: Food for Thought) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 5 回	Chapter7(Antiques: Older Is Often Better) ①	本文読解・リスニング・音読
第 6 回	Chapter7(Antiques: Older Is Often Better) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 7 回	Chapter8(Smoke-Free Britain) ①	本文読解・リスニング・音読
第 8 回	Chapter8(Smoke-Free Britain) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 9 回	Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ①	本文読解・リスニング・音読
第 10 回	Chapter9(Edinburgh: A City of Festivals) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 11 回	Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ①	本文読解・リスニング・音読
第 12 回	Chapter10(Television: Reflecting Our Lives) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 13 回	年間の仕上げ	読解問題演習
第 14 回	今年度の総括	年間の課題に対する総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。英作問題においては必ず自分の解答を用意し、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。
尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが必須である。

【テキスト（教科書）】
Insight into Britain (イギリス探訪)　金星堂

【参考書】
特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】
オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 %で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期からの習熟度も考慮に入れる。
尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】
真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】
年間を通してのレヴェル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】
[Course Outline]
The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocaburary and grammar with cultural literacy. To enrich vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; to understand grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, should be added the factor of cultural literacy to acquire a real understanding of English.
[Learning Objectives]
The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.
[Learning Activities Outside of Classroom]
Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.
[Grading Criteria]

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な時事的、社会文化的問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5〜7 パラグラフからなる 300words 程度の英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおけるブレグジットから課題が山積する経済問題、王室、マスメディア、階級問題、環境問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。さらに、リスニングやシャドーイング、スピーキングのアクティヴィティなどにも取り組みます。

英語の母国であり、歴史的にも日本と関係が深く近年再び日本との結びつきを強めているイギリスの社会や文化について知識を深め、生涯にわたる英語学習の土台を形成することも、本授業の目的です。

【到達目標】
本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。
①英語の辞書の使い方を覚える。
②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
③ 300〜400words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
④リスニングやシャドーイングのアクティヴィティを通して、正しい英語の発音やアクセントを身に着ける。
⑤イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
⑥現代イギリスの社会文化的問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で進めます。
2 週でチャプターを 1 つづつ進めていきます。1 週目にリーディングに取り組み、2 週目にリスニングやスピーキング、ライティングなどのアクティヴィティに取り組みます。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 13 日	ガイダンス	授業の方針説明
4 月 20 日	Chapter 1: Top Issues ①	リーディング
4 月 27 日	Chapter 1: Top Issues ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
5 月 11 日	Chapter 2: Wales ①	リーディング
5 月 18 日	Chapter 2: Wales ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
5 月 25 日	Chapter 3: The Royal Family ①	リーディング
6 月 1 日	Chapter 3: The Royal Family ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
6 月 8 日	Chapter 4: Clubbing Experiment ①	リーディング
6 月 15 日	Chapter 4: Clubbing Experiment ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
6 月 22 日	Chapter 5: Cyber Crime ①	リーディング
6 月 29 日	Chapter 5: Cyber Crime ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
7 月 6 日	Chapter 6: Technology & Politics in Scotland ①	リーディング
7 月 13 日	Chapter 6: Technology & Politics in Scotland ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
7 月 20 日	学期末筆記試験	授業理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習として、各チャプターの導入部に目を通し、Warm-up 問題をやておく。復習は特に指定しないが、授業内で終わらなかったアクティヴティを課題として出題することがあるので、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Britain Today: Culture, Society and History
【著者】James C. House、Michiko Miyoshi
【出版社】松柏社
【価格】1980 円（税抜き）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業 Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Britain Today". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words about current events in Britain and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students not only develop the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also increase interest in the culture and life of Britain.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
⑥ Have interest in British culuture and understand current issues of Britain.
⑦ Consider current issues of Japan comparing them with those of Britain.
Before each class meeting, students will be expected to have read introduction and Warm-up at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write a report and submit it through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高井　美紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な時事的、社会文化的問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5〜7 パラグラフからなる 300words 程度の英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおけるブレグジットから課題が山積する経済問題、王室、マスメディア、階級問題、環境問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。さらに、リスニングやシャドーイング、スピーキングのアクティヴィティなどにも取り組みます。

英語の母国であり、歴史的にも日本と関係が深く近年再び日本との結びつきを強めているイギリスの社会や文化について知識を深め、生涯にわたる英語学習の土台を形成することも、本授業の目的です。

【到達目標】
本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。
①英語の辞書の使い方を覚える。
②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
③ 300〜400words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
④リスニングやシャドーイングのアクティヴィティを通して、正しい英語の発音やアクセントを身に着ける。
⑤イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
⑥現代イギリスの社会文化的問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は春学期と同様に演習形式で進めます。
2 週でチャプターを 1 つづつ進めていきます。1 週目にリーディングに取り組み、2 週目にリスニングやスピーキング、ライティングなどのアクティヴィティに取り組みます。但し Chapter 11 からはペースを速め、1 週に 1 チャプターを進めていきます。そのため予習復習、課題の取り組みが一層重要となります。
授業内容に応じてレポート等の課題の提出を求めることがありますが、すべて、Hoppii の授業支援システムを通して行います。フィードバックもシステムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 21 日	Chapter 7: Sport ①	リーディング
9 月 28 日	Chapter 7: Sport ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
10 月 5 日	Chapter 8: The Third Age ①	リーディング
10 月 12 日	Chapter 8: The Third Age ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
10 月 19 日	Chapter 9: The New Nationalism ①	リーディング
10 月 26 日	Chapter 9: The New Nationalism ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 9 日	Chapter 10: Literature & the Arts ①	リーディング
11 月 16 日	Chapter 10: Literature & the Arts ②	リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 23 日	Chapter 11: Environment	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
11 月 30 日	Chapter 12: The New Crime Bill	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 7 日	Chapter 13: Vaccination & Freedom Day	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 14 日	Chapter 14: Education: Disparity & Division	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
12 月 21 日	Chapter 15: Britain's Future	リーディング、リスニング＆スピーキング＆ライティング
1 月 19 日	学期末筆記試験	授業理解度確認のための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習として、各チャプターの導入部に目を通し、Warm-up 問題をやておく。復習は特に指定しないが、授業内で終わらなかったアクティヴティを課題として出題することがあるので、授業支援システムを通して提出する。

【テキスト（教科書）】
【テキスト】Britain Today: Culture, Society and History
【著者】James C. House、Michiko Miyoshi
【出版社】松柏社
【価格】1980 円（税抜き）

【参考書】
特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
（※授業内で課すレポートや小テスト、授業参加度を評価）
学期末筆記試験 60 %
総合評価は 100 点満点で、60 点以上で合格となります。
正当な理由のない欠席が 4 回を超えると単位取得不可となります。病欠や部活動の試合、就職活動、忌引き等の欠席は公欠となりますので、メール等で連絡をください。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度 Vocabulary 増強のために授業内で単語テストを頻繁に行った結果、学生の読解力の向上が見られたので、本年度も語彙力増強のためのプログラムを授業内で組みたい。

【学生が準備すべき機器他】
レポートなどの課題の受け渡しは、Hoppii の学習支援システムを利用して行います。また初回授業 Zoom で行います。授業は基本的に対面授業で行いますが、場合に応じて Zoom 授業を行うことがあります。その場合、授業支援システムを通じて授業前に連絡しますので、授業支援システムのチェックをお願いします。パソコン、インターネット環境の準備をしてください。

授業では辞書を引く練習をしますので、英語の辞書を準備してください。電子辞書が望ましいですが、ない場合はスマートフォンの辞書も認めます。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
Students in this class read the textbook titled "Britain Today". This textbook has 15 units or lessons, each with a reading of around 300 words about current events in Britain and a variety of conprehensive activites. The aim of this course is to help students not only develop the essential English skills such as reading, listening, writing and speaking, but also increase interest in the culture and life of Britain.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
① Read an English article closely by using a English-Japanes dictionary correctly.
② Read and correctly understand an English essay with around 300 words in 50 minutes.
③ Increase one's vocabulary.
④ Raed aloud English sentences with correct pronouciation and accent.
⑤ Listen and understand short talks in listening activities.
⑥ Have interest in British culuture and understand current issues of Britain.
⑦ Consider current issues of Japan comparing them with those of Britain.
Before each class meeting, students will be expected to have read introduction and Warm-up at the begginning of each chapter and guess the content of the reading. After each class meeting, students will be expected to write a report and submit it through Hoppii. Your required study time is at least an hour for each class meeting.
Grading will be decided based on Term-end examination: 60%, Short reports: 20%, in class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大既　諒

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1 章につき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、Reading 1 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
2 回目の授業は、Reading 2 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
いずれの授業でも、本文の内容に関わるプレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明 予習の仕方の説明
第 2 回	Chapter 1	Reading 1 The Easter Parade
第 3 回	Chapter 1	Reading 2 Easter Candy
第 4 回	Chapter 2	Reading 1 Hip Hop
第 5 回	Chapter 2	Reading 2 Kendrick Lamer
第 6 回	Chapter 3	Reading 1 Rhythm and Blues
第 7 回	Chapter 3	Reading 2 Beyonce
第 8 回	Chapter 4	Reading 1 The Academy Awards
第 9 回	Chapter 4	Reading 2 Academy Members and Voting
第 10 回	Chapter 5	Reading 1 Ralph Lauren
第 11 回	Chapter 5	Reading 2 Tommy Hilfiger
第 12 回	Chapter 6	Reading 1 Fraternities and Sororities
第 13 回	Chapter 6	Reading 2 Higher Education in America
第 14 回	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示された箇所の予習を必ずおこなうこと。
発表担当者は、発表資料の作成をおこなう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Ryan Smithers, Craig Gamble『Modern America: Culture, Society and History　現代米国の文化・社会・歴史』、松柏社、2021 年、2200 円

【参考書】
英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
平常点（授業内での発表、発言、小テスト等を含む）40 %
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。
発表担当者が正当な理由なく準備を怠ったり欠席したりした場合は、単位を認定しない。
授業内での取り組みが著しく不十分であると判断した場合は、欠席と見なす。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム
オンライン授業で使用する PC もしくはタブレット端末

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。適宜チェックするようにしてください。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To acquire the ability to read English sentences accurately.
To acquire the ability to listen to English sentences accurately.
To Improve basic grammar skills.
To Increase vocabulary.
To acquire the ability to think logically.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%
in class contribution: 40%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

大既　諒

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1 章につき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、Reading 1 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
2 回目の授業は、Reading 2 の読解（大意把握、精読）と教科書の設問を解く。
いずれの授業でも、本文の内容に関わるプレゼンテーションおよびディスカッションをおこなう。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明 予習の仕方の説明
第 2 回	Chapter 7	Reading 1 Twitter
第 3 回	Chapter 7	Reading 2 Minds–Getting Paid for Posting
第 4 回	Chapter 8	Reading 1 Elon Musk
第 5 回	Chapter 8	Reading 2 SpaceX
第 6 回	Chapter 9	Reading 1 History of the Game
第 7 回	Chapter 9	Reading 2 Colin Kaepernick
第 8 回	Chapter 10	Reading 1 Humble Beginnings
第 9 回	Chapter 10	Reading 2 The Hollywood Walk of Fame
第 10 回	Chapter 11	Reading 1 The Man Behind the Mouse
第 11 回	Chapter 11	Reading 2 Imagining Disneyland
第 12 回	Chapter 12	Reading 1 A Symbol of Freedom & Mobility
第 13 回	Chapter 12	Reading 2 Tourist Attractions of Route 66
第 14 回	期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指示された箇所の予習を必ずおこなうこと。
発表担当者は、発表資料の作成をおこなう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Ryan Smithers, Craig Gamble『Modern America: Culture, Society and History　現代米国の文化・社会・歴史』、松柏社、2021 年、2200 円

【参考書】
英和辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
平常点（授業内での発表、発言、小テスト等を含む）40 %
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。
発表担当者が正当な理由なく準備を怠ったり欠席したりした場合は、単位を認定しない。
授業内での取り組みが著しく不十分であると判断した場合は、欠席と見なす。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していない。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム
オンライン授業で使用する PC もしくはタブレット端末

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムを通じておこないます。適宜チェックするようにしてください。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
To acquire the ability to read English sentences accurately.
To acquire the ability to listen to English sentences accurately.
To Improve basic grammar skills.
To Increase vocabulary.
To acquire the ability to think logically.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%
in class contribution: 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　和久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】
上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トーイック）のスコアーを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。提出課題等は、その都度チェックして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとプレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①【トピックセンテンス】
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②【展開の仕方】
9	テキストの演習	パラグラフの構造③【情報構造】
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhense students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (30%), term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　和久

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】
上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トーイック）のスコアーを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションとプレイスメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験成績 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhense students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (30%), term-end examination (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXhapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chpter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Uni7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行　2021 年第 7 刷発行　2000 円＋税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　季実子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】
テキストの中で扱われている多種多様の題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。
1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。
課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。
なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Uni4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。
また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』
田中孝信、野田三貴、筒井香代子
音羽書房鶴見書店
2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行　2000 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
小テスト７０％
平常点　１５％
その他提出物　１５％
とします
なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合
単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】
英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】
辞書
オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境
（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】
In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.
The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺　英依美

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】
この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
(1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
(2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
(3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination Unit 4: Big Money (1)	Mid-semester exam Identifying cause and effect
9	Review of the Exam Unit 4: Big Money (2)	Review of the exam Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events
12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習が必須。個々の単語を理解するだけではなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning.

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の発表・課題の提出 25 %
中間試験 35%
期末試験 40 %
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングとグループワークが好評のため、積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
(1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
(2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
(3) Present thoughts and opinions on related issues in English.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on the following criteria:
Class participation/assignments 25 %
Mid-semester examination 35%
Final examination 40 %
More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺　英依美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】
この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
(1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
(2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
(3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination Unit 10: The Future of Education (1)	Mid-semester exam Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (2)	Review of the exam Identifying meaning from context
10	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	Scanning
12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習が必須。個々の単語を理解するだけではなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning.

【参考書】
必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業中の発表・課題の提出 25 %
中間試験 35%
期末試験 40 %
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】
アクティブラーニングとグループワークが好評のため、積極的に取り入れる。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be able to:
(1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
(2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
(3) Present thoughts and opinions on related issues in English.
【Learning activities outside of classroom】
Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.
【Grading Criteria /Policy】
Evaluation will be based on the following criteria:
Class participation/assignments 25 %
Mid-semester examination 35%
Final examination 40 %
More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

水野　太朗

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】
英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2023 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英語による議論のパターンを修得するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Food Additives [Pro] / 国内政治 (1)	Nothing to worry about / Japan ruling party wins big in polls in wake of Abe's death (1)
第 02 回	Food Additives [Con] / 国内政治 (2)	Don't gamble with your health / Japan ruling party wins big in polls in wake of Abe's death (2)
第 03 回	Body Image and Photoshopping [Pro] / 経済 (1)	Show me at my best / IMF cuts global growth forecast due to "seismic waves" from Russia's war in Ukraine (1)
第 04 回	Body Image and Photoshopping [Con] / 経済 (2)	Time to get real / IMF cuts global growth forecast due to "seismic waves" from Russia's war in Ukraine (2)
第 05 回	Undergrounding [Pro] / ビジネス (1)	Less is more / Japan's economy shrank 1 persent as consumers fled Covid (1)
第 06 回	Undergrounding [Con] / ビジネス (2)	Hidden obstacles to success / Japan's economy shrank 1 persent as consumers fled Covid (2)
第 07 回	Do We Need the Olympics? [Pro] / 外交 (1)	More than just a sports festival / China urged to Russia to stop Ukraine war (1)
第 08 回	Do We Need the Olympics? [Con] / 外交 (2)	We have better things to do with our money / China urged to Russia to stop Ukraine war (2)
第 09 回	Mobile Ads [Pro] / 軍事 (1)	Something for nothing / Russia's Lavrov says Moscow wants more territory; US sees grinding war (1)
第 10 回	Mobile Ads [Con] / 軍事 (2)	A great way to lose customers / Russia's Lavrov says Moscow wants more territory; US sees grinding war (2)
第 11 回	SIM-Free Smartphones [Pro] / 国外政治 (1)	The sooner the better / Boris Johnson quits as UK prime minister, dragged down by scandals (1)
第 12 回	SIM-Free Smartphones [Con] / 国外政治 (2)	The grass is always greener... / Boris Johnson quits as UK prime minister, dragged down by scandals (2)
第 13 回	100-Yen Shops [Pro] / 社会 (1)	Luxury on the cheap / Tokyo senior highs to retire rules that forced conformity (1)
第 14 回	100-Yen Shops [Con] / 社会 (2)	Save now, pay later / Tokyo senior highs to retire rules that forced conformity (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】
Mark Jewel『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』（朝日出版社）ISBN:9784255156477
堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2023 Edition 時事英語の総合演習 2023 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156989

【参考書】
必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）
なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.
Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination（100 %）
Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野　太朗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】
英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2023 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英語による議論のパターンを修得するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Barrier-Free Everywhere? [Pro] / 事件 (1)	Access for all / Captain of missing Hokkaido boat forced to sail despite high waves (1)
第 02 回	Barrier-Free Everywhere? [Con] / 事件 (2)	Possibilities and limitations / Captain of missing Hokkaido boat forced to sail despite high waves (2)
第 03 回	Elderly Drivers [Pro] / 裁判 (1)	Keep our seniors licensed / Revised penal code should help in rehabilitation of prison inmates (1)
第 04 回	Elderly Drivers [Con] / 裁判 (2)	Keep our seniors licensed / Revised penal code should help in rehabilitation of prison inmates (2)
第 05 回	School Clubs [Pro] / 環境 (1)	Friends and fulfillment / Heatwaves becoming normal amid climate change as Europe continues sweltering (1)
第 06 回	School Clubs [Con] / 環境 (2)	Stress and frustration / Heatwaves becoming normal amid climate change as Europe continues sweltering (2)
第 07 回	The NIMBY Syndrome [Pro] / 資源 (1)	Welcome, neighbor / UN warns of "looming hunger catastrophe" due to Russian blockade (1)
第 08 回	The NIMBY Syndrome [Con] / 資源 (2)	Too far outside my comfort zone / UN warns of "looming hunger catastrophe" due to Russian blockade (2)
第 09 回	Electronic Voting [Pro] / 人口 (1)	A win for democracy / Grobal population to reach 8 billion this year, India to become most populated country (1)
第 10 回	Electronic Voting [Con] / 人口 (2)	I vote no / Grobal population to reach 8 billion this year, India to become most populated country (2)
第 11 回	Aid in Dying [Pro] / 科学 (1)	My life, my decision / Amino acids in asteroid samples collected by Japan's Hayabusa2 probe (1)
第 12 回	Aid in Dying [Con] / 科学 (2)	Where do we draw the line? / Amino acids in asteroid samples collected by Japan's Hayabusa2 probe (2)
第 13 回	Biometric Authentication [Pro] / スポーツ (1)	The real deal / Underdogs no more: Japan looks toward 2023 Rugby World Cup (1)
第 14 回	Biometric Authentication [Con] / スポーツ (2)	A false sense of security / Underdogs no more: Japan looks toward 2023 Rugby World Cup (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】
Mark Jewel『Pros and Cons: Arguing Different Points of View 議論伯仲：ふたつの意見』（朝日出版社）ISBN:9784255156477
堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2023 Edition 時事英語の総合演習 2023 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156989

【参考書】
必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100 %）
なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】
Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.
Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.
Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination（100 %）
Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のニュースを教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットにつき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、速読）を中心に進める。
2 回目の授業では、読解（精読）とスピーキング、作文を行う。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages	リスニング、大意把握、速読
3	Unit 1: Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages	精読、スピーキング、作文
4	Unit 2: Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition	リスニング、大意把握、速読
5	Unit 2: Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition	精読、スピーキング、作文
6	Unit 3: Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality	リスニング、大意把握、速読
7	Unit 3: Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality	精読、スピーキング、作文
8	Unit 4: Panda Boom Gives New Hope for Its Survival	リスニング、大意把握、速読
9	Unit 4: Panda Boom Gives New Hope for Its Survival	精読、スピーキング、作文
10	Unit 5: Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan	リスニング、大意把握、速読
11	Unit 5: Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan	精読、スピーキング、作文
12	Unit 6: Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker	リスニング、大意把握、速読
13	Unit 6: Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker	精読、スピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. ビデオを視聴し、予習問題に解答する。
2. スクリプトを精読し、日本語に訳せるようにする。
［復習］
1. 復習問題に解答する。
2. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Toward a Diverse Society 1（若有保彦編、松柏社、2023 年、2,300 円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%
平常点（作文、スピーキング、予習・復習、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through watching English news videos and reading their scripts, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and improve ability in listening and writing.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のニュースを教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットにつき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、速読）を中心に進める。
2 回目の授業では、読解（精読）とスピーキング、作文を行う。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 7: Water Wheel Picks Up Trash in Baltimore's Waterways	リスニング、大意把握、速読
3	Unit 7: Water Wheel Picks Up Trash in Baltimore's Waterways	精読、スピーキング、作文
4	Unit 8: Junk Food Advertising Is To Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK	リスニング、大意把握、速読
5	Unit 8: Junk Food Advertising Is To Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK	精読、スピーキング、作文
6	Unit 9: Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks	リスニング、大意把握、速読
7	Unit 9: Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks	精読、スピーキング、作文
8	Unit 10: Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance	リスニング、大意把握、速読
9	Unit 10: Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance	精読、スピーキング、作文
10	Unit 11: Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away	リスニング、大意把握、速読
11	Unit 11: Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away	精読、スピーキング、作文
12	Unit 12: Dogs Can Be Trained to Detect Cancer	リスニング、大意把握、速読
13	Unit 12: Dogs Can Be Trained to Detect Cancer	精読、スピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. ビデオを視聴し、予習問題に解答する。
2. スクリプトを精読し、日本語に訳せるようにする。
［復習］
1. 復習問題に解答する。
2. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Toward a Diverse Society 1（若有保彦編、松柏社、2023 年、2,300 円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%
平常点（作文、スピーキング、予習・復習、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through watching English news videos and reading their scripts, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.
The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and improve ability in listening and writing.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	Class
3	Chapter 2	Education
4	Chapter 3	Gender
5	Chapter 4	Health and Age
6	Chapter 5	Crime and Punishment
7	Chapter 6	Drug
8	Chapter 7	Sports
9	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
10	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容④
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容⑤
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simon Rosati 著、近藤久雄、河野淳子注解『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』2022 年、英宝社、2,000 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキスト『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 8	Religion
2	Chapter 9	The Monarchy
3	Chapter 10	Love and Marriage
4	Chapter 11	The Environment
5	Chapter 12	Immigration and Race
6	Chapter 13	Scotland
7	Chapter 14	Ireland
8	Chapter 15	Europe
9	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
10	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容④
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容⑤
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simon Rosati 著、近藤久雄、河野淳子注解『現代イギリスの暮らしと文化 [改訂版] Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]』2022 年、英宝社、2,000 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Life and Society in Modern Britain [Revised Edition]” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半は、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半は、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして、聴解練習をしていく。英語のネイティブスーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
・論理的に文法・構文を説明できる
・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていただきます。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Chapter 1 India	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 3 回	Chapter 2 Philippines	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 3 Thailand	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 4 Vietnam	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 5 Korea	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 6 France	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 7 Italy	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 8 Denmark	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 9 Portugal	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 10 Turkey	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 11 Egypt	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 12 South Africa	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 13 Brazil	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指示に従って、教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の小テスト 60%、課題 10%、平常点 30%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。
オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
− Students will acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on unit tests (60%), homework assignments (10%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして聴解練習をしていく。英語のネイティブスーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
・論理的に文法・構文を説明できる
・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていただきます。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、Chapter 1 Australia	授業の概要説明, 文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 2 回	Chapter 2 Indonesia	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 3 回	Chapter 3 Singapore	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 4 China	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 5 Argentina	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 Mexico	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 7 Germany	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Finland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Poland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Spain	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Greece	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 Kenya	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Morocco	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Lebanon	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：指示に従って教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "On Board for More World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期中の小テスト 60%、課題 10%、平常点 30%による総合評価。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。
オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
− Students will acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (10%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田　しおり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリス人の著者ビル・ベンフィールドが、The Lake District（湖水地方）や、
ノッティンガムの Sherwood Forest（シャーウッドの森）のようなイギリスの真髄ともいえる場所をを訪れ、その土地の有名な出身者について述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】
Reading Comprehension、Listening Comprehension を行うことにより、実践力を高める。
文化的背景を英語で学ぶことで、国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習の形式で行う。
フィードバック方法　　最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。
授業実施形態　　対面授業の形態で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	Chapter1 Four Countries	私達がイギリスと呼んでいる国は、実際にはブリテインという国で、4 つの地域から構成されている。こういった地域は、かつては 4 つの国であり、独自の言語や習慣を持っていた。
(2)	Chapter1 Four Countries	Chapter1 の Exercise を行う。
(3)	Chapter2 The Lake District	イングランド北西部の湖水地方は、湖と小高い丘のある風光明媚な場所である。この美しい自然を背景にして、ロマン派の詩人ワーズワスや『ピーターラビットの物語』の作者ベアトリクス・ポターが作品を書いた。
(4)	Chapter2 The Lake District	Chapter2 の Exercise を行う。
(5)	Chapter3 Stratford-upon-Avon	ストラットフォードは、16 世紀の劇作家シェイクスピアが生まれたエイボン川のほとりにあるイギリス中部の町である。 ここには、シェイクスピアの妻、アン・ハッサウェイの実家や彼が洗礼し、そして埋葬された聖トリニティチャーチがある。
(6)	Chapter3 Stratford-upon-Avon	Chapter3 の Exercise を行う。
(7)	Chapter4 London Through the Ages	ロンドンには、11 世紀に造られたウエストミンスター寺院やロンドン塔のような多くのランドマークがある。現在のランドマークは、モダンブリテインを意識して作られたロンドン・アイである。
(8)	Chapter4 London Through the Ages	Chapter4 の Exercise を行う。
(9)	Chapter5 Wessex	イングランド南西部のウェセックスは、19 世紀の作家トマス・ハーディの故郷である。 ハーディは、ウェセックス・ノベルといわれる代表作、『テス』『日陰者ジュード』『遥か狂乱の群れを離れて』の作品を書いた。
(10)	Chapter5 Wessex	Chapter5 の Exercise を行う。
(11)	Chapter6 Winchester	ウィンチェスターは、ローマ人によって築かれ、9 世紀には、サクソンの王アルフレッド大王が、首都にした町である。 ウィンチェスターの町ゆかりのもう 1 人の人物は、19 世紀の作家ジェイン・オースティンである。
(12)	Chapter6 Winchester	Chapter6 の Exercise を行う。
(13)	Chapter8 The Cotswolds	コッツウオルズは、ロンドンの西部にある石灰岩の丘陵地帯である。また、この地方は、絵のように美しい糖蜜色の外壁の家で知られている場所である。
(14)	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Reading Passage、Reading Comprehension、Listening Comprehension を読んで、授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
Cultural Walks in Britain (Bill Benfield) 成美堂

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50%、平常点 50%として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline (in English)】
Using the textbook written by English author, students can learn the diverse and practical knowledge about United Kingdom and raise the level by studying Dialogue, Passage, Exercise. It takes an hour for students to review and prepare for this class. Grades are evaluated as final exam is 50% and normal point is 50%.They aren't evaluated in case of being absent from this class 4.
Three lateness is regarded as one absence.

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　しおり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリス人の著者ビル・ベンフィールドが、The Lake District（湖水地方）や、
Cotswolds、ノッティンガムの Sherwood Forest（シャーウッドの森）のようなイギリスの真髄ともいえる場所をを訪れ、その土地の有名な出身者について述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際的な知識を学ぶことができる。

【到達目標】
Reading Comprehension、Listening Comprehension を行うことにより、実践力を高める。
文化的背景を英語で学ぶことで、国際的なコミュニケーション能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
演習の形式で行う。
フィードバック方法　　最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。
授業実施形態　　対面授業の形態で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	Chapter 11	ロンドン中心部のベーカーストリートには、現在 Sherlock Holmes の museum がある。museum には、ホームズが関わった事件のさまざまな場面が、人形で再現されている。
(2)	Chapter 11	Chapter 11 の Exercise を行う。
(3)	Chapter 14 The Potteries	イングランド中部は、potteries（陶器生産地帯）として知られていて、Stoke-on-Trent には、ウェッジウッドの工場がある。
(4)	Chapter 14 The Potteries	Chapter 14 の Exercise を行う。
(5)	Chapter 15 Yorkshire	ヨークシャーの村ハワースは、産業都市に囲まれながら、美しい自然が残されているところである。19 世紀の小説家エミリーブロンテは、この美しい自然を背景に『嵐が丘』の作品を書いた。
(6)	Chapter 15	Chapter 15 の Exercise を行う。
(7)	Chapter 16 Nottingham	ノッティンガムのシャーウッドの森には、富める者から奪い、貧しき者に施しを与えるという、庶民の英雄であるロビンフッド伝説がある。『息子と恋人』を書いた 20 世紀の小説家、D.H Lowrence も、この町の出身である。
(8)	Chapter 16 Nottingham	Chapter 16 の Exercise を行う。
(9)	Chapter 17 Edinburgh: The Athens of the North	スコットランドの首都エディンバラは、大規模な夏祭りが開かれることから、"the Festival City"と呼ばれる。
(10)	Chapter 17 Edinburgh: The Athens of the North	Chapter 17 の Exercise を行う。
(11)	Chapter 19 Dublin	アイルランドの首都ダブリンは、そのパブに代表されるように活気があり、ホスピタリティに溢れているところである。 ダブリン出身の 20 世紀の作家ジェイムズ・ジョイスは、ダブリンの町にたいする思いを『若い詩人の肖像』の中で書いた。
(12)	Chapter 19 Dublin	Chapter 19 の Exercise を行う。
(13)	Chapter 20 Irish-Americans	19 世紀中頃のジャガイモの飢饉で、アイルランドの人は、餓えるか新天地アメリカ」に渡るかの選択を迫られた。この時、アメリカに渡った人の中には、John F.Kennedy の祖父もいた。現在、アメリカには、アイルランド人の血を引くと主張するおよそ 4000 万人の人がいる。
(14)	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Reading Passage、Reading Comprehension、Listening Comprehension を読んで、授業に望んでください。

【テキスト（教科書）】
Cultural Walks in Britain (Bill Benfield) 成美堂

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50%、平常点 50%として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

【Outline (in English)】
Using the textbook written by English author, students can learn the diverse and practical knowledge about United Kingdom and raise the level by studying Dialogue, Passage, Exercise. It takes an hour for students to review and prepare for this class. Grades are evaluated as final exam is 50% and normal point is 50%.They aren't evaluated in case of being absent from this class 4.
Three lateness is regarded as one absence.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食物の歴史を平易な英文で学びながら、リーディング・スキルを中心とした英語力を高める。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2．英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3．読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
授業の理解を確認したり深めたりするための提出課題（リフレクションペーパー等）については、原則として提出の翌週にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業についての説明
2	Lesson 1 The Pig or the Pork	本文読解、Exercises
3	Lesson 2 Do You Like Garlic?	本文読解、Exercises
4	Lesson 3 Sweet as Sugar	本文読解、Exercises
5	Lesson 4 Our daily Bread	本文読解、Exercises
6	Lesson 6 Apples	本文読解、Exercises
7	復習・復習試験（1）	Lesson 1〜4, 6 の復習、および復習試験の実施
8	Lesson 7 The White Gold: Salt	本文読解、Exercises
9	Lesson 8 Say Cheese	本文読解、Exercises
10	Lesson 9 Beans	本文読解、Exercises
11	Lesson 10 Foie Gras	本文読解、Exercises
12	Lesson 13 Chocolate	本文読解、Exercises
13	復習・復習試験（2）	Lesson 7〜10, 13 の復習、および復習試験の実施
14	Lesson 15 Tea Etiquette	本文読解、Exercises

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。本文を読み、Exercises（練習問題）を解いておくこと。本文の標準的な準備学習の流れとしては、(1) 音声（各自教科書会社の HP からダウンロードできる）を聞きながら一通り目を通し、(2) 不明点を辞書等でできるだけ調べ、(3) 残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけたりノートに書き出したりしておく。本文の音読練習もなるべく行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準 とします。

【テキスト（教科書）】
Elena Taralunga Tamura and Midori Takahashi『Food in History 英語で学ぶ食の歴史』英宝社、2022 年改訂版.

【参考書】
高校〜一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%（リフレクションペーパー 20%、授業への参加度 10%）、および復習試験（2 回）70 %の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークは教育効果は高いが、参加が苦手な学生がいることにも配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・オンライン授業を教室で受講する場合は、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class is on food and its history. Through reading the passage and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and to understand some aspects of western civilization and culture as well.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (20%), in-class contribution (10%), and the mid-term and end-term exams (70%).

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中和　彩子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代文化・社会をめぐるさまざまなトピックを、多岐にわたるアプローチで捉えた英語の文章を読む。リーディングの力を段階的に伸ばしつつ、リスニングやライティングにも慣れる。

【到達目標】
1．英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2．平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3．読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4．読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5．使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
毎回の授業の最後に、理解を確認するためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。学習方法について。
2	Unit 1 The Pencil	リーディングのコツ： Scanning
3	Unit 2 Running Marathons	Scanning
4	Unit 3 Superstition	Topic Sentences
5	Unit 4 The Printing Press	Topic Sentences
6	Unit 5 How Safe Is Air Travel?	Supporting Sentences
7	復習・復習試験 (1)	Unit 1～5 の復習、および復習試験の実施
8	Unit 6 Jazz Music	Supporting Sentences
9	Unit 7 Inflation /(Unit 8 The Word "Hello")	Discourse Markers
10	Unit 9 Trans Fats /(Unit 10 Braille)	Time Order
11	Unit 11 Nightmares	Cause and Effect
12	Unit 12 The Power of Positive Thinking	Cause and Effect
13	復習・復習試験 (2)	Unit 6, 7, 9, 11, 12, の復習、および復習試験の実施
14	(Unit 13 The Andes Mountain Range)/ Unit 14 Freedom Riders	Guessing the meaning of unfamiliar words

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習は必須である。本文を読み、練習問題を解いておくこと。本文の標準的な準備学習の流れとしては、(1) 音声（各自ダウンロード／ストリーミングできる）を聞きながら一通り目を通し、(2) 不明点を辞書等でできるだけ調べ、(3) 残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけたりノートに書き出したりしておく。本文の音読練習もなるべく行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準 とします。

【テキスト（教科書）】
Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu, Zachary Fillingham, Owain Mckimm, and Judy Majekwski『リーディング力アップのための 7 つの方略　Book 2 (Success with Reading: Boost Your Reading Skills, Book 2)』成美堂, 2021.

【参考書】
高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%（リフレクションペーパー 20%、授業への参加度 10%）、および復習試験 70 %の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
・ペア／グループワークは教育効果は高いが、参加が苦手な学生がいることにも配慮する。

【学生が準備すべき機器他】
・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・オンライン授業を教室で受講する場合は、ハウリング防止のため、マイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】
授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて行います。

【Outline (in English)】
Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook designed primarily to help students read English faster with precision, students will gain intellectual knowledge as well, because the topics are wide-ranging, from the pencil to inflation and the approaches to them vary in field, such as cultural history, psychology, and economics.
Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.
Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (20%), in-class contribution (10%), and the mid-term and end-term exams (70%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1:Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 4 回	Unit 2: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 6 回	Unit 3: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 8 回	Unit 4: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 10 回	Unit 5: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 11 回	Unit 5: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 12 回	Unit 6: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America's Evolution（松柏社, 2023）

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge Univ. Press, 2010)
Practical English Usage (Oxford Univ. Press, 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 3 回	Unit 7: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 5 回	Unit 8: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 7 回	Unit 9: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 9 回	Unit 10: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 10 回	Unit 10: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 11 回	Unit 11: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 12 回	Unit 11: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America's Evolution（松柏社，2023）

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 4/Sat.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1:Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 4 回	Unit 2: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 6 回	Unit 3: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 8 回	Unit 4: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 10 回	Unit 5: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 11 回	Unit 5: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 12 回	Unit 6: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America's Evolution（松柏社, 2023）

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge Univ. Press, 2010)
Practical English Usage (Oxford Univ. Press, 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩谷　幸子

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**土 4/Sat.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】
英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング），ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 3 回	Unit 7: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 5 回	Unit 8: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 7 回	Unit 9: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 9 回	Unit 10: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 10 回	Unit 10: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 11 回	Unit 11: Reading	Vocabulary / Reading Comprehension
第 12 回	Unit 11: Post-reading	Comprehension Questions / Composition
第 13 回	プレゼンテーション	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって, 自律的な学習習慣を身につけて欲しい。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業である。予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかるので十全な準備が必要である。

【テキスト（教科書）】
America's Evolution（松柏社，2023）

【参考書】
Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)
Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)
その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %＋プレゼンテーション 20 %＋提出課題 20 %＋平常点 10 %によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きペア・グループワークを頻繁に行う。

【学生が準備すべき機器他】
学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】
コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。
教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.
The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.
· Students will learn to read efficiently.
· Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
· Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.
Students are required to practice phrase reading and oral reading at least for 60 minutes a week outside of class.
Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20 %) + Participation (10%)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English ２ I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
Unit 1 First Impression	Unit 1 First Impression	Read the unit well and do the exercises and understand it. Think why first impressions are important.
Unit 1	Unit 1	Put yourself in the characters of Sandy and Tamara. Who do you agree with and why.
Unit 2 Big or small	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or living in a small town. What are the merits and the demerits of each.
Unit 2	Unit 2	Continuation of the previous unit. Group discussion on why you want to live in a small town or a big city.
Unit 3 The Good Language Learner	Unit 3 The Good language Learner	What is it to learn a new language. You have all studied English for a number of years. What do you think about it.
Unit 3	Unit 3	Group Activity . What do you think about learning a new language. Is it necessary to learn a new language or not.
Unit 5 Forever Single	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage. Is marriage important for everybody? What do you think about what Angela is saying. Do you agree or disagree.
Unit 5	Unit 5	What do you think about LGBTQ. Is marriage necessary for them? Talk about whether marriage is important for them and why.
Unit 7 What's for lunch	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Why is it important to think about what we eat? Do we think about global warming or about our environment when we eat?
Unit 7	Unit 7 Preparing for the presentation	Talk about why we need to think about global warming and our environment. What do we think about SDGs.
Unit 7	Unit 7 Preparing for the presentation	What are the problems about food loss and food waste. Need we think about it? Preparing for the presentation.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what you think about each unit we are studying.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には状況により
マイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English ２ Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということでしたが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。教科書には多くの activities が記載されているのどそれらを通して role playing を行って行きたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとうして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
Reading a poem	Reading a poem What Do I Remember of the Evacuation	What is a poetry? Reading a poetry and analyzing it.
Reading a poem	What Do I Remember of the Evacuation	Studying the content of the poetry. Writing a poetry of your own.
Unit 8 Your Online past	Unit 8 Your Online Past	How is online convenient ? Is the internet necessary? Why?
Unit 8	Unit 8	What are the merits and demerits of online?
Recitation	Recitation	Reciting of the poetry
Unit 10 My Student Life	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?
Unit 10	Unit 10	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?
Unit 12 Create Another Future	Unit 12 Create another future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?
Unit 12	Unit 12 Create another future	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?
Unit 12	Unit 12 Preparing for the presentation	What can we do for our future earth?
Thinking about SDGs	Thinking about SDGs Preparing for the presentation	What can we do for the future of the earth.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what you think about each unit we are studying.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、ディスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には
マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】
Students will develop the ability to more accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.
In addition, students will develop a greater ability to match meaning and form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be three short presentation tasks, one performed alone, one performed with a single partner, and one performed in a small group. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Hobbies; Likes and Dislikes	Mental and Material Processes. Primary Tense Present.
3	Describing Apearance and Personality	Relational Processes, Primary Tense Present
4	Speaking Test 1 - Introducing Myself Feedback and discussion.	3-Minute Presentation using the material taught hitherto. Plus Feedback and discussion.
5	The Best Day Of My Life	Material, Relational and Existential Processes; Primary Tense Past
6	What Is/Was Happening?	Introducing Secondary Tense Present
7	What Have/Had You Done?	Introducing Secondary Tense Past
8	Speaking Test 2 - Interview Role Play. Feedback and discussion	Pairwork - Interview a partner about their past, using the material taught hitherto. Plus feedback and discussion.
9	Future Plans - Certain.	Talking about Future Certainty in English. Primary Tense Present, Secondary Tense Present, Secondary Tense Future,
10	Future Plans - Uncertain	Using Primary Tense Future to discuss uncertain future plans.
11	That Must Be True!	Introducing Modal Assessment - Probabilty, Usuality
12	Giving Advice.	Modal Assessment - Obligation, Ability.
13	Course Overview and Final Speaking Test Preparation	We review all the material covered hitherto, and practise for the final speaking test.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	In small groups, students will have a 7-10 minute discussion, using all the material taught in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

、

【Outline (in English)】
This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】
Students will continue to develop the ability to accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.
Students will further develop the skill to match meaning with form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be several short presentation tasks, performed alone, and in small groups. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the Course
2	The Important Thing is...	Information Structure and Thematic Structure
3	Introduction to English Intonation	Syllables and Rhythm.
4	Speak With Confidence!	Tone groups
5	Speaking Test 1 - Making a Speech. Feedback and discussion.	3-5 minute speech given by each student. Plus feedback and discussion
6	What Would You Do?	Practising the grammar of hypothetical situations
7	Telling A Story	Using a variety of verb tenses to tell a narrative
8	Describing People And Things	Understanding the English Nominal Group
9	Speaking Test 2 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using the material covered hitherto. Plus feedback.
10	You Know What I'm Talking About!	Mastering the use of Deictics.
11	Discussion Skills - Focus on The Speaker	How speakers in a discussion can keep a conversation going.
12	Discussion Skills - Focus on The Listeners	How listeners in a discussion can keep a conversation going.
13	Put it Together!	We review and practise all the skills learned hitherto.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using all the material covered in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

,

【Outline (in English)】
This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】
・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習型を軸に展開する。
教科書『改定版　アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。
提出された課題に関しては全体の講評としてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書１章	教科書に基づく演習（教科書１章）
4 回目	教科書２章	教科書に基づく演習（教科書２章）
5 回目	教科書３章	教科書に基づく演習（教科書３章）
6 回目	パラグラフ・ライティング（入門）	パラグラフ・ライティング（入門）
7 回目	教科書４章	教科書に基づく演習（教科書４章）
8 回目	パラグラフ・ライティング（実践編）	パラグラフ・ライティング（実践編）
9 回目	教科書５章	教科書に基づく演習（教科書５章）
10 回目	教科書６章	教科書に基づく演習（教科書７章）
11 回目	教科書７章＋「瞬間英作文」の学習法	教科書に基づく演習（教科書７章）＋＋「瞬間英作文」の学習法
12 回目	教科書８章	教科書に基づく演習（教科書８章）
13 回目	教科書９章	教科書に基づく演習（教科書９章）
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。
本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『改定版　アメリカ口語教本（中級用）』（研究社）

【参考書】
木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる　同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。
長尾和夫、トーマス・マーティン『音声 DL 対応 改訂版 絶対「英語の口」になる!リアルな日常会話で鍛える シャドーイング大特訓 50』（三修社）
研究社『改定版　アメリカ口語教本（上級用）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『英語構文を使いこなす瞬間英作文トレーニング（マスタークラス）』（ベレ出版）。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
演習（70 %）、ライティング課題（30 %）
各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度もオンライン授業として実施した。
「対年授業」が主となる中でのオンライン授業は制約が多く残念に思われることも多々あったかもしれないが、置かれている状況の中で有効な学修内容を満たすことにつとめた。授業のあり方が多様化する中で、オンライン授業の効果的な導入は今後より一層求められることからも、その可能性と効果を継続して探っていくことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.
【Learning Objectives】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 70% (2) essays submitted in due time = 30%.
Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】
・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じてアウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習型として実施する。
　教科書『改定版　アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。
　提出された課題に関しては全体の講評としてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
7 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
13 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究社『改定版　アメリカ口語教本（中級用）』

【参考書】
木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる　同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。
長尾和夫、トーマス・マーティン『音声 DL 対応 改訂版 絶対「英語の口」になる!リアルな日常会話で鍛える シャドーイング大特訓 50』（三修社）
研究社『改定版　アメリカ口語教本（上級用）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『英語構文を使いこなす瞬間英作文トレーニング（マスタークラス）』（ベレ出版）。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
演習（70 %）、ライティング課題（30 %）
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度もオンライン授業として実施した。
「対年授業」が主となる中でのオンライン授業は制約が多く残念に思われることも多々あったかもしれないが、置かれている状況の中で有効な学修内容を満たすことにつとめた。授業のあり方が多様化する中で、オンライン授業の効果的な導入は今後より一層求められることからも、その可能性と効果を継続して探っていくことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.
【Learning Objectives】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 70% (2) essays submitted in due time = 30%.
Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】
The ultimate goal of this course is to introduce current English to students in a practical way so that they can develop competence, and thus confidence to apply it in everyday situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The method is largely communication based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the textbook as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2	Class policies/procedure; student expectations.
2	Meeting people	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign	Group presentations
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail to a friend.
8	Lifestyle changes	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores	Talking about family life; making requests.
12	Complaints, excuses, apologies	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ￥ 2750

【参考書】
Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation criteria for the course:
Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)
Mini presentations, paired and small group: 30%
Unit Tests and quizzes: 40%
* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】
Students seem to enjoy the textbook. Speaking and listening activities are found useful and fun.

【学生が準備すべき機器他】
Students do not need to prepare any equipment unless it is requested from them prior to a class.

【その他の重要事項】
N/A

【Outline (in English)】
This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】
Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and more clearly express themselves in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&8 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application;Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 9,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments before each class.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】
Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】
Grading criteria for this course will be based on:
Class participation (including the timely completion of home-work assignments): 30%
Mini-presentations and quizzes: 30%
Unit Tests: 40%.
*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
When there is a need, class announcement will be provided.

【Outline (in English)】
This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics.Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring a good English dictionary.
You can register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 35%
Report 10%
Quizzes 35%
Speaking test 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested to change partner more.

【学生が準備すべき機器他】
Prepare an English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.
You can sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【Outline (in English)】
Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics.Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring a good English dictionary.
You can register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 35%
Report 10%
Quizzes 35%
Speaking test 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested fewer partner changes.

【学生が準備すべき機器他】
Prepare an English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.
You can sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【Outline (in English)】
Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
his is an introductory course comprised of 12 units and two review classes that is designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills beginning with basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

【到達目標】
As well as fostering skills in listening and reading the main goals are:
Oral:
1. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple
paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening, and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: You and Me	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Introducing yourself Writing: Introducing yourself
Class 2	Topic: A Good Job	Speaking: Talking about jobs Writing: Writing about jobs
Class 3	Topic: Work hard, play hard	Speaking: Talking about activities Writing: Filling out an application form
Class 4	Topic: Somewhere to live	Speaking: Describing objects and locations Writing: Describing your home
Class 5	Topic: Super me!	Speaking: Talking about what you can do, requests Writing: Applying for a job in a formal email
Class 6	Topic: Life's ups and downs Speaking: Talking about other people Writing: Writing a short biography	Speaking: Talking about other people Writing: Writing a short biography
Class 7	Topic: Dates to remember Writing: (Mid-Term Test)	Speaking: Talking about your life Writing: (Mid-Term Test) Writing about a historical character This will be several paragraphs and be formally graded
Class 8	Topic: Eat in or out?	Speaking: Talking foods Writing: Writing to friends in an informal email
Class 9	Topic: City living	Speaking: Comparing places Writing: Writing about a city
Class 10	Topic: Where on earth are	Speaking: Describing people Writing: Writing a description of someone
Class 11	Topic: Going far	Speaking: Talking about places you went to Writing: Writing a vacation postcard
Class 12	Topic: Never ever	Speaking: Talking about past experiences Writing: Writing about a past holiday
Class 13	Review and Consolidation	Speaking: Practicing scenarios for the examp Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	Speaking and Writing Tests	peaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.
American Headway Third Edition, Level 1 Liz and John Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472565-1

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, reference

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge and experiences orally in an effective manner and practice in effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will practice constructing logicallyorganized paragraphs.
Students will practice in effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.
In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course follows from the first semester. It is comprised of 12 units and two review classes that are designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience both orally and in the written form using more complex grammar. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on further developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills including paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence. Students will be required to learn how to write logically organized paragraphs into two short essays.

【到達目標】
As well further practicing and improving reading and listening, the main goals of this course are to provide practical elementary skills in speaking and writing.
Oral:
1. Students will further develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to write several short essays with logically organized paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening, and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: Getting to know you	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Talking about your friends Writing: Writing about friends
Class 2	Topic: Whatever makes you happy	Speaking: Discussing what is most important to you Writing: Writing about a past experience
Class 3	Topic: What's in the news?	Speaking: Retelling a news story Writing: Building a story
Class 4	Topic: Eat, drink, and be merry!	Speaking: Talking about food habits and restaurants Writing: Writing an email to a friend
Class 5	Topic: Looking forward	Speaking: Talking about life and the future Writing: Writing about future plans
Class 6	Topic: The way I see it	Speaking: Talking about yourself compared to others Writing: Writing about your hometown
Class 7	Topic: Living history Mid-Term Test	Speaking: Talking about adventures Writing: (Mid-Term Test) Writing about a famous person Note: This person must be different from the first semester This will be four paragraphs or longer, and be formally graded
Class 8	Topic: Girls and boys	Speaking: Describing people and outfits Writing: Writing a formal letter
Class 9	Topic: Time for a story	Speaking: Retelling a story/ stories from your childhood Writing: Writing about a book or a movie
Class 10	Topic: Our interactive world	Speaking: What do you do on your phone, how you use media Writing: Writing about how you use social media
Class 11	Topic: Life's what you make it!	Speaking: Talking about famous people Writing: Filling in an application form
Class 12	Topic: Just wondering	Speaking: Talking about dilemmas Writing: Your vision for the 21st century
Class 13	Review and Consolidation	Speaking: Practicing scenarios for the examp Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	peaking and Writing Tests	Speaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.
American Headway Third Edition, Level 2 John and Liz Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472588-0

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will further practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge, and experiences orally in an effective manner, and practice in effectively expressing opinions, knowledge, and experiences in the written form. Students will practice constructing short essays of logically organized paragraphs.
Students will practice effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.

In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第１課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第１課 Travel-1	第 1 課 単語 ディクテーション
4	第１課 Travel-2	リーディング 口頭練習
5	第２課 Jobs and People-1	第 1 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第２課 Jobs and People-2	リーディング 口頭練習
7	第３課 Getting on the Plane-1	第 2 課単語テスト 単語 ディクテーション
8	第３課 Getting on the Plane-2	リーディング 口頭練習
9	第４課 At the Immigration and Customs-1	第３課小テスト 単語 ディクテーション
10	第４課 At the Immigration and Customs-2	リーディング 口頭練習
11	第５課 At the Airport-1	第４課小テスト 単語 ディクテーション
12	第５課 At the Airport-2	リーディング 口頭練習
13	第６課 Hotel-1	第５課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
ベーシック観光英語
観光英検センター著　　2014 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33437-1

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 1/Sat.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。
海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。
ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第６課 Hotel(Accommodations)-2	リーディング 口頭練習
3	第７課 Restaurant(Breakfast and Fast Food)-1	単語 ディクテーション
4	第７課 Restaurant (Breakfast and Fast Food)-2	リーディング 口頭練習
5	第８課 Sightseeing-1	第 7 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第８課 Sightseeing-2	リーディング 口頭練習
7	第９課 Shopping-1	第８課小テスト 単語 ディクテーション
8	第９課 Shopping-2	リーディング 口頭練習
9	第 10 課 Transportation-1	第９課小テスト 単語 ディクテーション
10	第 10 課 Transportation-2	リーディング 口頭練習
11	第 11 課 Problems and Complaints-1	第 10 課小テスト 単語 ディクテーション
12	第 11 課 Problems and Complaints-2	リーディング 口頭練習
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
ベーシック観光英語
観光英検センター著　　2014 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33437-1

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】
Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will assist students in acquiring more effective listening skills so as to enable them to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have a minimal amount of lecture with a greater emphasis on a variety of task based activities including periodic individual and small group presentations. The topics will be taken mainly from the text with supplemental materials used as appropriate. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reactions to the video.
In Week 7 and the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for assignments (exercises, reports, presentations, etc.) completed.
*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks in person and other weeks on Zoom. Please refer to Hoppii
(Announcements) for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student career presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar focus and reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Test scores; comments/ explanations on homework assignments (unit exercises,reports,etc) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations on creative news stories.
13	Units 3&4 test	Listening, grammar focus, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework (Unit exercises, readings, teacher assigned tasks) and thus be able to contribute to class activities.
The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】
Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】
Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】
The grading criteria for this course is as follows:
Oral dictation and vocabulary quizzes, Unit tests:50%
Participation (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Individual and small group presentations: 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA（新担当者のためなし）

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii and Zoom will be used extensively throughout the term. Students attending a Zoom class on campus will need a headset.

【Outline (in English)】
This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】
Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience on relevant topics. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will continue to be periodic individual and group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to listening exercises and DVD showings.
In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned as well as comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc) given during the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up student reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Units 5 & 6 test.	Listening, grammar review, and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments (reports, presentations) are given.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Group discussion
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various environmental issues.
12	The past and the future.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test scores are returned; comments and explanations of completed assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.
*The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】
Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】
Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】
The grading criteria for this course is based on:
Unit Tests and Oral dictation quizzes: 50%
Participation: (including the timely completion of homework assignments both written and reading): 30%
Performance in individual and group presentations: 20%
In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA（新担当者のためなし）

【Outline (in English)】
Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge, and experience both orally and in writing. Furthermore, students will acquire more effective listening skills so as to enable them to be more competent interacting in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

URBANOVA　JANA

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you - Self-introduction	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you - Describing people	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: describing friends
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy - Doing what you love	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/have got
Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy - Happiness and important things in life	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news? - Telling a story	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news? - Understanding news	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry! - Healthy lifestyle	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry! - Places to eat	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward - Talking about future plans	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward - Expressing doubt and certainty	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)
- Writing assignments and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

URBANOVA　JANA

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it - Describing appearance and personality	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it - Describing cities	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history - Describing past experiences	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history - Exploring family history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history
Week 6	Unit 8 Girls and boys - Famous people	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys - Different families	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story - Leaning a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story - Retelling a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world - Inventions that changed the world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world - Internet	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.
Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.
- Active participation in class: 20%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)
- Writing assignments and tests: 40%
- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】
There are no student comments that would require major changes to the course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Andrew　E.　Chen

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】
Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is an On-Demand class for 2023. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	1A　Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of of a paragraph.
④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and plac: in, on, at. The development of a paragraph: writing conluding sentences, peer editing.
⑦	2C Fifty years of pop music Questions with and without auxillaries	Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and preopositions.
⑧	2D One October evening So, because, but, although. Midterm Exam	Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
⑨	3A Where are you going? Going to, present continuous (future arrangments)	look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
⑩	3B The pessimist's phrase book Will/Won't (predictions)	Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
⑪	3C I'll always love you Will/ Won't (promises, offers, decisions)	Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
⑫	3D I was only dreaming Review of Tenses: present, past, and future	Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
⑬	4A From rags to riches Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?	Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.
⑭	4B Family conflicts Present perfect + yet and already. Final Exam	Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】
Audio Student Book, Audio Worksbook, Vido On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Attitude/Participation/Effort 30% Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. ＊ For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in clase the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】
「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」[大変だけど、やりがいのある授業でした]　「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】
Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor.Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important than the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Andrew　E.　Chen

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】
Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is an On-Demand class for 2022. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infiniive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.
⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxilaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】
Audio Student Book, Audio Worksbook, Vido On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. ＊ For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in clase the class format changes,students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】
「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった] [大変だけど、やりがいのある授業でした]　「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】
Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important than the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】
To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.
Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.
Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editting
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form
Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】
'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu. Publisher: Macmillan Language House

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
40% - Course Work
30% - Term-End Report
Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
An updated edition of the course text book will be used. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】
Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】
This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】
1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Eliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.
Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
30% - Classroom & Homework Assignments
40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
Student will receive feedback & guidance on each report.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased time will be allocated to allow students to complete the listening comprehension questions with their partner. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials , and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】
As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】
To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pair work, group work, and discusiion. There will be some individual presentation assignments. Any wriiten assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best things in life are free Discussion - What‘s important to you?
Class 5	What‘s in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minutes
Class 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/leaving home
Class 11	The way I see it	Multicultural London
Class 12	Talking about a new country	Describing my hometown
Class 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Class 14	Final Examination & Review	Will have short interviews with students covering the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be some writing and reading assignments. There will be some individual presentations that students must prepare on their own outside of class.

【テキスト（教科書）】
American Headway Book 2 (Thurd Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press

【参考書】
It would be useful for students to have an English-Japanese dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Class participation – 40%, Midterm Exam – 30%, and Final Exam – 30% In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Will consider.

【学生が準備すべき機器他】
The textbook.

【Outline (in English)】
Course Objectives]
To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】
To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pair work, group work, and discusiion. There will be some individual presentation assignments. Any wriiten assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and Boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and Boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a Story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a Story	My favorite writers - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Class 8	Our interactive world	Smartphones, On the phone - Can I speak to >>> ? I"m calling because ....
Class 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life"s what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Class 11	Life"s what you make it	Alison"s life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination & Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be some writing and reading assignments. There will be some individual presentations that students must prepare on their own outside of class.

【テキスト（教科書）】
American Headway Book 2 - Third Edition by John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】
An English-Japanese Dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】
Classroom participation - 40%, Midtern Exam - 30% and Final Exam - 30%
In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】
I will consider changes.

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have the textbook.

【Outline (in English)】
Course Objectives
To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

関野　佳苗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TED Talks の動画を教材とした教科書を使用し、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】
ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前期では Unit1、Unit2、Unit4 を扱います。
授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）
各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキスト、TED Talks の紹介
第 2 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-1	数とデータを聞き取る
第 3 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-2	提案をする
第 4 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 2	トピックを強調する
第 5 回	Unit 1Put it Together グループプレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 6 回	Unit 1Put it Together 発表	原稿へのフィードバック、原稿の修正、発表
第 7 回	Unit 2Connecting to Nature Part 1	スピーカーの感情を聞き取る
第 8 回	Unit 2Connecting to Nature Part 2	視覚資料を使用する
第 9 回	Unit 2Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 10 回	Unit 2Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 11 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 1	理由を聞き取る
第 12 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 2	効果的な導入を使用する
第 13 回	Unit4Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 14 回	Unit4Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプトの作成、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：
教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。
Vocabulary を行う。
復習：
次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。
授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication ： Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book、Cengage Language　2960 円、978-1-305-94592-0
電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】
これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
・予習、復習を行っているか。
・グループワーク等に積極的に参加しているか。
プレゼンテーション（３回）　30 %
・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。
提出課題　30 %
・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト
総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参するようにしてください。

【その他の重要事項】
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）
教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.
【Learning Objectives】
Students will acquire listening skills for understanding English speech.
Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.
Students will be able to deliver short effective presentations in English.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation:
to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions
to do Vocabulary
Review:
to review the answers of each activity
to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly
to reread the textbook and prepare to ask questions if you have
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process.
Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).
Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

関野　佳苗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業に引き続き、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。TED Talks を教材としながら、教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】
各ユニットのテーマについての語彙、ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）
各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 5Give Thanks Part 1-1	キーワードを聞き取る
第 2 回	Unit 5Give Thanks Part 1-2	例を挙げる
第 3 回	Unit 5Give Thanks Part 2	ストーリーを使う
第 4 回	Unit 5Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 5 回	Unit 5Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、修正、発表
第 6 回	Unit6Tell Me Why... Part 1	推測する
第 7 回	Unit6Tell Me Why... Part 2	聞き手を意識する
第 8 回	Unit6Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 9 回	Unit6Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 10 回	Unit7The Livable City　Part 1-1	問題と解決策を聞き取る
第 11 回	Unit7The Livable City　Part 1-2	解決策を考える
第 12 回	Unit7The Livable City　Part 2	問題と解決策を提示する
第 13 回	Unit7Put it Together Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 14 回	Unit7Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、修正、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：
教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。
Vocabulary を行う。
復習：
次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。
授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication ： Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book、Cengage Language　2960 円、978-1-305-94592-0
電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】
これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
・予習、復習を行っているか。
・グループワーク等に積極的に参加しているか。
プレゼンテーション（３回）　30 %
・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。
提出課題　30 %
・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト
総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書は持参するようにしてください。

【その他の重要事項】
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）
教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.
【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.
Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.
Students will be able to deliver short effective presentations in English.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation:
to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions
to do Vocabulary
Review:
to review the answers of each activity
to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly
to reread the textbook and prepare to ask questions if you have
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process.
Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).
Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' understanding and use of business phrases and terms to become more proficient when using English at work.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of business situations that they may encounter when working with English-speaking people.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions, and group activities. Students will receive feedback on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview	Course goals Expectations of students Introductions
Class 2	Unit 1 Careers	Business phone calls
Class 3	Unit 1 Careers	You Juice case study
Class 4	Unit 2 Companies	Describing companies
Class 5	Unit 2 Companies	Dino Conti case study
Class 6	Unit 3 Selling	Participating in negotiations
Class 7	Unit 3 Selling	Negotiating role play
Class 8	Unit 4 New Products	Conducting a meeting
Class 9	Unit 4 New Products	PB Technologies role play
Class 10	Unit 5 Work-related Stress	Agreeing & Disagreeing
Class 11	Unit 5 Work-related Stress	Davies-Miller case study
Class 12	Unit 6 Entertaining	Socializing & Making small talk
Class 13	Final exam review	Listening & Vocabulary
Class 14	Final exam units 1-6	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Pre-Intermediate Market Leader 3rd edition (Pearson)
ISBN: 978-1-4082-3737-6

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading & writing assignments.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' understanding and use of business phrases and terms to become more proficient when using English at work.

【到達目標】
Students should be able to communicate confidently in a variety of business situations that they may encounter when working with English-speaking people.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions, and group activities. Students will receive feedback on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview	Course goals Expectations of students Introductions
Class 2	Unit 7 New Business	Business & economic terms
Class 3	Unit 7 New Business	Shimizu Cycle case study
Class 4	Unit 8 Marketing	Marketing framework
Class 5	Unit 8 Marketing	Bicycle Light case study
Class 6	Unit 9 Planning	Interrupting & clarifying
Class 7	Unit 9 Planning	Holiday plan exercise
Class 8	Unit 10 Managing People	Dealing with different types of people
Class 9	Unit 10 Managing People	Wendy Peterson case study (part 1)
Class 10	Unit 11 Conflict	Managing conflict
Class 11	Unit 11 Conflict	Wendy Peterson case study (part 2)
Class 12	Unit 12 Products	Describing & presenting a product
Class 13	Final exam review	Listening & Vocabulary practice
Class 14	Final exam units 7-12	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Pre-Intermediate Market Leader 3rd edition (Pearson)
ISBN: 978-1-4082-3737-6

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】
・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習型を軸に展開する。
教科書『改定版　アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。
提出された課題に関しては全体の講評としてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習（シャドーイング入門）
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習（教科書 1 章）
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習（教科書 2 章）
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習（教科書 3 章）
6 回目	パラグラフ・ライティング（入門）	パラグラフ・ライティング（入門）
7 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習（教科書 4 章）
8 回目	パラグラフ・ライティング（実践編）	パラグラフ・ライティング（実践編）
9 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習（教科書 5 章）
10 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習（教科書 7 章）
11 回目	教科書 7 章＋＋「瞬間英作文」の学習法	教科書に基づく演習（教科書 7 章）＋＋「瞬間英作文」の学習法
12 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習（教科書 8 章）
13 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習（教科書 9 章）
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『改定版　アメリカ口語教本（中級用）』（研究社）

【参考書】
木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる　同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。
長尾和夫、トーマス・マーティン『音声 DL 対応 改訂版 絶対「英語の口」になる!リアルな日常会話で鍛える シャドーイング大特訓 50』（三修社）
研究社『改定版　アメリカ口語教本（上級用）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『英語構文を使いこなす瞬間英作文トレーニング（マスタークラス）』（ベレ出版）。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
演習（70 %）、ライティング課題（30 %）
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度もオンライン授業として実施した。
「対年授業」が主となる中でのオンライン授業は制約が多く残念に思われることも多々あったかもしれないが、置かれている状況の中で有効な学修内容を満たすことにつとめた。授業のあり方が多様化する中で、オンライン授業の効果的な導入は今後より一層求められることからも、その可能性と効果を継続して探っていくことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.
【Learning Objectives】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 60% (2) essays submitted in due time = 40%.
Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】
・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じてアウトプットの回路を身につける。
・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　この授業は演習型として実施する。
　教科書『改定版　アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。
　提出された課題に関しては全体の講評としてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
7 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）
11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
13 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
研究社『改定版　アメリカ口語教本（中級用）』

【参考書】
木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる　同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。
長尾和夫、トーマス・マーティン『音声 DL 対応 改訂版 絶対「英語の口」になる!リアルな日常会話で鍛える シャドーイング大特訓 50』（三修社）
研究社『改定版　アメリカ口語教本（上級用）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『英語構文を使いこなす瞬間英作文トレーニング（マスタークラス）』（ベレ出版）。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
演習（70 %）、ライティング課題（30 %）
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
2022 年度もオンライン授業として実施した。
「対年授業」が主となる中でのオンライン授業は制約が多く残念に思われることも多々あったかもしれないが、置かれている状況の中で有効な学修内容を満たすことにつとめた。授業のあり方が多様化する中で、オンライン授業の効果的な導入は今後より一層求められることからも、その可能性と効果を継続して探っていくことにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.
【Learning Objectives】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 70% (2) essays submitted in due time = 30%.
Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】
The ultimate goal of this course is to introduce current English to students in a practical way so that they can develop competence, and thus confidence to apply it in everyday situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The method is largely communication based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the textbook as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2	Class policies/procedure; student expectations.
2	Meeting people	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign	Group presentations
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail to a friend.
8	Lifestyle changes	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores	Talking about family life; making requests.
12	Complaints, excuses, apologies	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ￥ 2750

【参考書】
Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation criteria for the course:
Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)
Mini presentations, paired and small group: 30%
Unit Tests and quizzes: 40%
* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】
Students seem to enjoy the textbook. Speaking and listening activities are found useful and fun.

【学生が準備すべき機器他】
Students do not need to prepare any equipment unless it is requested from them prior to a class.

【その他の重要事項】
N/A

【Outline (in English)】
This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】
Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and more clearly express themselves in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&8 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application;Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.
12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 9,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments before each class.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】
Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】
Grading criteria for this course will be based on:
Class participation (including the timely completion of home-work assignments): 30%
Mini-presentations and quizzes: 30%
Unit Tests: 40%.
*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
When there is a need, class announcement will be provided.

【Outline (in English)】
This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English ２ I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
Unit 1 First Impression	Unit 1 First Impression	Read the unit well and do the exercises and understand it. Think why first impressions are important.
Unit 1	Unit 1	Put yourself in the characters of Sandy and Tamara. Who do you agree with and why.
Unit 2 Big or Small	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or living in a small town. What are the merits and the demerits of each.
Unit 2	Unit 2	Continuation of the previous unit. Group discussion on why you want to live in a small town or a big city.
Unit 3 The Language Learner	Unit 3 The Good language Learner	What is to learn a new language. You have all studied English for a number of years. What do you think about it.
Unit 3	Unit 3	Group Activity . What do you think about learning a new language. Is it necessary to learn a new language or not.
Unit 5 Forever Single	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage. Is marriage important for everybody? What do you think about what Angela is saying. Do you agree or disagree.
Unit 5	Unit 5	What do you think about LGBTQ. Is marriage necessary for them? Talk about whether marriage is important for them and why.
Unit 7 What's for Lunch	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Why is it important to think about what we eat? Do we think about global warming or about our environment when we eat?
Unit 7	Unit 7 Preparing for the presentation	Talk about why we need to think about global warming and our environment. What do we think about SDGs.
Unit 7	Unit 7 Preparing for the presentation	What are the problems about food loss and food waste. Need we think about it? Preparing for the presentation.
Presentation Exam	Presentation Exam	Presentation Exam & Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied .

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくゆっくりと話すようにする。なるべくゆっくりと話すようにする。

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English ２ Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにするということでしたが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。教科書には多くの activities が記載されているのどそれらを通して role playing を行って行きたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書”Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation of the summer holidays	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
Reading a poem	Reading a poem What Do I Remember of the Evacuation	What is a poetry? Reading a poetry and analyzing it.
Reading a poem	What Do I Remember of the Evacuation	Studying the content of the poetry. Writing a poetry of your own.
unit 8 Your Online Pat	Unit 8 Your Online Past	How is online convenient ? Is the internet necessary? Why?
Unit 8 Recitation	Unit 8 Recitation	What are the merits and demerits of online? Reciting of the poetry
Unit 10 My Student Life	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?
Unit 10	Unit 10	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?
Unit 12 Create Another Future	Unit 12 Create another future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?
Unit 12	Unit 12	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?
Unit 12	Unit 12 Preparing for the presentation	What can we do for our future earth?
Thinking of SDGs	Thinking about SDGs Preparing for the presentation	What can we do for the future of the earth.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Josep Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、ディスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
もっとゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には
マイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】
Students will develop the ability to more accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.
In addition, students will develop a greater ability to match meaning and form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be three short presentation tasks, one performed alone, one performed with a single partner, and one performed in a small group. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Hobbies; Likes and Dislikes	Mental and Material Processes. Primary Tense Present.
3	Describing Appearance and Personality	Relational Processes, Primary Tense Present
4	Speaking Test 1 - Introducing Myself Feedback and discussion.	3-Minute Presentation using the material taught hitherto. Plus Feedback and discussion.
5	The Best Day Of My Life	Material, Relational and Existential Processes; Primary Tense Past
6	What Is/Was Happening?	Introducing Secondary Tense Present
7	What Have/Had You Done?	Introducing Secondary Tense Past
8	Speaking Test 2 - Interview Role Play. Feedback and discussion	Pairwork - Interview a partner about their past, using the material taught hitherto. Plus feedback and discussion.
9	Future Plans - Certain.	Talking about Future Certainty in English. Primary Tense Present, Secondary Tense Present, Secondary Tense Future,
10	Future Plans - Uncertain	Using Primary Tense Future to discuss uncertain future plans.
11	That Must Be True!	Introducing Modal Assessment - Probabilty, Usuality
12	Giving Advice.	Modal Assessment - Obligation, Ability.
13	Course Overview and Final Speaking Test Preparation	We review all the material covered hitherto, and practise for the final speaking test.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	In small groups, students will have a 7-10 minute discussion, using all the material taught in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

、

【Outline (in English)】
This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】
Students will continue to develop the ability to accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.
Students will further develop the skill to match meaning with form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be several short presentation tasks, performed alone, and in small groups. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the Course
2	The Important Thing is...	Information Structure and Thematic Structure
3	Introduction to English Intonation	Syllables and Rhythm.
4	Speak With Confidence!	Tone groups
5	Speaking Test 1 - Making a Speech. Feedback and discussion.	3-5 minute speech given by each student. Plus feedback and discussion
6	What Would You Do?	Practising the grammar of hypothetical situations
7	Telling A Story	Using a variety of verb tenses to tell a narrative
8	Describing People And Things	Understanding the English Nominal Group
9	Speaking Test 2 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using the material covered hitherto. Plus feedback.
10	You Know What I'm Talking About!	Mastering the use of Deictics.
11	Discussion Skills - Focus on The Speaker	How speakers in a discussion can keep a conversation going.
12	Discussion Skills - Focus on The Listeners	How listeners in a discussion can keep a conversation going.
13	Put it Together!	We review and practise all the skills learned hitherto.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using all the material covered in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
The teacher will provide his own materials.

【参考書】
There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】
Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%
Speaking Tests: 70%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

,

【Outline (in English)】
This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics.Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Tme expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring a good English dictionary.
You can register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 35%
Report 10%
Quizzes 35%
Speaking test 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested to change partner more.

【学生が準備すべき機器他】
Prepare an English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.
You can sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【Outline (in English)】
Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics.Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring a good English dictionary.
You can register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 35%
Report 10%
Quizzes 35%
Speaking test 20%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested fewer partner changes.

【学生が準備すべき機器他】
Prepare an English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.
You can sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【Outline (in English)】
Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an introductory course comprised of 12 units and two review classes that is designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills beginning with basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

【到達目標】
Goals
As well as fostering skills in listening and reading the main goals are:
Oral:
1. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple
paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening, and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: You and Me	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Introducing yourself Writing: Introducing yourself
Class 2	Topic: A Good Job	Speaking: Talking about jobs Writing: Writing about jobs
Class 3	Topic: Work hard, play hard	Speaking: Talking about activities Writing: Filling out an application form
Class 4	Topic: Somewhere to live	Speaking: Describing objects and locations Writing: Describing your home
Class 5	Topic: Super me!	Speaking: Talking about what you can do, requests Writing: Applying for a job in a formal email
Class 6	Topic: Life's ups and downs	Speaking: Talking about other people Writing: Writing a short biography
Class 7	Topic: Dates to remember Mid-Term Test	Speaking: Talking about your life Writing: (Mid-Term Test) Writing about a historical character This will be several paragraphs and be formally graded
Class 8	Topic: Eat in or out?	Speaking: Talking about foods Writing: Writing to friends in an informal email
Class 9	Topic: City living	Speaking: Comparing places Writing: Writing about a city
Class 10	Topic: Where on earth are	Speaking: Describing people Writing: Writing a description of someone
Class 11	Topic: Going far	Speaking: Talking about places you went to Writing: Writing a vacation postcard
Class 12	Topic: Never ever	Speaking: Talking about past experiences Writing: Writing about a past holiday
Class 13	Review and Consolidation	Speaking: Practicing scenarios for the examp Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	Speaking and Writing Tests	Speaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level.

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.

American Headway Third Edition, Level 1 Liz and John Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472565-1

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge and experiences orally in an effective manner and practice in effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will practice constructing logicallyorganized paragraphs.
Students will practice in effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.
In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course follows from the first semester. It is comprised of 12 units and two review classes that are designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience both orally and in the written form using more complex grammar. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on further developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills including paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence. Students will be required to learn how to write logically organized paragraphs into two short essays.

【到達目標】
Goals
As well as further practicing and improving reading and listening, the main goals of this course are to provide practical elementary skills in speaking and writing.
Oral:
1. Students will further develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience both orally and in written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to write several short essays with logically organized paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: Getting to know you	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Talking about your friends Writing: Writing about friends
Class 2	Topic: Whatever makes you happy	Speaking: Discussing what is most important to you Writing: Writing about a past experience
Class 3	Topic: What's in the news?	Speaking: Retelling a news story Writing: Building a story
Class 4	Topic: Eat, drink, and be merry!	Speaking: Talking about food habits and restaurants Writing: Writing an email to a friend
Class 5	Topic: Looking forward	Speaking: Talking about life and the future Writing: Writing about future plans
Class 6	Topic: The way I see it	Speaking: Talking about yourself compared to others Writing: Writing about your hometown
Class 7	Topic: Living history Mid-Term Test	Speaking: Talking about adventures Writing: (Mid-Term Test) Writing about a famous person Note: This person must be different from the first semester This will be four paragraphs or longer, and be formally graded
Class 8	Topic: Girls and boys	Speaking: Describing people and outfits Writing: Writing a formal letter
Class 9	Topic: Time for a story	Speaking: Retelling a story/ stories from your childhood Writing: Writing about a book or a movie
Class 10	Topic: Our interactive world	Speaking: What do you do on your phone, how you use media Writing: Writing about how you use social media
Class 11	Topic: Life's what you make it!	Speaking: Talking about famous people Writing: Filling in an application form
Class 12	Topic: Just wondering	Speaking: Talking about dilemmas Writing: Your vision for the 21st century
Class 13	Speaking: Talking about dilemmas Writing: Your vision for the 21st century	Speaking: Practicing scenarios for the exam Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	Speaking and Writing Tests	Speaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level.

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.
American Headway Third Edition, Level 2 John and Liz Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472588-0

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will further practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge, and experiences orally in an effective manner, and practice in effectively expressing opinions, knowledge, and experiences in the written form. Students will practice constructing short essays of logically organized paragraphs.
Students will practice effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.

【学生の意見等からの気づき】
In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第１課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第１課 On the Plane-1	第 1 課 単語 ディクテーション
4	第１課 On the Plane-2	発音 口頭練習
5	第２課 Airport Arrival Procedures-1	第 1 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第２課 Airport Arrival Procedures-2	発音 口頭練習
7	第３課 Meeting the Host Family-1	第 2 課小テスト 単語 ディクテーション
8	第３課 Meeting the Host Family-2	発音 口頭練習
9	第４課 Sharing Japanese Culture-1	第３課小テスト 単語 ディクテーション
10	第４課 Sharing Japanese Culture-2	発音 口頭練習
11	第５課 Taking the Bus-1	第４課小テスト 単語 ディクテーション
12	第５課 Taking the Bus-2	発音 口頭練習
13	第６課 Orientation-1	第５課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
グローバルキャリアをめざして
辻勢都・辻和成著　　2015 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33448-7

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activites outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 2/Sat.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。
海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。
ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 6 課 Orientation-2	発音 口頭練習
3	第 7 課 Making Phone Calls-1	第 6 課小テスト 単語 ディクテーション
4	第 7 課 Making Phone Calls-2	発音 口頭練習
5	第 8 課 Seeking Medical Care-1	第 7 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第 8 課 Seeking Medical Care-2	発音 口頭練習
7	第 9 課 Giving Presentations-1	第 8 課小テスト 単語 ディクテーション
8	第 9 課 Giving Presentations-2	発音 口頭練習
9	第 10 課 Shopping-1	第 9 課小テスト 単語 ディクテーション
10	第 10 課 Shopping-2	発音 口頭練習
11	第 11 課 Airport Departure Procedures-1	第 10 課小テスト 単語 ディクテーション
12	第 11 課 Airport Departure Procedures-2	発音 口頭練習
13	第 12 課 Keeping in Touch by Email	単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
グローバルキャリアをめざして
辻勢都・辻和成著　　2015 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33448-7

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】
Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent when interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities (unit exercises, readings, discussion) and individual and group presentations. The topics will be taken from the text as well as from supplemental materials. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.
In Week 7 and in the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for all assignments completed.
*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks on Zoom and other times in person. Please refer to Hoppii (Announcements) for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar review, reading comprehension.
7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Unit test scores, comments and explanations on homework assignments (unit exercises, reports, presentations,etc.) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Asking classmates to borrow items; lending or refusing to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing about your own story. Create your own news stories.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening for details, grammar and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed; comments and explanations on term assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly assignments from the text (unit exercises and readings) as well as teacher assigned tasks. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.
The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】
Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】
Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】
The grading criteria for this course is as follows:
Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit tests: 50%
Participation: (including *attendance and the timely completion of all homework assignments, reading and writing) 30%
Individual and small group presentations: 20%
*In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA（新担当者のためなし）

【学生が準備すべき機器他】
The learning support system, specifically Hoppii, will be used for matters of importance relating to previous and upcomimg classes (eg homework assignment reminders and clarifications).

【Outline (in English)】
This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】
Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency
and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities (individual, paired and group). There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to Interchange DVD showings.
In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned; comments and explanations of assignments (written reports, presentations, etc.) are given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up class reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Unit 5 & 6 test	Listening for details; grammar review and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments are given.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Exercises and practice.
10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Fall term.	Units 7& 10 test scores returned; comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc.) for the Fall term are given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly assignments from the text (unit exercises, writing, reading) as well as teacher assigned. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.
The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】
Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】
Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】
The grading criteria for this course is based on:
Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit Tests: 50%
Participation: (including attendance and the timely completion of homework assignments both written and reading: 30%
Performance in individual and group presentations: 20%
*In principal, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA（新担当者のためなし）

【Outline (in English)】
This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills (reading, writing, listening and speaking) will be practiced with a special classroom emphasis on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。
身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】
・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること (notetaking) ができる
・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各授業回は、教科書およびそれに付随する教材（TED Talks）をベースに進めていきます。
・リスニング、ノートテイキング、スピーキング（発音含む）、プレゼンテーションに関するさまざまのスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。
・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。
・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。
・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料（アウトライン、スクリプト、VA など）は課題として提出します。
・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。
・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に 2 回以上設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバス内容およびそれ以外の事項について説明する（あるいは検討する）ほか、次回以降の予習や課題についても話すので、必ず出席してください。 当然のことながら出席にカウントされます。
2	Independent Student Handbook	教科書の構成や ISH の解説
3	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 pp.2-8
4	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 アウトラインについて pp.8-11
5	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 2 TED Talks について pp.12-17
6	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備（アウトライン） pp.18-20
7	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
8	Unit 1: Small Actions, Big Results	Group presentations
9	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 pp.22-28
10	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 thought group と pause について pp.28-31
11	Unit 2: Connecting to Nature	PART 2 略語と記号について pp.32-37
12	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備（アウトライン） pp.39-41
13	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 2: Connecting to Nature	Individual presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。
授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。
語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ￥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8
授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい（つまり Web 辞書・辞書アプリ以外）。

【参考書】
TED Talks（TED 公式サイト）： https://www.ted.com/talks
教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み）： 60%
・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができているか
・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
・明瞭かつ正確な英語の発音ができているか
提出課題： 20%
・アウトライン
・スクリプト
・VA
・その他
プレゼンテーションの完成度： 20%
・構成
・英語（正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用）
・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
・聞き手の理解を助ける工夫
欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について
各課題においてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
課題のスケジュールをより規則的に管理します。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントの E メールで行なわれます。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.
Learning Objectives:
Students are expected to master some English communication skills (speaking and listening); understand the structures and contents of presentations given in English; learn how to write logically coherent and persuasive paragraphs according to basic structures of the English essay; give well-structured presentations in plain English.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to look up unfamiliar words and phrases; listen to the audio materials on Resources page of this class in Hoppii; carefully watch the relevant videos on TED website.
Grading Criteria/Policy:
Class contribution: 60%, Assignments: 20%, Presentations: 20%. Students with four absences will be disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。
身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】
・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること (notetaking) ができる
・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各授業回は、教科書およびそれに付随する教材（TED Talks）をベースに進めていきます。
・リスニング、ノートテイキング、スピーキング（発音含む）、プレゼンテーションに関するさまざまのスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。
・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。
・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。
・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料（アウトライン、スクリプト、VA など）は課題として提出します。
・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。
・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に 2 回以上設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今学期の授業計画について
	Unit 3: Going Places	pp.42-46
2	Unit 3: Going Places	PART 1 signpost について インデントについて listing signals について pp.46-49
3	Unit 3: Going Places	PART 1 抑揚について pp.50-51 PART 2 pp.52-54
4	Unit 3: Going Places	PART 2 pp.55-58
5	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備（アウトライン） pp.59-60
6	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
7	Unit 3: Going Places	Panel discussions
8	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 pp.62-67
9	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 因果関係について 縮約形について pp.67-71
10	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 pp.72-76
11	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 文の簡略化について pp.75-78
12	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備（アウトライン） pp.79-80
13	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 4: Music, Music Everywhere	Individual presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。
授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。
語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ¥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8
授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい（つまり Web 辞書・辞書アプリ以外）。

【参考書】
TED Talks（TED 公式サイト）： https://www.ted.com/talks
教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への取り組み）： 60%
・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができているか
・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
・明瞭かつ正確な英語の発音ができているか
提出課題： 20%
・アウトライン
・スクリプト
・VA
・その他
プレゼンテーションの完成度： 20%
・構成
・英語（正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用）
・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
・聞き手の理解を助ける工夫
欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。
不正について
各課題においてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
課題のスケジュールをより規則的に管理します。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントの E メールで行なわれます。

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.
Learning Objectives:
Students are expected to master some English communication skills (speaking and listening); understand the structures and contents of presentations given in English; learn how to write logically coherent and persuasive paragraphs according to basic structures of the English essay; give well-structured presentations in plain English.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to look up unfamiliar words and phrases; listen to the audio materials on Resources page of this class in Hoppii; carefully watch the relevant videos on TED website.
Grading Criteria/Policy:
Class contribution: 60%, Assignments: 20%, Presentations: 20%. Students with four absences will be disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Andrew　E.　Chen

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】
Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	1A　Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.
②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of of a paragraph.
④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and plac: in, on, at. The development of a paragraph: writing conluding sentences, peer editing.
⑦	2C Fifty years of pop music Questions with and without auxillaries	Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and preopositions.
⑧	2D One October evening So, because, but, although. Midterm Exam	Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
⑨	3A Where are you going? Going to, present continuous (future arrangments)	look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
⑩	3B The pessimist's phrase book Will/Won't (predictions)	Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
⑪	3C I'll always love you Will/ Won't (promises, offers, decisions)	Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
⑫	3D I was only dreaming Review of Tenses: present, past, and future	Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
⑬	4A From rags to riches Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?	Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.

⑭	4B Family conflicts Present perfect + yet and already. Final Exam	Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】
Audio Student Book, Audio Worksbook, Vido On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Attitude/Participation/Effort 30% Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. ＊ For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in clase the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】
「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった] [大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】
Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor.Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important than the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Andrew　E.　Chen

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】
Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infiniive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.
③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.
⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxilaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】
Audio Student Book, Audio Worksbook, Vido On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. ＊ For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in clase the class format changes,students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】
「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった] [大変だけど、やりがいのある授業でした] 「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】
Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】
This is an On-Demand class for 2023. Completion of assignments and all assignments is more important than the points received for the completed assignments. Incomplete assignments, not completing all tasks in the assignment, are counted as incomplete. The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

関野　佳苗

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
TED Talks の動画を教材とした教科書を使用し、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】
ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前期では Unit1、Unit2、Unit4 を扱います。
授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）
各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキスト、TED Talks の紹介
第 2 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-1	数とデータを聞き取る
第 3 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-2	提案をする
第 4 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 2	トピックを強調する
第 5 回	Unit 1Put it Together グループプレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 6 回	Unit 1Put it Together 発表	原稿へのフィードバック、原稿の修正、発表
第 7 回	Unit 2Connecting to Nature Part 1	スピーカーの感情を聞き取る
第 8 回	Unit 2Connecting to Nature Part 2	視覚資料を使用する
第 9 回	Unit 2Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 10 回	Unit 2Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 11 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 1	理由を聞き取る
第 12 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 2	効果的な導入を使用する
第 13 回	Unit4Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 14 回	Unit4Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプトの作成、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：
教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。
Vocabulary を行う。
復習：
次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。
授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication ： Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book、Cengage Language　2960 円、978-1-305-94592-0
電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】
これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
・予習、復習を行っているか。
・グループワーク等に積極的に参加しているか。
プレゼンテーション（３回）　30 %
・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。
提出課題　30 %
・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト
総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を持参するようにしてください。

【その他の重要事項】
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）
教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.
【Learning Objectives】
Students will acquire listening skills for understanding English speech.
Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.
Students will be able to deliver short effective presentations in English.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation:
to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions
to do Vocabulary
Review:
to review the answers of each activity
to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly
to reread the textbook and prepare to ask questions if you have
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process.
Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).
Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

関野　佳苗

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の授業に引き続き、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。TED Talks を教材としながら、教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】
各ユニットのテーマについての語彙、ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）
各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 5Give Thanks Part 1-1	キーワードを聞き取る
第 2 回	Unit 5Give Thanks Part 1-2	例を挙げる
第 3 回	Unit 5Give Thanks Part 2	ストーリーを使う
第 4 回	Unit 5Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 5 回	Unit 5Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、修正、発表
第 6 回	Unit6Tell Me Why... Part 1	推測する
第 7 回	Unit6Tell Me Why... Part 2	聞き手を意識する
第 8 回	Unit6Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 9 回	Unit6Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 10 回	Unit7The Livable City Part 1-1	問題と解決策を聞き取る
第 11 回	Unit7The Livable City Part 1-2	解決策を考える
第 12 回	Unit7The Livable City Part 2	問題と解決策を提示する
第 13 回	Unit7Put it Together Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 14 回	Unit7Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、修正、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：
教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。
Vocabulary を行う。
復習：
次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。
授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】
21st Century Communication ： Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book、Cengage Language 2960 円、978-1-305-94592-0
電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】
これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】
平常点　40 %
・予習、復習を行っているか。
・グループワーク等に積極的に参加しているか。
プレゼンテーション（3 回）　30 %
・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。
提出課題　30 %
・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト
総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】
辞書は持参するようにしてください。

【その他の重要事項】
授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。
2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）
教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。
遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.
【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.
Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.
Students will be able to deliver short effective presentations in English.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation:
to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions
to do Vocabulary
Review:
to review the answers of each activity
to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly
to reread the textbook and prepare to ask questions if you have
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process.
Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).
Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】
To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.
Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.
Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editting
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form
Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu. Publisher: Macmillan Language House

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
40% - Course Work
30% - Term-End Report
Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
An updated edition of the course text book will be used. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】
Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】
This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】
1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Eliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.
Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review of around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
30% - Classroom & Homework Assignments
40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
Student will receive feedback & guidance on each report.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased time will be allocated to allow students to complete the listening comprehension questions with their partner. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials , and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】
As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' understanding and use of business phrases and terms to become more proficient when using English at work.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of business situations that they may encounter when working with English-speaking people.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions, and group activities. Students will receive feedback on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview	Course goals Expectations of students Introductions
Class 2	Unit 1 Careers	Business phone calls
Class 3	Unit 1 Careers	You Juice case study
Class 4	Unit 2 Companies	Describing companies
Class 5	Unit 2 Companies	Dino Conti case study
Class 6	Unit 3 Selling	Participating in negotiations
Class 7	Unit 3 Selling	Negotiating role play
Class 8	Unit 4 New Products	Conducting a meeting
Class 9	Unit 4 New Products	PB Technologies role play
Class 10	Unit 5 Work-related Stress	Agreeing & Disagreeing
Class 11	Unit 5 Work-related Stress	Davies-Miller case study
Class 12	Unit 6 Entertaining	Socializing & Making small talk
Class 13	Final exam review	Listening & Vocabulary
Class 14	Final exam units 1-6	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Pre-Intermediate Market Leader 3rd edition (Pearson)
ISBN: 978-1-4082-3737-6

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading & writing assignments.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' understanding and use of business phrases and terms to become more proficient when using English at work.

【到達目標】
Students should be able to communicate confidently in a variety of business situations that they may encounter when working with English-speaking people.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions, and group activities. Students will receive feedback on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class overview	Course goals Expectations of students Introductions
Class 2	Unit 7 New Business	Business & economic terms
Class 3	Unit 7 New Business	Shimizu Cycle case study
Class 4	Unit 8 Marketing	Marketing framework
Class 5	Unit 8 Marketing	Bicycle Light case study
Class 6	Unit 9 Planning	Interrupting & clarifying
Class 7	Unit 9 Planning	Holiday plan exercise
Class 8	Unit 10 Managing People	Dealing with different types of people
Class 9	Unit 10 Managing People	Wendy Peterson case study (part 1)
Class 10	Unit 11 Conflict	Managing conflict
Class 11	Unit 11 Conflict	Wendy Peterson case study (part 2)
Class 12	Unit 12 Products	Describing & presenting a product
Class 13	Final exam review	Listening & Vocabulary practice
Class 14	Final exam units 7-12	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Pre-Intermediate Market Leader 3rd edition (Pearson)
ISBN: 978-1-4082-3737-6

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This once a week required class for first year students dvelops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】
To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pairwork, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any wriiten assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best Things in life are free Discussion - What‘s important to you?
Class 5	What‘s in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool.	Discussion - Famous for 15 minutes
Class 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/ leaving home
Class 11	The way I see	Multicultural London
Class 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Class 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam
Class 14	Final Examination and Review	Will have short interviews with students covering the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be some writing and reading assignments. There will be some individual presentations that students must prepare on their own outside of class.

【テキスト（教科書）】
American Headway Book 2 - Third Edition Authors - John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】
An English-Japanese Dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】
Classroom participation - 40%, Midterm Exam - 30%, Final Exam - 30%
In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】
I will consider changes.

【Outline (in English)】
To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This once a week required class for first year students dvelops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】
To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pairwork, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any wriiten assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Class 8	Our interactive world	Smartphones, On the phone - Can I speak to >>>　? I"m calling because ....
Class 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life"s what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty
Class 11	Life"s what you make it	Alison"s life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination and Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be some writing and reading assignments. There will be some individual presentations that students must prepare on their own outside of class.

【テキスト（教科書）】
American Headway - Book 2 - Third Edition Authors: John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】
An English-Japanese Dictionary could be useful.

【成績評価の方法と基準】
Classroom participation - 40% Midterm exam - 30% Final Exam - 30%
In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】
I will consider changes.

【Outline (in English)】
To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原　紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered through the combination of face-to-face and online instruction. Before class you must make preparation by using the book and online exercises independently. In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work.

Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction and ice-breaking	Self-introduction, course information, ice-breaking and discussion
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	Special lesson	Preparation for a guest speaker talk
10	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
12	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
13	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
14	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.
University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】
Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】
1) Participation (20%)
2) Online assignments and writing (20%)
3) Bi-weekly quizzes (60%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】
Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学の教室で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】
この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials. Your work will be assessed through unit quizzes, writing, and participation. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

石原　紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.
Before class you must make preparation by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11) : Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11) : Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12) : Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12) : Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.
University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】
Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】
1) Participation (20%)
2) Online assignments and writing (20%)
3) Unit quizzes (60%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】
Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It’s all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学の教室で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】
この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials. Your work will be assessed through unit quizzes, writing, and participation. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎　博

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニング、スピーチ・プレゼンテーション、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
自分の考えを簡単な英語で表現できるようになる。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。
英文のパラフラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①リスニング。英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
②スピーキング。テキストの内容に沿って様々な場面に対応できるよう発話練習をする。
③プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
④ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。春学期に一度エッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
⑤フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。③は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。④作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業方針の説明。 学生による英語での自己紹介。
2	Unit 1 College Life お互いを知る (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 初対面の相手から情報を聞き出す会話パターンを練習する。
3	Unit 1 College Life お互いを知る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。最終的には自分の意見を英語で表明する。 ニュース映像に関しては NBC が米国で毎晩放送する新しいニュース映像を教材にするので、内容に関しては未定。 テキストのリスニング教材の聞き取り。テキストのリスニング教材の聞き取り。初対面の二人の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかな内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。発音練習をする際、th の発音を習得する。
4	Unit 2 Future Plans 意図を告げる (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分の意図や将来のプランを伝える表現を使った会話パターンを練習する。
5	Unit 2 Future Plans 意図を告げる (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。将来のプランについての比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /f/と/v/の発音を習得する。
6	Unit 3 Part-time Jobs 趣味について語る (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 バイトや趣味を伝える表現を使った会話パターンを練習する。
7	Unit 3 Part-time Jobs 趣味について語る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。趣味に関する比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。/w/の発音を習得する。
8	Unit 4 Movies 誰かを誘いアポを取る (1) スピーキング中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 他人を誘い出し、約束をする表現を使った会話パターンを練習する。

9	Unit 4 Movies 誰かを誘いアポを取る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。デートの打ち合わせをする男女の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /s/と/z/の発音を習得する。
10	Unit 5 Parties 相手の好みを聞く (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 相手の好みを聞いたり、パーティーなどに誘い出す会話パターンを練習する。
11	アカデミック・ライティング１（４パラグラからなるエッセイの構造）	自分の意見を主張する 4 パラグラフからなるエッセイの構造を理解し、エッセイプランを作成する。
12	アカデミック・ライティング２（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を学ぶ。 特に辞書の使い方を詳しく学習する。
13	Unit 5 Parties 相手の好みを聞く (2) スリスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。パーティーの打ち合わせをする男女の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /m/と/n/の発音を習得する。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削しコメントを添えてエッセイを返却する。 添削・コメントというフィードバックから、学生はエッセイライティングの技法を学び直す。 学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセー作成には 8 時間前後を要します。
授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。
授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをし、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をします。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
英文エッセーの作成（春学期に一度）。

【テキスト（教科書）】
『Activator Next』、塩澤正他、金星堂

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
４回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。
オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
リスニング教材をより興味深いものにする。
ライティングの比重を高くする。
英語で発言する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】
This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.
Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class.
The final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩崎　博

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニング、スピーチ・プレゼンテーション、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
自分の考えを簡単な英語で表現できるようになる。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。
英文のパラフラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①リスニング。英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
②スピーキング。テキストの内容に沿って様々な場面に対応できるよう発話練習をする。
③プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
④ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。春学期に一度エッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
⑤フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。③は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。④作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ニュース映像の聞き取り	絶滅が危惧されるナキウサギの映像を見て、地球温暖化が切実な問題になっていることを実感する。ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。/n/,/m/,/ŋ /の発音を習得する。
2	Unit 6 Friends 感謝と謝罪の気持ちを伝える (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。感謝や謝罪など、自分の気持ちを伝える表現を伝える会話パターンを練習する。
3	Unit 6 Friends 感謝と謝罪の気持ちを伝える (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。最終的には自分の意見を英語で表明する。ニュース映像に関しては NBC が米国で毎晩放送する新しいニュース映像を教材にするので、内容に関しては未定。テキストのリスニング教材の聞き取り。謝罪とそれに対する対応が交わされる会話を聞き、メモを取って大まかな内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。発音練習をする際、/r/の発音を習得する。
4	Unit 7 Abroad 繰り返しを求める (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。相手の言っていることを聞き逃した時、再び同じことを繰り返してもらうための表現を使った会話パターンを練習する。
5	Unit 7 Abroad 繰り返しを求める (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。テキストのリスニング教材の聞き取り。相手の意図を確認する表現を含む会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。/l/の発音を習得する。
6	Unit 8 Social Media 世間話をする (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。あまり親しくない人と世間話を続けるためのパターンを練習する。
7	Unit 8 Social Media 世間話をする (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。テキストのリスニング教材の聞き取り。当たり障りのない会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。破裂音の発音を習得する。
8	Unit 9 Cultures 相手に質問をする (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。様々な質問をするためのパターンを練習する。

9	Unit 9 Cultures 相手に質問をする (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。パチンコに関する会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /i:/の発音を習得する。
10	Unit 10 Music 許可を求める (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 許可を得たり、提案をするためのパターンを練習する。
11	アカデミック・ライティング 1（原因から結果へ向かうエッセイの構造）	原因から結果へ向かう 4 パラグラフからなるエッセイの構造を学び、エッセイプランを作成する。
12	アカデミック・ライティング 2（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を再度学ぶ。 特に辞書の使い方を再度詳しく学習する。
13	Unit 10 Music 許可を求める (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。許可と提案の表現を含む会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /d/の発音を習得する。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセー作成には 8 時間前後を要す。
授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセーのレイアウト作成をする。
授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。
英文エッセーの作成（秋学期に一度）。

【テキスト（教科書）】
『Activator Next』、塩澤正他、金星堂

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
４回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。
オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業参加をもっと促す。
英会話にもっと時間を割く。
学生とのコニュニケーションをもっととる。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】
This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.
Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class.
The final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】
This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop their speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Active participation is essential. Students will study 5 units in the textbook in the first semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	• Course overview • Intro communicative learning • Course rules	• Self-introductions • Ice-breaker activity
Week 2	• Icebreakers • Begin unit 1(A time to remember) • Simple past tens questions/answers	• Unit 1 grammar focus page3,5 Unit 1 worksheets
Week 3	• Finish unit 1 • Describing changes • Using "(didn't) used to"	• End of unit reading p.7 • Self-study unit 1 • Writing 1 paragraph on 3 ways that you have changed
Week 4	• Unit 2 (Caught in the rush) • Opinon statements with adverbs of quantity • Giving opinions on public transportation	• Unit 2 grammar focus (p. 9, 11)
Week 5	• Unit 2 Asking indirect questions • Mentioning advan-tages/disadvantages	• Unit 2 worksheets • Write 1 paragraph 3 problems in your city • Self-study unit 2 • Review units 1-2 for quiz
Week 6	• Quiz unit 1- 2 • Introduce Unit 3 vocabulary and grammar	• Unit 3 grammar focus p.17 • Presentation # 1
Week 7	• Give presentation 1 • Unit 3 (Time for a Change) • Evaluating & comparing housing	• Strategies for presentations • Peer feedback
Week 8	• Introduce Unit 4 (I've never heard of that) • Talking about experiences • Using the simple past and present perfect	• Unit 4 grammar focus P.23 • Review for Unit 4 quiz
Week 9	• Unit 4 Describing steps in a process • Using sequence adverbs • Ordering events in a process	Unit 4 worksheets • Unit 4 reading p.27 • Self-study unit 4 • Unit 4 grammar focus p. 25 • Writing- 1 paragraph on 5-step process
Week 10	• Presentation #2 (5 step process) • Quiz unit 3-4 • Introduce unit 5 vocabulary and grammar	• Unit 5 grammar focus p. 31, 33
Week 11	• Unit 5 (Going places) • Talking about the future will/be going to • Talking about plans	• Unit 5 reading p. 35 • Self-study unit 5 • Research: Advice (3 suggestions) for situation*
Week 12	• Explain advice in class • Describing necessity and giving suggestions	Prepare for discussion on travel destination
Week 13	• Quiz unit 5 • Group discussion: travel destination	Prepare for presentation #2
Week 14	Final presentations	Peer feedback Course review Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 Student's Book, Richards 5th ed. ISBN:978-1-316-62023-6

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
You will be graded on:
20% Active participation in English
30% Weekly homework and paragraph assignment
20% Two Presentations
30% Quizzes/tests
* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline (in English)】
In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study academic writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】
The goal of this course is to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Students will study 5 units in the textbook in the second semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	• Ice breakers: Summer break • Introduce Unit 4 (I've never heard of that) • Talking about experiences • Using the simple past and Present perfect	• Unit 4 grammar focus P.23 • Review for Unit 4 quiz
Week 2	• Unit 4 Describing steps in a process • Using sequence adverbs • Ordering events in a process	• Unit 4 reading • Self-study unit 4 • Unit 4 grammar focus p. 25 • Writing- 1 paragraph on 5-step process
Week 3	• Quiz unit 3-4 • Introduce unit 5 vocabulary and grammar	• Unit 5 grammar focus p. 31, 33
Week 4	• Unit 5 (Going places) • Talking about the future will/be going to • Talking about plans	• Unit 5 reading p. 35 • Self-study unit 5 • Research: Prepare for presentation (5-step process)
Week 5	• Presentation #1(5 step process) • Explain advice in class • Introduce unit 6	Unit 6 grammar focus p 37,39
Week 6	• Unit 6 (OK no problem) • Using phrasal verbs • Making polite requests with "would" "mind"	Unit 6 reading p. 41 • Self-study unit 6
Week 7	Quiz unit 5-6	• Unit 7 grammar focus page45,47
Week 8	• Begin unit 7 (What's this for?) • Infinitives and gerunds of purpose	• End of unit reading p.49 • Self-study unit 7 • Writing 1 paragraph: Advice on how to use cell phone, scooter, or computer
Week 9	• Finish unit 7 • Giving suggestions on how to use Sth. • Using "(didn't) used to"	• Unit 8 grammar focus p. 51, 54
Week 10	• Presentation 1: Explain how to use Sth • Unit 8 (Let's Celebrate) • Relative clauses of time to describe holidays • Explaining holidays and foreign customs	• Self-study unit 8 • Review units 7-8 for quiz
Week 11	• Presentation #2(Advice) • Unit 8 using adverb time clauses • Explaining how to celebrate holidays	• Write 1 paragraph on a holiday or festival • Unit 9 grammar focus p.59
Week 12	• Quiz unit 7- 8 • Introduce Unit 9 vocabulary and grammar • Describing change	Prepare for final presentation
Week 13	• Unit 9 (Back to the future) • Conditional sentences/future consequences • Final presentations	Prepare for final presentation
Week 14	Final presentations	Peer Feedback Course Review Final Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 Student's Book , Richards 5th ed. ISBN: 978-1-316-62023-6

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
You will be graded on:
20% Active participation in English
30% Weekly homework and paragraph assignment
20% Two presentations
30% Quizzes/tests
* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline (in English)】
In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25
6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)
*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1)　to bring an English-English dictionary
2)　to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)
*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1) to bring an English-English dictionary
2) to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

【到達目標】
The goals of the course are for students to:
1.Acquire and use strategic listening techniques to improve listening comprehension
2.Employ critical thinking lenses to evaluate the course content
3.Strengthen speaking abilities and hone new phrases through output activities
4.Use advanced language and writing techniques in academic paragraphs
5.Write paragraphs and essays that are polished and effective at conveying a unified message

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The course instructor will create a "safe" learning environment for students. "Safe" means that students are able to voice their perspectives and attempt to comprehend those of others without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. In group discussions, students are expected to listen to each other and talk with them. While presenting their topics, students should use audiovisual aids.
Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback during in-class discussions. Students will get graded rubrics for presentations and writings, along with comments from the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/ Chapter 2 Narrative Paragraphs	Course orientation, Icebreaking, Chapter 2 Narrative Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 2	Chapter 2 Narrative Paragraph	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 3	Chapter 2 Narrative Paragraph	Preparation for Writing/Discussions Presentation preparation
Lesson 4	Chapter 3 Basic Paragraph Structure	Chapter 3 Basic Paragraph Structure: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 5	Chapter 3 Basic Paragraph Structure	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 6	Chapter 3 Basic Paragraph Structure	Preparation for Writing/Discussions 1st Writing Assignment
Lesson 7	Individual Presentations	Individual Presentations
Lesson 8	Chapter 4 Logical Division of Ideas	Chapter 4 Logical Division of Ideas: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 9	Chapter 4 Logical Division of Ideas	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 10	Chapter 4 Logical Division of Ideas	Preparation for Writing/Discussions 2nd Writing Assignment
Lesson 11	Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs	Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 12	Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 13	Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs	Preparation for Writing/Discussions
Lesson 14	Final Task: In-class Writing	Final Task: In-class Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This course is a two-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】
Title: Longman Academic Writing Series: Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources Lvl 3
Publisher: Pearson
ISBN: 9780136838531
Price: ￥ 3,500

【参考書】
Bring your dictionary to class. (Either paper or electronic dictionary is acceptable.)

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Homework: 25%
Two Paragraph Writings: 30% (15% each)
One Presentation: 10%
One Final Task: 15%
Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

【到達目標】
The goals of the course are for students to:
1.Acquire and use strategic listening techniques to improve listening comprehension
2.Employ critical thinking lenses to evaluate the course content
3.Strengthen speaking abilities and hone new phrases through output activities
4.Use advanced language and writing techniques in academic paragraphs
5.Write paragraphs and essays that are polished and effective at conveying a unified message

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The course instructor will create a "safe" learning environment for students. "Safe" means that students are able to voice their perspectives and attempt to comprehend those of others without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. In group discussions, students are expected to listen to each other and talk with them. While presenting their topics, students should use audiovisual aids.
Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback during in-class discussions. Students will get graded rubrics for presentations and writings, along with comments from the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/ Chapter 1 Academic Paragraphs	Course orientation, Icebreaking, Chapter 1 Academic Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 2	Chapter 1 Academic Paragraphs	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 3	Chapter 1 Academic Paragraphs	Preparation for Writing/Discussions Presentation preparation
Lesson 4	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 5	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 6	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Preparation for Writing/Discussions 1st Writing Assignment
Lesson 7	Individual Presentations	Individual Presentations
Lesson 8	Chapter 9 Essay Organization	Chapter 9 Essay Organization: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 9	Chapter 9 Essay Organization	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 10	Chapter 9 Essay Organization	Preparation for Writing/Discussions 2nd Writing Assignment
Lesson 11	Chapter 10 Opinion Essays	Chapter 10 Opinion Essays: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 12	Chapter 10 Opinion Essays	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 13	Chapter 10 Opinion Essays	Preparation for Writing/Discussions Final Writing Assignment Preparation
Lesson 14	Final Task: In-class Writing	Final Task: In-class Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This course is a two-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】
Title: Longman Academic Writing Series: Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources Lvl 3
Publisher: Pearson
ISBN: 9780136838531
Price: ￥ 3,500

【参考書】
Bring your dictionary to class. (Either paper or electronic dictionary is acceptable.)

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Homework: 20%
Two Writings: 30% (One paragraph writing: 10%/One essay writing: 20% each)
One Presentation: 10%
One Final Task: 20%
Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

【到達目標】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.
We will watch some short on-line video presentations to compare the spoken format to the written format.
All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills. We will use Artificial Intelligence applications (OpenAI, Bard etc.) to generate written assignments and analyze the results.
This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.
7.	Part time jobs: Listening	Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text.
8.	Part time jobs: Group discussions	Small group discussions and giving advice about part time jobs.
9.	Part time jobs: Writing	Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university.
10.	Hopes and Dreams:	Vocabulary and discussion of work and future actions.
11.	Hopes and dreams: Listening	Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text. Closed/Open/Choose questions
12.	Hopes and Dreams: Group discussion	Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions
13.	Hopes and Dreams: Writing	Prepare a paragraph about future activities.
14.	BBC Ideas Video	Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
3 Homework assignments writing different styles of paragraph.
All assignments written in digital format and submitted via Gmail.
To assist in providing feedback, Google Docs format is required.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised

【成績評価の方法と基準】
Written Homework Assignment:30%
Worksheet Assignments:20%
Participation: 20%
On-line Tests: 18%
On-line Exercises/Tasks: 12%
Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Changes made to include use of new technology: on-line meeting applications and Generative Artificial Intelligence.

【学生が準備すべき機器他】
A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.
Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record Written and Worksheet assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code will be advised, via the university Hoppii system, in April.
Students are expected to check their Hosei Gmail account at least once per week.

【Outline (in English)】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

【到達目標】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions through: 1)Asking for and giving opinions, 2)Agreeing and Disagreeing and 3)supporting their reasons. Students will also practice making on-line presentations and speeches using contemporary software applications. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.
Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.
Students will generate an essay and analyze it to identify: Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.
All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?
Class 4	Eating out.	Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?
Class 5	Eating Out.	Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.
Class 6	Family: Agreeing and Disagreeing	Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Family	Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation
Class 8	Family.	Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation
Class 9	Family:	Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs
Class 10	Interests: Supporting your reasons.	Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.
Class 11	Interests	Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.
Class 12	Interests	Writing: Conclusion paragraphs. Final Ballad Preparation
Class 13	Presentation	Groups present their Ballad Presentations to the class.
Class 14	Final Presentations and Review	Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course.
Students will be required to generate an Academic Essay and then identify the components of each paragraph. Students will then condense the Essay to an outline and check it for unity.
Students will be required to complete a series of word puzzles to develop their vocabulary.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp >. Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised during course

【成績評価の方法と基準】
Homework written assignments: 20%
On-line Tests: 18%
Online Exercises/Tasks: 12%
Participation: 10%
Presentation: 10%
Video Worksheets: 20%
Vocabulary puzzles: 10%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】
2022: New Text-book and course structure. More focus on speaking.
2023: Practice using Generative Artificial Intelligence applications. Word puzzles to develop vocabulary.

【学生が準備すべき機器他】
A tablet or laptop device is strongly encouraged (Smartphones are ok but more difficult to use since class activity may require several windows to be open.) Students should have access to Japanese-English and English-English e-dictionaries or Wikipedia. Paper and pens/pencils are rarely required.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download "Classroom" from the Google store before the first lesson. The Course code for the class will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: vocabulary & listening	Introducing yourself Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: reading & speaking	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: discussion & writing	Discuss things in common with classmates Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems: vocabulary & listening	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 6	Unit 2 Transportation and Transportation problems: reading & speaking	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 7	Unit 2 Transportation and Transportation problems: discussion & writing	Discuss cities to visit & evaluate them Write a paragraph on 3 problems in city
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Describing positive and negative features, making comparisons
Week 9	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: reading & speaking	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 10	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: discussion & writing	Comparing houses to apartments Compare wishes in the present time Write & explain 3 personal wishes
Week 11	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: vocabulary & listening	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 12	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: reading & speaking	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 13	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: discussion & writing	Discuss experiences Describe how to do something Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on 3 problems in a city	Quiz: units 3-4 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】
Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook

Vocabulary development:
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Going places: vocabulary & listening	Describing vacation plans Stating personal plans in the future
Week 3	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 4	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Discuss how to do activities Write paragraph on a process
Week 5	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: vocabulary & listening	Making requests Accepting and refusing
Week 6	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: reading & speaking	Complaining, apologizing, making excuses
Week 7	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: discussion & writing	Discuss making apologies and giving excuses Writing: 3 suggestions for handling a situation
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 What do you use this for: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Use of technology Using infinitives of purpose
Week 9	Unit 7 What do you use this for: reading & speaking	Using imperatives & infinitives Giving advice
Week 10	Unit 7 What do you use this for: discussion & writing	Discuss advice for problems Write about uses for technological devices
Week 11	Unit 8 Time to celebrate: vocabulary & listening	Describing holidays & festivals Relative clauses of time
Week 12	Unit 8 Time to celebrate: reading & speaking	Discussing pros and cons Adverb clauses of time
Week 13	Unit 8 Time to celebrate: discussion & writing	Discuss customs & celebrations
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on a process

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】
Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook
Vocabulary development:
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
*In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】
・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、エッセイを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でディスカッションをしてもらいます。
課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Unit 1 Key Features of Academic Essay	エッセイの重要な特徴について学ぶ
第 3 回	Unit 2 Title of Your Essay	タイトルの決定について学ぶ
第 4 回	Unit 3 Introduction of Your Essay	イントロダクションの役割について学ぶ
第 5 回	Unit 4 Body of Your Essay	ボディの構造について学ぶ
第 6 回	Unit 5 Conclusion of Your Essay	コンクルージョンのまとめ方について学ぶ
第 7 回	Unit 6-1 Feedback from Others	フィードバックの方法について学ぶ
第 8 回	Unit 6-2 Feedback from Others	フィードバックに挑戦する
第 9 回	Unit 7-1 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿提出に必要なプロセスを学ぶ
第 10 回	Unit 7-2 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿を提出する
第 11 回	筆記試験	試験・解説
第 12 回	Essay writing 1	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる
第 13 回	Essay writing 2	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる
第 14 回	Semester review	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。
・Warm-up Reading を読み、Comprehension Check に答える
・Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
・Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 35 %、課題 35 %、筆記試験 30 %で評価します。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で、エッセイを書いたり、授業内容に関連するウェブサイトにアクセスしたりする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to write logically organized paragraphs
− Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on examination (30%), homework assignments (35%), and in-class contribution (35%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】
・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
・効果的なプレゼンテーションを行うための知識を身につける
・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、アブストラクトやプレゼンテーションのスクリプト、スライドを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク、グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でプレゼンテーションやディスカッションをしてもらいます。
課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、春学期の復習	授業の概要説明, 春学期に学んだエッセイの書き方について復習する
第 2 回	Unit 8 Structure of a Research Paper	リサーチ・ペーパーの構造とイントロダクションについて学ぶ
第 3 回	Unit 9 Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴について学ぶ
第 4 回	Unit 10 First Draft of Your Abstract	アブストラクトの草案を書く
第 5 回	Unit 11 Rewriting Your Abstract	アブストラクトの最終原稿を仕上げる
第 6 回	Unit 12 Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションの基本的特徴について学ぶ
第 7 回	Unit 13 Preparing Visual Aids	視覚資料を作成する
第 8 回	Unit 14 Finishing Your Scripts	発表原稿を完成させる
第 9 回	Unit 15 Evaluating Your Presentation	プレゼンテーションの評価の仕方を学ぶ
第 10 回	筆記試験	試験
第 11 回	プレゼンテーションの準備	グループでのプレゼンテーションの練習
第 12 回	プレゼンテーション (1)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 13 回	プレゼンテーション (2)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	プレゼンテーション (3)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。
・Warm-up Reading を読み、Comprehension Check に答える
・Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
・Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 30 %、課題 20 %、プレゼンテーション 20 %、筆記試験 30 %で評価します。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で、エッセイを書いたり、授業内容に関連するウェブサイトにアクセスしたりする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to write logically organized paragraphs
− Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions and give presentations
− Students should acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on examination (30%), presentations (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert　D.　Hinton

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】
The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments.　In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills.　Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills.　Particular attention will be focused on improving communication skills.　Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	Poster presentation session for "Group A" Students	Student presentations
Week 14	Poster presentation session for "Group B" students	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required for this course.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%).　No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】
I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】
This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking,reading and writing.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Robert　D.　Hinton

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】
The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments.　In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills.　Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills.　Particular attention will be focused on improving communication skills.　Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required for this course.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%).　No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】
I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】
This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking,reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　グローバル化や多様性が進む今日では、ライティングのスキルが必須となっている。そこで、この授業では、ライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】
・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、学生が自分の知識、経験、意見を効果的に文章で表現できるようになる。
・パラグラフの構造に留意し、学生が論理的構成をもつパラグラフを書けるようになる。
・学生が複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppi）で、その都度提示します。
・予習を行い、わからない単語は辞書で調べること。
・テキストの問題演習を行う。
・音声教材を用いて聞き取りを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明、ガイダンス
2	Unit 1	Paragraph の構造
3	Unit 2	Topic Sentence
4	Unit 3	Supporting Sentences
5	Unit 4	Concluding Sentence
6	Unit 5	AI の長所・短所について書いてみよう
7	Unit 6	人の伝記を書いてみよう
8	Unit 7	様々なものを分類してみよう
9	Unit 8	デジタルとアナログを比較してみよう
10	Unit 9	原因と結果を明らかにしよう
11	Unit 10	問題に対する解決策を考えてみよう
12	Unit 11	Paragraph to Presentation (Introduction)
13	Unit 12	Paragraph to Presentation (Body)
14	Unit 13	Paragraph to Presentation (Conclusion)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
https://nanun-do.com
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Leonid Yoffe 他著『Message Delivered < Upper Intermediate > パターンで学ぶパラグラフ・ライティングとプレゼンテーション入門＜準上級＞』（南雲堂、2020 年）2420 円（税込）

【参考書】
辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度、課題提出等）30 %＋英作文 70 %＝100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻のもしくは早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合はいかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（私語、居眠りなど）場合は減点対象とする。
・コピー＆ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行ったことが明らかになった場合は、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン学習時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。

【Outline (in English)】
Course Outline
The English communication is necessary in the globalized and diverse society today. Therefore, this course aims to enhance the development of students' skill in writing English.
Learning Objective
By the end of the course, students are expected to write their opinions on several topics in their daily lives.
Grading Criteria
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and mid-term examinations (70%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

豊口　真衣子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要
グローバル化や多様性が進む今日では、英会話は必須のスキルとなっている。そこで、この授業では英会話のテキストを用いて、リスニングとスピーキング能力の向上を目指す。
授業の目的
・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、学生が自分の知識、経験、意見を効果的に口頭で表現する力を身に着ける。
・イギリス英語、米語だけでなく、学生が様々な国の英語を聞き取れるようになる。

【到達目標】
・特に大学生にとって必要となる日常生活のさまざまなトピックについて、学生が自分の意見を効果的に口頭で表現できるようになる。
・イギリス英語、アメリカ英語だけでなく、学生が様々な国の英語を聞き取れるようになる。
・学生が、効果的に英語を聴き取り、意味をつかめるようになる。
・学生が、短～中文のテキストを読み、情報を正確に把握できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppi）で、その都度提示します。
・テキストの問題演習（スピーキング、リスニング、リーディング）。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を聞き、予習してくること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Unit 1	College Life
2	Unit 2	Mobile Phones
3	Unit 3	Movies
4	Unit 5	International Food
5	Unit 6	World Englishes
6	Unit 7	Weekends/Vacations
7	Unit 8	Music/Songs
8	Unit 9	Sports
9	Unit 10	Shopping
10	Unit 11	Traveling/Studying Overseas
11	Unit 12	Festivals/Parties
12	学期末試験 (1)	口述試験
13	学期末試験 (2)	口述試験
14	Unit 13	Part-time/Future Jobs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートまたはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキストの音声は教科書の HP からダウンロードできるので、事前に聞いてくる。
http://www.kinsei-do.co.jp/download/4003
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
塩澤正, Gregory King 著『Global Activator 大学生のためのグローバル時代の英会話』（金星堂、2015 年) 2000 円＋税

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %+学期末試験 70 % = 100 %
・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻もしくは早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合はいかなる場合も欠席扱いとする。
・授業態度が悪い（私語、居眠りなど）場合は減点対象とする。
・翻訳ソフトの使用は不正とし、発覚次第、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
テキストは必ず生協書籍部を通して購入してください。
辞書は『リーダーズ英和辞典』が入った電子辞書が望ましい。

【Outline (in English)】
Course outline
The English communication is necessary in the globalized and diverse society today. Therefore, this course aims to enhance the development of students' skills in listening and speaking.
Learning Objective
By the end of the course, students are expected to speak their opinions on several topics in their daily lives.
Grading Criteria
Grading will be decided based on in-class contribution (30%) and term-end examination (70%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎　暁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションをおこなう力を育成する。

【到達目標】
論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、グループワークをおこなう。
予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。
対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従って教科書を予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。毎週出題される予習テストに期限までに解答する。授業で学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂　2020 年　2200 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則的に単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きオンラインの予習と対面のグループワークを組み合わせる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
情報の周知、予習テスト・課題の出題などに学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】
学習支援システムに掲載する情報は大学から付与されたメールアドレスに届く。メールで個別の連絡をする場合もあるので、法政 Gmail は必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.
[Learning objectives]
By the end of this course, students should be able to write a logically organized paragraph, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading criteria /Policy]
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

山崎　暁子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションをおこなう力を育成する。

【到達目標】
論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストを出題し、ユニットごとに発音課題やライティング課題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。英語でのプレゼンテーション、グループワークをおこなう。
予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。
対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。毎週出題される予習テストに期限までに解答する。授業で学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂　2020 年　2200 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きオンラインの予習と対面のグループワークを組み合わせる。授業時間をより効率的に使えるよう、オンライン部分と対面部分の役割分担を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
情報の周知と予習テスト・課題の提出などに学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】
学習支援システムに掲載する情報は大学から付与されたメールアドレスに届く。メールで個別の連絡することもあるので、法政 Gmail を毎日チェックすること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.
[Learning objectives]
By the end of this course, students should be able to write logically organized paragraphs about different topics, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading criteria /Policy]
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Unit Quiz
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Unit Quiz
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task
8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Unit Quiz
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Unit Quiz
14	Final tasks	Final speaking task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2
Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.
学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1:A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Unit quiz
4	Introduction to academic writing	Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms
9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Unit quiz
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and conducing paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

———————-

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and unit quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement.　In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice.　It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Unit Quiz
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Unit Quiz
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task
8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Unit Quiz
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Unit Quiz
14	Final tasks	Final speaking task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2
Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.
学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1:A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Unit quiz
4	Introduction to academic writing	Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms
9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Unit quiz
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and conducing paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

———————-

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and unit quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships: vocabulary & listening	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships: reading & speaking	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships: discussion & writing	Discuss personality traits Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills: vocabulary & listening	Comparing with gerund phrases
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills: reading & speaking	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 7	Unit 2 Jobs, career skills: discussion & writing	Discuss seating arrangement for networking event Write a paragraph on 3 pet peeves
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Favors, requests, messages: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 9	Unit 3 Favors, requests, message: reading & speaking	Leaving messages Making indirect requests
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages: discussion & writing	Make direct requests & respond Discuss different kinds of requests Write 2 paragraphs comparing 2 jobs
Week 11	Unit 4 Narrating a story: vocabulary & listening	Describing events in the past Using past verb forms
Week 12	Unit 4 Narrating a story: reading & speaking	Listen to news broadcasts React to news
Week 13	Unit 4 Narrating a story: discussion & writing	Narrate & discuss unusual stories Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on pet peeves	Quiz: units 3-4 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】
Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer Review narration of events
Week 2	Unit 5 Comparing different cultures: vocabulary & listening	Describing customs State feelings about living abroad
Week 3	Unit 5 Comparing different cultures: reading & speaking	Stating customs in complex sentences
Week 4	Unit 5 Comparing different cultures: discussion & writing	Discuss foreign & Japanese customs Write 2 paragraphs on foreign customs
Week 5	Unit 6 Describing problems: vocabulary & listening	Making complaints Describing problems with household items
Week 6	Unit 6 Describing problems: reading & speaking	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 7	Unit 6 Describing problems: discussion & writing	Describe problems in rooms of a house Write about a problem with something purchased
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Environmental and world issues: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Identifying, describing problems Using the passive voice to point out negative effects
Week 9	Unit 7 Environmental and world issues: reading & speaking	Coming up with solutions to problems Using infinitives of purpose
Week 10	Unit 7 Environmental and world issues: discussion & writing	Discuss social problems & solutions Write about social problems
Week 11	Unit 8. Learning and education: vocabulary & listening	Describing preferences, Talking about learning methods
Week 12	Unit 8. Learning and education: reading & speaking	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 13	Unit 8. Learning and education: discussion & writing	Discuss self improvement & ways to learn things
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on foreign customs & social problems

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】
Self-Study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 100%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook

Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, students will develop the academic skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】
The goal of this course is to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The first class will be held "online" unless otherwise announced. Most classes will be held face-to-face in the classroom on the Ichigaya campus. If necessary, some classes may be held on Zoom. Students will study 5 units in the textbook in the first semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction: requirements, tasks, goals	Self-introductions, Ice-breaker activity Asking questions
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Discussing pet peeves Linked sounds
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships	Crossword Puzzle Info gap Personality Questionnaire
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases Paragraph format and structure
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills	Job titles and job definitions Important personal qualities for jobs
Week 7	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 8	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 9	Unit 3 Favors, requests, messages	Unreleased consonants Collocations
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages	Leaving messages, Making indirect requests
Week 11	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 12	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 13	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice Using modals of necessity
Week 14	Presentations-Which Job is better? (or) My 3 pet peeves	Presentations Interchange 3 Discussion activity

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The first class will be "online." Most other classes will be held in the classroom in Ichigaya campus. If it is necessary, some classes will be held by Zoom or on-demand lectures. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 3 Student's Book , Richards 5th ed. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】
You will be graded on:
20% Active participation in English
30% Weekly homework and paragraph assignment
20% Two Presentations
30% Quizzes/tests
* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline (in English)】
In this course, students will develop the academic skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

【到達目標】
The goals of the course are for students to:
1.Acquire and use strategic listening techniques to improve listening comprehension
2.Employ critical thinking lenses to evaluate the course content
3.Strengthen speaking abilities and hone new phrases through output activities
4.Use advanced language and writing techniques in academic paragraphs
5.Write paragraphs and essays that are polished and effective at conveying a unified message

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The course instructor will create a "safe" learning environment for students. "Safe" means that students are able to voice their perspectives and attempt to comprehend those of others without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. In group discussions, students are expected to listen to each other and talk with them. While presenting their topics, students should use audiovisual aids.
Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback during in-class discussions. Students will get graded rubrics for presentations and writings, along with comments from the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/ Chapter 1 Academic Paragraphs	Course orientation, Icebreaking, Chapter 1 Academic Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 2	Chapter 1 Academic Paragraphs	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 3	Chapter 1 Academic Paragraphs	Preparation for Writing/Discussions Presentation preparation
Lesson 4	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 5	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 6	Chapter 8 Comparison/Contrast Paragraphs	Preparation for Writing/Discussions 1st Writing Assignment
Lesson 7	Individual Presentations	Individual Presentations
Lesson 8	Chapter 9 Essay Organization	Chapter 9 Essay Organization: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 9	Chapter 9 Essay Organization	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 10	Chapter 9 Essay Organization	Preparation for Writing/Discussions 2nd Writing Assignment
Lesson 11	Chapter 10 Opinion Essays	Chapter 10 Opinion Essays: Introduction/Organization/Purpose
Lesson 12	Chapter 10 Opinion Essays	Sentence Structure/Punctuation/Vocabulary
Lesson 13	Chapter 10 Opinion Essays	Preparation for Writing/Discussions
Lesson 14	Final Task: In-class Writing	Final Task: In-class Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This course is a two-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】
Title: Longman Academic Writing Series: Essays SB w/App, Online Practice & Digital Resources Lvl 3
Publisher: Pearson
ISBN: 9780136838531
Price: ￥ 3,500

【参考書】
Bring your dictionary to class. (Either paper or electronic dictionary is acceptable.)

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Homework: 20%
Two Writings: 30% (One paragraph writing: 10%/One essay writing: 20% each)
One Presentation: 10%
One Final Task: 20%
Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】
English 2 focuses on English writing and speaking. This course aims to help students improve their general and academic speaking and writing skills. Students will not only learn the basics of the language and more advanced grammar rules but also how to organize their thoughts and write them in a way that makes sense. This class will teach students how to write different types of academic paragraphs and help them improve their English writing. Depending on the student's ability in English, they will learn how to engage in and organize conversations and/or deliver presentations and speeches.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25
6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)
*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1)　to bring an English-English dictionary
2)　to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)
*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1) to bring an English-English dictionary
2) to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎　博

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニング、スピーチ・プレゼンテーション、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
自分の考えを簡単な英語で表現できるようになる。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。
英文のパラフラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①リスニング。英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
②スピーキング。テキストの内容に沿って様々な場面に対応できるよう発話練習をする。
③プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
④ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。春学期に一度エッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
⑤フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。③は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。④作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業方針の説明。 学生による英語での自己紹介。
2	Unit 1 College Life お互いを知る (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 初対面の相手から情報を聞き出す会話パターンを練習する。
3	Unit 1 College Life お互いを知る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。最終的には自分の意見を英語で表明する。 ニュース映像に関しては NBC が米国で毎晩放送する新しいニュース映像を教材にするので、内容に関しては未定。 テキストのリスニング教材の聞き取り。テキストのリスニング教材の聞き取り。初対面の二人の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかな内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。発音練習をする際、th の発音を習得する。
4	Unit 2 Future Plans 意図を告げる (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分の意図や将来のプランを伝える表現を使った会話パターンを練習する。
5	Unit 2 Future Plans 意図を告げる (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。将来のプランについての比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /f/と/v/の発音を習得する。
6	Unit 3 Part-time Jobs 趣味について語る (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 バイトや趣味を伝える表現を使った会話パターンを練習する。
7	Unit 3 Part-time Jobs 趣味について語る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。趣味に関する比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。/w/の発音を習得する。
8	Unit 4 Movies 誰かを誘いアポを取る (1) スピーキング中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 他人を誘い出し、約束をする表現を使った会話パターンを練習する。

9	Unit 4 Movies 誰かを誘いアポを取る (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。デートの打ち合わせをする男女の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /s/と/z/の発音を習得する。
10	Unit 5 Parties 相手の好みを聞く (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 相手の好みを聞いたり、パーティーなどに誘い出す会話パターンを練習する。
11	アカデミック・ライティング１（４パラグラからなるエッセイの構造）	自分の意見を主張する 4 パラグラフからなるエッセイの構造を理解し、エッセイプランを作成する。
12	アカデミック・ライティング２（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を学ぶ。 特に辞書の使い方を詳しく学習する。
13	Unit 5 Parties 相手の好みを聞く (2) スリスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。パーティーの打ち合わせをする男女の比較的長い会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /m/と/n/の発音を習得する。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削しコメントを添えてエッセイを返却する。 添削・コメントというフィードバックから、学生はエッセイライティングの技法を学び直す。 学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセー作成には 8 時間前後を要します。
授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。
授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをし、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をします。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。
英文エッセーの作成（春学期に一度）。

【テキスト（教科書）】
『Activator Next』、塩澤正他、金星堂

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
４回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。
オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
リスニング教材をより興味深いものにする。
ライティングの比重を高くする。
英語で発言する機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】
This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.
Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class.
The final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩崎　博

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リスニング、スピーチ・プレゼンテーション、ライティングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
自分の考えを簡単な英語で表現できるようになる。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようになる。
英文のパラフラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
①リスニング。英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
②スピーキング。テキストの内容に沿って様々な場面に対応できるよう発話練習をする。
③プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
④ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。春学期に一度エッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。
⑤フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。③は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。④作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ニュース映像の聞き取り	絶滅が危惧されるナキウサギの映像を見て、地球温暖化が切実な問題になっていることを実感する。ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。/n/,/m/,/ŋ /の発音を習得する。
2	Unit 6 Friends 感謝と謝罪の気持ちを伝える (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。感謝や謝罪など、自分の気持ちを伝える表現を伝える会話パターンを練習する。
3	Unit 6 Friends 感謝と謝罪の気持ちを伝える (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。最終的には自分の意見を英語で表明する。ニュース映像に関しては NBC が米国で毎晩放送する新しいニュース映像を教材にするので、内容に関しては未定。テキストのリスニング教材の聞き取り。謝罪とそれに対する対応が交わされる会話を聞き、メモを取って大まかな内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。発音練習をする際、/r/の発音を習得する。
4	Unit 7 Abroad 繰り返しを求める (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。相手の言っていることを聞き逃した時、再び同じことを繰り返してもらうための表現を使った会話パターンを練習する。
5	Unit 7 Abroad 繰り返しを求める (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。テキストのリスニング教材の聞き取り。相手の意図を確認する表現を含む会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。/l/の発音を習得する。
6	Unit 8 Social Media 世間話をする (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。あまり親しくない人と世間話を続けるためのパターンを練習する。
7	Unit 8 Social Media 世間話をする (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。テキストのリスニング教材の聞き取り。当たり障りのない会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。破裂音の発音を習得する。
8	Unit 9 Cultures 相手に質問をする (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。様々な質問をするためのパターンを練習する。

9	Unit 9 Cultures 相手に質問をする (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。パチンコに関する会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /i:/の発音を習得する。
10	Unit 10 Music 許可を求める (1) スピーキングを中心に	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 許可を得たり、提案をするためのパターンを練習する。
11	アカデミック・ライティング 1（原因から結果へ向かうエッセイの構造）	原因から結果へ向かう 4 パラグラフからなるエッセイの構造を学び、エッセイプランを作成する。
12	アカデミック・ライティング 2（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を再度学ぶ。 特に辞書の使い方を再度詳しく学習する。
13	Unit 10 Music 許可を求める (2) リスニングを中心に	ニュース映像を聞き、プリントの穴埋めを行ない、内容を理解し、シャドーイングを実践する。そのあとで、ペアを作りニュース映像の内容について互いに英語で質問し答える練習をする。 テキストのリスニング教材の聞き取り。許可と提案の表現を含む会話を聞き、メモを取って大まかに内容を理解し、さらに別の英語にパラフレイズすることによって自分が理解したことを表現する。 /d/の発音を習得する。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセーの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセー作成には 8 時間前後を要す。
授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセーのレイアウト作成をする。
授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。
英文エッセーの作成（秋学期に一度）。

【テキスト（教科書）】
『Activator Next』、塩澤正他、金星堂

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
４回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
原則的に遅刻は認めない。
オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の授業参加をもっと促す。
英会話にもっと時間を割く。
学生とのコニュニケーションをもっととる。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】
この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】
This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.
Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class.
The final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a course in understanding and using English in practical situations.
Classroom work will include discussion and presentation in small groups and individual study with personal attention from the instructor.
There will be writing exercises in alternate classes designed to improve the structure and grammatical quality of the students' written English.

【到達目標】
The aim of this class is to improve the communication skills of the students with a view to future use of the language in life during after University.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students are encouraged to speak to each other in English while in class. Writing assignments will be returned with comments and corrections face to face in class to facilitate understanding.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Getting to know the teacher and the other students in class.
2	Transport and travel 1	How we get around
3	Transport and travel 2	Where we go and why. Writing assignment.
4	Presentation preparation 1	Deciding groups and topics and planning a presentation
5	Presentation 1	Giving presentations in class and recieving feedback.
6	Location.	How we describe places and features of the world around us. Writing assignment.
7	Food	Explaining and describing our own food and talking about food around the world.
8	Entertainment.	How people around the world spend their leisure time. Writing assignment.
9	The Media	How we gather information and the issues around social media.
10	Presentation preparation 2	Topics and preparation for the second presentation
11	Presentation 2	Giving presentations in class and recieving feedback.
12	Sport	Why do we play sport? Writing assignment.
13	Music	Music as a social force in popular culture.
14	Test	Written self-assesment and short interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Materials provided by instructor.

【参考書】
N/A

【成績評価の方法と基準】
Class participation 40%
Presentations 20%
Writing assigments 20%
Self-assessment and interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
Students are expected to attend all classes and to actively participate in discussion and presentation activities.
Grade assessment is based on participation, achievement and attendance.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a continuation of the course in understanding and using English in practical situations.
Classroom work will include discussion and presentation in small groups and individual study with personal attention from the instructor.
There will be writing exercises in alternate classes designed to improve the structure and grammatical quality of the students' written English.

【到達目標】
The aim of this class is to improve the communication skills of the students with a view to future use of the language in life during after University.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students are encouraged to speak to each other in English while in class. Writing assignments will be returned with comments and corrections face to face in class to facilitate understanding.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to part 2.	Setting out goals and exlaining processes.
2	Culture	What is 'Culture' and how does it change? Writing assignment.
3	Language	How does language work and how does our own language relate to others?
4	Presentation preparation 1	Organising topics and groups for the first presentation
5	Presentation 1	Presenting in class and recieving feedback.
6	Crime	What is criminal and why? Writing assignment.
7	Appearance	The language of clothes and gender.
8	Feelings	Expressing emotion. Writing assignment.
9	Money	How we earn and use money.
10	Presentation preparation 2	Preparing the second presentation.
11	Presentation 2	Giving presentations in class and recieving feedback.
12	Time	What is time and how do we use it? Writing assignment.
13	Technology	The positive and negative effect of technology on our daily lives.
14	Test	Self-assessment and short interviews.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Material provided by instructor.

【参考書】
N/A

【成績評価の方法と基準】
Class participation 40%
Presentations 20%
Writing 20%
Self-assessment and interview 20%

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
This is a continuation of the course in understanding and using English in practical situations.
Classroom work will include discussion and presentation in small groups and individual study with personal attention from the instructor.
There will be writing exercises in alternate classes designed to improve the structure and grammatical quality of the students' written English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

【到達目標】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.
We will watch some short on-line video presentations to compare the spoken format to the written format.
All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills. We will use Artificial Intelligence applications (OpenAI, Bard etc.) to generate written assignments and analyze the results.
This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.
7.	Part time jobs: Listening	Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text.
8.	Part time jobs: Group discussions	Small group discussions and giving advice about part time jobs.
9.	Part time jobs: Writing	Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university.
10.	Hopes and Dreams:	Vocabulary and discussion of work and future actions.
11.	Hopes and dreams: Listening	Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text. Closed/Open/Choose questions
12.	Hopes and Dreams: Group discussion	Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions
13.	Hopes and Dreams: Writing	Prepare a paragraph about future activities.
14.	BBC Ideas Video	Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
3 Homework assignments writing different styles of paragraph.
All assignments written in digital format and submitted via Gmail.
To assist in providing feedback, Google Docs format is required.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised

【成績評価の方法と基準】
Written Homework Assignment:30%
Worksheet Assignments:20%
Participation: 20%
On-line Tests: 18%
On-line Exercises/Tasks: 12%
Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Changes made to include use of new technology: on-line meeting applications and Generative Artificial Intelligence.

【学生が準備すべき機器他】
A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.
Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record Written and Worksheet assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code will be advised, via the university Hoppii system, in April.
Students are expected to check their Hosei Gmail account at least once per week.

【Outline (in English)】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

【到達目標】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions through: 1)Asking for and giving opinions, 2)Agreeing and Disagreeing and 3)supporting their reasons. Students will also practice making on-line presentations and speeches using contemporary software applications. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.
Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.
Students will generate an essay and analyze it to identify: Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.
All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?
Class 4	Eating out.	Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?
Class 5	Eating Out.	Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.
Class 6	Family: Agreeing and Disagreeing	Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Family	Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation
Class 8	Family.	Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation
Class 9	Family:	Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs
Class 10	Interests: Supporting your reasons.	Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.
Class 11	Interests	Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.
Class 12	Interests	Writing: Conclusion paragraphs. Final Ballad Preparation
Class 13	Presentation	Groups present their Ballad Presentations to the class.
Class 14	Final Presentations and Review	Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course.
Students will be required to generate an Academic Essay and then identify the components of each paragraph. Students will then condense the Essay to an outline and check it for unity.
Students will be required to complete a series of word puzzles to develop their vocabulary.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised during course

【成績評価の方法と基準】
Homework written assignments: 20%
On-line Tests: 18%
Online Exercises/Tasks: 12%
Participation: 10%
Presentation: 10%
Video Worksheets: 20%
Vocabulary puzzles: 10%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】
2022: New Text-book and course structure. More focus on speaking.
2023: Practice using Generative Artificial Intelligence applications. Word puzzles to develop vocabulary.

【学生が準備すべき機器他】
A tablet or laptop device is strongly encouraged (Smartphones are ok but more difficult to use since class activity may require several windows to be open.) Students should have access to Japanese-English and English-English e-dictionaries or Wikipedia. Paper and pens/pencils are rarely required.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download "Classroom" from the Google store before the first lesson. The Course code for the class will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: vocabulary & listening	Introducing yourself Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: reading & speaking	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: discussion & writing	Discuss things in common with classmates Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems: vocabulary & listening	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 6	Unit 2 Transportation and Transportation problems: reading & speaking	Asking for and giving information, Asking indirect questions
Week 7	Unit 2 Transportation and Transportation problems: discussion & writing	Discuss cities to visit & evaluate them Write a paragraph on 3 problems in city
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Describing positive and negative features, making comparisons
Week 9	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: reading & speaking	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 10	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: discussion & writing	Comparing houses to apartments Compare wishes in the present time Write & explain 3 personal wishes
Week 11	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: vocabulary & listening	Talking about food. Stating likes and dislikes
Week 12	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: reading & speaking	Contrasting simple past with present perfect Using sequence adverbs to signal steps
Week 13	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: discussion & writing	Discuss experiences Describe how to do something Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on 3 problems in a city	Quiz: units 3-4 Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】
Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook

Vocabulary development:
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Kregg　Johnston

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】
This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.
Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Going places: vocabulary & listening	Describing vacation plans Stating personal plans in the future
Week 3	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 4	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Discuss how to do activities Write paragraph on a process
Week 5	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: vocabulary & listening	Making requests Accepting and refusing
Week 6	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: reading & speaking	Complaining, apologizing, making excuses
Week 7	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: discussion & writing	Discuss making apologies and giving excuses Writing: 3 suggestions for handling a situation
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 What do you use this for: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Use of technology Using infinitives of purpose
Week 9	Unit 7 What do you use this for: reading & speaking	Using imperatives & infinitives Giving advice
Week 10	Unit 7 What do you use this for: discussion & writing	Discuss advice for problems Write about uses for technological devices
Week 11	Unit 8 Time to celebrate: vocabulary & listening	Describing holidays & festivals Relative clauses of time
Week 12	Unit 8 Time to celebrate: reading & speaking	Discussing pros and cons Adverb clauses of time
Week 13	Unit 8 Time to celebrate: discussion & writing	Discuss customs & celebrations
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on a process

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students should prepare for the class by completing the assigned exercises in the textbook & completing and submitting assignments posted in Google Classroom. Students should check Google classroom every week to confirm the assigned exercises.
Students should prepare for quizzes by reviewing exercises in the textbook and what we have covered in class.
All writing assignments will be given and collected in Google Classroom

【テキスト（教科書）】
Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】
Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press) Workbook
Vocabulary development:
https://quizlet.com/KreggJ
https://www.memrise.com/

【成績評価の方法と基準】
Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
*In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased emphasis on listening strategies vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】
Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム）

【Outline (in English)】
Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
− Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
− Make presentations in small groups and in front of the class.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】
・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、エッセイを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でディスカッションをしてもらいます。
課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Unit 1 Key Features of Academic Essay	エッセイの重要な特徴について学ぶ
第 3 回	Unit 2 Title of Your Essay	タイトルの決定について学ぶ
第 4 回	Unit 3 Introduction of Your Essay	イントロダクションの役割について学ぶ
第 5 回	Unit 4 Body of Your Essay	ボディの構造について学ぶ
第 6 回	Unit 5 Conclusion of Your Essay	コンクルージョンのまとめ方について学ぶ
第 7 回	Unit 6-1 Feedback from Others	フィードバックの方法について学ぶ
第 8 回	Unit 6-2 Feedback from Others	フィードバックに挑戦する
第 9 回	Unit 7-1 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿提出に必要なプロセスを学ぶ
第 10 回	Unit 7-2 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿を提出する
第 11 回	筆記試験	試験・解説
第 12 回	Essay writing 1	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる
第 13 回	Essay writing 2	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる
第 14 回	Semester review	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。
・Warm-up Reading を読み、Comprehension Check に答える
・Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
・Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 35 %、課題 35 %、筆記試験 30 %で評価します。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で、エッセイを書いたり、授業内容に関連するウェブサイトにアクセスしたりする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to write logically organized paragraphs
− Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on examination (30%), homework assignments (35%), and in-class contribution (35%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

近藤　隆子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】
・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
・効果的なプレゼンテーションを行うための知識を身につける
・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、アブストラクトやプレゼンテーションのスクリプト、スライドを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク、グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でプレゼンテーションやディスカッションをしてもらいます。
課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、春学期の復習	授業の概要説明, 春学期に学んだエッセイの書き方について復習する
第 2 回	Unit 8 Structure of a Research Paper	リサーチ・ペーパーの構造とイントロダクションについて学ぶ
第 3 回	Unit 9 Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴について学ぶ
第 4 回	Unit 10 First Draft of Your Abstract	アブストラクトの草案を書く
第 5 回	Unit 11 Rewriting Your Abstract	アブストラクトの最終原稿を仕上げる
第 6 回	Unit 12 Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションの基本的特徴について学ぶ
第 7 回	Unit 13 Preparing Visual Aids	視覚資料を作成する
第 8 回	Unit 14 Finishing Your Scripts	発表原稿を完成させる
第 9 回	Unit 15 Evaluating Your Presentation	プレゼンテーションの評価の仕方を学ぶ
第 10 回	筆記試験	試験
第 11 回	プレゼンテーションの準備	グループでのプレゼンテーションの練習
第 12 回	プレゼンテーション (1)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 13 回	プレゼンテーション (2)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	プレゼンテーション (3)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。
・Warm-up Reading を読み、Comprehension Check に答える
・Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
・Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】
授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 30 %、課題 20 %、プレゼンテーション 20 %、筆記試験 30 %で評価します。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】
成績評価の方法と基準を学生がきちんと理解できるように説明する。ペア・グループワークで学生がより一層積極的に参加するようにやり方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】
授業の中で、エッセイを書いたり、授業内容に関連するウェブサイトにアクセスしたりする際、パソコンもしくはタブレットを使用します。また、資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業に出席してください
・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
・積極的に授業に参加することが求められます
・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− Students should be able to write logically organized paragraphs
− Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions and give presentations
− Students should acquire effective listening skills
− Students should be able to use dictionaries effectively
【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be decided based on examination (30%), presentations (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion . Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings , writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2 , readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3 , readings, Quiz #2 Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4 , readings, Quiz #3 Prepare for discussions.
Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ジェフリー　B　タロフスキー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】
For first year students who have successfully completed their high-school English classes.
There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .
Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】
Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】
There are two components to the grade. First, there are between nine and eleven quizzes each semester, (one per week for most of the semester). These will count for 60% of the total grade . The instructor may , entirely at his discretion , drop the lowest one or two grades. However, students should submit all the quizzes and should expect 60% of their grade to be based on the average score. Quizzes submitted late are marked as Zero (0) and CANNOT be resubmitted or made up. The remaining 40% of the grade will be based on the writing assignments . Again, it is extremely important to meet deadlines and late submsssions will be penalized .

【学生の意見等からの気づき】
Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】
This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.
As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.
Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.
There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert　D.　Hinton

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】
The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments.　In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills.　Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills.　Particular attention will be focused on improving communication skills.　Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations
Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	"Group A" students give presentations	Student presentations/note taking for "Group B"
Week 14	"Group B" students give presentations	Student presentations/note taking for "Group A"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required for this course.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%).　No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】
I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】
This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking,reading and writing.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Robert　D.　Hinton

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】
The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments.　In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills.　Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills.　Particular attention will be focused on improving communication skills.　Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue
Week 14	Commercials	Students will evaluate the appeal of commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is required for this course.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%).　No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】
I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】
This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking,reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Unit Quiz
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Unit Quiz
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task
8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Unit Quiz
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Unit Quiz
14	Final tasks	Final speaking task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2
Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.
学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1:A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Unit quiz
4	Introduction to academic writing	Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms
9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Unit quiz
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and conducing paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

———————-

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and unit quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎　暁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションをおこなう力を育成する。

【到達目標】
論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、グループワークをおこなう。
予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。
対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従って教科書を予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。毎週出題される予習テストに期限までに解答する。授業で学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂　2020 年　2200 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則的に単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きオンラインの予習と対面のグループワークを組み合わせる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】
情報の周知、予習テスト・課題の出題などに学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】
学習支援システムに掲載する情報は大学から付与されたメールアドレスに届く。メールで個別の連絡をする場合もあるので、法政 Gmail は必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.
[Learning objectives]
By the end of this course, students should be able to write a logically organized paragraph, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading criteria /Policy]
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

山崎　暁子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションをおこなう力を育成する。

【到達目標】
論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストを出題し、ユニットごとに発音課題やライティング課題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。英語でのプレゼンテーション、グループワークをおこなう。
予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。
対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。毎週出題される予習テストに期限までに解答する。授業で学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂　2020 年　2200 円（税別）

【参考書】
授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】
引き続きオンラインの予習と対面のグループワークを組み合わせる。授業時間をより効率的に使えるよう、オンライン部分と対面部分の役割分担を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】
情報の周知と予習テスト・課題の提出などに学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】
学習支援システムに掲載する情報は大学から付与されたメールアドレスに届く。メールで個別の連絡することもあるので、法政 Gmail を毎日チェックすること。

【Outline (in English)】
[Course outline]
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.
[Learning objectives]
By the end of this course, students should be able to write logically organized paragraphs about different topics, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.
[Learning activities outside of classroom]
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.
[Grading criteria /Policy]
Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Unit Quiz
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Unit Quiz
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task
8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Unit Quiz
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Unit Quiz
14	Final tasks	Final speaking task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2
Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.
学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER　MASCHIO

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone
wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】
1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken
discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1:A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Unit quiz
4	Introduction to academic writing	Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms
9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Unit quiz
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and conducing paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

———————-

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】
Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and unit quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】
The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】
HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】
The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】
This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原　紀子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered through the combination of face-to-face and online instruction. Before class you must make preparation by using the book and online exercises independently. In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work.

Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction and ice-breaking	Self-introduction, course information, how to participate in discussion
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	Special topic	Preparation for a guest speaker talk
10	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
12	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
13	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
14	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.
University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】
Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】
1) Participation (20%)
2) Online assignments and writing (20%)
3) Bi-weekly quizzes (60%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】
Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学の教室で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】
この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials. Your work will be assessed through unit quizzes, writing, and participation. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

石原　紀子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.
Before class you must make preparation by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11) : Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11) : Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12) : Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12) : Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.
University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】
Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】
1) Participation (20%)
2) Online assignments and writing (20%)
3) Unit quizzes (60%)
Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】
Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It’s all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学の教室で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】
この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】
In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials. Your work will be assessed through unit quizzes, writing, and participation. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

DONALD W WHYTE

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】
The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will help them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.
Homework will be given to prepare students for the following class.
Submission of assignments and feedback will be given on the Learning Management System.
General feedback and advice will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to the course	Explanation of the course, class "rules" and expectations. Pair work and group discussion practice.
week 2	Learning with a purpose.	Goals and plan of action.
week 3	Speaking up - giving opinions.	Overcoming barriers.
week 4	Information everywhere.	Becoming information literate.
week 5	Presentation 1. Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.
week 6	Travel.	Preparing and planning ahead.
week 7	What is culture ?	Considering all aspects of culture and how they change.
week 8	Living in a new culture	Culture shock
week 9	Stereotypes.	Developing respect for others.
week 10	Presentation 2. Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.
week 11	You are what you eat.	A healthy diet and other lifestyle choices.
week 12	Water.	Water is vital for humans and the environment.
week 13	Problems and solutions.	Considering global issues.
week 14	Presentation 3. Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will be given to help students prepare for the following lesson. Students are required to read and check vocabulary so that classroom time will concentrate on speaking.
Presentations are to be researched and prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
ISBN4-523-17413
Richard McMahon
Presenting Different Opinions
Nan'un-do Co. Ltd.

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

【成績評価の方法と基準】
Active classroom participation - 20%
Homework - 20%
Presentation 1 - 20%
Presentation 2 - 20%
Presentation 3 = 20%
Total 100%

【学生の意見等からの気づき】
More emphasis will be put on written assignments to support oral work.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

DONALD W WHYTE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】
The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.
Homework will be given to prepare students for the following class.
Submission of assignments and individual feedback will be on the Learning Management System.
General feedback on assignments will be given in class.
If we cannot meet in the classroom, real time Zoom meetings will be arranged. In both cases, active participation is essential

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Introduction to the course and review of previous topics,	Explanation of the course, class "rules" and expectations. Pair work and group discussion practice.
week 2	Women‘s rights.	Considering the place of all people in society.
week 3	Consumerism.	Conscientious buyers and the relationship between developing/developed countries.
week 4	Work.	How it has changed, what are the options and the future of work.
week 5	Presentation 1 Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.
week 6	Relationships.	Considering lifestyle choices.
week 7	Children.	Child rearing, obligations and abuse
week 8	Caring for others.	Charity, volunteering and other activities.
week 9	The relation between humans and nature.	How do the actions of humans affect the earth.
week 10	Presentation 2 Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.
week 11	Newspapers.	Traditional media and how it is changing to stay viable.
week 12	The influence of TV, movies, and internet sites.	Who controls the content ? Censorship.
week 13	Taking access for granted.	AI Virtual reality. The future.Should we be worried ?
week 14	Presentation 3 Vocabulary Test.	Students should prepare a 4 minute presentation, including facts to show appropriate research.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will be given to help students prepare for the following lesson.
Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
ISBN4-523-17413
Richard McMahon
Presenting Different Opinions
Nan‘un-do Co. Ltd.

【参考書】
Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

【成績評価の方法と基準】
Active classroom participation - 20%
Homework - 20%
Presentation 1 - 20%
Presentation 2 - 20%
Presentation 3 = 20%
Total 100%

【学生の意見等からの気づき】
More emphasis will be put on written assignments to support oral work.

【Outline (in English)】
The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We
will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively.Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System (HOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	1B: The perfect date	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	1C: The Remake Project	Clothes. Prepositions of place
4	Practical English: Hotel problems	Reporting problems, offer to do something, greeting a friend
5	2A OMG! Where's my passport	Past simple
6	2B That's me in the picture	Past continuous
7	2C One dark October evening	Time sequencers, connectors
8	3A TripAside	Be going to (plans, predictions)
9	3B Put it in your calendar!	Present continuous (future arrangements)
10	3C Word games	Defining relative clauses
11	Practical English: Restaurant Problems	Ordering food in a restaurant, explaining a problem, asking about somebody's plans
12	4A Who does what?	Present perfect + yet, just, already
13	4B In your basket	Present perfect vs. past simple
14	Revise & Check	Reviewing Units 1-4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 40%
Test after each chapter 60%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested listening tracks to be repeated more often.

【Outline (in English)】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Feedback will be given on the Learning Management System (hOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A I want it now!	Comparative adjectives and adverbs, as ... as
2	5B Twelve lost wallets	Superlatives + ever+ present perfect
3	5C How much is enough?	Quantifiers
4	Practical English: The wrong shoes	Making suggestions, Taking something back to a shop, Arranging a time to meet somebody
5	6A Think positive - or negative	Will/won't predictions
6	6B I'll always love you	Will/won't/shall
7	6C The meaning of dreaming	Review of verb forms present, past and future
8	7A First day nerves	Uses with the infinitive with to
9	7B Happiness is ...	Uses of the gerund
10	7C Could you pass the test?	Have to, don't have to, must, mustn't
11	Practical English: At the pharmacy	Describing symptoms when feeling ill, getting medicine at a pharmacy
12	8A Should I stay or should I go?	should
13	8B Murphy's Law	if+present, will+infinitive
14	Revise & Check	Reviewing Unit 5-8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 40%
Tests/Presentation/Composition 60%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested easier listening exercises.

【Outline (in English)】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

【到達目標】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.
We will watch some short on-line video presentations to compare the spoken format to the written format.
All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills. We will use Artificial Intelligence applications (OpenAI, Bard etc.) to generate written assignments and analyze the results.
This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.
7.	Part time jobs: Listening	Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text.
8.	Part time jobs: Group discussions	Small group discussions and giving advice about part time jobs.
9.	Part time jobs: Writing	Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university.
10.	Hopes and Dreams:	Vocabulary and discussion of work and future actions.
11.	Hopes and dreams: Listening	Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text. Closed/Open/Choose questions
12.	Hopes and Dreams: Group discussion	Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions
13.	Hopes and Dreams: Writing	Prepare a paragraph about future activities.
14.	BBC Ideas Video	Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
3 Homework assignments writing different styles of paragraph.
All assignments written in digital format and submitted via Gmail.
To assist in providing feedback, Google Docs format is required.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised

【成績評価の方法と基準】
Written Homework Assignment:30%
Worksheet Assignments:20%
Participation: 20%
On-line Tests: 18%
On-line Exercises/Tasks: 12%
Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Changes made to include use of new technology: on-line meeting applications and Generative Artificial Intelligence.

【学生が準備すべき機器他】
A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.
Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record Written and Worksheet assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code will be advised, via the university Hoppii system, in April.
Students are expected to check their Hosei Gmail account at least once per week.

【Outline (in English)】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

【到達目標】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions through: 1)Asking for and giving opinions, 2)Agreeing and Disagreeing and 3)supporting their reasons. Students will also practice making on-line presentations and speeches using contemporary software applications. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.
Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.
Students will generate an essay and analyze it to identify: Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.
All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?
Class 4	Eating out.	Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?
Class 5	Eating Out.	Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.
Class 6	Family: Agreeing and Disagreeing	Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Family	Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation
Class 8	Family.	Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation
Class 9	Family:	Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs
Class 10	Interests: Supporting your reasons.	Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.
Class 11	Interests	Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.
Class 12	Interests	Writing: Conclusion paragraphs. Final Ballad Preparation
Class 13	Presentation	Groups present their Ballad Presentations to the class.
Class 14	Final Presentations and Review	Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course.
Students will be required to generate an Academic Essay and then identify the components of each paragraph. Students will then condense the Essay to an outline and check it for unity.
Students will be required to complete a series of word puzzles to develop their vocabulary.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp >. Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised during course

【成績評価の方法と基準】
Homework written assignments: 20%
On-line Tests: 18%
Online Exercises/Tasks: 12%
Participation: 10%
Presentation: 10%
Video Worksheets: 20%
Vocabulary puzzles: 10%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】
2022: New Text-book and course structure. More focus on speaking.
2023: Practice using Generative Artificial Intelligence applications. Word puzzles to develop vocabulary.

【学生が準備すべき機器他】
A tablet or laptop device is strongly encouraged (Smartphones are ok but more difficult to use since class activity may require several windows to be open.) Students should have access to Japanese-English and English-English e-dictionaries or Wikipedia. Paper and pens/pencils are rarely required.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download "Classroom" from the Google store before the first lesson. The Course code for the class will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25
6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)
*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1)　to bring an English-English dictionary
2)　to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)
*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1) to bring an English-English dictionary
2) to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1: Good Memories (Getting to know each other)	Get to know each other in pairs Practice past tense
2	Unit 1	Listening practice Prepare and do a presentation on their life using past tense
3	Unit 2: Life in the City	Talk about their hometown in pairs Work on quantity expressions
4	Unit 2	Listening practice Giving directions skit Write a paragraph about their hometown
5	Unit 3: Making Changes	Talk about their home in pairs Look for an apartment near campus
6	Unit 3	Listening practice Read article and discuss
7	Midterm (Units 1-3)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 4: Have you ever tried it?	Discuss eating habits in pairs and groups Review grammar focus
9	Unit 4	Listening and reading practice Presentation on cooking
10	Unit 5: Hit the road!	Talk about vacation plans in pairs/groups Review future tense
11	Unit 5	Listening practice Write a paragraph about travel
12	Unit 6: Sure! I'll do it.	Talk about living with other people. Practice orders/requests
13	Unit 6	Listening/ reading practice Produce a skit with the grammar learned
14	Final exam (Units 4-6)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students for this class should review lessons before the next class, make sure they understand the new grammar structures and use the assigned online activities to review and master new vocabulary.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentations and Effort 25%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
Come to class prepared to speak English. Mistakes are fine but you need to make an effort to use English, especially when doing group and pair work.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Talk in pairs about technology Grammar focus on infinitives and gerunds
2	Unit 7	Listening practice Write a message to your roommate
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair and group work Review grammar
4	Unit 8	Pair and group work Review vocabulary Write about your favorite holiday
5	Unit 9: Only time will tell	Pair and listening work about differences in the past
6	Unit 9	Pair and group work Practice word pairings Discuss and practice cause/effect sentences Reading practice
7	Midterm (Units 7- 9)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 10: I like working with people.	Pair and group work Prepare biographical presentation (using Padlet)
9	Unit 10	Make a presentation in front of class
10	Unit 11: It's really worth seeing!	Discuss landmarks and other sites in pairs/ groups Practice passive voice
11	Unit 11	Pair and group work Write a guide to your city
12	Unit 13: That's entertainment!	Pair and group work regarding movies Practice particles as adjectives
13	Unit 13	Role playing Write and film a movie review
14	Final exam (Units 10-12)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students for this class should review lessons before the next class, make sure they understand the new grammar structures and use the assigned online activities to review and master new vocabulary.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentations and Effort 25%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
Come to class prepared to speak English. Mistakes are fine but you need to make an effort to use English, especially when doing group and pair work.

【None】
None

【Outline (in English)】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋　由佳

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】
1．基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2．既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3．論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4．テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストも行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	まとめ・期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキスト名： Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)
著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin
出版社： Cengage Learning
出版年： 2016 年
価格： 2440 円＋税
ISBN: 9781305259874

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
1．平常点 30 %（授業中の活動・小テスト・課題）
2．予習 20%
3．期末試験 50%
・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。
授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】
授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】
< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essay paragraphs and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

１. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
２. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%
３. Final test 50%

・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
・If a student is late three times, it is counted as one absence.
・Students should show proof of their delay and absence.
・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鹿子嶋　由佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や essay writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】
1．基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2．既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3．論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4．テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティー
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	まとめ・期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキスト名： Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)
著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin
出版社： Cengage Learning
出版年： 2016 年
価格： 2440 円＋税
ISBN: 9781305259874

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
1．平常点 30 %（授業中の活動・小テスト・課題）
2．予習 20%
3．期末試験 50%
・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。
授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】
授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】
< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essays and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

１. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
２. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%
３. Final test 50%

・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
・If a student is late three times, it is counted as one absence.
・Students should show proof of their delay and absence.
・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English ２ I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
Unit 1 First Impression	Unit 1 First Impression	Read the unit well and do the exercises and understand it. Think why first impressions are important.
Unit 1	Unit 1	Put yourself in the characters of Sandy and Tamara. Who do you agree with and why.
Unit 2 Big or Small	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or living in a small town. What are the merits and the demerits of each.
Unit 2	Unit 2	Continuation of the previous unit. Group discussion on why you want to live in a small town or a big city.
Unit 3 The Good Language Learner	Unit 3 The Good language Learner	What is it to learn a new language. You have all studied English for a number of years. What do you think about it.
Unit 3	Unit 3	Group Activity . What do you think about learning a new language. Is it necessary to learn a new language or not.
Unit 5 Forever Single	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage. Is marriage important for everybody? What do you think about what Angela is saying. Do you agree or disagree.
Unit 5	Unit 5	What do you think about LGBTQ. Is marriage necessary for them? Talk about whether marriage is important for them and why.
Unit 7 What's for Lunch	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Why is it important to think about what we eat? Do we think about global warming or about our environment when we eat?
Unit 7	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Talk about why we need to think about global warming and our environment. What do we think about SDGs.
Unit 7	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	What are the problems about food loss and food waste. Need we think about it? Preparing for the presentation.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam & Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には状況に応じて
マイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立てて整理してかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation of the summer holidays	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
Reading a Poem	Reading a poem What Do I Remember of the Evacuation	What is a poetry? Reading a poetry and analyzing it.
Reading a Poem	What Do I Remember of the Evacuation	Studying the content of the poetry. Writing a poetry of your own.
Unit 8 Your Online Past	Unit 8 Your Online Past	How is online convenient ? Is the internet necessary? Why?
Unit 8	Unit 8	What are the merits and demerits of online?
Recitation	Recitation	Reciting of the poetry
Unit 10 My Student Life	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?
Unit 10	Unit 10	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?
Unit 12 Create another Future	Unit 12 Create another future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?
Unit 12	Unit 12 Create another future	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?
Unit 12	Unit 12 Preparing for the presentation	What can we do for our future earth?
Thinking about SDGs	Thinking about SDGs Preparing for the presentation	What can we do for the future of the earth.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくゆっくりと話すようにする。

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ﾊﾟﾗｸﾞﾗフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝは原則として聴衆に顔を向けて話すものだﾞから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でﾞﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝでﾞきるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】
・ﾊﾟﾗｸﾞﾗフの形式と内容を理解する。
・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べﾞることができる。
・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズﾞムでﾞ自分のアイデアを話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初にパラグラフ形式の特徴と論証的構造を講義する。テーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。
パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。
授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造について ・パラグラフの見本の提示
3	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・パラグラフの書き方について ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処の提示 ・プロセスライティング１（アイデア探し） ・ディクテーション課題１ ・単語練習１
4	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング２（論証構成）
5	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出） ・ディクテーション課題２ ・単語練習２
6	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング４（第１稿の提出）
7	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング５（再提出） ・プレゼンテーションの方法と心構え ・ディクテーション課題３ ・単語練習３
8	ライティング課題１ プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング６（再提出） ・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成）
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題２「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成） ・ディクテーション課題４
10	プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」 ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番１ ・プロセスライティング１
11	プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」 ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番２ ・プロセスライティング２（論証構成） ・ディクテーション課題５
12	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出） ・単語テスト
13	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング４（第１稿の提出）
14	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング５（再提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963）
・綿貫陽、マーク・ﾋﾟｰターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォードﾞ英語類語活用辞典』、オックスフォードﾞ大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス)25%、ライティング課題 50%、プレゼンテーション 25%
欠席がﾞ 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You write up your experience and/or opinion in the form of a paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.
Objectives
- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation
Self-study
Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.
Methods of grading
- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 25%
- Writing assignments 50%
- Presentation assignment 25%
(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
パラグラフという文章形式の構造により習熟し、英語で短いエッセーを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを確認し、実践する。
題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】
・アカデミックなエッセーの形式と内容を理解する。
・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べることができる。
・パラグラフおよびエッセーの形式と内容で英文を書ける。
・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズムで自分のアイデアを話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初にパラグラフ形式の特徴と論証的構造を確認し、次いでアカデミックなエッセーの構造について講義する。テーマで実際にショートエッセーを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたショートエッセーをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。
パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。
授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	アカデミックなエッセーについて	・アカデミックなエッセーの内容と構造について ・ショートエッセーの見本の提示 ・ショートエッセーの書き方について ・プロセスライティング１（アイデア探し）
3	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング２（論証構成） ・ディクテーション課題１ ・単語練習１
4	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出）
5	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング４（第１稿の提出） ・ディクテーション課題２ ・単語練習２
6	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング５（再提出）
7	ライティング課題１プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング６（再提出） ・プレゼンテーションの方法と心構えの確認 ・ディクテーション課題３ ・単語練習３
8	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成）
9	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番１ ・ディクテーション課題４
10	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番２
11	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング１（論証構成） ・ディクテーション課題５
12	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング２（アウトラインの提出） ・単語テスト
13	ライティング課題２「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング３（第１稿の提出）
14	ライティング課題２「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング４（再提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963）
・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス)25%、ライティング課題 50%、プレゼンテーション 25%

欠席が゛ 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードゞバゞックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You write up your experience and/or opinion in the form of a short essay. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start from writing down a short sequence of sentences, a paragraph to a short essay. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.
Objectives
- Knowledge of the form and logical contents of an academic essay
- Ability to argue about your opinions
- Ability to write them in an English essay
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation
Self-study
Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.
Methods of grading
- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 25%
- Writing assignments 50%
- Presentation assignments 25%
(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Common English that students can use everyday.

【到達目標】
Common English that students can use everyday
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.
Feed back will be given via Google classroom comments, via email or in review sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice
week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Presentation preparation, homework.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange intro fifth edition Jack Richards
9781316620113

【参考書】
Handouts

【成績評価の方法と基準】
Class participation 33%
Homework 34%
Oral presentation and Quizzes 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】
PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Common English that students can use everyday.

【到達目標】
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc. Feedback will be given in comments in Google classroom, via email, or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types-suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation-structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation-visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms
week 14	Oral Presentations on where our parents work	companies, hotels, restaurants, stores, government

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】
Handouts and text

【成績評価の方法と基準】
Class participation 33%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Oral presentation and quiz 34%
Homework 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】
paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】
Email contact
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタヴューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題提出（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタヴューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.
This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬　義幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束しつつあります。以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】
この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思います。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-coversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。
少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。
なお、大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1 Hi! How are you?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
2	Chapter 1	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
3	Chapter 2 What's your major?	確認テスト Chapter 1 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
4	Chapter 2	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
5	Chapter 3 What did she look like?	確認テスト Chapter 2 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
6	Chapter 3	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
7	Chapter 4 Let's take a trip!	確認テスト Chapter 3 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
8	Chapter 4	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	確認テスト Chapter 4 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
10	Chapter 5	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
11	Chapter 6 Let's go shopping!	確認テスト Chapter 5 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
12	Chapter 6	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
13	春学期復習	chapter1-6 確認テスト Chapter 6
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】
必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。
各学期、欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻３回で欠席１回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.
Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

門馬　義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束しつつあります。以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】
この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思います。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-coversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。
少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。
なお、大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4. Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
4	Chapter 8	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
5	Chapter 9 I'm so busy.	確認テスト Chapter 8 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 10 What do you do?	確認テスト Chapter 9 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 10	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 11 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 10 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 11	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 12 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 11 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 12	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
13	秋学期復習	Chapter 8～12 確認テスト Chapter 12
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】
必要な参考書、資料等については授業で紹介します

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。
各学期、欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻３回で欠席１回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.
Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL　DONOVAN

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】
This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.
Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course details explanation. An explanation of course contents and grading. Self introductions.	Think about your self introduction in English and think of any questions you might have about the course.
2	Japan Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about Japanese culture.
3	Letter Correction	Identifying and correcting typical mistakes in a letter and composing a reply.
4	Mini Car video	History of the Mini car video and exercises. Using passive tenses. Q & A.
5	International Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about international culture.
6	Japan Times newspaper front page	Answering and asking questions based on the front page news of the Japan Times newspaper.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Sherlock Holmes video	Video and associated exercises on the famous fictional character Sherlock Holmes. Past tenses, descriptions of people.
9	Mousetrap	Talking about systems and processes using passive tenses. Designing a mousetrap.
10	Purple Violin video	Video and associated exercises on an unusual street musician. Talking about interests and hobbies.
11	UFO stories I	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.
12	UFO stories II	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.
13	The near future	Talking about the future, plans and possibilities.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. Q & A on past term and next term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】
Materials are provided by the teacher.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
In class participation - 50%
Assignments and quizzes - 50%.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Best of all talk to me in class.
Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.
ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English)
Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com
(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

MICHAEL　DONOVAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall　|　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】
This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.
Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	From summer until now	Talking about the holidays, things you did and didn't do.
2	Romance story	Narratives, telling a story, vocabulary and grammar exercises. Creating a story.
3	International News Quiz	Asking and answering questions on recent international news stories.
4	Jogging	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
5	How We Met	Listening, Q & A, talking about first meetings.
6	Money	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Cultural Differences	Cultural differences. Giving advice to a first time traveller in Japan.
9	The future	Talking about the future. Possibilities, probability. What will and won't happen.
10	BBC video	Video on the history of the BBC and related exercises.
11	Japan News Quiz	Asking and answering questions on recent news stories in Japan.
12	Books, movies, music	Talking about interests and favourites.
13	Reunion	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. End of term activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】
Materials are provided by the teacher.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
In class participation - 50%
Assignments and quizzes - 50%.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Talk to me in class. Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English) Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com
(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】
To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.
Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.
Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editting
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form
Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
40% - Course Work
30% - Term-End Report
Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
An updated edition of the course text book will be used. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】
Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】
This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】
1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Eliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.
Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
30% - Classroom & Homework Assignments
40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
Student will receive feedback & guidance on each report.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
All of the class materials will also be available online for students to review and gain further practice with the audio-visual materials.

【学生が準備すべき機器他】
Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials , and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】
As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上　紗央里

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜学習支援システム (Hoppii) から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading, Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能　塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 %で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

井上　紗央里

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。Hoppii から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストと後期の映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
	Unit 7 The Working Environment at ATF ①	Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women & Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能　塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 %で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for communicating in a global society. Students will study and improve all four English skills: Listening, Speaking, Reading and Writing.

【到達目標】
Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading,and Writing. How much students improve is dependent on how much they spend time with English both inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using the Hoppi System. Students should check the class Resources section in Hoppi occasionally for updates. Students may also correspond with the instructor by e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.
9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using "how much/many".
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activites before the next class session.
University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press
Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】
References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】
Class attendance & participation: 20%
Quizzes, writing assignments, presentations:80%
Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week. Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains, or illness)

【学生の意見等からの気づき】
More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【Outline (in English)】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning and Using English for Global Communication:This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English.

【到達目標】
Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how much they engage with English both inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.
Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using the University Hoppi system. Students should check for announcements and for class updates in the Resources section. Students may also correspond with the instructor by e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice–questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family–similiarties and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback;Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.
9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assingment.
13	Unit 8: Do's and Dont's	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).
Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】
Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】
Class attendance & participation: 20%
Quizzes, short essays,individual and group presentations: 80%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】
In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason–such as train delays, etc)

【Outline (in English)】
While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

川澄　亜岐子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活などの身近な話題に関する自分の意見や経験を英語でわかりやすく伝える力を養います。辞書を引きながら英語で文章を書く練習を行い、最終的には短い英文のレポートを書けるようになることを目指します。また、ペアやグループでスピーチをしたり、ライティングやスピーキングの課題に取り組んだりする活動も取り入れていきます。

【到達目標】
1．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを文章で表現できるようになる
2．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを口頭で表現できるようになる
3．身近な話題に関する映像や音声を見たり聞いたりして、要点を正確に理解できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義とグループまたはペアワークを組み合わせて、対面形式で行います。提出されたリアクションペーパーや課題は、個別または全体にフィードバックする方法を採ります。授業中に課題を取り組む際は、個別指導の時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の説明と注意
2	Unit 1-A	Introducing a person to someone else
3	Unit 1-B	Write about something you learned
4	Unit 2-A	Making suggestions
5	Unit 2-B	Write a restaurant review
6	Unit 3-A	Talking about possibility
7	Unit 3-B	Do research and write about an issue
8	Unit 4-A	Disagreeing
9	Unit 4-B	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A	Making appointments
11	Unit 5-B	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A	Responding
13	Unit 6-B	Write about your college experience
14	Presentation	Preparation for the final essay and course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容に合わせて、課題を出します。課題は英作文やスピーチの原稿を準備することに加え、教科書の内容に即した練習問題に取り組むことなどを予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016)–￥3,080+tax

【参考書】
参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・　平常点　70%
（小テスト 20%、授業活動への参加 30%、課題・提出物など 20%）
・　期末課題　30%
＊　4 回以上欠席した場合、原則として単位の取得が認められません。
＊　欠席や早退は 2 回で 1 回の欠席と見なします。
＊　著しい私語や居眠り、授業とは関係のない調べものなど、授業に参加する意欲が見られない場合、出席していても早退／遅刻または欠席と同等に見なすことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
グループワークやペアワークを通して、ほかの受講生と意見交換をする機会を得られたのがよかったという意見をいただいています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to express their opinion and convey their experience of familiar issues, including daily life, in English. Students will learn essential expressions of English conversation through various activities in class and will build their vocabulary. In the spring semester, students will learn how to write an effective composition.
Students will be able to:
- write an English composition with logical structure about familiar issues
- convey their opinion, knowledge and experience of familiar issues to other students
- watch and listen to audiovisual materials and understand their main idea correctly
Students are expected to do weekly preparation for the course and a course review. Detailed information is given by the instructor. Assignments are designed to take approximately one hour.
Evaluation will be based on Hosei University criteria for grading, as follows:
Quiz 20%, participation in class activities 30%, assignment and submission 20%, final assignment 30%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

川澄　亜岐子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、日常生活などの身近な話題関する自分の意見や経験を英語でわかりやすく伝える力を養います。春学期の書く力に加えて、秋学期は話す・聞く力にも重点を置きます。スピーチやプレゼンテーションなどの準備や実践を通じて、自分の意見や考えを効果的に伝えるだけでなく、相手の意見や考えを理解する力をつけていきましょう。

【到達目標】
1．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを口頭で表現できるようになる
2．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを論理的な英文を書けるようになる
3．身近な話題に関する映像や音声を見たり聞いたりして、要点を正確に理解できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義とグループまたはペアワークを組み合わせて、対面形式で行います。提出されたリアクションペーパーや課題は、個別または全体にフィードバックする方法を採ります。授業中に課題を取り組む際は、個別指導の時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
4	Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
10	Preparation for a presentation (1)	Choosing a topic
11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline
12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
13	Actual Presentation	Giving the presentation
14	Course Review	Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容に合わせて、課題を出します。課題は英作文やスピーチの原稿を準備することに加え、教科書の内容に即した練習問題に取り組むことなどを予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016)–￥3,080+tax

【参考書】
参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・　平常点　70%
（小テスト 20%、授業活動への参加 30%、課題・提出物など 20%）
・　期末課題　30%
＊　4 回以上欠席した場合、原則として単位の取得が認められません。
＊　欠席や早退は 2 回で 1 回の欠席と見なします。
＊　著しい私語や居眠り、授業とは関係のない調べものなど、授業に参加する意欲が見られない場合、出席していても早退／遅刻または欠席と同等に見なすことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
グループやペアで課題に取り組む機会を設けたことが好評でした。オンライン授業が続く中でも、自分と違う考えに触れることができ、学びの幅が広がったという声が聞かれました。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to express their opinion and convey their experience of familiar issues, including daily life, in English. Students will learn essential expressions of English conversation through various activities in class and will build their vocabulary. In the fall semester, students will make a group presentation. They will do preparation based on the structure and function of a paragraph, which they learned in the spring semester.
Students will be able to:
- convey their opinion, knowledge and experience of familiar issues to other students
- learn and use common expressions of daily conversation in English
- watch and listen to audiovisual materials and understand their main idea correctly
Students are expected to do weekly preparation for the course and a course review. Detailed information is given by the instructor. Assignments are designed to take approximately one hour.
　Evaluation will be based on Hosei University grading criteria, as follows:
Quiz 20%, participation in class activities 30%, assignment and submission 20%, final assignment 30%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Note: This is a hybrid class which will meet mostly in person but some weeks on Zoom. Feedback will be provided during class and on Google classroom.
1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines
2	Unit 1: Lifestyles	Speaking & Listening p. 4-5. Pair Work. Homework: reading
3	Unit 1: Lifestyles	Listening & Speaking activities p. 6-7 Homework: reading p. 9
4	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking & Listening p. 10-11 Homework: reading p. 12
5	Unit 3: Getting Along	Review reading. Speaking and Listening in pairs. p. 12-3. Homework: writing p. 14
6	Unit 3: Getting Along	Review writing. Speaking and Listening in pairs. p. 14-5. Homework: reading p. 15
7	Unit 3: Getting Along	Pair & Group. p.18-9 Write an email.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Interests	Review email writing. Speaking & Listening activities in pairs. p. 24-5. Homework: reading p. 29
10	Unit 5: Telling a Story	Review reading. Speaking & Listening in pairs. p30-1. Homework: writing p. 35
11	Unit 5: Telling a Story	Listening and Group work. p. 32-33. Homework: grammar
12	Unit 6: Celebrations	Listening & Pair Work about special events. p. 36-7. Homework: reading p. 41
13	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening activities in pairs. p. 37. Homework: review for final exam
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Miles Craven: Breakthrough Plus (2nd edition). Macmillan Education. Level 2

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentation & Effort25%
In principle, no more than 3 absences are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access. Also knowledge of Google classroom, Zoom and Hoppii.

【Outline (in English)】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills. Feedback will be provided during class and after activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 38-9. Homework: reading p. 41
2	Unit 7: Food & Drink	Speaking & Listening p. 44-5. Homework: reading p. 49
3	Unit 7: continued	Pair work p. 46-7 Homework: writing p. 49
4	Unit 8: Rules	Pair & Group Work p. 50-1. Homework: reading p. 55
5	Unit 8: Rules	Speaking & Listening p. 52-3. Homework: writing p. 55
6	Unit 9: Adventures	Pair & Group Work p. 56-7. Homework: writing p. 61
7	Unit 9: Adventures	Review writing and for mid-term exam
8	Mid-term exam	Written test
9	Unit 10: Health	Pair & Group work p. 64-5. Homework: reading p. 69
10	Unit 10: Health	Speaking & Listening p. 66-7. Homework: writing p. 69
11	Unit 11: Comparisons	Review writing. Pair & Group work p. 70-1. Homework: reading p. 75
12	Unit 11: Comparisons	Pair & Group Work p. 76-7. Homework: writing p. 81
13	Unit 12: The modern world	Review writing and final exam topics.
14	Final Exam on 10,11 & 12	Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Preparation and review should take 1 hour a week according to university guidelines. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentation & Effort25%
In principle, no more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access

【Outline (in English)】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・基本的な会話ができるようになる。
・即興で簡単なスピーチをできるようになる。
・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットを 2 回の授業で進める。
1 回目の授業ではリスニングとスピーキングを中心に行う。
2 回目の授業ではリーディングとライティングを中心に行う。
いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。
学期中に 2 回、スピーキングテストを行う。
学期末に複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: Food and Culture	リスニング、スピーキング
3	Unit 1: Food and Culture	リーディング、ライティング
4	Unit 2: Diets	リスニング、スピーキング
5	Unit 2: Diets	リーディング、ライティング
6	Review 1	スピーキングのテスト、期末作文の準備
7	Unit 4: Identity Theft	リスニング、スピーキング
8	Unit 4: Identity Theft	リーディング、ライティング
9	Unit 5: Digital Learning	リスニング、スピーキング
10	Unit 5: Digital Learning	リーディング、ライティング
11	Unit 7: Professional Athletes	リスニング、スピーキング
12	Unit 7: Professional Athletes	リーディング、ライティング
13	Review 2	スピーキングのテスト、期末作文の準備
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. 単語や文法事項について調べておく。
2. リーディングの文章を読み、意味や構造を把握する。
［復習］
1. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point (Eric Hirata, Cengage Learning, 2023, ￥ 2,400)

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%
期末作文 25%
スピーキングテスト 20%
平常点（作文、予習、受講態度）25%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
作文指導の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.
The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (30%), term-end essay (25%), speaking tests (20%), and in class contribution including assignment submissions (25%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・基本的な会話ができるようになる。
・即興で簡単なスピーチをできるようになる。
・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットを 2 回の授業で進める。
1 回目の授業ではリスニングとスピーキングを中心に行う。
2 回目の授業ではリーディングとライティングを中心に行う。
いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。
学期中に 2 回、スピーキングテストを行う。
学期末に複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 8: The Olympics	リスニング、スピーキング
3	Unit 8: The Olympics	リーディング、ライティング
4	Unit 10: Attitude	リスニング、スピーキング
5	Unit 10: Attitude	リーディング、ライティング
6	Review 1	スピーキングのテスト、期末作文の準備
7	Unit 11: Communication	リスニング、スピーキング
8	Unit 11: Communication	リーディング、ライティング
9	Unit 13: Education	リスニング、スピーキング
10	Unit 13: Education	リーディング、ライティング
11	Unit 14: Immigration	リスニング、スピーキング
12	Unit 14: Immigration	リーディング、ライティング
13	Review 2	スピーキングのテスト、期末作文の準備
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. 単語や文法事項について調べておく。
2. リーディングの文章を読み、意味や構造を把握する。
［復習］
1. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point (Eric Hirata, Cengage Learning, 2023, ￥ 2,400)

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%
期末作文 25%
スピーキングテスト 20%
平常点（作文、予習、受講態度）25%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
作文指導の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.
The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (30%), term-end essay (25%), speaking tests (20%), and in class contribution including assignment submissions (25%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is an introductory course comprised of 12 units and two review classes that is designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills beginning with basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

【到達目標】
As well as fostering skills in listening and reading the main goals are:
Oral:
1. Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple
paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening, and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: You and Me	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Introducing yourself Writing: Introducing yourself
Class 2	Topic: A Good Job	Speaking: Talking about jobs Writing: Writing about jobs
Class 3	Topic: Work hard, play hard	Speaking: Talking about activities Writing: Filling out an application form
Class 4	Topic: Somewhere to live	Speaking: Describing objects and locations Writing: Describing your home
Class 5	Topic: Super me!	Speaking: Talking about what you can do, requests Writing: Applying for a job in a formal email
Class 6	Topic: Life's ups and downs	Speaking: Talking about other people Writing: Writing a short biography
Class 7	Topic: Dates to remember Mid-Term Test	Speaking: Talking about your life Writing: (Mid-Term Test) Writing about a historical character This will be several paragraphs and be formally graded
Class 8	Topic: Eat in or out?	Speaking: Talking about foods Writing: Writing to friends in an informal email
Class 9	Topic: City living	Speaking: Comparing places Writing: Writing about a city
Class 10	Topic: Where on earth are	Speaking: Describing people Writing: Writing a description of someone
Class 11	Topic: Going far	Speaking: Talking about places you went to Writing: Writing a vacation postcard
Class 12	Topic: Never ever	Speaking: Talking about past experiences Writing: Writing about a past holiday
Class 13	Review and Consolidation	Speaking: Practicing scenarios for the exam Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	Speaking and Writing Tests	Speaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level.

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.

American Headway Third Edition, Level 1 Liz and John Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472565-1

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, reference

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge and experiences orally in an effective manner and practice in effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will practice constructing logicallyorganized paragraphs.
Students will practice in effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.
In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course follows from the first semester. It is comprised of 12 units and two review classes that are designed to enable students to learn, practice and improve their practical abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience both orally and in the written form using more complex grammar. While this is a four skills course including reading and listening exercises, the focus is on further developing speaking and writing skills.
- In speaking, students will interact in practiced and free communicative exercises designed to enable them to speak simple, effective English covering a range of topics.
- For writing, students will learn how to develop writing skills including paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence. Students will be required to learn how to write logically organize paragraphs into two short essays.

【到達目標】
As well as further practicing and improving reading and listening, the main goals of this course are to provide practical elementary skills in speaking and writing.
Oral:
1. Students will further develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience both orally and in written form.
Writing:
2. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to write several short essays with logically organized paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each of the 12 units will contain a series of in-class exercises involving speaking, reading, listening, and writing exercises, with an emphasis on speaking and listening. Speaking exercises will be conducted in pairs who are swapped frequently, and in groups of three or four students. Writing exercises will focus on writing single paragraphs in the first half of the semester, and writing a series of paragraphs in the second half of the semester.
The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction Topic: Getting to know you	Expectations, grading, class conduct. Speaking: Talking about your friends Writing: Writing about friends
Class 2	Topic: Whatever makes you happy	Speaking: Discussing what is most important to you Writing: Writing about a past experience
Class 3	Topic: What's in the news?	Speaking: Retelling a news story Writing: Building a story
Class 4	Speaking: Retelling a news story Writing: Building a story	Speaking: Talking about food habits and restaurants Writing: Writing an email to a friend
Class 5	Topic: Looking forward	Speaking: Talking about life and the future Writing: Writing about future plans
Class 6	Topic: The way I see it	Speaking: Talking about yourself compared to others Writing: Writing about your hometown
Class 7	Topic: Living history Mid-Term Test	Speaking: Talking about adventures Writing: (Mid-Term Test) Writing about a famous person Note: This person must be different from the first semester This will be four paragraphs or longer, and be formally graded
Class 8	Topic: Girls and boys	Speaking: Describing people and outfits Writing: Writing a formal letter
Class 9	Topic: Time for a story	Speaking: Retelling a story/ stories from your childhood Writing: Writing about a book or a movie
Class 10	Topic: Our interactive world	Speaking: Talking about famous people Writing: Filling in an application form
Class 11	Topic: Life's what you make it!	Speaking: Talking about famous people Writing: Filling in an application form
Class 12	Topic: Just wondering	Speaking: Talking about dilemmas Writing: Your vision for the 21st century
Class 13	Review and Consolidation	Speaking: Practicing scenarios for the exam Writing: Reviewing paragraph composition
Class 14	Speaking and Writing Tests	Speaking: Students will be orally tested in pairs Writing: Students will submit a four paragraph short essay on Hoppi for grading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level.

【テキスト（教科書）】
Students must purchase the required textbook and have it ready for the first class.
American Headway Third Edition, Level 2 John and Liz Soars, Oxford University Press
ISBN 978-0-19-472588-0

【参考書】
The instructor will provide these each and every time.
In addition to the work in the textbook, the instructor will provide supplementary materials, references, etc.

【成績評価の方法と基準】
Student evaluation will be based on the following criteria
1. Positive participation in speaking practice: (25%)
2. Mid-term writing test (25%)
3. End-of-term speaking test (25%)
4. End-of-term writing test (25%)
* Students missing more than three classes without adequate explanation cannot pass the course.
* Lateness (more than 5 minutes late, more than two occurances) without adequate reason will negatively impact grades.
* Chatting in Japanese, non-attention will severely impact grades
* Sleeping in class will result in a non-attendance registered.

【学生の意見等からの気づき】
No changes

【学生が準備すべき機器他】
1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】
Addressing and Contacting the Instructor
1. Please address the instructor as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.
For Example:
Dear Mr. Kallender,
My name is Taro Suzuki.
I am a student in (English2 I)
I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.
I will bring a medical certificate next week.
Yours sincerely,
Taro Suzuki

【Outline (in English)】
In the 12 units covered, students will futher practice speaking and writing exercises covering a range of topics expressing opinions, knowledge and experiences orally in an effective manner, and practice in effectively expressing opinions, knowledge, and experiences in the written form. Students will practice constructing short essays of logically organized paragraphs.
Students will practice effectively participating in and facilitating simple discussions and/or giving simple presentations and speeches.
While the focus is on speaking and writing, students will develop their skills further through listening and reading exercises.

【Method of Feedback】
In-class (immediate) feedback will be given as well as written feedback when necessary on writing tasks

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We
will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System HOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	1B: The perfect date	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	1C: The Remake Project	Clothes. Prepositions of place
4	Practical English: Hotel problems	Reporting problems, offer to do something, greeting a friend
5	2A OMG! Where's my passport	Past simple
6	2B That's me in the picture	Past continuous
7	2C One dark October evening	Time sequencers, connectors
8	3A TripAside	Be going to (plans, predictions)
9	3B Put it in your calendar!	Present continuous (future arrangements)
10	3C Word games	Defining relative clauses
11	Practical English: Restaurant Problems	Ordering food in a restaurant, explaining a problem, asking about somebody's plans
12	4A Who does what?	Present perfect + yet, just, already
13	4B In your basket	Present perfect vs. past simple
14	Revise & Check	Reviewing Units 1-4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 40%
Test/Presentation/Composition 60%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested listening tracks to be repeated more often.

【Outline (in English)】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】
This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Feedback will be given on the Learning Management System (hOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A I want it now!	Comparative adjectives and adverbs, as ... as
2	5B Twelve lost wallets	Superlatives + ever+ present perfect
3	5C How much is enough?	Quantifiers
4	Practical English: The wrong shoes	Making suggestions, Taking something back to a shop, Arranging a time to meet somebody
5	6A Think positive - or negative	Will/won't predictions
6	6B I'll always love you	Will/won't/shall
7	6C The meaning of dreaming	Review of verb forms present, past and future
8	7A First day nerves	Uses with the infinitive with to
9	7B Happiness is ...	Uses of the gerund
10	7C Could you pass the test?	Have to, don't have to, must, mustn't
11	Practical English: At the pharmacy	Describing symptoms when feeling ill, getting medicine at a pharmacy
12	8A Should I stay or should I go?	should
13	8B Murphy's Law	if+present, will+infinitive
14	Revise & Check	Reviewing Unit 5-8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will include writing and preparation tasks.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】
Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 40%
Tests/Presentation/Composition 60%
*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】
Students requested easier listening exercises.

【Outline (in English)】
The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

【到達目標】
This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.
We will watch some short on-line video presentations to compare the spoken format to the written format.
All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills. We will use Artificial Intelligence applications (OpenAI, Bard etc.) to generate written assignments and analyze the results.
This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.
7.	Part time jobs: Listening	Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text.
8.	Part time jobs: Group discussions	Small group discussions and giving advice about part time jobs.
9.	Part time jobs: Writing	Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university.
10.	Hopes and Dreams:	Vocabulary and discussion of work and future actions.
11.	Hopes and dreams: Listening	Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text. Closed/Open/Choose questions
12.	Hopes and Dreams: Group discussion	Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions
13.	Hopes and Dreams: Writing	Prepare a paragraph about future activities.
14.	BBC Ideas Video	Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
3 Homework assignments writing different styles of paragraph.
All assignments written in digital format and submitted via Gmail.
To assist in providing feedback, Google Docs format is required.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised

【成績評価の方法と基準】
Written Homework Assignment:30%
Worksheet Assignments:20%
Participation: 20%
On-line Tests: 18%
On-line Exercises/Tasks: 12%
Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Changes made to include use of new technology: on-line meeting applications and Generative Artificial Intelligence.

【学生が準備すべき機器他】
A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.
Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record Written and Worksheet assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code will be advised, via the university Hoppii system, in April.
Students are expected to check their Hosei Gmail account at least once per week.

【Outline (in English)】
The course will develop students ability to communicate in Spoken and Written English. Students will be able to discuss topics and practice skills including: Asking for and giving opinions, Giving reasons and Asking questions. Students will also practice techniques to maintain a conversation. Students will also practice using voice modulation to help communicate content words in an on-line presentation. In addition, students will practice writing paragraphs in an academic style using: Topic sentences with main idea, Supporting ideas with Details and Conclusion. Students will practice using contemporary meeting and presentation applications to achieve the goals.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

【到達目標】
Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions through: 1)Asking for and giving opinions, 2)Agreeing and Disagreeing and 3)supporting their reasons. Students will also practice making on-line presentations and speeches using contemporary software applications. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.
Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.
Students will generate an essay and analyze it to identify: Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.
All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?
Class 4	Eating out.	Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?
Class 5	Eating Out.	Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.
Class 6	Family: Agreeing and Disagreeing	Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Family	Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation
Class 8	Family.	Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation
Class 9	Family:	Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs
Class 10	Interests: Supporting your reasons.	Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.
Class 11	Interests	Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.
Class 12	Interests	Writing: Conclusion paragraphs. Final Ballad Preparation
Class 13	Presentation	Groups present their Ballad Presentations to the class.
Class 14	Final Presentations and Review	Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course.
Students will be required to generate an Academic Essay and then identify the components of each paragraph. Students will then condense the Essay to an outline and check it for unity.
Students will be required to complete a series of word puzzles to develop their vocabulary.

【テキスト（教科書）】
The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】
To be advised during course

【成績評価の方法と基準】
Homework written assignments: 20%
On-line Tests: 18%
Online Exercises/Tasks: 12%
Participation: 10%
Presentation: 10%
Video Worksheets: 20%
Vocabulary puzzles: 10%
In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】
2022: New Text-book and course structure. More focus on speaking.
2023: Practice using Generative Artificial Intelligence applications. Word puzzles to develop vocabulary.

【学生が準備すべき機器他】
A tablet or laptop device is strongly encouraged (Smartphones are ok but more difficult to use since class activity may require several windows to be open.) Students should have access to Japanese-English and English-English e-dictionaries or Wikipedia. Paper and pens/pencils are rarely required.

【その他の重要事項】
We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download "Classroom" from the Google store before the first lesson. The Course code for the class will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】
Students will participate in pair and group activities to practice speaking and presentation skills. Students will prepare a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Students will be able to generate and analyze an Academic style essay.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋　由佳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や paragraph writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】
1．基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2．既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3．論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4．テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストも行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	まとめ・期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキスト名： Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)
著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin
出版社： Cengage Learning
出版年： 2016 年
価格： 2440 円＋税
ISBN: 9781305259874

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
1．平常点 30 %（授業中の活動・小テスト・課題）
2．予習 20%
3．期末試験 50%
・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。
授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】
授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】
< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essay paragraphs and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

１. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
２. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%
３. Final test 50%

・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
・If a student is late three times, it is counted as one absence.
・Students should show proof of their delay and absence.
・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鹿子嶋　由佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での speaking, writing, listening の練習をすることで、情報収集や essay writing, discussion に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】
1．基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2．既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3．論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4．テキスト内の語彙をすべて理解し、speaking や writing で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に listening, speaking, writing の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには reading のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、speaking のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティー
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	まとめ・期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】
テキスト名： Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)
著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin
出版社： Cengage Learning
出版年： 2016 年
価格： 2440 円＋税
ISBN: 9781305259874

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
1．平常点 30 %（授業中の活動・小テスト・課題）
2．予習 20%
3．期末試験 50%
・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。
授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】
授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】
< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essays and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.

2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.

3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.

4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

１. Class activities (small tests and writing assignments) 30%

２. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%

３. Final test 50%

・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.

・If a student is late three times, it is counted as one absence.

・Students should show proof of their delay and absence.

・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English ２ I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
Unit 1 First Impression	Unit 1 First Impression	Read the unit well and do the exercises and understand it. Think why first impressions are important.
Unit 1	Unit 1	Put yourself in the characters of Sandy and Tamara. Who do you agree with and why.
unit 2 Big or Small	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or living in a small town. What are the merits and the demerits of each.
Unit 2	Unit 2	Continuation of the previous unit. Group discussion on why you want to live in a small town or a big city.
Unit 3 The Good Language Learner	Unit 3 The Good language Learner	What is it to learn a new language. You have all studied English for a number of years. What do you think about it,
Unit 3	Unit 3	Group Activity . What do you think about learning a new language. Is it necessary to learn a new language or not.
Unit 5 Forever Single	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage. Is marriage important for everybody? What do you think about what Angela is saying. Do you agree or disagree.
Unit 5	Unit 5	What do you think about LGBTQ. Is marriage necessary for them? Talk about whether marriage is important for them and why.
Unit 7 What's for Lunch	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Why is it important to think about what we eat? Do we think about global warming or about our environment when we eat?
Unit 7	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Talk about why we need to think about global warming and our environment. What do we think about SDGs.
Unit 7	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	What are the problems about food loss and food waste. Need we think about it? Preparing for the presentation.
Presentation	Presentation	Presentation
Presentation	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には状況に応じてマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備をする上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書"Impact Issues" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation of the summer holidays	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
Reading a poem	Reading a poem What Do I Remember of the Evacuation	What is a poetry? Reading a poetry and analyzing it.
Reading a poem	What Do I Remember of the Evacuation	Studying the content of the poetry. Writing a poetry of your own.
Unit 8 Your Online Past	Unit 8 Your Online Past	How is online convenient ? Is the internet necessary? Why?
Unit 8	Unit 8	What are the merits and demerits of online?
Recitation	Recitation	Reciting of the poetry
Unit 10 My Student Life	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?
Unit 10	Unit 10	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?
Unit 12 Create another Future	Unit 12 Create another future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?
Unit 12	Unit 12	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?
Unit 12	Unit 12 Preparing for the presentation	What can we do for our future earth?
Thinking about SDGs	Thinking about SDGs Preparing for the presentation	What can we do for the future of the earth.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべくゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際には状況に応じてマイク付きのヘッドセットが必要となります,

【Outline (in English)】
This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JAMES D SHORT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves confidently in English. It imparts to students understanding of challenges we face in the modern world, and the language proficiency required to participate successfully within it.

【到達目標】
This course will engender in students the knowledge and ability to engage with the subject material and learning challenges presented by the instructor and produce appropriate responses to them in English.
As a result of studying this course, students will gain the skills to achieve the following:
1. Approach a new issue systematically in order to understand it clearly.
2. Formulate plans to address problems presented by the instructor.
3. Conduct meaningful research to further understanding.
4. Present responses in English in a sophisticated manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. Instruction by the teacher will be conducted as much as possible in English.
2. Classroom activities and discussions will generally be based on readings and exercises from the course textbooks.
3. Students are expected to use English to participate in classroom discussions and group activities.
4. Classroom participation includes mini-presentations followed by questions from classmates. Students will be expected to ask questions about the content of their classmates' presentations.
5. Students will receive feedback and comments on classroom activities and homework assignments directly from the teacher throughout the term.
6. Timekeeping, participation in classroom activities, and submission of homework assignments are very important and will be evaluated.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Explanation of the course and required study methods
2	How Much Do You Agree? (HMDYA) Unit 1: We should keep early hours	Describing different daily routines
3	HMDYA Unit 1: Effects on health	Discussion about healthy work and study lifestyles
4	Ready to Present (RTP) Unit 1: Self-Introduction	How to structure an engaging presentation
5	RTP Unit 1: Becoming familiar with each other	Presentations about your life and main interests
6	HMDYA Unit 3: Club activities should be banned at schools	Describing Junior High and Senior High club experiences
7	HMDYA Unit 3: Article about excessive pressures on Junior High and Senior High students	Discussion about the advantages and disadvantages of club activities
8	RTP Unit 2: The Orange Spoons	Appropriate facial and hand gestures for presentations
9	RTP Unit 2: An Important Person or Thing	Presentations about something important in your life
10	HMDYA Unit 4: Study abroad experience should be a requirement for university graduation	Investigating opportunities for overseas study
11	HMDYA Unit 4: How to make best use of your time at university	Discussion about the advantages and disadvantages of overseas study
12	RTP Unit 3: Angkor Wat	How to make eye-catching presentation slides
13	RTP Unit 3: Places that mean a lot to us	Presentations about places that are special to you
14	End of semester review	Discussion about the post-coronavirus world

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
Be sure to read the class materials beforehand for advance learning. Students will be called upon in each class and are expected to be prepared.
Each week students should prepare for the next class by reading written materials, completing assigned homework, studying vocabulary, and reviewing materials from previous classes.
When participating in a discussion, students should summarize their thoughts beforehand and mull over other students' opinions and indications afterwards in order to deepen their thinking.

【テキスト（教科書）】
"How Much Do You Agree? Evolving Opinions" by Toshihiko Kobayashi and Jeremie Bouchard, Sanshusha: 2019; price 2200 yen. ISBN 978-4-384-33486-9
"Ready To Present", Herman Bartelen and Malcolm Kostiuk, National Geographic Learning, 2019; price 2700 yen. ISBN 978-4-86312-351-9

【参考書】
Students are recommended to have an electronic English-Japanese dictionary

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of classroom participation (40%), homework (20%), and individual and/or group presentations (40%).
**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】
In consideration of student responses in the course evaluation, adjustments will be made in terms of the amount of class time allocated to discussions between the students in English about the topic in question. In addition, for the first semester an increase in class time will be allocated for preparation for the first individual presentation.

【その他の重要事項】
The instructor reserves the right to modify this course syllabus if necessary.

【Outline (in English)】
This course aims to cultivate in students the ability to absorb, internalize and respond to a variety of stimulating material in English in an effective manner. The course will be taught as an ongoing and varied discussion which from time to time will be led by the students themselves. Students will periodically take responsibility for their own learning through conducting research and seeking answers to the questions and learning scenarios presented by the instructor.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

JAMES D SHORT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves confidently in English. It imparts to students understanding of challenges we face in the modern world, and the language proficiency required to participate successfully within it.

【到達目標】
This course will engender in students the knowledge and ability to engage with the subject material and learning challenges presented by the instructor and produce appropriate responses to them in English.
As a result of studying this course, students will gain the skills to achieve the following:
1. Approach a new issue systematically in order to understand it clearly.
2. Formulate plans to address problems presented by the instructor.
3. Conduct meaningful research to further understanding.
4. Present responses in English in a sophisticated manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. Instruction by the teacher will be conducted as much as possible in English.
2. Classroom activities and discussions will generally be based on readings and exercises from the course textbooks.
3. Students are expected to use English to participate in classroom discussions and group activities.
4. Classroom participation includes mini-presentations followed by questions from classmates. Students will be expected to ask questions about the content of their classmates' presentations.
5. Students will receive feedback and comments on classroom activities and homework assignments directly from the teacher throughout the term.
6. Timekeeping, participation in classroom activities, and submission of homework assignments are very important and will be evaluated.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	How Much Do You Agree? (HMDYA) Unit 7: We should consider important rules and manners for online communication	Describing personal use of SNS communication tools
2	HMDYA Unit 7: Real-life examples of online bullying	Discussion about ways to reduce abuse that occurs on the internet
3	Ready To Present (RTP) Unit 4: Opinions	Emphasizing words with gestures
4	RTP Unit 4: Something that you believe strongly	Presentations about an issue that is important to you
5	HMDYA Unit 8: More Japanese companies should use English as their main language of business	Investigating Japanese companies that are becoming more internationalized
6	HMDYA Unit 8: What type of company would you like to work in?	Discussion about working environments that attract you
7	RTP Unit 5: Vincent Van Gogh	Specific presentation techniques to engage your audience
8	RTP Unit 5: Biography of a famous person	Presentations about famous people that you admire
9	HMDYA Unit 9: School and company uniforms should be abolished	Investigating fashionable and unfashionable school and company uniforms
10	HMDYA Unit 9: What clothes are appropriate for school and work?	Discussion about what students and adults should wear in the classroom or office
11	RTP Unit 6: Overdoing things	Gestures for storytelling
12	RTP Unit 6: Stories from your own life	Presentations about life lessons that you have learned
13	HMDYA Unit 11: We should limit the number of tourists from abroad	Investigating tourism in Japan before and after the pandemic
14	End of semester review	Discussion about future professional and personal goals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.
Be sure to read the class materials beforehand for advance learning. Students will be called upon in each class and are expected to be prepared.
Each week students should prepare for the next class by reading written materials, completing assigned homework, studying vocabulary, and reviewing materials from previous classes.
When participating in a discussion, students should summarize their thoughts beforehand and mull over other students' opinions and indications afterwards in order to deepen their thinking.

【テキスト（教科書）】
"How Much Do You Agree? Evolving Opinions" by Toshihiko Kobayashi and Jeremie Bouchard, Sanshusha: 2019; price 2200 yen. ISBN 978-4-384-33486-9
"Ready To Present", Herman Bartelen and Malcolm Kostiuk, National Geographic Learning, 2019; price 2700 yen. ISBN 978-4-86312-351-9

【参考書】
Students are recommended to have an electronic English-Japanese dictionary

【成績評価の方法と基準】
Assessment will consist of classroom participation (40%), homework (20%), and individual and/or group presentations (40%).

**Class attendance is a course requirement.
Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】
In consideration of student responses in the course evaluation, adjustments will be made in terms of the amount of class time allocated to discussions between the students in English about the topic in question.

【その他の重要事項】
The instructor reserves the right to modify this course syllabus if necessary.

【Outline (in English)】
This course aims to cultivate in students the ability to absorb, internalize and respond to a variety of stimulating material in English in an effective manner. The course will be taught as an ongoing and varied discussion which from time to time will be led by the students themselves. Students will periodically take responsibility for their own learning through conducting research and seeking answers to the questions and learning scenarios presented by the instructor.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ﾊﾟﾗｸﾞﾗフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝは原則として聴衆に顔を向けて話すものだﾞから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でﾞﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝでﾞきるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】
・ﾊﾟﾗｸﾞﾗフの形式と内容を理解する。
・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べﾞることができる。
・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズﾞムでﾞ自分のアイデアを話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初にパラグラフ形式の特徴と論証的構造を講義する。テーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。
パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。
授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造について ・パラグラフの見本の提示
3	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・パラグラフの書き方について ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処の提示 ・プロセスライティング１（アイデア探し） ・ディクテーション課題１ ・単語練習１
4	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング２（論証構成）
5	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出） ・ディクテーション課題２ ・単語練習２
6	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング４（第１稿の提出）
7	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング５（再提出） ・プレゼンテーションの方法と心構え ・ディクテーション課題３ ・単語練習３
8	ライティング課題１ プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング６（再提出） ・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成）
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題２「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成） ・ディクテーション課題４
10	プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」 ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番１ ・プロセスライティング１
11	プレゼンテーション課題 「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」 ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番２ ・プロセスライティング２（論証構成） ・ディクテーション課題５
12	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出） ・単語テスト
13	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング４（第１稿の提出）
14	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング５（再提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963）
・綿貫陽、マーク・ﾋﾟｰターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォードﾞ英語類語活用辞典』、オックスフォードﾞ大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス)25%、ライティング課題 50%、プレゼンテーション 25%
欠席がﾞ 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You write up your experience and/or opinion in the form of a paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.
Objectives
- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation
Self-study
Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.
Methods of grading
- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 25%
- Writing assignments 50%
- Presentation assignment 25%
(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ﾊﾟﾗｸﾞﾗﾌという文章形式の構造により習熟し、英語で短いエッセーを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを確認し、実践する。
題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝは原則として聴衆に顔を向けて話すものだﾞから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でﾞﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝでﾞきるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】
・アカデミックなエッセーの形式と内容を理解する。
・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べﾞることができる。
・パラグラフおよびエッセーの形式と内容で英文を書ける。
・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリズﾞムでﾞ自分のアイデアを話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初にパラグラフ形式の特徴と論証的構造を確認し、次いでアカデミックなエッセーの構造について講義する。テーマで実際にショートエッセーを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたショートエッセーをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。
パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。
授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	アカデミックなエッセーについて	・アカデミックなエッセーの内容と構造について ・ショートエッセーの見本の提示 ・ショートエッセーの書き方について ・プロセスライティング１（アイデア探し）
3	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング２（論証構成） ・ディクテーション課題１ ・単語練習１
4	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング３（アウトラインの提出）
5	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング４（第１稿の提出） ・ディクテーション課題２ ・単語練習２
6	ライティング課題１「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング５（再提出）
7	ライティング課題１プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プロセスライティング６（再提出） ・プレゼンテーションの方法と心構えの確認 ・ディクテーション課題３ ・単語練習３
8	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」	・プレゼンテーションの準備（スクリプト・スライド作成）
9	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番１ ・ディクテーション課題４
10	プレゼンテーション課題「自由テーマ：反論、説明、提案、仮説」ライティング課題２「指定テーマ」	・プレゼンテーション本番２
11	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング１（論証構成） ・ディクテーション課題５
12	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング２（アウトラインの提出） ・単語テスト
13	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング３（第１稿の提出）
14	ライティング課題２「指定テーマ」	・プロセスライティング４（再提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間も必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963）
・綿貫陽、マーク・ﾋﾟｰターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォードﾞ英語類語活用辞典』、オックスフォードﾞ大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス)25%、ライティング課題 50%、プレゼンテーション 25%
欠席がﾞ 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You write up your experience and/or opinion in the form of a short essay. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start from writing down a short sequence of sentences, a paragraph to a short essay. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.
Objectives
- Knowledge of the form and logical contents of an academic essay
- Ability to argue about your opinions
- Ability to write them in an English essay
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation
Self-study
Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.
Methods of grading
- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 25%
- Writing assignments 50%
- Presentation assignments 25%
(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1: Good Memories (Getting to know each other)	Get to know each other in pairs Practice past tense
2	Unit 1	Listening practice Prepare and do a presentation on their life using past tense
3	Unit 2: Life in the City	Talk about their hometown in pairs Work on quantity expressions
4	Unit 2	Listening practice Giving directions skit Write a paragraph about their hometown
5	Unit 3: Making Changes	Talk about their home in pairs Look for an apartment near campus
6	Unit 3	Listening practice Read article and discuss
7	Midterm (Units 1-3)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 4: Have you ever tried it?	Discuss eating habits in pairs and groups Review grammar focus
9	Unit 4	Listening and reading practice Presentation on cooking
10	Unit 5: Hit the road!	Talk about vacation plans in pairs/groups Review future tense
11	Unit 5	Listening practice Write a paragraph about travel
12	Unit 6: Sure! I'll do it.	Talk about living with other people. Practice orders/requests
13	Unit 6	Listening/ reading practice Produce a skit with the grammar learned
14	Final exam (Units 4-6)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students for this class should review lessons before the next class, make sure they understand the new grammar structures and use the assigned online activities to review and master new vocabulary.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentations and Effort 25%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
Come to class prepared to speak English. Mistakes are fine but you need to make an effort to use English, especially when doing group and pair work.

【none】
None

【Outline (in English)】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Talk in pairs about technology Grammar focus on infinitives and gerunds
2	Unit 7	Listening practice Write a message to your roommate
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair and group work Review grammar
4	Unit 8	Pair and group work Review vocabulary Write about your favorite holiday
5	Unit 9: Only time will tell	Pair and listening work about differences in the past
6	Unit 9	Pair and group work Practice word pairings Discuss and practice cause/effect sentences Reading practice
7	Midterm (Units 7- 9)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 10: I like working with people.	Pair and group work Prepare biographical presentation (using Padlet)
9	Unit 10	Make a presentation in front of class
10	Unit 11: It's really worth seeing!	Discuss landmarks and other sites in pairs/ groups Practice passive voice
11	Unit 11	Pair and group work Write a guide to your city
12	Unit 13: That's entertainment!	Pair and group work regarding movies Practice particles as adjectives
13	Unit 13	Role playing Write and film a movie review
14	Final exam (Units 10-12)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students for this class should review lessons before the next class, make sure they understand the new grammar structures and use the assigned online activities to review and master new vocabulary.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentations and Effort 25%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
Come to class prepared to speak English. Mistakes are fine but you need to make an effort to use English, especially when doing group and pair work.

【None】
None

【Outline (in English)】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1: Good Memories (Getting to know each other)	Get to know each other in pairs Practice past tense
2	Unit 1	Listening practice Write a paragraph about what they did as a child
3	Unit 2: Life in the City	Talk about their hometown in pairs Work on quantity expressions
4	Unit 2	Listening practice Giving directions skit
5	Unit 3: Making Changes	Talk about their home in pairs Look for an apartment near campus
6	Unit 3	Listening practice Read article and discuss
7	Midterm (Units 1-3)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 4: Have you ever tried it?	Discuss eating habits in pairs and groups Review grammar focus
9	Unit 4	Listening and reading practice Presentation on cooking
10	Unit 5: Hit the road!	Talk about vacation plans in pairs/groups Review future tense
11	Unit 5	Listening practice Write a paragraph about travel
12	Unit 6:Sure! I'll do it.	Talk about living with other people. Practice orders/requests
13	Unit 6	Listening/ reading practice Produce a skit with the grammar learned
14	Final exam (Units 4-6)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition 9781107611559 Jack Richards CUP

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 17%
Final Exam 17%
Writing Assignments 33%
Presentations and Effort 33%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
email
kasmersensei@gmail.com
or walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping you improve your speaking, listening, reading, and writing skills.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
The goals of this course are as follows:
- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Talk in pairs about technology Grammar focus on infinitives and gerunds
2	Unit 7	Listening practice Write a message to your roommate
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair and group work Review grammar
4	Unit 8	Pair and group work Review vocabulary Write about your favorite holiday
5	Unit 9: Only time will tell	Pair and listening work about differences in the past
6	Unit 9	Pair and group work Practice word pairings Discuss and practice cause/effect sentences Reading practice
7	Midterm (Units 7-9)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 10:	Pair and group work Prepare biographical presentation (using Padlet)
9	Unit 10	Make a presentation in front of class
10	Unit 11: It's really worth seeing!	Discuss landmarks and other sites in pairs/ groups Practice passive voice
11	Unit 11	Pair and group work Write a guide to your city.
12	Unit 13: That's entertainment!	Pair and group work regarding movies Practice particles as adjectives
13	Unit 13	Role playing Write and film a movie review
14	Final exam (Units 10-12)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Interchange 2, 5th edition 9781107611559 Jack Richards CUP

【参考書】
Dictionary:
https://www.merriam-webster.com
Grammar help:
https://www.grammarly.com

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentations and Effort 25%
No more than 3 absences will be allowed.
Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback.

【学生が準備すべき機器他】
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping students improve their speaking, listening, reading, and writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬　義幸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束しつつあります。以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】
この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思います。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-coversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。
少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。
なお、大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1 Hi! How are you?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
2	Chapter 1	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
3	Chapter 2 What's your major?	確認テスト Chapter 1 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
4	Chapter 2	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
5	Chapter 3 What did she look like?	確認テスト Chapter 2 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
6	Chapter 3	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
7	Chapter 4 Let's take a trip!	確認テスト Chapter 3 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
8	Chapter 4	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	確認テスト Chapter 4 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
10	Chapter 5	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
11	Chapter 6 Let's go shopping!	確認テスト Chapter 5 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
12	Chapter 6	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
13	春学期復習	chapter1-6 確認テスト Chapter 6
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】
必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。
各学期、欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻３回で欠席１回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.
Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

門馬　義幸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束しつつあります。以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】
この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思います。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-coversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて１時間を標準とします。
少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。
なお、大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4. Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
4	Chapter 8	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
5	Chapter 9 I'm so busy.	確認テスト Chapter 8 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 10 What do you do?	確認テスト Chapter 9 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 10	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 11 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 10 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 11	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 12 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 11 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 12	2.Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
13	秋学期復習	Chapter 8～12 確認テスト Chapter 12
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】
必要な参考書、資料等については授業で紹介します

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。
各学期、欠席が４回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻３回で欠席１回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】
Course outline
The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.
Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.
Learning activities outside of classroom
Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.
Grading Criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】
To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.
Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.
Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editting
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form
Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu. Publisher: Macmillan Language House

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
40% - Course Work
30% - Term-End Report
Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased time will be allocated to allow students to complete the listening comprehension questions with their partner. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】
Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】
This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】
1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film‘s dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In ‘Billy Eliot‘, students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners‘ strike of the 1980s. In ‘Bend It Like Beckham‘, focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.
Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson‘s segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Eliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Eliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Eliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson‘s material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】
An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
30% - Classroom & Homework Assignments
40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
Student will receive feedback & guidance on each report.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Increased time will be allocated to allow students to complete the listening comprehension questions with their partner. In addition, online access to the course materials will allow to students to both preview & review class work.

【学生が準備すべき機器他】
Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials , and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】
As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL　DONOVAN

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】
This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.
Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course details explanation. Self introductions. An explanation of course contents and grading.	Think about your self introduction in English and think of any questions you might have about the course.
2	Japan Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about Japanese culture.
3	Letter Correction	Identifying and correcting typical mistakes in a letter and composing a reply.
4	Mini Car video	History of the Mini car video and exercises. Using passive tenses. Q & A.
5	International Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about international culture.
6	Japan Times newspaper front page	Answering and asking questions based on the front page news of the Japan Times newspaper.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Sherlock Holmes video	Video and associated exercises on the famous fictional character Sherlock Holmes. Past tenses, descriptions of people.
9	Mousetrap	Talking about systems and processes using passive tenses. Designing a mousetrap.
10	Purple Violin video	Video and associated exercises on an unusual street musician. Talking about interests and hobbies.
11	UFO stories I	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.
12	UFO stories II	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.
13	The near future.	Talking about the future, plans and possibilities.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. Q & A on past term and next term.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】
Materials are provided by the teacher.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
In class participation - 50%
Assignments and quizzes - 50%.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Talk to me in class. Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly Kanagawa / Your name and number (in English) Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com
(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

MICHAEL　DONOVAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall　|　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】
This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.
Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	From summer until now.	Talking about the holidays, things you did and didn't do.
2	Romance story	Narratives, telling a story, vocabulary and grammar exercises. Creating a story.
3	International News Quiz	Asking and answering questions on recent international news stories.
4	Jogging	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
5	How We Met	Listening, Q & A, talking about first meetings.
6	Money	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Cultural Differences	Cultural differences. Giving advice to a first time traveller in Japan.
9	The future	Talking about the future. Possibilities, probability. What will and won't happen
10	BBC video	Video on the history of the BBC and related exercises.
11	Japan News Quiz	Asking and answering questions on recent news stories in Japan.
12	Books, movies, music.	Talking about interests and favourites.
13	Reunion	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. End of term activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】
Materials are provided by the teacher.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
In class participation - 50%
Assignments and quizzes - 50%.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Talk to me in class. Students can also also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time. ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English)
Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com
(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】
Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for communicating in a global society. Students will study and improve all four English skills: Listening, Speaking, Reading and Writing.

【到達目標】
Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading,and Writing. How much students improve is dependent on how much they spend time with English both inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using the Hoppi System. Students should check the class Resources section in Hoppi occasionally for updates. Students may also correspond with the instructor by e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.
9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using "how much/many".
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activites before the next class session.
University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press
Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】
References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】
Class attendance & participation: 20%
Quizzes, writing assignments, presentations: 80%
Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week. Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, such late trains, or illness). Documentation may be required for absence/arriving late to class.

【学生の意見等からの気づき】
More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【Outline (in English)】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning and Using English for Global Communication:This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English.

【到達目標】
Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how much they engage with English both inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.
Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using the University Hoppi system. Students should check for announcements and for class updates in the Resources section. Students may also correspond with the instructor by e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice–questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family–similiarties and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback;Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.
9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assingment.
13	Unit 8: Do's and Dont's	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).
Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】
Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】
Class attendance & participation: 20%
Quizzes, short essays,individual and group presentations: 80%

【学生の意見等からの気づき】
More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】
In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason–such as train delays, etc)

【Outline (in English)】
While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上　紗央里

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜学習支援システム (Hoppii) から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading, Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能　塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 %で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

井上　紗央里

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】
1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。学習支援システム (Hoppii) から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストと後期の映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
	Unit 7 The Working Environment at ATF ①	Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women & Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Active English through Movies　アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能　塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 %で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】
英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】
学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

川澄　亜岐子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活などの身近な話題に関する自分の意見や経験を英語でわかりやすく伝える力を養います。辞書を引きながら英語で文章を書く練習を行い、最終的には短い英文のレポートを書けるようになることを目指します。また、ペアやグループでスピーチをしたり、ライティングやスピーキングの課題に取り組んだりする活動も取り入れていきます。

【到達目標】
1．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを文章で表現できるようになる
2．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを口頭で表現できるようになる
3．身近な話題に関する映像や音声を見たり聞いたりして、要点を正確に理解できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義とグループまたはペアワークを組み合わせて、対面形式で行います。提出されたリアクションペーパーや課題は、個別または全体にフィードバックする方法を採ります。授業中に課題を取り組む際は、個別指導の時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の説明と注意
2	Unit 1-A	Introducing a person to someone else
3	Unit 1-B	Write about something you learned
4	Unit 2-A	Making suggestions
5	Unit 2-B	Write a restaurant review
6	Unit 3-A	Talking about possibility
7	Unit 3-B	Do research and write about an issue
8	Unit 4-A	Disagreeing
9	Unit 4-B	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A	Making appointments
11	Unit 5-B	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A	Responding
13	Unit 6-B	Write about your college experience
14	Presentation	Preparation for the final essay and course review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容に合わせて、課題を出します。課題は英作文やスピーチの原稿を準備することに加え、教科書の内容に即した練習問題に取り組むことなどを予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016)–￥3,080+tax

【参考書】
参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・　平常点　70%
（小テスト 20%、授業活動への参加 30%、課題・提出物など 20%）
・　期末課題　30%
＊　4 回以上欠席した場合、原則として単位の取得が認められません。
＊　欠席や早退は 2 回で 1 回の欠席と見なします。
＊　著しい私語や居眠り、授業とは関係のない調べものなど、授業に参加する意欲が見られない場合、出席していても早退／遅刻または欠席と同等に見なすことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークやグループワークを通して、ほかの受講生の意見を知ることができてよかったという感想をいただいています。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to express their opinion and convey their experience of familiar issues, including daily life, in English. Students will learn essential expressions of English conversation through various activities in class and will build their vocabulary. In the spring semester, students will learn how to write an effective composition.
Students will be able to/ should learn to:
- write an English composition with logical structure about familiar issues
- convey their opinion, knowledge and experience of familiar issues to other students
- watch and listen to audiovisual materials and understand their main idea correctly
Students are expected to do weekly preparation for the course and a course review. Detailed information is given by the instructor. Assignments are designed to take approximately one hour.
Evaluation will be based on Hosei University criteria for grading, as follows:
Quiz 20%, participation in class activities 30%, assignment and submission 20%, final assignment 30%

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

川澄　亜岐子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、日常生活などの身近な話題関する自分の意見や経験を英語でわかりやすく伝える力を養います。春学期の書く力に加えて、秋学期は話す・聞く力にも重点を置きます。スピーチやプレゼンテーションなどの準備や実践を通じて、自分の意見や考えを効果的に伝えるだけでなく、相手の意見や考えを理解する力をつけていきましょう。

【到達目標】
1．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを口頭で表現できるようになる
2．身近な話題について、自分の意見や経験、知識などを論理的な英文を書けるようになる
3．身近な話題に関する映像や音声を見たり聞いたりして、要点を正確に理解できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　この授業は、講義とグループまたはペアワークを組み合わせて、対面形式で行います。提出されたリアクションペーパーや課題は、個別または全体にフィードバックする方法を採ります。授業中に課題を取り組む際は、個別指導の時間をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
4	Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
10	Preparation for a presentation (1)	Choosing a topic
11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline
12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
13	Actual Presentation	Giving the presentation
14	Course Review	Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の内容に合わせて、課題を出します。課題は英作文やスピーチの原稿を準備することに加え、教科書の内容に即した練習問題に取り組むことなどを予定しています。予本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Susan Stempleski, Nancy Douglas, James R. Morgan, Kristin L. Johannsen, Andy Curtis, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016)–￥3,080+tax

【参考書】
参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・　平常点　70%
（小テスト 20%、授業活動への参加 30%、課題・提出物など 20%）
・　期末課題　30%
＊　4 回以上欠席した場合、原則として単位の取得が認められません。
＊　欠席や早退は 2 回で 1 回の欠席と見なします。
＊　著しい私語や居眠り、授業とは関係のない調べものなど、授業に参加する意欲が見られない場合、出席していても早退／遅刻または欠席と同等に見なすことがあります。

【学生の意見等からの気づき】
グループやペアで課題に取り組む機会を設けたことが好評でした。オンライン授業が続く中でも、自分と違う考えに触れることができ、学びの幅が広がったという声が聞かれました。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to develop students' ability to express their opinion and convey their experience of familiar issues, including daily life, in English. Students will learn essential expressions of English conversation through various activities in class and will build their vocabulary. In the fall semester, students will make a group presentation. They will do preparation based on the structure and function of a paragraph, which they learned in the spring semester.
Students will be able to:
- convey their opinion, knowledge and experience of familiar issues to other students
- learn and use common expressions of daily conversation in English
- watch and listen to audiovisual materials and understand their main idea correctly
Students are expected to do weekly preparation for the course and a course review. Detailed information is given by the instructor. Assignments are designed to take approximately one hour.
Evaluation will be based on Hosei University grading criteria, as follows:
Quiz 20%, participation in class activities 30%, assignment and submission 20%, final assignment 30%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Feedback will be provided during class and on Google classroom.
1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Lifestyles	Pair & group work. p. 4-5
3	Unit 1: Lifestyles	Pair & Group work. p. 6-7. Homework: reading p. 9
4	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking and Listening p. 10-11. Homework: reading
5	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking & Listening p. 12-3. Homework: reading
6	Unit 3: Getting Along	Review reading. Pair and Group work p.16-7. Homework: write an email p. 21
7	Unit 3: Getting Along	Review writing. Review for mid-term exam.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Interests	Review email writing. Speaking & Listening activities p.24-5. Homework: reading p. 29
10	Unit 4: Interests	Review reading. Pair & Group work p. 30-1. Homework: grammar
11	Unit 5: Telling a Story	Speaking & Listening work in pairs. p. 32-3. Homework: writing p. 35
12	Unit 5: telling a Story	Review writing. Pair & Group work. p. 36-7. Homework: reading p. 41
13	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening activities. Review for Final Exam
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】
Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentation & Effort25%
In principle, no more than 3 absences are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback

【学生が準備すべき機器他】
Student need smartphone or ipad or pc with a headset to participate in Zoom classes. They also need to know how to use Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】
Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 38-9. Homework: reading p. 41
2	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 44-5. Homework: reading p. 49
3	Unit 7: Food/Drink	Speaking & Listening p. 46-7. Homework: reading
4	Unit 7: Food/drink	Pair & Group Work p. 48-9. Homework: wrting
5	Unit 9: Rules	Speaking & Listenng. p. 50-1. Homework: reading p. 55
6	Unit 9: Rules	Pair & Group Work. p. 56-7. Homework: writing p. 61
7	Unit 9: continued	Review writing & provide feedback. Review for Mid-term exam.
8	Mid-term exam	Written exam
9	Unit 10: Health	Speaking & Listening p. 64-5. Homework: Writing p. 69
10	Unit 11: Comparisons	Review writing. Speaking & Listening p. 70-1. Homework: reading p. 75
11	Unit 11: Comparisons	Speaking & Listening p. 76-7. Homework: writing p. 81
12	Unit 12: The modern world	Review writing and provide feedback. Speaking & Listening p. 82-3
13	Unit 12: The modern world	Review topics for final exam
14	Final Exam	Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Mid-term 25%
Final Exam 25%
Writing Assignments 25%
Presentation & Effort25%
In principle, no more than 3 absences are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
No feedback

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access

【Outline (in English)】
This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25
6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)
*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1)　to bring an English-English dictionary
2)　to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　眞奈美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】
You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
You will learn:
1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
3) presentation/debate skills and strategies
4) collaborative learning
5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
6) practice making small talk in every class
*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.
6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected:
1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
2) to watch or listen to an English program regularly.
University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)
Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka
Publisher: Pearson Education South Asia
Publishing Year: 2019

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】
class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)
*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】
What you are expected for every class:
1) to bring an English-English dictionary
2) to contact me when you are absent from class
*Good manners and collaborative learning are important in this class.
*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】
You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、最新の CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に聴き、英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。自己の意見を英語で発表しディベートを実施する。さらに、英語で意見を書けるようにする。授業内掲示版に自己の意見を発表する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。ヒアリング能力と英語によるコミュニケーション能力を特に涵養する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CBS NewsBreak 6 Unit 1 Young Boy Seeks to Spread His Love of Literacy	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 2 回	CBS NewsBreak 6 Unit 2 Graduation Day Surprise	CBS NewsBreak 6 Unit 2 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 3 回 3	CBS NewsBreak 6 Unit 3 A mission to Help the Homeless	CBS NewsBreak 6 Unit 3 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 4 回	CBS NewsBreak 6 Unit 4 Fly Me to the Moon -Space X to Fly Japanese Billionaire to Moon -	CBS NewsBreak 6 Unit 4 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 5 回	CBS NewsBreak 6 Unit 5 A Man on the Bench by the Beach	CBS NewsBreak 6 Unit 5 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。

第 6 回	CBS NewsBreak 6 Unit 6 Covid Vaccine Inequalities	CBS NewsBreak 6 Un it 6 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 7 回	CBS NewsBreak 6 Unit 7 Surfing in Japan	CBS NewsBreak 6 Unit 7 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング, 意見発表、 ディベート、リアクション・ペー パー。
第 8 回 8	CBS NewsBreak 6 Unit 8 A new Beat -High SchoolStudents Learn the Music Business-	CBS NewsBreak 6 Unit 8 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 9 回	CBS NewsBreak 6 Unit 9 Vintage Office Gear Making a Comeback	CBS NewsBreak 6 Unit 9 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 10 回	CBS NewsBreak 6 Unit 10 Virtual Tutors -Teens Offer Free tutoring to Kids-	CBS NewsBreak 6 Unit 10 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 11 回 11	CBS NewsBreak 6 Unit 11 Thanksgiving -A Time of Gratitude and Reflection-	CBS NewsBreak 6 Unit 11 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 12 回	CBS NewsBreak 6 Unit 12 You’ve got a Friend -New York Woman Starts Movement to Unite Strangers-	CBS NewsBreak 6 Unit 12 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 13 回	CBS NewsBreak 6 Unit 13 Japan’s Love of Vending Machines	CBS NewsBreak 6 U nit 13 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング､」スピーキ ング、意見発表、ディベート、リ アクション・ペーパー。
第 14 回	春学期末オンラインレポート試験＋再試験＋追試験 まとめと解説。	評価とまとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. 毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】
『CBS NewsBreak 6』(SEIBIDO)
ISBN9784791972678
定価 2,860 円 (学生生協で購入すると￥ 2717)

【参考書】
CBS　News Break 3 と 4 と 5(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、またはタブレット、またはパソコンと WiFi 環境とテキスト

【その他の重要事項】
法政 Zoom ではなく、個人契約の Zoom を使用するので要注意。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 3/Sat.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、最新の CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に聴き、英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。自己の意見を英語で発表しディベートを実施する。さらに、英語で意見を書けるようにする。授業内掲示版に自己の意見を発表する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。ヒアリング能力と英語によるコミュニケーション能力を特に涵養する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 1 Language Lessons	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 2 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 2 U.S.Consumers Waste Food	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 3 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 3 Keeping eSports Athletes in the Game	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 4 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 4 Adulting Classes for Millennials	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 5 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 5 Is Your Bottled Water Safe?	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。

第 6 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 6 Sleepless in Japan	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 7 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 7 Alarming New climate Report	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 8 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 8 Clacking the Dress Code: #Ku Too Movement	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 9 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 10 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabiuliities	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 11 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 11 A Tax on Tourism?	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 12 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 13 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 13 Mindfulness: Schools in England Teach Students to Relax	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 14 回目	秋学期末レポイート試験＋再試験＋追試験＋まとめと解説	評価とまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. 毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】
CBS NewsBreak 5 (SEIBIDO)
ISBN9784791972302
定価 2,860 円 (学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】
CBS　News Break 3 と 4 と 6(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、またはタブレット、またはパソコンと WiFi 環境とテキスト

【その他の重要事項】
法政 Zoom ではなく、個人契約の Zoom を使用するので要注意。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 4/Sat.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、最新の CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に聴き、英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。自己の意見を英語で発表しディベートを実施する。さらに、英語で意見を書けるようにする。授業内掲示版に自己の意見を発表する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。ヒアリング能力と英語によるコミュニケーション能力を特に涵養する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CBS NewsBreak 6 Unit 1 Young Boy Seeks to Spread His Love of Literacy	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 2 回	CBS NewsBreak 6 Unit 2 Graduation Day Surprise	CBS NewsBreak 6 Unit 2 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング, スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 3 回	CBS NewsBreak 6 Unit 3 A mission to Help the Homeless	CBS NewsBreak 6 Unit 3 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 4 回	CBS NewsBreak 6 Unit 4 Fly Me to the Moon -Space X to Fly Japanese Billionaire to Moon -	CBS NewsBreak 6 Unit 4 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 5 回	CBS NewsBreak 6 Unit 5 A Man on the Bench by the Beach	CBS NewsBreak 6 Unit 5 単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。

第 6 回	CBS NewsBreak 6 Unit 6 Covid Vaccine Inequalities	CBS NewsBreak 6 Un it 6 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 7 回	CBS NewsBreak 6 Unit 7 Surfing in Japan	CBS NewsBreak 6 Unit 7 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング, 意見発表、 ディベート、リアクション・ペー パー。
第 8 回	CBS NewsBreak 6 Unit 8 A new Beat -High SchoolStudents Learn the Music Business-	CBS NewsBreak 6 Unit 8 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 9 回	CBS NewsBreak 6 Unit 9 Vintage Office Gear Making a Comeback	CBS NewsBreak 6 Unit 9 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 10 回	CBS NewsBreak 6 Unit 10 Virtual Tutors -Teens Offer Free tutoring to Kids-	CBS NewsBreak 6 Unit 10 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 11 回	CBS NewsBreak 6 Unit 11 Thanksgiving -A Time of Gratitude and Reflection-	CBS NewsBreak 6 Unit 11 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 12 回	CBS NewsBreak 6 Unit 12 You’ve got a Friend -New York Woman Starts Movement to Unite Strangers-	CBS NewsBreak 6 Unit 12 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング、スピーキン グ、意見発表、ディベート、リア クション・ペーパー。
第 13 回	CBS NewsBreak 6 Unit 13 Japan’s Love of Vending Machines	CBS NewsBreak 6 U nit 13 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作 文、シャドウイング､」スピーキ ング、意見発表、ディベート、リ アクション・ペーパー。
第 14 回	春学期末オンラインレポート試験＋再試験＋追試験 まとめと解説。	評価とまとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. 毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】
『CBS NewsBreak 6』(SEIBIDO)
ISBN9784791972678
定価 2,860 円 (学生生協で購入すると￥2717)

【参考書】
CBS　News Break 3 と 4 と 5(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、またはタブレット、またはパシコンと WiFi 環境とテキスト

【その他の重要事項】
法政 Zoom ではなく、個人契約の Zoom を使用するので要注意。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the spring semester 40 %, The word tests 10%, the mini tests 10 %, homework 10 %、presentations 10 %、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 %, on the total of 100 %.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 4/Sat.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システム Hoppii も使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。
DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、最新の CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する（インプット）。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に聴き、英語で発表（アウトプット）する。さらに、技術の進歩により、80%のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。自己の意見を英語で発表しディベートを実施する。さらに、英語で意見を書けるようにする。授業内掲示版に自己の意見を発表する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A −から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。ヒアリング能力と英語によるコミュニケーション能力を特に涵養する。

【到達目標】
昨今は価値観が目まぐるしく変わってきている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。また、現代はフェイクニュースも溢れている。我々も、溢れる情報の中でただ単に情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、正しく行動することが求められる。
学生は、現代を生き抜くために英語の 4 技能（「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」）を涵養し、英語能力が総合的にアップする。学生は、常にファクトチェックをしてフェイクニュースを誤って拡散しないようにする習慣を身に付ける。
学生は、DVD を視聴し、CBS ニュースがナチュラルスピードで理解できるようになる。ただ受動的にニュースを理解するのみならず、学生は、現代の世界の様々な話題について積極的に自分ならどうするか熟考して討論し、独自の意見を英語で発表出来るようになる。さらに、学生は、自らの手で報道内容のファクトチェックが出来るようになる。学生は、フェイクニュースと事実を区別出来るように国際的な教養を身に付ける。アンカーやレポーターによる報道の音声に自らの音読を被せてシャドウイングし、学生は、英語が正しく話せるようになる基礎を作る。
また、学生は、英英辞書の使い方も学ぶ。学生は、辞書があれば英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。学生は、Zoom を使用した授業でクラスのディスカッションに積極的に参加できるようになる（自己の意見を勇気を持って発表する機会も得る。英語によるインプットとアウトプットが両方とも総合的に積極的に出来るようになる）。
加えて、学生は、パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence）、および、パラグラフ同士の繋がりを理解し、必要に応じて構文、主旨を正確に把握し、正しく理解出来るようになる。さらに、学生は、書き手の感情や意図や欄外の意味を汲み取って読み解く事が出来るようになる。学生は、批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析出来るようになる。学生は、色々な現代の世界中のニュースを視聴して国際感覚も身に付ける。学生は、高校までの学校英語よりもさらに詳しく文法事項も学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム Hoppii の両方を使用する。
動画のストリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 2. 努力を要す, 1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 1 Language Lessons	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 2 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 2 U.S.Consumers Waste Food	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 3 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 3 Keeping eSports Athletes in the Game	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 4 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 4 Adulting Classes for Millennials	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 5 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 5 Is Your Bottled Water Safe?	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。

第 6 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 6 Sleepless in Japan	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 7 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 7 Alarming New climate Report	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 8 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 8 Clacking the Dress Code: #Ku Too Movement	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 9 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 9 Grammar Table Lady Offers Advice	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 10 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 10 Halloween Treats for Kids with Disabiuliities	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 11 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 11 A Tax on Tourism?	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 12 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 12 Japan Really Loves Kit Kat Bars	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 13 回目	CBS NewsBreak 5 Unit 13 Mindfulness: Schools in England Teach Students to Relax	CBS NewsBreak 6 Unit 1 単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、スピーキング、意見発表、ディベート、リアクション・ペーパー。
第 14 回目	秋学期末レポイート試験＋再試験＋追試験＋まとめと解説	評価とまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. 毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting into Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4．Getting into Details を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施すので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。

【テキスト（教科書）】
CBS NewsBreak 5 (SEIBIDO) 定価 2,860 円
ISBN9784791972302

【参考書】
CBS　News Break 3 と 4 と 6(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.
BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS　News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】
秋学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、最低でも 11 回の Zoom による授業への出席が必要である。4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】
PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】
スマホ、またはタブレット、またはパソコンと WiFi 環境とテキスト

【その他の重要事項】
法政 Zoom ではなく、個人契約の Zoom を使用するので要注意。

【Outline (in English)】
We are going to have lessons by Zoom according to the schedule. We are going to use the Zoom every time. We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also leaern the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every student is supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】We need the attendances to our Zoom lessons at least 11 times. The absence from our lessons are allowed only three times. If the students are absent from our Zoom lessons more than four times, he/she cannot be given any school grades. The final report test of the fall semester 40 ％, The word tests 10%, the mini tests 10 ％, homework 10 ％、presentations 10 ％、the active opinion expressions 10%, and the contributions to the lessons 10 ％, on the total of 100 ％.

LANe100LA

English ２ Ⅰ

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学習用に製作された映像ドラマを導入した教科書を題材に、（1）ドラマを通してリスニング力の増強をはかる、（2）スピーキングに必要な会話表現を学ぶ。
『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語② 地区大会への道』（第２巻）を教科書として、学園ドラマを通して、英語でストーリーの展開を楽しむことを目指す。学習用に製作されていることからも、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

【到達目標】
（1）ドラマを通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。
（2）学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。
（3）パラグラフ・ライティングを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は「課題演習型」として実施する。
演習として、教科書の課題を毎回進めていく。ライティング演習も導入する。
フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語② 地区大会への道』（第２巻）についての導入	『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語② 地区大会への道』（第２巻）の構成、ドラマの内容について。
第 2 回	教科書の演習（第１章）	Unit. 1 "April Rhodes"
第 3 回	教科書の演習（第２章）	Unit. 2 "New Member"
第 4 回	教科書の演習（第３章）	Unit. 3 "Come Back to Glee"
第 5 回	教科書の演習（第４章）	Unit. 4 "Somebody to Love"
第 6 回	教科書の演習（第５章）	Unit. 5 "Hairography"
第 7 回	教科書の演習（第６章）	Unit. 6 "Objective Achieved"
第 8 回	ライティング演習（1）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ドラマについて英語でレビューを書く」
第 9 回	教科書の演習（第７章）	Unit. 7 "You Set Me Up"
第 10 回	教科書の演習（第８章）	Unit. 8 "True Colors"
第 11 回	教科書の演習（第９章）	Unit. 9 "The Thunderclap"
第 12 回	教科書の演習（第 10 章）	Unit. 10 "We Need a Co-Captai"
第 13 回	教科書の演習（第 11 章）	Unit. 11 "Jump"
第 14 回	まとめ／ライティング演習（２）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ドラマについて英語でレビューを書く」（仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語② 地区大会への道』（松柏社）。
ISBN:978-4-88198-742-1

【参考書】
スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
・毎回実施する教科書を用いた演習課題（関連したライティング課題を含む）＝ 100 %
（学期の「まとめ」とする最終課題は配点の比重を高く設定する）

【学生の意見等からの気づき】
主として再履修者を対象とする授業であり、学習内容と効果を最大限重視して行った。教室での対面授業が一般的であった際は出席に難がある場合も多かったが、オンライン授業と混在している現在では、オンライン授業を苦手とする層も存在する。一方でやはりペアワークなどのアクティヴィティを苦手とする層もいる。すべての層の期待や要求にこたえることは不可能であるが、学修効果を最優先として教科書の課題を徹底させることを目指した。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to a teen drama at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in daily conversations.
【Learning Objectives】
The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the drama and pick out necessary information.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on weekly assignments submitted in due time = 100%.

LANe100LA

English 2 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中垣　恒太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学習用に製作された映像ドラマを導入した教科書を題材に、（1）ドラマを通してリスニング力の増強をはかる、（2）スピーキングに必要な会話表現を学ぶ。
『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン』（第３巻）を教科書として、学園ドラマを通して、英語でストーリーの展開を楽しむことを目指す。学習用に製作されていることからも、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

【到達目標】
（1）ドラマを通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。
（2）学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。
（3）パラグラフ・ライティングを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は「課題演習型」として実施する。
演習として、教科書の課題を毎回進めていく。ライティング演習も導入する。
フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン』（第３巻）についての導入。	教科書『「グリー」で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン』（第３巻）の構成、ドラマの内容について。
第 2 回	教科書の演習（第１章）	Unit 1 "Who Told?"
第 3 回	教科書の演習（第２章）	Unit 2 "Stolen Set List"
第 4 回	教科書の演習（第３章）	Unit 3 "You Can't Always Get What You Want"
第 5 回	教科書の演習（第４章）	Unit 4 "Who Won?"
第 6 回	教科書の演習（第５章）	Unit 5 "What's Your Dream?"
第 7 回	ライティング演習（1）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ドラマについて英語でレビューを書く」
第 8 回	教科書の演習（第６章）	Unit 6 "Dream On"
第 9 回	教科書の演習（第７章）	Unit 7 "Rachel's Mother"
第 10 回	教科書の演習（第８章）	Unit 8 "Tina's Dance Partner"
第 11 回	教科書の演習（第９章）	Unit9 "Regionals' Set List"
第 12 回	教科書の演習（第 10 章）	Unit 10 "Journey's Medley"
第 13 回	教科書の演習（第 11 章）	Unit 11"A New Life"
第 14 回	まとめ／ライティング演習（２）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ドラマについて英語でレビューを書く」（仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「『グリー』で学ぶコミュニケーション英語③ドント・ストップ・ビリーヴィン』（松柏社）。ISBN:978-4-88198-753-7

【参考書】
スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。
鈴木健士、ジェイムズ・M・ヴァーダマン『英文ライティングのメタモルフォーゼ』（KADOKAWA）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（テイエス企画）。

【成績評価の方法と基準】
・毎回実施する教科書を用いた演習課題（関連したライティング課題を含む）＝ 100 %
（学期の「まとめ」とする最終課題は配点の比重を高く設定する）

【学生の意見等からの気づき】
主として再履修者を対象とする授業であり、学習内容と効果を最大限重視して行った。教室での対面授業が一般的であった際は出席に難がある場合も多かったが、オンライン授業と混在している現在では、オンライン授業を苦手とする層も存在する。一方でやはりペアワークなどのアクティヴィティを苦手とする層もいる。すべての層の期待や要求にこたえることは不可能であるが、学修効果を最優先として教科書の課題を徹底させることを目指した。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to a teen drama at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in daily conversations.
【Learning Objectives】
The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the drama and pick out necessary information.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.
【Grading Criteria/Policy】
Evaluation will be based on weekly assignments submitted in due time = 100%.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。
①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 The art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	「相手を説得するコツ：説得力のある議論をするにはどうしたらいいか」前半講読
3	Chapter 1-2 The art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	「相手を説得するコツ：説得力のある議論をするにはどうしたらいいか」後半講読
4	Chapter 6-1 As the World Burns: What is fueling wildfires around the globe?	「世界が燃えさかる中で：世界中で山火事が起きている原因は何か」前半講読
5	Chapter 6-2 As the World Burns: What is fueling wildfires around the globe?	「世界が燃えさかる中で：世界中で山火事が起きている原因は何か」後半講読
6	Chapter 11-1 Ahead in the Polls: How reliable are public opinion polls?	「選挙戦の動向：世論調査はどの程度信頼できるのか」前半講読
7	Chapter 11-2 Ahead in the Polls: How reliable are public opinion polls?	「選挙戦の動向：世論調査はどの程度信頼できるのか」後半講読
8	Chapter 16-1 In the Beginning: What is the link between religion and cosmology?	「世界のはじまり：宗教と宇宙論はどのように関連しているのか」前半講読
9	Chapter 16-2 In the Beginning: What is the link between religion and cosmology?	「世界のはじまり：宗教と宇宙論はどのように関連しているのか」後半講読
10	Chapter 2-1 Cool as Ice: Can ice hockey become a truly global sport?	「それはクールだ：アイスホッケーは新に世界的なスポーツになれるか」前半講読
11	Chapter 2-2 Cool as Ice: Can ice hockey become a truly global sport?	「それはクールだ：アイスホッケーは新に世界的なスポーツになれるか」後半講読
12	Chapter 7-1 Rise of the Machines: Are human beings becoming obsolete?	「マシンの台頭：人類は廃れつつあるのか」前半講読
13	Chapter 7-2 Rise of the Machines: Are human beings becoming obsolete?	「マシンの台頭：人類は廃れつつあるのか」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking the World -Dare to Know-（Francois de Soete 著, 成美堂, 2023 年, 2,200 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 35 %　期末テスト 50 %　英作文 5 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 10%, Quizzes 35%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。
①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 12-1 By the Sword: How did the Roman Republic turn into an empire?	「武力行使：共和制ローマはいかにしてローマ帝国となったのか」前半講読
3	Chapter 12-2 By the Sword: How did the Roman Republic turn into an empire?	「武力行使：共和制ローマはいかにしてローマ帝国となったのか」後半講読
4	Chapter 17-1 Staring into the Abyss: Why is there something instead of nothing?	「深みをのぞき込む：なぜ何もないのではなく、何かがあるのか」前半講読
5	Chapter 17-2 Staring into the Abyss: Why is there something instead of nothing?	「深みをのぞき込む：なぜ何もないのではなく、何かがあるのか」後半講読
6	Chapter 3-1 Cancel Culture: Is it time to reconsider the limits of free speech?	「キャンセル・カルチャー：言論の自由の制限を再考する時が来たか」前半講読
7	Chapter 3-2 Cancel Culture: Is it time to reconsider the limits of free speech?	「キャンセル・カルチャー：言論の自由の制限を再考する時が来たか」後半講読
8	Chapter 8-1 The Call of the Wild: Why do humans and dogs have such a special bond?	「野生の呼び声：人間と犬に特別な絆があるのはなぜか」前半講読
9	Chapter 8-2 The Call of the Wild: Why do humans and dogs have such a special bond?	「野生の呼び声：人間と犬に特別な絆があるのはなぜか」後半講読
10	Chapter 13-1 Democratic Ideals: What is democracy?	「民主主義の理想：民主主義とは何か」前半講読
11	Chapter 13-2 Democratic Ideals: What is democracy?	「民主主義の理想：民主主義とは何か」後半講読
12	Chapter 18-1 Condemned to be Free: Is free will just an illusion?	「人は自由であることを運命づけられている：自由意志はただの錯覚なのか」前半講読
13	Chapter 18-2 Condemned to be Free: Is free will just an illusion?	「人は自由であることを運命づけられている：自由意志はただの錯覚なのか」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking the World -Dare to Know-（Francois de Soete 著, 成美堂, 2023 年, 2,200 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 35 %　期末テスト 50 %　英作文 5 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 10%, Quizzes 35%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】
この授業は以下の５つを到達目標とします：
①辞書を効果的に利用しながら、高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
④わからない語句や文法があっても辞書を使わずに出来るだけ正確に内容を推測できる
⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行い、3 回目の授業で復習のための小テストを行います。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。小テスト・定期試験ともに授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介	授業方針・内容の説明・PC を利用した演習
2	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
3	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
4	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 1 の小テスト
5	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
6	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 2 の小テスト
8	中間テスト	試験の実施、解説、復習
9	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
10	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
11	Unit 3 Transport/Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 3 の小テスト
12	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
13	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、小テスト 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
・Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

· Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

· Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, quiz: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語１からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】
この授業は以下の６つを到達目標とします：
①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
⑤英文の内容を要約する方法を身につける
読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行います。同時に、読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。ライティング課題はコメント・添削をしたのち、返却します。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。定期試験は授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
2	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
3	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、Main Point(s)
4	UNIT 6 Discovery and invention	UNIT5 の単語テスト、記事の読解、Topic Sentence(s)
5	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Supporting Sentence(s)
6	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Concluding Sentence(s)
7	中間テスト	試験の実施、解説、復習
8	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
9	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
10	UNIT 7 Fashion	記事の読解、自分の意見を表現する
11	UNIT 8 Economics	UNIT7 の単語テスト、記事の読解、自分の意見を表現する
12	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
13	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、ライティング課題 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
· Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.
The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
· Learning Activities Outside of Classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.
· Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, writing assignments: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】
速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験　まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用します。

【参考書】
その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　　30 %
試験（中間・期末）　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】
英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（１）	ビックデータ
3	情報と社会（２）	情報操作
4	情報と社会（３）	マーケティング戦略
5	情報と社会（４）	CSR
6	経済と社会（１）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（２）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（３）	能力給
10	技術と人間（１）	流通システム
11	技術と人間（２）	流通とインターネット
12	技術と人間（３）	働き方改革
13	技術と人間（４）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　30 %
試験　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を
合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】
長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。
この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面で対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。
授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。
語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。
記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。
当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 1 (1)	気候変動は人類の順応より早く地球をダメにする Climate Change Is Harming the Planet Faster Than We Can Adapt, U.N. Warns 小テスト
3	Unit 1 (2)	（前回の続き） Climate change and natural disasters
4	Unit 8 (1)	シンガポール「不当感」の増大で死刑反対意見強まる Singapore hardens opinion against death penalty as 'sense of injustice' grows 小テスト
5	Unit 8 (2)	（前回の続き） Campaigning against capital punishment in Singapore
6	Unit 10 (1)	マクロン大統領 ルペンに競り勝ち再選し仏統一を誓う Victorious Macron vows to unite France after fending off Le Pen threat 小テスト
7	Unit 10 (2)	（前回の続き） Macron and Le Pen spar in an increasingly divided France
8	Unit 13 (1)	中国 離婚率と結婚率低下 Divorce Is Down in China, but So Are Marriages 小テスト
9	Unit 13 (2)	（前回の続き） China's birthrates under the 'one-child' policy
10	Unit 14 (1)	カナダでトラック運転手が抗議運動 何故? Trucker Protests in Canada: What You Need to Know 小テスト
11	Unit 14 (2)	（前回の続き） Far-right groups in the U.S. and Canada
12	Unit 17 (1)	トンガ　自然の猛威被害が３度目 'We just keep going': the Tongan resort destroyed by nature's fury – for the third time 小テスト
13	Unit 17 (2)	（前回の続き） Fishermen protest eruption-induced oil spill in Peru
14	試験・まとめと解説	Unit 17 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。
この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします)。
具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずです。
・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】
高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2023 年度版--)』、朝日出版社、2023 年、1800 円（税別）

【参考書】
（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。
大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。
前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。
筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。
読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。
また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。
平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】
Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Course outline:
As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.
Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.
Learning Objectives:
Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.
Grading Criteria/Policy:
Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】
英語１からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。
加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には英語１と変わりません。
ただし、英語１からの「ステップアップ」であるため、英語１で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 16 (1)	スリランカ　ゆうき農法を始めて大惨事に Sri Lanka's Plunge into Organic Farming Brings Disaster 小テスト
2	Unit 16 (2)	（前回の続き） Is organic farming truly sustainable?
3	Unit 18 (1)	ベンガル湾で大洪水　住民はマングローブの森に避難 Facing Disastrous Floods, They Turned to Mangrove Trees for Protection 小テスト
4	Unit 18 (2)	（前回の続き） A reappraisal of mangrove forests
5	Unit 19 (1)	トルコで超インフレとの戦い Turkey's war with inflation: 'Prices change daily and everyone is scared' 小テスト
6	Unit 19 (2)	（前回の続き） Turkey's financial crisis with an inflationary spiral
7	Unit 21 (1)	韓国での「多文化主義」とは How 'Multiculturalism' Became a Bad Word in South Korea 小テスト
8	Unit 21 (2)	（前回の続き） Yoon elected as new South Korean president
9	Unit 22 (1)	アフリカでクーデター多発の理由 Five African countries. Six coups. Why now? 小テスト
10	Unit 22 (2)	（前回の続き） Political instability among Sahelian countries
11	Unit 23 (1)	リオのカーニバルのパレードを巡り争い騒ぎ Rio carnival groups fight for right to party ahead of official celebrations 小テスト
12	Unit 23 (2)	（前回の続き） Street carnival under the pandemic
13	予備日およびパラグラフ・ライティング指導	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	試験・まとめと解説	年度全体の授業の講評 筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。
この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします)。
具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずです。
・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】
高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2022 年度版--)』、朝日出版社、2022 年、1700 円（税別）

【参考書】
（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。
大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。
前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。
筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。
読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。
また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。
平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
・欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。
高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいると思います。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの１年間こそが最も大切だとも言えます。
せっかく国際文化学部に入学したのですから、ただごまかし続けて１年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Course outline:
As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.
Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.
Learning Objectives:
Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.
Grading Criteria/Policy:
Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

栗飯原　文子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
・定期的に小テストを実施する。
・学期最後の授業において期末試験をおこなう。
・課題や試験へのフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと自己紹介	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の続き	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の続き	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・平常点　10 %
・小テスト・課題の提出　30 %
・期末テスト　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

【その他の重要事項】
・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course. [Learning objectives] By the end of this course, students will have the ability to more quickly and accurately understand a variety of texts, and improve their vocabulary and learn to love to read. [Learning activities outside of classroom] Before each class session, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting. [Grading policy] Grading will be decided based on the following: in class contribution 10%, small tests & short reports 30% and term-end examination 60%.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

粟飯原　文子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
・定期的に小テストを実施する。
・学期最後の授業において期末試験をおこなう。
・課題や試験へのフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読の練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。秋学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・平常点　10 %
・小テスト・課題の提出　30 %
・期末テスト　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

【その他の重要事項】
・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course. [Learning objectives] By the end of this course, students will have the ability to more quickly and accurately understand a variety of texts, and improve their vocabulary and learn to love to read. [Learning activities outside of classroom] Before each class session, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting. [Grading policy] Grading will be decided based on the following: in class contribution 10%, small tests & short reports 30% and term-end examination 60%.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で学術・社会問題を考えるのに必要なリーディング・スキルと批判的思考力を修得します。リスニングの練習もおこない、英語による情報収集力を身につけます。

【到達目標】
学期の終わりまでに次のことができるようになるのが目標です。
・主題、細部、文脈を意識しながら基礎的な英文を読むことができる。
・幅広い話題の英文を批判的に読むことができる。
・身近な話題の英語の情報を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、以下の要領で進みます。
1. タスク
・リーディング（予習内容の確認と解説）
・演習問題
・ビデオタスク or ライティング
2. フィードバック
・ライティング課題に対して、添削・コメントのうえ返却

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、『リスニング・ハンドブック』の説明
2	Unit1A	Secrets of the Maya
3	Unit1B	The Collapse of Angkor
4	Unit2A	The Sky Runner
5	Unit2B	The Free Soloist
6	Unit3A	The Age of Disbelief
7	Unit3B	Goalkeepers for the Planet
8	Unit4A	City under Siege
9	Unit4B	Rising Seas
10	Unit5A	Our Energy Diet
11	Unit5B	Plugging into the Sun
12	Unit6A	Quicksilver
13	Unit6B	Building the Ark
14	Review	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習をしたうえで授業に臨んでください。
・授業内で指示された演習課題に取り組んでください。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 5. Third Edition. Nancy Douglas, David Bohlke with Helen Huntley, Bruce Rogers, and Paul Macintyre. National Geographic Learning.

【参考書】
授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点： 60%
・提出物（4 回のライティング課題）： 40%
・4 回以上欠席した受講生は単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course outline: This course is designed to help students to acquire reading and critical thinking skills to address academic and social issues. Listening comprehension task is also assigned to foster their ability to gather information in English.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will have an ability to read passages written in English paying attention to the main ideas, details, and contexts, so that they can read a variety of articles critically. They will acquire listening skills to understand what people are saying in everyday English.
・Learning activities outside of the classroom: Preparation for exercises in the textbook. Additional tasks will be assigned.
・Grading Criteria/Policy: In class activity 60%, Writing assignments 40%. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

深谷　公宣

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で学術・社会問題を考えるためのリーディング・スキルと批判的思考力を伸長します。リスニングの練習もおこない、英語による情報収集力を充実させます。

【到達目標】
学期の終わりまでに次のことができるようになるのが目標です。
・主題、細部、文脈を意識しながら、まとまった長さの英文を読むことができる。
・学術・社会的なトピックの英文を批判的に読むことができる。
・より幅広い話題の英語の情報を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回、以下の要領で進みます。
1. タスク
・リーディング（予習内容の確認と解説）
・演習問題
・ビデオタスク or ライティング
2. フィードバック
・ライティング課題に対して、添削・コメントのうえ返却

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、『リスニング・ハンドブック』の確認
2	Unit7A	Secrets of the Brain
3	Unit7B	Human Bionics
4	Unit8A	The Genius of Swarms
5	Unit8B	Of Ants and Humans
6	Unit9A	Decoding Leonardo
7	Unit9B	The Power of Writing
8	Unit10A	Cosmic Dawn
9	Unit10B	Element Hunters
10	Unit11A	The World of Suleyman the Magnificent
11	Unit11B	When the Moors Ruled Spain
12	Unit12A	Gold Fever
13	Unit12B	The Rush for White Gold
14	Review	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書の予習をしたうえで授業に臨んでください。
・授業内で示された演習課題に取り組んでください。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Reading Explorer 5. Third Edition. Nancy Douglas, David Bohlke with Helen Huntley, Bruce Rogers, and Paul Macintyre. National Geographic Learning.

【参考書】
授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点： 60%
・提出物（4 回のライティング課題）： 40%
・4 回以上欠席した受講者は単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
・Course outline: This course is designed to help students to improve reading and critical thinking skills to address academic and social issues. Listening comprehension is also assigned to develop their capacity to gather information and express their thoughts in English.
・Learning Objectives: By the end of this course, students will have an ability to read long passages written in English paying attention to the main ideas, details, and contexts, so that they can read articles about academic and social subjects critically. They will enhance listening skills to understand a wide range of topics in English.
・Learning activities outside of the classroom: Preparation for exercises in the textbook. Additional tasks will be assigned.
・Grading Criteria/Policy: In class activity 60%, Four writing assignments 40%. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。
①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 The art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	「相手を説得するコツ：説得力のある議論をするにはどうしたらいいか」前半講読
3	Chapter 1-2 The art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	「相手を説得するコツ：説得力のある議論をするにはどうしたらいいか」後半講読
4	Chapter 6-1 As the World Burns: What is fueling wildfires around the globe?	「世界が燃えさかる中で：世界中で山火事が起きている原因は何か」前半講読
5	Chapter 6-2 As the World Burns: What is fueling wildfires around the globe?	「世界が燃えさかる中で：世界中で山火事が起きている原因は何か」後半講読
6	Chapter 11-1 Ahead in the Polls: How reliable are public opinion polls?	「選挙戦の動向：世論調査はどの程度信頼できるのか」前半講読
7	Chapter 11-2 Ahead in the Polls: How reliable are public opinion polls?	「選挙戦の動向：世論調査はどの程度信頼できるのか」後半講読
8	Chapter 16-1 In the Beginning: What is the link between religion and cosmology?	「世界のはじまり：宗教と宇宙論はどのように関連しているのか」前半講読
9	Chapter 16-2 In the Beginning: What is the link between religion and cosmology?	「世界のはじまり：宗教と宇宙論はどのように関連しているのか」後半講読
10	Chapter 2-1 Cool as Ice: Can ice hockey become a truly global sport?	「それはクールだ：アイスホッケーは新に世界的なスポーツになれるか」前半講読
11	Chapter 2-2 Cool as Ice: Can ice hockey become a truly global sport?	「それはクールだ：アイスホッケーは新に世界的なスポーツになれるか」後半講読
12	Chapter 7-1 Rise of the Machines: Are human beings becoming obsolete?	「マシンの台頭：人類は廃れつつあるのか」前半講読
13	Chapter 7-2 Rise of the Machines: Are human beings becoming obsolete?	「マシンの台頭：人類は廃れつつあるのか」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking the World -Dare to Know-（Francois de Soete 著, 成美堂, 2023 年, 2,200 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 35 %　期末テスト 50 %　英作文 5 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 10%, Quizzes 35%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

小川　真也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。
　また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れてはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。
　リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】
この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。
①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。
正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。
chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 12-1 By the Sword: How did the Roman Republic turn into an empire?	「武力行使：共和制ローマはいかにしてローマ帝国となったのか」前半講読
3	Chapter 12-2 By the Sword: How did the Roman Republic turn into an empire?	「武力行使：共和制ローマはいかにしてローマ帝国となったのか」後半講読
4	Chapter 17-1 Staring into the Abyss: Why is there something instead of nothing?	「深みをのぞき込む：なぜ何もないのではなく、何かがあるのか」前半講読
5	Chapter 17-2 Staring into the Abyss: Why is there something instead of nothing?	「深みをのぞき込む：なぜ何もないのではなく、何かがあるのか」後半講読
6	Chapter 3-1 Cancel Culture: Is it time to reconsider the limits of free speech?	「キャンセル・カルチャー：言論の自由の制限を再考する時が来たか」前半講読
7	Chapter 3-2 Cancel Culture: Is it time to reconsider the limits of free speech?	「キャンセル・カルチャー：言論の自由の制限を再考する時が来たか」後半講読
8	Chapter 8-1 The Call of the Wild: Why do humans and dogs have such a special bond?	「野生の呼び声：人間と犬に特別な絆があるのはなぜか」前半講読
9	Chapter 8-2 The Call of the Wild: Why do humans and dogs have such a special bond?	「野生の呼び声：人間と犬に特別な絆があるのはなぜか」後半講読
10	Chapter 13-1 Democratic Ideals: What is democracy?	「民主主義の理想：民主主義とは何か」前半講読
11	Chapter 13-2 Democratic Ideals: What is democracy?	「民主主義の理想：民主主義とは何か」後半講読
12	Chapter 18-1 Condemned to be Free: Is free will just an illusion?	「人は自由であることを運命づけられている：自由意志はただの錯覚なのか」前半講読
13	Chapter 18-2 Condemned to be Free: Is free will just an illusion?	「人は自由であることを運命づけられている：自由意志はただの錯覚なのか」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking the World -Dare to Know-（Francois de Soete 著, 成美堂, 2023 年, 2,200 円）

【参考書】
英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 %　小テスト 35 %　期末テスト 50 %　英作文 5 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】
One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 10%, Quizzes 35%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】
この授業は以下の５つを到達目標とします：
①辞書を効果的に利用しながら、高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
④わからない語句や文法があっても辞書を使わずに出来るだけ正確に内容を推測できる
⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行い、3 回目の授業で復習のための小テストを行います。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。小テスト・定期試験ともに授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリケーションの紹介	授業方針・内容の説明・PC を利用した演習
2	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
3	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
4	Unit 1 Animals	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 1 の小テスト
5	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
6	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	Unit 2 The environment	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 2 の小テスト
8	中間テスト	試験の実施、解説、復習
9	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
10	Unit 3 Transport	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
11	Unit 3 Transport/Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 3 の小テスト
12	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
13	Unit 4 Customs and traditions	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、小テスト 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
・Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

· Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

· Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, quiz: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

遠藤　郁子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語１からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】
この授業は以下の６つを到達目標とします：
①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
⑤英文の内容を要約する方法を身につける
読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行います。同時に、読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。ライティング課題はコメント・添削をしたのち、返却します。
学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に２回行います。定期試験は授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
2	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
3	UNIT 5 Health and fitness	記事の読解、Main Point(s)
4	UNIT 6 Discovery and invention	UNIT5 の単語テスト、記事の読解、Topic Sentence(s)
5	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Supporting Sentence(s)
6	UNIT 6 Discovery and invention	記事の読解、Concluding Sentence(s)
7	中間テスト	試験の実施、解説、復習
8	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
9	UNIT 7 Fashion	記事の読解、要約
10	UNIT 7 Fashion	記事の読解、自分の意見を表現する
11	UNIT 8 Economics	UNIT7 の単語テスト、記事の読解、自分の意見を表現する
12	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
13	UNIT 8 Economics	記事の読解、人と自分の意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 3), Cambridge University Press
＊テキストに付属のオンラインワークブックを用いるので、中古ではなく必ず学校で新品のテキストを購入してください。中古のテキストは返品していただく可能性があります。

【参考書】
英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献 (グループ／ペアワークへの参加) 10%、ライティング課題 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位修得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、グループワークを中心とした授業を行い、毎授業で英語でのディスカッションの時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。 このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】
· Course Outline and Learning Objectives
Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.
The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.
· Learning Activities Outside of Classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.
· Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, writing assignments: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べることができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】
速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験　まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用します。

【参考書】
その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　　30 %
試験（中間・期末）　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

北　文美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】
英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。毎回提出いただく課題は次回授業のときにフィードバックします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（１）	ビックデータ
3	情報と社会（２）	情報操作
4	情報と社会（３）	マーケティング戦略
5	情報と社会（４）	CSR
6	経済と社会（１）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（２）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（３）	能力給
10	技術と人間（１）	流通システム
11	技術と人間（２）	流通とインターネット
12	技術と人間（３）	働き方改革
13	技術と人間（４）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】
適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】
授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、課題の提出　30 %
試験　70 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を
合格とする。尚、欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】
(Course Outline)
This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.
(Learning Objectives)
By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.
(Learning activities outside of classroom)
Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.
(Grading Criteria/Policy)
Assignments 30% Mid-term and Final Exams 70%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】
長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。
この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面で対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。
授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。
語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。
記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。
当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 1 (1)	気候変動は人類の順応より早く地球をダメにする Climate Change Is Harming the Planet Faster Than We Can Adapt, U.N. Warns 小テスト
3	Unit 1 (2)	（前回の続き） Climate change and natural disasters
4	Unit 8 (1)	シンガポール「不当感」の増大で死刑反対意見強まる Singapore hardens opinion against death penalty as 'sense of injustice' grows 小テスト
5	Unit 8 (2)	（前回の続き） Campaigning against capital punishment in Singapore
6	Unit 10 (1)	マクロン大統領 ルペンに競り勝ち再選し仏統一を誓う Victorious Macron vows to unite France after fending off Le Pen threat 小テスト
7	Unit 10 (2)	（前回の続き） Macron and Le Pen spar in an increasingly divided France
8	Unit 13 (1)	中国 離婚率と結婚率低下 Divorce Is Down in China, but So Are Marriages 小テスト
9	Unit 13 (2)	（前回の続き） China's birthrates under the 'one-child' policy
10	Unit 14 (1)	カナダでトラック運転手が抗議運動 何故? Trucker Protests in Canada: What You Need to Know 小テスト
11	Unit 14 (2)	（前回の続き） Far-right groups in the U.S. and Canada
12	Unit 17 (1)	トンガ　自然の猛威被害が３度目 'We just keep going': the Tongan resort destroyed by nature's fury – for the third time 小テスト
13	Unit 17 (2)	（前回の続き） Fishermen protest eruption-induced oil spill in Peru
14	試験・まとめと解説	Unit 17 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。
この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします)。
具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずです。
・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】
高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2023 年度版--)』、朝日出版社、2023 年、1800 円（税別）

【参考書】
（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。
大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。
前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。
筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。
読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。
また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。
平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】
Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Course outline:
As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.
Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.
Learning Objectives:
Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.
Grading Criteria/Policy:
Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

永井　大輔

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】
英語１からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。
加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には英語１と変わりません。
ただし、英語１からの「ステップアップ」であるため、英語１で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 16 (1)	スリランカ　ゆうき農法を始めて大惨事に Sri Lanka's Plunge into Organic Farming Brings Disaster 小テスト
2	Unit 16 (2)	（前回の続き） Is organic farming truly sustainable?
3	Unit 18 (1)	ベンガル湾で大洪水　住民はマングローブの森に避難 Facing Disastrous Floods, They Turned to Mangrove Trees for Protection 小テスト
4	Unit 18 (2)	（前回の続き） A reappraisal of mangrove forests
5	Unit 19 (1)	トルコで超インフレとの戦い Turkey's war with inflation: 'Prices change daily and everyone is scared' 小テスト
6	Unit 19 (2)	（前回の続き） Turkey's financial crisis with an inflationary spiral
7	Unit 21 (1)	韓国での「多文化主義」とは How 'Multiculturalism' Became a Bad Word in South Korea 小テスト
8	Unit 21 (2)	（前回の続き） Yoon elected as new South Korean president
9	Unit 22 (1)	アフリカでクーデター多発の理由 Five African countries. Six coups. Why now? 小テスト
10	Unit 22 (2)	（前回の続き） Political instability among Sahelian countries
11	Unit 23 (1)	リオのカーニバルのパレードを巡り争い騒ぎ Rio carnival groups fight for right to party ahead of official celebrations 小テスト
12	Unit 23 (2)	（前回の続き） Street carnival under the pandemic
13	予備日およびパラグラフ・ライティング指導	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	試験・まとめと解説	年度全体の授業の講評 筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。
この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします)。
具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。
・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなっていたら、どこかで読み間違えているはずです。
・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】
高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2022 年度版--)』、朝日出版社、2022 年、1700 円（税別）

【参考書】
（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。
大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。
『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。
前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。
筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。
読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。
また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。
平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
・欠席および遅刻について
学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失ないます。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。
高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいると思います。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの１年間こそが最も大切だとも言えます。
せっかく国際文化学部に入学したのですから、ただごまかし続けて１年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】
Course outline:
As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.
Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.
In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.
Learning Objectives:
Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.
Grading Criteria/Policy:
Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

栗飯原　文子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
・定期的に小テストを実施する。
・学期最後の授業において期末試験をおこなう。
・課題や試験へのフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションと自己紹介	授業の概要と進め方、成績評価の基準について説明。ひとりずつ英語で自己紹介をおこなう。
第 2 回	Unit 1 Why is God So Quiet?	Unit 1 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 1 Why is God So Quiet の続き	Unit 1 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke	Unit 2 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 2 The Olympic Ideal-Up in Smoke の続き	Unit 2 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 3 How to Lose a Trillion Dollars	Unit 3 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do?	Unit 4 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 4 Is Democracy the Best We Can Do? の続き	Unit 4 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 5 You Can Always Reach Me	Unit 5 の精読。補助教材による速読の練習。
第 11 回	Unit 5 You Can Always Reach Me の続き	Unit 5 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 12 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath	Unit 6 の精読。補助教材による速読の練習。
第 13 回	Unit 6 I Like to Read in the Bath の続き 春学期の復習	Unit 6 の練習問題。春学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	春学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・平常点　10 %
・小テスト・課題の提出　30 %
・期末テスト　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リーディング中心の授業ではあるが、リスニングの練習も増やしたい。

【その他の重要事項】
・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course. [Learning objectives] By the end of this course, students will have the ability to more quickly and accurately understand a variety of texts, and improve their vocabulary and learn to love to read. [Learning activities outside of classroom] Before each class session, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting. [Grading policy] Grading will be decided based on the following: in class contribution 10%, small tests & short reports 30% and term-end examination 60%.

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

粟飯原　文子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文化と社会をめぐる諸問題を扱ったエッセイの読解をとおして、長文の英語を正確かつ速く読みとる力を養う。これまでに身につけた文法や構文を復習し、エッセイやニュースを読むうえで必要な語彙や表現を習得する。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる長文を読解する能力を身につける。パラグラフの構造をおさえながら、全体の概要を把握し自分の言葉で説明できるようにする。
・文法や構文を理解したうえで、細部を正確に読み取るとともに、できるかぎり速く全体の内容をつかむ力を伸ばす。
・語彙力を強化し、なるべく辞書に頼らずにエッセイやニュース記事を読む力を養う。
・後半の授業では 4 度にわたり、パラグラフ・ライティングを学び、課題としてワンパラグラフ（100 語程度）の作文に取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的に教科書にそって進めていくが、その他の教材も用いて、さまざまな文章に触れる。
・学期の半ばで、読みたい英文記事を提出してもらい、互いに批評する。
・定期的に小テストを実施する。
・学期最後の授業において期末試験をおこなう。
・課題や試験へのフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションとプレゼンテーション	秋学期の授業の概要と進め方について説明。各自、短いプレゼンテーションをおこなう。
第 2 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!	Unit 7 の精読。補助教材による速読の練習。
第 3 回	Unit 7 Big Brother is Watching You!の続き	Unit 7 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 4 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?	Unit 8 の精読。補助教材による速読の練習。
第 5 回	Unit 8 The Internet-Is It All Good?の続き	Unit 8 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 6 回	Unit 9 Fighting is Good for You	Unit 9 の精読。補助教材による速読の練習。
第 7 回	Unit 9 Fighting is Good for You の続き	Unit 9 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 8 回	Unit 10 Food is Cruel	Unit 10 の精読。補助教材による速読の練習。
第 9 回	Unit 10 Food is Cruel の続き	Unit 10 の練習問題。補助教材による速読の練習。
第 10 回	Unit 11 But It's the Right Answer! パラグラフ・ライティング①	Unit 11 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 11 回	Unit 11 But It's the Right Answer!の続き パラグラフ・ライティング②	Unit 11 の練習問題。補助教材による速読の練習。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 12 回	Unit 12 University is a Waste of Time パラグラフ・ライティング③	Unit 12 の精読。パラグラフ・ライティングを学ぶ。
第 13 回	Unit 12 University is a Waste of Time の続き パラグラフ・ライティング④、全体の復習	Unit 12 の練習問題。パラグラフ・ライティングを学ぶ。秋学期の復習をおこなう。
第 14 回	期末試験とまとめ	秋学期で学んだ教科書の範囲から期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・毎週、予習は必ずおこなうこと。
・定期的に小テストを実施するので、入念に準備すること。
・期末試験は学期中に学んだ教科書の範囲内から出題する。
毎回しっかりと問題に取り組み、各自で復習をおこなっておくこと。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Eat the World Alive: 16 Hot Global Topics, 成美堂, 2011 年

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・平常点　10 %
・小テスト・課題の提出　30 %
・期末テスト　60 %
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が積極的に授業に参加できるよう、教材や授業の進め方について工夫をおこないたい。リスニングの練習を増やし、ライティング課題へのフィードバックをより丁寧におこなうよう心がけたい。

【その他の重要事項】
・4 回欠席すると自動的に単位取得の資格を失うので注意すること。また、大幅な遅刻は欠席とみなす。
・辞書（電子辞書でも可）を必ず持参すること。
なお、携帯電話を用いることは不可。

【Outline (in English)】
[Course outline] This course aims to help students acquire advanced reading skills through a wide range of reading materials of different genres and styles. Intensive and extensive reading, listening and writing activities and vocabulary development will be important elements of the course. [Learning objectives] By the end of this course, students will have the ability to more quickly and accurately understand a variety of texts, and improve their vocabulary and learn to love to read. [Learning activities outside of classroom] Before each class session, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting. [Grading policy] Grading will be decided based on the following: in class contribution 10%, small tests & short reports 30% and term-end examination 60%.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

岩下　弘史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステクストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテクストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。 またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
・テクスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には以下の手順で進めます。
・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
・読解解説 (指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です)
・読んだテクストのリスニング (ディクテーション含む)
・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語―演習と解説 2023 年度版―』（朝日出版社、2023 年）

【参考書】
「ジーニアス英和辞典」（大修館）
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンや板書の文字の大きさには注意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.
At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Their overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

岩下　弘史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステクストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むことになりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかり聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテクストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。 またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】
・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
・テクスト内に出てきた単語をしっかり暗記しボキャブラリーを増やす。
・辞書を使いながら英文の構造をしっかり理解して読めるようになる。
・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は基本的には以下の手順で進めます。
・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
・読解解説 (指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です)
・読んだテクストのリスニング (ディクテーション含む)
・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】
『15 章版：ニュースメディアの英語―演習と解説 2023 年度版―』（朝日出版社、2023 年）

【参考書】
「ジーニアス英和辞典」（大修館）
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
スクリーンや板書の文字の大きさには注意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.
At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Their overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容をまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、日本語・英語で他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語・英語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Culture Shock（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Culture Shock（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	Coffee（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	Coffee（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	Today's Technology（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	Today's Technology（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Urban Life（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Urban Life（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	The Body Beautiful（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	The Body Beautiful（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 2

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

英語３

2017 年度以降入学者

田中　邦佳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの１つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。２つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容をまとめて説明することです。１文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、日本語・英語で他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】
・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語・英語で説明する
・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
テキストは目安として２～３回の授業で１章分というペースで進めることを目標とします。１章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行いますが、一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	The Piracy Business（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	The Piracy Business（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	Accessories Of Life（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	Accessories Of Life（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	Fashion（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	Fashion（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Social Networking（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Social Networking（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 11 回	Skincare（前半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	Skincare（後半）	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】
・Essential Reading Second Edition Level 2

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト (40%)
欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】
単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.
Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.
Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course
Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Unit 1 Extreme Sports	Group discussion Individual vs team sports
Class 4	Unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Unit 2 Identity Theft	Group discussion How to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences
Class 7	Unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Unit 3 Space Exploration	Group discussion Future of space tourism
Class 9	Unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals
Class 10	Unit 4 Being Persuasive	Group discussion Comparative advertising
Class 11	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 12	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson) ISBN 978-0-13-404981-6 (￥3,564)

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)
*Assignment 2—Prepare a 3-5 speech on
a. What makes you different from other people? or,
b. What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Unit 6 Tourism	Design a tour campaign for a local Japan site
Class 6	Writing workshop	Writing a paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Unit 7 Marriage	Group discussion Pros & cons of marriage
Class 9	Unit 8 Climate change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Unit 8 Climate change	Group discussion Ways to address climate change
Class 11	Individual speech (3-5 min)	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?
Class 12	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (￥3,564)

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)
*Assignment 2 — Prepare a 3-5 min speech on
a. What would you like to change about yourself? or,
b. What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing skills. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language through individual and group work. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual, pair and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Unit 1: Offbeat Jobs (1)	Focus on Topic Focus on Listening
3	Unit 1: Offbeat Jobs (2)	Focus on Speaking
4	Short Presentations	Presentation
5	Unit 2: Where Does the Time Go? (1)	Focus on Topic Focus on Listening
6	Unit 2: Where Does the Time Go? (2)	Focus on Speaking
7	Unit 3: A Penny Saved is a Penny Earned (1)	Focus on Topic Focus on Listening
8	Unit 3: A Penny Saved is a Penny Earned (2)	Focus on Speaking
9	Unit 4: What Happened to Etiquette? (1)	Focus on Topic Focus on Listening
10	Unit 4: What Happened to Etiquette? (2)	Focus on Speaking
11	Preparation for Presentation (1)	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation (2)	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Frazier. (2020). NorthStar 2: Listening & Speaking. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN:9780135232668 (￥3,600 ＋税).
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
Bring a dictionary (electronic or paper) to class. Zoom meetings may also be held if necessary. In Zoom classes, prepare a headset with a microphone to avoid audio feedback. Google Classroom is used for assignment submissions and class materials.

【その他の重要事項】
Any form of misconduct (e.g., cheating and plagiarism - using without proper citation to the source) is unacceptable. The instructions on how to avoid plagiarism are provided in class.

【Outline (in English)】
English 2 focuses on developing basic academic English skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions and presentations and to reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%).

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 4 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing skills. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language through individual and group work. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs and essays in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Unit 5: The Sounds of Our Lives (1)	Focus on Topic Focus on Listening
3	Unit 5: The Sounds of Our Lives (2)	Focus on Speaking
4	Short Presentations	Presentation
5	Unit 6: Everyday Heroes (1)	Focus on Topic Focus on Listening
6	Unit 6: Everyday Heroes (2)	Focus on Speaking
7	Unit 7: Take Care of Yourself (1)	Focus on Topic Focus on Listening
8	Unit 7: Take Care of Yourself (2)	Focus on Speaking
9	Unit 8: Endangered Languages (1)	Focus on Topic Focus on Listening
10	Unit 8: Endangered Languages (2)	Focus on Speaking
11	Preparation for Presentation (1)	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation (2)	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Frazier. (2020). NorthStar 2: Listening & Speaking. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN: 9780135232668 (￥3,600 ＋税).
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
Bring a dictionary (electronic or paper) to class. Zoom meetings may also be held if necessary. In Zoom classes, prepare a headset with a microphone to avoid audio feedback. Google Classroom is used for assignment submissions and class materials.

【その他の重要事項】
Any form of misconduct (e.g., cheating and plagiarism - using without proper citation to the source) is unacceptable. The instructions on how to avoid plagiarism are provided in class.

【Outline (in English)】
English 4 focuses on developing basic academic English skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions and presentations and to reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%).

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.
An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

【到達目標】
The goal of this course is to give the student confidence in their practical English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In principle this is a face to face class. If the necessity arises it can be given online via Zoom, and students will be fully informd of any changes via Hoppii.
The emphasis is on confidence building through practise.
Students will be given varied opportunities to communicate in English with each other and the teacher.
A textbook covering all the English language skills provides an anchor for studies, but extensive extra materials will also be used.
Students will give small-group presentations in class in the middle of the semester on topics relevant to study abroad.
Feedback on assignments will be given to individual students face to face.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Familiarising with the course and teacher.
2	Self-introduction	How to present yourself in class and outside.
3	Language	Looking at the English language and its place in the world.
4	Numbers	A variety of uses for numbers and how we express them.
5	Locations	How to explain and use locations from small to global.
6	Time	The various expressions and importance of time.
7	Preparation for presentations	Topics, group formation and planning for the following week.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	Relationships	Exploring family and other relationships across cultures.
10	Animals	A different set of relationships.
11	Home	Where we live and how it compares with other cultures.
12	Food	What we eat, why and how we eat it.
13	Sport	What, How and Why we play.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Pre-reading texts.　Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 35%
Writing tasks: 20%
Presentation : 20%
Final interview test 25%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.
An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.
Once again the emphasis is on confidence through practise.

【到達目標】
The goal is to achieve confident communication across cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
In principle this is a face to face class. If the necessity arises it can be given online via Zoom, and students will be fully informd of any chnges via Hoppii.
Please see Hoppii for details.n these classes students will address the wider world, communicating their own opinions and responding to those of others.
Continuing with the same basic text we will also use other media from host countries to explore daily life and cultural context.
There will be small-group presentations in class.
Feedback on assignments will be given face to face to individual students.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course content including writing example.
2	Entertainment	Movies, TV, Games and how we use them.
3	News	How we get our news. Writing week.
4	Work	Jobs in Japan and across the world.
5	Skills	What we can and can't do. Writing week.
6	Education	Learning in different cultures.
7	Presentation preparation	Forming groups, choosing topics and planning for next class.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	People	Examining how we feel about particular people. Writing week.
10	Weather	The seasons and weather as cultural phenomena.
11	Travelling	Good and bad experiences. Writing week.
12	Life events	Examining rites of passage.
13	Life on earth	Discussing nature. Writing week.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Pre-reading texts.　Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two- credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Participation: 35%
Writing tasks: 20%
Presentation : 20%
Final interview test 25%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【Outline (in English)】
Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.
Once again the emphasis is on confidence through practise.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

JAMES O ESSEX

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の俳句・川柳と英語の俳句・川柳には大きな違いがあり、俳句・川柳の起源や歴史に触れた後、その違いに注目する。
このコースの第一の目的は、英語の俳句と川柳を鑑賞し、学び、書くことである。受講生は、すでに書かれた俳句・川柳や、クラスメートの俳句・川柳を分析し、議論する機会を持つことができます。
このコースは、主にライティングのコースですが、スピーキングとリーディングも含まれます。また、分析力、批判的思考力、プレゼンテーション能力を向上させる機会も与えられています。

【到達目標】
By the end of this course, students will be better able to write English-language haiku and short analyses/commentaries on those already written be established haijin.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The professor will expose students to the variations that exist between English-language haiku/senryu and those of Japanese by formal instruction/lecture and by providing examples.
The professor will also teach students how to "read" haiku and disect/analyze them.
In addition, Students will also be given opportunities to apply theory to practice by writing their own haiku. The professor will guide and advise students in this endeavour.
Regarding feedback, this will be provided face-to-face in the classroom or through Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism (ii) Introduction to Haiku	The professor will introduce the class and explain in greater detail the syllabus.
第 2 回	A History of Haiku	Students will explore the history of haiku and discuss key stages in the form's development.
第 3 回	What a haiku is...	Students will explore the defining features of haiku and discuss/share their favourite haiku
第 4 回	... And what a haiku isn't	Students will explore the common mistakes that novice haijin make when writing haiku, and discuss/share some of their own ideas.
第 5 回	Prosody: On and Syllables (1)	Students will explore the prosodic differences between on and syllables, and discuss various haiku in relation to this.
第 6 回	Mid-Term Assessment	Short written and discussion test. May also include recitaton of haiku composed by students based on input to date.
第 7 回	Mid-term assessment feedback + The need for brevity and to read between the lines	Students will be provided with feedback on their mid-term assessment before exploring the need for brevity and the idea of "what is not said" in haiku. Students will discuss a range of haiku in this regard.
第 8 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Spring and Summer)	Students will explore kigo words for spring and summer and discuss a range of haiku that draw on these.
第 9 回	Kigo, Kiyose and Saijiki (Autumn, Winter and New Years)	Students will explore kigo words for Autumn, winter and new year, and discuss a range of haiku that draw on these.
第 10 回	Kireji	Students will explore the function of kireji and discuss a range of haiku that draw on this feature of haiku.
第 11 回	Lost in translation	Students will explore the pitfalls of translating haiku from Japanese to English, and discuss a range of haiku that have been translated.
第 12 回	Lost (and found) in translation	Students will explore successes of translated haiku, and discuss a range of haiku that have been translated.
第 13 回	Final assessment	Short written and discussion test. May also include recitaton of haiku composed by students based on the semester's input.
第 14 回	Final assessment feedback	Students will be provided with feedback on their final assessment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about one hour each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】
There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extrempaneous basis.

【成績評価の方法と基準】
Haiku Portfolio (Portfolio of haiku/senryu written by students that demonstrates understanding of course content, and presented in the format as requested by the professor.): 60%
Participation: 15%
Mid-term Assessment: 10%
Final Assessment: 10%
Report: 5%

【学生の意見等からの気づき】
From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of students' comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook, pen... the usual!
AND
a black signpen and 1 packet of C-531 (5x3 size) blank cards*
* Professor will show an example in the first class.

【その他の重要事項】
* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is
presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.
* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!
* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.
* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

【Outline (in English)】
There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English, and this course, after exploring the origins and history of haiku and senryu, will draw students' attention to these differences.
The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to analyze and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.
This course, while predominately a writing course, also involves speaking and reading. Students are also given opportunities to improve their analytic, critical thinking and presentation skills.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

JAMES O ESSEX

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語で書かれた俳句・川柳と英語で書かれた俳句・川柳には大きな違いがあり、このコースでは Writing 3 B をベースに、その違いを探求する。
このコースの主な目的は、英語の俳句と川柳を鑑賞し、学び、書くことである。生徒は、すでに書かれた俳句と川柳、およびクラスの仲間の俳句と川柳を分析し、議論する機会を与えられる。
このコースは主にライティングのコースですが、スピーキングとリーディングも含まれます。また、分析力、批判的思考力、プレゼンテーション能力を向上させる機会も提供されます。

【到達目標】
In building on Writing 3A, by the end of this course (Writing 3B), students will be even better able to write English-language haiku and short analyses/commentaries on those already written be established haijin.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The professor will expose students to the variations that exist between English-language haiku/senryu and those of Japanese by formal instruction/lecture and by providing examples.
The professor will also teach students how to "read" haiku and disect/analyze them.
In addition, Students will also be given opportunities to apply theory to practice by writing their own haiku. The professor will guide and advise students in this endeavour.
Regarding feedback, this will be provided face-to-face in the classroom or through Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(i) Orientation Syllabus Expectations Academic Honesty/Plagiarism	The professor will introduce the syllabus and answer students' questions.
第 2 回	The Old Masters (Basho and Buson)	The professor will introduce the work of Basho and Buson, and students will practice writing their own haiku.
第 3 回	The Other Two Old Masters (Issa and Shiki)	The professor will introduce the work of Issa and Shiki, and students will practice writing their own haiku.
第 4 回	Women Can Do It Too, Y'know! (1)	The professor will introduce the work of prominent female haijin, and students will practice writing their own haiku.
第 5 回	Women Can Do It Too, Y'know! (2)	The professor will introduce more work from prominent female haijin, and students will practice writing their own haiku
第 6 回	Gendai Haiku	The professor will introduce gendai haiku, and students will practice writing their own haiku.
第 7 回	More Gendai Haiku	The professor will introduce more gendai haiku and students will practice writing their own haiku.
第 8 回	(i) Mid-Term Test (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (1)	Students will take the mid-term test, after which the professor will introduce the need for brevity and reading between the lines. Students will practice writing their own haiku.
第 9 回	(i) Mid-Term Test (Feedback) (ii) The Need for Brevity and to Read Between the Lines (2)	The professor will provide students with mid-term assessment feedback, after which students will practice writing their own haiku
第 10 回	Death Poems (1)	The professor will introduce death poems, and students will practice writing their own haiku.
第 11 回	Death Poems (2)	The professor will introduce more death poems, after which students will practice writing their own haiku.
第 12 回	Other Devices Used in Haiku	The professor will introduce various devices used in haiku and students will practice writing their own.
第 13 回	Even More Devices Used in Haiku	The professor will introduce more devices used in haiku and students will further practice writing their own.
第 14 回	Final Test * Haiku portfolios must also be submitted today in the exact format as requested by the professor. Test feedbac	Students will take the final test, and submit their portfolios.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Homework will be assigned each week, and students will be expected to spend about one hour each week on this. Homework will usually consist of writing haiku or commentaries on haiku already in the public domain, but may differ at the discretion of the professor according to the needs of the class. 2-3 longer reports will be assigned throughout the semester.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook for this class but copious amounts of material will be provided, either on paper* or through Hoppii.

【参考書】
There is no particular reference book for this course; rather the professor will highlight useful references on an ad-hoc and extrempaneous basis.

【成績評価の方法と基準】
Haiku Portfolio (Portfolio of haiku/senryu written by students that demonstrates understanding of course content, and presented in the format as requested by the professor.): 60%
Participation: 15%

Mid-term Assessment: 10%
Final Assessment: 10%
Report: 5%

【学生の意見等からの気づき】
From this year, the course has been given a complete overhaul as a result of student comments, which not only makes the course more beneficial to students from an educational perspective, but more enjoyable too.

【学生が準備すべき機器他】
Notebook, pen... the usual!
AND
a black signpen and 1 packet of C-531 (5x3 size) blank cards*
* Professor will show an example in the first class.

【その他の重要事項】
* Students are responsible for keeping a tally of their own attendance/absences throughout the semester. The professor will not answer emails or queries sent through Hoppii regarding the number of times a student has been absent. It is vital that students understand the professor's attendance policy: if a student is absent three times (authorized or unauthorized, i.e. for ANY reason) that student will not be able to pass the course. This includes being absent for the first lesson. DO NOT EMAIL THE PROFESSOR IN ADVANCE OF AN ABSENCE OR POST-ABSENCE: Please wait until you return to class and speak directly with the professor. Punctuality is expected. 2x late = absent. If you are more than 15 minutes late, you will be recorded as 'absent', even when a 電車遅延証明書 is
presented. If the train you tend to take is often delayed, consider taking an earlier train. If you often rely on 寝坊 as an excuse, consider asking a friend or family member to wake you up earlier.
* The professor does not accept - late or otherwise - assignments/homework by email.
* Smartphones/mobile phones must be left in bags. If you think you're going to need a dictionary, invest in one. Rather than taking photos of the board, take memos: you'll retain more information!
* Deadlines are deadlines: assignments submitted after the deadline (for whatever reason) will be ungraded.
* The content of this syllabus is subject to change at the professor's discretion.
* Occurrences of plagiarism are taken very seriously and will be dealt with accordingly.

【Outline (in English)】
There are vast differences between the form of haiku and senryu written in Japanese and those written in English, and this course builds on Writing 3 B in exploring these differences. The primary aim of this course is to foster an appreciation for, learn about - and write - English-language haiku and senryu. Students will be given opportunities to analyze and discuss haiku and senryu already written, and those of their peers in the class.
This course, while predominately a writing course, also involves speaking and reading. Students are also given opportunities to improve their analytic, critical thinking and presentation skills.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English for learning about the world and for self expression.
In this unit students will develop their English ability through exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will learn to listen and read about various topics. They will be required to discuss these topics and to take notes and complete written tasks. They will learn to present information and their own opinions on topics through oral presentations and by writing short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English (but explanations will be provided in Japanese when necessary). Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, and by delivering a presentation. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. There will also be a short final essay writing task. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language. They will also expand their vocabulary by engaging with different topics and specific vocabulary used in different contexts.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students will be given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions	introducing the syllabus. Students introduce themselves. Writing task: write a short introduction of yourself in two sentences.
Week 2	Our World [Chapter 1 from the text book]	Billion people in the world Reading comprehension/ Video viewing listening. Homework: Write a short reflection of two or three sentences on the topic.
Week 3	Our world — A Connected World [Chapter 1]	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions on topic in pairs. Homework: Write a short reflection of two or three sentences.
Week 4	Our world (Writing)	Writing tasks (from Chapter 1) Language for Writing: What is a sentence Complete writing task in class. Look at their neighbor's work. Instruction and additional resources on writing sentences. Home work: Complete writing task from the textbook and upload them before next class to be checked together in class
Week 5	Career Paths — About various jobs (Chapter 2)	Dream jobs. In pairs, discuss what would be your dream job. Complete reading and comprehension tasks in class.
Week 6	Career Paths (reading and comprehension tasks)	Cave Scientist (Viewing/listening) and Life in the Ring (Reading and comprehension) Complete reading and comprehension tasks in class Discussions about the video on working in pairs.
Week 7	Career Paths — Writing (Chapter 2)	Writing: descriptive sentences Editing practice Writing Task – Describing plans and dreams for the future. Homework: writing task for marking in next class.
Week 8	Theme: Travel Adventures (Chapter 3)	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions about the video on working in pairs.
Week 9	Travel Adventures (Chapter 3)Adventure and a guide to London	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs. Instruction on presentations/ presenting ideas.
Week 10	Travel Adventures (Chapter 3) Writing	Writing exercises various. Students to complete writing descriptive sentences based on notes. Writing Task: Write a walking tour of an area you know well. Instruction on note taking and writing paragraphs. Practice presentations. Introduce a place you know well to your partner. Homework: Prepare a Presentation on a place you know well
Week 11	The Visual Age (Chapter 4)	Follow up on last week homework: introduce a place you know well to your partner. Reading tasks: the visual age and Sharing Success Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs.
Week 12	The Visual Age (Chapter 4) Social Media and Photography	Social Media and Photographic Images. Video listening and Reading tasks. Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs.

Week 13	The Visual Age (Chapter 4) Writing	Writing tasks on websites or apps you use. Write descriptive sentences about websites and applications you use online.
Week 14	Final Week presentations	Presentations in groups on websites or apps you use. Reflections on the unit overall. Reminder about submitting final written assignment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass and Mari Vargo (2018). Pathways: Reading and Writing, and Critical Thinking, < Foundations > , Second Edition, Student Book. National Geographic Learning. ISBN:9781337625098

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, complete various comprehension and writing tasks, prepare one presentation, and complete writing assignments.
In class reading and listening comprehension, discussion, and writing tasks. 30%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)
Presentations (submitted presentations and presentation notes, and student assessments). 30%
Written homework tasks and final writing assignment. 40%

【学生の意見等からの気づき】
There is no student feedback as this is the teacher's first year teaching this course.
The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
English for learning about the world and for self expression.
In this unit students will develop their English ability through exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English for learning about the world and for self expression. Following on from English 2［英語 2］, this course will build on students English ability by continuing to exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will learn to listen and read about various topics. They will be required to discuss these topics and to take notes and complete written tasks. They will learn to present information and their own opinions on topics through oral presentations and by writing short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English (but explanations will be provided in Japanese when necessary). Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, and by delivering a presentation. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. There will also be a short final essay writing task. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language. They will also expand their vocabulary by engaging with different topics and specific vocabulary used in different contexts.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students will be given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions	Introducing the syllabus. Students introduce themselves. (Where you are from, your major at university, the student circle or club you are involved in). Homework: Writing task — write one or two paragraphs about your self.
Week 2	Taking a Risk (Chapter 5)	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Taking a Risk (Unit 5) Video and Reading	Killer Crocs/ Risk-takers Video and Reading. Complete listening and reading comprehension tasks in class. Discuss readings and video in small groups.
Week 4	Taking a Risk (Unit 5) Writing	Writing task: Risks you do or don't take. Instruction on essay writing: outline and thesis statements Writing homework to be completed for next class
Week 5	Saving the Wild (Unit 6)	Review of writing task on "Risks" 6.1 Animals in Danger / Sea Turtles Reading and listening comprehension. Complete comprehension tasks in class. Discuss readings in pairs.
Week 6	Saving the Wild (Unit 6) Saving endangered animals/ Animal photography	Reading and listening. Complete comprehension tasks in class. Discuss topics in pairs.
Week 7	Saving the Wild (Unit 6) Writing	Completing writing tasks in class. Writing about animals featured in the text. Instruction on essay writing: paragraphs and argument. Homework: write two paragraphs introducing an endangered animal.
Week 8	Great Inventors (Unit 7) Inventors from history.	Review homework in class from last week. Complete reading comprehension tasks in class. Discuss topics in pairs.
Week 9	Great Inventors (Unit 7) — Computing	Complete reading comprehension tasks in class. Discussion in groups of 3 or 4 regarding innovators/ business people (e.g. Bill Gates).
Week 10	Great Inventors (Unit 7) — Writing	Writing tasks to be completed in class. Writing task on justification for day of commemoration for inventors. Instruction on essay writing: Making an argument and conclusion Homework: Write a structure for essay.
Week 11	Alien World (Unit 8) — Space	Reading on space. Compete reading comprehension tasks in class. Discussion in class about space in pairs.
Week 12	Alien World (Unit 8) Under the Sea	Mysterious Waters. Video and Reading. Complete listening and reading comprehension tasks in class. Discussion deep sea in pairs.
Week 13	Final presentations	Writing tasks. Completing writing tasks in text book. Expressing your opinion in writing regarding topics covered in Unit 8.

Week 14	Course wrap up	Presentation on a topic of your choice in groups. Submit power point and presentation notes. Student feed back on presentations. Final essay submission

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass and Mari Vargo (2018). Pathways: Reading and Writing, and Critical Thinking, < Foundations > , Second Edition, Student Book. National Geographic Learning. ISBN:9781337625098

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, complete various comprehension and writing tasks, prepare one presentation, and complete writing assignments.
In class reading and listening comprehension, discussion, and writing tasks.
- 30%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)
Presentations (submitted presentations and presentation notes, and student assessments) 30%
Written homework tasks and final writing assignment. 40%

【学生の意見等からの気づき】
There is no student feedback as this is the teacher's first year teaching this course.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
English for learning about the world and for self expression.
Following on from English 2［英語 2］, this course will build on students English ability by continuing to exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1A Would you get the job?	figuring out meaning from context
4	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
5	1B Personality test	the..., the... + comparatives
6	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
7	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
8	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
9	2B Dressing one's age	writing descriptions
10	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
11	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
12	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
13	3B "The Necklace"	reading a short story. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3B "A small mistake"	writing a short story.
2	4A Stormy weather	future perfect and future continuous.
3	4B A risky business	zero and first conditionals
4	4B Extreme sports	expressions with "take"
5	5A I'm a survivor	feelings, word stress
6	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
7	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
8	5B Regrets	wish for past regrets
9	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
10	6A Facts about sleep	causal explanations
11	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
12	7B How to spot a liar	describing a photo
13	8A Cutting crime	the passive (all forms). Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Unit 1 Extreme Sports	Group discussion Team vs individual sports
Class 4	Unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Unit 2 Identity Theft	Group discussion How to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences
Class 7	Unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Unit 3 Space Exploration	Group discussion Future of space tourism
Class 9	Unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals
Class 10	Unit 4 Being Persuasive	Group discussion Comparative advertising
Class 11	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 12	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson) ISBN 978-0-13-404981-6 (￥3,564)

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)
*Assignment 2—Prepare a 3-5 min speech on
a. What makes you different from other people? or,
b. What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】
Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Unit 6 Tourism	Design a tour campaign for a local Japanese site
Class 6	Writing workshop	Writing a paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Unit 7 Marriage	Group discussion Pros & cons of marriage
Class 9	Unit 8 Climate change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Unit 8 Climate change	Group discussion Ways to address climate change
Class 11	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?
Class 12	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (￥3,564)

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)
*Assignment 2 — Prepare a 3-5 min speech on
a. What would you like to change about yourself? or,
b. What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing skills. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language through individual and group work. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
[Goal]
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual, pair and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Unit 1: Offbeat Jobs (1)	Focus on Topic Focus on Listening
3	Unit 1: Offbeat Jobs (2)	Focus on Speaking
4	Short Presentations	Presentation
5	Unit 2: Where Does the Time Go? (1)	Focus on Topic Focus on Listening
6	Unit 2: Where Does the Time Go? (2)	Focus on Speaking
7	Unit 3: A Penny Saved is a Penny Earned (1)	Focus on Topic Focus on Listening
8	Unit 3: A Penny Saved is a Penny Earned (2)	Focus on Speaking
9	Unit 4: What Happened to Etiquette? (1)	Focus on Topic Focus on Listening
10	Unit 4: What Happened to Etiquette? (2)	Focus on Speaking
11	Preparation for Presentation (1)	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation (2)	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Frazier. (2020). NorthStar 2: Listening & Speaking. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN: 9780135232668 (￥3,600 ＋税).
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
Bring a dictionary (electronic or paper) to class. Zoom meetings may also be held if necessary. In Zoom classes, prepare a headset with a microphone to avoid audio feedback. Google Classroom is used for assignment submissions and class materials.

【その他の重要事項】
Any form of misconduct (e.g., cheating and plagiarism - using without proper citation to the source) is unacceptable. The instructions on how to avoid plagiarism are provided in class.

【Outline (in English)】
English 2 focuses on developing basic academic English skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions and presentations and to reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%).

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 4 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing skills. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language through individual and group work. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs and essays in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Unit 5: The Sounds of Our Lives (1)	Focus on Topic Focus on Listening
3	Unit 5: The Sounds of Our Lives (2)	Focus on Speaking
4	Short Presentations	Presentation
5	Unit 6: Everyday Heroes (1)	Focus on Topic Focus on Listening
6	Unit 6: Everyday Heroes (2)	Focus on Speaking
7	Unit 7: Take Care of Yourself (1)	Focus on Topic Focus on Listening
8	Unit 7: Take Care of Yourself (2)	Focus on Speaking
9	Unit 8: Endangered Languages (1)	Focus on Topic Focus on Listening
10	Unit 8: Endangered Languages (2)	Focus on Speaking
11	Preparation for Presentation 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Frazier. (2020). NorthStar 2: Listening & Speaking. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN: 9780135232668 (￥3,600 ＋税).
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria:
Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
Bring a dictionary (electronic or paper) to class. Zoom meetings may also be held if necessary. In Zoom classes, prepare a headset with a microphone to avoid audio feedback. Google Classroom is used for assignment submissions and class materials.

【その他の重要事項】
Any form of misconduct (e.g., cheating and plagiarism - using without proper citation to the source) is unacceptable. The instructions on how to avoid plagiarism are provided in class.

【Outline (in English)】
English 4 focuses on developing basic academic English skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions and presentations and to reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Quizzes & Homework (30%); Presentation (30%); Final Exam (25%).

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English for learning about the world and for self expression.
In this unit students will develop their English ability through exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will learn to listen and read about various topics. They will be required to discuss these topics and to take notes and complete written tasks. They will learn to present information and their own opinions on topics through oral presentations and by writing short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English (but explanations will be provided in Japanese when necessary). Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, and by delivering a presentation. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. There will also be a short final essay writing task. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language. They will also expand their vocabulary by engaging with different topics and specific vocabulary used in different contexts.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students will be given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introductions	Introducing the syllabus. Students introduce themselves. Writing task: write a short introduction of yourself in two sentences.
Week 2	Our World [Chapter 1 from the text book]	Billion people in the world Reading comprehension/ Video viewing listening. Homework: Write a short reflection of two or three sentences on the topic.
Week 3	Our world — A Connected World [Chapter 1]	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions on topic in pairs. Homework: Write a short reflection of two or three sentences.
Week 4	Our world (Writing)	Writing tasks from Chapter 1) Language for Writing: What is a sentence Complete writing task in class. Look at their neighbor's work. Instruction and additional resources on writing sentences. Home work: Complete writing task from the textbook and upload them before next class to be checked together in class.
Week 5	Career Paths — About various jobs (Chapter 2)	Dream jobs. In pairs, discuss what would be your dream job. Complete reading and comprehension tasks in class.
Week 6	Career Paths (Chapter 2)	Cave Scientist (Viewing/listening) and Life in the Ring (Reading and comprehension) Complete reading and comprehension tasks in class Discussions about the video on working in pairs.
Week 7	Career Paths — Writing (Chapter 2)	Writing: descriptive sentences Editing practice Writing Task – Describing plans and dreams for the future. Homework: writing task for marking in next class.
Week 8	Travel Adventures (Chapter 3)	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions about the video on working in pairs.
Week 9	Travel Adventures (Chapter 3)Adventure and a guide to London	Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs. Instruction on presentations/ presenting ideas.
Week 10	Travel Adventures (Chapter 3) Writing	Writing exercises various. Students to complete writing descriptive sentences based on notes. Writing Task: Write a walking tour of an area you know well. Instruction on note taking and writing paragraphs. Practice presentations. Introduce a place you know well to your partner. Homework: Prepare a Presentation on a place you know well
Week 11	The Visual Age (Chapter 4)	Follow up on last week homework: introduce a place you know well to your partner. Reading tasks: the visual age and Sharing Success Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs.
Week 12	The Visual Age (Chapter 4) Social Media and Photography	Social Media and Photographic Images. Video listening and Reading tasks. Complete reading and comprehension tasks in class. Discussions based on readings in pairs.

Week 13	The Visual Age (Chapter 4) Writing	Writing tasks on websites or apps you use. Write descriptive sentences about websites and applications you use online.
Week 14	Final Week presentations	Presentations in groups on websites or apps you use. Reflections on the unit overall. Reminder about submitting final written assignment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass and Mari Vargo (2018). Pathways: Reading and Writing, and Critical Thinking, < Foundations > , Second Edition, Student Book. National Geographic Learning. ISBN:9781337625098

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, complete various comprehension and writing tasks, prepare one presentation, and complete writing assignments.
In class reading and listening comprehension, discussion, and writing tasks.
- 30%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)
Presentations (submitted presentations and presentation notes, and student assessments) 30%
Written homework tasks and final writing assignment. 40%

【学生の意見等からの気づき】
There is no student feedback as this is the teacher's first year teaching this course.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
English for learning about the world and for self expression.
In this unit students will develop their English ability through exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English for learning about the world and for self expression. Following on from English 2［英語 2］, this course will build on students English ability by continuing to exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

【到達目標】
This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will learn to listen and read about various topics. They will be required to discuss these topics and to take notes and complete written tasks. They will learn to present information and their own opinions on topics through oral presentations and by writing short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This course will be conducted entirely in English (but explanations will be provided in Japanese when necessary). Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, and by delivering a presentation. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. There will also be a short final essay writing task. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language. They will also expand their vocabulary by engaging with different topics and specific vocabulary used in different contexts.
Comments and explanation about assignments and answers to questions from students will be given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions	Introducing the syllabus. Students introduce themselves. (Where you are from, your major at university, the student circle or club you are involved in). Homework: Writing task — write one or two paragraphs about your self.
Week 2	Taking a Risk (Chapter 5)	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Taking a Risk (Unit 5) Video and Reading	Killer Crocs/ Risk-takers Video and Reading. Complete listening and reading comprehension tasks in class. Discuss readings and video in small groups.
Week 4	Taking a Risk (Unit 5) Writing	Writing task: Risks you do or don't take. Instruction on essay writing: outline and thesis statements Writing homework to be completed for next class
Week 5	Saving the Wild (Unit 6)	Review of writing task on "Risks" 6.1 Animals in Danger / Sea Turtles Reading and listening comprehension. Complete comprehension tasks in class. Discuss readings in pairs.
Week 6	Saving the Wild (Unit 6) Saving endangered animals/ Animal photography	Reading and listening. Complete comprehension tasks in class. Discuss topics in pairs.
Week 7	Saving the Wild (Unit 6) Writing	Completing writing tasks in class. Writing about animals featured in the text. Instruction on essay writing: paragraphs and argument. Homework: write two paragraphs introducing an endangered animal.
Week 8	Great Inventors (Unit 7) Inventors from history.	Review homework in class from last week. Complete reading comprehension tasks in class. Discuss topics in pairs.
Week 9	Great Inventors (Unit 7) — Computing	Complete reading comprehension tasks in class. Discussion in groups of 3 or 4 regarding innovators/ business people (e.g. Bill Gates).
Week 10	Great Inventors (Unit 7) — Writing	Writing tasks to be completed in class. Writing task on justification for day of commemoration for inventors. Instruction on essay writing: Making an argument and conclusion Homework: Write a structure for essay.
Week 11	Alien World (Unit 8) — Space	Reading on space. Compete reading comprehension tasks in class. Discussion in class about space in pairs.
Week 12	Alien World (Unit 8) Under the Sea	Mysterious Waters. Video and Reading. Complete listening and reading comprehension tasks in class. Discussion deep sea in pairs.
Week 13	Final presentations	Writing tasks. Completing writing tasks in text book. Expressing your opinion in writing regarding topics covered in Unit 8.

Week 14	Course wrap up	Presentation on a topic of your choice in groups. Submit power point and presentation notes. Student feed back on presentations. Final essay submission

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Laurie Blass and Mari Vargo (2018). Pathways: Reading and Writing, and Critical Thinking, < Foundations > , Second Edition, Student Book. National Geographic Learning. ISBN:9781337625098

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are expected to actively participate in class, complete various comprehension and writing tasks, prepare one presentation, and complete writing assignments.
In class reading and listening comprehension, discussion, and writing tasks.
- 30%
(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)
Presentations (submitted presentations and presentation notes, and student assessments) 30%
Written homework tasks and final writing assignment. 40%

【学生の意見等からの気づき】
There is no student feedback as this is the teacher's first year teaching this course.

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】
English for learning about the world and for self expression.
Following on from English 2［英語 2］, this course will build on students English ability by continuing to exploring various topics about the world. They will learn to gain new information in English, to show their understanding, and to express their own opinions in English.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1A Would you get the job?	figuring out meaning from context
4	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
5	1B Personality test	the..., the... + comparatives
6	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
7	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
8	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
9	2B Dressing one's age	writing descriptions
10	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
11	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
12	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
13	3B "The Necklace"	reading a short story. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3B "A small mistake"	writing a short story.
2	4A Stormy weather	future perfect and future continuous.
3	4B A risky business	zero and first conditionals
4	4B Extreme sports	expressions with "take"
5	5A I'm a survivor	feelings, word stress
6	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
7	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
8	5B Regrets	wish for past regrets
9	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
10	6A Facts about sleep	causal explanations
11	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
12	7B How to spot a liar	describing a photo
13	8A Cutting crime	the passive (all forms). Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None in particular.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

佐藤　陽子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through this course students will develop confidence and skill in using English as a means of communication and learning.

【到達目標】
Through this course students will develop confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn the following:
1) many vocabulary items
2) basics of effective oral communication
3) critical thinking
4) logical thinking
5) current affairs and cultural issues
6) basics of group discussion
7) basics of group presentation
8) basic rules of email writing
9) learner autonomy

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a learner-centred course. Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPII, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPII.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction, getting to know each other, course descriptions, Q & A	Communicative activities, course descriptions, plans for the semester, homework, Q & A
2	Basics of oral communication, planned speech, understanding Current Issue 1	Show & Tell 1, comprehension check on reading HW on Topic 1, homework, Q & A
3	Vocabulary quiz 1, unplanned speech, basics of group discussion, discussing Current Issue 1 (1)	Vocabulary quiz 1, conversation, group discussion (1) on Topic 1, homework, Q & A
4	Planned speech, Discussing Current Issue 1 (2)	Story of my name, group discussion (2) on Topic 1, homework, Q & A
5	Vocabulary quiz 2, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (3), basics of group presentation (1)	Vocabulary quiz 2, conversation, group discussion (2) on Topic 1, basics of group presentation (1), homework, Q & A
6	Planned speech, basics of group presentation (2), preparing for Presentation 1	Show & Tell 2, basics of group presentation (2), preparation for the group presentation on Topic 1, homework, Q & A
7	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1, homework, Q & A
8	Unplanned speech, feedback on Presentation 1, understanding Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on Presentation 1, comprehension check on Topic 2 material, homework, Q & A
9	Vocabulary quiz 3, unplanned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Vocabulary quiz 3, conversation, group discussion on Topic 2 (1), homework, Q & A
10	Planned speech, discussing Current Issue 2 (2)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2 (2), homework, Q & A
11	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3), basics of group presentation (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (3), basics of group presentation (3), homework, Q & A
12	Unplanned speech, basics of group presentation (4), preparing for Presentation 2	Conversation, basics of group presentation (4), preparation for the group presentation on Topic 2, homework, Q & A
13	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2, homework, Q & A
14	Unplanned speech, feedback on Presentation 2, recap of the semester & student feedback	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 2, recap of the semester, student feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPPII.

【参考書】
Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 25%
Homework and quizzes: 35%
Presentations: 40%
Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】
Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion and presentation skills very useful, and the topics interesting.

【学生が準備すべき機器他】
A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).

【Outline (in English)】
Through this course students will develop confidence and skill in using English as a means of communication and learning.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

佐藤　陽子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Through this course students will develop greater confidence and skill in using English as a means of communication and learning.

【到達目標】
Students will develop greater confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn and/or practise the following:
1) many vocabulary items
2) basics of effective oral communication
3) basics of clear English pronunciation
4) critical thinking
5) logical thinking
6) learner autonomy
7) group discussion skills
8) group presentation skills
9) current affairs and cultural issues
10) basics of academic writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a learner-centred course. Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPII, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPII.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Welcome back, plans for the semester	Communicative activities, plans for the semester, homework, Q & A
2	Planned speech 1, understanding Current Issue 1	Show & Tell 1, comprehension check on reading material on Topic 1, homework, Q & A
3	Vocabulary quiz 1, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (1), basics of essay writing (1)	Vocabulary quizk 1, conversation, group discussion (1) on Topic 1, basics of essay writing (1)
4	Vocabulary quiz 2, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (2), basics of essay writing (2)	Vocabulary quiz 2, conversation, group discussion (2) on Topic 1, basics of essay writing (2), homework, Q & A
5	Planned speech, discussing Current Issue 1 (3), preparing for Presentation 1	Show & Tell 2, group discussion (2) on Topic 1, preparation for the group presentation on Topic 1, homework, Q & A
6	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1, homework, Q & A
7	Unplanned speech, feedback on Presentation 1, brainstorming on Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 1, 2, brainstorming on Topic 2, homework, Q & A
8	Planned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2 (1), homework, Q & A
9	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (2), basics of essay writing (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (2), basics of essay writing (3), homework, Q & A
10	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (3), homework, Q & A
11	Unplanned speech, preparing for Presentation 2	Conversation, preparation for the group presentation on Topic 2, homework, Q & A
12	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2, homework, Q & A
13	Feedback on Presentation 2, discussing essay drafts	Peer- and teacher feedback on presentation 2, share & discuss essay drafts, homework, Q & A
14	Unplanned speech, discussing essay drafts, recap of the semester, student feedback	Conversation, discuss essay drafts, recap of the semester, student feedback, homework, Q & A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPPII.

【参考書】
Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 25%
Homework and quizzes: 35%
Presentations & an essay: 40%
Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】
Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion, presentation, and essay writing skills very useful, and the topics interesting.

【学生が準備すべき機器他】
A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).

【Outline (in English)】
Through this course students will develop greater confidence and skill in using English as a means of communication and learning.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

TAMARA P ELDRIDGE

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to consolidate basic communication skills in English and to further foster critical thinking skills, learning to summarize ideas and generate arguments in English independently. Activities will be balanced across the 4 skills designed to improve both the receptive and productive skills in discussing course topics, centering around contemporary and current issues.

【到達目標】
The goal of this course is to focus on developing learners' four language skills of reading, writing, listening and speaking for general communication-the four foundational skills of language learning and will be a combination of both content-based as well as task-based activities, with a focus on specific information through communicative and cognitive processes. In addition, the course aims to improve learners' fluency with English; learners' ability to engage in meaningful communicative interaction, and also further learners' knowledge of the formal aspects of the English language, such as vocabulary, grammar and pronunciation. At the same time, learners will engage with a variety of content topics and themes, developing their ability to discuss issues and think critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
It will be discussion based and in-class activities will mostly have an emphasis on discussion and listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it is student centered.
Students are expected to be active participants in class discussion and activities. I expect that our class sessions will consist of active discussion, debate, critique, and exploration. For this format to be successful, it is critical that students read and think about the weekly readings before coming to class sessions. Follow-up discussions to each reading/research assigned will be done in the following class and students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.
This is an online class, and all weeks will be taught on ZOOM. Please see HOPPII, the university's Learning Management System for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation	Self-Introductions/Getting to Know You
Week 2	Conversation Strategies	Follow-up Questions
Week 3	Dictogloss	Travel/Culture
Week 4	Follow-Up Presentations	News Article
Week 5	Video Report with worksheet	Statue of Liberty
Week 6	Conversation Strategies	Probability
Week 7	Mid-term Project	Discussion and Presentation based on assigned topic
Week 8	Video Report	H2O
Week 9	Dictogloss	Clean Plate Campaign/Food Security
Week 10	Follow-up presentations	News Article
Week 11	Video Report	Starbuck ' s Diversity Training
Week 12	Conversation Strategies	Soliciting Details
Week 13	Review and Follow-up	current news discussion
Week 14	Final Projects	Discussion and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation, review and assignments are required. There will readings(news articles), reports and research for class class discussions. Students are expected to complete weekly reading assignments to be ready for class discussions. Approximately 1-2 hours a week will be needed for preparation, review and follow-up.

【テキスト（教科書）】
I will be using news reports/articles/dictations-which will lead into class discussions.

【参考書】
None required.

【成績評価の方法と基準】
Discussion, debates, participation, and attendance (60%)
Mid-term presentation (15%)
Final presentation (25%)
"In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
English-English Dictionary
Computer with camera/mic
Writing Materials

【Outline (in English)】
This class will be discussion based. In-class activities will mostly have an emphasis on discussion and listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it will mostly be student-centered, but teacher-facilitated.
There will be presentations, news discussions, debates, dictations, topic-based video reports and dictoglosses. These activities will be done in pair and small-groups and based on the materials provided by the instructor or student generated. Homework assignments must be done before class begins. In order to succeed in the class, please prepare well for class, do homework/research and actively participate.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

TAMARA P ELDRIDGE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to consolidate basic communication skills in English and to further foster critical thinking skills, learning to summarize ideas and generate arguments in English independently. Activities will be balanced across the 4 skills designed to improve both the receptive and productive skills in discussing course topics, centering around contemporary and current issues.

【到達目標】
The goal of this course is to focus on developing learners' four language skills of reading, writing, listening and speaking for general communication-the four foundational skills of language learning and will be a combination of both content-based as well as task-based activities, with a focus on specific information through communicative and cognitive processes. In addition, the course aims to improve learners' fluency with English; learners' ability to engage in meaningful communicative interaction, and also further learners' knowledge of the formal aspects of the English language, such as vocabulary, grammar and pronunciation. At the same time, learners will engage with a variety of content topics and themes, developing their ability to discuss issues and think critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it is student centered.
Students are expected to be active participants in class discussion and activities. I expect that our class sessions will consist of active discussion, debate, critique, and exploration. For this format to be successful, it is critical that students read and think about the weekly readings before coming to class sessions. Follow-up discussions to each reading/research assigned will be done in the following class and students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.
This is an online class, and all weeks will be taught on ZOOM. Please see HOPPII, the university's Learning Management System for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation	Getting to Know You/News Headlines Discussion
Week 2	Conversation Strategies	Solicitors
Week 3	Dictogloss	Unconscious Bias
Week 4	News Article	Eco-anxiety
Week 5	Video Report	Starbuck's Diversity
Week 6	News and Views	News Headlines/presentations
Week 7	Midterm Projects	pre-assigned group presentations
Week 8	Conversation Strategies	Expressing Opinion
Week 9	Dictogloss	Social Media
Week 10	Video Report	Social Media Influencers
Week 11	Video Report	Social Media Influencers
Week 12	News and Views	News Headlines/presentations
Week 13	Review and Follow-up	Exercises reviewing previous materials
Week 14	Final Project/Presentations	pre-assigned group presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation, review and assignments are required. There will readings(news articles), reports and research for class class discussions. Students are expected to complete weekly reading assignments to be ready for class discussions. Approximately 1-2 hours a week will be needed for preparation, review and follow-up.

【テキスト（教科書）】
I will be using news reports/articles/dictations-which will lead into class

【参考書】
None required.

【成績評価の方法と基準】
Discussion, debates, participation, and attendance (60%)
Mid-term presentation (15%)
Final presentation (25%)
"In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
English-English Dictionary
Computer with camera/mic
Writing Material

【Outline (in English)】
This class will be discussion based. In-class activities will mostly have an emphasis on discussion and listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it will mostly be student-centered, but teacher-facilitated.
There will be presentations, news discussions, debates, dictations, topic-based video reports and dictoglosses. These activities will be done in pair and small-groups and based on the materials provided by the instructor or student generated. Homework assignments must be done before class begins. In order to succeed in the class, please prepare well for class, do homework/research and actively participate.

LANe100LA

英語２

2017 年度以降入学者

TAMARA P ELDRIDGE

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course is designed to consolidate basic communication skills in English and to further foster critical thinking skills, learning to summarize ideas and generate arguments in English independently. Activities will be balanced across the 4 skills designed to improve both the receptive and productive skills in discussing course topics, centering around contemporary and current issues.

【到達目標】
The goal of this course is to focus on developing learners' four language skills of reading, writing, listening and speaking for general communication-the four foundational skills of language learning and will be a combination of both content-based as well as task-based activities, with a focus on specific information through communicative and cognitive processes. In addition, the course aims to improve learners' fluency with English; learners' ability to engage in meaningful communicative interaction, and also further learners' knowledge of the formal aspects of the English language, such as vocabulary, grammar and pronunciation. At the same time, learners will engage with a variety of content topics and themes, developing their ability to discuss issues and think critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
It will be discussion based and in-class activities will mostly have an emphasis on discussion and listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it is student centered.
Students are expected to be active participants in class discussion and activities. I expect that our class sessions will consist of active discussion, debate, critique, and exploration. For this format to be successful, it is critical that students read and think about the weekly readings before coming to class sessions. Follow-up discussions to each reading/research assigned will be done in the following class and students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.
This is an online class, and all weeks will be taught on ZOOM. Please see HOPPII, the university's Learning Management System for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation	Self-Introductions/Getting to Know You
Week 2	Conversation Strategies	Follow-up Questions
Week 3	Dictogloss	Travel/Culture
Week 4	Follow-Up Presentations	News Article
Week 5	Video Report with worksheet	Statue of Liberty
Week 6	Conversation Strategies	Probability
Week 7	Mid-term Project	Discussion and Presentation based on assigned topic
Week 8	Video Report	H2O
Week 9	Dictogloss	Clean Plate Campaign/Food Security
Week 10	Follow-up presentations	News Article
Week 11	Video Report	Starbuck ‘ s Diversity Training
Week 12	Conversation Strategies	Soliciting Details
Week 13	Review and Follow-up	current news discussion
Week 14	Final Projects	Discussion and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Preparation, review and assignments are required. There will readings(news articles), reports and research for class class discussions. Students are expected to complete weekly reading assignments to be ready for class discussions. Approximately 1-2 hours a week will be needed for preparation, review and follow-up.

【テキスト（教科書）】
I will be using news reports/articles/dictations-which will lead into class discussions.

【参考書】
None required.

【成績評価の方法と基準】
Discussion, debates, participation, and attendance (60%)
Mid-term presentation (15%)
Final presentation (25%)
"In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
English-English Dictionary
Computer with camera/mic
Writing Materials

【Outline (in English)】
This class will be discussion based. In-class activities will mostly have an emphasis on discussion and listening, with reading and writing being done at home prior to the following class. I will also be doing dictoglosses which is an intensive listening which will help to facilitate your listening, vocabulary, accuracy and discussion skills. I want to make this class as interactive as possible, so it will mostly be student-centered, but teacher-facilitated.
There will be presentations, news discussions, debates, dictations, topic-based video reports and dictoglosses. These activities will be done in pair and small-groups and based on the materials provided by the instructor or student generated. Homework assignments must be done before class begins. In order to succeed in the class, please prepare well for class, do homework/research and actively participate.

LANe100LA

英語４

2017 年度以降入学者

TAMARA P ELDRIDGE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】
Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation
13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

【テキスト（教科書）】
Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】
Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】
Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time － 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline (in English)】
The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines. handout discussion activities
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Environmental Issues Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Technology: Friend or Foe Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Unit 2 Political Refugees Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Protests and dissent Research report/ mini- Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Music and Art Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment. Tips for the Quiz
13	Meritocracy and Theocracy Quiz Song lesson	Quiz Song lesson
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research. Preparations will include, but are not limited to a writing
assignment almost every week, study for quizzes, prepare for presentation, and etc.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Handouts will be given in class. However,ALL students will be required to buy a subscription to an online reading software. This should cost roughly about 2,750 yen for a whole year, unless the bookstore increases the price. I will tell you the details on the first day of class.

【参考書】
These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.
https://japantoday.com/
https://www.japantimes.co.jp/news/
https://www.yahoo.com/news/
http://www.bbc.com/news
https://news.google.com/news/

【成績評価の方法と基準】
Class participation: 40%
Quizzes, writing assignments, presentations:60%
Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.
Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】
This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.
This syllabus is subject to revision, and likely will change based on the students' needs, and topics will be based on relevant social issues of the moment.
Quizzes are not testing your English ability, but on the content of the course.

【Outline (in English)】
This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】
This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Is telling lies bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Immigration good, or bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	How neighborhoods happen. Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Rules versus freedom Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Japan surveillance state. Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Fabulous Japan Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	Christmas and holidays. 5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity.Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz
13	Song lesson My Winter break Pandemics	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.
14	Big quiz	Quiz Games Puzzle

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are given a writing assignment almost every week. University guidelines suggest preparation and review are around 4　hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
There is no textbook. Handouts will be given in class. However, ALL students will be required to buy a subscription to an online reading software. This should cost roughly about 2,750 yen for a whole year, unless the bookstore increases the price. I will tell you the details on the first day of class.

【参考書】
These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.
https://japantoday.com/
https://www.japantimes.co.jp/news/
https://www.yahoo.com/news/
http://www.bbc.com/news
https://news.google.com/news/

【成績評価の方法と基準】
Class participation: 40%
Quizzes, writing assignments, presentations:60%
Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.
Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable

【学生が準備すべき機器他】
Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】
This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

【Outline (in English)】
This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ラスカイル　L. ハウザー

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】
This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.
13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Class participation: 20%
Homework: 20%
Group presentations: 20%
Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】
More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
English 5: Academic writing and presentation skills.Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ラスカイル　L. ハウザー

開講時期：**秋学期授業**/Fall　|　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】
This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing caues and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.
13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Class participation: 20%
Homework: 20%
Group presentations: 20%
Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】
This year, more emphasis will be put on pair and group work.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
English 6: Academic writing and presentation skills.
Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 5 is a 4-skills required course for first-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills, with a focus on communicative reading and writing. This course aims to bring out the communicative elements of reading and writing through the pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will show how well they can think critically by discussing their ideas and opinions in groups, giving presentations, and writing. The course will also focus on helping students become more independent learners. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】
The goals of the course are for students to:
1.Acquire and use strategic listening techniques to improve listening comprehension
2.Enhance vocabulary and common phrases knowledge
3.Strengthen speaking abilities and hone new phrases through output activities
4.Learn how to utilize skimming and scanning to identify the crucial ideas and supporting elements in a text.
5.Become familiar with effective expression through writing exercises and tasks.
6.Develop learner autonomy in various areas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The course instructor will create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students are able to voice their perspectives and attempt to comprehend those of others without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. In group discussions, students are expected to listen to each other and talk with them. While presenting their topics, students should use audiovisual aids.
Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback during in-class discussions. Students will get graded rubrics for presentations and essays, along with comments from the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 1: Happiness	Course orientation, Icebreaking, Unit 1: Pre-reading activities
Lesson 2	Unit 1: Happiness	Reading 1: “Is There a Recipe for Happiness?” Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 3	Unit 1: Happiness	Reading 2: “Four Keys to Happiness,” Group discussion based on the given response sheet. Opinion paragraph writing
Lesson 4	Unit 2: Inventive Solutions	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: “The Power of Creativity,” Reading Skills
Lesson 5	Unit 2: Inventive Solutions	Writing Workshop 1 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 6	Unit 2: Inventive Solutions	Reading 2: “Big Ideas, Little Packages?” Group discussion based on the given response sheet. Problem/Solution paragraph writing
Lesson 7	Individual Presentations	Individual Presentations
Lesson 8	Unit 3: Connected Lives	Unit 3: Pre-reading activities Reading 1: “The Power of Crowds,” Reading Skills
Lesson 9	Unit 3: Connected Lives	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 10	Unit 3: Connected Lives	Reading 2: “Internet Island,” Group discussion based on the given response sheet. Descriptive paragraph writing
Lesson 11	Unit 5: Memory and Learning	Unit 5: Pre-reading activities Reading 1: “The Art of Memory,” Reading Skills
Lesson 12	Unit 5: Memory and Learning	Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 13	Unit 5: Memory and Learning	Reading 2: “Sleep and Memory,” Group discussion based on the given response sheet. Paragraph writing
Lesson 14	Final Task	Final Task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This course is a two-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】
Title: Pathways Reading and Writing book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)
Publisher: Cengage Learning
ISBN: 978-1-33-762511-1
Price: ￥ 3,270

【参考書】
Bring your dictionary to class. (Either paper or electronic dictionary is acceptable.)

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Four Quizzes: 40% (10% each)
Three Paragraph Writings: 30% (10% each)
One Presentation: 10%
One Final Task: 10%
Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
This course has not received any comments from the previous lessons.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】
English 5 is a 4-skills required course for first-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills, with a focus on communicative reading and writing. This course aims to bring out the communicative elements of reading and writing through the pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will show how well they can think critically by discussing their ideas and opinions in groups, giving presentations, and writing. The course will also focus on helping students become more independent learners. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 6 is a 4-skills required course for first-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills, with a focus on communicative reading and writing. This course aims to bring out the communicative elements of reading and writing through the pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will show how well they can think critically by discussing their ideas and opinions in groups, giving presentations, and writing. The course will also focus on helping students become more independent learners. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】
The goals of the course are for students to:
1.Acquire and use strategic listening techniques to improve listening comprehension
2.Enhance vocabulary and common phrases knowledge
3.Strengthen speaking abilities and hone new phrases through output activities
4.Learn how to utilize skimming and scanning to identify the crucial ideas and supporting elements in a text.
5.Become familiar with effective expression through writing exercises and tasks.
6.Develop learner autonomy in various areas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
The course instructor will create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students are able to voice their perspectives and attempt to comprehend those of others without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listening, and speaking. In group discussions, students are expected to listen to each other and talk with them. While presenting their topics, students should use audiovisual aids.
Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback during in-class discussions. Students will get graded rubrics for presentations and essays, along with comments from the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 6: Animals and Medicine	Course orientation, Icebreaking, Unit 6: Pre-reading activities
Lesson 2	Unit 6: Animals and Medicine	Reading 1: “The Snake Chaser,” Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 3	Unit 6: Animals and Medicine	Reading 2: “A Haven for Chimps,” Group discussion based on the given response sheet. Argumentative Paragraph
Lesson 4	Unit 7: Nature’s Fury	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: “When Tornadoes Strike,” Reading Skills
Lesson 5	Unit 7: Nature’s Fury	Writing Workshop 1 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 6	Unit 7: Nature’s Fury	Reading 2: “Wildfires,” Group discussion based on the given response sheet. Organizing a Process Paragraph
Lesson 7	Individual Presentations	Individual Presentations
Lesson 8	Unit 9: Form and Function	Unit 8: Pre-reading activities Reading 1: “What Are Feathers For,” Reading Skills
Lesson 9	Unit 9: Form and Function	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 10	Unit 9: Form and Function	Reading 2: “Design by Nature,” Group discussion based on the given response sheet. Writing a Summary Paragraph
Lesson 11	Unit 10: Smart Advice	Unit 10: Pre-reading activities Reading 1: “Turning Ideas into Reality,” Reading Skills
Lesson 12	Unit 10: Smart Advice	Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 13	Unit 10: Smart Advice	Reading 2: “Lessons in Business,” Group discussion based on the given response sheet. Giving Details that Support Advice
Lesson 14	Final Task	Final Task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This course is a two-credit course; thus, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】
Title: Pathways Reading and Writing book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)
Publisher: Cengage Learning
ISBN: 978-1-33-762511-1
Price: ￥ 3,270

【参考書】
Bring your dictionary to class. (Either paper or electronic dictionary is acceptable.)

【成績評価の方法と基準】
Students will be assessed based on the following criteria:
Class participation: 20%
Four Quizzes: 40% (10% each)
Three Paragraph Writings: 30% (10% each)
One Presentation: 10%
One Final Task: 10%
Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
The course has not received any comments from previous lessons.

【学生が準備すべき機器他】
Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】
English 6 is a 4-skills required course for first-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills, with a focus on communicative reading and writing. This course aims to bring out the communicative elements of reading and writing through the pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will show how well they can think critically by discussing their ideas and opinions in groups, giving presentations, and writing. The course will also focus on helping students become more independent learners. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.
Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation- structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation- visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework written, and Internet research。
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
World Link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】
textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】
Participation 33%
Homework 34%
Group Presentation 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】
PC or smartphone,writing material, paper

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students will learn English using four skill areas (reading,writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語６

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.
Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage
week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework (blog and regular), group presentation preparation。
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
World link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】
textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】
Participation 33%
Homework 34%
Group presentation/quizzes 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】
PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】
Email contact
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course (English 5) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course students will: be confident in communicating their opinions, have developed their critical thinking skills, and have improved their written expression. Through listening to and reading texts on various academic topics, students will form their own ideas and express these ideas in discussion, presentations, and in writing.

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' receptive (listening and reading) and interactive (speaking and writing) abilities by learning techniques and strategies that help students communicate personal ideas and experiences, respond to media (text, audio, photos and videos), critically assess communications, and synthesize this information to solve problems at a level that could be understood by an English speaker.
Specific goals include:
1. Improve reading fluency, comprehension, and critical engagement with texts.
2. Improve writing skills by practicing writing sentences, paragraphs, summaries, and short essays. There will also be a focus on different types of writing for email, short messages, and essays for academic purposes.
3. Improve critical analysis of various forms of media and express opinions in discussion and in written form.
Course content will include fluency in reading and writing through explicit extensive reading and summarizing, listening and reporting through extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a face to face class (unless circumstances change). The class will follow the structure of the main textbook included in the syllabus. Readings, audio, and videos will be looked at and listened to in class, and exercises based on these texts and media completed. There will be supplementary media related to topics covered in the textbook provided by the teacher in some cases. Writing tasks will also be based mainly on the textbook topics. There will also be additional material and instruction on writing provided by the teacher related to writing essays and for making presentations.
Students are expected to actively participate in discussions based on the texts and also drawing on information they find themselves online or in the library.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introductions	Introduce your self. Why you want to learn English. Your main interests at university (study, student association activity, and/or hobbies) Writing task: Write down your introductions and also read introductions by others.
Lesson 2	(Unit 1 textbook) Happiness	Unit 1 Happiness Steve Cuts Happiness Video / Reading (Audio): Is there a recipe for happiness? /Reading and listening comprehension. /Video: Longevity Leaders / Reading (Audio): Four Keys to Happiness. Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in pairs.
Lesson 3	Happiness: Writing exercises	Writing exercises: using the simple present tense. Writing Task: Write a paragraph on whether people in your community are happy or unhappy. Homework edit written work and have ready for next class.
Lesson 4	Happiness: Discussion own research	Steve Cutts Happiness Video / Video on Robert Waldinger "What Makes a good life? Lessons from the longest study on happiness" Discuss in groups how your own thinking and research about happiness compares to the material in the textbook and the two short videos seen in class. Write reflections on discussion.
Lesson 5	Inventive Solutions (Unit 2)	Writing Task on Inventive Solutions (paragraph writing and Editing) Additional instruction on writing paragraphs. Homework: Write a paragraph about a technological innovation that interests you for next class
Lesson 6	(Unit 3 from textbook) Connected Lives	Connected lives (Communications/ Sociology) The World's top 10 Websites/ The Power of Crowds/ Video: Citizen Scientist/Reading and Audio: Internet Island Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in groups of 3 or 4.
Lesson 7	(Unit 3 from textbook) Connected Lives: Writing	Writing exercises: Writing sentences completing paragraphs. Writing task: Writing a paragraph on communication and staying connected.

Lesson 8	Saving our Seas (Unit 4 from textbook)	Saving our Seas (Environmental Science) Ocean Impact/ Reading (audio): Where Have All the Fish Gone?/ Video: Saving Bluefin Tuna/ Reading (Audio) What Makes a difference.
Lesson 9	Saving our Seas: Writing	Writing exercises: descriptive sentences. Writing Task: Writing paragraphs on specific topics. Revising Practice. Editing Practice.
Lesson 10	Thinking about the sea and the environment	Students conduct own research on environmental issues and present these to each other in class. Prepare 3 to 4 paragraphs of notes to present to the groups and to submit.
Lesson 11	Essay writing workshop.	Choosing topic for final presentation and essay (same topic for both). Students will think about preparing a research essay and presenting written work as a presentation.
Lesson 12	Memory and learning (Unit 5 from textbook)	Memory and Learning (Psychology/ Biology) How We Remember/ Reading: The Art of Memory (Audio)/ Video: House of Cards. Developing memory skills / Sleep and Memory Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in groups of 3 or 4.
Lesson 13	(Unit 5) Memory and Learning: Writing	Writing exercises: Writing sentences Writing task: How to improve memory Revision and editing in class . Homework: completing presentation and final essay.
Lesson 14	Final Presentations	Reflections on class for the whole semester. Submitting essay and presentation notes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Students will be expected to complete writing tasks in preparation for the next class as well as readings to enhance their participation in class discussion. Presentations and essays will require time and thought for preparation before they are submitted.

【テキスト（教科書）】
Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)
Publisher: Cengage Learning
ISBN: 978-1-33-762511-1
Price: ￥ 3,270

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are assessed based on the following criteria
In class reading and listening comprehension, discussions, and writing exercises. 30%
Presentations in groups and the submitted presentation notes. 30%
Final essay and other written home work submitted during the semester. 40%
Attendance policy: In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
The end of term reflection will include student assessment of the course. (Students are invited to comment on the course at any time)

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary. Students are excepted to purchase and bring the textbook to each class. They are also expected to have access to a computer and the internet for homework and assessment submission. Paper submission will generally not be accepted.

【Outline (in English)】
This course (English 5) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course students will: be confident in communicating their opinions, have developed their critical thinking skills, and have improved their written expression. Through listening to and reading texts on various academic topics, students will form their own ideas and express these ideas in discussion, presentations, and in writing.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

STEPHEN P MCINTYRE

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course (English 6) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course students will: be confident in communicating their opinions, have developed their critical thinking skills, and have improved their written expression. Through listening to and reading texts on various academic topics, students will form their own ideas and express these ideas in discussion, presentations, and in writing.
The course builds on the skills already developed in English 5 and will develop their abilities further especially through reading and writing tasks.

【到達目標】
Building on what was studied in English-5 during Semester-1, the goal of the course is to further develop students' ability to interact more successfully in English. Specific goals for students include:
1. how to apply communication skills in listening, reading, writing, speaking and other forms of communicative media.
2. how to use fluency skills, skimming, scanning, and predicting to identify main ideas and supporting details in texts and other media.
3. understanding various types of written forms and using these for reflection and further learning.
4. how to collect and store information to properly quote and cite sources.
5. how to apply critical thinking and problem-solving skills in various communications settings.
6. how to become culturally aware, independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a face to face class (unless circumstances change). The class will follow the structure of the main textbook included in the syllabus. Readings, audio, and videos will be looked at and listened to in class, and exercises based on these texts and media completed. There will be supplementary media related to topics covered in the textbook provided by the teacher in some cases. Writing tasks will also be based mainly on the textbook topics. There will also be additional material and instruction on writing provided by the teacher related to writing essays and for making presentations.
Students are expected to actively participate in discussions based on the texts and also drawing on information they find themselves online or in the library.
The role of the teacher is to direct learning attention, provide scaffolding for language and technical skills, and facilitate learning. Students will play a direct role in being the producer and source of information. Assessment will include peers and self-correction during the course of performing tasks and solving problems, corrective feedback and formative/summative assessment from the instructor on class activities, mini-tests and assignments throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introductions	Introduce your self. Why you want to learn English. Your main interests at university (study, student association activity, and/or hobbies) Writing task: Write down your introductions and also read introductions by others.
Lesson 2	(Unit 1 textbook) Happiness	Unit 1 Happiness Steve Cuts Happiness Video / Reading (Audio): Is there a recipe for happiness? /Reading and listening comprehension. /Video: Longevity Leaders / Reading (Audio): Four Keys to Happiness. Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in pairs.
Lesson 3	Happiness: Writing exercises	Writing exercises: using the simple present tense. Writing Task: Write a paragraph on whether people in your community are happy or unhappy. Homework edit written work and have ready for next class.
Lesson 4	Happiness: Discussion own research	Steve Cutts Happiness Video / Video on Robert Waldinger "What Makes a good life? Lessons from the longest study on happiness" Discuss in groups how your own thinking and research about happiness compares to the material in the textbook and the two short videos seen in class. Write reflections on discussion.
Lesson 5	Inventive Solutions (Unit 2)	Writing Task on Inventive Solutions (paragraph writing and Editing) Additional instruction on writing paragraphs. Homework: Write a paragraph about a technological innovation that interests you for next class

Lesson 6	Connected Lives (Unit 3 from textbook)	Connected lives (Communications/ Sociology) The World's top 10 Websites/ The Power of Crowds/ Video: Citizen Scientist/Reading and Audio: Internet Island Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in groups of 3 or 4.
Lesson 7	Connected Lives: Writing (Unit 3 from textbook)	Connected Lives Writing exercises: Writing sentences completing paragraphs. Writing task: Writing a paragraph on communication and staying connected.
Lesson 8	Saving our Seas (Unit 4 from textbook)	Saving our Seas (Environmental Science) Ocean Impact/ Reading (audio): Where Have All the Fish Gone?/ Video: Saving Bluefin Tuna/ Reading (Audio) What Makes a difference.
Lesson 9	Saving our Seas: Writing	Writing exercises: descriptive sentences. Writing Task: Writing paragraphs on specific topics. Revising Practice. Editing Practice.
Lesson 10	Thinking about the sea and the environment	Students conduct own research on environmental issues and present these to each other in class. Prepare 3 to 4 paragraphs of notes to present to the groups and to submit.
Lesson 11	Essay writing workshop.	Choosing topic for final presentation and essay (same topic for both). Students will think about preparing a research essay and presenting written work as a presentation.
Lesson 12	Memory and learning (Unit 5 from textbook)	Memory and Learning (Psychology/ Biology) How We Remember/ Reading: The Art of Memory (Audio)/ Video: House of Cards. Developing memory skills / Sleep and Memory Exercise on Reading and Listening Comprehension to be completed in class. Discussions based on readings and video's in groups of 3 or 4.
Lesson 13	Memory and Learning: Writing (Unit 5)	Writing exercises: Writing sentences Writing task: How to improve memory Revision and editing in class . Homework: completing presentation and final essay.
Lesson 14	Final Presentations	Reflections on class for the whole semester. Submitting essay and presentation notes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Students will be expected to complete writing tasks in preparation for the next class as well as readings to enhance their participation in class discussion. Presentations and essays will require time and thought for preparation before they are submitted.

【テキスト（教科書）】
Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)
Publisher: Cengage Learning
ISBN: 978-1-33-762511-1
Price: ￥ 3,270

【参考書】
English to English dictionary:
https://dictionary.cambridge.org/
英文ライティング虎の巻【改訂版】
Strunk Jr., W., & White, E. B. (1999). "The Elements of Style, Fourth Edition" (4th ed.). Allyn and Bacon.
Neumann, D. J. (2016). "A Professor's Guide to Writing Essays: The No-Nonsense Plan for Better Writing". Jacob Neumann.

【成績評価の方法と基準】
Students are assessed based on the following criteria
In class reading and listening comprehension, discussions, and writing exercises. 30%
Presentations in groups and the submitted presentation notes. 30%
Final essay and other written home work submitted during the semester. 40%

【学生の意見等からの気づき】
The end of term reflection will include student assessment of the course. (Students are invited to comment on the course at any time)

【学生が準備すべき機器他】
● Textbook.
● Additional resources for writing (dictionaries etc).
● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.
● Students are expected to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】
Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary. Students are excepted to purchase and bring the textbook to each class. They are also expected to have access to a computer and the internet for homework and assessment submission. Paper submission will generally not be accepted.

【Outline (in English)】
This course (English 6) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course students will: be confident in communicating their opinions, have developed their critical thinking skills, and have improved their written expression. Through listening to and reading texts on various academic topics, students will form their own ideas and express these ideas in discussion, presentations, and in writing.
The course builds on the skills already developed in English 5 and will develop their abilities further especially through reading and writing tasks.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ラスカイル　L. ハウザー

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】
This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.
13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Class participation: 20%
Homework: 20%
Group presentations 20%
Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】
This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
English 5: Academic writing and presentation skills.
Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ラスカイル　L. ハウザー

開講時期：**秋学期授業**/Fall　|　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】
This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing caues and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.
13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】
Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】
Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Class participation: 20%
Homework: 20%
Group presentations 20%
Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】
More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
English 6: Academic Writing and Presentations Skills
Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.
Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents Presentation preparation- structure	gay issues, coming out Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families Presentation preparation - physical elements	splitting time with parents body language and voice
Week 8	Errands Presentation preparation- visual elements I	errands and chores slide backgrounds
week 9	Neighborhoods Presentation preparation- visual elements II	suburban, countryside, metro slide fonts
week 10	Parties types Presentation preparation script practice	types- wedding, house warming, birthday, showers using a script to speak
week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework (blog and written), and Internet research。
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
World Link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】
textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】
Participation 33%
Homework 34%
Group Presentation or quizzes 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】
PC or smartphone,writing material, paper

【その他の重要事項】
Contact email
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students will learn English using four skill areas (reading,writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語６

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】
This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc.
Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage
week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
homework (blog and regular), group presentation preparation。
University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
World link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】
textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】
Participation 33%
Homework 34%
Group presentation and quizzes 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】
More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】
PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】
Email contact
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ROBERT SPIVAK

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 5 は、英語圏への留学を希望する FIC の学生のための英語クラスで、英語のみで授業が行われます。このコースは、学生がより自立して学ぶ力を習得することに重点を置いています。

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Using a variety of reading, writing, listening and speaking activities, students will work individually, in pairs, and in groups. Students will also do presentations. Students will be expected to do weekly reading assignments and summarize the content and give opinions. Students will also be writing short summaries on newspaper/magazine articles and giving their opinions. Students will receive feedback orally and in written form from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course. Media sources. Writing summaries. Giving opinions. TedTalks.
2	Interdisciplinary. Unit 1A: Inspired Leadership/Magazine-style article	Getting the main ideas. Identifying supporting ideas. Understanding references. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
3	Interdisciplinary.Unit 1B: How to Start a Movement	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Evaluating information. Reflecting on own experience. Synthesizing information
4	Conservation.Unit 2A: Trouble for the Air Plants/Scientific article	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
5	Conservation.Unit 2B: Conserving the Canopy	Understanding main ideas and key details. Recognizing purpose. Recognizing supporting evidence. Inferring reasons. Synthesizing information.
6	Health/innovations. Unit 3A: Big Problems, Simple Solutions. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Understanding visuals. Making inferences. Getting meaning from context. Evaluating and justifying an opinion.
7	Health/innovations.Unit 3B. A Warm Embrace that Saves Lives.	Understanding main ideas and key details. Identifying solutions. Visualizing a process. Predicting solutions. Synthesizing information. Interpreting a statement.
8	Sociology/technology. Unit 4A: Is Gaming Good for You? Research report.	Getting the main ideas. Understanding key details. Analyzing pros and cons. Understanding data. Getting meaning from context. Inferring reasons. Reflecting on own experience.
9	Sociology/Technology.Unit 4B: Gaming Can Make a Better World.	Understanding main ideas and key details. Summarizing. Recognizing tone and message. Inferring statements. Reflecting on own experience. Evaluating information.
10	Psychology/Education. Unit 5A: Engaging Learners.	Getting the mail ideas. Understanding key details. supporting ideas with evidence. Finding similarities and differences. Getting meaning from context. Inferring reasons. Reflecting on own experience.
11	Psychology/Education. Unit 5B: The Key to Success? Grit.	Understanding main ideas. Understanding overall message. Understanding terms.Summarizing the talk. Evaluating information. Synthesizing information. Reflecting on own experience.
12	Theme chosen by class. Newspaper Article.	Getting the main ideas. Identifying supporting ideas. Making inferences. Getting meaning from context.
13	Theme chosen by class. TedTalk.	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Summarizing. Recognizing purpose.
14	Final Test. Summarizing text/talks from media in small groups.	Summarizing. Giving opinions. Synthesizing information. Evaluating information. Reflecting on own experience.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do at least two hours per week of homework. Taste will include exercises from the textbook, reading summarizing newspaper and magazine articles, watching TedTalks and summarizing the content.

【テキスト（教科書）】
21st Century Reading: Level 2. Robin Longshaw, Laurie Blass, Mari Vargo, Eunice Yeates, Ingrid Wisniewska, Jessica Williams
National Geographic Learning/Cenage.

ISBN: 9781305265707, ￥ 3,388.

【参考書】
English Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Participation: 25
Presentation: 25
Homework (written summaries): 25
Final Test: 25

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
I will be communicating with students through Hosei's LMS "Hoppii."

【Outline (in English)】
English 5 is the first English class offered exclusively to FIC students wishing to do their Study Abroad in an English-speaking country and taught only in English. The course will focus on helping students to become more independent learners.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ROBERT SPIVAK

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 3/Sat.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 6 は、English 5 のフォローアップコースです。このコースでは、学生が英語圏での学習環境に対応するため、そして学生がより自立して学ぶために重要なリーディングとリスニングの能力を習得することに重点を置いています。

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' reading and listening skills as not only passive receptive tasks, but also as interactive processes, which lead to thinking, speaking and writing. Course activities and content will include extensive practice listening to and reading from contemporary issue-based materials, classroom discussion of those materials, writing opinion papers based on those materials, and making presentations on related topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Using a variety of reading, writing, listening and speaking activities, students will work individually, in pairs, and in groups. Students will also do presentations. Students will be expected to do weekly reading assignments and summarize the content and give opinions. Students will also be writing short summaries on newspaper/magazine articles and giving their opinions. Students will receive feedback orally and in written form from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course. Review of Media sources. Writing summaries. Giving opinions. TedTalks.
2	Food/Health. Unit 6A: Food Revolution. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Identifying problems and solutions. Understanding infographics. Getting meaning from context. Applying information. Reflecting on own experience.
3	Food/Health. Unit 6B: Teach Every Child About Food.	Understanding main ideas and key details. Inferring meaning. Evaluating information. Reflecting on own experience.
4	Behavior/Psychology. Unit 7A. Power Poses.Research Report.	Getting the main ideas and details. Recognizing text structure. Getting meaning from context. Analyzing statements. Reflecting on own experience.
5	Behavior/Psychology. Unit 7B: Your Body Language Shapes Who You Are.	Understanding main ideas and key details. Recognizing sequence. Identifying purpose. Summarizing. Reflecting on own experience. Inferring statements. Reasoning ideas.
6	Energy/Engineering. Unit 8A: Kite Power.News Report.	Getting the main ideas. Scanning for specific information. Making comparisons. Getting meaning from context. Evaluating and justifying an opinion. Reflecting on possible solutions.
7	Energy/Engineering. Unit 8B: How I Harnessed the Wind,	Understanding main ideas. Visualizing a process. Understanding causes and effects. Inferring meaning. Synthesizing information.
8	Engineering/Art.Unit 9A: Thinking in Pictures. Biographical article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Inferring meaning in statements. Reflecting on possibilities.
9	Engineering/Art.Unit 9B: Deep Sea Diving in a Wheelchair.	Understanding main ideas and key details. Recognizing tone and message. Inferring meaning. Comparing information.
10	Statistics/Economics. Unit 10A: Information is Beautiful. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Understanding infographics. Getting meaning from context. Inferring meaning in statements. Reflecting on own experience.
11	Statistics/Economics. Unit 10B: The Beauty of Data Visualization.	Understanding main ideas and key details. Analyzing information. Reflecting on own experience. Interpreting a speaker's statement.
12	Theme chosen by class. Newspaper Article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
13	Theme chosen by class. TedTalk.	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Evaluating information. Reflecting on own experience. Synthesizing information
14	Final Test. Summarizing text/talks from media in small groups.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do at least two hours per week of homework. Taste will include exercises from the textbook, reading summarizing newspaper and magazine articles, watching TedTalks and summarizing the content.

【テキスト（教科書）】
21st Century Reading: Level 2. Robin Longshaw, Laurie Blass, Mari Vargo, Eunice Yeates, Ingrid Wisniewska, Jessica Williams
National Geographic Learning/Cenage.
ISBN: 9781305265707, ￥ 3,388.

【参考書】
English Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Participation: 25
Presentation: 25
Homework (written summaries): 25
Final Test: 25

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
I will be communicating with students through Hosei's LMS "Hoppii."

【Outline (in English)】
English 6 is the follow up course to English 5. The course will focus on helping students acquire the critical reading and listening strategies necessary for students to become more independent learners that can deal with the educational expectations and learning environments commonly found in English-speaking countries.

LANe100LA

英語５

2017 年度以降入学者

ROBERT SPIVAK

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 4/Sat.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 5 は、英語圏への留学を希望する FIC の学生のための英語クラスで、英語のみで授業が行われます。このコースは、学生がより自立して学ぶ力を習得することに重点を置いています。

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Using a variety of reading, writing, listening and speaking activities, students will work individually, in pairs, and in groups. Students will also do presentations. Students will be expected to do weekly reading assignments and summarize the content and give opinions. Students will also be writing short summaries on newspaper/magazine articles and giving their opinions. Students will receive feedback orally and in written form from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course. Media sources. Writing summaries. Giving opinions. TedTalks.
2	Interdisciplinary. Unit 1A: Inspired Leadership/Magazine-style article	Getting the main ideas. Identifying supporting ideas. Understanding references. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
3	Interdisciplinary.Unit 1B: How to Start a Movement	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Evaluating information. Reflecting on own experience. Synthesizing information
4	Conservation.Unit 2A: Trouble for the Air Plants/Scientific article	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
5	Conservation.Unit 2B: Conserving the Canopy	Understanding main ideas and key details. Recognizing purpose. Recognizing supporting evidence. Inferring reasons. Synthesizing information.
6	Health/innovations. Unit 3A: Big Problems, Simple Solutions. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Understanding visuals. Making inferences. Getting meaning from context. Evaluating and justifying an opinion.
7	Health/innovations.Unit 3B. A Warm Embrace that Saves Lives.	Understanding main ideas and key details. Identifying solutions. Visualizing a process. Predicting solutions. Synthesizing information. Interpreting a statement.
8	Sociology/technology. Unit 4A: Is Gaming Good for You? Research report.	Getting the main ideas. Understanding key details. Analyzing pros and cons. Understanding data. Getting meaning from context. Inferring reasons. Reflecting on own experience.
9	Sociology/Technology.Unit 4B: Gaming Can Make a Better World.	Understanding main ideas and key details. Summarizing. Recognizing tone and message. Inferring statements. Reflecting on own experience. Evaluating information.
10	Psychology/Education. Unit 5A: Engaging Learners.	Getting the mail ideas. Understanding key details. supporting ideas with evidence. Finding similarities and differences. Getting meaning from context. Inferring reasons. Reflecting on own experience.
11	Psychology/Education. Unit 5B: The Key to Success? Grit.	Understanding main ideas. Understanding overall message. Understanding terms.Summarizing the talk. Evaluating information. Synthesizing information. Reflecting on own experience.
12	Theme chosen by class. Newspaper Article.	Getting the main ideas. Identifying supporting ideas. Making inferences. Getting meaning from context.
13	Theme chosen by class. TedTalk.	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Summarizing. Recognizing purpose.
14	Final Test. Summarizing text/talks from media in small groups.	Summarizing. Giving opinions. Synthesizing information. Evaluating information. Reflecting on own experience.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do at least two hours per week of homework. Taste will include exercises from the textbook, reading summarizing newspaper and magazine articles, watching TedTalks and summarizing the content.

【テキスト（教科書）】
21st Century Reading: Level 2. Robin Longshaw, Laurie Blass, Mari Vargo, Eunice Yeates, Ingrid Wisniewska, Jessica Williams
National Geographic Learning/Cenage.

ISBN: 9781305265707, ￥ 3,388.

【参考書】
English Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Participation: 25
Presentation: 25
Homework (written summaries): 25
Final Test: 25

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
I will be communicating with students through Hosei's LMS "Hoppii."

【Outline (in English)】
English 5 is the first English class offered exclusively to FIC students wishing to do their Study Abroad in an English-speaking country and taught only in English. The course will focus on helping students to become more independent learners.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ROBERT SPIVAK

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 4/Sat.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 6 は、English 5 のフォローアップコースです。このコースでは、学生が英語圏での学習環境に対応するため、そして学生がより自立して学ぶために重要なリーディングとリスニングの能力を習得することに重点を置いています。

【到達目標】
The goal of the course is to develop students' reading and listening skills as not only passive receptive tasks, but also as interactive processes, which lead to thinking, speaking and writing. Course activities and content will include extensive practice listening to and reading from contemporary issue-based materials, classroom discussion of those materials, writing opinion papers based on those materials, and making presentations on related topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
Using a variety of reading, writing, listening and speaking activities, students will work individually, in pairs, and in groups. Students will also do presentations. Students will be expected to do weekly reading assignments and summarize the content and give opinions. Students will also be writing short summaries on newspaper/magazine articles and giving their opinions. Students will receive feedback orally and in written form from the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course. Review of Media sources. Writing summaries. Giving opinions. TedTalks.
2	Food/Health. Unit 6A: Food Revolution. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Identifying problems and solutions. Understanding infographics. Getting meaning from context. Applying information. Reflecting on own experience.
3	Food/Health. Unit 6B: Teach Every Child About Food.	Understanding main ideas and key details. Inferring meaning. Evaluating information. Reflecting on own experience.
4	Behavior/Psychology. Unit 7A. Power Poses.Research Report.	Getting the main ideas and details. Recognizing text structure. Getting meaning from context. Analyzing statements. Reflecting on own experience.
5	Behavior/Psychology. Unit 7B: Your Body Language Shapes Who You Are.	Understanding main ideas and key details. Recognizing sequence. Identifying purpose. Summarizing. Reflecting on own experience. Inferring statements. Reasoning ideas.
6	Energy/Engineering. Unit 8A: Kite Power.News Report.	Getting the main ideas. Scanning for specific information. Making comparisons. Getting meaning from context. Evaluating and justifying an opinion. Reflecting on possible solutions.
7	Energy/Engineering. Unit 8B: How I Harnessed the Wind,	Understanding main ideas. Visualizing a process. Understanding causes and effects. Inferring meaning. Synthesizing information.
8	Engineering/Art.Unit 9A: Thinking in Pictures. Biographical article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Inferring meaning in statements. Reflecting on possibilities.
9	Engineering/Art.Unit 9B: Deep Sea Diving in a Wheelchair.	Understanding main ideas and key details. Recognizing tone and message. Inferring meaning. Comparing information.
10	Statistics/Economics. Unit 10A: Information is Beautiful. Magazine-style article.	Getting the main ideas. Understanding infographics. Getting meaning from context. Inferring meaning in statements. Reflecting on own experience.
11	Statistics/Economics. Unit 10B: The Beauty of Data Visualization.	Understanding main ideas and key details. Analyzing information. Reflecting on own experience. Interpreting a speaker's statement.
12	Theme chosen by class. Newspaper Article.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.
13	Theme chosen by class. TedTalk.	Understanding main ideas and key details. Identifying tone and attitude. Evaluating information. Reflecting on own experience. Synthesizing information
14	Final Test. Summarizing text/talks from media in small groups.	Getting the main ideas. Understanding key details. Scanning for information. Getting meaning from context. Reasoning solutions. Interpreting a writer's statement.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to do at least two hours per week of homework. Taste will include exercises from the textbook, reading summarizing newspaper and magazine articles, watching TedTalks and summarizing the content.

【テキスト（教科書）】
21st Century Reading: Level 2. Robin Longshaw, Laurie Blass, Mari Vargo, Eunice Yeates, Ingrid Wisniewska, Jessica Williams
National Geographic Learning/Cenage.
ISBN: 9781305265707, ￥ 3,388.

【参考書】
English Dictionary

【成績評価の方法と基準】
Attendance/Participation: 25
Presentation: 25
Homework (written summaries): 25
Final Test: 25

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
I will be communicating with students through Hosei's LMS "Hoppii."

【Outline (in English)】
English 6 is the follow up course to English 5. The course will focus on helping students acquire the critical reading and listening strategies necessary for students to become more independent learners that can deal with the educational expectations and learning environments commonly found in English-speaking countries.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。リーディングに関しては教科書のユニットをよく読み内容を理解していく。
ライティングに関してはプレゼンテーションを準備する上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立てて整理してかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。
温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発信していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書である You,Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回２～３人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。また前の授業の復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて１０～１５分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
Unit 1 Waste and Recycling	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
Unit 1	Unit 1	What do you we do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
Unit 1	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
Unit 2 Endangered Species	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered
Unit 2	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
Unit 2	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
Unit 3 Rainforests	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
Unit 3	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
Unit 4 Global warming	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	"What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using power point."
Unit 4	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming. What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.
Unit 4 Preparing for the Presentation	Unit 4 Preparing for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。授業で学んだことが試験問題となる。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない.

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります

【Outline (in English)】
Students have already studied English for at least 6 years. This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them more and to further gain knowledge on SDGs.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。リーディングに関しては教科書のユニットをよく読み内容を理解していく。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備する上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。また聴く力も養っていきたいと思う。
温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発信していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書である You,Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回２～３人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。また前の授業の復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて１０～１５分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation of the summer holidays	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on the situation of Covid 19, presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
Unit 5 Energy	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
Unit 5	Unit 5	Think about where energy comes from. Is there any other energy we can use use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy ?How can we save energy?
Unit 5	Unit 5	Discussion on energy resources.Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.Talk about SDGs.
Severne Suzuki's speech	Reading the speech on Severne Suzuki and questions on her speech.	Reading the speech of Severne Suzuki.
Severne Suzuki's Speech	Reading and questions on Severne Suzuki's speech	What does Severne Suzuki want to say in her speech? What does she say about the problems that we are encountering today and what will affect the future.
Unit 6 Developing Countries	Unit 6 Developing Countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
Unit 6	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
Unit6	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern is doing this.
Unit 7 Human Rights	Unit 7 Human rights Start preparing for the presentation	"What kind of rights do we have? Can we exercise our rights on anything?
Unit 7	Unit 7 Human rights Preparing for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss Black Lives Matter death penalty,
Unit 7	Unit 7 Preparing for the presentation	How do we feel and think about physical punishment around us. How are we to think about the invasion of Russia in Ukraine.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５％）、デイスカッション（１０％）、発表等１５％、期末試験７０％　計１００％。とする。なお６０％以上を合格とする。各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない. 試験内容はその学期に学んだことが試験範囲となる。

【学生の意見等からの気づき】
NA

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります,

【Outline (in English)】
Students have already studied English for at least 6 years. This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them and to further gain knowledge on SDGs.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテクスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】
英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 10 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
第 2 回 Chapter 1	Growth and Development	人間の誕生から死に至るまでのことを学び、そして、本文の練習問題を解く。。
第 3 回 Chapter 2	Human Body / Sleep	人間の 8 系統に関してと、睡眠に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 4 回 Chapter 3	Health and fitness / Allergies	健康とアレルギーに関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 5 回 Chapter 4	Diseasies (1)	細菌、ウィルス、プリオン等に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 6 回 Chapter 5	Diseasies (2)	遺伝病、精神病に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 7 回 Chapter 6	Immunity / AIDS	免疫とエイズに関して学び、そして、本文の練習問題を解く。。
第 8 回 Chapter 7	Smoking　/ Cancer	喫煙と癌に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 8	Medicine	医療に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 9	Complementary medicine	補充医療（漢方、整体、鍼灸）に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く
第 11 回 Chapter 10	First Aids / Doctors	救急医療と医師に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	ナイチンゲールと看護師に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 13 回 Chapter 12	Hospitals	大学病院に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】
Longman　Dictionary of Contemporary English （桐原書店）

【成績評価の方法と基準】
試験 80 %, 授業への積極性　20 %、
セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテクスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】
英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 20 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 Chapter 1	味の素株式会社	味の素株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 2 回 Chapter 2	花王株式会社	花王株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 3 回 Chapter 3	CYBERDYNE	SYBERDYNE の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 4 回 Chapter 4	サントリーホールディングス	サントリーホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 5 回 Chapter 5	Spiber 株式会社	Spiber　株式会社の企業の内容と企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 6 回 Chapter 6	セコム株式会社	セコム株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 7 回 Chapter 7	セブン＆アイ・ホールディングス	セブン＆アイ・ホールディングスの企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 8 回 Chapter 8	大正製薬ホールディングス	大正製薬ホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 9	東レ株式会社	東レ株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 10	豊田通商株式会社	豊田通商株式会社の業務内容、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 11 回 Chapter 11	日清食品ホールディングス	日清食品ホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 14	ヤマト運輸株式会社	ヤマト運輸株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 13 回 ビデオ	ビデを学習。	ビデオ学習をする。
第 14 回 試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Leading the Way: Major Countries Corporation（南雲堂）2,000 円＋税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験　80 %、授業への積極性　20 %、
1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまなトピックを英語で学ぶテキスト『イギリスの底力 Made in Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキスト『イギリスの底力 Made in Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	My English, Your English, Our English
3	Chapter 2	A Short History of the Miniskirt
4	Chapter 3	The Cutest Car Ever Made – The Mini
5	Chapter 4	Always in Fashion – The Suit
6	Chapter 5	The English Gentleman – Does He Really Exist Anymore?
7	Chapter 6	Thinking Machines – The Story of the Computer
8	Chapter 7	I Get Around - Transport
9	Chapter 8	London – How the Centre of the Financial World Started
10	Chapter 9	Isaac Newton and Beyond – The Impact of British Science
11	Chapter 10	Titans of the English Language – William Shakespeare and Dr Johnson
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Anthony Sellick, John Barton, Norio Shimamura『イギリスの底力 Made in Britain』2009 年、成美堂、1,800 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Made in Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまなトピックを英語で学ぶテキスト『イギリスの底力 Made in Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキスト『イギリスの底力 Made in Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 11	The British and Their Food – Fish and Chips, Roast Beef and Curry
2	Chapter 12	A Nice Cup of Tea
3	Chapter 13	The British Pub
4	Chapter 14	Golf – The Greatest Game in the World?
5	Chapter 15	A Short History of British Pop
6	Chapter 16	Football – The Beautiful Game
7	Chapter 17	Leading the Way in News and Entertainment – The BBC
8	Chapter 18	Harrods, Burberry and More – Shopping in London
9	Chapter 19	A Novel Experience – The Best British Novels
10	Chapter 20	What English Can Do for You
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Anthony Sellick, John Barton, Norio Shimamura『イギリスの底力 Made in Britain』2009 年、成美堂、1,800 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Made in Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】
800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やｺﾒﾝﾄの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Ceremony 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	School Life 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Transportation 聴解 How Far Will People Go?英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go?語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Weather 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Holiday Plans 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation
第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Resort Area 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Job Experience 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Summer Sale 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Restaurant 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】
Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening. 成美堂

【参考書】
特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％、平常点４０％。平常点は授業参加度１０％、リスニング小テスト平均点１０％、Writing・和訳などの課題２０％を原則とする。よって、評価点は試験６０点、平常点４０点の合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも０点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度については例年よりも「難しい」というご意見が少なく、英文読解力の高い学生が多かったと思われる。ただし、語彙のレベルの高さは変わらないので、わかりやすく解答・解説をすることを心がけたい。

【Outline (in English)】
This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】
800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やｺﾒﾝﾄの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot!英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot!語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Cleanup 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Our Traditions & Customs 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Examinations 聴解 Accounting for Taste 英文読解、コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Housing 聴解 Accounting for Taste 語彙問題と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test3・4 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長文の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】
Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening. 成美堂

【参考書】
特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％、平常点４０％。平常点は授業参加度１０％、リスニング小テスト平均点１０％、Writing・和訳などの課題２０％を原則とする。よって、評価点は試験６０点、平常点４０点の合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも０点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度については例年よりも「難しい」というご意見が少なく、英文読解力の高い学生が多かったと思われる。ただし、語彙のレベルの高さは変わらないので、わかりやすく解答・解説をすることを心がけたい。

【Outline (in English)】
This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ～ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ～ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ～ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ～ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回	Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Trend Watching 2 (『もっと知りたい！ 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ～ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ～ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Trend Watching 2 (『もっと知りたい！ 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の最近の動向についての文を読み、現代の問題を理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
CD でテキストの音読を聞き、リピートすることから始め、理解できているか確認するために、アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、日本語訳をしたり、口頭で問題に答えてもらう。課題を課す場合は、Hoppii（学習支援システム）に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でしてもらう。教科書はこの日までになるべく買っておいてください。
2	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong この日までに教科書を手に入れましょう。	日本の１００円ショップ：絶好調の理由について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-ear-old companies	創業 200 年の日本企業について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	ユニバーサル・ベーシックインカムについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	リモートワークについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	商売の秘訣、企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか、について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	ゲーマーの秘密の生涯、自分の体から脱出した少年について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction	ソーシャルメディア、依存させて利益を得るテクノリジー会社について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Super Solos: Catering to Japan's singletons	日本の一人客の需要について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 Happiness: What is the secret?	幸福、秘訣は何かについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world	方言、英語は世界中でどのように話されているかについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13	残りの Chapter で、学生が読みたい Chapter を読む-1	どのチャプターになるかは分からないので、明言できない。
14	総括	まとめと解説・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を使ってリーディング部分を読み、問題を解いておいてください。

【テキスト（教科書）】
Dad Rear『Understanding the World Today』成美堂

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
最後の授業の後に行う試験を７０％、通常点を３０％で計算します。課題の未提出（もし実施した場合）、最後のテストの未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書
テキスト

【Outline (in English)】
Through reading a text called *Understanding the World Today* , the object of this class is to develop English reading skills and understand today's issues.
Study the textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
The grade is given from the total of class activity 30% and the final exam 70%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスの真実の姿を描いたテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの続き、生徒が読みたい前期のテキストの残りの章から 1 章を読む。	前期のテキストの続き、内容は、前期に学生にアンケートをとって決める。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 The Country of Diversity	イギリスの Diversity について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland	United Kingdom を構成する 4 つの nations について学ぶ。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 The Power of the Commonwealth	コモンウェルスについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK	イギリスの文化の研究の誕生について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 The Languages of the UK	イギリスの様々な言語について学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 The Development of Journalism in the UK	イギリスのジャーナリズムについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture	イギリスの文化とアートの現状について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 The Relationship between Japan and the UK	日本とイギリスとの関係について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10 回目	Chapter 9 The History of British Democracy	イギリスの民主主義の歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11 回目	Chapter 10 The British Debate about the Economy	イギリスの経済について学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 With or Without God: The Development of the Natural Science	イギリスの自然科学の発展について学ぶ。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 The Country of Satire	イギリスの風刺について学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	復習　まとめ　テスト解説	復習／まとめを行う。テストに備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Warm-Up, Vocabulary-Building を辞書を活用して予習しておく。Reading Passage を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、その後の問題で本文に出てきた単語の理解を深め、本文理解の質問に答えておく。

【テキスト（教科書）】
Noriyuki Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『Aspects of British Culture: Academic Approaches』金星堂

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点を３０％、最後のテストを７０％で計算します。
最後のテスト未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline (in English)】
Through reading a textbook called *Aspects of British Culture: Academic Approaches*, the object of this class is to develop English reading skills and understand more about Britain. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% and the final exam 70%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. 日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。リーディングに関しては教科書のユニットをよく読み内容を理解していく。
ライティングに関してはプレゼンテーションを準備する上で導入部分、メイン、締めをしっかりと順序立てて整理してかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。
温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発信していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書である You,Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回２～３人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかんがえる。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて１０～１５分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Introduction	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
Unit1 Waste and Recycling	Unit 1 Waste and recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
Unit 1	Unit 1	What do you we do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
Unit 1	Unit 1	Role play. Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
Unit 2 Endangered Species	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered
Unit 2	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
Unit 2	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
Unit 3 Rainforests	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
Unit 3	Unit 3	Discuss what the importance of rainforest is and what are the causes of rainforests disappearing. What happens when rainforests disappears.
Unit 4 Global warming	Unit 4 Global warming Prepare for the presentation	What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using power point."
Unit 4	Unit 4 Prepare for the presentation	What are the effects of global warmiong. What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.
Unit 4	4 Prepare for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
You,Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５％）、デイスカッション（１０％）、発表等１５％、期末試験７０％　計１００％。とする。なお６０％以上を合格とする。欠席４回以上の場合は単位取得は不可である。試験内容に関してはその学期に学んだことが試験範囲になる。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります

【Outline (in English)】
Students have already studied English for at least 6 years. This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various environmental problems happening around the world and to further gain knowledge on SDGs.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English on environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.
Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

北原　ルック　明子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１９９２年に Severne Suzuki がリオの会議で発表したものも読んでいきたいと思う。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていきたい。

【到達目標】
英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする. リーデイングに関しては教科書の各ユニットをよく読み日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していけるようにしプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどをする。ライティングに関してはプレゼンテーションを準備する上で導入部分、メイン、締めをしっかりと整理をして順序立ててかけるようにする。また聴く力も養っていきたいと思う。温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発信していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。
教科書である You,Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回２～３人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。また前の授業の復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて１０～１５分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Presentation of the summer holidays	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on the situation of Covid 19, presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
Unit 5 Energy	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
Unit 5	Unit 5	Think about where energy comes from. Is there any other energy we can use use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy ?How can we save energy?
Unit 5	Unit 5	Discussion on energy resources.Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.Talk about SDGs.
Severne Suzuki's speech	Reading the speech on Severne Suzuki and questions on her speech.	Reading the speech of Severne Suzuki.
Severne Suzuki's Speech	Speech on Severne Suzuki and questions on her speech.	what does Severne Suzuki want to say in her speech? What does she say about the problems that we are encountering today and what will affect the future.
Unit 6 Developing countries	Unit 6. Developing countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
Unit 6	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
Unit 6	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
Unit 7 Human Rights	Unit 7 Human Rights Prepare for the presentation	"What kind of rights do we have? Can we exercise our rights on anything?
Unit 7	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know how our tax money is spent.
Unit 7	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel and think about physical punishment at school and at home. How are we to think about the invasion of Russia in Ukraine.
Presentation	Presentation	Presentation
Exam	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.Students are required to read each unit and understand the content and be able to express what they think about each unit which is being studied.

【テキスト（教科書）】
You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】
NA

【成績評価の方法と基準】
成績の評価と方法については授業での平常点（５%）、デイスカッション（１０%）、発表等１５%、期末試験７０%　計１００%。とする。なお６０%以上を合格とする。欠席４回以上の場合は単位取得は不可である。試験内容に関してはその学期に学んだこととする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりと話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】
大学で Zoom 授業を受ける際には 状況に応じてマイク付きのヘッドセットが必要となります

【Outline (in English)】
Students have already studied English for at least 6 years. This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them and to further gain knowledge on SDGs.
Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English. Students are also asked to be able to speak their mind and what is being thought about global warming and what we should do to decrease global warming.
Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテクスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

【到達目標】
英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 10 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 ガイダンス	1年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1年間の授業の予定、進め方などを説明する。
第 2 回 Chapter 1	Growth and Development	人間の誕生から死に至るまでのことを学び、そして、本文の練習問題を解く。。
第 3 回 Chapter 2	Human Body / Sleep	人間の 8 系統に関してと、睡眠に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 4 回 Chapter 3	Health and fitness / Allergies	健康とアレルギーに関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 5 回 Chapter 4	Diseasies (1)	細菌、ウィルス、プリオン等に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 6 回 Chapter 5	Diseasies (2)	遺伝病、精神病に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く。
第 7 回 Chapter 6	Immunity / AIDS	免疫とエイズに関して学び、そして、本文の練習問題を解く。。
第 8 回 Chapter 7	Smoking　/ Cancer	喫煙と癌に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 8	Medicine	医療に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 9	Complementary medicine	補充医療（漢方、整体、鍼灸）に関して学ぶ。そして、本文の練習問題を解く
第 11 回 Chapter 10	First Aids / Doctors	救急医療と医師に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	ナイチンゲールと看護師に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
第 13 回 Chapter 12	Hospitals	大学病院に関して学び、そして、本文の練習問題を解く。
試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。また、授業が終わったら復習をしておくこと。特に、授業の前に音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】
Longman　Dictionary of Contemporary English （桐原書店）

【成績評価の方法と基準】
試験 80 %, 授業への積極性　20 %、
セメスター内で、4 回以上の欠席をした場合には単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

小泉　和弘

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテクスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。

【到達目標】
英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。
入学時に受けた ELPA の英語プレスメント α のスコアを 20 %以上上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。この授業では、課題を課すことがあり、その課題を学生が提出し、そのフィードバックとして教室で課題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 Chapter 1	味の素株式会社	味の素株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 2 回 Chapter 2	花王株式会社	花王株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 3 回 Chapter 3	CYBERDYNE	SYBERDYNE の歴史、企業理念等 を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 4 回 Chapter 4	サントリーホールディングス	サントリーホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 5 回 Chapter 5	Spiber 株式会社	Spiber　株式会社の企業の内容と企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 6 回 Chapter 6	セコム株式会社	セコム株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く
第 7 回 Chapter 7	セブン＆アイ・ホールディングス	セブン＆アイ・ホールディングスの企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 8 回 Chapter 8	大正製薬ホールディングス	大正製薬ホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 9 回 Chapter 9	東レ株式会社	東レ株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 10 回 Chapter 10	豊田通商株式会社	豊田通商株式会社の業務内容、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 11 回 Chapter 11	日清食品ホールディングス	日清食品ホールディングスの歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 12 回 Chapter 14	ヤマト運輸株式会社	ヤマト運輸株式会社の歴史、企業理念等を学習する。そして、本文の練習問題を解く。
第 13 回 ビデオ	ビデを学習。	ビデオ学習をする。
第 14 回 試験・まとめ	試験を行う。	試験を行い、その後、試験のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、予習をしておくこと。授業の後には、復習をしておくこと。また、授業のまえには、英文の音読をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Leading the Way: Major Countries Corporation（南雲堂）2,000 円＋税

【参考書】
Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】
試験　80 %、授業への積極性　20 %、
1 セメスターで 4 回以上の欠席をした場合は、単位取得が不可能になります。

【学生の意見等からの気づき】
気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline (in English)】
(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goal of this course is to improve your reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following ： Term-end examination 80 % in the class contribution 20 %

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまなトピックを英語で学ぶテキスト『イギリスの底力 Made in Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキスト『イギリスの底力 Made in Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	My English, Your English, Our English
3	Chapter 2	A Short History of the Miniskirt
4	Chapter 3	The Cutest Car Ever Made – The Mini
5	Chapter 4	Always in Fashion – The Suit
6	Chapter 5	The English Gentleman – Does He Really Exist Anymore?
7	Chapter 6	Thinking Machines – The Story of the Computer
8	Chapter 7	I Get Around - Transport
9	Chapter 8	London – How the Centre of the Financial World Started
10	Chapter 9	Isaac Newton and Beyond – The Impact of British Science
11	Chapter 10	Titans of the English Language – William Shakespeare and Dr Johnson
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Anthony Sellick, John Barton, Norio Shimamura『イギリスの底力 Made in Britain』2009 年、成美堂、1,800 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Made in Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉江　秀和

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 2/Mon.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イギリスのさまざまなトピックを英語で学ぶテキスト『イギリスの底力 Made in Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】
テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。
①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキスト『イギリスの底力 Made in Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 11	The British and Their Food – Fish and Chips, Roast Beef and Curry
2	Chapter 12	A Nice Cup of Tea
3	Chapter 13	The British Pub
4	Chapter 14	Golf – The Greatest Game in the World?
5	Chapter 15	A Short History of British Pop
6	Chapter 16	Football – The Beautiful Game
7	Chapter 17	Leading the Way in News and Entertainment – The BBC
8	Chapter 18	Harrods, Burberry and More – Shopping in London
9	Chapter 19	A Novel Experience – The Best British Novels
10	Chapter 20	What English Can Do for You
11	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容①
12	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容②
13	英文講読	イギリスの文化や社会に関連する内容③
14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。
英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Anthony Sellick, John Barton, Norio Shimamura『イギリスの底力 Made in Britain』2009 年、成美堂、1,800 円+税

【参考書】
必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】
構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。
テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。
予習をしてきていない学生の答えを待つと時間のロスが発生するため、そのような場合には当該学生の平常点を減点します。

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参してください。その際には、インターネット辞書にあるような単語の意味を拾うだけのものではなく、例文が示されていたり、その単語がどのような文型や構文で使われるものなのかが分かったりするものを用意してください（主要な動詞がどの文型をとるのかが示されている『ジーニアス英和辞典』が望ましいです）。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】
Through reading stories in the textbook “Made in Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】
800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やｺﾒﾝﾄの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Ceremony 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	School Life 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Transportation 聴解 How Far Will People Go?英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go?語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Weather 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Holiday Plans 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation
第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Resort Area 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Job Experience 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Summer Sale 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Restaurant 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】
Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening. 成美堂

【参考書】
特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％、平常点４０％。平常点は授業参加度１０％、リスニング小テスト平均点１０％、Writing・和訳などの課題２０％を原則とする。よって、評価点は試験６０点、平常点４０点の合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも０点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度については例年よりも「難しい」というご意見が少なく、英文読解力の高い学生が多かったと思われる。ただし、語彙のレベルの高さは変わらないので、わかりやすく解答・解説をすることを心がけたい。

【Outline (in English)】
This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】
800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やｺﾒﾝﾄの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot!英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot!語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Cleanup 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing
第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Our Traditions & Customs 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Examinations 聴解 Accounting for Taste 英文読解、コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Housing 聴解 Accounting for Taste 語彙問題と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test3・4 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長文の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】
Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening. 成美堂

【参考書】
特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験６０％、平常点４０％。平常点は授業参加度１０％、リスニング小テスト平均点１０％、Writing・和訳などの課題２０％を原則とする。よって、評価点は試験６０点、平常点４０点の合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも０点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度については例年よりも「難しい」というご意見が少なく、英文読解力の高い学生が多かったと思われる。ただし、語彙のレベルの高さは変わらないので、わかりやすく解答・解説をすることを心がけたい。

【Outline (in English)】
This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ～ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ～ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ～ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ～ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回	Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Trend Watching 2 (『もっと知りたい！ 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

根本　怜奈

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 2/Mon.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】
1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ～ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ～ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Trend Watching 2 (『もっと知りたい！ 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】
英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にするよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【その他の重要事項】
授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】
This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.
Some of the objectives of the course are:
1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Final grading will be decided based on the following:
Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界の最近の動向についての文を読み、現代の問題を理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
CD でテキストの音読を聞き、リピートすることから始め、理解できているか確認するために、アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、日本語訳をしたり、口頭で問題に答えてもらう。課題を課す場合は、Hoppii（学習支援システム）に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でしてもらう。教科書はこの日までになるべく買っておいてください。
2	Chapter 1 I Don't Know What to Believe この日までに教科書を手に入れましょう。	オンラインの嘘について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3	Chapter 2 It's a Hikikomori World	引きこもりについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
4	Chapter 3 Not Just for Fun	遊びやゲームの重要性について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Chapter 4 See It While You Can	Over-Tourism について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Chapter 5 The World's Greatest Gamers	E-スポーツについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	Chapter 6 3D-Printed Limbs and Robot Doctors	医療技術の進歩について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum	新しい食品、食品の未来像について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9	Chapter 8 The Sports Space Race	スポーツにおける科学の役割について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Chapter 9 Turn Out the Lights	光汚染について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Chapter 10 It's Good to Be Grumpy	不機嫌な気分の大切さについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Chapter 11 A Full Working Week	どのくらい就労するべきかについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13	残りの Chapter で、学生が読みたい Chapter を読む-1	どのチャプターになるかは分からないので、明言できない。
14	総括	解説と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Reading の部分を、辞書を使って予習し、問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】
Anthony Sellick, James Bury & Kaori Horiuchi『Grand Tour: Seeing the World』成美堂

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
最後の授業の後に行うテストを７０％、通常点を３０％で計算します。もし課題を課した場合、課題の未提出、最後のテストの未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書
テキスト

【Outline (in English)】
Through reading a textbook called *Grand Tour: Seeing the World*, the object of this class is to develop English reading skills and to understand more about today's issues. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% and the final exam 70%.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

舟橋　美香

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界で活躍する企業を取り上げた１５章からなるテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】
本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの続き、生徒が読みたい前期のテキストの残りの章から１章を読む。	前期のテキストの続き、内容は、前期に学生にアンケートをとって決める。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 Zara	Zara's Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses. ファストファッションブランドの成功の舞台裏。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 Airbnb	Airbnb's Challenge and New Directions. 民泊ビジネスにおける」課題と挑戦。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 Facebook	Augmented Reality Ecosystem in Facebook. 拡張現実の構築で世界を変える？　テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 Adidas	Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer. 「超高速」靴製造の技術革新。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 Toyota	At Toyota, the Automation Is Human-Powered. 自動車生産の自動化と職人芸。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 Starbucks	How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand. グローバルブランドの原点と成功への道のり。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 McDonald's	McDonald's Modern Marketing Methods. 顧客に寄り添う新たなマーケティング戦略。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 TED	How TED Evolves and Where It Wants to Go Next.「広げる価値のあるアイデア」プレゼンの進化。テキストの予習復習をする。
10 回目	Chapter 9 Amazon	Why Amazon Is the World's Most Innovative Company.「最も革新的な企業」が目指す未来。テキストの予習復習をする。
11 回目	Chapter 10 Sony	Sony Comes Back from the Brink. 起死回生を賭けた取捨選択と新たな展望。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 IKEA	IKEA's New Business Move for Millennials. 若者の DIY 離れと新サービスの導入。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 Google	How Google Has Changed the World. 検索エンジンが広げた世界のゆくえ。テキストの予習復習をする。
14 回目	総括	まとめと解説・試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Vocabulary を辞書を活用して予習し、授業中に Listening を CD を聴きながら穴埋めし、Reading を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、Reading の後の質問に答えておく。

【テキスト（教科書）】
Kayoko Shiomi/ Kazumi Tsutada/ Angus McGregor『Challenges of Global Enterprises』金星堂

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点を３０％、最後のテストを７０％で計算します。
最後のテスト未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
辞書

【Outline (in English)】
Through reading a textbook called *Challenges of Global Enterprises*, the object of this class is to develop English reading skills and understand more about each company in the world, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% and the final exam 70%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山　恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing) に接続していきます

【到達目標】
1 多様なトピックのニュースを正確に聞き取ることができるようになること
2 テクストを正確に理解し分析できるようになること
3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:
(1) Reading: paragraph reading
(2) Listening: listening to mini-talks and global news
(3) Writing: summary and paragraph writing
(4) Speaking: preparation for presentation
Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation 2 Understanding Issue: Eco or Ego? #1	1 Explaining the course 2 Reading 1st paragraph in “Case”
2	Understanding Issue: Eco or Ego? #2	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: International Society #1	1 Reading paragraphs on international society 2 Listening practice
4	Understanding Issue: International Society #2	1 Listening practice 2 Comparing real data on websites 3 Writing and speaking your ideas
5	Understanding Issue: Democracy #1	1 Reading paragraphs on Press freedom 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Democracy #2	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
7	Learning Academic Writing #1	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing #2	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Understanding Issue: Larger Budget for Education #1	1 Reading paragraphs on Budget for Education 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Larger Budget for Education #2	1 Listening practice 2 Comparing real data on websites 3 Writing and speaking your ideas
11	Learning basic presentation skills	1 Making a Presentation on Budget for Education
12	Understanding Issue: Globalization #1	1 Reading paragraphs on Globalization 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Globalization #2	1 Reading paragraphs on the pros and cons of globalization 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)
1 Weekly reading, listening or writing home assignments
2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書)】
Take a Stance: Discussing Today’s Controversial Issues 2 (Cengage Larning)

【参考書】
Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】
Final test (40%)
Home assignment (30%)
In-class contribution (30%)
In principle, no more than 3 absences per semester are allowed
（春学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない）

【学生の意見等からの気づき】
I hope your enthusiastic participation will make each session exciting and of high quality.
みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうあることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii（学習支援システム）
Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】
This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. Students will learn skills in paragraph reading, news listening and well-structured writing. The goal is for students to be able to listen to news on a range of topics, to read multi-paragraph passages with accuracy and to write a well-structured paragraph about their own opinions. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (40%), the home assignment (30%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

青山　恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」を「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします（Learning four skills of reading, listening, speaking and writing)

【到達目標】
1 多様なトピックを「英語で」学ぶことができるようになること
2 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
3 学んだトピックについて論理的構成を持つエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:
(1) Reading: paragraph reading
(2) Listening: listening to mini-talks and global news
(3) Writing: summary and paragraph writing
(4) Speaking: preparation for presentation
Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue: A Brief History of Human Rights #1	1 Explaining the course of this semester 2 Reading “A Brief History of Human Rights”
2	Understanding Issue: What is the Universal Declaration of Human Rights	1 Reading “ What is the Universal Declaration of Human Rights” 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? #1	1 Reading paragraphs on homelessness 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? #2	1 Reading about the pros and cons of self-responsibility for the homeless 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
5	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies? #1	1 Reading paragraphs on Open Borders 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies? #2	1 Reading paragraphs on policy for immigrants 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
7	Learning Academic Writing #1	1 Writing an agree or disagree essay 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing #2	1 peer editing 2 Listening practice
9	Understanding Issue: Military Expenditures #1	1 Reading paragraphs on Military Expenditure 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Military Expenditures #2	1 Listening practice 2 comparing real data on websites 3 Exchanging your ideas
11	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes? #1	1 Reading paragraphs on Tax Hikes 2 Listening Practice
12	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes? #2	1 Reading paragraph on the pros and cons of direct tax hike 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
13	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous	1 Reading paragraphs on Legatum Prosperity Index 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)
1 Weekly reading, listening, or writing home assignments
2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】
Take a Stance: Discussing Today’s Controversial Issues 2 (Cengage Larning)

【参考書】
Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】
Final test (30%)
Essay Writing (20%)
Home assignment (20%)
In-class contribution (30%)
In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】
Your classmates’ support and encouragement will help to keep you motivated.
だんだんハードになってくると思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii（学習支援システム）
Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】
This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn about a wide range of topics through reading and listening to authentic materials. Students will also learn to write essays. The goal is for students to be able to understand a given topic through English, to accurately listen to arguments for and against the topic, and to write a well-structured essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (30%), the essay writing (20%), the home assignment (20%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山　恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing) に接続していきます

【到達目標】
1 多様なトピックのニュースを正確に聞き取ることができるようになること
2 テクストを正確に理解し分析できるようになること
3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:
(1) Reading: paragraph reading
(2) Listening: listening to mini-talks and global news
(3) Writing: summary and paragraph writing
(4) Speaking: preparation for presentation
Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation 2 Understanding Issue: Eco or Ego? #1	1 Explaining the course 2 Reading 1st paragraph in “Case”
2	Understanding Issue: Eco or Ego? #2	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: International Society #1	1 Reading paragraphs on international society 2 Listening practice
4	Understanding Issue: International Society #2	1 Listening practice 2 Comparing real data on websites 3 Writing and speaking your ideas
5	Understanding Issue: Democracy #1	1 Reading paragraphs on Press freedom 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Democracy #2	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
7	Learning Academic Writing #1	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing #2	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Understanding Issue: Larger Budget for Education #1	1 Reading paragraphs on Budget for Education 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Larger Budget for Education #2	1 Listening practice 2 Comparing real data on websites 3 Writing and speaking your ideas
11	Learning basic presentation skills	1 Making a Presentation on Budget for Education
12	Understanding Issue: Globalization #1	1 Reading paragraphs on Globalization 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Globalization #2	1 Reading paragraphs on the pros and cons of globalization 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)
1 Weekly reading, listening or writing home assignments
2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】
Take a Stance: Discussing Today’s Controversial Issues 2 (Cengage Larning)

【参考書】
Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】
Final test (40%)
Home assignment (30%)
In-class contribution (30%)
In principle, no more than 3 absences per semester are allowed
（春学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない）

【学生の意見等からの気づき】
I hope your enthusiastic participation will make each session exciting and of high quality.
みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうあることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii（学習支援システム）
Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】
This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. Students will learn skills in paragraph reading, news listening and well-structured writing. The goal is for students to be able to listen to news on a range of topics, to read multi-paragraph passages with accuracy and to write a well-structured paragraph about their own opinions. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (40%), the home assignment (30%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

青山　恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」を「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします（Learning four skills of reading, listening, speaking and writing)

【到達目標】
1 多様なトピックを「英語で」学ぶことができるようになること
2 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
3 学んだトピックについて論理的構成を持つエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:
(1) Reading: paragraph reading
(2) Listening: listening to mini-talks and global news
(3) Writing: summary and paragraph writing
(4) Speaking: preparation for presentation
Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパに対するフィードバックを行います）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue: A Brief History of Human Rights #1	1 Explaining the course of this semester 2 Reading “A Brief History of Human Rights”
2	Understanding Issue: What is the Universal Declaration of Human Rights	1 Reading “ What is the Universal Declaration of Human Rights” 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? #1	1 Reading paragraphs on homelessness 2 Listening practice
4	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness? #2	1 Reading about the pros and cons of self-responsibility for the homeless 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
5	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies? #1	1 Reading paragraphs on Open Borders 2 Listening practice
6	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies? #2	1 Reading paragraphs on policy for immigrants 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
7	Learning Academic Writing #1	1 Writing an agree or disagree essay 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing #2	1 peer editing 2 Listening practice
9	Understanding Issue: Military Expenditures #1	1 Reading paragraphs on Military Expenditure 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Military Expenditures #2	1 Listening practice 2 comparing real data on websites 3 Exchanging your ideas
11	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes? #1	1 Reading paragraphs on Tax Hikes 2 Listening Practice
12	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes? #2	1 Reading paragraph on the pros and cons of direct tax hike 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
13	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous	1 Reading paragraphs on Legatum Prosperity Index 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)
1 Weekly reading, listening, or writing home assignments
2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】
Take a Stance: Discussing Today’s Controversial Issues 2 (Cengage Larning)

【参考書】
Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】
Final test (30%)
Essay Writing (20%)
Home assignment (20%)
In-class contribution (30%)
In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】
Your classmates’ support and encouragement will help to keep you motivated.
だんだんハードになってくると思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii（学習支援システム）
Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】
This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn about a wide range of topics through reading and listening to authentic materials. Students will also learn to write essays. The goal is for students to be able to understand a given topic through English, to accurately listen to arguments for and against the topic, and to write a well-structured essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (30%), the essay writing (20%), the home assignment (20%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタヴューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタヴューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.
This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】
・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習し、それを基礎にスピーキング課題に取り組む。スピーキングのためにスクリプトやスライド資料を作成する。その作成方法についての講義、添削指導は、授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。
授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどから､Google や講師が作成したウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 1 貧困をなくそう	・読解 ・Goal 1 の理解 ・グループディスカッション
3	Goal 2 飢餓をゼロに	・読解 ・Goal 2 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
4	Goal 4 質の高い教育をみんなに	・読解 ・Goal 4 の理解 ・グループディスカッション
5	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの方法と心構え ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
6	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
7	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1 ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
8	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2
9	Goal 3 すべての人に健康と福祉を	・読解 ・Goal 3 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 4
10	Goal 6 安全な水とトイレを世界中に	・読解 ・Goal 6 の理解 ・グループディスカッション
11	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 に関する具体案」	・単語テスト ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 5
12	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
13	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニュースクリプトはウェブ上にアップロードされている音声 (授業内に指示する) で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
『大学生のための CNN ニュース・リスニング： SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円 (税別)

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）(以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)
・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業のパフォーマンス 25 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 40%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.
Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】
・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習し、それを基礎にスピーキング課題に取り組む。スピーキングのためにスクリプトやスライド資料を作成する。その作成方法についての講義、添削指導は、授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。
授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどから､Google や講師が作成したウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう	・読解 ・Goal 5 の理解 ・グループディスカッション
3	Goal 8 働きがいも経済成長も	・読解 ・Goal 8 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
4	Goal 10 人や国の不平等をなくそう	・読解 ・Goal 10 の理解 ・グループディスカッション
5	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの方法と心構え（基礎のおさらいと応用） ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
6	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
7	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1 ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
8	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2
9	Goal 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	・読解 ・Goal 9 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 4
10	Goal 14 海の豊かさを守ろう	・読解 ・Goal 14 の理解 ・グループディスカッション
11	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 に関する具体案」	・単語テスト ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 5
12	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
13	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニュースクリプトはウェブ上にアップロードされている音声 (授業内に指示する) で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
『大学生のための CNN ニュース・リスニング： SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円 (税別)

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）(以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)
・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業のパフォーマンス 25 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 40%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.
Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。
高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。
対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 4/13	ガイダンス	時事問題プリント教材
2 4/20	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3 4/27	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4 5/11	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5 5/18	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	Unit 1 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6 5/25	Unit 3 ノーベル平和賞受賞！マリア・レッサの信念	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7 6/1	Unit 3 ノーベル平和賞受賞！マリア・レッサの信念	Unit 2 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8 6/8	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9 6/15	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	Unit 3 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10 6/22	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11 6/29	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	Unit 4 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12 7/6	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13 7/13	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	Unit 5 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14 7/20	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめと 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込）

【参考書】
特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
●授業動画配信オンデマンド型時　課題提出　10%・・・Examples は採点する。1 点 ×10 問 = 10 点　（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）
●対面時　授業内課題提出　10%

●対面時小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
●期末試験　50%
＊欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業は、オンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
19/21	Warming up	時事問題プリント教材
2 9/28	Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3 10/5	Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4 10/12	Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5 10/19	Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	Unit 7 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6 10/26	Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7 11/9	Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	Unit 8 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8 11/16	Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9 11/23	Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	Unit 9 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10 11/30	Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11 12/7	Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	Unit 10 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12 12/14	Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13 12/21	Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	Unit 11 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14 1/11	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込）

【参考書】
特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
●授業動画配信オンデマンド授業時　課題提出　10%・・・Examples は採点する。1 点 ×10 問＝ 10 点
●対面時　授業内課題提出　10%

●対面時小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
●期末試験　50%
＊欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。
＊オンデマンド授業の出欠規定・・・毎回解答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業はオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 2**/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】
大抵のイギリス映画およびハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
イギリス映画『ノッティング・ヒルの恋人』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代イギリス文化を学ぶ。課題等の提出や全体に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ／第 1 回課題の提示	授業テーマの確認／授業・成績評価の方法の説明／教科書の予習・復習の仕方／課題の提示
②	Unit 1 William's Notting Hill & 'She'(1)	Transcript の精読／仮定法過去完了／前回のフィードバック・課題レポートの指示
③	Unit 1 William's Notting Hill & 'She'(2)	Unit 1 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／自己紹介の英語表現
④	Unit 2 Surreal, But Nice (1)	Transcript の精読／前置詞／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑤	Unit 2 Surreal, But Nice (2)	Unit 2 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／電話の応対の英語表現
⑥	Unit 3 A Goddess Is A Movie Star (1)	Transcript の精読／現在完了形／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑦	Unit 3 A Goddess Is A Movie Star (2)	Unit 3 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／インタビューの英語表現
⑧	Unit 4 Birthday Party (1)	Transcript の精読／進行形の使い方／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑨	Unit 4 Birthday Party (2)	Unit 4 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／困惑を表す英語表現
⑩	Unit 5 A Date With Anna (1)	Transcript の精読／否定／前回のフィードバック・課題レポートの指示／文化的背景： Beatrix Potter
⑪	Unit 5 A Date With Anna (2)	Unit 5 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
⑫	Intermission: Paddington 2	この映画の俳優たちが出ている他の作品の一部を鑑賞し、彼らの発音とアクセントに慣れてきたかどうかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑬	復習と学期末レポート課題の説明	Unit 1 から Unit 5 の各設問の復習を行い、学生の皆さんの答案を編集する。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポート課題の提示／まとめと解説	学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を提示し、レポートに関する質問等に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ノッティング・ヒルの恋人』、Richard Curtis, 松柏社、ISBN978-4-88198-590-8, 2200 円

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
全 13 回の課題レポート (45%) 、三段階評価する学期末レポート課題 (30%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (20%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aims of this course are:
1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to:
- acquire their basic listening skills for watching most of British films (or Hollywood movies) without subtitles.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
- develop basic abilities to express their thoughts and opinions with accuracy.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment (Essay): 30%,
final test: 20% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】
大抵のイギリス映画やハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にある英米文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
イギリス映画『ノッティング・ヒルの恋人』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代イギリス文化を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつか問題点を取り上げ、全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題のフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 She's Gone (1)	Transcript の精読／関係副詞／前回のフィードバック・課題レポートの指示
③	Unit 6 She's Gone (2)	Unit 6 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示　驚きを示す英語表現
④	Unit 7 She's Back (1)	Transcript の精読／関係詞の非制限用法／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑤	Unit 7 She's Back (2)	Unit 7 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／説得・提案の英語表現
⑥	Unit 8 Rude Awakening (1)	Transcript の精読／ It の特別用法〔先行の it〕／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑦	Unit 8 Rude Awakening (2)	Unit 8 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／パーティー等でのスピーチの英語表現
⑧	Unit 9 Like Me Again (1)	Transcript の精読／分詞構文／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	Unit 9 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／丁寧な依頼の英語表現／文化的背景： Henry James
⑩	Unit 10 The Right Decision - The Meaning of My Life is She (1)	Transcript の精読／比較／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑪	Unit 10 The Right Decision - The meaning of My Life is She (2)	Unit 10 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／道案内の英語表現
⑫	Post feminism in popular culture	Paul Hodkinson の 'Media Cuture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑬	復習と学期末レポート課題の説明	Unit 6 から Unit 10 の各問題を復習し、提出された皆さんの解答を編集する。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	学期末文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を提示する。提出期限を指示し、質問等に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ノッティング・ヒルの恋人』、Richard Curtis, 松柏社、ISBN978-4-88198-590-8, 2200 円

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
全 13 回の課題レポート (45%) 、三段階評価する学期末レポート課題 (30%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (20%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aims of this course are:
1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to:
- acquire their basic listening skills for watching most of British films (or Hollywood movies) without subtitles.
- learn how Hollywood movies interact with all aspects of American cultural life.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment (Essay): 30%, final test: 20% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第１課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第１課 On the Plane-1	第 1 課 単語 ディクテーション
4	第１課 On the Plane-2	発音 口頭練習
5	第２課 Airport Arrival Procedures-1	第 1 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第２課 Airport Arrival Procedures-2	発音 口頭練習
7	第３課 Meeting the Host Family-1	第 2 課小テスト 単語 ディクテーション
8	第３課 Meeting the Host Family-2	発音 口頭練習
9	第４課 Sharing Japanese Culture-1	第３課小テスト 単語 ディクテーション
10	第４課 Sharing Japanese Culture-2	発音 口頭練習
11	第５課 Taking the Bus-1	第４課小テスト 単語 ディクテーション
12	第５課 Taking the Bus-2	発音 口頭練習
13	第６課 Orientation-1	第５課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
グローバルキャリアをめざして
辻勢都・辻和成著　　2015 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33448-7

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activites outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。
海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。
ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 6 課 Orientation-2	発音 口頭練習
3	第 7 課 Making Phone Calls-1	第 6 課小テスト 単語 ディクテーション
4	第 7 課 Making Phone Calls-2	発音 口頭練習
5	第 8 課 Seeking Medical Care-1	第 7 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第 8 課 Seeking Medical Care-2	発音 口頭練習
7	第 9 課 Giving Presentations-1	第 8 課小テスト 単語 ディクテーション
8	第 9 課 Giving Presentations-2	発音 口頭練習
9	第 10 課 Shopping-1	第 9 課小テスト 単語 ディクテーション
10	第 10 課 Shopping-2	発音 口頭練習
11	第 11 課 Airport Departure Procedures-1	第 10 課小テスト 単語 ディクテーション
12	第 11 課 Airport Departure Procedures-2	発音 口頭練習
13	第 12 課 Keeping in Touch by Email	単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
グローバルキャリアをめざして
辻勢都・辻和成著　　2015 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33448-7

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】
日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC ® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 英語を書くときのポイント 1	Ceremony 聴解 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 3 回	Listening 小テスト 2 英語を書くときのポイント 2	School Life 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6 プレゼンテーションの方法	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイルへの音声録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1 (写真説明)
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 2 (写真説明)
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】
Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用ｽｸﾘﾌﾟﾄはコピー冊子を配布)
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂
このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】
Longman Academic Writing Series
研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％（授業参加度１０％、Listening 小テスト平均点１０％、プレゼンテーション原稿 Writing １０％、スピーチ音声１０％、その他授業内課題１０％）、期末試験５０％。よって、評価点は試験５０点、平常点５０点で、合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も０点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
「何を言ってるのかわからない英語を聴くのがつらい」というご意見が少なくなった。確かに、Listening や Dictation を通して聴解力が年々上がってきていると思う。一方で「大体の内容はわかるが、細かいところまではわからない」というご意見もあり、今年度も聴解ののちスクリプトの読解作業を続けたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書

【Outline (in English)】
This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】
日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC ® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test3・4 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】
Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用ｽｸﾘﾌﾟﾄはコピー冊子を配布)
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂
このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】
Longman Academic Writing Series
研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％（授業参加度１０％、Listening 小テスト平均点１０％、プレゼンテーション原稿 Writing １０％、スピーチ音声１０％、その他授業内課題１０％）、期末試験５０％。よって、評価点は試験５０点、平常点５０点で、合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も０点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
「何を言ってるのかわからない英語を聴くのがつらい」というご意見が少なくなった。確かに、Listening や Dictation を通して聴解力が年々上がってきていると思う。一方で「大体の内容はわかるが、細かいところまではわからない」というご意見もあり、今年度も聴解ののちスクリプトの読解作業を続けたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書

【Outline (in English)】
This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタヴューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。
第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題提出（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。
具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。
単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】
当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をすることができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタヴューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
課題（10%）、平常点（30%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（40%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation.
First, you will understand the way of organizing a presentation.
This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation.
Then, you will make and give a presentation on a specific topic.
By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.
In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】
・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習し、それを基礎にスピーキング課題に取り組む。スピーキングのためにスクリプトやスライド資料を作成する。その作成方法についての講義、添削指導は、授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。
授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどから､Google や講師が作成したウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 1 貧困をなくそう	・読解 ・Goal 1 の理解 ・グループディスカッション
3	Goal 2 飢餓をゼロに	・読解 ・Goal 2 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
4	Goal 4 質の高い教育をみんなに	・読解 ・Goal 4 の理解 ・グループディスカッション
5	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの方法と心構え ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
6	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
7	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1 ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
8	プレゼンテーション課題 1「Goal 1, 2, 4 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2
9	Goal 3 すべての人に健康と福祉を	・読解 ・Goal 3 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 4
10	Goal 6 安全な水とトイレを世界中に	・読解 ・Goal 6 の理解 ・グループディスカッション
11	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 に関する具体案」	・単語テスト ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 5
12	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
13	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2「Goal 3, 6 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニュースクリプトはウェブ上にアップロードされている音声 (授業内に指示する) で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
『大学生のための CNN ニュース・リスニング： SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円 (税別)

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）(以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)
・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業のパフォーマンス 25 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 40%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.
Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

森永　豊

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】
・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習し、それを基礎にスピーキング課題に取り組む。スピーキングのためにスクリプトやスライド資料を作成する。その作成方法についての講義、添削指導は、授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。
授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどから､Google や講師が作成したウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう	・読解 ・Goal 5 の理解 ・グループディスカッション
3	Goal 8 働きがいも経済成長も	・読解 ・Goal 8 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
4	Goal 10 人や国の不平等をなくそう	・読解 ・Goal 10 の理解 ・グループディスカッション
5	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの方法と心構え（基礎のおさらいと応用） ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
6	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
7	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1 ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
8	プレゼンテーション課題 1「Goal 5, 8, 10 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2
9	Goal 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	・読解 ・Goal 9 の理解 ・グループディスカッション ・ディクテーション課題 4
10	Goal 14 海の豊かさを守ろう	・読解 ・Goal 14 の理解 ・グループディスカッション
11	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 に関する具体案」	・単語テスト ・プレゼンテーションの準備作業 ・ディクテーション課題 5
12	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーションの準備作業
13	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2「Goal 9, 14 を実現する具体案」	・プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニュースクリプトはウェブ上にアップロードされている音声 (授業内に指示する) で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】
『大学生のための CNN ニュース・リスニング： SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円 (税別)

【参考書】
・『LINKS 1500 ―大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）(以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)
・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、 2011 年、1944 円 (税込)
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円 (税別)
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業のパフォーマンス 25 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 40%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】
辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】
You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.
Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。
高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。
対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 4/13	ガイダンス	時事問題プリント教材
2 4/20	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3 4/27	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4 5/11	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5 5/18	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	Unit 1 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6 5/25	Unit 3 ノーベル平和賞受賞！マリア・レッサの信念	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7 6/1	Unit 3 ノーベル平和賞受賞！マリア・レッサの信念	Unit 2 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8 6/8	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9 6/15	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	Unit 3 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10 6/22	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11 6/29	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	unit 4 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12 7/6	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13 7/13	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	Unit 5 小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14 7/20	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末まとめテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込）

【参考書】
特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
●授業動画配信オンデマンド授業時　課題提出　10%・・・Examples は採点する。1 点 ×10 問 = 10 点　（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）
●対面時　授業内課題提出　10%

●対面時小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
●期末試験　50%
＊欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業はオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 9/21	ガイダンス	時事プリント教材
2 9/28	Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3 10/5	Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4 10/12	Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5 10/19	Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	Unit 7 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6 10/26	Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7 11/9	Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	Unit 8 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8 11/16	Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9 11/23	Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	Unit 9 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10 11/30	Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11 12/7	Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	Unit 10 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12 12/14	Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13 12/21	Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	Unit 11 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14　1/11	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめと 期末まとめテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込）

【参考書】
特になし。
辞書必携。

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
●授業動画配信オンデマンド授業時　課題提出　10%・・・Examples は採点する。1 点 ×10 問 = 10 点　（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）
●対面時　授業内課題提出　10%

●対面時小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
●期末試験　50%
＊欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業はオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川　直澄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 1**/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】
大抵のイギリス映画およびハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
イギリス映画『ノッティング・ヒルの恋人』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代イギリス文化を学ぶ。課題等の提出や全体に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance ／第 1 回課題の提示	授業テーマの確認／授業・成績評価の方法の説明／教科書の予習・復習の仕方／課題の提示
②	Unit 1 William's Notting Hill & 'She'(1)	Transcript の精読／仮定法過去完了／前回のフィードバック・課題レポートの指示
③	Unit 1 William's Notting Hill & 'She'(2)	Unit 1 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／自己紹介の英語表現
④	Unit 2 Surreal, But Nice (1)	Transcript の精読／前置詞／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑤	Unit 2 Surreal, But Nice (2)	Unit 2 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／電話の応対の英語表現
⑥	Unit 3 A Goddess Is A Movie Star (1)	Transcript の精読／現在完了形／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑦	Unit 3 A Goddess Is A Movie Star (2)	Unit 3 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／インタビューの英語表現
⑧	Unit 4 Birthday Party (1)	Transcript の精読／進行形の使い方／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑨	Unit 4 Birthday Party (2)	Unit 4 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／困惑を表す英語表現
⑩	Unit 5 A Date With Anna (1)	Transcript の精読／否定／前回のフィードバック・課題レポートの指示／文化的背景： Beatrix Potter
⑪	Unit 5 A Date With Anna (2)	Unit 5 問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／依頼する英語表現・希望を伝える英語表現
⑫	Intermission: Paddington 2	この映画の俳優たちが出ている他の作品の一部を鑑賞し、彼らの発音とアクセントに慣れてきたかどうかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑬	復習と学期末レポート課題の説明	Unit 1 から Unit 5 の各設問の復習を行い、学生の皆さんの答案を編集する。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	学期末の文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を提示し、レポートに関する質問等に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ノッティング・ヒルの恋人』、Richard Curtis, 松柏社、ISBN978-4-88198-590-8, 2200 円

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
全 13 回の課題レポート (45%) 、三段階評価する学期末レポート課題 (30%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (20%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持ってもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aims of this course are:
1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to:
- acquire their basic listening skills for watching most of British films (or Hollywood movies) without subtitles.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
- develop basic abilities to express their thoughts and opinions with accuracy.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment (Essay): 30%,
final test: 20% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉川　直澄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】
大抵のイギリス映画やハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にある英米文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
イギリス映画『ノッティング・ヒルの恋人』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代イギリス文化を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつか問題点を取り上げ、全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題のフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 She's Gone (1)	Transcript の精読／関係副詞／前回のフィードバック・課題レポートの指示
③	Unit 6 She's Gone (2)	Unit 6 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示　驚きを示す英語表現
④	Unit 7 She's Back (1)	Transcript の精読／関係詞の非制限用法／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑤	Unit 7 She's Back (2)	Unit 7 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／説得・提案の英語表現
⑥	Unit 8 Rude Awakening (1)	Transcript の精読／ It の特別用法〔先行の it〕／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑦	Unit 8 Rude Awakening (2)	Unit 8 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／パーティー等でのスピーチの英語表現
⑧	Unit 9 Like Me Again (1)	Transcript の精読／分詞構文／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	Unit 9 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／丁寧な依頼の英語表現／文化的背景： Henry James
⑩	Unit 10 The Right Decision - The Meaning of My Life is She (1)	Transcript の精読／比較／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑪	Unit 10 The Right Decision - The meaning of My Life is She (2)	Unit 10 の問題演習と解説／前回のフィードバック・課題レポートの指示／道案内の英語表現
⑫	Post feminism in popular culture	Paul Hodkinson の 'Media Cuture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑬	復習と学期末レポート課題の説明	Unit 6 から Unit 10 の各問題を復習し、提出された皆さんの解答を編集する。／前回のフィードバック・課題レポートの指示
⑭	学期末文法・語彙確認テスト／学期末レポートの提示／まとめと解説	学期末文法・語彙確認テストを実施し、学期末レポート課題を提示する。提出期限を指示し、質問等に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ノッティング・ヒルの恋人』、Richard Curtis, 松柏社、ISBN978-4-88198-590-8, 2200 円

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
全 13 回の課題レポート (45%) 、三段階評価する学期末レポート課題 (30%) 、学期末に実施する文法・語彙確認テスト (20%) 、授業への積極的な参加・貢献 (5%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】
この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aims of this course are:
1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.
(Learning Objective)
By the end of the course, students will be able to:
- acquire their basic listening skills for watching most of British films (or Hollywood movies) without subtitles.
- learn how Hollywood movies interact with all aspects of American cultural life.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to:
- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.
(Grading Criteria/Policy)
Final grade will be calculated according to the following process:
13 weekly class assignments: 45%, final term assignment (Essay): 30%, final test: 20% and in-class contribution: 5%.
Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション 第１課	基礎的な文法事項の確認 この教科書の使い方
3	第１課 Travel-1	第 1 課 単語 ディクテーション
4	第１課 Travel-2	リーディング 口頭練習
5	第２課 Jobs and People-1	第 1 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第２課 Jobs and People-2	リーディング 口頭練習
7	第３課 Getting on the Plane-1	第 2 課単語テスト 単語 ディクテーション
8	第３課 Getting on the Plane-2	リーディング 口頭練習
9	第４課 At the Immigration and Customs-1	第３課小テスト 単語 ディクテーション
10	第４課 At the Immigration and Customs-2	リーディング 口頭練習
11	第５課 At the Airport-1	第４課小テスト 単語 ディクテーション
12	第５課 At the Airport-2	リーディング 口頭練習
13	第６課 Hotel-1	第５課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
ベーシック観光英語
観光英検センター著　　2014 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33437-1

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が４回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋　佳江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。
　また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】
教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。
またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。
海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。
ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。
春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくること。適宜、発表、レポートを課す。
対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第６課 Hotel(Accommodations)-2	リーディング 口頭練習
3	第７課 Restaurant(Breakfast and Fast Food)-1	単語 ディクテーション
4	第７課 Restaurant (Breakfast and Fast Food)-2	リーディング 口頭練習
5	第８課 Sightseeing-1	第 7 課小テスト 単語 ディクテーション
6	第８課 Sightseeing-2	リーディング 口頭練習
7	第９課 Shopping-1	第８課小テスト 単語 ディクテーション
8	第９課 Shopping-2	リーディング 口頭練習
9	第 10 課 Transportation-1	第９課小テスト 単語 ディクテーション
10	第 10 課 Transportation-2	リーディング 口頭練習
11	第 11 課 Problems and Complaints-1	第 10 課小テスト 単語 ディクテーション
12	第 11 課 Problems and Complaints-2	リーディング 口頭練習
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】
ベーシック観光英語
観光英検センター著　　2014 年　三修社　2000 円
ISBN 978-4-384-33437-1

【参考書】
辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験　60 %
小テスト　10 %
レポート課題・発言点　20 %
平常点　　10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】
Course outline
The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.
Learning Objectives
Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.
　Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.
Learning activities outside of classroom
The standard preparation and review time for this class is one hour.
Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.
Grading Criteria/Policy
Final exam 60%
Quiz: 10%.
Report assignment and remarks: 20%.
Ordinary points 10%.
If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.
Three tardies will count as one absence.
In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】
日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC ® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1 英語を書くときのポイント 1	Ceremony 聴解 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 3 回	Listening 小テスト 2 英語を書くときのポイント 2	School Life 聴解 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6 プレゼンテーションの方法	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイルへの音声録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1 (写真説明)
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 2 (写真説明)
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】
Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用ｽｸﾘﾌﾟﾄはコピー冊子を配布)
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂
このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】
Longman Academic Writing Series
研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％（授業参加度１０％、Listening 小テスト平均点１０％、プレゼンテーション原稿 Writing １０％、スピーチ音声１０％、その他授業内課題１０％）、期末試験５０％。よって、評価点は試験５０点、平常点５０点で、合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も０点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
「何を言ってるのかわからない英語を聴くのがつらい」というご意見が少なくなった。確かに、Listening や Dictation を通して聴解力が年々上がってきていると思う。一方で「大体の内容はわかるが、細かいところまではわからない」というご意見もあり、今年度も聴解ののちスクリプトの読解作業を続けたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書

【Outline (in English)】
This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

今井　澄子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】
日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC ® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test3・4 聴解 Introducion-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】
Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用ｽｸﾘﾌﾟﾄはコピー冊子を配布)
Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂
このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】
Longman Academic Writing Series
研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】
平常点５０％（授業参加度１０％、Listening 小テスト平均点１０％、プレゼンテーション原稿 Writing １０％、スピーチ音声１０％、その他授業内課題１０％）、期末試験５０％。よって、評価点は試験５０点、平常点５０点で、合計１００点とし、６０％以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も０点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
「何を言ってるのかわからない英語を聴くのがつらい」というご意見が少なくなった。確かに、Listening や Dictation を通して聴解力が年々上がってきていると思う。一方で「大体の内容はわかるが、細かいところまではわからない」というご意見もあり、今年度も聴解ののちスクリプトの読解作業を続けたい。

【学生が準備すべき機器他】
英和辞書

【Outline (in English)】
This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1A Would you get the job?	figuring out meaning from context
4	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
5	1B Personality test	the..., the... + comparatives
6	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
7	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
8	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
9	2B Dressing one's age	writing descriptions
10	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
11	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
12	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
13	3B "The Necklace"	reading a short story. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3B "A small mistake"	writing a short story.
2	4A Stormy weather	future perfect and future continuous.
3	4B A risky business	zero and first conditionals
4	4B Extreme sports	expressions with "take"
5	5A I'm a survivor	feelings, word stress
6	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
7	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
8	5B Regrets	wish for past regrets
9	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
10	6A Facts about sleep	causal explanations
11	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
12	7B How to spot a liar	describing a photo
13	8A Cutting crime	the passive (all forms). Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1A Would you get the job?	figuring out meaning from context
4	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
5	1B Personality test	the..., the... + comparatives
6	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
7	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
8	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
9	2B Dressing one's age	writing descriptions
10	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
11	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
12	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases
13	3B "The Necklace"	reading a short story. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】
Students will work individually, and with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	3B "A small mistake"	writing a short story.
2	4A Stormy weather	future perfect and future continuous.
3	4B A risky business	zero and first conditionals
4	4B Extreme sports	expressions with "take"
5	5A I'm a survivor	feelings, word stress
6	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
7	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
8	5B Regrets	wish for past regrets
9	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
10	6A Facts about sleep	causal explanations
11	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
12	7B How to spot a liar	describing a photo
13	8A Cutting crime	the passive (all forms). Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ￥ 3,200

【参考書】
Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【Outline (in English)】
This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.
The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.
Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading will be based on participation in class activities and homework (50%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に着けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド 授業を視聴して、指定の締め切り日までに Hoppii を通して課題を提出する。2 回目の授業（対面）では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布する記事を読んで自分の考えをまとめる。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする
Chapter 1,4,5,7,8,10
前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業 授業説明及び 時事問題のプリント配布。
2	Chapter 1 The Art of Persuation: What is the key to making a good argument?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
3	Chapter 1 The Art of Persuation: What is the key to making a good argument?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
4	Chapter 4 NintendoPower: How did Video games become so poplar?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
5 5/15	Chapter 4 NintendoPower: How did Video games become so poplar?	Chapter1 語彙テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
6	Chapter 5 Striving for Greatness :what makes someone the greatest of all time?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
7	Chapter 5 Striving for Greatness :what makes someone the greatest of all time?	Chapter4 語彙テスト本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
8	Chapter 7 Rise of the Machines: Are human Beings becoming obsolete?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
9	Chapter 7 Rise of the Machines: Are human Beings becoming obsolete?	Chapter5 語彙テスト本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
10	Chapter 8 The Call of Tha Wild: Why do Humans and Dogs have such a special bond?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
11	Chapter 8 The Call of Tha Wild: Why do Humans and Dogs have such a special bond?	Chapter7 語彙テスト本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
12	Chapter 10 The Mind's Eye: Is the World around us what it actually appears to be?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
13	Chapter 10 The Mind's Eye: Is the World around us what it actually appears to be?	Chapter8 語彙テスト本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末まとめ試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。
授業配信オンデマンド授業では本文を各自読み込み内容理解をして対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking The World -Dare To Know -　激動の現代社会を読み解く視点
Francois de Soete 著
成美堂　2200 円（税込み）

【参考書】
特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
授業動画配信オンデマンド型授業時　10 点　　10%（Answer Sheet の空欄が全て解答され　　ていること）
　対面　　課題提出　　10%

小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　　30%

期末試験　　50%
＊各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）、その授業回を出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】
トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture, media issues
and so on through the essays.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に着けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業（授業動画配信オンデマンド型）では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド 授業を視聴して、指定の締め切り日までに Hoppii を通して課題を提出する。2 回目の授業（対面）では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布する記事を読んで自分の考えをまとめる。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする
Chapter 1,4,5,7,8,10
前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 9/25	後期ガイダンス	初回授業 授業説明及び 時事問題のプリント配布。
2 10/2	Chapter 12 By the Sword: how did The Roman Republic turn into an empire?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
3 10/9	Chapter 12 By the Sword: how did The Roman Republic turn into an empire?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
4 10/16	Chapter 13 Democratic Ideals: What is democracy?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
5 10/23	Chapter 13 Democratic Ideals: What is democracy?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
6 10/30	Chapter 15 Luck of the Draw: How Important is luck for success in life?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
7 11/6	Chapter 15 Luck of the Draw: How Important is luck for success in life?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
8 11/13	Chapter 16 In the Biginning:What is the link between religion and cosmology?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
9 11/20	Chapter 16 In the Biginning:What is the link between religion and cosmology?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
10 11/27	Chapter 18 Condemned to be free: Is free will just an illusion?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
11 12/4	Chapter 18 Condemned to be free: Is free will just an illusion?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
12 12/11	Chapter 20 In the Grand Scheme of Things: What is the meaning of life?	授業動画配信オンデマンド型 Vocabulary ,Comprehension Question
13 12/18	Chapter 20 In the Grand Scheme of Things: What is the meaning of life?	本文内容の確認 テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末まとめテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。授業配信オンデマンド授業では本文を各自読み込み内容理解をして対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】
Rethinking The World -Dare To Know -　激動の現代社会を読み解く視点
Francois de Soete 著
成美堂　2200 円（税込み）

【参考書】
特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
授業動画配信オンデマンド授業時　10 点　　10%（Answer Sheet の空欄が全て解答され　　ていること）
対面　　10%

小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
期末試験　　50%
＊各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）、その授業回を出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】
トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業は授業動画配信オンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture, media issues
and so on through the essays.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

英語１－Ｉ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のニュースを教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットにつき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、速読）を中心に進める。
2 回目の授業では、読解（精読）とスピーキング、作文を行う。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages	リスニング、大意把握、速読
3	Unit 1: Artificial Intelligence Helps Make Movies Speak Many Languages	精読、スピーキング、作文
4	Unit 2: Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition	リスニング、大意把握、速読
5	Unit 2: Mongolian Youth Seek to Preserve Reindeer-Based Tradition	精読、スピーキング、作文
6	Unit 3: Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality	リスニング、大意把握、速読
7	Unit 3: Climate-Driven Heat Waves Increasing Inequality	精読、スピーキング、作文
8	Unit 4: Panda Boom Gives New Hope for Its Survival	リスニング、大意把握、速読
9	Unit 4: Panda Boom Gives New Hope for Its Survival	精読、スピーキング、作文
10	Unit 5: Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan	リスニング、大意把握、速読
11	Unit 5: Lantos Human Rights Prize Winners Vow to Work for Women in Afghanistan	精読、スピーキング、作文
12	Unit 6: Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker	リスニング、大意把握、速読
13	Unit 6: Translation Agency Advertises for a Fluent Emoji Speaker	精読、スピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. ビデオを視聴し、予習問題に解答する。
2. スクリプトを精読し、日本語に訳せるようにする。
［復習］
1. 復習問題に解答する。
2. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Toward a Diverse Society 1（若有保彦編、松柏社、2023 年、2,300 円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%
平常点（作文、スピーキング、予習・復習、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through watching English news videos and reading their scripts, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and improve ability in listening and writing.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

英語 1 ー Ⅱ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語のニュースを教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットにつき、2 回の授業を充てる。
1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、速読）を中心に進める。
2 回目の授業では、読解（精読）とスピーキング、作文を行う。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 7: Water Wheel Picks Up Trash in Baltimore's Waterways	リスニング、大意把握、速読
3	Unit 7: Water Wheel Picks Up Trash in Baltimore's Waterways	精読、スピーキング、作文
4	Unit 8: Junk Food Advertising Is To Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK	リスニング、大意把握、速読
5	Unit 8: Junk Food Advertising Is To Be Banned Across All Media Targeted at Children in the UK	精読、スピーキング、作文
6	Unit 9: Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks	リスニング、大意把握、速読
7	Unit 9: Technology Helps Find One of the World's Most Sought-After Shipwrecks	精読、スピーキング、作文
8	Unit 10: Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance	リスニング、大意把握、速読
9	Unit 10: Self-Driving Trucks May Beat Autonomous Cars in Race for Acceptance	精読、スピーキング、作文
10	Unit 11: Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away	リスニング、大意把握、速読
11	Unit 11: Fighting Food Waste: Technology Tells Restaurants What They Are Throwing Away	精読、スピーキング、作文
12	Unit 12: Dogs Can Be Trained to Detect Cancer	リスニング、大意把握、速読
13	Unit 12: Dogs Can Be Trained to Detect Cancer	精読、スピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. ビデオを視聴し、予習問題に解答する。
2. スクリプトを精読し、日本語に訳せるようにする。
［復習］
1. 復習問題に解答する。
2. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Toward a Diverse Society 1（若有保彦編、松柏社、2023 年、2,300 円）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60%
平常点（作文、スピーキング、予習・復習、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through watching English news videos and reading their scripts, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.
The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and improve ability in listening and writing.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

英語１－Ｉ

2017 年度以降入学者

川野　芽生

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
一回の授業につき一つの unit を扱う。
学生は授業までに、テキストの Reading の和訳・リスニングに取り組み、演習問題を解いてくる。
授業では Reading の精読を行い、演習問題の答え合わせと解説、学生の理解度の確認をする。
課題の提出とフィードバックは Google フォームを通して行う。
授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	America’s Easter Tradition
2	Chapter 2	America’s Inner-city Music
3	Chapter 3	African American Music
4	Chapter 4	The American Academy of Motion Picture Arts and Sciences
5	Chapter 5	American Fashion
6	Chapter 6	American Universities
7	Chapter 7	American Social Networking
8	Chapter 8	American Innovators and Innovation
9	Chapter 9	American Football
10	Chapter 10	Hollywood
11	Chapter 11	Walt Disney
12	Chapter 12	Historic Route 66
13	Chapter 13	American Fast Food
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に、その回で扱う Unit の Reading1 & 2 のテキストを、辞書を引き、文法事項を調べながら読んでくること。ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、辞書や文法書で調べた上で、なおわからないことを Google フォームの質問の項目に記入すること。
当日までに、その Reading に関する演習問題に取り組み、Google フォームで提出すること（なお、Listening 問題については、翌週扱う Unit のものを解いてくること）。

【テキスト（教科書）】
Ryan Smithers、Craig Gamble『Modern America: Culture, Society and History/現代米国の文化・社会・歴史』（松柏社、2021 年）、2000 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点　２０％
試験　８０％
4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
学生のわからない点を汲み取れるよう、質問しやすい雰囲気作りを心がける。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect information and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.
Before each class meeting, students will be expected to spend at least an hour to read the relevant chapter of the text, translate the reading passages to Japanese and work on the questions.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

川野　芽生

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英国の社会・文化について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】
・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
・基本的な文法力を向上させる
・語彙力を増やす
・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
一回の授業につき一つの unit を扱う。
学生は授業までに、テキストの Reading の和訳・リスニングに取り組み、演習問題を解いてくる。
授業では Reading の精読を行い、演習問題の答え合わせと解説、学生の理解度の確認をする。
課題の提出とフィードバックは Google フォームを通して行う。
授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Multi-Cultural UK
2	Chapter 2	English Gardens
3	Chapter 3	The British Royal Family
4	Chapter 4	Education in the UK
5	Chapter 5	Eating in Britain
6	Chapter 6	Health & the Medical System
7	Chapter 7	Music & Fashion
8	Chapter 8	Tourism
9	Chapter 9	Post Brexit Britain
10	Chapter 10	Leisure & Sport in the UK
11	Chapter 11	The British Empire
12	Chapter 12	Media in the UK
13	Chapter 13	Regions of Britain
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に、その回で扱う Unit の Reading1 & 2 のテキストを、辞書を引き、文法事項を調べながら読んでくること。ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、辞書や文法書で調べた上で、なおわからないことを Google フォームの質問の項目に記入すること。
当日までに、その Reading に関する演習問題に取り組み、Google フォームで提出すること（なお、Listening 問題については、翌週扱う Unit のものを解いてくること）。

【テキスト（教科書）】
James C. House、三好道子『Modern Britain: Culture, Society and History/現代英国の文化・社会・歴史』（松柏社、2021 年）、2000 円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点　２０％
試験　８０％
4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
学生のわからない点を汲み取れるよう、質問しやすい雰囲気作りを心がける。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect information and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern Britain.
Before each class meeting, students will be expected to spend at least an hour to read the relevant chapter of the text, translate the reading passages to Japanese and work on the questions.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LANe100LA

英語１－Ｉ

2017 年度以降入学者

溝部　敦子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
UK ロックの歴史を 50 年代から現代まで辿るテキストを使う。その精読及び速読を通して読解力を強化し、イギリスに対する理解を深めるとともに文化と社会の関係について考える。また、イギリス史を足掛かりに共時態の視点から日本の戦後史を見直し、歴史経験の違いと普遍性を見て行く。さらに、テキストに設定されたディベート演習を通して批判的な思考と論理的な文章を書く力を養う。テキストにはロックソングが教材として取り上げられているが、そのほかに映画などを追加して英語の音声に慣れる機会も設ける。

【到達目標】
(1) 単語の意味をつないで適当に文意を類推するのではなく、文の構造や修飾関係を正確に把握した上で内容が理解できる。
(2) 様々なテーマについて複数の立場から考え、自分の考えを平易な英語で書くことが出来る。
(3) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分を正しく聞き取ることが出来る。
(4) 歴史を踏まえて異文化を理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。テキストは全部で 15 ユニットから成っていますが、春学期は Unit 7 まで（ロック前史から 70 年代前半のパンクの登場まで）を扱い、映画鑑賞なども挟んで、60 年代と 70 年代前半を丁寧に見て行きます。テキストは精読、速読を取り混ぜ、意味や構文の取りにくい文に特に注意を払いながら読んでいきますが、予習を促し理解を深めるため、プリント教材による読解演習などを追加する予定です。各ユニットの Debate & Further Research のセクションについてはテキストのテーマには必ずしもとらわれず、日本社会も意識しつつ新たなテーマを設定し、自分の意見を短いレポート（英文、又は和文）にまとめてもらいます。その後、原則としてグループトークの形でクラスメイトと意見交換の機会を設ける予定です。また、映画鑑賞の時間を設けるほか、テキストとは別にリスニング演習を加えます。
なお、提出してもらった課題は個々に採点等して返却するか、または授業内で全体としてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語読解のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice Learning about History	Unit 1 Introduction: Rock Roots 若者文化台頭の歴史的背景
3	Reading Practice Writing Skills	Unit 1 パラグラフの構造について
4	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 Early 1960s: Enter Rock and Roll *The Boat That Rocked* (1)
5	Learning about History Watching a Film	60 年代のイギリスと日本 *The Boat That Rocked* (2)
6	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 3 60 年代の社会と文化に関連したテーマについて考える (1)
7	Reading Practice	Unit 4 Later 1960s: Into Psychedelic（速読）
8	Reading Practice	Unit 5 Early 1970s: Prog Rock
9	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 5 60 年代の社会と文化に関連したテーマについて考える (2)
10	Reading Practice	Unit 6 Early 70s: Glam Rock
11	Reading Practice Learning about History	Unit 6 70 年代前半のイギリスと日本
12	Reading Practice Learning about History	Unit 7 Mid-1970s: Punk Rock 70 年代後半のイギリスと日本
13	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 7 70 年代をめぐるテーマについて考える
14	Review & Examination	総括＋読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Reading Passage の予習は必須。未知の単語を調べるのは勿論のこと、すぐに答えられるよう、精読のユニットはきちんと和訳しておく。また、文の構造や文意についても自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出し、授業で質問して解消した上で復習する。クラスメートとの意見交換、又はレポートのため必要なリサーチを行い、短い英語または日本語の文章を用意する。

【テキスト（教科書）】
Paul Hullah & 寺西雅之　*Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価の方法＞
・期末に読解の復習テストを実施します。
・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
＜成績評価基準・評価の配分等＞
・期末テストと読解演習は到達目標の (1)(4) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、地道な努力が出来ているかどうかを見ます。
・英作文やレポート／ディベートは到達目標の (1)～(4) に対応し、必要な資料を読み込んだり聞いたりして、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語又は日本語で表現出来ているかどうかを見ます。
・上記のほか、到達目標の (1)～(4) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。
　配分は以下の通りです。
期末テスト (50%)、読解演習及びレポート、もしくはディベート用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など）(20%)

【学生の意見等からの気づき】
説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、クラスメートとの意見交換の時間を出来るだけ取るようにします。

【Outline (in English)】
It is often said that in Britain the movements and styles of rock music, a key element of youth culture, are closely connected with the period and social climate from which they emerge. In this course, therefore, students will see how rock songs have reflected the views and moods of British people since the 1950s when rock music first arrived in Britain from the U.S. By reading the texts carefully, they are expected to develop the reading skills necessary to grasp the structure of complex sentences accurately. They will also, by exploring the history of UK rock music, not only learn more about Britain and the British but also understand the historical relationship between culture and society. Thereby, they will be able to expand their horizons as well. There will also be time for debate or group talk, and students are required to write, in English, a few short essays for them.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, reading comprehension tasks & writing assignments 30%, and in-class contribution 20%

LANe100LA

英語 1 ー Ⅱ

2017 年度以降入学者

溝部　敦子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
70 年代後半から 2000 年代にいたる文化と歴史の関係について、特に 80 年代と 90 年代を中心にイギリスと日本を比較しながら考察する。また、引き続き Writing と Listening の力の向上も目指し、Reading については、正確に、かつ速くたくさん読める力を養う。

【到達目標】
(1) Reading, Listening とも英語の語順通りに意味を取ることが出来る。
(2) 速読のコツを掴み、効率的な読み方が出来る。
(3) レポート課題又はディベートを通して自分の考えを論理的かつ説得力のある英語または日本語で表現し、異文化や社会の課題についてより深く批判的な考察が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に春学期と同じで、テキスト後半の Unit 8 からを対象とします。また、Skimming や Scanning などの代表的な速読方法を学び、より効率的な速読が出来るようにします。
課題に対するフィードバックについても、春学期同様、課題の性質により個々に返却するか、もしくは授業内で全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reading Practice	Unit 12 Women in UK Rock（速読）
2	Reading Practice Reading Skills	Unit 13 1980s-Present: Dance Music（速読） Scanning について
3	Reading Practice Reading Skills	Unit 8 Later 1970s: Heavy Metal Skimming について
4	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 8 フェミニズムに関連したテーマについて考える
5	Reading Practice Learning about History	Unit 9 Early 1980s: New Romanticism & etc. 80 年代のイギリスと日本
6	Reading Practice	Unit 9 + Unit 10 Later 1980s: Romantic Realism
7	Reading Practice Watching a Film	Unit 10 *Billy Elliot* (1)
8	Reading Practice Watching a Film	Unit 10 *Billy Elliot* (2)
9	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 11 1990s: Britpop 80 年代の社会に関連したテーマについて考える
10	Reading Practice Learning about History	Unit 11 90 年代のイギリスと日本
11	Reading Practice	Unit 14 2000s-Present: Where Now? Where Next?
12	Reading Practice Thinking about the Problems of Modern Society	Unit 14 21 世紀を迎えたイギリスと日本：現代社会の諸問題
13	Reading Practice Discussing a Social Issue in Modern Society	Unit 15 Conclusion: Function of Rock（速読） 21 世紀を迎えた社会に関連したテーマについて考える
14	Review & Examination	総括＋読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。春学期同様、Reading Passage の予習は必須。ほかに、読解演習のプリントなどを使った復習やレポート又はディベートに備えたリサーチ及び英作文など。

【テキスト（教科書）】
Paul Hullar & 寺西雅之　*Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Briatin* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価の方法＞
・期末に読解の復習テストを実施します。
・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
＜成績評価基準・評価の配分等＞
・期末テストと読解演習は到達目標の (1)(2) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、要点をしっかり把握し、正確な読みが出来ているかどうかを見ます。
・英作文やレポート／ディベートは到達目標の (1)〜(3) に対応し、与えられた資料だけでなく、自分でも必要な資料を集め、これを読み込んだり聞いたりした上で、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語または日本語で表現出来ているかどうかを見ます。
・上記のほか、到達目標の (1)〜(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。
　配分は以下の通りです。
期末テスト (50%)、読解演習及びレポート／ディベート用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など）(20%)

【学生の意見等からの気づき】
説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、クラスメートとの意見交換の時間を出来るだけ取るようにします。

【Outline (in English)】
You will continue to read about the historical relationship between culture and society from the 1980s to the present and to compare the post-war histories of Britain and Japan. In addition, you are expected to understand complex sentences as you read them without translating each of them into Japanese, which is necessary for extensive reading and should also lead to your developing confidence in listening.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination 50%, reading comprehension tasks & writing assignments 30%, and in-class contribution 20%

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

【到達目標】
学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。レポートは評価を付け後日返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その① (資金提供)
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その② (外国代表)
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③ (好印象)
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④ (日本の過ち)
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤ (公害病)
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥ (日本の貢献)
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その① (環境の被造物)
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その② (人間環境)
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③ (人間の能力)
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④ (発展途上国)
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤ (低開発)
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥ (人口増加)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】
沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】
環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goal of this course is to have your original opinions on environment.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境宣言を英文で読みながら。温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】
受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その① (自然環境)
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その② (責任)
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③ (天然資源)
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④ (アメリカンモデル)
第 5 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑤ (ブッシュ政権)
第 6 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑥ (アメリカの無能さ)
第 7 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑦ (日本の例)
第 8 回	東京宣言	宣言文その① (戦後期の日本)
第 9 回	東京宣言	宣言文その② (自然尊重)
第 10 回	東京宣言	宣言文その③ (日本社会の変化)
第 11 回	東京宣言	宣言文その④ (アメリカの弱点)
第 12 回	東京宣言	宣言文その⑤ (愛知和夫の希望)
第 13 回	東京宣言	宣言文その⑥ (日本の行動)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】
沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on environment.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

鈴木　博雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学１年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【到達目標】
日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は、対面授業を基本にして、オンライン授業も行う。
・英語の文章の構造を踏まえながら、精読、速読の作業を並行して行う。
・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit １前半	Poor Little Laika ①
2	テキスト Unit １後半	Poor Little Laika ②
3	テキスト Unit ２前半	Where Did That Idiom Come From？ ①
4	テキスト Unit ２後半	Where Did That Idiom Come From？ ②
5	テキスト Unit ３前半	Heroes from the Canine Kingdom ①
6	テキスト Unit ３後半	Heroes from the Canine Kingdom ②
7	テキスト Unit ４前半	Pack Carefully ①
8	テキスト Unit ４後半	Pack Carefully ②
9	テキスト Unit ５前半	The Many Lives of Yoshiko Yamaguchi ①
10	テキスト Unit ５後半	The Many Lives of Yoshiko Yamaguchi ②
11	テキスト Unit ６前半	Taxation in the 21st Century ①
12	テキスト Unit ６後半	Taxation in the 21st Century ②
13	テキスト Unit ７前半	The Unusual Secretary...or Secretaries？ ①
14	テキスト Unit ７後半	The Unusual Secretary...or Secretaries？ ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Premium Reader Intermediate』（金星堂）
【ISBN ： 978-4-7647-3910-9】

【参考書】
適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（６０％）、期末試験点（４０％）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】
(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen.
(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.
(3)Students should intensively read the reading material in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
(4)Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　博雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【到達目標】
春学期に養成した学力を踏まえ、大学１年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・本授業は、対面授業を基本にして、オンライン授業も行う。
・英文構造を踏まえながら、春学期よりも一層高度な精読、速読の作業を並行して行う。
・英文内容についての質疑応答を行い、予習や復習の状況を確認し、個々の応答に対し、口頭で、助言、学習方法等についてのフィードバックを与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit ８前半	Mother Complex ①
2	Unit ８後半	Mother Complex ②
3	Unit ９前半	The Death of the Newspaper ①
4	Unit ９後半	The Death of the Newspaper ②
5	Unit １０前半	The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall ①
6	Unit １０後半	The Great Escape: Over, Under, or Through the Berlin Wall ②
7	Unit １１前半	Technology, Friend or Fiend?①
8	Unit １１後半	Technology, Friend or fiend?②
9	Unit １２前半	Alcohol: A Dangerous Drug Across Cultures ①
10	Unit １２後半	Alcohol: A Dangerous Drug Across Cultures ②
11	Unit １３前半	The Superior Bee ①
12	Unit １３後半	The Superior Bee ②
13	Unit １４前半	The Remarkable Bullet...Train ①
14	Unit １４後半	The Remarkable Bullet...Train ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN ： 978-4-7647-3910-9】

【参考書】
適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（６０%）、期末試験点（４０%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】
(1)To obtain the ability to read ordinary English the difficulty of which is adequate for the freshmen.
(2)By the ability in (1), we mean the basic practical skill of reading English of various kinds of style which is required when the students go up to juniors and seniors or get out into the world after they graduate.
(3)Students should intensively read the reading material in the preparatory reading range for at least 60 minutes outside of class time.
(4)Evaluation will be based on a comprehensive evaluation of the student's normal points (attitude toward class, preparation, review, quizzes, etc.) (60%) and the final examination (40%). In principle, students who are absent more than 3 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光、ビジネス、留学などの可能性が増しています。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。春学期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法のスラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを習得します。基礎的な英語をもう一度復習しながら、さらに英語力のレベルアップを図ります。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・自己紹介ゲーム	授業内容、授業の進め方、成績のつけ方、出欠について説明する。自己紹介をする。
2	Unit 1 Counting Calories ①	On Dieting ダイエットに関しての語彙は英語表現について学ぶ
3	Unit 1 Counting Calories ②	Dieting: Japan VS. America 食について日本とアメリカの考え方の違いについて学ぶ
4	Unit 2 A New Sports Tradition ①	Before the Game 新しいスポーツの伝統として、テールゲートパーティーについて学ぶ
5	Unit 2 A New Sports Tradition ②	The Tailgate Party テールゲートパーティーの内容や、それに関しての語彙や英語表現について学ぶ
6	Unit 3 As American as Apple Pie ①	Homemade Apple Pie お茶に招かれて、手作りのアップルパイを出される設定の会話を学ぶ
7	Unit 3 As American as Apple Pie	An Apple a Day リンゴの栄養や、歴史について、語彙や英語表現を学ぶ。
8	Unit 4 Use as Directed	The Shimanto River and Sweetfish Dishes 四万十川とアユ料理についての語彙や英語表現について学ぶ
9	Unit 4 Use as Directed	Best-before and Use-by-Dates 賞味期限と消費期限の意味について、語彙や英語表現について学ぶ
10	Unit 5 The End of Home Cooking ①	Drive-Thru ドライブスルーでの会話について、語彙と英語表現について学ぶ
11	Unit 5 The End of Home Cooking ②	Cooking for a family VS. Eating Out 家庭料理 VS 外食のテーマで食文化の変化について、語彙や英語表現について学ぶ
12	Unit 6 Just Follow the Recipe ①	Mother's Curry 日本のカレーとインドのカレーの違いについて、語彙や英語表現について学ぶ
13	Unit 6 Just Follow the Recipe ②	Japanese Flavors and the Traditional Diet 日本の伝統料理についての語彙や英語表現について学ぶ
14	期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。
復習時間：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生、鈴木理枝、関根紳太郎、宮下リンダ、南雲堂
ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】
学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 50%
平常点： 50% (授業への参加度、態度、発表、小テスト)
成績評価の基準
(1) 内容を把握しているか
(2) 適切に訳出できるか
(3) リスニング力が身についているか
欠席 4 回以上で、単位取得不可

【学生の意見等からの気づき】
楽しい授業であったと多くの意見をいただき、引き続き発表中心の授業を実施する。

【Outline (in English)】
Course Outline:
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning Objectives:
(1) Understanding British and American culture with the theme of food
culture
(2) Acquire Listening skills
(3) Learn translation techniques
Learning activities outside of classroom:
Preparatory learning:
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review:
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy:
Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光、ビジネス、留学などの可能性が増しています。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。春学期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法のスラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを習得します。基礎的な英語をもう一度復習しながら、さらに英語力のレベルアップを図ります。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7 Supplemental Health	サプリメントに関する会話を通して、語彙と英語表現を習得する
2	Unit 8 Coffee or Tea?	コーヒーと紅茶の効用についての会話を通して、語彙と英語表現を習得する。
3	Unit 9 Fresh from the Garden	菜園についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
4	Unit 10 Local Delicacies	日本のご馳走についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
5	Unit 11 Halloween Barmbrack ①	アイルランドのハロウィーンのパンについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
6	Unit 11 History of Halloween ②	ハロウィーンの歴史を読み、語彙や英語表現を習得する。
7	Unit 12 Thanksgiving Break	感謝祭休暇についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
8	Unit13 Turkey and All the Trimmings Christmas ①	クリスマスについての語彙や英語表現を習得する。
9	Unit 13 Christmas Recipe: Roast Turkey ②	クリスマス料理の定番料理であるローストターキーのレシピを読み、語彙や英語表現を習得する。
10	Unit 14 Saint Valentine's Day ①	バレンタインデーについての語彙や英語表現を習得する。
11	Unit 14 St. Valentine ②	バレンタインデーの歴史について読み、語彙や英語表現を習得する。
12	Unit 15 The Meaning of Easter How to cook Hot Cross Buns ①	イースターのホットクロスバンズについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
13	Unit 15 Celebrating Easter ②	イースターの意味や歴史について読み、語彙や英語表現を習得する。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。
復習：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生、鈴木理枝、関根紳太郎、宮下リンダ、南雲堂
ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】
学生のレベルを鑑みて、参考書を指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験： 50%
平常点： 50% (授業への参加度、態度、発表、小テスト）
成績評価の基準
(1) 内容を把握しているか
(2) 適切に訳出できるか
(3) リスニング力が身についているか
欠席 4 回以上で、単位取得不可

【学生の意見等からの気づき】
楽しい授業だったとの意見が多く、引き続き発表中心の授業を実施していく。

【Outline (in English)】
Course Outline:
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning objectives:
Learning activities of classroom
Preparatory learning
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy
Final exam: 50%
Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Grade evaluation criteria
(1) Understanding the contents
(2) Appropriate translation
(3) Acquire listening skills
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

亀岡　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】
英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の学習内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Chapter 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Chapter 1 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	「イギリスの郵便制度」―読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	「イギリスの郵便制度」―練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	「イギリス発祥のスポーツ」―読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	「イギリス発祥のスポーツ」―練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	「ビートルズの国」－読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	「ビートルズの国」―練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	「ゆりかごから墓場まで?」―読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	「ゆりかごから墓場まで?」―練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	「偉大なる小説家」―読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	「偉大なる小説家」―練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	「王室今昔物語」―読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	「王室今昔物語」―練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】
テキスト　Cross-Cultural Views on Britain
著者　リチャード・H・ベント、井石哲也、井石令子
出版社　南雲堂

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）　平常点（30%）
英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。
原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行を急がずに、各章の内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】
私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this subject is to help students understand the content of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text. The goals of this course are to explain sentence structures correctly and explain the content of the text appropriately. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

亀岡　浩一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】
英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の学習内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Chapter 7	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Chapter 7 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	「イギリス通貨とユーロ」―読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	「イギリス通貨とユーロ」―練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	「チューブって何?」―読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	「チューブって何?」―練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	「議会政治と現代」－読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	「議会政治と現代」―練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	「イギリスの美術館・博物館」―読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	「イギリスの美術館・博物館」―練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	「イギリスの住宅事情」―読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	「イギリスの住宅事情」―練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	「イギリス料理は本当にまずい?」―読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	「イギリス料理は本当にまずい?」―練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】
テキスト　Cross-Cultural Views on Britain
著者　リチャード・H・ベント、井石哲也、井石令子
出版社　南雲堂

【参考書】
指定しない。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）　平常点（30%）
英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。
原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進行を急がずに、各章の内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】
私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this subject is to help students understand the content of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text. The goals of this course are to explain sentence structures correctly and explain the content of the text appropriately.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

【到達目標】
学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。レポートは評価を付け後日返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その① (資金提供)
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その② (外国代表)
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③ (好印象)
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④ (日本の過ち)
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤ (公害病)
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥ (日本の貢献)
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その① (環境の被造物)
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その② (人間環境)
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③ (人間の能力)
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④ (発展途上国)
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤ (低開発)
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥ (人口増加)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】
沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】
環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on environment.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】
学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
アメリカに関する英文を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	American English	アメリカ英語その① (boyfriend)
第 2 回	American English	アメリカ英語その② (beat up)
第 3 回	American English	アメリカ英語その③ (stupid)
第 4 回	American English	アメリカ英語その④ (faucet)
第 5 回	American English	確認テスト
第 6 回	Blacks and Whites	人種問題その① (南北戦争)
第 7 回	Blacks and Whites	人種問題その② (黒人街)
第 8 回	Blacks and Whites	人種問題その③ (最下層)
第 9 回	Blacks and Whites	人種問題その④ (人種関係)
第 10 回	Blacks and Whites	確認テスト
第 11 回	The American Indians	インディアン問題その① (歴史)
第 12 回	The American Indians	インディアン問題その② (居留地)
第 13 回	The American Indians	インディアン問題その③ (若いインディアン)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Background to the USA（金星堂）

【参考書】
概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】
アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 %　各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading skill on America can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on America.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語１－Ｉ

2017 年度以降入学者

戸嶋　まゆみ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】
大学生として抑えておきたい心理学的、社会学的、およびビジネスに関する知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
○テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。
○提出された課題へのフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	発音ドリル	発音の確認
第 3 講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の講読
第 4 講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第 5 講	Lesson 2 (2)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 2 The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ　グループ学習 1
第 9 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめ　グループ学習 2
第 10 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ　グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1 (プレゼンの作成)
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2 (発表準備)
復習	全体の復習	復習 (テキスト Lesson1-5 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】
Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著　南雲堂
ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の教場練習への参加程度 (20%)、プレゼンテーション (20%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという意見が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all my class students to get used to joining in group working activities.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to read efficiently (to get information from written things without any problems).
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 20%, Presentations: 20%, Reports: 10%, Term-end examination :50%.

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

戸嶋　まゆみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】
大学生として抑えておきたい心理学的、社会学的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、対面学習時にはグループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。対面学習時には、中盤以降はグループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等を用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを用いて書く
第 3 講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを用いて書く
第 4 講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 5 講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 9 What a Troublemaker : The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 10 What a Troublemaker : The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 1)
第 9 講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 2)
第 10 講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 3)
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 3	グループ・プレゼンテーション 3　(打ち合わせ)
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 4	グループ・プレゼンテーション 4 (リハーサル練習)
復習	全体の復習	復習 (テキスト Lesson7-13 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】
Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim Knudsen 著　南雲堂　2017 年　ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】
授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業への参加程度 (50%) 及び期末試験 (50%) 等 (もしくは課題) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという意見が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていただきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities if having classes on campus is available.
【Learning Objectives】
The goal of this course are to read and output English efficiently.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution (including presentations and group works): 50%, Term-end examination: 50%.

LANe100LA

英語 1 ー I

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1 is designed to develop students' basic academic English skills and focuses on developing reading skills. The objective of the course is to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension, through individual and group work. The course will also provide students with an opportunity to (1) learn academic writing skills and (2) develop critical thinking skills through a variety of reading materials. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to be familiar with paragraph and essay structure.
(b) be able to identify the main idea and supporting ideas in paragraphs and essays.
(c) be able to critically read and analyze reading materials.
(d) be able to write a summary of an article.
(e) be able to do research and give short presentations on topics of their choice.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have reading and listening activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Chapter 1: Answering 6 Common Interview Questions	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
3	Chapter 2: Young Women Changing the World	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
4	Short Presentations	Presentation
5	Chapter 3: Student Learning Teams	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
6	Chapter 4: Learning to Speak	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
7	Review & Mid-Term Exam	Exam
8	Chapter 5: The Man in the Moon Has Company	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
9	Chapter 6: Culture Shock	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
10	Chapter 7: Private Lives	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
11	Preparation for Presentation Day 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation Day 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Group Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Linda Lee & Erik Gundersen (2011). Select Readings [Intermediate] (Second Edition). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-433212-5 (￥2,827)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Homework Assignments (35%); Presentation (20%); Exams (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
プレゼン等のグループワークは授業内で準備時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】
Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】- 出典元を適切に引用せず使用すること）など- 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】
English 1 focuses on developing academic reading skills and aims to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension. The course will provide students with an opportunity to learn academic writing skills, develop critical thinking skills, and reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Homework Assignments (35%); Presentation (20%); Exams (30%).

LANe100LA

英語 1 ー Ⅱ

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 1 is designed to develop students' basic academic English skills and focuses on developing reading skills. The objective of the course is to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension, through individual and group work. The course will also provide students with an opportunity to (1) learn academic writing skills and (2) develop critical thinking skills through a variety of reading materials. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to be familiar with paragraph and essay structure.
(b) be able to identify the main idea and supporting ideas in paragraphs and essays.
(c) be able to critically read and analyze reading materials.
(d) be able to write summaries of articles.
(e) be able to do research and give short presentations on topics of their choice.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have reading and listening activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Short Presentations	Presentation
3	Chapter 8: A Young Blind Whiz	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
4	Chapter 9: How to Make a Speech	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
5	Chapter 10: Conversation Ball Games	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
6	Chapter 11: Letters of Application	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
7	Review & Mid-Term Exam	Exam
8	Chapter 12: Out to Lunch	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
9	Chapter 13: Public Attitudes Toward Science	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
10	Chapter 14: The Art of Genius	Reading Passage, Vocabulary, Reading Skill, Discussion & Writing
11	Preparation for Presentation 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Group Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Linda Lee & Erik Gundersen (2011). Select Readings [Intermediate] (Second Edition). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-433212-5 (￥2,827)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Homework Assignments (35%); Presentation (20%); Exams (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
プレゼン等のグループワークは授業内で準備時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】
Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】- 出典元を適切に引用せず使用すること）など- 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】
English 1 focuses on developing academic reading skills and aims to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension. The course will provide students with an opportunity to learn academic writing skills, develop critical thinking skills, and reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including reading and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Homework Assignments (35%); Presentation (20%); Exams (30%).

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

福井　令恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができるようにします。

【到達目標】
①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語の文章の内容を的確につかむことができるようにします（題材は、文化、科学、時事など）。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。
課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。
【注】下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。
※授業は、教室対面による授業実施を主としますが、コロナの感染拡大状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。その際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明 現在のリーディング力を診断
第 2 回	英文の内容を予測する＜ 1 ＞	プレ・リーディングスキルを磨く [導入] 知らない単語を推測する
第 3 回	英文の内容を予測する＜ 2 ＞	プレ・リーディングスキルを磨く [詳細] 単語学習方法、辞書の効果的な使い方を学ぶ
第 4 回	メイン・アイディアを理解する＜ 1 ＞	重要な情報や概念を理解する [導入] メインアイディアのカギとなる単語や句を探す 短い文章で練習
第 5 回	メインアイディアを理解する＜ 2 ＞	重要な情報や概念を理解する [詳細] 長文での実践
第 6 回	メインアイディアを理解する＜ 3 ＞	重要な情報や概念を理解する [展開] 文章構造を理解し、トピックセンテンスを参考に要約をする
第 7 回	まとめ	前半のまとめ
第 8 回	プロジェクト＜ 1 ＞	プロジェクトの準備
第 9 回	プロジェクト＜ 2 ＞	プロジェクトの完成・発表
第 10 回	詳細情報を理解する＜ 1 ＞	メインアイディアの説明や補足する情報（supporting details）を理解する [導入] 短い文章で練習
第 11 回	詳細情報を理解する＜ 2 ＞	メインアイディアの説明や補足する情報（supporting details）を理解する [詳細] 長文での実践
第 12 回	シグナルワードを理解する＜ 1 ＞	アイディアの結びつきをシグナルワードから理解する [導入] 短い文章で練習
第 13 回	シグナルワードを理解する＜ 2 ＞	アイディアの結びつきをシグナルワードから理解する [詳細] 長文での実践
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習をし、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識して授業にのぞむようにする。
授業後、内容の復習をする。
その他、授業内で指示する。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
Reader's Ark (金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】
適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加、宿題・課題、プロジェクトの内容等）60 %
・期末テスト　40 %
＊なお、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。
　遅刻 3 回で欠席 1 扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。
*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】
This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.
This course also uses listening text to help students improve their listening skills.
Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments ・quizzes ・projects 60%.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

福井　令恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができるようにします。

【到達目標】
①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語の文章の内容を的確につかむことができるようにします（題材は、文化、科学、時事など）。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。
課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。
【注】下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。
※授業は、教室対面による授業実施を主としますが、コロナの感染拡大状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。その際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習 要約をする	授業の進め方の説明 トピックセンテンスを見つけ情報をまとめる
第 2 回	パラグラフ構造を学ぶ＜ 1 ＞	分類・比較・対照の構造を意識して英文を読む [導入]
第 3 回	パラグラフ構造を学ぶ＜ 2 ＞	分類・比較・対照の構造を意識して英文を読む [詳細]
第 4 回	パラグラフ構造を学ぶ＜ 3 ＞	原因と結果、理由のつながりを意識して英文を読む [導入]
第 5 回	パラグラフ構造を学ぶ＜ 4 ＞	原因と結果、理由のつながりを意識して英文を読む [詳細]
第 6 回	プロジェクト＜ 1 ＞	プロジェクトの準備
第 7 回	意見・主張	自分の意見を述べる際に使う表現を学ぶ
第 8 回	プロジェクト＜ 2 ＞	プロジェクトの完成・発表
第 9 回	事実と意見の区別	述べられている情報が「意見」か「事実」かに注意して英文を読む
第 10 回	情報を要約する＜ 1 ＞	重要な情報を把握して、それを要約する方法を学ぶ [導入]
第 11 回	情報を要約する＜ 2 ＞	重要な情報を把握して、それを要約する方法を学ぶ [詳細]
第 12 回	学術的な記事を読む＜ 1 ＞	学術的な記事のスタイルに注目して読む
第 13 回	学術的な記事を読む＜ 2 ＞	詳細情報を理解する
第 14 回	期末テスト・まとめ	期末テスト・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習をし、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識して授業にのぞむようにする。
授業後、内容の復習をする。
その他、授業内で指示する。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
Reader's Ark(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】
適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への積極的参加、宿題・課題、プロジェクトの内容等）60 %
・期末テスト　40 %
＊なお、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。
　遅刻 3 回で欠席 1 扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】
学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。
*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】
This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.
This course also uses listening text to help students improve their listening skills.
Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments ・quizzes ・projects 60%.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語１－Ⅰ

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】
英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『タイタニック』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 映画『タイタニック』のあらすじと時代背景を理解する。
第 2 回	'My Heart Will Go On' Celine Dion	Celine Dion 'My Heart Will Go On' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング（TOEIC・写真描写問題）	TOEIC 形式の写真描写問題を解く。
第 4 回	リーディング（ナショナル・アイデンティティの和訳）	カナダのナショナル・アイデンティティに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング（ナショナル・アイデンティティの内容理解）	ナショナル・アイデンティティにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Maroon 5 'Sugar'	Maroon 5 'Sugar' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング （TOEIC・応答問題）	TOEIC 形式の応答問題を解く。
第 8 回	リーディング（結婚文化の和訳）	欧米の結婚に関する英文を日本語に訳す。
第 9 回	リーディング（結婚文化の内容理解）	欧米の結婚にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 10 回	『ズートピア』	映画『ズートピア』のあらすじと背景を理解する。
第 11 回	'Try Everything'	'Try Everything' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング（迷信の和訳）	欧米の迷信にまつわる英文を日本語に訳す。
第 13 回	リーディング（迷信の内容理解）	欧米の迷信にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 14 回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験（リスニング問題を含む）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。
授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Hit Songs(New Edition)（『ポップスで学ぶ総合英語』）. 角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（20%）、課題 (30%) と期末試験（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
In this class, you develop mainly reading and listening abilities.
Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics. You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are how to read and understand essays in English and Western culture.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、in class contribution: 20%、assignments: 50%

LANe100LA

英語１－Ⅱ

2017 年度以降入学者

小堀　洋

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】
英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『アナと雪の女王』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 『アナと雪の女王』のあらすじと背景を理解する。
第 2 回	'Let It Go'	'Let It Go' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング（TOEIC・会話問題）	TOEIC 形式の会話問題を解く。
第 4 回	リーディング（ディズニー・和訳）	ディズニーに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング（ディズニー・内容理解）	ディズニーにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Bruno Mars 'Just The Way You Are'	Bruno Mars 'Just The Way You Are' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング（説明文問題）	TOEIC 形式の説明文問題を解く。
第 8 回	『ハリーポッター』	映画『ハリーポッター』のあらすじと背景を理解する。
第 9 回	リーディング（ハリーポッター・和訳）	『ハリー・ポッター』に関する英文を日本語に訳す。
第 10 回	リーディング（ハリーポッター・内容理解）	『ハリー・ポッター』にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 11 回	Ariana Grande 'Santa Tell Me'	Ariana Grande 'Santa Tell Me' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング（クリスマス・和訳）	クリスマスに関する英文を訳して、その内容を理解する。
第 13 回	リーディング（クリスマス・内容理解）	クリスマスにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 14 回	授業内試験	春学期に学んだ内容に関する筆記試験（リスニング問題を含む）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。
授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
English with Hit Songs(New Edition)（『ポップスで学ぶ総合英語』）. 角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】
『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】
授業参加（20%）、課題 (30%) と期末試験（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】
授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
In this class, you develop mainly reading and listening abilities.
Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics. You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.
到達目標 (Learning Objectives)
1:The goals of this course are how to read and understand essays in English and Western culture.
授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%、in class contribution: 20%、assignments: 50%

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光旅行、ビジネス、留学などの可能性が増している。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得する。前期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法の頭ごなし訳などの訳出テクニックを習得する。基礎的な英語を復習しながら、更に英語力のレベルアップを図る。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を向上させ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと自己紹介	授業内容、授業の進め方、評価方法、出欠について説明する。自己紹介をする。
2	Unit 1 Counting Calories	ダイエットに関しての語彙や英語表現について学ぶ。
3	Unit 1 Dieting: Japan VS. America	食について、日本とアメリカの考え方の違いについて学ぶ。
4	Unit 2 A New Sports Tradition	新しいスポーツの伝統として、テールゲートパーティーについて学ぶ。
5	Unit 2 The Tailgate Party	テールゲートパーティーの内容や、それに関しての語彙や英語表現について学ぶ。
6	Unit 3 As American as Apple Pie	お茶に招かれて、手作りのアップルパイを出される設定の会話を学ぶ。
7	Unit 3 An Apple a Day	リンゴの栄養や、歴史について、語彙や英語表現を学ぶ。
8	Unit 4 The Shimanto River and Sweetfish Dishes	四万十川とアユ料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
9	Unit 4 Best0Before and Use-By Dates	賞味期限と消費期限の意味について、語彙と英語表現について学ぶ。
10	Unit 5 Drive-Thru	ドライブスルーでの会話について、語彙と英語表現について学ぶ。
11	Unit 5 Cooking for a Family VS. Eating Out	家庭料理 VS 外食のテーマで、食文化の変化について、語彙や英語表現について学ぶ。
12	Unit 6 Mother's Curry	日本のカレーとインドのカレーの違いについての会話を通して、語彙や英語表現について学ぶ。
13	Unit 6 Japanese Flavors and the Traditional Diet	日本の伝統料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生　鈴木理枝　関根紳太郎
宮下リンダ　南雲堂　ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円＋税

【参考書】
学生のレベルを鑑み、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験：（筆記）50%
平常点： 50% (授業への参加度、態度、発表、小テスト)
成績評価の基準
（1）内容を把握しているか
（2）適切に訳出できるか
（3）リスニング力がみについているか
欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】
楽しい授業という学生からの意見が多く、引き続き発表中心の授業を実施する。

【Outline (in English)】
Course Outline:
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning Objectives:
(1) Understanding British and American culture with the theme of food
culture
(2) Acquire Listening skills
(3) Learn translation techniques
Learning activities outside of classroom
Preparatory learning:
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review:
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy:
Final exam: 50%
Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Grade evaluation criteria:
(1) Understanding the contents
(2) Appropriate translation
(3) Acquire listening skills
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

鈴木　理枝

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
後期もテキストを中心に通訳訓練法を取り入れながら、総合的な英語力の育成に努める。リピーティング、シャドーイング等の訓練を行い、集中力を身につけ、スピーキング、リスニング力の向上に努める。この授業の目的は、基礎英語力をベースにして、日常生活に役立つ実践的な英語力を身につけることである。

【到達目標】
・食文化をテーマに英米の文化を理解する
・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
後期の授業も同様に、テキストを中心に演習授業になる。各学生は予習して、授業に臨み、順番に訳出をして、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、シンクロリーディング、シャドーイングの訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、学生にアドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7 Supplemental Health	サプリメントに関する会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
2	Unit 8 Coffee or Tea?①	コーヒーと紅茶の効用についての会話を通して、語彙と英語表現を習得する。
3	Unit 8 Tea Time: The difference between Green, Black, and Red Tea ②	お茶にもいろいろな種類がある。それぞれのお茶の効用が書かれた読み物を通して、語彙や英語表現を習得する。
4	Unit 9 Vegetable Garden ①	菜園についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
5	Unit 9 On the History of Mayonnaise ②	マヨネーズの歴史と栄養について読み、語彙や英語表現を習得する。
6	Unit 10 Local Delicacies ①	日本のご馳走についての会話と通して、語彙や英語表現を習得する。
7	Unit 10 Different National Cuisines in Japan ②	日本で味わえる各国料理について読み、語彙や英語表現を習得する。
8	Unit 11 Halloween Barmbrack ①	アイルランドのハロウィーンのパンについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
9	Unit 11 History of Halloween ②	ハロウィーンの歴史を読み、語彙や英語表現を習得する。
10	Unit 12 Thanksgiving Break ①	感謝祭休暇についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
11	Unit 12 The American Holiday Rush: Thanksgiving to New Year's ②	アメリカの祝祭日、感謝祭から新年にかけての伝統行事について読み、語彙や英語表現を習得する。
12	Unit 13 Christmas Recipe: Roast Turkey	クリスマス料理の定番であるローストターキーのレシピを読み、語彙や英語表現を習得する。
13	Unit 14 Saint Valentine's Day	バレンタインデーの歴史について読み、語彙や英語表現を習得する。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
準備学習
分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。
復習時間
授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】
『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生　鈴木理枝　関根紳太郎　宮下リンダ　南雲堂、ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】
学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（筆記）50 %、
平常点　50 %（授業への参加度、態度、発表、出席状況）
成績評価の基準
(1) 内容を把握しているか
(2) 適切に訳出できるか
(3) リスニング力が身についているか
欠席 4 回以上は単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】
発表中心の双方向の授業に対して学生から高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。また、学生が、より一層英語が好きになるよう工夫して、楽しい授業を心がける。

【Outline (in English)】
Course Outline:
In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.
Learning Objectives:
(1) Understanding British and American culture with the theme of food
culture
(2) Acquire Listening skills
(3) Learn translation techniques
Learning activities outside of classroom
Preparatory learning:
For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.
Review:
Review that what you learned in class.
Grading Criteria/Policy:
Final exam: 50%
Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)
Grade evaluation criteria:
(1) Understanding the contents

(2) Appropriate translation
(3) Acquire listening skills
Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

亀岡　浩一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】
さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行いながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の授業内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	英語の文の語順
3	英作文演習と構文の理解	主語の数と動詞の形
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	いろいろな動詞
5	英作文演習と構文の理解	目的語 2 つの文・1 つの文
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	目的語・補語のある文
7	英作文演習と構文の理解	情報の伝え方
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在形・現在進行形で表せること
9	英作文演習と構文の理解	過去形・過去進行形
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	未来表現
11	英作文演習と構文の理解	現在完了形
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	過去完了形・未来完了形
13	英作文演習と構文の理解	助動詞
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】
テキスト　スキル統合型:英作文トレーニング
著者　野田小枝子
出版社　朝日出版社

【参考書】
指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）　平常点（30%）
自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】
私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.
At the end of the course, students are expected to express their own opinions and thoughts in various situations based on correct English grammar.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination(70%)and in-class contribution(30%).

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

亀岡　浩一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】
さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行いながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の授業内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 13	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 13 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	条件文と仮定法
3	英作文演習と構文の理解	仮定法を使った定型表現
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	受身形
5	英作文演習と構文の理解	動名詞と不定詞
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	比較
7	英作文演習と構文の理解	後置修飾
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	関係代名詞
9	英作文演習と構文の理解	関係副詞
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	文のつなげ方
11	英作文演習と構文の理解	分詞構文
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	it を使った構文
13	英作文演習と構文の理解	いろいろな否定文
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】
テキスト　スキル統合型:英作文トレーニング
著者　野田小枝子
出版社　朝日出版社

【参考書】
指定しない

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）　平常点（30%）
自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】
私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】
The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.
At the end of the course, students are expected to express their own opinions and thoughts in various situations based on correct English grammar.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Grading will be decided based on term-end examination(70%)and in-class contribution(30%).

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な会話文を習得し、簡単な英文を聞いて理解できるようにする。

【到達目標】
簡単な英語を聞き取りその英語を用いて簡単な会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学生諸君には多くの基本会話文を読んでもらい、多くの基本英文を聞いてもらう。授業中のレポートは後日評価を付け返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ		内容
第 1 回	会話	Lesson One	Presentation を中心に練習する。(George)
第 2 回	会話	Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。(Bill)
第 3 回	会話	Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。(Pete)
第 4 回	Listening		Application Dialogue を用いて listening の練習をする。(Saturday)
第 5 回	Listening		プリントを用いて listening の練習をする。(pizza)
第 6 回	Listening		プリントを用いて listening の練習をする。(dinner)
第 7 回	会話	Lesson Two	Presentation を中心に練習する。(Bill Patterson)
第 8 回	会話	Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。(Bill)
第 9 回	会話	Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。(John)
第 10 回	Listening		Application Dialogue を用いて listening の練習をする。(chemists)
第 11 回	Listening		プリントを用いて listening の練習をする。(Professor McCarthy)
第 12 回	会話	Lesson Three	Presentation を中心に練習する。
第 13 回	面接試験		テキスト使用
第 14 回	面接試験		テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず授業で学習した英文を暗記すること。予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】
『アメリカ口語教本ー初級用』　William L. Clark　研究社

【参考書】
特に用いない。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、面接試験点 80 %　各学期 4 回以上の欠席は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your basic communicative English skill can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to develop your basic English skill.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

【到達目標】
簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	A Modern Home(解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。(Paul Farly)
第 2 回	A Modern Home（導入）	Dialogue を聞く。(Mary)
第 3 回	A Modern Home（応用）	Dialogue を読む。(Jane)
第 4 回	A Modern Home（実践)	Dialogue の表現を用いて会話をする。(interior decorator)
第 5 回	Micky‘s Home Town（解説）	Presentation を聞き、その内容について質問する。(kitchen)
第 6 回	Micky‘s Home Town（導入）	Dialogue を聞く。(Father’s Day)
第 7 回	Micky‘s Home Town（応用）	Dialogue を読む。(weekdays)
第 8 回	Micky‘s Home Town（実践）	Dialogue の表現を用いて会話をする。(golf)
第 9 回	Two Successful Men（解説）	Presentation を聞き、その内容について質問をする。(office)
第 10 回	Two Successful Men（導入）	Dialogue を聞く。(Ben Franks)
第 11 回	Two Successful Men（応用）	Dialogue の表現を用いて会話をする。(Phil)
第 12 回	Two Successful Men	二人の成功者その④ (Ben)
第 13 回	面接試験	テキスト使用
第 14 回	面接試験	テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】
アメリカ口語教本ー初級用（研究者）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your basic communicative English skill can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goal of this course is to develop your basic English skill.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語２－Ｉ

2017 年度以降入学者

戸嶋　まゆみ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。対面学習時にはグループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】
英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。プレゼンテーションが英語で行えるような練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。個人及びグループでのプレゼンテーションを効果的に行う方法も学びます。課題等のフィードバックは、授業時 (対面授業もしくは双方向性授業) に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音練習	発音の練習をする
	New York Week 1	梨紗、ニューヨークへ
第 3 講	Week 2	由紀、ロンドンに到着
第 4 講	Week 3	自由の女神を見学
第 5 講	Week 4	ロンドンの暮らし
第 6 講	Week 4	ロンドンの暮らし
第 7 講	Week 5,6	シェウハウスへ引っ越し マンハッタンを楽しむ
第 8 講	Week 7,8	お好み焼きを作る ニューヨークでデート
第 9 講	Week 9&10	ビジネスの新展開 初めての挫折
第 10 講	Week 11& 12	セブン・シスターズへ 由紀、ロンドンへ戻る
第 11 講	プレゼンテーション練習 (1)	プレゼンテーション (プラン、練習とリハーサル)
第 12 講	プレゼンテーション練習 (2)	プレゼンテーション
復習	復習	復習 (テキスト week 1-12 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。内容としては、毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】
おとなの基礎英語　Season 6 松本茂監修　主婦の友社　2018 年
ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】
英和・和英辞書 (電子辞書可)

【成績評価の方法と基準】
授業時の発言およびロールプレイングなど (50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】
毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】
授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to output English efficiently (to get information from English written things without any problems and output correctly).
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution: 50% (including presentations and role playing trainings) Term-end examination and reports: 50%.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

戸嶋　まゆみ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。効果的なプレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】
英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。また、プレゼンテーションを英語で行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等を用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音クリニック	発音の確認
	Week 13	ナディアの夢
第 3 講	Week 14,15	イザベラの夢 由紀、NY に現れる
第 4 講	Week 16,17	梨紗の才能 由紀の再出発
第 5 講	Week 18,19	カムデン・タウン 由紀とプライス
第 6 講	Week 20	母娘の再会
第 7 講	Week 21 ライティングの基礎	ジョンの告白
第 8 講	Week 22	梨沙の夢、梨沙の決断
第 9 講	Week 23	アリスとの再会
第 10 講	Week 24	友紀の再出発!
第 11 講	プレゼンテーションの技法 (1)	プレゼンテーションの技法 (1)
第 12 講	プレゼンテーションの技法 (2)	プレゼンテーションの技法 (2)
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

【テキスト（教科書）】
おとなの基礎英語　Season 6 松本茂監修　主婦の友社　2018 年
ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】
英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】
授業参加度 (発言およびプレゼンテーション)(50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】
DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

【その他の重要事項】
プレゼンテーションでは、春学期からのバージョン・アップが求められます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to output English efficiently (to get information from English written things without any problems and output correctly).
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters　from the text.　Your required study time is at least one hour for each.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
In-class contribution:　50% (including presentations and role playing trainings) Term-end examination and reports: 50%.

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on writing and speaking. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language through individual and group work. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual, pair and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Chapter 1: Getting Organized: The Key to Good Writing	Organizing Items into Groups
3	Chapter 2: Understanding Paragraphs	Paragraph Structure
4	Short Presentations	Presentation
5	Chapter 3: Organizing Information by Time Order	Organizing in Chronological Order Prepositions of Time
6	Chapter 4: Organizing Information by Order of Importance	Organizing in Order of Importance
7	Chapter 5: Organizing Information by Spatial Order	Organizing details in Spatial Order Prepositions of Space
8	Chapter 6: Understanding the Writing Process	Learning 3 Steps of Writing Process
9	Chapter 7: Supporting the Main Idea	Writing with Supporting Examples, Facts, and Statistics
10	Summary Writing	Reading Articles, Drafting, Editing
11	Preparation for Presentation Day 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation Day 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Group Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Karen Blanchard & Christine Root. (2017). Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN: 987-0-13-439932-4 (￥3,110 ＋税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
プレゼン等のグループワークは授業内で準備時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】
Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】- 出典元を適切に引用せず使用すること）など- 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】
English 2 focuses on developing academic writing and speaking skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions, give presentations, and reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including paragraph writing and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%).

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

折笠　真美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
English 2 focuses on developing academic writing and speaking skills and aims to help students acquire oral and written skills required to communicate effectively in the English language in class. The course will provide students with an opportunity to share ideas and opinions through discussions, give presentations, and reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】
By the end of the course, students will:
(a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
(b) be able to discuss different topics.
(c) be able to summarize the main points of discussion.
(d) be able to give short presentations on topics of their choice.
(e) be able to write paragraphs and essays in an organized and logical manner.
(f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
Each class will have oral and written activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview	Introduction
2	Short Presentations	Presentation
3	Chapter 8: Explaining a Process	Writing Process Paragraphs
4	Chapter 9: Writing Descriptions	Writing Paragraphs with Descriptive Details
5	Chapter 10: Expressing Your Opinion	Writing Paragraphs with Your Opinions
6	Chapter 11: Comparing and Contrasting	Writing Paragraphs of Comparison and Contrast
7	Chapter 12: Analyzing Causes and Effects	Writing Paragraphs with the Causes/Effects of an Event
8	Chapter 13: Writing Summaries and Answering Test Questions	Summarizing an Article or a Story
9	Essay Writing 1	Structure, Outline, Drafting
10	Essay Writing 2	Feedback & Revision
11	Preparation for Presentation 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Group Presentations	Presentation
14	Review / Final Exam	Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Karen Blanchard & Christine Root. (2017). Ready to Write 2: Perfecting Paragraphs. Fifth Edition. Pearson Longman. ISBN: 987-0-13-439932-4 (￥3,110 ＋税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】
TBA

【成績評価の方法と基準】
Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
プレゼン等のグループワークは授業内で準備時間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】
Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】- 出典元を適切に引用せず使用すること）など- 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】
English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills to communicate effectively in the English language through a variety of class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph and essay writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities. For class preparation and review, there will be required assignments including paragraph writing and vocabulary learning outside of class. Grading will be based on the following criteria: Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%).

LANe100LA

英語２－Ｉ

2017 年度以降入学者

福井　令恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。日常生活だけではなく、大学生としてより広い社会問題や文化などについても、考えを整理して伝えることができる基礎作りを行います。基本例文から始め、論理的な構成をもつパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】
①総合的な英語力の向上。
②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
③使える語彙を増やす。
④論理的な構成をもつパラグラフを書くことができる。
⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜行います。
課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。
【注】下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。
※授業は、教室対面による授業実施を主としますが、コロナの感染拡大状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。その際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介。
第 2 回	自己紹介・定義の仕方	自己紹介をする。英語圏にない文化、趣味などの表現の仕方を学ぶ。
第 3 回	出来事や経験を語る①	環境に関する記事、プロジェクトに関する報告を読み、時系列で説明する際に必要な表現、また関係詞を学ぶ
第 4 回	出来事や経験を語る②	時系列に沿って短い物語を表現する。
第 5 回	メインアイディアを理解する①	科学に関する文章読む。トピックセンテンスに注目する。
第 6 回	メインアイディアを理解する②	文学作品のまとめを読み、トピックセンテンスを中心とした論理展開を学ぶ
第 7 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。
第 8 回	プロジェクト②	プロジェクトの完成・発表。
第 9 回	パラグラフの書き方①	パラグラフの基本構造を学ぶ（Topic Sentence, Supporting Sentences, Concluding Sentence）。 文の構成、文と文の結びつきを意識して文章が読めるようにする。
第 10 回	パラグラフの書き方②	パラグラフが論旨の通ったものになるように、適切なつなぎ表現を使えるようにする。
第 11 回	描写	場所を描写する表現、描写を豊かにする形容詞を学ぶ、自分で使えるようにする。
第 12 回	例を挙げる	トピックセンテンスを説明する具体例の表現を学ぶ。
第 13 回	要約の方法を学ぶ	重要な情報を含めて要約する。
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。
授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。
その他、授業内で指示します。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
Writing Frontiers(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】
適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等）60 %
期末テスト　40 %
＊なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。
　遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】
学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。
*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】
This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.
Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・ assignments ・quizzes ・projects 60%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

福井　令恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。日常生活だけではなく、大学生としてより広い社会問題や文化などについても、考えを整理して伝えることができる基礎作りを行います。基本例文から始め、論理的な構成をもつパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】
①総合的な英語力の向上。
②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
③使える語彙を増やす。
④論理的な構成をもつ短いパラグラフを書くことができる。
⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
パラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜行います。
課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。
【注】下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。
※授業は、教室対面による授業実施を主としますが、コロナの感染拡大状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。その際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	授業の進め方の説明。 重要な情報を要約をするストラテジーを磨く。
第 2 回	パラグラフ構造①	「分類」について、関連する表現を学び、自分で使えるようにする。
第 3 回	パラグラフ構造②	「原因」と「結果」、「理由のつながり」を意識して英文記事を読む。
第 4 回	パラグラフ構造③	「原因」と「結果」、「理由のつながり」を意識し、社会課題について書かれた英文を読む。パラグラフ構造を理解する。
第 5 回	パラグラフ構造④	「原因」と「結果」の表現を学ぶ。各自が短い文章で表現する。
第 6 回	映画鑑賞とリスニング	関連した映画の一部を鑑賞し、リスニングを行う。
第 7 回	まとめ	前半のまとめ。
第 8 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。
第 9 回	意見・主張	自分の意見を述べる際に使う表現を学ぶ。
第 10 回	プロジェクト②	プロジェクトの完成・発表。
第 11 回	著名人のスピーチ①	概要を聞き取る。
第 12 回	著名人のスピーチ②	リスニングの強化。 スピーチの構成について理解し、より聞き取ることのできる部分を増やす。
第 13 回	パラグラフからエッセイへ	エッセイのスタイルを理解する。
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。
授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。
その他、授業内で指示します。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】
Writing Frontiers(金星堂)
その他、プリントを授業内で配布します。

【参考書】
適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等）60 %
期末テスト　40 %
＊なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。
　遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】
学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】
コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】
電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。
*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】
This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.
Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・ assignments ・quizzes ・projects 60%
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語２－Ｉ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 4/10	ガイダンス	時事問題プリント教材
2 4/17	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3 4/24	Unit 1 ウクライナ ゼレンスキー大統領の奇跡をたどる	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4 5/8	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5 5/15	Unit 2 ウクライナで置き去りのペットを救うポーランド獣医師たち	Unit 1 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6 5/22	Unit 3 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7 5/29	Unit 3 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	Unit 2 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8 6/5	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9 6/12	Unit 4 NY 初の女性知事！キャシー・ホークル氏とは？	Unit 3 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10 6/19	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11 6/26	Unit 5 先進諸国で最低レベル女性の政治参加が進まない日本	Unit 4 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12 7/3	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13 7/10	Unit 6 「半導体チップ」の危機的不足で世界の自動車業界が窮地に	Unit 5 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14 7/17	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込）

【参考書】
特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
授業動画配信オンデマンド授業時　10 点　　10%　（全て解答されていること）
対面　　10%

小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
期末試験　　50%
＊各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
＊オンデマンド授業の出欠規定・・・解答欄が全て記載されていて（解答されていて）、その授業回を出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業はオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

大曲　陽子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
CNN International シリーズ 2023 年版を教材として、経済不況や震災、ウクライナ情勢といった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。
6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】
タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング,スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（授業動画を配信するオンデマンド型）とする。
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では授業動画を視聴し、各自 Definition と Examples を完成させ、かつニュースの音声を聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業（対面）では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、内容に関連したプリント教材を学習する。
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。
課題等に対するフィードバック方法
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。
小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	9/25 Warming Up	時事問題プリント教材
2	10/2 Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
3	10/9 Unit 7 癒やされパンダの保護活動　個体数回復の背景に中国巨大企業	スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
4	10/16 Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
5	10/23 Unit 8 台湾の起業家が世界の建築を変える？ 廃棄物を建材に使用	Unit 7 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
6	10/30 Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
7	11/6 Unit 9 「ミルクティー同盟」アジアの若者たちが反権威主義掲げ結束	Unit 8 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
8	11/13 Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
9	11/20 Unit 10 世界の指導者たちの秘密取引を暴く「パンドラ文書」公開	Unit 9 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
10	11/27 Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
11	12/4 Unit 11 「デジタル証明書」で旅行需要回復へ期待	Unit 10 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
12	12/11 Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	オンデマンド型 授業動画を視聴する。事前に Words&Phrases , ニューススクリプトを完成させてから授業動画を視聴する。 Examples の課題を提出する。
13	12/18 Unit 12 下半身麻痺の男性脊髄インプラントで再び歩行可能に	Unit 11 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容を確認の上、ニュースの内容にあわせた記事などを読み、グループワークで意見をまとめる。 内容の TF 問題
14	1/15 これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
授業動画を配信するオンデマンド型授業では、授業動画を視聴し、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Examples 部分は採点し返却される。
対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】
CNN ビデオで見る世界のニュース（24）
朝日出版　2200 円（税込み）

【参考書】
特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】
授業課題の提出
授業動画配信オンデマンド型授業時　10 点　　10%（Answer Sheet の空欄が全て解答され　　ていること）
対面　　10%

小テスト 10 点 ×5 回分 50 点　30%
期末試験　　50%
＊各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
＊オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）、その授業回を出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】
Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】
欠席は 3 回までとする。
オンライン授業はオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture
and so on through CNN original English.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listeing, reading , writing and speaking.
【Learning activities and outside of classroom 】
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.
【 Grading Criteria 】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・基本的な会話ができるようになる。
・即興で簡単なスピーチをできるようになる。
・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットを 2 回の授業で進める。
1 回目の授業ではリスニングとスピーキングを中心に行う。
2 回目の授業ではリーディングとライティングを中心に行う。
いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。
学期中に 2 回、スピーキングテストを行う。
学期末に複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: Food and Culture	リスニング、スピーキング
3	Unit 1: Food and Culture	リーディング、ライティング
4	Unit 2: Diets	リスニング、スピーキング
5	Unit 2: Diets	リーディング、ライティング
6	Review 1	スピーキングのテスト、期末作文の準備
7	Unit 4: Identity Theft	リスニング、スピーキング
8	Unit 4: Identity Theft	リーディング、ライティング
9	Unit 5: Digital Learning	リスニング、スピーキング
10	Unit 5: Digital Learning	リーディング、ライティング
11	Unit 7: Professional Athletes	リスニング、スピーキング
12	Unit 7: Professional Athletes	リーディング、ライティング
13	Review 2	スピーキングのテスト、期末作文の準備
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. 単語や文法事項について調べておく。
2. リーディングの文章を読み、意味や構造を把握する。
［復習］
1. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point (Eric Hirata, Cengage Learning, 2023, ￥ 2,400)

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%
期末作文 25%
スピーキングテスト 20%
平常点（作文、予習、受講態度）25%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
作文指導の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.
The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (30%), term-end essay (25%), speaking tests (20%), and in class contribution including assignment submissions (25%).

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

飛田　英伸

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】
・英語の文章の基本的な構造を理解する。
・基本的な会話ができるようになる。
・即興で簡単なスピーチをできるようになる。
・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はすべて対面で行う予定。
1 つのユニットを 2 回の授業で進める。
1 回目の授業ではリスニングとスピーキングを中心に行う。
2 回目の授業ではリーディングとライティングを中心に行う。
いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。
学期中に 2 回、スピーキングテストを行う。
学期末に複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。
試験や課題へのフィードバックを学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 8: The Olympics	リスニング、スピーキング
3	Unit 8: The Olympics	リーディング、ライティング
4	Unit 10: Attitude	リスニング、スピーキング
5	Unit 10: Attitude	リーディング、ライティング
6	Review 1	スピーキングのテスト、期末作文の準備
7	Unit 11: Communication	リスニング、スピーキング
8	Unit 11: Communication	リーディング、ライティング
9	Unit 13: Education	リスニング、スピーキング
10	Unit 13: Education	リーディング、ライティング
11	Unit 14: Immigration	リスニング、スピーキング
12	Unit 14: Immigration	リーディング、ライティング
13	Review 2	スピーキングのテスト、期末作文の準備
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
［予習］
1. 単語や文法事項について調べておく。
2. リーディングの文章を読み、意味や構造を把握する。
［復習］
1. 作文を仕上げて提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Vantage Point (Eric Hirata, Cengage Learning, 2023, ￥ 2,400)

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
期末試験 30%
期末作文 25%
スピーキングテスト 20%
平常点（作文、予習、受講態度）25%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】
作文指導の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
辞書（電子辞書可）。
学習支援システムを使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】
Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.
The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation.
Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.
Grading will be decided based on term-end examination (30%), term-end essay (25%), speaking tests (20%), and in class contribution including assignment submissions (25%).

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

大和久　悌一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】
英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト１章分を２回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（精読、内要理解）
3	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（精読、内要理解）
5	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（精読、内容理解）
7	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2（精読、内要理解）
9	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（精読、内要理解）
11	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1（精読、内要理解）
13	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
14	Unit 7	Unit 7: 秋葉原を散策 / 接続詞 2（精読、内要理解）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり 、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！　-続・イングリッシュ・ワンス・モア！ -Introduce Japan in Easy English-English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、２０１６年

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、期末試験４０%で評価します。３０分以上の遅刻は欠席とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。４回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoom などの動画に対応する必要はありません。

【Outline (in English)】
[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

大和久　悌一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実を図ることを目指したい。

【到達目標】
英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト１章分を２回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（精読、内容理解）
3	Unit8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅）/ 話法 1（精読、内容理解）
5	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅）/ 話法 1（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（精読、内容理解）
7	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（精読、内容理解）
9	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園）/ 関係代名詞 2（精読、内容理解）
11	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園）/ 関係代名詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（精読、内容理解）
13	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞（再読、リスニング、質疑応答）
14	Unit 14	Unit 14: 最後の晩餐 / 仮定法 1（精読、リスニング、質疑応答）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！　-続・イングリッシュ・ワンス・モア！ -Introduce Japan in Easy English- English Once More! Ⅱ-』朝日出版社、2016 年

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・予習・小テスト等）６０%、学期末レポート４０%で評価します。３０分を過ぎた場合は遅刻とみなし、また３回の遅刻は１回の欠席とみなします。４回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.

LANe100LA

英語２－Ｉ

2017 年度以降入学者

溝部　敦子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
単文レベルの和文英訳から一歩進め、まとまった内容の説明や自己表現を平易な英語を使って行う。パラグラフ・ライティングの基礎を身につけて、読み手にわかりやすいパラグラフの書き方を学ぶとともに、効果的に意図を伝えるスキルを実践し着実に身につけるため英文ライティングの演習を行う。同時に、シャドーイングなどの手法を使って英語の音声に慣れ、英語を英語のまま理解できるようにする。

【到達目標】
(1) 平易な英語で簡単な説明をしたり、自分の考えを論理的に相手に伝えることができる。
(2) パラグラフ・ライティングの基礎を学び、首尾一貫性、結束性のある文章が書ける。
(3) ナチュラルスピードの英語に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は対面で行います。テキストは SDGs の 17 の目標それぞれを１ユニットとし、１７のユニットから成っていますので、春学期は Unit 8 Decent Work & Economic Growth までを扱う予定です。1～８の SDGs を題材に、多岐にわたるグローバルな課題を自分事として考え、テキスト内の問いかけを足掛かりに（必要ならリサーチし、）ペア又はグループで自分の意見を述べ、話し合うことで、論理的に一貫性があり、説得力のある英語による自己表現の練習を行います。並行して、聴解力強化のためシャドーイングの手法を中心としたリスニング演習を行います。（進み具合を見ながら、テキストとは別のリスニングタスクも取り入れるかもしれません。）さらに、プリント教材を使い、パラグラフ・ライティングの基礎を学んだ上で、テキストのタスクをパラグラフの形にまとめてもらうこともあります。
なお、提出してもらった課題はコメントなどをつけて個々に返却するか、または授業内で全体としてフィードバックし、必要があれば、文法の見直しも適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や辞書の使い方、英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Speaking & Listening Practice	Introduction - 各ユニットのタスクに取り組むためのウォームアップ + Unit 1 No Poverty
3	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 1 パラグラフの基本構造について
4	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 2 Zero Hunger Topic Sentence について
5	Speaking & Listening Practice	Unit 3 Good Health & Well Being
6	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 4 Quality Education Supporting Sentences について
7	Speaking & Listening Practice	Unit 4 + Unit 5 Gender Equality
8	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 5 Concluding Sentence について
9	Speaking & Listening Practice	Unit 6 Clear Water & Sanitation
10	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 7 Affordable & Clean Energy Good Writing の条件：Cohesion Part 1
11	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 7 Good Writing の条件：Cohesion Part 2
12	Speaking & Listening Practice Writing Skills	Unit 8 Decent Work & Economic Growth Good Writing の条件：Coherence & Unity
13	Speaking & Listening Practice	Unit 8 Review Test: Listening
14	Guided Writing	指定されたテーマと様式によるワンパラグラフの作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。各ユニット（Introduction は除く）冒頭の Warm-up と次の Vocabulary のセクションは事前に準備し、テキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。また、学習したポイントはその都度復習し、次の授業に活かせるようにしておく。その他、Writing やペア／グループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。なお、テキストの音声は無料でダウンロードできるので、予習、復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】
田頭未希、Fergus Hann & 藤田玲子 *Making Choices - Exploring Your Approach to SDGs* (2022 CENGAGE Learning)

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価の方法＞
・期末にまとまった内容の文章（長めのワンパラグラフ）を書いてもらいます。
・原則として毎週、シャドーイングもしくはその他の Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施します。
・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
＜成績評価基準・評価の配分等＞
・期末の作文と授業内の Speaking 及び Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、地道な努力を重ねて学習したことがきちんと身についているかどうか、自分の考えを正確でわかりやすい英語を使い、論理的に表現出来ているかどうかを見ます。
・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、勘頼みではなく、ポイントとなる部分を正しく聞き取れているかどうかを見ます。
・上記のほか、到達目標の (1)～(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。
　配分は以下の通りです。
期末の作文 (40%)、Listening 演習（Review Test 含む）(30%)、平常点（授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など）(30%)

【学生の意見等からの気づき】
ペアワークなどクラスメートとの意見交換の時間を出来るだけ多く確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングについても、より丁寧に小さな演習を重ねることで基礎をしっかりと固め、最後の作文に取り組みやすくします。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn the basics of paragraph writing and some useful writing skills so that they can, in the end, write a paragraph not only easy for readers to follow but also logical and convincing enough (Goal 1). For example, they will learn the basic paragraph structure, ways to develop coherence and create cohesion, how to persuade readers, and so on. The topics in the textbook are all global issues that have something to do with SDGs (Sustainable Development Goals). Students are expected, each week, to do several tasks, including pair work and group talk, in order to put what they have learned into practice, and finally write a long paragraph on a given theme in plain English (Goal 2). In addition, they will have some listening practice so that they can get used to natural-speed English and develop confidence in listening (Goal 3).
Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Guided writing 40%, listening tasks 30%, and other assignments & in-class contribution 30%.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

溝部　敦子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ライティング・プロセスを踏まえて論理的に首尾一貫した、より正確で読みやすい文章が書けるようにするとともに、エッセイ・ライティングの基礎を学び、複数のパラグラフから成るより長い文章に取り組む。また、これと併せて、テキスト巻末の Presentation Project を通してプレゼンテーションに向けた準備の仕方、何をどう使うかなどについて学び、効果的なプレゼンを行うための基礎を固める。さらに、引き続きシャドーイングを中心としたリスニング演習とペア／グループワークを通して聴解力と話す力の向上を目指すとともに、正確な表現のための文法の見直しも適宜行う。

【到達目標】
(1) 中級程度の英語を使って的確な意思の伝達や自己表現ができる。
(2) エッセイ・ライティングの基礎を身につけ、プレゼンテーションにも役立つような、より長い論理的かつ説得力のある文章が書ける。
(3) 耳にした順に英語の語順で内容を追うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に春学期と同じですが、Guided Writing は２回実施します。テキストは Unit 9 Industry, Innovation & Infrastructure から始め、残りの９つの SDGs を扱います。パラグラフからエッセイへと重点を移し、広い意味での大学の勉強に必要な（したがって、日本語で書くリポートにも応用可能な）論理的かつ説得力のある文章の書き方を学びます。
フィードバックについても春学期と変わりません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking & Listening Practice	Unit 9 Industry, Innovation & Infrastructure
2	Speaking & Listening Practice	Unit 9 + Unit 10 Reduced Inequalities
3	Speaking & Listening Practice Writing Strategies	Unit 10 Writing Process (1)
4	Speaking & Listening Practice	Unit 11 Sustainable Cities & Communities
5	Speaking & Listening Practice Writing Strategies	Unit 12 Responsible Consumption & Production Writing Process (2)
6	Speaking & Listening Practice	Unit 12 + Unit 13 Climate Action
7	Speaking & Listening Practice Guided Writing	Unit 13 指定されたテーマと様式による長めのワンパラグラフの作文
8	Speaking & Listening Practice	Unit 14 Life below Water
9	Speaking & Listening Practice Writing Strategies	Unit 15 Life on Land パラグラフからエッセイへの展開
10	Speaking & Listening Practice	Unit 15 + Unit 16 Peace, Justice & Strong Institutions
11	Speaking & Listening Practice Presentation Project	Unit 16 プレゼンテーションの準備
12	Speaking & Listening Practice	Unit 16 + Unit 17 Partnerships for the Goals
13	Speaking & Listening Practice	Unit 17 Review Test: Listening
14	Guided Writing	Outline Paragraph をエッセイに展開する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。春学期同様、Warm-up, Vocabulary は事前に目を通し、テキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。その他、ポイントの復習や返却された課題の見直しなどを主体的に行うだけでなく、Writing やペア／グループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。テキストの音声を予習、復習に活用する。

【テキスト（教科書）】
田頭未希、Fergus Hann & 藤田玲子 *Making Choices - Exploring Your Approach to SDGs* (2022 CENGAGE Learning)

【参考書】
特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
＜成績評価の方法＞
・学期の前半と期末の２回、まとまった内容の文章（前半に長めのパラグラフ、期末にエッセイ）を書いてもらいます。
・ほぼ毎週、Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施。
・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
＜成績評価基準・評価の配分等＞
・学期前半と期末の Guided Writing と授業内の Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、学習したことがしっかりと身についているかどうか、自分の考えを正確かつわかりやすい英語で表現し、論理的かつ説得力のある形で述べられているかどうかを見ます。
・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、勘頼みではなく英語の流れに沿って内容が理解出来ているかどうかを見ます。
・上記のほか。到達目標の (1)〜(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。
　配分は以下の通りです。
Guided Writing ２回 (50%)、Listening 演習（Review Test を含む）(30%)、平常点（授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など）(20%)

【学生の意見等からの気づき】
ペア／グループワークなど、クラスメートとの意見交換の時間を少しでも多く確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングについては、より丁寧に小さな演習を重ねることで基礎をしっかりと固め、２回の作文に取り組みやすくします。

【Outline (in English)】
Students will learn the basics of essay writing as well as the writing process, acquire ways to generate ideas and be required to write, following the instructions, one longer paragraph, and an essay or part of a research paper which is related to the topic they are interested in. Also, students will be given some opportunities to enhance their listening skill in one way or another. The three goals defined at the beginning of the spring semester will be, in somewhat updated forms, further pursued. Again, before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Guided Writing 50%, listening tasks 30%, and other assignments & in-class contribution 20%.

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境宣言を英文で読みながら、温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】
受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。reading,listening,writing,speaking の能力を同時に要請する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。その内容について英語で質問をする。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言 (背景)	ストックホルム宣言に関する英文記事その① (資金提供)
第 3 回	ストックホルム宣言 (意義)	ストックホルム宣言に関する英文記事その② (外国代表)
第 4 回	ストックホルム宣言 (問題点)	ストックホルム宣言に関する英文記事その③ (好印象)
第 5 回	内容確認	記事内容についての英語質問
第 6 回	ストックホルム宣言 (汚染)	ストックホルム宣言に関する英文記事その④ (公害病)
第 7 回	ストックホルム宣言 (評価)	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤ (日本の貢献)
第 8 回	内容確認	記事内容についての英語質問
第 9 回	ストックホルム宣言 (人間)	宣言文その① (環境の被造物)
第 10 回	ストックホルム宣言 (汚染)	宣言文その② (人間環境)
第 11 回	ストックホルム宣言 (発展途上国)	宣言文その③ (人間の能力)
第 12 回	内容確認	宣言文についての英語質問
第 13 回	面接試験	英問英答 (出席番号前半) まとめと解説
第 14 回	面接試験	英問英答 (出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。1 時間以上の予習を必要とする。

【テキスト（教科書）】
人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】
沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、面接試験 80 %　各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class.　The goals of this course is to have your opinions on environment.
Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

光野　昭雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境宣言文を読みながら、スモッグ、酸性雨等の問題について考える。reading,listening,writing,speaking の力を同時に養成する。

【到達目標】
受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。reading,listening,writing,speaking 能力を同時に要請する。学生諸君が主体的に読み、書き、聞き、話すことが求められる。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
環境宣言とそれに関する記事を英文で読む。テキスト内の表現を利用して英文を書き、それを基に会話をする。テキスト以外の環境問題に関する英文を聞く。授業中のレポートは評価点を付け後日返却する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その① (自然環境)
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その② (責任)
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③ (天年資源)
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④ (アメリカンモデル)
第 5 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 6 回	東京宣言	内容表現を用いてのディクテイション
第 7 回	東京宣言	宣言文その① (ブッシュ政権)
第 8 回	東京宣言	宣言文その② (アメリカの無能さ)
第 9 回	東京宣言	宣言文その③ (日本の例)
第 10 回	東京宣言	宣言文その④ (戦後期の日本)
第 11 回	東京宣言	宣言文その⑤ (自然尊重)
第 12 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 13 回	面接試験	英問英答 (出席番号前半) まとめと解説
第 14 回	面接試験	英問英答 (出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。学習時間は 1 時間以上を必要とする。

【テキスト（教科書）】
人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】
沈黙の春（レイチェル、カーソン）

【成績評価の方法と基準】
簡易な英文を聞き、理解し、自分の意見を表現する力を試す。
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】
This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goal of this course is to have your original opinions on environment. Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語２－Ｉ

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が 4 技能 (リーディング・ヒアリング・スピーキング・ライティング）を使って様々な事柄について、英語で「発信」できる能力の向上を目指す。特にスピーキングとライティングを中心に、従来の「和文英訳」ではない「英語的発想」で発信できる力を育成する。春学期には簡単なエッセーを書くことにしている。
ライティング力の向上と同様に、スピーキング力を高めるために、ビデオを使って「聴く力」の育成を目指し、また TOEIC のプリントを使用して、語彙の強化を図る。

【到達目標】
・ある程度自分の考えを英語的な発想で書いたり話すことができるようになる。
・語彙力や基本的な英語表現を身につける。
・英語のエッセーの成り立ちを学ぶ。英語でアカデミックなエッセーを書く。・
・プレゼンテーションを英語で行うことができる。(秋学期）
・ノート・テイキング、スピーキング、リスニングの能力が向上する。
・English-English Dictionary（英英辞典）を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ライティングについては、基本的に教科書に沿って授業を進める。教科書は段階的にアカデミック・ライティングが書けるようになるまでを説明している。
教科書の英文を学生の中から無作為に指名し、発音をチェックする。タスクを授業時間内で行う場合、個々に、またはペアやグループワークを行う。
文法的な解説・単語の意味のとらえ方など、多様な方法で学生の語彙力アップを図る。ビデオを積極的に使い、英語表現を学ぶ。また、TOEIC Vocabulary のプリントを用いて、英単語・熟語の定着を図る。
各チャプターにある On Your Own の項目にある課題をその都度、ペアワークまたはグループワークを交えてリアクションペーパーとして提出する。授業では提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックを行う。
春学期はエッセーを、秋学期はプレゼンテーションを発表することを目標に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、出欠・遅刻・単位取得条件などについての説明 Video: "How to Improve Your English Writing"
2	Chapter 1-1 Getting Started Chapter 2-1 Narration (順序だてをわかりやすく書く練習） Prefix 数を表す prefix 否定を表す prefix TOEIC Vocabulary	Free Writing ともかく書いてみよう Process Approach 時を表す語句や時間の流れに沿って書くことを学ぶ
3	Chapter 3 Description(I) TOEIC Vocabulary	Rhetoric 1 - 位置関係を示す表現 Rhetoric 2 - 修飾語 Rhetoric 3 - 存在を表す表現 Rhetoric 4 - Present participle and past participle Vocabulary - 住まいに関する表現
4	Chapter 2-1 Narration TOEIC Vocabulary	Task 1, Exercise 1& 2: ・エジソンの生涯を書き表す ・あなた自身の生い立ちを書き表す ・Rhetoric(時を表す表現）
5	Chapter 2-2 Narration TOEIC Vocabulary	Vocabulary 語源から学ぶ英単語 数を表す prefix 否定を表す prefix Video: "英語語彙テスト - 10 個の接頭辞"
6	Chapter 3 (Description I)	spatial order(空間の配列）について学ぶ Rhetoric 1 - 位置関係を示す表現 Rhetoric 2 - 修飾語 Rhetoric 3 - 存在を表す表現 Rhetoric 4 - Present participle and past participle Vocabulary - 住まいに関する表現 Video: "150 House Vocabulary Words: Expand your English vocabulary"
7	Chapter 4 Description -1(II) TOEIC Vocabulary	1. 人物の外見描写 Rhetoric 1&2- 人物の外面的描写に関わる表現 Rhetoric 3 - 紛らわしい表現 Video 1: "How to use the verbs WEAR, PUT ON, GET DRESSED & CARRY" Rhetoric 2 - 人物の外面的描写に関わる表現 Rhetoric 3 - 紛らわしい表現 2. 人物の性格描写 Rhetoric 4 - 人物の性格描写に関する表現 Video 2: "How to Describe People in English: Advanced Vocabulary Lesson"
8	Chapter 4 Description -2(II)	Vocabulary - Synonyms Video: 18 Advanced Adjectives to Describe PERSONALITY
9	Chapter 5-1 What is a Paragraph?	1.Paragraph とは・・・ 2.Topic Sentence とは・・・ 3. Supporting Sentences とは・・・ 4. Concluding Sentence とは・・・ 5. 良い paragraph を書くには・・・ Video: "Basic Paragraph Structure I English Writing Skills I 2020"

10	Chapter 5-2 What is a Paragraph? TOEIC Vocabulary	Vocabulary - Vocabulary Building 2 Video: "Writing Skills: The Paragraph"
11	Chapter 6-1 Essay	1.「エッセイ」と"essay"の違い 2. 英語の essay の特徴 3. Essay の構成 (1) Introductory Paragraph (序論) の役割 (2) Body Paragraphs (本論) (3) Concluding Paragraphs (結論) Video 1: "Basic Paragraph Structure I English Writing Skills I 2020" Video 2: "Thesis Statement vs Topic Sentences I English Writing Skills
12	8 Tips to Write Better Essays in English (プリント） TOEIC Vocabulary	エッセーを書くにあたってのポイントがコンパクトにまとまっているプリントをクラスで購読する。そのため予習は必須である。
13	p.42 On Your Own (授業中のアクティビティ） TOEIC Vocabulary	1. Exercise 6 の 1 か 2 のいずれかを選び、与えられている主題及び結論文を使って j 授業内でエッセーを書く (辞書を必ず持参のこと。） 制限時間： 30 分間 2. グループメンバー (4 人）と書いたエッセーを交換し、互いにチェックしたあと提出する。
14	TOEIC Vocabulary からの単語テスト	学期中に学習した Vocabulary プリントから出題するテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしい。最低、2 時間は予習・復習に当てる必要がある。学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。**学生と教師とのコミュニケーション・ツールとして用いているリアクションペーパーの提出は毎回必須で、質問への答や英文の添削をして学生に戻している。提出回数は成績に影響する。**

【テキスト（教科書)】
大井恭子他、*Writing Power - Revised Edition*、2022 年、研究社、1900 円、ISBN: 978-4-327-42188-1
プリント類

【参考書】
今まで使っていた参考書や文法書を引き続き使ってほしい。ウェブサイトにも有用なサイトがあるので、適宜紹介する。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。
Web サイトにある Cambridge Dictionary や、Merriam-Webster Dictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。

【成績評価の方法と基準】
● 平常点 (授業中の受け答え. ペアワークやグループワークへの参加度、
宿題) ： 32%
● Reaction Paper の提出 (Hoppi を通じて):2 x 14 = 28%
● 授業内でのエッセー制作： 20%
● TOEIC Vocabulary からの語彙テスト:20%
==========
単位取得のための最低合格レベル: 60%
欠席は 4 回まで。それ以上は単位取得資格を失う。(公欠を除く。)
体調が悪いなどで欠席が見込まれる場合は、授業が始まる前までに教師にメールで連絡すること。
遅刻 2 回で 1 回の欠席とカウントされる。遅延による場合は必ず証明書を提出すること。
エッセー課題において、機械翻訳などを使用したことが発覚した場合には、単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
久しぶりの担当であるため、該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
・辞書を必ず持参のこと。
・授業用のノートを用意すること。(授業中に書いたものを提出する場合がある
ので、ルーズリーフノートが望ましい。

【その他の重要事項】
教員との連絡、授業連絡、課題の提出は学習支援システムの Hoppi 及び大学のメールアカウントからの E メールで行うため、チェックを頻繁にしてほしい。
席の固定化を防ぐために、頻繁に席替えを行ってクラス全員との交流を図る。

【Outline (in English)】
● Course Outline
This course aims to improve students' four English skills, especially in writing and speaking. Students will be encouraged to change their mindset from "translating Japanese words into English" to "understanding English as it is." For the Spring Term, students are expected to write a simple essay. To strengthen students' vocabulary, TOEIC vocabulary prints will be provided. Videos will be used to enhance students'listening skills.
● Learning Objectives
・Students will be able to express their ideas in English to some extent.
・ Acquire knowledge of English vocabulary and expressions.
・ Learn the composition of English essays.
・ Able to give presentations in English in class.(Fall Term)
・ Note-taking. speaking, and listening skills will be improved.
・ Be able to use an English-English Dictionary.
● Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course, but this is by no means sufficient. **At least two hours should be devoted to preparation and review.** Students are frequently asked to answer questions, so preparation is essential.**In addition, submission of a reaction paper through the Hoppi system is mandatory every time, which affects the grades. The reaction paper will be used as a communication tool between the student and the teacher. The teacher will check the submission, make any corrections or answer questions.**
● Grading Criteria/Policy
In-class participation (on pair works and group works): 32%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
An essay which will be written in class: 20%
Term-end examination: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
Students with poor health conditions must notify the teacher before the class starts.

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉川　太恵子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、リスニング・スピーキング、プレゼンテーション能力の養成を目指す。スピーカーの話を十分に理解できる語彙力や、ノートテイキング能力の養成も目指す。春学期は最終的にエッセーにまとめたが、秋学期は、自分が経験したこと、意見などをアウトプットするプレゼンテーション能力を伸ばし、プレゼンテーションとしてまとめることを目的とする。

【到達目標】
・ネィテイブスピーカーの話を理解するためのリスニング力をつける。
・プレゼンテーションで使う言い回しや語句を身につける。
・パラグラフの構造を理解し、自分の意見を短い文章で英語で表現できる。
・効果的なプレゼンテーションを行うための知識を身につける。
・ノートティキング・メモなどをプレゼンテーションの資料に生かす。
・グループまたは個人による英語プレゼンテーションを秋学期末に行う。
・英英辞書を効果的に使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続き、教科書に沿って授業を進める。タスクを授業時間内で行う場合、個々に、またはペアやグループワークを行う。文法的な解説・単語の意味のとらえ方など、多様な方法で学生の語彙力アップを図る。ビデオを積極的に使い、英語表現を学ぶ。また、TOEIC Vocabulary のプリントを用いて、英単語・熟語の定着を図る。各チャプターにある On Your Own の項目にある課題をその都度、ペアワークまたはグループワークを交えてリアクションペーパーとして提出する。授業では提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げてフィードバックを行う。
春学期はエッセーを、秋学期はプレゼンテーションを発表することを目標に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Chapter 7 - 春学期に学んだ内容をプレゼンテーションにどう生かすか? 時間の流れに沿って書かれている文章 → 段階を追って説明する。	秋学期の目標、授業の方法などについての説明。TED Talks や、ビデオ教材についての説明。**必ず出席すること。**
2	Chapter 7 Process TOEIC Vocabulary	・時間の流れに沿って、ある一連の行為の過程を説明する。 ・(復) 時を表す語句 ・順序を示す語句 Rhetoric - 各ステップの順序を明確にし、スムーズな流れを作る。 Vocabulary - 料理動詞 On Your Own: Choose one topic and explain it.(p.49)
3	Chapter 8 Definition TOEIC Vocabulary	. 物事や概念を定義する文章の書き方 ・Rhetoric 1 - Definition (定義づけ) ・Rhetoric 2 - 関係代名詞 ・Rhetoric 3 - 関係副詞 ・Rhetoric 4 - 従属接続詞 On Your Own Vocabulary - アカデミックな語彙習得のために (動詞)
4	Chapter 9: Classification TOEIC Vocabulary	物事をグループに分類し、例を挙げて説明する。 Vocabulary アカデミックな語彙習得のために (形容詞・副詞・名詞)
5	Chapter 10: Comparison and contrast	物事がどのように似通っているか、また違っているかを説明する。 類似点（Comparison)・相違点 (Contrast)
6	Chapter 11: Cause and Effect (原因と結果) TOEIC Vocabulary	事象の原因と結果について論理的に述べる。 Rhetoric 1: Focus on Cause Rhetoric 2: Focus on effect
7	プレゼンテーションの構造 (プリント) パラグラフからプレゼンテーションへ プレゼンテーションの締めくくり プレゼンテーションの評価	・導入 (Introduction) ・展開 (Body) ・まとめ (Conclusion) ・評価 (Evaluation)
8	TED Talks について TOEIC Vocabulary	Video 1: How to Do a Presentation - 5 Steps to a Killer Opener" by Jason Video 2: How to Practice a Speech or Presentation by Alexander Lyon Video 3: 自信をもって話すための驚くべき秘密 | キャロライン・ゴイダー by Carolyn
9	グループワーク (1) TOEIC Vocabulary	発表の順番を決める (くじ引きい) 1. メンバー分け (4 人) 2. 各々が興味を持つテーマ・背景 3. テーマ・メインパート 4. トピックスを取り上げた理由 5.Visual Aid を使うか？ 準備は？ 6. 誰がメインスピーカーになるか 7. 質問について 8. 帰結を表現・まとめる 9. 資料を渡すか？ 10. 制限時間
10	グループワーク (2) プレゼン発表#1 TOEIC Vocabulary	プレゼンの準備 発表順を待つ。
11	グル―プワーク (3) プレゼン発表#2	発表順を待つ。
12	グループワーク (4) プレゼン発表#3	発表順を待つ。
13	グループワーク (5) プレゼン発表#4 プレゼン発表#1	発表順を待つ。
14	TOEIC Vocabulary からの単語テスト	学期中に学習した TOEIC Vocabulary から出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間が標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしい。**最低でも、2 時間を予習・復習にあててほしい。**学生は授業中にほぼ 1 回はランダムに当たるので、準備は欠かせない。また、**リアクションペーパーの提出はほぼ毎回必須である。リアクション・ペーパーには授業の感想、質問など自由に記載し、それを教師がチェックし英語の添削やコメントを加えて Hoppi を通じて学生に戻す。提出回数は成績に影響する。**

【テキスト（教科書）】
大井恭子他、*Writing Power - Revised Edition*、2022 年、研究社、1900 円、ISBN: 978-4-327-42188-1
プリント類

【参考書】
今まで使っていた参考書や文法書を引き続き使ってほしい。ウェブサイトにも有用なサイトがあるので、適宜紹介する。授業中は電子辞書、紙製辞書のみ使用可能で、携帯電話アプリの辞書は、教師が指示した時以外は認めない。
Web サイトにある Cambridge Dictionary や、Merriam-WebsterDictionary などの英英辞典の使用を強く推奨する。

【成績評価の方法と基準】
●平常点:（授業中の受け答え、ペアワークやグループワークへの参加度や課題提出状況):32%
● Reaction Paper の提出 (Hoppi を通じて) 2 x 14 = 28%
●プレゼンテーション： 20%
● TOEIC Vocabulary からの語彙テスト: 20%
単位取得のための最低合格レベル： 60%
4 回以上欠席した場合には単位取得資格を失う (公欠を除く。)
授業開始時間から 15 分以上遅れた場合は、遅刻としてカウントし、2 回で欠席 1 回とみなす。30 分以上遅刻した場合は、出席しても欠席扱いとなる。体調が悪い、通院するなどの場合は事前に教師宛にメールで知らせること。

【学生の意見等からの気づき】
久しぶりの担当であるため、該当なし

【学生が準備すべき機器他】
辞書を必ず持参のこと。
授業用のノートを用意し、授業に持参のこと。(必須）授業中に書いたものを提出する場合があるので、ルーズリーフノートが望ましい。

【その他の重要事項】
教員との連絡、授業連絡、課題の提出は学習支援システムの Hoppi 及び大学のメールアカウントからの E メールで行うため、チェックを頻繁にしてほしい。
席の固定化を防ぐために、頻繁に席替えを行ってクラス全員との交流を図る。

【Outline (in English)】
● Course Outline
This course aims to improve students' four English skills, especially in writing and speaking. Students will be encouraged to change their mindset from "translating Japanese words into English" to "understanding English as it is." For the Fall Term, students are expected to give a presentation in class. To strengthen students'vocabulary, TOEIC vocabulary prints will be provided. Videos will be used to enhance students'listening skills.
● Learning Objectives
· Students will be able to express their ideas in English to some extent.
· Acquire knowledge of English vocabulary and expressions.
· Learn the composition of English essays.
· Able to give presentations in English in class.(Fall Term)
· Note-taking. speaking, and listening skills will be improved.
· Be able to use an English-English Dictionary.
● Learning activities outside of classroom
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course, but this is by no means sufficient. At least two hours should be devoted to preparation and review. Students are frequently asked to answer questions, so preparation is essential.**In addition, submission of a reaction paper through the Hoppi system is mandatory every time, which affects the grades. The reaction paper will be used as a communication tool between the student and the teacher. The teacher will check the submission, make any corrections or answer questions.**

● Grading Criteria/Policy
In-class participation (on pair works and group works): 32%
Reaction paper (through the Hoppi system) 2 x 14 = 28%
An in-class presentation: 20%
Term-end examination from TOEIC vocabulary: 20%
The minimum passing grade: 60%
Maximum absences per semester: 4 times
More than 15 minutes delay will be recorded as a late mark, and two late marks will be counted as one absence.
Students with poor health conditions must notify the teacher before the class starts.

LANe100LA

英語２－Ⅰ

2017 年度以降入学者

川野　芽生

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。一年間かけて、論理的なパラグラフを正確な英語で書けるようになるために、今学期は基礎的な英文法の復習を行い、簡単な英文を書く練習を積み重ねる。

【到達目標】
・文法的に正確な英文を書けるようになる。
・英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
・文法力を向上させる。
・語彙力を向上させる。
・論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基礎的な英文法の解説を行い、簡単なリスニングと和文英訳に取り組む。適宜小テストなどを実施する。
授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。課題の提出やフィードバックは Google フォームを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Be 動詞、普通動詞
2	Unit 2	進行形、未来形、命令形
3	Unit 3	完了形、受動態、冠詞
4	Unit 4	助動詞、接続詞
5	Unit 5	疑問詞
6	Unit 6	分詞、５文型、知覚動詞、使役動詞
7	Unit 7	代名詞、前置詞
8	Unit 8	関係詞、as と that
9	Unit 9	不定詞、動名詞
10	Unit 10	形容詞、副詞、数と量、比較級、最上級
11	Unit 11	仮定法、不定代名詞、再帰代名詞
12	Unit 12	both, neither, either の使い分け、復習
13	Unit 13	まぎらわしい単語・略語、復習
14	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。その回で扱う Unit の問題を事前に解いてくること。また、前回の復習をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】
高橋美津子『実践！　使って身につく基礎英文法/ Building Solid English Grammar for Practical Use』（朝日出版社、２０２２年）、１７６０円

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％
試験８０％

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を細やかに確認し、基礎的な文法事項を身に着けさせる。

【Outline (in English)】
In order to develop the abilities to write English paragraphs and to express their opinions in English, this class focus on reviewing English grammar and practicing on writing short sentences.
Before each class meeting, students will be expected to spend at least an hour to read the relevant unit of the text and work on the questions.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LANe100LA

英語２－Ⅱ

2017 年度以降入学者

川野　芽生

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを書けるようになる。また、エッセイをもとにプレゼンテーションを行うことができるようになる。

【到達目標】
・複数のパラグラフからなる短い英文エッセイを書けるようになる。
・英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
・英語を用いて口頭で自分の意見を発表できるようになる。
・文法力を向上させる。
・語彙力を向上させる。
・論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
英文のパラグラフの構造や種類について学習し、演習問題を通して実際にパラグラフを書くことに取り組む。適宜 Writing の課題を課す。
毎回リアクションペーパーを課す。提出・フィードバックは Google フォームを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Explanatory Paragraphs
2	Chapter 2	Information Paragraphs
3	Chapter 3	Opinion Paragraphs
4	Chapter 4	Descriptive Paragraphs
5	Chapter 5	Comparative Paragraphs
6	Chapter 6	Contrast Paragraphs
7	Chapter 7	Cause and Effect Paragraphs
8	Chapter 8	Argumentative Paragraphs
9	Chapter 9	Problem and Solution Paragraphs
10	Chapter 10	Time-order Paragraphs
11	Chapter 11	Process Paragraphs
12	Chapter 12	Summaries
13	Chapter 13	Five Paragraph Essays
14	Chapter 14/15	Concluding Paragraphs for Essays/ Effective Ways to Begin an Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit を事前に読み、リーディング・パッセージを日本語訳して、演習問題を解いてくること。前回の復習をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】
川崎眞理子ほか／ Real Writing: From Structured Paragraph to Complete Esssay、南雲堂、2019 年

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %
レポート 80 %
4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
学生の参加を促し、集中しやすいように心がける。

【Outline (in English)】
This class aims to develop the abilities to write English essays and to express their opinions in English.
Before each class meeting, students will be expected to spend at least an hour to read the relevant unit of the text, translate the reading passages to Japanese and work on the questions.
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1 Genius: Nature or Nurture	Orientation. Getting to to know you. Start unit 1.?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.Begin unit 1: Discussion and vocabulary.
Unit 1	Reading 1: A Genius Explains.	Inference - understanding assumptions. Note-taking - marking important information. Distinguishing voice in quotations. Grammar - Past perfect.
Unit 1	Reading 2: 10,000 Hours to Mastery.	Review - Identifying and correcting sentence fragments. Video - Child prodigies. Writing - A summary paragraph.Writing - A report on a genius. Exchange texts and edit,
Unit 2 Facing Life's Obstacles.	Reading 1: A Life of Twists and Turns: The Story of Frank McCourt.	Inferring the meaning of idioms.Taking notes using questions. Recognzsing positive redundancy.
Unit 2	Reading 2: Marla Runyan Has Never Lost Sight of her goals.	Gerunds and infinitives.Choosing appropriate supporting sentences.
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Exchange texts and edit, Video - A girl with autism. Plan and write a biographical essay on a famous person who has overcome an obstacle.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.
Unit 3 Making Medical Decisions.	Reading 1: Genetic Testing and Disease: Would you want to know?	Inferring degree of support. Taking notes on cause and effect using a graphic organizer. Organizing event in a time line.
Unit 3	Reading 2: Norman Cousin's Laughter Therapy.	Past unreal conditionals. Writing introduction and hooks. Preparing to write an opinion essay.
Unit 3	Video: Sleep deprivation and health issues.	Unit review. A written presentation on genetic testing.
Unit 4 Instinct or Intellect	Reading 1: Extreme Perception and Animal Intelligence.	Inferring the use of Hedging. Taking notes with outlining. Adjective clauses.
Unit 4	Reading 2: How Smart are Animals?	Paraphrasing. A summary in journalistic style. Video: Talking to animals.
Unit 4	Write a research summary on a famous animal.	Plan. Outline Draft. Write. Self edit. Exchange. Peer review.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】
Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%

Midterm and final exams 20%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students wanted more time to read in class.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to to prepare for academic study and to take English listening and speaking exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation.	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1. Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes.
Getting to know you.	Unit 1. Necessities.	
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Pronunciation - relaxed pronunciation.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Presentation skills - speech aims & using props. Presentation performance skill: Using props.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Dealing with accents. Noting who says what.Listening for details.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Building an argument. Presentation performance skill: Using humour.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Discourse markers. Distinguishing facts from opinion.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Presentation performance skill: Being relatable.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Collaborative listening and note taking. Emotive language in speeches.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Presentation performance skill: Controlling nerves.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Understanding examples.Discussing challenging topics.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Presentation performance skill: Repeating key ideas..
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Listening for signposts. Giving supporting evidence.
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Presentation performance skill: Giving a demonstration.
Semester Review	Student presentations	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】
Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 30%
Presentations 20%
Quizzes 20%
Listening reports 30%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students enjoyed the Ted Talks.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 5 Too Much of a Good Thing?	Reading 1: Death Do Us Part	Inferring attitudes and feelings.Taking notes with signposts. Using titles and headings to identify main ideas.
Unit 5	Reading 2: Toward Immortality: The Social Burden of Longer Lives	Grammar - simple past, present perfect, and present perfect progressive. Revise - using figurative language.
Unit 5	A descriptive essay.	Video: The long lives of the residents of Acciaroli. Write a report about a part of the world where people live long lives using questions as guides.
6 Making a Difference	Reading 1: Justin Lebo.	Inferring people's reactions. Taking compare and contrast notes with a t-chart. Recognizing persuasive language.
Unit 6	Reading 2: Some Take the Time Gladly Problems with Mandatory Volunteering.	Grammar: Making concessions. Writing introductions and thesis statements.
Unit 6	A persuasive essay.	Video: Philanthropy. Create a powerpoint presentation or poster about philanthropy in your community.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7 An Ocean of Problems	Reading 1: Sea Unworthy: A Personal Journey into the Pacific Garbage Patch.	Inferring the author's point of view and possible bias.Taking notes on pros and cons.Creating headings based on main ideas.
Unit 7	Reading 2: Two Proposals to Clean Up Our Oceans of Garbage: Will Either Work?	Grammar: Subordinators and transitions. Writing conclusions.
Unit 7	A problem-solution essay.	Video: Water conservation in college dormitories. Create a powerpoint or presentation about a solution to an environmental issue with accompanying campaign proposal.
Unit 8 Managing Your Smartphone	Reading 1: Smartphone-Induced Problems in the Twenty-First Century	Inferring an author's appeal to authority.Taking three-column notes to show time sequence.Identifying referents for the pronoun 'it'.
Unit 8	Reading 2: Unplugging Wired Kids: A Vacation from Technology and Social Media	Grammar: Subordinators and prepositional phrases. Using transitions.Video:Video games.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Conduct research and give a powerpoint presentation about the evolution of a technological device.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】
Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Inferring meaning from context.
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Reading between the lines.Presentation performance skill: Being authentic.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Understanding contrastive stress.Supporting the main idea.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Presentation performance skill: Using visuals.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Understanding mid-sentence changes in direction. Techniques for entertaining your audience.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Presentation performance skill: Thinking about your audience.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Reviewing note-taking. Noticing analogies.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Presentation performance skill: Good pace and emphasis.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Dealing with different stress patterns.Valuing different cultures.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Presentation performance skill: Varying your tone of voice.
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Thinking about the speaker's motivation.
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Presentation performance skill: Being concise.
Semester Test	Student presentations.	Presenting research.Evaluation. Review and discussion.
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】
Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett
& Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 30%
Presentations 20%
Quizzes 20%
Listening reports 30%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students wanted to do more presentations.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【到達目標】
You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Students should do the reading at home and participate in group discussion in class. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2.
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	online
9	Exam review	Review writing 4
10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher review. Homework: reading article 5 about Myanmar and summarize in writing 6.
12	Presentations	Student present their summary of article 5 in 1 minute and critique each other.
13	Reading	Discuss article 6 about the Philippines. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback & review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read each article before class and complete the reading comprehension quiz or writing assignment. Please also revise your writing assignment to correct the mistakes after it is reviewed. You should support your writing with additional research regarding the topic from the internet.

【テキスト（教科書）】
None. Handouts will be provided online.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% writing
25% participation
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students need access to a computer or smartphone

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles.

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. You will practice speaking and listening about
the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle
various types of information and to assess it critically

【到達目標】
You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a hybrid class with some lessons in person and others online via Zoom. Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	An explanation of the class requirements. Pair & Group discussion
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: study for mid-term
7	Mid-term exam	Feedback
8	Review Mid-term	Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the textbook homework assignments before the class and answer the questions. The homework assignments are important to better participate in the in class group discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% exams and quizzes
25% effort & class participation
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class, over Zoom and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【1】
None

【2】
None

【3】
None

【4】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class.
Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice academic writing using the information from the articles.

【到達目標】
You will read 6 articles and write 6 short essays to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Reading at home and group discussion in class. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Handout of article.	Reading and group discussion. Homework: writing 1.
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3. Homework: writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Vietnam
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4. Homework: writing 4.
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5. Homework: writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia
11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6. Homework: writing 6
12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: prepare for group discussion.
13	Group Discussion	Discussion. Homework: study for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read each article before class and complete the reading comprehension quiz or writing assignment. Please also revise your writing assignment to correct the mistakes after it is reviewed. You should support your writing with additional research regarding the topic from the internet.

【テキスト（教科書）】
Handouts.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
50% writing
25% reading quizzes
25% class participation
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Computer access

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with class-mates. You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically

【到達目標】
You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Group discussion. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about healthcare solutions. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about user experience. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about making suggestions. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about community builders. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about community building. Homework: study for mid-term exam
7	Mid-term exam	feedback Homework: watch video.
8	Speaking	Pair & Group discussion about changing places. Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about Barefoot college. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about Identity. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about global movement. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about Global Migration. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about Emotional Intelligence. Homework: study for final.
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the textbook homework assignments before the class and answer the questions. The homework assignments are important to better participate in the in class group discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% exams and quizzes
25% effort & participation
In principle, no more than 3 absences allowed.
Feedback will be provided in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
none

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part One
2	Introduction/Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part Two
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part One
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part Two
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3 A Big Demonstration
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4 A Power Blackout
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5 An Election Campaign
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6 A Groundbreaking Ceremony
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7 A Trade Agreement
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8 The Job Market
11	Presentation II.1	Lesson 9 A Joint Venture
12	Presentation II.1	Lesson 10 A Troublesome passenger
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 11 A Bankruptcy
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 12 A Train Derailment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D
10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part One
2	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part Two
3	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part One
4	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part Two
5	Presentation Skills: Review	Lesson 15 Capital Punishment
6	Presentation Skills: Review	Lesson 16 An International conference
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 17 A National Census
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 18 A Forest Fire
9	Academic Presentation I.1	Lesson 19 A Lottery Winner
10	Academic Presentation I.1	Lesson 20 A Prison Uprising
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 21 An Oil Spill
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 22 A Communications Satellite
13	Academic Presentation I.2	Lesson 23 The European Union
14	Academic Presentation I.2	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C
7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1 Genius: Nature or Nurture	Orientation. Getting to to know you. Start unit 1.?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.Begin unit 1: Discussion and vocabulary.
Unit 1	Reading 1: A Genius Explains.	Inference - understanding assumptions. Note-taking - marking important information. Distinguishing voice in quotations. Grammar - Past perfect.
Unit 1	Reading 2: 10,000 Hours to Mastery.	Review - Identifying and correcting sentence fragments. Video - Child prodigies. Writing - A summary paragraph.Writing - A report on a genius. Exchange texts and edit,
Unit 2 Facing Life's Obstacles.	Reading 1: A Life of Twists and Turns: The Story of Frank McCourt.	Inferring the meaning of idioms.Taking notes using questions. Recognzsing positive redundancy.
Unit 2	Reading 2: Marla Runyan Has Never Lost Sight of her goals.	Gerunds and infinitives.Choosing appropriate supporting sentences.
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Exchange texts and edit, Video - A girl with autism. Plan and write a biographical essay on a famous person who has overcome an obstacle.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.
Unit 3 Making Medical Decisions.	Reading 1: Genetic Testing and Disease: Would you want to know?	Inferring degree of support. Taking notes on cause and effect using a graphic organizer. Organizing event in a time line.
Unit 3	Reading 2: Norman Cousin's Laughter Therapy.	Past unreal conditionals. Writing introduction and hooks. Preparing to write an opinion essay.
Unit 3	Video: Sleep deprivation and health issues.	Unit review. A written presentation on genetic testing.
Unit 4 Instinct or Intellect	Reading 1: Extreme Perception and Animal Intelligence.	Inferring the use of Hedging. Taking notes with outlining. Adjective clauses.
Unit 4	Reading 2: How Smart are Animals?	Paraphrasing. A summary in journalistic style. Video: Talking to animals.
Unit 4	Write a research summary on a famous animal.	Plan. Outline Draft. Write. Self edit. Exchange. Peer review.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】
Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Class participation and homework 20%
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%

Midterm and final exams 20%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students wanted more time to read in class.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to to prepare for academic study and to take English listening and speaking exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation. Getting to know you.	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1. Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Pronunciation - relaxed pronunciation.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Presentation skills - speech aims & using props. Presentation performance skill: Using props.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Dealing with accents. Noting who says what.Listening for details.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Building an argument. Presentation performance skill: Using humour.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Discourse markers. Distinguishing facts from opinion.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Presentation performance skill: Being relatable.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Collaborative listening and note taking. Emotive language in speeches.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Presentation performance skill: Controlling nerves.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Understanding examples.Discussing challenging topics.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Presentation performance skill: Repeating key ideas..
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Listening for signposts. Giving supporting evidence.
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Presentation performance skill: Giving a demonstration.
Semester Review	Student presentations	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】
Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 30%
Presentations 20%
Quizzes 20%
Listening reports 30%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students enjoyed the Ted Talks.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 5 Too Much of a Good Thing?	Reading 1: Death Do Us Part	Inferring attitudes and feelings.Taking notes with signposts. Using titles and headings to identify main ideas.
Unit 5	Reading 2: Toward Immortality: The Social Burden of Longer Lives	Grammar - simple past, present perfect, and present perfect progressive. Revise - using figurative language.
Unit 5	A descriptive essay.	Video: The long lives of the residents of Acciaroli. Write a report about a part of the world where people live long lives using questions as guides.
6 Making a Difference	Reading 1: Justin Lebo.	Inferring people's reactions. Taking compare and contrast notes with a t-chart. Recognizing persuasive language.
Unit 6	Reading 2: Some Take the Time Gladly Problems with Mandatory Volunteering.	Grammar: Making concessions. Writing introductions and thesis statements.
Unit 6	A persuasive essay.	Video: Philanthropy. Create a powerpoint presentation or poster about philanthropy in your community.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7 An Ocean of Problems	Reading 1: Sea Unworthy: A Personal Journey into the Pacific Garbage Patch.	Inferring the author's point of view and possible bias.Taking notes on pros and cons.Creating headings based on main ideas.
Unit 7	Reading 2: Two Proposals to Clean Up Our Oceans of Garbage: Will Either Work?	Grammar: Subordinators and transitions. Writing conclusions.
Unit 7	A problem-solution essay.	Video: Water conservation in college dormitories. Create a powerpoint or presentation about a solution to an environmental issue with accompanying campaign proposal.
Unit 8 Managing Your Smartphone	Reading 1: Smartphone-Induced Problems in the Twenty-First Century	Inferring an author's appeal to authority.Taking three-column notes to show time sequence.Identifying referents for the pronoun 'it'.
Unit 8	Reading 2: Unplugging Wired Kids: A Vacation from Technology and Social Media	Grammar: Subordinators and prepositional phrases. Using transitions.Video:Video games.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Conduct research and give a powerpoint presentation about the evolution of a technological device.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】
Northstar 4 Reading and Writing (5th Edition) Student Book with app & resources by Andrew K. English and Laura Monahon English (Pearson)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
Class participation and homework 20%

Writing assignments(portfolio of all drafts)40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

NADER　Jamelea

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】
Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Inferring meaning from context.
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Reading between the lines.Presentation performance skill: Being authentic.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Understanding contrastive stress.Supporting the main idea.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Presentation performance skill: Using visuals.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Understanding mid-sentence changes in direction. Techniques for entertaining your audience.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Presentation performance skill: Thinking about your audience.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Reviewing note-taking. Noticing analogies.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Presentation performance skill: Good pace and emphasis.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Dealing with different stress patterns.Valuing different cultures.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Presentation performance skill: Varying your tone of voice.
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Thinking about the speaker's motivation.
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Presentation performance skill: Being concise.
Semester Test	Student presentations.	Presenting research.Evaluation. Review and discussion.
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】
Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett
& Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】
An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】
In-class performance* and participation 30%
Presentations 20%
Quizzes 20%
Listening reports 30%
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】
Students wanted to do more presentations.

【学生が準備すべき機器他】
An English-English dictionary.
Please check Google Classroom for all class information, homework, assignments and so on. You will get the information on how to do this in the first class.

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

【その他の重要事項】
The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】
Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles. Learn how to skim and scan articles for the main idea and supporting details. Improve writing skills by writing summaries and opinion essays about the readings.

【到達目標】
You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a hybrid class with some classes in person and some online via Zoom. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1 descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2. Writing 1 due
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style.
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style.
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	none
9	Exam review	Also review writing 4.
10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: reading article 5 and summarize in writing 6.
12	Student presentation	Student present their summary of article 5 in 1 minutes and critique each other. Homework: read article 6
13	Discussion	Discuss article 6. Homework: study for final exam.
14	Final exam	review and return final writing assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read each article before class and complete the reading comprehension quiz or writing assignment. Please also revise your writing assignment to correct the mistakes after it is reviewed. You should support your writing with additional research regarding the topic from the internet.

【テキスト（教科書）】
None required. Articles will be provided online.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Writing 75%
Participation 25%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】
You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
This is a hybrid class with some lessons in person and some online via Zoom. Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
7	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: study for mid-term
8	Mid-term exam	Feedback
9	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the textbook homework assignments before the class and answer the questions. The homework assignments are important to better participate in the in class group discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% exams and quizzes
25% effort & class participation
In principle, no more than 3 absences allowed per term.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】
None

【None】
none

【1】
none

【2】
none

【3】
none

【4】
none

【Outline (in English)】
You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月 2**/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice acaademic writing using the information from the articles. Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submit-ted on Google classroom and feedback will be provided online and in class

【到達目標】
To improve reading and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Reading at home and group discussion in class. Feedback will given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction and reading	Reading and group discussion. Homework: writing 1
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: do writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Indonesia
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia.
11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6
12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: submit final homework.
13	Review	Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read each article before class and complete the reading comprehension quiz or writing assignment. Please also revise your writing assignment to correct the mistakes after it is reviewed. You should support your writing with additional research regarding the topic from the internet.

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
50% writing
25% reading quizzes
25% class participation
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Computer/internet access

【その他の重要事項】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk alot about your own opinions and experiences with classmates. You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and de-velop your opinions. You will improve your ability to handlevarious types of information and to assess it critically.

【到達目標】
Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.Feedback will given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion about everyday heroes. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: prepare for mid-term exam
7	Mid-term exam	Feedback Homework: watch video
8	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about predicting trends. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about proving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the textbook homework assignments before the class and answer the questions. The homework assignments are important to better participate in the in class group discussion.

【テキスト（教科書）】
Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
75% exams and quizzes.
25% class participation.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
Computer and internet access

【その他の重要事項】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
See above

LANe100LA

Academic English R&W Ⅰ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part One
2	Introduction/Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part Two
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part One
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part Two
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3 A Big Demonstration
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4 A Power Blackout
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5 An Election Campaign
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6 A Groundbreaking Ceremony
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7 A Trade Agreement
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8 The Job market
11	Presentation II.1	Lesson 9 A Joint Venture
12	Presentation II.1	Lesson 10 A Troublesome Passenger
13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 11 A Bankruptcy
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 12 A Train Derailment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English L&S Ⅰ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D
10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English R&W Ⅱ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part One
2	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part Two
3	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part One
4	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part Two
5	Presentation Skills: Review	Lesson 15 Capital Punishment
6	Presentation Skills: Review	Lesson 16 An International conference
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 17 A National Census
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 18 A Forest Fire
9	Academic Presentation I.1	Lesson 19 A Lottery Winner
10	Academic Presentation I.1	Lesson 20 A Prison Uprising
11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 21 An Oil Spill
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 22 A Communications Satellite
13	Academic Presentation I.2	Lesson 23 The European Union
14	Academic Presentation I.2	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANe100LA

Academic English L&S Ⅱ

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】
The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C
7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】
None.

【学生が準備すべき機器他】
If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】
Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
N/A

LANj100LA

日本語１Ｉ

2017 年度以降入学者

尾形　太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】
(1) ノート・テイキングができるようになること
(2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
(3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること
(4) 5 分程度のまとまりのある発表を行うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. メモを取りながら読解または聴解を行う
2. メモをもとにアウトラインを作成する
3. アウトラインに基づき、口頭で内容を説明する
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	短い文章を読み、内容の構造を示すメモを作成	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。
3	聴解練習①「バイオトイレ」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「バイオトイレ」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
4	聴解練習②「丁重語」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「丁重語」に関するミニ講義をメモを取りながら講義を聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
5	「丁重語」に関する口頭発表の準備／発表で用いる表現、特にメタ言語を学ぶ	第 4 回授業で作成したミニ講義「丁重語」のアウトラインに基づく口頭発表の準備行う。発表で用いる表現（特にメタ言語）を学ぶ。
6	口頭発表練習①「丁重語」に関するミニ発表を行う	「丁重語」に関する口頭発表を行う。
7	聴解練習③「フェアトレード」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「フェアトレード」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
8	口頭発表練習②「フェアトレード」に関するミニ発表を行う	第 7 回授業で作成したアウトラインに基づき、「フェアトレード」に関する口頭発表を行う。
9	聴解練習④「ガラスの天井」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「ガラスの天井」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
10	口頭発表練習③「ガラスの天井」に関するミニ発表を行う	第 9 回授業で作成したアウトラインに基づき、「ガラスの天井」に関するミニ口頭発表を行う。
11	聴解小テスト	ミニ講義を聞き、アウトラインを作成する試験を行う。
12	自由発表①自国の教育をテーマに見に発表を行う	自国の教育に関するミニ発表を行う。
13	自由発表②自国の社会問題をテーマにミニ発表を行う	自国の社会が抱える問題についてミニ発表を行う。
14	期末発表（期末試験）	自由発表①か②からテーマを選択し、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題： 50 %
聴解試験： 20 %
期末口頭発表： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.
Goal ： Improve listening comprehension, note-taking and presentation skills; the students are required to become able to make a small, but well-structured presentation at the end of the semester.
Work to be done outside of class: One hour
Grading criteria: Assignments(50%), Final exam of listening comprehension(20%), Final presentation(30%)

LANj100LA

日本語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

尾形　太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。
今学期は、現代日本社会を分析する 2 つの文献を読む。

【到達目標】
(1) 大学生以上を想定して書かれた日本社会を分析する文章を読めるようになること
(2) 読解・講義を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. 初回の授業で教材と併せて読解課題（教材の特定の部分に関する質問、教材の内容に関連したテーマについて調べる課題等）のリストを配布する
2. 学生は事前に指定された箇所を読み、課題を行ってくる
3. 授業では、学生は、教材の音読（漢字の読み方の確認を含む）、読解課題の解答の発表、議論を行う
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 教材 1（本田 2015）と教材 2（宇野 2011）を読むための背景知識を学ぶ	授業の目的、内容についての紹介
2	教材 1（本田 2015）の第 1 節の読解・検討	「〜にすぎず」「に達する」「際立って色濃い」等の表現の読み取り、「閉塞感」をキーワードにした段落の要約、「親世代と比較して、「地位上昇」を実感できないという現状と労働市場の劣悪化の関係の考察、「経済や雇用、賃金の面で閉塞を感じざるを得ない状況」、「1990 年代よりも前の時期」の日本社会状況やその特徴について検討。
3	教材 1（本田 2015）の第 2 節の読解・検討	「日本という社会の歴史的経緯の独特さ」を「近代」という言葉を使い説明する。 「合計特殊出生率」「一億総中流社会」「ジャパン・アズ・ナンバーワン」「日本型雇用慣行」について調べる。 「会社人間」「空洞化する『マイホーム』」が何を指すか考える。
4	教材 1（本田 2015）の第 3 節の読解・検討	著者のいう「戦後日本型循環モデル」という言葉を使って世代の「分断」について説明する。 「戦後日本型循環モデル破綻」が「1970 年代半ば以降に生まれた世代」に与えた影響を文脈に即し挙げる。 「この見田の認識は正しいのだろうか」（15 段落）：見田の認識に対する著者の考えを 15〜19 段落におけるデータの分析から考える。
5	教材 1（本田 2015）の第 4 節の読解・検討	「家事・育児・介護に差し支えない範囲で働く」、「女性が男性に対して経済的に従属する」ことは「大きな問題」、「「男は仕事」という従来からの役割を首尾よく果たせない男性」「従来からの性別役割分業意識が〜男性にとっても強い呪縛となって」「人材の「吸引力」を都市が発揮してしまっている」「社会内部の「否定」の総量が増えていく」等の文言が具体的に意味することを考える。
6	教材 1（本田 2015）の第 5 節・6 節の読解・検討、文章全体のまとめ	「こうした労働の性質が、「やりがい」や「夢」などの「ポエム」に結びつきやすい」のはなぜか、日本の「キャリア教育」の「矛盾」とはどのようなものか考える。 文章全体の内容を口頭で要約する。
7	教材 2（宇野 2011）の「はじめに」の読解・検討	「市民」（4 段落）の意味、「矛盾」（8 段落）の内実、「〈私〉が〈私〉であること」が「つらいこと」でもある（9 段落）のはなぜか考える。 「これまで人々を縛りつけてきた伝統の拘束や人間関係」（13 段落）の具体例を挙げる。 「近代（化）」にはどのような特徴があり、「デモクラシー」とどのように関わると著者は考えているのか検討する。
8	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 1 節の前半部（1〜8 頁）の読解・検討	「主流派の言語や文化」（3 段落）として、どのようなものが挙げられるか、著者がブレジンスキーの「グローバルな政治的覚醒」論とザカリアの「多数の台頭」説を紹介している意図は何か（なぜ紹介しているのか）考える。
9	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 1 節の後半部（9〜15 頁）の読解・検討	著者によるトクヴィルの「平等」概念の説明を、当時の時代状況から理解する。 なぜ著者は現代社会の分析にトクヴィルの「平等」概念と「想像力の変容」という考えを用いているのか考える。
10	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 2 節の前半部（16〜21 頁）の読解・検討	「閉じられた共同体的空間」「想像力」「階層に基づく不平等（の可視化）」といったキーワードに着目しつつ、戦後日本の教育分野における「平等」をめぐる議論を、著者はトクヴィルの平等論に依拠しながらどのように分析しているか考える。

11	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 2 節の後半部（21～28 頁）の読解・検討	「垂直的な格差を抑制する」「社会の特定部分への優遇に対する批判」「中間集団」「中間集団からはじき出された個人」の意味を具体例を挙げ考える。 「現代における不平等を自分一人で受け止めていくしかないのか」（30 段落）と考えてしまうのはなぜか、かつては、何が「平等の参照空間」（30 段落）として機能していたのか考える。
12	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 3 節の前半部（28～35 頁）の読解・検討	平等意識の変化と時間感覚の変化という観点から、日本社会における平等意識の変化について著者がどう分析している考える。 戦後日本における「不平等感の消失」効果について「持続する経済成長」と「代理としての子供」という考えとの関連から説明し、またトクヴィルの考えとの類似性を説明する。
13	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 3 節の後半部（35～41 頁）の読解・検討	「団塊」「団塊の世代」「貧乏くじを引く（ひく）」という表現の意味を調べる。 年功賃金という「制度」、および近年におけるその機能不全が人々の平等意識にどのように影響しているのか、著者の主張を把握する。
14	期末試験	期末考査・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本社会の現状に概観を与える以下の文献を読む予定である。
本田由紀（2015）「分断」本田由紀編著『現代社会論 ―社会学で探る私たちの生き方』有斐閣
宇野重規（2011）『〈私〉時代のデモクラシー』岩波書店（第 1 章のみ）
受講生は文献を購入する必要はない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題 50 %、期末考査 50 %
欠席が 4 回以上の学生に対しては原則として成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.
Goal ： (1)To improve reading comprehension skills so that students can read texts analyzing Japanese society written for university undergraduates and above. (2)To express your own opinion on what you understand through reading and lectures.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) ： One hour
Grading criteria : Assignments(50%), Final examination(50%)

LANj100LA

日本語１Ｉ

2017 年度以降入学者

尾形　太郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解や聴解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。

【到達目標】
(1) ノート・テイキングができるようになること
(2) 読解・聴解を通して理解したことの概要を口頭で説明すること
(3) 読解・聴解を通して理解したことについて、自らの意見を述べること
(4) 5 分程度のまとまりのある発表を行うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. メモを取りながら読解または聴解を行う
2. メモをもとにアウトラインを作成する
3. アウトラインに基づき、口頭で内容を説明する
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容についての紹介
2	短い文章を読み、内容の構造を示すメモを作成	メモを取りながら聞く、文章を読む課題を行い、また、内容のアウトラインを作成する。
3	聴解練習①「バイオトイレ」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「バイオトイレ」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
4	聴解練習②「丁重語」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「丁重語」に関するミニ講義をメモを取りながら講義を聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
5	「丁重語」に関する口頭発表の準備／発表で用いる表現、特にメタ言語を学ぶ	第 4 回授業で作成したミニ講義「丁重語」のアウトラインに基づく口頭発表の準備行う。発表で用いる表現（特にメタ言語）を学ぶ。
6	口頭発表練習①「丁重語」に関するミニ発表を行う	「丁重語」に関する口頭発表を行う。
7	聴解練習③「フェアトレード」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「フェアトレード」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
8	口頭発表練習②「フェアトレード」に関するミニ発表を行う	第 7 回授業で作成したアウトラインに基づき、「フェアトレード」に関する口頭発表を行う。
9	聴解練習④「ガラスの天井」に関するミニ講義を聞く／アウトライン作成	「ガラスの天井」に関するミニ講義をメモを取りながら聞く課題を行い、内容のアウトラインを作成する。
10	口頭発表練習③「ガラスの天井」に関するミニ発表を行う	第 9 回授業で作成したアウトラインに基づき、「ガラスの天井」に関するミニ口頭発表を行う。
11	聴解小テスト	ミニ講義を聞き、アウトラインを作成する試験を行う。
12	自由発表①自国の教育をテーマに見に発表を行う	自国の教育に関するミニ発表を行う。
13	自由発表②自国の社会問題をテーマにミニ発表を行う	自国の社会が抱える問題についてミニ発表を行う。
14	期末発表（期末試験）	自由発表①か②からテーマを選択し、発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中にハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題： 50 %
聴解試験： 20 %
期末口頭発表： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.
Goal ： Improve listening comprehension, note-taking and presentation skills; the students are required to become able to make a small, but well-structured presentation at the end of the semester.
Work to be done outside of class: One hour
Grading criteria: Assignments(50%), Final exam of listening comprehension(20%), Final presentation(30%)

LANj100LA

日本語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

尾形　太郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学での講義、ゼミ、口頭発表などで必要なアカデミックスキルの養成を目的とし、主にインプット（読む・聴く）能力を高める。
また、読解を通して理解した内容について、口頭で説明するとともに、他者と意見を交換する。
今学期は、現代日本社会を分析する 2 つの文献を読む。

【到達目標】
(1) 大学生以上を想定して書かれた日本社会を分析する文章を読めるようになること
(2) 読解・講義を通して理解したことについて、自らの意見を述べること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1. 初回の授業で教材と併せて読解課題（教材の特定の部分に関する質問、教材の内容に関連したテーマについて調べる課題等）のリストを配布する
2. 学生は事前に指定された箇所を読み、課題を行ってくる
3. 授業では、学生は、教材の音読（漢字の読み方の確認を含む）、読解課題の解答の発表、議論を行う
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 教材 1（本田 2015）と教材 2（宇野 2011）を読むための背景知識を学ぶ	授業の目的、内容についての紹介
2	教材 1（本田 2015）の第 1 節の読解・検討	「〜にすぎず」「に達する」「際立って色濃い」等の表現の読み取り、「閉塞感」をキーワードにした段落の要約、「親世代と比較して、「地位上昇」を実感できないという現状と労働市場の劣悪化の関係の考察、「経済や雇用、賃金の面で閉塞を感じざるを得ない状況」、「1990 年代よりも前の時期」の日本社会状況やその特徴について検討。
3	教材 1（本田 2015）の第 2 節の読解・検討	「日本という社会の歴史的経緯の独特さ」を「近代」という言葉を使い説明する。 「合計特殊出生率」「一億総中流社会」「ジャパン・アズ・ナンバーワン」「日本型雇用慣行」について調べる。 「会社人間」「空洞化する『マイホーム』」が何を指すか考える。
4	教材 1（本田 2015）の第 3 節の読解・検討	著者のいう「戦後日本型循環モデル」という言葉を使って世代の「分断」について説明する。 「戦後日本型循環モデル破綻」が「1970 年代半ば以降に生まれた世代」に与えた影響を文脈に即し挙げる。 「この見田の認識は正しいのだろうか」（15 段落）：見田の認識に対する著者の考えを 15〜19 段落におけるデータの分析から考える。
5	教材 1（本田 2015）の第 4 節の読解・検討	「家事・育児・介護に差し支えない範囲で働く」、「女性が男性に対して経済的に従属する」ことは「大きな問題」、「「男は仕事」という従来からの役割を首尾よく果たせない男性」「従来からの性別役割分業意識が〜男性にとっても強い呪縛となって」「人材の「吸引力」を都市が発揮してしまっている」「社会内部の「否定」の総量が増えていく」等の文言が具体的に意味することを考える。
6	教材 1（本田 2015）の第 5 節・6 節の読解・検討、文章全体のまとめ	「こうした労働の性質が、「やりがい」や「夢」などの「ポエム」に結びつきやすい」のはなぜか、日本の「キャリア教育」の「矛盾」とはどのようなものか考える。 文章全体の内容を口頭で要約する。
7	教材 2（宇野 2011）の「はじめに」の読解・検討	「市民」（4 段落）の意味、「矛盾」（8 段落）の内実、「〈私〉が〈私〉であること」が「つらいこと」でもある（9 段落）のはなぜか考える。 「これまで人々を縛りつけてきた伝統の拘束や人間関係」（13 段落）の具体例を挙げる。 「近代（化）」にはどのような特徴があり、「デモクラシー」とどのように関わると著者は考えているのか検討する。
8	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 1 節の前半部（1〜8 頁）の読解・検討	「主流派の言語や文化」（3 段落）として、どのようなものが挙げられるか、著者がブレジンスキーの「グローバルな政治的覚醒」論とザカリアの「多数の台頭」説を紹介している意図は何か（なぜ紹介しているのか）考える。
9	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 1 節の後半部（9〜15 頁）の読解・検討	著者によるトクヴィルの「平等」概念の説明を、当時の時代状況から理解する。 なぜ著者は現代社会の分析にトクヴィルの「平等」概念と「想像力の変容」という考えを用いているのか考える。
10	教材 2（宇野 2011）の第 1 章第 2 節の前半部（16〜21 頁）の読解・検討	「閉じられた共同体的空間」「想像力」「階層に基づく不平等（の可視化）」といったキーワードに着目しつつ、戦後日本の教育分野における「平等」をめぐる議論を、著者はトクヴィルの平等論に依拠しながらどのように分析しているか考える。

11	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 2 節の後半部（21～28 頁）の読解・検討	「垂直的な格差を抑制する」「社会の特定部分への優遇に対する批判」「中間集団」「中間集団からはじき出された個人」の意味を具体例を挙げ考える。 「現代における不平等を自分一人で受け止めていくしかないのか」（30 段落）と考えてしまうのはなぜか、かつては、何が「平等の参照空間」（30 段落）として機能していたのか考える。
12	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 3 節の前半部（28～35 頁）の読解・検討	平等意識の変化と時間感覚の変化という観点から、日本社会における平等意識の変化について著者がどう分析している考える。 戦後日本における「不平等感の消失」効果について「持続する経済成長」と「代理としての子供」という考えとの関連から説明し、またトクヴィルの考えとの類似性を説明する。
13	教材２（宇野 2011）の第 1 章第 3 節の後半部（35～41 頁）の読解・検討	「団塊」「団塊の世代」「貧乏くじを引く（ひく）」という表現の意味を調べる。 年功賃金という「制度」、および近年におけるその機能不全が人々の平等意識にどのように影響しているのか、著者の主張を把握する。
14	期末試験	期末考査・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
適宜、事前に配布したテキストに関する事前課題または事後課題を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本社会の現状に概観を与える以下の文献を読む予定である。
本田由紀（2015）「分断」本田由紀編著『現代社会論 ―社会学で探る私たちの生き方』有斐閣
宇野重規（2011）『〈私〉時代のデモクラシー』岩波書店（第 1 章のみ）
受講生は文献を購入する必要はない。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
各回の課題 50 %、期末考査 50 %
欠席が 4 回以上の学生に対しては原則として成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味・関心を考慮した教材を用いる。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline (in English)】
The purpose of this course is to develop students' ability of reading and listening comprehension for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.
Goal ： (1)To improve reading comprehension skills so that students can read texts analyzing Japanese society written for university undergraduates and above. (2)To express your own opinion on what you understand through reading and lectures.
Work to be done outside of class (preparation, etc.) ： One hour
Grading criteria : Assignments(50%), Final examination(50%)

LANj100LA

日本語２Ｉ

2017 年度以降入学者

中沢　佐企子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】
書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1　テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
2　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
3　1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
4　次の授業で、返却された作文をグループでアドバイスし合い、書き直しをする。
5　最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス 言葉のドリル１	授業についての説明 文体・口語と文語の説明と練習
2 回	言葉のドリル２	主観表現と客観表現の区別と練習、簡潔に書く練習、原稿用紙の使い方の説明と練習
3 回	第１課　紹介文１（自分のことについて）	テキストを読み、１回目の紹介文１を授業で書く。序論・本論・結論の構成で書く。
4 回	第１課　紹介文１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
5 回	第２課　紹介文２（社会的なテーマについて）	テキストを読み、１回目の紹介文２を授業で書く。客観表現と主観表現の使い分けに注意して書く。
6 回	第２課　紹介文２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
7 回	第３課　賛成・反対の意見文１（身近なテーマについて）	テキストを読み、１回目の意見文１を授業で書く。「たしかに、～。しかし、～」の論理展開をする。
8 回	第３課　賛成・反対の意見文１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
9 回	第４課　賛成・反対の意見文２（社会的なテーマについて）	テキストを読み、１回目の意見文２を授業で書く。自分と反対の意見への対策や提案を考える。
10 回	第４課　賛成・反対の意見文２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
11 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用１	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べる。
12 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用２	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べる、立論を展開する。
13 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用３	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べ、展開した立論を書く。
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳　第 2 版』国書刊行会
必ず 2021 年に出版された第 2 版を買うこと。

【参考書】
授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題（作文）80 %
平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %
※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする
(1) 欠席回数が 4 回以下であること
(2) 授業で課題を提出していること（遅れて提出した場合は－30 %）
(3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】
対面授業ができるようになったため、1 回目の作文を手書きで課題を提出してもらったが、オンライン授業の影響か、手間取る学生が多く、また間違いも目立った。留学生が日本語で決められた時間内に書けるようになることは今後の大学での勉強で必須事項なので、更に工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
・出席を重視する。
・プリントは一人一回しか配布しない。
・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
・Students will develop their academic skills of outputting what they have learned through writing exercises. They will be able to write reports with proper expressions as a university student.
・Through writing practice, students will be able to write sentences as a
a college student. They pay attention not only to the vocabulary and grammar but also to the structure and the development of their view and are able to write sentences that are easy for the reader to understand.
・The standard time for class preparation and review is 1 hour in total.
・Grading criteria: Assignment (composition) 80%
Normal score (including class participation, discussions and presentations) 20%
*Those that meet all of the following conditions will be evaluated.
(1) The number of absences must be 4 or less
(2) Submission of assignments in class (-30% if submitted late)
(3) Presenting in the last class

LANj100LA

日本語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

中沢　佐企子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。春学期より長い文章を書く練習を行う。

【到達目標】
書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章がかけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1　テキストの基本事項の確認をする。
2　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
3　1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
4　次の授業で、返却された作文をグループでアドバイスし合い、書き直しをする。
5　最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	第５課　before/after の文章１（～になる・～をする前と後）	テキストを読み、１回目の before/after の文章を書く。自分の変化を伝える。
2 回	第５課　before/after の文章１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
3 回	第６課　before/after の文章２（～になる・～ができる前と後）	テキストを読み、１回目の before/after の文章２を書く。資料を調べ、社会の変化について書く。
4 回	第６課　before/after の文章２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
5 回	第７課　対立項と時間軸のある文章	テキストを読み、１回目の対立項と時間軸のある文章を書く。グラフや資料を参考に、社会の変化を考察する。
6 回	第７課　対立項と時間軸のある文章（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
7 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編１	テキストを読み、レポートの基本を確認する。グループワークを行う。グループで話し合い、テーマを決め、資料を探す。
8 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編２	グループワークを行う。グループで決めたテーマについて資料を探す。全体の構成を考える。
9 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編３	グループワークを行う。グループで決めたテーマについてメンバーそれぞれが自分の考察を考え、レポートを書く。
10 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編４（書き直し）	返却されたレポートを直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
11 回	敬語のドリル	敬語についてテキストを読み、練習問題を通して注意点の確認をする。
12 回	敬語の実践練習	目上の人へのメールや手紙を通して敬語の実践練習を行う。また、基本的な手紙の書き方を学ぶ。
13 回	敬語の実践練習（書き直し）	返却されたメールや手紙を直す。グループでお互いの文章についてアドバイスをし合い、書き直す。
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
間違いが多い学生は、語彙・文法などの復習をする。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳　第 2 版』国書刊行会
必ず 2021 年に出版された「第２版」を購入すること。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題（作文）80 %
平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %
※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする
(1) 欠席回数が４回以下であること
(2) 授業で課題を提出していること（遅れて提出した場合は－30 %）
(3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】
1 回目の手書きの作文では、春学期と同様に、手間取る学生が多く、また間違いも目立った。書き直しでは、春学期より短時間で直せる学生が増えた。しかし、時間がかかるだけでなく、間違いがあまり減らない学生も数名いた。本人の学習意欲と関係があるとは思うが、留学生が日本語で決められた時間内に書けるようになることは今後の大学での勉強で必須事項なので、更に工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
・出席を重視する。
・プリントは一人一回しか配布しない。
・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
・平常点では、授業中の発表を評価する。また、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
・Students will develop their academic skills of outputting what they have learned through writing exercises. They will be able to write reports with proper expressions as a university student. Students will practice writing longer sentences than in the spring semester.
・Through writing practice, students will be able to write sentences as a college student. They pay attention not only to the vocabulary and grammar but also to the structure and the development of their view and are able to write sentences that are easy for the reader to understand.
・The standard time for class preparation and review is 1 hour in total.
・・Grading criteria: Assignment (composition) 80%
Normal score (including class participation, discussion and presentations) 20%
*Those that meet all of the following conditions will be evaluated.
(1) The number of absences must be 4 or less

(2) Submission of assignments in class (-30% if submitted late)
(3) Presenting in the last class

LANj100LA

日本語２Ｉ

2017 年度以降入学者

中沢　佐企子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】
書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1　テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
2　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
3　1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
4　次の授業で、返却された作文をグループでアドバイスし合い、書き直しをする。
5　最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス 言葉のドリル１	授業についての説明 文体・口語と文語の説明と練習
2 回	言葉のドリル２	主観表現と客観表現の区別と練習、簡潔に書く練習、原稿用紙の使い方の説明と練習
3 回	第１課　紹介文１（自分のことについて）	テキストを読み、１回目の紹介文１を授業で書く。序論・本論・結論の構成で書く。
4 回	第１課　紹介文１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
5 回	第２課　紹介文２（社会的なテーマについて）	テキストを読み、１回目の紹介文２を授業で書く。客観表現と主観表現の使い分けに注意して書く。
6 回	第２課　紹介文２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
7 回	第３課　賛成・反対の意見文１（身近なテーマについて）	テキストを読み、１回目の意見文１を授業で書く。「たしかに、～。しかし、～」の論理展開をする。
8 回	第３課　賛成・反対の意見文１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
9 回	第４課　賛成・反対の意見文２（社会的なテーマについて）	テキストを読み、１回目の意見文２を授業で書く。自分と反対の意見への対策や提案を考える。
10 回	第４課　賛成・反対の意見文２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
11 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用１	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べる。
12 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用２	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べる、立論を展開する。
13 回	第４課　賛成・反対の意見文の応用３	賛成・反対の意見文をさらに発展させるために、グループワークを行う。ディスカッションをし、資料を調べ、展開した立論を書く。
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳　第 2 版』国書刊行会
必ず 2021 年に出版された第 2 版を買うこと。

【参考書】
授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題（作文）80 %
平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %
※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする
(1) 欠席回数が 4 回以下であること
(2) 授業で課題を提出していること（遅れて提出した場合は－30 %）
(3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】
対面授業ができるようになったため、1 回目の作文を手書きで課題を提出してもらったが、オンライン授業の影響か、手間取る学生が多く、また間違いも目立った。留学生が日本語で決められた時間内に書けるようになることは今後の大学での勉強で必須事項なので、更に工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
・出席を重視する。
・プリントは一人一回しか配布しない。
・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
・Students will develop their academic skills of outputting what they have learned through writing exercises. They will be able to write reports with proper expressions as a university student.
・Through writing practice, students will be able to write sentences as a
a college student. They pay attention not only to the vocabulary and grammar but also to the structure and the development of their view and are able to write sentences that are easy for the reader to understand.
・The standard time for class preparation and review is 1 hour in total.
・Grading criteria: Assignment (composition) 80%
Normal score (including class participation, discussions and presentations) 20%
*Those that meet all of the following conditions will be evaluated.
(1) The number of absences must be 4 or less
(2) Submission of assignments in class (-30% if submitted late)
(3) Presenting in the last class

LANj100LA

日本語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

中沢　佐企子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。春学期より長い文章を書く練習を行う。

【到達目標】
書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章がかけるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1　テキストの基本事項の確認をする。
2　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
3　1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
4　次の授業で、返却された作文をグループでアドバイスし合い、書き直しをする。
5　最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	第５課　before/after の文章１（～になる・～をする前と後）	テキストを読み、１回目の before/after の文章を書く。自分の変化を伝える。
2 回	第５課　before/after の文章１（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
3 回	第６課　before/after の文章２（～になる・～ができる前と後）	テキストを読み、１回目の before/after の文章２を書く。資料を調べ、社会の変化について書く。
4 回	第６課　before/after の文章２（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
5 回	第７課　対立項と時間軸のある文章	テキストを読み、１回目の対立項と時間軸のある文章を書く。グラフや資料を参考に、社会の変化を考察する。
6 回	第７課　対立項と時間軸のある文章（書き直し）	返却された１回目の作文を直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
7 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編１	テキストを読み、レポートの基本を確認する。グループワークを行う。グループで話し合い、テーマを決め、資料を探す。
8 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編２	グループワークを行う。グループで決めたテーマについて資料を探す。全体の構成を考える。
9 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編３	グループワークを行う。グループで決めたテーマについてメンバーそれぞれが自分の考察を考え、レポートを書く。
10 回	第８課　レポート before/after の文章の応用編４（書き直し）	返却されたレポートを直す。グループでお互いの作文についてアドバイスをし合い、書き直す。
11 回	敬語のドリル	敬語についてテキストを読み、練習問題を通して注意点の確認をする。
12 回	敬語の実践練習	目上の人へのメールや手紙を通して敬語の実践練習を行う。また、基本的な手紙の書き方を学ぶ。
13 回	敬語の実践練習（書き直し）	返却されたメールや手紙を直す。グループでお互いの文章についてアドバイスをし合い、書き直す。
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
間違いが多い学生は、語彙・文法などの復習をする。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳　第 2 版』国書刊行会
必ず 2021 年に出版された「第２版」を購入すること。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題（作文）80 %
平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %
※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする
(1) 欠席回数が４回以下であること
(2) 授業で課題を提出していること（遅れて提出した場合は－30 %）
(3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】
1 回目の手書きの作文では、春学期と同様に、手間取る学生が多く、また間違いも目立った。書き直しでは、春学期より短時間で直せる学生が増えた。しかし、時間がかかるだけでなく、間違いがあまり減らない学生も数名いた。本人の学習意欲と関係があるとは思うが、留学生が日本語で決められた時間内に書けるようになることは今後の大学での勉強で必須事項なので、更に工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
・出席を重視する。
・プリントは一人一回しか配布しない。
・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
・平常点では、授業中の発表を評価する。また、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
・Students will develop their academic skills of outputting what they have learned through writing exercises. They will be able to write reports with proper expressions as a university student. Students will practice writing longer sentences than in the spring semester.
・Through writing practice, students will be able to write sentences as a college student. They pay attention not only to the vocabulary and grammar but also to the structure and the development of their view and are able to write sentences that are easy for the reader to understand.
・The standard time for class preparation and review is 1 hour in total.
・・Grading criteria: Assignment (composition) 80%
Normal score (including class participation, discussion and presentations) 20%
*Those that meet all of the following conditions will be evaluated.
(1) The number of absences must be 4 or less

(2) Submission of assignments in class (-30% if submitted late)
(3) Presenting in the last class

LANj100LA

日本語２Ｉ

2017 年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に，主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために，特に「作文」という表現手段を利用し，大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】
1. 書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。
2. 使用する語彙・文法のみならず，全体の構成や論の展開などについても気を配り，読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１　テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
２　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
３　1 回目の作文を書き，提出する。作文は手書きで書き，授業時間内に提出する。
４　次の授業で，1 回目の作文を返却・フィードバックし，書き直しをする。
５　最後の授業では，今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 4 回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・首尾一貫した文
第 5 回	句読点や各種記号の使い方	・句読点と記号 ・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	引用の仕方	・引用文 ・パラフレーズ
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする
第 13 回	因果関係	原因・理由と結果の表現
第 14 回	期末試験	学習した表記、文法、語彙の復習と小作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は，語彙・文法などの復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は，合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
二通信子・佐藤不二子 (2020)『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
★上記教科書は，2003 初版から大きく改訂されているので，必ず「新訂版」を購入すること。

【参考書】
石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク
小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版
鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
友松悦子『中級日本語学習者対象　小論文への１２のステップ』スリーエーネットワーク

【成績評価の方法と基準】
課題　：30%
平常点　：20%
期末試験：50%で評価する
・授業を 4 回以上欠席すると，期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・ＰＣ，ノートパソコン，タブレット，スマートホンなど，またウェブカメラ，マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス（カメラ付きＰＣが好ましい）。

【その他の重要事項】
・平常点では，授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' ability in the output of information, mainly through the practice of written expression. In order to train writing skills, we will especially use composition as a means of expression to develop academic skills for university.【Learning Objectives】
1. Through writing practice, students will be able to write sentences that are typical of university students.
2. Students will be able to write sentences that are easy for readers to understand by paying attention not only to the vocabulary and grammar used, but also to the overall structure and development of the argument.
【Learning activities outside of classroom】
Students who are not able to use basic items such as language drills correctly will be required to review vocabulary and grammar. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%
If you miss more than four classes, you will lose the qualification to take the final exam.

LANj100LA

日本語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

副島　健作

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章表現練習を中心に，主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために，特に「作文」という表現手段を利用し，大学におけるアカデミック・スキルを養う。前半はレポートの作成練習，後半は様々な実用的なテーマに沿って，簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

【到達目標】
1. 書く練習を通して，大学生らしい文章が書けるようになる。
2. 使用する語彙・文法のみならず，全体の構成や論の展開などについても気を配り，読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１　テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
２　書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
３　１回目の作文を書き，提出する。作文は手書きで書き，授業時間内に提出する。
４　次の授業で，１回目の作文を返却・フィードバックし，書き直しをする。
５　最後の授業では，今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	意見と根拠①	・効果的な意見の述べ方 ・意見表明の文末表現
第 2 回	意見と根拠②	・事実と意見のかき分け ・レポート論文における事実文、意見文、行動文の使い方の確認
第 3 回	資料の利用①	・資料の探し方と選別、利用のしかた
第 4 回	資料の利用②	・引用文の復習 ・参考文献の書き方
第 5 回	レポートの作成①	・レポートの構成と作成のプロセス
第 6 回	レポートの作成②	・レポートのドラフト作成
第 7 回	メールの書き方 お知らせのメール	（★レポート提出） ・同窓会への招待 ・長期欠席の通知　など
第 8 回	問い合わせのメール	・活動内容の問い合わせ ・資料請求　など
第 9 回	お願いのメール	・本の貸し出し依頼 ・期限の延期願い ・アドバイスを求める ・資料提供を求める　など
第 10 回	掲示板やメーリングリストを使う	・使い方と、トラブル回避の方法
第 11 回	自己アピールをする	・奨学金などへの応募
第 12 回	日本語力向上に役に立つ日本語素材についての発表 1	受講生がクラスメイトに役に立つと思う日本語素材について，使い方や良さを分かりやすく説明する。
第 13 回	日本語力向上に役に立つ日本語素材についての発表 2	受講生がクラスメイトに役に立つと思う日本語素材について，使い方や良さを分かりやすく説明する。
第 14 回	期末試験	学習した表記、文法、語彙の復習と小作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は，語彙・文法などの復習をする。
　本授業の準備学習・復習時間は，合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特にテキストは指定しません。

【参考書】
二通信子・佐藤不二子『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク
野田尚史・森口稔　『日本語を書くトレーニング』　ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
課題　：30%
平常点　：20%
期末試験：50%で評価する
・授業を 4 回以上欠席すると，期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・ＰＣ，ノートパソコン，タブレット，スマートホンなど，またウェブカメラ，マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス。（カメラ付きＰＣが好ましい）

【その他の重要事項】
・平常点では，授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course aims to develop students' ability in the output of information, mainly through the practice of written expression. In order to practice writing skills, we will especially use the means of expression "composition" to develop academic skills for university. In the first half of the course, students will practice writing reports, and in the second half, they will learn how to write concise and appropriate sentences on a variety of practical topics.
【Learning Objectives】
1. Through writing practice, students will be able to write sentences that are typical of university students.
2. Students will be able to write sentences that are easy for readers to understand by paying attention not only to the vocabulary and grammar used, but also to the overall structure and development of the argument.
【Learning activities outside of classroom】
Students who are not able to use basic items such as language drills correctly will be required to review vocabulary and grammar. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%
If you miss more than four classes, you will lose the qualification to take the final exam.

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長澤　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本（主）とします。初回だけではなく、授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。
授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベート
2	発音	ドイツ語の発音ルール
3	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
4	第 1 章 (2)	動詞の位置
5	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の１格・４格
6	第 2 章 (2)	所有冠詞
7	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
8	第 3 章 (2)	名詞の複数形
9	第 4 章 (1)	名詞の３格
10	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
11	第 5 章 (1)	人称代名詞の３・４格
12	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
13	第 6 章 (1)	話法の助動詞
14	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間　ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：２６００円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）
『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】
テキストは必ず初回の授業の時までに用意して下さい。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.
Learning Objectives
Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

長澤　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本（主）とします。授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。
授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 6 章 (2)	命令形
2	第 7 章 (1)	3・4 格支配の前置詞
3	第 7 章 (2)	並列接続詞
4	第 8 章 (1)	現在完了形
5	第 8 章 (2)	過去形
6	第 9 章 (1)	定冠詞類
7	第 9 章 (2)	副文
8	第 10 章 (1)	比較級と最上級
9	第 10 章 (2)	再帰代名詞と再帰動詞
10	第 11 章 (1)	形容詞の格変化
11	第 11 章 (2)	天候の表現（es の用法）
12	第 12 章 (1)	接続法第 2 式
13	第 12 章 (2)	zu 不定詞句
14	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間　ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：２６００円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）
『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】
テキストは必ず初回の授業の時までに用意して下さい。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.
Learning Objectives
Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。
この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、高校までにならった英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】
今学期の授業では、
・ドイツ語の発音の基礎
・規則動詞および不規則動詞の人称変化
・名詞の格および冠詞
・人称代名詞
・前置詞
・話法の助動詞および未来・推量の助動詞
について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行います。
授業内で課題を解きます。またノートや練習問題の解答を提出することを平常点評価のために求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットおよびドイツ語の発音	ドイツ語のアルファベットおよび母音の発音練習
2	ドイツ語の発音および人称代名詞と動詞の現在人称変化の解説	ドイツ語の子音の発音練習 人称代名詞の 1 格の導入 動詞の現在人称変化についての解説
3	人称代名詞と動詞の現在人称変化の問題演習	人称代名詞の 1 格および動詞の現在人称変化についての練習問題を解く 練習問題について解説
4	名詞の性と格の解説	名詞の性と格の概念を解説 定冠詞と不定冠詞の格変化の解説
5	名詞の性と格の解説および問題演習	複数形の解説 名詞の格および性についての練習問題を解く 練習問題について解説
6	不規則変化動詞の現在人称変化	不規則変化動詞の現在人称変化の解説と問題演習
7	前置詞の解説	3 格支配の前置詞の解説 4 格支配の前置詞の解説
8	前置詞の解説と問題演習	3・4 格支配の前置詞について解説 前置詞についての練習問題を解く 練習問題について解説する
9	定冠詞類と不定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類について解説
10	定冠詞類と不定冠詞類の改札と問題演習	定冠詞類と不定冠詞類について解説 定冠詞類と不定冠詞類についての練習問題を解く 練習問題について解説する 練習問題の解説
11	人称代名詞の解説と問題演習	人称代名詞についての解説 人称代名詞について練習問題を解く 練習問題の解説
12	話法の助動詞の解説	話法の助動詞についての解説
13	未来・推量の助動詞の解説と問題演習	未来・推量の助動詞についての解説 話法の助動詞と未来・推量の助動詞の練習問題を解く 練習問題の解説
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題となる課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】
櫻井麻美
『アイレ・ミット・ヴァイレ：会話ではじめるドイツ語文法』
（三修社、2023 年）

【参考書】
独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題の提出および授業内での質問やコメントなどの積極的参加具合）:50%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器は、オンライン授業になる可能性がありますので準備しておいてください。Zoom のインストールをお願いします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students shall learn pronunciation and the basic grammar of the German language.
【Learning Objectives】
Students shall master the basic grammar in German.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 1 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + final exam (50%)

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。
この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、高校までにならった英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】
今学期の授業では、
・分離動詞・非分離動詞
・接続詞
・過去形
・受動態
・再帰代名詞・再帰動詞
・zu 不定詞
・形容詞の格変化と比較表現
・関係代名詞・関係副詞
・命令形
・接続法
について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行います。
授業内で課題を解きます。またノートや練習問題の解答を提出することを平常点評価のために求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分離動詞・非分離動詞の解説	分離動詞・非分離動詞を解説する
2	接続詞の解説および問題演習	接続詞を解説する 分離動詞・非分離動詞、接続詞の練習問題を解く 練習問題を解説する
3	動詞の 3 基本形の解説	動詞の 3 基本形の解説
4	現在完了の解説および問題演習	現在完了を解説する 動詞の 3 基本形、現在完了の練習問題を解く 練習問題を解説する
5	過去形と受動態の解説	過去形を解説する
6	受動態の解説と問題演習	受動態を解説する 過去形と受動態の練習問題を解く 練習問題を解説する
7	再帰代名詞・再帰動詞の解説	再帰代名詞・再帰動詞を解説する
8	zu 不定詞の解説と問題演習	zu 不定詞を解説する 再帰代名詞・再帰動詞、zu 不定詞の練習問題を解く 練習問題を解説する
9	形容詞の核変化の解説	形容詞の格変化を解説する
10	比較表現の解説と問題演習	比較表現の解説をする 形容詞の格変化、比較表現の練習問題を解く 練習問題を解説する
11	関係代名詞・関係副詞の解説	関係代名詞および関係副詞を解説する
12	命令形の解説と問題演習	動詞の命令形を解説する 関係代名詞・関係副詞、命令形の練習問題を解く 練習問題を解説する
13	接続第 2 式の解説と問題演習	接続法第 2 式を解説し練習問題を解く 練習問題を解説する
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題となる課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】
櫻井麻美
『アイレ・ミット・ヴァイレ：会話ではじめるドイツ語文法』
（三修社、2023 年）

【参考書】
独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題の提出および授業内での質問やコメントなどの積極的参加具合）:50%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器は、オンライン授業になる可能性がありますので準備しておいてください。Zoom のインストールをお願いします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students shall learn pronunciation and the basic grammar of the German language.
【Learning Objectives】
Students shall master the basic grammar in German.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 1 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + final exam (50%)

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の目的は、ドイツ語のごく基礎的な文法・表現を学ぶことにあります。教科書の前半の内容に基づき、発音の規則、動詞の変化、冠詞、前置詞などについて、基本的な知識を身に付けることを目指します。

【到達目標】
（A）ドイツ語を正しく発音できる。
（B）ドイツ語のごく基礎的な文法事項を理解できる。
（C）ドイツ語のごく基礎的な文法事項を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　教科書に基づいて進めます。まずは文法事項を説明し、それから練習問題を解いて学習事項を定着していきます。受講者には、発音や文法事項の確認、グループワークをしてもらうため、積極的な参加を望みます。
　学期の途中で、理解度の確認のための中間試験を行います。中間試験後、次回の授業時に解説を加えたフィードバックを行います。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、ドイツ語の発音	授業の進め方や方法の確認 ドイツ語の発音 (1)
第 2 回	Lektion 1 (1)	ドイツ語の発音 (2) 人称代名詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion 1 (2) Lektion 2 (1)	文の構成 sein の現在人称変化 名詞の性と格
第 4 回	Lektion 2 (2)	複数形 冠詞 haben と werden の変化
第 5 回	Lektion 3 (1)	所有冠詞 否定冠詞
第 6 回	Lektion 3 (2) 中間試験の準備	人称代名詞の格変化 中間試験に関する事前説明など
第 7 回	中間試験	試験による学習事項の理解度確認
第 8 回	中間試験の返却 Lektion 4 (1)	中間試験の返却と解説 さまざまな前置詞
第 9 回	Lektion 4 (2) Lektion 5 (1)	非人称の es 動詞の 3 基本形
第 10 回	Lektion 5 (2)	動詞の過去人称変化
第 11 回	Lektion 6 (1)	現在完了形 接続詞
第 12 回	Lektion 6 (2) 期末試験の準備	zu 不定詞 期末試験に関する事前説明など
第 13 回	期末試験	試験による学習事項の理解度確認
第 14 回	期末試験の返却 春学期のまとめ	期末試験の返却と解説 春学期の学習事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。学習事項の定着のため、その都度、宿題や予習を指示します。

【テキスト（教科書）】
『ブリュッケ　初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』朝日出版社。

【参考書】
第 2 回目の授業までに独和辞典を用意してください。辞典については、第一回目の授業でもお話しするので、準備はその後でも構いません。
その他、『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社など。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（予習、授業への取り組み、中間試験の結果などの総合評価）50 %、期末試験 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者ができるだけ積極的に参加できるよう、適宜グループワークの時間をとりたいと思います。
・わかりにくい事項やドイツに関するトピックについて、参考書などを紹介しながら丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of German grammar and expression.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) pronounce German words, (B) understand the basic grammar of German language, and (C) use it practically.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and term-end examination (50%).

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉田　敬介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の目的は、既習事項を踏まえ、さらにドイツ語の基礎的な文法・表現を学ぶことにあります。教科書の後半の内容に基づき、動詞・助動詞の様々な形や用法、様々な代名詞、形容詞の比較級や最上級などについて、基本的な知識を身に付けることを目指します。

【到達目標】
（A）ドイツ語の基礎的な文法事項を身に付けることができる。
（B）簡単なドイツ語の文章・会話を理解することができる。
（C）学習事項を応用してドイツ語で自分のことを表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　教科書に基づいて進めます。まずは文法事項を説明し、それから練習問題を解いて学習事項を定着していきます。受講者には、発音や文法事項の確認、グループワークをしてもらうため、積極的な参加を望みます。
　学期の途中で、理解度の確認のための中間試験を行います。中間試験後、次回の授業時に解説を加えたフィードバックを行います。
　なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や方法の確認
	既習事項の復習	教科書 Lektion1～6 の既習事項の復習
第 2 回	Lektion 7 (1)	話法の助動詞の現在人称変化 構文
第 3 回	Lektion 7 (2)	話法の助動詞の主な意味
	Lektion 8 (1)	未来形 分離動詞と非分離動詞
第 4 回	Lektion 8 (2)	受動文
第 5 回	Lektion 9 (1)	動詞の現在人称変化（不規則変化）
第 6 回	Lektion 9 (2)	命令形
	中間試験の準備	中間試験に関する事前説明など
第 7 回	中間試験	試験による学習事項の理解度確認
第 8 回	中間試験の返却	中間試験の返却と解説
	Lektion 10 (1)	接続法 接続法 2 式の人称変化
第 9 回	Lektion 10 (2)	接続法 2 式の用法（現在形）
	Lektion 11 (1)	再帰代名詞の人称変化 再帰動詞
第 10 回	Lektion 11 (2)	形容詞の比較級と最上級の形態 比較級と最上級の用法
第 11 回	Lektion 12 (1)	関係代名詞の形と用法
第 12 回	Lektion 12 (2)	不定関係代名詞 wer, was
	期末試験の準備	期末試験に関する事前説明など
第 13 回	期末試験	試験による学習事項の理解度確認
第 14 回	期末試験の返却	期末試験の返却と解説
	秋学期のまとめ	春学期の学習事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。学習事項の定着のため、その都度、宿題や予習を指示します。

【テキスト（教科書）】
『ブリュッケ　初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』朝日出版社。

【参考書】
独和辞典を必ず用意しておいてください。
その他、『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社など。

【成績評価の方法と基準】
成績配分は、平常点（予習、授業への取り組み、中間試験の結果などの総合評価）50 %、期末試験 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
・受講者ができるだけ積極的に参加できるよう、適宜グループワークの時間をとりたいと思います。
・わかりにくい事項やドイツに関するトピックについて、参考書などを紹介しながら丁寧に説明するよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業の場合に必要となるため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】
Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of German grammar and expression.
Learning Objectives: The goals of this course are to (A) acquire basic knowledge of German grammar, (B) understand basic sentences in German, and (C) express oneself in German.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and term-end examination (50%).

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として教科書にそって進めます。原則としてひとつの課を 2 週かけて学びます。あらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題を通じて理解度の向上を図ります。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden ／並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化（III）／命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』第 5 版、郁文堂、2022 年。

【参考書】
辞書については授業時にお話します。紙の辞書を推奨します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 %
授業への積極的な参加・予習の具合： 40 %
以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では前期に引き続きドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として教科書にそって進めます。原則としてひとつの課を 2 週かけて学びます。あらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題を通じて理解度の向上を図ります。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期の復習
第 2 回	Lektion 7	話法の助動詞・未来形
第 3 回	Lektion 7	復習と練習問題／読解
第 4 回	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞
第 5 回	Lektion 8	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 9	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞・従属の接続詞
第 7 回	Lektion 9	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 10	動詞の 3 基本形（I）・過去形・現在完了形
第 9 回	Lektion 10	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion 11	動詞の 3 基本形（II）・受動態
第 11 回	Lektion 11	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞
第 13 回	Lektion 12	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』第 5 版、郁文堂、2022 年。

【参考書】
辞書については授業時にお話します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 %
授業への積極的な参加・予習の具合： 40 %
以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
表現―文法の基礎
対話形式のテキストを用いて、活きたドイツ語の表現を学ぶとともに、基礎的な文法を習得することを目指します。
また、ドイツの旬な情報や日常を紹介しながら、ドイツの文化について触れます。

【到達目標】
簡単な文章が読めるようになります。
基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業についての説明・オリエンテーション Einführung	
②	Lektion 1 人と知り合う－１ Kontakte 1 挨拶、発音	挨拶 発音 住所、出身についての会話
③	Lektion 1 人と知り合う－１ Kontakte 1 簡単な自己紹介	自己紹介の練習 規則動詞の人称変化、疑問文
④	Lektion 2 人と知り合う－２ Kontakte 2 自己紹介	自己紹介の練習 名詞の性、定冠詞、所有冠詞
⑤	Lektion 2 人と知り合う－２ Kontakte 2 数	電話番号 1000 までの数
⑥	Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprache	不規則変化動詞の人称変化、語順、
⑦	総復習 Lektion 4 趣味 Hobbys 好きなこと	総復習 趣味についての語彙
⑧	Lektion 4 趣味 Hobbys 嫌いなこと	趣味についての会話の練習 否定文
⑨	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 好物	食べ物・飲み物についての語彙、簡単な会話 並列接続詞
⑩	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 一日の食事	食べ物・飲み物についての会話 前置詞 mit,ohne
⑪	Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe	家族と職業について 複数形、形容詞
⑫	Lektion 7 持ち物 Gegenstände	持ち物について 代名詞の格変化、形容詞
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	語彙・文法・会話の総復習
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子　「スツェーネン１」「場面で学ぶドイツ語」ワークブック付き
三修社
ISBN 978-4-384-12245-9
他、別途配布資料

【参考書】
独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】
以下の割合を目安として総合的に評価する
小テスト　７０％
平常点（授業参加度、宿題）　３０％

【学生の意見等からの気づき】
教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【Outline (in English)】
Course outline:
German language course for beginner (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture)
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to read simple sentences and to understand basic grammar and colloquial expressions.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.
Grading Criteria /Policy:
Short tests: 70%, homework & in-class contribution 30%.

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ドイツ語の基本知識を学習します。秋学期は、簡単な文章が読める程度の文法知識の習得を目指します。

【到達目標】
簡単な文章が読めるようになります。
基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	復習	春学期の復習 Wiederholung
②	Lektion 8 住居 Wohnen 部屋・家具	住居についての語彙・簡単な会話 前置詞 auf, in, unter など
③	Lektion 8 住居 Wohnen 学生寮・一人暮らしなど	住居についての会話 所有冠詞
④	Lektion 9 時刻 Uhrzeit	時刻の言い方 日程についての簡単な会話 前置詞、分離動詞
⑤	Lektion 9 日付 Datum Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	日付の言い方 前置詞、分離動詞 過去についての会話の入門 現在完了形、過去形
⑥	Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	過去についての会話 現在完了形、過去形
⑦	Lektion 11 街 Stadt	街についての語彙 道を尋ねる 命令形、前置詞
⑧	Lektion 11 大学 Universität 復習 Wiederholung	大学についての語彙・簡単な話 命令形、前置詞 復習
⑨	Lektion 12 休暇の前 Vor der Ferien 話法の助動詞の説明・練習	予定についての会話 話法の助動詞 wollen, können, möchten
⑩	話法の助動詞の説明・練習	話法の助動詞 dürfen, sollen, müssen
⑪	話法の助動詞の過去形	話法の助動詞の復習 話法の助動詞の過去形の練習
⑫	纏め・復習	一年間のドイツ語の纏めや復習
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	一年間のドイツ語の纏めや復習 総復習および予備日
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤修子　「スツェーネン１」「場面で学ぶドイツ語」ワークブック付き
三修社
ISBN 978-4-384-12245-9
他、別途配布資料

【参考書】
独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】
以下の割合を目安として総合的に評価する
小テスト　７０％
平常点（授業参加度、宿題）　３０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度に順じてプログラムを変更することもあります

【Outline (in English)】
Course outline:
German language course for beginner (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture)
Learning Objectives:
By the end of the course, students should be able to read simple sentences and to understand basic grammar and colloquial expressions.
Learning activities outside of classroom:
Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.
Grading Criteria /Policy:
Short tests: 70%, homework & in-class contribution 30%.

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

外山　知子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として教科書にそって進めます。ひとつの課を 2 週かけて学びます。文法を解説したのち、練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。授業内と授業外の課題が出されることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden ／並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化（III）／命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大薗正彦著　朝日出版社
2014 年 2400 円

【参考書】
辞書については授業時にお話します。紙の辞書を推奨します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 70 %
授業への積極的な参加・予習の具合： 30 %
以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Zoom ができる機器（なるべく画面が大きいものがよいが、なければスマートフォンでもよい。WiFi とつながるもの）。周囲がうるさければヘッドセット。

【その他の重要事項】
公欠届、診断書などはきちんと出しなさい。コロナに関しては大学の指示に従うこと。
教科書と電波の通じない独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない。スマートフォンを授業中に見ないこと）を毎回手元に置き、使用すること。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の速度によって少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけていてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由と見なされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

外山　知子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】
動詞と助動詞の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」を見てください。
再帰代名詞、再帰動詞から接続法までの文法を習得します。授業の最初に最新のドイツ事情、ドイツの生活習慣などを紹介します。
学習支援システムも連絡や資料アップや課題提出などに使用するので、メールでチェックできるようにして、メールが届くたびにすぐに見てください。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
下の「その他の重要事項」も必ず早めに読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだことを復習する 教科書と辞書を手元に置くこと
2	6 課：形容詞の格変化	形容詞の格変化について学ぶ
3	形容詞の比較変化	形容詞の比較変化について学ぶ
4	第 7 課：分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ
5	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ
6	第 8 課：話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ
7	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden,lassen について学ぶ
8	第 9 課：過去形	動詞の３基本形、過去形について学ぶ
9	現在完了形	現在完了形について学ぶ
10	第 10 課：受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ
11	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ
12	第１１課：関係文 関係副詞、指示代名詞	定関係代名詞、関係文、不定関係代名詞について学ぶ 関係副詞、指示代名詞について学ぶ
13	第１２課：接続法	接続法の変化、接続法第 1 式について学ぶ
14	接続法第 2 式 総復習	接続法第 2 式について学ぶ 秋学期に学んだことが身につくような復習と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】
『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大薗正彦著　朝日出版社 2014 年　2400 円

【参考書】
『ドイツ文法の要点』本郷健治著　三修社

【成績評価の方法と基準】
出席は原則として 3 分の 2 以上を必要とする。配慮される場合については [その他の重要事項] を参照のこと。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30 %の割合で総合評価する。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】
好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom ができる機器（なるべく画面が大きいものがよいが、なければスマートフォンでもよい。WiFi とつながるもの）。周囲がうるさければヘッドセット。

【その他の重要事項】
春学期と基本的に同じ。
秋から履修する人は教科書を準備しておくこと。
毎回教科書と電波の通じない独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を手元に置き、使用すること。
公欠届、診断書などはきちんと出しなさい。コロナに関しては大学の指示に従うこと。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけていてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire the basic grammar.
The goal is for students to master the basic grammar.
Before each class meeting, students will be expected to have read the nest chapter from the text.　30 minutes.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. 30 minutes.
Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

小野間　亮子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。
辞書を用いて平易なドイツ語のテクストが読める力を養成する。

【到達目標】
初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を用いて平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。
また、平易なドイツ語の会話を読み、語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・会話テクストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	ドイツ語のアルファベットと発音を学ぶ
第 2 回	Lektion 1 動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化を学ぶ
第 3 回	Lektion 1 出会いと自己紹介	自己紹介の会話文を読む
第 4 回	Lektion 2 名詞の性と格/冠詞の格変化	名詞の性と格変化・冠詞の格変化を学ぶ
第 5 回	Lektion 2 家族について尋ねる	家族について尋ねる会話文を読む
第 6 回	Lektion 3 不規則変化動詞/人称代名詞	不規則変化動詞と人称代名詞について学ぶ
第 7 回	Lektion 3 明日の予定を尋ねる	明日の予定を尋ねる会話文を読む
第 8 回	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類について学ぶ
第 9 回	Lektion 4 買い物に出かける	買い物に関する会話文を読む
第 10 回	Lektion 5 前置詞の格支配	前置詞の格支配について学ぶ
第 11 回	Lektion 5 週末の予定を尋ねる	週末の予定を尋ねる会話文を読む
第 12 回	Lektion 6 名詞の複数形/形容詞の格変化	名詞の複数形と形容詞の格変化について学ぶ
第 13 回	Lektion 6 趣味について尋ねる	趣味について尋ねる会話文を読む
第 14 回	試験・まとめ	前期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法事項は随時復習を心掛けること。
会話テクストについては単語の意味を調べる・教科書の音声を聴いて発音を確認するなどの予習を行ってから授業に臨むこと。授業中に予習を行うことは一切認めない。
また練習問題や作文の宿題を課すことがある。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『パノラマ・エクスプレス　初級ドイツ語ゼミナール』上野成利・本田雅也著、白水社（2022 年刊行)

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版)』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社（2003 年刊行）

【成績評価の方法と基準】
テクスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40 %と期末試験 60 %を総合的に判断する。
なお単位を取得するためには原則として授業実施回数３分の２以上の出席を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】
英語と混同しやすい点について説明ならびに注意喚起を行うようにする。

【学生が準備すべき機器他】
教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。
辞書については初回授業で説明する。

【Outline (in English)】
This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions.
The goals of this course are to be able to master correct pronunciation and read texts in plain German with the help of a dictionary.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook.
Your required study time is about one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination:60%
Class attendance and attitude in Class:40%

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

小野間　亮子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 3/Tue.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。
辞書を用いて平易なドイツ語のテクストが読める力を養成する。

【到達目標】
初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を用いて平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。
また、平易なドイツ語のテクストを読み、語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・読解テクストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7 話法の助動詞/分離動詞	話法の助動詞と分離動詞について学ぶ
第 2 回	Lektion 7 話法の助動詞/分離動詞	駅の職員に質問する会話文を読む
第 3 回	Lektion 8 zu 不定詞/従属接続詞/再帰代名詞	zu 不定詞・従属接続詞・再帰代名詞について学ぶ
第 4 回	Lektion 8 zu 不定詞/従属接続詞/再帰代名詞	休暇の計画を尋ねる会話文を読む
第 5 回	Lektion 9 動詞の３基本形/過去形	動詞の３基本形と過去形について学ぶ
第 6 回	Lektion 9 動詞の３基本形/過去形	旅の体験を語る会話文を読む
第 7 回	Lektion 10 現在完了形/受動態/非人称表現	現在完了形・受動態・非人称表現について学ぶ
第 8 回	Lektion 10 現在完了形/受動態/非人称表現	旅の体験を語る会話文を読む
第 9 回	Lektion 11 定関係代名詞/比較表現	定関係代名詞と比較表現について学ぶ
第 10 回	Lektion 11 定関係代名詞/比較表現	日本について語る会話文を読む
第 11 回	Lektion 12 接続法	接続法第 I 式について学ぶ
第 12 回	Lektion 12 接続法	接続法第 II 式について学ぶ
第 13 回	Lektion 12 接続法	別れと再会の約束について語る会話文を読む
第 14 回	試験・後期のまとめ	後期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法事項は随時復習を心掛けること。
会話テクストは単語の意味を調べる・教科書の音声を聴いて発音を確認するなどの予習を行ってから授業に臨むこと。授業中に予習を行うことは一切認めない。
また練習問題や作文の宿題を課すことがある。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『パノラマ・エクスプレス　初級ドイツ語ゼミナール』上野成利・本田雅也著、白水社（2022 年刊行）

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社 (2003 年刊行）

【成績評価の方法と基準】
テクスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40 %と期末試験 60 %を総合的に判断する。
なお成績評価の対象となるためには原則として授業実施回数３分の２以上の出席を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】
英語と混同しやすい点について説明ならびに注意喚起を行うようにする。

【学生が準備すべき機器他】
教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。
辞書については初回授業で説明する。

【Outline (in English)】
This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions.
The goals of this course are to be able to master correct pronunciation and read texts in plain German with the help of a dictionary.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook.
Your required study time is about one hour for each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination:60%
Class attendance and attitude in Class:40%

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。発音の規則を習得するとともに、平易なドイツ語で書かれた文章の読解や会話練習を通じて、ドイツ語文法の基礎を学びます。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語の発音の規則、初級文法、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎知識の習得です。そしてもう一つの目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル１」の場合は対面授業で、「レベル２」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。
・LMS として、Hoppii と Google Classroom を使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政 G メールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音の規則（1）、あいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則 1、あいさつの表現 1
2	Lektion1A ：発音の規則（2）、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？
3	Lektion1A ：発音の規則（3）、動詞の不定詞と現在人称変化、定動詞の位置	自己紹介１：人称代名詞（1 格）と動詞の現在人称変化（1）、平叙文と定動詞第 2 位の原則、ふたつの二人称
4	Lektion1B ：動詞の現在人称変化（2）、疑問文	人称代名詞（1 格）と動詞の現在人称変化（2）、自己紹介２、さまざまな疑問文のパターン
5	Lektion2A ：名詞の性と格（1）	名詞の格（1）、定冠詞と不定冠詞（1）
6	Lektion2A ：名詞の性と格（2）	名詞の格、定冠詞と不定冠詞、否定冠詞 kein と否定文
7	Lektion2B ：所有冠詞（1）	「品詞」について今一度理解度を確認する（1）、人称代名詞と所有冠詞をしっかり区別する
8	Lektion2B ：所有冠詞（2）	「品詞」について今一度理解度を確認する（2）
9	Lektion3A ：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）	動詞の現在人称変化（3）
10	Lektion3A ：語幹の母音が変音する動詞（不規則動詞）、命令法	動詞の現在人称変化（4）、依頼の表現、ドイツ語の日常的なモノと人の感覚について
11	Lektion3B ：人称代名詞の３、４格	人称代名詞の 3・4 格、3 格と 4 格の語順（1）
12	Lektion3B ：人称代名詞の３、４格、疑問代名詞	3 格と 4 格の語順（2）、疑問代名詞と人称代名詞の格の一致を理解する
13	Lektion4A ：前置詞（1）	前置詞の格支配とは？ 3 格支配、4 格支配の前置詞
14	Lektion4A ：前置詞（2）	3・4 格支配の前置詞を理解する、前置詞と定冠詞の融合形、特定の前置詞＋動詞/形容詞の組み合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.2』（朝日出版社、2011 年）（￥ 2,300）
その他はコピーで別途配布します。

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003 年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物・小テストなどの成果を合わせて評価する平常点（４０％）および学期末試験（６０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。（辞書類については第一回授業時に説明をします）
・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル２」以上の場合、リアルタイム型オンライン授業（Zoom）となります。お手元に WiFi が利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PC のどれか）、また大学構内で受講する場合はイヤホン（マイク付きヘッドセット）も用意してください。

【その他の重要事項】
上記に記した内容や順序は皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

【Outline (in English)】
German course for absolute Beginners - This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
・Able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
・There are prescribed preparation and review tasks.
・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 60% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 40% of end-of-term assignments (tests).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初習者を対象にしたドイツ語の入門編です。春学期に引き続いて初級文法の基礎を学びます。簡単なドイツ語を読み、書き、話すためのトレーニングとともに、ドイツ語学習の体験を単なる知識のインプットに留まらない「大人の外国語の学び方」の習得につなげていきます。

【到達目標】
春学期に続き、ドイツ語の発音の規則を定着させ、初級文法、簡単な文章表現といったドイツ語の基礎知識の習得を目指すとともに、ドイツ語（外国語）学習を通じて「コミュニケーション」のあり方について考えます。ドイツ語・ドイツ語圏という異文化と接することで、自分の属する文化と言語圏について反省的に考えられるようになることが最大の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や自分の文法理解を確認します。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル１」の場合は対面授業で、「レベル２」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。
・LMS として、Hoppii と Google Classroom を使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政 G メールをチェックしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	動詞の現在人称変化、名詞の格変化（冠詞）と人称の格変化、前置詞の格支配
2	Lektion4B ：話法の助動詞（１）、枠構造の基本	話法の助動詞の構文、枠構造の意味
3	Lektion4B ：話法の助動詞（２）	話法の助動詞を用いる文の練習、話法の助動詞を使うそのココロを理解する
4	Lektion4B ：枠構造と複合動詞（分離動詞、非分離動詞）	分離動詞と非分離動詞、前つづりと定動詞・枠構造の関連を理解する
5	Lektion5A ：動詞の３基本形と現在完了形	動詞の３基本形の作り方、またしても枠構造を理解する
6	Lektion5A ：現在完了形	現在完了形を使うそのココロとは？
7	Lektion5B ：過去時制	過去時制と過去人称変化、現在完了形と過去時制の違いとは？
8	Lektion6A ：受動態	なんで受動態にしなきゃいけないワケ？　受動の助動詞２種類（行為受動、状態受動）
9	Lektion6B ： zu 不定詞	非人称の es の表現、zu 不定詞とその用法、zu 不定詞句を使った表現
10	Lektion6B ：接続詞とその表現	並列の接続詞、従属の接続詞、主文と副文の違いを理解する
11	Lektion7A ：形容詞の用法、時を表す副詞句	形容詞の用法、付加語的用法と格変化
12	Lektion7B ：再帰代名詞と再帰動詞、相互代名詞	他動詞の再帰表現、再帰代名詞を用いた表現
13	Lektion8A ：関係代名詞	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞（副文）の練習
14	Lektion8A ：関係代名詞・関係副詞	定関係代名詞・指示代名詞の格変化、関係代名詞・関係副詞の構文（副文）の練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次週扱うテクストの箇所を読んでくること。
復習：文法問題を中心とした提出課題（宿題）を随時用意します。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.2』（朝日出版社、2011 年）（￥ 2,300）
その他はコピーで別途配布します。

【参考書】
中島悠爾、朝倉巧、平尾浩三著『(改訂版）必携ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003 年（￥1,728）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加（ペアワーク・グループワーク含む）と提出物・小テストなどの成果を合わせて評価する平常点（４０％）および学期末試験（６０％）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（学習用）は必携です。必ず用意して毎回の授業に持参して下さい。
・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル２」以上の場合、リアルタイム型オンライン授業（Zoom）となります。お手元に WiFi が利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PC のどれか）、また大学構内で受講する場合はイヤホン（マイク付きヘッドセット）も用意してください。

【その他の重要事項】
上記に記した内容や順序は皆さんの理解度に応じて変更されることがあります。

【Outline (in English)】
German course for Beginners - This course introduces, continuing from the "German 1I", elementary Grammar, vocabulary and communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
・Able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
・The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
・There are prescribed preparation and review tasks.
・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 60% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 40% of end-of-term assignments (tests).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd100LA

ドイツ語１Ｉ

2017 年度以降入学者

天沼　春樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はドイツ語１Ｉにおいて、教科書を用いてドイツ語の初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。文法の説明とグループワークでの練習によってドイツ語の発音と基本的な表現を身につける。

【到達目標】
発音、動詞の現在形と未来系、名詞と代名詞、複数形、命令形、冠詞類、前置詞と接続詞、話法の助動詞を修得する。独検 4 級の問題を解けるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
学生は文法説明を終えた後、練習問題を通じて、実際にその文法を使い、修得する。グループ練習をすることで、ドイツ語文法の理解を深め、基本的な会話表現も身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	導入とアルファベット	ドイツ語の基本的な発音を学習する
2 回	Lektion 1 ：動詞の現在人称変化	発音の復習を行う。動詞の現在人称変化を学ぶ
3 回	Lektion 1 ：重要不規則動詞の現在人称変化	sein, haben, werden の現在人称変化・動詞の位置を学ぶ
4 回	Lektion 2:名詞と冠詞	名詞の性と代名詞について学ぶ
5 回	Lektion 2 ：格変化	定冠詞・不定冠詞・名詞の格変化を学習する
6 回	Lektion 3 ：複数形	名詞の複数形を修得する
7 回	Lektion 4 ：不規則動詞の現在人称変化と命令法	不規則動詞と命令法を学ぶ
8 回	Lektion 5: 冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類について学ぶ
9 回	Lektion 5 ：人称代名詞	人称代名詞を学ぶ
10 回	Lektion 6 ：前置詞	２・３・４格支配の接続詞について学習する
11 回	Lektion 6 ：従属の接続詞 (おなじ課に解説あり)	従属の接続詞と副文を学ぶ
12 回	Lektion 7 ：話法の助動詞	話法の助動詞を学ぶ
13 回	Lektion 7 ：未来形	未来形を学ぶ
14 回	試験・まとめと解説	期末試験を行う・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時間外学習として (準備学習・復習時間) 合計 60 分を標準とします。課題は、教場授業がはじまってから、レポートとして提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）、森公成・渡辺広佐、同学社、2018 年、ISBN　978-4-8102-0887-0 必要に応じて、ペーパーテキストを配布します。

【参考書】
特に、なし

【成績評価の方法と基準】
筆記試験とレポートで評価します。筆記試験の結果 80 %、レポート課題評価点 20 %で合計 100 %で評価する。平均 80 点以上 A、70 点以上 B、60 点以上 C 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、身につく授業にしたいので、よく理解できないことがあれば、気楽に質問するように。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞書

【その他の重要事項】
自主的に予習・復習にとりくんでください。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
In German 1I, students systematically study elementary German grammar using textbooks. The purpose of this class is to understand the basic structure of the German language through reading and writing German. Acquire German pronunciation and basic expressions through explanations of grammar and practice in group work.
After completing the grammar explanation, the students actually use and master the grammar through exercises. Through group practice, you will deepen your understanding of German grammar and acquire basic conversational expressions.
Standard overtime study (preparation study/review time) totals 60 minutes. Assignments will be submitted as a report after the classroom class begins.
Evaluation is based on written test and report. The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing. 80% of the final exam result and 20% of the report assignment score will be evaluated with a total of 100%. Average of 80 points or more A,
70 points or more B, 60 points or more C evaluation.

LANd100LA

ドイツ語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

天沼　春樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生はドイツ語教科書を用いてドイツ語初級文法を体系的に学習します。ドイツ語の読解と作文を通してドイツ語の基本的な仕組みを理解することが本授業の目的です。

【到達目標】
学生は複合動詞、再帰、形容詞の格変化と比較変化、過去形・現在完了形、受動態、指示代名詞・関係代名詞、接続法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法説明を終えた後、練習問題を通じて、実際にその文法を使い、修得する。
グループ練習をすることで、ドイツ語文法の理解を深め、基本的な会話表現も身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 8 ：複合動詞	分離動詞と非分離動詞を学ぶ
2 回	Lektion 9 ：再帰代名詞	再帰代名詞と再帰動詞を学ぶ
3 回	Lektion 10 ：形容詞	形容詞の強変化・弱変化を学ぶ
4 回	Lektion 11 ：比較変化	形容詞の比較変化を学ぶ
5 回	Lektion 12 ：動詞の 3 基本形	過去基本形と過去分詞を学ぶ
6 回	Lektion 13 ：動詞の過去基本形	動詞の過去人称変化を学ぶ
7 回	Lektion 14 ：現在完了形	現在完了形を学ぶ
8 回	Lektion 15 ：過去完了形	過去完了形を学ぶ
9 回	Lektion 16 受動態	受動態を学ぶ
10 回	Lektion 17 ： zu 不定詞	zu 不定詞と分詞を学ぶ
11 回	Lektion 18 ：指示代名詞	指示代名詞を学ぶ
12 回	Lektion 19:関係代名詞	定関係代名詞と不定関係代名詞を学ぶ
13 回	Lektion 20:接続法	接続法第 1 式と第 2 式を学ぶ
14 回	試験・まとめと解説	期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生はテキストの予習ならびに復習を励行する。時間外学習は 1 時間をが標準。

【テキスト（教科書）】
クヴェレ・ドイツ文法（新訂版）森公成・渡辺広佐

【参考書】
特に、なし

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果 80 %、レポート課題評価点 20 %で評価委する。平均 80 点以上 A、70 点以上 B、60 点以上 C 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
楽しく、身につく授業にしたいので、よく理解できないことがあれば、気楽に質問してください。
We want our classes to be fun and informative, so if you don't understand something, feel free to ask questions.

【学生が準備すべき機器他】
和独辞書

【その他の重要事項】
独和辞書必携。

【Ｎｏｎｅ】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Students learn how to translate German plain text into Japanese using the second half of the textbook used in the preceding course German 3 I. It deals with both current events and literary passages equally. In addition to the textbook printed materials (especially literary texts) will be distributed during class. Further information will be provided in the first class.
Students will learn compound verbs, reflexion, case and comparative inflection of adjectives, past and present perfect, passive voice, demonstrative and relative pronouns, and subjunctive.
Students are encouraged to prepare and review the textbook. Standard time for overtime study (review + preparation) is 1 hour.
80% of final exam results and 20% of report assignment scores will be used for evaluation. A grade of 80 points or more on average, B of 70 points or more, and C of 60 points or more.

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

高木　葉子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】
基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１，授業は主に次の 3 点から構成されます。
１）講義
２）実習
３）映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	自己紹介 授業の進め方 ドイツ語とドイツ語圏について
2.	つづりの読み方と発音	母音・子音の発音 日常会話の基本的表現
3.	第１課（１）	動詞の現在人称変化
4.	第１課（２）	動詞の現在人称変化
5.	第２課（１）	名詞と冠詞の格変化
6.	第２課（２）	名詞と冠詞の格変化
7.	第３課（１）	名詞の複数形・人称代名詞
8.	第３課（２）	名詞の複数形・人称代名詞
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第４課（１）	動詞の現在人称変化（２）・命令法
11.	第４課（２）	動詞の現在人称変化（２）・命令法
12.	第５課（１）	定冠詞類・不定冠詞類
13.	第５課（２）	定冠詞類・不定冠詞類
14.	第 2 回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）宿題となった練習問題の解答
２）宿題となったテキスト講読の和訳

【テキスト（教科書）】
１）前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞２』郁文堂
２）上記のテキストのほかに講読プリントを配布

【参考書】
授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
以下の 3 点を総合して評価します。
１）第 1 回テスト３５％
２）第 2 回テスト３５％
３）平常点（出席状況と受講態度）３０％

【学生の意見等からの気づき】
授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】
１）上記の授業形態（対面になるかオンラインになるか）はあくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。
２）4 月の第 1 回目の授業時に詳しいガイダンスを行います。教科書を購入してもってきてください。

【Outline (in English)】
1)This course deals with the German grammar/reading/conversation.
2)The goal of this course is to acquire the German grammer/reading/conversation.
3)Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
4) Your final grad will be decided based on the following
1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木　葉子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】
春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１．授業は主に次の 3 点から構成されます。
１）講義
２）実習
３）映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	第６課（１）	前置詞
2.	第６課（２）	前置詞
3.	第７課（１）	話法の助動詞・未来形・非人称動詞
4.	第７課（２）	話法の助動詞・未来形・非人称動詞
5.	第８課（１）	分離動詞と非分離動詞・接続詞
6.	第８課（２）	分離動詞と非分離動詞・接続詞
7.	第９課（１）	動詞の 3 基本形・過去人称変化
8.	第９課（２）	動詞の 3 基本形・過去人称変化
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第１０課（１）	現在完了・再帰表現
11.	第１０課（２）	現在完了・再帰表現
12.	第１１課	形容詞の格変化
13.	第１２課	形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞
14.	第２回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１）宿題となった練習問題の解答
２）宿題となったテキスト講読の和訳

【テキスト（教科書）】
１）前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞２』郁文堂
２）上記のテキストのほかに講読プリントを配布

【参考書】
授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
次の３点を総合して評価します。
１）第 1 回テスト３５％
２）第 2 回テスト３５％
３）平常点（出席状況と受講態度）３０％

【学生の意見等からの気づき】
授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許す限り、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】
上記の授業形態（対面になるかオンラインになるか）は、あくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

【Outline (in English)】
1)This course deals with the German grammar/reading/conversation.
2)The goal of this course is to acquire the German grammer/reading/conversation.
3)Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
4) Your final grad will be decided based on the following
1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではやさしいドイツ語の文章を読み、ドイツ語でのかんたんな会話を練習しながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、かんたんな会話ができるようになる。
・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱います。文法箇所についてはあらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。後半では文法事項の復習をしながらドイツ語の文章を読んだり、ペアワークで会話の練習を行ったりします。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について／ドイツ語の発音
第 2 回	第 1 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（I）
第 3 回	第 1 課（後半）	練習：自己紹介
第 4 回	第 2 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（II）・並列の接続詞
第 5 回	第 2 課（後半）	練習：ドイツ語圏の国々／職業を尋ねる
第 6 回	第 3 課（前半）	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	第 3 課（後半）	練習：広告文を読む／プレゼントをあげる
第 8 回	第 4 課（前半）	文法：名詞の複数形・人称代名詞
第 9 回	第 4 課（後半）	練習：レシピを読む
第 10 回	第 5 課（前半）	文法：不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	第 5 課（後半）	練習：仕事を探す／電話をする
第 12 回	第 6 課（前半）	文法：動詞の現在人称変化（III）・命令形
第 13 回	第 6 課（後半）	練習： Heidi を読む／趣味を尋ねる
第 14 回	前期のまとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次に授業で扱う範囲を声に出して読み、わからない単語を辞書で調べる。
復習：授業中に出された課題に取り組む。
※本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子・亀ヶ谷　昌秀・正木晶子・中野有希子（2019 年）『ゲナウ！　レーゼン　ノイ』郁文堂、2022 年。

【参考書】
独和辞典（できれば紙のもの）を購入すること。くわしくは初回授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト： 60 %
平常点（授業への積極的な参加・予習）： 40 %
※　以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者からの意見や要望に耳を傾けます。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar as well as by reading german texts.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 2/Fri.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではやさしいドイツ語の文章を読み、ドイツ語でのかんたんな会話を練習しながら、ドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、かんたんな会話ができるようになる。
・文法を意識しながら外国語の文章を正確に読み取るスキルを身につける。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は教科書にそって進めます。原則として一つの課を 2 回の授業で扱います。文法箇所についてはあらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。後半では文法事項の復習をしながらドイツ語の文章を読んだり、ペアワークで会話の練習を行ったりします。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と辞書について／ドイツ語の発音
第 2 回	第 7 課（前半）	文法：話法の助動詞
第 3 回	第 7 課（後半）	練習：『アンネの日記』
第 4 回	第 8 課（前半）	文法：前置詞・再帰動詞
第 5 回	第 8 課（後半）	練習：ドイツの祝祭日についての文章を読む
第 6 回	第 9 課（前半）	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞句・従属の接続詞
第 7 回	第 9 課（後半）	練習：インタビューを読む
第 8 回	第 10 課（前半）	文法：動詞の 3 基本形（I）・過去形・現在完了形
第 9 回	第 10 課（後半）	練習：童話『小さな魔女』を読む
第 10 回	第 11 課（前半）	文法：動詞の 3 基本形（II）・受動態
第 11 回	第 11 課（後半）	練習：ハリボーについての説明文を読む
第 12 回	第 12 課（前半）	文法：形容詞の変化・比較・関係代名詞
第 13 回	第 12 課（後半）	練習：童話『イソップ物語』を読む
第 14 回	前期のまとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：次に授業で扱う範囲を声に出して読み、わからない単語を辞書で調べる。
復習：授業中に出された課題に取り組む。
※本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子・亀ヶ谷　昌秀・正木晶子・中野有希子（2019 年）『ゲナウ！　レーゼン　ノイ』郁文堂、2022 年。

【参考書】
独和辞典（できれば紙のもの）を購入すること。くわしくは初回授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期末テスト： 60 %
平常点（授業への積極的な参加・予習）： 40 %
※　以上を踏まえて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
履修者からの意見や要望に耳を傾けます。

【学生が準備すべき機器他】
Google Classroom および Zoom を使用できる機器（パソコン・タブレット・スマートフォン）を用意してください。オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar as well as by reading german texts.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語２ I

2017 年度以降入学者

ADAM D JAMBOR

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語 2I では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言語に関する知識が得られます。

【到達目標】
前期：発音、規則動詞と不規則動詞の変化、名詞と代名詞、複数形、命令形、冠詞類と前置詞を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	アルファベット Lektion 0:あいさつ	ドイツ語の発音ルールを学ぶ・挨拶を覚える
2 回	Lektion 1:自己紹介	人称代名詞と動詞の位置を学習する
3 回	Lektion 1 ： sein の変化	規則動詞と sein の変化について学習する
4 回	Lektion 2:趣味・余暇	動詞の不規則変化を学ぶ
5 回	Lektion 2:名詞の格変化	定冠詞と不定冠詞の格変化を学ぶ
6 回	Lektion 3:持ち物・食べ物	haben・4 格と結びつく動詞について学ぶ
7 回	Lektion 3:否定冠詞	3 格と結びつく動詞と否定冠詞を学習する
8 回	Lektion 4:家族・住居	2 格の用法・人称代名詞の格変化を習得する
9 回	Lektion 4:複数形	名詞の複数形について学習する
10 回	Lektion 5: 自然・心身	所有冠詞について学ぶ
11 回	Lektion 5:命令形	命令形を習得する・心身に関する表現を学ぶ
12 回	Lektion 6:街歩き	前置詞について学ぶ
13 回	Lektion 6:ドイツの街角	道案内に関する表現を学ぶ
14 回	復習	今学期で習った内容をまとめて復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】
「ドライクラング・異文化理解のドイツ語」菅利恵著・大喜祐太著等、2020 年、郁文堂。3080 円
ISBN ： 9784261012736

【参考書】
新・独検合格 単語+熟語 1800、在間進・亀ケ谷昌秀、第三書房、2010 年、2530 円
ISBN ： 4808601451

【成績評価の方法と基準】
小テストの平均点数 70%、平常点 30%。
各 Lektion に関して小テストを行うため、全ての内容が問われる期末試験がありません。平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価
する。課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
今年度の教科書は、以前使わせていただいた教科書より、分かりやすいと評価されていて、今後も使うことにします。小テストの回数は多すぎると、負担になるのではないかと感じました。そのため、各 Lektion ではなく、比較的に簡単な内容であれば、二つの Lektion を総括し、小テストを行う予定です。表現力と理解を高めるため、履修者同士のアクティビティを増やしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典
教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline (in English)】
This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.
Learning Objectives: We will learn the perfect tense, past tense and future tense, the modal verbs, comparative and superlative, adjective declension, conjunctions and zu-infinitive. Passive and subjunctive might be additional contents of this course. The students will be able to solve tasks of the Dokken Level 4.
Learning activities outside of classroom: The students are supposed to prepare and repeat the course contents for one hour per week. The main learning activities outside of classroom are repetition of the learnt grammar, memorizing vocabulary and doing homework or tasks, which are assigned by the teacher.
Grading Criteria /Policy: Point average of short tests 70%, course participation 30%. There will be a short test following the completion of every chapter. Therefore no final exam will be held. Course participation includes handing in homework and active participation during classes. If students fail to hand in their homework, points for the participation grade will be deducted. In case a student misses more than four classes without a reason, the student will not earn any credit for completing this course.

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

ADAM D JAMBOR

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語 2II では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言語に関する知識が得られます。

【到達目標】
後期：動詞の現在完了形・過去形・未来形、話法助動詞、関係代名詞、形容詞の比較級・最上級と形容詞の格変化、接続詞と Zu 不定詞。補足として受動態と接続法を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 7: 交通	分離動詞と非分離動詞について学ぶ
2 回	Lektion 7:時間	時間の表現を学ぶ
3 回	Lektion 8:予定・計画	話法助動詞について学ぶ
4 回	Lektion 8:未来形	非人称表現と未来形について学習する
5 回	Lektion 9: 学校	再帰代名詞と再帰動詞について学習する
6 回	Lektion 9:従属接続詞	従属接続詞と Zu 不定詞を学ぶ
7 回	Lektion 10: 過去のできごと	現在完了形について学ぶ
8 回	Lektion 10 ：過去分詞	過去分詞を覚える
9 回	Lektion 10:過去形	過去形について学習する
10 回	Lektion 11:祝祭	形容詞の付加語的用法を学ぶ
11 回	Lektion 11:序数	序数と形容詞の比較級・最上級について学習する
12 回	Lektion 12: 政治・社会	関係代名詞と指示代名詞について学習する
13 回	Lektion 12:関係文	関係文の仕組みを学ぶ
14 回	復習・文法補足：受動態	今学期で習った内容を復習する 受動態について学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】
「ドライクラング・異文化理解のドイツ語」菅利恵著・大喜祐太著等、2020 年、郁文堂。3080 円
ISBN ： 9784261012736

【参考書】
新・独検合格 単語+熟語 1800、在間進・亀ケ谷昌秀、第三書房、2010 年、2530 円
ISBN ： 4808601451

【成績評価の方法と基準】
小テストの平均点数 70%、平常点 30%。
各 Lektion に関して小テストを行うため、全ての内容が問われる期末試験がありません。平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価
する。課題を行わない場合、平常点を減点する。
無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
今年度の教科書は、以前使わせていただいた教科書より、分かりやすいと評価されていて、今後も使うことにします。小テストの回数は多すぎると、負担になるのではないかと感じました。そのため、各 Lektion ではなく、比較的に簡単な内容であれば、二つの Lektion を総括し、小テストを行う予定です。表現力と理解を高めるため、履修者同士のアクティビティを増やしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典
教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline (in English)】
This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.
Learning Objectives: We will learn the perfect tense, past tense and future tense, the modal verbs, comparative and superlative, adjective declension, conjunctions and zu-infinitive. Passive and subjunctive might be additional contents of this course. The students will be able to solve tasks of the Dokken Level 4.
Learning activities outside of classroom: The students are supposed to prepare and repeat the course contents for one hour per week. The main learning activities outside of classroom are repetition of the learnt grammar, memorizing vocabulary and doing homework or tasks, which are assigned by the teacher.
Grading Criteria /Policy: Point average of short tests 70%, course participation 30%. There will be a short test following the completion of every chapter. Therefore no final exam will be held. Course participation includes handing in homework and active participation during classes. If students fail to hand in their homework, points for the participation grade will be deducted. In case a student misses more than four classes without a reason, the student will not earn any credit for completing this course.

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

梶谷　雄二

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツにまつわる日常的な話題を扱った簡単な文章を読みながら、発音のルールや基礎的な文法事項を習得する。また、日常会話における口語表現をはじめ初歩的な表現法を学ぶ。

【到達目標】
ドイツ語の文章を正確に発音することができるようになる。
声に出して読みながら、文意が理解できるようになる。
簡単な日常会話ができるようになる。
ドイツ語による簡単な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
簡潔な文法の説明。
本文の文意と文法的構造の解説。
テキスト本文の文章を元にした練習問題。
練習問題には翻訳、語形変化、文章の作り方、独作が含まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課　誰が誰？	本文の説明　動詞の現在人称変化 1
2	第 1 課　誰が誰？	本文発音練習と練習問題
3	第 2 課　お酒を飲む	本文説明　定冠詞と不定冠詞
4	第 2 課　お酒を飲む	本文発音練習と練習問題
5	第 3 課　食事	本文説明　動詞の現在人称変化 2
6	第 3 課　食事	本文発音練習と練習問題
7	第 4 課　乗り物に乗る	本文説明　前置詞 1
8	第 4 課　乗り物に乗る	本文発音練習　前置詞 2 と練習問題
9	第 5 課　スポーツ	本文説明と発音練習　複数形と練習問題
10	第 6 課　住まい	本文説明と発音練習　冠詞類と練習問題
11	第 6 課　住まい	本文説明と発音練習　冠詞類と練習問題
12	パワーアップ 1　家族	形容詞の比較表現
13	第 7 課　ファッション	本文説明と発音練習　形容詞の格変化と練習問題
14	春学期　試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
著者：在間　進／ Randolf Jessel 、書名：『ヴェラとヴェルナー—もっとやさしく版—』、 出版社：朝日出版社、2400 円、ISBN: 978-4-255-25382-4

【参考書】
独和辞典は必携です。
独和辞典については授業で話します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度、発音、練習問題の結果、以上を評価して平常点とする。(40 %)
期末試験の結果。(60 %)
以上を合算して評価点とします。

【学生の意見等からの気づき】
できる限り全員の理解度が十分であることが第一と考え、授業参加者の理解度を考慮しながら、授業を進めていきます。

【Outline (in English)】
While reading simple texts dealing with everyday topics related to Germany, students will learn pronunciation rules and basic grammar matters. In addition, students learn elementary expressions such as colloquial expressions in daily conversation.
The standard preparation and review time for this class is one hour.
The level of class participation, pronunciation, and results of practice questions are evaluated to give a normal score. (40 %)
Results of final exams. (60 %)
The above are added together to form an evaluation point.

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

梶谷　雄二

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツにまつわる日常的な話題を扱った簡単な文章を読みながら、発音のルールや基礎的な文法事項を習得する。また、日常会話における口語表現をはじめ初歩的な表現法を学ぶ。

【到達目標】
ドイツ語の文章を正確に発音することができるようになる。
声に出して読みながら、文意が理解できるようになる。
簡単な日常会話ができるようになる。
ドイツ語による簡単な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
簡潔な文法の説明。
本文の文意と文法的構造の解説。
テキスト本文の文章を元にした練習問題。
練習問題には翻訳、語形変化、文章の作り方、独作が含まれます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課　コミュニケーション	春学期の復習 本文説明と発音練習　分離動詞と練習問題
2	第 8 課　コミュニケーション 第 9 課　読書	本文説明と発音練習 再帰表現と練習問題
3	第 9 課　読書	本文発音練習と練習問題　再帰表現
4	第 10 課　議論　貿易と内政	本文説明と発音練習 話法の助動詞
5	第 10 課　議論　貿易と内政 第 11 課　ドイツ　西のドイツと東のドイツ	本文発音練習と練習問題　話法の助動詞/10 課 本文説明と発音練習 過去形と現在完了形/11 課
6	第 11 課　ドイツ　西のドイツと東のドイツ	本文説明と発音練習 過去形と現在完了形
7	パワーアップ 2　決心	本文説明と発音練習 zu 不定詞
8	第 12 課　映画館　スクリーンの上の空	本文説明と発音練習 受動文
9	第 12 課　映画館　スクリーンの上の空 パワーアップ 3　推測	本文発音練習と練習問題　受動文/12 課 接続詞/パワーアップ 3
10	パワーアップ 3　推測 第 13 課　巨大な作品と流行のヒット曲	本文説明と発音練習　接続詞/パワーアップ 3 本文説明と発音練習　関係文/13 課
11	第 13 課　巨大な作品と流行のヒット曲	本文発音練習と練習問題　関係文
12	第 14 課　愛　このカップルは上手くいくのか？	本文説明と発音練習　接続法
13	第 14 課　愛　このカップルは上手くいくのか？	本文発音練習と練習問題　接続法
14	試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
著者：在間　進／ Randolf Jessel 、書名：『ヴェラとヴェルナー—もっとやさしく版—』、 出版社：朝日出版社、2400 円、ISBN: 978-4-255-25382-4

【参考書】
独和辞典。
その他の参考書は特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度、発音、練習問題の結果、以上を評価して平常点とする。(40 %)
期末試験の結果。(60 %)
以上を合算して評価点とします。

【学生の意見等からの気づき】
できる限り全員の理解度が十分であることが第一と考え、授業参加者の理解度を考慮しながら、授業を進めていきます。

【Outline (in English)】
While reading simple texts dealing with everyday topics related to Germany, students will learn pronunciation rules and basic grammar matters. In addition, students learn elementary expressions such as colloquial expressions in daily conversation.
The standard preparation and review time for this class is one hour.
The level of class participation, pronunciation, and results of practice questions are evaluated to give a normal score. (40 %) Results of final exams. (60 %) The above are added together to form an evaluation point.

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

高木　葉子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】
基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１，授業は主に次の 3 点から構成されます。
１）講義
２）実習
３）映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス（オンライン・リアルタイム授業）	自己紹介 授業の進め方
2.	つづりの読み方と発音	母音・子音の発音 日常会話の基本的表現
3.	第１課（１）	動詞の現在人称変化
4.	第１課（２）	動詞の現在人称変化
5.	第１課（３）	動詞の現在人称変化
6.	第２課（１）	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
7.	第２課（２）	名詞と冠詞の格変化・ 名詞の複数形
8.	第２課（３）	名詞と冠詞の格変化・名詞の複数形
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第３課（１）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
11.	第３課（２）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
12.	第３課（３）	不規則動詞の現在人称変化・命令形・人称代名詞
13.	第４課（１）	定冠詞類・不定冠詞類
14.	第 2 回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題となった練習問題
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 3.0』朝日出版社

【参考書】
授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
以下の 3 点を総合して評価します。
１）第 1 回テスト３５％
２）第 2 回テスト３５％
３）平常点（出席状況と受講態度）３０％

【学生の意見等からの気づき】
授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】
１）上記の授業形態（対面かオンラインか）はあくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。
２）４月の第１回目授業時に詳しいガイダンスをします。教科書を購入して持ってくてください。

【Outline (in English)】
1)This course deals with the German grammar/reading/conversation.
2)The goal of this course is to acquire the German grammer/reading/conversation.
3)Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
4) Your final grad will be decided based on the following
1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木　葉子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】
春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
１．授業は主に次の 3 点から構成されます。
１）講義
２）実習
３）映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	第４課（２）	定冠詞類・不定冠詞類
2.	第４課（３）	定冠詞類・不定冠詞類
3.	第５課（１）	前置詞の格支配
4.	第５課（２）	前置詞の格支配
5.	第５課（３）	前置詞の格支配
6.	第６課（１）	話法の助動詞・未来形
7.	第６課（２）	分離動詞・非分離動詞・接続詞
8.	第６課（３）	分離動詞・非分離動詞・接続詞
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第７課（１）	動詞の三基本形・過去形
11.	第７課（２）	現在完了形
12.	第７課（３）	現在完了形
13.	第８課（１）	再帰表現・zu 不定詞
14.	第２回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題となった練習問題
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
前田・高木『ドイツ語ナビゲーション３.0』朝日出版社

【参考書】
授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
次の３点を総合して評価します。
１）第 1 回テスト３５％
２）第 2 回テスト３５％
３）平常点（出席状況と受講態度）３０％

【学生の意見等からの気づき】
授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許す限り、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】
上記の授業形態（対面かオンラインか）は、あくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

【Outline (in English)】
1)This course deals with the German grammar/reading/conversation.
2)The goal of this course is to acquire the German grammer/reading/conversation.
3)Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
4) Your final grad will be decided based on the following
1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

畠山　勝彦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテクストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベート等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	動詞の現在人称変化 1
④	Lektion1	動詞の現在人称変化 2
⑤	Lektion2	名詞と冠詞の格変化
⑥	Lektion2	名詞の複数形
⑦	Lektion3	不規則動詞の現在人称変化
⑧	Lektion3	命令形・人称代名詞
⑨	Lektion4	定冠詞類
⑩	Lektion4	不定冠詞類
⑪	Lektion5	前置詞の格支配 1
⑫	Lektion5	前置詞の格支配 2
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ドイツ語のテクストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】
『ドイツ語ナビゲーション 3.0』
前田良三・高木葉子著
朝日出版社　2023 年発行　定価 2750 円 (本体 2500 円＋税 10%)

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）６０％、平常点（授業内演習等）４０％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%、in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

畠山　勝彦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】
辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテクストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Lektion6	話法の助動詞・未来形
②	Lektion6	分離動詞・非分離動詞・接続詞
③	Lektion7	動詞の三基本形
④	Lektion7	過去形・現在完了形
⑤	Lektion8	再帰表現
⑥	Lektion8	zu 不定詞
⑦	Lektion9	形容詞の格変化
⑧	Lektion9	比較表現
⑨	Lektion10	受動態
⑩	Lektion11	関係代名詞
⑪	Lektion11	指示代名詞
⑫	Lektion12	接続法 1
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評
	Lektion12	接続法 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ドイツ語のテクストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】
『ドイツ語ナビゲーション 3.0』
前田良三・高木葉子著
朝日出版社　2023 年発行　定価 2750 円 (本体 2500 円＋税 10%)

【参考書】
『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】
原則として、期末試験（筆記）６０％、平常点（授業内演習等）４０％とします。

【学生の意見等からの気づき】
発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%、in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

児島　由理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テクストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】
必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題でドイツ語文法への理解を深めることができます。また、読解テクストを通じて語彙を増やし読解力を養います。
ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、積極的に参加する授業を目指します。
文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。
提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、ドイツ語圏概説、アルファベート、発音、挨拶など
第 2 回	Lektion 1	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化）、sein の現在人称変化（不規則変化）
第 3 回	Lektion 1	定動詞の位置、自己紹介の表現
第 4 回	Lektion 2	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞、haben の現在人称変化
第 5 回	Lektion 2	定冠詞・不定冠詞（続き）、möchte の現在人称変化
第 6 回	Lektion 2, 3	ホテルに宿泊する時の会話 不規則動詞の現在人称変化
第 7 回	Lektion 3	人称代名詞の３格と４格、非人称の es、動詞の命令形
第 8 回	小テスト（中間テスト）、Lektion 3	小テスト： Lektion 1〜2 の内容の確認 切符を買う時の会話
第 9 回	Lektion 4	名詞の複数形、定冠詞類
第 10 回	Lektion 4	不定冠詞類、買い物をする時の会話
第 11 回	Lektion 5	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、
第 12 回	Lektion 5	道を尋ねる時の会話
第 13 回	Lektion 3〜5	小テスト（中間テスト）以降の内容の総復習
第 14 回	期末試験	Lektion 3〜5 の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。途中で小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ドイチュ☆ズーパー』小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2640 円

【参考書】
独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点か紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テストと期末試験の結果をあわせて 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.
In addition to the necessary and sufficient grammatical explanations, exercises will help students deepen their understanding of German grammar. In addition, they will be able to expand your vocabulary and develop their reading comprehension skills through reading texts.
They will also learn conversational expressions that will be useful when traveling to German-speaking countries.
All participants are required to attend continuously. They are also required to bring a dictionary and do their homework/prep work before attending.
Homework will be assigned each time and will be due in the next class. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The overall evaluation will be based on a final exam (70%) and class participation (normal points including homework and assignments) (30%).

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

児島　由理

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 3/Mon.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テクストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】
必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題を解くことでドイツ語文法への理解を深めることができます。
また、読解テクストを通じて語彙を増やし読解力を養います。
ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。
文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。
提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学習した内容の確認・復習
第 2 回	Lektion 6	話法の助動詞、未来の助動詞
第 3 回	Lektion 6	従属の接続詞と副文、両替をする時の会話
第 4 回	Lektion 7	形容詞の格変化
第 5 回	Lektion 7	zu 不定詞句、レストランで注文する時の会話
第 6 回	Lektion 8	動詞の３基本形、過去人称変化
第 7 回	Lektion 8	過去人称変化（続き）、オペラ観劇する時の会話
第 8 回	小テスト（中間テスト）、Lektion 9	小テスト： Lektion 6～7 の確認 現在完了形
第 9 回	Lektion 9	分離動詞
第 10 回	Lektion 9	サッカー観戦する時の会話
第 11 回	Lektion 10	形容詞と副詞の比較
第 12 回	Lektion 10	関係代名詞
第 13 回	Lektion 8～10	Lektion 8～10（小テスト以降の学習内容）の総復習
第 14 回	期末試験	Lektion 8～10 の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。途中で小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ドイチュ☆ズーパー』小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2640 円

【参考書】
独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点か紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テストと期末試験の結果をあわせて 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 %の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.
The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.
In addition to the necessary and sufficient grammatical explanations, exercises will help students deepen their understanding of German grammar. In addition, they will be able to expand your vocabulary and develop their reading comprehension skills through reading texts.
They will also learn conversational expressions that will be useful when traveling to German-speaking countries.
All participants are required to attend continuously. They are also required to bring a dictionary and do their homework/prep work before attending.
Homework will be assigned each time and will be due in the next class. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The overall evaluation will be based on a final exam (70%) and class participation (normal points including homework and assignments) (30%).

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

天沼　春樹

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生は、ドイツ語の文法をひととおり確認しつつ、適度の文章を読んでゆくことによってドイツ語運用になれていくことをめざします。さらに、文法知識の確認しながら、読解の助けにしていきます。テキストは Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga,Jun Matsuzawa) リーダー部分が受講者にとってやさしいばあいは、能力に応じてプリントで読解問題は配布します。予習復習 60 分程度。

【到達目標】
学生が文法の基礎をまなび、またその読解練習をおこない、その結果、辞書を引き、初級中級程度のドイツ語文章ををを理解できるようになること。学生が、そのドイツ語を正しく発音できるようになること。ドイツ語圏の国々やその文化・経済・政治などについても、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
初級文法説明と運用演習・簡単な訳読講義。ドイツ文化圏の情報ソースの提示。画像・動画も利用する。課題のフィードバックは、教室授業が困難な場合は、Hoppii で受け付けます。大学の行動方針レベルがレベル 1 の場合は教場での講義、レベル 2 以後の場合は原則としてすべてオンライン授業 (Zoom 利用) で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。
haruki@tt.rim.or.jp (緊急のときのみ)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容と学生の指導方針を解説。アルファベートの発音。	ドイツ語をどうまなぶか適切な指導方針を告げる。よく使われる単語を使っての発音練習・挨拶など。
Lektion1	人称代名詞・動詞。動詞の現在人称変化。	sein,haben,trinken というよく使う動詞による動詞の現在人称変化になれる。
Lektion2	名詞の性と動詞の位置。	疑問文。Ja と nein
Lektion3	重要な不規動詞。 否定冠詞。	基本構文をまなぶ。
Lektion3	不規則動詞の文章読解。	簡単な訳読練習。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格	配布プリント教材で簡単な訳読演習を行う。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格を正しく訳読する。	格支配と例文復習
Lektion5	名詞の 2 格　前置詞	例文演習 (訳読)
Lektion5	人称代名詞 1/3/4 格	教材訳読　適宜プリントを配布する
Lektion5	人称代名詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion6	3/4 格支配の前置詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion7	話法の助動詞。	文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
Lektion7	話法の助動詞のていねいな訳し方。	前期はテキスト第 7 課までを目標とする。
14 前記試験	ドイツ語の既読文章と初読文章のふたつを訳読する。プラス簡単な文法問題。	辞書使用可のペーパー試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生はテキストの予習ならびに復習を励行する。時間外学習は 1 時間を標準とする。
Students are encouraged to prepare and review the textbook. Standard time for overtime study (review + preparation) is 1 hour.

【テキスト（教科書）】
Einfaches Deutsch mit Umweltgedanken. ドイツ環境問題へのアプローチ　ノイ。(第三書房)

【参考書】
独和辞書は必携。講義内でも使用します。参考書としては、「NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる ドイツ語入門」高橋亮介著をおすすめします。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果 80 %、レポート課題評価点 20 %で評価委する。平均 80 点以上 A、70 点以上 B、60 点以上 C 評価とする。
80% of final exam results and 20% of report assignment scores will be used for evaluation. A grade of 80 points or more on average, B of 70 points or more, and C of 60 points or more.

【学生の意見等からの気づき】
英語に慣れ親しんできた学生諸君には、ヨーロッパのドイツ語やフランス語をはじめとする諸語は冠詞などの変化もあり、最初はとまどうこともあると思いますが、現地では小学生がはじめる学びからはじめて、一気に上級の構文までまなぶようになる語学学習ですので、1 回 1 回に集中しましょう。わからないのではなく、おぼえるのが面倒なだけということがあります。初心にかえって、「復唱」を忘れずに。ただし、理解しない学生を残したまま進行せず、そのつど確認していきます。なにより、最初の数回が大事です。「習うより、慣れよ!」です。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備、独和辞書 (電子辞書も可)
Preparation of equipment and devices that can be connected to Zoom, German-Japanese dictionary (electronic dictionary is also acceptable)

【その他の重要事項】
出席重視。やむなく欠席する場合は事前・事後に、申し出て補うこと。大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。とかくオンライン講義になると、個々人は孤立感を深めたり、わからぬままとりのこされていく感がしてくるものです。ちょっと不安になったりしたり、相談したり「よくわからない!」と SOS がだせるようにはしていきます。
Emphasis on attendance. If you must be absent due to unavoidable circumstances, please make up for it before and after the event.
If the university's action policy level is 2, this class will be held online as a general rule. Details will be communicated in the learning support system. In any case, when it comes to online lectures, individuals tend to feel more isolated and feel left behind without understanding. I'm going to be a little uneasy, consult, and send an SOS saying "I don't understand!"

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
We aim to become familiar with German grammar by reading appropriate sentences while checking German grammar. In addition, we will help you read comprehension while checking your grammar knowledge. The student will be able to look up a dictionary and understand some German sentences. To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture. As Preparation and Review 60 minutes in total.
A comprehensive evaluation of written exams at the end of the semester and presentations / submitted assignment reports. Grades will be evaluated on a scale of 100, with a score of 60 or higher passing. Comprehensive evaluation 80 points or more A,70 points or more is judged as B, and 60 points or more is judged as C.Students will be able to look up a dictionary and understand some German sentences. To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture, economy, politics.

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

天沼　春樹

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生がドイツ語の初級程度の文法・訳読テキストを使い, ドイツ語圏の文化・歴史・政治・社会への関心や知識もふかめていく。テキストのほかに、適宜、リーディングの素材を配布して、読解力を高める練習をします。

【到達目標】
学生が辞書のちからもかりながら、ドイツ語の基本的な読解・運用能力を養う。さらに、ドイツを中心としたヨーロッパ世界への知識と関心を高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法・訳読練習と教員による解説・講義。また映像・図版による資料の提示もある。大学の行動方針レベルがレベル 1 の場合は教場での講義、レベル 2 以後の場合は原則としてすべてオンライン授業 (Zoom 利用) で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	訳読と理解 1 教材 8 課　分離動詞・再帰動詞	特殊な用法の動詞の説明
第 2 回	教材 8 課。es の用法と例文	多用される便利な表現
第 3 回	訳読と理解 3 教材 9 課/形　容詞の格変化	日本人にはややこしい形容詞の各語尾をゆっくりていねいに解説する。
第 4 回	訳読と理解 4 教材 9 課/形容詞の名詞化	大文字かすれば名詞に早変わり。
第 5 回	訳読と理解 5 教材 10 課/　動詞の三基本形	不定詞・過去基本形・過去分詞。表現の幅がひろがる。
第 6 回	訳読と理解 6 教材 10 課/　過去人称変化	過去形にも人称変化？ しかし。それほどむすがかしくはない。
第 7 回	訳読と理解 7 教材 11 課/　完了形	ドイツ語には完了形が 2 パターンあるのが特徴です。
第 8 回	時事的現代文 1/教材 12 課　関係代名詞 1	関係文はなれるが一番です。構文構造は定冠詞に似ていて単純です。。
第 9 回	時事的現代文 2/教材 13 課 関係代名詞 2	同上
第 10 回	時事的現代文/3 教材 14 課 比較・現在分詞・zu 不定詞	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力にみあった素材をピックアップして使用する。
第 11 回	時事的現代文 4/教材 15 課　受動	ドイツの新聞・ネットの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 12 回	時事的現代文 5/接続法 1	ドイツの新聞・ネット・雑誌その他の記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 13 回	時事的現代文 6/接続法 2	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力量にあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)
第 14 回	期末読解/訳読試験。	後期の配布テキストより出題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読む、練習問題の予習・復習。授業内で示される課題（レポート、問題）にとりくむ。準備学習・復習・宿題としてインターネットなどで検索してみてください。理解を深める一助ともなります。予習復習 60 分。

【テキスト（教科書）】
Deutschland,wie es ist.Masao Kasuga,Jun Matsuzawa,ASAHI VERLAG

【参考書】
授業時に細かく指示しますが、がっつり系として高橋亮介著『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる ドイツ語入門』が、発音もふくめて初学者が手に取るには推薦いたします。教室授業がはじまれば、それほど参考書はと必要としませんが、リモート授業がつづくようであれば、必要になるでしょう。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験/平常授業時の小テスト／レポートを総合評価する。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格。総合評価 80 点以上 A,70 点以上 B,60 点以上を C と判定します。評価要素として定期試験 80 パーセント、提出レポートなど 20 パーセントが目安となる。
By written test.　Comprehensive evaluation of quizzes and reports during regular classes.　Grade evaluation is 100% points, and 60% or more pass. Comprehensive evaluation will be judged as A for 80% or more, B for 70% or more, and C for 60% or more.　As an evaluation factor, 80% of regular examinations and 20% of reports etc. are standard.

【学生の意見等からの気づき】
予習などの平常点として各自のノートも授業内に評価する時間も学期末にもうけます。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備。独和辞書 (電子辞書可)

【その他の重要事項】
出席重視とします。

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
Syntax such as past form, passive voice. Sentences are usually written in the past, which is important knowledge for reading comprehension.

We aim to complete the basics of German beginner's grammar and leading and to be able to understand German up to the intermediate level. For students taking the course, after taking the course. We aim to have the ability to access and understand the information in each area of interest to some extent. After mastering the basic grammar, depending on your will, I would like to open a German "window" to lay the foundation for access to information from Europe and Germany. Students will be able to look up a dictionary and understand some German sentences.To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture. As Preparation and Review 60 minutes in total. Written test (70%). As a normal score, you will be given a grammar + reading comprehension task.(30%)

LANd100LA

ドイツ語２Ｉ

2017 年度以降入学者

三ツ石　祐子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、秋学期の「ドイツ語２-II」と併せて、ドイツ語の基礎を身に付け、最終的には平易なテクストであれば、辞書などを用いて自力で解読できるようになることを目指します。その際、発音のルールを知って、初見のテクストでも音読できるように練習します。また学習したことを応用した会話表現の練習も行います。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
・ドイツ語で挨拶ができる。
・6 桁程度の数を使った計算（足し算・引き算）ができる。
・基本的な発音のルールと綴りの関係が分かる。
・1 週間の予定が言える。
・1 日の出来事を言える。
・カフェで注文や支払いができる。
・辞書の基本的な引き方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・毎回アルファベート、発音練習などを行います。
・パートナー練習やグループワークを行い、文法知識の定着を図ります。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
・提出物などのフィードバックは適宜全体と、必要に応じて各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	Fischers Fritz fischt frische Fische.	「漁師のフリッツは新鮮な魚を獲る」　綴りと音の関係
02	Das ist ein Stift. Der Stift ist schwarz.	「これは鉛筆です。この鉛筆は黒いです」　名詞の性、辞書の引き方
03	Das ist mein schwarzer Stift. Er ist schick.	「これは私の黒い鉛筆です。これは格好いいです」　所有冠詞 1 格、人称代名詞 1 格
04	Am Mittwoch lerne ich Deutsch.	「水曜日にドイツ語の勉強をする」　現在形
05	Am Mittwoch muss ich Deutsch lernen.	「水曜日にドイツ語の勉強をしなくてはなりません」　話法の助動詞（müssen, möchte）
06	Am Mittwoch habe ich Deutsch gelernt.	「水曜日はドイツ語の勉強をしていました」　現在完了形、辞書の引き方
07	Ich habe einen Hund.	「私は犬を一匹飼っています」　（不）定冠詞 4 格
08	Wie findest du meinen Hind? – Ich finde ihn süß.	「私の犬をどう思いますか？ ―可愛い犬だと思います」　所有冠詞 4 格、人称代名詞 4 格
09	Der Hund ist unter dem Tisch.	「テーブルの下に犬がいます。」　場所を表す前置詞（+3 格）
10	Ich schenke ihm einen neuen Ball.	「私は自分の犬に新しいボールを一つあげる」　3 格目的語、人称代名詞 3 格
11	Was kostet das?	「おいくらですか？」　蚤の市で値切ろう！ 値段の言い方、訊き方
12	Ich möchte einen Apfelkuchen.	「リンゴケーキがいいです」　カフェでの注文と支払い
13	Die Jacke gefällt mir.	「この上着が気に入りました」　お気に入りの服を買おう！
14	学期末試験・まとめと解説	春学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・毎授業ごと、予習・復習の課題を出します。必ず音読の練習もしてください。
・授業外でも積極的にドイツ語に触れるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
『新訂・岩崎・平尾・初歩ドイツ文法』　岩崎英二郎／平尾浩三　共編、同学社、2002 年、￥2,000 ＋税

【参考書】
必要に応じて指示します

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・パートナー練習やグループワークなどを含めた授業への積極的参加・課題等）50%と期末試験 50%を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は、クラスの状況により変更されることがあります。
・質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。
メールアドレス： yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
[Course outline]
In this course, together with German 2-II in the autumn term, the aim is to acquire the basics of the German language and eventually to be able to decipher plain texts on your own, using a dictionary. In doing so, they learn the rules of pronunciation and practice reading aloud texts they have never seen before. You will also practice conversational expressions based on what you have learnt. Enjoy the pleasure of reading, writing, listening and speaking German.
[Learning Objectives]
Can greet people in German.
Can perform calculations (addition and subtraction) using numbers of around six digits.
Can understand basic pronunciation rules and spelling relationships.
Can tell the schedule for the week.
Can describe the events of the day.
Can order and pay at a café.
Understand the basic use of dictionaries.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The preparation and review assignments will be given for each class.
Please make sure to practice reading aloud and try to be actively exposed to German outside of class.
[Grading Criteria/Policy]

A comprehensive evaluation is made by combining 50% of normal marks (attendance, active participation in class including partner practice and group work, assignments, etc.) and 50% of the final examination.

LANd100LA

ドイツ語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

三ツ石　祐子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「ドイツ語２-I」の後続授業という位置づけです。春学期に学習したことを踏まえ、引き続きドイツ語の基礎を身に付け、最終的には平易なテクストであれば、辞書などを用いて自力で解読できるようになることを目指します。また発音のルールを知って、初見のテクストでも音読できるように練習します。ドイツ語の読む、書く、聴く、話す楽しみを存分に味わいましょう。

【到達目標】
・ドイツ語で挨拶ができる。
・基本的な発音のルールと綴りの関係が分かる。
・簡単なアドヴァイスができる。
・丁寧な表現で、簡単なお願いができる。
・文構造が分かる。
・辞書の基本的な引き方ができる。
・辞書を使って平易なテクストが読める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・毎回アルファベート、発音練習などを行います。
・パートナー練習やグループワークを行い、文法知識の定着を図ります。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、「対面授業」で行います。
・授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。
・提出物などのフィードバックは適宜全体と、必要に応じて各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	これまでの振り返り	春学期の復習
02	Darf ich dich etwas fragen?	「訊いてもいい？」　話法の助動詞 (dürfen, können, sollen)
03	Trink doch Wasser!	「お水を飲みなさい！」　命令法と接続法
04	Ich habe leider keine Zeit, Bücher zu lessen.	「残念ながら読書する暇がありません」　不定詞の用法、分詞とその用法
05	Berlin ist größer als München.	「Berlin は München より大きいです」　形容詞と副詞の比較表現
06	Er hat sich sehr über dein Geschenk gefreut.	「彼は君からのプレゼントをとても喜んでいました」　再帰代名詞と再帰動詞
07	Ich weiß, dass er heute früh aufgestanden ist.	「私は、彼が今朝早起きしたことを知っています」　従属接続詞を使った副文
08	Der Zug, auf den ich lange warte, kommt immer noch nicht.	「私が長い間待っている列車はまだ来ません」　関係代名詞
09	trinken, trank, getrunken	動詞の三基本形
10	Mein Fahrrad wird repariert.	「私の自転車は修理される」　受動態
11	Es regnet heute.	「今日は雨が降ります」　非人称動詞
12	Wir Wiener Waschweiber würden weiße Wäsche waschen, wenn wir wüssten, wo warmes Wasser wär.	「どこにお湯があるのかもし知っていたなら、私たちウィーンの洗濯女は白い洗濯物を洗うのですが」　接続法の用法
13	文学作品（短編小説）を読む	辞書を引きながら、できる限り自力で読む
14	学期末試験・まとめと解説	秋学期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・毎授業ごと、予習・復習の課題を出します。必ず音読の練習もしてください。
・授業外でも積極的にドイツ語に触れるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】
『新訂・岩崎・平尾・初歩ドイツ文法』　岩崎英二郎／平尾浩三　共編、同学社、2002 年、￥2,000+税

【参考書】
必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席・パートナー練習やグループワークなどを含めた授業への積極的参加・課題等）50%と期末試験 50%を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は、クラスの状況により変更されることがあります。
・質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先でも随時受け付けます。
メールアドレス： yuko.mitsuishi.2x@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
[Course outline]
This course is positioned as a follow-up to German 2-I in the spring semester. The aim is to build on what has been learned in the spring semester and to continue to acquire the basics of the German language, eventually being able to decipher plain texts on their own using a dictionary. You will also learn the rules of pronunciation and practice reading aloud texts that are new to you. Enjoy the pleasure of reading, writing, listening and speaking German.
[Learning Objectives]
Can greet people in German.
Can understand basic pronunciation rules and spelling relationships.
Can give simple advice.
Can make simple requests in a polite manner.
Understand sentence structure.
Understand the basic use of dictionaries.
Can read simple texts using a dictionary.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The preparation and review assignments will be given for each class.
Please make sure to practice reading aloud and try to be actively exposed to German outside of class.
[Grading Criteria/Policy]

A comprehensive evaluation is made by combining 50% of normal marks (attendance, active participation in class including partner practice and group work, assignments, etc.) and 50% of the final examination.

LANd100LA

ドイツ語 (1) I

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として教科書にそって進めます。原則としてひとつの課を 2 週かけて学びます。あらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題を通じて理解度の向上を図ります。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden ／並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化（III）／命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』第 5 版、郁文堂、2022 年。

【参考書】
辞書については授業時にお話します。紙の辞書を推奨します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 %
授業への積極的な参加・予習の具合： 40 %
以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語 (１) Ⅱ

2017 年度以降入学者

遠藤　浩介

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 1/Fri.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】
・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として教科書にそって進めます。原則としてひとつの課を 2 週かけて学びます。あらかじめ所定の範囲を予習していただき、授業では予習内容を確認してから練習問題を通じて理解度の向上を図ります。授業中に課題をこなす場合には、必要に応じてグループワークやペアワークを取り入れます。予習課題は授業中に答え合わせをし、提出課題は添削後、返却します。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、発音	発音の規則、数詞など
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden ／並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化（III）／命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』第 5 版、郁文堂、2022 年。

【参考書】
辞書については授業時にお話します。紙の辞書を推奨します。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 %
授業への積極的な参加・予習の具合： 40 %
以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
(Course outline)
This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.
(Learning Objectives)
The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.
(Grading Criteria /Policy)
Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語（2）I

2017 年度以降入学者

平松　英人

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では初級総合教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】
1 年間の授業を通じて完了形までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を理解する能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力と、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行う。使用する教科書は 12 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章、リスニング練習から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読み、リスニング力を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 0	イントロダクション ドイツ語の発音
2	Lektion 1	挨拶・自己紹介 1 動詞の現在人称変化 I 1 人称・2 人称
3	Lektion 1	挨拶・自己紹介 2 動詞の現在人称変化 II 3 人称・動詞の位置
4	Lektion 2	職業・国籍を尋ねる 1 sein の 1 人称と 2 人称 並列の接続詞
5	Lektion 2	職業・国籍を尋ねる 2 ja/nein/doch の使い方
6	Lektion 3	友達の紹介 1 動詞の現在人称変化
7	Lektion 3	友達の紹介 2 形容詞・数詞
8	Lektion 1-3	これまでのまとめと確認テスト
9	Lektion 4	レストランでの会話 1 名詞の性と定冠詞・不定冠詞 4 格目的語をとる動詞
10	Lektion 4	レストランでの会話 2 不規則動詞の現在人称変化 I 副詞
11	Lektion 5	住まい・家具 1 人称代名詞
12	Lektion 5	住まい・家具 2 名詞の複数形
13	Lektion 6	家族 所有冠詞と否定冠詞
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子、正木晶子、中野有希子著『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで
学ぶドイツ語』朝日出版社、2019 年、2,970 円（税込み）、ISBN978-4-255-25422-7

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
中間の確認テストと期末テストの得点を 60 %、平常点を 40 %の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
ブレークアウトセッションを用いたグループワークなど、対面授業よりも高い学習効果が期待でる場合には、授業の進度と学生の理解度を考慮しながら、適宜（2 回程度）オンライン授業を実施する場合がある。オンライン授業には Zoom を利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline (in English)】
In this course, we use a textbook for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.
Learning Objectives: At the end of this course students gain basic communication skills to reach A2 level.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend 1 hour to review the last lesson as well as prepare for the next lesson.
Grading Criteria: Overall grade in this course will be decided based on the following:
Homework and performance in class: 40%
Midterm and final exams: 60%

LANd100LA

ドイツ語 (2) Ⅱ

2017 年度以降入学者

平松　英人

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では初級総合教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】
1 年間の授業を通じて現在完了形までの初級文法を学びながら、基本的なドイツ語を理解する能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力と、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行う。使用する教科書は 12 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章、リスニング練習から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話や読章、リスニング練習に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	趣味 1 不規則動詞の現在人称変化 II
2	Lektion 7	趣味 2 頻度の表現・曜日
3	Lektion 8	贈り物 1 所有冠詞と人称代名詞（3 格）
4	Lektion 8	贈り物 2 数詞（101～）
5	Lektion 9	予定の取り決め 1 話法の助動詞
6	Lektion 9	予定の取り決め 2 未来形
7	Lektion 7-9	これまでのまとめと確認テスト
8	Lektion 10	町の中で・道案内 1 時・場所を表す前置詞
9	Lektion 10	町の中で・道案内 2 交通手段
10	Lektion 11	時刻表現 1 分離動詞
11	Lektion 11	時刻表現 2 1 日の行動
12	Lektion 12	旅行・週末 1 現在完了形 四季・月名
13	Lektion 12	旅行・週末 2 過去の出来事を話す 天候
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
新倉真矢子、正木晶子、中野有希子著『シュピッツェ！ 1 コミュニケーションで
学ぶドイツ語』朝日出版社、2019 年、2,970 円（税込み）、ISBN978-4-255-25422-7

【参考書】
必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
中間の確認テストと期末テストの得点を 60 %、平常点を 40 %の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
ブレークアウトセッションを用いたグループワークなど、対面授業よりも高い学習効果が期待でる場合には、授業の進度と学生の理解度を考慮しながら、適宜（2 回程度）オンライン授業を実施する場合がある。オンライン授業には Zoom を利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline (in English)】
In this course, we use a textbook for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.
Learning Objectives: At the end of this course students gain basic communication skills to reach A2 level.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend 1 hour to review the last lesson as well as prepare for the next lesson.
Grading Criteria: Overall grade in this course will be decided based on the following:
Homework and performance in class: 40%
Midterm and final exams: 60%

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

熊田　泰章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語１」と「ドイツ語３」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテクストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。１年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則
2	Lektion1A ：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？あいさつの表現
3	Lektion1A ：発音の規則、動詞の現在人称変化（１）、定動詞と不定詞（１）	自己紹介（１）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞
4	Lektion1B ：発音の規則、動詞の現在人称変化（２）、定動詞と不定詞（２）、定動詞の位置と語順（１）	自己紹介（２）、自分の職業を言う
5	Lektion2A ：名詞の性と格（１）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する
6	Lektion2B ：名詞の性と格（２）、「否定冠詞と所有冠詞」（１）	自分の家族について話す（１）
7	Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（２）、ja/nein/doch の使い方	自分の家族について話す（２）
8	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（１）	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（１）
9	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（２）、３格目的語の使い方	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（２）
10	Lektion3B ：定冠詞類、人称代名詞の３・４格（１）	旅行の計画をたてる（１）
11	Lektion3B ：人称代名詞の３・４格（２）、目的語の語順	旅行の計画をたてる（２）
12	Lektion4A ：前置詞（１）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（１）
13	Lektion4A ：前置詞（２）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（２）
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語２（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラーセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute beginners, exclusively for participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universtät-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each
class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

LANd100LA

ドイツ語３

2017 年度以降入学者

熊田　泰章

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ語１」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SA ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語１」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ１年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A ：前置詞（３）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」ことと「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B ：枠構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（１）、話法の助動詞を使う、そのココロを理解する
4	Lektion4B ：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（２）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A ：動詞の３基本形、現在完了形（１）	夏休みには何をしたの？（１）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（３）
6	Lektion5A/B ：現在完了形（２）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（２）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（４）
7	Lektion5B ：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A ：受動態（１）	誕生日という大切な日について（１）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	Lektion6A ：受動態（２）	誕生日という大切な日について（２）、状態受動の意味
10	Lektion6B ： zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る
11	Lektion7A ：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（１）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A ：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（２）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B ：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？、他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかり理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テクストはどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 35 %、小テスト（単語テスト）や提出物 30 %、学期末試験 35 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語４（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラーセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute beginners, exclusively for participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universtät-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each
class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(35%), short tests(30%) and term-end examination (35%)

LANd100LA

ドイツ語２

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金 4**/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語１」と「ドイツ語３」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテクストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。１年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル１」の場合は対面授業で、「レベル２」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。
・LMS として、Hoppii と Google Classroom を使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政 G メールをチェックしてください。
・授業内で行われた質問のアウトプットに対しては、授業の場で回答・コメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則 1、
2	Lektion1A ：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？あいさつの表現
3	Lektion1A ：発音の規則、動詞の現在人称変化（１）、定動詞と不定詞（１）	自己紹介（１）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞
4	Lektion1B ：発音の規則、動詞の現在人称変化（２）、定動詞と不定詞（２）、定動詞の位置と語順（１）	自己紹介（２）、自分の職業を言う
5	Lektion2A ：名詞の性と格（１）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（１）
6	Lektion2B ：名詞の性と格（２）、「否定冠詞と所有冠詞」（１）	自分の家族について話す（１）
7	Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（２）、ja/nein/doch の使い方	自分の家族について話す（２）
8	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（１）	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（１）
9	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（２）、３格目的語の使い方	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（２）
10	Lektion3B ：定冠詞類（１）、人称代名詞の３・４格（１）	旅行の計画をたてる（１）
11	Lektion3B ：人称代名詞の３・４格、目的語の語順	旅行の計画をたてる（２）
12	Lektion4A ：前置詞（１）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（１）
13	Lektion4A ：前置詞（２）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（２）
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。
・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル２」以上の場合、リアルタイム型オンライン授業（Zoom）となります。お手元に WiFi が利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PC のどれか）、また大学構内で受講する場合はイヤホン（マイク付きヘッドセット）も用意してください。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語１（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラーセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

・随時、法政 G メールと学習支援システム（LMS/Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

【Outline (in English)】
German course for absolute Beginners, exclusively for Participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universtät-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary Grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
· To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
· Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
· Able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
· There are prescribed preparation and review tasks.
· Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
· In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of end-of-term assignments (tests).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd100LA

ドイツ語４

2017 年度以降入学者

林　志津江

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ語１」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SA ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語１」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ１年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル１」の場合は対面授業で、「レベル２」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。
・LMS として、Hoppii と Google Classroom を使用します。
・連絡手段として、学期を通じ法政 G メールをチェックしてください。
・授業内で行われた質問のアウトプットに対しては、授業の場で回答・コメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A ：前置詞（３）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」ことと「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B ：枠構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（１）、話法の助動詞を使う、そのココロを理解する
4	Lektion4B ：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（２）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A ：動詞の３基本形、現在完了形（１）	夏休みには何をしたの？（１）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（３）
6	Lektion5A/B ：現在完了形（２）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（２）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（４）
7	Lektion5B ：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A ：受動態（１）	誕生日という大切な日について（１）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	Lektion6A ：受動態（２）	誕生日という大切な日について（２）、状態受動の意味
10	Lektion6B ： zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る（１）
11	Lektion7A ：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（１）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A ：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（２）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B ：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？ 他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかり理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テクストはどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 35 %（外部試験の受験結果含）、小テスト（単語テスト）や提出物 30 %、学期末試験 35 %を合わせ、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。
・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル２」以上の場合、リアルタイム型オンライン授業（Zoom）となります。お手元に WiFi が利用可能なデジタルガジェット（スマートフォン、タブレット、PC のどれか）、また大学構内で受講する場合はイヤホン（マイク付きヘッドセット）も用意してください。

【その他の重要事項】
・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語４（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラーセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。
・ハイフレックス型授業が必要な状況で、かつ機能しない場合はまた手段を考えます。随時メールと LMS（Hoppii、Google Classroom）を確認するようにしてください。

・履修者には、2023 年 12 月実施予定の「ドイツ語技能検定試験」（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）、2023 年度中に実施されるドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）ないしオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）の試験からどれか 1 つ以上を受験してもらいます（Goethe Zertifikat については割引料金適応）。受験級はそれぞれの学習段階にふさわしいものを選んでください。受験結果は上記「成績評価の方法と基準」のうち「授業への積極的な参加（35 %）」に加算されます（2024 年 1 月 25 日までに担当者に通知されたものに限る）。以上の受験費用は自己負担ですが、難しい場合はぜひ担当者に相談してください。
・感染症レベルが「レベル 1 」の場合、フィールドワークとして、12 月に都内で実施される「クリスマスマーケット」（ドイツ観光局）を訪問する予定です。

【Outline (in English)】
German course for Beginners, exclusively for Participants of "German 1 (SA)" 2019SS as well as of the SA-Program in Germany (Leuphana Universtät-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces, continuing from the "German 1 (SA)", elementary Grammar, vocabulary and communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
· To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
· Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
· Able to write texts of a certain length in German.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
· The standard preparation and revision time for this course is at least one hour each.
· There are prescribed preparation and review tasks.
· Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
· In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.
【Grading criteria】
The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of end-of-term assignments (tests).
On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd100LA

ドイツ語５

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this course is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills as well as communicative competence. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPII を通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面/face to face	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
対面/face to face	Begruessen und vorstellen 1 - du, Sie	einfache Phrasen
対面/face to face	Begruessen und vorstellen 2	einfache Phrasen, Verbkonjugation im Singular
対面/face to face	Laender, Sprachen	Idiomatik in Fragen und Antworten
対面/face to face	Berufe	Ja-/Nein-Fragen, W-Fragen
対面/face to face	Zahlen von 0 bis 100	einfache Zahlenanwendungen
対面/face to face	Deutsche Woerter?	Feminin - Maskulin - Neutrum
対面/face to face	Zahlen bis 1000	Telefonnummern, Hausnummern
対面/face to face	Informationen zur Person	Alphabet, Buchstabieren
対面/face to face	Auf der Meldestelle	Formulare auf Behoerden
対面/face to face	Einladung zum Kaffeetrinken	Verbkonjugation im Plural
対面/face to face	Was ist wo in unserem Buch?	bestimmter/unbestimmter/negativer Artikel
対面/face to face	Essen und Trinken	Nominativ und Akkusativ
対面/face to face	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Phrasen, Artikel, grammtisches Geschlecht, Kasus

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You need to prepare for and revise every lesson. There will be assigmnments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell , Lektion 1-4

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
There will a test after every unit, which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitiude account for 40%.
Make sure to always arrive on time.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
Students will get regular homework based on the Arbeitsbuch. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd100LA

ドイツ語６

2017 年度以降入学者

Annette　Gruber

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The focus of this course is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills as well as communicative competence. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】
当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。
コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。
授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPII を通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Laender in Zahlen	Zahlen ueber 1000
3	Im Moebelhaus	Dinge bewerten: Adjektive, Adverbien
4	Haushaltsgeraete	Artikel im Nominativ und Akkusativ
5	Gespraeche im Kaufhaus	Definitpronomen
6	Gebrauchte Sachen	Zeit- und Mengenangaben
7	Beim neunten Nein kommen die Traenen	Text ueber Einkaufen mit Kindern & Diskussion
8	Einkaufen im Supermarkt	idiomatische Phrasen
9	Gespraeche mit Gaesten	idiomatische Phrasen
10	Tipps und Ratschlaege	Imperativ
11	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
12	Hobbys	Praepositionen mit Dativ und Akkusativ
13	Verabredungen	Idiomatik in typischen Situationen
14	Wiederholung und Zusammenfassung	Syntax, Phrasen, Wortschatz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You need to prepare for and revise every lesson. There will be assigmnments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

【テキスト（教科書）】
Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】
自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】
There will be a test after each unit, which accounts for 60%.
Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.
Make sure to always arrive on time.

【学生の意見等からの気づき】
学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】
In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.
Students will get regular homework based on the Arbeitsbuch. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.
Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd100LA

ドイツ語１

2017 年度以降入学者

熊田　泰章

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。この「ドイツ語１」と「ドイツ語３」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテクストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。１年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベートと発音の規則
2	Lektion1A ：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？あいさつの表現
3	Lektion1A ：発音の規則、動詞の現在人称変化（１）、定動詞と不定詞（１）	自己紹介（１）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞
4	Lektion1B ：発音の規則、動詞の現在人称変化（２）、定動詞と不定詞（２）、定動詞の位置と語順（１）	自己紹介（２）、自分の職業を言う
5	Lektion2A ：名詞の性と格（１）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（１）
6	Lektion2B ：名詞の性と格（２）、「否定冠詞と所有冠詞」（１）	自分の家族について話す（１）
7	Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（２）、ja/nein/doch の使い方	自分の家族について話す（２）
8	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（１）	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（１）
9	Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（２）、３格目的語の使い方	自分が今やっていることを説明する、人を招待する（２）
10	Lektion3B ：定冠詞類（１）、人称代名詞の３・４格（１）	旅行の計画をたてる（１）
11	Lektion3B ：人称代名詞の３・４格（２）、目的語の語順	旅行の計画をたてる（２）
12	Lektion4A ：前置詞（１）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（１）
13	Lektion4A ：前置詞（２）	友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（２）
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute beginners. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

LANd100LA

ドイツ語３

2017 年度以降入学者

熊田　泰章

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「ドイツ語１」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】
第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語１」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ１年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテクストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テクストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。
授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A ：前置詞（３）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」ことと「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B ：枠構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（１）、話法の助動詞を使う、そのココロを理解する
4	Lektion4B ：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（２）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A ：動詞の３基本形、現在完了形（１）	夏休みには何をしたの？（１）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（３）
6	Lektion5A/B ：現在完了形（２）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（２）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（４）
7	Lektion5B ：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A ：受動態（１）	誕生日という大切な日について（１）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ ドイツ語の基本的な発想を理解する（５）
9	Lektion6A ：受動態（２）	誕生日という大切な日について（２）、状態受動の意味
10	Lektion6B ： zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る（１）
11	Lektion7A ：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（１）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A ：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（２）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B ：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？、他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかり理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テクストはどれも必ず音読しましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】
独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】
授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】
【Course outline】
German course for absolute beginners. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.
【Learning Objectives】
At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

LANd100LA

ドイツ語２

2017 年度以降入学者

Schmidt　Ute

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】
受講者は以下のことができるようになります。
1）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
2）基本的な文法事項を習得する。
3）辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
4）自分でも簡単な文章が書ける。
5）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
6）想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。
練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン時辞書は不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	自己紹介
	Herzlich	アルファベット
	Willkommen	人称変化　sein
2	好きなもの	人称変化　mögen
	Dinge, die ich mag	ja/nein Fragen
3	Name, Adresse,	職業
	Beruf	数字０－１０００
		人称変化２
4	Formulare	複数
		前置詞 aus, bei, in, als
5	Panorama I	Auf der Berlinale
		ベルリン国際映画祭
6	Was ist das?	Dinge im Kursraum
		人称代名詞
		定冠詞・不定冠詞
7	Wie ist das ?	Dinge beschreiben
	Fragen im	形容詞
	Kursraum	
8	Shoppen	Einkaufsdialoge
		格変化 4 格　Akkusativ
9	Shoppen in der	Informationen über eine Stadt
	Stadt	verstehen
		動詞の現在人称変化
		haben/möchten
		Blog を書く
10	Panorama II	Präsentation
	Die Leipziger	Shoppen in meiner Stadt
	Fußgängerzone	
11	Tanzen oder	Freizeitaktivitäten
	Wandern?	不規則動詞変化
12	Freizeit und Alltag	Wochentage und Jahreszeiten
		分離動詞
13	Endlich Urlaub	Über Urlaubspläne sprechen
		月
		前置詞
		助動詞の使い方
14	試験	まとめ、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Teilband 1
ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120472-3
Cornelsen Verlag

【参考書】
『知ってほしい国　ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著　高文研　2017 年　￥1700 ＋税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著　白水社　2005 年　￥1400 ＋税

【成績評価の方法と基準】
小テスト 2 回 (20%) 、授業への参加態度 (40%)、宿題 (20%)、プレゼンテーション (20%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Online 練習問題、資料配布、課題などには学習支援システムを利用しますので PC などが必要です。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation (40%), homework (20%), 2 tests (20%), presentation (20%).

LANd100LA

ドイツ語４

2017 年度以降入学者

Schmidt　Ute

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】
受講者は以下のことができるようになります。
1）発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
2）基本的な文法事項を習得する。
3）辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
4）自分でも簡単な文章（が書ける。
5）想定された場面における基本的な口語表現が聞き取る。
6）想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現したりする練習を重ねます。
練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書不可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Über die Sommerferien sprechen	Präteritum sein sein　の過去形 Perfekt 現在完了形 I
3	Familie und Freunde　I	Geburtstagsfeier 所有冠詞 序数
4	Familie und Freunde　II	Sprachen und Nationalitäten 人称代名詞 4 格
5	Panorama　III	Die Alpen in Österreich
6	Kaffee oder lieber Schokolade?	Mengenangaben Speisekarte 食べ物について話す
7	Auf dem Markt	Einkaufsdialoge 助動詞
8	Termine, Termine	Uhrzeit 時間を表す 時間の前置詞 Tagesablauf
9	Termine machen	Sich verabreden 約束をする 助動詞　können
10	Panorama IV	Auf dem Viktualienmarkt
11	Mit dem Auto oder zu Fuß	Verkehrsmittel 前置詞と 3 格
12	Geradeaus und dann links	Wegbeschreibung 場所と方向を表す前置詞
13	Feste feiern	Weihnachten 年末行事について話す
14	プレゼンテーション	発表 ドイツ語圏を旅する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Panorama Deutsch als Fremdsprache
A1: Kursbuch Teilband 1
ISBN/Verlag: ISBN　978-3-06-120472-3
Cornelsen Verlag

【参考書】
『知ってほしい国　ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著　高文研　2017 年　￥1700 ＋税
『ドイツ語のしくみ』清野智昭著　白水社　2005 年　￥1400 ＋税

【成績評価の方法と基準】
小テスト 2 回 (20%)、授業への参加態度 (40%)、宿題 (20%)、プレゼンテーション (20%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
Online 練習問題、資料配布、課題などには学習支援システムを利用しますので PC などが必要です。

【その他の重要事項】
「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】
In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.
Grading will be decided based on class participation (40%), homework (20%), 2 tests (20%), presentation (20%).

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。
この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、高校までにならった英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】
今学期の授業では、
・ドイツ語の発音の基礎
・規則動詞および不規則動詞の人称変化
・名詞の格および冠詞
・人称代名詞
・前置詞
・話法の助動詞および未来・推量の助動詞
について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行います。
授業内で課題を解きます。またノートや練習問題の解答を提出することを平常点評価のために求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットおよびドイツ語の発音	ドイツ語のアルファベットおよび母音の発音練習
2	ドイツ語の発音および人称代名詞と動詞の現在人称変化の解説	ドイツ語の子音の発音練習 人称代名詞の 1 格の導入 動詞の現在人称変化についての解説
3	人称代名詞と動詞の現在人称変化の問題演習	人称代名詞の 1 格および動詞の現在人称変化についての練習問題を解く 練習問題について解説
4	名詞の性と格の解説	名詞の性と格の概念を解説 定冠詞と不定冠詞の格変化の解説
5	名詞の性と格の解説および問題演習	複数形の解説 名詞の格および性についての練習問題を解く 練習問題について解説
6	不規則変化動詞の現在人称変化	不規則変化動詞の現在人称変化の解説と問題演習
7	前置詞の解説	3 格支配の前置詞の解説 4 格支配の前置詞の解説
8	前置詞の解説と問題演習	3・4 格支配の前置詞について解説 前置詞についての練習問題を解く 練習問題について解説する
9	定冠詞類と不定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類について解説
10	定冠詞類と不定冠詞類の改札と問題演習	定冠詞類と不定冠詞類について解説 定冠詞類と不定冠詞類についての練習問題を解く 練習問題について解説する 練習問題の解説
11	人称代名詞の解説と問題演習	人称代名詞についての解説 人称代名詞について練習問題を解く 練習問題の解説
12	話法の助動詞の解説	話法の助動詞についての解説
13	未来・推量の助動詞の解説と問題演習	未来・推量の助動詞についての解説 話法の助動詞と未来・推量の助動詞の練習問題を解く 練習問題の解説
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題となる課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】
櫻井麻美
『アイレ・ミット・ヴァイレ：会話ではじめるドイツ語文法』
（三修社、2023 年）

【参考書】
独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題の提出および授業内での質問やコメントなどの積極的参加具合）:50%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器は、オンライン授業になる可能性がありますので準備しておいてください。Zoom のインストールをお願いします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students shall learn pronunciation and the basic grammar of the German language.
【Learning Objectives】
Students shall master the basic grammar in German.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 1 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + final exam (50%)

LANd100LA

ドイツ語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

上田　知夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ドイツ語の発音と初級文法の習得を目的として設定します。
この授業でドイツ語を学ぶことで、外国語を一から学ぶ方法を習得することができます。また日本語とも英語とも違う発想方を習得するために、高校までにならった英文法との比較も積極的に行います。

【到達目標】
今学期の授業では、
・分離動詞・非分離動詞
・接続詞
・過去形
・受動態
・再帰代名詞・再帰動詞
・zu 不定詞
・形容詞の格変化と比較表現
・関係代名詞・関係副詞
・命令形
・接続法
について習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行います。
授業内で課題を解きます。またノートや練習問題の解答を提出することを平常点評価のために求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分離動詞・非分離動詞の解説	分離動詞・非分離動詞を解説する
2	接続詞の解説および問題演習	接続詞を解説する 分離動詞・非分離動詞、接続詞の練習問題を解く 練習問題を解説する
3	動詞の 3 基本形の解説	動詞の 3 基本形の解説
4	現在完了の解説および問題演習	現在完了を解説する 動詞の 3 基本形、現在完了の練習問題を解く 練習問題を解説する
5	過去形と受動態の解説	過去形を解説する
6	受動態の解説と問題演習	受動態を解説する 過去形と受動態の練習問題を解く 練習問題を解説する
7	再帰代名詞・再帰動詞の解説	再帰代名詞・再帰動詞を解説する
8	zu 不定詞の解説と問題演習	zu 不定詞を解説する 再帰代名詞・再帰動詞、zu 不定詞の練習問題を解く 練習問題を解説する
9	形容詞の核変化の解説	形容詞の格変化を解説する
10	比較表現の解説と問題演習	比較表現の解説をする 形容詞の格変化、比較表現の練習問題を解く 練習問題を解説する
11	関係代名詞・関係副詞の解説	関係代名詞および関係副詞を解説する
12	命令形の解説と問題演習	動詞の命令形を解説する 関係代名詞・関係副詞、命令形の練習問題を解く 練習問題を解説する
13	接続第 2 式の解説と問題演習	接続法第 2 式を解説し練習問題を解く 練習問題を解説する
14	期末試験・まとめと解説	全体を試験範囲とした試験を実施し、その後試験問題を解説しつつまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。復習を中心に据えて行ってください。特に宿題となる課題の提出状況を重視します。

【テキスト（教科書）】
櫻井麻美
『アイレ・ミット・ヴァイレ：会話ではじめるドイツ語文法』
（三修社、2023 年）

【参考書】
独和辞典
どの出版社のものでも構いませんが、独和辞典を所有していない方は、
『アクセス独和辞典』（三修社）
『大独和辞典』（小学館）
などを入手してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題の提出および授業内での質問やコメントなどの積極的参加具合）:50%
期末試験： 50%

【学生の意見等からの気づき】
高校英語との異同（異なる部分を中心に）を積極的に説明します。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器は、オンライン授業になる可能性がありますので準備しておいてください。Zoom のインストールをお願いします。

【Outline (in English)】
【Course outline】
In this class, students shall learn pronunciation and the basic grammar of the German language.
【Learning Objectives】
Students shall master the basic grammar in German.
【Learning activities outside of classroom】
Students have to learn at least 1 hour outside of class each week.
【Grading Criteria /Policy】
Participation and homework (50%) + final exam (50%)

LANd100LA

ドイツ語 1 - Ⅰ

2017 年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。
この授業は木曜日の「ドイツ語 2-Ⅰ」と密接に連携して授業します。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。
文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。
春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の「ドイツ語 2-Ⅰ」と密接に連携して授業します。
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。
文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット、発音とアクセントについて。
第 2 回	動詞の現在人称変化（1）	人称代名詞、動詞の位置について。
第 3 回	動詞の現在人称変化（2）・並列の接続詞	基本動詞 (sein, haben, werden)、並列の接続詞について。
第 4 回	冠詞（1）	定冠詞、不定冠詞について。
第 5 回	冠詞（2）、名詞の複数形	否定冠詞、名詞の複数形について。
第 6 回	人称代名詞	人称代名詞の 1・3・4 格について。
第 7 回	中間テスト	第 1〜第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	冠詞類（1）	定冠詞類、男性弱変化名詞について。
第 9 回	冠詞類（2）	不定冠詞類について。
第 10 回	動詞の現在人称変化（3）	不規則動詞の現在人称変化、命令形について
第 11 回	数字・序数・日付・時刻	数の数え方と使い方などについて。
第 12 回	話法の助動詞（1）	話法の助動詞と人称変化・位置について。
第 13 回	話法の助動詞（2）・未来形	話法の助動詞の用法、未来形について。
第 14 回	期末試験	春学期に学んだ内容について試験します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。
夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】
書名：『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』
著者：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子
出版社：郁文堂　ISBN ： 978-4-261-01276-7
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』
著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著
出版社：白水社　ISBN ： 978-4-560-00492-0
必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 (30%)、中間テスト (15%)、学期末テスト (55%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

【その他の重要事項】
テキストは必ず第 1 回授業の時までに準備すること。独和辞書も必要になるのでできるだけ早く用意すること。

【Outline (in English)】
German Course for Beginners (A1 Level)
This class will be a relay class with "German 2-I" on Thursday.
This is a year-long course to learn elementary grammar and acquire the basics of the German language. Emphasis is placed not only on grammar, but also on learning vocabulary and various expressions through practice exercises.
Homework will be assigned each time. There will also be a quiz at the beginning of each class to check the content of the previous class. The standard preparation and review time for this class will be one hour in total.
Handouts will be provided for students to practice during the summer vacation.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation such as submission of assignments (20%), mid-term test (40%), end-of-term test (40%

LANd100LA

ドイツ語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

辻　英史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。
木曜 1 限の「ドイツ語 2-Ⅱ」と緊密に連携しながら進めていきます。

【到達目標】
一年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。
秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の「ドイツ語 2-Ⅱ」と連動して進めていきます
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につくように、手と口とアタマを働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。
文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を復習します。
第 2 回	前置詞	前置詞の用法について。
第 3 回	再帰代名詞・再帰動詞	再帰代名詞と再帰動詞について。
第 4 回	分離動詞・非分離動詞	分離動詞と非分離動詞について。
第 5 回	zu 不定詞・従属の接続詞	zu 不定詞、従属の接続詞について。
第 6 回	中間テスト	第 2～第 5 回の内容を確認します。
第 7 回	動詞の 3 基本形（1）	過去形について
第 8 回	動詞の 3 基本形（2）	現在完了形について
第 9 回	受動態	受動態について
第 10 回	形容詞	形容詞の格変化・名詞化について
第 11 回	比較変化	形容詞・副詞の比較級・最上級とその用法について
第 12 回	関係代名詞	定関係代名詞、指示代名詞、関係副詞について
第 13 回	接続法	接続法の人称変化と時制、使い方について
第 14 回	学期末テスト	1 年間に習ったすべての内容について試験します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。
冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】
書名：『ゲナウ！ グラマティック　ノイ』
著者：新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子
出版社：郁文堂　ISBN ： 978-4-261-01276-7
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』
著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著
出版社：白水社　ISBN ： 978-4-560-00492-0
必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加 (30%)、中間テスト (15%)、学期末テスト (55%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を使用します。また、練習問題の解答などはモニターに映します。

【その他の重要事項】
独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline (in English)】
German Course for Beginners (A1 Level)
This class will be a relay class with "German 2-II" on Thursday.
This is a year-long course to learn elementary grammar and acquire the basics of the German language. Emphasis is placed not only on grammar, but also on learning vocabulary and various expressions through practice exercises.
Homework will be assigned each time. There will also be a quiz at the beginning of each class to check the content of the previous class. The standard preparation and review time for this class will be one hour in total.
Handouts will be provided for students to practice during the winter and the spring vacation.
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Class participation such as submission of assignments (30%), mid-term test (15%), end-of-term test (55%)

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めて学ぶドイツ語という言語について、発音のルール、簡単な表現や基礎的な文法事項を体系的に学習していきます。辞書の使い方を学び、挨拶や自己紹介などの簡単な表現ができるようになることを目指します。

【到達目標】
ドイツ語を学ぶ上で重要な基本事項として、（1）動詞の人称変化、（2）名詞の性・数・格（変化）が挙げられます。授業および自主学習を通じて、主語に応じて動詞を変化させ、動詞に応じて目的語等を適切に格変化させて、ドイツ語の文を作ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。
本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各回の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。
また、辞書は必ず毎回持参してください。授業内で辞書の使い方も練習します。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、Google 翻訳や DeepL 翻訳などオンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einführung	アルファベット，発音，あいさつ
2	Lektion 1A	動詞の現在人称変化
3	Lektion 1B	sein と haben の現在人称変化
4	Lektion 2A	名詞の性と冠詞，冠詞と名詞の格変化
5	Lektion 2B	所有冠詞
6	Lektion 2B	否定冠詞
7	Lektion 3A	動詞の現在人称変化（不規則）
8	Lektion 3A	命令・依頼の表現
9	Lektion 3B	定冠詞類の格変化，人称代名詞の格変化
10	Lektion 3B	wer と was の格変化
11	Lektion 4A	前置詞
12	Lektion 4A	前置詞
13	Lektion 4B	話法の助動詞，分離動詞
14	試験・まとめと解説	春学期に学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。
日頃から辞書を引く癖をつけましょう。

【テキスト（教科書）】
新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社，２０１９年.
（２４００円＋税）

【参考書】
中島悠爾ほか：『改訂版　必携ドイツ文法総まとめ』白水社.

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加（質問、自発的な発言等） 20%
・単語小テスト 20%
・中間試験 30%
・学期末試験 30%
以上を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（電子辞書やアプリも OK）を必ず持参してください。Google 翻訳や DeepL などのオンライン無料辞書では対応できない課題があるので使用しないこと。
・課題等の提出については基本的に学習支援システム Hoppii を用います。
・また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoom を用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
・分からないことを分からないまま放置せずに積極的に質問してください。
・「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。
・特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。無断欠席が 4 回を超えた場合、評価対象外となります。
・休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】
Course outline:
This is an introductory class of German language for first-year students.　Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.
Learning Objectives:
Students will be able to understand the basic usage of verbs and nouns.
Students will be able to use simple expressions in German.
Learning activities outside of classroom:
The total time required for preparation and revision for the class is one hour.
Students should review what they have learnt on the day.
Students should get into the habit of using a dictionary on a regular basis.
Grading Criteria /Policy:
Students are assessed on the basis of their active participation and contribution to the class (20%), the results of a vocabulary test (20%) , midterm and final examination (60%).

LANd100LA

ドイツ語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

丸山　達也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に引き続き、ドイツ語の基本的な事項を学んでいきます。春学期よりも豊かで多様な表現を身につけていきます。

【到達目標】
現在形以外の時制、接続詞や形容詞の使用など、春学期よりも豊かな表現を読解し、また自分でもアウトプットできるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。
本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各界の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。
また、辞書は必ず毎回持参してください。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、Google 翻訳や DeepL 翻訳などオンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	春学期のおさらい
2	Lektion 5A	動詞の３基本形
3	Lektion 5A	現在完了
4	Lektion 5B	過去人称変化
		動詞の 3 基本形テスト
5	Lektion 5B	接続詞と副文
		動詞の 3 基本形テスト
6	Lektion 6A	受動文，序数・日付
7	Lektion 6B	非人称の es，zu 不定詞句
8	中間テスト	形容詞の格変化
	Lektion 7A	
9	Lektion 7A	形容詞の比較級・最上級
10	Lektion 7B	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 8A	関係文（１）
12	Lektion 8A	関係文（２）
13	Lektion 8B	接続法
14	学期末試験	秋学期で学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。
語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。
日頃から辞書を引く癖をつけましょう。

【テキスト（教科書）】
新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社，2019 年.
（２４００円＋税）

【参考書】
中島悠爾ほか：『改訂版　必携ドイツ文法総まとめ』白水社.

【成績評価の方法と基準】
・授業への積極的な参加（質問、自発的な発言等） 20%
・単語小テスト 20%
・中間試験 30%
・学期末試験 30%
以上を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
・独和辞典（電子辞書やアプリ版も OK）を必ず持参してください。Google 翻訳や DeepL などのオンライン無料辞書では対応できない課題があるので使用しないこと。
・課題等の提出については基本的に学習支援システム Hoppii を用います。
・また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoom を用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】
・分からないことを分からないまま放置せずに積極的に質問してください。
・「授業計画」は、授業の進度などにより変更する可能性があります。
・特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。無断欠席が 4 回を超えた場合、評価対象外となります。
・休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】
Course outline:
This is an introductory class of German language for first-year students.　Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.
Learning Objectives:
Students will be able to express themselves using the past tense and present perfect tense.
Students will be able to use conjunctions and adjectives to express themselves more richly in writing and speaking.
Learning activities outside of classroom:
The total time required for preparation and revision for the class is one hour.
Students should review what they have learnt on the day.
Students should get into the habit of using a dictionary on a regular basis.
Grading Criteria /Policy:
Students are assessed on the basis of their active participation and contribution to the class (20%), the results of a vocabulary test (20%) , midterm and final examination (60%).

LANd100LA

ドイツ語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

長澤　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本（主）とします。初回だけではなく、授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。
授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベート
第 2 回	発音	ドイツ語の発音ルール
第 3 回	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
第 4 回	第 1 章 (2)	動詞の位置
第 5 回	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の１格・４格
第 6 回	第 2 章 (2)	所有冠詞
第 7 回	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
第 8 回	第 3 章 (2)	名詞の複数形
第 9 回	第 4 章 (1)	名詞の３格
第 10 回	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
第 11 回	第 5 章 (1)	人称代名詞の３・４格
第 12 回	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
第 13 回	第 6 章 (1)	話法の助動詞
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間　ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：２６００円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）
『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】
テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.
Learning Objectives
Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

長澤　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業を基本（主）とします。授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。
授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 6 章 (2)	命令形
第 2 回	第 7 章 (1)	3・4 格支配の前置詞
第 3 回	第 7 章 (2)	並列接続詞
第 4 回	第 8 章 (1)	現在完了形
第 5 回	第 8 章 (2)	過去形
第 6 回	第 9 章 (1)	定冠詞類
第 7 回	第 9 章 (2)	副文
第 8 回	第 10 章 (1)	比較級と最上級
第 9 回	第 10 章 (2)	再帰代名詞と再帰動詞
第 10 回	第 11 章 (1)	形容詞の格変化
第 11 回	第 11 章 (2)	天候の表現（es の用法）
第 12 回	第 12 章 (1)	接続法第 2 式
第 13 回	第 12 章 (2)	zu 不定詞句
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
書名：『ドイツ語の時間　ときめきミュンヘン』
著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
出版社：朝日出版社
価格：２６００円＋税

【参考書】
辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。
また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）
『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

【成績評価の方法と基準】
平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】
テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline (in English)】
Course outline
This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.
Learning Objectives
Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.
Grading criteria
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

伊東　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。

【到達目標】
1 年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。
春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。２つの授業でおなじ教科書を使用します。
月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。
この授業は、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。
「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で採点して返却。オンラインの場合は Hoppii の課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット・発音・数字
第 2 回	ドイツってどんな国？	あいさつ
第 3 回	自己紹介	動詞の現在人称変化
第 4 回	ドイツ語圏の人々	並列の接続詞
第 5 回	ドイツの世界遺産	定冠詞・不定冠詞
第 6 回	広告を読む	否定冠詞
第 7 回	ドイツの文学とバレエ	名詞の複数形
第 8 回	ドイツ語圏の食べ物	人称代名詞
第 9 回	ドイツ語圏の飲み物	不定冠詞類
第 10 回	家族	定冠詞類
第 11 回	職業	動詞の現在人称変化
第 12 回	余暇活動	動詞の現在人称変化
第 13 回	ドイツの地理	命令形
第 14 回	期末テスト	春学期に学習した内容すべてについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
また、夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】
書名：『Genau Lesen neu　ゲナウ！　レーゼン　ノイ』
著者：新倉真矢子他著
出版社：郁文堂
ISBN ： 978-4-261-01277-4
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
独和辞典は各自用意してください。
下記の参考書を自宅学習の際などに持っていると便利です。
書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』
著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著
出版社：白水社　ISBN ： 978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】
課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】
分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。
宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。
状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】
独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline (in English)】
In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on participation in class(20%), mid-term exam (40%), final exam (40%)

LANd100LA

ドイツ語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊東　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語 1-II」とリレー授業を行います。

【到達目標】
一年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。
秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は月曜日の「ドイツ語 1-II」とリレー授業を行います。 2 つの授業でおなじ教科書を使用します。
月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。
週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。
この授業は手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。
「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で返却。オンラインの場合は Hoppii の課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第 2 回	日記	助動詞
第 3 回	メール	未来形
第 4 回	祝祭	前置詞
第 5 回	ドイツ語圏の行事	再帰動詞
第 6 回	インタビュー	分離動詞・非分離動詞
第 7 回	童話を読む	zu 不定詞句
第 8 回	ドイツ語圏の文学作品	従属の接続詞
第 9 回	観光名所	過去形
第 10 回	ドイツ語圏発のブランド	現在完了形
第 11 回	物語を読む 1	受動態
第 12 回	物語を読む 2	関係代名詞・関係副詞
第 13 回	ドイツの菓子	指示代名詞
第 14 回	期末テスト	秋学期だけでなく 1 年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】
書名：『Genau Lesen neu　ゲナウ！　レーゼン　ノイ』
著者：新倉真矢子他著
出版社：郁文堂
ISBN ： 978-4-261-01277-4
そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】
独和辞典は各自用意してください。
下記の参考書を自宅学習の際などに持っていると便利です。
書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』
著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著
出版社：白水社　ISBN ： 978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】
課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】
分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。
宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。
状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】
独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline (in English)】
In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on participation in class(20%), mid-term exam (40%), final exam (40%)

LANd100LA

ドイツ語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

岡本　雅克

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】
関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。
なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベート 発音の原則
2	発音Ⅰ	母音の発音 子音の発音①
3	発音Ⅱ	子音の発音② あいさつ 数詞（1～12）
4	Lektion 1	小テスト（発音） 人称代名詞と動詞の現在人称変化／動詞 sein・haben の現在人称変化（不規則動詞）
5	Lektion 1	語順／ ja・nein の使い方 会話文 読章 Guten Tag!
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠詞と名詞の格変化／不定冠詞と名詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使い方 会話文 読章 Cool Japan
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化（2）（不規則動詞）／非人称の es
9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 Wien
10	Lektion 4	定冠詞類
11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の 3 格と 4 格／ 3 格と 4 格の語順 会話文 読章 Porträt meiner Familie
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代名詞 wer と was の格変化
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800￥2,500

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点を 70 %、平常点を 30 %の合計点で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題についてしっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】
In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60 %、Mid-term examination: 10 %、Usual performance score: 30 %

LANd100LA

ドイツ語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡本　雅克

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】
関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は演習形式で行う。使用する教科書は 10 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。
なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	話法の助動詞
2	Lektion 6	未来形／従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞会話文 読章 Ryota geht ins Konzert
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 Atomkraft? Nein Danke!
6	Lektion 8	動詞の 3 基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 Die Wartburg bei Eisenach
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum
12	Lektion 10	zu 不定詞（句）
13	Lektion 10	関係代名詞
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800￥2,500

【参考書】
その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の得点を 70 %、平常点を 30 %の合計点で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題についてしっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】
授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】
In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English.
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70 %、Usual performance score: 30 %

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

小幡　一雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Bonjour ! ボンジュール！ フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。
フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】
1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
指定された学内の教室で対面授業を行います。
授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。また、場合によっては課題をメールで送ってもらい、それを添削して返信することもあると思います予習は特に必要ありません。課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com
出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。
授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	１課	身近なものを提示する。 数（0 － 20）
3	２課	人や物の特徴を伝える。
4	３課	持っている物、欲しい物を伝える。自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	５課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	６課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。ホテルの部屋を予約する。
10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。買いたい品物を伝える。
11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。 簡単なメールを書く。
12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。 天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	１日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	７課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】
『フランス語文法初めての練習帳』、白水社、1,760 円
推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社、4,620 円

【成績評価の方法と基準】
前提として、授業回数の３分の 2 以上出席していることが必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20%、中間・期末試験が各 40%とします。60%以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一歩一歩着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline (in English)】
- Course outline : You can understand how prononciation works and grammar structure of French.
- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.
Learning activities outside of classroom : You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.
- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).
- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

小幡　一雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】
フランス語初級文法を身につける。
会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
指定された教室で対面授業を行います。
毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。
課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答える。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事や背景を伝える（2）
9	18 課	予定していることを伝える（1）
10	18 課	予定していることを伝える（2）
11	19 課	自分の理想を伝える（1）
12	19 課	自分の理想を伝える（2）
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。
また、役に立つ会話表現を覚えてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】
『フランス文法　はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円
推薦辞書：『プチロワイヤル仏和辞典』、旺文社

【成績評価の方法と基準】
小テストが 20%、中間・期末テストが各 40%です。60%以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline (in English)】
- Course outline : You can understand how prononciation works and grammar structure of French.
- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.
Learning activities outside of classroom : You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.
- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).
- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

稲垣　正久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。
提出物は添削したうえで次の授業で返却します。
質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第０課	フランス語の綴り字の発音
第 2 回	第１課	名詞の性と数・冠詞・主語人称代名詞など
第 3 回	第２課	第一群規則動詞・否定文・疑問文
第 4 回	第３課	命令法・第二群規則動詞・疑問副詞など
第 5 回	第４課	faire,prendre・人称代名詞の強勢形など
第 6 回	復習１	第１回小テスト（予定）
第 7 回	第５課	形容詞の位置と性数・所有形容詞
第 8 回	第６課	動詞 aller と venir・近接未来と近接過去など
第 9 回	第７課	比較級・最上級・疑問形容詞など
第 10 回	復習２	第２回小テスト（予定）
第 11 回	第８課	非人称構文・補語人称代名詞
第 12 回	第９課	中性代名詞・疑問代名詞
第 13 回	復習３	模擬試験
第 14 課	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『文法と文化で学ぶ基礎フランス語』（朝日出版社）

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】
Course outline; study of elementary grammar of French language
Leaning objectives; understanding of the elementary grammar
Leaning activities outside of classroom; home work(1hour)
Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2) and the final test(100/150)

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

稲垣　正久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。
提出物は添削したうえで次の授業で返却します。
質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習１	第１課～第９課
第 2 回	第１０課	複合過去
第 3 回	第１１課	関係代名詞・強調構文・指示代名詞
第 4 回	第１２課	現在分詞・ジェロンディフ・受動態
第 5 回	第１３課	代名動詞（現在）
第 6 回	第１４課	代名動詞（複合過去）など
第 7 回	復習１	第１回小テスト (予定)
第 8 回	第１５課	半過去・単純未来
第 9 回	Appendice 1	大過去・前未来など
第 10 回	復習２	第２回小テスト（予定）
第 11 回	Appendice 2	条件法現在・過去
第 12 回	Appendice 3	接続法現在・過去
第 13 回	復習３	模擬試験
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『文法と文化で学ぶ基礎フランス語』（朝日出版社）

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】
Course outline;study of elementary grammar of French language
Learning objectives; understanding of the elementary grammar
Learning activities outside of classroom; homework(1hour)
Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2), final test(100/150)

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】
アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験５級ならびに４級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2）	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3）	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4）	leçon 3, leçon 4	C’est,etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5）	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6）	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7）	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8）	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9）	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10）	leçon 9	疑問代名詞
11）	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14）	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）と小テスト（50 %）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Students will learn basic French grammar.Aim to obtain the 5th and 4th grades of the French certification test.
Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.
Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】
命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験４級ならびに３級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1）	春学期の復習	春学期試験の復習
2）	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3）	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4）	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5）	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6）	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7）	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8）	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le,en,y、不規則動詞 devoir
9）	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10）	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11）	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12）	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13）	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14）	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）と小テスト（50 %）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Students will learn basic French grammar.Aim to obtain Level 4 and Level 3 of the French certification test.Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

近江屋　志穂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ペアの授業である「フランス語２」と同一の教科書（『文法と文化で学ぶ基礎フランス語　Apprenons les bases du français』）を用いて、フランス語の初級文法を学びます。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】
フランス語の初級文法を身につけ、フランス語を正しく発音できるようになることを目標とします。実用フランス語技能検定試験（仏検）5 級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・文法項目を説明した後、練習問題を解き、その解説を行います。
・動詞の活用の小テストを実施します。
・つづりと発音の規則を覚えるために、音読録音ファイルの提出を課題とすることもあります。
・課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 0	フランス語のつづり字の発音
2	Leçon 1	名詞の性と数 定冠詞／不定冠詞／部分冠詞
3	Leçon 1	主語人称代名詞 動詞 être、avoir
4	Leçon 2	er 動詞の現在形 否定文と疑問文
5	Leçon 3	ir 動詞の現在形 命令法
6	Leçon 3	動詞 partir 疑問副詞
7	Leçon 4	動詞 faire, prendre 否定文における冠詞の変化
8	Leçon 4	人称代名詞の強勢形 指示形容詞
9	Leçon 5	形容詞の位置と性・数 所有形容詞
10	Leçon 6	動詞 aller と venir の現在形 近接未来／近接過去 定冠詞の縮約
11	Leçon 7	比較級、最上級 疑問形容詞 動詞 vouloir, pouvoir, devoir
12	Leçon 8	非人称構文 補語人称代名詞
13	Leçon 9	中性代名詞 疑問代名詞
14	期末試験	筆記試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題の文法練習問題に必ず取り組むこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近江屋志穂･竹本研史『文法と文化で学ぶ基礎フランス語　Apprenons les bases du français』朝日出版社、2023 年

【参考書】
森本英夫・三野博司『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %、小テスト 25 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
難しい文法事項は説明を繰り返すよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）

【その他の重要事項】
教室での対面授業を基本とします。初回は 2023 年 4 月 12 日（水）３限です。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.
The goal of this course is to obtain the level A1 of CEFR.
Before each class, students will be expected to have done their homework.
Their required study time is at least one hour for each class.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50%, in class contribution : 50%

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

近江屋　志穂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ペアの授業である「フランス語２」と同一の教科書（『文法と文化で学ぶ基礎フランス語　Apprenons les bases du français』）を用いて、フランス語の初級文法を学びます。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】
フランス語の初級文法を身につけ、フランス語を正しく発音できるようになることを目標とします。実用フランス語技能検定試験（仏検）４級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・文法項目を説明した後、練習問題を解き、その解説を行います。
・動詞の活用の小テストを実施します。
・つづりと発音の規則を覚えるために、音読録音ファイルの提出を課題とすることもあります。
・課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期の学習事項の復習
2	Leçon 10	複合過去
3	Leçon 11	関係代名詞／強調構文
4	Leçon 11	指示代名詞
	Leçon 12	現在分詞／ジェロンディフ
5	Leçon 12	受動態
	Leçon 13	代名動詞（現在形）
6	Leçon 14	代名動詞（複合過去形）
7	Leçon 14	所有代名詞
		疑問代名詞（２）
8	Leçon 15	半過去
9	Leçon 15	単純未来
10	Appendice 1	大過去
		前未来
11	Appendice 2	条件法
12	Appendice 3	接続法
13	総復習	確認問題
14	期末試験	筆記試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題の文法練習問題に必ず取り組むこと。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
近江屋志穂･竹本研史『文法と文化で学ぶ基礎フランス語　Apprenons les bases du français』朝日出版社、2023 年

【参考書】
森本英夫・三野博司『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 25 %、小テスト 25 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
難しい文法事項は説明を繰り返すよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）

【その他の重要事項】
教室での対面授業を基本とします。初回は 2023 年 9 月 20 日（水）３限です。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.
The goal of this course is to obtain the level A1 of CEFR.
Before each class, students will be expected to have done their homework.
Their required study time is at least one hour for each class.
The overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination : 50%, in class contribution : 50%

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

寺家村　博

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは主としてフランス語の初歩の文法を学びます。このクラスを履修する学生は基本的なフランス語の「読み」「書き」をあわせて学んでいきます。フランス語１ II と合わせて最終的に初歩のフランス語の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】
このクラスを履修する学生は、実用フランス語技能検定試験５級に合格できるために必要なフランス語運用能力, とくに文法を学んでいきます。あわせて簡単なフランス語の文章を読むために必要な語彙や表現も身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業である場合には演習形式で授業を進めていきます。また次週に向けた課題などにも積極的に取り組んでいただきたいと思います。遠隔授業を取り入れる場合にはオンデマンドと ZOOM などを対面授業と組み合わせて実施していきます。なお基本的には授業時間内にフィードバックを行いますが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
発音 1	フランス語の発音	フランス語の発音 （母音や子音）
発音 2	フランス語の発音	フランス語の発音 （鼻母音や複合母音など）
発音 3	フランス語の発音	発音のまとめ
1 課	名詞の性と数 冠詞	男性名詞と女性名詞 3 つの冠詞の用法
2 課	提示の表現 代名詞	「もの」を提示する 表現 主語の代名詞
3 課	規則動詞の活用	規則動詞の直説法現在形の活用
4 課	疑問形と否定形	３つの疑問形の作り方 否定の作り方
4 課	疑問文への応答 形容詞	疑問文に肯定と否定で答える 指示形容詞の用法
5 課	形容詞の女性形 名詞や形容詞の複数形	形容詞の女性形の作り方 名詞や形容詞の複数形の作り方
6 課	不規則動詞 形容詞	重要な不規則動詞の活用と用法 疑問形容詞
7 課	命令形 形容詞	命令文の作り方 所有形容詞
8 課	形容詞と名詞の比較級および最上級	形容詞と名詞の比較級、最上級の用法 特殊な形容詞と名詞の最上級、比較級の作り方
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の用法と作り方
復習	春学期の学習内容の確認と見直し	春学期に学習したテキスト 1 課から 9 課までの文法事項や動詞の活用を総合的に復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は学習した文法事項の理解の定着のために復習の課題をやります。合わせて予習として次回学習予定の文法事項の大まかな理解を求められます。復習と予習合わせて 120 分が標準となります。

【テキスト（教科書）】
『ル・フランセ』　斉藤昌三、白水社、2019 年第 32 版

【参考書】
参考書に関しては特に指定はしません。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、小テストまたは課題提出 20 %

【学生の意見等からの気づき】
とくに大きな改善点の指摘はなかったが、練習問題の量を少し増やしていきたい。、

【その他の重要事項】
授業形態（対面、オンデマンド授業）は COVID-19 の感染状況により変更がある場合もありますが、原則対面でおこないます。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.
By the end of this course, students should be able to do the followings:
1 acquisition of a elementary french grammar
2 acquisition of a french vocabulary
3 improve french expressive power
Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report 30 %, term-end examination 50 % and in-class contribution, short examination(including homework) 20 %

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

寺家村　博

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスを受講する学生はフランス語１Ｉで学んだ文法事項の確認からはじめフランス語の初級文法の完成と外国語としてのフランス語の初歩の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】
このクラスを受講する学生は外国語としてのフランス語の「読み」「書き」の基本をすべて学習します。結果として実用フランス語技能検定 4 級合格に必要な文法事項や語彙及び表現を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
原則として対面授業である場合には演習形式で進めていきます。受講学生の積極的な授業への取り組みを期待しています。また遠隔授業を取り入れる場合には、対面授業、オンデマンド、Zoom による授業を組み合わせて実施していく予定です。なお、基本的に授業時間内にフィードバックをしますが、LMS などを活用する場合もあります。小テストは予め形式等を知らせ、返却時に解説します。期末テスト等はテスト実施の同一時間内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
春学期の復習	春学期の復習	テキスト 1 課から 9 課までの文法事項を復習する
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の否定形と倒置疑問形の作り方
10 課	関係代名詞	4 つの主要な関係代名詞の用法を学ぶ
10 課	疑問代名詞	疑問代名詞の種類と用法を学ぶ
11 課	人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞の用法 強勢形人称代名詞の用法
12 課	受動態 指示代名詞	動詞の態を変える 指示代名詞の用法
12 課、	強調構文	文の各要素を強調する
13 課	代名動詞	代名詞を伴う動詞の活用と用法
13 課	代名動詞の過去形 非人称構文	代名動詞の直説法複合過去形の作り方と用法 非人称構文の用法
14 課	直説法単純未来	未来時制の作り方と用法
14 課	中性代名詞	3 つの中性代名詞の用法
15 課	さまざまな過去時制	直説法半過去と大過去の作り方と用法
16 課	条件法現在形	条件法現在形の作り方と用法
17，18 課	現在分詞とジェロンディフ 接続法	現在分詞とジェロンディフの作り方と用法 接続法の活用と用法
まとめ	秋学期のまとめ	秋学期で学習した文法事項の確認と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は学習した文法事項の理解を深めるために毎回出される復習の課題をやる必要があります。同時に次週に学習予定の文法項目の大まかな理解も求められます。復習と予習で毎回 120 分分程度時間を要します。

【テキスト（教科書）】
フランス語１Ｉと同じテキスト

【参考書】
特に指示する参考書はありません

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、課題及び小テスト 20 %程度

【学生の意見等からの気づき】
課題の量を少し増やし、学生たちのさらなる文法理解につなげていきたい

【その他の重要事項】
授業形態（対面、オンライン）は COVID-19 の感染状況により、変更となる可能性もあるが、原則対面でおこないます。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.
By the end of this course, students should be able to the followings:
1 acquisition of a elementary french grammar
2 acquisition of a wide french vocabulary and expression
Before / after class, student will be expected to spend 2 hours to understand the course content.
Final grade wille be
30% Mid-term report, 50 % term-end examination and in-class contribution
,short examination(including homework)20%.

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

柴崎　秀穂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（ＤＥＬＦ）のＡ１レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回「授業資料」を配付します。まず「資料」を読みながら教師が文法事項を解説、全員でフランス語例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
2 回目	フランス語の音。第１課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
3 回目	第１課続き。第２課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
4 回目	第３課。	動詞「持つ」、否定
5 回目	第４課。	部分冠詞、形容詞
6 回目	第５課。	第一群規則動詞、疑問文
7 回目	第６課。	指示形容詞、所有形容詞
8 回目	第７課。	「行く」と「来る」、縮約
9 回目	第８課。	近接未来と近接過去、非人称
10 回目	発音のまとめ	綴り字の読み方のまとめ
11 回目	第９課。	第二群規則動詞、命令法
12 回目	第１０課。	疑問形容詞、疑問代名詞
13 回目	第１０課続き。復習。	疑問代名詞（続き）、疑問副詞
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題の一部は「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・フランス語文法の〈基礎〉』太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社
『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業資料」と「練習問題」を、より分かりやすく効果的になるよう修正しました。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
・Course outline
This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.
・Learning objectives
At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.
・Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
・Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎　秀穂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の基本的な語彙と文法を学びます。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（ＤＥＬＦ）のＡ１レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回「授業資料」を配付します。まず「資料」を読みながら教師が文法事項を解説、全員でフランス語例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	第１１課。	目的格人称代名詞
2 回目	第１２課。	代名動詞
3 回目	第１３課。第１４課。	複合過去（1）
4 回目	第１４課続き。	複合過去（2）
5 回目	第１５課。	半過去
6 回目	第１６課。	比較と最上級
7 回目	第１７課。	単純未来
8 回目	第１８課。	中性代名詞
9 回目	第１９課。	関係代名詞 qui、 que
10 回目	第１９課続き。	関係代名詞 dont 、où
11 回目	第２０課。	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
12 回目	第２１課。	条件法
13 回目	第２２課。	接続法
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題の一部は「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社
『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業資料」と「練習問題」を、より分かりやすく効果的になるよう修正しました。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
· Course outline
Students taking this course will learn French grammar.
· Learning objectives
At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.
· Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
· Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】
アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験５級ならびに４級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1）	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2）	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3）	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4）	leçon 3, leçon 4	C’est,etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5）	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6）	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7）	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8）	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9）	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10）	leçon 9	疑問代名詞
11）	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14）	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）と小テスト（50 %）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Students will learn basic French grammar.Aim to obtain the 5th and 4th grades of the French certification test.
Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.
Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

江澤　健一郎

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】
命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験４級ならびに３級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1）	春学期の復習	春学期試験の復習
2）	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3）	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4）	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5）	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6）	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7）	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8）	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le,en,y、不規則動詞 devoir
9）	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10）	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11）	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12）	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13）	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14）	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト（50 %）と小テスト（50 %）の点数を基準にして評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
なし

【Outline (in English)】
Students will learn basic French grammar.Aim to obtain Level 4 and Level 3 of the French certification test.Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語１Ｉ

2017 年度以降入学者

小幡　一雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Bonjour ! ボンジュール！ フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。
フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】
1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
指定された学内の教室で対面授業を行います。
授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。また、場合によっては課題をメールで送ってもらい、それを添削して返信することもあると思います予習は特に必要ありません。課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com
出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。
授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	１課	身近なものを提示する。 数（0 － 20）
3	２課	人や物の特徴を伝える。
4	３課	持っている物、欲しい物を伝える。自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	５課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	６課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。ホテルの部屋を予約する。
10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。買いたい品物を伝える。
11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。簡単なメールを書く。
12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	１日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	７課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】
『フランス語文法初めての練習帳』、白水社、1,760 円
推薦辞書：『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社、4,620 円

【成績評価の方法と基準】
前提として、授業回数の３分の 2 以上出席していることが必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20%、中間・期末試験が各 40%とします。60%以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一歩一歩着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください！

【Outline (in English)】
- Course outline : You can understand how prononciation works and grammar structure of French.
- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.
Learning activities outside of classroom : You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.
- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).
- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

小幡　一雄

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】
フランス語初級文法を身につける。
会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
指定された教室で対面授業を行います。
毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の授業で確認します。
課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答える。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事や背景を伝える（2）
9	18 課	予定していることを伝える（1）
10	18 課	予定していることを伝える（2）
11	19 課	自分の理想を伝える（1）
12	19 課	自分の理想を伝える（2）
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フランス語初級文法を身につけてください。
また、役に立つ会話表現を覚えてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】
『フランス文法　はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円
推薦辞書：『プチロワイヤル仏和辞典』、旺文社

【成績評価の方法と基準】
小テストが 20%、中間・期末テストが各 40%です。60%以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline (in English)】
- Course outline : You can understand how prononciation works and grammar structure of French.
- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.
Learning activities outside of classroom : You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.
- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).
- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びます。

【到達目標】
フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って進めていきます。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞１	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞２	２つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5　不規則動詞	ALLER　VENIR
第 10 回	L ５　演習	L5　練習問題
第 11 回	L6　形容詞	指示形容詞　所有形容詞
第 12 回	L6　演習	練習問題
第 13 回	L7　代名詞	疑問代名詞　関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %
平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学んでいきます。

【到達目標】
フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って体系的に文法を解説して行きます。
まず文法項目の説明をし、それからフィードバックする形で問題演習をしていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L8　人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8　演習	L8 練習問題
第 3 回	L9　複合過去	複合過去について
第 4 回	L9　演習	練習問題
第 5 回	L10　代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10　演習	練習問題
第 7 回	L11　未来形	単純未来
第 8 回	L11　演習	練習問題
第 9 回	L12　過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12　演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %
平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びます。

【到達目標】
フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って進めていきます。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞１	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞２	２つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5　不規則動詞	ALLER　VENIR
第 10 回	L ５　演習	L5　練習問題
第 11 回	L6　形容詞	指示形容詞　所有形容詞
第 12 回	L6　演習	練習問題
第 13 回	L7　代名詞	疑問代名詞　関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %
平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】
個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学んでいきます。

【到達目標】
フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って体系的に文法を解説して行きます。
まず文法項目の説明をし、それからフィードバックする形で問題演習をしていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L8　人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8　演習	L8 練習問題
第 3 回	L9　複合過去	複合過去について
第 4 回	L9　演習	練習問題
第 5 回	L10　代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10　演習	練習問題
第 7 回	L11　未来形	単純未来
第 8 回	L11　演習	練習問題
第 9 回	L12　過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12　演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %
平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

【到達目標】
フランス語であいさつできるようになる。
フランス語で自己紹介できるようになる。
フランス語で簡単な日常会話ができるようになる。
フランス語で身近な物事を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語表現の実践演習を行います。
初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション（1）	フランス語のアルファベ、挨拶
第 2 回	イントロダクション（2）	先生が用いる表現、リエゾン、エリジヨン
第 3 回	Leçon 1	お店での簡単な会話
第 4 回	Leçon 1	簡単な自己紹介
第 5 回	Leçon 2	簡単な他己紹介、性格の表現
第 6 回	Leçon 2	疑問の表現、病気の表現
第 7 回	Leçon 3	お店での会話、お礼の表現
第 8 回	Leçon 3	場所の表現、疑問詞のまとめ
第 9 回	Leçon 4	天候や季節の表現
第 10 回	Leçon 4	時間の表現
第 11 回	Leçon 5	暦、日付の表現
第 12 回	Leçon 5	レストランでの表現
第 13 回	Leçon 5	これまでの復習、フランス語で自分の意見を述べてみる
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしましょう。家でも声を出して練習することが大切です。そのさいは付属の音声ファイルを活用してください。

【テキスト（教科書）】
『アミカルマン ＜ プリュス> 』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示しますが、文法内容については「フランス語 1」使用テキストをよく確認してください。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りの進捗にも取り組みますが、その際には音源とスクリプトを提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who start studying French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to speak about themselves in the French language.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。先学期に引き続き、フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で話してみましょう。

【到達目標】
フランス語で過去のことについて話せるようになる。
フランス語で未来のことについて話せるようになる。
フランス語で関心のある分野について話せるようになる。
フランス語でメールを書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語表現の実践演習を行います。重要な表現は口に出して発音してもらいます。フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。学生どうしで演習を行います。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習・アイスブレイク	レシピの作成
第 2 回	Leçon 6	日常生活の表現、スポーツの表現
第 3 回	Leçon 6	勧誘・質問・許可の表現、on と ça
第 4 回	Leçon 7	過去のことを話す
第 5 回	Leçon 7	評価の表現
第 6 回	Leçon 8	理由の表現、会話での複合過去と半過去の使い分け
第 7 回	Leçon 8	意見・期待の表現、フランス語での手紙・メールの表現
第 8 回	Leçon 9	予定・時間の表現
第 9 回	Leçon 9	フランス語で感想を述べる
第 10 回	Leçon 10	招待・勧誘の表現
第 11 回	Leçon 10	予約の表現
第 12 回	Leçon 10	主観的な意見を述べる
第 13 回	Leçon 10	これまでの復習、フランス語で自分の意見を表現する
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れ、授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしてください。とくに、音声ファイルを活用して、何度も口に出して発音する練習をしてください。

【テキスト（教科書）】
『アミカルマン ＜ プリュス＞ 』、澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示しますが、文法内容については「フランス語 1」使用テキストをよく復習してください。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りの進捗にも取り組みますが、その際には音源とスクリプトを提示するようにします。
実用フランス語技能検定試験（仏検）への対策もおこないます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is the continuation of my French course in spring. This course is for students who start to study French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to express themselves in the French language.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習①　Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞　ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞　VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞　AVOIR・代名詞　EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・３人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞　FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
Learning Outside Class Hours :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to lear and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.One hour is required.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある.
このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçons 1 à 10
2	Leçon 11	周波数を表す
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞　Y　と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to lear and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができて、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
フレンチポップスを歌う。
小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
授業計画	発音の練習	年間授業計画 成績評価の方法
発音の仕組み	単語の読み方１	0 課 プレリュード１ アルファベの発音
母音字の読み方	単語の読み方２	プレリュード２ 母音字の発音
子音字の読み方	名詞と冠詞	１課 文法説明 子音字の発音
名詞と冠詞	「オー・シャンゼリゼ」	Leçon 1 練習問題 名詞と冠詞確認
動詞 être	主語人称代名詞 動詞 être	２課 文法説明 主語と動詞 être の使い方
主語の意味	「夢見るシャンソン人形」	Leçon 2 練習問題 主語と補語
動詞 avoir	形容詞 動詞 avoir	３課 文法説明 動詞 avoir の慣用表現
直接目的語	「子どもを抱いて」	Leçon 3 練習問題 直接目的語
規則動詞の活用	-er 動詞、-ir 動詞。否定文	４課 文法説明 規則動詞の活用
間接目的語	「シェリーに口づけ」	Leçon 4 練習問題 間接目的語
不規則活用の動詞	疑問文、動詞 aller/venir	５課 文法説明 前置詞の使い方 不規則活用の動詞
近接未来・近接過去	「もう森へなんか行かない」	Leçon 5 練習問題 近接未来・近接過去
歌と文法のまとめ	フレンチ・ポップスのまとめ	前期文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』(杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税）((ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受かられない。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammer and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができて、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
フレンチポップスを歌う。小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
後期授業計画	発音の復習	後期授業計画 成績評価の方法
疑問詞	疑問詞、 比較級・最上級 準助動詞	Leçon 7 文法説明
「ラストダンスは私に」	「ラストダンスは私に」	Leçon 7 練習問題
不規則動詞	不規則動詞	Leçon 8 文法説明
「愛すること」	「愛すること」	Leçon 8 練習問題
疑問代名詞・関係代名詞	疑問代名詞・関係代名詞	Leçon 9 文法説明
「愛のとりこ」	「愛のとりこ」	Leçon 9 練習問題
目的語代名詞、代名動詞	目的語代名詞、代名動詞	Leçon 10 文法説明
「いつものように」	「いつものように」	Leçon 10 練習問題
複合過去・半過去	複合過去・半過去	Leçon 11 文法説明
「シェリーに口づけ」	「シェリーに口づけ」	Leçon 11 練習問題
構文練習	構文練習	Leçon 12 文法説明
「心に太陽を」	「心に太陽を」	Leçon 12 練習問題
歌と文法のまとめ	フレンチ・ポップスのまとめ	後期文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』(杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税）((ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受かられない。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammer and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

酒井　健

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）もう一つの「フランス語 1」の授業と同一の教科書（『文法と文化で学ぶ基礎フランス語（Apprenons les bases du français）』）を用いて、授業を進める。
2）初心者を対象にフランス語の文法、文章、言葉を少しずつ身につけていく。
3）あわせてフランス文化、とくにこの授業ではフランス哲学を基本の用語と文章から学んでいく。

【到達目標】
1）毎回の授業において練習問題の答え合わせ、小テストなどを通して、フランス語の基礎文法とフランス文化、特にフランス哲学の基本用語と有名な文章を学ぶことができる。
2）この授業によって，実用フランス語技能検定試験（仏検）の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1）教室での対面授業を基本にする。初回は 2023 年 4 月 11 日火曜日 2 時限。
2）個人およびクラス全員での発音の訓練、宿題の練習問題の答えあわせ（板書しながら）などを通して、実習的にフランス語を学んでいく。
3）毎回、簡単な哲学の用語、文章を学び、次の週までに暗記して書けるようにしておく（書き取りの小テスト）。
4）課題や小テストへのフィードバックは教室あるいは hoppii を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書 Leçon 0	授業の紹介。フランス語の alphabet など
第 2 回	教科書 Leçon 0 続き	フランス語の発音規則など.
第 3 回	教科書 Leçon 1	名詞の性と数など フランス哲学の用語と文章 1
第 4 回	教科書 Leçon 1 続き	主語人称代名詞など フランス哲学の用語と文章 2
第 5 回	教科書 Leçon 2	第 1 群規則動詞の活用など フランス哲学の用語と文章 3
第 6 回	教科書 Leçon 2 続き	否定文/疑問文など フランス哲学の用語と文章 4
第 7 回	教科書 Leçon 3	命令法/第 2 群規則動詞の活用など フランス哲学の用語と文章 5
第 8 回	教科書 Leçon 4	動詞 partir/疑問副詞など フランス哲学の用語と文章 6
第 9 回	教科書 Leçon 5	形容詞と少輔形容詞など フランス哲学の用語と文章 7
第 10 回	教科書 Leçon 6	動詞 aller と venir/近接未来と近接過去など フランス哲学の用語と文章 8
第 11 回	教科書 Leçon 7	比較級/最上級/疑問形容詞など フランス哲学の用語と文章 9
第 12 回	教科書 Leçon 8	非人称構文/補語人称代名詞など フランス哲学の用語と文章 10
第 13 回	教科書 Leçon 9	中性代名詞/疑問代名詞など フランス哲学の用語と文章 11
第 14 回	期末試験	まとめの総合問題（筆記試験）.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，下読み，復習等，あわせて 2 時間以上を標準とする.

【テキスト（教科書）】
『文法と文化で学ぶ基礎フランス語（Apprenons les bases du français）』（近江屋志穂・竹本研史著、朝日出版社）

【参考書】
『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】
1）毎回の宿題（25 %）、小テストの結果（25 %）を総合しての平常点（50 %）
2）この学期全体を復習する意味での期末の筆記試験（50 %）
3）合格点は上記二つを合わせて 60 点以上である.

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書（紙媒体でも電子媒体でも可。『ディコ（Dico）』（白水社）を推奨）

【Outline (in English)】
1)In this course we use the same textbook as the other course French I .
2)This course is for beginners who are learning little by little the basic French grammar, sentences and words.
3) Especially,you learn French philosophy with basic terms and famous sentences.
And you can study a French practical aptitude test by learning this course.
Then your study time will be more than two hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination(50%) and in class contribution(50%).

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

酒井　健

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）もう一つの「フランス語 1」の授業と同一の教科書（『文法と文化で学ぶ基礎フランス語（Apprenons les bases du français）』）を用いて、授業を進める（春学期の続き）。
2）初心者を対象にフランス語の文法、文章、言葉を少しずつ身につけていく。
3）あわせてフランス文化、とくにこの授業ではフランス哲学を基本の用語と文章から学んでいく。

【到達目標】
1）毎回の授業において練習問題の答え合わせ、小テストなどを通して、フランス語の基礎文法とフランス文化、特にフランス哲学の基本用語と有名な文章を学ぶことができる。
2）この授業によって，実用フランス語技能検定試験（仏検）の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
1）教室での対面授業を基本にする。初回は 2023 年 9 月 26 日火曜日 2 時限。
2）個人およびクラス全員での発音の訓練、宿題の練習問題の答えあわせ（板書しながら）などを通して、実習的にフランス語を学んでいく。
3）毎回、簡単な哲学の用語、文章を学び、次の週までに暗記して書けるようにしておく（書き取りの小テスト）。
4）課題や小テストへのフィードバックは教室あるいは hoppii を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書 Leçon 10	複合過去 avoir+過去分詞
第 2 回	教科書 Leçon 10 続き	複合過去　être+過去分詞
第 3 回	教科書 Leçon 11	関係代名詞など
第 4 回	教科書 Leçon 11 続き	強調構文など
第 5 回	教科書 Leçon 12	現在分詞／ジェロンディフなど
第 6 回	教科書 Leçon 12 続き	受動態など
第 7 回	教科書 Leçon 13	代名動詞（現在）
第 8 回	教科書 Leçon 14	代名動詞（過去）など
第 9 回	教科書 Leçon 15	半過去など
第 10 回	教科書 Leçon 15 続き	単純未来など
第 11 回	教科書 Appendice1	大過去など
第 12 回	教科書 Appendice2	条件法現在など
第 13 回	教科書 Appendice3	接続法現在など
第 14 回	まとめ	秋学期全体の復習をかねて筆記試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，下読み，復習等，あわせて 2 時間以上を標準とする．

【テキスト（教科書）】
『文法と文化で学ぶ基礎フランス語（Apprenons les bases du français）』（近江屋志穂・竹本研史著、朝日出版社）

【参考書】
『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】
1）毎回の宿題（25 %）、小テストの結果（25 %）を総合しての平常点（50 %）
2）この学期全体を復習する意味での期末の筆記試験（50 %）
3）合格点は上記二つを合わせて 60 点以上である．

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
仏和辞書（紙媒体でも電子媒体でも可。『ディコ（Dico）』（白水社）を推奨）

【その他の重要事項】
特になし

【Outline (in English)】
1)In this course we use the same textbook as the other course French I .
2)This course is for beginners who are learning little by little the basic French grammar, sentences and words.
3) Especially,you learn French philosophy with basic terms and famous sentences.
And you can study a French practical aptitude test by learning this course.
Then your study time will be more than two hours for a class.
Final grade will be calculated according to the following process term-end examination(50%) and in class contribution(50%).

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習①　Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞　ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞　VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞　AVOIR・代名詞　EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・３人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞　FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to lear and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある.
このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçons 1 à 10
2	Leçon 11	周波数を表現する
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞　Y　と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to lear and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができて、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
フレンチポップスを歌う。
小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
授業計画	発音の練習	年間授業計画 成績評価の方法
発音の仕組み	単語の読み方１	0 課 プレリュード１ アルファベの発音
母音字の読み方	単語の読み方２	プレリュード２ 母音字の発音
子音字の読み方	名詞と冠詞	１課 文法説明 子音字の発音
名詞と冠詞	「オー・シャンゼリゼ」	Leçon 1 練習問題 名詞と冠詞確認
動詞 être	主語人称代名詞 動詞 être	２課 文法説明 主語と動詞 être の使い方
主語の意味	「夢見るシャンソン人形」	Leçon 2 練習問題 主語と補語
動詞 avoir	形容詞 動詞 avoir	３課 文法説明 動詞 avoir の慣用表現
直接目的語	「子どもを抱いて」	Leçon 3 練習問題 直接目的語
規則動詞の活用	-er 動詞、-ir 動詞。否定文	４課 文法説明 規則動詞の活用
間接目的語	「シェリーに口づけ」	Leçon 4 練習問題 間接目的語
不規則活用の動詞	疑問文、動詞 aller/venir	５課 文法説明 前置詞の使い方 不規則活用の動詞
近接未来・近接過去	「もう森へなんか行かない」	Leçon 5 練習問題 近接未来・近接過去
歌と文法のまとめ	フレンチ・ポップスのまとめ	前期文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』(杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税）((ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受かられない。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammer and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができて、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
フレンチポップスを歌う。小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
後期授業計画	発音の復習	後期授業計画 成績評価の方法
疑問詞	疑問詞、 比較級・最上級 準助動詞	Leçon 7 文法説明
「ラストダンスは私に」	「ラストダンスは私に」	Leçon 7 練習問題
不規則動詞	不規則動詞	Leçon ８ 文法説明
「愛すること」	「愛すること」	Leçon 8 練習問題
疑問代名詞・関係代名詞	疑問代名詞・関係代名詞	Leçon 9 文法説明
「愛のとりこ」	「愛のとりこ」	Leçon 9 練習問題
目的語代名詞、代名動詞	目的語代名詞、代名動詞	Leçon 10 文法説明
「いつものように」	「いつものように」	Leçon 10 練習問題
複合過去・半過去	複合過去・半過去	Leçon 11 文法説明
「シェリーに口づけ」	「シェリーに口づけ」	Leçon 11 練習問題
構文練習	構文練習	Leçon 12 文法説明
「心に太陽を」	「心に太陽を」	Leçon 12 練習問題
歌と文法のまとめ	フレンチ・ポップスのまとめ	後期文法のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポップ・フランセ』(杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税）((ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085)

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受かられない。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammer and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

山口　雅敏

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】
フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。なお、その際には、感染防止の飛沫対策をしっかり行う。
また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。
なお、授業内容に関する質問などは、授業内で受け付ける。また、メールでも受け付ける。
この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル２以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットなど
2	１課 会話表現	フランス語で自己紹介をする。国籍を言う。元気かどうかを聞く。
3	１課 文法	練習問題 数字１～２０
4	２課 会話表現	フランス語で職業を言う。 住所を言う。
5	２課 文法	練習問題 数字２１～３０
6	３課 会話表現	フランス語で国籍を言う。 カフェで注文する。
7	３課 文法	練習問題 数字３１～６９
8	４課 会話表現	フランス語で、年齢を尋ねる、答える。
9	４課 文法	練習問題 数字０～６９の復習
10	５課 会話表現	フランス語で、人物を描写する。 国名を言う。
11	５課 文法	練習問題 フランス語でインタビュー
12	６課 会話表現	フランス語で、「これは何ですか」と尋ねる、答える。
13	６課 文法	練習問題 数字７０～１００
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各２時間とする。

【テキスト（教科書）】
『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著　朝日出版社　２４００円

【参考書】
仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】
随時行う小テストの点数（７０％）と、平常点（３０％）を合わせて１００点満点とし、６０点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】
Course outline
In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.
Learning objectives
The goal is to be able to say hello and introduce yourself in French.
Learning activities outside of classroom
Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.
Grading criteria
The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口　雅敏

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 5/Tue.5**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】
フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。その際には、感染防止の飛沫対策をしっかり行う。
また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。
なお、授業内容に関する質問などは、授業内に受け付ける。また、メールでも質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	７課 会話表現	フランス語で好き嫌いを言う。
2	７課 文法	練習問題 Il y a　など
3	８課 会話表現	フランス語で天気を尋ねる、答える。
4	８課 文法	練習問題 比較級など
5	９課 会話表現 文法	フランス語でどんなスポーツをするかを言う。 練習問題
6	１０課 会話表現 文法	フランス語で人を誘う、招待する。 練習問題
7	１１課 会話表現 文法	フランス語で時刻を言う。 練習問題
8	１２課 会話表現 文法	フランス語でアルバイトについて話す。 練習問題
9	１３課 会話表現 文法	フランス語で料理を注文する。 練習問題
10	１４課 会話表現	フランス語で過去のことを話す。
11	１４課 文法	練習問題　複合過去
12	１５課 会話表現	フランス語で未来のことを話す。
13	１５課 文法	練習問題　近接未来
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各２時間とする。

【テキスト（教科書）】
『カフェ・フランセ』ニコラ・ガイヤールほか著　朝日出版社　２４００円

【参考書】
仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】
随時行う口頭テストの評価（７０％）と、平常点（３０％）を合わせて１００点満点とし、６０点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】
Course outline
In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.
Learning objectives
The goal is to be able to have simple daily conversation in French.
Learning activities outside of classroom
Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.
Grading criteria
The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

山口　雅敏

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】
フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。なお、その際には、感染防止の飛沫対策をしっかり行う。
また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。
なお、授業内容に関する質問などは、授業内で受け付ける。また、メールでも受け付ける。
この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル２以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット、綴り字記号など。
2	１－１ 会話「街中で」	朝の挨拶、午後の挨拶、別れの挨拶など。
3	１－２ 会話「カフェで」	夕方、夜の挨拶、別れの挨拶。
4	２－１ 会話「税関で」	自己紹介をする。 国籍を尋ねる、言う。 職業を尋ねる、言う。
5	２－２ 会話「空間で」	名前を尋ねる。
6	３－１ 会話「リビングで」	目の前のものについて尋ねる。 数字１～２０
7	３－２ 会話「教室」	持ち主を言う。
8	４－１ 会話「公園で」	住んでいる場所を尋ねる、言う。
9	４－２ 会話「公園で」	職場などを尋ねる。
10	５－１ 会話「美術館で」	年齢を尋ねる。 値段を尋ねる。 数字１１～１００
11	５－２ 会話「美術館で」	兄弟姉妹について話す。 物を描写する。
12	６－１ 会話「浜辺で」	天候について話す。 好みについて話す。
13	６－２ 会話「駅で」	目的地を言う。 位置関係を言う。
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各２時間とする。

【テキスト（教科書）】
『ア・トン・トゥール』大湾宗定ほか著　白水社　２３００円

【参考書】
仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】
随時行う小テストの点数（７０％）と、平常点（３０％）を合わせて１００点満点とし、６０点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】
Course outline
In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.
Learning objectives
The goal is to be able to say hello and introduce yourself in French.
Learning activities outside of classroom
Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.
Grading criteria
The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口　雅敏

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】
フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。その際には、感染防止の飛沫対策をしっかり行う。
また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。
なお、授業内容に関する質問などは、授業内に受け付ける。また、メールでも質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	７－１ 「ブログ記事」	出身地を言う。
2	７－２ 会話「学校で」	交通手段について話す。 意見、感想を言う。
3	８－１ 会話「レストランで」	レストランで注文する。 ほしい物を言う。
4	８－２ 会話「レストランで」	レストランでの客と店員のやり取りを行う。
5	９－１ 会話「衣料品店で」	買い物をする。
6	９－２ 会話「衣料品で」	衣料品店での客と店員のやり取りを行う。
7	１０－１ 会話「日常生活」	一日の行動を言う。 時刻を尋ねる、言う。
8	１０－２ 会話「駅のホームで」	命令、依頼、勧誘する。
9	１１－１ 会話「セーヌ川沿いで」	過去の出来事を話す１
10	１１－２ 会話「地下鉄の駅で」	過去の出来事を話す２
11	１２－１ 会話「庭で」	過去の習慣を話す。
12	１２－２ ブログ記事	近い過去のことを話す。
13	１３－１ 会話「外出の前に」	近い未来のことを話す。
14	１３－２ 会話「散歩をしながら」	未来のことを話す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各２時間とする。

【テキスト（教科書）】
『ア・トン・トゥール』大湾宗定ほか著　白水社　２３００円

【参考書】
仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】
随時行う口頭テストの評価（７０％）と、平常点（３０％）を合わせて１００点満点とし、６０点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】
Course outline
In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.
Learning objectives
The goal is to be able to have simple daily conversation in French.
Learning activities outside of classroom
Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.
Grading criteria
The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

【到達目標】
フランス語であいさつできるようになる。
フランス語で自己紹介できるようになる。
フランス語で簡単な日常会話ができるようになる。
フランス語で身近な物事を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語表現の実践演習を行います。
初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション（1）	フランス語のアルファベ、挨拶
第 2 回	イントロダクション（2）	先生が用いる表現、リエゾン、エリジヨン
第 3 回	Leçon 1	お店での簡単な会話
第 4 回	Leçon 1	簡単な自己紹介
第 5 回	Leçon 2	簡単な他己紹介、性格の表現
第 6 回	Leçon 2	疑問の表現、病気の表現
第 7 回	Leçon 3	お店での会話、お礼の表現
第 8 回	Leçon 3	場所の表現、疑問詞のまとめ
第 9 回	Leçon 4	天候や季節の表現
第 10 回	Leçon 4	時間の表現
第 11 回	Leçon 5	暦、日付の表現
第 12 回	Leçon 5	レストランでの表現
第 13 回	Leçon 5	これまでの復習、フランス語で自分の意見を述べてみる
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしましょう。家でも声を出して練習することが大切です。そのさいは付属の音声ファイルを活用してください。

【テキスト（教科書）】
『アミカルマン ＜ プリュス> 』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示しますが、文法内容については「フランス語 1」使用テキストをよく確認してください。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りの進捗にも取り組みますが、その際には音源とスクリプトを提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is for students who start studying French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to speak about themselves in the French language.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

石川　典子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。先学期に引き続き、フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で話してみましょう。

【到達目標】
フランス語で過去のことについて話せるようになる。
フランス語で未来のことについて話せるようになる。
フランス語で関心のある分野について話せるようになる。
フランス語でメールを書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語表現の実践演習を行います。重要な表現は口に出して発音してもらいます。フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。学生どうしで演習を行います。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習・アイスブレイク	レシピの作成
第 2 回	Leçon 6	日常生活の表現、スポーツの表現
第 3 回	Leçon 6	勧誘・質問・許可の表現、on と ça
第 4 回	Leçon 7	過去のことを話す
第 5 回	Leçon 7	評価の表現
第 6 回	Leçon 8	理由の表現、会話での複合過去と半過去の使い分け
第 7 回	Leçon 8	意見・期待の表現、フランス語での手紙・メールの表現
第 8 回	Leçon 9	予定・時間の表現
第 9 回	Leçon 9	フランス語で感想を述べる
第 10 回	Leçon 10	招待・勧誘の表現
第 11 回	Leçon 10	予約の表現
第 12 回	Leçon 10	主観的な意見を述べる
第 13 回	Leçon 10	これまでの復習、フランス語で自分の意見を表現する
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れ、授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしてください。とくに、音声ファイルを活用して、何度も口に出して発音する練習をしてください。

【テキスト（教科書）】
『アミカルマン ＜ プリュス＞ 』、澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示しますが、文法内容については「フランス語 1」使用テキストをよく復習してください。

【成績評価の方法と基準】
授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
聞き取りの進捗にも取り組みますが、その際には音源とスクリプトを提示するようにします。
実用フランス語技能検定試験（仏検）への対策もおこないます。

【学生が準備すべき機器他】
辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくと便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】
This course is the continuation of my French course in spring. This course is for students who start to study French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to express themselves in the French language.
After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.
Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語２Ｉ

2017 年度以降入学者

寺家村　博

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスはフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

【到達目標】
まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより学生のみなさんは日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業である場合には演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。同時にリスニングにも注力していきます。また場合によっては対面授業と遠隔授業を組み合わせた形の授業になることもあります。なお小テストは原則対面授業中に実施予定です。テストの範囲は予め伝えます。テストのフィードバックはテスト終了後、同一時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	Etre 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	Avoir 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします
11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます
12 回	第 1 群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13 回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14 回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回復習のための課題をだします。また次回の授業のために必要な語彙や表現を予めまとめておいていただきます。予習と復習をあわせて約 120 分を必要とします。

【テキスト（教科書）】
『ヌーヴォー！』小倉博史、朝日出版社、2015 年

【参考書】
とくに指定はしません

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、小テスト及び課題 20 %程度

【学生の意見等からの気づき】
課題や小テストの量と機会を増やしていきたい。

【その他の重要事項】
授業形態（対面、オンデマンド授業）は COVID-19 の感染状況により変更になる場合もあるが、原則対面でおこないます。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.
By the end of this course, students should be able to the followings:
1 acquisition of a wide french vocabulary and expression
2 acquisition of a ability for french everyday conversation
Before / after class, student will be expected to spend 2 hours to understand the course content(reading the textbook, doing the homework)
Final grade will be calculated
Mid-term report 30%, Term-end examination 50% and in-class contribution,
short examination(including homework) 20 %.

LANf100LA

フランス語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

寺家村　博

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

【到達目標】
学生はこのクラスを履修することで、フランス語 II 1に引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業である場合は演習形式で授業を進めていきます。　フィードバックは原則授業内におこなっていきます。なお、小テストを実施する折は予め範囲などは伝え、翌週に返却するときに解説します。なお学期末のテスト等に関してはテスト実施の同一時間内に解説をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2 回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3 回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4 回	時間や天気の表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5 回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6 回	単純未来と近接未来	2 つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7 回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8 回	複合過去形（1）と近接過去	２つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9 回	複合過去形（2）	前回に引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
10 回	曜日、月、四季の表現。	７曜日、１２カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
11 回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
12 回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。
13 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
14 回	振り返りと解説	学期末テスト実施し、その後解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回復習のための課題を出します。記述式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】
フランス語２ I のテキストを継続使用します。

【参考書】
とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、課題の提出及び小テスト 20 % 程度

【学生の意見等からの気づき】
　会話の小テストを適宜実施していく。

【その他の重要事項】
授業形態（対面授業、オンライン授業）は COVID-19 の感染状況により変更となる場合もあるが、原則対面で実施する。

【Outline (in English)】
The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.
By the end of this course, students should be able to the followings:
1 acquisition of a large french vocabulary and expression
2 acquisition of a ability for a french everyday conversation
Before / after class, student will be ecpected to spend 2 hours to understand the course content（reading the textbook, doing the homework)
Final grade will be calculated
Mid-term report 30%, Term-end examination 50% and in-class contribution,
short examination (including homework)20 %

LANf100LA

フランス語 (1) Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法を学びます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項のサポートをおこないながら、授業を進めていきます。

【到達目標】
フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って進めていきます。また、同時にパートナーを組んでいるフランス人の先生の文法事項についても解説します。
まず文法項目の説明をし、それからフィードバックする形で問題演習をしていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。作文については、添削を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞 1	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞 2	２つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5　不規則動詞	ALLER　VENIR
第 10 回	L ５　演習	L5　練習問題
第 11 回	L6　形容詞	指示形容詞　所有形容詞
第 12 回	L6　演習	練習問題
第 13 回	L7　代名詞	疑問代名詞　関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 80 %平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　正和

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひきつづきコンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項を説明しながら、フランス語の初級文法を教えていきます。

【到達目標】
フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業計画に沿って進めていきます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項について解説を行いながら、体系的に文法を解説して行きます。
まず文法項目の説明をし、それからフィードバックする形で問題演習をしていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L8　人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8　演習	L8 練習問題
第 3 回	L9　複合過去	複合過去について
第 4 回	L9　演習	練習問題
第 5 回	L10　代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10　演習	練習問題
第 7 回	L11　未来形	単純未来
第 8 回	L11　演習	練習問題
第 9 回	L12　過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12　演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ーー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ーー

【参考書】
授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】
筆記試験 80 %平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】
① To learn the Elementary grammar of French
② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
④ Your overall grade in the class will be decided based on the following ：
Term-end examination: ６０%、in class contribution: ４０%

LANf100LA

フランス語（2）I

2017 年度以降入学者

村松　マリ=エマニュエル

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語１」と関連を図る。

【到達目標】
フランス人と会話やメールのやり取りが楽しめるようになることがこの授業の目的です。
You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書を使って、先ずはモデルの会話を練習し、学生どうしで応用練習をする。次は基礎文法と優しい練習問題をする。At first, you will do pattern practice exercises,then you will learn grammar and do short writing exercises.
期末試験に関するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
回 1	第 1 課、挨拶・自己紹介 Salutations, self presentation	「わたしは～です」 "My name is ~"
回 2	数字（０～２０）・アルはベット Numbers, alphabet	「名前の綴りは？」 "Can you spell your name ?"
回 3	第２課、職業 Lesson 2, Profession	「私は～です」 "I am ~."
回 4	住んでいるところを言う Telling where you live	「私は～に住んでいます」 "I am living ~."
回 5	第３課、国籍、言語 Lesson 3, Nationality, language	「私は～語を話します。」 "For breakfast I take ~."
回 6	数字（６９間で）・カフェで注文する Numbers, Ordering in a coffeeshop	「～をください」 "One coffee, please.
回 7	第４課、身の回りのもの Lesson 4, the name of the objects	「～を持っています」 "I have a pen."
回 8	歳、兄弟 Age, brother and sister	「何歳ですか？」 "How old are you ?"
回 9	第５課、人物を描写する。 Lesson 5, Describe a person	「彼はどんな人ですか？」"What is he like ?"
回 10	国の名前 The name of the countries	「どこの国に住んでいますか？」 "In which country are you living ?"
回 11	第６課、物のいち Lesson 6,Localisation	「ベッドはどこですか？」 "Where is the bed ?"
回 12	第７課、趣味、好み Lesson 7, Telling what you like	「私は～好きです」 "I like ~."
回 13	好き嫌いの程度 Preferences	「緑茶が大好きです」 " I like green tea very much."
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎授業後に必ず復習を行うことが必要です。
About one hour for preparation and revision after every lesson.

【テキスト（教科書）】
カフェ・フランセ Café Français
ニコラ・ガイヤール Nicolas Gaillard
加藤 豊子 Toyoko Kato
中川 高行 Takayuki Nakagawa
フロランス・容子・シュードル Florence Yoko Sudre
朝日出版社 Editions ASAHI

【参考書】
特になし Nothing

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %+期末テスト 50 %
Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし Nothing

【その他の重要事項】
必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある I may modify the program in case of necessity.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
It is a conversation class for beginners with a presentation of the french life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).
You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.
You will need about one hour for preparation and revision after every class.
Average in the class 50 %+ Oral test 50 %
Test no feedback will de done during the class.

LANf100LA

フランス語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

村松　マリ=エマニュエル

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」と関連を図る。

【到達目標】
フランス人と会話やメールのやり取りが楽しめるようになることがこの授業の目的です。
You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書を使って、先ずはモデルの会話を練習し、学生どうしで応用 練習をする。次は基礎文法と優しい練習問題をする。At first, you will do pattern pratcie exercises,ten you will learn grammar and do short writing exercises.
期末試験に関するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
回 1	第 8 課、洋服と色 Lesson 8, Clothes and colors	「何着ていますか?」 "What are you wearing ?"
回 2	第 8 課、比較する Lesson 8,Comparing	「A は B より~です。」 "A is ~than B."
回 3	第 9 課、朝食 Lesson 9, Breakfast	「朝食に~を取ります。」 "For breakfast I take ~."
回 4	第 9 課、頻度 Lesson 9, Frequency	「私はサッカ~します。」 "I ~do sports."
回 5	第 10 課、場所 Lesson 10, Places	「~へいきましょう。 ”Lets go to ~."
回 6	第 10 課、乗り物と期間 Lesson 10, means of transportation	「どうやって行きますか? どのぐらいの時間がかかりますか?」 "How will you go ? How long does it take ?"
回 7	第 11 課、時間 Lesson 11, Hour	「今何時ですか?」「~時から~時 まで授業があります。」 "What time is it?"
回 8	第 11 課、日常生活 Lesson 11, Daily	「私は~時に起きます。」 "I get up at ~o'clock."
回 9	第 12 課、人について情報を尋ねる Lesson 12, Asking information about somebody.	「彼女を知っていますか?」 "Do yo know her ?"
回 10	第 12 課、自分のアルバイトについて話す Lesson 12, Speaking about your job.	「アルバイトをしていますか?」 "Do you have a job ?"
回 11	第 13 課、フランスの食事 Lesson 13, French meals	「お昼に、何を食べましたか?」 "What did you eat for lunch ?"
回 12	第 13 課、注文する・料理の感想 Lesson 13,Ordering in a restaurant.	「~をお願いします。」「おいかったです。」 "~, please." "It was delicious."
回 13	第 14 課、過去のバカンスについて話す。 Lesson 14, Speaking about passed holidays.	「~へいきました。楽しかったです。」 "I went to ~. "I had fun."
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回復習を必ず行ってください。

【テキスト（教科書）】
カフェ・フランセ Café Français
ニコラ・ガイヤール Nicolas Gaillard
加藤 豊子 Toyoko Kato
中川 高行 Takayuki Nakagawa
フロランス・容子・シュードル Florence Yoko Sudre
朝日出版社 Editions ASAHI

【参考書】
ホームページ
http://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrancais/index.html

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %+期末テスト 50 % Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし Nothing

【学生が準備すべき機器他】
教科書とノート
Text and note

【その他の重要事項】
必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある I may modify the program in case of necessity.

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【None】
None

【Outline (in English)】
It is a conversation class for beginners with a presentation of the
french life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).
You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.
You will need about one hour for preparation and revision after every lesson.
Average in the class 50 %+ Oral test 50 %
Test no feedback will be done during the class.

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語２・フランス語５とトリオの科目。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】
SA アンジェに備え、春セメスター終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）５級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語２およびフランス語５（ネイティヴ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト１】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をする。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】2）も使用する。知識の定着のために時々小テストを行う。宿題や小テストに関するフィードバックは授業や hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	-アルファベット
	Leçon 1	-主語人称代名詞 -s'appeler（名前を言う）
2	Leçon 1	-動詞 être -qui を用いた疑問文
3	Leçon 2	-定冠詞と不定冠詞
4	Leçon 2	-形容詞の男性形／女性形 -前置詞
5	Leçon 3	-動詞 aller -所有形容詞 -疑問詞 quel(1)
6	Leçon 5	-定冠詞／不定冠詞のまとめ -Il y a -Qu'est-ce que～の使い方
7	Leçon 6	-人称代名詞強勢形 -動詞 avoir -否定文 -名詞と形容詞の性・数一致
8	Leçon 7	-疑問形容詞 quel(2) -comment と combien を用いた疑問文 -指示形容詞
9	Leçon 9	-様々な前置詞表現 -où を用いた疑問文
10	Leçon 10	-命令法 -前置詞と冠詞の縮約
11	Leçon 10	-動詞 prendre -中性代名詞 y
12	Leçon 11	-方角 -主語人称代名詞 on
13	期末テスト	-試験・まとめと解説
14	まとめ	-期末テストの返却・答あわせ -補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習を行い、付属の CD をよく聞き、声に出して読むこと。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
１）Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi!　1』（Hachette）
２）斎藤昌三『新版　３段階チェック式フランス語トレーニング・コース』（白水社、2200 円＋税）

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題や小テストを含む）50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内で答え合わせができなかった宿題に関しては hoppii を通じて正答表か添削を配布する。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed for beginners who are learning elementary French grammar.
【Learning Objectives】Aptitude of DAPF Grade 5
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
【Grading Criteria /Policy】Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100LA

フランス語３

2017 年度以降入学者

岡村　民夫

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語４・フランス語６とトリオの科目。フランス語１から引き続き、初級フランフランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】
SA アンジェに備え、仏検４級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語２およびフランス語５（ネイティヴ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト１】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行う。
宿題や小テストのフィードバックは授業や hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 13	-時間の言い方 -動詞 partir
2	Leçon 14	-動詞 faire - est-ce que を用いた疑問文 - 職業を表す名詞の性・数
3	Leçon 15	-動詞 lire, écrire -代名動詞
4	Leçon 15	-代名動詞 -faire ＋部分冠詞＋スポーツ
5	Leçon 17	-部分冠詞 -動詞 boire, acheter
6	Leçon 18	-形容詞 beau の女性形・複数形 -複合過去 (1)
7	Leçon 19	-複合過去 (2) -前置詞 pour, dans を用いた時間の表現
8	まとめ・復習	複合過去
9	Leçon 21	-動詞 pouvoir -否定命令形
10	Leçon 21	-命令形における補語人称代名詞の位置
11	Leçon 22	-動詞 vouloir, savoir -非人称表現 Il faut〜 -近接未来
12	Leçon 23	-動詞 connaître -補語人称代名詞
13	期末テスト	-試験・まとめと解説
14	まとめ	-期末テストの返却・答あわせ -補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必ず復習を行い、付属の CD をよく聞き、声に出して読むこと。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
１)Guy Capelle, Robert Menand『Le Nouveau Taxi!　1』（Hachette）
２) 斎藤昌三『新版　３段階チェック式フランス語トレーニング・コース』（白水社、2200 円＋税）

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（宿題や小テストを含む）50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】
授業内で答え合わせができなかった宿題に関しては hoppii を通じて正答表か添削を配布する。

【Outline (in English)】
【Course outline】This course is designed for beginners who are learning elementary French grammar.
【Learning Objectives】Aptitude of DAPF Grade 4
【Learning activities outside of classroom】After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content
【Grading Criteria/Policy】Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100LA

フランス語２

2017 年度以降入学者

鈴木　正道

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語 1（日本人教員）、フランス語 5（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、フランス語の初歩を学びます。表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学びます。通じる発音を身に着ける訓練もします。

【到達目標】
SA に行って現地で生活し、学校で学ぶのに必要な知識と技能を身に着けることを目標とします。上記の事柄に関して、聞いてわかる、話す、読む、書くことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
下記の教科書①（Nouveau Taxi) を 3 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。この教科書を SA 出発までの 1 年半（3 つのセメスター）で終わらせます。
　私はさらに下記の教科書②を補助に用いて、特に文法を中心に担当します。この教科書により、初級、さらに中級の文法を、豊富な実例とともに体系的に学ぶことができます。
発音や聞き取りの訓練や模擬会話もできる限り行います。
皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation・Unité 1 L0 「知っている単語はどれかな」 数詞 アルファベット	授業の紹介 導入 フランス語版のキーボード配列
2	Unité 1 L1 : 「ようこそ」	自己紹介／ 人称代名詞、規則動詞の現在時制、 基本動詞 être の単数
3	Unité 1 L2 : 「誰ですか」	男性名詞と女性名詞、不規則動詞
4	Unité 1 L3 : 「元気？」	不定冠詞、疑問詞
5	Unité 1 L4 : メル友募集	E メールの表現
6	ゲーム	まとめの読み物と練習問題
7	Unité 2 L5 : 「どこにありますか」	定冠詞、基本動詞 être の複数
8	Unité 2 L6 : 面通し	人の描写／ 基本動詞 avoir、否定文
9	Unité 2 L7 : 買い物	疑問詞、指示形容詞
10	Unité 2 L8 : 芸術家たち	エディット・ピアフの伝記映画
11	Unité 3 L9 : アパートを借りる	位置の表現／前置詞
12	Unité 3 L10 : ルーヴルに行くには	道順の説明／ 命令法、不規則動詞、縮約形
13	学期末授業内試験 Unité 3 L11 : 「よい旅行を！」	学期末授業内試験 レユニオン島
14	試験の復習 Unité 3 L11 : 人や物を示す。	試験の復習 それは～だ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、予習・復習を欠かさないようにしてください。
音声ファイルを使って、例文は常に声を出して学びましょう。
フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。
出てきた単語は Excel などにまとめて覚えましょう。
1 ：アルファベットを学ぶ。フランス語のキーボード配列になれるようにする。
2-7 ：動詞 être の活用を覚える。文法の性に従って名詞や冠詞を覚える。
8-10 ：動詞 avoir の活用を覚える。否定文の作り方を学ぶ。
11 ：前置詞を使った位置表現を学ぶ。
12 ：命令文を学ぶ。不規則活用の動詞を学ぶ。
13 ：試験のための復習をする。
14 ：総復習。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
① *Le nouveau taxi 1* , Guy Capelle & Robert Menand 著, Hachette 社発行
『新装版タクシー！』の第 1 レベル（初級）を用います。世界中のフランス語学習者のために作られたコミュニケーション重視の教科書です。全部で 9 つの単位からなり、それぞれが 4 つの課から成り立ちます。見開きのページからなる 1 つの課には対話文、文法や表現のまとめ、聞き取り、文法、発話の練習問題が含まれます。また 4 課ごとつまりひとつの単位の終わりには総復習の問題があります。3 人の教員の授業の共通教科書です。
②『初級フランス語文法（三訂版)』、天羽均　他　著、 朝日出版社。初級とありますが、中級以上にも使える詳しい教科書です。発音に関しても詳しい説明が載っています。①の教科書を補って、文法を体系的に学び、時に振り返って調べなおすために用います。

【参考書】
『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健　著、朝日出版社
『でる順仏検単語集』（5 級～2 級準備レベル）久松健一　著、駿河台出版社
辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂 /『ディコ仏和辞典』白水社 /『ロベール・クレ』駿河台出版社
中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】
課題や授業での活動（50 %）、期末試験成績（50 %）。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して音声教材や映像教材を用いる、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
教室では互いに距離を取って座るために、口頭練習がなかなかうまくいきません。これを工夫する手立てを考えます。

【Outline (in English)】
This course introduces students who are to participate in the SA France program to the basic level of the French language. It is relayed by other two teachers.
The students learn how to introduce themselves, how to describe persons or things, how to ask for information, etc. They learn also the grammar: pronouns, nouns, articles, grammatical genders, verbs in the present indicative, etc.
They train themselves to make themselves understood in oral communications.
At the end of this course, they are expected to get practical knowledge on these items to get through during the SA program.

The students are to prepare and review their classes, which will require at least one hour. They must submit an assignment after each unit of lessons.
The final grade will be calculated according to total scores of assignments (50%) and terminal examination (50%).

LANf100LA

フランス語４

2017 年度以降入学者

鈴木　正道

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 3/Wed.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語 3（日本人教員）、フランス語 6（外国人教員）、フランス語コミュニケーション I（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、引き続きフランス語の初歩を学びます。表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学びます。

【到達目標】
SA での成果をあげるために必要な知識と技量をさらに増やすことを目標とします。駅やレストラン、大学など、日常での様々な場面に対応できるようにします。
フランス語検定試験 4 級もしくは３級、ヨーロッパ共通参照枠 A1 レヴェルの技能を身に着けることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期と同じ教科書（下記の Nouveau Taxi) を秋学期では 4 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。私は特に文法を中心に担当します。使う教科書の文法の進度はやや遅いので、過去など一部の項目に関しては補助の教科書を用いてやや先取りして行う予定です。発音や聞き取りの訓練や模擬会話も状況が許す限り頻繁に行います。
皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation :	授業の紹介・春学期の総合まとめ
2	Unité 3 L12 : これまでの復習	マルセイユ界隈
3	Unité 4 L13 : 駅の窓口で	疑問詞、不規則動詞
4	Unité 4 L14 : 日常生活を説明する	不規則動詞、行為者を表す名詞
5	Unité 4 L15 : 週末の過ごし方を説明する	不規則動詞、代名動詞
6	Unité 4 L16 : 「ロール・マノドゥて知ってますか。」	有名人に関する文章を読む
7	まとめ 実用の知識	疑問詞、不規則動詞、代名動詞
8	Unité 5 L17 : クレープを作る	要求、飲食の習慣、量の表現／部分冠詞
9	Unité 5 L18 : 「昨日何をしたの？」	過去の出来事、意見／複合過去（助動詞 avoir）
10	Unité 5 L19 : 手紙	過去について話す、期間／複合過去（助動詞 être）
11	Unité 5 L20 : 行事	お祭りについて説明する
12	Unité 6 L21 : 機内で／ホテルで	許可-禁止／否定命令、命令法と人称代名詞
13	授業内試験	授業内試験
	Unité 6 L22 : 求人	非人称構文、近接未来
14	試験の復習	試験の復習
	Unité 6 L23 : 直接目的語と間接目的語	提案／目的語としての人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回予習・復習を欠かさないようにしてください。
音声ファイルを使って、例文は常に声を出して学びましょう。
駅での切符の買い方、提案の仕方など、声に出して演じましょう。
フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。
出てきた単語は Excel などにまとめて覚えましょう。
参考書にあげた『ホームステイのフランス語』でホームステイで役に立つ表現を覚えてください。
1 ：春学期の復習をする。
2-4 ：不規則活用の動詞を学ぶ。疑問詞の使い方を覚える。
5-7 ：代名動詞を学ぶ。不規則活用の動詞を学ぶ。
8 ：部分冠詞を学ぶ。
9-11 ：複合過去を学ぶ。
12 ：命令法を学ぶ。試験のための復習をする。
13-14 ：非人称の表現を学ぶ。近接未来を学ぶ。総復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期の教科書を引き続き使います。
① *Le nouveau taxi 1*, Guy Capelle & Robert Menand 著,Hachette 発行
②『初級フランス語文法（三訂版)』、天羽均　他　著、　朝日出版社。

【参考書】
『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健　著、朝日出版社
『ホームステイのフランス語』阿南婦美代　著、白水社

【成績評価の方法と基準】
課題や参加状況による平常点（50 %）、期末試験成績（50 %）を総合し評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して音声教材や映像教材を用いる、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
教室では互いに距離を取って座るために、口頭練習がなかなかうまくいきません。これを工夫する手立てを考えます。

【Outline (in English)】
Succeeding to the precedent course (French 2), this course introduces students who are to participate in the SA France program to the basic level of the French language. It is relayed by other three teachers.
The students learn how to command dishes or drinks, how to ask or demand something of someone else, etc. They also learn the grammar :irregular verbs, pronominal verbs, near future, past tense, etc.
The aim of this course is to get more knowledge of the French language necessary for effective study during the SA program. The students should be able to get through in a variety of situations in daily life: in a railroad station, a restaurant, the university campus, etc. At the end of the course, they are expected to reach the fourth or third grade level of the APEF or the AI level of CEFRL.
The students are to prepare and review their classes, which will require at least one hour. They must submit an assignment after each unit of lessons.
The final grade will be calculated according to the total score of assignments (50%) and terminal examination(50%).

LANf100LA

フランス語５

2017 年度以降入学者

ル・ルー清野　ブレンダン

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「フランス語１」「フランス語２」とトリオの科目で，「ヨーロッパ共通参照枠組み」に準拠した最も易しいレベル (A1) の達成を目指すための総合的フランス語入
門コースです。主に「フランス語１」「フランス語２」で学んだフランス語を実践的に応用する，コミュニケーション重視の授業です。

【到達目標】
SA アンジェに備え、自分自身の日常生活や身近なテーマについて，簡単なフランス語で，相互に働きかけ合うことを目標とします。4 つの能力を 総合的に練習し，「ヨーロッパ共通参照枠組み」で定められている A1 レベルを目指します。つまり，最低限必要なことを行うための，よく使われる日常的表現やごく簡単な言い回しを理解し，用いることができるようになることを目指します。自分や他人を紹介することができ，個人的な事柄 (住んでいる場所，知り合い，持ち物など) について質問をしたり，答えたりできるようになります。相手がゆっくり，はっきり話し，協力的であれば，簡単なやりとりができるようになります。
春セメスター終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）５・４級合格に相当する語学力の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語母語話者の教員や他の学生との対話等を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話せるように，発音練習を交えたオーラル・コミュニケーションが主になる授業です。言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加し，質問をしたり質問に答えたり会話を作ったりすることは最も重要なことで成功への鍵です。
この授業では，作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や小テストに関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation	授業の紹介
	Unité 1 L0	教室で使う表現
②	Unité 1 L1	紹介・自己紹介
	Bienvenue!	
③	Unité 1 L2	誰ですか
	Qui est-ce?	
④	Unité 1 L3	お元気ですか
	Ça va bien?	
⑤	Unité 1 L4	メル友
	Correspondants	作文１：自己紹介
⑥	Unité 2 L5	どこにありますか
	Trouvez l’objet	
⑦	Unité 2 L6	人の描写
	Portait-robot	
⑧	Unité 2 L7	買い物
	Shopping	
⑨	Unité 2 L8	芸術家たち
	Le coin des artistes	作文２：部屋の描写
⑩	Unité 3 L9	アパートを借りる
	Appartement à louer	
⑪	Unité 3 L10	道順の説明
	C’est par où?	
⑫	Unité 3 L11	よい旅行を！
	Bon voyage!	
⑬	Unité 3 L12	観光
	Marseille	作文３：絵葉書
⑭	まとめ	復習
		最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当然ながら，授業の内容を次の授業までに復習すること。復習・語彙・書き取り（Dictée）の小テストを頻繁に行います。本授業の準備・復習時間は、２時間を標準とします。
また，耳をできるだけ早くフランス語の音に慣れさせるために教科書についている音源等を各自聴くこと。音源をスマホなどに入れ，（長い）通学時間を賢く利用しましょう!

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】
留学の際，仏和辞典が必携のアイテムになりますので，できるだけ早く入手しましょう。紙のものでも，電子辞書でも，スマホのアプリでも大丈夫です。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，書き取り (Dictée)，その他の小テスト:約 20 %
・リーディングマラソン（フランス語多読）：約 20 %
・作文：約 20 %
・期末試験:約 20 %
・出席点:約 20%。尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり，遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
（初めての授業なので，該当しない。）

【None】
none

【Outline (in English)】
French for beginners (1st semester). This course focuses on developing mainly basic oral (and written) communication skills in French. Its main target is students motivated/selected for the Study Abroad program in France. It also prepares to the A1 level of French proficiency tests.
Depending on the tasks, revision and/or homework will require from one to three hours.
The grading criteria are as follows:
· Homework, short tests, etc: 20 %
· Reading marathon (Extensive reading):20 %
· Short essays:20 %
· Final exam:20 %
· Attendance:20%

LANf100LA

フランス語６

2017 年度以降入学者

ル・ルー清野　ブレンダン

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「フランス語３」「フランス語４」とトリオの科目で，「ヨーロッパ共通参照枠組み」に準拠した最も易しいレベル (A1) の達成を目指すための総合的フランス語入
門コースです。主に「フランス語１」「フランス語２」で学んだフランス語を実践的に応用する，コミュニケーション重視の授業です。

【到達目標】
SA アンジェに備え、自分自身の日常生活や身近なテーマについて，簡単なフランス語で，相互に働きかけ合うことを目標とします。4 つの能力を 総合的に練習し，「ヨーロッパ共通参照枠組み」で定められている A1 レベルを目指します。つまり，最低限必要なことを行うための，よく使われる日常的表現やごく簡単な言い回しを理解し，用いることができるようになることを目指します。自分や他人を紹介することができ，個人的な事柄 (住んでいる場所，知り合い，持ち物など) について質問をしたり，答えたりできるようになります。相手がゆっくり，はっきり話し，協力的であれば，簡単なやりとりができるようになります。
秋セメスター終了時にはフランス語実用技能検定試験（仏検）４・３級合格に相当する語学力の習得をめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
フランス語母語話者の教員や他の学生との対話等を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話せるように，発音練習を交えたオーラル・コミュニケーションが主になる授業です。言語というものは，他の科目と違い，教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので，欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し，自分で口にし，はじめて身に付くものなので，毎回授業に積極的に参加し，質問をしたり質問に答えたり会話を作ったりすることは最も重要なことで成功への鍵です。
この授業では，作文やリーディングマラソン（フランス語多読）のような課題も課せられますので，そのつもりでいて下さい。
宿題や小テストに関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の紹介 学生による自己評価	TCF
②	Unité 4 L13 Un aller simple	駅の窓口にて
③	Unité 4 L14 A Londres	偶然の再会
④	Unité 4 L15 Le dimanche matin	週末の活動
⑤	Unité 4 L16 Laure Manaudou	競泳のロール・マノドゥ選手 作文１：自分の一日
⑥	Unité 5 L17 On fait des crêpes?	要求，飲食の習慣
⑦	Unité 5 L18 Il est comment?	過去の出来事，意見
⑧	Unité 5 L19 Chère Léa...	過去について話す，時と期間
⑨	Unité 5 L20 Les fêtes	年間行事 作文２：年間行事や祭り，パーティの思い出
⑩	Unité 6 L21 C'est interdit!	許可～禁止
⑪	Unité 6 L22 Petites annonces	可能性と能力，意思と義務
⑫	Unité 6 L23 Qu'est-ce qu'on lui offre?	提案
⑬	Unité 6 L24 Le candidat idéal	就活の面接 作文３：パーティの準備
⑭	まとめ	復習 最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
当然ながら，授業の内容を次の授業までに復習すること。復習・語彙・書き取り（Dictée）の小テストを頻繁に行います。本授業の準備・復習時間は、２時間を標準とします。
また，耳をできるだけ早くフランス語の音に慣れさせるために教科書についている音源等を各自聴くこと。音源をスマホなどに入れ，（長い）通学時間を賢く利用しましょう!

【テキスト（教科書）】
LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】
留学の際，仏和辞典が必携のアイテムになりますので，できるだけ早く入手しましょう。紙のものでも，電子辞書でも，スマホのアプリでも大丈夫です。

【成績評価の方法と基準】
・宿題，書き取り (Dictée)，その他の小テスト:約 20 %
・リーディングマラソン（フランス語多読）：約 20 %
・作文：約 20 %
・期末試験:約 20 %
・出席点:約 20%。尚，出席点に関しては減点方式をとり，4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり，遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】
（初めての授業なので，該当しない。）

【None】
none

【Outline (in English)】
French for beginners (1st semester). This course focuses on developing mainly basic oral (and written) communication skills in French. Its main target is students motivated/selected for the Study Abroad program in France. It also prepares to the A1 level of French proficiency tests.
Depending on the tasks, revision and/or homework will require from one to three hours.
The grading criteria are as follows:
・Homework, short tests, etc: 20 %
・Reading marathon (Extensive reading):20 %
・Short essays:20 %
・Final exam:20 %
・Attendance:20%

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。
そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけなく、できるだけ的確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りと行います。
さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

【到達目標】
本授業は秋学期の「フランス語 3」に繋がる授業です。
一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。
加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」（フランス人教員担当）と連携して授業を進めることになります。本授業「フランス語 1」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 2」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏（＝フランコフォニー）」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。
毎回の授業では、教科書を中心にして進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。
教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、ミニ課題として課すことになります。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Phonétique Initiation 1	・挨拶／自己紹介等 ・母音と子音 ・数字／強勢形
2	Vocabulaire de la classe Initiation 2	・教室で使うフランス語／挨拶／職業・国籍について尋ねる／名前の綴りを言う等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
3	Unité 1 Leçon 1	・名前・職業・住んでいる所について尋ねる／自分の仕事を話す等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
4	Unité 1 Leçon 1	・人について質問する等 ・基礎動詞の現在形／肯定形、否定形、疑問形
5	Unité 1 Leçon 2	・職業を尋ねる／やりたい職業を言う等 ・所有形容詞／名詞と形容詞の性数一致
6	Unité 1 Leçon 2	・何語を話すか言う（1）等 ・動詞 vouloir の条件法／国籍と言語
7	Unité 1 Leçon 3	・人について尋ねる／もの・ことを示す等 ・動詞 connaître の現在形単数／性数一致／前置詞＋国名 ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）／したいことについて話す等
8	Unité 1 Leçon 3	・何語を話すか言う（2）等 ・人称代名詞と on ／観光名所の前に付く定冠詞
9	Unité 2 Leçon 4	・好きなものを言う／好き嫌いの程度（物）等 ・動詞 aimer, préférer の現在形単数／定冠詞
10	Unité 2 Leçon 4	・どちらが好きか言う等 ・副詞の位置／否定形／ il y a...
11	Unité 2 Leçon 5	・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）等 ・ER 動詞の現在形のすべて
12	Unité 2 Leçon 5	・したいことについて話す等 ・動詞 aimer ＋動詞の不定詞／動詞 vouloir の条件法
13	Unité 2 Leçon 6	・好みを説明する／どちらが好きか理由を述べる等 ・形容詞の男性形、女性形／比較級の基礎／ trouver ça 形容詞 ・人を描写する等 ・理由の表現／ C'est ＋形容詞の男性形
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。
・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。
・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。
・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著，『Spirale: nouvelle édition』，Hachette，2015 年.
（＊購入の際には「新版」であることに注意してください。）
・以下の出版社サイトを介して、音声を聞くこともできる。
https://www.hachette-japon.jp/spirale

【参考書】
お奨め参考書
①文法全般：『ケータイ「万能」フランス語文法』，久松健一著，駿河台出版社，2000 年；『増補改訂版　新リュミエール』，森本英夫他著，駿河台出版社，2013 年.
②動詞活用：『フランス語動詞 60』，久保田剛史他著，朝日出版社，2015 年.
③仏和辞典：（初級～）『ディコ仏和辞典』，白水社；（中級～）『ロワイヤル仏和中辞典』，旺文社；『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社.

【成績評価の方法と基準】
・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題、参加度など）： 40 %
②期末テスト： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進度を調整する。
・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。
・説明を聞き取りやすい声音で行う。

【Outline (in English)】
This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 40%, term-end test: 60%.

LANf100LA

フランス語３

2017 年度以降入学者

廣松　勲

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。
そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけなく、できるだけ的確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りと行います。
さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏（＝フランコフォニー）」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

【到達目標】
本授業は春学期の「フランス語 1」を引き継いだ授業です。
一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。
加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようになります。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異（訛りなど）が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 4」（フランス人教員担当）と連携して授業を進めることになります。本授業「フランス語 3」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 4」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏（＝フランコフォニー）」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。
毎回の授業では、教科書を中心にして進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。
教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、ミニ課題として課すことになります。
コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 春学期の復習	・自己紹介／他者紹介／国籍と職業／好き嫌い等 ・基礎動詞の活用／名詞と形容詞の性数一致
2	Unité 3 Leçon 7	・自分について話す（年齢）／科目について話す等 ・動詞 avoir の現在形／序数
3	Unité 3 Leçon 7	・時間の使い方、時間割について話す等 ・疑問形容詞 quel ／曜日
4	Unité 3 Leçon 8	・持ち物について話す／所有を表す等 ・不定冠詞／人称代名詞の強勢形
5	Unité 3 Leçon 8	・物を借りる等 ・否定形 n'...pas de ／所有形容詞
6	Unité 3 Leçon 9	・場所について説明する／場所について情報を求める等 ・C'est, Ce sont ＋名詞／不定冠詞から定冠詞へ／動詞 savoir
7	Unité 3 Leçon 9	・ある場所について尋ねる等 ・il y a ／命令法／縮約
8	Unité 4 Leçon 10	・何をするか尋ねる、答える／何をするか尋ねる等 ・不規則動詞の活用／ Qu'est-ce que...comme...?／否定形
9	Unité 4 Leçon 10	・詳しく訊く等 ・指示形容詞／特徴を言い、正確に伝える表現
10	Unité 4 Leçon 11	・趣味、余暇について話す／頻度を示す等 ・faire de, jouer de ／否定形（復習）／ jouer à
11	Unité 4 Leçon 11	・習慣について話す等 ・中性代名詞 en ／頻度を示す副詞／形容詞 autre
12	Unité 4 Leçon 12	・家族について話す／過去の出来事について語る等 ・所有形容詞／動詞 être の現在形／ avoir を用いる複合過去／過去分詞の作り方
13	Unité 4 Leçon 12	・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去／過去分詞の作り方／複合過去の否定形 ・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去／複合過去の疑問形
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。
・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。
・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。
・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著，『Spirale: nouvelle édition』，Hachette，2015 年.
（＊購入の際には、「新版」であることに注意してください。）
・以下の出版社サイトを介して、音声を聞くこともできる。
https://www.hachette-japon.jp/spirale

【参考書】
お奨め参考書
①文法全般：『ケータイ「万能」フランス語文法』，久松健一著，駿河台出版社，2000 年；『増補改訂版　新リュミエール』，森本英夫他著，駿河台出版社，2013 年.
②動詞活用：『フランス語動詞 60』，久保田剛史他著，朝日出版社，2015 年.
③仏和辞典：（初級～）『ディコ仏和辞典』，白水社；（中級～）『ロワイヤル仏和中辞典』，旺文社；『ロベール・クレ　仏和辞典』，駿河台出版社.

【成績評価の方法と基準】
評価配分は、以下の通り
①平常点（ミニ課題、参加度など）： 40 %
②期末試験： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進度を調整する。
・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。

・説明を聞き取りやすい声音で行う。

【Outline (in English)】
This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.
The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.
Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.
Your overall grade in the class will be decided based on the followings:
in class contributions (mini-exercice, etc): 40%, term-end test: 60%

LANf100LA

フランス語２

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある.
このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します.
教科書に掲載されている練習問題や、その他の補足的な練習を授業で行います。宿題はクラスで添削します。受講中、受講後の生徒からの質問にも講師がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習①　Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞　ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞　VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞　AVOIR・代名詞　EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・３人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞　FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
宿題:各レッスン終了後、レッスン中に学習した新しい単語や文法事項を学習する必要があります

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語４

2017 年度以降入学者

コリンヌ　ヴァリエンヌ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】
会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの４つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppii などを活用する場合もある.
このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçon 1 à 10
2	Leçon 11	周波数の表現方法
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞　Y　と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【テキスト（教科書）】
SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE
【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】
無い

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.
GOAL :
Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.
PREPARATION :
Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.
GRADING CRITERIA :
Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

稲垣　正久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。
提出物は添削したうえで次の授業で返却します。
質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アルファベと綴り字の読み方	Alphabet・綴り字記号・綴り字の読み方など
第 2 回	第１課	名詞の性と数・不定冠詞・定冠詞など
第 3 回	第２課	etre の直説法現在と主語人称代名詞など
第 4 回	第３課	avoir の直説法現在・部分冠詞・否定文など
第 5 回	第４課	-er 動詞の直説法現在形 疑問文など
第 6 回	第５課	-ir 動詞の直説法現在・疑問文など
第 7 回	第６課	不規則動詞 faire/mettre・疑問代名詞など
第 8 回	復習１	第１回小テスト（予定）
第 9 回	第７課	不規則動詞 aller/partir 疑問副詞など
第 10 回	第８課	不規則動詞 venir/prendre　指示代名詞など
第 11 回	第９課	不規則動詞 voir attendre ・直接目的語・強勢形の人称代名詞など
第 12 回	第１０課	不規則動詞 ecrire dire・間接目的語の人称代名詞など
第 13 回	復習２	第２回小テスト (予定)
第 14 課	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『基本＋アルファのフランス語文法』（駿河台出版社）

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】
Course outline; study of elementary grammar of French language
Leaning objectives; understanding of the elementary grammar
Leaning activities outside of classroom; home work(1hour)
Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2) and the final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

稲垣　正久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】
フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。
提出物は添削したうえで次の授業で返却します。
質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習１	第１課～第１０課
第 2 回	第１１課	代名動詞など
第 3 回	第１２課	直説法複合過去（１）など
第 4 回	第１３課	直説法複合過去（２）など
第 5 回	復習１	第１回小テスト (予定)
第 6 回	第１４課	中性代名詞など
第 7 回	第１５課	比較級・最上級など
第 8 回	第１６課	直説法半過去・大過去など
第 9 回	第１７課	関係代名詞など
第 10 回	第１８課	直説法単純未来・受動態など
第 11 回	復習２	第２回小テスト (予定)
第 12 回	第１９課	条件法現在・現在分詞・ジェロンディフなど
第 13 回	第２０課	接続法現在・強調構文など
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回出される宿題を必ずやってくること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『基本＋アルファのフランス語文法』（駿河台出版社）

【参考書】
授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。
この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。
詳細は第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】
Course outline;study of elementary grammar of French language
Learning objectives; understanding of the elementary grammar
Learning activities outside of classroom; homework(1hour)
Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2), final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

竹本　研史

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】
フランス語の初級文法について、代名動詞までを 1 学期間でマスターする。
DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 5 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し
課題（＝宿題）に対するフィードバックは、授業で解説を行うという形式をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方についての説明 ・フランス語のつづり字の発音
第 2 回	第 1 課	・名詞の性と数 ・冠詞 ・主語人称代名詞 ・動詞 être, avoir
第 3 回	第 2 課	・第一群規則動詞 ・否定文 ・疑問文
第 4 回	第 3 課	・命令法 ・第二群規則動詞 ・partir ・疑問副詞
第 5 回	第 4 課	・faire, prendre ・否定文における冠詞の変化 ・人称代名詞の強勢形 ・指示代名詞
第 6 回	第 5 課	・形容詞の位置と性・数 ・所有形容詞
第 7 回	第 1-5 課のまとめ	第 1-5 課の文法事項の復習
第 8 回	第 6 課	・aller, venir ・近接未来と近接過去 ・定冠詞の縮約
第 9 回	第 7 課	・比較級 ・最上級 ・疑問形容詞 ・vouloir, pouvoir, devoir
第 10 回	第 8 課	・非人称構文 ・補語人称代名詞
第 11 回	第 9 課	・中性代名詞 ・疑問代名詞（1）
第 12 回	第 5-9 課のまとめ	第 6-9 課の文法事項の復習
第 13 回	発音・聴き取りの復習	・発音テスト ・聴き取りの練習
第 14 回	春学期のまとめ	・期末テスト ・期末テストの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は当然必要。
準備学習と宿題には 1 時間、復習にも 1 時間必要であろう。
〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。
〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたうえで、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。
〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何かがそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書（BD も含め）、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 LA 」、「フランスの文化と社会 LA 」、「フランス生活文化論 LA 」などの履修を推奨する。

【テキスト（教科書）】
近江屋志穂・竹本研史『文法と文化で学ぶ 基礎フランス語』、朝日出版社、2023 年。
ISBN : 978-4-255-35339-5
定価： 2300 円＋税

【参考書】
仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

【成績評価の方法と基準】
語彙・活用に関する小テスト（学期に数回実施）［20%］＋発音テスト［10 %］＋期末試験［70%］
ただし、授業中に指名するにあたった際に、単語調べなどの予習をやっていなかった場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。
教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
2017 年度より担当

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the basic French grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read carefuly the texte and to work at your exercises before/after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Mini-test : 20%
Read-test : 10%
Term-end examination: 70%

LANf100LA

フランス語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

竹本　研史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「フランス語 1- I 」に引き続き、フランス語を初めて学ぶ人間環境学部（A-F 組）の学生が、指定教科書にしたがって、フランス語の文法を学ぶ。

【到達目標】
フランス語の初級文法について、接続法現在までを 1 学期間でマスターする。
DELF（フランス国民教育省・フランス語資格試験）の A1 レベル到達を目標とする。仏検 4 級合格を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法事項の解説 → 該当の文法事項に関する宿題 → 答え合わせ・解説 → 新たな文法事項に関する解説 → 以下、この繰り返し。動詞の活用などを覚えるために学期に数回小テストを実施。
学生からの質問・意見や、提出物に対しては、基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 10 課	・複合過去
第 2 回	第 11 課	・関係代名詞
		・強調構文
		・指示代名詞
第 3 回	第 12 課	・現在分詞
		・ジェロンディフ
		・受動態
第 4 回	第 10-12 課のまとめ	第 10-12 課の文法事項の復習
第 5 回	第 13 課	・代名動詞（現在）
第 6 回	第 14 課	・代名動詞（複合過去）
		・所有代名詞
		・疑問代名詞（2）
第 7 回	第 15 課	・半過去
		・単純未来
第 8 回	第 13-15 課のまとめ	第 13-15 課の文法事項の復習
第 9 回	Appendice 2	・条件法現在
第 10 回	Appendice 3	・接続法現在
第 11 回	Appendice 2 と 3 のまとめ	Appendice 2 と 3 の文法事項の復習
第 12 回	秋学期の文法事項総合まとめ	秋学期全体の文法事項の復習
第 13 回	発音・聴き取りの復習	・音読試験
		・聴き取り練習
第 14 回	秋学期のまとめ	・筆記試験
		・筆記試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習・宿題は当然必要。
準備学習と宿題には 1 時間、復習にも 1 時間必要であろう。
〈準備学習〉毎回教科書を熟読したうえで、各課の文法事項の説明を通じて疑問点を洗い出し、単語の意味を事前に調べておくこと。また、CD などの音声教材を利用しながら教科書に出てくるフランス語表現を繰り返し音読し発音を確認しておくこと。
〈復習・宿題〉教科書と音声教材を利用してその日に学んだ文法事項とフランス語表現の発音を定着させたうえで、教員がその日に指定した宿題を必ずおこなうこと。
〈学外で〉人間環境学部の学生は、何よりもまず、現場に赴き、何かがそこで生起している場面に立ち会うことが重要である。各人が積極的に出かけて、読書（BD も含め）、映画、美術、音楽、演劇、ダンス、バレエ、料理、スポーツ、ファッションなどを通じて、フランス語およびフランス語圏文化に親しむ機会をつくること。そのための一助として、「フランス語の世界 LB 」、「フランスの文化と社会 LB 」、「フランス生活文化論 LB 」などの履修を推奨する。

【テキスト（教科書）】
近江屋志穂・竹本研史『文法と文化で学ぶ 基礎フランス語』、朝日出版社、2023 年。
ISBN : 978-4-255-35339-5
定価： 2300 円＋税

【参考書】
仏和辞典は必ず携行すること。紙辞書を積極的に推奨する（単語、熟語などの見やすさなどの利点から）。

【成績評価の方法と基準】
語彙・活用に関する小テスト（学期に数回実施）［20%］＋発音テスト［10 %］＋期末試験［70%］
ただし、授業中に指名するにあたった際に、単語調べなどの予習をやっていなかった場合は、授業進行の妨害とみなし、その都度 1 点ずつ減点する。
教科書、辞書を入手しない学生は評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces the foundations of French grammar to students taking this course.
【Learning Objectives】
The goals of this course are to understand the basic French grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to read carefuly the texte and to work at your exercises before/after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Mini-test : 20%
Read-test : 10%
Term-end examination: 70%

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

柴崎　秀穂

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（ＤＥＬＦ）のＡ１レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回「授業資料」を配付します。まず「資料」を読みながら教師が文法事項を解説、全員でフランス語例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
第 2 回	フランス語の音。第１課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
第 3 回	第１課続き。第２課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
第 4 回	第３課。	動詞「持つ」、否定
第 5 回	第４課	部分冠詞、形容詞
第 6 回	第５課。	第一群規則動詞、疑問文
第 7 回	第６課。	指示形容詞、所有形容詞
第 8 回	第７課。	「行く」と「来る」、縮約
第 9 回	第８課。	近接未来と近接過去、非人称
第 10 回	発音のまとめ。	綴り字の読み方のまとめ
第 11 回	第９課。	第二群規則動詞、命令法
第 12 回	第 10 課。	疑問形容詞、疑問代名詞
第 13 回	第１０課続き。復習。	疑問代名詞（続き）、疑問副詞
第 14 回	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題の一部は「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・フランス語文法の〈基礎〉』太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社
『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業資料」と「練習問題」を、より分かりやすく効果的になるよう修正しました。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
· Course outline
This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.
· Learning objectives
At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.
· Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
· Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎　秀穂

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランス語の基本的な語彙と文法を学びます。

【到達目標】
簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（ＤＥＬＦ）のＡ１レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
毎回「授業資料」を配付します。まず「資料」を読みながら教師が文法事項を解説、全員でフランス語例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題の一部は「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第１１課。	目的格人称代名詞
第 2 回	第１２課。	代名動詞
第 3 回	第１３課。第１４課。	複合過去（1）
第 4 回	第１４課続き。	複合過去（2）
第 5 回	第１５課。	半過去
第 6 回	第１６課。	比較と最上級
第 7 回	第１７課。	単純未来
第 8 回	第１８課。	中性代名詞
第 9 回	第１９課。	関係代名詞 qui、 que
第 10 回	第１９課続き。	関係代名詞 dont 、où
第 11 回	第２０課。	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
第 12 回	第２１課。	条件法
第 13 回	第２２課。	接続法
第 14 回	期末試験。	試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の練習問題の一部は「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】
『クラウン仏和辞典』三省堂
『プチ・ロワイヤル仏和辞典』旺文社
『新・リュミエール　フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「授業資料」と「練習問題」を、より分かりやすく効果的になるよう修正しました。

【その他の重要事項】
若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】
· Course outline
Students taking this course will learn French grammar.
· Learning objectives
At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.
· Lecture/Exercise
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.
· Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50%、Short reports: 25%、in-class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。
原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対 面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】
このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。
資格は筆記試験（フランス語検定４～５級）と口頭試験（DELF A１レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 Orientation Initiation	授業の紹介 挨拶
2	Leçon 2	自己紹介
3	Leçon 2 Leçon 3	国籍 数字 話せる言葉、専攻、好きなことを言う
4	Leçon 3	-er 動詞 (1)、定冠詞
5	Leçon 4	住んでいる国や都市を言う、否定する
6	Leçon 4 Leçon 5	国名の前の前置詞、否定形 持ち物、年齢を言う
7	中間テスト Leçon 5	動詞 avoir、否定の de
8	Leçon 6	日常について話す
9	Leçon 6 Leçon 7	動詞 faire と aller、動詞-er(2) 人や物を描写する
10	Leçon 7	形容詞の性数、形容詞の位置、所有形容詞
11	Leçon 8	服を買う
12	Leçon 8 Leçon 9	動詞 vouloir, prendre 指示形容詞 ce 食料品を買う
13	Leçon 9	部分冠詞 du, de la 中性代名詞 en
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題　（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
題名 マエストロ１　実践フランス語　初級
筆者　北村亜矢子, Durrenberger Vincent
出版社　朝日出版社
ISBN : 978-4-255-35307-4 C1085

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等）33%で評価します。５回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話しします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】
感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】
In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to learn French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 33%、Mid-Term examination : 34%、in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語２－１と関連した授業です。
原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対 面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】
このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。
資格は筆記試験（フランス語検定４～５級）と口頭試験（DELF A１レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
	Leçon 10	位置関係を言う
2	Leçon 10	位置関係の前置詞、東西南北
	Leçon 11	道順の説明する
3	Leçon 11	命令形、道順を伝える
4	Leçon 12	質問をする、予定について語る
5	Leçon 12	動詞 partir,　疑問詞の作り方
	Leçon 13	天気、時刻
6	Leçon 14	自分の一日を語る
7	Leçon 14	代名動詞
	Leçon 15	今していること、したばかりことを言う
8	中間テスト	関節目的補語人称代名詞
	Leçon 15	
9	Leçon 16	過去の行為や出来事をかたら（1）
10	Leçon 16	複合過去 (1)
11	Leçon 17	過去の行為や出来事をかたら（2）
12	Leçon 17	複合過去（２）
13	Leçon 18	過去の行為や出来事をかたら（3）
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
題名　マエストロ１　実践フランス語　初級
筆者　北村亜矢子　Durrenberger Vincent
出版社　朝日出版社
ISDN : 978-4-255-35307-4 C1085

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言など）33%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話しします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】
感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】
In this class, we study French conversation at a beginner level.　This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.　The goal of this course is to learn French conversation and grammar.　Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 33%、Mid-Term examination : 34%、in class contribution: 33%.　To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。
原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対 面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】
このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。
資格は筆記試験（フランス語検定４～５級）と口頭試験（DELF A１レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 1 Orientation Initiation	授業の紹介 挨拶
2	Leçon 2	自己紹介
3	Leçon 2 Leçon 3	国籍 数字 話せる言葉、専攻、好きなことを言う
4	Leçon 3	-er 動詞 (1)、定冠詞
5	Leçon 4	住んでいる国や都市を言う、否定する
6	Leçon 4 Leçon 5	国名の前の前置詞、否定形 持ち物、年齢を言う
7	中間テスト Leçon 5	動詞 avoir、否定の de
8	Leçon 6	日常について話す
9	Leçon 6 Leçon 7	動詞 faire と aller、動詞-er(2) 人や物を描写する
10	Leçon 7	形容詞の性数、形容詞の位置、所有形容詞
11	Leçon 8	服を買う
12	Leçon 8 Leçon 9	動詞 vouloir, prendre 指示形容詞 ce 食料品を買う
13	Leçon 9	部分冠詞 du, de la 中性代名詞 en
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題　（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
題名 マエストロ１　実践フランス語　初級
筆者　北村亜矢子, Durrenberger Vincent
出版社　朝日出版社
ISBN : 978-4-255-35307-4 C1085

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等）33%で評価します。５回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話しします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】
感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】
In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to learn French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 33%、Mid-Term examination : 34%、in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

ニコラ　ガイヤール

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語２－１と関連した授業です。
原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対 面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】
このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話力を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。
資格は筆記試験（フランス語検定４～５級）と口頭試験（DELF A１レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
	Leçon 10	位置関係を言う
2	Leçon 10	位置関係の前置詞、東西南北
	Leçon 11	道順の説明する
3	Leçon 11	命令形、道順を伝える
4	Leçon 12	質問をする、予定について語る
5	Leçon 12	動詞 partir,　疑問詞の作り方
	Leçon 13	天気、時刻
6	Leçon 14	自分の一日を語る
7	Leçon 14	代名動詞
	Leçon 15	今していること、したばかりことを言う
8	中間テスト	関節目的補語人称代名詞
	Leçon 15	
9	Leçon 16	過去の行為や出来事をかたら（１）
10	Leçon 16	複合過去 (1)
11	Leçon 17	過去の行為や出来事をかたら（2）
12	Leçon 17	複合過去（２）
13	Leçon 18	過去の行為や出来事をかたら（３）
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
題名　マエストロ１　実践フランス語　初級
筆者　北村亜矢子　Durrenberger Vincent
出版社　朝日出版社
ISDN : 978-4-255-35307-4 C1085

【参考書】
仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】
中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言など）33%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話しします。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】
感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】
In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to learn French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 33%、Mid-Term examination : 34%、in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　初級のフランス語会話を学ぶ
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができるようになること。
文章を読んで理解できるようになること。
フランス文化の特質を知ること。
フランス料理のレシピを訳せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
会話練習をする。
小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
授業計画	オリエンテーション	年間授業計画
	フランスとフランス文化に親しもう	成績評価の方法
		アルファベ/綴り字の発音
発音の仕組み	パリ到着	1 課
		主語人称代名詞
母音字の読み方	Bienvenue à Paris.	1 課
		動詞 être の活用
子音字の読み方	ホテルで	2 課
		名詞と冠詞
名詞と冠詞	A l'hôtel	2 課
		動詞 avoir
動詞 être	ランデヴー	3 課 所有形容詞
主語の意味	Le rendez-vous	3 課
		-er 動詞
動詞 avoir	カフェで	4 課
		形容詞の位置と女性形
直接目的語	Au café	4 課
		形容詞の性数一致
規則動詞の活用	電話をかける	5 課
		指示形容詞
間接目的語	Téléphoner	5 課
		定冠詞と冠詞の縮約
不規則活用の動詞	道を尋ねる	6 課
		疑問代名詞
近接未来・近接過去	Demander son chemin	6 課 疑問副詞
歌と文法のまとめ	パリの中の日本	レシピを読む 1
	期末試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・彼女は食いしん坊』（藤田裕二著、2007 年、朝日出版社、2500 円＋税）（ISBN 978-4-255–35181-0 C1085）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受けられない。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で指示する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammer and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉村　裕史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。
1　フランス語の単語や文を発音できるようにする。
2　フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
3　初級フランス語会話に親しむ
4　フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】
初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができること。
フランス語の文章を読んで理解すること。
フランス文化の特質を知ること。
レシピをフランス語で訳せるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課のテキストの文法説明をする。
練習問題を解く。
声を出して会話練習をする。
小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
後期授業計画	後期オリエンテーション Quelle heure est-il?	
代名動詞	市場で買い物	7 課 部分冠詞
近接未来	Au marché	7 課 中性代名詞
近接過去	サッカー観戦	8 課 疑問形容詞
比較級	Un match de foot	8 課 非人称代名詞
最上級	デパートで	9 課 指示代名詞
直接目的語	Au grand magasin	9 課 比較級・-最上級
間接目的語	紹介する	10 課 補語人称代名詞
過去分詞	Les presentations	10 課 代名動詞
複合過去・半過去	旅の話をする	11 課 過去分詞・現在分詞
非人称構文	Raconter son voyage	11 課 複合過去
命令法	別れを言う	12 課 単純未来
文法のまとめ	Dire au revoir	12 課 条件法
時制のまとめ	期末テスト	レシピを訳す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『新・彼女は食いしん坊!』（藤田裕二、2007 年、朝日出版社、2500 円＋税）
（ISBN 978-4-255-35181-0 C1085）

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。
小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。
毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。
4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。
遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受けられない。
小テストと期末試験の評価割合は５０％＋５０％。

【学生の意見等からの気づき】
映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】
オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】
辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】
This course is designed for beginners who are learning basis French grammar and learning to sing songs of French Pops.
This course introduces
A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.
The goals of this course are to
have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANr100LA

ロシア語１Ｉ

2017 年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、ロシア語のアルファベット、発音、初級文法を習得する。なお、本授業は「ロシア語２Ｉ」と連携している。

【到達目標】
(1) ロシア語の文字を読み書きすることができる。(2) ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の一ヶ月間でロシア文字とその発音をしっかりと習得する。その後、初級文法を教科書で学びながら、様々な練習問題を解くことにより、理解・定着を図る。視聴覚教材もふんだんに用い、まずはロシア語に親しむことを目指す。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第１課 文字の発音と書き方	ロシア語の文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第１課 文字と単語の発音, 発音のテスト	ロシア語の文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第２課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第２課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第３課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第３課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第４課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第４課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	第５課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第５課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第６課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第６課 前置格 春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
露和・和露辞典（博友社「ロシア語辞典」（1995 年）など）
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テストを含む）（60 %）、期末試験（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
語学学習にとどまらず、ロシアの社会状況や文化についても可能な限り触れる。

【その他の重要事項】
授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces you to the foundations of Russian language. In this semester, we will focus on mastery of alphabets, pronunciation, and basic grammar and vocabulary. The course will be followed by the “Russian Ｉ-2” course in the autumn semester. No prior knowledge of Russian is required.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to prepare for the class and look up the meanings of new vocabulary. In this class, there will be a mini-test for each unit. Be sure to review the grammar and vocabulary before the mini-test. The standard preparation and review time for this class is one hour.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following:
Class participation (including mini-tests): 60%, Term-end examination: 40%.

LANr100LA

ロシア語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

油本　真理

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「ロシア語１Ⅰ」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。なお、本授業は「ロシア語２Ⅱ」と連携している。

【到達目標】
(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行して会話練習や文章講読などにも取り組み、学んだ文法知識を実践する。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化（名詞、人称代名詞）
3	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化（-ｃｑ、歯音、唇音）
5	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
6	第 8 課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第 10 課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
11	第 10 課 生格	所有の表現、否定生格
12	第 11 課 与格と造格	与格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
13	第 11 課 与格と造格	造格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
14	まとめと確認	秋学期に学んだ文法事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
露和・和露辞典（博友社『ロシア語辞典』（1995 年）など）
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テストを含む）（60 %）、期末試験（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
重要な文法事項については繰り返し復習を行って確実な定着を図る。

【その他の重要事項】
授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1 Ⅰ” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.
【Learning Objectives】
By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students are expected to prepare for the class and look up the meanings of new vocabulary. In this class, there will be a mini-test for each unit. Be sure to review the grammar and vocabulary before the mini-test.
【Grading Criteria /Policy】
Grading will be based on the following:
Class participation (including mini-tests): 60%, Term-end examination: 40%.

LANr100LA

ロシア語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

【到達目標】
ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。
「ロシア語１Ⅱ」とセットになっています。また、「ロシア語２Ⅰ」と提携して行なわれる授業です。
ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。
次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。
まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。
小テストで復習しながら、着実にものにしていきましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「〜は…である」、「〜に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題、露文和訳、和文露訳、それらの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。
この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。
ロシア語は、初級段階の学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
授業時間外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 1 (Part 1).
The aim of this course is to learn Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)
At the end of this course, students should be able to read and write Cyrillic alphabet and understand the most simple Russian sentences.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

【到達目標】
簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「ロシア語 1 Ⅰ」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2 Ⅱ」と提携して行なわれる授業です。
ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。
文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。
学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習を始めましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 1 (Part 2).
The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.
At the end of this course, students should be able to read and write simple Russian texts and hold easy Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語１Ｉ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語をはじめて学ぶ学生向けの授業です。ロシア語のアルファベット、単語の発音から始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようにします。

【到達目標】
教科書の単語と文法を着実に習得する。テクストが読めるようになる。練習問題や宿題を積み重ねて理解度を上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語２との提携授業です。下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テクストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	子音の発音、単語の発音
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文
5	名詞の性	人称代名詞や名詞の性別
6	名詞の複数	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	形容詞と名詞の性数の関係
9	動詞の過去形	主語の性数と動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の未来形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一　白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期で使った「初級ロシア語」の教科書を引き続き用い、ロシア語の文法学習を進めます。

【到達目標】
文法学習を進め、かんたんな会話や文章の読解、作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語２との提携授業です。春学期同様、下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テクストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	対格	対格（～を）の作り方と、それをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格と前置格の作り方、用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格と前置格の作り方、用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。新出単語は各自で調べるようにしてください。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語２Ｉ

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語１で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】
ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１との連携授業です。ロシア語１で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化（1）	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化（2）	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a curse for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語１で学んだこと復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である６つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】
動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。平易なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コミュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１と連携して授業を行います。ロシア語１で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却しする場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case inflection).
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語２Ⅰ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語１で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】
教科書の単語と文法を着実に習得する。テクストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に応答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１との提携授業です。文法事項の説明、練習問題、テクストの読解、対話の練習を行います。本文を暗記してもらい発音チェックするなど、適宜小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスとアルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文、イントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	名詞の性数に応じた形容詞の変化
9	動詞の過去形	主語の性数に応じた動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語１で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】
学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音チェックをするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「〜しろ「〜してください」という表現
3	対格	対格（〜を）の作り方とそれをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「〜へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（〜の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（〜に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語２Ｉ

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語１で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】
ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１との連携授業です。ロシア語１で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたち授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化（1）	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化（2）	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a curse for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語１で学んだことを復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である６つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】
動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。簡単なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コニュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１と連携して授業を行います。ロシア語１で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case inflection).
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 1

2017 年度以降入学者

エレーナ　三神

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（前篇）の授業です。ロシア文字の読み方、書き方から始め、初級文法を学習します。ロシア語の発音とイントネーションを重視し、ロシア語の単語の聞き取りや簡単な文の作成までも練習します。

【到達目標】
ロシア語の文字、言葉、文書を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。まずはロシア語文字に慣れ、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることになります。ロシア語ネイティブ講師と会話の練習も行います。
課題などに対する教員のフィードバックは、授業時や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文字と発音（その１）	ロシア語に関する総合的説明。ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
2	文字と発音（その２）	ロシア語の単語の読み方の規則。
3	基本文型	「〜は…である」、「〜に…がある」という表現。
4	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
5	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
6	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
7	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
8	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
9	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
10	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
11	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
12	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
13	まとめと復習	ここまでの学習のポイント。期末試験対策。
14	期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業後に文法・新出単語の学習や文書音読などの宿題があります。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「初級　ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はありません。

【参考書】
『博友社ロシア語辞典』

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、小テスト・宿題　50 %

【学生の意見等からの気づき】
いつでも学生からのメールに対応できるようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)。

【その他の重要事項】
ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】
（Course outline）
The main objective of the elementary course of the Russian language for beginners is to enable students to read Russian letters, to master Russian pronunciations, to understand the elementary Russian grammar.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students are expected to be able to read and write Russian letters, words and documents, to understand the basics of Russian grammar.
（Learning activities outside of classroom）
As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
（Grading Criteria /Policy）
Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr100LA

ロシア語３

2017 年度以降入学者

佐藤　千登勢

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験４級もしくは３級程度の力がついているはずです。

【到達目標】
SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。文法事項としては、ロシア語能力検定試験４級から３級程度の力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。春学期に学んだ文法事項を復習するところから始め、引き続き、新たな文法事項を練習問題や読解を通して着実に身につけていきます。文法を学ぶことが語学上達の鍵ですので、一生懸命吸収してください。授業は音読に力を入れます。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期期末試験の確認を通して復習を行う。
第 2 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の人称変化。	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の概念について。その人称変化を確認。
第 3 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）。方向の示し方。交通手段。対格、前置格。	前回授業の復習。方向を示す副詞句。交通手段を表す表現。対格と前置格の復習。
第 4 回	前置格、対格の形容詞の変化。	形容詞＋名詞の前置格、対格を覚える。
第 5 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。	前回授業の復習。テクストの読解と質疑応答。
第 6 回	生格（形容詞・所有代名詞）。	形容詞＋名詞の生格を覚える。テクストの読解と質疑応答。
第 7 回	生格（所有代名詞）。	前回授業の復習。練習問題。テクストの読解と質疑応答。
第 8 回	与格	形容詞＋名詞の与格を覚える。テクストの読解と質疑応答。
第 9 回	造格	形容詞＋名詞のを造格を覚える。テクストの読解と質疑応答。
第 10 回	動詞の完了体・不完了体。練習問題。	動詞の完了体・不完了体の概念としくみについて。その区別を行う練習問題。
第 11 回	動詞の完了体・不完了体。	前回授業の復習と確認。
第 12 回	関係代名詞。テクスト読解。	関係代名詞のしくみについて。文章の中で、関係代名詞の機能を確認していく。
第 13 回	関係代名詞／目的を示す接続詞。テクスト読解。	前回の復習。目的を示す接続詞を学ぶ。仮定法のしくみについて。
第 14 回	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業内容の予習（とくに辞書を引く作業）。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期に同じ。

【参考書】
春学期に同じ。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）、期末試験（25 %）、小テスト（25 %）。この成績評価をもとに本授業の到達目標の 60 %以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
文法と会話の力を身につけていく工夫を重ねていきます。電子辞書やネット上の辞書ではなく、紙辞書（木村彰一　他編『博友社ロシア語辞典』博友社）を必ず入手して辞書を引く習慣をつけてください。

【Outline (in English)】
● Course outline
This course proceeds in close contact with courses: Russian 4 and Russian 6.
In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.
● Learning objectives
Students will acquire daily Russian proficiency. Focus on developing communication skills as well as improving vocabulary and grammar. As for grammatical matters, you will acquire the ability of the Russian Language Proficiency Test Level 4 to Level 3.
● Learning activities outside of classroom
Preparation for the next lesson (especially the work of looking up a dictionary). It takes about 1.5 hours to prepare for the next lesson.
● Grading Criteria/Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance (50 %), term-end exam(25 %) and quizzes(25 %).To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr100LA

ロシア語２

2017 年度以降入学者

佐藤　千登勢

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間ももちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

【到達目標】
ロシア語の文字、音声に慣れましょう。文法の初歩を確実に積み重ね、日常生活で欠かせない表現や単語を覚えて、ロシア語での簡単なコミュニケーションを楽しみます。音読に力を入れて、簡単なロシア語の文章を流麗に読めるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語 1 と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。ロシア語 1 で学んだ文法事項を練習問題や簡単な口頭表現で定着させていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵となりますので、一生懸命に吸収してください。授業は音読に力を入れます。課題や小テストは教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	ガイダンス。 ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第 2 回	文字と発音 2	ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第 3 回	基本文型「これは何？」「これは誰？」	物や人を尋ねる表現を覚え、基本的な名詞を覚えながら反復練習。
第 4 回	基本文型。名詞の性について。	平叙文の基本文型と疑問詞のない疑問文を確認しつつ、練習問題で基本文型の基礎固めを行う。名詞の性分類。
第 5 回	名詞の複数形。所有代名詞。自己紹介の練習。	名詞の複数形の作り方の基礎と例外を覚える。名詞の性と所有代名詞の関係を覚える。
第 6 回	名詞の複数形。所有代名詞。個数詞 1 ～ 10。	前回の内容を復習しながら、新たな例外も覚える。
第 7 回	指示代名詞と形容詞。個数詞 1 ～ 12。	名詞の性と形容詞の関係について覚える。モスクワの街について知る。個数詞を復習しながら 12 まで書けるようにする。
第 8 回	動詞の過去形。ロシア人の名前について。練習問題。個数詞 11 ～ 20。	動詞の過去形の作り方を覚える。ロシア人の名前・父称・姓について。個数詞を 20 まで覚える。
第 9 回	動詞の現在形。前置格。場所の表現。個数詞 11 ～ 20。	動詞の現在人称変化（第 1 変化／第 2 変化）を覚える。場所を表す前置格。個数詞の復習。
第 10 回	動詞の未来形。前置格。練習問題。個数詞 21 ～ 69。	動詞の未来形（合成未来）の作り方を覚える。個数詞を 69 まで口頭で言えるようにする。
第 11 回	動詞の命令形。曜日の表現。対格。「～が好き』を使った会話練習。個数詞 70 ～ 100。	動詞の命令形の作り方を覚える。個数詞を 100 まで口頭で言えるようにする。
第 12 回	動詞の歯音変化と唇音変化。再帰動詞の変化。個数詞 50 ～ 199。	動詞の歯音変化と唇音変化を覚える。再帰動詞のしくみと変化について。個数史を 199 まで口頭練習。
第 13 回	動詞の現在、過去、未来形の復習。個数詞 11 ～ 199。	春学期に学習したロシア語文法とロシア語の会話表現、疑問文、個数詞の復習を行う。
第 14 回	期末試験。	筆記とディクテーションからなる期末試験を実施。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回授業内容の予習。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は、合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）
（2018/2019 年度版）と（2020/2021 年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ありません。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版（白水社）
木村彰一　他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】
平常点（50 %）、小テスト（25 %）、期末試験（25 %）として総合的に判断します。この評価をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
文法の基礎固めのために、分かり易い説明を心がけます。電子辞書やネット上の辞書ではなく、紙辞書（木村彰一　他編『博友社ロシア語辞典』博友社）を必ず入手して辞書を引く習慣をつけてください。

【Outline (in English)】
● Course outline
This course proceeds in close contact with courses: Russian 1 and Russian 5.
In this course, we will acquire basics of Russian grammar and increase the vocabulary of Russian. We will be able to say greetings in Russian.
● Learning objectives
Students become accustomed to Russian letters and pronunciations. Make sure you build up the basics of grammar, learn expressions and words in everyday life, and enable easy communication in Russian. You will be able to read simple Russian sentences fluently.
● Learning activities outside of classroom
Preparation for the next lesson takes about 1.5 hours.
● Grading Criteria/Policy
Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance (50 %), term-end exam(25 %) and quizzes(25 %).To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr100LA

ロシア語４

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきましょう。この授業が終わる頃には、ロシア語能力検定試験４級もしくは３級程度の力がつきます。

【到達目標】
SA ロシアでの授業や生活に困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語 3 と同じ教材を使用し、各担当教員がリレー方式で授業を行います。ロシア語 3 で学んだ文法事項を復習しつつ、練習問題を解いたり、テクストを読解することで応用力を養います。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学んだ事項の確認と復習。
2	対格の用法	対格の説明と用法練習。
3	対格を使った表現	曜日など対格が含まれる表現の練習。
4	交通の表現	交通の手段と行先の表現（前置格、対格の応用）
5	所有代名詞・形容詞の格変化（前置格・対格）	所有代名詞・形容詞の格変化の説明と練習。
6	生格の用法	生格の説明と練習。
7	生格の復習	生格の説明と練習。
8	与格と造格の用法	与格と造格の説明と練習。
9	与格と造格の復習	名詞の格変化の総復習。
10	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の概念としくみ。練習問題。
11	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の復習
12	関係代名詞	関係代名詞のしくみについて
13	関係代名詞・目的を示す接続詞	関係代名詞の練習
14	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学で予習、復習は大切です。新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。格変化は変化表でくりかえし確認し覚えるようにしましょう。本授業の予習・復習時間は、合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社
木村彰一　他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
双方向的な授業を心がけます。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語５

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 3**/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語１、２と連携した授業です。ロシア語１、２で学んだことを復習しながら、ロシア語の正しい発音やイントネーション、基本的な単語や文法を習得します。

【到達目標】
ロシア語のアクセントの位置やイントネーションを確認して、正しく発音できるようになること。学んだ文法を理解し、運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１、２で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文字と発音１	ロシア（キリル）文字の発音練習。
2	文字と発音２	ロシア（キリル）文字の発音練習。
3	基本文型（～は～である。～に～がある。）１	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
4	基本文型（～は～である。～に～がある。）２	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
5	名詞の複数、所有代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	形容詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の過去形、副詞、格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の現在形、未来形、前置格１	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	動詞の現在形、未来形、前置格２	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	動詞の命令形、対格、曜日１	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	動詞の命令形、対格、曜日２	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	運動の動詞１	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	運動の動詞２	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で提示した課題は必ずやってくること。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度により若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
This is a curse for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語６

2017 年度以降入学者

上野　理恵

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語３、４と連携した授業です。ロシア語３、４で学んだことを復習しながら、基本的な単語や文法を身につけ、総合的なロシア語力を養います。とくに格変化や数詞を使った表現の定着をはかります。

【到達目標】
教科書で学んだ文法事項を応用レベルで定着させること。ロシア語能力検定試験の４級・３級レベルに合格する程度の力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞・所有代名詞の対格、前置格 1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
2	形容詞・所有代名詞の対格、前置格 2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
3	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
4	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
5	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の完了体、不完了体 1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の完了体、不完了体 2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	関係代名詞 1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	関係代名詞 2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	数詞と名詞の結合 1	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	数詞と名詞の結合 2	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	比較級、最上級、仮定法	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で提示した課題は必ずやってくること。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『初級　ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員　編）
＊「2018/2019 年度版」、「2020/2021 年度版」は同内容であるため、いずれを購入しても問題はない。

【参考書】
和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】
【Course outline】
The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with declension (case inflection) and expression of numbers.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policies】
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 50 %、in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 1 - I

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学で初めてロシア語を学ぶ学生のための授業です。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、簡単な露作文の作成、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験４級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】
ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）や必須基本単語を習得する。挨拶や自己紹介などの簡単な会話を覚え実際に使えるようになる。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。その後は教科書の各課に沿って、①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで授業を進めていきます。授業では視聴覚教材を用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。また、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。
授業内で実施した試験や小テストなど、課題に対する講評や解説は授業中に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識, 第 1 課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第 1 課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第２課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第２課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第３課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第３課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第４課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第４課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第５課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（２課から４課）、第５課 動詞（不定形と過去形）
10	第５課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第６課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第６課 前置格	第６課 前置格
13	春学期の復習	春学期の復習 （５課と６課の動詞と格変化を中心に復習）
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（５課・６課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけましょう。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
発音の学習後に発音のミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の 70 %となります。その他の 30 %は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題、単語テストなどから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。
毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画、授業形態（基本対面）などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】This is the first class for students learning Russian at university. Beginning with the acquisition of letters and pronunciation of the alphabet, you will acquire basic grammar and basic words, and develop basic communication skills such as accurate reading and Japanese translation of beginner's texts, creation of simple composition, and greetings. We will start preparing to pass Level 4 of the Russian Language Proficiency Test, which can be listed as a qualification in your resume. We will also expand our knowledge of Russian culture. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 After learning pronunciation, you will have a pronunciation mini-test, mid-term test and final week final test. This test result is 70% of the evaluation. The other 30% will be evaluated comprehensively based on normal points (degree of participation in class, attitude of approach), homework and assignments.

LANr100LA

ロシア語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「ロシア語１－Ｉ」に続く授業です。この授業の目的は、初級ロシア語の「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけることです。そのために、１）初級ロシア語文法の規則性を習得する、２）辞書を用いて、和訳、露訳作文ができる、３）リスニング、リーディングの力を伸ばす、４）挨拶などの会話ができるように学習します。５）ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進めていきましょう。

【到達目標】
ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。ロシア語の作文、リスニング力、会話力を伸ばし、毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級 3 級合格への準備を進める。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身についていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形、曜日	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-ｃｑ、歯音、唇音）	対格変化 (名詞、人称代名詞)、-ｃｑ動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞１	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞２	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験・まとめと解説（７課と８課）
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。課題は学習支援システムから提出する。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。その他にロシアの歴史や文学、文化芸術にも関心をもち調べる。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
秋学期は、中間と期末に評価テストを行います。この試験結果が評価の 70 %となります。その他の 30 %は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題、 単語テストなどから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
ロシア語 1-Ｉを履修していることが受講条件です。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画、授業形態（基本対面）などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】This course follows the spring semester "Russian 1-I". The main aim of this course is to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking and writing". The purpose of this course is 1) to learn the regularity of elementary Russian grammar, 2) to be able to translate Japanese and Russian using a dictionary, 3) to improve listening and reading skills, and 4) to have conversations such as greetings, 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 4. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time.【Grading Criteria /Policy】In the fall semester, mid-term and final exams will be conducted as evaluation tests. This test result is 70% of the evaluation. In addition, the normal score (degree of participation in class, attitude of approach) and homework and assignment submission will be set at 30%, and a comprehensive evaluation will be given.

LANr100LA

ロシア語 1 - Ⅰ

2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（前篇）。1）文字と発音の習得、2）初級文法の最初の段階。

【到達目標】
ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。
「ロシア語 1-Ⅱ」とセットになっています。また、「ロシア語 2-Ⅰ」と提携して行なわれる授業です。
ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。
次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。
まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。
学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題、露文和訳、和文露訳、それらの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。
この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習するための課題の提示や小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。
ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 1 (Part 1).
The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)
At the end of this course, students should be able to read and write Cyrillic alphabet and understand the most simple Russian sentences.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

木部　敬

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語入門（後編）。1）初級文法。2）会話、読解、作文。

【到達目標】
簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「ロシア語 1-Ⅰ」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。「ロシア語 2-Ⅱ」と提携して行なわれる授業です。
ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。
文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。
学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習を始めましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】
和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習するための課題の提示や小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。
ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分からないと、名詞の複数形が分からない。名詞の性と数が分からないと、名詞と形容詞の結合が分からない、また動詞の過去形も分からない、さらには名詞の格も分からない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】
音声教材をより一層利用するよう努める。
授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】
Elementary Russian 1 (Part 2).
The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.
At the end of this course, students should be able to read and write simple Russian texts and hold easy Russian conversations.
Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.
Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を「聞く・読む・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につけます。この授業の目的は、１）ロシア語初級文法の規則性を理解し習得する、２）習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができる、３）リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける、４）ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指す。一緒に頑張りましょう。

【到達目標】
ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、視聴覚教材などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第１課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第１課 ロシア文字と単語の発音, 発音のテスト	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第２課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第２課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第３課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第３課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第４課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第４課 形容詞・中間試験・まとめと解説	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題、中間試験・まとめと解説
10	第５課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第５課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第６課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第６課 前置格　春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（５課・６課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけましょう。課題は学習支援システムから提出をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
発音などのミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の 70 %となります。その他の 30 %は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題、単語テストなどから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な発音練習、単語の小テストで基礎が出来たとの意見がありました。オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
この授業は必修のため、春学期・秋学期を通じて履修する必要があります。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画、授業形態（基本対面）などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】This is the basic course for students learning Russian for the first time at university. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 4 ; 6) to know Russian culture. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time.【Grading Criteria /Policy】Mini-tests such as pronunciation, mid-term tests and final exams for the final week.This test result is 70% of the evaluation. The other 30% will be evaluated comprehensively based on normal points (degree of participation in class, attitude of approach), homework and assignments.

LANr100LA

ロシア語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤　裕子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「ロシア語２－Ｉ」に続く授業です。この授業の目的は、初級ロシア語の文法理解を深め、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけることです。１）格変化がポイントのロシア語文法の構造の理解、２）日常会話に必須の動詞の命令形の習得、３）日本の感覚とは違う運動の動詞をマスターすることでロシア語能力検定試験合格への準備が整います。また、辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文、リスニング、リーディング、実践で使える会話の練習を行います。

【到達目標】
格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級 3 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
秋学期は春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。課題等に対するフィードバックは授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-ｃя、歯音、唇音）	対格変化 (名詞、人称代名詞)、-ｃя動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞１	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞２	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験（7-8 課）・まとめと解説、会話の練習、自己紹介等
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定試験４級３級の問題も解いていく
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。課題は学習支援システムから提出する。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。その他にロシアの歴史や文学、文化芸術にも関心をもち調べる。

【テキスト（教科書）】
・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員　編）
［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、￥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、￥6291）が望ましい）
『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子, 三神エレーナ, 佐藤裕子著、白水社、2019 年、￥2310

【成績評価の方法と基準】
秋学期は、中間と期末に評価テストを行います。この試験結果が評価の 70 %となります。その他の 30 %は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題、 単語テストなどから総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】
ロシア語 2 - Ⅰを履修していることが受講条件です。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画、授業形態（基本対面）などの予定は変更される可能性があります。

【Outline (in English)】
【Course outline and learning Objectives】This course follows the spring semester "Russian 2-I". The main aim of this course is to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking and writing".This lesson will deepen your understanding of Russian grammar; 1) understanding the structure of Russian grammar, where case inflection is the key, 2) learning the imperative forms of verbs that are essential for everyday conversation, and 3) master exercise verb that are different from the Japanese sense. This learning prepares you to pass the Russian Language Proficiency Test. In addition, we will practice text-to-Japanese translation, Russian-translated composition, listening, reading, and conversation that can be used in practice using a dictionary.【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time.【Grading Criteria /Policy】In the fall semester, mid-term and final exams will be conducted as evaluation tests. This test result is 70% of the evaluation. In addition, the normal score (degree of participation in class, attitude of approach) and homework and assignment submission will be set at 30%, and a comprehensive evaluation will be given.

LANr100LA

ロシア語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語１で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】
教科書の単語と文法を着実に習得する。テクストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に応答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス、アルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「〜は〜である「〜に〜がある」という表現、平叙文と疑問文のイントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性別
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「〜の」という表現と名詞の性数ごとの変化
8	形容詞	名詞の性数におうじた形容詞の変化
9	動詞の過去形	過去形の性数変化
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	動詞の現在人称変化
12	動詞の未来形	動詞の未来形の人称変化
13	前置格	「〜で」「〜について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

小西　昌隆

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ロシア語１で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテクストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】
学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ロシア語１と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テクストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	名詞の対格	対格（～を）の作り方、対格をもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格と作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。新出単語は各自、辞書で意味を調べるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編［2020/2021 年度版、2018/2019 年度版　いずれでも可］

【参考書】
『入門ロシア語文法』改訂版　和久利誓一著　白水社

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %
学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】
Course Outline
The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.
Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.
Learning Activities Outside of Classroom
Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria / Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

渡部　れい子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
　中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。
基本的に対面授業を行いますが、感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。また、特別な理由がない限り、各学期６回以上欠席した場合は期末試験を受けられません。長期欠席する場合は必ず連絡を下さい。
評価の割合は、期末テスト７０％、平常点（e 宿題・小テスト含む）３０％となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたので、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation（researching the meaning of newly appeared word, etc.） and review（ practicing listening to Chinese conversation, etc.） of this class.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term quiz(30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡部　れい子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。
基本的に対面授業を行いますが、感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。また、特別な理由がない限り、各学期６回以上欠席した場合は期末試験を受けられません。長期欠席する場合は必ず連絡を下さい。
評価の割合は、期末テスト７０％、平常点（e 宿題・小テスト含む）３０％となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたので、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation（researching the meaning of newly appeared word, etc.） and review（ practicing listening to Chinese conversation, etc.） of this class.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term quiz(30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

福木　滋久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が一冊のテキストをリレー式に進めます。１では、単語の意味・発音を確認したうえで、文法事項の理解を深め、本文の日本語訳をこころみます。また練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、自宅にて動画視聴による繰り返しの発音練習と、指示された自宅学習課題に取り組み、リアクションペーパーに回答します。課題、定期試験などのフィードバックは授業または Googleclassroom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（http://fic.xsrv.jp/hosei）の「ｅ宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】
日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「ｅ宿題」などの web 教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験 (筆記) の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 40 %、自宅学習 30 %、期末試験 30 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
自宅学習で使用する web 教材（ｅ宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroom の利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のＰＣ、学内のＰＣ、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

福木　滋久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期同様、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。１ II でも、単語の意味・発音を確認したうえで、文法事項の理解を深め、本文の日本語訳をこころみます。また練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、自宅にて動画視聴による繰り返しの発音練習と、指示された自宅学習課題に取り組み、リアクションペーパーに回答します。課題、定期試験などのフィードバックは授業または Googleclassroom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（http://fic.xsrv.jp/hosei）の「ｅ宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】
日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「ｅ宿題」などの web 教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験 (筆記) の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 40 %、自宅学習 30 %、期末試験 30 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
自宅学習で使用する web 教材（ｅ宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroom の利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のＰＣ、学内のＰＣ、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 30 %として評価します。出席回数が授業回数の３分の２に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」あるいは「第２２課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第２３課」あるいは「第２４課」	「形容詞述語文」１あるいは「形容詞述語文」２
4	「第２５課」あるいは「第２６課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」１
5	「第２７課」あるいは「第２８課」	「名詞述語文」２あるいは「名詞述語文」３
6	「第２９課」あるいは「第３０課」	「連体修飾語」あるいは「連用修飾語」
7	「第３１課」あるいは「第３２課」	「程度補語」あるいは「数量補語」
8	「第３３課」あるいは「第３４課」	「結果補語」あるいは「方向補語」
9	「第３５課」あるいは「第３６課」	「可能補語」あるいは「助動詞」
10	「第３７課」あるいは「第３８課」	「兼語文」あるいは「受け身表現」
11	「第３９課」あるいは「第４０課」	「把構文」あるいは「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 30 %として評価します。出席回数が授業回数の３分の２に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

野村　英登

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
東京外国語大学言語モジュール
http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/
【連載】宅女の部屋別宅
https://www.ch-station.org/index-takujo/

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %で成績を評価します。
なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

野村　英登

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
東京外国語大学言語モジュール
http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/
【連載】宅女の部屋別宅
https://www.ch-station.org/index-takujo/

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %で成績を評価します。
なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
疑問に感じたことがあればいつでも質問してください。
些細なことでもかまいません。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、些細なことでも構わないので、気になることがあったらその時に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

赤平　恵里

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。
その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

赤平　恵里

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。
その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 30 %として評価します。出席回数が授業回数の３分の２に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」あるいは「第２２課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第２３課」あるいは「第２４課」	「形容詞述語文」１あるいは「形容詞述語文」２
4	「第２５課」あるいは「第２６課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」１
5	「第２７課」あるいは「第２８課」	「名詞述語文」２あるいは「名詞述語文」３
6	「第２９課」あるいは「第３０課」	「連体修飾語」あるいは「連用修飾語」
7	「第３１課」あるいは「第３２課」	「程度補語」あるいは「数量補語」
8	「第３３課」あるいは「第３４課」	「結果補語」あるいは「方向補語」
9	「第３５課」あるいは「第３６課」	「可能補語」あるいは「助動詞」
10	「第３７課」あるいは「第３８課」	「兼語文」あるいは「受け身表現」
11	「第３９課」あるいは「第４０課」	「把構文」あるいは「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 30 %として評価します。出席回数が授業回数の３分の２に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ｅ宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア３０%および平常点２０%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア 30%および平常点 20%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

大江　千晶

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
1 課ごとの音声課題および e 宿題の提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
発音練習、1 課ごとの予習復習を必ず行ってください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

大江　千晶

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
1 課ごとの音声課題および e 宿題の提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
発音練習、1 課ごとの予習復習を必ず行ってください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

渡部　れい子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。
基本的に対面授業を行いますが、感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。
評価の割合は、期末テスト７０％、平常点（e 宿題・小テスト含む）３０％となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたので、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation（researching the meaning of newly appeared word, etc.） and review（ practicing listening to Chinese conversation, etc.） of this class.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term quiz(30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡部　れい子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。
基本的に対面授業を行いますが、感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。
評価の割合は、期末テスト７０％、平常点（e 宿題・小テスト含む）３０％となります。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようでしたので、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation（researching the meaning of newly appeared word, etc.） and review（ practicing listening to Chinese conversation, etc.） of this class.
Final grade will be calculated according to the following process Mid-term quiz(30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。予習・復習のため、e 宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）および適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点と小テスト： 30 %
② e 宿題： 20 %
③期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習・復習として、各自で教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）に取り組むので、スマートフォン、PC 等を使用できる環境を整えてください。
お知らせ等がある場合は、教場あるいは学習支援システムから配信します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。予習・復習のため、e 宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）および適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」あるいは「第２２課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第２３課」あるいは「第２４課」	「形容詞述語文」１あるいは「形容詞述語文」２
4	「第２５課」あるいは「第２６課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」１
5	「第２７課」あるいは「第２８課」	「名詞述語文」２あるいは「名詞述語文」３
6	「第２９課」あるいは「第３０課」	「連体修飾語」あるいは「連用修飾語」
7	「第３１課」あるいは「第３２課」	「程度補語」あるいは「数量補語」
8	「第３３課」あるいは「第３４課」	「結果補語」あるいは「方向補語」
9	「第３５課」あるいは「第３６課」	「可能補語」あるいは「助動詞」
10	「第３７課」あるいは「第３８課」	「兼語文」あるいは「受け身表現」
11	「第３９課」あるいは「第４０課」	「把構文」あるいは「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点と小テスト： 30 %
② e 宿題： 20 %
③期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習・復習として、各自で教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）に取り組むので、スマートフォン、PC 等を使用できる環境を整えてください。
お知らせ等がある場合は、教場あるいは学習支援システムから配信します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席状況が悪い学生は減点します。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
コロナウイルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。
特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じです。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもらって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。
感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ｅ宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア３０%および平常点２０%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア 30%および平常点 20%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席状況が悪い学生は減点します。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
コロナウイルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。
特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じです。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもらって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。
感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

大野　広之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業の進度に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 ％＋定期試験 70 ％＝ 100 ％

【学生の意見等からの気づき】
授業時の個別指導によって学生各自の弱点克服に役立ったことから、本年度も個別指導を実施していきます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

大野　広之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業進度に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 % + 定期試験 70 % = 100 %

【学生の意見等からの気づき】
授業時の個別指導を通じて学生自身の弱点克服に役立ったことから、継続して個別指導も実施していきます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

大野　広之

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業進度に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 ％＋定期試験 70 ％＝ 100 ％

【学生の意見等からの気づき】
授業時の個別指導によって学生の弱点克服に役立ったことから、本年度も継続して個別指導を実施します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

大野　広之

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業進度に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 % + 定期試験 70 % = 100 %

【学生の意見等からの気づき】
授業時の個別指導によって学生地震の弱点克服に役立っていることから、継続して個別指導も実施していきます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

篠田　幸夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 60 %、小テスト 20 %、e 宿題 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
発音はしつこく練習します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への出席、「e 宿題」の解答には、パーソナルコンピュータやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
欠席が 4．5 回を超えた場合、評価の対象外となります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

野村　英登

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
東京外国語大学言語モジュール
http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/
【連載】宅女の部屋別宅
https://www.ch-station.org/index-takujo/

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %で成績を評価します。
なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

野村　英登

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
東京外国語大学言語モジュール
http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/
【連載】宅女の部屋別宅
https://www.ch-station.org/index-takujo/

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 %で成績を評価します。
なお 5 回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻 2 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】
文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 5**/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
出席状況が悪い学生は減点します。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
コロナウイルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。
特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木　正子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。
masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
春学期と同じです。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 %で評価します。
対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもらって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。
感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】
テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

福木　滋久

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。１では、単語の意味・発音を確認したうえで、文法事項の理解を深め、本文の日本語訳をこころみます。また練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、自宅にて動画視聴による繰り返しの発音練習と、指示された自宅学習課題に取り組み、リアクションペーパーに回答します。課題、定期試験などのフィードバックは授業または Googleclassroom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（http://fic.xsrv.jp/hosei）の「ｅ宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】
日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「ｅ宿題」などの web 教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験 (筆記) の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 40 %、自宅学習 30 %、期末試験 30 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
自宅学習で使用する web 教材（ｅ宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroom の利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のＰＣ、学内のＰＣ、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

福木　滋久

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期同様、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。１ II でも、単語の意味・発音を確認したうえで、文法事項の理解を深め、本文の日本語訳をこころみます。また練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、自宅にて動画視聴による繰り返しの発音練習と、指示された自宅学習課題に取り組み、リアクションペーパーに回答します。課題、定期試験などのフィードバックは授業または Googleclassroom などで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、ｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（http://fic.xsrv.jp/hosei）の「ｅ宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】
日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「ｅ宿題」などの web 教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験 (筆記) の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 40 %、自宅学習 30 %、期末試験 30 %となります。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】
自宅学習で使用する web 教材（ｅ宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroom の利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のＰＣ、学内のＰＣ、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

大江　千晶

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
1 課ごとの音声課題および e 宿題の提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
発音練習、1 課ごとの予習復習を必ず行ってください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

大江　千晶

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定なし

【成績評価の方法と基準】
1 課ごとの音声課題および e 宿題の提出 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】
発音練習、1 課ごとの予習復習を必ず行ってください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ｉ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ｅ宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア３０%および平常点２０%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎　公美子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
・復習のため適宜小テストを行います。
・学期半ばで中間試験を実施します。
・練習問題等のフィードバックは授業時間または Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２６課」	「名詞述語文」１
5	「第２７課」	「名詞述語文」２
	あるいは	あるいは
	「第２８課」	「名詞述語文」３
6	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
7	「第３１課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第３２課」	「数量補語」
8	「第３３課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第３４課」	「方向補語」
9	「第３５課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
10	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
11	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
・ e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め辞書：
①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。
参考書など：
『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。
その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、e 宿題のクリア 30%および平常点 20%（小テスト、授業への参加意欲など）合計 50%の割合で総合的に評価します。
（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）
【重要】この授業では対面授業時の e 宿題の比重は 30%、つまり 30 点分です。e 宿題のクリア状況は成績のレベルはおろか、不合格・再履修の確率までも左右します。積み残しがあればあるほどクリアには大変な労力がかかるようになるので、必ず授業前後の予習復習として継続的な実施を心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】
・スライド画面については多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
・説明を簡潔に、わかりやすくするよういたします。
・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】
課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
気になること、疑問などあれば遠慮なく質問してください
些細なことでもかまいません。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、疑問・質問等あればなるべく授業時間内に尋ねてください。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %＋期末試験 40 %を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度を図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
関連科目
200 番台リベラルアーツ科目：中国語の世界 LA・LB　1 年~木・3 限 渡辺 大

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

木村　佳代子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %＋期末試験 40 %を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、学生の個別指導を強化し到達度を図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器

【その他の重要事項】
関連科目
200 番台リベラルアーツ科目：中国語の世界 LA・LB　1 年~木・3 限 渡辺 大

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【None.】
None.

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

赤平　恵里

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。
その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

赤平　恵里

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。
その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
お勧め：　『Why？ にこたえるはじめての中国語の文法書』
相原茂　等著（同学社）

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
学生から中国語の勉強は楽しかったとの評価をいただいています。（特に 2020 年度のオンライン授業では唯一楽しみにしていたという意見がありました）
今年度も今まで以上に皆さんに中国語や中国に対する関心を喚起できるよう、授業を進めていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけるように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD プレーヤーを用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は７０％に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】
一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。１）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。２）テキストの学習（約 40 分）。３）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせて進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習１	「第２１課から第３０課」までの復習
13	復習、文法問題の演習２	「第３１課から第４０課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第２１課から第４０課」までの文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々
康玉華　『漢語３０１句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の 70 %に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
授業形態は対面授業となります。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。オンラインで予習・復習ができるように、『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声、ビデオ））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題を提出するための資料をアップロードしています。
課題等へのフィードバックは以下のようになります。
（1）対面授業時に説明します。
（2）「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
（3）個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第５課から「第１０課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第１２課」 あるいは 「第１３課」	「動詞述語文１」 あるいは 「動詞述語文２」
10	「第１４課」 あるいは 「第１５課」	「動詞述語文３」 あるいは 「動詞述語文４」
11	「第１６課」 あるいは 「第１７課」	「動詞述語文５」 あるいは 「動詞述語文６」
12	「第１８課」 あるいは 「第１２課から第１８課」	「動詞述語文７」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第１９課、２０課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間のまとめ 25 %、口語テスト 15 %、最終課題 60 % とする。
無断欠席・遅刻は回数分に応じて減点される。
検定試験準 4 級合格者：Ｉ期終了時合格は 90 点プラス。
検定試験 4 級合格者：Ｉ期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】
進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
授業形態は対面授業となります。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。オンラインで予習・復習ができるように、『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声、ビデオ））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題を提出するための資料をアップロードしています。
課題等へのフィードバックは以下のようになります。
（1）対面授業時に説明します。
（2）「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
（3）個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	全体のまとめ	最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間のまとめ 25 %、口語テスト 15 %、最終課題 60 % とする。
無断欠席・遅刻は回数分に応じて減点される。
検定試験準 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 15 点プラス。
検定試験 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 90 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】
進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけるように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけるように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけるように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

斉　霞

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】
① e 宿題： 30 点（次の授業の開始時間までに必ず完了させること）

②平常点： 20 点（出席必須、欠席減点。授業で発音練習、練習問題の発表など）
③期末筆記試験： 50 点

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけるように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	授業内口頭試験	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内筆記試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
１、初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができます。
２、初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができます。
３、秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着けます。
４、中国語圏の言語や文化に対する関心を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	授業内口頭試験	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内筆記試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

王　安

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）

【成績評価の方法と基準】
各課の課題 (合計 50 点）＋総合まとめ課題（２回：合計 50 点）＝１００で評価します。
注意点：①課題の未提出は５点減点/一回
②課題提出の遅れは３点減点/一回
【重要】課題の提出遅れについて：提出が締め切りより遅れた場合、期間は締め切り日から一週間以内と限定します。一週間過ぎてからの提出は成績評価しませんのでくれぐれもご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】
文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後の授業でも丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

王　安

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の雰囲気が明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、annwang@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

康　宏理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、平常点 30 %、小テスト 10 %、とする。
オンライン授業の場合は、読むテスト 40 %、e 宿題＋課題 40 %、平常点 20 %、とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
発音と声調を徹底的に指導します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への出席、e 宿題の解答にはパソコンやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
特にない。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

康　宏理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、平常点 30 %、小テスト 10 %とする。
オンライン授業の場合は、読むテスト 40 %、e 宿題＋課題 40 %、平常点 20 %とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
発音と声調を徹底的に指導します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への出席、e 宿題の解答にはパソコンやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC などを準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC などを準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

孫　琦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 %で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

孫　琦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、期末試験（７０％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は７０％に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】
一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。１）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。２）テキストの学習（約 40 分）。３）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせて進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習１	「第２１課から第３０課」までの復習
13	復習、文法問題の演習２	「第３１課から第４０課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第２１課から第４０課」までの文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々
康玉華　『漢語３０１句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の 70 %に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解して、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解し、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

孫　琦

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 %で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

孫　琦

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）、期末試験（７０％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】
発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC などを準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境、PC などを準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
授業形態は対面授業となります。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。オンラインで予習・復習ができるように、『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声、ビデオ））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題を提出するための資料をアップロードしています。
課題等へのフィードバックは以下のようになります。
（1）対面授業時に説明します。
（2）「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
（3）個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第５課から「第１０課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第１２課」 あるいは 「第１３課」	「動詞述語文１」 あるいは 「動詞述語文２」
10	「第１４課」 あるいは 「第１５課」	「動詞述語文３」 あるいは 「動詞述語文４」
11	「第１６課」 あるいは 「第１７課」	「動詞述語文５」 あるいは 「動詞述語文６」
12	「第１８課」 あるいは 「第１２課から第１８課」	「動詞述語文７」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第１９課、２０課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間のまとめ 25 %、口語テスト 15 %、最終課題 60 % とする。
無断欠席・遅刻は回数分に応じて減点される。
検定試験準 4 級合格者：Ｉ期終了時合格は 90 点プラス。
検定試験 4 級合格者：Ｉ期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】
進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

薬　進

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
授業の進め方については、中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
授業形態は対面授業となります。対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。オンラインで予習・復習ができるように、『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声、ビデオ））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題を提出するための資料をアップロードしています。
課題等へのフィードバックは以下のようになります。
（1）対面授業時に説明します。
（2）「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
（3）個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	全体のまとめ	最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】
評価基準は、中間のまとめ 25 %、口語テスト 15 %、最終課題 60 % とする。
無断欠席・遅刻は回数分に応じて減点される。
検定試験準 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 15 点プラス。
検定試験 4 級合格者：Ⅱ期終了時合格は 90 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】
進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

康　宏理

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時、支持します。

【成績評価の方法と基準】
教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、平常点 30 %、小テスト 10 %とする。
オンライン授業の場合は、読むテスト 40 %、e 宿題＋課題 40 %、平常点 20 %とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
発音と声調を徹底的に指導します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への出席、e 宿題の解答にはパソコンやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

康　宏理

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
教室での対面授業の場合は、期末テスト 60 %、平常点 30 %、小テスト 10 %とする。
オンライン授業の場合は、読むテスト 40 %、e 宿題＋課題 40 %、平常点 20 %とする。
共に、欠席回数が授業回数の三分の一を超えた場合は評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
発音と声調を徹底的に指導します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業への出席、e 宿題の解答にはパソコンやスマートフォンなどの電子機器が必要となる。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

耿　函

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、会話の練習発表も取り入れます。課題のフィードバックは授業または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末筆記テストを 50 %、中間テストや E 宿題をそれぞれ 20 %、また平常点を 10 %にし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が楽しみながら中国語が習得できるように様々な工夫を重ねていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evalution will be decided by each instructor.See “Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

耿　函

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、会話の練習や発表も取り入れます。課題のフィードバックは授業または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業のまとめと試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
「東京外国語大学言語モジュール　中国語」　http://www.coelAng.tufs.Ac.jp/modules/zh/

【成績評価の方法と基準】
期末筆記テストを 50 %、中間テストや E 宿題をそれぞれ 20 %、また平常点を 10 %にし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生が楽しみながら中国語が習得できるように様々な工夫を重ねていきたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evalution will be decided by each instructor.See “Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 点
平常点： 40 点（減点制で、一回の欠席につき-5 点、一回の遅刻は-2 点とされる。
その他は小テストや作文の課題も数回行う。

【学生の意見等からの気づき】
文法の用例を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 点
平常点： 40 点（減点制。一回の欠席につき-5 点、一回の遅刻は-2 点。その他は小テストや作文の課題など数回出る。

【学生の意見等からの気づき】
文法の用例を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生のご意見などを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」あるいは「第２２課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第２３課」あるいは「第２４課」	「形容詞述語文」１あるいは「形容詞述語文」２
4	「第２５課」あるいは「第２６課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」１
5	「第２７課」あるいは「第２８課」	「名詞述語文」２あるいは「名詞述語文」３
6	「第２９課」あるいは「第３０課」	「連体修飾語」あるいは「連用修飾語」
7	「第３１課」あるいは「第３２課」	「程度補語」あるいは「数量補語」
8	「第３３課」あるいは「第３４課」	「結果補語」あるいは「方向補語」
9	「第３５課」あるいは「第３６課」	「可能補語」あるいは「助動詞」
10	「第３７課」あるいは「第３８課」	「兼語文」あるいは「受け身表現」
11	「第３９課」あるいは「第４０課」	「把構文」あるいは「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解し、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解して、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解し、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
１、初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができます。
２、初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができます。
３、秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着けます。
４、中国語圏の言語や文化に対する関心を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ｉ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

任　麗潔

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
なし

【成績評価の方法と基準】
学習態度 40 %
（遅刻、欠席、宿題完成度、授業参加度など）
中間テスト 30 %
期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】
楽しく中国語を学んでもらうよう分かりやすい授業を目指します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) Ⅰ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
気になること、疑問・質問が浮かんだら遠慮なく尋ねてください。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣　益美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『中日辞典』小学館
『中日辞典』講談社
ウェブサイト「北辞郎」

【成績評価の方法と基準】
・全授業回数の三分の二以上出席した者を評価の対象とする。
・三回遅刻したら欠席一回に換算する。
・原則として、中間試験 40 %・期末試験 40 %・e 宿題 20 %とする。ただし、定期試験の得点が極度に低い場合はこの限りではない。
・e 宿題は、指定された課の分を期限までに提出すれば１課につき 1 点、期限に間に合わなかったら 0.5 点とする。期限は授業時に伝える。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き、授業中の質問大歓迎、です。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォン

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) Ⅰ

2017 年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。予習・復習のため、e 宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）および適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点と小テスト： 30 %
② e 宿題： 20 %
③期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習・復習として、各自で教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）に取り組むので、スマートフォン、PC 等を使用できる環境を整えてください。
お知らせ等がある場合は、教場あるいは学習支援システムから配信します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

岩田　和子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。予習・復習のため、e 宿題（教科書準拠のイーラーニング教材）および適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」あるいは「第２２課」	「経験態」あるいは「進行態」「持続態」
3	「第２３課」あるいは「第２４課」	「形容詞述語文」１あるいは「形容詞述語文」２
4	「第２５課」あるいは「第２６課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」１
5	「第２７課」あるいは「第２８課」	「名詞述語文」２あるいは「名詞述語文」３
6	「第２９課」あるいは「第３０課」	「連体修飾語」あるいは「連用修飾語」
7	「第３１課」あるいは「第３２課」	「程度補語」あるいは「数量補語」
8	「第３３課」あるいは「第３４課」	「結果補語」あるいは「方向補語」
9	「第３５課」あるいは「第３６課」	「可能補語」あるいは「助動詞」
10	「第３７課」あるいは「第３８課」	「兼語文」あるいは「受け身表現」
11	「第３９課」あるいは「第４０課」	「把構文」あるいは「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】
①平常点と小テスト： 30 %
② e 宿題： 20 %
③期末試験： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】
授業の予習・復習として、各自で教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）に取り組むので、スマートフォン、PC 等を使用できる環境を整えてください。
お知らせ等がある場合は、教場あるいは学習支援システムから配信します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

康　鴻音

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時指示をします。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音を徹底的に指導します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

康　鴻音

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要時、指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
発音を徹底的に指導します。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 点
平常点： 40 点（減点制。一回の欠席につき-5 点、一回の遅刻は-2 点とされる。その他は小テストや作文の課題が数回ある。

【学生の意見等からの気づき】
文法の用例を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

周　重雷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】
期末テスト： 60 点
平常点： 40 点（減点制。一回の欠席につき-5 点、一回の遅刻は-2 点とされる。その他は小テストや作文の課題が数回ある。

【学生の意見等からの気づき】
文法の用例を増やす。

【学生が準備すべき機器他】
スマートフォンは必須。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

鈴木　靖

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 3**/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。
中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e-Learning を組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。
①小テスト（約 20 分）
教室での学習と e-Learning による自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。
② テキストの学習（約 50 分）
テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。
③ コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）
前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。
（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “是” の用法
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “有” の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態
第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 %は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）とそのデジタル版を併用する。

【参考書】
劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】
① e-Learning（ｅ宿題）の実施状況（40 %）
②毎回授業の始めに実施する小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生のインターネット利用環境がＰＣからスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。
また、e-Learning の正誤判定の方法を変更し、間違った箇所を示し、修正できるように改良した。

【学生が準備すべき機器他】
中国語 1、5 では、毎回授業の後に e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese 1 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.
In this course, students will develop their language abilities in the following:
Vocabulary: We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.
Students will improve their language skills by:
Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK1.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕
Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語３

2017 年度以降入学者

鈴木　靖

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
HSK（漢語水平考試）2 級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。
後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学先での授業準備 (1)	e-Learing 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく
第 8 回	留学先での授業準備 (2)	同上
第 9 回	留学先での授業準備 (3)	同上
第 10 回	留学先での授業準備 (4)	同上
第 11 回	留学先での授業準備 (5)	同上
第 12 回	留学先での授業準備 (6)	同上
第 13 回	留学先での授業準備 (7)	同上
第 14 回	留学先での授業準備 (8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 ％は e-Learing による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learing によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）を使用する。
後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成２４年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learing 教材と HSK（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】
劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する（100 ％）。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点＝ 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点＝ 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点＝ 20 点）、e-Learing による自宅学習の達成度（4 種 ×10 点＝ 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】
学生のインターネット利用環境がＰＣからスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learing を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learing に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。
また、e-Learning の正誤判定の方法を変更し、間違った箇所を示し、修正できるように改良した。

【学生が準備すべき機器他】
中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learing による自宅学習を宿題として課している。e-Learing の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese 3 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.
In this course, students will develop their language abilities in the following:
Vocabulary:We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.
Grammar:We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.
Students will improve their language skills by:
Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK2.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕

Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語２

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語４

2017 年度以降入学者

ショウ　イクテイ

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランス良くつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2 の教員が一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
第 2 回	「第 21 課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第 22 課」	「進行態」「持続態」
第 3 回	「第 23 課」	「形容詞述語文」1
	あるいは	あるいは
	「第 24 課」	「形容詞述語文」2
第 4 回	「第 25 課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第 26 課」	「名詞述語文」1
第 5 回	「第 27 課」	「名詞述語文」2
	あるいは	あるいは
	「第 28 課」	「名詞述語文」3
第 6 回	「第 29 課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第 30 課」	「連用修飾語」
第 7 回	「第 31 課」	「程度補語」
	あるいは	あるいは
	「第 32 課」	「数量補語」
第 8 回	「第 33 課」	「結果補語」
	あるいは	あるいは
	「第 34 課」	「方向補語」
第 9 回	「第 35 課」	「可能補語」
	あるいは	あるいは
	「第 36 課」	「助動詞」
第 10 回	「第 37 課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第 38 課」	「受け身表現」
第 11 回	「第 39 課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第 40 課」	「存現文」
第 12 回	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
第 13 回	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
第 14 回	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』　東方書店

【参考書】
必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 50 %と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語５

2017 年度以降入学者

鈴木　靖

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。
中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。
①小テスト（約 20 分）
教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。
② テキストの学習（約 50 分）
テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。
③ コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）
前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。
（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語
第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “是” の用法
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “有” の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態
第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	経験態、進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 %は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

【参考書】
劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】
① e-Learning（ｅ宿題）の実施状況（40 %）
②毎回授業の始めに行う小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。
また、e-Learning の正誤判定の方法を変更し、間違った箇所を示し、修正できるように改良した。

【学生が準備すべき機器他】
中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese 5 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.
In this course, students will develop their language abilities in the following:
Vocabulary: We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar:We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.
Students will improve their language skills by:
Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK1.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕
Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語 6

2017 年度以降入学者

鈴木　靖

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】
HSK（漢語水平考試）2 級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。
後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。
課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。
第 8 回	留学準備 (2)	同上
第 9 回	留学準備 (3)	同上
第 10 回	留学準備 (4)	同上
第 11 回	留学準備 (5)	同上
第 12 回	留学準備 (6)	同上
第 13 回	留学準備 (7)	同上
第 14 回	留学準備 (8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 %は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級』（東方書店）を使用する。
後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】
劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】
成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。
出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。
問題は、単語の聞き取り（4 問 ×5 点= 20 点）、短文の聞き取り（2 問 ×10 点= 20 点）、日文中訳（2 問 ×10 点= 20 点）、e-Learning による自宅学習の達成度（4 種 ×10 点= 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】
学生のインターネット利用環境がＰＣからスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learing を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learing に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。
また、e-Learning の正誤判定の方法を変更し、間違った箇所を示し、修正できるように改良した。

【学生が準備すべき機器他】
中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learing による自宅学習を宿題として課している。e-Learing の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline (in English)】
〔Course outline〕
Chinese 6 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.
In this course, students will develop their language abilities in the following:
Vocabulary:We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.
Grammar:We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.
Students will improve their language skills by:
Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.
〔Learning Objectives〕
The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK2.
〔Learning activities outside of the classroom〕
Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.
〔Grading Criteria /Policy〕
Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：**春学期授業**/Spring　|　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
（2）基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
（3）春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
（4）中国語圏の言語や文化に対する関心をもち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニカティブ活動など（約 30 分）。
・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）［簡体字とピンイン］、発音（二）［声母］
3	第三課あるいは第四課	発音（三）［韻母］、発音（四）［二音節語の声調 20 パターン］
4	第五課あるいは第六課	自己紹介［您贵姓？］、動詞述語文［你学习什么？］
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文［北京大学很大］、名詞述語文［我十八岁］
6	第九課あるいは第十課	主述述語文［你哪儿不舒服？］、連体修飾語・連用修飾語［一年级的学生都学外语］
7	第十一課あるいは第十二課	補語［你每天看几个小时？］、動詞述語文（一）［她是谁？］
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）［这是什么？］、動詞述語文（三）［你有铅笔吗？］
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）［你家有几口人？］、動詞述語文（五）［这儿有邮筒吗？］
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）［请再念一次］、動詞述語文（七）［去中国干什么？］
11	第十九課あるいは第二十課	完了態［这本书你看了吗？］、変化態［快要考试了］
12	復習	春学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）2010 年

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ（http://www.hskj.jp/）も参照。

【Outline (in English)】
【Outline】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
（1）Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
（2）Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
（3）Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
（4）Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

· After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. （http://fic.xsrv.jp/hosei）
· Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading criteria】
· The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100LA

中国語３

2017 年度以降入学者

渡辺　昭太

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
（2）基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
（3）秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
（4）中国語圏の言語や文化に対する関心をもち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニカティブ活動など（約 30 分）。
・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習項目の復習・確認	既習項目（第一課～第二十課）の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態［你去过海边儿吗？］、進行態・持続態［你在做什么呢？］
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文（一）［水饺好吃吗？］、形容詞述語文（二）［明天比今天还热］
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文（三）［比泰山高一点儿］、名詞述語文（一）［今天几月几号？］
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文（二）［现在几点？］、名詞述語文（三）［这只手表多少钱？］
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語［你的这件新毛衣真漂亮！］、連用修飾語［我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月］
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語［谁打得好？］、数量補語［你打了几年网球？］
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語［对不起，我打错了］、方向補語［你退回去吧］
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語［我听不懂］、助動詞［我不想见他］
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文［让谁讲好呢？］、受身表現［衣服都被淋湿了］
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文［我把衬衫弄脏了］、存現文［大楼门口出来了一个高个子］
12	復習	秋学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）2010 年

【参考書】
有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京：同学社
・守屋宏則（他）2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎［改訂新版］』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 %評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK（中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定）の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ（http://www.hskj.jp/）も参照。

【Outline (in English)】
【Outline】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
【Goal】
The goals of this course are as follows:
（1）Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
（2）Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
（3）Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
（4）Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.
【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

· After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. （http://fic.xsrv.jp/hosei）
· Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading criteria】
· The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100LA

中国語２

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定はありません。

【成績評価の方法と基準】
毎回のスピーチと小テストの成績そして授業への参加度などの平常点 (30%)、期末試験 (70%) をもとに総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解して、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語４

2017 年度以降入学者

薬　会

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
指定しません。

【成績評価の方法と基準】
スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
一年間を通じてピンインが学習の中心になります。「中国語音節表」「ピンイン声調パターン」を完全に理解して、完璧に発音できるようにしてください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

曽　士才

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを覚えてもらう。

【到達目標】
HSK1 級に合格するレベルの基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業は、初めて中国語を学ぶ人が中国語の基礎力を確立することを目指す。中国語上達の鍵となる発音と、声調・ピンイン・簡体字の習得を徹底する。また、中国語の基本文型を理解する。文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに、第一課	イントロダクション、発音（一）
第 2 回	第二課、第三課	声母、ピンインのつづり方①、韻母
第 3 回	第三課、第四課	ピンインのつづり方②、韻母、声調
第 4 回	第五課、発音の仕上げ	人称代詞、姓名の表現、発音の総復習
第 5 回	第六課、第七課	四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ、四文型②形容詞述語文
第 6 回	第八課、第九課	四文型③名詞述語文、数の数え方①、四文型④主述述語文、身体部分のいい方
第 7 回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第 8 回	第十一課、第十二課	補語、動詞述語文（一）、国名・地域名のいろいろ
第 9 回	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、指示代詞①、数詞、量詞、動詞述語文（三）、所有の表現、文房具のいろいろ
第 10 回	第十五課、第十六課	動詞述語文 (四)、家族構成の表現、動詞述語文（五）、指示代詞②、存在表現、所在表現、方位名詞、公共施設のいろいろ
第 11 回	第十七課、第十八課	動詞述語文 (六)、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第 12 回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第 13 回	第十九課、第二十課	完了態、変化態
第 14 回	全体のめとめ	前期授業の総復習、練習問題、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。
そして、e ラーニング教材を使用して e 宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e 宿題については授業開始後に詳しく説明します。

【テキスト（教科書）】
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著　『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』　東方書店

【参考書】
辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学んだことの定着度を測る小テスト（60 %）と e 宿題の実施状況 (40 %) で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】
e 宿題による復習をいったん怠るようになると、授業についていけなくなります。注意してください。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to develop participants'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping participants develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.
【Learning Objectives】
At the end of this course, participants are expected to get a pass in HSK level 1.
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to steadily review what you have already learned. Participants will be also expected to do e-homework using e-learning materials. Your study time will be two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Quiz in each class meeting（100 %）. Of each quiz, 40% will be evaluated by e-homework.

LANc100LA

中国語２

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD プレーヤーを用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は７０％に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語３

2017 年度以降入学者

曽　士才

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

【到達目標】
HSK2 級に合格することを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本授業では、中国語を習い始めたばかりの人が、基本的文法を習得することを目指す。また文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第二十一課、第二十二課	経験態、可能表現、進行態・持続態
第 2 回	第十九課～第二十二課	中国語の態について総復習
第 3 回	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、程度表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第 4 回	第二十五課、第二六課	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、長さの単位
第 5 回	第二十三課～第二五課	形容詞述語文の総復習
第 6 回	第二十六課、第二七課	名詞述語文（一）、時間の表現
第 7 回	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（一）、金額の表現、連体修飾語
第 8 回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第 9 回	第三十一課、第三十二課	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第 10 回	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語、家電製品のいろいろ
第 11 回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第 12 回	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文、使役表現
第 13 回	第三十八課、第三十九課	受身表現、把構文
第 14 回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。
そして、e ラーニング教材を使用して e 宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e 宿題については授業開始後に詳しく説明します。

【テキスト（教科書）】
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店

【参考書】
辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】
学んだことの定着度を測る小テスト（60 %）と e 宿題の実施状況 (40 %) で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
This course aims to develop participants'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping participants develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.
【Learning Objectives】
At the end of this course, participants are expected to get a pass in HSK level 2
【Learning activities outside of classroom】
After each class meeting, participants will be expected to steadily review what you have already learned. Participants will be also expected to do e-homework using e-learning materials. Your study time will be two hours.
【Grading Criteria/Policy】
Final grade will be calculated according to the following process: Quiz in each class meeting（100 %）. Of each quiz, 40% will be evaluated by e-homework.

LANc100LA

中国語４

2017 年度以降入学者

祝　振媛

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】
一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。１）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。２）テキストの学習（約 40 分)。３）文法問題の演習、会話（約 35 分)。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせて進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	秋期の文法問題の演習	「第２１課から第４０課」までの文法問題の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が重要なので、授業後は音声を聞いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
祝振媛　橘千早　『新中国語初級』　株式会社天々
康玉華　『漢語３０１句』北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 %とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の 20 %とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】
中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD プレーヤーを用意してほしい。

【その他の重要事項】
本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の 70 %に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江　貴子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
（1）基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
（2）基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
（3）春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
（4）中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の授業とリレー形式で進めていく。
授業形態は対面授業を主として、各学生の中国語音声の練習奨励と発音確認のためオンデマンド型授業も組み合わせていく。
基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。授業後に各課の e 宿題 (https://fic.xsrv.jp/hosei/) を課題として実施する。更に、毎時間、前回の授業で実施した内容の小テストをする。
課題へのフィードバックは授業中、学習管理システム、メールを通じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）［簡体字とピンイン］、発音（二）［声母］
3	第三課あるいは第四課	発音（三）［韻母］、発音（四）［二音節語の声調 20 パターン］
4	第五課あるいは第六課	自己紹介［您贵姓？］、動詞述語文［你学习什么？］
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文［北京大学很大］、名詞述語文［我十八岁］
6	第九課あるいは第十課	主述述語文［你哪儿不舒服？］、連体修飾語・連用修飾語［一年级的学生都学外语］
7	第十一課あるいは第十二課	補語［你每天看几个小时？］、動詞述語文（一）［她是谁？］
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）［这是什么？］、動詞述語文（三）［你有铅笔吗？］
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）［你家有几口人？］、動詞述語文（五）［这儿有邮筒吗？］
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）［请再念一次］、動詞述語文（七）［去中国干什么？］
11	第十九課あるいは第二十課	完了態［这本书你看了吗？］、変化態［快要考试了］
12	暗唱試験（1）	前期に学習した内容の暗唱試験を実施する。
13	暗唱試験（2）	前期に学習した内容の暗唱試験を実施する。
14	まとめと復習	前期に学習した内容のまとめと、その復習試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei/）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他 『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）

【参考書】
必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳［『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）］も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、毎回授業の初めに行う小テスト、e 宿題、暗唱点で 100 % 評価する。成績配分は平常点 1 割、小テスト 4 割、e 宿題 4 割、暗唱点を 1 割とする。合計で 60 %以上を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e 宿題を活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・本講義は全回の出席や全課題提出が評価の前提である。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。なお、小テストは毎回授業の最初に実施するため、遅刻をすると小テストをを受けられないため注意する。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

永江　貴子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の授業とリレー形式で進めていく。
授業形態は対面授業を主として、各学生の中国語音声の練習奨励と発音確認のためオンライン授業も組み合わせていく。
基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。授業後に各課の e 宿題 (https://fic.xsrv.jp/hosei/) を課題として実施する。更に、毎時間、前回の授業で実施した内容の小テストをする。
課題へのフィードバックは授業中、学習管理システム、メールを通じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態［你去过海边儿吗？］、進行態・持続態［你在做什么呢？］
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文（一）［水饺好吃吗？］、形容詞述語文（二）［明天比今天还热］
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文（三）［比泰山高一点儿］、名詞述語文（一）［今天几月几号？］
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文（二）［现在几点？］、名詞述語文（三）［这只手表多少钱？］
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語［你的这件新毛衣真漂亮！］、連用修飾語［我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月］
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語［谁打得好？］、数量補語［你打了几年网球？］
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語［对不起，我打错了］、方向補語［你退回去吧］
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語［我听不懂］、助動詞［我不想见他］
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文［让谁讲好呢？］、受身表現［衣服都被淋湿了］
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文［我把衬衫弄脏了］、存現文［大楼门口出来了一个高个子］
11	中国語の検定試験紹介	中国語の検定試験を紹介し、実施する。
12	プレゼンテーション（1）	学習した語句を用いて、中国語でプレゼンテーションをする。
13	プレゼンテーション（2）	学習した語句を用いて、中国語でプレゼンテーションをする。
14	学習のまとめ	学習した内容をまとめ、小テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei/）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他 『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）

【参考書】
必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳［『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）］も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、毎回授業の初めに行う小テスト、e 宿題、暗唱点で 100 % 評価する。成績配分は平常点 1 割、小テスト 4 割、e 宿題 4 割、暗唱点を 1 割とする。合計で 60 %以上を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・本講義は全回の出席や全課題提出が評価の前提である。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。なお、小テストは毎回授業の最初に実施するため、遅刻をすると小テストを受けられないため注意する。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。
変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?
		第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时?
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁?
		第十三课 这是什么?
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?
		第十五课 你家有几口人?
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?
		第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么?
	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗?
⑬	中国語の態	第二十课 快要考试了
	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
1、初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができます。
2、初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができます。
3、秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着けます。
4、中国語圏の言語や文化に対する関心を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語 1 、 2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。
変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?
		第二十二课 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?
		第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七课 现在几点?
		第二十八课 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真
	連用修飾語	漂亮!
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地
		干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一课 谁打得好?
		第三十二课 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了
		第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑩	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢?
		第三十八课 衣服都被淋湿了
⑪	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
		第四十课 大楼门口出来了一个高
		个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
2、無断欠席が 4 回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。
3、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江　貴子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の授業とリレー形式で進めていく。
授業形態は対面授業を主として、各学生の中国語音声の練習奨励と発音確認のためオンデマンド型授業も組み合わせていく。
基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。授業後に各課の e 宿題 (https://fic.xsrv.jp/hosei/) を課題として実施する。更に、毎時間、前回の授業で実施した内容の小テストをする。
課題へのフィードバックは授業中、学習管理システム、メールを通じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介［您贵姓？］、動詞述語文［你学习什么？］
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文［北京大学很大］、名詞述語文［我十八岁］
6	第九課あるいは第十課	主述述語文［你哪儿不舒服？］、連体修飾語・連用修飾語［一年级的学生都学外语］
7	第十一課あるいは第十二課	補語［你每天看几个小时？］、動詞述語文（一）［她是谁？］
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）［这是什么？］、動詞述語文（三）［你有铅笔吗？］
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）［你家有几口人？］、動詞述語文（五）［这儿有邮筒吗？］
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）［请再念一次］、動詞述語文（七）［去中国干什么？］
11	第十九課あるいは第二十課	完了態［这本书你看了吗？］、変化態［快要考试了］
12	暗唱試験（1）	前期に学習した内容の暗唱試験を実施する。
13	暗唱試験（2）	前期に学習した内容の暗唱試験を実施する。
14	まとめと復習	前期に学習した内容のまとめと、その復習試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei/）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他 『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）

【参考書】
必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳［『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）］も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、毎回授業の初めに行う小テスト、e 宿題、暗唱点で 100 % 評価する。成績配分は平常点 1 割、小テスト 4 割、e 宿題 4 割、暗唱点を 1 割とする。合計で 60 %以上を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e 宿題を活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・本講義は全回の出席や全課題提出が評価の前提である。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。なお、小テストは毎回授業の最初に実施するため、遅刻をすると小テストを受けられないため注意する。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

永江　貴子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の通りである。
(1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
(2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
(3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
(4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は木曜日の授業とリレー形式で進めていく。
授業形態は対面授業を主として、各学生の中国語音声の練習奨励と発音確認のためオンライン授業も組み合わせていく。
基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。授業後に各課の e 宿題 (https://fic.xsrv.jp/hosei/) を課題として実施する。更に、毎時間、前回の授業で実施した内容の小テストをする。
課題へのフィードバックは授業中、学習管理システム、メールを通じて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態［你去过海边儿吗？］、進行態・持続態［你在做什么呢？］
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文（一）［水饺好吃吗？］、形容詞述語文（二）［明天比今天还热］
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文（三）［比泰山高一点儿］、名詞述語文（一）［今天几月几号？］
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文（二）［现在几点？］、名詞述語文（三）［这只手表多少钱？］
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語［你的这件新毛衣真漂亮！］、連用修飾語［我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月］
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語［谁打得好？］、数量補語［你打了几年网球？］
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語［对不起，我打错了］、方向補語［你退回去吧］
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語［我听不懂］、助動詞［我不想见他］
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文［让谁讲好呢？］、受身表現［衣服都被淋湿了］
10	第三十九課あるいは第四十課	把構文［我把衬衫弄脏了］、存現文［大楼门口出来了一个高个子］
11	中国語の検定試験紹介	中国語の検定試験を紹介し、実施する。
12	プレゼンテーション（1）	学習した語句を用いて、中国語でプレゼンテーションをする。
13	プレゼンテーション（2）	学習した語句を用いて、中国語でプレゼンテーションをする。
14	学習のまとめ	学習した内容をまとめ、小テストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材（http://fic.xsrv.jp/hosei/）を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がける。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大石智良 他 『ポイント学習中国語初級［改訂版］』（東方書店）

【参考書】
必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。
・劉月華 他 『実用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
・相原茂 他 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）
これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳［『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）］も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点、毎回授業の初めに行う小テスト、e 宿題、暗唱点で 100 % 評価する。成績配分は平常点 1 割、小テスト 4 割、e 宿題 4 割、暗唱点を 1 割とする。合計で 60 %以上を合格点とする。

【学生の意見等からの気づき】
・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】
・本講義は全回の出席や全課題提出が評価の前提である。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。なお、小テストは毎回授業の最初に実施するため、遅刻をすると小テストを受けられないため注意する。
・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。
変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?
		第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时?
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁?
		第十三课 这是什么?
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?
		第十五课 你家有几口人?
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?
		第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么?
	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗?
⑬	中国語の態	第二十课 快要考试了
	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
２、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
３、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　海萍

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
1、初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができます。
2、初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができます。
3、秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着けます。
4、中国語圏の言語や文化に対する関心を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。
新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。
復習のため、授業中に適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。
詳細は学習支援システムでお知らせします。
また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。
変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?
		第二十二课 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?
		第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七课 现在几点?
		第二十八课 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真
	連用修飾語	漂亮!
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地
		干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一课 谁打得好?
		第三十二课 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了
		第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑩	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢?
		第三十八课 衣服都被淋湿了
⑪	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
		第四十课 大楼门口出来了一个高
		个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。
授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。
また、付属の教材 CD や http://fic.xsrv.jp/hosei/ を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
中国語辞書を必ず１冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1、平常点 60 %（出席状況、授業中のパフォーマンス、課題、小テスト、e 宿題）、期末試験（口頭・筆記）40 %を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
2、無断欠席が４回を超えた場合には不合格とします。2 回の遅刻を１回の欠席とします。
3、課題、小テスト、期末試験（口頭・筆記）などについては、学期途中で指示をするので各教員の指示に従ってください。

【学生の意見等からの気づき】
学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業中適宜に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。
配分は、毎回行なう小テスト（単語テスト、書き取りテスト、会話の発表など）が 20 %、E 宿題 10 %、期末口頭テストが 20 %、筆記テストが 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。
配分は、毎回行なう小テスト（単語テスト、書き取りテスト、会話の発表など）が 20 %、E 宿題 10 %、期末口頭テストが 20 %、筆記テストが 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第５課から「第１０課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第１２課」 あるいは 「第１３課」	「動詞述語文１」 あるいは 「動詞述語文２」
10	「第１４課」 あるいは 「第１５課」	「動詞述語文３」 あるいは 「動詞述語文４」
11	「第１６課」 あるいは 「第１７課」	「動詞述語文５」 あるいは 「動詞述語文６」
12	「第１８課」 あるいは 「第１２課から第１８課」	「動詞述語文７」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第１９課、２０課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
出席状況、授業態度 30%、試験 70%による評価。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
Following the text, you will learn the basics of Chinese pronunciation and grammar, including four sentence patterns, over the course of one year.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor.See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
出席状況、授業態度 30%、試験 70%による評価。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
Following the text, you will learn the basics of Chinese pronunciation and grammar, including four sentence patterns, over the course of one year.
One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
授業中に適宜に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。
配分は、毎回行なう小テスト（単語テスト、書き取りテスト、会話の発表など）が 20 %、E 宿題 10 %、期末口頭テストが 20 %、筆記テストが 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
特にない。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。
配分は、毎回行なう小テスト（単語テスト、書き取りテスト、会話の発表など）が 20 %、E 宿題 10 %、期末口頭テストが 20 %、筆記テストが 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第５課から「第１０課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第１２課」 あるいは 「第１３課」	「動詞述語文１」 あるいは 「動詞述語文２」
10	「第１４課」 あるいは 「第１５課」	「動詞述語文３」 あるいは 「動詞述語文４」
11	「第１６課」 あるいは 「第１７課」	「動詞述語文５」 あるいは 「動詞述語文６」
12	「第１８課」 あるいは 「第１２課から第１８課」	「動詞述語文７」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第１９課、２０課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉　渇氷

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１・２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第２１課」	「経験態」
	あるいは	あるいは
	「第２２課」	「進行態」「持続態」
2	「第１９課から第２２課」	「態」の復習
3	「第２３課」	「形容詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２４課」	「形容詞述語文」２
4	「第２５課」	「形容詞述語文」
	あるいは	あるいは
	「第２３課から第２５課」	「形容詞述語文」の復習
5	「第２６課」	「名詞述語文」１
	あるいは	あるいは
	「第２７課」	「名詞述語文」２
6	「第２８課」	「名詞述語文」３
	あるいは	あるいは
	「第２６課から第２８課」	「名詞述語文」の復習
7	「第２９課」	「連体修飾語」
	あるいは	あるいは
	「第３０課」	「連用修飾語」
8	「第２９課、３０課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３１課」	「程度補語」
9	「第３２課」	「数量補語」
	あるいは	あるいは
	「第３３課」	「結果補語」
10	「第３４課」	「方向補語」
	あるいは	あるいは
	「第３５課」	「可能補語」
11	「第３１課から３５課」	「補語」の復習
	あるいは	あるいは
	「第３６課」	「助動詞」
12	「第３７課」	「兼語文」
	あるいは	あるいは
	「第３８課」	「受け身表現」
13	「第３９課」	「把構文」
	あるいは	あるいは
	「第４０課」	「存現文」
14	「第３６課から４０課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

日原　傳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅰ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅰ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一课 发音（一）
第 2 回	発音の基本	第二课 发音（二）
第 3 回	発音の基本	第三课 发音（三）
第 4 回	発音の基本	第四课 发音（四）
第 5 回	発音の基本	第五课 您贵姓?
第 6 回	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?
		第七课 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服?
第 8 回	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时?
第 9 回	動詞述語文	第十二课 她是谁?
		第十三课 这是什么?
第 10 回	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?
		第十五课 你家有几口人?
第 11 回	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?
		第十七课 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 /中国語の態	第十八课 去中国干什么?
		第十九课 这本书你看了吗?
第 13 回	中国語の態	第二十课 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・自宅での e ラーニングを行なう。
・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェクテスト）30 %

期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
発音チェックテストを６～７月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

日原　傳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅱ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅱ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?
		第二十二课 你在做什么呢?
第 2 回	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?
		第二十四课 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?
		第二十七课 现在几点?
第 5 回	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱?
第 6 回	連体修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣
	連用修飾語	真漂亮!
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦
		地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一课 谁打得好?
		第三十二课 你打了几年网球?
第 8 回	補語	第三十三课 对不起，我打错了
		第三十四课 你退回去吧
第 9 回	補語	第三十五课 我听不懂
第 10 回	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
		第三十七课 让谁讲好呢?
第 11 回	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高
		个子
第 14 回	授業の総まとめと期末	筆記・ヒアリング試験
	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・自宅での e ラーニングを行なう。
・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト）30 %
期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
課文の暗誦テストを 11 月～12 月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」あるいは「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」あるいは「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」あるいは「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」あるいは「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」あるいは「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」あるいは「動詞述語文」
6	「第７課」あるいは「第８課」	「形容詞述語文」あるいは「名詞述語文」
7	「第９課」あるいは「第１０課」	「主述述語文」あるいは「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」あるいは「第１２課」	「補語」あるいは「動詞述語文１」
9	「第１３課」あるいは「第１４課」	「動詞述語文２」あるいは「動詞述語文３」
10	「第１５課」あるいは「第１６課」	「動詞述語文４」あるいは「動詞述語文５」
11	「第１７課」あるいは「第１８課」	「動詞述語文６」あるいは「動詞述語文７」
12	「第１９課」あるいは「第２０課」	「完了態」あるいは「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は、huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

黄　麗華

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
『WHY？ にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著　2,500 円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（課題５０％）＋中間テスト（２０％）＋期末テスト（３０％）＝１００点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
法政大学の授業を初めて担当します。これまでの中国語教育の経験を生かし、みなさんの要望も取り入れながら、楽しく授業ができればと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】
質問がある場合は huanglihua@cpost.plala.or.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

日原　傳

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅰ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅰ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一课 发音（一）
第 2 回	発音の基本	第二课 发音（二）
第 3 回	発音の基本	第三课 发音（三）
第 4 回	発音の基本	第四课 发音（四）
第 5 回	発音の基本	第五课 您贵姓?
第 6 回	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?
		第七课 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八课 我十八岁
		第九课 你哪儿不舒服?
第 8 回	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语
		第十一课 你每天看几个小时?
第 9 回	動詞述語文	第十二课 她是谁?
		第十三课 这是什么?
第 10 回	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?
		第十五课 你家有几口人?
第 11 回	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?
		第十七课 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 /中国語の態	第十八课 去中国干什么?
		第十九课 这本书你看了吗?
第 13 回	中国語の態	第二十课 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・自宅での e ラーニングを行なう。
・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェクテスト・e ラーニング実施状況）30 %
期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
発音チェックテストを６～７月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

日原　傳

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅱ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅱ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。
※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?
		第二十二课 你在做什么呢?
第 2 回	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?
		第二十四课 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?
		第二十七课 现在几点?
第 5 回	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱?
第 6 回	連体修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣
	連用修飾語	真漂亮!
		第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦
		地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一课 谁打得好?
		第三十二课 你打了几年网球?
第 8 回	補語	第三十三课 对不起，我打错了
		第三十四课 你退回去吧
第 9 回	補語	第三十五课 我听不懂
第 10 回	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
		第三十七课 让谁讲好呢?
第 11 回	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高
		个子
第 14 回	授業の総まとめと期末	筆記・ヒアリング試験
	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・自宅での e ラーニングを行なう。
・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト・e ラーニングの実施状況）30 %
期末試験　70 %

【学生の意見等からの気づき】
課文の暗誦テストを 11 月～12 月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅰ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅰ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?　第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁　第九课 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时?
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁?　第十三课 这是什么?
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?　第十五课 你家有几口人?
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?　第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么?
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗?
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅱ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅱ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?　第二十二课 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?　第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?　第二十七课 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！　第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得好?　第三十二课 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了　第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢?
⑫	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅰ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅰ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 发音（一）
②	発音の基本	第二课 发音（二）
③	発音の基本	第三课 发音（三）
④	発音の基本	第四课 发音（四）
⑤	発音の基本	第五课 您贵姓?
⑥	中国語の基本構造	第六课 你学习什么?　第七课 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八课 我十八岁　第九课 你哪儿不舒服?
⑧	中国語の基本構造	第十课 一年级的学生都学外语 第十一课 你每天看几个小时?
⑨	動詞述語文	第十二课 她是谁?　第十三课 这是什么?
⑩	動詞述語文	第十四课 你有铅笔吗?　第十五课 你家有几口人?
⑪	動詞述語文	第十六课 这儿有邮筒吗?　第十七课 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八课 去中国干什么?
⑬	中国語の態	第十九课 这本书你看了吗?
⑭	中国語の態	第二十课 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「中国語１－Ⅱ」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語１－Ⅱ」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一课 你去过海边儿吗?　第二十二课 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三课 水饺好吃吗?　第二十四课 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五课 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六课 今天几月几号?　第二十七课 现在几点?
⑤	名詞述語文	第二十八课 这只手表多少钱?
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九课 你的这件新毛衣真漂亮！　第三十课 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一课 谁打得好?　第三十二课 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三课 对不起，我打错了　第三十四课 你退回去吧
⑨	補語	第三十五课 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六课 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七课 让谁讲好呢?
⑫	さまざまな表現	第三十八课 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九课 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十课 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曽士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音１」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音２」 あるいは 「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音３」は分量の関係で、２回に分けて進めます。
3	「発音３」 あるいは 「第４課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音１から４」の復習をします。
5	「第５課」 あるいは 「第６課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第７課」 あるいは 「第８課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第９課」 あるいは 「第１０課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第１１課」 あるいは 「第１２課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文１」
9	「第１３課」 あるいは 「第１４課」	「動詞述語文２」 あるいは 「動詞述語文３」
10	「第１５課」 あるいは 「第１６課」	「動詞述語文４」 あるいは 「動詞述語文５」
11	「第１７課」 あるいは 「第１８課」	「動詞述語文６」 あるいは 「動詞述語文７」
12	「第１９課」 あるいは 「第２０課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第１課から第２０課」	「第１課から第２０課」までの復習
14	授業内試験	「第１課から第２０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

渋井　君也

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
中国語１、２の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第１課から第２０課」までの復習
2	「第２１課」 あるいは 「第２２課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第２３課」 あるいは 「第２４課」	「形容詞述語文」１ あるいは 「形容詞述語文」２
4	「第２５課」 あるいは 「第２６課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」１
5	「第２７課」 あるいは 「第２８課」	「名詞述語文」２ あるいは 「名詞述語文」３
6	「第２９課」 あるいは 「第３０課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第３１課」 あるいは 「第３２課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第３３課」 あるいは 「第３４課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第３５課」 あるいは 「第３６課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第３７課」 あるいは 「第３８課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第３９課」 あるいは 「第４０課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第２１課から第３０課」	「第２１課から第３０課」までの復習
13	「第３１課から第４０課」	「第３１課から第４０課」までの復習
14	授業内試験	「第２１課から第４０課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたｅ宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業中の態度や E 宿題、発音テスト等）40 %、中間試験 30 %、期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 Ⅰ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかり身に付けることを目標とします。

【到達目標】
中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初の数回は発音篇、その後文法を中心とした本篇に入ります。本篇の各課は文法・会話文・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。新出語句、例文、会話文を何回も音読し、文法事項を解説してから、会話文を訳し、練習問題を解いて知識が定着するようにします。また、毎回単語、または文法例文の小テスト、会話文の暗誦等を課します。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・中国語とは	授業の進め方について・中国語の基礎
②	第 1 課	発音
③	第 2 課	発音
④	第 3 課	発音
⑤	第 4 課	発音
⑥	第 5 課	文法
⑦	第 6 課	文法
⑧	第 7 課	文法
⑨	第 8 課	文法
⑩	第 9 課	文法
⑪	第 10 課	文法
⑫	第 11 課	文法
⑬	第 12 課	文法
⑭	授業のまとめと試験	第 1～12 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかり身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『改訂版　大学生のための　初級中国語 24 回』杉野元子・黄漢青、白帝社、2019 年

【参考書】
『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）30 %として評価します。
出席回数が授業回数の３分の 2 に及ばなかった者は成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田　麻希子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかり身に付けることを目標とします。

【到達目標】
中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
各課は文法・会話文・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。新出語句、例文、会話文を何回も音読し、文法事項を解説してから会話文を訳し、練習問題を解いて知識が定着するようにします。また、毎回単語、または文法例文の小テスト、本文の暗誦等を課します。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・春学期の復習	授業の進め方について・第 1 ～12 課の復習
②	第 13 課	文法
③	第 14 課	文法
④	第 15 課	文法
⑤	第 16 課	文法
⑥	第 17 課	文法
⑦	第 18 課	文法
⑧	第 19 課	文法
⑨	第 20 課	文法
⑩	第 21 課	文法
⑪	第 22 課	文法
⑫	第 23 課	文法
⑬	第 24 課	文法
⑭	授業のまとめと試験	第 13～24 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかり身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『改訂版　大学生のための　初級中国語 24 回』杉野元子・黄漢青、白帝社、2019 年

【参考書】
『ポイント学習中国語初級［改訂版］』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）30 %として評価します。
出席回数が授業回数の３分の 2 に及ばなかった者は成績評価の対象としません（遅刻・早退は２回で欠席１回とします）。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【その他の重要事項】
授業中の携帯電話の使用は認めません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 Ⅰ

2017 年度以降入学者

沈　小南

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】
さまざまな文章を通じて、読む力、聴く力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前年度で習得した知識の基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。
課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。「大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	発音 1	母音など
3 回目	発音（2）	子音など
4 回目	発音（3）	鼻母音など
5 回目	発音 4	軽声など
6 回目	復習	復習
7 回目	我是日本人	代名詞など
8 回目	你学什么？	動詞述語文など
9 回目	☒是什么？	指示詞など
10 回目	我有妹妹	数字など
11 回目	多少☒	量詞など
12 回目	我☒客	年月日など
13 回目	洗手☒在哪儿	存在表現など
14 回目	試験	筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『シンプルチャイニーズ　北京文法篇』朝日出版社

【参考書】
【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

沈　小南

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】
文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前年度で習得した知識の基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。
課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。
「大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	復習	発音
2 回目	復習	文法
3 回目	你昨天做什么了	了など
4 回目	你在看什么	助動詞など
5 回目	离☒里☒☒	前置詞など
6 回目	咱☒交个朋友吧	様態補語など
7 回目	去爬☒城吧	動詞など
8 回目	我也可以去☒	結果補語など
9 回目	我☒你☒照相	方向補語など
10 回目	你哪儿不舒服	使役動詞など
11 回目	我☒真有☒分	まとめ
12 回目	復習	総復習
13 回目	復習	秋学期のまとめ
14 回目	試験	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『シンプルチャイニーズ北京文法篇』朝日出版社

【参考書】
【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講１Ⅰ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と方針の説明、定着度判定の為の小テスト
②	第一課：発音	声調・単母音・二重母音・第三声の変調などの確認
③	第二課：発音	三重母音・鼻母音などの確認
④	第三課：発音	子音（声母）の確認
⑤	第四課：数詞・ｒ化	数詞・年月日・曜日などの基本的語彙の確認
⑥	第五課：発音表と簡単な表現	声母・韻母の総まとめ、簡単な挨拶表現の確認
⑦	第六課：他是☒？	人称代名詞・「是」構文・本文・練習問題など
⑧	第七課：☒是什么茶？	指示代名詞・動詞述語文・本文・練習問題など
⑨	第八課：明天冷☒？	形容詞述語文・量詞・名詞述語文・本文・練習問題など
⑩	第九課：我坐地☒去	連動文・場所代名詞・反復疑問文など
⑪	第九課：我坐地☒去	本文・練習問題など
⑫	第十課：你☒没☒☒典☒？	動態助詞「了」・語気助詞「了」など
⑬	第十課：你☒没☒☒典☒？	本文・練習問題など
⑭	学習内容総括と理解度の確認	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010 年、取扱：東方書店）

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
As learning outside of class time, do the following several points.
1 ： Listen to the CD that accompanies the text repeatedly and imitate the pronunciation.
2 ： Write down all new words in a vocabulary notebook, memorize them, and organize your class notes.
3 ： Solve the exercises given as homework.
The standard time for preparation and review for this class is 1 hour in total.
The method and criteria for grade evaluation are 20% for normal scores (mini tests) and 80% for final exams.

LANc100LA

中国語補講 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

後藤　淳一

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】
・中国語の正しい発音を身につける。
・ピンインを正しく読めるようにする。
・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	第十一課：你爸爸会用☒☒☒？	助動詞「会」「能」「想」・経験態など
②	第十一課：你爸爸会用☒☒☒？	本文・練習問題など
③	第十二課：今天天气又下降了 2 度	助動詞「得」・比較文・結果補語など
④	第十二課：今天天气又下降了 2 度	本文・練習問題など
⑤	第十三課：从☒儿到公司☒不☒？	動態助詞「着」・自然現象・可能補語など
⑥	第十三課：从☒儿到公司☒不☒？	本文・練習問題など
⑦	第十四課：你把☒典放在哪儿了？	「把」構文・方向補語・受け身文など
⑧	第十四課：你把☒典放在哪儿了？	本文・練習問題など
⑨	第十五課：你在看什么呢？	進行形・状態補語・二重目的語など
⑩	第十五課：你在看什么呢？	本文・練習問題など
⑪	第十六課：☒台上有一副眼☒	存現文・複合方向補語・兼語文など
⑫	第十六課：☒台上有一副眼☒	本文・練習問題など
⑬	総合復習	これまで学んだ文法事項の再確認
⑭	学習内容総括と理解度の確認	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
・宿題として課された練習問題を解く。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010 年、取扱：東方書店）
※秋学期の本授業のみを履修する者も、テキストは春の時点で購入し、第十課までの内容をあらかじめノートに纏めておくこと。

【参考書】
授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）２０％
期末試験８０％

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.
As learning outside of class time, do the following several points.
1 ： Listen to the CD that accompanies the text repeatedly and imitate the pronunciation.
2 ： Write down all new words in a vocabulary notebook, memorize them, and organize your class notes.
3 ： Solve the exercises given as homework.
The standard time for preparation and review for this class is 1 hour in total.
The method and criteria for grade evaluation are 20% for normal scores (mini tests) and 80% for final exams.

LANc100LA

中国語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

沈　小南

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】
文章を通じて、読む力、聴く力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。
課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。
「大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	発音１	母音など
3 回目	発音（２）	子音など
4 回目	発音（３）	鼻母音など
5 回目	発音４	軽声など
6 回目	復習	復習
7 回目	我是日本人	代名詞など
8 回目	你学什么？	動詞述語文など
9 回目	☒是什么？	指示詞など
10 回目	我有妹妹	数字など
11 回目	多少☒	量詞など
12 回目	我☒客	年月日など
13 回目	洗手☒在哪儿	存在表現など
14 回目	試験	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『シンプルチャイニーズ　北京文法篇』朝日出版社

【参考書】
【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

沈　小南

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】
文章を通じて、読く力、聴む力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。
課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。
「大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	復習	発音
2 回目	復習	文法
3 回目	你昨天做什么了	了など
4 回目	你在看什么	助動詞など
5 回目	离☒里☒☒	前置詞など
6 回目	咱☒交个朋友吧	様態補語など
7 回目	去爬☒城吧	動詞など
8 回目	我也可以去☒	結果補語など
9 回目	我☒你☒照相	方向補語など
10 回目	你哪儿不舒服	使役動詞など
11 回目	我☒真有☒分	まとめ
12 回目	復習	総復習
13 回目	復習	秋学期のまとめ
14 回目	試験	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『シンプルチャイニーズ　北京文法篇』朝日出版社

【参考書】
【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】
もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　ほぼ一回に 1 課分を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。授業の後半 30 分間に、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。
　授業中、随時学生の質問を受け付けして、その場で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」
	第 1 課「発音１」	「発音の基本」ピンインの読み方
	第 2 課「発音２」	
2	第 3 課「発音３」	「発音の基本」ピンインの読み方
	第 4 課「発音４」	
3	「第 5 課」	「自己紹介」
	「第 6 課」	「あいさつ」
		「動詞述語文」
4	「第 7 課」	「形容詞述語文」
	「第 8 課」	「名詞述語文」
5	「第 9 課」	「主述述語文」
6	「第 10 課」	「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 11 課」	「数量補語」
8	「第 12 課」	「動詞述語文１」
	中間テスト	第 5 課～11 課の纏めと解説
	（第 5 課～11 課）	
9	「第 13 課」	「動詞述語文２」
10	「第 14 課」	「動詞述語文３」
11	「第 15 課」	「動詞述語文４」
12	「第 16 課」	「動詞述語文 5」
13	「第 17 課」	「動詞述語文 6」
14	期末テスト（第 12 課～17 課）	第 12 課～17 課の纏め及び解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。
配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが 30 %、中間テストは 30 %、期末テストが 40 %です。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】
使用しません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

余　瀾

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 5**/Tue.5
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】
読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
一回に 1 課を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識を定着するようにします。授業後半の 30 分間は、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。
授業中、随時学生の質問を受け付けして、その場で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 18 課」	「動詞述語文７」
2	「第 19 課」	「完了態」
3	「第 20 課」	「変化態」
4	「第 21 課」	「経験態」
5	「第 22 課」	「進行態」「持続態」
6	「第 23 課」	「形容詞述語文１」
7	「第 24 課」	「形容詞述語文 2」
	中間テスト（第 18 課～22 課）	第 18 課～22 課の纏めと解説
8	「第 25 課」	「形容詞述語文 3」
9	「第 26 課」	「名詞述語文 1」
10	「第 27 課」	「名詞述語文 2」
11	「第 28 課」	「名詞述語文 3」
12	「第 29 課」	「連体修飾語」
13	「第 30 課」	「連用修飾語」
14	期末テスト（第 23 課～30 課）・まとめと解説	第 23 課～30 課のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。
配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが 30 %、中間テストは 30 %、期末テストが 40 %です。
欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】
学生の出席を促すために、小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】
使用しません。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】
中国語の発音と基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本として、発音のおさらい、ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業についての説明	中国語の音節、声調
	発音のおさらい①	挨拶言葉
	第 1 課　こんにちは	ドリル
2	発音のおさらい②	単母音、複母音
	第２課　また明日	挨拶言葉
		ドリル
3	発音のおさらい③	子音、無気音と有気音
	第 3 課　ありがとう	挨拶言葉
		ドリル
4	発音のおさらい④	子音、鼻母音
	第 4 課　お久しぶり	挨拶言葉
		ドリル
5	第 5 課　出迎える（1）	第 5 課のポイント
		名前の言い方
		名前のたずね方
6	第 5 課　出迎える（2）	第 5 課の会話練習
		ドリル
7	第 6 課　歓迎パー	第 6 課のポイント
	ティー（1）	動詞「是」
		助詞「的」
8	第 6 課　歓迎パー	第 6 課の会話練習
	ティー（2）	ドリル
9	第 7 課　タクシーに	第 7 課のポイント
	乗る（1）	基本語順
		連動文
10	第 7 課　タクシーに	第 7 課の会話練習
	乗る（2）	ドリル
11	第 8 課　宿泊する（1）	第 8 課のポイント
		助動詞「想」
		動詞「有」
		指示代名詞
12	第 8 課　宿泊する（2）	第 8 課の会話練習
		ドリル
13	第 9 課　道をたずね	第 9 課のポイント
	る	動詞「在」
		方位詞
		前置詞「从」「往」
		場所を表す指示代名詞
14	復習、授業内試験	第 9 課の復習
		試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
「しゃべっていいとも中国語　トータル版」
朝日出版社

【参考書】
中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉　光赤

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】
中国語の発音との基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 10 課　ショッピングをする（1）	第 10 課のポイント 数の言い方、中国のお金の言い方、値段のたずね方、 形容詞が述語になる文
2	第 10 課　ショッピングをする（2）	第 10 課の会話練習 ドリル
3	第 11 課　おしゃべりをする（1）	第 11 課のポイント 年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第 11 課　おしゃべりをする（2）	第 11 課の会話練習 ドリル
5	第 12 課　料理を注文する（1）	第 12 課のポイント 量詞 動詞の重ね方
6	第 12 課　料理を注文する（2）	第 12 課の会話練習 ドリル
7	第 13 課　サッカーのチケットを買う（1）	第 13 課のポイント 時刻の言い方 新事態の発生や、状態の変化を表す文末の「了」
8	第 13 課　サッカーのチケットを買う（2）	第 13 課の会話練習 ドリル
9	第 14 課　マッサージをする（1）	第 14 課のポイント 時間の長さの言い方 動作行為の完了を表す助詞「了」
10	第 14 課　マッサージをする（2）	第 14 課の会話練習 ドリル
11	第 15 課　インターネット・カフェ（1）	第 15 課のポイント 動作の対象を表す前置詞「☒」 助動詞「可以」「能」
12	第 15 課　インターネット・カフェ（2）	第 15 課の会話練習 ドルる
13	第 16 課　電話をかける（1）	第 16 課のポイント 動作行為の進行を表す表現 助動詞「会」
14	復習と授業内試験	第 16 課の復習 試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】
「しゃべっていいとも中国語　トータル版」
朝日出版社

【参考書】
中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】
期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】
授業形態は対面授業ですが、大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】
This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.　One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.　The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

岡本　年正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。
平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベートとあいさつ	授業概要説明。 アルファベートと発音、あいさつの練習。
2	発音に関するルール、名詞の性と数	発音に関するルールを理解する。 名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、主語人称代名詞、動詞 ser	冠詞の概念を理解する。 主語人称代名詞と動詞の活用の概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。
4	形容詞、所有形容詞（前置形）	形容詞と所有形容詞（前置形）の使い方を理解し練習する。
5	動詞 estar、指示形容詞	動詞 estar の活用と用法を確認し練習する。 指示形容詞の用法を確認し練習する。
6	動詞 haber、動詞 estar と haber の違い	動詞 haber の hay の用法を確認し練習する。動詞 estar との違いを理解し、使い分けの練習をする。
7	動詞 ser と estar の違い、動詞 tener	動詞 ser と estar の違いを理解し、使い分けの練習をする。 動詞 tener を用いた表現を練習する。
8	直接法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の用法と活用を学び練習する。
9	数（1～100）、時刻の表現	数（1～100）を確認する。時刻の表現を確認し、ser を用いた表現や規則動詞を用いた練習をする。
10	直接法現在不規則動詞（1 人称単数不規則）	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。特に動詞 ir, hacer の用法を学ぶ。
11	疑問詞、主な前置詞、天候表現	これまでに出てきている疑問詞や前置詞をまとめ、理解を深める。 天候表現を確認し、練習する。
12	直接法現在不規則動詞（語幹母音変化）	語幹母音変化動詞の活用を確認し練習する。重要な用法を持つ動詞を確認する。
13	不定詞表現、日付と季節の表現	既出の動詞で不定詞を伴う表現を確認し練習する。 日付と季節の表現を確認し、既出の動詞と共に練習する。
14	春学期のまとめ。期末試験とその解説	春学期に学習したことをまとめる。期末試験を行い、その解説をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を中心に勉強しましょう。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にしましょう。宿題の確認によって、疑問点をなくすようにしましょう。進出単語は自発的に覚えましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
エウヘニオ　デル　プラド他（2023）『新スペイン語のリズムで１』（Nuevo Español con ritmo 1）同学社。

【参考書】
推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下です。必携ではありません。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】
小テスト、活用テスト（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】
各回の授業前に、学習支援システムで資料の有無を確認してください。

【Outline (in English)】
The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: greeting, brief self-introduction, plain description etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%、Tests conducted in class: 60%.
More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡本　年正

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語１Ⅰからの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現ができるようにします。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】
現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	直説法現在不規則動詞（oír, venir, saber, conocer）	直説法現在不規則動詞（oír, venir, saber, conocer）の活用と用法を確認する。特に saber と conocer の違いを理解し練習する。
3	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞とその用法を確認し、既出の動詞と共に練習する。
4	間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞とその用法を確認し、既出の動詞と共に練習する。
5	直説法現在不規則動詞（dar, traer, decir）	直説法現在不規則動詞（dar, traer, decir）の活用と用法を確認し、目的格を含めて練習する。
6	再帰動詞（基本的な用法）	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。
7	再帰動詞（3 人称用法）	再帰動詞の 3 人称用法についても学び、練習する。
8	動詞 gustar と gustar 型動詞	動詞 gustar の用法を理解する。gustar 型動詞の用法を学び練習する。
9	点過去（規則活用）	点過去の概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
10	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
11	線過去	線過去の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
12	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
13	比較表現、関係代名詞 que	基本的な比較表現を確認する。比較級と最上級が使えるように練習する。 関係詞 que を確認し、練習する。
14	1 年間のふりかえり、期末試験とその解説	1 年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施し、その解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習を中心に勉強をしましょう。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にしましょう。宿題の確認によって、疑問点をなくすようにしましょう。新出単語は自発的に覚えましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
エウヘニオ　デル　プラド他（2023）『新スペイン語のリズムで 1』（Nuevo Español con ritmo 1）同学社。

【参考書】
推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下です。必携ではありません。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】
小テスト、活用テスト（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】
授業前には、学習支援システムに入り資料の有無を確認してください。

【Outline (in English)】
The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: taste, mind, hope, past events etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Tests conducted in class: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

敦賀　公子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　スペイン語世界への理解と興味を導く第一歩として、スペイン語の基本文法・表現を学ぶことを目標とします。

【到達目標】
今学期は特に、名詞、冠詞、形容詞の性数変化と基本動詞の現在形、目的格人称代名詞などを習得します。
基本文法を活用して、日常生活の中で使う簡単な語彙と文章に慣れるとともに、簡単な会話文を理解できるようになることをめざします。また、日本語や英語とは異なる言語のしくみについて考え、多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などで、さらに理解を深め、知識の定着を図ります。より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とし、次の授業で確認するほか、小テストも取り入れます。なお、適宜リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ		内容
1	イントロダクション		簡単な自己紹介文
	Lección 1		アルファベット、発音、読み方など
2	Lección 2	前半	名詞、冠詞など
3	Lección 2	後半	名詞、数など
4	Lección 3	前半	主格人称代名詞、動詞 ser など
5	Lección 3	後半	動詞 ser、形容詞など
6	Lección 4	前半	動詞規則活用-ar など
7	Lección 4	後半	動詞規則活用-ar, 曜日など
8	中間テスト		Lección 4 までのまとめと確認
	Lección 5	前半	動詞規則活用-er, -ir など
9	Lección 5	後半	動詞規則活用、所有詞など
10	Lección 6	前半	指示詞、Hay 構文など
11	Lección 6	後半	動詞 estar など
12	Lección 7	前半	直接目的格人称代名詞など
13	Lección 7	後半	動詞不規則活用など
14	期末テスト・まとめと確認		Lección 7 までのまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業毎の予習・復習、宿題など。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『アクシオン！ 三訂版』
四宮瑞枝、落合佐枝、P.Trenado 著（白水社）

【参考書】
西和辞典
その他、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１、試験（中間・期末、小テスト）75 %
２、平常点　25 %

【学生の意見等からの気づき】
言語のみならず、スペイン語圏の社会や人々についての理解が深まるような、わかりやすい活気のある授業を目指したいと思います。初回授業で皆さんの履修にあたっての希望やスペイン語、スペイン語圏諸国についての興味などに関する簡単なアンケートを行い、授業運営に生かしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii の各種機能を使用することもありますので、PC を準備して下さい。

【Outline (in English)】
Course outline ： This course introduces the basic grammar and expression of Spanish to students taking this course. It also enhances understanding and interest in the diverse cultures of the Spanish World.
Learning Objectives: The goals of this course are to become familiar with simple vocabulary and sentences used in daily life by utilizing basic grammar and also be able to understand simple conversational sentences.
Learning activities outside of classroom: ： Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Examinations: 75%、in class contribution: 25%

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

敦賀　公子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期に習得した知識の上に、発展した基本文法を習得し、スペイン語やスペイン語諸国についての理解と興味をさらに深めることを目標とします。

【到達目標】
今学期は特に、再帰動詞、動詞の現在完了形、過去形などを習得します。
春学期の知識に加え、さらに発展した基礎文法を活用することで、様々な日常生活の場面で使う語彙と文章に親しみます。それによって多様で魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めるとともに、日本語や日本文化との比較分析を行い、異文化理解へと発展させていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などでさらに理解を深めます。より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とするほか、小テストを適宜取り入れます。なお、リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期のポイントの復習
	Lección 8　前半	間接目的語人称代名詞など
2	Lección 8　後半	動詞不規則活用など
3	Lección 9　前半	動詞不規則活用など
4	Lección 9　後半	不定語、否定語など
5	No.1 テスト	L.9 までのまとめと確認
	Lección 10　前半	動詞不規則活用など
6	Lección 10 後半	所有詞など
7	Lección 11　前半	gustar 構文など
8	Lección 11　後半	比較の構文など
9	No.2 テスト	L.10,11 のまとめと確認
	Lección 12	再帰動詞など
10	Lección 13	過去分詞、現在完了など
11	Lección 14	現在分詞など
12	Lección 15　前半	点過去など
13	Lección 15　後半	線過去など
14	期末テスト	L.13，14, 15 までのまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業毎の予習・復習、宿題。本授業の準備・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『アクシオン　三訂版』
四宮瑞枝、落合佐枝、P.Trenad 著（白水社）

【参考書】
西和辞典
その他、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
１、試験（テスト、期末テスト、小テストなど）75 %
２、平常点　25 %

【学生の意見等からの気づき】
言語のみならず、スペイン語圏の社会や人々についての理解が深まるような、わかりやすい活気のある授業を目指したいと思います。皆さんの履修にあたっての希望やスペイン語、スペイン語圏諸国についての興味などに関するアンケートを参考に、授業運営に生かしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム Hoppii を使用することがあるので、PC を準備して下さい。

【Outline (in English)】
Course outline ： On the knowledge acquired in the Spring Semester, this course lead the step up grammer and expression of the basic Spanish to students taking this course. It also inhances the divelopment of understanding in the Spanish Countries.
Learning Objectives: The goals of this course are to learn recursive verbs, present perfect and past tenses of verbs, among others.By using more advanced basic grammar, students will become familiar with vocabulary and sentences used in a variety of everyday situations.
Learning activities outside of classroom: ： Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.
Grading Criteria /Policies: Examinations: 75%、in class contribution: 25%

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、El Alfabeto(アルファベット)	シラバスを用いての授業の説明。文字と発音。音節とアクセント。
2	第 1 課前半 (pp.6-7)	名詞の性数、冠詞。練習問題。、
3	第 1 課後半 (pp.8-9) 第 2 課前半 (p.10)	疑問文、基数 (0-15)。 練習問題。主格人称代名詞、動詞 ser。
4	第 2 課後半 (pp.11-13)	形容詞、指示代名詞中性形。練習問題。
5	第 3 課前半 (pp.14-16)	動詞 estar、ser と estar、指示形容詞、hay と estar。練習問題。
6	第 3 課後半 (p.17) 第 4 課前半 (pp.18-19)	現在形規則動詞。 練習問題。
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課後半 (pp.20-21) 第 5 課前半 (p.22)	指示代名詞、所有形容詞 (前置形)、語幹母音変化動詞、基数 (16-30)。 練習問題。
9	第 5 課前半 (pp.23-25)	時刻の表現、不定詞表現、前置詞"a" + 人 (目的語)。練習問題。
10	第 6 課前半 (pp.26-28)	一人称単数不規則動詞、曜日と日付、基数 (31-100)、所有形容詞、天候の表現。練習問題。
11	第 6 課後半 (p.29) 第 7 課前半 (pp.30-31)	現在形・その他の不規則動詞、不定詞表現 2。 練習問題。
12	第 7 課後半 (pp.32-33) 第 8 課前半 (p.34)	序数、特徴を述べるさまざまな表現方法、目的格代名詞。 練習問題。
13	第 8 課後半 (pp.35-37)	gustar 構文、前置詞格人称代名詞。練習問題。
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
土井裕文ほか（2016）『君もやってみよう！ スペイン語 (改訂版)』朝日出版社。ISBN978-4-255-55081-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, and requests, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
①動詞の直説法過去形、現在完了形をもちいて、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②線過去形を用いて、過去において継続中だった行為や、動作、状況について述べることができる。③未来形、過去未来形を用いて、未来の予定や推測、過去から見た未来について述べることができる。④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 9 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞。
2	第 9 課後半	現在分詞。 練習問題。
3	第 10 課前半	過去分詞、現在完了形。 練習問題。
4	第 10 課後半	無人称表現、不定語と否定語。 練習問題。
5	第 11 課前半	点過去規則活用。 練習問題。
6	第 11 課後半	点過去不規則活用。 練習問題。
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 12 課前半	線過去。 練習問題。
9	第 12 課後半	比較表現。 練習問題。
10	第 13 課前半	未来形。 練習問題。
11	第 13 課前半	知覚動詞・使役動詞、受身表現。 練習問題。
12	第 14 課前半	過去未来形、関係代名詞。 練習問題。
13	第 14 課後半	過去完了形、間接話法と直接話法。 練習問題。
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
土井裕文ほか（2016）『君もやってみよう！ スペイン語 (改訂版)』朝日出版社。ISBN978-4-255-55081-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this class are the following. 1) Describe past acts, actions, and situations using the preterit (past) and present perfect tense of verbs. 2) To describe ongoing actions, movements, and situations in the past using the imperfect tense. 3) To describe plans, speculations, and the future from the perspective of the past using the future tense and conditional mood. 4) To learn about Spanish and Latin American culture.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 1/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】
現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明と設問の練習など。基本的には対面ですが社会状況に応じてオンラインに切り替わる可能性もあるので学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインとには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習には一時間程度を費やすこと。

【テキスト（教科書）】
Ahora, tú きみもやってみよう！ スペイン語　改訂版　朝日出版社

【参考書】
新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 %取得しないと単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。３回欠席をすると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。配布するリアクションペーパーには質問やわからない単元について記入してください。これらについては授業内に復習するなどの対応を行います。

【その他の重要事項】
社会状況によってはオンライン授業を行うこともある。

【Outline (in English)】
In this course, students will learn basic Spanish grammars and carry on practices which are in the textbook.
The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.
Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required.　Your required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする
Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】
スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を行うことに慣れる
Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施。基本的には対面授業だが社会状況に応じてオンラインに切り替わる可能性もあるので学習支援システムを確認すること。各単元に応じて会話の練習なども含む。リアクションペーパーは適宜配布するので疑問点や感想などを書き、これに対するフィードバックを授業内に行う。
Grammatical explanation and practicing exercises. Reaction paper will be distributed so that each student can write their questions and thoughts on the explained units. Feedbacks will be given within the classes.
Practicing exercises and grammatical explanation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくること。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語　改訂版」　朝日出版社

【参考書】
『新版スペイン語の入門』（文法書）紙媒体辞書必携
『クラウン西和辞典』三省堂
『プログレッシブスペイン語辞典』小学館
『現代スペイン語辞典』白水社

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 %取得しなければ単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位を取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。社会状況に応じてはオンライン授業となることもある。

【学生の意見等からの気づき】
毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。授業内で復習するなどの適切な対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】
スペイン語辞書（紙媒体）必携
インターネットを利用した辞書ツールは一切認めません。

【Outline (in English)】
1.To structure conversation in Spanish and write sentences. Understand the basic Spanish grammars and vocabularies and able to speak out or writ out simple sentences in Spanish. Comprehend what is written in the textbook and memorize the vocabularies that appear in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required.　Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria:　40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング	ガイダンス
	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 1/3
2	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 2/3
3	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 3/3
4	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 1/3
5	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 2/3
6	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 3/3
7	第１・２課の内容まとめ	Repaso
	中間テスト	Examen U1-2
8	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 1/2
9	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 2/2
10	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す 2/2
12	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 1/2
13	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 2/2
14	学習内容のまとめ	Repaso
	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! いいね！ スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework as well as preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前学期の続きで、初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング	春学期の復習とガイダンス。
	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 1/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
2	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 2/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
3	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 3/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
4	第７課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 1/2	計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
5	第７課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 2/2	計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
6	まとめ 中間テスト	Repaso y examen ～ U7
7	第８課	店で欲しいものを伝える
	De compras 1/2	店頭での会話 市場や店の様子
8	第８課	店で欲しいものを伝える
	De compras 2/2	店頭での会話 市場や店の様子
9	第９課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer! 1/2	食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2
10	第９課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer! 2/2	食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 1/2
11	第１０課	1 日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto 1/2	天候
12	第１０課	1 日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto 2/2	天候
13	まとめ 期末試験	Repaso y examen final
14	振り返って１年のまとめ	Clase final - Reflexión

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! 1 いいね！ スペイン語」、フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、テスト／試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
未確認

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish continuing where we left off the previous semester.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework as well as preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスを用いての授業の説明。
	第 1 課前半	文字と発音。(教科書 pp.2-3)
2	第 1 課後半	アクセントの位置、数詞、曜日、など。(教科書 pp.4-5)
3	第 2 課前半	名詞の性と冠詞、など。(教科書 pp.6-7)
4	第 2 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.8-9)
5	第 3 課前半	指示形容詞と指示代名詞、など。(教科書 pp.10-11)
6	第 3 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.12-13)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課前半	規則動詞の活用と不規則動詞、など。(教科書 pp.14-15)
9	第 4 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.16-17)
10	第 5 課前半	1 人称単数不規則動詞、など。(教科書 pp.18-19)
11	第 5 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.20-21)
12	第 6 課前半	語幹母音変化動詞、など。(教科書 pp.22-23)
13	第 6 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.24-25)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
① gustar 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
②再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べることができる。
③動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べることができるようになる。
④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。(教科書 pp.26-27)
2	第 7 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.28-29)
3	第 8 課前半	動詞 gustar の用法、比較級、最上級、など。(教科書 pp.30-31)
4	第 8 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.32-33)
5	第 9 課前半	点過去の規則動詞、同等比較など。(教科書 pp.34-35)
6	第 9 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.36-37)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 10 課前半	点過去の不規則形、否定語と不定語など。(教科書 pp.38-39)
9	第 10 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.40-41)
10	第 11 課前半	線過去、点過去と線過去の違いなど。 (教科書 pp.42-43)
11	第 11 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.44-45)
12	第 12 課前半	過去分詞、関係詞。(教科書 pp.46-47)
13	第 12 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.48-49)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to understand the usage of gustar verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④再帰動詞の意味と用法について理解する。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聴き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話練習、読解問題の訳読を行う。
また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、第 1 課 (2 ページ)	本シラバスを用いた授業の説明。アルファベット。
2	第 1 課 (3 ページ)	発音、アクセント。
3	第 2 課 (6-7 ページ)	名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞 ser、など
4	第 2 課 (8-9 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 3 課 (10-11 ページ)	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞、動詞 estar、動詞 tener、など。
6	第 3 課 (12-13 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課 (18-19 ページ)	規則動詞、時刻の表現、など
9	第 4 課 (20-21 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 5 課 (22-23 ページ)	指示形容詞、動詞 ir と ver、など。
11	第 5 課 (24-25 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 6 課 (26-27 ページ)	語根母音変化動詞、直接目的格人称代名詞、など。
13	第 6 課 (28-29 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
デル・プラド他 (2013)『スペイン語のある風景 (Panoramica del espanol)』同学社。ISBN978-4-8102-0395-0。

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language. The goals of this course are to be able to say simple greetings, pronounce words correctly by looking at the spelling, look up infinitives of verbs conjugated to the present tense in a dictionary, understand the meaning and usage of reflexive verbs, read single sentences in the present tense with help of a dictionary, and have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形､線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④ gustar 型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は､「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」､「語彙 (Vocabulario)」､「会話・読解・聴き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課 (34-35 ページ)	間接目的格人称代名詞、動詞 dar, traer, decir、など。
3	第 7 課 (36-37 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
4	第 8 課 (38-39 ページ)	再帰動詞、所有形容詞後置形。
5	第 8 課 (40-41 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
6	第 9 課 (42-43 ページ)	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar、など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 9 課 (44-45 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
9	第 10 課 (50-51 ページ)	比較級、不定語、など。
10	第 10 課 (52-53 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
11	第 11 課 (54-55 ページ)	規則動詞、不規則動詞の点過去形、など。
12	第 11 課 (56-57 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
13	第 12 課 (58-59 ページ)	線過去形、点過去形と線過去形の違い、など。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題、読解問題、聴き取り問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
デル・プラド他 (2013)『スペイン語のある風景 (Panoramica del espanol)』同学社。ISBN978-4-8102-0395-0。2700 円＋税。

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説、双方向の授業を心がける。
授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく､「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to understand the usage of "gustar" verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish.
The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 1 課前半	シラバスを用いての授業の説明。 文字と発音。(教科書 pp.2-3)
2	第 1 課後半	アクセントの位置、数詞、曜日、など。(教科書 pp.4-5)
3	第 2 課前半	名詞の性と冠詞、など。(教科書 pp.6-7)
4	第 2 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.8-9)
5	第 3 課前半	指示形容詞と指示代名詞、など。(教科書 pp.10-11)
6	第 3 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.12-13)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課前半	規則動詞の活用と不規則動詞、など。(教科書 pp.14-15)
9	第 4 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.16-17)
10	第 5 課前半	1 人称単数不規則動詞、など。(教科書 pp.18-19)
11	第 5 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.20-21)
12	第 6 課前半	語幹母音変化動詞、など。(教科書 pp.22-23)
13	第 6 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.24-25)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
① gustar 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
②再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べることができる。
③動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べることができるようになる。
④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。(教科書 pp.26-27)
2	第 7 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.28-29)
3	第 8 課前半	動詞 gustar の用法、比較級、最上級、など。(教科書 pp.30-31)
4	第 8 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.32-33)
5	第 9 課前半	点過去の規則動詞、同等比較など。(教科書 pp.34-35)
6	第 9 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.36-37)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 10 課前半	点過去の不規則形、否定語と不定語など。(教科書 pp.38-39)
9	第 10 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.40-41)
10	第 11 課前半	線過去、点過去と線過去の違いなど。 (教科書 pp.42-43)
11	第 11 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.44-45)
12	第 12 課前半	過去分詞、関係詞。(教科書 pp.46-47)
13	第 12 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.48-49)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to understand the usage of gustar verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができるようにすることを目的とする。

【到達目標】
現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成することができるようにする。
The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法の説明と設問の練習など。各単元に応じて会話の練習なども含みます。リアクションペーパーは適宜配布するので疑問点や感想などを書き、これに対するフィードバックを授業内に行います。
Grammatical explanation and practicing exercises. Reaction paper will be distributed so that each student can write their questions and thoughts on the explained units. Feedbacks will be given within the classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペインとには名詞に男性形と女性形があることの説明およびそれらが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文および～があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文法的説明を踏まえたうえで練習問題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分けについての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習には一時間程度費やすこと。

【テキスト（教科書）】
Ahora, tú「君もやってみよう！ スペイン語　改訂版」　朝日出版社

【参考書】
新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 %取得しないと単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。３回欠席すると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】
なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。リアクションペーパーを配布するので質問等や確認したい項目など書き込むこと。質問などについては授業内で復習をするなどの対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】
スペイン語辞書（紙媒体のもの）

【Outline (in English)】
In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

【到達目標】
スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話に慣れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題へ取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las	目的格代名詞 me,te,lo,la,nos,los,las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去の概念についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくること。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】
Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語　改訂版」　朝日出版社

【参考書】
「新版スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】
テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 %取得しなければ単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。３回欠席すると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】
毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。不明な単元については授業内で復習するなどの対応を行います。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.　The goal is to structure conversation in Spanish and write sentences

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会情勢によってオンライン授業に切り替わる可能性があるため、学習支援を確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課 冠詞および主格人称代名詞について	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課 スペイン語における重要な ser 動詞の使い方の説明	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課 形容詞の性・数。疑問文と否定文	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課 estar 動詞と hay の違いについて	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課 ser と estar の違い 指示形容詞について	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課 動詞規則動詞の活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課 関節目的格代名詞の説明	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課 規則動詞の活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課 所有形容詞の説明	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課 目的格人称代名詞の説明	目的格人称代名詞
13	第 7 課 gustar 型動詞の説明	gustar 型動詞の用法
14	試験 今までの振り返りとしての試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上を獲得しないと単位は与えられない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 5/Wed.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 1I から連続する。基本的に対面授業だが、社会情勢に応じてオンライン授業に切り替わる可能性があるので、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】
履修生は今学期終了時までに、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義はスペイン語のアルファベットから開始する。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行う。まったくのスペイン語初心者が受講することを想定するので、授業は出来る限りゆっくり、また丁寧に進行するが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため授業の途中で一度、理解の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。
課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。
本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業のガイダンス
	アルファベット	スペイン語と英語のアルファベットの違い
	母音の発音	母音の発音規則
		（テキスト: イントロダクション）
2	子音の発音	子音の発音規則
	アクセントのルール	アクセントの位置のルール
	注意すべきつづり	発音を間違えやすいつづり
		（テキスト: イントロダクション）
3	名詞の数	名詞の性の概念
	名詞の性	名詞の複数形の作り方
	定冠詞と不定冠詞	定冠詞と不定冠詞
		（テキスト: 第 1 課）
4	主格人称代名詞	主格人称代名詞の種類と用法
	動詞 ser 直説法現在	動詞 ser の活用と用法
		（テキスト: 第 1 課）
5	形容詞	形容詞の性数変化
	数 1 ～ 100	1 から 100 までの数詞
		（テキスト: 第 2 課）
6	所有形容詞前置形	所有形容詞前置形の種類と用法
	指示形容詞	指示形容詞の種類と用法
		（テキスト: 第 2 課）
7	中間試験	中間試験
	動詞 estar 直説法現在	動詞 estar の活用
	場所の表現	場所を表す副詞句
		（テキスト: 第 3 課）
8	ser と estar	ser と estar の使い分け
	動詞 tener 直説法現在	動詞 tener の活用と用法
	tener + 名詞の表現	tener を用いた気分や状態の表現
		（テキスト: 第 3 課）
9	直説法現在規則動詞	直説法現在の規則活用
		（テキスト: 第 3 課）
10	hay	hay を用いた存在の表現
	時刻の表現	時刻の表し方
		（テキスト: 第 4 課）
11	動詞 ir	動詞 ir の活用と用法
	主な前置詞	よく使われる前置詞
		（テキスト: 第 5 課）
12	動詞 ver、hacer、poner、salir	動詞 ver、hacer、poner、salir の活用と用法
	曜日・日付の表現	曜日と月
		（テキスト: 第 5 課）
13	疑問詞	疑問詞の種類と使い方
		（テキスト: 第 5 課）
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。
また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『エル　オリソンテ（Español en el horizonte）』（白水社）、2,500 円+税

【参考書】
外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。
上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。
http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic grammar of Spanish.
By the end of the course, students should be able to understand and make Spanish sentences of the simple present tense.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs100LA

スペイン語 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

若林　大我

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】
履修生は今学期終了時までに、簡単な過去形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 1I」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための中間テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。
本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	語幹母音変化動詞 不定詞表現	春学期のおさらい 語幹母音変化動詞 よく使われる不定詞表現 （テキスト: 第 6 課）
2	動詞 dar、decir、traer、oír、venir、saber、conocer	動詞 dar、decir、traer、oír、venir、saber、conocer の活用と用法 （テキスト: 第 7 課）
3	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法 （テキスト: 第 6 課）
4	間接目的格人称代名詞 天候表現	間接目的格人称代名詞の用法 天候表現 （テキスト: 第 7 課）
5	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の用法 （テキスト: 第 9 課）
6	gustar 型動詞 所有形容詞後置形	gustar と似た使い方をする動詞 所有形容詞後置形の種類と用法 （テキスト: 第 9 課）
7	中間試験 再帰動詞	中間試験 再帰動詞の基本用法 （テキスト: 第 8 課）
8	再帰動詞その他の用法 義務の表現	再帰動詞の様々な用法 義務の表現 （テキスト: 第 8 課）
9	直説法点過去規則動詞 数 101 ～ 9000	直説法点過去の規則活用 101 から 9000 までの数詞 （テキスト: 第 11 課）
10	直説法点過去不規則動詞	直説法点過去の不規則活用 （テキスト: 第 11 課）
11	直説法線過去規則動詞 直説法線過去不規則動詞 点過去と線過去	直説法線過去の規則活用と不規則活用 点過去と線過去の違い （テキスト: 第 12 課）
12	直接話法・間接話法	直接話法と間接話法の違いと書き換え （テキスト: 第 12 課）
13	質疑応答	学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『エル　オリソンテ（Español en el horizonte）』（白水社）、2,500 円+税

【参考書】
外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。
上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。
http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline (in English)】
This course deals with the basic grammar of Spanish.
By the end of the course, students should be able to understand and make Spanish sentences of the simple past tense.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何がどこにあると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の 2 セットから成る。1 回の授業で 1 セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いての授業の説明。
	Introduccion	アルファベット、つづりと発音、アクセント。
2	Unidad 1A	名詞の性・数、冠詞。
3	Unidad 1B	主格人称代名詞と動詞 SER。
4	Unidad 2A	所有形容詞前置形、指示形容詞。
5	Unidad 2B	形容詞、数詞。
6	Unidad 3A	動詞 ESTAR、場所の表現。
7	理解度確認	中間試験を実施。
	Unidad 3B	SER+形容詞、ESTAR+形容詞、動詞 TENER。
8	Unidad 4A	直説法現在規則動詞。
9	Unidad 4B	動詞 HAY、時刻の表現。
10	Unidad 5A	動詞 IR、疑問詞 (1)。
11	Unidad 5B	動詞 VER,HACER,PONER,SALIR、曜日と日付、疑問詞 (2)。
12	Unidad 6A	直接目的格人称代名詞、語幹母音変化動詞。
13	Unidad 6B	不定詞表現、目的格人称代名詞の位置。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
デル・プラド、斎藤、仲道 (2020)『エル オリソンテ』白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で日常的な習慣について述べることができるようになる。好みや興味について述べられるようになる。比較表現ができるようになる。過去の行為、動作、習慣について述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の 2 セットから成る。1 回の授業で 1 セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いての授業の説明。
	Unidad 6B	不定詞表現、目的格人称代名詞の位置。
2	Unidad 7A	間接目的格人称代名詞、動詞 DAR,DECIR,TRAER。
3	Unidad 7B	動詞 OIR,VENIR,SABER,CONOCER、天候表現。
4	Unidad 8A	再帰動詞。
5	Unidad 8B	再帰動詞のその他の用法、義務の表現。
6	Unidad 9A	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar。
7	理解度確認	中間試験を実施、まとめと解説。
	Unidad 9B	gustar 型動詞、所有形容詞後置形。
8	Unidad 10A	比較級、最上級。
9	Unidad 10B	不定語・否定語、感嘆文。
10	Unidad 11A	直説法点過去規則動詞、数 101～9000。
11	Unidad 11B	直説法点過去不規則動詞。
12	Unidad 12A	直説法線過去。
13	Unidad 12B	点過去と線過去、直接話法・間接話法。
14	理解度確認。	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
デル・プラド、斎藤、仲道 (2020)『エル オリソンテ』白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language. The goals of this course are to be able to describe preferences, to describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world..
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語１Ｉ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会情勢によってオンライン授業に切り替わる可能性があるため、学習支援を確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課 冠詞および主格人称代名詞について	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課 スペイン語における重要な ser 動詞の使い方の説明	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課 形容詞の性・数。疑問文と否定文	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課 estar 動詞と hay の違いについて	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課 ser と estar の違い 指示形容詞について	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課 動詞規則動詞の活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課 関節目的格代名詞の説明	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課 規則動詞の活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課 所有形容詞の説明	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課 目的格人称代名詞の説明	目的格人称代名詞
13	第 7 課 gustar 型動詞の説明	gustar 型動詞の用法
14	試験 今までの振り返りとしての試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上を獲得しないと単位は与えられない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 1I から連続する。基本的に対面授業だが、社会情勢に応じてオンライン授業に切り替わる可能性があるので、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【その他の重要事項】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP9

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなどつづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字１～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２ I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米でスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞. 定冠詞. 主語代名詞
5	職業. 国籍	SER 直説法現在. 疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞. 品質形容詞. 所有詞前置形
7	親族. ジェスチャー	TENER 直説法現在. 疑問詞 I
8	位置関係. 場所を表す副詞	指示形容詞. 指示代名詞
9	数字 III. 序数. 世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞　直説法現在. 不規則動詞 (HACER,IR)　直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法. 疑問詞 II
12	時間	前置詞.
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A +不定詞 /動詞 SALIR. VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「Entre amigos 1」
2a.edición (総合スペイン語コース初級　改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験及び平常点 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。　毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリー/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同じように用いられる動詞 ENCANTAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR.
8	趣味/スポツ	比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/期末テスト	直説法点過去/不規則活用/所有詞後 置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
「Entre amigos 1」
2a.edición(総合スペイン語コース初級　改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなどつづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字１～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 5/Tue.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなどつづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字１～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 2/Fri.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	１回から７回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y la hora	授業の説明と時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Comparativos	比較級、最上級を学ぶ。
4	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
5	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
7	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	１回から７回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
10	Verbos reflexivos 2 y pretérito indefinido 1	再起動詞の使い方を復習し、点過去の使い方を学ぶ。
11	Pretérito indefinido 2	点過去の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido 3	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	アルファベット、発音とアクセント、など。
2	紹介する	ser 動詞
3	DVD を見て答える	紹介の方法
4	「元気ですか?」	ser 動詞、estar 動詞、 haber 動詞
5	DVD を見る答える	ser 動詞と estar 動詞の使い分け
6	小テスト	会話を作って発表
7	レストランで	-ar,-er,-ir 動詞の直説法現在形規則活用、疑問詞
8	人と知り合う	疑問視。日常
9	DVD を見て答える	動詞の直説法現在規則活用。数字 I
10	パエヤを料理する	1 人称単数だけが不規則変化する動詞、
11	友達と食事をする	数字 II
12	コミュニケーション	値段の聞き方、買い物の仕方、生活の言い方、など
13	DVD を見て答える	スペインの生活
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ESTUDIO 1 TV
楽しく覚えるスペイン語 Nivel elemental.
DTP 出版

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験及び平常点 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。　毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行	quere,poder+不定詞　序数
2	コミュニケーション	日常生活を描写する、友達と待ち合わせる
3	DVD を見て答える	querer,poder+不定詞の練習
4	「お腹が痛い」	２つの不規則変化を持つ動詞、tener の活用、ir と venir の使い方
5	コミュニケーション	ラテンアメリカの観光ちを訪れる、日常行動について話す。
6	DVD を見て答える	旅行と所要時間について練習する
7	体が痛い	doler と gustar 動詞
8	コミュニケーション	衣類と色について表現する
9	DVD を見て答える	gustar 型動詞の確認
10	外出前の準備をする	再帰動詞・代名詞
11	コミュニケーション	色々な店での会話
12	「どこに行っていたの?」	不定語、過去分詞と現在完了形
13	コミュニケーション	最近の出来事について話す、不定語と特定語を使った会話練習
14	まとめ	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
ESTUDIO 1　 TV
楽しく覚えるスペイン語　 nivel elemental
DTP 出版

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング	ガイダンス
	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 1/3
2	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 2/3
3	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 3/3
4	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 1/3
5	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 2/3
6	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 3/3
7	第１・２課の内容まとめ	Repaso
	中間テスト	Examen U1-2
8	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 1/2
9	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 2/2
10	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す　2/2
12	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 1/2
13	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 2/2
14	学習内容のまとめ	Repaso
	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! いいね！ スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework along with preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 4/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前学期の続きで、初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング	春学期の復習とガイダンス。
	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 1/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
2	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 2/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
3	第６課	有名な場所について話す
	En vacaciones voy a ir a Barcelona 3/3	場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
4	第７課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 1/2	計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
5	第７課	好み、趣味や興味について話す
	Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 2/2	計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
6	まとめ 中間テスト	Repaso y examen ～ U7
7	第８課	店で欲しいものを伝える
	De compras 1/2	店頭での会話 市場や店の様子
8	第８課	店で欲しいものを伝える
	De compras 2/2	店頭での会話 市場や店の様子
9	第９課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer! 1/2	食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2
10	第９課	スペイン語圏の食べ物
	¡ A comer! 2/2	食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 1/2
11	第１０課	1 日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto 1/2	天候
12	第１０課	1 日の生活について情報交換する
	Los mexicanos se levantan pronto 2/2	天候
13	まとめ 期末試験	Repaso y examen final
14	振り返って１年のまとめ	Clase final - Reflexión

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! 1 いいね！ スペイン語」、フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、テスト／試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
未確認

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish continuing where we left off the previous semester.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework as well as preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング	ガイダンス
	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 1/3
2	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 2/3
3	第１課	挨拶や感謝の言葉
	Hola, ¿ cómo te llamas?	基本的な個人の情報
		発音やつづり 3/3
4	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 1/3
5	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 2/3
6	第２課	名前、出身国や職業
	Soy japonés, de Tokio	自分自身や人の紹介 3/3
7	第１・２課の内容まとめ	Repaso
	中間テスト	Examen U1-2
8	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 1/2
9	第３課	大学や住んでいる町について話す
	Mi universidad	都市の位置 2/2
10	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第４課	勉強について話す
	Estudio en la Universidad de Salamanca	日常や余暇の過ごし方について理解し話す
		時刻を言い、スケジュールについて話す 2/2
12	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 1/2
13	第５課	家族について話す
	La familia	人の性格や容姿 2/2
14	学習内容のまとめ	Repaso
	期末試験	Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! いいね！ スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework as well as preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前学期の続きで、初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようになる。
簡単な日常会話ができるため、必要な基礎文法を学習する。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏文化の理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。
課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。
毎回授業で習った内容をまとめた簡単なチェクアウトクイズを宿題に出す。
ビデオ、テキストの音声へのリンク、授業内容など、このクラスに関わっている重要な情報を Google Site のページに投稿する。
状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング 第６課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 1/3	春学期の復習とガイダンス。 有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
2	第６課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 2/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
3	第６課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 3/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
4	第７課 Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 1/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
5	第７課 Me gusta mucho la música pop. ¿ Y a ti? 2/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
6	まとめ 中間テスト	Repaso y examen ～ U7
7	第８課 De compras 1/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
8	第８課 De compras 2/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
9	第９課 ¡ A comer! 1/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2
10	第９課 ¡ A comer! 2/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの飲みたいものを頼むレストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 1/2
11	第１０課 Los mexicanos se levantan pronto 1/2	1 日の生活について情報交換する 天候
12	第１０課 Los mexicanos se levantan pronto 2/2	1 日の生活について情報交換する 天候
13	まとめ 期末試験	Repaso y examen final
14	振り返って１年のまとめ	Clase final - Reflexión

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。それから、定期的に更新される Google Site をこまめに確認し、毎回のチェクアウトクイズや他の宿題を GoogleClassroom で提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「¡ Muy bien! 1 いいね！ スペイン語」、フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】
とくになし

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、テスト／試験の成績６０％

【学生の意見等からの気づき】
未確認

【学生が準備すべき機器他】
大学のアカウントで Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】
Introduction to Spanish continuing where we left off the previous semester.
The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.
We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.
All the relevant information about this course will be presented in a Google Site home page. This page will be updated regularly to add the contents of each class and other relevant links and contents. Every week there will be a check-out quiz homework (SALIDA) to wrap up the content of each class.
At home the student should regularly check the Google Site to be updated and Google Classroom to complete the revision quiz and other homework.The student should also work on individual tasks that cannot be done in class such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. Homework as well as preparation and revision might take about one hour.
Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞と人称代名詞	冠詞、主格人称代名詞
4	動詞 ser の現在形	ser 動詞の活用と用法
5	形容詞の基本	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
7	動詞の使い分け	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	ar 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	様々な疑問詞と前置詞「a」	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	er,ir 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	所有形容詞の基本	所有形容詞（前置形、後置形）
12	目的格人称代名詞の基本	直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞
13	gustar 型動詞の基本	gustar 型動詞の用法
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ｉ　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 (2)I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則動詞の基本	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	不規則動詞と不定詞	querer と poder の活用と様々な用法
3	不規則動詞の応用	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	再帰動詞の基本	再帰動詞の活用と用法
5	再帰動詞の進んだ用法	再帰動詞の用法、感嘆文
6	過去分詞と現在分詞	過去分詞、現在分詞の基本形と分詞構文、形容詞的用法
7	現在完了の基本	現在完了の活用と用法
8	過去形の基本：点過去	点過去規則活用と点過去の用法
9	否定語・不定語の用法	不定語と否定語、比較表現
10	点過去の不規則活用	点過去不規則活用の基本
11	語幹母音変化動詞の点過去不規則活用	語幹母音変化動詞の現在形と不規則活用の違い
12	再帰動詞の点過去	再帰動詞の点過去活用と用法
13	線過去の基本	線過去の活用と用法、点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何がどこにあると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聴き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いての授業の説明。
	第 1 課前半	文字と発音。
2	第 1 課後半	固有名詞、数字 (1-10)。
3	第 2 課前半	名詞の性数、定冠詞、主語代名詞、SER 直説法現在形。
4	第 2 課後半	数字 (0-30)、職業、国籍。
5	第 3 課前半	不定冠詞、品質形容詞、所有形容詞前置形、TENER 直説法現在形、疑問詞 I。
6	第 3 課後半	数字 (0-99)、家族・親族。
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説
8	第 4 課前半	指示形容詞、指示代名詞、ESTAR 直説法現在形、HABER の用法。
9	第 4 課後半	大学内や周辺にある者、位置関係、場所を表す副詞、数字 (100-999999)、序数。
10	第 5 課前半	規則動詞直説法現在、不規則動詞 (HACER,IR) 直説法現在、現在形の用法、疑問詞 I。
11	第 5 課後半	日常生活を表す動詞、曜日、頻度を表す副詞表現。
12	第 6 課前半	前置詞、未来を表す IR A 不定詞、語幹母音変化動詞 I、SALIR、VENIR。
13	第 6 課後半	時間、月と季節、交通機関。
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
スペイン語教材研究会 (2013)『総合スペイン語コース初級　改訂版』朝日出版社。
978-4-255-55055-8

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形､線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④ gustar 型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聴き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
	第 7 課前半	語幹母音変化動詞 II、再帰動詞。
2	第 7 課後半	住居、天候表現。
3	第 8 課前半	直接目的人称代名詞、VER、SABER、CONOCER、SABER+不定詞、PODER+不定詞、QUERER+不定詞。
4	第 8 課後半	食べ物と飲み物、レシピ。
5	第 9 課前半	前置詞の後の人称代名詞、間接目的人称代名詞、DAR、TRAER、DECIR、形容詞の比較、不規則な比較級を持つ形容詞、最上級。
6	第 9 課後半	衣服とアクセサリー、品質形容詞、色。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 10 課前半	GUSTAR、GUSTAR と同じように用いられる動詞、副詞の比較、数量の比較。
9	第 10 課後半	余暇活動、スポーツ。
10	第 11 課前半	DOLER、ESTARII、SER+形容詞と ESTAR+形容詞、TENER QUE+形容詞、HAY QUE+形容詞。
11	第 11 課後半	体の部分の名称、状態、体調・感情表現。
12	第 12 課前半	直説法点過去、所有形容詞後置形。
13	第 12 課後半	時を表す副詞表現。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題、読解問題、聴き取り問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
スペイン語教材研究会 (2013)『総合スペイン語コース初級　改訂版』朝日出版社。
978-4-255-55055-8

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説、双方向の授業を心がける。
授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to understand the usage of "gustar" verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish.
The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会情勢によってオンライン授業に切り替わる可能性があるため、学習支援を確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課 冠詞および主格人称代名詞について	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課 スペイン語における重要な ser 動詞の使い方の説明	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課 形容詞の性・数。疑問文と否定文	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課 estar 動詞と hay の違いについて	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課 ser と estar の違い 指示形容詞について	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課 動詞規則動詞の活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課 関節目的格代名詞の説明	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課 規則動詞の活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課 所有形容詞の説明	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課 目的格人称代名詞の説明	目的格人称代名詞
13	第 7 課 gustar 型動詞の説明	gustar 型動詞の用法
14	試験 今までの振り返りとしての試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上を獲得しないと単位は与えられない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的に対面授業だが、社会情勢に応じてオンライン授業に切り替わる可能性があるので、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２Ｉ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y la hora	授業の説明と時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Comparativos	比較級、最上級を学ぶ。
4	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
5	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
7	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	１回から７回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
10	Verbos reflexivos 2 y pretérito indefinido 1	再起動詞の使い方を復習し、点過去の使い方を学ぶ。
11	Pretérito indefinido 2	点過去の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido 3	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 (1) Ⅰ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなどつづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字１～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 (1)I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 (1) Ⅰ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞と人称代名詞	冠詞、主格人称代名詞
4	動詞 ser の現在形	ser 動詞の活用と用法
5	形容詞の基本	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
7	動詞の使い分け	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	ar 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	様々な疑問詞と前置詞「a」	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	er,ir 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	所有形容詞の基本	所有形容詞（前置形、後置形）
12	目的格人称代名詞の基本	直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞
13	gustar 型動詞の基本	gustar 型動詞の用法
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 (1)I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則動詞の基本	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	不規則動詞と不定詞	querer と poder の活用と様々な用法
3	不規則動詞の応用	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	再帰動詞の基本	再帰動詞の活用と用法
5	再帰動詞の進んだ用法	再帰動詞の用法、感嘆文
6	過去分詞と現在分詞	過去分詞、現在分詞の基本形と分詞構文、形容詞的用法
7	現在完了の基本	現在完了の活用と用法
8	過去形の基本：点過去	点過去規則活用と点過去の用法
9	否定語・不定語の用法	不定語と否定語、比較表現
10	点過去の不規則活用	点過去不規則活用の基本
11	語幹母音変化動詞の点過去不規則活用	語幹母音変化動詞の現在形と不規則活用の違い
12	再帰動詞の点過去	再帰動詞の点過去活用と用法
13	線過去の基本	線過去の活用と用法、点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**金** 1/Fri.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y la hora	授業の説明と時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Comparativos	比較級、最上級を学ぶ。
4	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
5	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
7	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
10	Verbos reflexivos 2 y pretérito indefinido 1	再起動詞の使い方を復習し、点過去の使い方を学ぶ。
11	Pretérito indefinido 2	点過去の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido 3	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基本文法を学ぶと同時に、スペイン語圏の文化や社会について広く関心を持つことを目的とする。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。
最終的には、初歩的な文法事項の知識を活かし、会話をしたり、興味のあるテーマに関してスペイン語の短い文章を読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて復習の励行に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ミカサ・トゥカサ』（朝日出版社）
　スペイン語の辞書（特に指定はしないが、旅行用やポケット辞書は不可。辞書についての詳細は初回授業で紹介するため、3 回目授業までに入手すればよい。）

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題などの平常点（40 %）と期末課題（60 %）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業内容は、教科書で扱われる文法事項の順番や受講生の理解度・関心によって、変更が生じることがあります。
この授業は対面で実施しますが、上限を 7 回としオンラインで実施する場合もあります。授業に関する重要なお知らせは、Hoppii で行います。

【Outline (in English)】
< Outline > We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.
And through the course, students will be expected to broaden and develop interest in Spanish-speaking culture and society.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to understand Spanish basic grammar and be able to have daily conversations in Spanish.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to review what you learned the chapter. Your required study time is at least one hour for each class.
< Grading Criteria/policy >
Short reports: 40% and term-end test: 60%.

LANs100LA

スペイン語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基本文法を学ぶと同時に、スペイン語圏の文化や社会について広く関心を持つことを目的とする。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や過去形を使った文法の習得をめざす。
最終的には、初歩的な文法事項の知識を活かし、会話をしたり、興味のあるテーマに関してスペイン語の短い文章を読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	春学期の復習	現在形を使った文章の復習。
3	過去形（点過去の規則形）	点過去の規則形について学ぶ
4	過去形（点過去の不規則形）	点過去の不規則形について学ぶ
5	線過去	線過去について学ぶ
6	過去形の使い分け	過去に言及するいろいろな表現の仕方とその使い分けについて学ぶ
7	スペイン語を読んでみよう	これまで学習したスペイン語文法を復習しながら、少しまとまった文章読解に挑戦する。
8	スペイン語で話してみよう	スペイン語会話の練習を重点的に行う。
9	過去分詞について	過去分詞について学び、練習する
10	現在分詞について	現在分詞について学び、練習する
11	リスニング練習	リスニングの練習を重点的に行う
12	コミュニケーション練習	声に出してスペイン語を使う練習を重点的に行う
13	文法事項の復習	現在形から過去形まで、文法事項の復習を行う
14	総括	これまでに学習したことを確認問題で総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて復習の励行に努めること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ミカサ・トゥカサ』（朝日出版社）

スペイン語の辞書（特に指定はしないが、旅行用やポケット辞書は不可。辞書についての詳細は初回授業で紹介するため、3 回目授業までに入手すればよい。）
また、適宜授業内でプリントを配布する。

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題など平常点（４０％）と期末課題（６０％）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業内容は、教科書で扱われる文法事項の順番や受講生の理解度・関心によって、変更が生じることがあります。
この授業は対面形式で行いますが、７回を上限としてオンラインを取り入れる場合もあります。授業形態の変更が生じた場合も含めて授業の連絡は、全て Hoppii で行います。

【Outline (in English)】
< Outline > We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.
And through the course, students will be expected to broaden and develop interest in Spanish-speaking culture and society.
< Learning Objectives >
The goals of this course are to understand Spanish basic grammar and be able to have daily conversations in Spanish.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to review what you learned the chapter. Your required study time is at least one hour for each class.
< Grading Criteria/policy >
Short reports: 40% and term-end test: 60%.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西　亮

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】
初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60 %)、平常点 (40 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】
This course is intended for students to participate in SA program.　We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.　In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語３

2017 年度以降入学者

大西　亮

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。小テストについては、採点済みの答案用紙を学生に返却し、答え合わせを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I （改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】
初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60 %)、平常点 (40 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline (in English)】
This course is intended for students to participate in SA program.　We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.　In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語２

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 3**/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて直説法現在形の規則動詞および不規則動詞の学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	期末試験	期末試験
14	総括	期末試験の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I 改訂版-コミュニケーション・スペイン語』（朝日出版社）2,100 円＋税
『段階別ドリル』オレンジ版 1600 円＋税

【参考書】
随時、指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末課題（６０％）、平常点・課題（４０％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
１．必ず紙辞書または電子辞書を購入し、必ず毎回授業に持参すること。授業中のオンライン辞書の使用は認めない。
２．各回の授業内容と順番は、受講者の理解度に合わせて調整する場合がある。
３．本授業は対面授業であるが、状況に応じて６回を上限にオンライン授業を取り入れる場合もある。

【Outline (in English)】
This course is intended for students to participate in SA program.　We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.　In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語４

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 3/Wed.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	期末試験	期末試験
14	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨールⅠ（改訂版）』（朝日出版社）
『段階別ドリル』

【参考書】
随時、指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (６０%)、平常点・小課題（４０%）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
１．必ず紙辞書または電子辞書を購入し、必ず毎回授業に持参すること。授業中のオンライン辞書の使用は認めない。
２．各回の授業内容と順番は、受講者の理解度に合わせて調整する場合がある。
３．本授業は対面授業であるが、状況に応じて６回を上限にオンライン授業を取り入れる場合もある。

【Outline (in English)】
This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語５

2017 年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法を修得する。また、初歩的な文法事項と語彙・表現の知識を活かしながら、簡単な読み書きができるようになることを目指す。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行う。
2	文字と発音	スペイン語のアルファベットと発音について学ぶ。
3	アクセント	スペイン語のアクセントに関する規則を学ぶ。
4	名詞	スペイン語の名詞について学ぶ。
5	冠詞	スペイン語の冠詞について学ぶ。
6	形容詞	スペイン語の形容詞について学ぶ。
7	ser 動詞と estar 動詞	スペイン語の ser 動詞と estar 動詞について学ぶ。
8	一般動詞（規則形）	スペイン語の一般動詞の規則形について学ぶ。
9	一般動詞（不規則形）	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ。
10	疑問文・否定文	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ。
11	間接・直接目的語	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ。
12	指示代名詞・指示形容詞	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ。
13	接続詞と比較	スペイン語の接続詞と、形容詞・副詞の比較について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I　改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。
- 西村君代ほか『レベル別　スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】
適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain, and is designed to provide you with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
《Learning Objectives》
Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語６

2017 年度以降入学者

久木　正雄

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 5/Fri.5**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法を修得する。また、文法事項の知識と語彙・表現のさらなる充実によって、読み書き能力の向上を目指す。

【到達目標】
春学期に引き続き、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習する。
2	再帰動詞	スペイン語の再帰動詞について学ぶ。
3	無人称文	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去形（規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、規則形について学ぶ。
6	動詞の点過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、不規則形について学ぶ。
7	動詞の線過去形（規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、規則形について学ぶ。
8	動詞の線過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、不規則形について学ぶ。
9	関係詞	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形（規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、規則形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、不規則形について学ぶ。
12	動詞の未来完了形	スペイン語の動詞の未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形	スペイン語の動詞の過去未来形について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I　改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。
- 西村君代ほか『レベル別　スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
宿題および授業時間内の課題： 20 %、小テスト： 20 %、学期末試験： 60 %。

【学生の意見等からの気づき】
学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
春学期の「スペイン語 5」と同様に、1 種以上の西和辞典を必ず用意し、毎回の授業で活用すること。

【Outline (in English)】
《Course outline》
This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain, and is designed to provide you with an understanding of basic Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
《Learning Objectives》
Students will gain the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing Spanish text.
《Learning activities outside of classroom》
Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
《Grading Criteria /Policy》
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「直説法現在形の規則動詞」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	期末試験	期末試験
14	総括	期末試験の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨールⅠ改訂版ソフト版-　ベーシックスペイン語-』（朝日出版社）
1,900 円＋税
（注意）かならず「ソフト版」を購入してください。同名のテキスト「プラサ・マヨールⅠ改訂版-コミュニケーション・スペイン語」がありますので、間違えないようにしてください。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】
期末課題（６０％）、平常点・課題（４０％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
１．必ず紙辞書または電子辞書を購入し、必ず毎回授業に持参すること。授業中のオンライン辞書の使用は認めない。
２．各回の授業内容と順番は、受講者の理解度に合わせて調整する場合がある。
３．本授業は対面授業であるが、状況に応じて６回を上限にオンライン授業を取り入れる場合もある。

【Outline (in English)】
We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語３

2017 年度以降入学者

佐々木　直美

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】
春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「直説法現在点過去形」と「未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で文法事項を学んでいく。教科書の演習問題に関しては、受講者が積極的に参加することが必須となる。
質問は授業時間内に受け付け、それらの回答や課題のフィードバックは授業時間内または学習支援システムを活用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	期末試験	期末試験
14	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期の「「スペイン語 1」で使用した教科書『プラサ・マヨール I 改訂ソフト版-ベーシックスペイン語』（朝日出版社）

【参考書】
『段階別スペイン語ドリル』（朝日出版）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（６０％）、平常点・小課題（４０％）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】
１．必ず紙辞書または電子辞書を購入し、必ず毎回授業に持参すること。授業中のオンライン辞書の使用は認めない。
２．各回の授業内容と順番は、受講者の理解度に合わせて調整する場合がある。
３．本授業は対面授業であるが、状況に応じて６回を上限にオンライン授業を取り入れる場合もある。

【Outline (in English)】
We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following;
Term-end examination: 60%
in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語２

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション アルファベット 発音	オリエンテーション アルファベット 発音 について学ぶ。
2.	アクセント あいさつ	アクセント あいさつ について学ぶ。
3.	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4.	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5.	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文 について学ぶ。
6.	tener 動詞の直説法現在 数（1～100）	tener 動詞の直説法現在 数（1～100） について学ぶ。
7.	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞 について学ぶ。
8.	疑問詞 （qué,quién 等） 指示形容詞	疑問詞（qué,quién 等） 指示形容詞 について学ぶ。
9.	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞 について学ぶ。
10.	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞 について学ぶ。
11.	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞 について学ぶ。
12.	時刻の表現 日付の表現	時刻の表現 日付の表現 について学ぶ。
13.	疑問詞（cuál,por qué 等） 語幹母音変化動詞	疑問詞（cuál,por qué 等） 語幹母音変化動詞 について学ぶ。
14.	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes
（イメージ・スペイン語）
（著　者）Eugenio del Prado　他２名
（出版社）朝日出版社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語４

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞 について学ぶ。
2	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞 について学ぶ。
3	再帰動詞 義務の表現	再帰動詞 義務の表現 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形） について学ぶ。
5	比較級 最上級 不定語と否定語	比較級 最上級 不定語と否定語 について学ぶ。
6	直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞） について学ぶ。
7	直説法点過去（不規則動詞）	直説法点過去（不規則動詞） について学ぶ。
8	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2.000）	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2.000） について学ぶ。
9	点過去と線過去 直接話法・間接話法	点過去と線過去 直接話法・間接話法 について学ぶ。
10	数（10.000～10.000.000） 序数	数（10.000～10.000.000） 序数 について学ぶ。
11	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde について学ぶ。
13	直説法未来 直説法過去未来	直説法未来 直説法過去未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes
（イメージ・スペイン語）
（著　者）Eugenio del Prado 他２名
（出版社）朝日出版社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、El Alfabeto(アルファベット)	シラバスを用いての授業の説明。文字と発音。音節とアクセント。
2	第 1 課前半 (pp.6-7)	名詞の性数、冠詞。練習問題。、
3	第 1 課後半 (pp.8-9) 第 2 課前半 (p.10)	疑問文、基数 (0-15)。練習問題。主格人称代名詞、動詞 ser。
4	第 2 課後半 (pp.11-13)	形容詞、指示代名詞中性形。練習問題。
5	第 3 課前半 (pp.14-16)	動詞 estar、ser と estar、指示形容詞、hay と estar。練習問題。
6	第 3 課後半 (p.17) 第 4 課前半 (pp.18-19)	現在形規則動詞。練習問題。
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課後半 (pp.20-21) 第 5 課前半 (p.22)	指示代名詞、所有形容詞 (前置形)、語幹母音変化動詞、基数 (16-30)。練習問題。
9	第 5 課前半 (pp.23-25)	時刻の表現、不定詞表現、前置詞"a" + 人 (目的語)。練習問題。
10	第 6 課前半 (pp.26-28)	一人称単数不規則動詞、曜日と日付、基数 (31-100)、所有形容詞、天候の表現。練習問題。
11	第 6 課後半 (p.29) 第 7 課前半 (pp.30-31)	現在形・その他の不規則動詞、不定詞表現 2。練習問題。
12	第 7 課後半 (pp.32-33) 第 8 課前半 (p.34)	序数、特徴を述べるさまざまな表現方法、目的格代名詞。練習問題。
13	第 8 課後半 (pp.35-37)	gustar 構文、前置詞格人称代名詞。練習問題。
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
土井裕文ほか（2016）『君もやってみよう！ スペイン語 (改訂版)』朝日出版社。ISBN978-4-255-55081-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, and requests, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語３

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
①動詞の直説法過去形、現在完了形をもちいて、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②線過去形を用いて、過去において継続中だった行為や、動作、状況について述べることができる。③未来形、過去未来形を用いて、未来の予定や推測、過去から見た未来について述べることができる。④スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 9 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞。
2	第 9 課後半	現在分詞。 練習問題。
3	第 10 課前半	過去分詞、現在完了形。 練習問題。
4	第 10 課後半	無人称表現、不定語と否定語。 練習問題。
5	第 11 課前半	点過去規則活用。 練習問題。
6	第 11 課後半	点過去不規則活用。 練習問題。
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 12 課前半	線過去。 練習問題。
9	第 12 課後半	比較表現。 練習問題。
10	第 13 課前半	未来形。 練習問題。
11	第 13 課前半	知覚動詞・使役動詞、受身表現。 練習問題。
12	第 14 課前半	過去未来形、関係代名詞。 練習問題。
13	第 14 課後半	過去完了形、間接話法と直接話法。 練習問題。
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
土井裕文ほか（2016）『君もやってみよう！ スペイン語 (改訂版)』朝日出版社。ISBN978-4-255-55081-7

【参考書】
西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (授業での学習状況や参加度) を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this class are the following. 1) Describe past acts, actions, and situations using the preterit (past) and present perfect tense of verbs. 2) To describe ongoing actions, movements, and situations in the past using the imperfect tense. 3) To describe plans, speculations, and the future from the perspective of the past using the future tense and conditional mood. 4) To learn about Spanish and Latin American culture.
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語２

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション アルファベット 発音	オリエンテーション アルファベット 発音 について学ぶ。
2.	アクセント あいさつ	アクセント あいさつ について学ぶ。
3.	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4.	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5.	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文 について学ぶ。
6.	tener 動詞の直説法現在 数（1～100）	tener 動詞の直説法現在 数（1～100） について学ぶ。
7.	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞 について学ぶ。
8.	疑問詞 （qué,quién 等） 指示形容詞	疑問詞（qué,quién 等） 指示形容詞 について学ぶ。
9.	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞 について学ぶ。
10.	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞 について学ぶ。
11.	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞 について学ぶ。
12.	時刻の表現 日付の表現	時刻の表現 日付の表現 について学ぶ。
13.	疑問詞（cuál,por qué 等） 語幹母音変化動詞	疑問詞（cuál,por qué 等） 語幹母音変化動詞 について学ぶ。
14.	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes
（イメージ・スペイン語）
（著　者）Eugenio del Prado　他２名
（出版社）朝日出版社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（７０％）、平常点（30 ％）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語４

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 4/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞 について学ぶ。
2	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞 について学ぶ。
3	再帰動詞 義務の表現	再帰動詞 義務の表現 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形） について学ぶ。
5	比較級 最上級 不定語と否定語	比較級 最上級 不定語と否定語 について学ぶ。
6	直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞） について学ぶ。
7	直説法点過去（不規則動詞）	直説法点過去（不規則動詞） について学ぶ。
8	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2.000）	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2.000） について学ぶ。
9	点過去と線過去 直接話法・間接話法	点過去と線過去 直接話法・間接話法 について学ぶ。
10	数（10.000～10.000.000） 序数	数（10.000～10.000.000） 序数 について学ぶ。
11	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde について学ぶ。
13	直説法未来 直説法過去未来	直説法未来 直説法過去未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Español en imágenes
（イメージ・スペイン語）
（著　者）Eugenio del Prado 他２名
（出版社）朝日出版社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y la hora	授業の説明と時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Comparativos	比較級、最上級を学ぶ。
4	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
5	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
7	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
10	Verbos reflexivos 2 y pretérito indefinido 1	再帰動詞の使い方を復習し、点過去の使い方を学ぶ。
11	Pretérito indefinido 2	点過去の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido 3	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser ＋形容詞、estar ＋形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	１回から８回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir、venir、al と del、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】
授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y la hora	授業の説明と時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
2	Verbos"acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
3	Comparativos	比較級、最上級を学ぶ。
4	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
5	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞（yo の活用だけが不規則）、目的格人称代名詞を学ぶ。
6	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
7	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
10	Verbos reflexivos 2 y pretérito indefinido 1	再帰動詞の使い方を復習し、点過去の使い方を学ぶ。
11	Pretérito indefinido 2	点過去の使い方を学ぶ。
12	Pretérito indefinido 3	点過去の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】
時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】
授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline (in English)】
Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.
Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.
Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.
Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 1/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会情勢によってオンライン授業に切り替わる可能性があるため、学習支援を確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課 冠詞および主格人称代名詞について	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課 スペイン語における重要な ser 動詞の使い方の説明	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課 形容詞の性・数。疑問文と否定文	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課 estar 動詞と hay の違いについて	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課 ser と estar の違い 指示形容詞について	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課 動詞規則動詞の活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課 関節目的格代名詞の説明	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課 規則動詞の活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課 所有形容詞の説明	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課 目的格人称代名詞の説明	目的格人称代名詞
13	第 7 課 gustar 型動詞の説明	gustar 型動詞の用法
14	試験 今までの振り返りとしての試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上を獲得しないと単位は与えられない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 1-I から連続する。基本的に対面授業だが、社会情勢に応じてオンライン授業に切り替わる可能性があるので、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**春学期授業**/Spring ｜ 曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション アルファベットと発音	オリエンテーション アルファベットと発音 について学ぶ。
2	アクセント あいさつ 授業で使う表現	アクセント あいさつ 授業で使う表現 について学ぶ。
3	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5	形容詞の性と数 所有形容詞前置形	形容詞の性と数 所有形容詞前置形 について学ぶ。
6	estar 動詞の直説法現在 hay ser ＋形容詞、 estar ＋形容詞	estar 動詞の直説法現在 hay ser ＋形容詞、estar ＋形容詞 について学ぶ。
7	tener 動詞の直説法現在 数（1～30）	tener 動詞の直説法現在 数（1～30） について学ぶ。
8	直説法現在規則動詞	直説法現在規則動詞 について学ぶ。
9	時刻の表現 疑問詞 曜日と月	時刻の表現 疑問詞 曜日と月 について学ぶ。
10	指示形容詞 ir, ver, hacer, poner, salir 動詞	指示形容詞 ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 について学ぶ。
11	語幹母音変化動詞 主な前置詞	語幹母音変化動詞 主な前置詞 について学ぶ。
12	直接目的格人称代名詞 oír, venir, saber, conocer 動詞	直接目的格人称代名詞 oír, venir, saber, conocer 動詞 について学ぶ。
13	間接目的格人称代名詞 dar, traer, decir 動詞	間接目的格人称代名詞 dar, traer, decir 動詞 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Panorámica del español（スペイン語のある風景）
（著　者）Eugenio del Prado 他２名
（出版社）同学社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**水** 2/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法

【到達目標】
春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。
また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 義務の表現	天候表現 義務の表現 について学ぶ。
2	再帰動詞	再帰動詞 について学ぶ。
3	所有形容詞後置形 前置詞格人称代名詞	所有形容詞後置形 前置詞格人称代名詞 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞	gustar 動詞 gustar 型動詞 について学ぶ。
5	数（30～1000） 序数 疑問文、否定文、感嘆文	数（30～1000） 序数 疑問文、否定文、感嘆文 について学ぶ。
6	比較級と最上級 不定語	比較級と最上級 不定語 について学ぶ。
7	直説法点過去規則動詞	直説法点過去規則動詞 について学ぶ。
8	直説法点過去不規則動詞	直説法点過去不規則動詞 について学ぶ。
9	直説法線過去規則動詞と不規則動詞 点過去と線過去	直説法線過去規則動詞と不規則動詞 点過去と線過去 について学ぶ。
10	直接話法・間接話法 数（1000～）	直接話法・間接話法 数（1000～） について学ぶ。
11	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞 直説法現在完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形	現在分詞 現在進行形 について学ぶ。
13	関係代名詞 que 直説法未来	関係代名詞 que 直説法未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Panorámica del español（スペイン語のある風景）
（著　者）Eugenio del Prado 他２名
（出版社）同学社

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】
＜ Course outline ＞
This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
＜ Learning Objectives ＞
Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.
＜ Learning activities outside of classroom ＞
Students review and prepare for each lesson for an hour in total.
＜ Grading Criteria / Policy ＞
・Exam 70%
・Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので、学習支援を必ず確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課前半	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課後半	冠詞、主格人称代名詞
4	第 3 課前半	ser 動詞の活用と用法
5	第 3 課後半	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課前半	estar 動詞、hay ＋名詞
7	第 4 課後半	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課前半	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課後半	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課前半	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課後半	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課前半	目的格人称代名詞
13	第 7 課後半	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できないので注意すること。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【その他の重要事項】
初回よりテキストを使用するので、前もってテキストを購入すること

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的に対面授業だが社会情勢によってはオンラインに切り替わる可能性もあるため、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業だが、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので、学習支援を必ず確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課前半	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課後半	冠詞、主格人称代名詞
4	第 3 課前半	ser 動詞の活用と用法
5	第 3 課後半	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課前半	estar 動詞、hay ＋名詞
7	第 4 課後半	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課前半	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課後半	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課前半	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課後半	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課前半	目的格人称代名詞
13	第 7 課後半	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　改訂ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できないので注意すること。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【その他の重要事項】
初回よりテキストを使用します。前もって教科書は購入しておくこと

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮田　絵津子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的には対面授業だが社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール Ⅰ　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は３回までとする。３回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【学生が準備すべき機器他】
紙媒体の辞書

【Outline (in English)】
1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook.　2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞. 定冠詞. 主語代名詞
5	職業. 国籍	SER 直説法現在. 疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞. 品質形容詞. 所有詞前置形
7	親族. ジェスチャー	TENER 直説法現在. 疑問詞 I
8	位置関係. 場所を表す副詞	指示形容詞. 指示代名詞
9	数字 III. 序数. 世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞　直説法現在. 不規則動詞 (HACER,IR)　直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法. 疑問詞 II
12	時間	前置詞
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること. 本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Entre amigos 1
2a. edición(総合スペイン語コース初級　改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験及び平常点 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】
スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行いますが、基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	住居. 天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER,REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名 動詞 VER.SABER,CONOCER
4	レシピ/レストランで	Saber ＋不定詞、PODER ＋不定詞.QUERER ＋不定詞,PODER ＋不定詞
5	衣服とアクセサリー. 色	間接目的人称代名詞. 動詞　DAR,TRAER,DECIR
6	クリスマス. 買い物	比較現在 I . 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動　スポツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じように用いられる動詞　ENCANTAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR/ 比較現在 II/比較現在 III. 数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Entre amigos 1
2a,edición (総合スペイン語コース初級　改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】
-SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición
-スペイン語文法ハンドブック、上田博人

【成績評価の方法と基準】
授業内での口頭試験 50 %
小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %
毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】
新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】
It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.
Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.
The standard preparation and review time for this class is 1 hour.
Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなどつづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字１～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて１時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語２- Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
春学期のスペイン語 2I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが２となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅰ
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用Ⅱ tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講１Ｉ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないよう非常に厳しく指導していく。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞と人称代名詞	冠詞、主格人称代名詞
4	動詞 ser の現在形	ser 動詞の活用と用法
5	形容詞の基本	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
7	動詞の使い分け	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	ar 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	様々な疑問詞と前置詞「a」	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	er,ir 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	所有形容詞の基本	所有形容詞（前置形、後置形）
12	目的格人称代名詞の基本	直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞
13	gustar 型動詞の基本	gustar 型動詞の用法
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　改訂ソフト版　−ベーシック・スペイン語−』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
重要！
履修希望者が多い場合には選抜を実施する。履修希望者は必ず初回授業に出席し、許可を得ること。
初回授業に来なかった学生は原則履修を許可しないので、必ず初回授業に出席すること。
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講１Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫　良史

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】
本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。
1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないよう非常に厳しく指導していく。
＜課題に対するフィードバックの方法＞
リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。
大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則動詞の基本	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	不規則動詞と不定詞	querer と poder の活用と様々な用法
3	不規則動詞の応用	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	再帰動詞の基本	再帰動詞の活用と用法
5	再帰動詞の進んだ用法	再帰動詞の用法、感嘆文
6	過去分詞と現在分詞	過去分詞、現在分詞の基本形と分詞構文、形容詞的用法
7	現在完了の基本	現在完了の活用と用法
8	過去形の基本：点過去	点過去規則活用と点過去の用法
9	否定語・不定語の用法	不定語と否定語、比較表現
10	点過去の不規則活用	点過去不規則活用の基本
11	語幹母音変化動詞の点過去不規則活用	語幹母音変化動詞の現在形と不規則活用の違い
12	再帰動詞の点過去	再帰動詞の点過去活用と用法
13	線過去の基本	線過去の活用と用法、点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『プラサ・マヨール I　ソフト版　－ベーシック・スペイン語－』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹　ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】
『西和中辞典』(小学館)
『わかるスペイン語』西川喬　(同学社)
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】
授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】
重要！
履修希望者が多い場合には選抜を実施する。秋学期のみ履修希望者も必ず春学期初回授業に出席し、許可を得ること。
春学期初回授業に来なかった学生は原則履修を許可しないので、必ず春学期初回授業に出席すること。
学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】
【Course outline】
Basic Spanish grammar and conversation.
【Learning Objectives】
By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.
【Learning activities outside of classroom】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading Criteria /Policy】
Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講１Ｉ

2017 年度以降入学者

岡本　年正

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初習者（再履修者）を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】
スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な事実の描写ができるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業（初回のみオンライン：オンデマンド形式）です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベートとあいさつ	授業概要説明、アルファベートと発音、あいさつの練習。
2	発音と文字の規則、名詞の数と性	発音と文字の規則を理解し、基本単語を覚える。あいさつの練習をする。 名詞の数と性を理解する。
3	冠詞、主語人称代名詞、形容詞、感嘆文	冠詞を覚え、その用法を理解する。 主語人称代名詞を覚える。 形容詞を理解し練習する。感嘆文としても練習する。
4	動詞 ser と estar	動詞 ser と estar の活用と用法を確認し、練習する。その違いを理解する。
5	存在を表す hay、動詞 estar との違い	hay の用法と、動詞 estar との違いを確認する。 場所の表現について確認し練習する。
6	時刻の表現、指示詞、前置詞	動詞 ser を用いた時刻の表現を確認し練習する。 指示詞や前置詞を確認し、その用法を理解する。
7	直説法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の活用や意味を確認し練習する。
8	頻度の表現、天候表現	頻度の表現を確認し、既出の動詞と共に練習する。 天候表現を確認し練習する。
9	直説法現在不規則動詞（1 人称単数不規則）	不規則活用動詞（1 人称単数不規則）の活用練習と用法の確認をする。
10	直説法現在不規則動詞（語幹母音変化動詞）	直説法現在不規則動詞（語幹母音変化）の活用を練習し、特に不定詞をとる動詞とその用法を確認し練習する。
11	直説法現在不規則動詞（そのほかの不規則動詞）	直説法現在不規則動詞（そのほかの不規則動詞）の活用を練習し、特に ir の用法を確認する。
12	再帰動詞（全人称用法）	再帰動詞（全人称用法）の用法を理解し、それぞれの意味を覚えて練習する。
13	再帰動詞（再帰受身）	再帰動詞（再帰受身）の用法を理解し練習する。
14	復習と期末試験、解説	春学期のまとめとその確認としての期末試験を行う。試験内容の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を必要とする場合や宿題に関しては適宜指示しますが、復習を必ず行いましょう。
教科書を中心に学習しましょう。新出単語は自発的に覚えましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柏木典子他（2023）『エッセンシャル　初級スペイン語』（Español Esencial）三修社。

【参考書】
推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下です。必携ではありません。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】
小テスト、活用テスト、平常点（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進捗を頻繁に見直します。

【その他の重要事項】
再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。必ず初回の授業時間（4 月 11 日 2 限目）に授業支援システムに入り、授業資料を確認してください。抽選に関わることが掲載されていますので、必ず指示通りに対応してください。抽選のための指示には締め切りがあります。指示通りに対応がなされていない（締切を過ぎた対応も含む）場合は、抽選の有無に関わらず、履修を許可しない場合があります。

【Outline (in English)】
The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: greeting, brief self-introduction, plain description etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%、Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語補講 1 Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡本　年正

開講時期：**秋学期授業**/Fall ｜ 曜日・時限：**火** 2/Tue.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語補講 1 Ⅰからの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】
現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期復習	授業概要説明し、春学期の復習をする。
2	比較	比較級・最上級・絶対最上級を理解し練習する。
3	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を確認し練習する。
4	間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞の用法を確認し練習する。また直接・間接目的格人称代名詞がともに出てきた場合の練習もする。
5	動詞 gustar	動詞 gustar の用法を理解し練習する。
6	gustar 型動詞	gustar 型動詞を理解し練習する。
7	現在分詞、不定語・否定語	現在分詞の形を確認し、既出の動詞と共に練習する。 不定語・否定語を確認し練習する。
8	直説法現在形の復習	これまで学習した直説法現在形を復習する。
9	点過去規則動詞	点過去の用法を理解し、規則動詞の活用を練習する。
10	点過去不規則動詞	点過去不規則動詞の活用を練習する。
11	線過去	線過去の用法を理解し活用を確認し、練習する。
12	線過去／点過去	線過去と点過去の違いを確認し、使い分ける練習をする。
13	秋学期の内容の復習	秋学期に学習した内容を中心にまとめる。その中で練習を行う。
14	期末試験、解説と 1 年間のまとめ	期末試験とその解説を行う。またこれまで学習してきた内容に関してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習を必要とする場合や宿題に関しては適宜指示しますが、復習を必ず行いましょう。
教科書を中心に学習しましょう。新出単語は自発的に覚えましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
柏木典子他（2023）『エッセンシャル　初級スペイン語』（Español Esencial）三修社。

【参考書】
推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『プエルタ新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下です。必携ではありません。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】
小テスト、活用テスト、平常点（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】
小テストのフィードバックをより詳細に行う。復習する時間をより多く設ける。

【その他の重要事項】
再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。そのため、秋学期のみの履修でも、履修希望者は春学期の初回の授業において抽選を行う場合があります。春学期初回の授業（オンライン：オンデマンド形式）における抽選方法は、4 月 11 日の春学期初回授業までに学習支援システムを通じて連絡しますので、前日までに必ず確認し、指示に従ってください。指示通りの行動がとられない場合は、抽選の有無にかかわらず履修許可をしない場合があります。また、抽選が無い場合にも、4 月 11 日にするべきことをしていない（遅れた）場合は欠席とみなし、秋学期の授業に欠席 1 回を加算します。
秋学期からの履修でも、春学期の授業に出席することを推奨します。そうでない場合は、春学期のシラバスを確認し、春学期の範囲を各自できちんと復習しておいてください。
学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】
The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: taste, mind, hope, past events etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%、Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

塩﨑　公靖

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語初級文法の復習。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、
理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。
※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。
　ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容説明。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／ hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的人称代名詞
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】
『超入門スペイン語』(大学書林)

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.
【Learning Objectives】
Improve comprehension of Spanish language communication skill.
【Learning activities outside of classroom】
Students don't have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following.　Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LA

スペイン語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

塩﨑　公靖

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期「スペイン語補講２Ⅰ」からの継続。
引き続き文法中心の授業。

【到達目標】
①スペイン語への興味・関心の向上。
②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。
学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、
理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。
※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。
　ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	２つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
『超入門スペイン語』(大学書林)。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】
期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】
スペイン語の習得はもちろんですが、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
Continuing Spanish grammar class from 1st semester.
【Learning Objectives】
Master basic Spanish language grammar.
【Learning activities outside of classroom】
Students don't have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
【Grading Criteria/Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LA

スペイン語補講２Ｉ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何がどこにあると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いての授業の説明。
2	第 2 課前半	名詞、冠詞
3	第 2 課後半	会話文、問題演習
4	第 3 課前半	ser、estar、肯定文、否定文、疑問文
5	第 3 課後半	形容詞、会話文、問題演習
6	第 4 課前半	規則動詞、現在形、会話文
7	第 4 課後半	問題演習
8	第 5 課前半	tener、ir、venir、時刻の表現
9	第 5 課後半	会話文、問題演習
10	第 6 課前半	母音変化動詞、目的語の人称代名詞、gustar
11	第 6 課後半	会話文、問題演習
12	第 7 課前半	所有詞、指示詞、比較級、最上級
13	第 7 課後半	会話文、問題演習
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
福島教隆 (2022)『活き活きスペイン語（改訂版）』朝日出版社。
978-4-255-55127-2

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への出席、参加を 30 %。期末試験の点数を 70 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語補講２Ⅱ

2017 年度以降入学者

長谷川　悦夫

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**1 単位**
定員制

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】
スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何がどこにあると言った所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。
本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いた授業の説明
2	第 8 課前半	点過去規則活用、点過去の用法、前置詞、前置詞格人称代名詞。
3	第 8 課後半	会話文、問題演習。
4	第 9 課前半	点過去不規則活用、疑問詞、数 (31-100)。
5	第 9 課後半	会話文、問題演習。
6	第 10 課前半	線過去、数 (101〜1 億)、文具・事務通信機器。
7	第 10 課後半	会話文、問題演習。
8	第 11 課前半	天候表現、天候・天体、存在分、不定とと否定語、スポーツ。
9	第 11 課後半	会話文、問題演習。
10	第 12 課前半	現在分詞、進行形、親族名称、曜日、手紙、メール。
11	第 12 課後半	会話文、問題演習。
12	第 13 課前半	過去分詞、現在完了形、関係詞
13	第 13 課後半	会話文、問題演習。
14	理解度確認	期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
福島教隆 (2022)『活き活きスペイン語（改訂版）』朝日出版社。
978-4-255-55127-2

【参考書】
西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加を 30 %、期末試験の点数を 70 %として総合的に評価する。
授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。
欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】
授業での積極的な発言 (質問・問いかけに対する応答) を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。
・無断で教室を出る。
・飲食をする。
・過度な私語をする。
・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
・居眠りをする。
教員のメールアドレスは以下。
etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.
The goals of this course are to be able to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs,
Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.
The final grade will be calculated according to the following process; final exam 70%, class contribution 30%

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 4/Mon.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 5/Mon.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火** 3/Tue.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 3/Tue.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 1**/Tue.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 1/Tue.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水** 3/Wed.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 1/Sat.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 1/Sat.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**土** 2/Sat.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**土 2/Sat.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 5/Thu.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 5/Thu.5**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます.

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます.
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます.
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです.
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします.

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります.）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です.

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります.
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです.

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています.
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください.
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください.

【その他の重要事項】
第 1 回目の授業で、詳細な授業の進め方や成績に関する説明をします。

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 2/Thu.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
第 1 回目の授業で、詳細な授業の進め方や成績に関する説明をします。

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 5/Fri.5**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 (1) I

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 2**/Tue.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 (1) Ⅱ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**秋学期授業/Fall** ｜ 曜日・時限：**火 2/Tue.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅰ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 3/Thu.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」「朝鮮語２」「朝鮮語５」は３名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その１／子音字・その２
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その３／用言の「ですます形」／７つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その２／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その１／過去形・その２／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう１つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします．

【成績評価の方法と基準】
総合評価の成績によります（100%）．60 点以上が合格です．なお，あまりに欠席が多い場合には，この成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．(詳細は、1 回目の授業で説明します)

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・作文練習をはじめとする練習問題の朝鮮語文はすべて出版社のサイトからダウンロードできる音声データに録音されています．解答をまとめて配布することはしません．音声データを聞き取って自分で解答を作るぐらいの意気込みで学びましょう．結果的に聞き取りの力も上達するはずです．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 400 new words, conjugation of verb or adjective and various sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語３

2017 年度以降入学者

梁　禮先

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

【到達目標】
正しい発音で、自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
課題の発表やテキストに沿って授業を進めます。会話が可能になることを前提した授業にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と授業の進め方について	復習と授業の進め方についての説明。
2	第 1 課　韓国語伸びましたね	会話の本文を読みます。
3	第 1 課　韓国語伸びましたね	本文の説明をします。
4	第 1 課　韓国語伸びましたね	練習問題
5	第 2 課　何限まであ りますか	会話の本文を読みます。
6	第 2 課　何限まであ りますか	本文の説明をします。
7	第 2 課　何限まであ りますか	練習問題
8	第 3 課　趣味は何で すか	会話の本文を読みます。
9	第 3 課　趣味は何で すか	本文の説明をします。
10	第 3 課　趣味は何で すか	練習問題
11	まとめ会話練習	会話の練習をします。
12	課題発表	発表をしてもらいます。
13	第 4 課　一年になり ますね	会話の本文を読みます。
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回課題を出します。作文練習や読む練習、また、翻訳や内容のまとめを韓国でやってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
梁禮先『中級韓国語〔私家版〕』（授業で配布します）

【参考書】
授業で時々発表します。

【成績評価の方法と基準】
平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%。60 点以上が合格点です。

【学生の意見等からの気づき】
やむを得ない事情以外での欠席を避けてください.

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
積極的に授業に参加してください。
諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】
< Course outline > While continuing to study the contents covered in the spring semester, we will focus on improving your pronunciation and obtaining speaking and writing skills.
< Learning Objectives >
The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.
< Learning activities outside of classroom >
I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語２

2017 年度以降入学者

髙栁　俊男

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」「朝鮮語２」「朝鮮語５」は３名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その１／子音字・その２
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その３／用言の「ですます形」／７つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その２／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その１／過去形・その２／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう１つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります（100%）．60 点以上が合格です．なお，あまりに欠席が多い場合には，この成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・作文練習をはじめとする練習問題の朝鮮語文はすべて出版社のサイトからダウンロードできる音声データに録音されています．解答をまとめて配布することはしません．音声データを聞き取って自分で解答を作るぐらいの意気込みで学びましょう．結果的に聞き取りの力も上達するはずです．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 400 new words, conjugation of verb or adjective and various sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語４

2017 年度以降入学者

髙柳　俊男

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語４」「朝鮮語６」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．それぞれの授業で必要に応じ独自の教材も併用します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習
3	第 2 課	「～している」の２つの形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 3 課	方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 5 課	用言の名詞形・１
9	第 6 課	話しことばの形
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 7 課	「～して」をあらわす２つの形
12	第 8 課	間接話法
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
共通テキスト：内山政春『しくみで学ぶ中級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります（100%）．60 点以上が合格です．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・作文練習をはじめとする練習問題の朝鮮語文はすべて出版社のサイトからダウンロードできる音声データに録音されています．解答をまとめて配布することはしません．音声データを聞き取って自分で解答を作るぐらいの意気込みで学びましょう．結果的に聞き取りの力も上達するはずです．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
< Learning Objectives >
By the end of this course, students will be expected to master more complicated expressions in Korean.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語５

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 4**/Wed.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」「朝鮮語２」「朝鮮語５」は３名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その１／子音字・その２
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その３／用言の「ですます形」／７つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その２／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その１／過去形・その２／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう１つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／パンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならない」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります（100%）．60 点以上が合格です．なお，あまりに欠席が多い場合には，この成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・作文練習をはじめとする練習問題の朝鮮語文はすべて出版社のサイトからダウンロードできる音声データに録音されています．解答をまとめて配布することはしません．音声データを聞き取って自分で解答を作るぐらいの意気込みで学びましょう．結果的に聞き取りの力も上達するはずです．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 400 new words, conjugation of verb or adjective and various sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語６

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 4/Wed.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の学習内容を理解しているという前提で，文法と語彙をさらに学び，複雑な表現ができるようにつとめます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができ，声に出して言えるほか，自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語４」「朝鮮語６」「朝鮮語コミュニケーションⅠ」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます．それぞれの授業で必要に応じ独自の教材も併用します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習
3	第 2 課	「～している」の２つの形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
5	第 3 課	方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
8	第 5 課	用言の名詞形・１
9	第 6 課	話しことばの形
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
11	第 7 課	「～して」をあらわす２つの形
12	第 8 課	間接話法
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます．
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
共通テキスト：内山政春『しくみで学ぶ中級朝鮮語』白水社

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』，語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします．
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて１時間を標準とします．

【成績評価の方法と基準】
期末テストの成績によります（100%）．60 点以上が合格です．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・作文練習をはじめとする練習問題の朝鮮語文はすべて出版社のサイトからダウンロードできる音声データに録音されています．解答をまとめて配布することはしません．音声データを聞き取って自分で解答を作るぐらいの意気込みで学びましょう．結果的に聞き取りの力も上達するはずです．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【その他の重要事項】
既習者も，「わかっているから」と思わずに，はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.
< Learning Objectives >
By the end of this course, students will be expected to master more complicated expressions in Korean.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語３

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 3/Mon.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 3/Fri.3
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
　文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語４

2017 年度以降入学者

乾　浩

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 3/Fri.3**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は全て【リアルタイム配信型・オンライン】で行います．
　文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
　授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．
　授業の始めに，課題や小テストに対して，フィードバックを行います．
　授業計画は，授業の展開によって，若干の変更があり得ます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
　本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
　内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
　教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
　「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に 1 つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを，「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです．その結果両者が 60 点以上ならば合格です．
　春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
　やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【学生が準備すべき機器他】
　オンライン授業には【zoom】を使いますので，パソコンに【zoom アプリ】と【Web カメラ】を設置しておいてください．

【その他の重要事項】
　受講者は必ず Hoppii に登録してください．

【Outline (in English)】
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 1/Mon.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**月 1/Mon.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 2**/Wed.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 2/Wed.2**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**月** 2/Mon.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**水 1**/Wed.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - Ⅱ

2017 年度以降入学者

荻野　優子

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**水 1/Wed.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

吉良　佳奈江

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**木** 2/Thu.2
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 4/Fri.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**金 4/Fri.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

神谷　丹路

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２- Ｉ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木** 1/Thu.1
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

新谷　あゆり

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 1/Thu.1**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２- Ⅰ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２-Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業**/Fall　｜　曜日・時限：**金** 5/Fri.5
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅰ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**火 4**/Tue.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語１Ⅱ

2017 年度以降入学者

富所　明秀

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**火 4/Tue.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ｉ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**春学期授業**/Spring　｜　曜日・時限：**木 4**/Thu.4
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます．

【到達目標】
文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その１
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その２／子音字・その３
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／７つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます．
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その１
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その２／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます．
12	第 19 課／第 20 課	過去形その１／過去形その２
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（Ｂ），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（Ｄ）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語２Ⅱ

2017 年度以降入学者

内山　政春

開講時期：**秋学期授業/Fall**　｜　曜日・時限：**木 4/Thu.4**
単位数：**1 単位**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文字と発音が習得できているという前提で，朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します．また用言（動詞，形容詞など）に関しては活用のしかたを３つのパターンにわけて学習し，より幅広い表現ができるよう図っていきます．

【到達目標】
授業で学んだ文の読み書きができる，できれば声に出して言えることが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は２名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう１つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語１」と「朝鮮語２」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習の時間を多く取ってください．何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです．
本授業の準備・復習時間は，各１時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語　改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること．旧版とはところどころ内容が異なります．）

【参考書】
教科書によって文法の説明方式が異なるので，指定のテキストに集中してください．また辞書は１年生の間は不要です．

【成績評価の方法と基準】
「朝鮮語１」と「朝鮮語２」は実質的に１つの授業なので，両者の成績（それぞれ 100 点満点．平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して２で割ったものを「朝鮮語１」と「朝鮮語２」の共通の成績とします．つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B），片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となり，60 点以上ならば合格となります．なお，あまりに欠席が多い場合には，上記の成績評価基準にかかわらず不合格とすることがあります．
春学期は合格していて秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです．

【学生の意見等からの気づき】
・授業の進度は当然ながら朝鮮語にまったく接したことのない初心者に合わせています．
・上の【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】では予習については触れませんでしたが，進度が早いと思う受講者は必要に応じて次回の項目に一通り目を通したり，練習問題の覚えていない単語を調べておくなり，各自努力をして授業の進度に合わせるようにしてください．
・やむを得ない事情以外での欠席を避けてください．

【Outline (in English)】
< Course outline >
In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.
< Learning Objectives >
The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.
< Learning activities outside of classroom >
After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
< Grading Criteria/Policy >
Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.


法政大学
HOSEI University